

バージョン 2 リリース 1

**IBM DB2 Analytics
Accelerator Loader for z/OS
ユーザーズ・ガイド**

IBM

バージョン 2 リリース 1

**IBM DB2 Analytics
Accelerator Loader for z/OS
ユーザーズ・ガイド**

IBM

お願い:

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、本書の最後にある『特記事項』をお読みください。

本書は、IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS バージョン 2 リリース 1 (製品番号 5639-OLE)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書は、SC19-4165-02 の改訂版です。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC27-6777-00
Version 2 Release 1
IBM DB2 Analytics Accelerator Loader
for z/OS
User's Guide
First Edition (February 2016)

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

Copyright Rocket Software Inc. 2007, 2016. All Rights Reserved.

目次

図	vii	DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズ	3-12
表	ix	ロードマップ: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の初めてのカスタマイズ	3-13
本書について	xi	ロードマップ: 以前のカスタマイズを基にした、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンのカスタマイズ	3-15
概要	1-1	ロードマップ: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の再カスタマイズ	3-16
新機能	1-1	カスタマイズする製品のメタデータ・ライブラリーの指定	3-18
Accelerator Loader の機能	1-7	DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition 情報の自動検出	3-19
特徴と利点	1-8	DB2 エントリーの作成と関連付け	3-22
コンポーネントおよびインターフェース	1-9	複数の構成の管理	3-24
Tools Customizer の概要	1-10	パラメーターの定義	3-30
サービス更新およびサポート情報	1-11	カスタマイズ・ジョブの生成	3-37
製品資料および更新情報	1-11	カスタマイズ・ジョブの実行依頼	3-38
アクセシビリティ機能	1-13	パラメーターのブラウズ	3-41
シナリオ	1-13	DB2 エントリーのコピー	3-41
サービス更新およびサポート情報	1-16	DB2 エントリーの除去	3-43
製品資料および更新情報	1-16	DB2 エントリーの削除	3-44
アクセシビリティ機能	1-17	カスタマイズ・ジョブの表示	3-45
カスタマイズの準備	2-1	カスタマイズ・ジョブの保守	3-45
ロード・プロファイルのマイグレーション	2-5	複数 LPAR 環境での Tools Customizer の使用	3-45
バッチ・ジョブのマイグレーション	2-5	ENCODING(500) への BIND JCL の変更 (オプション)	3-47
カスタマイズ前の環境のセットアップ	2-6	ロード・ライブラリーの APF 許可 (必須)	3-47
セキュリティ要件	2-9	開始タスク PROC のコピー (必須)	3-47
開始タスクの権限要件	2-9	DSNUTILF モジュールのコピー (必須)	3-48
Accelerator Loader サーバーの許可要件	2-10	WLM アプリケーション環境の設定 (必須)	3-49
ユーティリティの権限要件	2-10	開始タスクの開始 (必須)	3-49
データ・ソースにアクセスするための権限要件	2-11	サーバーの開始および停止 (必須)	3-50
異なる DB2 サブシステムをモニターするための複数の開始タスクの実行	2-11	Accelerator Loader スタジオのインストール (必須)	3-51
Accelerator Loader プロセスの WLM に関する要件	2-12	Accelerator Loader スタジオのアンインストール	3-52
WLM 目標の設定	2-12	メインフレーム・データ・ソースへのアクセスの構成 (必須)	3-53
WLM の構成	2-12	DB2 サブシステムおよびデータへのアクセスを構成	3-53
DB2 データ共用環境に関する考慮事項	2-13	DB2 サブシステムへのアクセスの構成	3-53
自動操作の WTO メッセージ	2-14	DB2 サブシステムへのユーザー・アクセスの構成	3-55
ワークシート: 必要なデータ・セット名の収集	2-14	IBM DB2 におけるデータへのアクセスの検証	3-56
ワークシート: Tools Customizer のパラメーター値の収集	2-16		
DB2 Analytics Accelerator Loader のカスタマイズ	3-1		
Tools Customizer の開始と使用準備	3-2		
ベスト・プラクティス: Tools Customizer における SMP/E およびランタイム・ライブラリーの保守戦略	3-2		
Tools Customizer の開始	3-6		
Tools Customizer ユーザー設定の変更	3-7		
パネル・テキストの非表示および表示	3-11		

IBM IMS DB のデータへのアクセスを構成	3-56
VSAM へのアクセスを構成	3-57
順次ファイルへのアクセスを構成	3-57
SMF ファイルへのアクセスの構成	3-57
DRDA データ・ソースへのアクセスの構成 (オプション)	3-58
使用の開始	4-1
ISPF インターフェースの開始	4-1
DB2 サブシステムの構成	4-3
DB2 サブシステムの選択	4-4
DB2 サブシステム・パラメーターの指定	4-4
DB2 サブシステムの削除	4-5
ジョブ・カード情報の指定	4-5
DB2 以外のソースとリモート DB2 ソースからのデータのロード	5-1
Accelerator Loader サーバーの制約事項および考慮事項	5-1
スタジオの概要	5-4
パースペクティブの概要	5-5
Accelerator Loader パースペクティブ	5-5
Accelerator Loader サーバーへの接続	5-7
ロケールに関する考慮事項	5-8
仮想ソース・ライブラリーの作成	5-9
SQL を使用してデータにアクセスするための仮想表の作成	5-10
DBMS (DB2) データ用の仮想表の作成	5-10
IMS データ用の仮想表の作成	5-11
順次データ用の仮想表の作成	5-13
VSAM データ用の仮想表の作成	5-16
SQL 照会の生成	5-19
仮想ビューの作成	5-20
JCL の生成	5-21
JCL の実行依頼	5-23
サーバー・トレースの使用	5-23
サーバー・トレースの開始	5-24
スタジオのサーバー・トレースの有効化	5-24
サーバー・トレース結果のフィルタリング	5-25
サーバー・トレース・ズームの使用	5-26
サーバー・トレース・メッセージの検索	5-26
サーバー・トレース・メッセージのラベル付け	5-27
サーバー・トレース・メッセージのエクスポート	5-27
サーバー・トレース・メッセージのインポート	5-29
設定	5-29
管理設定	5-30
コンソール設定	5-30
ディクショナリー設定	5-30
ドライバー設定	5-31
JCL 設定	5-31
SSL 設定	5-32

DB2 イメージ・コピーからのデータのロード	6-1
DB2 イメージ・コピーからのロードの制約事項と考慮事項	6-1
ISPF インターフェースを使用した統合ロード・プロファイルまたはイメージ・コピー・ロード・プロファイルの作成または編集	6-3
バッチ・インターフェースを使用したイメージ・コピーからのロード	6-5
外部ファイルからのデータのロード	7-1
外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項	7-1
既存のロード・ジョブへの構文の追加	7-7
ISPF インターフェースを使用した、外部ファイルからロードするためのプロファイルの作成または編集	7-8
ロード・プロファイルの使用と管理	8-1
ISPF インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成	8-2
バッチ・インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成	8-3
サンプル JCL	8-5
ロード・プロファイル・パラメーターの説明	8-6
ロード・プロファイルの指定内容の表示	8-12
ロード・プロファイルの名前変更	8-12
ロード・プロファイルの削除	8-13
構文	9-1
DB2 以外のソースとリモート DB2 ソースからのデータのロード	9-1
サンプル JCL: 別の DB2 サブシステムからのデータをアクセラレーターにロードする	9-1
DB2 以外のソースまたはリモート DB2 ソースからのロードの構文図	9-2
DB2 以外のソースまたはリモート DB2 ソースからのロードの構文定義	9-2
統合ロードおよびイメージ・コピー・ロードのジョブ	9-3
サンプル JCL: 統合ロード	9-3
サンプル JCL: イメージ・コピー・ロード	9-9
統合ロードとイメージ・コピー・ロードのサンプル JCL のカスタマイズ	9-12
構文図: 統合ロードおよびイメージ・コピー・ロード	9-12
構文定義: 統合ロードおよびイメージ・コピー・ロード	9-14
外部ファイルからのロード	9-25
サンプル JCL: 外部ファイルからのロード	9-26
外部ファイルからのロードを行うサンプル JCL のカスタマイズ	9-28
構文図: 外部ファイルからのロード	9-29
構文定義: 外部ファイルからのロード	9-29

Accelerator Loader サーバーの管理	10-1
サーバー拡張セキュリティの構成 (オプション)	10-1

RACF に対するリソースの定義	10-3	Accelerator Loader スタジオおよび Accelerator	
Top Secret に対するリソースの定義	10-4	Loader サーバーのトラブルシューティング	11-522
ACF2 に対するリソースの定義	10-4	ネットワーク接続の変更	11-522
ISPF ロード・モジュールの制限 (オプション)	10-5	Unicode がインストールされていることの確	
TRACEDATA リソースを使用した情報アクセ		認	11-523
スの制御	10-6	変換 CCSID 表	11-524
Secure Sockets Layer (SSL)	10-6	キャラクター・ディスプレイの問題の修正	
IMS パラメーターの変更	10-10	(DRDA のみ)	11-527
SMF ファイルへのアクセスの構成	10-11	参照情報 12-1	
ルールおよびイベント	10-12	Tools Customizer のリファレンス	12-1
ルールとイベントの管理	10-13	Tools Customizer の用語およびデータ・セット	12-1
自動制限	10-14	Accelerator Loader の用語	12-8
ルールの変数	10-15	製品パネルのナビゲーション	12-10
許可 (ATH) イベント	10-16	基本コマンド	12-11
コマンド (CMD) イベント	10-38	パネル・コマンドおよびフィールドのリファレン	
例外 (EXC) イベント	10-40	ス	12-12
SQL イベント	10-51	メインメニュー	12-13
時刻 (TOD) イベント	10-52	「User Settings」パネル	12-14
仮想表 (VTB) イベント	10-53	「DB2 Subsystems」パネル	12-14
ホスト・コマンド	10-59	「New DB2 Subsystem」パネル	12-15
ルールの API 関数	10-61	「DB2 Subsystem Parameters」パネル	12-15
LUW 認証	10-73	「Confirm Action」パネル	12-16
DB2 LUW 認証の有効化	10-76	「Accelerator Loader Parameters」パネル	12-16
LUW 許可用のグローバル変数の作成	10-76	「Set Batch Job Card Information」パネル	12-19
複数の LUW サブシステム用の資格情報の作		「Manage Loader Profiles」パネル	12-19
成	10-77	「Create Profile」パネル	12-21
サーバー・トレース情報の表示	10-78	「Save Profile」パネル	12-22
サーバー・トレースの使用ログ項目	10-79	「Load Accelerator and DB2 from External	
クライアントのタイムアウト・パラメーターの変		File」パネル	12-22
更	10-87	「Load Accelerator from External File」パネ	
サーバーからの SMF レコードの作成	10-87	ル	12-27
サブタイプ 02 レコードの有効化	10-90	「DD Template Specification」パネル	12-31
サブタイプ 03 レコードの有効化	10-91	「DD DSN Template」パネル	12-33
サブタイプ 06 レコードの有効化	10-93	「DD DSN Template (View)」パネル	12-35
サブタイプ 09 レコードの有効化	10-95	「Resulting DSN Using Current」パネル	12-36
サブタイプ 13 レコードの有効化	10-96	「Load Accelerator with Consistent Data」パ	
		ネル	12-36
トラブルシューティング 11-1		「Load Accelerator from specified Image	
メッセージおよびコード	11-1	Copy」パネル	12-43
Tools Customizer のメッセージ	11-1	「Enter Table and Creator Like to Display」	
Accelerator Loader のメッセージ	11-66	パネル	12-45
Tools Customizer のトラブルシューティング	11-511	「Add DB2 Tables/DB2 Table Selection」パ	
診断情報の収集	11-511	ネル	12-45
トレース・データ・セット名の判別	11-511	「DB2 Table List」パネル	12-46
サポート用の診断情報	11-512	「Referentially Dependent Table Selection」	
診断用のダンプの生成	11-513	パネル	12-47
ジョブが失敗した後の共通ストレージのクリーン		「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネ	
アップ	11-514	ル	12-48
DSNUTILB インターセプトの管理	11-515	「FlashCopy DSN Template」パネル	12-48
DSNUTILB インターセプト処理が発生したか		「FlashCopy DSN Template (View)」パネル	12-50
どうかの確認	11-516	「Rename Profile」パネル	12-51
DSNUTILB インターセプト状況の表示	11-518	「Build Load JCL」パネル	12-51
インターセプトが発生した DB2 ユーティリ		「Warning」パネル	12-53
ティーの終了	11-519	「Data set allocation parameters」パネル	12-53
特殊な状況での DB2 ユーティリティーの再			
始動	11-520		

「Administer Accelerator Loader server」パ ネル	12-54
「Server Trace」パネル	12-54
Server Management Menu	12-54
「ISPF Session Parameters」パネル	12-55
「Parameter Groups」パネル	12-55
「Product module information」パネル	12-55
「Event Facility (SEF) Control」パネル	12-56
「Display Global Variables」パネル	12-56
「Event Facility (SEF) Ruleset Entry Profile」パネル	12-57
「Event Facility Proc. Rulesets - Using SEF V4 Configuration」パネル	12-57
「Event Facility (SEF) Event Procedure List」パネル	12-57
「SEF - Command Response Display」パネ ル	12-58

コンポーネントおよび構造	12-58
Accelerator Loader 開始タスクのコンソール・コ マンド	12-60
列表示機能 (CSETUP)	12-62
制約事項	12-63
CSETUP 基本オプション・メニューへのアク セス	12-63
列の固定	12-64
列の位置変更	12-66
列のサイズ変更	12-68
ソート機能	12-69
列の非表示	12-73
CSET カスタマイズのリセット	12-74

特記事項 **A-1**

索引 **X-1**



3-1.	「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET)	3-8	3-15.	「Remove a Configuration of a Product」パネル	3-28
3-2.	「Panel Display Options」パネル (CCQPOPT)	3-12	3-16.	「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル	3-29
3-3.	「Specify the Metadata Library」パネル	3-18	3-17.	「Edit a Configuration of a Product」パ ネル	3-29
3-4.	「Discover Customized Product Information」パネル	3-20	3-18.	「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル	3-30
3-5.	「Associate DB2 Entry for Product」パネ ル	3-22	3-19.	「Product Parameters」パネル	3-32
3-6.	「Create a DB2 Entry」パネル	3-23	3-20.	「LPAR Parameters」パネル	3-34
3-7.	「Associate DB2 Entry for Product」パネ ル	3-23	3-21.	「DB2 Parameters」パネル	3-36
3-8.	「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル	3-25	3-22.	3-36
3-9.	「Customizer Workplace」パネル	3-25	3-23.	「Finish Product Customization」パネル	3-39
3-10.	「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル	3-26	4-1.	IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS メインメニュー	4-2
3-11.	「Create a New Configuration of a Product」パネル	3-26	9-1.	Load partitions individually=Yes	9-8
3-12.	「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル	3-27	9-2.	Load partitions individually=No	9-9
3-13.	「Copy a Configuration of a Product」パ ネル	3-27	9-3.	外部ファイルからの非並列ロードのサンブ ル JCL	9-27
3-14.	「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル	3-28	9-4.	並列ロードを実行するための DB2 LOAD ユーティリティ・ステートメント	9-28
			12-1.	「Define Fixed Columns」パネル	12-65
			12-2.	「Define Column Display Order」パネル	12-67
			12-3.	「Define Column Size」パネル	12-68
			12-4.	「Define Sort Columns」パネル	12-70

表

2-1.	データ定義名ごとのアクセス要件	2-10	10-1.	Accelerator Loader サーバーのアクセス要件	10-2
3-1.	データ共用環境における「Use DB2 group attach」フィールドの値の影響	3-9	10-2.	Accelerator Loader サーバーのロード・モジュール	10-5
3-2.	生成されたジョブの CONNECT ステートメントで使用される値	3-10	10-3.	「Server Trace」パネルの列	10-80
3-3.	カスタマイズのロードマップ	3-12	10-4.	プロファイル・フィルタリング基準	10-83
3-4.	DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition を初めてカスタマイズするための手順	3-13	10-5.	プロファイル・フィルタリング・イベント	10-84
3-5.	管理用タスク	3-14	10-6.	SMF パラメーター	10-88
3-6.	以前のカスタマイズを基にして DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンをカスタマイズするための手順	3-15	10-7.	サブタイプ 02 のレコード情報	10-90
3-7.	管理用タスク	3-16	10-8.	サブタイプ 03 のレコード情報	10-92
3-8.	DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の再カスタマイズに必要な手順	3-17	10-9.	サブタイプ 06 のレコード情報	10-93
3-9.	管理用タスク	3-17	10-10.	サブタイプ 09 のレコード情報	10-95
3-10.	DRDA データ・ソースのパラメーター	3-59	10-11.	サブタイプ 13 のレコード情報	10-96
5-1.	互換性のあるソース列とターゲット列のデータ・タイプ	5-2	11-1.	ユーティリティ SYSPRINT データ・セット内のインターセプト・メッセージ	11-516
			11-2.	開始タスク SYSPRINT データ・セット内のインターセプト・メッセージ	11-518
			11-3.	変換 CCSID	11-524
			12-1.	製品、LPAR、および DB2 エントリーの状況タイプ	12-4
			12-2.	ディスカバー出力、データ・ストア、およびカスタマイズ・ライブラリーの各データ・セットを割り振るためのデータ・セット属性	12-8

本書について

IBM® DB2® Analytics Accelerator Loader for z/OS IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS (DB2 Analytics Accelerator Loader および Accelerator Loader と呼ばれます) は、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS および IBM DB2 for z/OS® にデータをロードするのに使用するツールです。

本書のトピックは、データベース管理者、システム・プログラマー、アプリケーション・プログラマー、およびシステム・オペレーターが以下のタスクを実行する際に役立ちます。

- DB2 Analytics Accelerator Loader のインストールの計画
- DB2 Analytics Accelerator Loader のインストールと操作
- DB2 Analytics Accelerator Loader 環境のカスタマイズ
- DB2 Analytics Accelerator Loader の問題の診断およびリカバリー
- DB2 Analytics Accelerator Loader 用のアプリケーションの設計および作成
- DB2 Analytics Accelerator Loader と他の DB2 製品との併用

本書の最新バージョンの有無に関して、必ず以下の DB2 Tools 製品の資料のページを確認してください。

<http://www.ibm.com/software/data/db2imstools/db2tools-library.html>

概要

IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS は、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS および IBM DB2 にデータをロードするのに使用できるツールであり、データをアクセラレーターにロード中に実動表への更新アクティビティを停止する必要はありません。

1 つのメモリー内のプロセスで、非 DB2 およびリモート DB2 ソースからアクセラレーターに直接データをロードできます。ソース・データのアクセス、必要なフォーマットへの変換、およびアクセラレーターへのロードが 1 つのステップで行われ、中間のファイル・フォーマットにデータをランディングまたはロードする必要はありません。Accelerator Loader 機能は、多くの z/OS インストール済み環境で使用されている既存のプロセスのパフォーマンスと処理効率を向上させます。これらの機能を使用すると、より自動化された方法で幅広い非 DB2 データをアクセラレーターにロードし、真の全社的なアナリティクスを可能にすることができます。

トピック:

- 『新機能』
- 1-7 ページの『Accelerator Loader の機能』
- 1-8 ページの『特徴と利点』
- 1-9 ページの『コンポーネントおよびインターフェース』
- 1-10 ページの『Tools Customizer の概要』
- 1-13 ページの『シナリオ』
- 1-11 ページの『サービス更新およびサポート情報』
- 1-11 ページの『製品資料および更新情報』
- 1-13 ページの『アクセシビリティ機能』

新機能

この版の変更の要約を検討します。

新規情報および変更情報は、その箇所の左側に縦棒 (|) を付けて示してあります。技術的に重要ではない、編集上の変更箇所には注記してありません。

バージョン 2.1 SC27-6777-00 (第 1 版) - 2016 年 2 月

Accelerator Loader は Accelerator Loader サーバーを提供します。このサーバーは、ソースからデータを抽出するために非 DB2 および非 z/OS データ・ソースを定義し、IBM Data Studio へのプラグインである Accelerator Loader スタジオを介してアクセラレーターにロードできます。Accelerator Loader スタジオを使用すると、最初にデータをフラット・ファイルにランディングすることなく、アクセラレーターにデータをロードできます。

Accelerator Loader は、DB2 の表とアクセラレーターの表の両方に外部ファイルからデータをロードするときに、IBM Change Data Capture for z/OS (CDC) を介してレプリケーション・モードで DB2 表を統合します。

DB2 表またはアクセラレーター表、もしくはその両方にデータを付加できます。RESUME YES ロード・ユーティリティー・キーワード、および「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルと「Load Accelerator from External File」パネルの「Resume」フィールドでは、この機能拡張がサポートされます。

Accelerator Loader は、DB2 表またはアクセラレーター表、もしくはその両方に外部ファイルからロードする場合のデータの付加をサポートします。ISPF パネルの「RESUME」フィールドでは、RESUME YES を生成して LOAD ユーティリティーの制御カードに入れます。

ISPF インターフェースは、次のように使いやすさを改善するために機能拡張されました。各パネルの説明については、12-12 ページの『パネル・コマンドおよびフィールドのリファレンス』を参照してください。

- 新規パネル:
 - 「Save Profile」パネル
 - 「Create Profile」パネル
- 変更されたパネル:
 - IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS メインメニューで、「Settings」は「Setup」になり、「DB2 Analytics Accelerator Loader profiles」は「Manage Loader profiles」になり、プロファイルを作成するための以下のオプションが追加されました。「Load Accelerator and DB2 from External File」、「Load Accelerator from external file」、「Load Accelerator with consistent data」、および「Load Accelerator from a specified image copy」。
 - 「Profile Options」パネルは、プロファイル・タイプごとのオプション・パネルで置き換えられました。
 - 「Profile Display」パネルは「Manage Loader Profiles」パネルで置き換えられました。
 - 「Load From External Options」パネルは、以下のパネルで置き換えられました。
 - 「Load Accelerator and DB2 from External File」パネル。二重ロード・プロファイルのオプションの指定に使用します。
 - 「Load Accelerator from External File」パネル。外部ロード・プロファイルのオプションの指定に使用します。
 - 「Consistent Load Options」パネルは、以下のパネルで置き換えられました。
 - 「Load Accelerator with Consistent Data」パネル。整合ロード・プロファイルのオプションの指定に使用します。
 - 「Load Accelerator from a specified Image Copy」パネル。イメージ・コピー・ロード・プロファイルのオプションの指定に使用します。
- 以下のプロファイル・タイプがサポートされるようになりました。

- 「**Dual**」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Accelerator only**」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターのみで表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Consistent**」は、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Image copy**」は、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

FLOAT オプションがサポートされるようになりました。

ロード・ジョブの開始前に、アクセラレーターに表を追加できます。ISPF パネル・フィールド「**Add tables to accelerator**」、および拡張構文オプション ACCEL_ADD_TABLES と ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES で、この機能拡張がサポートされます。

正常にロードした後、表の照会アクセラレーションを有効にすることができます。オプション・モジュール・パラメーター「**Enable acceleration after successful load**」、ISPF パネル・フィールド「**Acceleration on success**」、および拡張構文オプション ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE で、この機能拡張がサポートされます。

ACCEL_LOAD_TABLES への呼び出しでトレース機能のためのパラメーター MESSAGE を使用できます。

Tools Customizer は、カスタマイズ時に IVP ジョブを生成するオプションを提供します。詳しくは、2-16 ページの『ワークシート: Tools Customizer のパラメーター値の収集』を参照してください。

「Load Accelerator with Consistent Data」パネルで、「**Log Reader copy preference**」フィールドのデフォルト値は **R1R2A1A2** になりました。この値は、製品が最初にアクティブ・ログを読み取ることを示します。

検索時にオブジェクト名の大/小文字の区別を制御することができます。「Enter Table and Creator Like to Display」パネルの「**Case sensitive**」フィールドで、この機能は有効になります。

プロファイル・タイプを検索する場合、すべてのプロファイル・タイプを指定するには、「Manage Profiles」パネルの「**Profile Type**」フィールドで * (アスタリスク) を使用できます。

製品は、表列情報データ・セットが UNLOAD ユーティリティから取得されたものであることを検出します。フィールド指定のみを構文解析し、生成する JCL に組み込みます。列情報データ・セットからの LOAD 制御カードの手動削除は不要になりました。

イメージ・コピー・プロファイルを使用する場合、ISPF インターフェースでロード・ジョブにイメージ・コピーを指定でき、製品はそのイメージ・コピーからロードする整合ロード・ジョブを生成します。

バッチ JCL 生成プログラムの SYSIN 行が 72 個のシンボルを超えることはできません。長い表名を複数の行に分割するには、位置 1 から 72 に名前を入力してから、位置 1 から新しい行を開始します。

ロード・プロファイルは、プロファイルを作成するのに使用した製品のバージョン、およびそれ以降のバージョンで使用できます。詳しくは、2-5 ページの『ロード・プロファイルのマイグレーション』を参照してください。

製品でパイプ共通ストレージをクリーンアップする機能が強化され、表またはバッチ・ジョブで共通ストレージを手動でクリーニングするためのオプションが追加されました。詳しくは、11-514 ページの『ジョブが失敗した後の共通ストレージのクリーンアップ』を参照してください。

SYSIN に 1 つの実行可能ステートメント (LOAD ステートメントなど) のみが含まれるときに、アクセラレーターへのロード時にエラーが発生する場合、製品はユーティリティを終了してから、ユーティリティ表からワーク・リストを削除します。

外部ファイルからロードする場合、製品は、非パーティション化表と増加対応パーティション表のアクセラレーターへのみのロードで並列処理をサポートして、これらのロードのパフォーマンスを向上させます。非パーティション化オブジェクトまたは増加対応パーティション・オブジェクトをアクセラレーターへのみにロードする場合、ACCEL_LOAD_TASKS 拡張構文オプションとオープン・モジュールのオプションがサポートされます。

廃棄データ・セットに書き込まれるソース・レコードの最大数を指定できます。この機能拡張をサポートするために、「Load Accelerator and DB2 from an External File」パネルに **DISCARDS** フィールドが追加されました。

整合性のある時刻までデータをロードするための機能拡張 (整合ロード) は次のとおりです。

- Accelerator Loader は、FORMAT 節がなく、フィールド指定もない LOAD ユーティリティ構文をサポートします。DB2 LOAD ユーティリティのフィールド指定の制約事項は Accelerator Loader にも適用されます。
- 以下の基準を満たすロードの場合、CPU 使用率または経過時間の製品パフォーマンスを最適化できます。
 - アクセラレーターと DB2 の両方へのデータのロード (二重ロード・プロファイル)。
 - 非並列処理の実行。
 - パーティション化されていないか、増加対応でパーティション化されている表へのロード。

オプション・モジュール・パラメーター「**Optimize processing for CPU or elapsed time**」と拡張構文オプション ACCEL_OPTIMIZE_FOR はこの機能拡張をサポートしています。

- 「**Load partitions individually**」フィールドを使用して、SPACE ステートメントがパーティション化された表のパーティションごとに生成されるか、表全体に対して生成されるかを指定します。

- DB2 Analytics Accelerator Loader が提供する ISPF パネル・フィールド (「**Bypass SYSIBM.SYSLGRNX Proc**」) と構文オプション (NO_SYSLGRNX) を使用すると、製品が SYSIBM.SYSLGRNX の読み取りをスキップし、整合データ・ロードを実行するときに最も早い開始点から最も遅い終点まで DB2 ログ範囲全体を読み取るかどうかを指定できます。
- Accelerator Loader は、ラージ・ブロック・インターフェース (LBI) 形式で保管されるテープ・データ・セットを読み取ることができます。

外部ロード・バッチの使いやすさは以下のように向上しています。

- 製品には、S878 ABEND の診断に役立つように SNAPLDA DD によってトリガーされる LDA 制御ブロックのスナップ・ダンプが含まれます。S878 ABEND を検出した場合は、SNAPLDA DD を保存して IBM ソフトウェア・サポートに送信できます。
- 「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルと「Load Accelerator from External File」パネルには、SYSREC 用に 1 つのフィールドと SYSPUNCH 用に 1 つのフィールドのみが含まれています。

バージョン 1.1 SC19-4165-02 (第 3 版) - 2014 年 12 月

Accelerator Loader は、指定されたマイグレーション済みデータ・セットを再呼び出しすることなく、そのデータ・セットが存在するかどうかを検証するようになりました。

ロード・プロファイルに含めるオブジェクトをフィルターに掛ける場合、ISPF パネルで表の代わりにビューまたは別名を選択するか、バッチ・インターフェースで表の代わりにビューまたは別名を指定することができます。製品はそのビューまたは別名を基本表スペースに解決し、生成された JCL に基本表スペースを組み込みます。サポートは、単一の基本表からのビューに限定されます。複数の表の結合から作成されたビューはサポートされません。

バッチ・インターフェースを使用すると、Accelerator Loader ジョブ用の JCL を生成し、JCL の作成時に新しい表名を指定できます。バッチ・インターフェースは、どの表をいつロードする必要があるかを動的に判別するプロセスまたは手順がある場合に便利です。バッチ・インターフェースを使用すると、基本オプション用のプロファイルおよびロードする表のリストを指定でき、指定する表ごとに複数のオプションをオーバーライドできます。バッチ・インターフェースで指定しないパラメーターの場合、値はプロファイルから取られます。

Tools Customizer Discover EXEC は、以前に構成された Accelerator Loader のインストール済み環境から既存の情報を検出して使用することができます。Tools Customizer は、Accelerator Loader で使用するための既存の情報の検出に、DB2 Change Accumulation Tool V3.1 の以前のインストール済み環境から制御ファイルを使用できなくなりました。

外部ファイル機能からのロードに、以下の変更と機能拡張が加えられました。

- フィールド指定を LOAD ステートメントでコーディングする必要があります。各 INTO TABLE 節には、独自のフィールド指定の集合が必要です。フィールド指定が LOAD ステートメントでコーディングされていない場合、製品はメッセージを発行し、ユーティリティを終了します。

- Accelerator Loader は、同じ表の複数のパーティションの処理と、アクセラレーターへの並行ロードをサポートします。並列処理を有効にし、パーティション化されたオブジェクトのロード時のパフォーマンスを改善するために、複数の SYSREC データ・セットを指定できます。オプション・モジュール・パラメーター ACCEL_LOAD_TASKS と拡張構文オプション ACCEL_LOAD_TASKS では、この機能拡張がサポートされます。ISPF インターフェースを使用して JCL を生成する場合、オプションで、「Load from External Options」パネル (HLOLEXLO) の新しいフィールドを使用して、並列処理を可能にするロード制御カードを生成できます。
- Accelerator Loader は、DB2 LOAD ユーティリティの IGNOREFIELDS 節をサポートします。アクセラレーターのみでロードする場合 (オプション IDAA_ONLY)、Accelerator Loader は、フィールド指定の名前が「DSN_」で始まるときに有効な行を生成します。以前、Accelerator Loader は、IGNOREFIELDS YES が指定された場合と同じように常に動作しました (ただし、製品は IGNOREFIELDS 節をサポートしませんでした)。Accelerator Loader の動作が、DB2 LOAD ユーティリティの動作と一致するようになりました。つまり、IGNOREFIELDS 節が省略されると、Accelerator Loader は IGNOREFIELDS NO が指定された場合と同じように動作します。
- アクセラレーターと DB2 の両方へのロードを実行する (オプション IDAA_DUAL) 場合、ID 列に値を生成する必要性を検出すると、Accelerator Loader は、DB2 LOAD ユーティリティにロード・ジョブを渡して、データを DB2 のみにロードすることができます (データはアクセラレーターにロードされません)。オプション・モジュール・パラメーター ACCEL_LOAD_TASKS は、この機能拡張をサポートします。
- LOAD ユーティリティ・ステートメントに、レコードの見積もり数を提供するための NUMRECS 節と SORTKEYS 節のどちらも含まれない場合、製品は SYSREC レコード数を見積もります。見積もったレコード数を使用して、INTO TABLE 節ごとに NUMRECS 節を追加します。
- アクセラレーターと DB2 の両方にデータをロードする場合、1 つ以上の標準 DB2 LOAD 廃棄データ・セットを提供できます。
- Accelerator Loader は、NULLIF および DEFAULTIF の LOAD ユーティリティ・オプションをサポートします。
- Accelerator Loader は、DB2 GRAPHIC、VARGRAPHIC、および TIMESTAMP WITH TIMEZONE データ・タイプをサポートします。

整合ロード機能に、以下の変更と機能拡張が加えられました。

- Accelerator Loader 出力にデフォルトでデバッグ情報が含まれなくなりました。デバッグとトラブルシューティングの情報をジョブ出力に組み込むには、手順について IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。
- Accelerator Loader は、同じ表の複数のパーティションの処理と、アクセラレーターへの並行ロードをサポートします。製品が同時に処理できるオブジェクト数を指定できます。ISPF インターフェースを使用して JCL を生成する場合、オプションで、「Consistent Load Options」パネル (HLOLECLO) で並列ログ適用タスクの数を指定できます。指定された値は、JCL の PARALLEL 制御カード内の「y」値として使用されます。

- BUFFERS_IN_31_BIT 制御カードが存在するかどうかに関係なく、Accelerator Loader は常に 31 ビット・コード・パスを使用します。BUFFERS_IN_31_BIT 制御カードはサポートされなくなり、資料から削除されました。制御カードが存在する場合、製品はそれを無視します。
- イメージ・コピーを指定し、そのイメージ・コピーからアクセラレーターにデータをロードすることができます。終了時刻の指定やログの適用は不要です。製品は、ロードされるオブジェクトのコンテンツとしてイメージ・コピーを使用します。
- 同じ表の複数のパーティションの並列処理を使用可能にするには、並列ログ適用およびロード・タスクの数を指定します。ISPF インターフェースまたは PARALLEL オプションを使用できます。

バージョン 1.1 SC19-4165-01. (第 2 版) - 2014 年 3 月

サポートされていない以下のオプションをサンプル JCL から除去するように、Accelerator Loader の資料が訂正されました。

- DISCARD DN ISYSDISC
- TEMPLATE ISYSDISC
- NULLIF

Accelerator Loader の機能

Accelerator Loader は、DB2 と IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にデータをロードする機能を提供します。

Accelerator Loader では、次のようにデータをロードできます。

- Accelerator Loader サーバーを使用して、最初に中間のファイル・フォーマットにデータをランディングまたはロードすることなく、1 つのメモリー内のプロセスで、非 DB2 およびリモート DB2 ソースからアクセラレーターにデータをロードします。この機能は、多くの z/OS インストール済み環境で使用されている既存のプロセスのパフォーマンスと処理効率を向上させます。より自動化された方法で幅広い非 DB2 データをアクセラレーターにロードできるようにすることによって、製品は真の全社的なアナリティクスを実現します。
- 最初にデータを DB2 にロードすることなく、外部ソースからアクセラレーターにデータをロードします。この機能により、DB2 へのデータのロードが不要なときに、CPU とストレージ・リソースを費やす必要がなくなります。
- 同じ外部ロード・ファイルから DB2 とアクセラレーターに並行してデータをロードして、プロセスのステップ数を 2 つから 1 つに減らします。
- 実動 DB2 表への更新アクティビティを停止することなく、現行の DB2 データまたは過去の特定期間からのデータをアクセラレーターにロードします。
- ユーザーが指定するイメージ・コピーからアクセラレーターにデータをロードします。

関連概念:

12-8 ページの『Accelerator Loader の用語』

DB2 Analytics Accelerator Loader には、複数の固有の用語があります。製品の使用を開始する前に、これらの用語を確実に理解してください。

特徴と利点

Accelerator Loader には、以下の特徴があります。

非 DB2 および DRDA データ・ロード

Accelerator Loader では、データのサブセットをソースから抽出するために、データ・ソースの定義と分析を行うことができます。Accelerator Loader がデータを最初にフラット・ファイルにランディングすることなく、マップ済みのソースからデータを取り出すことができるようにするインターフェースを備えています。

IBM Data Studio へのプラグインである Accelerator Loader スタジオ を使用すると、より合理的な方法で非 DB2 データをロードし、少ない労力と時間で非 DB2 とリモート DB2 ソースからアクセラレーターにデータをロードできます。1 つのメモリー内のプロセスで、複数の異なるソースからアクセラレーターにデータを直接ロードできます。ソース・データのアクセス、必要なフォーマットへの変換、およびアクセラレーターへのロードが 1 つのステップで行われ、最初に中間のファイル・フォーマットにデータをランディングまたはロードする必要はありません。この機能は、多くの z/OS インストール済み環境で使用されている既存のプロセスのパフォーマンスと処理効率を向上させ、より自動化された方法で幅広い非 DB2 データをアクセラレーターにロードして、全社的なアナリティクスを可能にすることができます。

整合データ・ロードと履歴データ・ロード

Accelerator Loader は、IBM FlashCopy[®] の能力、速度、および効率性を活用します。Accelerator Loader を使用すると、DB2 からアクセラレーターにロードされるデータの FlashCopy 整合イメージ・コピーを作成できます。Accelerator Loader は、その整合コピーを使用して、データをアクセラレーターにロードします。この機能により、ロード・プロセス中に表をオフラインにする必要がなくなります。

DB2 上でオブジェクトの有効なイメージ・コピーを使用して、Accelerator Loader は、現在時刻までのログ・レコードを適用するか、または複数のオブジェクトの場合は整合した過去の時点までのログ・レコードを適用します。Accelerator Loader を使用すると、関連した複数の DB2 表を更新のためにオフラインにする必要なく、それらの表からデータをロードできます。この機能により、他の方法ではアクセラレーターのロード・プロセスで発生するダウン時間がなくなります。

Accelerator Loader では、アクセラレーターにロードするために任意の過去の特定時点を指定できます。この機能を使用すると、履歴データまたは選択した特定時点のデータに対して分析を実行できます。関連した表はすべて、一貫性のある特定の時点にロードされます。

イメージ・コピー・ロード

DB2 Analytics Accelerator Loader は、ユーザーが指定する DB2 イメージ・コピーを使用して、1 つの表のデータをアクセラレーターにロードします。終了時刻の指定やログの適用は不要です。製品は、ロードされるオブジェクトのコンテンツとしてイメージ・コピーを使用します。

外部ファイルからの拡張ロード

DB2 Analytics Accelerator Loader は、同じ入力ファイルから並行してアクセラレーターおよびオプションで DB2 にデータをロードします。以下のソース・ファイルからデータをロードできます。

- DB2 データの場合、DB2 UNLOAD ユーティリティーによって作成されたファイル。
- 外部ソースからのデータ (IMS™ や VSAM データなど) や、非メインフレーム・ソースからのデータの場合、DB2 LOAD ユーティリティーとの互換性があるファイル。

外部データをアクセラレーターにロードする場合、DB2 Analytics Accelerator Loader では、データをアクセラレーターにロードする前に最初に DB2 にロードする必要はありません。この機能により、DB2 へのデータのロードが不要なときに、CPU とストレージ・リソースを費やす必要がなくなります。この機能は、DB2 にデータウェアハウスを作成するときに便利です。このシナリオでは、ロードされる表の照会はずべて、アクセラレーションの対象でなければなりません。また、データは DB2 の外部に保持され、バックアップされている必要があります。

コンポーネントおよびインターフェース

Accelerator Loader は、以下のインターフェースとコンポーネントを提供します。

ISPF インターフェース

アクセラレーターにデータをロードし、リフレッシュするための JCL を作成するオプションの選択に、ISPF インターフェースを使用します。これらのオプションを選択した後、ISPF インターフェースを使用して、機能を実行する JCL を生成します。この JCL は、指定したデータ・セットに置かれます。

バッチ・インターフェース

バッチ・インターフェースは、アクセラレーターにデータをロードまたはリフレッシュするために ISPF インターフェースを使用する代わりとなります。既存の LOAD ユーティリティー JCL が特定の要件を満たしている場合、わずかな変更だけでその JCL を使用することができます。

Accelerator Loader スタジオ

Accelerator Loader スタジオ は、IBM Data Studio からアクセスするプラグインです。Data Studio クライアントは、Eclipse テクノロジーに基づいて構築されており、データベースおよびインスタンス管理、ルーチンと Java™ アプリケーションの開発、および照会チューニングのための統合開発環境 (IDE) を提供します。

リレーショナル・データと非リレーショナル・データを迅速に変換し、アクセラレーターにロードするのに、Accelerator Loader スタジオ を使用します。データの変換とロードの前に、データを抽出し、別のファイルに書き込む必要はありません。データにリアルタイムでアクセスできます。データは、マップされたソースから直接読み取られ、アクセラレーター表にロード中に変換されます。

Accelerator Loader サーバー

Accelerator Loader サーバーはメインフレームに常駐し、DB2 と非 DB2 のデータ・ソースへのアクセスを提供します。このサーバーを使用すると、非リレーショナル・ソース・データ (VSAM、IBM IMS DB など) をリレーショナル表フォーマットにマップすることができます。ソース・データをマップした後、サーバーは、業界標準の SQL ステートメントを実行して、アクセラレーターにロードするデータにアクセスします。この SQL ステートメントは、単一データ・ソースから選択するか、複数のデータ・ソースからのデータを結合することができます。サーバーは、SQL ステートメントを実行し、データ・ソースにアクセスし、データをバッチ・ジョブに渡します。このバッチ・ジョブは、データを必要なフォーマットに変換し、アクセラレーターに直接ロードします。

Accelerator Loader 開始タスク

Accelerator Loader 開始タスクは、監視プログラム呼び出し (SVC) を使用してインターフェースからの入力を受け取り、DB2 サブシステムと通信してデータをアクセラレーターにロードします。1 つの開始タスクで、システム全体の複数のユーザーからの同時要求を処理できます。開始タスクを開始した後、製品機能を実行することができます。

関連概念:

12-58 ページの『コンポーネントおよび構造』

Accelerator Loader は、z/OS システム上の開始タスクとして実行されます。開始タスクは DB2 と通信して、製品機能を実行し、製品のアクティビティに関する情報を DB2 表に保管します。

Tools Customizer の概要

IBM Tools Customizer for z/OS (Tools Customizer と呼ばれる) は、z/OS 上で実行される IBM Tools のカスタマイズに必要な多くのカスタマイズ・プロセスを標準化しています。Tools Customizer は、IBM Tools Base for z/OS のコンポーネントの 1 つです。

Tools Customizer は、すべての IBM Tools 製品およびソリューション・パック・コンポーネントのカスタマイズ・プロセスが同じになるように、一貫性のある ISPF インターフェースを用意しています。また、手動であるいは Tools Customizer を使用して過去にカスタマイズした製品またはソリューション・パック・コンポーネントからパラメーター値を「検出」する機能も備えています。

特徴と利点

Tools Customizer には、以下の特徴があります。

- 一貫性のある単一 ISPF インターフェースにより、すべての IBM Tools 製品およびソリューション・パック・コンポーネントに同じカスタマイズ・プロセスを実行できます。
- Discover EXEC は、手動でまたは Tools Customizer を使用して以前にカスタマイズした製品やソリューション・パック・コンポーネントから、共通の製品、LPAR、および DB2 パラメーターの値を検出します。各 IBM Tools 製品およびソリューション・パック・コンポーネントには固有の Discover EXEC がありま

す。検出されたパラメーターはデータ・ストアに保管されます。カスタマイズする製品やソリューション・パック・コンポーネントが Tools Customizer データ・ストアに存在する場合、Tools Customizer は、既存の値を上書きする前に警告を発行します。Discover EXEC を使用するには、「Customizer Workplace」パネルで DISCOVER コマンドを発行します。

- 検出されたパラメーター値や手動で指定されたパラメーター値は、データ・ストアに保持されます。パラメーターの情報は永続的に保管されるので、パラメーター値を手動で指定するか、検出するのは 1 回だけですみます。Tools Customizer は、該当する場合にこれらのパラメーター値を使用します。
- メタデータ・リポジトリには、製品およびソリューション・パック・コンポーネントに関する以下のカスタマイズ属性を定義するメンバーが入っています。
 - カスタマイズされる製品またはソリューション・パック・コンポーネントのパラメーター、タスク、およびステップ。製品またはソリューション・パックの一部のパラメーター、タスク、およびステップは必須です。
 - ローカル LPAR の LPAR パラメーター。すべての LPAR パラメーターが必須です。
 - 製品またはソリューション・パック・コンポーネントをカスタマイズする DB2 サブシステム、DB2 グループ接続名、または DB2 データ共用メンバーの DB2 パラメーター。すべての DB2 パラメーターが必須です。
- 複数の構成により、ご使用の環境に応じて、パラメーター値、選択したカスタマイズ・タスクとステップ、および関連付けた DB2 エントリーの固有のセットを保管することができます。
- 製品パラメーターとソリューション・パック・コンポーネント・パラメーター、LPAR パラメーター、および DB2 パラメーターのデフォルト値が用意されています。デフォルト値は、フィールドの指定方法の例を示します。

サービス更新およびサポート情報

ソフトウェア・フィックスパック、PTF、よくある質問 (FAQ)、技術情報、トラブルシューティング情報、ダウンロードなど、本製品のサービス更新情報およびサポート情報は、Web で提供されています。

サービス更新情報およびサポート情報を検索するには、次の Web サイトを参照してください。

http://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/Information_Management/DB2_Tools_for_z~OS

製品資料および更新情報

DB2 Tools に関する情報は、Web 上の複数の場所で提供されています。IBM My Notifications サービスに登録すると、DB2 Tools 情報の更新を自動的に受け取ることができます。

Web 上の情報

DB2 Tools の製品資料 Web ページでは、表示、印刷、およびダウンロードできる現行の製品資料を提供しています。最新の情報が記載された資料を見つけるには、次の Web ページを参照してください。

<http://www.ibm.com/software/data/db2imstools/db2tools-library.html>

以下の IBM Knowledge Center から、さまざまな DB2 Tools の資料にアクセスできます。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter>

特定の DB2 Tool 製品を検索するか、「**Information Management**」 > 「**DB2 for z/OS family**」を参照してください。

DB2 Tools を対象とした IBM Redbooks® 資料を、次の Web ページから入手できます。

<http://www.redbooks.ibm.com>

以下の Data Management Tools Solutions の Web サイトでは、IT 組織が今日の主要なデータ管理問題に引き続き対応しながら、DB2 データベースへの投資効果を最大化するために、IBM ソリューションがどのように役立つのかを紹介しています。

<http://www.ibm.com/software/data/db2imstools/solutions/index.html>

資料更新情報の自動受信

新しい技術情報のリリース、既存の製品資料の更新、および新しい製品資料の公開を通知する E メールを自動的に受信するには、IBM My Notifications サービスに登録します。このサービスは、指定する IBM 製品のみに関する情報を受信するようにカスタマイズできます。

My Notifications サービスに登録するには、以下のようにします。

1. <http://www.ibm.com/support/mysupport> にアクセスします。
2. IBM ID およびパスワードを入力するか、または「**register now**」をクリックしてプロフィールを作成します。
3. 「My Notifications」ページが表示されたら、「**Subscribe**」をクリックして、情報更新を受け取りたい製品を選択します。DB2 Tools オプションは、「**Software**」 > 「**Information Management**」の下にあります。
4. 「**Continue**」をクリックし、受信したい更新情報のタイプを指定します。
5. 「**Submit**」をクリックしてプロフィールを保管します。

コメントの送付方法

お客様のご意見を送り返していただくことは、弊社が正確な情報を提供し、高品質の情報を提供する上で重要なことです。本書または他の IBM 製品資料についてご意見がありましたら、以下のいずれかの方法でお送りください。

- オンラインの読者コメント・フォームを使用する。このフォームは、<http://www.ibm.com/software/data/rcf/> にあります。
- E メールでコメントを送る。宛先は comments@us.ibm.com です。資料名、資料番号、ご使用の製品のバージョン、および該当する場合は、問題のテキストの具体的な場所 (ページ番号や表番号など) をご記入ください。

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。

本製品の主なアクセシビリティ機能を使用することで、ユーザーは以下のアクティビティを実行できます。

- 画面読み上げ機能および画面拡大ソフトウェアなどの支援機能の使用。この支援機能を使用して z/OS インターフェースにアクセスする場合、その特定情報については支援機能の資料を参照してください。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ
- キーボードのみを使用して、特定の機能または画面を使用したのと同等の機能进行操作する。ISPF インターフェースへのアクセス方法については、以下の資料を参照してください。
 - z/OS ISPF ユーザーズ・ガイド 第 1 巻
 - z/OS TSO/E 入門
 - z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド

上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む ISPF インターフェースの使用法と、PF キーのデフォルト設定、およびそれらの機能の変更方法について記載されています。

シナリオ

Accelerator Loader を使用して、実動またはアプリケーション表データをリフレッシュするために頻繁に実行するタスクと臨時のタスクの両方に当てはまる問題に対処します。

別の z/OS データ・ソースからのデータのロード (IMS、VSAM、順次)

IMS データと DB2 データを結合する照会を作成できるように、IMS データをアクセラレーターにロードしたいものとします。このデータを容易にリレーショナル・モデルにマップし、アクセラレーターにロードするプロセスが必要です。

Accelerator Loader を使用して、非 DB2 データをアクセラレーターの DB2 表にマップします。Accelerator Loader は、指定されたソースからデータを検出し、そのデータをアクセラレーターにロードします。

z/OS 以外のプラットフォームからの DB2 データのロード

別のプラットフォーム (Linux、UNIX、または Microsoft Windows など) に DB2 データがあり、そのデータを z/OS に移動したいものとします。プラットフォーム外の DB2 表を、アクセラレーター上の DB2 表にマップします。Accelerator Loader は、指定されたソースからデータを検出し、そのデータをアクセラレーターにロードします。

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS および DB2 へのデータのロード

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS を使用して、DB2 データで分析を実行し、複合照会を高速化したいものとします。データをアクセラレーターと DB2 にロードする必要があります。

Accelerator Loader を使用せずにこの目標を達成するには、以下の手動ステップを実行して、最初にデータを DB2 にロードしてから、アクセラレーターにロードする必要があります。ロードの実行中、実動表は、照会アクセラレーションにもデータ分析にもアクセス不能なままです。

1. DB2 LOAD ユーティリティを実行して、データを DB2 にロードします。
2. 必要なパラメーターをストアード・プロシージャ SYSPROC.ACCEL_LOAD_TABLES に渡すプログラムを作成します。
3. IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS ストアード・プロシージャ SYSPROC.ACCEL_LOAD_TABLES を使用して、データを IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にロードします。このストアード・プロシージャは最初に DB2 UNLOAD ユーティリティを実行し、データを IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS に渡します。

Accelerator Loader を使用して、いくつかの修正を加えた既存の LOAD ユーティリティ JCL を実行します。Accelerator Loader は、DB2 とアクセラレーターの両方に並行してデータをロードします。Accelerator Loader のこの機能を使用すると、DBA が手作業でデータをアクセラレーターにロードする必要がなくなります。この機能により、全体的な経過時間も短縮されます。

DB2 とアクセラレーターの両方に同時にデータを自動的にロードするには、以下のオプションがあります。

- 新しいパラメーターと DD ステートメントを既存の LOAD ユーティリティ・バッチ・ジョブに追加します。
- Accelerator Loader ISPF インターフェースを使用して、LOAD ユーティリティ JCL を生成します。

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS のみへの外部データのロード

非 DB2 データがあり、そのデータで IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS の分析機能を利用したいものとします。Accelerator Loader を使用せずにこの目標を達成するには、最初に非 DB2 データを DB2 表にロードする必要があります。次に、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS の分析機能を使用する前に、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS ストアード・プロシージャを使用して複数のタスクを手作業で実行する必要があります。

Accelerator Loader を使用すると、データを最初に DB2 にロードするのではなく、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS のみにロードできます。Accelerator Loader は、非 DB2 データをアクセラレーターにロードするための全体的な CPU 消費量、経過時間、および DASD 要件を減らすことによって節約を実現します。

アクセラレーターのみ自動的にデータをロードするには、以下のオプションがあります。

- 新しいパラメーターと DD ステートメントを既存の LOAD ユーティリティー・バッチ・ジョブに追加します。
- Accelerator Loader ISPF インターフェースを使用して、LOAD ユーティリティー JCL を生成します。

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS における関連オブジェクト・グループの現行データのリフレッシュ

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS で関連した DB2 データのセットをリフレッシュしたいものとします。Accelerator Loader を使用せずにこの目標を達成するには、グループ内の各オブジェクトでストアード・プロシージャ SYSPROC.ACCEL_LOAD_TABLES を実行し、表の LOCK を指定する必要があります。このアクションでは、ロード全体で表のセットに対する更新アクティビティを停止する必要があります。

Accelerator Loader を使用すると、以下の方法でこの目標を達成できます。

- Accelerator Loader は、すべてのオブジェクトに対して現行の特定時点まで、表ごとの FlashCopy イメージ・コピーを作成できます。次に、FlashCopy イメージを読み取り、データを IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にロードできます。

このオプションでは、イメージ・コピーの作成に必要な CPU、I/O、および時間がわずかです。これは、FlashCopy イメージ・コピーがコピーの作成にストレージ・プロセッサの速度と能力を利用するからです。プロセス全体で、表が更新に使用できます。

- Accelerator Loader は、オブジェクトの既存のイメージ・コピーから開始できます。次に、ログ・レコードをイメージ・コピーに適用してから、現在の時点までデータのコピーを IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にロードします。

このオプションでは、更新のために表をオフラインにすることなく、現在の特定時点までデータを IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にロードできます。

現行のデータをリフレッシュするには、以下のオプションがあります。

- サンプル JCL を使用してバッチ・ジョブを作成します。
- Accelerator Loader ISPF インターフェースを使用して、バッチ・ジョブを生成します。

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS への履歴データのロード

履歴データを IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にロードして、過去の特定時点までアクセラレーター上のデータをリセットしたいものとします。ただし、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS がこの目標をサポートしていません。

Accelerator Loader を使用すると、データをロードするタイム・スタンプまたは RBA/LRSN を指定して、任意の過去の時点まで 1 つ以上の表を IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にロードできます。Accelerator Loader は、特定

の時点までに取られたイメージ・コピーを使用し、ログ・レコードを指定の時点まで適用することによって、指定の時点までの表データを作成します。ロード中、表は更新のためにオンラインのままです。

履歴データをロードするには、以下のオプションがあります。

- サンプル JCL を使用してバッチ・ジョブを作成します。
- Accelerator Loader ISPF インターフェースを使用して、バッチ・ジョブを生成します。

サービス更新およびサポート情報

ソフトウェア・フィックスパック、PTF、よくある質問 (FAQ)、技術情報、トラブルシューティング情報、ダウンロードなど、本製品のサービス更新情報およびサポート情報は、Web で提供されています。

サービス更新情報およびサポート情報を検索するには、次の Web サイトを参照してください。

http://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/Information_Management/DB2_Tools_for_z~OS

製品資料および更新情報

DB2 Tools に関する情報は、Web 上の複数の場所で提供されています。IBM My Notifications サービスに登録すると、DB2 Tools 情報の更新を自動的に受け取ることができます。

Web 上の情報

DB2 Tools の製品資料 Web ページでは、表示、印刷、およびダウンロードできる現行の製品資料を提供しています。最新の情報が記載された資料を見つけるには、次の Web ページを参照してください。

<http://www.ibm.com/software/data/db2imstools/db2tools-library.html>

以下の IBM Knowledge Center から、さまざまな DB2 Tools の資料にアクセスできます。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter>

特定の DB2 Tool 製品を検索するか、「**Information Management**」 > 「**DB2 for z/OS family**」を参照してください。

DB2 Tools を対象とした IBM Redbooks 資料を、次の Web ページから入手できます。

<http://www.redbooks.ibm.com>

以下の Data Management Tools Solutions の Web サイトでは、IT 組織が今日の主要なデータ管理問題に引き続き対応しながら、DB2 データベースへの投資効果を最大化するために、IBM ソリューションがどのように役立つのかを紹介しています。

<http://www.ibm.com/software/data/db2imstools/solutions/index.html>

資料更新情報の自動受信

新しい技術情報のリリース、既存の製品資料の更新、および新しい製品資料の公開を通知する E メールを自動的に受信するには、IBM My Notifications サービスに登録します。このサービスは、指定する IBM 製品のみに関する情報を受信するようにカスタマイズできます。

My Notifications サービスに登録するには、以下のようになります。

1. <http://www.ibm.com/support/mysupport> にアクセスします。
2. IBM ID およびパスワードを入力するか、または「**register now**」をクリックしてプロフィールを作成します。
3. 「My Notifications」ページが表示されたら、「**Subscribe**」をクリックして、情報更新を受け取りたい製品を選択します。DB2 Tools オプションは、「**Software**」 > 「**Information Management**」の下にあります。
4. 「**Continue**」をクリックし、受信したい更新情報のタイプを指定します。
5. 「**Submit**」をクリックしてプロフィールを保管します。

コメントの送付方法

お客様のご意見を送り返していただくことは、弊社が正確な情報を提供し、高品質の情報を提供する上で重要なことです。本書または他の IBM 製品資料についてご意見がありましたら、以下のいずれかの方法でお送りください。

- オンラインの読者コメント・フォームを使用する。このフォームは、<http://www.ibm.com/software/data/rcf/> にあります。
- E メールでコメントを送る。宛先は comments@us.ibm.com です。資料名、資料番号、ご使用の製品のバージョン、および該当する場合は、問題のテキストの具体的な場所 (ページ番号や表番号など) をご記入ください。

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。

本製品の主なアクセシビリティ機能を使用することで、ユーザーは以下のアクティビティを実行できます。

- 画面読み上げ機能および画面拡大ソフトウェアなどの支援機能の使用。この支援機能を使用して z/OS インターフェースにアクセスする場合、その特定情報については支援機能の資料を参照してください。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ

- キーボードのみを使用して、特定の機能または画面を使用したのと同等の機能を操作する。ISPF インターフェースへのアクセス方法については、以下の資料を参照してください。
 - z/OS ISPF ユーザーズ・ガイド 第 1 巻
 - z/OS TSO/E 入門
 - z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド

上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む ISPF インターフェースの使用法と、PF キーのデフォルト設定、およびそれらの機能の変更方法について記載されています。

カスタマイズの準備

DB2 Analytics Accelerator Loader のカスタマイズを開始する前に、カスタマイズ・プロセスで指定する必要があるカスタマイズ値をすべて決定し、カスタマイズ・タスクについて十分に理解しておいてください。

以下の表では、それぞれの重要なカスタマイズ・タスクについて説明します。このチェックリストは、カスタマイズ・プロセス全体を実行するためのガイドとしてご利用いただけます。チェックリストと、データ・セット名およびパラメーター値のワークシートを印刷してください。ワークシートは値を記録するために使用し、カスタマイズ・プロセスの実行中に参照します。

タスク	詳細な指示へのリンク	状況
Tools Customizer の基本		
カスタマイズ・プロセスを開始する前に、Tools Customizer の用語およびデータ・セットについて、また Tools Customizer に関するその他の基本的な情報についてよく理解しておきます。	12-1 ページの『Tools Customizer のリファレンス』	
ハードウェアおよびソフトウェア要件		
ご使用の環境が最小ハードウェア要件を満たしていることを確認します。	2-6 ページの『環境がハードウェア要件を満たしているかどうかの確認』	
ご使用の環境が最小ソフトウェア要件を満たしていることを確認します。DB2 Analytics Accelerator Loader をインストールして使用するには、サポートされているバージョンの z/OS オペレーティング・システムおよび DB2 for z/OS がご使用の環境で実行されている必要があります。さらに、特定のメンテナンス・レベルを適用する必要があります。	2-6 ページの『環境がソフトウェア要件を満たしているかどうかの確認』	
SMP/E のインストール		
DB2 Analytics Accelerator Loader が正しくインストールされていることを確認します。DB2 Analytics Accelerator Loader は、標準の SMP/E 処理を使用してインストールします。	2-8 ページの『DB2 Analytics Accelerator Loader が正常にインストールされていることの確認』	
標準の SMP/E 処理を使用して Tools Customizer for z/OS が正しくインストールされたことを確認します。	2-8 ページの『Tools Customizer が正常にインストールされていることの確認』	
コード・ページに関する要件		
BIND JCL が正しいコード・ページを使用していることを確認します。	3-47 ページの『ENCODING(500) への BIND JCL の変更 (オプション)』	
領域サイズに関する要件		
正しい最小領域サイズが使用されていることを確認します。	2-9 ページの『環境が最小領域サイズ要件を満たしていることの確認』	
開始タスクに関する要件と考慮事項		

タスク	詳細な指示へのリンク	状況
Accelerator Loader 開始タスクが、必要な権限を持つユーザー ID のもとで実行されることを確認します。	2-9 ページの『開始タスクの権限要件』	
アクティビティーの量が非常に多い場合は、ワークロードの処理効率を高めるために、複数の開始タスクを同時に実行できます。	2-11 ページの『異なる DB2 サブシステムをモニターするための複数の開始タスクの実行』	
データ共有に関する考慮事項		
DB2 データ共有環境の展開と構成に関する問題の検討	2-13 ページの『DB2 データ共有環境に関する考慮事項』	
ワークロード・マネージャーに関する要件		
Accelerator Loader 開始タスクのディスパッチング優先順位が、他のディスパッチング優先順位と関連して適切に設定されていることを確認します。 WLM へのサーバーの定義に関する考慮事項を検討してください。	2-12 ページの『Accelerator Loader プロセスの WLM に関する要件』	
自動化操作のための WTO メッセージ		
Accelerator Loader が自動化操作のために発行するオペレーター宛 (WTO) メッセージを使用するかどうか検討してください。	2-14 ページの『自動操作の WTO メッセージ』	
データ・セット名の収集		
カスタマイズ・プロセス中に、以下のためのデータ・セット名を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> Tools Customizer FEC (共通コード) DB2 Analytics Accelerator Loader 	2-14 ページの『ワークシート: 必要なデータ・セット名の収集』	
パラメーター値の収集		
カスタマイズ・プロセスでは、DB2 Analytics Accelerator Loader、DB2、および使用する LPAR のパラメーター値を指定する必要があります。	2-16 ページの『ワークシート: Tools Customizer のパラメーター値の収集』	
DB2 Analytics Accelerator Loader のカスタマイズ		
Tools Customizer を開始するには、「ISPF Command Shell」パネルから REXX EXEC を実行します。	3-6 ページの『Tools Customizer の開始』	
Tools Customizer ユーザー設定をセットアップします。初めて Tools Customizer を実行している場合は、ご使用の環境に合わせていくつかのユーザー設定を変更する必要があります。それ以外の場合、既に設定してあるユーザー設定が今も適切であれば、このステップはスキップしてください。	3-7 ページの『Tools Customizer ユーザー設定の変更』	
実行するカスタマイズのタイプに基づいて、該当するカスタマイズ・ロードマップのステップを実行します。		
DB2 Analytics Accelerator Loader の初めてのカスタマイズ カスタマイズされたバージョンの製品がなく、初めてカスタマイズする必要がある場合は、このロードマップに従います。	3-13 ページの『ロードマップ: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の初めてのカスタマイズ』	

タスク	詳細な指示へのリンク	状況
異なるバージョンの DB2 Analytics Accelerator Loader のカスタマイズ あるバージョンの製品を既にカスタマイズ済みであり、同じパラメーター値を使用して別のバージョンをカスタマイズする場合は、このロードマップに従います。	3-15 ページの『ロードマップ: 以前のカスタマイズを基にした、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンのカスタマイズ』	
DB2 Analytics Accelerator Loader の再カスタマイズ カスタマイズされたバージョンの製品を使用していて、パラメーター値を変更してジョブを再生成する場合は、このロードマップに従ってください。	3-16 ページの『ロードマップ: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の再カスタマイズ』	
Tools Customizer を使用してカスタマイズを実行した後、以下の必須タスクを実行します。		
APF 許可		
以下のデータ・セットは APF 許可されている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • SHLOLOAD • SFECLOAD • SHLVLOAD 	3-47 ページの『ロード・ライブラリーの APF 許可 (必須)』	
ユーザー・インターフェースで開始タスクのアドレス・スペースを使用できるようにする		
Accelerator Loader とサーバー開始タスクの PROC をシステム PROCLIB にコピーして、製品のユーザー・インターフェースで開始タスクのアドレス・スペースを使用できるようにします。	3-47 ページの『開始タスク PROC のコピー (必須)』	
DSNUTILF モジュールをコピーする		
DSNUTILF モジュールは、DB2 LOAD ユーティリティー・ジョブと WLM アプリケーション環境の STEPLIB または JOBLIB 連結内の APF 許可ライブラリーに含まれている必要があります。	3-48 ページの『DSNUTILF モジュールのコピー (必須)』	
WLM 管理のアドレス・スペースを設定する		
このステップでは、Accelerator Loader 開始タスクが DSNUTILB インターセプト・サービスを実行できるようにします。	3-49 ページの『WLM アプリケーション環境の設定 (必須)』	
開始タスクを開始する		
製品を使用する前に、開始タスクを開始する必要があります。	3-49 ページの『開始タスクの開始 (必須)』	
Accelerator Loader サーバーに関する要件と考慮事項		
IBM RACF®、ACF2、Top Secret などのセキュリティ製品を使用できます。セキュリティ製品の Accelerator Loader サーバー名を定義し、データ・セットに権限を与える必要があります。	2-10 ページの『Accelerator Loader サーバーの許可要件』	

タスク	詳細な指示へのリンク	状況
z/OS 上で Accelerator Loader サーバーの実行を開始し、停止します。通常的环境下、Accelerator Loader サーバーはシステムの始動時に開始され、システムのシャットダウン前に停止されます。	3-50 ページの『サーバーの開始および停止 (必須)』	
メインフレーム・データ・ソースへのアクセスを可能にする		
Accelerator Loader サーバーはさまざまなデータ・ソースへのアクセスをサポートしており、メインフレーム・データ・ソースへのアクセスを構成する必要があります。使用するデータ・ソースに該当するセクションを参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • DB2 データ・ソースをサポートするように Accelerator Loader サーバーを構成するには、3-53 ページの『DB2 サブシステムおよびデータへのアクセスを構成』を参照してください。 • IMS データ・ソースをサポートするように Accelerator Loader サーバーを構成するには、3-56 ページの『IBM IMS DB のデータへのアクセスを構成』を参照してください。 • VSAM データ・ソースをサポートするように Accelerator Loader サーバーを構成するには、3-57 ページの『VSAM へのアクセスを構成』を参照してください。 • 順次ファイルをサポートするように Accelerator Loader サーバーを構成するには、3-57 ページの『順次ファイルへのアクセスを構成』を参照してください。 	
ルールとイベントを構成する		
SMF を使用している場合は、SMF ファイルへのアクセスを構成し、SMF の条件を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 10-87 ページの『サーバーからの SMF レコードの作成』 • 3-57 ページの『SMF ファイルへのアクセスの構成』 	
Accelerator Loader スタジオ・プラグインをインストールして構成する		
Accelerator Loader スタジオは、IBM Data Studio のプラグインです。アクセラレーターにデータを直接ロードするには、Accelerator Loader スタジオを使用して JCL を生成する必要があります。これにより、最初にデータを抽出してファイルに書き込む必要がなくなります。	3-51 ページの『Accelerator Loader スタジオのインストール (必須)』	
Accelerator Loader サーバーへの Accelerator Loader スタジオの接続を設定します。	5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』	
ソース・ライブラリーを作成します。 ソース・ライブラリーは z/OS 上の PDS で、アクセラレーター上のターゲット DB2 表にデータ・ソースをマップするために必要な情報を含んでいます。	5-9 ページの『仮想ソース・ライブラリーの作成』	
仮想表を作成します。 仮想表は、データ定義から情報を抽出します。	5-10 ページの『SQL を使用してデータにアクセスするための仮想表の作成』	

ロード・プロファイルのマイグレーション

マイグレーション・プログラムは、製品の旧バージョンで作成したロード・プロファイルのコピーし、現行のバージョンで必要なフォーマットにマイグレーションします。

Tools Customizer のカスタマイズ処理時に既存のロード・プロファイルをマイグレーションするには、以下の手順を実行します。

1. 「Product Parameters」パネル (CCQPPRD) で、以下を指定していることを確認します。
 - プロファイル・データ・セットの作成およびプロファイルのマイグレーション
 - 「Create profile data sets」
 - 「Migrate profiles」
 - 新しいプロファイル・データ・セットおよび既存のプロファイルを含むデータ・セットの高位修飾子
 - (オプション) プロファイル・データ・セットのボリューム通し番号
 - Startup CLIST1 および CLIST2。カスタマイズ・ジョブを実行依頼した後で、CLIST2 は新しいプロファイル・データ・セットに高位修飾子を使用します。
2. 「Product Parameters」パネル (CCQPPRD) および「DB2 Parameters」パネル (CCQPDB2) で値を指定した後、以下を行うカスタマイズ・ジョブを生成し、実行依頼します。
 - 新しいプロファイル・データ・セットを作成する
 - 既存のデータ・セットから新しいデータ・セットにプロファイルをマイグレーションする
 - 新しい CLIST1 および CLIST2 を生成する

関連概念:

3-1 ページの『DB2 Analytics Accelerator Loader のカスタマイズ』
「Program Directory」のインストール手順に従って製品をインストールした後、Tools Customizer を実行して各 DB2 サブシステムの変数を指定し、構成とユーザー・パラメーターをカスタマイズする必要があります。

関連資料:

2-16 ページの『ワークシート: Tools Customizer のパラメーター値の収集』
カスタマイズ・プロセス中に、DB2 Analytics Accelerator Loader、DB2、IMS、および LPAR に関するパラメーター値を指定する必要があります。

バッチ・ジョブのマイグレーション

このバージョンの Analytics Accelerator Loader では、前のバージョンで作成したジョブを使用して、プロファイルをバッチで作成できます。

Accelerator Loader バージョン 2.1 で使用される既存のバッチ・ジョブをマイグレーションするには、最新のライブラリーを使用するように、JCL の製品ライブラリーを変更します。

関連タスク:

8-3 ページの『バッチ・インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成』

バッチ・インターフェースを使用して、アクセラレーターおよび DB2 にデータをロードする JCL を生成できます。

カスタマイズ前の環境のセットアップ

ご使用の環境がすべての要件を満たしていること、すべての前提ソフトウェアがインストールされていること、およびオプション・フィーチャーをどのようにカスタマイズするかを検討済みであることを確認します。

環境がハードウェア要件を満たしているかどうかの確認

DB2 Analytics Accelerator Loader は、必要なソフトウェアをサポートする任意のハードウェア環境で使用できます。

環境がソフトウェア要件を満たしているかどうかの確認

z/OS 要件

最新の保守レベルで以下のいずれかの z/OS バージョンを使用していることを確認してください。

- バージョン 1.13.00

必要な保守:

- UA75045
- UA75272

- バージョン 2.1

必要な保守:

- UA75046
- UA75273

DB2 要件

最新の保守レベルで、サポートされる以下のいずれかのバージョンの DB2 for z/OS を使用していることを確認します。

- DB2 V10:
 - DB2 V10 (5605-DB2)
 - DB2 Value Unit Edition V10.1 (5697-P31)

必要な保守:

- AI25214
- PI10162
- PM93789
- UI24305
- UI24307

- DB2 V11:
 - DB2 V11 (5615-DB2)
 - DB2 Value Unit Edition V11.1 (5697-P43)

必要な保守:

- AI26321
- PI10162
- UI24306
- UI24308

アクセラレーター要件

サポートされているバージョンの IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS を使用していることを確認します。

- 基本的な処理の場合、バージョン 3.1.0 (5697-DAA) 以降
- すべての製品機能を使用するには、バージョン 4.1.0 (5697-DAB) (PTF-5 適用済み) 以降のバージョン

その他のソフトウェア要件

以下のソフトウェアのサポートされているバージョンを使用していることを確認します。

- ISPF V4 (5655-042) 以降
- IBM SMP/E for z/OS V03.06.00 (5655-G44) 以降
- DB2 Utilities Suite for z/OS V10.01.00 (5655-V41) 以降
- IBM Tools Base for z/OS V01.04.00 (5655-V93) 以降
- IBM DB2 Common Code for z/OS (FEC) V1R3 (5655-F55) 以降

必要な保守:

- PK43912
- PK76167
- PM06651
- UK98321
- UK98680
- UI21883
- UI26834
- UI27815

サポートされているインターフェースとデータ・ソースの要件を環境が満たしているかどうかの確認

最新の保守レベルで、データをロードする元のデータ・ソースのサポートされているバージョンを使用していることを確認してください。

- 2-6 ページの『環境がソフトウェア要件を満たしているかどうかの確認』にリストされている DB2 for z/OS

- IMS Database Control (DBCTL) バージョン 12.1.0 (5635-A03) 以降
- 2-6 ページの『環境がソフトウェア要件を満たしているかどうかの確認』にリストされている z/OS PTF を適用した VSAM

最適なパフォーマンスを確保するために、以下の VSAM APAR が適用されていることを確認してください。

OA44111

OA45279

OA45280

OA44277

OA44064

- 分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA[®]) ソース (例えば、Oracle) からデータをロードするには、以下のいずれかの製品。
 - IBM DB2 Advanced Enterprise Server Edition バージョン 10.5.0 (5725-L47) 以降。製品資料については、DB2 for Linux UNIX and Windows IBM Knowledge Center にアクセスしてください。
 - IBM InfoSphere[®] Federation Server バージョン 9.7.0 (5724-N97) 以降。製品資料については、InfoSphere Federation Server IBM Knowledge Center にアクセスしてください。
 - IBM InfoSphere BigInsights[®] Enterprise Edition バージョン 1.0.0 (5725-C09) 以降。製品資料については、InfoSphere BigInsights IBM Knowledge Center にアクセスしてください。

リレーショナル・データと非リレーショナル・データをアクセラレーターにロードするには、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- IBM Data Studio 4.1.x for Windows 32 ビットまたは 64 ビット版がシステムにインストールされていること。
- Accelerator Loader スタジオ プラグインがシステムにインストールされていること。
- Accelerator Loader スタジオが z/OS メインフレーム・インスタンスに接続できること。

DB2 Analytics Accelerator Loader が正常にインストールされていることの確認

インストール手順については、「Program Directory for DB2 Analytics Accelerator Loader」を参照してください。

Tools Customizer が正常にインストールされていることの確認

Tools Customizer は、無償で提供されている IBM Tools Base for z/OS (5655-V93) のコンポーネントです。Tools Customizer は、IBM DB2 for z/OS Tools をカスタマイズするための標準的な手法を提供します。

インストール手順については、「Program Directory for IBM Tools Base for z/OS」(GI10-8819) を参照してください。

環境が最小領域サイズ要件を満たしていることの確認

DB2 Analytics Accelerator Loader は、最小 TSO 領域サイズ 50000 を必要とします。

セキュリティ要件

DB2 Analytics Accelerator Loader のセキュリティ要件を確認します。

開始タスクの権限要件

Accelerator Loader 開始タスク *hloidPROC* が、必要な権限があるユーザー ID の下で実行されることを確認してください。

Accelerator Loader 開始タスク *hloidPROC* は、以下を持つユーザー ID の下で実行される必要があります。

- 有効な OMVS セグメント定義。
- 以下のいずれかの権限レベル。
 - SYSADM
 - SYSCTRL
 - MONITOR1 (最小) を持つ SYSOPR

MONITOR1 権限レベルを持つ SYSOPR を使用する場合、Tools Customizer を使用するとき SET CURRENT SQLID フィールドにそのユーザー ID を入力する必要があります。

MONITOR1 権限レベルを持つ SYSOPR を開始タスク *authid* に使用する場合、以下の表名のリストに示されているように、Accelerator Loader プランをバインドするのに GRANT SELECT ON TABLE SYSIBM.SYStable_name が必要です。

- SYSIBM.SYSPLAN
- SYSIBM.SYSPLANDEP
- SYSIBM.SYSPACKAGE
- SYSIBM.SYSPACKLIST
- SYSIBM.SYSPACKDEP
- SYSIBM.SYSTABLES
- SYSIBM.SYSTABLESPACE
- SYSIBM.SYSINDEXES
- SYSIBM.SYSINDEXPART
- SYSIBM.SYSCOLUMNS
- SYSIBM.SYSTABLEPART
- SYSIBM.SYSRELS
- SYSIBM.SYSFOREIGNKEYS
- SYSIBM.SYSUSERAUTH
- SYSIBM.SYSKEYS
- SYSIBM.SYSVIEWDEP

- SYSIBM.SYSSYNONYMS
- SYSIBM.SYSDATABASE

Accelerator Loader サーバーの許可要件

外部のセキュリティ製品 (RACF、ACF2、Top Secret など) を使用するには、*hlvidPROC* 開始タスク名をセキュリティ製品に対して定義し、データ・セットを許可します。

このタスクについて

次の表は、データ定義名ごとにアクセス要件を要約したものです。

表 2-1. データ定義名ごとのアクセス要件

データ定義名	Access
SHLVLOAD	READ、EXECUTE
SHLVRPC	READ、EXECUTE
SHLVEXEC	READ
TRACE	READ、WRITE
SYSCHK1	READ、WRITE
SHLVMAP	READ、WRITE
SHLVTXVTB	UPDATE

セキュリティ定義の確認は、z/OS のセキュリティ管理者が行うようにしてください。ご使用のサイトでは、要件を満たすために定義を変更しなければならないことがあります。

手順

ご使用のセキュリティ製品に対してサーバーおよび他の必要な許可を定義するには、*hlq.SHLVCNTL* ライブラリーにある以下のいずれかのジョブを編集し、そのジョブを実行依頼します。

- HLVRAVDB は IBM リソース・アクセス管理機能 (RACF) セキュリティ用です。
- HLVA2VDB は CA ACF2 (アクセス制御機能) セキュリティ用です。
- HLVTSVDB は CA Top Secret Security (TSS) 用です。

ユーティリティーの権限要件

LOAD ジョブの実行依頼に使用されるユーザー ID には、有効な OMVS セグメント定義が必要です。

DB2 Analytics Accelerator Loader は、UNLOAD ユーティリティーをインターセプトし、そのユーティリティーの SYSIN データを一時ファイルにコピーします。このプロセスは、ストアード・プロシージャー SYSPROC.ACCEL_LOAD_TABLES の呼び出し元に対して実行される UNLOAD ジョブを含めて、すべてのユーティリティーに対して実行されます。UNLOAD ユーティリティーを実行するユーザー ID には、一時データ・セットの作成と読み取りを行う RACF 権限が必要です。

データ・ソースにアクセスするための権限要件

データ・ソースにアクセスするには、以下の権限が必要です。

- DB2 以外のデータ・ソースまたはリモート DB2 データ・ソースにアクセスするには、セキュリティー製品内のデータ・ソースの読み取り権限を持つユーザー ID を使用する必要があります。
- システム管理機能 (SMF) データをロードするには、ファイル SHLVXVTB に対する更新権限を持つユーザー ID を使用する必要があります。

関連タスク:

3-55 ページの『DB2 サブシステムへの・ユーザー・アクセスの構成』
DB2 へのユーザー・アクセスを提供します。

関連資料:

10-73 ページの『LUW 認証』

デフォルトで、Accelerator Loader サーバーは、z/OS へのログオンに提示されたのと同じユーザー ID を使用して、LUW 上で DB2 にログオンしようとします。LUW 上で DB2 にアクセスするために、ユーザーのログオン資格情報を変更できません。

異なる DB2 サブシステムをモニターするための複数の開始タスクの実行

1 つ以上の DB2 サブシステムで作業を実行するために製品インターフェースからの複数のユーザー要求を処理するには、通常、1 つの Accelerator Loader 開始タスク *hloidPROC* で十分です。ただし、必要に応じて複数の開始タスクを実行できます。

大量のアクティビティがある場合、ワークロードをより効率よく処理するために、複数の Accelerator Loader 開始タスク *hloidPROC* を並行して実行します。各開始タスクは異なる DB2 SSID をモニターします。複数の同時開始タスクを実行する場合、以下の要件が適用されます。

- SHLOSAMP ライブラリーには、開始タスクごとに別個の初期設定オプション・メンバーが含まれている必要があります。
- 各初期設定オプション・メンバーは、固有の SVC 番号と 1 次サブシステムを指定する必要があります。
- 各 Accelerator Loader 開始タスクには、製品監査表、ロギング表、および DSNUTILB インターセプト表の独自のセットが必要です。

1 次サブシステムごとに Tools Customizer を実行して、以下の項目を生成します。

- Accelerator Loader 開始タスクが使用する DB2 オブジェクトを作成するための DDL
- Accelerator Loader 開始タスクが通信する DB2 サブシステム上の DB2 プランとパッケージをバインドするためのステートメント
- Accelerator Loader 開始タスク *hloidPROC*
- Accelerator Loader 開始タスクの初期設定オプション・メンバー
- DSNUTILB インターセプト・ポリシー

大量のアクティビティの処理には、1 つの Accelerator Loader サーバー 開始タスク *hlvidPROC* で十分です。

Accelerator Loader プロセスの WLM に関する要件

DB2 Analytics Accelerator Loader プロセスのワークロード・マネージャー (WLM) に関する要件を確認してください。

Accelerator Loader プロセスの 3 つのコンポーネントは、以下のとおりです。コンポーネント名は、Tools Customizer を使用してカスタマイズできます。

- Accelerator Loader 開始タスク *hloidPROC*
- Accelerator Loader サーバー 開始タスク *hlvidPROC*
- サーバー・サブシステム *hlvid*

WLM 目標の設定

他の WLM パフォーマンス目標を基準にして、Accelerator Loader プロセス目標の推奨事項を検討してください。

WLM Service Class および Classification ルールにより、タスクがマルチタスク環境でプロセッサを使用する順序が決まります。Accelerator Loader のサービス・クラス優先順位値は、Accelerator Loader が使用する DB2 サブシステムの優先順位値より低く、かつ Accelerator Loader プロセスを使用する DB2 LOAD ユーティリティの優先順位値より高くなければなりません。これらの項目の目標を、以下の順序 (最高の優先順位から最低の優先順位まで) で設定します。

1. Accelerator Loader が使用する DB2 サブシステムのアドレス・スペース。
2. Accelerator Loader サーバー 開始タスク *hlvidPROC*、およびサーバー・サブシステム *hlvid*。
3. Accelerator Loader がインターセプトする DB2 LOAD ユーティリティ (Accelerator Loader サーバー開始タスク *hlvidPROC* の下の任意のサービス・クラス)。
4. Accelerator Loader 開始タスク *hloidPROC*。

WLM の構成

Accelerator Loader プロセスから最適なパフォーマンスを得るには、プロセスの 3 つのコンポーネントを WLM に対して定義します。

手順

1. 中から高のパフォーマンスの WLM 速度目標をデフォルトのサービス・クラスとして使用するよう、Accelerator Loader サーバー・サブシステム *hlvid* を定義します。
 - a. WLM ISPF アプリケーションにアクセスして、オプション 6 (「Classification Rules」) を選択します。
 - b. オプション 1 を選択して新しいルールを作成します。
 - c. サブシステム・タイプを HLV に設定し、説明を入力します。

- d. DEFAULTS の横にある「Class/Service Column」の下で、希望のデフォルト・サービス・クラス名を設定します。希望のサービス・クラスが存在しない場合は、「**Primary WLM**」メニューの下にあるオプション 4 (「Service Classes」) を使用して希望のサービス・クラスを作成します。
2. Accelerator Loader 開始タスク hloidPROC およびサーバー開始タスク hlvidPROC を定義します。hlvidPROC の目標は、hloid の目標と等しくなければなりません。hloidPROC にかなり低い、積極的でない目標を設定してください。
 - a. WLM ISPF アプリケーションにアクセスして、オプション 6 (「Classification Rules」) を選択します。
 - b. STC WLM サブシステム・タイプの場合、「**Modify**」を選択します。
 - c. hloidPROC および hlvidPROC の項目を追加します。
 - d. 開始タスクごとに適切なサービス・クラスを追加し、既存のワークロード・リソース管理目標を基準にしてそれぞれを定義します。
 - e. 開始タスクごとに固有のレポート・クラスを追加します。
 3. 新しい WLM ポリシー定義をアクティブにします。

DB2 データ共有環境に関する考慮事項

DB2 データ共有環境に Accelerator Loader をデプロイする前に、開始タスク hloidPROC に関するデプロイメントと構成の問題に関する情報を検討してください。

DB2 データ共有グループは、同じ z/OS イメージまたは別々の z/OS イメージに置かれている 1 つ以上の DB2 サブシステムで構成されます。メンバー・サブシステムは、共通の DB2 カタログを共用し、データ保全性を維持すると同時に同じデータに直接アクセスし変更することができます。

Accelerator Loader 開始タスク hloidPROC は、Accelerator Loader がサポートする DB2 バージョンを使用する、データ共有グループ内のアクティブ・サブシステムで、DSNUTILB インターセプト処理を実行できます。カスタマイズ時に、少なくとも 1 つのメンバー・サブシステムを 1 次サブシステム として定義する必要があります。このサブシステムには、Accelerator Loader 監査表とロギング表が含まれている必要があります。データ共有グループ内のすべてのサブシステムは同じ DB2 カタログを共用するので、同じ DSNUTILB インターセプト表も共用できます。

データ共有グループのすべてのメンバーは、1 次サブシステムの監査表とロギング表、およびデータ共有グループ内の任意のアクティブ・サブシステムの DSNUTILB インターセプト・ワーク・リスト表を共用します。データ共有グループ内の任意のアクティブ・メンバー・サブシステムで 1 回、これらのオブジェクトを定義できます。1 次サブシステムでないサブシステムでこれらのオブジェクトを定義する場合、カスタマイズ時にそのサブシステムを追加のサブシステム として定義することも必要です。

Accelerator Loader が実行されている LPAR で実行されるデータ共有グループのすべてのメンバーが、ポリシーに含まれている必要があります。SSID を指定する際に、ポリシーでワイルドカードを使用できます。例えば、メンバー DB1A と DB1B が同じ LPAR で実行している場合、ポリシーで SSID に DB1% を指定できます。

開始タスクがデータ共有グループ内のサブシステムと通信できるように、開始タスクの **DB2_CONNECT_TO_ALL_SUBSYSTEMS** 初期設定オプションを YES に設定してください。NO を指定する場合、開始タスクは、DB2_SSID 初期設定オプションで指定されるサブシステム (つまり、1 次サブシステム) にのみ接続できます。

ISPF インターフェースを使用する場合、メンバー・サブシステムが別々の z/OS イメージにある場合であっても、1 つの開始タスク構成と 1 つのインターセプト・ポリシーのみが必要です。

Accelerator Loader サーバー 開始タスク *hlvidPROC* で、各データベース・サブシステムが DRDA 終点として定義されている必要があります。データベースは Oracle インスタンス、DB2 for LUW サブシステム、または DB2 for z/OS サブシステムなどです。データベースが DB2 LUW サブシステムまたは DB2 for z/OS サブシステムである場合、DRDA 終点は Tools Customizer を使用してカスタマイズされます。その他のデータ・ソースの場合、データ・セット *hlq.SHLVEXEC* メンバー *hlvidIN00* で、手動で DRDA 終点を定義する必要があります。ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。

関連概念:

11-515 ページの『DSNUTILB インターセプトの管理』

いくつかのルーチンと臨時タスクを実行すると、DSNUTILB インターセプトを管理できます。

自動操作の WTO メッセージ

Accelerator Loader は、ご使用の環境における自動動作のフローを制御するのに使用できるいくつかのメッセージを WTO メッセージとして発行します。

以下のメッセージは、Accelerator Loader 開始タスクの初期設定段階と終了段階の開始と終わりを報告します。

- HLOS0001I
- HLOS0002I
- HLOS0003I
- HLOS0004I

ワークシート: 必要なデータ・セット名の収集

カスタマイズ・プロセスで使用するデータ・セット名を特定して記録し、特定のデータ・セットに対する要件が満たされていることを確認してください。

Tools Customizer のデータ・セット名

以下の Tools Customizer データ・セット名を特定して記録します。

データ・セット名	説明	使用するデータ・セット名
SCCQDENU	Tools Customizer のメタデータ・ライブラリー	
SCCQLOAD	Tools Customizer 用の実行可能ロード・モジュール・ライブラリー	

データ・セット名	説明	使用するデータ・セット名
SCCQMENU	Tools Customizer の ISPF メッセージ	
SCCQPENU	Tools Customizer の ISPF パネル	
SCCQSAMP	Tools Customizer 用のサンプル・メンバー	
SCCQTENU 注: このデータ・セット に対する書き込み権限 が必要です。	Tools Customizer の表ライブラリー	

DB2 Analytics Accelerator Loader のデータ・セット名

以下のデータ・セット名を特定し、記録してください。カスタマイズ・プロセス中に、CCQPPRD パネルに以下の値を入力します。

データ・セット名	説明	使用するデータ・セット名
SHLOCLST	製品の ISPF インターフェースを開始するために使用される CLIST の CLIST ライブラリー	
ISPSLIB	製品とともに使用する ISPF スケルトン・ライブラリー	
ISPMLIB	製品とともに使用する ISPF メッセージ・ライブラリー	
ISPPLIB	製品とともに使用する ISPF パネル・ライブラリー	
ISPTLIB	製品とともに使用する ISPF テーブル入力ライブラリー	
SADBEXEC 注: 製品を DB2 Admin Launchpad に追加する場合にのみ使用されます。	DB2 Admin Tool EXEC ライブラリー ー	

Tools Customizer によって使用されるその他のライブラリーのデータ・セット名

以下のデータ・セット名を特定し、記録してください。カスタマイズ処理中に、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) に以下の値を入力します。

データ・セット名	説明	使用するデータ・セット名
<p>製品カスタマイズ・ライブラリー</p> <p>注: このデータ・セットに対する書き込み権限が必要です。</p>	<p>Tools Customizer が製品のために生成するカスタマイズ・ジョブを含んでいます。</p> <p>製品をカスタマイズするには、データ・セットのメンバーを、「Finish Product Customization」パネルに表示される順に実行依頼します。データ・セットの命名規則は次のとおりです。</p> <p><i>hlq.\$LPAR-name\$.xyzvrm</i></p> <p>ここで、</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>hlq</i> は、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) の「Customization library qualifier」フィールドの値です。 • <i>LPAR-name</i> は、4 文字の LPAR 名です。 • <i>xyzvrm</i> は、3 文字の製品 ID と、バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。 <p>例えば、データ・セット名は DB2TOOL.PRODUCT.CUST.\$MVS1\$.XYZ410 のようなものになります。</p>	
<p>ディスカバー出力データ・セット</p> <p>注: このデータ・セットに対する書き込み権限が必要です。</p>	<p>製品の Discover EXEC を実行する際に生成される出力を含んでいます。</p> <p>Discover EXEC は、パラメーターのメタデータと値を、製品の前のカスタマイズから取得します。</p> <p>このデータ・セットのデフォルト名は DB2TOOL.CCQ110.DISCOVER です。「Tools Customizer Settings」パネルまたは「Discover Customized Product Information」パネルでデフォルト値を変更できます。</p>	
<p>データ・ストア・データ・セット</p> <p>注: このデータ・セットに対する書き込み権限が必要です。</p>	<p>製品、LPAR、および DB2 パラメーター値、ならびに DB2 エントリーの関連が入っています。</p> <p>Tools Customizer は、このデータ・セットを使用して、ローカル LPAR での製品のカスタマイズ時に製品、DB2 サブシステム、および LPAR に関して獲得されるすべての情報を永続的に保管します。</p> <p>このデータ・セットのデフォルト名は DB2TOOL.CCQ110.DATASTOR です。「Tools Customizer Settings」パネルでデフォルト値を変更できます。</p>	

ワークシート: Tools Customizer のパラメーター値の収集

カスタマイズ・プロセス中に、DB2 Analytics Accelerator Loader、DB2、IMS、および LPAR に関するパラメーター値を指定する必要があります。

以下のワークシートを使用して、目的のために適切なパラメーター設定を記録してください。その後、カスタマイズ・プロセス中にこのワークシートを使用します。このワークシートは、Tools Customizer のカスタマイズ・パネルの順序に基づいて編成されています。

DB2 Analytics Accelerator Loader のメタデータ・ライブラリー

説明 以下のワークシートを使用して、DB2 Analytics Accelerator Loader 用メタデータ・ライブラリーの値を特定して記録します。カスタマイズ・プロセス中に、「Specify the Metadata Library」パネル (CCQPHLQ)にこの値を入力します。

パラメーター	検出されるか	使用する値
Metadata library 製品が SMP/E を使用してインストールされた後、メタデータ・ライブラリーのデフォルト名は <i>hlq.SHLODENU</i> です。ここで、 <i>hlq</i> は DB2 Analytics Accelerator Loader の高位修飾子です。	いいえ	

Discover EXEC のカスタマイズ値

説明 以下のワークシートを使用して、Tools Customizer Discover EXEC のカスタマイズ値を指定し、記録します。カスタマイズ・プロセス中に、「Discover Customized Product Information」パネル (CCQPDSC)にこれらの値を入力します。

ヒント: Tools Customizer は、以前の DB2 Analytics Accelerator Loader インストール済み環境からの制御ファイルとオプション・モジュールを使用して、既存の情報を検出できます。「**Previous installation control file**」と「**Previous installation OPTS module name**」の値を指定します。

パラメーター	サンプル値またはデフォルト値	使用する値
Discover EXEC ライブラリー 製品の Discover EXEC を含む完全修飾データ・セット名。	<i>hlq.SHLODENU</i>	
Discover EXEC name Discover EXEC の名前。	HLODISC	
Discover output data set 製品の Discover EXEC による出力のデータ・セットの完全修飾名。	Tools Customizer メインメニューのオプション 0「User Settings」で指定した名前。	
DB2 HLO User Indicator Accelerator Loader のユーザー標識。指定したユーザー標識に関連する構成データが、以前のインストール制御ファイルから検出されます。有効な値には 1 から 3 文字が含まれます。	HLO	

パラメーター	サンプル値またはデフォルト値	使用する値
Previous installation control file 以前の Accelerator Loader インストール環境で使用されていた DB2 制御ファイル。データ・セット名が 42 文字より長い場合は、引用符で囲む必要があります。	DB2TOOL.V110110.CONTROL	
Previous installation SHLOSAMP data set オプション・モジュールを含む Accelerator Loader バージョン 1.1 の SHLOSAMP データ・セット。Discover EXEC は、オプション・モジュールを読み取り、検出した値を「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)に取り込みます。この処理により、製品のカスタマイズに必要な時間が短縮され、前に使用していた値を検討できます。データ・セット名が 42 文字より長い場合は、引用符で囲む必要があります。	HLO.V110.SHLOSAMP	
Previous installation OPTS module name Accelerator Loader で使用されていたオプション・モジュール名。Discover EXEC は、オプション・モジュールを読み取り、検出した値を「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)に取り込みます。オプション・モジュール名のパターンは <i>hloid</i> OPTS です。ここで、 <i>hloid</i> はご使用の Accelerator Loader のインスタンスを識別する 4 文字の製品 ID です。	デフォルトはありません。 サンプル値: HLO1OPTS	

「Product to Customize」セクション

「Product to Customize」セクションのパラメーターは読み取り専用です。ここには、Tools Customizer によって提供された情報や、他のパネルや DB2 Analytics Accelerator Loader メタデータ・データ・セットに指定された情報が含まれます。

パラメーター	検出されるか	この値のソース
Product metadata library 「Specify the Product to Customize」パネルで指定したライブラリー。このフィールドはスクロール可能です。フィールド上の任意の場所にカーソルを置いて PF11 を押すと、全内容が表示されます。	はい	この値は、「Specify the Product to Customize」パネル (CCQPHLQ) で指定します。
LPAR Accelerator Loader のカスタマイズを行う LPAR。	はい	この値は、Tools Customizer によって提供されます。

パラメーター	検出されるか	この値のソース
Product name カスタマイズしている製品。この例では、DB2 Analytics Accelerator Loaderがこのフィールドに表示されるはずで、このフィールドはスクロール可能です。フィールド上の任意の場所にカーソルを置いて PF11 を押すと、全内容が表示されます。	はい	デフォルト値 Accelerator Loader が製品メタデータ・ファイルによって提供されます。
Version カスタマイズする製品のバージョン、リリース、およびメンテナンスが「Vn.Rn.nn」という形式で表示されます。	はい	この値は、製品メタデータ・ファイルから提供されます。このリリースのデフォルト値は 2.1.0 です。
製品カスタマイズ・ライブラリー 生成されたライブラリー・カスタマイズ・ジョブを保管するデータ・セット。	いいえ	この値は、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) でユーザーが指定したカスタマイズ・ライブラリー修飾子から取得されます。

「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)のタスクおよびパラメーター

共通パラメーター・セクションのパラメーターは、すべてのカスタマイズに必須です。カスタマイズ・プロセス中に、「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)にこれらの値を入力します。

注: 一部のパラメーターは、「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)でタスクを選択するか値を指定した後にのみ Tools Customizer に表示されます。このため、まず「DB2 Parameters」パネル (CCQPDB2)で 1 次 SSID を定義し、次に「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)で値を選択する必要があります。「DB2 Parameters」パネル (CCQPDB2)に戻り、「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)での指定結果を反映して追加されたオプションを確認します。

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Accelerator Loader Server high-level qualifier Accelerator Loader サーバー・データ・セットの HLQ。サーバー・コードは、Accelerator Loader コードと同じライブラリーのセット、または別個のライブラリーのセットに保管できます。サーバー・コードを固有のライブラリーのセットに保管する場合は、サーバーの高位修飾子を指定します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Accelerator Loader high-level qualifier 製品データ・セットの HLQ。これには、オプションで FEC ロード・モジュールと Accelerator Loader サーバー・モジュールを含めることができます。	はい	いいえ	HLO.V210	
FEC common code high-level qualifier FEC ロード・モジュールの HLQ。FEC 共通コード・プログラムは、Accelerator Loader ロード・モジュールと同じライブラリーに保管することも、固有のライブラリーに保管することもできます。FEC コードを固有のライブラリーのセットに保管する場合は、高位修飾子を指定します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	

タスク: 製品 CLIST の構成 (必須)

この必須タスクは、Accelerator Loader ISPF インターフェースを開始する CLIST を構成します。カスタマイズ中に、「Product Parameters」パネル (CCQPPRD) にこれらの値を入力します。

生成されるジョブ

生成されるジョブは、構成ごとに 1 回ずつ生成される HLOCLIST テンプレートと HLOCLST2 テンプレートに基づきます。生成されたジョブは、「Finish Product Customization」パネルに表示される製品カスタマイズ・ライブラリーに保管されます。生成されるジョブ名は変動する可能性があります。テンプレート名は変動しません。ジョブの実行時に、CLIST は製品の *hlq*.SHLOCLST データ・セットに保管されます。

使用する必要がある ISPTLIB が存在する場合は、最初の CLIST 内に指定されている提供済み ISPTLIB の前に連結してください。詳しくは、HLOCLST 内のコメントを参照してください。

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Configure the startup CLISTs このステップとタスク「 Configure product CLISTs 」を選択すると、製品の ISPF インターフェースを開始する CLIST を構成するジョブが生成されます。	はい	いいえ	選択されている	
Startup CLIST library 製品の ISPF インターフェースを開始する、最初と 2 番目の CLIST の CLIST ライブラリー名。	はい	いいえ	HLO.SHLOCLST	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Startup CLIST 1 製品の ISPF インターフェースを開始する、最初の始動 CLIST の名前。	はい	いいえ	HLOV21	
Startup CLIST 2 2 番目の始動 CLIST の名前。	はい	いいえ	HLOV21C	
User indicator 作業環境の名前。同じ LPAR、または DB2 サブシステム、あるいはその両方で、製品の複数のインスタンスを実行できます。これらのインスタンスはすべて、同じ制御ファイルを使用できます。	いいえ	はい	HLO	

タスク: 開始タスクとそのコンポーネントの作成 (必須)

この必須タスクは、Accelerator Loader 開始タスク *hloid*PROC 用の SAMPLIB メンバーを作成し、リポジットリー表をクリーンアップするための保守メンバーを作成します。カスタマイズ・プロセス中に、「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)にこれらの値を入力します。「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)でステップ「**Create PROC, PLCY, and other SAMPLIB members**」を選択し、「DB2 Parameters」パネル (CCQPDB2)で JCL の生成先の SSID を 1 次サブシステムとして定義する必要があります。

注: このタスクと関連付けられている Accelerator Loader 開始タスク・オプションを表示するには、まずサブシステムを定義し、1 次サブシステムとして指定する必要があります。

生成されるジョブ

これらのジョブは、構成ごとに 1 回ずつ生成される HLOSTCJ テンプレートと HLOSMPJ テンプレートに基づきます。生成されたジョブは、「Finish Product Customization」パネルに表示される製品カスタマイズ・ライブラリーに保管されます。生成されるジョブ名は変動する可能性があります、テンプレート名は変動しません。ジョブの実行時に、これらのメンバーは製品の *hlq.SHLOSAMP* データ・セットに保管されます。

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Started task identifier Accelerator Loader 開始タスク構成の ID (<i>hloid</i>)。この値には、4 文字の英数字が含まれている必要があります。それぞれ異なるサブシステムをモニターする、多数の開始タスクが実行される可能性があります。この固有値が開始タスクを識別します。	はい	はい	HLO1	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Create PROC, PLCY, and other SAMPLIB members このステップとタスク「 Create the Started Task and its components 」を選択すると、Accelerator Loader 開始タスク用の SAMPLIB メンバーを作成するジョブが生成されます。「DB2 Parameters」パネルで、JCL の生成先の SSID を 1 次サブシステムとして定義する必要があります。	はい	いいえ	選択されている	
The primary DB2 subsystem ID 監査とロギングが実行される 1 次 DB2 サブシステムを定義します。 注: 1 次サブシステムは、Accelerator Loader 開始タスク初期設定オプション・モジュールに表示される DB2_SSID です。ポリシー・メンバー (<i>hloidPLCY</i>) に 2 次サブシステムを手動で追加できます。	はい	はい	ABCD	
Started task proc name Accelerator Loader 開始タスクのプロシージャ名を指定します。このプロシージャは、システム PROCLIB にコピーできます。	はい	いいえ	HLO1PROC	
The started task user ID Accelerator Loader 開始タスクを実行する RACF ユーザー ID。 重要: Accelerator Loader プランがバインドされるそれぞれの DB2 サブシステムに対して、このユーザー ID が以下のいずれかの権限を持っていることを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 最小で MONITOR1 を持つ SYSOPR • SYSADM • SYSCTRL 	はい	いいえ	HLOSTC	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
<p>SYSOUT class</p> <p>ユーティリティー・ジョブの SYSPRINT 出力の DSNUTILB インターセプト時に、Accelerator Loader が動的に割り振る SYSOUT データ・セットの SYSOUT クラスを指定します。この値は、任意の有効な 1 文字の JES SYSOUT クラスです。デフォルト値はアスタリスク (*) です。これは、ジョブ、Accelerator Loader 開始タスク、または DSNUTILB を実行している TSO セッションに対して指定されたデフォルト SYSOUT クラスを使用するように製品に指示します。SYSOUT データ・セットを自動的に取り込んで削除する出力管理製品を使用している場合は、ご使用の出力管理製品が削除しない SYSOUT クラスにこのオプションを設定してください。こうしなければ、製品が動的に割り振った SYSOUT データ・セットを出力管理製品が削除しようとして、DSNUTILB インターセプト・エラーが発生する可能性があります。アスタリスク (*) 以外の値を指定した場合でも、HLOSORT データ・セット (DSNUTILB インターセプトのソート処理に使用される) はデフォルトのアスタリスク (*) クラスを使用します。</p> <p>注: JES3 環境の場合、DYNAMIC_SYSOUT_CLASS=『class』のカスタマイズにデフォルト値 (*) を使用することは推奨されません。このオプションは、HOLD=TSO パラメーターによって定義されている SYSOUT クラスに設定してください。これにより、製品と DSNUTILB ユーティリティーによって作成された SYSOUT ファイルを DSNUTILB インターセプトによって再結合できます。この場合は、SYSOUT が JES3 スプールに複数のファイルとして出現します。一部のファイルの名前は SYSPRINT になり、その他のファイルには SYSmnn のようなシステム生成のファイル名が付けられます。</p>	はい	はい	*	
<p>STC audit active</p> <p>Accelerator Loader が DB2 表に監査情報を記録するかどうかを制御します。この情報を記録する場合は YES を指定し、この情報を記録しない場合は NO を指定します。</p>	はい	はい	YES	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Maximum STC audit age 監査表 (HLOAUDIT) に監査情報の行を保持する最大日数を指定します。この日数は、行が表に挿入された時点からカウントされます。行がこの経過日数制限に達すると、その行は次に新しい行が表に挿入されるときに自動的に表から削除されます。有効な値は 0 から 32767 です。値 0 を指定すると、監査表からの古い行の自動削除は行われません。0 を指定する場合は、表が大きくなりすぎないように、監査表から古い行を定期的に手動で削除してください。SHLOSAMP メンバー HLOCLNUP で提供されているサンプル SQL を使用します。	はい	はい	45	
Connect to all DB2 subsystems Accelerator Loader が、構成対象の z/OS システム上ですべてのアクティブ DB2 サブシステムへの接続を試みるか、DB2_SSID 初期設定オプションに指定されている DB2 サブシステム (監査とログギングの情報を含むサブシステム) への接続のみを試みるかを制御します。YES (デフォルト値) を指定するか、初期設定オプション・メンバーからこのオプションを省略すると、製品はデフォルトですべてのアクティブ DB2 サブシステムへの接続を試みます。NO を指定すると、製品は DB2_SSID オプションに指定された 1 次サブシステムへの接続のみを試みます。1 次サブシステムのみが ISPF インターフェースにリストされます。	はい	はい	YES	
Connection idle timeout Accelerator Loader タスク用の DB2 接続にアクティビティーがない状態で経過できる最大時間 (秒) を指定します。この時間制限に達すると、DB2 への接続は閉じます。有効な値は 0 から 32767 です。0 を指定すると、このタイムアウト・オプションは無効になり、非アクティブな接続が閉じることはなくなります。このタイムアウト・オプションは、DB2_SSID オプションによって指定されている DB2 サブシステムに Accelerator Loader が接続するためのサブタスクには適用されません。	はい	はい	300	
DB2 tasks count 単一の DB2 サブシステムに接続するために Accelerator Loader が開始できる z/OS タスクの最大数を指定します。有効な値は 1 から 2147483647 です。	はい	はい	2	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
DB2 task idle timeout 接続が閉じた後、DB2 に製品が接続するためのサブタスクが非アクティブのまま経過できる最大時間 (秒) を指定します。つまり、タイムアウト制限に達した後の時間です。この時間制限に達すると、サブタスクは終了します。有効な値は 0 から 32767 です。0 を指定すると、このタイムアウト・オプションは無効になり、非アクティブなサブタスクが終了することはありません。このタイムアウト・オプションは、DB2_SSID オプションによって指定されている DB2 サブシステムに製品が接続するためのサブタスクには適用されません。	はい	はい	900	
STC logging active Accelerator Loader が、製品のパフォーマンスと動作に関するメッセージを DB2 ログ・テーブルに記録するかどうかを制御します。メッセージをログに記録する場合は YES を指定し、メッセージをログに記録しない場合は NO を指定します。	はい	はい	YES	
Maximum STC log age ログイング表 (HLOLOG) にログ・メッセージの行を保持する最大日数を指定します。この日数は、行が表に挿入された時点からカウントされます。行がこの経過日数制限に達すると、その行は次に新しい行が表に挿入されるときに自動的に表から削除されます。有効な値は 0 から 32767 です。値 0 を指定すると、ログイング表からの古い行の自動削除は行われません。0 を指定する場合は、表が大きくなりすぎないように、ログイング表から古い行を定期的に手動で削除してください。このためには、SHLOSAMP メンバー HLOCLNUP で提供されているサンプル SQL を使用します。	はい	はい	45	
SVC number 製品の監視プログラム呼び出し (SVC) 番号の数値 ID を指定します。この番号は 200 から 255 までの整数であることが必要です。使用可能な SVC 番号を選択するには、システム・プログラマーに問い合わせてください。SVC は、Accelerator Loader 開始タスクが開始されると動的にインストールされ、開始タスクが停止すると動的に削除されます。	はい	はい	255	
STC trace active 製品がトレース情報を収集するかどうかを制御します。トレースを有効にする場合は YES を指定し、トレースを無効にする場合は NO を指定します。トレースは、製品内部の処理のレコードであり、主に IBM ソフトウェア・サポートによって問題を診断するために使用されます。	はい	はい	YES	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Size of trace table 製品のトレース情報を保管する表のサイズ (メガバイト) を指定します。有効な値は 1 から 2147483647 です。値 0 を指定すると、トレース表の割り振りは行われません。トレースは、製品内部の処理のレコードであり、主に IBM ソフトウェア・サポートによって問題を診断するために使用されます。	はい	はい	1	
Work file data class 製品によって割り振られる一時 DASD データ・セットの有効な SMS データ・クラスの名前、または値 NONE。	はい	はい	NONE	
Work file management class 製品によって割り振られる一時 DASD データ・セットの有効な SMS 管理クラスの名前、または値 NONE。	はい	はい	NONE	
Work file storage class 製品によって割り振られる一時 DASD データ・セットの有効な SMS ストレージ・クラスの名前、または値 NONE。	はい	はい	NONE	
Work file unit 製品によって割り振られる一時 DASD データ・セットが保管される場所の装置名を指定します。ストレージ・デバイスの有効な装置名を指定するか、値 NONE を指定します。システム上で VIO (仮想入出力) ストレージ・グループがサポートされていて、パフォーマンス向上のために一時データ・セット全体をページング・ストレージに格納する場合は、値 VIO を指定できます。デフォルト値 SYSALLDA は、任意の使用可能な DASD 装置を示します。NONE を指定すると、製品は作業ファイル・データ・セットの保管場所を決定するためにこのパラメーターを使用しません。	はい	はい	SYSALLDA	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
<p>Maximum worklist table age</p> <p>DSNUTILB インターセプト・ワーク・リスト・エラー表の行を保持する最大日数を指定します。DSNUTILB インターセプト・ワーク・リストには、DB2 ユーティリティの拡張 SYSIN 情報が保管されています。この情報は、ユーティリティが終了した場合に再始動のために使用できます。ワーク・リスト・データはワーク・リスト・エラー表に移動され、これらの表は IBM ソフトウェア・サポート が問題を診断するために使用します。行がこの経過日数制限に達すると、その行は次に行が表に挿入されるときに自動的に表から削除されます。</p> <p>有効な値は 0 から 32767 です。デフォルト値は 0 です。この場合、このオプションに基づいて古い行がワーク・リスト・エラー表から削除されることはありません。0 を指定する場合は、表が大きくなりすぎないように、表から古い行を定期的に手動で削除してください。このためには、SHLOSAMP メンバー HLOCLNUP で提供されているサンプル SQL を使用します。</p>	はい	はい	0	
<p>WTO routing code</p> <p>製品の動作に関するオペレーター宛メッセージ (WTO) の宛先コードを指定します。宛先コードは、WTO メッセージを送信する先の z/OS コンソールを指定し、DB2 のインストール時に定義されます。有効な値は 1 から 28 です。</p>	はい	はい	11	
<p>Parallel load tasks</p> <p>外部ファイルからロードする場合に、アクセラレーター、およびオプションで DB2 に並列でロードするパーティションの数を指定します。有効な値は、1 から 20 の範囲です。</p> <p>この値は、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS のパラメーター AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL の値を超えることはできません。このパラメーターは、並列でロードできるパーティションの最大数を指定します。AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL が 2 に設定される場合、アクセラレーターに一度に書き込むことができるパーティションの最大数は 2 です。この数は、「Parallel load tasks」の ACCEL_LOAD_TASKS に指定する値に関係ありません。</p>	はい	はい	4	
<p>Enable acceleration after successful load</p> <p>正常にロードされた後で、表に対して照会アクセラレーションが有効に設定されるかどうかを制御します。DB2 がロード中にいずれかの行を破棄した場合、照会アクセラレーションは有効になりません。有効な値は YES および NO です。</p>	はい	はい	NO	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Load DB2 if accelerator is offline 製品がアクセラレーターを使用できないことを検出した場合に実行するアクションを指定します。有効値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • FAIL: ロード・ジョブは失敗します。 • LOAD_DB2: DB2 で表のロードを続行します。アクセラレーターにはデータは送信されません。製品はメッセージ HLOU5717W を発行して、ユーティリティー・ステップは RC=4 で終了します。製品がアクセラレーターを使用できないことを検出した後で、ロード中にアクセラレーターが使用可能になった場合、このオプションに指定した値に関係なく、ジョブは失敗します。ジョブを再実行できます。アクセラレーターをまだ使用できない場合は、DB2 のみがロードされます。 	はい	はい	FAIL	
Load DB2 if load to accelerator fails 二重ロード・プロファイルの実行中にアクセラレーターへのロードが失敗した場合に実行するアクションを指定します。有効値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • FAIL: アクセラレーターへのロードが失敗した場合、DB2 へのロードは失敗します。このアクションは、アクセラレーター上の表および DB2 上の表の同期を維持します。 • LOAD_DB2: アクセラレーターへのロードが失敗した場合、DB2 への表のロードを続行します。 	はい	はい	FAIL	
Optimize processing for CPU or elapsed time 注: このパラメーターは以下の場合に適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 二重ロード・プロファイルまたは IDAA_DUAL 拡張構文オプションを使用するロード • 非並列処理 • 非パーティション化表または増加対応パーティション表へのロード 経過時間または CPU 使用量のどちらのためにロードを最適化するか指定します。有効値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • BEST_ELAPSED_TIME: 経過時間を短縮します。 • BEST_CPU_TIME: CPU 使用量を削減します。 	はい	はい	BEST_ELAPSED_TIME	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Create repository maintenance members このステップとタスク「 Create the started task and its components 」を選択すると、Accelerator Loader 開始タスク表をクリーンアップする保守メンバーを作成するジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されていない	

タスク: サーバーおよびサーバー・コンポーネントの作成 (必須)

この必須タスクは、Accelerator Loader サーバー開始タスク用のメンバー、ロード・ライブラリー、および Accelerator Loader サーバーが使用するその他のコンポーネントを作成します。カスタマイズ・プロセス中に、「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)にこれらの値を入力します。

ステップ「サーバーの作成」および「サーバー・パラメーターの作成」を選択する必要があります、「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)で「**The primary DB2 subsystem ID**」を定義する必要があります。

生成されるジョブ

これらのジョブは、LPAR ごとに 1 回生成されるテンプレート HLOHDBS、HLOUMAP、HLODFDIV、HLOVOBJ、および HLOIN00 に基づきます。生成されたジョブは、「Finish Product Customization」パネルに表示される製品カスタマイズ・ライブラリーに保管されます。生成されるジョブ名は変動する可能性があります、テンプレート名は変動しません。

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
サーバーの作成 このステップとタスク「サーバーおよびサーバー・コンポーネントの作成」を選択すると、Accelerator Loader サーバー開始タスクを作成するジョブが生成されます。	はい	いいえ	選択されている	
Server proc name Accelerator Loader サーバー開始タスク PROC の名前を指定します。hlvidPROC は、システム PROCLIB にコピーできます。	はい	いいえ	HLV1PROC	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Server started task identifier Accelerator Loader サーバー開始タスク (<i>hlvid</i>) を指定します。多数のサーバーが実行され、それぞれが異なる DB2 サブシステムと IMS サブシステムをモニターすることがあります。この値は、サーバーを互いに識別します。指定される ID は、データ・セット <i>hlq.SHLVEXEC</i> 内のサーバー構成 PDS メンバー <i>hlvidIN00</i> の接頭部です。	はい	いいえ	HLV1	
サーバー・パラメーターの作成 このステップとタスク「サーバーおよびサーバー・コンポーネントの作成」を選択すると、Accelerator Loader サーバーのパラメーターを作成するジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されていない	
Maximum rows to retain トレース・ファイルに保持するメッセージの最大数を指定します。データを処理する際に、サーバーはメッセージをトレース・ファイルに書き込みます。新しいメッセージ用の場所を空けるために、古いメッセージは削除されます。	はい	いいえ	300000	
The server started task user ID セキュリティー製品に対して定義する必要がある Accelerator Loader サーバー開始タスクのユーザー ID を指定します。開始タスクのユーザー ID を指定した場合、この値がサーバー開始タスク名の代わりに使用されます。	はい	いいえ	HLV1PROC	
TCP/IP OE port number ホスト・サーバーがサービスの ODBC 要求または JDBC 要求を listen するために使用する、Open Edition TCP/IP ポート番号を定義します。OE ソケットは、OE TCP/IP、z/OS TCP/IP、およびその他の TCP/IP 実装環境で実行できます。	はい	いいえ	1200	
Web service port number Accelerator Loader スタジオがサーバーとの通信に使用する Web サービスのポート番号を定義します。	はい	いいえ	1201	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
SMF record number ODBC 接続または JDBC 接続を使用して SMF レコードを作成する際に、サーバーが使用するシステム管理機能 (SMF) 番号を指定します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし サンプル値: 249	
IMS subsystem ID サーバーがデータ・ソースとして使用する IMS サブシステム ID を指定します。IMS サブシステムは、製品が構成される対象の LPAR 上で稼働している必要があります。 注: IBM ソフトウェア・サポートによる指示があった場合は、IMS DB パラメーターを変更してください。詳しくは、10-10 ページの『IMS パラメーターの変更』を参照してください。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
IMS SDFSRESL library 構成対象の LPAR 上の IMS システムに接続するためにサーバーが使用する IMS ロード・ライブラリーを指定します。この値を定義する場合、サーバーは IMS をデータ・ソースとして使用します。この値を定義しない場合、サーバーは IMS をデータ・ソースとして使用しません。 注: IBM ソフトウェア・サポートによる指示があった場合は、IMS DB パラメーターを変更してください。詳しくは、10-10 ページの『IMS パラメーターの変更』を参照してください。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
Create the OBJ file このステップとタスク「サーバーおよびサーバー・コンポーネントの作成」を選択すると、Accelerator Loader サーバーが始動時に使用する OBJ ファイルを作成するジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されていない	
Create a user-defined map data set このステップとタスク「サーバーおよびサーバー・コンポーネントの作成」を選択すると、ユーザー定義のマップ・ファイルを作成するジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されている	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
User-defined map file サーバー用に作成するユーザー定義のマップ・ファイルの完全修飾名を指定します。このファイルには、ソース・データ・レコード内のフィールドを、アクセラレーターにロードするターゲット表の列に関連付ける定義が含まれています。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
Create the trace and checkpoint files このステップとタスク「サーバーおよびサーバー・コンポーネントの作成」を選択すると、トレース・ブラウザ・ファイルとグローバル変数チェックポイント・ファイルを作成するジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されている	
Trace browse file サーバーが使用するトレース・データ・セットの高位修飾子を指定します。トレース・ブラウザ・ファイルには、サーバーがソース・データを処理する際に生成する通知メッセージが含まれています。	はい	いいえ	デフォルトなし	
Global variable checkpoint file サーバーが使用するグローバル変数データ・セットの高位修飾子を指定します。このファイルには、サーバーがソース・データを処理する方法を定義するパラメーターが含まれています。	はい	いいえ	デフォルトなし	
Volume serial number トレース・データ・セットとチェックポイント・データ・セットのためにサーバーが使用するボリューム通し番号を指定します。ボリュームの選択をSMS に任せる場合は、フィールドをブランクのままにします。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Trace browse file primary allocation トレース・データ・セットの 1 次割り振り (シリンダー数) を指定します。トレース・データ・セットは、パラメーター「 Maximum rows to retain 」に指定された数のメッセージを格納するために十分な大きさにする必要があります。1 つの 3390 シリンダーに収まるメッセージの正確な数は 720 件です。それぞれのメッセージの長さは 1024 バイトです。	はい	いいえ	525	
Trace browse file secondary allocation トレース・データ・セットの 2 次割り振り (シリンダー数) を指定します。トレース・データ・セットは、パラメーター「 Maximum rows to retain 」に指定された数のメッセージを格納するために十分な大きさにする必要があります。1 つの 3390 シリンダーに収まるメッセージの正確な数は 720 件です。それぞれのメッセージの長さは 1024 バイトです。	はい	いいえ	50	
Global variable file primary allocation グローバル変数チェックポイント・データ・セットの 1 次割り振り (シリンダー数) を指定します。1 つのシリンダーに収まる変数は約 1180 個です。	はい	いいえ	5	
Global variable file secondary allocation グローバル変数チェックポイント・データ・セットの 2 次割り振り (シリンダー数) を指定します。1 つのシリンダーに収まる変数は約 1180 個です。	はい	いいえ	1	

タスク: DDL および BIND ジョブの作成 (必須)

この必須タスクは、リポジトリ・オブジェクトと BIND ジョブを作成し、Accelerator Loader プラン名に対する EXECUTE 権限を付与します。カスタマイズ・プロセス中に、CCQPPRD パネルにこれらの値を入力します。

生成されるジョブ

これらのジョブは、サブシステムごとに 1 回ずつ生成されるテンプレート HLODROP、HLODDL、HLOFREE、HLOBIND、および HLOGRNT に基づきます。生成されたジョブは、「Finish Product Customization」パネルに表示される製品カスタマイズ・ライブラリーに保管されます。生成されるジョブ名は変動する可能性があります。テンプレート名は変動しません。

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Drop repository objects このステップとタスク「DDL および BIND ジョブの作成」を選択すると、リポジトリ・オブジェクトの新規セットを作成するための準備としてリポジトリ・オブジェクトをドロップするジョブが生成されます。前に Accelerator Loader をカスタマイズしていた場合に新規インストール済み環境を作成するには、このステップが役に立ちます。	いいえ	いいえ	選択されていない	
Create repository objects このステップとタスク「DDL および BIND ジョブの作成」を選択すると、リポジトリ・オブジェクトを作成するジョブが生成されます。ジョブを実行すると、DDL が作成されます。	はい	いいえ	選択されている	
Free product packages and plans このステップとタスク「DDL および BIND ジョブの作成」を選択すると、FREE ジョブ・ステップが BIND ジョブ内に生成されます。ジョブが実行されると、FREE ジョブ・ステップが実行されます。	いいえ	いいえ	選択されていない	
Free server packages on DB2 for /OS このステップとタスク「DDL および BIND ジョブの作成」を選択すると、製品の BIND ジョブを実行する前に Accelerator Loader サーバーのパッケージとプランを解放するためのジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されていない	
Bind packages and plans このステップとタスク「DDL および BIND ジョブの作成」を選択すると、BIND ジョブを作成するジョブが生成されます。ジョブが実行されると、BIND ステートメントが実行されます。	はい	いいえ	選択されている	
Bind server packages on DB2 for /OS このステップとタスク「DDL および BIND ジョブの作成」を選択すると、Accelerator Loader サーバーの製品パッケージとプランをバインドするジョブが生成されます。	はい	いいえ	選択されている	
Grant EXECUTE authority このステップとタスク「DDL および BIND ジョブの作成」を選択すると、Accelerator Loader プラン名に対する EXECUTE 権限を付与するジョブが生成されます。ジョブが実行されると、GRANT ステートメントが実行されます。	はい	いいえ	選択されている	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Grant EXECUTE authority to server packages このステップとタスク「DDL および BIND ジョブの作成」を選択すると、Accelerator Loader サーバー プランに対する実行権限をユーザーに付与するジョブが生成されます。	はい	いいえ	選択されている	

タスク: プロファイル・データ・セットの作成およびプロファイルのマイグレーション (必須)

この必須タスクは、プロファイル・データ・セットを作成し、オプションで既存のプロファイルを製品が使用する新規フォーマットに更新するジョブを作成します。カスタマイズ・プロセス中に、CCQPPRD パネルにこれらの値を入力します。

生成されるジョブ

これらのジョブは、構成ごとに 1 回ずつ生成されるテンプレート HLOC PROF および HLOM PROF に基づいています。生成されたジョブは、「Finish Product Customization」パネルに表示される製品カスタマイズ・ライブラリーに保管されます。生成されるジョブ名は変動する可能性があります、テンプレート名は変動しません。

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Create profile data sets このステップとタスク「プロファイル・データ・セットの作成およびプロファイルのマイグレーション」を選択すると、プロファイル・リポジトリ・データ・セットを作成するジョブが生成されます。	はい	いいえ	選択されている	
Profile data set high-level qualifier 使用するプロファイル・データ・セットの高位修飾子を指定します。プロファイル・データ・セットには、ISPF パネルに備わっている機能からデータをロードする JCL の生成時に指定されるオプションが含まれています。Accelerator LoaderV2.1 のプロファイル情報を格納する KSDS VSAM データ・セットの HLQ を指定してください。	はい	いいえ	HLO.V210	

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Volume serial number 製品のプロファイル・データ・セットとして使用する VSAM データ・セットのボリューム通し番号。ボリュームの選択を SMS に任せる場合は、フィールドを空白のままにします。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
Migrate profiles このステップとタスク「プロファイル・データ・セットの作成およびプロファイルのマイグレーション」を選択すると、製品の旧バージョン用に作成されたロード・プロファイルを、プロファイルの現行フォーマットに更新するジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されていない	
Former profile data set high-level qualifier 製品の前のバージョンによって使用されていて、現行バージョンで使用するためにプロファイルを更新する対象のプロファイル・データ・セットの高位修飾子を指定します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	

タスク：制御ファイルの作成または更新、あるいはその両方

このオプション・タスクは、制御ファイルが存在しない場合は作成し、構成からの情報を使用して、新規に作成された制御ファイルまたは既存の制御ファイルを更新します。制御ファイルには、DB2 Analytics Accelerator Loader を実行できる、それぞれの DB2 サブシステムに関する具体的な情報が含まれています。カスタマイズ・プロセス中に、CCQPPRD パネルおよび CCQPDB2 パネルにこれらの値を入力します。

生成されるジョブ

これらのジョブは、構成ごとに 1 回ずつ生成されるテンプレート HLOCCNTL、およびサブシステムごとに 1 回ずつ生成されるテンプレート HLOUCNTL に基づきます。生成されたジョブは、「Finish Product Customization」パネルに表示される製品カスタマイズ・ライブラリーに保管されます。生成されるジョブ名は変動する可能性があります、テンプレート名は変動しません。

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Create a new control file このステップとタスク「 Create control file, update it, or both 」を選択すると、制御ファイルがまだ存在しない場合は作成するジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されていない	
Control file プラン名などの DB2 固有の情報を含む、製品カスタマイズ情報を格納するデータ・セットの名前。この制御ファイルには、製品を実行できる各 DB2 サブシステムの構成情報が入っています。カスタマイズ後、製品のメインメニューを使用して制御ファイルを変更できます。最大 35 文字の名前を指定します。制御ファイルは VSAM ファイルなので、対応するデータと索引の低位修飾子がファイル名に追加されます。	はい	いいえ	HLO.DB2.CONTROL	
Volume serial number for control file 制御ファイルとして使用される VSAM データ・セットのボリューム通し番号。ボリュームの選択を SMS に任せる場合は、フィールドをブランクのままにします。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
Update the control file このステップとタスク「 Create control file, update it, or both 」を選択すると、構成からの情報を使用して、新規に作成された制御ファイルまたは既存の制御ファイルを更新するジョブが生成されます。	いいえ	いいえ	選択されていない	

タスク: IVP ジョブの作成

このオプションのタスクは、インストール検査手順 (IVP) ジョブを作成およびカスタマイズします。IBM ソフトウェア・サポートからの指示に従い、これらのジョブを実行して DB2 Analytics Accelerator Loader の構成をテストします。

注: IBM ソフトウェア・サポートからの指示がない限り、これらのジョブは実行しないでください。

生成されるジョブ

これらのジョブは、構成ごとに 1 回ずつ生成される HLOIVP テンプレートに基づきます。生成されたジョブは、「Finish Product Customization」パネルに表示される製品カスタマイズ・ライブラリーに保管されます。生成されるジョブ名は変動す

る可能性があります、テンプレート名は変動しません。ジョブの実行時に、これらのメンバーは、製品の *hlq.SHLOSAMP* データ・セットと *hlq.SHLVSAMP* データ・セットに保管されます。

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Customize IVP jobs このステップとタスク「 Create the IVP jobs 」を選択すると、構成対象の DB2 サブシステム用に 2 つの IVP ジョブが作成され、カスタマイズされます。	いいえ	いいえ	選択されていない	

タスク: DB2 Admin Launchpad への製品の追加

このオプションのタスクは、DB2 Analytics Accelerator Loader を DB2 Administration Tool Launchpad に追加します。カスタマイズ中に、CCQPPRD パネルにこれらの値を入力します。ジョブの実行時に、REXX EXEC が製品の *hlq.SHLOSAMP* データ・セットにコピーされた後で実行され、Accelerator Loader を Launchpad に追加します。

生成されるジョブ

このジョブは、構成ごとに 1 回ずつ生成されるテンプレート HLOADBI に基づきます。

ステップまたはパラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Create the REXX to add product to the Launchpad このステップとタスク「 Add the Accelerator Loader to the DB2 Admin Launchpad 」を選択すると、2 つの部分からなるジョブが生成されます。第 1 部では、DB2 Analytics Accelerator Loader を DB2 Administration Tool Launchpad に追加する REXX EXEC を作成します。 第 2 部では、その REXX EXEC を実行して、DB2 Analytics Accelerator Loader をその Launchpad に追加します。	いいえ	いいえ	選択されていない	
DB2 Admin Tool Library high-level qualifier DB2 Administration Tool 製品のデータ・セットの高位修飾子 (最大 36 文字の英数字)。	いいえ	いいえ	ADB.V102	
DB2 Admin Tool EXEC Library DB2 Administration Tool の SADBEXEC ライブラリー (最大 44 文字の英数字)。	タスクを選択する場合は、値を指定する必要があります。	いいえ	ADB.SADBEXEC	

「LPAR Parameters」セクション

このセクションには LPAR パラメーターが含まれています。「LPAR Parameters」パネルは、Accelerator Loader を DB2 Admin Launchpad に追加するオプションを選択した場合のみ使用できます。すべてのパラメーターが必須です。カスタマイズ・プロセス中に、CCQPLPR パネルにこれらの値を入力します。

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
メッセージ・ライブラリー ISPF メッセージ・ライブラリーのデータ・セット名。有効な名前は 1 から 46 文字です。ISPF メッセージ・ライブラリーに有効な名前を指定してください。有効なデータ・セット名の例は、ISP.SISPMENU と ISPF.SISPMLIB です。	はい	いいえ	ISP.SISPMENU	
パネル・ライブラリー ISPF パネル・ライブラリーのデータ・セット名。有効な名前は 1 から 46 文字です。ISPF メッセージ・ライブラリーに有効な名前を指定してください。有効なデータ・セット名の例は、ISPF.SISPPENU と ISPF.SISPPLIB です。	はい	いいえ	ISP.SISPPENU	
スケルトン・ライブラリー ISPF スケルトン・ライブラリーのデータ・セット名。有効な名前は 1 から 46 文字です。スケルトン・ライブラリーの有効な名前を指定します。有効なデータ・セット名の例は、ISP.SISPSENU と ISPF.SISPSLIB です。	はい	いいえ	ISP.SISPSENU	
ISPF テーブル入力ライブラリー ISPF テーブル入力ライブラリーのデータ・セット名。有効な名前は 1 から 46 文字です。ISPF テーブル入力ライブラリーの有効な名前を指定します。有効なデータ・セット名の例は、ISP.SISPTENU と ISPF.SISPTLIB です。	はい	いいえ	ISP.SISPTENU	
ISPF table output library ISPF テーブル出力ライブラリーのデータ・セット名。有効な名前は 1 から 46 文字です。ISPF テーブル出力ライブラリーの有効な名前を指定します。有効なデータ・セット名の例は、ISP.SISPTABL です。	はい	いいえ	ISP.SISPTABL	

「DB2 Parameters」 セクション

このセクションには DB2 パラメーターが含まれています。カスタマイズ・プロセス中に、「DB2 Parameters」パネル (CCQPDB2)にこれらの値を入力します。1 次サブシステムまたは 2 次サブシステムとして DB2 項目を作成して、Accelerator Loader に関連付けることができます。Accelerator Loader をカスタマイズする際には、製品パラメーターを定義する前に 1 次サブシステムを定義する必要があります。

Accelerator Loader のカスタマイズは、Accelerator Loader に関連付けられている DB2 エントリーのみを対象に行うことができます。DB2 エントリーのリストが、「Customizer Workplace」パネルに表示されます。Accelerator Loader に関連付けられたすべての DB2 エントリーをカスタマイズできます。

注: 一部のパラメーターは、「Product Parameters」パネルでタスクを選択するか値を指定した後にのみ Tools Customizer に表示されます。このため、まず「DB2 Parameters」パネルで 1 次 SSID を定義してから、「Product Parameters」パネルで値を選択する必要があります。「DB2 Parameters」パネルに戻り、「Product Parameters」パネルでの指定結果を反映して追加されたオプションを確認します。

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
DB2 サブシステム ID データ共有グループに含まれていないリレーショナル・データベース管理システム (RDBMS) の特殊なインスタンス。DB2 サブシステム名の例は DB01 です。	はい	はい	デフォルトなし	
グループ接続名 TSO/バッチ接続、呼び出し接続機能 (CAF)、DL/I バッチ、ユーティリティー、およびリソース・リカバリー・サービス接続機能 (RRSAF) で使用される総称接続名。グループ接続名の例は DSG1 です。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
This is the primary subsystem この DB2 SSID が 1 次サブシステムとして使用される場合は YES を指定します。	はい	はい	YES	
Mode DB2 サブシステムが実行されているモード。この製品の有効な値は NFM (いずれかの DB2 バージョンの新機能モード) です。	はい	いいえ	NFM	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Level number DB2 サブシステムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベル。システム要件については、2-6 ページの『カスタマイズ前の環境のセットアップ』を参照してください。	はい	いいえ	デフォルトなし	
Load library DB2 ロード・ライブラリーの完全修飾データ・セット名。	はい	はい	DSN.SDSNLOAD	
Run library DB2 実行ライブラリーの完全修飾データ・セット名。	はい	はい	DSN.RUNLIB.LOAD	
Exit library DB2 出口ライブラリーの完全修飾データ・セット名。	はい	はい	DSN.SDSNEXIT	
ブートストラップ・データ・セット DB2 ブートストラップ・データ・セットの完全修飾データ・セット名。	はい	はい	DSN.SDSNBSDS	
SYSAFF for DB2 utilities バッチ・ジョブ内で /*JOBPARM 値を生成します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
DSNTEP2 plan name DB2 DSNTEP2 プログラムに使用されるプランの名前 (最大 8 文字の英数字)。	はい	いいえ	DSNTEP2	
Accelerator Loader plan name Accelerator Loader が内部リポジトリ表へのアクセスに使用する DB2 プランの名前 (最大 8 文字の英数字)。プランがバインドされる DB2 サブシステム、またはそのサブシステムが属するデータ共有グループ内で、プラン名が固有であることが必要です。	はい	はい	HLOV21PL	
BIND owner ID バインド・ジョブ内で OWNER として使用される DB2 ユーザー ID (最大 8 文字の英数字)。	はい	いいえ	DB2USER	
Server BIND collection ID Accelerator Loader サーバー パッケージのコレクション ID を指定します。	はい	いいえ	DB2USER	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
User ID for GRANT statement Accelerator Loader プランの使用特権が付与される許可 ID を指定します。	はい	いいえ	PUBLIC	
DB2 ZPARMs member DB2 サブシステムに対して生成される ZPARM ロード・モジュール・メンバー名。	はい	はい	DSNZPARM	
SET CURRENT SQLID 製品オブジェクトの作成に使用する DB2 ユーザー ID (最大 8 文字の英数字)。	はい	いいえ	DB2USER	
Subsystem type 構成対象のサブシステムのタイプを以下のように指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • GROUP: DB2 サブシステムは z/OS 上で稼働し、データ共有グループです。 • MEMBER: DB2 サブシステムは z/OS 上で稼働し、データ共有グループのメンバーであるか、非データ共有サブシステムです。 • LUW: データベースは非 z/OS データベースです。 	はい	いいえ	MEMBER	
Subsystem location DB2 サブシステム ID の固有のロケーション名を指定します。これは、構成対象である DB2 サブシステムの LOCATIONS カタログ表の LOCATIONS 列に含まれる値です。 LUW の場合、この値は、製品とともに使用する LUW サブシステム上のデータベースを指定します。	はい	いいえ	DEV1DNS1	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Subsystem status サブシステムが Accelerator Loader サーバー内で有効または無効のどちらであるかを、以下のように指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • ENABLE: サーバーは DB2 サブシステムに接続します。 • DISABLE: サーバーは DB2 サブシステムに接続せず、したがってサブシステムをデータ・ソースとして使用しません。 	はい	いいえ	ENABLE	
Subsystem port number このサブシステムの DRDA アクセス用に定義されている IP ポート番号を指定します。 LUW の場合、この値は LUW データベースが存在するサーバー上で定義されたポートを指定します。	はい	いいえ	443	
Subsystem domain name 構成対象の DB2 サブシステムの IP アドレスを識別する完全修飾名を指定します。IP アドレスの代わりにドメイン・ネームが使用されます。 LUW の場合、この値は LUW データベースが存在するサーバーの DNS 名を指定します。	はい	いいえ	host.domain.com	
Subsystem CCSID value 構成対象の DB2 サブシステムの CCSID 値を指定します。このサブシステムの CCSID 値は、DB2 インストール・パネル DSNTIPF のオプション 7 に示されています。	はい	いいえ	37	
Subsystem LU name 構成対象であり RACF パスチケットの生成に使用されるサブシステムの LU 名を指定します。この値を確認するには、構成対象の DB2 サブシステムのマスター・アドレス・スペースを参照するか、DISPLAY DDF コマンドを発行します。	はい	いいえ	DSN1LU	
Repository database name 製品のリポジトリ表を含むデータベースの名前 (最大 8 文字の英数字)。	はい	いいえ	HLOV21DB	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Repository table schema 製品のリポジトリ表の作成者 (最大 8 文字の英数字)。この値は、バインド修飾子としても、パッケージのコレクション ID としても使用されます。	はい	いいえ	HLOV21TB	
Repository database STOGROUP 製品オブジェクトを作成する先のストレージ・グループ。	はい	いいえ	SYSDEFLT	
Repository table space primary quantity Accelerator Loader リポジトリ表スペースを作成するために使用する 1 次数量をキロバイト単位で定義します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
Repository table space secondary quantity Accelerator Loader リポジトリ表スペースを作成するために使用する 2 次数量をキロバイト単位で定義します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
Repository table space buffer pool DB2 表スペースの作成に使用されるバッファ・プール (最大 6 文字の英数字)。	はい	いいえ	BP0	
Repository index STOGROUP 製品の索引を作成する先のストレージ・グループ。	はい	いいえ	SYSDEFLT	
Repository index primary quantity Accelerator Loader リポジトリ表索引を作成するために使用する 1 次数量をキロバイト単位で定義します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
Repository index secondary quantity Accelerator Loader リポジトリ表索引を作成するために使用する 2 次数量をキロバイト単位で定義します。	いいえ	いいえ	デフォルトなし	
Repository index buffer pool DB2 索引の作成に使用されるバッファ・プール (最大 8 文字の英数字)。	はい	いいえ	BP0	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
<p>Utility region size JCL の生成時に使用されるデフォルト領域サイズ (M バイト単位)。領域サイズはジョブ・ステップに対して設定され、値はすべてのジョブ・ステップで使用されます。REGION パラメーターをジョブ・カードに含めると、ジョブ・カードの REGION パラメーターが、EXEC ステートメントの REGION パラメーターをオーバーライドします。</p> <p>この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。</p>	いいえ	はい	0000	
<p>Virtual storage Accelerator Loader サーバー用の 2 GB 境界より上の仮想ストレージ (M バイト単位) を指定します。</p>	はい	いいえ	0200	
<p>Number of buffers 製品によって使用されるバッファの数の有効な値の範囲は、1 から 99 です。</p> <p>この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。</p>	いいえ	はい	5	
<p>Channel programs 製品を使用するチャンネル・プログラムの数。有効な値の範囲は、0 から 99 です。値 0 を使用すると、最適なパフォーマンスが得られるように、製品はあらかじめ決められたチャンネル・プログラム設定を使用します。または、チャンネル・プログラムの数を指定します。</p> <p>指定するチャンネル・プログラムの数は、最も古いものの完了が検査される前に同時に実行できる、未処理の QSAM チャンネル・プログラムの数を制御します。</p> <p>この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。</p>	いいえ	はい	0	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Sort program installed DB2 Sort が使用できない場合に使用する、インストール済みのソート・プログラムを指定します。有効な値は、S (Syncsort) および D (Dfsort) です。 この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	D	
Use DB2 Sort when possible? 内部データ・ソートに DB2 Sort を使用するかどうかを指定します。N を指定すると、製品は LPAR にインストールされているシステム・ソート機能を使用します。 この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	はい	はい	N	
Sort work file device type ユーティリティ JCL を生成する際に使用するソート作業ファイルのユニット・デバイスを指定します。サンプル値は SYSDA と DISK です。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	はい	はい	SYSALLDA	
Number of sort work DDs 計算上のソート作業 DD ステートメントの数をオーバーライドします。1 から 99 の範囲で値を指定します。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	
Primary sort work space 計算上の 1 次ソート作業スペースを上書きします (シリンダー単位で指定)。1 から 999999 の範囲で値を指定します。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Secondary sort work space 計算上の 2 次ソート作業スペースを上書きします (シリンダー単位で指定)。1 から 999999 の範囲で値を指定します。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	
装置タイプ データの処理時に作成される作業データ・セットの装置タイプ。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	DISK	
データ・セット・タイプ 製品が作成する作業データ・セットに使用するデータ・セットのタイプ。有効な値は、B (基本) および L (大容量) です。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	B	
Track or cylinder Accelerator Loader が作成する作業データ・セットの割り振り単位。有効な値は、T (トラック) および C (シリンダー) です。	いいえ	はい	T	
Primary quantity 製品が作成する作業データ・セットの 1 次数量 (単位は「Work file track or cylinder」で指定)。1 から 16777215 の範囲で値を指定します。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	10	
Secondary quantity 製品が作成する作業データ・セットの 2 次数量 (単位は「Work file track or cylinder」で指定)。1 から 16777215 の範囲で値を指定します。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	50	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Maximum volumes 作業データ・セットに使用できるテープ・ボリュームの最大数 (指定された装置タイプが TAPE の場合)。1 から 255 の範囲で値を指定します。この値は、インストール後に 「Accelerator Loader Parameters」 パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	
SMS data class 製品が作成する作業データ・セットの SMS データ・クラス (最大 8 文字の英数字)。この値は、インストール後に 「Accelerator Loader Parameters」 パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	
SMS storage class 製品が作成する作業データ・セットの SMS ストレージ・クラス (最大 8 文字の英数字)。この値は、インストール後に 「Accelerator Loader Parameters」 パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	
SMS management class 製品が作成する作業データ・セットの SMS 管理クラス (最大 8 文字の英数字)。この値は、インストール後に 「Accelerator Loader Parameters」 パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	
装置タイプ 製品が作成する SYSPRINT データ・セットの装置タイプ (最大 8 文字)。この値は、インストール後に 「Accelerator Loader Parameters」 パネルで変更できます。	いいえ	はい	DISK	
データ・セット・タイプ 製品が作成する SYSPRINT データ・セットのために使用されるデータ・セットのタイプ。有効な値は、B (基本) および L (大容量) です。この値は、インストール後に 「Accelerator Loader Parameters」 パネルで変更できます。	いいえ	はい	B	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
Track or cylinder 製品が作成する SYSPRINT データ・セットの割り振り単位。有効な値は、T (トラック) および C (シリンダー) です。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	T	
Primary quantity 製品が作成する SYSPRINT セット・データ・セットの 1 次数量 (単位は「SYSPRINT track or cylinder」で指定)。1 から 16777215 の範囲で値を指定します。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	10	
Secondary quantity 製品が作成する SYSPRINT セット・データ・セットの 2 次数量 (単位は「SYSPRINT track or cylinder」で指定)。1 から 16777215 の範囲で値を指定します。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	50	
Maximum volumes SYSPRINT データ・セットに使用できるテープ・ボリュームの最大数 (指定された装置タイプが TAPE の場合)。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	
SMS data class 製品が作成する SYSPRINT データ・セットの SMS データ・クラス (最大 8 文字の英数字)。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	
SMS storage class 製品が作成する SYSPRINT データ・セットの SMS ストレージ・クラス (最大 8 文字の英数字)。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	

パラメーター	必須かどうか	検出されるか	デフォルト値	使用する値
SMS management class 製品が作成する SYSPRINT データ・セットの SMS 管理クラス (最大 8 文字の英数字)。この値は、インストール後に「Accelerator Loader Parameters」パネルで変更できます。	いいえ	はい	デフォルトなし	

DB2 Analytics Accelerator Loader のカスタマイズ

「Program Directory」のインストール手順に従って製品をインストールした後、Tools Customizer を実行して各 DB2 サブシステムの変数を指定し、構成とユーザー・パラメーターをカスタマイズする必要があります。

以下の必須カスタマイズ手順を、示された順序で実行します。

1. Tools Customizer を始動し、使用準備をします。
2. カスタマイズする製品として Accelerator Loader を指定します。
3. カスタマイズする 1 次 DB2 サブシステムを定義し、DB2 パラメーターの値を指定します (「DB2 Parameters」パネル)。
4. Accelerator Loader パラメーターの値を指定します (「Product Parameters」パネル)。
5. 「DB2 Parameters」パネルに戻り、「Product Parameters」パネルでの選択によって有効になったパラメーターの値を指定します。

一部の DB2 パラメーターは、「Product Parameters」パネルでオプションを選択するか値を指定した後にのみ Tools Customizer に表示されます。

6. Accelerator Loader のカスタマイズに必要なローカル LPAR について、「LPAR parameters」パネルで値を指定します。
7. カスタマイズ・ジョブを生成し、実行依頼します。
8. Accelerator Loader サーバーを開始してから停止します。
9. データ・ソースへのアクセスを構成します。
10. Accelerator Loader スタジオをインストールして構成します。

トピック:

- 3-6 ページの『Tools Customizer の開始』
- 3-12 ページの『DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズ』
- 3-47 ページの『ENCODING(500) への BIND JCL の変更 (オプション)』
- 3-47 ページの『ロード・ライブラリーの APF 許可 (必須)』
- 3-47 ページの『開始タスク PROC のコピー (必須)』
- 3-48 ページの『DSNUTILF モジュールのコピー (必須)』
- 3-49 ページの『WLM アプリケーション環境の設定 (必須)』
- 3-49 ページの『開始タスクの開始 (必須)』
- 3-50 ページの『サーバーの開始および停止 (必須)』
- 3-51 ページの『Accelerator Loader スタジオのインストール (必須)』
- 3-53 ページの『メインフレーム・データ・ソースへのアクセスの構成 (必須)』
- 3-58 ページの『DRDA データ・ソースへのアクセスの構成 (オプション)』

Tools Customizer の開始と使用準備

Tools Customizer を開始するには、付属の REXX EXEC を使用します。初めて Tools Customizer を使用するとき、Tools Customizer が、DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズに使用する設定を変更する必要があります。

ベスト・プラクティス: Tools Customizer における SMP/E およびランタイム・ライブラリーの保守戦略

Tools Customizer は、Tools Customizer 対応製品ごとに製品パラメーター、LPAR パラメーター、DB2 サブシステム・パラメーターの値の関係を作成します。SMP/E の処理後の Tools Customizer ランタイム・ライブラリーの適切な保守戦略を決定しておく、Tools Customizer および対応製品のライフサイクル全体を通して処理時の問題を軽減することができます。

Tools Customizer には、データ・セット名に関する非常に具体的な要件があります。

- LPAR ごとに存在する DATASTOR データ・セットは 1 つのみです
- 製品メタデータ・ライブラリー・データ・セット名は、Tools Customizer 対応製品のそのリリースの存続期間中は変更されません

DATASTOR データ・セットは、Tools Customizer が対応製品のカスタマイズ JCL を生成するために必要とするすべての情報のリポジトリです。

3-7 ページの『Tools Customizer ユーザー設定の変更』で説明しているように、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) を更新して保管すると、DATASTOR データ・セットの名前は ISPF プロファイルに保管されます。これにより、Tools Customizer は、TSO ユーザー ID がログインして Tools Customizer EXEC を開始するとき、アクティブな DATASTOR データ・セットを認識することができます。

保守のシナリオ

IBM は、後で Tools Customizer によって使用されるライブラリーに保守が適用されることを予期しています。実際には、さまざまなお客様のショップで、それぞれ異なる方法による SMP/E APPLY の保守が配布されています。

以下のシナリオでは、保守戦略を決定する際のいくつかの考慮事項と選択肢について説明します。最も重要な目的は、Tools Customizer インスタンスで同じデータ・セット名を保持することです。

同じデータ・セットへの **SMP/E 保守の適用 (SMP/E APPLY コマンドを使用):**

各保守サイクルで同じデータ・セット名を使用して (SMP/E APPLY コマンドを使用して) SMP/E 保守を適用する場合、これらのターゲット・ライブラリーを Tools Customizer ランタイム・ライブラリーとして使用するか、SMP/E ターゲット・データ・セットを Tools Customizer によって使用されるランタイム・ライブラリーにコピーして対応製品をカスタマイズすることができます。

Tools Customizer は、製品メタデータ・ライブラリー (*DENU) の名前が同じである場合、このメタデータ・ライブラリーが対応製品の同じリリース用のものであることを想定します。例えば、DB2 Log Analysis Tool v3.3 をカスタマイズして、メタデータ・ライブラリーに、バージョンもリリースも指定しない SYS2.DB2T00L.SALADENU という名前を付けるとします。その後、DB2 Log Analysis Tool v3.4 にアップグレードして、同じ命名規則の SYS2.DB2T00L.SALADENU を適用するとします。Tools Customizer は、DB2 Log Analysis Tool v3.3 での処理を続行することを想定して、パネルで v3.3 を報告し、同じ v3.3 カスタマイズ・ライブラリー・データ・セットの使用を続行します。

さらに持続可能なデータ・セット命名方法では、メタデータ・ライブラリーの名前に製品バージョン、リリース ID、または識別に役立つその他の修飾子を含めて、Tools Customizer がアップグレード時に新しい製品リリースを判別できるようにします。例えば、次のように製品バージョン、リリース ID、または識別に役立つその他の修飾子を含むメタデータ・ライブラリー名を使用すると、製品の保守とアップグレードが容易になります。

- DB2 Log Analysis Tool v3.3 には DB2T00L.R330.SALADENU
- DB2 Log Analysis Tool v3.4 には DB2T00L.R340.SALADENU

新規データ・セットへの **SMP/E** 保守の適用 (**SMP/E APPLY** コマンドを使用):

同じデータ・セットではなく、新規データ・セットに (SMP/E APPLY コマンドを使用して) SMP/E 保守を適用すると、次回、製品メタデータ・ライブラリーを開くときに、Tools Customizer は、そのライブラリー名が別の製品またはコンポーネントによって使用されていることを示すデータ・セット・エラーを返します。

例えば、アップグレードの日付または特定の RSU を反映するために DB2 High Performance Unload for z/OS ターゲット・メタデータ・ライブラリーに次のような名前を指定するとします。

- 特定のアップグレードの日付 (2014 年 8 月) を反映する場合:
 - DB2T00L.PTF420.SINZDBRM.D201408
 - DB2T00L.PTF420.SINZDENU.D201408
 - DB2T00L.PTF420.SINZLOAD.D201408
- 特定の RSU (RSU 1406) を反映する場合:
 - DB2T00L.PTF420.SINZDBRM.RSU1406
 - DB2T00L.PTF420.SINZDENU.RSU1406
 - DB2T00L.PTF420.SINZLOAD.RSU1406

上記のいずれかの命名規則を使用すると、次回、Tools Customizer EXEC を開始するときに、データ・セット・エラーが返されます。

このタイプの SMP/E 保守の処理に対処するために、以下のいずれかを実行できます。

- Tools Customizer の処理に適切なライブラリーを参照するための (ALIAS 制御ステートメントを使用した) 別名の定義
- Tools Customizer の処理に特に使用されるランタイム・ライブラリーのセットへの SMP/E ライブラリーのコピー

Tools Customizer の処理に適切なライブラリーを参照するための (**ALIAS** 制御ステートメントを使用した) 別名の定義:

Tools Customizer を計画する際、SMP/E によって作成された新規製品データ・セット名の別名を (**ALIAS** 制御ステートメントを使用して) 定義するのが最適な戦略であると考えられます。

初めて **Tools Customizer** をセットアップする場合、製品ライブラリー・データ・セットが **Tools Customizer** の処理に使用されるといふ標識を付けて、これらのデータ・セット名を指定することを検討してください。例えば、以下の名前のようなデータ・セット名を使用します。

- TCZ.PTF420.SINZDBRM
- TCZ.PTF420.SINZDENU
- TCZ.PTF420.SINZLOAD

SMP/E を使用して保守を適用し、新規製品ライブラリー・データ・セットが作成された後、(**ALIAS** 制御ステートメントを使用して) 新規データ・セット名の別名を **Tools Customizer** が最初に処理したデータ・セット名に定義してください。例えば、以下の保守データ・セットには、元のデータ・セットに定義された別名が設定されています。

- DB2T00L.PTF420.SINZDBRM.RSU1406 --> TCZ.PTF420.SINZDBRM
- DB2T00L.PTF420.SINZDENU.RSU1406 --> TCZ.PTF420.SINZDENU
- DB2T00L.PTF420.SINZLOAD.RSU1406 --> TCZ.PTF420.SINZLOAD

IBM が配布する以下の **Tools Customizer** データ・セットのそれぞれに (**ALIAS** 制御ステートメントを使用して) 別名を定義する必要があります。

- SCCQDENU
- SCCQEXEC
- SCCQLOAD
- SCCQMENU
- SCCQPENU
- SCCQSAMP
- SCCQTENU

既に **Tools Customizer** をセットアップして製品をカスタマイズしている場合は、(**ALIAS** 制御ステートメントを使用して) 新しく作成されたデータ・セット名の別名を、**Tools Customizer** を使用して製品が最初にカスタマイズされたときに指定されたデータ・セット名に定義する必要があります。

別名を定義した後は、**Tools Customizer** を正常に実行できるはずで

注: IBM が配布する SMP/E ライブラリーの別名のみを定義してください。

制約事項: Tools Customizer によって作成されたデータ・セットの別名は定義しないでください。例えば、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) 上の以下の 3 つのデータ・セットなどです。

- Customization library qualifier
- ディスカバー出力データ・セット
- データ・ストア・データ・セット

DB2 High Performance Unload for z/OS パラメーター・ライブラリー (INFPLIB) など、ユーザーが製品のために作成したデータ・セットには別名を定義しないでください。

Tools Customizer の処理に特に使用されるランタイム・ライブラリーのセットへの **SMP/E** ライブラリーのコピー:

初めて Tools Customizer をセットアップする場合、製品ライブラリー・データ・セットが Tools Customizer の処理に使用されるといふ標識を付けて、これらのデータ・セット名を指定することを検討してください。例えば、以下の名前のようなデータ・セット名を使用します。

- TCZ.R420.SINZDBRM
- TCZ.R420.SINZDENU
- TCZ.R420.SINZLOAD

SMP/E を使用して保守を適用し、新規製品ライブラリー・データ・セットが作成された後、新規データ・セットを Tools Customizer が最初に処理したデータ・セットにコピーしてください。例えば、以下の保守データ・セットを元のデータ・セットにコピーします。

- DB2T00L.PTF420.SINZDBRM.RSU1406 --> TCZ.R420.SINZDBRM
- DB2T00L.PTF420.SINZDENU.RSU1406 --> TCZ.R420.SINZDENU
- DB2T00L.PTF420.SINZLOAD.RSU1406 --> TCZ.R420.SINZLOAD

IBM が配布する以下の Tools Customizer データ・セットのそれぞれをコピーする必要があります。

- SCCQDENU
- SCCQEXEC
- SCCQLOAD
- SCCQMENU
- SCCQPENU
- SCCQSAMP
- SCCQTENU

既に Tools Customizer をセットアップして製品をカスタマイズしている場合は、新しく作成されたデータ・セットを、Tools Customizer を使用して製品が最初にカスタマイズされたときに指定されたデータ・セットにコピーする必要があります。

SMP/E データ・セットを Tools Customizer インスタンス・ライブラリーにコピーした後、Tools Customizer を正常に実行できるはずですが。

注: IBM が配布する SMP/E ライブラリーのみをコピーしてください。

制約事項: Tools Customizer によって作成されたデータ・セットはコピーしないでください。例えば、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) 上の以下の 3 つのデータ・セットなどです。

- Customization library qualifier
- ディスカバー出力データ・セット
- データ・ストア・データ・セット

DB2 High Performance Unload for z/OS パラメーター・ライブラリー (INFPLIB) など、ユーザーが製品のために作成したデータ・セットはコピーしないでください。

関連タスク:

Tools Customizer ユーザー設定の変更

Tools Customizer を使用して製品またはコンポーネントをカスタマイズする前に、Tools Customizer が使用する設定を確認しておく必要があります。

関連情報:

SMP/E APPLY コマンド

APPLY コマンドは、受信したどの SYSMOD がターゲット・ライブラリーのインストール済み環境用に選択されるかを指定します。

別名処理: SMP/E for z/OS コマンド

別名をもつエレメントを処理する時には、エレメントとその別名が更新されます。SMP/E は、ターゲット・ゾーン内にあるエレメントとこれらの別名とを照合しません。

Tools Customizer の開始

Tools Customizer を開始するには、「ISPF Command Shell」パネルから REXX EXEC を実行します。

始める前に

Tools Customizer は、SMP/E を使用してインストールされなければなりません。Tools Customizer ライブラリーが置かれている場所の高位修飾子を知っている必要があります。高位修飾子は、最低位修飾子 (SCCQEXEC) を除く、データ・セット名のすべてのセグメントであると見なされます。

重要: Tools Customizer ロード・ライブラリーが APF 許可されていないことを確認してください。Tools Customizer ライブラリーを APF 許可すると、異常終了します。

このタスクについて

REXX EXEC を実行するには、Tools Customizer EXEC ライブラリーの高位修飾子のプレースホルダーを EXEC で変更するか、EXEC の実行時にパラメーターとして高位修飾子を渡す必要があります。REXX EXEC は、EXEC ライブラリーの CCQTCZ メンバー内にあります。

手順

1. オプション: REXX EXEC で高位修飾子のプレースホルダーを変更します。
 - a. Tools Customizer の EXEC ライブラリー・データ・セットを見つけます。このデータ・セットの名前は *high_level_qualifier.SCCQEXEC* です。
 - b. データ・セット・メンバー CCQTCZ を編集し、<TCZ HLQ> スtring を EXEC ライブラリー・データ・セットの高位修飾子で置き換えます。例えば、Tools Customizer EXEC ライブラリーの名前が CCQTCZ.USABSAND.SCCQEXEC である場合、<TCZ HLQ> を CCQTCZ.USABSAND で置き換えます。

高位修飾子のプレースホルダーは 1 回変更するだけで済みます。REXX EXEC を実行するときに、高位修飾子をパラメーターとして渡す必要はありません。
2. REXX EXEC (CCQTCZ) を実行します。
 - a. 「ISPF Primary Option Menu」から、オプション 6 を選択します。「ISPF Command Shell」パネルが表示されます。
 - b. EX コマンドを指定して REXX EXEC を実行します。例えば、Tools Customizer EXEC ライブラリーが CCQTCZ.USABSAND.SCCQEXEC であり、REXX EXEC で高位修飾子のプレースホルダーを変更した場合は、EX 'CCQTCZ.USABSAND.SCCQEXEC(CCQTCZ)' を指定します。

REXX EXEC で高位修飾子のプレースホルダーを変更しなかった場合は、EX 'CCQTCZ.USABSAND.SCCQEXEC(CCQTCZ)' 'CCQTCZ.USABSAND' を指定します。

タスクの結果

「IBM Customizer Tools for z/OS」メインメニュー・パネルが表示されます。

次のタスク

初めて Tools Customizer を実行する場合は、Tools Customizer ユーザー設定を変更する必要があります。Tools Customizer のユーザー設定を既に設定している場合は、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするか、再カスタマイズします。

Tools Customizer ユーザー設定の変更

Tools Customizer を使用して DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズする前に、Tools Customizer で使用する設定を確認しておく必要があります。ご使用の環境に合わせてデフォルト値の変更が必要な場合があります。大部分の場合、いつでも Tools Customizer 値を変更できます。例えば、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2

Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズした後、別の製品またはソリューション・パックをカスタマイズしようとするときに、設定の変更が必要な場合があります。

手順

1. 「IBM Tools Customizer for z/OS」メインパネル (CCQPHME) で、オプション 0、「**User settings for Tools Customizer**」を指定します。次の図に示されているように、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) が表示されます。

```
CCQPSET          Tools Customizer Settings          14:03:51
Command ==>>
Enter the settings for customizing a product or press End to save and exit.

Commands: SAVE - Save user settings

Product Customization Settings
Customization library qualifier . . DB2TOOL.PRODUCT.CUST
Use DB2 group attach . . . . . YES (YES/NO)

Tools Customizer Library Settings
Metadata library . . . . . DB2TOOL.CCQ110.SCCQDENU
Discover output data set . DB2TOOL.CCQ110.DISCOVER
Data store data set . . . DB2TOOL.CCQ110.DATASTOR

User Job Card Settings for Customization Jobs
====> //          JOB
====>
====>
====>
====>
```

図 3-1. 「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET)

2. 以下の必須フィールドの値を確認します。デフォルト値を使用するか、独自の値を指定します。指定されたデータ・セットに対する適切な読み取り権限および書き込み権限が必要です。

Customization library qualifier

カスタマイズ・ライブラリーの接頭部として使用される高位修飾子。カスタマイズ・ライブラリーとは、DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするために生成されたジョブが保管されるデータ・セットです。この修飾子に対する書き込み権限が必要です。

カスタマイズする製品ごとに、この修飾子に指定した最初の値が、カスタマイズ・ジョブを生成した後に値を変更しても、常に使用されます。例えば、製品をカスタマイズしてから、再カスタマイズのために新しい修飾子を指定した場合、新しい修飾子が保管され、表示されますが、元の値が使用されます。

Tools Customizer の複数インスタンスを維持するには、Tools Customizer のインスタンスごとに、固有のカスタマイズ・ライブラリー修飾子を指定します。42 文字を超えるデータ・セット名は、単一引用符 (') で囲む必要があります。

Use DB2 group attach

生成されたカスタマイズ・ジョブの CONNECT ステートメントで使用

される値を決定します。データ共有環境には YES を指定してください。これにより、グループ接続名が使用されます。NO を指定すると、大部分の場合、DB2 CONNECT ステートメントで SSID が使用されません。

重要: このフィールドは、データ共有グループのメンバーでない DB2 サブシステムで製品をカスタマイズするときは影響を及ぼしません。この場合、生成されたカスタマイズ・ジョブの CONNECT ステートメントでは、常に DB2 サブシステム ID (SSID) が使用されます。

データ共有グループのメンバーである DB2 サブシステムで製品をカスタマイズする場合、DB2 サブシステムの定義の内容、および「**Use DB2 group attach**」フィールドの値によって、生成されたジョブの CONNECT ステートメントで使用される値が決まります。次の表は、SSID が使用されるか、グループ接続名が使用されるかを示しています。

表 3-1. データ共有環境における「Use DB2 group attach」フィールドの値の影響

DB2 サブシステム定義	「Use DB2 group attach」フィールドの値	CONNECT ステートメントで使用される値
DB2 サブシステムが SSID を使用して定義される。	はい	グループ接続名
	いいえ	SSID ¹
DB2 サブシステムが SSID を使用して定義されない。	Yes または No	グループ接続名

注 1: SSID を使用して定義され、かつ同じデータ共有グループに属している複数の DB2 サブシステムのジョブを生成する場合、最初に選択される DB2 サブシステムの SSID が使用されます。

例えば、「Customizer Workplace」パネルで、以下の DB2 サブシステムのジョブを生成したとします。

- スタンドアロン DB2 サブシステムである、V91C。
- データ共有グループ DSG1 のメンバーである DB2 サブシステムである、V91A。
- SSID を使用して定義されていない、データ共有グループ DSGA のメンバーである、DB2 サブシステム。

次の図は、これらの DB2 エントリーが「Customizer Workplace」パネルでどのようにリストされるかの例を示しています。

```

Associated DB2 Entries and Parameter Status
Line commands: G - Generate jobs  E - Edit  B - Browse  C - Copy  R - Remove
Cmd SSID GrpAttch Lvl Mode User ID Date      Status      Message
V91C  --          910 NFM  SYSADM  2010/11/09 Ready to Customize
V91A  DSG1         910 NFM  SYSADM  2010/11/09 Ready to Customize
--    DSGA         910 NFM  SYSADM  2010/11/09 Ready to Customize
----- End of DB2 entries -----

```

次の表は、「Use DB2 group attach」フィールドの値に基づいて、生成されたジョブの CONNECT ステートメントでどの値が使用されるかを示しています。

表 3-2. 生成されたジョブの CONNECT ステートメントで使用される値

SSID	GrpAttch	「Use DB2 group attach」フィールドの値	CONNECT ステートメントで使用される値
V91C	--	はい	SSID
		いいえ	SSID
V91A	DSG1	はい	グループ接続名
		いいえ	SSID
--	DSGA	はい	グループ接続名
		いいえ	グループ接続名

Tools Customizer metadata library

DB2 および LPAR パラメーターの表示に使用されるメタデータを含むデータ・セットの名前。「LPAR Parameters」パネルおよび「DB2 Parameters」パネルに表示されるパラメーターは、カスタマイズする製品の「Product Parameters」パネルで定義するパラメーター、および選択するタスクとステップによって異なります。例えば、選択されたタスクとステップに基づいて、必須の DB2 パラメーターが、「DB2 Parameters」パネルに表示され、それらを編集できます。必須でない場合、表示されません。このデータ・セットに対する読み取り権限が必要です。42 文字を超えるデータ・セット名は、単一引用符 (') で囲む必要があります。

ディスカバリー出力データ・セット

DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC からの出力が保管されるデータ・セットの名前。各製品には独自の Discover EXEC があります。Discover EXEC は、製品、LPAR、および DB2 パラメーターを、以前カスタマイズされた製品から取得します。このデータ・セットに対する書き込み権限が必要です。42 文字を超えるデータ・セット名は、単一引用符 (') で囲む必要があります。

データ・ストア・データ・セット

Tools Customizer が製品、LPAR、および DB2 パラメーター値に関する情報を保管するデータ・セットの名前。どの製品がどの DB2 エントリー (DB2 サブシステム、DB2 グループ接続名、および DB2 データ共用メンバー) に関連付けられているかに関する情報も、このデータ・セットに保管されます。指定されたデータ・ストア・データ・セットは、一度に 1 つの Tools Customizer 呼び出しのみで使用できます。42 文字を超えるデータ・セット名は、単一引用符 (') で囲む必要があります。

User job card settings for customization jobs

製品のカスタマイズのために生成されたジョブに挿入されるジョブ・カード情報。デフォルト値は、「ISPF Batch Selection」パネルからの JOB ステートメント情報です。

ジョブ・カードの最初の行は、自動的に以下の情報で始まります。

```
//          JOB
```

ここで、3 文字目から 10 文字目は、ジョブ名として Tools Customizer によって確保され、JOB の後には 1 つのブランク・スペースがあります。この名前は編集できません。ジョブ・カードの最初の行で指定する情報は、57 文字を超えることはできません。この文字の長さ制限には、継続文字が含まれます。ジョブ・カードの他の行はすべて、72 文字を超えることはできません。

3. Press End to save and exit. 指定したディスカバー出力データ・セットとデータ・ストア・データ・セットが存在しない場合、Tools Customizer がこれらのデータ・セットを作成します。

重要: Tools Customizer を終了する前に ISPF セッションが予期せず終了した場合は、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) の各フィールドにデフォルト値が再度設定されるため、もう一度、それらを確認するか新規の値を指定することが必要になります。

タスクの結果

値が保管され、「IBM Tools Customizer for z/OS」メインメニュー・パネル (CCQPHME) が再表示されます。

次のタスク

これで、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズまたは再カスタマイズ、あるいはパラメーター設定の変更を行う準備ができました。

関連概念:

3-12 ページの『DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズ』

Tools Customizer を使用した DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズは、カスタマイズする製品の識別、すべての必須の DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition、LPAR、および DB2 パラメーターの定義、カスタマイズ・ジョブの生成、およびジョブの実行依頼から成ります。

パネル・テキストの非表示および表示

Tools Customizer に慣れたら、Tools Customizer のパネルにデフォルトで表示される手順や基本的な説明を非表示にすると良いでしょう。

このタスクについて

OPTIONS コマンドを使用することにより、Tools Customizer のパネル上の次の情報を表示するか非表示にするかを選択できます。

- すべてのパネル上の説明
- 「Customizer Workplace」パネル (CCQPWRK) の「Product to Customize」セクション
- 「Product Parameters」パネル (CCQPPRD)、 「LPAR Parameters」パネル (CCQPLPR)、 および 「DB2 Parameters」パネル (CCQPDB2) の「Usage Notes」セクション。

このような情報を非表示にして、パネルに表示されるデータ量を増やすことができます。後で `OPTIONS` コマンドを使用して情報を再表示することもできます。

手順

1. `Tools Customizer` の任意のパネルで、`OPTIONS` コマンドを発行します。次の図に示すような「`Panel Display Options`」パネル (`CCQPOPT`) が表示されます。デフォルトでは、すべてのオプションが、表示されるようにスラッシュ (/) で事前選択されています。

```

CCQPOPT                Panel Display Options

Select panel display options and press Enter. To cancel, press End.

Panel Display Options
Specify a slash (/) to select options.
/ Show the panel instructions
/ Show the Product to Customize section
/ Show the Usage Notes section
Command ==>>

```

図 3-2. 「`Panel Display Options`」パネル (`CCQPOPT`)

2. オプションを非表示にするには、スラッシュを外して `Enter` を押します。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズ

`Tools Customizer` を使用した `DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition` のカスタマイズは、カスタマイズする製品の識別、すべての必須の `DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition`、`LPAR`、および `DB2` パラメーターの定義、カスタマイズ・ジョブの生成、およびジョブの実行依頼から成ります。

カスタマイズのロードマップでは、`DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition` のカスタマイズに必要な手順について説明します。もっとも一般的な 3 つのタイプのカスタマイズに、別々のロードマップが用意されています。

次の表を使用して、ご使用の環境にどのロードマップが対応するかを判別してください。

表 3-3. カスタマイズのロードマップ

環境記述	ロードマップ
カスタマイズされたバージョンの、 <code>DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition</code> がなく、それを初めてカスタマイズする必要がある。	3-13 ページの『ロードマップ: <code>DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition</code> の初めてのカスタマイズ』

表 3-3. カスタマイズのロードマップ (続き)

環境記述	ロードマップ
既にあるバージョンの DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズ済みであり、同じパラメーター値を使用して別のバージョンをカスタマイズしたい。	3-15 ページの『ロードマップ: 以前のカスタマイズを基にした、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンのカスタマイズ』
カスタマイズされたバージョンの、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition があるが、1 つ以上のパラメーター値を変更したい。	3-16 ページの『ロードマップ: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の再カスタマイズ』

ロードマップ: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の初めてのカスタマイズ

このロードマップでは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition を初めてカスタマイズするのに必要な手順をリストし、説明します。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の前のバージョンをカスタマイズする場合は、3-15 ページの『ロードマップ: 以前のカスタマイズを基にした、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンのカスタマイズ』を参照してください。

これらの手順を実行する前に、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Tools Customizer を開始する前に実行する必要がある、製品のカスタマイズ手順はすべて実行済みである。
- ジョブの実行依頼に必要な LPAR ISPF ライブラリーが判明している。
- Tools Customizer が開始されている。
- Tools Customizer の設定が検討または変更済みであり、保管されている。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition を初めてカスタマイズするには、以下の表の手順を実行してください。

表 3-4. DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition を初めてカスタマイズするための手順

手順	説明	指示
1	カスタマイズする製品の製品メタデータ・ライブラリーを指定します。このライブラリーの名前は、 <i>hlq.SHLOHLRDENU</i> です。	3-18 ページの『カスタマイズする製品のメタデータ・ライブラリーの指定』

表 3-4. DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition
を初めてカスタマイズするための手順 (続き)

手順	説明	指示
2	新しい DB2 エントリーを作成し、それらを DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けます。	3-22 ページの『DB2 エントリーの作成と関連付け』
3	必須パラメーターを定義します。	3-30 ページの『パラメーターの定義』
4	製品、または DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズの準備ができていない DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブを生成します。	3-37 ページの『カスタマイズ・ジョブの生成』
5	生成したカスタマイズ・ジョブを実行依頼します。	3-38 ページの『カスタマイズ・ジョブの実行依頼』

次の表では、カスタマイズ・プロセス中に実行することが必要な場合がある共通の管理用タスクのいくつかをリストしています。

表 3-5. 管理用タスク

説明	指示
DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の複数の構成を管理します。	3-24 ページの『複数の構成の管理』
さまざまなタイプのパラメーターをブラウズします。	3-41 ページの『パラメーターのブラウズ』
既存の DB2 エントリーを、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズできる DB2 エントリーのリストにコピーします。	3-41 ページの『DB2 エントリーのコピー』
1 つ以上の DB2 エントリーを関連リストから除去します。	3-43 ページの『DB2 エントリーの除去』
1 つ以上の DB2 エントリーをマスター・リストから削除します。	3-44 ページの『DB2 エントリーの削除』
以前に生成されたカスタマイズ・ジョブのリストを表示します。	3-45 ページの『カスタマイズ・ジョブの表示』
カスタマイズ・ライブラリー内のカスタマイズ・ジョブを保守します。	3-45 ページの『カスタマイズ・ジョブの保守』

ロードマップ: 以前のカスタマイズを基にした、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンのカスタマイズ

このロードマップでは、同じ製品の旧バージョンにおける既存のカスタマイズ値に基づいて、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンをカスタマイズするための手順をリストし、説明します。

前のバージョンの DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition が Tools Customizer を使用してカスタマイズされていない場合でも、このロードマップを使用してください。

これらの手順を実行する前に、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Tools Customizer を開始する前に実行する必要がある、製品のカスタマイズ手順はすべて実行済みである。
- Tools Customizer が開始されている。
- Tools Customizer の設定が検討または変更済みであり、保管されている。

以前のカスタマイズを基に DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンをカスタマイズするには、以下の表の手順を実行してください。

表 3-6. 以前のカスタマイズを基にして DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の新バージョンをカスタマイズするための手順

手順	説明	指示
1	カスタマイズする製品の製品メタデータ・ライブラリーを指定します。このライブラリーの名前は、 <i>hlq.SHLOHLRDENU</i> です。	3-18 ページの『カスタマイズする製品のメタデータ・ライブラリーの指定』
2	DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を使用して、以前に手動でカスタマイズした DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のバージョンに関する情報を検出します。	3-19 ページの『DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition 情報の自動検出』
3	必須パラメーターを定義します。	3-30 ページの『パラメーターの定義』
4	製品、または DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズを行う準備ができていない DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブを生成します。	3-37 ページの『カスタマイズ・ジョブの生成』
5	生成したカスタマイズ・ジョブを実行依頼します。	3-38 ページの『カスタマイズ・ジョブの実行依頼』

次の表では、カスタマイズ・プロセス中に実行することが必要な場合がある共通の管理用タスクのいくつかをリストしています。

表 3-7. 管理用タスク

説明	指示
DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の複数の構成を管理します。	3-24 ページの『複数の構成の管理』
さまざまなタイプのパラメーターをブラウズします。	3-41 ページの『パラメーターのブラウズ』
既存の DB2 エントリーを、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズできる DB2 エントリーのリストにコピーします。	3-41 ページの『DB2 エントリーのコピー』
1 つ以上の DB2 エントリーを関連リストから除去します。	3-43 ページの『DB2 エントリーの除去』
1 つ以上の DB2 エントリーをマスター・リストから削除します。	3-44 ページの『DB2 エントリーの削除』
以前に生成されたカスタマイズ・ジョブのリストを表示します。	3-45 ページの『カスタマイズ・ジョブの表示』
カスタマイズ・ライブラリー内のカスタマイズ・ジョブを保守します。	3-45 ページの『カスタマイズ・ジョブの保守』

ロードマップ: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の再カスタマイズ

このロードマップでは、最初のカスタマイズが完了した後に、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionのパラメーター値を変更してカスタマイズ・ジョブを再生成するための手順をリストし、説明します。

新しいカスタマイズ・ジョブが、以前に生成され、カスタマイズ・ライブラリーに保管されたカスタマイズ・ジョブに取って代わります。再カスタマイズ・プロセスの一部には、オプションのタスクまたはステップの選択または選択解除、もしくは既に定義されているパラメーターの定義の変更、もしくはその両方が含まれます。カスタマイズ・ライブラリーからカスタマイズ・ジョブを削除するのではなく、このロードマップの方法を使用してください。

これらの手順を実行する前に、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Tools Customizer を開始する前に実行する必要がある、製品のカスタマイズ手順はすべて実行済みである。
- Tools Customizer が開始されている。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition を再カスタマイズするには、以下の表の手順を実行してください。

表 3-8. DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の再カスタマイズに必要な手順

手順	説明	指示
1	再カスタマイズする製品の製品メタデータ・ライブラリーを指定します。このライブラリーの名前は、 <i>hlq.SHLOHLRDENU</i> です。	3-18 ページの『カスタマイズする製品のメタデータ・ライブラリーの指定』
2	変更する必要がある特定のタスク、ステップ、またはパラメーターを編集します。	<ul style="list-style-type: none"> 3-31 ページの『DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のパラメーターの定義』 3-33 ページの『LPAR パラメーターの定義』 3-35 ページの『DB2 パラメーターの定義』
3	製品、または DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズの準備ができていない DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブを生成します。	3-37 ページの『カスタマイズ・ジョブの生成』
4	新たに生成されたカスタマイズ・ジョブを実行依頼します。	3-38 ページの『カスタマイズ・ジョブの実行依頼』

次の表では、カスタマイズ・プロセス中に実行することが必要な場合がある共通の管理用タスクのいくつかをリストしています。

表 3-9. 管理用タスク

説明	指示
DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の複数の構成を管理します。	3-24 ページの『複数の構成の管理』
さまざまなタイプのパラメーターをブラウズします。	3-41 ページの『パラメーターのブラウズ』
既存の DB2 エントリーを、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズできる DB2 エントリーのリストにコピーします。	3-41 ページの『DB2 エントリーのコピー』
1 つ以上の DB2 エントリーを関連リストから除去します。	3-43 ページの『DB2 エントリーの除去』
1 つ以上の DB2 エントリーをマスター・リストから削除します。	3-44 ページの『DB2 エントリーの削除』
以前に生成されたカスタマイズ・ジョブのリストを表示します。	3-45 ページの『カスタマイズ・ジョブの表示』
カスタマイズ・ライブラリー内のカスタマイズ・ジョブを保守します。	3-45 ページの『カスタマイズ・ジョブの保守』

カスタマイズする製品のメタデータ・ライブラリーの指定

カスタマイズする製品のメタデータ・ライブラリーを指定する必要があります。

このタスクについて

製品メタデータ・ライブラリーには、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズに必要なタスク、ステップ、およびパラメーターを決定する情報が入っています。この情報により、「Product Parameters」パネル、「LPAR Parameters」パネル、および「DB2 Parameters」パネルに表示される内容が制御されます。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition が SMP/E を使用してインストールされた後、製品のメタデータ・ライブラリーのデフォルト名は `high_level_qualifier.SHLOHLRDENU` になります。ここで、`high_level_qualifier` は、最低位修飾子を除くデータ・セット名のすべてのセグメントです。

手順

1. 「Tools Customizer for z/OS」パネルでオプション 1 を指定します。「Specify the Metadata Library」パネルが表示されます。このパネルに、最近指定した製品メタデータ・ライブラリーのリストが示されます。Tools Customizer を初めて使用する場合は、次の図に示されているようにこのリストは空です。

```
CCQPHLQ      Specify the Product or Pack Metadata Library      HH:MM:SS
Command ==>>                                         Scroll ==>> PAGE

Type the name of the metadata library for the pack or the product in the
Metadata library field, or select the library in the list of previous
libraries and press Enter to populate the field. Press Enter to continue.

The default name of the metadata library after the product or the pack has been
SMP/E installed is <hlq>.SxxxDENU, where <hlq> is the high-level qualifier for
the product or the pack, and xxx is the three-character prefix for the product
or the pack.

Product or pack metadata library . . HLO.WRK0210.SHLODENU
Previously Used Metadata Library:

=>
=>
```

図 3-3. 「Specify the Metadata Library」パネル

2. 次のいずれかの方式を使用して、製品のメタデータ・ライブラリーを指定します。
 - 完全修飾区分データ・セット (PDS) または拡張区分データ・セット (PDSE) の名前を「**Metadata library**」フィールドに入力します。名前の前後に二重引用符 (") を使用することはできません。単一引用符 (') は使用できますが、必須ではありません。DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition を初めてカスタマイズする場合は、この方式を使用する必要があります。
 - 「Recent Metadata Libraries」リストのライブラリー名にカーソルを置き、Enter を押します。

タスクの結果

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionを初めてカスタマイズする場合は、「Run Discover EXEC」パネルが表示されます。そうでなければ「Customizer Workplace」パネルが表示され、基本構成のみがある場合や複数の構成がある場合は、「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示されます。

次のタスク

- ご使用の環境に対応するステップを実行します。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の初めてのカスタマイズ

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition Discover EXEC を実行しないでください。End を押します。「Customizer Workplace」パネルが表示されます。ご使用の環境に関連 DB2 エントリーが必要な場合、それらが作成され、関連付けられていることを確実にします。ご使用の環境に関連 DB2 エントリーが必要ない場合は、このステップをスキップし、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition パラメーターを編集します。

以前または現在のカスタマイズからの**DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition**のカスタマイズ

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition Discover EXEC を使用して、DB2 Change Accumulation Tool V3.1 の以前または現在のカスタマイズから情報を検出できます。Enter を押して DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition Discover EXEC を実行します。「Discover Customized Product Information」パネルが表示されます。EXEC を実行するのに必要な情報を指定します。

検出または手動で定義された複数の構成を使用した **DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition** のカスタマイズ使用したい 1 つ以上の構成を選択します。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition 情報の自動検出

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition Discover EXEC を使用して DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionの以前のカスタマイズまたは現在のカスタマイズから情報を検出できます。

このタスクについて

ヒント: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を使用して、以前または現在のカスタマイズから情報を検出すると、時間が節約され、パラメーターの手動指定時に発生する可能性があるエラーが減少します。

実行する Discover EXEC は、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionによって提供されます。したがって、検出できる情報は、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionによって異なります。

検出されるパラメーター値、および手動で指定されるパラメーター値は、データ・ストアに保管されます。カスタマイズしたい製品のパラメーター値がデータ・ストアに存在する場合、Tools Customizer は、既存の値が置き換えられる前に警告を出します。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、DISCOVER コマンドを発行します。カスタマイズする製品を指定した後、ポップアップ・パネルで DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を実行することを選択した場合は、このステップをスキップしてください。

ヒント: 以下のいずれかの方式を使用して、Tools Customizer の任意の基本コマンドを実行できます。

- 基本コマンドの名前にカーソルを置き、Enter を押します。
- コマンド行に基本コマンド名を入力し、Enter を押します。

次の図のような「Discover Customized Product Information」パネルが表示されます。

```
CCQPDSC          Discover Customized Product Information          11:49:34
Command ==>>>          Scroll ==>>> CSR

For the product you are customizing, the Discover EXEC retrieves product
information from an already customized product. Specify the required
information. To save your information and run the Discover EXEC, issue the RUN
command. To save your information and stay on this panel, issue the SAVE
command. To verify the syntax of your information without saving it, press
Enter. To save and exit, press End.

Commands: RUN  SAVE

Product to Customize
Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU > LPAR . . . : RS22
Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelera > Version . : 1.1.0

Discover EXEC for Extracting Information from an Already Customized product
Discover EXEC library . . . HLO.WRK0210.SHLODENU
Discover EXEC name . . . . : HLODISC
Discover output data set . . CSJENN.ALL.DISCOVER

Information for Discover EXEC
*DB2 HLO User Indicator . . . . . HLO
*Previous installation control file
  DB2TOOL.V110.CONTROL
*Previous installation SHLOSAMP data set
  HLO.V110.SHLOSAMP
*Previous installation OPTS module name . . HLO10PTS
```

図 3-4. 「Discover Customized Product Information」パネル

2. Tools Customizer が生成する、以下の入力フィールドのデフォルト値を受け入れるか、デフォルト値を独自の値で置き換えます。

Discover EXEC ライブラリー

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionの Discover EXEC を含む完全修飾データ・セット名。

Discover EXEC name

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionの Discover EXEC の名前。

ディスカバー出力データ・セット

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionの Discover EXEC からの出力が保管される先の完全修飾データ・セット。

3. 「**Information for Discover EXEC**」フィールドのデフォルト値を受け入れるか、変更します。これらのフィールドは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition によって生成されます。これらのフィールドは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC の実行に必要な情報を示します。
4. RUN コマンドを発行して、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を実行します。または、SAVE コマンドを発行することによって、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を実行することなく情報を保管します。RUN コマンドを発行して DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を実行する場合、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のパラメーター情報が検出され、「Customizer Workplace」パネルが表示されます。

タスクの結果

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition について検出されたパラメーター値が、既存のすべての値に取って代わります。

次のタスク

次のステップは、ご使用の環境に応じて異なります。

- DB2 エントリーが検出されなかったか、新しい DB2 エントリーに対して DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズする必要がある場合は、それらのエントリーを作成し、関連付けます。
- DB2 エントリーが検出され、これらのエントリーに対してのみ DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズしたい場合は、パラメーターを定義します。

関連タスク:

『DB2 エントリーの作成と関連付け』

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の場合、新しい DB2 エントリーを作成し、それらを DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けることができます。

3-30 ページの『パラメーターの定義』

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするには、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionのパラメーター、LPAR パラメーター、および DB2 パラメーター (カスタマイズに DB2 エントリーが必要な場合) を定義する必要があります。

DB2 エントリーの作成と関連付け

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の場合、新しい DB2 エントリーを作成し、それらを DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けることができます。

このタスクについて

関連した DB2 エントリーのリストが、「Customizer Workplace」パネルに表示されます。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで ASSOCIATE コマンドを発行します。次の図のような「Associate DB2 Entry for Product」パネルが表示されます。

```
CCQPDA          Associate DB2 Entry for Product          10:07:28
Command ==>>>                               Scroll ==>> CSR

Select any of the following DB2 entries to add them to the Customizer
Workplace panel. You use the Customizer Workplace panel to choose the DB2
subsystems, data sharing members, and group attach names on which to
customize the product.

Commands: CREATE - Create new DB2 entries

Product to Customize
Product metadata library : HLO.WRK0210.SHLODENU > LPAR . . . : RS25
Product name . . . . . : IBM DB2 Analytics Accelerator
Product version . . . . . : 2.1.0
Line commands: A - Associate C - Copy
Cmd SSID GrpAttch
----- End of DB2 entries -----
```

図 3-5. 「Associate DB2 Entry for Product」パネル

2. DB2 エントリーを作成します。既にマスター・リストにある DB2 エントリーを関連付ける必要がある場合は、このステップをスキップしてステップ 3 に進んでください。
 - a. CREATE コマンドを発行します。次の図に示されているように、「Create DB2 Entries」パネルが表示されます。


```

CCQPDCR          Create a DB2 Entry
Command ==>>>

Specify a DB2 subsystem ID, a DB2 group attach name, or both for the
new DB2 entry. Press Enter to continue or End to cancel.

New DB2 Entry Information
DB2 subsystem ID . . . . .
DB2 group attach name . .

```

図 3-6. 「Create a DB2 Entry」 パネル

- b. 該当する列で、作成する DB2 エントリーの、DB2 サブシステム ID、DB2 グループ接続名、または DB2 データ共有メンバー名を指定し、Enter を押します。有効な値は 1 から 4 文字です。シンボリック文字を使用することもできます。ブランクは使用できません。

ヒント:

- 複数の DB2 エントリーを挿入するには、*nn* 行コマンドを指定します。ここで *nn* は、挿入する DB2 エントリーの数です。
- 「DB2 Parameters」パネルで、これらの新しい DB2 エントリーに特定のパラメーター (サブシステムを 1 次として定義するパラメーターなど) を定義します。このパネルが表示されるのは、これらの新しい DB2 エントリーを選択し、行コマンドを発行してジョブを生成した後、または関連したすべての DB2 エントリーのジョブを生成するための基本コマンドを発行した後、または DB2 パラメーターを手動で編集するときです。

次の図のような「Associate DB2 Entry for Product」パネルが表示され、マスター・リストに新しい DB2 エントリーが表示されます。

```

CCQPDA          Associate DB2 Entry for Product          Row 1 to 3 of 3
Command ==>>>                                         Scroll ==>>> CSR

Select any of the following DB2 entries to add them to the Customizer
Workplace panel. You use the Customizer Workplace panel to choose the DB2
subsystems, data sharing members, and group attach names on which to
customize the product.

Commands: CREATE - Create a new DB2 entry

DB2 Entries
Line commands: A - Associate C - Copy D - Delete
Cmd SSID Grpattach
DBAA  --
DBAB  --
DBAC  --
----- End of DB2 entries -----

```

図 3-7. 「Associate DB2 Entry for Product」 パネル

- c. 作成したい DB2 エントリーごとにステップ b および c を繰り返します。
 - d. すべての DB2 エントリーを作成したら、それらを DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けるか、End を押して「Customizer Workplace」パネルを表示します。
3. DB2 エントリーを関連付けます。

- a. マスター・リスト内の 1 つ以上の DB2 エントリーに対して A を指定し、Enter を押してそれらを DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けます。

タスクの結果

「Customizer Workplace」パネルが表示され、関連した DB2 エントリーが関連リストに表示されます。

次のタスク

パラメーターを定義します。

関連概念:

12-1 ページの『Tools Customizer の用語』

Tools Customizer では、複数の固有の用語を使用します。Tools Customizer の使用を開始する前にこれらの用語を理解しておく必要があります。

複数の構成の管理

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition は複数の構成をサポートします。構成とは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするジョブの生成に使用する、指定したパラメーター値、選択したタスクとステップ、および関連付けた DB2 エントリーの固有のセットです。

例えば、開発環境、テスト環境、および実稼働環境用に固有の構成を作成することもできます。

メタデータ・ライブラリーごとに複数の構成を管理できます。構成ごとに別個のカスタマイズ・ジョブが生成されます。

トピック:

- 『構成の選択』
- 3-25 ページの『構成の作成』
- 3-26 ページの『構成のコピー』
- 3-27 ページの『構成の除去』
- 3-29 ページの『構成の編集』
- 3-29 ページの『構成のリストア』

構成の選択

構成を 1 つ選択できます。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、CONFIGURATION コマンドを発行します。次の図に示すような「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示されます。

```

CCQPCNF          Manage Multiple Configurations of a Product   Row 1 to 1 of 1
Command ==>>>                                         Scroll ==>> CSR

Select the configuration that you want to use, or create a new configuration.
Press Enter to continue or End to cancel.

Commands: CREATE - Create a new product configuration

Product to Customize
  Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU   > LPAR . . : RS22
  Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelerato > Version . : 2.1.0

Line commands: / - Select C - Copy R - Remove E - Edit

  Cmd ID  Description
  ----->-----
  HLO  IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS
  ----->----- End of Configurations ----->

```

図 3-8. 「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル

2. 使用する構成に対して / 行コマンドを指定します。次の図に示すような「Customizer Workplace」パネルが表示されます。

```

CCQPWRC          Customizer Workplace                       Scroll ==>> PAGE
Command ==>>>

Use the Generate jobs line command to select the DB2 entries on which to
customize the product, and press Enter to generate the customization jobs.

Commands: ASSOCIATE DISCOVER GENERATEALL JOBLIST CONFIGURATION

Product to Customize
  Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU   > LPAR . . : RS22
  Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelerato > Version . : 2.1.0
  Configuration ID: HLO > Description: DB2 Analytics Accelerator Loader >

Product and LPAR Parameter Status
  Line commands: E - Edit B - Browse
  Product Parameters . . : Incomplete
  LPAR parameters . . . : Not Required

Associated DB2 Entries and Parameter Status
  Line commands: G - Generate jobs E - Edit B - Browse C - Copy R - Remove
  Cmd SSID GrpAttch Lvl Mode User ID Date Status
  ----->----- End of DB2 entries ----->

```

図 3-9. 「Customizer Workplace」パネル

構成の作成

デフォルトの構成に加えて、複数の構成を作成できます。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、CONFIGURATION コマンドを発行します。次の図に示すような「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示されます。

```

CCQPCNF          Manage Multiple Configurations of a Product   Row 1 to 1 of 1
Command ==>>>                                         Scroll ==>>> CSR

Select the configuration that you want to use, or create a new configuration.
Press Enter to continue or End to cancel.

Commands: CREATE - Create a new product configuration

Product to Customize
  Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU      > LPAR . . : RS22
  Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelerato > Version . : 2.1.0

Line commands: / - Select C - Copy R - Remove E - Edit

  Cmd ID  Description
  ----->-----
  HLO  IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS
  ----->----- End of Configurations ----->

```

図 3-10. 「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル

2. CREATE コマンドを発行します。次の図に示すような「Create a New Configuration of a Product」パネルが表示されます。

```

CCQPCCN          Create a New Configuration of a Product
Command ==>>>                                         Scroll ==>>> PAGE

Specify the ID of the new configuration of the product and a
description of the configuration. The new configuration will
contain the default values for all parameters. Press Enter to
continue or End to cancel.

New Configuration
  ID. . . . . >
  Description . >

```

図 3-11. 「Create a New Configuration of a Product」パネル

3. 「ID」フィールドに、構成の ID を指定します。有効な値の長さは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionによって設定されます。
4. 「Description」フィールドに、構成の説明を記述します。有効な値は 1 文字から 72 文字までです。
5. Enter を押します。「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示され、新しい構成が表に示されます。

構成のコピー

構成をコピーして名前を変更することで、保管したパラメーター値、選択したタスクやステップ、および関連 DB2 エントリーを大量に再利用することができます。

このタスクについて

ほとんど同じ値を使用するが、いくつか変更する必要がある場合は、構成をコピーすると便利です。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、CONFIGURATION コマンドを発行します。次の図に示すような「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示されます。

```
CCQP CNF          Manage Multiple Configurations of a Product   Row 1 to 1 of 1
Command ==>>>                                         Scroll ==>> CSR

Select the configuration that you want to use, or create a new configuration.
Press Enter to continue or End to cancel.

Commands: CREATE - Create a new product configuration

Product to Customize
Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU      > LPAR . . . : RS22
Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelerato > Version . . : 2.1.0

Line commands: / - Select  C - Copy  R - Remove  E - Edit

Cmd ID  Description
- ----> -----
      HLO  IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS
----- End of Configurations -----
```

図 3-12. 「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル

2. コピーする構成に対して C 行コマンドを指定します。次の図に示すような「Copy a Configuration of a Product」パネルが表示されます。情報のコピー元の構成の ID と説明が「From Configuration」セクションに示されます。

```
CCQPCCY          Copy a Configuration of a Product
Command ==>>>                                         Scroll ==>> CSR

Specify the ID of the configuration to which information will be
copied, and specify a description of the configuration. Press Enter
to continue or End to cancel.

From Configuration
ID . . . . . : HLO >
Description . : IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS >

To Configuration
ID . . . . . >
Description . >
```

図 3-13. 「Copy a Configuration of a Product」パネル

3. 「To Configuration」セクションにある「ID」フィールドに、構成の ID を指定します。有効な値の長さは、DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionによって設定されます。
4. 「To Configuration」セクションにある「Description」フィールドに、構成の説明を記述します。有効な値は 1 文字から 72 文字までです。
5. Enter を押します。「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示され、コピーした構成が表に示されます。

構成の除去

不要になった構成は除去することができます。

このタスクについて

使用しない構成を除去したい場合があります。以下のステップを実行すると、「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル上のリストからのみ、構成が除去されます。再び必要になった場合はリストアすることができます。

カスタマイズされた構成を除去する場合は、カスタマイズ・ジョブも除去されません。

制約事項: 現在使用中の構成、および表に 1 つしかない構成を除去することはできません。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、CONFIGURATION コマンドを発行します。次の図に示すような「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示されます。

```
CCQPCNF          Manage Multiple Configurations of a Product  Row 1 to 1 of 1
Command ==>>>                                         Scroll ==>> CSR

Select the configuration that you want to use, or create a new configuration.
Press Enter to continue or End to cancel.

Commands: CREATE - Create a new product configuration

Product to Customize
  Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU      > LPAR . . . : RS22
  Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelerato > Version . . : 2.1.0

Line commands: / - Select C - Copy R - Remove E - Edit

  Cmd ID  Description
  -----
  - >>>----->
    HLO  IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS
  -----
  ----- End of Configurations -----
```

図 3-14. 「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル

2. 除去する構成の ID に対して R 行コマンドを指定します。次の図に示すような「Remove a Configuration of a Product」パネルが表示されます。

```
CCQPCRM          Remove a Customized Configuration of a Product
Command ==>>>                                         Scroll ==>> CSR

The following configuration was previously customized. If you
remove the configuration, it will be removed from the list, and
all customization jobs for this configuration will be removed.
Press Enter to remove this configuration and its customization
jobs, or press End to cancel.

Remove Configuration
ID. . . . . : HLO >
Description .: New configuration >
```

図 3-15. 「Remove a Configuration of a Product」パネル

3. Enter を押して構成を除去します。「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示されますが、除去した構成は表に示されません。

構成の編集

構成の ID と説明を編集できます。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、CONFIGURATION コマンドを発行します。次の図に示すような「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示されます。

```
CCQPCNF          Manage Multiple Configurations of a Product   Row 1 to 1 of 1
Command ==>                                           Scroll ==> CSR

Select the configuration that you want to use, or create a new configuration.
Press Enter to continue or End to cancel.

Commands: CREATE - Create a new product configuration

Product to Customize
  Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU      > LPAR . . . : RS22
  Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelerato > Version . . : 2.1.0

Line commands: / - Select  C - Copy  R - Remove  E - Edit

  Cmd ID  Description
  - ----> -----
    HLO  IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS
  ----- End of Configurations -----
```

図 3-16. 「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル

2. 構成 ID の横に E を指定し、Enter を押します。次の図に示すような「Edit a Configuration of a Product」パネルが表示されます。

```
CCQPCEd          Edit a Configuration of a Product
Command ==>                                           Scroll ==> CSR

Specify a new ID and description for the configuration and press Enter
to continue or End to cancel.

構成
  ID. . . . . HLO >
  Description . IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS >
```

図 3-17. 「Edit a Configuration of a Product」パネル

3. 構成 ID または構成の説明、あるいはその両方を編集します。
 - 「ID」フィールドで、構成の ID を編集します。有効な値の長さは、DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionによって設定されます。
 - 「Description」フィールドで、構成の説明を編集します。有効な値は 1 文字から 72 文字までです。
4. Enter を押します。「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示され、変更された構成が表にリストされます。

構成のリストア

以前に除去した構成をリストアできます。

このタスクについて

除去する構成は、「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル上のリストからのみ除去されます。削除されるわけではありません。再び必要になった場合はリストアすることができます。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、CONFIGURATION コマンドを発行します。次の図に示すような「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示されます。

```
CCQPCNF          Manage Multiple Configurations of a Product   Row 1 to 1 of 1
Command ==>>>                                         Scroll ==>> CSR

Select the configuration that you want to use, or create a new configuration.
Press Enter to continue or End to cancel.

Commands: CREATE - Create a new product configuration

Product to Customize
  Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU      > LPAR . . . : RS22
  Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelerato > Version . . : 2.1.0

Line commands: / - Select  C - Copy  R - Remove  E - Edit

  Cmd ID  Description
  - ---->-----
    HLO  IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS
  ----- End of Configurations -----
```

図 3-18. 「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル

2. 次のいずれかの方法で、構成をリストアします。
 - CREATE コマンドを発行します。
 - 構成 ID に対して C 行コマンドを指定します。
3. 「ID」フィールドで、リストアする構成の ID を指定します。有効な値の長さは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionによって設定されます。
4. 「Description」フィールドに、構成の説明を記述します。この説明は、元の構成の説明と異なってもかまいません。有効な値は 1 文字から 72 文字までです。
5. Enter を押します。「Manage Multiple Configurations of a Product」パネルが表示され、リストアされた構成がリストされます。

パラメーターの定義

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするには、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionのパラメーター、LPAR パラメーター、および DB2 パラメーター (カスタマイズに DB2 エントリーが必要な場合) を定義する必要があります。

このタスクについて

以下の理由で、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のパラメーターを最初に定義する必要があります。

- DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を実行した場合は、検出された値を確認する必要があります。
- 「Product Parameters」パネルで、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズする DB2 エントリーに影響を与えるオプションのタスクおよびステップを選択した場合、「DB2 Parameters」パネルに追加のパラメーターが表示されることがあります。
- 他のステップを特定の順序で実行する必要がある場合、「Product Parameters」パネルのカスタマイズの注記に正しい順序が表示されます。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のパラメーターの定義

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionのパラメーターは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition 固有のパラメーターです。

このタスクについて

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を実行した場合は、検出されたパラメーターを確認する必要があります。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルの「**Product parameters**」フィールドの横に、E を指定し、Enter を押します。次の図のような「Product Parameters」パネルが表示されます。DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のパラメーターを定義する前に、他のステップを特定の順序で実行する必要がある場合は、このパネルの「**Important**」というラベルが付いた注記に正しい順序が表示されます。

```

CCQPPRD          Product Parameters          11:42:56
Command ==>>>          Scroll ==>> CSR

Complete the following tasks to customize the products. The required tasks,
required steps within a required or selected task, and required parameters
are preceded by an asterisk (*). Ensure that values are specified for the
required parameters. Press End to save and exit.

Commands: SAVE - Save parameter values
Line Commands: / - Select

Product customization library : CSUSER.TESTB.$RS22$.HL0210

Usage Notes:
- Tools Customizer displays some parameters only after you have selected
  tasks or specified values on the Product Parameters panel. Therefore, you
  must first define a primary SSID on the DB2 Parameters panel, then select
  values on the Product Parameters panel. Return to the DB2 Parameters panel
  to review options that were added as a result of your specifications on
  the Product Parameters panel.

Common parameters
Accelerator Loader Server high-level qualifier
  CSUSER.HLV
*Accelerator Loader high-level qualifier
  CSUSER.HLO
  FEC common code high-level qualifier
  CSUSER.FEC
* Configure the product CLISTS

* Configure the startup CLISTS
*Startup CLIST library CSUSER.HLO.SHLOCLST
*Startup CLIST 1 . . . . . HLOV21
*Startup CLIST 2 . . . . . HL0V21C
*User indicator . . . . . HLO

* Create the started task and its components
*Started task identifier . . . . . HL01

* Create PROC, PLCY, and other SAMPLIB members

```

図 3-19. 「Product Parameters」 パネル

2. 必須のタスクおよびステップをすべて選択し、すべてのパラメーターに値を指定します。スラッシュ (/) を指定してタスクまたはステップを選択した後、選択したフィールドにカーソルを置き、Enter を押します。タスク、ステップ、およびパラメーターが必須である場合、それらはスラッシュ (/) 付きで事前選択されます。そうでない場合は、事前選択されません。

すべての必須パラメーターにはデフォルト値があり、このデフォルト値を受け入れるか、変更することができます。

ヒント:

- コマンド行で KEYS コマンドを指定し、EXPAND をファンクション・キーのいずれかにマップします。
- すべての入力フィールドの詳細な説明については、そのフィールドにカーソルを置いて、F1 キーまたは Help にマップされているキーを押してください。
- 以下のエレメントは、特定のフィールドに適用されます。
 - 複数の値を指定できるパラメーターに、現在は 1 つのみ値が指定されているという場合、「Add...」が表示されます。これらのフィールドに複数

の値を指定するには、「Add...」にカーソルを置いて、Enter を押します。表示されるパネルを使用して、追加の値を追加または削除します。

- 「List...」が表示されるのは、フィールドの有効な値の完全なリストが長すぎてパネルに表示されない場合です。値の完全なリストを表示するには、「List...」にカーソルを置いて、F1 キーまたは Help にマップされているキーを押します。
 - 入力フィールドに複数の値が含まれている場合、「More...」が表示されません。フィールドのすべての値を表示するには、「More...」にカーソルを置いて、Enter を押します。
3. オプション: 他のタスクおよびステップをスラッシュ (/) を使用して選択し、Enter を押して入力フィールドをアクティブにします。表示されるデフォルト値を受け入れるか、変更します。
 4. 変更内容を保管して終了するには End を押します。変更内容を保管し、「Product Parameters」パネルを表示したままにするには SAVE コマンドを発行します。

タスクの結果

「Customizer Workplace」パネルが表示され、製品パラメーターの状況は「Ready to Customize」になります。

次のタスク

「Customizer Workplace」パネル上の他のパラメーターの状況が「Incomplete」または「Discovered」の場合は、それらのパラメーターを編集します。

関連タスク:

『LPAR パラメーターの定義』

LPAR パラメーターとは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズに必要な、ローカル LPAR に関するパラメーターです。

3-35 ページの『DB2 パラメーターの定義』

DB2 パラメーターとは、DB2 エントリーのパラメーターです。

LPAR パラメーターの定義

LPAR パラメーターとは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズに必要な、ローカル LPAR に関するパラメーターです。

手順

1. 「LPAR parameters」フィールドの横に、E を指定し、Enter を押します。次の図に示されているように、「LPAR Parameters」パネルが表示されます。

```

CCQPLPR                      LPAR Parameters                      12:34:14
Command ==>                   Scroll ==> PAGE

Ensure that values are specified for the required LPAR parameters. Press End
to save and exit.

Commands: SAVE - Save parameter values

Product to Customize
Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU > LPAR . . : RS22
Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelera > Version . : 2.1.0
Configuration ID: HLO > Description: DB2 Analytics Accelerator Load >

ISPF Libraries - common
*Message library . . . . . ISP.SISPMENU                      Add
*Panel library . . . . . ISP.SISPPENU                       Add
*Skeleton library . . . . . ISP.SISPSENU                     Add
*ISPF table input library ISP.SISPTENU                       Add

```

図 3-20. 「LPAR Parameters」 パネル

2. 表示されるすべての必須パラメーターに値を指定します。多くのパラメーターにはデフォルト値があり、このデフォルト値を受け入れるか、変更することができます。

ヒント:

- コマンド行で **KEYS** コマンドを指定し、**EXPAND** をファンクション・キーのいずれかにマップします。
- すべての入力フィールドの詳細な説明については、そのフィールドにカーソルを置いて、**F1** キーまたは **Help** にマップされているキーを押してください。
- 以下のエレメントは、特定のフィールドに適用されます。
 - 複数の値を指定できるパラメーターに、現在は 1 つのみ値が指定されているという場合、「**Add...**」が表示されます。これらのフィールドに複数の値を指定するには、「**Add...**」にカーソルを置いて、**Enter** を押します。表示されるパネルを使用して、追加の値を追加または削除します。
 - 「**List...**」が表示されるのは、フィールドの有効な値の完全なリストが長すぎてパネルに表示されない場合です。値の完全なリストを表示するには、「**List...**」にカーソルを置いて、**F1** キーまたは **Help** にマップされているキーを押します。
 - 入力フィールドに複数の値が含まれている場合、「**More...**」が表示されません。フィールドのすべての値を表示するには、「**More...**」にカーソルを置いて、**Enter** を押します。

以下の LPAR パラメーターには 1 から 64 個の値を含めることができます。

- LPAR マクロ・ライブラリー
- メッセージ・ライブラリー
- パネル・ライブラリー
- スケルトン・ライブラリー
- ISPF テーブル入力ライブラリー
- ISPF ユーザー・プロファイル・ライブラリー
- ファイル出力調整ライブラリー

- リンク・リスト・ライブラリー
 - コマンド・プロシージャ・ライブラリー
 - マクロ・ライブラリー
 - リンク・エディット・ライブラリー
 - ロード・ライブラリー
 - 開始タスク・ライブラリー
3. 変更内容を保管して終了するには **End** を押します。変更内容を保管し、同じパネルを表示したままにするには **SAVE** コマンドを発行します。

タスクの結果

「Customizer Workplace」パネルが表示され、LPAR パラメーターの状況は「Ready to Customize」です。

次のタスク

「Customizer Workplace」パネル上の他のパラメーターの状況が「Incomplete」または「Discovered」の場合は、それらのパラメーターを編集します。

関連タスク:

3-31 ページの『DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のパラメーターの定義』

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionのパラメーターは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition 固有のパラメーターです。

『DB2 パラメーターの定義』

DB2 パラメーターとは、DB2 エントリーのパラメーターです。

DB2 パラメーターの定義

DB2 パラメーターとは、DB2 エントリーのパラメーターです。

このタスクについて

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC を実行しなかった場合、DB2 パラメーターを定義するためには、その前に 1 つ以上の DB2 エントリーを作成し、関連付ける必要があります。詳しくは、3-22 ページの『DB2 エントリーの作成と関連付け』を参照してください。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルの「Associated DB2 Entries and Parameter Status」セクションにある、関連リスト内の 1 つ以上の DB2 エントリーの横に、E を指定し、Enter を押します。次の図に示されているように、「DB2 Parameters」パネルが表示されます。

```

CCQPDB2                      DB2 Parameters                      Top of data
Command ===>                  Scroll ==> CSR

Ensure that values are specified for the required DB2 parameters. Press End
to save and exit.

Commands: SAVE - Save parameter values

Product to Customize
Product metadata library . : HLO.WRK0210.SHLODENU > LPAR . . : RS22
Product name . . . . . : DB2 Analytics Accelera > Version . : 2.1.0
Configuration ID: HLO > Description: DB2 Analytics Accelerator Load >

DB2 subsystem ID . . . . . : DA1A
Group attach name . . . . . :
*This is the primary subsystem . . . . . YES (YES, NO)

General DB2 Information
*Mode . . . . . NFM (NFM, CM)
*Level number . . . . . 101 (101, 111)

DB2 Libraries - common
*Load library . . . . . DSN.SDSNLOAD                      Add
*Run library . . . . . DSN.RUNLIB.LOAD                    Add
*Exit library . . . . . DSN.SDSNEXIT                      Add
DB2 Utilities - common
SYSAFF for DB2 utilities . . . . .
*DSNTEP2 plan name . . . . . DSNTEP2

Accelerator Loader BIND Parameters
*Accelerator Loader plan name . . . . . HLOV21PL
*BIND owner ID . . . . . DB2USER >
*User ID for GRANT statement . . . . . PUBLIC

Accelerator Loader DB2 Parameters
*SET CURRENT SQLID . . . . . DB2USER
*Accelerator Loader database name . . . . . HLOV21DB
*Accelerator Loader Table schema . . . . . HLOV21TB >
*Accelerator Loader database STOGROUP . . . . . SYSDEFLT >
*Accelerator Loader index STOGROUP . . . . . SYSDEFLT >
*Accelerator Loader table space buffer pool BP0

```

図 3-21. 「DB2 Parameters」 パネル

```

CCQPDB2                      DB2 Parameters                      11:18:05
Command ===>                  Scroll ==> PAGE

Ensure that values are specified for the required DB2 parameters. Press End
to save and exit.

Commands: SAVE VERIFYOFF
DB2 subsystem ID . . . . . : DSNB
Group attach name . . . . . :
Started task name for MSTR services . . . . .

General DB2 Information - common
*Mode . . . . . NFM (CM, CM8, CM9, NFM)
*Level number . . . . . 111 (101, 111)

DB2 Utilities - common
SYSAFF for DB2 utilities . . . . . SY4A
*Plan name for the DSNTEP2 utility . . . . . DSNTEP2

```

図 3-22.

2. 表示されるすべてのパラメーターに値を指定します。

ヒント:

- コマンド行で KEYS コマンドを指定し、EXPAND をファンクション・キーのいずれかにマップします。
- すべての入力フィールドの詳細な説明については、そのフィールドにカーソルを置いて、F1 キーまたは Help にマップされているキーを押してください。
- 以下のエレメントは、特定のフィールドに適用されます。
 - 複数の値を指定できるパラメーターに、現在は 1 つのみ値が指定されているという場合、「Add...」が表示されます。これらのフィールドに複数の値を指定するには、「Add...」にカーソルを置いて、Enter を押します。表示されるパネルを使用して、追加の値を追加または削除します。
 - 「List...」が表示されるのは、フィールドの有効な値の完全なリストが長すぎてパネルに表示されない場合です。値の完全なリストを表示するには、「List...」にカーソルを置いて、F1 キーまたは Help にマップされているキーを押します。
 - 入力フィールドに複数の値が含まれている場合、「More...」が表示されます。フィールドのすべての値を表示するには、「More...」にカーソルを置いて、Enter を押します。

多くのパラメーターにはデフォルト値があり、このデフォルト値を受け入れるか、変更することができます。

3. 変更内容を保管して終了するには End を押します。変更内容を保管し、同じパネルを表示したままにするには SAVE コマンドを発行します。

タスクの結果

「Customizer Workplace」パネルで選択した DB2 エントリーの状況が「Ready to Customize」になります。

次のタスク

「Customizer Workplace」パネル上の他のパラメーターの状況が「Incomplete」または「Discovered」の場合は、それらのパラメーターを編集します。

関連タスク:

3-31 ページの『DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のパラメーターの定義』

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionのパラメーターは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition 固有のパラメーターです。

3-33 ページの『LPAR パラメーターの定義』

LPAR パラメーターとは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズに必要な、ローカル LPAR に関するパラメーターです。

カスタマイズ・ジョブの生成

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition および関連する任意の DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブを生成する

には、GENERATEALL コマンドを発行するか、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionをカスタマイズする 1 つ以上の DB2 エントリーを選択します。

手順

以下のいずれかの方法を使用して、カスタマイズ・ジョブを生成します。

- 製品レベルおよび任意の関連 DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブを生成したい場合は、GENERATEALL コマンドを発行して、Enter を押します。
- 特定の DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブを生成したい場合は、DB2 エントリーに対して G 行コマンドを指定してそれらのエントリーを選択し、Enter を押します。使用可能な DB2 エントリーは「Associated DB2 Entries and Parameter Status」セクションの関連リスト内に表示されます。

重要: カスタマイズ・ジョブを再生成すると、既存のジョブが置き換えられます。その中には、生成後に手動で変更したジョブも含まれる可能性があります。

タスクの結果

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のパラメーター、LPAR パラメーター、または DB2 パラメーターの状況が「Incomplete」または「Discovered」である場合、Tools Customizer は、必要なパラメーターのタイプの編集セッションを自動的に開始します。必要なパラメーターのタイプごとのパネルが表示されるまで、セッションは続行します。

次のタスク

自動編集セッションが開始する場合、表示されるパラメーター値を受け入れるか、必要なパラメーター・タイプの値を定義し、ご使用の環境のオプション・パラメーター、タスク、またはステップを選択し、パラメーター値を保管します。そうでない場合は、カスタマイズ・ジョブが生成され、それらを実行依頼することができます。

ヒント: カスタマイズ・ジョブが生成されるにもかかわらず、それらを実行依頼する準備ができていない場合は、「Customizer Workplace」パネルで JOBLIST コマンドを発行して、それらのジョブを後で表示することができます。JOBLIST コマンドは、ジョブの実行依頼に使用できる「Finish Product Customization」パネルを表示します。

カスタマイズ・ジョブの実行依頼

カスタマイズ・ジョブを実行依頼して、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズします。

始める前に

正しいジョブが生成されていることを確認してください。

このタスクについて

次の図は、「Finish Product Customization」パネルの一部を示しています。このパネルの表は、Tools Customizer によって生成されるカスタマイズ・ジョブを示して

います。それらのジョブは、ジョブ・シーケンス番号でグループ化されます。

```
CCQPCST                Finish Product Customization                Row 1 to 7 of 7
For a first-time customization, submit the jobs in the members in the order
in which they apply to the DB2 entries. Otherwise, submit only the necessary
jobs that were generated after changes were made. To submit jobs, browse
the members and issue the TSO SUBMIT command.

Line Commands: E - Edit B - Browse

Product customization library .: TSUSRA.HL0210.$RS23$.HL0210      >

Cmd Member  SSID GrpAttch Template Date      Description
-----
A01CAA  --  --      HL01CLST 2015/12/19 Configures startup CLIST 1
A12CAA  --  --      HL02CLST 2015/12/19 Configures startup CLIST 2
A2STAA  --  --      HLOSTCJ  2015/12/19 Creates STC and components
A3SMAA  --  --      HLOSMPJ  2015/12/19 Creates repository maintenance
A4HLVS  --  --      HLOHLVS  2015/12/19 Creates the server
A5IN00  --  --      HLOIN00  2015/12/19 Creates the server parms
A6VOBJ  --  --      HLOVOBJ  2015/12/19 Creates OBJ file
A7UMAP  --  --      HLOUMAP  2015/12/19 Creates user map file
A8DFDIV --  --      HLODFDIV 2015/12/19 Creates server files
A9DRAAAA DA1A --      HLODROP  2015/12/19 Drops repository objects
B0DDAAAA DA1A --      HLODDL   2015/12/19 Creates repository objects
B1RFAAAA DA1A --      HLORFREE 2015/12/19 Frees packages and plans
B2VFAAAA DA1A --      HLOVFREE 2015/12/19 Frees server packages
B3RBAAAA DA1A --      HLORBIND 2015/12/19 Binds packages and plans
B4VBAAAA DA1A --      HLOVBIND 2015/12/19 Binds server packages
B5RGAAAA DA1A --      HLORGRNT 2015/12/19 Grants EXECUTE authority
B6VGAAAA DA1A --      HLOVGRNT 2015/12/19 Grants EXEC to server pkgs
B7CPAA  --  --      HLOCPROF 2015/12/19 Creates profile data sets
B8MPAA  --  --      HLOMPROF 2015/12/19 Migrates profiles
B9CCAA  --  --      HLOCCNTL 2015/12/19 Creates a new control file
C0UCAAAA DA1A --      HLOUCNTL 2015/12/19 Updates control file
C1IVAA  --  --      HLOIVP   2015/12/19 Creates IVP jobs
C2ADAA  --  --      HLOADBI  2015/12/19 Configures the REXX EXEC
----- End of customized jobs -----
```

図 3-23. 「Finish Product Customization」 パネル

メンバーの命名規則は、カスタマイズ・ジョブが DB2 エントリー用であるか、LPAR 用であるか、製品用であるかによって異なります。

DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブ

メンバーは、以下の命名規則を使用します。

<job_sequence_number><job_ID><configuration_ID><DB2_entry_ID>

ここで

job_sequence_number

Tools Customizer がカスタマイズ・ジョブに割り当てる、A0 から Z9 の 2 文字の英数字。シーケンスの最初のテンプレートの番号は A0、2 番目のテンプレートの番号は A1、というようになります。

job_ID

テンプレート名に 5 文字以上が含まれている場合、テンプレート名の 4 文字目から 5 文字目が使用されます。そうでない場合は、4 文字目のみが使用されます。例えば、XYZCRE8I テンプレートの場合、ジョブ ID は CR です。XYZC テンプレートの場合、ジョブ ID は C です。DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition によってテンプレート名が割り当てられます。

configuration_ID

Tools Customizer が構成に割り当てる、AA から 99 の 2 文字の英数字。

DB2_entry_ID

Tools Customizer が DB2 エントリーに割り当てる、AA から 99 の 2 文字の英数字。

例えば、XYZBNDDDB2_entry_ID_1 ジョブと XYZBNDDDB2_entry_ID_2 ジョブは XYZBNDGR テンプレートから生成され、XYZ4DB2_entry_ID_1 ジョブと XYZ4DB2_entry_ID_2 ジョブは XYZ4 テンプレートから生成されます。ジョブが 2 つの構成に対して 2 つの DB2 エントリーで生成される場合、以下のメンバー名が順にリストされます。A0BNAAAA、A0BNABAB、A14AAAA、A14ABAB

LPAR または製品のカスタマイズ・ジョブ
メンバーは、以下の命名規則を使用します。

<job_sequence_number><job_ID>

ここで

job_sequence_number

Tools Customizer がカスタマイズ・ジョブに割り当てる、A0 から Z9 の 2 文字の英数字。シーケンスの最初のテンプレートの番号は A0、2 番目のテンプレートの番号は A1、というようになります。

job_ID

テンプレート名に 5 文字以上が含まれている場合、テンプレート名の 4 文字目から 8 文字目が使用されます。そうでない場合は、4 文字目のみが使用されます。例えば、XYZMAKE テンプレートの場合、ジョブ ID は MAKE です。XYZM テンプレートの場合、ジョブ ID は M です。DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionによってテンプレート名が割り当てられ、その名前が「Template」列に表示されます。

例えば、XYZBNDGR ジョブは XYZBNDGR テンプレートから生成され、XYZ4 ジョブは XYZ4 テンプレートから生成されます。次のメンバー名が順にリストされます。A0BNDGR、A14。

構成のカスタマイズ・ジョブ
メンバーは、以下の命名規則を使用します。

<job_sequence_number><configuration_ID><DB2_entry_ID>

ここで

job_sequence_number

Tools Customizer がカスタマイズ・ジョブに割り当てる、A0 から Z9 の 2 文字の英数字。シーケンスの最初のテンプレートの番号は A0、2 番目のテンプレートの番号は A1、というようになります。

configuration_ID

Tools Customizer が構成に割り当てる、AA から 99 の 2 文字の英数字。

DB2_entry_ID

Tools Customizer が DB2 エントリーに割り当てる、AA から 99 の 2 文字の英数字。

例えば、同じ DB2 エントリー上に 2 つの構成がある場合、XYZBIND ジョブは XYZBNDGR テンプレートから生成され、XYZMAKE9 ジョブは XYZ4 テンプレートから生成されます。次のメンバー名が順にリストされず。A0AAAA、A1ABAA。

手順

1. ご使用の環境で使用するプロセスに従うか、以下の方式を使用して、生成されたカスタマイズ・ジョブを実行依頼します。
 - a. カスタマイズ・ジョブまたは製品カスタマイズ・ライブラリーに対して B を指定し、Enter を押します。 ISPF ブラウズ・セッションが開始します。
 - b. ライブラリーでカスタマイズ・ジョブまたは各メンバーを参照して、情報が正しいことを確認します。
 - c. TSO SUBMIT コマンドを実行します。
2. End を押します。

タスクの結果

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition がカスタマイズされ、「Customizer Workplace」パネルが表示されます。DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition がカスタマイズされた DB2 エントリーの状況は「Customized」です。

次のタスク

他の DB2 エントリー用にさらにカスタマイズ・ジョブを生成したり、以前に生成したカスタマイズ・ジョブのリストを表示したり、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition を再カスタマイズしたりすることができます。

パラメーターのブラウズ

製品・パラメーター、LPAR パラメーター、および DB2 パラメーターを読み取り専用モードでブラウズすることができます。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、「**Product parameters**」フィールド、「**LPAR parameters**」フィールド、またはブラウズしたい DB2 エントリーの横に B を指定し、Enter を押します。 ご使用の指定に対応するパネルが表示されます。
2. End を押して終了します。

DB2 エントリーのコピー

関連 DB2 エントリーでも、関連しない DB2 エントリーでも、他の DB2 エントリーや新しい DB2 エントリーにコピーできます。

このタスクについて

ご使用の環境に該当するステップに進んでください。

- 関連 DB2 エントリーを別の関連 DB2 エントリー、または関連しないエントリーにコピーするには、ステップ 1 に進んでください。
- 関連 DB2 エントリーを新しいエントリーにコピーするには、ステップ 2 に進んでください。
- 関連しない DB2 エントリーを新しいエントリーにコピーするには、ステップ 3 に進んでください。

手順

1. 関連 DB2 エントリーを別の関連 DB2 エントリー、または関連しないエントリーにコピーするには、以下のステップを実行します。
 - a. 「Customizer Workplace」パネルで、DB2 エントリーの関連リスト内の DB2 エントリーに対して C を指定し、Enter を押します。「Copy Associated DB2 Entry」パネルが表示されます。
 - b. 行コマンド / を指定して、情報のコピー先の DB2 エントリーを 1 つ以上選択し、Enter を押します。「Associated」列は、DB2 エントリーが関連付けられているかどうかを示します。

ヒント: リスト内のすべての DB2 エントリーに情報をコピーするには、SELECTALL 基本コマンドを発行し、Enter を押します。

「Copy DB2 Parameter Values」パネルが表示されます。

- c. 共通および製品固有の DB2 パラメーター値をコピーするためのオプションを指定します。共通 DB2 パラメーター値は、Tools Customizer を使用してカスタマイズしたすべての製品のすべての DB2 エントリーに適用されます。製品固有の DB2 パラメーター値は、現在カスタマイズ中の製品のみ適用されます。
 - 共通の DB2 パラメーター値および製品固有の DB2 パラメーター値をコピーするには、オプション 1 を指定し、Enter を押します。
 - 製品固有の DB2 パラメーター値のみコピーするには、オプション 2 を指定し、Enter を押します。

場合によっては、DB2 パラメーター値のデータ・セット名の中に、DB2 サブシステム ID が分離修飾子として含まれることがあります。例えば、DB01.DB01TEST.DB01.SANLLOAD データ・セット名では、最初の修飾子と 3 番目の修飾子では DB01 サブシステム ID が分離されていますが、2 番目の修飾子では分離されていません。データ・セット名の中で DB2 サブシステム ID が分離修飾子になる場合は、「Change DB2 Subsystem ID in DB2 Parameter Values」パネルが表示されます。それ以外の場合は、「Customizer Workplace」パネルが表示されます。

- d. 「Change DB2 Subsystem ID in DB2 Parameter Values」パネルが表示された場合は、サブシステム ID を変更するためのオプションを指定します。それ以外の場合は、このステップをスキップしてください。
 - データ・セット名の中の分離修飾子のサブシステム ID を変更するには、オプション 1 を指定し、Enter を押します。

- すべての値で同じサブシステム ID を使用するには、オプション 2 を指定し、Enter を押します。

「Customizer Workplace」パネルが表示されて、コピーされた関連エントリーがリストされます。

2. 関連 DB2 エントリーを新しいエントリーにコピーするには、以下のステップを実行します。
 - a. 「Customizer Workplace」パネルで、DB2 エントリーの関連リスト内の DB2 エントリーに対して C を指定し、Enter を押します。「Copy Associated DB2 Entry」パネルが表示されます。
 - b. CREATE コマンドを発行します。「Create DB2 Entries」パネルが表示されます。
 - c. 新しい各 DB2 エントリーの適切な列に、SSID またはグループ接続名、あるいはその両方を指定し、Enter を押します。

ヒント: 追加エントリーのための行を追加するには、Inn 行コマンド (*nn* は作成するエントリーの数) を指定し、Enter を押します。

「Copy Associated DB2 Entry」パネルが表示されて、新しいエントリーがリストされます。新しいエントリーは事前選択されています。

- d. Enter を押してコピー・プロセスを完了します。「Customizer Workplace」パネルが表示されて、コピーされたエントリーがリストされます。
3. 関連しない DB2 エントリーを新しいエントリーにコピーするには、以下のステップを実行します。
 - a. 「Customizer Workplace」パネルで ASSOCIATE コマンドを発行します。「Associate DB2 Entry for Product」パネルが表示されます。
 - b. 行コマンド / を指定して、DB2 エントリーを 1 つ以上選択し、Enter を押します。「Copy a DB2 Entry」パネルが表示されます。
 - c. 新しい DB2 エントリーの適切な列に、SSID またはグループ接続名、あるいはその両方を指定し、Enter を押します。「Associate DB2 Entry for product」パネルが表示され、コピーされたエントリーがリストされます。
 - d. コピーされたエントリーを関連付ける場合は、それに対して A を指定し、Enter を押します。「Customizer Workplace」パネルが表示されて、コピーされたエントリーがリストされます。

次のタスク

いずれかのパラメーターを編集するか、ジョブを生成します。

関連概念:

12-1 ページの『Tools Customizer の用語』

Tools Customizer では、複数の固有の用語を使用します。Tools Customizer の使用を開始する前にこれらの用語を理解しておく必要があります。

DB2 エントリーの除去

DB2 エントリーを関連リストから除去できます。

このタスクについて

DB2 エントリーを関連リストから除去すると、それらのエントリーのすべてのカスタマイズ・ジョブが、「Finish Product Customization」パネルのジョブのリストから除去され、削除されます。

手順

「Customizer Workplace」パネルで、除去したい 1 つ以上の DB2 エントリーの横に R を指定し、Enter を押します。選択した DB2 エントリーが関連リストから除去され、「Associate DB2 Entry for Product」パネルのマスター・リストに追加されて、カスタマイズ・ジョブが削除されます。

関連概念:

12-1 ページの『Tools Customizer の用語』

Tools Customizer では、複数の固有の用語を使用します。Tools Customizer の使用を開始する前にこれらの用語を理解しておく必要があります。

DB2 エントリーの削除

マスター・リストから DB2 エントリーを削除できます。

このタスクについて

マスター・リストから DB2 エントリーを削除すると、そのエントリーでカスタマイズされた製品の関連付けとカスタマイズ・ジョブもすべて削除されます。

手順

1. 「Customizer Workplace」パネルで、ASSOCIATE コマンドを発行します。「Associate DB2 Entry for Product」パネルが表示されます。
2. 削除する 1 つ以上の DB2 エントリーの横に D を指定し、Enter を押します。エントリーが製品に関連付けられている場合は、最初に選択した DB2 エントリーについての「Delete Associated DB2 Entry」パネルが表示されます。それ以外の場合は、「Delete DB2 Entry」パネルが表示されます。
3. DB2 エントリーを削除するには、Enter を押します。「Delete Associated DB2 Entry」パネル内の表で DB2 エントリーが製品に関連付けられている場合は、そのエントリーでカスタマイズされた製品の関連付けとカスタマイズ・ジョブもすべて削除されます。それ以外の場合は、DB2 エントリーのみ削除されます。削除する DB2 エントリーを複数選択した場合は、次に選択した DB2 エントリーが、「Delete Associated DB2 Entry」パネルまたは「Delete DB2 Entry」パネルに表示されます。それ以外の場合は、「Associate DB2 Entry for Product」パネルが表示されます。

次のタスク

削除する DB2 エントリーを複数選択した場合は、選択したエントリーがすべて削除されるまでステップ 3 を繰り返します。その後、カスタマイズ・プロセスを続行します。

カスタマイズ・ジョブの表示

カスタマイズ・ジョブを実行依頼する前または後に、それらのジョブを含むメンバーのリストを表示できます。

このタスクについて

ある DB2 エントリー用に生成したカスタマイズ・ジョブは、別の DB2 エントリー用に後で DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするときにも表示されます。

手順

「Customizer Workplace」パネルで、JOBLIST コマンドを発行します。「Finish Product Customization」パネルが表示されます。このパネルは、以前に生成したジョブのリストを表示します。それらのジョブは、ジョブ・シーケンス番号でグループ化されます。このパネルを使用して、生成されたジョブを実行依頼する前にブラウズまたは編集します。

カスタマイズ・ジョブの保守

Tools Customizer の外部でカスタマイズ・ジョブを削除する代わりに、再カスタマイズのステップを実行して DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の正しいジョブを保守することができます。

このタスクについて

カスタマイズ・ライブラリーにあるカスタマイズ・ジョブの削除や名前変更は、「Finish Product Customization」パネルから ISPF ブラウズまたは編集セッションを開始して実行することはできません。この方式を使用してカスタマイズ・ジョブを削除しようとする、CCQC034S メッセージが発行されます。カスタマイズ・ジョブの名前を変更しようとする、CCQC035S メッセージが発行されます。

Tools Customizer の外部で ISPF を使用してカスタマイズ・ライブラリーにあるカスタマイズ・ジョブを削除または名前変更すると、Tools Customizer は、ジョブが削除されたことを認識せず、それらのジョブが「Finish Product Customization」パネルに引き続き表示されます。Tools Customizer の外部でライブラリーから削除されたジョブをブラウズまたは編集すると、CCQC027S メッセージが発行されます。

手順

カスタマイズ・ライブラリーで正しいカスタマイズ・ジョブを保守するには、再カスタマイズのステップを実行します。

複数 LPAR 環境での Tools Customizer の使用

Tools Customizer が現在サポートしているのはローカル LPAR のみです。ただし、2 つの異なる方式のどちらかを使用することにより、さらに別の LPAR にカスタマイズを伝搬できます。

このタスクについて

複数 LPAR 環境では、Tools Customizer はユーザーがログオンした LPAR を識別します。Tools Customizer はこの LPAR 名をいくつかの異なるパラメーター設定に使用します。その 1 つがデータ・ストアです。異なる LPAR 上の DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズ中にデータ・ストアを使用すると、Tools Customizer は、最初の LPAR 上のデータ・ストアの値に基づいて製品が既にカスタマイズされていることを示すメッセージ CCQD586S を出します。このメッセージは、データ・ストアが壊れるのを防ぐために出されます。

この動作は、次の状態で発生します。

- 複数の LPAR によって共有される DASD 装置に Tools Customizer がインストールされている。
- Tools Customizer を使用して製品がカスタマイズされた後に、別の LPAR にデータ・ストアがコピーされた。

手順

Tools Customizer がインストールされていない LPAR 上の DB2 サブシステムに対して実行される製品をカスタマイズするには、次のいずれかの方式を使用することを検討してください。

1 つの LPAR に Tools Customizer の 1 つのインスタンスをインストールする
カスタマイズ値をすべての LPAR 上の製品のすべてのインスタンスに再利用する場合は、この方式を使用します。

1. Tools Customizer のその 1 つのインスタンス内のすべての DB2 エントリーを関連付けます。DB2 サブシステムが存在する LPAR は問題になりません。
2. DB2 エントリーごとにカスタマイズ・ジョブを生成します。
3. 生成したカスタマイズ・ジョブを LPAR にコピーして、特定の DB2 エントリーに対して実行します。LPAR 固有の編集がいくつか必要になる場合があります。これらの編集は、コピーしたカスタマイズ済みジョブで行えます。この状況は、Tools Customizer によってカスタマイズされたジョブに対して手動で変更を加える必要が生じる場合がある数少ない状況の 1 つです。

各 LPAR に Tools Customizer の 1 つのインスタンスをインストールする
これまでのカスタマイズ値を再利用しないようにして、新しいカスタマイズを開始したい場合は、この方式を使用します。

重要: この方式は、ほとんどの組織にとって好ましいアプローチではないと思われる。類似した、あるいはまったく同じカスタマイズ値をすべての LPAR 上の各製品インスタンスに使用する傾向にある組織が多いからです。

ENCODING(500) への BIND JCL の変更 (オプション)

デフォルトで、Accelerator Loader プランとパッケージは、文字セット ENCODING(EBCDIC) を使用してバインドされます。DB2 サブシステムが、引用文字が X'7F'でない EBCDIC コード・ページで定義される場合、すべてのプランとパッケージを ENCODING(500) でバインドするように BIND ジョブを変更する必要があります。

カスタマイズされた BIND JCL で、CHANGE ALL コマンドを実行して、文字セットを ENCODING(EBCDIC) から ENCODING(500) に変更します。

ロード・ライブラリーの APF 許可 (必須)

カスタマイズ・ジョブを実行する前に、製品のロード・ライブラリーの APF 許可を行います。

このタスクについて

このタスクにより、カスタマイズ・ジョブを実行する際にライブラリーが使用できるようになります。

手順

システムの APF 許可リストに以下のライブラリーを含めます。

- *hlq*.SHLVLOAD
- *hlq*.SHLOLOAD
- *hlq*.SFECLOAD

例えば、以下の z/OS オペレーター・コマンドを発行します。

```
SETPROG APF,ADD,DSNAME=hlq.SHLOLOAD,VOLUME=volser
```

ここで、*volser* はロード・ライブラリーが格納されている DASD 装置のボリューム通し番号です。

動的に APF 許可を行ってから、次回の IPL で許可を永続化します。DB2 Analytics Accelerator Loader の始動に問題が発生した場合は、システム管理者に連絡してください。

開始タスク PROC のコピー (必須)

Accelerator Loader 開始タスク PROC とサーバー PROC をシステム PROCLIB にコピーして、製品のユーザー・インターフェースで開始タスクのアドレス・スペースを使用できるようにします。

このタスクについて

テンプレート HLOSTCJ と HLOHDBS に関連付けられたジョブ・メンバーを実行します。ジョブは、Tools Customizer の「Finish Product Customization」パネルの「**Product Customization Library**」フィールドに指定されたデータ・セット内にあります。これらのジョブは、*hlq*.SHLOSAMP ライブラリー内の *hlvid*PROC メンバー、および *hlq*.SHLVSAMP ライブラリー内の *hlvid*PROC メンバーを作成しま

す (ここで、*hloid* および *hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader および Accelerator Loader サーバーの開始タスクの名前を表します。)

これらのジョブは、以下の両方の基準が満たされた場合に作成されます。

- 「DB2 Parameters」パネルで、JCL を生成する対象のサブシステムが 1 次サブシステムとして指定されている。
- Tools Customizer のサブタスク「**Create PROC, PLCY, and other SAMPLIB members**」と「サーバーの作成」を選択した。

手順

1. *hlq*.SHLOSAMP ライブラリー内で作成された *hloid*PROC メンバーを、システム PROCLIB 内のメンバーにコピーします。
2. *hlq*.SHLVSAMP ライブラリー内で作成された *hlvid*PROC メンバーを、システム PROCLIB 内のメンバーにコピーします。
3. 両方の PROC の EXEC ステートメント内で、以下の設定値を指定したことを確認してください。
 - REGION=0M (ストレージの問題を回避するため)
 - *hloid*PROC 内の TIME=1440 (時間の制限なく製品を実行できるようにするため)
4. STEPLIB データ・セットと SVCLIB データ・セットが APF 許可されていることを確認します。
5. PROC が参照するすべてのデータ・セットが APF 許可されていることを確認します。
6. 異なる DB2 バージョンを使用する複数の DB2 サブシステムで Accelerator Loader を使用する場合は、*hloid*PROC の STEPLIB 連結が DSNLOAD ライブラリーとして最も古い DB2 バージョンを指定していることを確認します。このようにしなければ、監査表とロギング表を含む 1 次サブシステム以外の DB2 サブシステム上で製品を使用しようとしたときに、接続の問題が発生する可能性があります。

DSNUTILF モジュールのコピー (必須)

このカスタマイズ・ステップは、Accelerator Loader 開始タスク *hloid*PROC が DSNUTILB インターセプト・サービスを実行するために必要です。

このタスクについて

DSNUTILF モジュールがロード・ライブラリー連結内であれば、Accelerator Loader 開始タスクが使用不可になっても、DSNUTILB プログラムは正常に動作できます。

手順

1. DB2 LOAD ユーティリティ・ジョブの STEPLIB または JOBLIB 連結内にある APF 許可ライブラリーの 1 つに、DSNUTILF ロード・モジュールをコピーします。

- オプション: Accelerator Loader LOAD ライブラリー内の DSNUTILF モジュールはそのままにして、DB2 LOAD ユーティリティ・ジョブの STEPLIB 連結または JOBLIB 連結に DSNUTILF モジュールを追加します。

関連タスク:

『WLM アプリケーション環境の設定 (必須)』

このカスタマイズ・ステップは、Accelerator Loader 開始タスクが DSNUTILB インターセプト・サービスを実行するために必要です。

WLM アプリケーション環境の設定 (必須)

このカスタマイズ・ステップは、Accelerator Loader 開始タスクが DSNUTILB インターセプト・サービスを実行するために必要です。

手順

- DB2 ストアド・プロシージャ SYSPROC.DSNUTILU の WLM アプリケーション環境の WLM STEPLIB 連結内に、以下の SHLOLOAD モジュールを配置します。

- DSNUTILF
- HLOPIPE

注: Accelerator Loader と IBM DB2 Utilities Enhancement Tool が同時に同じ環境で共存する必要がある場合は、Accelerator Loader ロード・ライブラリーを DB2 UET ロード・ライブラリーの前に連結してください。この連結順序により、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS のロード時にのみ Accelerator Loader が DSNUTILB をインターセプトし、その他の該当する処理については DB2 UET が DSNUTILB をインターセプトするようになります。

- オプション: Accelerator Loader ロード・ライブラリー内のモジュールの DSNUTILF はそのままにして、WLM アプリケーション環境の STEPLIB 連結または JOBLIB 連結に DSNUTILF を追加します。

関連概念:

11-515 ページの『DSNUTILB インターセプトの管理』

いくつかのルーチンと臨時タスクを実行すると、DSNUTILB インターセプトを管理できます。

関連タスク:

3-48 ページの『DSNUTILF モジュールのコピー (必須)』

このカスタマイズ・ステップは、Accelerator Loader 開始タスク *hloidPROC* が DSNUTILB インターセプト・サービスを実行するために必要です。

開始タスクの開始 (必須)

製品インターフェースの使用を開始できるように、Accelerator Loader 開始タスクを開始します。

このタスクについて

コマンド内の変数 *hlostc* は、システム PROCLIB 内の Accelerator Loader PROC のメンバー名を表します。

Tools Customizer は、Tools Customizer のフィールド「**Create the Started Task and its components**」で指定した値に基づいて開始タスク名を生成し、その名前を開始タスク PROC に挿入します。PROC 内の開始タスク名を変更した場合は、必ずその新しい名前を **Start** コマンド内で使用してください。

手順

z/OS コンソールまたは SDSF インターフェースを使用して、開始タスクを開始します。

- z/OS コンソールから、以下のオペレーター・コマンドを発行します。

```
S hlostc
```

- SDSF インターフェースから、スラッシュを含めて以下のコマンドを発行します。

```
/S hlostc
```

サーバーの開始および停止 (必須)

Accelerator Loader サーバーは、z/OS 開始タスクとして実行されます。通常的环境下では、サーバーはシステム始動時に開始し、システム・シャットダウン前に停止します。

始める前に

2-10 ページの『Accelerator Loader サーバーの許可要件』および 2-11 ページの『データ・ソースにアクセスするための権限要件』で説明されている特権があることを確認してください。

手順

1. サーバーを開始するには、以下のコンソール・コマンドを使用します。 S
server-name

ここで、*server-name* は、カスタマイズ時に Accelerator Loader サーバーに指定した名前です。

2. 自動化パッケージを使用してシステムを開始する場合は、**START** コマンドを VTAM® 初期化完了メッセージ (IST020I) と TCP/IP 初期化完了メッセージ (EZB6473I) の一方または両方と関連付けます。
3. 始動が正常に行われたことを確認するには、サーバー・ジョブ入力サブシステム (JES) ログで以下の項目を検索します。

```
SD74391I 0E stack binding port 1200 to IP address 0.0.0.0  
SD74391I 0E stack binding port 1201 to IP address 0.0.0.0  
SD74391I 0E stack binding port 1202 to IP address 0.0.0.0
```

次のタスク

サーバーを停止するには、次のコマンドを実行します。ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します

```
P hlvid
```

CANCEL コマンドを発行すると、使用可能なすべての接続が異常終了し、サーバーが即時にシャットダウンします。

Accelerator Loader スタジオのインストール (必須)

Accelerator Loader スタジオを使用して、リレーショナル・データと非リレーショナル・データをアクセラレーターにロードします。すべてのメインフレーム統合コンポーネントにわたる単一のエンタープライズ・ビューを提供し、メインフレーム上で実行されている Accelerator Loader サーバーのインスタンスを自動的にディスカバーします。

始める前に

DB2 Analytics Accelerator Loader で Accelerator Loader スタジオが使用可能です。Accelerator Loader スタジオは、IBM Data Studio のプラグインとしてインストールします。

注: IBM Installation Manager は、このリリースではサポートされていません。

- Accelerator Loader サーバーが IBM z/OS にインストールされ、構成されている必要があります。
- IBM Data Studio 4.1.x for Windows (32 ビットまたは 64 ビット) がクライアント・マシンにインストールされている必要があります。

注: IBM Data Studio からソフトウェアを更新するには、管理者としてログインする必要があります。

- Accelerator Loader スタジオには Eclipse Kepler (4.3.x) または Luna (4.4x) が必要で、これは IBM Data Studio 4.1.x にバンドルされています。
- Java 1.7 または 1.8 が必要です。
- 4 GB のシステム・メモリーが推奨されます。
- 40 MB のハード・ディスク・スペースが推奨されます (インストールされるソフトウェアは 20 MB を消費します)。
- 適切なメインフレーム・ユーザーのログオン資格情報とユーザー特権を持っていること、メインフレーム上の Accelerator Loader サーバーに接続できること、および Accelerator Loader サーバーが他の DBMS サブシステムにアクセスできることを確認してください。
- メインフレーム・システムに接続するために、以下の情報を用意してください。これらの値は Accelerator Loader サーバーのメッセージで確認するか、またはシステム・プログラマーから入手してください。
 - Accelerator Loader サーバーが実行されているホスト名

- JDBC ポート番号。Tools Customizer によるカスタマイズ時に、ポート番号は「TCP/IP OE port number」で指定されます。サーバー構成ファイル内では、パラメーター名は **OEPORNUMBER** です。メインフレームでは、SDSF を使用してサーバー JOB 出力を表示し、**OEPORNUMBER** を検索します。

手順

1. ファイル転送プロトコル (FTP) をバイナリー・モードで使用して、ローカル・ワークステーションのフォルダーを転送先として、インストール・メンバー *hlq.SHLVBIN(HLVBIN)* のバイナリー転送を実行します。
2. ファイル名を loader.zip に変更します。
3. IBM Data Studio から、「**Help**」 > 「**Install New Software**」をクリックして、「**Add**」をクリックします。
4. 「Add Repository」ダイアログ・ボックスで、「**Archive**」をクリックします。
5. loader.zip (HLVBIN ファイル) を見つけて、「**Open**」をクリックします。
6. ソフトウェアのファイル名 (リポジトリの名前) を入力して、「**OK**」をクリックします。
7. Accelerator Loader の横にあるチェック・ボックスを選択して、「**Next**」をクリックします。
8. インストール・ウィザードの残りのステップを実行し、ワークステーションを再始動します。

次のタスク

これで、Accelerator Loader パースペクティブを IBM Data Studio から開くことができるようになります。

関連タスク:

『Accelerator Loader スタジオのアンインストール』

ワークベンチ・ウィザードを使用して、IBM Data Studio から Accelerator Loader スタジオをアンインストールします。

Accelerator Loader スタジオのアンインストール

ワークベンチ・ウィザードを使用して、IBM Data Studio から Accelerator Loader スタジオをアンインストールします。

手順

1. 「**Help**」 > 「**About**」をクリックして、「**Installation Details**」をクリックします。
2. 「**Installed Software**」タブで、「**Accelerator Loader**」を選択して「**Uninstall**」をクリックします。
3. アンインストールするソフトウェアの選択を確認して、「**Uninstall**」をクリックします。
4. ソフトウェアが正常にアンインストールされると、ワークベンチを再始動するよう to 要求されます。「**Yes**」をクリックします。

関連タスク:

3-51 ページの『Accelerator Loader スタジオのインストール (必須)』
Accelerator Loader スタジオを使用して、リレーショナル・データと非リレーシ
ョナル・データをアクセラレーターにロードします。すべてのメインフレーム統合コ
ンポーネントにわたる単一のエンタープライズ・ビューを提供し、メインフレーム
上で実行されている Accelerator Loader サーバーのインスタンスを自動的にディス
カバーします。

メインフレーム・データ・ソースへのアクセスの構成 (必須)

メインフレーム・データ・ソースに安全にアクセスできるように Accelerator
Loader サーバーを構成します。

関連タスク:

3-58 ページの『DRDA データ・ソースへのアクセスの構成 (オプション)』
DRDA によってデータ・ソースにアクセスするように Accelerator Loader サーバ
ーを構成するには、データ・ソースごとにサーバー・パラメーター・ファイルをか
スタマイズする必要があります。

DB2 サブシステムおよびデータへのアクセスを構成

サーバーを構成するには、DB2 サブシステムへのアクセスを可能にし、DB2 へのユ
ーザー・アクセスを提供します。

DB2 サブシステムへのアクセスの構成

Accelerator Loader サーバーが DB2 サブシステム・リソースにアクセスできるよ
うにするには、パッケージの BIND とユーザー権限の GRANT を実行する必要が
あります。

始める前に

このタスクを始める前に、Accelerator Loader サーバーのホスト名とポート番号、
およびユーザーのログオン資格情報を確認する必要があります。この資格情報に
は、DB2 サブシステム上で BIND と GRANT の操作を処理するための権限が必要
です。

このタスクについて

アクセスする DB2 サブシステムごとに、このタスクを 1 回ずつ実行します。アク
セラレーターに接続されている DB2 for z/OS サブシステム上でこれらのバインド
を実行する必要はありません。これらのバインドは Tools Customizer によって生
成され、製品のカスタマイズ時に実行されます。スタジオを使用して実行する必要
はありません。

手順

1. スタジオから、「Window」 > 「Open Perspective」 > 「Accelerator
Loader」をクリックします。
2. 「Server」タブで、「Set Server」をクリックします。
3. 「Set Current Server」ダイアログ・ボックスで、以下のフィールドに入力し
ます。

オプション	説明
Host	メインフレーム・システムの TCP/IP ホスト名または IP アドレスを入力します。
Port	Accelerator Loader サーバーとの通信に使用されるポート番号を入力します。デフォルトは 1200 です。
Userid	メインフレーム・ユーザー ID を入力します。
User Password	メインフレーム・ユーザー ID のパスワードを入力します。

4. 「OK」をクリックします。
5. 「Server」タブで、「SQL」 > 「Data」 > 「Other Subsystems」の順に展開します。
6. DRDA 処理を必要とするサブシステムを右クリックし、「BIND/GRANT Packages」を選択します。
7. 以下のフィールドに入力します。

オプション	説明
Package Prefix	パッケージに割り当てる 2 文字の接頭部を入力します。パッケージ接頭部は、メインフレーム・サーバーで定義された接頭部と一致していなければなりません。デフォルトの接頭部 DS を変更する場合は、データ・セット <i>hlq.SHLVEXEC</i> のメンバー <i>hlvidIN00</i> (ここで、 <i>hlvid</i> は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します) 内でも変更する必要があります。
Number of Cursors	結果の処理に使用するカーソルの数を入力します。デフォルトは 200 です。
Collection	パッケージのバインドに使用する値を入力します。デフォルトは NULLID です。この値は通常、DB2 管理者によって決定されます。
Table Qualifier	非修飾 SQL を修飾するために使用する値を入力します。この値は通常、DB2 管理者によって決定されます。
Owner UserId	パッケージ所有者のユーザー ID を入力します。この値は通常、DB2 管理者によって決定されます。
Grant to	ターゲット DB2 サーバーに対する権限を付与する場合にのみ設定します。デフォルトは PUBLIC です。

8. 以下の 1 つ以上のパッケージ処理オプションを選択し、「Execute」をクリックします。

オプション	説明
Bind Package	製品パッケージをバインドします。
Grant Execute	「 Grant to 」フィールドに指定されているユーザー ID にアクセス許可を付与します。
Replace Packages	指定したサブシステムに既存のパッケージがある場合は、そのパッケージを置き換えます。このオプションは、パッケージが既に存在する場合にのみ選択してください。サブシステムによっては、既存のパッケージの置き換えが必要な場合があります。

9. 選択したオプションに応じて、追加のダイアログ・ボックスとメッセージが表示される場合があります。
10. 「**Results**」テキスト・ボックスで結果を確認し、「**BIND/GRANT**」をクリックします。

DB2 サブシステムへの・ユーザー・アクセスの構成

DB2 へのユーザー・アクセスを提供します。

手順

1. ユーザーに読み取り権限を割り当てます。
 - DRDA の場合は、*ssid.DIST* プロファイルに対する読み取り権限をユーザーに割り当てます。
2. このステップは DB2 for z/OS にのみ適用されます。DB2 サブシステムに対するアクセス権限をユーザーに付与し、RACF パスチケット・ログオン処理を有効にするには、固有の DRDA APPLNAME ごとに RACF PTKTDATA リソースを 1 つ定義する必要があります。各 PTKTDATA リソースを定義するには、適切なジョブをカスタマイズして実行します。
 - HLVRADB2 は IBM リソース・アクセス管理機能 (RACF) セキュリティー用です。
 - HLVA2DB2 は CA ACF2 (アクセス制御機能) セキュリティー用です。
 - HLVTSDB2 は CA Top Secret Security (TSS) 用です。
3. このステップは DB2 for LUW にのみ適用されます。メンバー HLVALUWI の ATH ルールをカスタマイズします。メンバー HLVSUWC の SQL ルールをカスタマイズします。これらのルールは自動的に有効になるようにする必要があります。

パラメーター	説明
ATH.AUDRSSID	LUW DRDA 接続に対して定義されている名前。
ATH.AUDROTUS	当該 DB2 LUW への接続に使用されるユーザー ID。
PREFIX=HL	ATH.AUDROTUS ユーザー ID に関連付けられているパスワード。

以下に例を示します。

```

|           WHEN ATH.AUDRSSID = "UDB1" THEN DO
|             ATH.AUDROTUS = "db21uwu1"
|             ATH.AUDROTPW = "8cHarMix"
|             if _Tact = "Y" then do; /* Trace Active? */
|               SAY _Twho||"Mod U/P:(\"ATH.AUDRSSID||\":\"||ATH.AUDRLONA)\"
|             end /* end Trace */
|           END

```

関連概念:

2-11 ページの『データ・ソースにアクセスするための権限要件』

データ・ソースにアクセスするには、以下の権限が必要です。

5-1 ページの『Accelerator Loader サーバーの制約事項および考慮事項』

Accelerator Loader サーバーを使用してロードを実行する前に、以下に示す使用上の制約事項および考慮事項を確認してください。

関連資料:

10-25 ページの『ログオン・イベント』

このイベントは、ログオンが行われたときに発生します。

IBM DB2 におけるデータへのアクセスの検証

DB2 データへのアクセスを検証するには、Accelerator Loader サーバーとの接続を作成し、照会を実行します。詳しくは、5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』を参照してください。

手順

DB2 照会を作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「Server」ビューで、「SQL」 > 「Data」 > 「DB2」 > 「Subsystems」を選択します。
2. 「Subsystem Name」 > 「Tables by Owner」を選択します。ここで、*Subsystem Name* は、ご使用の環境のサブシステム名で置き換えられます。
3. 「Tables by Owner」リストを展開し、照会したい表を選択します。

注: 選択した表にアクセスする許可が必要です。

4. 照会したい表の名前を右クリックして、「Generate Query」を選択します。Accelerator Loader スタジオ は一時 JDBC データ・ソースを作成し、Accelerator Loader サーバーとの接続を作成します。
5. 「Execute」をクリックして照会を実行します。「SQL Results」ビューにデータが表示されていることを確認します。

IBM IMS DB のデータへのアクセスを構成

IMS および IMS 環境へのアクセスを構成します。

IMS DB の構成

DFSPZP00 メンバーが適切に構成されていない場合、DRA 始動テーブルの定義が必要な場合があります。

手順

DRA 始動パラメーター・テーブルは、DBCTL サブシステムにインターフェースを定義するために必要なパラメーターを提供します。DRA 始動パラメーター・テーブルを検討してください。DRA 始動パラメーター・テーブルで変更が必要な場合は、IMS DRA 始動パラメーター・テーブルの定義に関する IBM の資料を参照してください。

VSAM へのアクセスを構成

Accelerator Loader サーバーは、カスタマイズ・プロセスの一環として構成されます (Tools Customizer の IVP ジョブ作成タスク)。ただし、VSAM にサーバーがアクセスできることを確認する必要があります。

順次ファイルへのアクセスを構成

順次ファイルにアクセスするように SQL インターフェースを構成するのに必要な変更はありません。

SMF ファイルへのアクセスの構成

順次ファイル・ソース・メソッドを使用して、システム管理機能 (SMF) データをアクセラレーターにロードすることができます。SMF ファイルへのアクセスを構成するには、Accelerator Loader サーバー JCL、サーバー構成メンバー、およびサーバー仮想表メンバーを構成する必要があります。

始める前に

- ご使用のユーザー ID にファイル SHLVXVTB に対する更新権限があることを確認してください。
- Accelerator Loader サーバー・ストアード・プロシージャーに、PDS メンバー *hlq.SHLVTXVTB(HLVSMFT2)* に対する更新権限があることを確認してください。
- 必要な SMF レコードを見つけてください。

手順

1. データ・セット *hlq.SHLVXVTB* メンバー *HLVSMFT2* で、パラメーター *GLOBAL2.SMFTBL2.DEFAULT* に、必要な SMF レコードが入っている SMF データ・セットを追加します。
2. サーバー *hlvoidPROC* を更新し、SMF マップ・データ・セットを *HLVMAPP DD* に追加します。

ヒント: マップ・データ・セットを追加した後、Accelerator Loader スタジオは多数のマップを表示します。マップのリストを、頻繁に使用するマップに限定するには、スタジオでお気に入りを作成します。

3. 仮想表のルール・イベントを有効にするために、データ・セット *hlq.SHLVEXEC* メンバー *hlvoidIN00* で以下のように *SEFVTBEVENTS* パラメーターを変更します。

```
"MODIFY PARM NAME(SEFVTBEVENTS) VALUE(YES)"
```

4. DB2 Analytics Accelerator Loader ISPF インターフェースを使用して、SMF をルールとして有効にします。
 - a. メインメニューで、「**Server administration**」を選択します。
 - b. 「Administer Accelerator Loader server」パネルで、「**Manage Rules**」を選択します。
 - c. 「Event Facility (SEF) Control」パネルで、「**SEF Rule Management**」を選択します。
 - d. 「Event Facility (SEF) Ruleset Entry Profile」パネルでの「**Display Only the Ruleset Named**」フィールドでデフォルト値「*」(アスタリスク)を受け入れて、Enter キーを押します。
 - e. 「Event Facility Proc. Rulesets - Using SEF V4 Configuration」パネルで、**VTB** の横にある S 列に「S」と入力し、Enter キーを押します。
 - f. 「Event Facility (SEF) Event Procedure List」パネルで、メンバー **HLVSMFT2** の横にある S 列に、「B」と入力して、Enter キーを押します。

関連概念:

10-12 ページの『ルールおよびイベント』

イベントごとに 1 つ以上のルールを作成できます。各ルール内で、イベントに対応して実行するアクションを指定します。

10-87 ページの『サーバーからの SMF レコードの作成』

システム管理機能 (SMF) は、SMF データ・セットに使用状況の情報を記録する方法を提供します。

DRDA データ・ソースへのアクセスの構成 (オプション)

DRDA によってデータ・ソースにアクセスするように Accelerator Loader サーバーを構成するには、データ・ソースごとにサーバー・パラメーター・ファイルをカスタマイズする必要があります。

始める前に

構成するデータ・ソースの DRDA 終点の詳細がわかっている必要があります。パラメーターについて詳しくは、手順の後に示す例を参照してください。

このタスクについて

アクセスするデータ・ソースごとに 1 回、このタスクを実行します。サーバーがソース・データを読み取ることができるようにするには、サーバー・パラメーター・ファイルに接続先のデータ・ソースごとの定義が含まれている必要があります。

このタスクは、DRDA データ・ソースのみに適用されます。DB2 for z/OS データ・ソースへのアクセスを構成するには、Tools Customizer を使用します (2-29 ページの『タスク: サーバーおよびサーバー・コンポーネントの作成 (必須)』)。

手順

1. データ・セット *hlq.SHLVEXEC* のメンバー *hlvidIN00* を見つけます (ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します)。

2. DRDA データ・ソースのセクションを見つけます。

ヒント: キーワード DEFINE DATABASE を使用して、検索を実行します。

3. アクセスするデータ・ソースごとに 1 回、以下のパラメーターの値を入力します。すべての値が必須で、デフォルト値はありません。

表 3-10. DRDA データ・ソースのパラメーター

パラメーター	説明と有効な値
TYPE	構成するサブシステムのタイプを指定します。有効な値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> GROUP は、DB2 サブシステムが z/OS 上で稼働していて、データ共有グループであることを示します。 MEMBER は、DB2 サブシステムが z/OS 上で稼働していて、データ共有グループのメンバーであること、またはサブシステムが非データ共有であることを示します。 LUW は、サブシステムが非 z/OS のデータベースであることを示します。
NAME	この定義の識別に使用される任意の名前を指定します。有効な値は、任意の 4 文字の英数字ストリングです。
LOCATION	データ・ソースのインスタンスの名前を指定します。有効な値は、任意の 8 文字の英数字ストリングです。
DDFSTATUS	サブシステムが Accelerator Loader サーバー内で有効または無効のどちらであるかを指定します。有効な値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ENABLE は、サーバーがデータ・ソースに接続することを示します。 DISABLE は、サーバーがデータ・ソースに接続せず、したがってデータ・ソースとしてこの項目を使用しないことを示します。
PORT	このデータ・ソース用に定義される IP ポート番号を指定します。有効な値は、任意の 96 文字の数値ストリングです。
DOMAIN	構成対象の DB2 サブシステムの IP アドレスを識別する完全修飾名を指定します。ドメイン・ネームまたは IP アドレスを指定します。有効な値は、最大 254 文字の任意の英字ストリングです。

例

以下の例では、Oracle インスタンスを定義し、それぞれのパラメーター値について説明します。

```
"DEFINE DATABASE TYPE(LUW)"
      ,
      "NAME(ORCL)"
      ,
      "LOCATION(IDAA)"
      ,
      "DDFSTATUS(ENABLE)"
      ,
      "PORT(50000)"
      ,
      "DOMAIN(137.134.6.38)",
      "CCSID(37)"
```

- **Type:** 値 LUW は、これが DRDA データ・ソースであることを示します。
- **Name:** 値 ORCL は一例です。任意の 4 文字の英数字ストリングを指定できます。
- **Location:** 値 IDAA は、接続先の Oracle インスタンスを示します。最大 8 文字の任意の英数字ストリングを指定できます。
- **DDFSTATUS:** 値 Enable は、サーバーがこの定義を使用することを可能にします。

- **Port:** 値 50000 は、この Oracle インスタンス用に構成されたポートを示します。
- **Domain:** 値 137.134.6.38 は、この Oracle インスタンスが構成された先のドメインを示します。代わりに、この値は実際のドメイン・ネーム (rs37.companynet.com など) を指定することもできます。
- **CCSID:** 値 37 は、コード・ページ 37 のデフォルト文字セット ID です。

関連概念:

3-53 ページの『メインフレーム・データ・ソースへのアクセスの構成 (必須)』
メインフレーム・データ・ソースに安全にアクセスできるように Accelerator
Loader サーバーを構成します。

使用の開始

ISPF インターフェースを開き、それを使用して製品セットアップ・オプションに値を指定する方法について確認します。

製品を使用するための前提条件

- 製品はその実行パス全体で DB2 を使用するため、DB2 Analytics Accelerator Loader を開始し、実行するには DB2 が実行されている必要があります。
- 製品を実行する DB2 サブシステムに対する DB2 Analytics Accelerator Loader プランでプラン実行アクセス権限が必要です。
- ロードしようとする表スペースが DEFINE YES で作成されたこと、または DEFINE NO で作成された場合は、基礎の VSAM 線形データ・セットが INSERT または LOAD で作成されたことを確認してください。

タスク・ロードマップ

製品の ISPF インターフェースを使用して、データを DB2 とアクセラレーターにロードするための JCL の作成に必要な JCL と制御カードを作成できます。ISPF インターフェースを使用するには、少なくとも、以下のタスクを完了する必要があります。必要に応じて、このセクションに含まれているオプションのタスクを実行します。

1. ISPF インターフェースを開始します。
2. 製品で使用するために少なくとも 1 つの DB2 サブシステムを構成します。
3. 使用する DB2 サブシステムを選択します。

トピック:

- 『ISPF インターフェースの開始』
- 4-3 ページの『DB2 サブシステムの構成』
- 4-4 ページの『DB2 サブシステムの選択』
- 4-4 ページの『DB2 サブシステム・パラメーターの指定』
- 4-5 ページの『DB2 サブシステムの削除』
- 4-5 ページの『ジョブ・カード情報の指定』

ISPF インターフェースの開始

製品の ISPF インターフェースを使用して、外部ファイルまたはイメージ・コピーから DB2 と IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にデータをロードする JCL を作成するために必要な JCL と制御カードを作成します。

始める前に

- カスタマイズ手順を実行します。
- ISPF インターフェースに必須の最小領域サイズ 30000 KB が割り当てられていることを確認します。

- 別のデータ・セットまたはデータ・セット・メンバーに対してインターフェースを実行するために CLIST をコピーした場合は、この手順でそのデータ・セットまたはメンバーの名前を必ず指定してください。

このタスクについて

このメニュー方式のインターフェースを使用すると、特定のコマンド・パラメーターを使用してロード・ジョブを作成し、その情報をプロファイルに保管して再使用することができます。さらに、サブシステム情報を一度構成すれば、インターフェースのすべてのユーザーが利用できます。

注: Accelerator Loader サーバーからデータをロードするには、ISPF インターフェースの代わりに Accelerator Loader スタジオを使用します。

パネル上のコマンド・パラメーターおよびその他の有効な値の詳細情報は、ヘルプ・パネルおよび参照セクションのパネル・コマンドのトピックで提供されています。この手順では、パネル・フィールドの詳細は説明していません。詳しい情報が必要な場合は、ヘルプ・システムまたはコマンド参照トピックを使用してください。各製品パネルの ISPF ヘルプ・パネルでは、そのパネルの目的を説明して、使用可能なコマンド、フィールド、および列データをリストします。ヘルプ・パネルを表示するには、HELP と入力するか、PF1 を押します。

手順

z/OS コンソールから、以下のオペレーター・コマンドを発行します。

```
TSO ex 'hlq.mlq.SHLOCLST(HLOV11)'
```

hlq.mlq はカスタマイズ時に指定した高位修飾子と中位修飾子を表し、HLOV11 は CLIST のデフォルト値です。

タスクの結果

以下の図に示す Accelerator Loader メインメニューが表示されます。

```

DB2 Analytics Accelerator Loader 2015/10/29 17:37:38
0 Setup                               User ID . . . : TSRDPA
1 Server administration               System ID . . . : RS25
2 Manage Loader profiles              Appl ID . . . : HLO
3 Load Accelerator and DB2 from external file  Version . . . : 2.1
4 Load Accelerator from external file
5 Load Accelerator with consistent data      DB2 SSID . . : QAA5
6 Load Accelerator from a specified image copy  Server ID . . : QDB2
X Exit

Option ==>
```

図 4-1. IBM DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS メインメニュー

注: 製品のインストール後、初めて DB2 Analytics Accelerator Loader を開始するときには、ユーザー設定を確認してください。「**Setup**」を選択し、サブパネルを表示して、指定した値が正しいことを確認します。

メインメニューのオプションは以下のとおりです。

| **Setup** DB2 サブシステムとジョブ・カード情報を指定して、デフォルトを設定し
| ます。

| **Server administration**

| Accelerator Loader サーバー の管理パネルを開きます。このパネルでは、
| Accelerator Loader サーバーを管理できます。

| **Manage Loader profiles**

| ロード・プロファイルを処理します。これを使用して、ロード・ジョブのオ
| プションを指定し、保管します。

| **Load Accelerator and DB2 from External File**

| 二重ロード・プロファイルのオプションを指定します。

| **Load Accelerator from external file**

| 外部ロード・プロファイルのオプションを指定します。

| **Load Accelerator with consistent data**

| 整合ロード・プロファイルのオプションを指定します。

| **Load Accelerator from a specified image copy**

| イメージ・コピー・ロード・プロファイルのオプションを指定します。

| **Exit** 製品を終了します。

DB2 サブシステムの構成

少なくとも 1 つの DB2 サブシステムを Accelerator Loader で使用するために構
成する必要があります。

このタスクについて

Accelerator Loader で使用するために DB2 サブシステムを構成した後、以下の手
順に従って、その DB2 サブシステムに関する情報を変更することもできます。

手順

1. メインメニューから「**Setup**」を選択します。
2. 「User Settings」パネルで、「**DB2 subsystem**」を選択します。
3. 「DB2 Subsystems」パネルで以下のいずれかのステップを実行します。
 - 新規の DB2 サブシステムを作成するには、CREATE コマンドを発行します。
 - サブシステム間で情報をコピーするには、SSID の隣の「**Cmd**」行に C と入
力します。
4. 「New DB2 Subsystem」パネルで、新規の DB2 サブシステム ID を指定し
て、Enter キーを押します。
5. 「DB2 Subsystem Parameters」パネルで、DB2 サブシステムのプランおよびデ
ータ・セットの情報を指定して、「Accelerator Loader Options」を選択し、
Enter キーを押します。
6. 「Accelerator Loader Parameters」パネルで、製品が処理中に使用する DB2
サブシステム固有のオプションを指定または編集します。
 - 内部ソートに使用されるソート・プログラム。
 - ログ読み取りおよびログ適用の設定。

- ファイル割り振りパラメーター。
- 製品が作成するデータ・セットに関する情報。
- 製品のソート作業データ・セットに関する情報。

7. 保管して元のパネルに戻るには、PF3 を押します。

関連資料:

12-14 ページの『「User Settings」パネル』

製品を実行する DB2 サブシステムを選択し、JCL の作成時に使用するジョブ・カードを指定します。

12-12 ページの『パネル・コマンドおよびフィールドのリファレンス』

このトピックでは、Accelerator Loader ISPF パネルのコマンドとフィールドのリファレンスを示します。パネルについて詳しくは、そのパネルで PF1 を押してください。

DB2 サブシステムの選択

DB2 サブシステムを Accelerator Loader で使用するために構成した後、使用対象の DB2 サブシステムとして選択します。

手順

1. メインメニューから「**Setup**」を選択します。
2. 「User Settings」パネルで、「**DB2 subsystem**」を選択します。
3. SSID の横にある「**Cmd**」行に S と入力して、Enter を押します。
4. 保管して元のパネルに戻るには、PF3 を押します。

関連資料:

12-12 ページの『パネル・コマンドおよびフィールドのリファレンス』

このトピックでは、Accelerator Loader ISPF パネルのコマンドとフィールドのリファレンスを示します。パネルについて詳しくは、そのパネルで PF1 を押してください。

DB2 サブシステム・パラメーターの指定

非データ共用環境とデータ共用環境で、DB2 サブシステムに関する情報を構成できます。DB2 Analytics Accelerator Loader は、バッチ処理時に DB2 サブシステム固有のオプションを使用します。

始める前に

DB2 サブシステムを構成し、製品で使用するために選択します。

手順

1. メインメニューから「**Setup**」を選択します。
2. 「User Settings」パネルで、「**DB2 subsystem**」を選択します。
3. 「DB2 Subsystem Parameters」パネルで、DB2 サブシステムのプランおよびデータ・セットの情報を指定して、「Accelerator Loader Options」を選択し、Enter キーを押します。

4. 「Accelerator Loader Parameters」パネルで、製品が処理中に使用する DB2 サブシステム固有のオプションを指定または編集します。
 - 内部ソートに使用されるソート・プログラム。
 - ログ読み取りおよびログ適用の設定。
 - ファイル割り振りパラメーター。
 - 製品が作成するデータ・セットに関する情報。
 - 製品のソート作業データ・セットに関する情報。
5. 保管して元のパネルに戻るには、PF3 を押します。

DB2 サブシステムの削除

サブシステムを使用しなくなった場合は、制御ファイルからサブシステムを削除してください。

手順

1. メインメニューから「**Setup**」を選択します。
2. 「User Settings」パネルで、「**DB2 subsystem**」を選択します。
3. SSID の横にある「**Cmd**」行に D と入力して、Enter を押します。
4. 「Confirm Action」パネルで、以下の手順を実行します。
 - a. オプション: 以後の削除確認パネルの表示をオフにするには、フィールド「**Set item delete confirmation off**」にスラッシュ文字 (/) を入力します。
 - b. サブシステムを削除することを確認するには、Enter を押します。
5. 保管して元のパネルに戻るには、PF3 を押します。

ジョブ・カード情報の指定

バッチ・ジョブに含めるジョブ・カードを定義します。

手順

1. メインメニューから「**Setup**」を選択します。
2. 「User Settings」パネルで、「**Batch**」を選択します。
3. 「Set Batch Job Card Information」パネルで、Accelerator Loader を使用して JCL を生成する際にバッチ・ジョブを作成する方法を指定します。
4. ジョブ・カードに行を追加するには、ADD コマンドを発行するか、行の横にある「**Cmd**」フィールドに I と入力して Enter を押します。
5. ジョブ・カードから行を削除するには、行の横にある「**Cmd**」フィールドに D と入力して Enter を押します。
6. ジョブ・カード内で行を移動するには、行の横にある「**Cmd**」フィールドに M と入力して Enter を押します。
7. 保管して元のパネルに戻るには、PF3 を押します。

関連資料:

12-14 ページの『「User Settings」パネル』
製品を実行する DB2 サブシステムを選択し、JCL の作成時に使用するジョブ・カ

ードを指定します。

12-12 ページの『パネル・コマンドおよびフィールドのリファレンス』

このトピックでは、Accelerator Loader ISPF パネルのコマンドとフィールドのリファレンスを示します。パネルについて詳しくは、そのパネルで PF1 を押してください。

DB2 以外のソースとリモート DB2 ソースからのデータのロード

DB2 Analytics Accelerator Loader を使用して、単一のメモリー内プロセスで、DB2 以外のソースとリモート DB2 ソースからアクセラレーターにデータを直接ロードできます。ソース・データのアクセス、必要なフォーマットへの変換、およびアクセラレーターへのロードが単一のステップで行われ、中間ファイル・フォーマットへのデータのランディングやロードは必要ありません。

前提条件

DB2 以外またはリモートの DB2 ソースからデータをロードするには、その前に以下のことを行う必要があります。

1. 製品をインストールする (プログラム・ディレクトリーを参照)。
2. 製品をカスタマイズする (2-1 ページの『カスタマイズの準備』のカスタマイズ・チェックリストを参照)。

カスタマイズ時に、Accelerator Loader スタジオをインストールして、Accelerator Loader サーバーを開始し、メインフレーム・データ・ソースへのアクセスを構成します。

3. Accelerator Loader スタジオを使用して、既存のデータ・ソースからデータを読み取るようにシステムを準備し、実行時にそのデータを仮想化された表に変換するようにシステムを構成します (このセクションのトピックを参照)。

トピック:

- 『Accelerator Loader サーバーの制約事項および考慮事項』
- 5-4 ページの『スタジオの概要』
- 5-5 ページの『Accelerator Loader パースペクティブ』
- 5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』
- 5-9 ページの『仮想ソース・ライブラリーの作成』
- 5-10 ページの『SQL を使用してデータにアクセスするための仮想表の作成』
- 5-19 ページの『SQL 照会の生成』
- 5-21 ページの『JCL の生成』
- 5-23 ページの『JCL の実行依頼』
- 5-23 ページの『サーバー・トレースの使用』
- 5-29 ページの『設定』

Accelerator Loader サーバーの制約事項および考慮事項

Accelerator Loader サーバーを使用してロードを実行する前に、以下に示す使用上の制約事項および考慮事項を確認してください。

Accelerator Loader サーバーを使用する際には、以下の制約事項と考慮事項が適用されます。

- IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS を使用したシステム間 DB2 アクセスを可能にするには、RACF パスチケット をセットアップする必要があります。ユーザーがサーバーを経由して DB2 データにアクセスできるように RACF パスチケット をセットアップするためのサンプル・ジョブが、*hlq.SHLVCNTL(HLVRADB2)* に提供されています。詳しくは、「z/OS Security Server RACF セキュリティー管理者のガイド」を参照してください。
- サーバーは、アクセラレーターのロードのみに使用します。DB2 にデータをロードしようとする、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS に障害が起こります。
- すべてのパーティションを含む表全体をアクセラレーターに最初にロードした後 (IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS のために必要)、範囲パーティション化オブジェクトの選択したパーティションをロードできます。つまり、LOAD ステートメントに PART 節を指定して、表のパーティションのサブセットをロードできます。
- Accelerator Loader スタジオは、ターゲット表の DDL と JCL を作成して、アクセラレーターにデータをロードします。生成される JCL には、STEPLIB DD 上の Accelerator Loader と Accelerator Loader サーバーのロード・ライブラリーが組み込まれます。
- 外部ソースからデータをロードする際に、以下の LOAD ユーティリティー・パラメーターはサポートされません。
 - Accelerator Loader サーバー・ソースからのロード時のフィールド指定。
この情報は、SQLDA に格納されてロード処理に提供されます。
 - INDDN オプションと ACCEL_CURSOR オプションの同時指定
 - ACCEL_HLV_SSID オプションと ACCEL_HLV_GRPNAME オプションの同時指定
- DB2 LUW をデータ・ソースとして使用するために、DB2 LUW 認証が適切にセットアップされていることを確認してください。
- データ・ソースとターゲットの制約事項、考慮事項、および制限は、以下のとおりです。

Accelerator Loader が非互換のソースとターゲットのデータ・タイプを検出すると、障害が起こってメッセージが発行されます。以下の表に、互換性のあるソース列とターゲット列のデータ・タイプをリストします。1 列目は、ソース Accelerator Loader サーバー列のサポートされるデータ・タイプのリストです。2 列目は、アクセラレーターにロードする DB2 列のデータ・タイプのリストです。

表 5-1. 互換性のあるソース列とターゲット列のデータ・タイプ

ソース・サーバー列のデータ・タイプ	ターゲット DB2 列のデータ・タイプ
CHAR, VARCHAR	CHAR
CHAR, VARCHAR	VARCHAR
DATE, CHAR, VARCHAR	DATE
TIME, CHAR, VARCHAR	TIME
TIMESTAMP, CHAR, VARCHAR	TIMESTAMP
INTEGER, SMALLINT	INTEGER

表 5-1. 互換性のあるソース列とターゲット列のデータ・タイプ (続き)

ソース・サーバー列のデータ・タイプ	ターゲット DB2 列のデータ・タイプ
INTEGER、SMALLINT、BIGINT	BIGINT
SMALLINT	SMALLINT
DECIMAL	DECIMAL
REAL	REAL (単精度浮動小数点)
REAL、FLOAT	FLOAT (倍精度浮動小数点)
GRAPHIC、VARGRAPHIC	GRAPHIC
GRAPHIC、VARGRAPHIC	VARGRAPHIC
BINARY、VARBINARY	BINARY
BINARY、VARBINARY	VARBINARY

- 製品が DB2 DRDA データ・ソース (仮想表または仮想ビューを必要としない) を直接使用する場合は、サポートされない列タイプのメッセージが Accelerator Loader スタジオに表示される可能性があります。サポートされない列に対して生成された DDL は、生成された JCL にコメントとして書き込まれます。
- IMS ソース・データと、アクセラレーターが構成されている対象のターゲット DB2 サブシステムは、同じ LPAR 上に存在する必要があります。
- ターゲット・アクセラレーターと DB2 サブシステムは、同じ LPAR 上に存在する必要があります。
- サーバー照会の結果セットで列が指定される順序は、ターゲット DB2 表内で列が定義される順序と一致している必要があります。
- サーバー照会の結果セットで指定される列の数は、ターゲット表内の列の数と一致している必要があります。
- 結果セット内のソース列が NULL 可能な場合は、対応するターゲット DB2 列も NULL 可能であることが必要です。
- 10 進数のターゲット DB2 列の位取りは、対応する結果セット列の 10 進数の位取りと一致している必要があります。
- CHAR または VARCHAR の結果セット列から DATE/TIME/TIMESTAMP 列をロードする場合、値は Accelerator Loader がサポートする日付/時刻形式のいずれかに従っている必要があります。サポートされない日付/時刻値を指定すると、無効なデータがアクセラレーターにロードされる可能性があります。

関連概念:

7-1 ページの『外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項』

外部ファイルからデータをロードする前に、使用に関する制約事項と考慮事項を検討してください。

関連タスク:

3-55 ページの『DB2 サブシステムへの・ユーザー・アクセスの構成』

DB2 へのユーザー・アクセスを提供します。

関連資料:

10-73 ページの『LUW 認証』

デフォルトで、Accelerator Loader サーバーは、z/OS へのログオンに提示されたのと同じユーザー ID を使用して、LUW 上で DB2 にログオンしようとします。LUW 上で DB2 にアクセスするために、ユーザーのログオン資格情報を変更できます。

スタジオの概要

DB2 Analytics Accelerator Loader では Accelerator Loader スタジオ・プラグインが使用可能で、このプラグインには IBM Data Studio からアクセスします。

Data Studio クライアントは、Eclipse テクノロジーに基づいて構築されており、データベースおよびインスタンスの管理、ルーチンと Java アプリケーションの開発、および照会チューニングのための統合開発環境を提供します。

Accelerator Loader スタジオを使用して、リレーショナル・データと非リレーショナル・データを迅速に変換し、IBM z/OS メインフレーム・システムに接続されているアクセラレーターにロードできます。データの変換とロードを行う前に、まずデータを抽出して別のファイルに書き込む必要はありません。マップされたソースからデータが直接読み取られ、ロード処理中に変換されるため、リアルタイムでデータにアクセスできます。

ビジネス・ニーズに応じて、並列データ・ロード機能を選択することができます。この機能を使用すると、ロード・パフォーマンスをさらに最適化し、特に重要なデータへのアクセスをさらに高速化することができます。例えば、クレジット・カード・サービス会社は、潜在的な疑わしいクレジット・カード活動としてフラグが立てられた取引データにリアルタイムでアクセスできることが必要なので、この機能を使用すると役に立ちます。

Accelerator Loader は、さまざまなデータ・ソースからのデータ結合もサポートします。サポートされるデータ・ソースは、DB2、IMS DB、VSAM データ・セット、物理順次データ・セット、分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー (DRDA) データ・ソース (Oracle および DB2 for Linux, Unix, and Windows (DB2 for LUW) を含む) などです。

Accelerator Loader パースペクティブを選択した後、既存のデータ・ソースからデータを読み取るようにシステムを準備し、そのデータを実行時に仮想化された表に変換するようにシステムを構成してから、Accelerator Loader サーバーを経由して仮想化された表のデータをアクセラレーター表にロードします。

アクセラレーターにデータをロードするには、以下の手順で行います。

- ステップ 1: Accelerator Loader サーバーに接続します。
 - 他の DB2 サブシステムにアクセスするには、バインド・パッケージを作成して特権を付与します。
- ステップ 2: 仮想ソース・ライブラリーを作成します。
- ステップ 3: ソース・ライブラリー内で選択されたメンバーから仮想表を作成します。
- ステップ 4: 仮想表に対して SQL 照会を生成します。

より複雑な SQL の場合は、SQL の仮想ビューを作成することを検討してください。

- ステップ 5: JCL を生成します。
- ステップ 6: JCL を実行依頼します。

関連概念:

5-4 ページの『スタジオの概要』

DB2 Analytics Accelerator Loader では Accelerator Loader スタジオ・プラグインが使用可能で、このプラグインには IBM Data Studio からアクセスします。

関連タスク:

5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』

Accelerator Loader スタジオを使用して、z/OS のインスタンス上で実行されている Accelerator Loader サーバーに接続します。

5-9 ページの『仮想ソース・ライブラリーの作成』

仮想ソース・ライブラリー は、ソース・データの仮想化に必要な情報を含む、メインフレーム上にあるライブラリーを指します。

5-19 ページの『SQL 照会の生成』

SQL データにアクセスするには、仮想表から SQL 照会を生成します。

パースペクティブの概要

ワークベンチで使用可能になるビューとエディターは、選択するパースペクティブによって決まります。

パースペクティブは、ワークベンチ内でのビューとエディターの配置です。パースペクティブは、特定のタスクやタスク・セットを実行する場合に使用します。パースペクティブを開くと、そのパースペクティブに関連付けられているメニュー項目、ツールバー、ビュー、エディター、およびウィザードがワークベンチで使用できるようになります。

注: Eclipse フィーチャーの使用方法について詳しくは、Eclipse の資料 (<http://help.eclipse.org/mars/index.jsp>) を参照してください。

パースペクティブを開く

パースペクティブを開くには、「**Window**」メニューで「**Open Perspective**」を選択してリストからパースペクティブを選択します。

Accelerator Loader パースペクティブ

Accelerator Loader パースペクティブは、1 つ以上のデータ・ソースからデータを取得してアクセラレーターにロードする操作に関連したタスクの実行に使用する、ビュー、エディター、およびウィザードを提供します。

このパースペクティブは、以下のタスクを実行するために使用します。

- メインフレームのリソースを探索し、メタデータを表示する。
- データ・ソースを作成し、管理する。
- SQL 照会を生成し、変更する。
- SQL から仮想表を作成する。

- 複雑な SQL 照会に使用する仮想ビューを作成する。
- アクセラレーターをロードするための JCL を生成、保管、および実行依頼する。

ビュー

Accelerator Loader パースペクティブには、以下のビューが含まれています。

- **Active Connections:** スタジオと 1 つ以上のサーバーとの間のオープン JDBC 接続がリストされます。現行アクティブ接続は SQL エディターによって使用され、その JDBC 接続を使用して SQL 照会が発行されます。サーバー接続を新規に作成でき、既存のサーバー接続を削除することもできます。
- **エクスプローラー・ビュー:** データ・リソース、ストアド・プロシージャ、およびメタデータがリストされます。ツリー内で選択したオブジェクトに対してタスクを実行できます。エクスプローラー・ビューには、以下のタブが含まれています。
 - 「**Client**」タブ: ローカル・マシン上のデータ・ソースとアプリケーション開発に関連した情報がリストされます。
 - 「**Server**」タブ: 接続、リソースの表示、またはタスクの実行の対象になる Accelerator Loader サーバーがリストされます。
 - 「**Network**」タブ: ネットワーク内のホスト接続およびサーバー接続がリストされます。既存のホストおよびサーバーの設定を表示したり、変更したりすることができます。
 - 「**Favorites**」タブ: 頻繁にアクセスするメインフレーム・リソースへのショートカットがリストされます。
- **Server Trace Import:** サーバー・トレース (.isx) ファイルをインポートするために使用します。
- **Labels:** 「**Server Trace**」ビュー内で検索を行う際に使用するラベルをサーバー・トレース・メッセージに適用します。
- **Lists:** エクスプローラー・ビュー内で選択されたツリー・ノードまたはオブジェクトごとの詳細を表示するために使用します。
- **Search:** サーバー・トレース結果内のテキスト・ストリングを検索するために使用します。
- **Server Trace:** サポートに提供するためのサーバー診断情報を設定および収集するために使用します。
- **SQL Results:** SQL 照会から返された結果セットを「**SQL Results**」タブに表示し、結果のトレース情報を「**SQL Messages**」タブに表示するために使用します。
- **Studio Navigator:** このプラグインの主要なタスク・ビューとエディターのショートカットをリストするために使用します。
- **Properties:** 「**Server**」、「**Network**」、または「**Client**」ナビゲーション・タブで選択したオブジェクトのプロパティを表示するために使用します。
- **Virtualization Facility:** 仮想表マッピングの詳細を表示します。

エディター

Accelerator Loader パースペクティブには、以下のエディターが含まれています。

- **Data Source Editor:** アクティブ接続を開くために使用される接続定義を編集するために使用します (「**Active Connections**」ビューを参照)。
- **SQL Editor:** SQL ステートメントを作成し、サーバーに対して照会を実行するために使用します。
- **JCL Editor:** JCL を編集して実行依頼するために使用します。
- **Virtualization Facility Editor:** 仮想表と仮想ビューに関連したメタデータ設定を編集するために使用します。

ウィザード

このパースペクティブには、以下のようなタスクをガイドするウィザードが含まれています。

- サーバー接続の設定
- データ・ソース・ライブラリーの作成
- 仮想表の作成
- SQL の生成

Accelerator Loader サーバーへの接続

Accelerator Loader スタジオを使用して、z/OS のインスタンス上で実行されている Accelerator Loader サーバーに接続します。

始める前に

Accelerator Loader スタジオの開始時に、「Accelerator Loader スタジオ」を右クリックして、「**Run as an administrator**」を選択します。

手順

1. メニューから、「**Window**」 > 「**Open Perspective**」 > 「**Accelerator Loader**」をクリックします。
2. 「**Server**」タブで、「**Set Server**」をクリックします。
3. 「Set Current[®] Server」ダイアログ・ボックスで、以下の項目を設定します。
 - **Host:** Accelerator Loader サーバーがデプロイされているメインフレーム・システムの TCP/IP ホスト名または IP アドレスを選択するか入力します。
 - **Port:** Accelerator Loader サーバーが使用するポート番号を入力します。デフォルトは 1200 です。
 - **Userid:** メインフレーム・ユーザー ID を入力します。
 - **User Password:** メインフレーム・ユーザー ID のパスワードを入力します。
4. 「**OK**」をクリックします。

関連概念:

5-4 ページの『スタジオの概要』

DB2 Analytics Accelerator Loader では Accelerator Loader スタジオ・プラグインが使用可能で、このプラグインには IBM Data Studio からアクセスします。

5-10 ページの『SQL を使用してデータにアクセスするための仮想表の作成』
ウィザードを使用して SQL 仮想表を作成し、その仮想表からメインフレーム・デ

ータにアクセスできるようにします。

5-29 ページの『設定』

「Preferences」では、いくつかの Accelerator Loader 設定をカスタマイズできます。

関連タスク:

5-9 ページの『仮想ソース・ライブラリーの作成』

仮想ソース・ライブラリー は、ソース・データの仮想化に必要な情報を含む、メインフレーム上にあるライブラリーを指します。

5-19 ページの『SQL 照会の生成』

SQL データにアクセスするには、仮想表から SQL 照会を生成します。

5-23 ページの『JCL の実行依頼』

JCL を生成した後、メインフレーム上の PDS に再使用可能なコピーを保管し、JCL を実行依頼できます。

ロケールに関する考慮事項

デフォルトの Accelerator Loader スタジオ では、コード・ページ US/English IBM 1047 を使用して、ネイティブの Java 文字エンコード (UTF-8) とメインフレームの EBCDIC の間で文字データ変換を行います。データ・ソース接続定義を変更すると、別のローカル・コード・ページを使用することができます。

手順

データ・ソース接続定義を構成するには、以下の手順を実行します。

1. 「**Active Connections**」ビューで、開いている接続をすべて閉じます。
 2. 「**Client**」タブで、「**Data Virtualization**」 > 「**Data Sources**」 > 「**JDBC**」の順に展開し、変更するデータ・ソースを参照します。
 3. 変更するデータ・ソースを右クリックして、「**Edit**」をクリックします。
 4. 「**Data Source Editor**」で、「**Connection String**」タブをクリックします。
 5. Charset 設定を追加または変更して、適切な EBCDIC ベースのコード・ページを使用します。例えば、IBM037。
 6. 接続ストリング内に LGID=ENC がある場合は、Charset 設定との干渉の可能性を避けるために削除します。
 7. データ・ソース定義を保管します。
- 接続定義の作成時にスタジオが使用するデフォルトの Charset を変更するには、以下の手順を実行します。
8. 「**Window**」メニューから、「**Preferences**」を選択し、「**Accelerator Loader**」を展開して、次に「**Driver**」を展開します。
 9. 新しい Charset 設定を「**Connection Overrides**」で追加し、「**OK**」をクリックします。
 10. 新しい接続定義 (DSN) を作成し、新しい設定が接続ストリングに表示されることを確認します。新しいデータ・ソース定義を使用して照会を実行すると、「**SQL Results**」ビューに正しい文字データ (言語固有の絵文字を含む) が表示されるようになります。

仮想ソース・ライブラリーの作成

仮想ソース・ライブラリーは、ソース・データの仮想化に必要な情報を含む、メインフレーム上にあるライブラリーを指します。

このタスクについて

例えば、VSAM ファイルのライブラリーには、その VSAM ファイル内のレコードの構造を説明するコピーブックが含まれている必要があります。IMS データベースの場合は、データベース定義 (DBD) ファイルとプログラム仕様ブロック (PSB) ファイル、および仮想化する IMS データベースのセグメントごとのコピーブック構造を提供する必要があります。z/OS ファイル・システム内で、ファイルまたはさまざまなタイプがどのように編成されているかに応じて、複数の仮想ソース・ライブラリーを作成する必要があることがあります。

以下の仮想ソース・ライブラリーのオプションが使用可能です。

Data set: z/OS 上の PDS または PDSE。データ・セット内のメンバーには、80 バイト・レコード形式で仮想化するソース・ファイルの構造定義が含まれています。

- IMS/DB セグメント、VSAM、および順次ファイル用の COBOL コピーブック。
- IMS データベース用の IMS PSB 定義および IMS DBD 定義。

手順

1. 「Server」タブの「Admin」の下で、「Source Libraries」を展開します。
2. 「Create Virtual Source Library」を右クリックして、「Create Virtual Source Library」を選択します。
3. 「Data Set」ウィザードの場合は、以下のフィールドに値を入力して、ソース・メンバーが存在するメインフレーム上の PDS を識別します。

Field	Action
Name	ソース・ライブラリーの名前を入力します。
Description	ソース・ライブラリーのオプションの説明を入力します。
Library Name	ソース・ライブラリーが参照するメインフレーム・データ・セットの名前を入力します。

4. 「Finish」をクリックします。

タスクの結果

「Source Libraries」フォルダーに新規ソース・ライブラリーが表示されます。

関連概念:

5-4 ページの『スタジオの概要』

DB2 Analytics Accelerator Loader では Accelerator Loader スタジオ・プラグインが使用可能で、このプラグインには IBM Data Studio からアクセスします。

関連タスク:

5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』
Accelerator Loader スタジオを使用して、z/OS のインスタンス上で実行されてい
る Accelerator Loader サーバーに接続します。

SQL を使用してデータにアクセスするための仮想表の作成

ウィザードを使用して SQL 仮想表を作成し、その仮想表からメインフレーム・デ
ータにアクセスできるようにします。

仮想表を作成したら、その表を使用して、メインフレームからデータを読み取った
り抽出したりする SQL を生成します。

仮想コレクションのコンテンツを編集するには、SQL 仮想表を編集する必要があります。

関連タスク:

5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』
Accelerator Loader スタジオを使用して、z/OS のインスタンス上で実行されてい
る Accelerator Loader サーバーに接続します。

DBMS (DB2) データ用の仮想表の作成

既存の DBMS 表から新規 DBMS 仮想表を作成し、オプションでプラン名も作成し
ます。DB2 for z/OS や DB2 for Linux, UNIX, and Windows など、DRDA ソ
ースには DBMS 仮想表を使用します。

始める前に

DBMS (DB2) サブシステム名やプラン名といった情報を入力できるように用意して
ください。

手順

1. 「**Server**」タブで、正しい Accelerator Loader サーバーに接続されていること
を確認します。
2. 「**Admin**」 > 「**Source Libraries**」を展開して、必要なソース・ライブラリー
が存在することを確認します。
3. 「**SQL**」 > 「**Data**」を展開し、続いて仮想表の作成元となるサーバーを展開し
ます。
4. 「**Virtual Tables**」を右クリックして、「**Create Virtual Table**」を選択しま
す。
5. 「**Wizards**」の下で、使用するウィザードを選択し、「**Next**」をクリックしま
す。
6. 以下のフィールドに値を指定してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Name	固有の名前を入力します。名前には最大 30 文字を指定できます。英大文字と 0 から 9 までの数字を使用できます。下線 (_) 文字は使用可能ですが、名前の先頭文字は英数字でなければなりません。

オプション	説明
Target	メタデータを保管するターゲット・データ・セットを選択します (例えば、HLQ.USER.MAP)。データ・セットはサーバー構成ファイルに定義されています。
Description (オプション)	オプションで説明を入力します。

7. 以下のデータ収集フィールドに入力してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Table Browser	使用する DBMS ソース・サブシステムと表を展開します。
Table Columns	この仮想コレクションがアクセスするデータを表す列を選択します。
Virtual Target System	前に選択したターゲット・システムを受け入れるか、別のターゲット・システムを選択するか、または「 Create Target System 」をクリックします。新規ターゲット・システムを作成することを選択した場合は、「 New Virtual Target System 」ダイアログで新規ターゲット・システム名と、使用する接続を入力し、オプションで、使用する DBMS デフォルト・プラン名も入力してから、「 Next 」をクリックします。

8. オプション: 使用する DBMS プラン名を入力してから、「**Next**」をクリックします。

9. 「**Finish**」をクリックします。

次のタスク

新しい仮想表を使用して、SQL 照会を生成できます。

IMS データ用の仮想表の作成

IMS データへの SQL アクセスを行うための仮想表を作成します。

始める前に

各セグメントの PSB、DBD、およびコピーブックがソース・ライブラリーに存在している必要があります。

手順

1. 「**Server**」タブで、正しい Accelerator Loader サーバーに接続されていることを確認します。
2. 「**Admin**」 > 「**Source Libraries**」を展開して、必要なソース・ライブラリーが存在することを確認します。
3. 「**SQL**」 > 「**Data**」を展開し、続いて仮想表の作成元となるサーバーを展開します。

4. 「**Virtual Tables**」を右クリックして、「**Create Virtual Table**」を選択します。
5. 「**Wizards**」の下で、使用するウィザードを選択し、「**Next**」をクリックします。
6. 仮想コレクションのデータ・レイアウトを定義する IMS 定義を取得する方法を以下の中から 1 つ選択して、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Extract DBD	ソース・ライブラリー内の DBD ファイルから新規メンバーをダウンロードするには、「 Extract DBD 」をクリックします。
DBD	以前にダウンロードした DBD 定義を「 DBD 」から選択します。
Extract PSB	ソース・ライブラリー内の PSB ファイルから新規メンバーをダウンロードするには、「 Extract PSB 」をクリックします。
PSB	以前にダウンロードした PSB 定義を「 PSB 」から選択します。
Use Copybook	DBD および PSB から既存のメンバーを選択するには、「 Create Virtual Table 」をクリックします。

7. 以下のデータ・セット・フィールドに値を指定してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Target	メタデータを保管するターゲット・データ・セットを選択します (例えば、HLQ.USER.MAP)。データ・セットはサーバー構成ファイルに定義されています。
Description	オプションで説明を入力します。

8. 以下のソース・ライブラリー・フィールドに値を指定してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Available Source Libraries	「 Available Source Libraries 」のリストから、データの仮想化時に使用するデータ構造定義が含まれているソース・ライブラリーを選択します。
Source Library Members	組み込むデータ構造を表す PDS メンバーを選択し、「 Download 」をクリックしてメンバーをメインフレームからデスクトップにコピーします。
Download Source Files	以前にダウンロードした組み込み対象のメンバーを選択します。

9. 以下のデータ・レイアウト・フィールドに値を指定してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Source	ソース・ファイルを展開して、ソース (メンバー) が正しく表示されることを確認します。
Start Field	デフォルトのルート開始フィールドを受け入れるか、ファイルを展開して別の開始フィールドを選択します。
End Field	デフォルトのルート終了フィールドを受け入れるか、ファイルを展開して別の終了フィールドを選択します。デフォルトでは、「 End Field 」は無効になっています。

- 使用する **DBD** 名とセグメント名を選択し、オプションで **PSB** 名を選択します。オプションで新しい名前を追加できます。
- 「**Finish**」をクリックします。

次のタスク

仮想表を使用して、SQL 照会を生成し、仮想ビューを作成できます。

順次データ用の仮想表の作成

順次データへの SQL アクセスを行うための仮想表を作成します。

始める前に

仮想表を作成する前に、コピーブックをソース・ライブラリーに追加し、データ・セット名を入力できるように用意しておきます。

手順

- 「**Server**」タブで、正しい Accelerator Loader サーバーに接続されていることを確認します。
- 「**Admin**」 > 「**Source Libraries**」を展開して、必要なソース・ライブラリーが存在することを確認します。
- 「**SQL**」 > 「**Data**」を展開し、続いて仮想表の作成元となるサーバーを展開します。
- 「**Virtual Tables**」を右クリックして、「**Create Virtual Table**」を選択します。
- 「**Wizards**」の下で、使用するウィザードを選択し、「**Next**」をクリックします。
- 以下のフィールドに値を指定してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Name	固有の名前を入力します。名前には最大 30 文字を指定できます。英大文字と 0 から 9 までの数字を使用できます。下線 (_) 文字は使用可能ですが、名前の先頭文字は英数字でなければなりません。

オプション	説明
Target	メタデータを保管するターゲット・データ・セットを選択します (例えば、HLQ.USER.MAP)。データ・セットはサーバー構成ファイルに定義されています。
Description	オプションで説明を入力します。
Convert VAR* fields to True VAR* fields	既存の VAR* フィールドを True VAR* に変換するには、「Convert VAR* fields to True VAR* fields」を有効にします。フィールドの長さが 254 より大きい場合は、すべての CHARACTER フィールドまたは BINARY フィールドが、TRUE VARCHAR フィールドまたは TRUE VARBINARY フィールドになります。フィールドの長さが 254 より小さい場合は、すべての CHARACTER フィールドまたは BINARY フィールドが、TRUE VARCHAR フィールドまたは VARBINARY フィールドになります。
Arrays Handling	以下のいずれかの配列管理オプションを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • Flatten arrays into a single fixed table at runtime: これは OCCURS ステートメントと OCCURS DEPENDING ON ステートメントの両方をサポートします。 • Return arrays into separate tables at runtime: これは OCCURS ステートメントと OCCURS DEPENDING ON ステートメントの両方をサポートします。配列ごとに副表が生成されます。副表は SQL 読み取りアクセスのみをサポートします。 • Flatten arrays now: これは OCCURS DEPENDING ON ステートメントをサポートしません。このオプションを選択すると、仮想表の保管後に配列処理を変更できません。

7. 以下のソース・ライブラリー・フィールドに値を指定してから、「Next」をクリックします。

オプション	説明
Available Source Libraries	使用するデータ構造が含まれているソース・ライブラリーを選択します。
Source Library Members	組み込むデータ構造を表す PDS メンバーを選択し、「Download」をクリックしてメンバーをメインフレームからデスクトップにコピーします。
Download Source Files	以前にダウンロードした組み込み対象のメンバーを選択します。

8. 以下のデータ・レイアウト・フィールドに値を指定してから、「Next」をクリックします。

オプション	説明
Source	ソース・ファイルを展開して、ソース (メンバー) が正しく表示されることを確認します。
Start Field	デフォルトのルート開始フィールドを受け入れるか、ファイルを展開して別の開始フィールドを選択します。
End Field	デフォルトのルート終了フィールドを受け入れるか、ファイルを展開して別の終了フィールドを選択します。デフォルトでは、「End Field」は無効になっています。

9. オプション: デフォルトの表再定義を受け入れるか、「Redefine」を展開して選択内容を変更し、「Next」をクリックします。

10. 以下のデータ・ソース・フィールドに入力してから、「Next」をクリックします。

オプション	説明
Data set name	データ・セットの名前を入力します。データ・ソースとして PDS メンバーを使用するには、区分データ・セット名を指定します。それ以外の場合は、順次データ・セットを指定するか、または世代別データ・グループ (GDG) 構文 (HLQ.DATA.SEQ(-1) など) を使用する GDG データ・セットを指定します。そのデータ・セットがホスト上に存在することを確認するには、「Validate」をクリックします。
Member	該当する場合は、使用する PDS メンバー名を入力します。そのメンバーがホスト上に存在することを確認するには、「Validate」をクリックします。
Post-Read Name Exit Name	ソース・ファイルから読み取った後のデータを操作するには、使用する読み取り後出口の名前を入力します。例えば、圧縮ファイルを圧縮解除する読み取り後出口を使用します。
Pre-Write Exit Name	ソース・ファイルに書き込む前のデータを操作するには、使用する出口の名前を入力します。例えば、ソース・ファイルを圧縮する書き込み前出口を使用します。
Pseudo Columns	疑似列を使用する場合は、DSN および Member 列の名前を入力します。また、これらの列で検索を有効にすることもできます。

オプション	説明
Advanced	<p>データを複数の論理パーティションに分割して、そのパーティションを並列で処理するには、「Advanced」をクリックします。</p> <p>「MapReduce (Server Parrellism Settings)」の「Thread Count」値を入力します。実行時に zIIP プロセッサの数が検査されて、検出されたプロセッサごとに 1 つのスレッドが使用されます。デフォルト値 (2) および検出された値は、指定した値でオーバーライドされます。</p> <p>MapReduce を無効にすることもできます。</p>

11. 「**Finish**」をクリックします。

次のタスク

仮想表を使用して、SQL 照会を生成できます。

VSAM データ用の仮想表の作成

VSAM データへの SQL アクセス用の仮想表を作成します。

始める前に

VSAM クラスター名 (*sourcelibrary.copybook.filename*) の情報を入力できるように用意しておきます。

手順

1. 「**Server**」タブで、正しい Accelerator Loader サーバーに接続されていることを確認します。
2. 「**Admin**」 > 「**Source Libraries**」を展開して、必要なソース・ライブラリーが存在することを確認します。
3. 「**SQL**」 > 「**Data**」を展開し、続いて仮想表の作成元となるサーバーを展開します。
4. 「**Virtual Tables**」を右クリックして、「**Create Virtual Table**」を選択します。
5. 「**Wizards**」の下で、使用するウィザードを選択し、「**Next**」をクリックします。
6. 以下のフィールドに値を指定してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Name	固有の名前を入力します。名前には最大 30 文字を指定できます。英大文字と 0 から 9 までの数字を使用できます。下線 (_) 文字は使用可能ですが、名前の先頭文字は英数字でなければなりません。

オプション	説明
Target	メタデータを保管するターゲット・データ・セットを選択します (例えば、HLQ.USER.MAP)。データ・セットはサーバー構成ファイルに定義されています。
Description	オプションで説明を入力します。
Convert VAR* fields to True VAR* fields	既存の VAR* フィールドを True VAR* に変換するには、「Convert VAR* fields to True VAR* fields」を有効にします。フィールドの長さが 254 より大きい場合は、すべての CHARACTER フィールドまたは BINARY フィールドが、TRUE VARCHAR フィールドまたは TRUE VARBINARY フィールドになります。フィールドの長さが 254 より小さい場合は、すべての CHARACTER フィールドまたは BINARY フィールドが、TRUE VARCHAR フィールドまたは VARBINARY フィールドになります。
Arrays Handling	以下のいずれかの配列管理オプションを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • Flatten arrays into a single fixed table at runtime: これは OCCURS ステートメントと OCCURS DEPENDING ON ステートメントの両方をサポートします。 • Return arrays into separate tables at runtime: これは OCCURS ステートメントと OCCURS DEPENDING ON ステートメントの両方をサポートします。配列ごとに副表が生成されます。副表は SQL 読み取りアクセスのみをサポートします。 • Flatten arrays now: これは OCCURS DEPENDING ON ステートメントをサポートしません。このオプションを選択すると、仮想表の保管後に配列処理を変更できません。

7. 以下のソース・ライブラリー・フィールドに値を指定してから、「Next」をクリックします。

オプション	説明
Available Source Libraries	「Available Source Libraries」のリストから、データの仮想化時に使用するデータ構造定義が含まれているソース・ライブラリーを選択します。
Source Library Members	組み込むデータ構造を表す PDS メンバーを選択し、「Download」をクリックしてメンバーをメインフレームからデスクトップにコピーします。

オプション	説明
Download Source Files	以前にダウンロードした組み込み対象のメンバーを選択します。

8. 以下のデータ・レイアウト・フィールドに値を指定してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Source	ソース・ファイルを展開して、ソース (メンバー) が正しく表示されることを確認します。
Start Field	デフォルトのルート開始フィールドを受け入れるか、ファイルを展開して別の開始フィールドを選択します。
End Field	デフォルトのルート終了フィールドを受け入れるか、ファイルを展開して別の終了フィールドを選択します。デフォルトでは、「 End Field 」は無効になっています。

9. オプション: デフォルトの表再定義を受け入れるか、「**Redefine**」を展開して選択内容を変更し、「**Next**」をクリックします。

10. 以下のフィールドに値を指定してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Cluster Name	VSAM データ・セットのクラスター名を入力して、「 Validate 」をクリックします。
Post-Read Exit Name	サーバーはメインフレーム上のカタログ内を検索し、データ・セットが存在することを確認します。データ・セットが存在する場合、ダイアログに検証コードが表示されます。「 Post-Read Exit Name 」に検証コードを入力します。 データが圧縮されている場合に読み取り後のデータを圧縮解除するには、IBM 提供の圧縮解除ルーチンを使用します。
Alternate Indexes	代替索引は VSAM ファイルです。メイン・クラスターは代替索引を指し、これらの索引は VSAM ファイルを検索するための代替手段を提供します。代替索引はクラスター名に間接的に関係していますが、クラスター名とは別個に定義する必要があります。KSDS VSAM または ESDS クラスターを使用している場合、クラスターに関連付けられている代替索引を指定して、「 Get 」をクリックして追加するか、「 Delete 」をクリックして削除することができます。

オプション	説明
Advanced	データを複数の論理パーティションに分割して、そのパーティションを並列で処理するには、「 Advanced 」をクリックします。 「 MapReduce (Server Parrellism Settings) 」の「 Thread Count 」値を入力します。実行時に zIIP プロセッサの数が検査されて、検出されたプロセッサごとに 1 つのスレッドが使用されます。デフォルト値 (2) および検出された値は、指定した値でオーバーライドされます。

11. 「**Finish**」をクリックします。

次のタスク

仮想表を使用して、SQL 照会を生成できます。

SQL 照会の生成

SQL データにアクセスするには、仮想表から SQL 照会を生成します。

このタスクについて

「**SQL Generate Query Behavior**」設定は、SQL を実行するか尋ねるプロンプトを出すか、SQL が自動的に実行されるかを決定します。SQL 設定を表示するには、「**Window**」メニューから「**Preferences**」 > 「**Accelerator Loader**」を選択します。

手順

1. 「**Server**」タブで、仮想表を右クリックして「**Generate Query**」を選択します。生成された照会は、**WHERE** 述部を持たない列をすべて選択します。この SQL では、DDL ステートメントの作成に使用できる列と、DB2 表およびターゲット表の定義に使用される列がリストされます。
2. オプション: 「**Generated.sql**」ビューで、必要なデータのみを選択するように SQL を変更します。すべての ANSI 準拠の SQL が受け入れられます。
3. オプション: SQL の仮想ビューを作成するには、**SELECT** ステートメントを強調表示し、右クリックして「**Create a virtual view**」を選択します。仮想ビューは、より複雑な照会を行う場合や、JOIN を使用する場合に役立ちます。
4. 照会を実行するには、**SELECT** ステートメントを強調表示して、**F5** を押しします。

タスクの結果

SQL が実行されると、結果が「**SQL Results**」ビューに表示されます。このビューでは、以下の操作を実行できます。

- 行をダブルクリックすれば、その行に関する追加詳細情報を表示できます。
- 「**Export**」オプションを選択すれば、SQL 結果を .csv ファイルにエクスポートできます。

- 「SQL Messages」をクリックすれば、照会関連のシステム・メッセージを表示できます。

関連概念:

5-4 ページの『スタジオの概要』

DB2 Analytics Accelerator Loader では Accelerator Loader スタジオ・プラグインが使用可能で、このプラグインには IBM Data Studio からアクセスします。

関連タスク:

5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』

Accelerator Loader スタジオを使用して、z/OS のインスタンス上で実行されている Accelerator Loader サーバーに接続します。

仮想ビューの作成

表に列がない場合、または別の表からの列を結合したい場合は、仮想ビューの作成を検討してください。

始める前に

仮想ビューを作成するには、エクスプローラー・ビューで仮想表から SQL ステートメントを生成するか、またはビュー内で選択した SQL から SQL ステートメントを生成する必要があります。結果セットをカスタマイズするには、SQL Resultsで SQL を編集します。

このタスクについて

仮想ビュー は、データ・ソースからデータを直接読み取るために使用される、ソース・データからの列を含む SELECT ステートメントです。場合によっては、SQL を毎回再生成して編集するよりは仮想ビューを作成する方が便利です。仮想ビューを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「SQL Editor」タブで、ビューの作成元となる SQL ステートメントを強調表示して右クリックします。
2. 「Create SQL View」を選択します。
3. 仮想ビューの名前、ターゲット、オプションの説明を指定して、「Next」をクリックします。
4. 結果の SQL ステートメントを検討して、必要な変更を行います。
5. 「妥当性検査」をクリックして、SQL の妥当性検査を実行します。
6. 有効であれば、「OK」をクリックします。
7. 「Finish」をクリックします。

タスクの結果

「Server」タブで、「SQL」>「Data」>「Views」から新規仮想ビューを表示します。

次のタスク

仮想ビューを作成した後、ビューから JCL を生成できます。

JCL の生成

仮想表、仮想ビュー、または選択した SQL ステートメントから、アクセラレーターにソース・データをロードするために使用される JCL を生成します。

始める前に

このタスクを開始する前に、以下の情報を用意してください。

- ターゲット・サブシステム名
- アクセラレーター名
- 製品と DB2 ロード・ライブラリーのデータ・セット名
- JCL ライブラリー名
- 表の作成者名
- Table name

ロード再開機能を有効にするには、アクセラレーターに IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS V4 PTF5 がインストールされている必要があります。

注: JCL 生成に関する設定をまだ指定していない場合は、このタスクの実行中に指定できます。

このタスクについて

JCL は、仮想ビューに含まれる SQL ステートメントと、ソース・データをアクセラレーターにロードするために使用される LOAD 制御カードを含みます。この情報は、JCL を初めて生成するときのみ指定する必要があります。

JCL を生成するには、以下のタスクを実行します。

手順

1. 「**Server**」タブで、「**SQL**」 > 「**Data**」の順に展開します。
2. SQL の作成に使用された仮想ビューまたは表が存在するサーバーを展開します。
3. 「**Virtual Views**」を展開します。
4. 仮想ビューを右クリックして、「**Generate JCL to Load Accelerator**」を選択します。
5. 「**Source Information**」ページで、使用するターゲット・サブシステムを選択します。
6. ユーザー独自の SQL 照会を作成する場合は、「**Validate**」をクリックして SQL 照会が有効であることを確認する必要があります。妥当性検査が失敗した場合は、SQL を手動で編集できます。ポップアップ・メッセージがスタジオに表示され、使用可能な列をリストするオリジナルの SELECT ステートメントのサブセットが示されます。
7. 「**Next**」をクリックします。
8. 「**Target Information**」ページで、表示されたターゲット DB2 サブシステムを受け入れるか、別のサブシステムを「**Target DB2 Subsystem**」プルダウン・メニューから選択します。

9. 表示されたアクセラレーターを受け入れるか、別のアクセラレーターを「**Accelerator**」プルダウンから選択します。
10. 表の作成者の名前を入力するか、プルダウンから以前の作成者を選択します。
11. 表の名前を入力するか、プルダウンから表を選択します。
12. オプション: データベース名を入力してください。
13. オプション: 並列処理 (マップ削減) を使用する場合は、「**Enable**」を選択して、並列タスクの数を指定します。このオプションは、デフォルトでは無効になっています。前に指定されていた並列処理設定を使用する場合は、「**Use Existing Table Attributes**」をクリックします。
14. オプション: 「**DDL Preview**」をクリックして DDL ステートメントをプレビューします。
15. 「**Next**」をクリックします。
16. 以下のロード・ライブラリーのデータ・セット名を指定します。
 - a. Accelerator Loader ライブラリー (SHLVLOAD、SHLOLOAD)。
 - b. DB2 ロード・ライブラリー (SDSNLOAD、SDSNEXIT、および RUNLIB)。カーソルを使用してデータをロードする、EXEC SQL オプションの LOAD ステップが使用されているために、RUNLIB.LOAD が必要です。
17. ターゲットの「**DB2 Utility Plan Name**」を指定します。
18. オプション: 「**JCL Settings**」をクリックして JCL 生成の設定を表示または変更し、「**OK**」をクリックして「Preferences」ダイアログを閉じます。
19. 「JCL Generation Details」ページで、「**Next**」をクリックします。
20. オプション: 「Job Creation」ページで、使用する JCL ライブラリーを選択するか、名前を入力します。選択または入力した JCL ライブラリーは保管され、このページを次に開くときに表示されます。ホストにジョブを保管しない場合、または場所がわからない場合は、このフィールドをブランクのままにします。
21. 生成された JCL ファイルを識別するために、「**Member Name**」を入力します。この名前は、ファイルのローカル・コピーの生成にも使用されます。製品は、この名前に基づいて「**Local File Name**」にデータを設定します。
22. 表示されたジョブ名を変更するか、受け入れます。
23. 以下のジョブ・オプションから選択します。
 - **DROP TABLE**: 既存のターゲット表の定義をドロップします。DB2 からアクセラレーターにデータをロードする場合は、このオプションを選択しないでください。
 - **CREATE TABLE**: 新規のターゲット表の定義を作成します。
 - **LOAD REPLACE**: 表内のデータを置換します。
 - **LOAD RESUME**: 既存の表に新規データをロードします。LOAD RESUME を選択すると、DROP TABLE と CREATE TABLE のオプションが無効になります。
24. エディター・ページで JCL を確認するには、「**Open in Editor**」を選択します。

25. オプション: JCL を自動的に実行依頼するには、「**Auto-run using JCL View**」を選択します。JCL ライブラリーが JCL ビュー内で指定されている場合は、ホスト上の PDS に JCL のコピーが保管されます。このコピーは、以後のデータのロードに使用できます。

26. JCL を生成するには、「**Generate**」をクリックします。

タスクの結果

JCL を生成すると、ファイルのローカル・コピーが作成されます。

JCL の実行依頼

JCL を生成した後、メインフレーム上の PDS に再使用可能なコピーを保管し、JCL を実行依頼できます。

このタスクについて

「**JCL View**」から JCL を保管または実行依頼するには、以下の手順で行います。

手順

1. 「**Windows**」メニューから、「**Show View**」 > 「**JCL View**」を選択します。
2. オプション: JCL ビュー内で、「**JCL library**」プルダウン・メニューから使用する PDS を選択するか、新規 PDS 名を入力します。この場所を保管するには、「+」(正符号)をクリックします。
3. JCL の実行依頼を可能にするには、「**Enable/Disable Submit**」をクリックします。「**Submit**」が有効になっていることを確認するには、その上にマウス・カーソルを移動します。
4. JCL を保管または実行依頼するには、「**Play**」をクリックします。処理の要約を確認するには、「**Messages**」タブを表示します。ジョブ出力全体を確認するには (JCL を実行依頼した場合)、「**Job**」タブを表示します。JCL エディター内で F5 をクリックして JCL を保管または実行依頼することもでき、また JCL を右クリックしてから「**Run using JCL View**」を選択することもできます。

関連タスク:

5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』

Accelerator Loader スタジオを使用して、z/OS のインスタンス上で実行されている Accelerator Loader サーバーに接続します。

サーバー・トレースの使用

「**Server Trace**」ビューを使用して、トラブルシューティングのためにサーバー操作を記録し、表示します。

このタスクについて

「**Server Trace**」ビューでは、次の操作を行うことができます。

- サーバー・トレース・メッセージの記録と表示を行う元のサーバーを選択する。
- プロファイル設定に基づいて、表示されるメッセージをフィルターに掛ける。

- 情報の列と、それらの列が表示される順序を選択する。
- メッセージにラベルを付けて、ラベルを使用したメッセージの検索を可能にする。
- メッセージを .isx ファイルとしてインポートおよびエクスポートする。

関連資料:

11-512 ページの『サポート用の診断情報』

問題が発生して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡を取る必要がある場合は、サポートに連絡する前に Accelerator Loader システムと問題に関する特定の情報を収集する必要があります。サポート担当員が問題を正しく診断して解決するために、この情報が必要です。

サーバー・トレースの開始

「Server Trace」ビューで Accelerator Loader サーバー・レコードのトレースを開始します。

始める前に

サーバー・トレースを実行する前に、トレース情報の収集元となる Accelerator Loader サーバーに接続できる必要があります。

手順

1. 「**Studio Navigator**」ビューの「**Common Tools**」タブで、「**Server Trace**」をクリックします。
2. 「**Server Trace**」ビューで、現在のサーバーがトレース・メッセージを収集する元の正しいサーバーであることを確認するか、別のサーバーを選択して、「**Set Server**」をクリックします。
3. トレースを開始するには、「**Play**」をクリックします。「**Server Trace**」表に、トレース・レコードが表示されます。
4. 「Server Trace Zoom」ページを開くには、メッセージをダブルクリックします。メッセージの詳細がページに表示されます。このページで、メッセージ内の特定の詳細を検索することもできます。

スタジオのサーバー・トレースの有効化

サーバー・トレース結果に Accelerator Loader スタジオ の呼び出しを含めることができます。

始める前に

トレース情報の収集元となる Accelerator Loader サーバーに接続できる必要があります。

手順

1. 「**Window**」メニューから「**Preferences**」を選択します。
2. 設定をリストするツリーで、「**Accelerator Loader**」をクリックします。
3. トレースを有効にするには、「**Enable Server Tracing of Studio Calls**」チェック・ボックスを選択します。

4. Accelerator Loader スタジオ の「**HTTP Debug Option**」ドロップダウン・メニューで、以下のいずれかの HTTP デバッグ・オプションを選択します。

オプション	説明
Off	HTTP メッセージを収集しません。対話式トレースを含め、すべてのトレース・アクティビティが非アクティブ化されます。
Normal	戻りコードを含め、失敗状況で終了したコマンドが実行後にトレースされます。
All	すべての命令が実行前にトレースされます。
Commands	すべてのコマンドが実行前にトレースされます。エラー状況または失敗状況で終了したコマンドの戻りコードもトレースされます。
Error	戻りコードを含め、エラー状況で終了したコマンドが実行後にトレースされます。
Failure	戻りコードを含め、失敗状況で終了したコマンドが実行後にトレースされます。
Intermediates	すべての命令が実行前にトレースされます。すべての項、中間結果、および置換された変数名が式の評価中にトレースされます。評価された式の最終結果も表示されます。 arg 、 parse 、または pull 命令によって割り当てられた値もトレースされます。
Labels	実行時にすべてのラベルを表示します。
Results	すべての命令が実行前にトレースされます。評価された式の最終結果も表示されます。 arg 、 parse 、または pull 命令によって割り当てられた値もトレースされます。

サーバー・トレース結果のフィルタリング

「Server Trace」ビューに表示されるレコードをフィルターに掛けるには、「**Profile**」オプションを使用します。

始める前に

フィルター対象のトレース情報がある Accelerator Loader サーバーに接続できることが必要です。フィルタリング基準は、サーバー・トレースの実行前でも実行後でも設定できます。最後に選択されたフィルターがデフォルトのフィルタリング・プロファイルとして自動的に保管されます。

手順

1. 「**Server Trace**」ビューで、「**Profile**」をクリックします。
2. 「Server Trace Profile」ページで、結果に組み込むフィールドを有効にします。
3. 結果をさらにフィルターに掛けるには、有効にしたフィールドごとに「**Add**」をクリックします。値が要求されたら、表示されている値の中から選択するか、または値を入力できます。

4. プロファイルの変更を保管し、「**Server Trace**」表で結果にプロファイルを適用するには、「**OK**」をクリックします。

次のタスク

「**Display**」オプションを使用して、フィルター済みの表に表示される列を選択してソートします。トレース結果をエクスポートすることも選択できます。

サーバー・トレース・ズームの使用

サーバー・トレース・メッセージの詳細を表示するには、「**Zoom**」を使用します。

始める前に

ズームを使用するには、サーバー・トレースが実行されている必要があります。

このタスクについて

「**Server Trace**」ビューでズームを使用すれば、選択したサーバー・トレース・メッセージの詳細をすべて表示できます。メッセージ ID、タイプ、説明が表示されます。既存の制御ブロックの詳細を表示することもできます。

手順

1. 「**Server Trace**」ビューで、ズームの詳細の表示対象となるメッセージをダブルクリックします。
2. 「**Zoom**」ダイアログ・ボックスでメッセージの詳細を表示して、以下のオプションの中から選択します。

オプション	説明
Previous	指定されたテキスト・ストリングが前に現れる位置を検索するには、「 Previous 」をクリックします。
Next	指定されたテキスト・ストリングが次に現れる位置を検索するには、「 Next 」をクリックします。
Search	「 Search 」をクリックしてから、検索ストリングを入力します。テキスト・ストリングが次に現れる位置を検索するには、「 Search 」を再度クリックします。
Close	検索ダイアログを閉じるには、「 Close 」をクリックします。

サーバー・トレース・メッセージの検索

サーバー・トレース・メッセージの結果内で特定のテキスト・ストリングやメッセージ ID を検索できます。

始める前に

結果として表示されるサーバー・トレース・メッセージ内で検索を開始する前に、サーバー・トレースを開始しておく必要があります。

手順

1. 「**Server Trace**」ビューで、「**View Menu**」をクリックし、「**Search**」をクリックします。
2. 結果内での検索方法を指定するには、「**Search**」ダイアログ・ボックスの「**From**」の下で、以下のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
First	テキスト・ストリングが最初に現れる位置を検索します。
Last	テキスト・ストリングが最後に現れる位置を検索します。
ID	入力したメッセージ ID から検索を開始します。

3. 「**For**」の下に、メッセージ制御ブロック内で検索するテキスト・ストリングを入力します。テキスト・ストリングにスペースや特殊文字を含めることはできません。また、ワイルドカード検索はサポートされていません。
4. テキスト・ストリングが前に現れる位置を検出するには「**Previous**」を選択し、テキスト・ストリングが次に現れる位置を検出するには「**Next**」を選択します。
5. 検索を開始するには、「**Search**」をクリックします。

次のタスク

検索基準を満たすメッセージを「**Server Trace**」で表示します。

サーバー・トレース・メッセージのラベル付け

ラベルを作成して、頻繁にアクセスするサーバー・トレース・メッセージにブックマークを付けます。

始める前に

レコードのラベル付けを開始する前に、サーバー・トレースを開始しておく必要があります。

手順

1. 「**Server Trace**」ビューで、ラベルを付けるメッセージを右クリックして、「**Add Label**」を選択します。
2. 「**Message Label**」ダイアログで、「**Label**」にテキストを入力し、「**OK**」をクリックします。
3. 「**Labels**」ビューで、「**Server Trace**」ビューのメッセージを見つけるには、ラベルをダブルクリックします。

サーバー・トレース・メッセージのエクスポート

サーバー・トレース・メッセージをファイルにエクスポートするには、「**Server Trace**」ビューを使用します。

このタスクについて

結果のサーバー・トレース・メッセージは、「**Server Trace**」ビューからエクスポートできます。ファイルにエクスポートできるメッセージの数は、「**Admin**」設定で制限できます。

手順

1. 「**Server Trace**」ビューで、「**View Menu**」をクリックして「**Export**」を選択します。
2. 「**Export Type**」の下で、以下のいずれかのメッセージ・エクスポート・オプションを選択します。

オプション	説明
Summary	最小限のメッセージ情報をエクスポートします。 <ul style="list-style-type: none">• メッセージ ID• 日付• 時刻• ユーザー ID• メッセージ・テキスト
Full	使用可能なすべてのメッセージ情報と、そのメッセージに関するすべてのデータをエクスポートします。 <ul style="list-style-type: none">• メッセージ ID• 日付• 時刻• ユーザー ID• メッセージ・テキスト• ズーム
Comma Separated Format	すべての表情報を .csv ファイルにエクスポートします。このファイル・タイプは、「 Server Trace 」ビューで表示するためにインポートすることはできません。

3. 「**Export Content**」の下で以下のいずれかのメッセージ・コンテンツ・オプションを選択してから、「**Next**」をクリックします。

オプション	説明
Message ID Range	エクスポートするメッセージの範囲を選択します。範囲に含める最初のメッセージ ID を「 From 」に入力し、最後のメッセージ ID を「 To 」に入力します。
Transaction ID	指定したリソース・リカバリー・サービス (RRS) トランザクション ID 値を持つメッセージのみをエクスポートします。

オプション	説明
Global Transaction ID	指定した RRS グローバル・トランザクション ID を持つメッセージのみをエクスポートします。
Message ID List	このオプションを選択できるのは、「Full」エクスポート・タイプ・オプションが選択されている場合のみです。

4. ファイル名とエクスポート・ロケーションを指定するには、「**Browse**」をクリックします。
5. ファイルを保管するには、「**Finish**」をクリックします。

サーバー・トレース・メッセージのインポート

「**Import File Viewer**」タブを使用して、サーバー・トレース・メッセージをインポートして表示できます。

始める前に

ファイルをインポートするには、サーバー・トレースが実行されている必要があります。

このタスクについて

.isx ファイルのサーバー・トレース・メッセージをインポートして、それらのメッセージを「**Import File Viewer**」タブで表示できます。

手順

1. 「**Import File Viewer**」タブで「**Import**」をクリックします。
2. インポートする .isx ファイルにナビゲートしてから、そのファイルをダブルクリックします。メッセージとメッセージ詳細が「**Import File Viewer**」タブに表示されます。
3. オプション: メッセージの詳細をさらに表示するには、メッセージを右クリックして「**Zoom**」を選択します。
4. オプション: メッセージの表示方法を変更するには、「**Display**」をクリックします。

設定

「**Preferences**」では、いくつかの Accelerator Loader 設定をカスタマイズできます。

設定は以下のように分類されます。

- Admin
- コンソール
- デictionaryナリー
- ドライバー
- JCL

- SSL

関連タスク:

5-7 ページの『Accelerator Loader サーバーへの接続』

Accelerator Loader スタジオを使用して、z/OS のインスタンス上で実行されている Accelerator Loader サーバーに接続します。

11-522 ページの『ネットワーク接続の変更』

仮想表またはソース・ライブラリーを作成しようとして失敗し、エラー・メッセージ HTTP 401/403 が出された場合は、ネットワーク接続を変更すると問題が解決することがあります。

管理設定

管理設定画面で、エクスポートするサーバー・トレース・メッセージの最大数を設定できます。

「**Window**」メニューで、「**Preferences**」>「**Accelerator Loader**」>「**Admin**」を選択します。

「**Server Trace Export size limit**」のデフォルト値は 5000 です。5000 を超える値を指定すると、MAX CPU TIME EXCEEDED エラーが発生する可能性があります。

コンソール設定

コンソール表示設定の表示や変更を行うには、「**Console**」設定を使用します。

「**Window**」メニューで、「**Preferences**」>「**Accelerator Loader**」>「コンソール」を選択してから、以下の情報を入力します。

Fixed width console

コンソールに表示する文字の固定幅を指定できます。

Maximum character width

固定幅コンソールの最大文字幅を指定します。デフォルトの設定値は 80 です。

Limit console output

コンソール・バッファ・サイズを文字数で制限できます。

Console buffer size (characters)

バッファ・サイズを制限する文字数を指定します。デフォルトの設定値は 80000 です。

Console entry size limit (characters)

コンソール項目に対して許可される文字の最大数を指定します。デフォルトの設定値は 500 です。

ディクショナリー設定

使用している言語に基づいてディクショナリーの予約語を追加/削除したり、ディクショナリーを追加/削除したりするには、ディクショナリー設定を使用します。

「**Window**」メニューで、「**Preferences**」>「**Accelerator Loader**」>「ディクショナリー」を選択してから、以下の情報を入力します。

Dictionary

デフォルトのディクショナリーをリストします。新規ディクショナリーの追加や、既存ディクショナリーの削除を行うことができます。

Reserved word

各ディクショナリーの予約語をリストします。新規の単語をリストに追加したり、既存の単語を削除したりできます。

ドライバー設定

ドライバー設定では、ドライバー構成ファイルのデフォルトのロケーションを指定できます。

JDBC ドライバーの設定

インストーラーは、ドライバー構成ファイルのロケーションを識別しようとしません。新しいロケーションを指定できます。

注: また、「**Client**」ビューから他の構成ファイルを追加して、その構成ファイルに保管されているデータ・ソースにアクセスすることもできます。

「**Window**」メニューで、「**Preferences**」>「**Accelerator Loader**」>「**ドライバー**」を選択してから、以下の情報を入力します。

Enable Tracing

JDBC ドライバーのトレースを有効にします。デフォルトでこの設定は無効です。このオプションを変更する場合は、変更を完了するためにスタジオを再始動する必要があります。

Default DSN File

DSN ファイルのデフォルトのロケーションを指定します。このファイルは、「**Active Connections**」ビューで使用するために生成される JDBC 接続定義を保管するために使用されます。

Connection Overrides

スタジオが JDBC 接続定義の作成時に使用する接続設定をオーバーライドできるようにします。名前と値の単一のペアを指定するか、またはセミコロン区切りのリストを指定します。

JCL 設定

Accelerator Loader スタジオ では、JCL 設定を使用して、JCL バッチ・ジョブを生成し、メインフレーム・ホストに実行依頼します。

JCL

「**Window**」メニューで、「**Preferences**」>「**Accelerator Loader**」>「**JCL**」を選択してから、以下の情報を入力します。

一般的な JCL 設定:

JCL Submit/Poll Timeout (secs)

ジョブが完了するために Accelerator Loader スタジオ がホストのポーリ

ングを停止するまでに経過する秒数。ホストがその秒数以内にジョブを完了しない場合、メインフレーム上のジョブ状況を確認してください。デフォルトは 300 です。

生成

JCL 生成のデフォルト設定:

Job Name Suffix

デフォルトのジョブ名の生成に使用されます。この 1 文字の接尾部がユーザー ID に付加されます。デフォルトの設定値は **A** です。

Job Account

JOB ステートメントに追加できるオプションのアカウント情報。デフォルトの設定値は空白です。

Execution Class

JOB ステートメントで使用される実行クラス。デフォルトの設定値は **A** です。

Message Class

JOB ステートメントで使用されるメッセージ・クラス。デフォルトの設定値は **X** です。

Region Size

JOB ステートメントで使用される領域サイズ。デフォルトの設定値は **OM** です。

Temporary DASD Name

一時作業ファイルの割り振りで使用するためにジョブ・ステップで使用される総称装置名。ジョブ名接尾部: デフォルト設定は **SYSDA** です。

トレース/デバッグ

JCL 実行依頼のためのトレースおよびデバッグ・パラメーター:

Request Status Values

デフォルトの設定値は **ALL** です。

Level デフォルトの設定値は **1** です。

Trace Function Stems

デフォルトでこのチェック・ボックスは無効です。

Dump REXX Variables

デフォルトでこのチェック・ボックスは無効です。

Enable SSI Tracing

SSI トレースを有効にします。デフォルトでこのチェック・ボックスは有効です。

Enable SSI SSOB dumps

デフォルトでこのチェック・ボックスは無効です。

SSL 設定

Accelerator Loader スタジオ と Accelerator Loader サーバーの間で JDBC および HTTP のネットワーク通信を保護するには、SSL を有効にします。

SSL を有効にするには、「**Window**」メニューから「**Preferences**」 > 「**Accelerator Loader**」 > 「**SSL**」を選択し、次に「**Use SSL for Studio-Server communications (JDBC and HTTP)**」を選択します。

SSL を有効にしたら、通信に使用するプロトコルを選択し、サーバーおよびクライアントの認証要件を指定します。

通信

Protocol

Accelerator Loader スタジオ と Accelerator Loader サーバー の間の通信に使用するプロトコル・バージョンを選択します。デフォルトは TLS 1.2 です。

サーバー認証戦略

使用する認証戦略を選択します。

Require Server Validation

Accelerator Loader サーバー証明書がすべて認証されるように要求するには、「**Require Server Validation**」を有効にしてから、以下の情報を入力します。

- **Truststore:** ローカル・マシン上のファイルのパス名。このファイルには、Accelerator Loader サーバーの認証局 (CA) 証明書が入っている必要があります。
- **Password:** トラストストア・ファイルのパスワード。
- **Type:** トラストストア・ファイルのタイプ。例えば、JKS、PKCS12、BKS、UBER。

Allow Self-Signed Certificates

Accelerator Loader サーバーが自己署名証明書を使用できるようにするには、「**Allow Self-Signed Certificates**」を有効にします。

- **Truststore:** ローカル・マシン上のファイルのパス名。このファイルには、自己署名サーバー CA 証明書が入っている必要があります。
- **Password:** トラストストア・ファイルのパスワード。
- **Type:** トラストストア・ファイルのタイプ。例えば、JKS、PKCS12、BKS、UBER。

Trust All

すべての Accelerator Loader サーバー証明書を許可するには、「**Trust All**」を有効にします。これを有効にすると、Accelerator Loader スタジオはサーバー証明書を妥当性検査しません。

クライアント認証

Accelerator Loader サーバーによるクライアント認証を有効にするには、「**Enable Client Authentication**」を選択してから、以下の情報を入力します。

Keystore

ローカル・マシン上のファイルのパス名。このファイルには、サーバー CA によって署名されたクライアント証明書が含まれている必要があります。

| **Password**

| 鍵ストアのパスワード。

| **Type** 鍵ストア・ファイルのタイプ。例えば、JKS、PKCS12、BKS、UBER。

| **Alias** パスワードが有効であり、別名 (ラベル) が表示されていることを確認する
| には、「**Refresh**」をクリックします。

| SSL 設定を保管するには、「**Apply**」をクリックしてから、「**OK**」をクリックしま
| す。 Accelerator Loader サーバーを設定するときは、必ずセキュア・ポート番号を
| 入力します。

| 関連概念:

| 10-6 ページの『Secure Sockets Layer (SSL)』

| Secure Socket Layers (SSL) は、IBM TCP/IP 機能である Application
| Transparent Transport Layer Security (AT-TLS) によって透過的にサポートされま
| す。

| 関連タスク:

| 10-7 ページの『SSL サポートの有効化』

| Secure Socket Layers (SSL) サポートを有効にするための手順を検討します。

DB2 イメージ・コピーからのデータのロード

DB2 イメージ・コピーからデータをロードする JCL を生成できます。

整合ロードまたは履歴ロードでは、カタログされた DB2 イメージ・コピーから複数の DB2 表をロードできます。更新のために表をオフラインにする必要はありません。アクセラレーターをロードするために、任意の整合または履歴の時点を指定できます。

イメージ・コピー・ロードでは、指定した DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一表のデータをロードできます。

トピック:

- 『DB2 イメージ・コピーからのロードの制約事項と考慮事項』
- 6-3 ページの『ISPF インターフェースを使用した整合ロード・プロファイルまたはイメージ・コピー・ロード・プロファイルの作成または編集』
- 6-5 ページの『バッチ・インターフェースを使用したイメージ・コピーからのロード』

DB2 イメージ・コピーからのロードの制約事項と考慮事項

整合ロード、履歴ロード、またはイメージ・コピー・ロードを実行する前に、使用に関する以下の制約事項と考慮事項を検討してください。

DB2 イメージ・コピーからのすべてのロード

DB2 イメージ・コピーからいずれかのロード (整合ロード、履歴ロード、またはイメージ・コピー・ロード) を実行する場合は、以下の制約事項と考慮事項が適用されます。

以下のデータ・タイプがサポートされています。

- BIGINT
- BINARY*
- CHAR
- DATE
- DECIMAL
- DOUBLE
- FLOAT
- GRAPHIC
- INTEGER
- REAL
- SMALLINT
- TIME

- TIMESTAMP
- TIMESTAMP WITH TIMEZONE*
- VARBINARY*
- VARCHAR
- VARGRAPHIC

* このデータ・タイプは、DB2 のみにロードされます。

フィールド・プロシージャーはサポートされませんが、編集プロシージャーはサポートされます。

並列ロードを実行する場合は、以下の考慮事項が適用されます。

- 既存のイメージ・コピーを使用して (すなわち、新しい FlashCopy イメージ・コピーを作成しない)、整合ロードを実行する場合:
 - テープからロードする場合は、パーティション・レベルのイメージ・コピーが必要です。
 - DASD からロードする場合は、パーティション・レベルのイメージ・コピーが推奨されます。

個々のパーティションを使用すると、複数の並列タスクが一度に複数のデータ・セットをオープンできるので、スループットが向上します。

製品は、複数表の表スペースから複数の表をロードすることをサポートしていません。複数表の表スペースに属する複数の表がジョブで指定される場合、製品はエラー・メッセージを発行し、処理を停止します。「Load Accelerator with Consistent Data」パネルまたは「Load Accelerator from a specified Image Copy」パネルの「**Continue on error**」フィールドの値が **Yes** であるか、または CONTINUE_ON_ERROR 制御カードが指定されている場合、ジョブは正常に終了しますが、戻りコードが 0 ではなく 4 です。

ジョブに NEW_COPY キーワードが含まれている場合、製品は、パーティション・レベルの FlashCopy イメージ・コピーを作成します。ただし、ジョブで作成者、表、PARTITION キーワードが指定されない場合、製品は新しいコピーを使用するのではなく、前のイメージ・コピーを検出して使用しようとしています。表スペースに前の DSNUM 0 イメージ・コピーがない場合、ジョブはコード U0008 で異常終了する可能性があります。

ジョブが実行される環境によっては、並列ロード・ジョブがシステム・コード S878、戻りコード 10 で異常終了する可能性があります。製品はメッセージ HLO3601E を発行します。この異常終了が発生した場合は、並列ログ適用タスクの数を減らして、ジョブを再実行してください。

オブジェクト数が 20,000 個に近くなるジョブを作成するには、処理に相当量のリソースが必要です。バッチで作成する場合は、領域サイズ 0M (無制限) を使用してください。TSO から作成する場合は、TSO 領域サイズが少なくとも 30000 であることを確認してください。

整合ロード、履歴ロード、またはイメージ・コピー・ロードのジョブの実行に使用されるユーザー ID には、z/OS UNIX システム・サービスへの読み取りアクセス権限が必要です。

整合ロードと履歴ロードのみ

整合ロードまたは履歴ロードを実行する場合は、以下の制約事項が適用されます。

- 表スペースの有効なフルイメージ・コピーは SYSCOPY に記録されなければなりません。または、表スペースごとに有効な開始点が SYSCOPY に存在している必要があります。
- 製品は、新しいイメージ・コピーの作成に必要な DB2 アーカイブ・ログおよびアクティブ・ログにアクセスできる必要があります。
- バッチ・ジョブ内のすべてのスペースに同じ終点を使用する場合は、1 つのグループの下にすべてのスペース制御カードを配置してください。各スペースに 1 つのグループを指定しないでください。

ISPF インターフェースを使用した整合ロード・プロファイルまたはイメージ・コピー・ロード・プロファイルの作成または編集

ロード・プロファイルは、アクセラレーターにデータをロードするためのジョブの作成に関するオプションのグループです。プロファイルを作成した後、以後のロード・ジョブを実行するためにプロファイルを再使用できます。

始める前に

6-1 ページの『DB2 イメージ・コピーからのロードの制約事項と考慮事項』に記載されている情報を確認します。

プロファイルのタイプについては、以下の情報を確認してください。

- 「**Consistent**」は、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Image copy**」は、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

このタスクについて

DB2 表をプロファイルに追加する場合、表、単一の基本表のビュー、または別名でフィルタリングすることができます。製品は、ビューまたは別名を基本表スペースに解決して、生成された JCL に基本表スペースを組み込みます。複数の表の結合から作成されたビューはサポートされていません。製品は、生成前に指定された DB2 表の存在を検査します。ただし、パーティションを指定する場合は、製品はパーティションを検査できず、JCL の生成時に指定されたとおりにパーティションを使用します。

「**Table creator like**」フィールドおよび「**Table name like**」フィールドでアスタリスク (*) を使用できます。このフィールドの大/小文字の区別は、「Enter Table and Creator Like to Display」パネルの「**Case sensitive**」フィールドによって制御されます。設定によっては、ワイルドカード・パターン abc* により、パターン ABC* とは別の結果が返される場合があります。

手順

1. メインメニューから、「**Manage Loader Profiles**」を選択して Enter キーを押します。

2. 「Manage Loader Profiles」パネルで、既存のプロファイルのプロファイル名または作成者名でフィルターに掛けるには、アスタリスク (*) を使用してワイルドカード・パターンを指定し、Enter キーを押します。
3. 「Manage Loader Profiles」パネルで以下のいずれかのステップを実行します。
 - 新規プロファイルを作成するには、CREATE コマンドを発行して、「Create Profile」パネルで、作成するプロファイルのタイプを選択します。
 - 既存のプロファイルをコピーすることによって新規プロファイルを作成するには、コピーするプロファイルの隣の「Cmd」行に C と入力します。
 - 既存のプロファイルを編集するには、プロファイルの隣の「Cmd」行に E と入力します。
4. 「Load Accelerator with Consistent Data」パネルまたは「Load Accelerator from a specified Image Copy」パネルで、次のようにプロファイルの名前および処理オプションを指定します。
 - DB2 LOAD ユーティリティーのユーティリティー処理オプション。
 - FlashCopy イメージ・コピーを作成するには、FlashCopy のオプションを指定します。FlashCopy を使用しない場合、イメージ・コピーは作成されず、DB2 Analytics Accelerator Loader はレガシー・イメージ・コピーを使用します。
 - FlashCopy DSN テンプレートのオプションを定義するには、以下のステップを実行します。FlashCopy DSN テンプレートを使用しない場合、製品は、DSNZPARM のデフォルトのテンプレートを使用します。
 - 「Use FlashCopy DSN template」フィールドおよび「Update」フィールドに Yes と指定します。
 - 「FlashCopy DSN Template」パネルで、データ・セット名マスクを作成するための修飾子コードを指定します。
 - SHOW コマンドを発行して、結果のテンプレート DSN を表示します。
 - ログの読み取りおよび適用のオプションを指定します。
5. DB2 表をプロファイルに追加するには、T パネル・コマンドを発行します。
6. 「DB2 Table List」パネルで、以下のいずれかのコマンドを発行します。
 - オブジェクト・フィルターを指定するには、パネル・コマンド Add を発行します。「Enter Table and Creator Like to Display」パネルが開きます。
表、ビュー、または別名を指定できます。
 - 「Referentially Dependent Table Selection」パネルで 1 つ以上の表を選択するには、行コマンド RIS を発行します。
 - すべての関連表を選択するには、行コマンド RIA を発行します。
7. 「Add DB2 Tables」パネルで、ALL パネル・コマンドまたは S 行コマンドを使用して、プロファイルに追加するオブジェクトを選択し、Enter キーを押します。
8. F3 を押して、「Load Accelerator from a specified Image Copy」パネルまたは「Load Accelerator with Consistent Data」パネルに戻ります。

9. データをロードするアクセラレーターを選択するには、A パネル・コマンドを発行して、「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネルでアクセラレーターを選択し、Enter キーを押します。
10. 保管して元のパネルに戻るには、PF3 を押します。

バッチ・インターフェースを使用したイメージ・コピーからのロード

バッチ・インターフェースを使用してイメージ・コピーを指定し、そのイメージ・コピー・データ・セットからアクセラレーター上のターゲット表にデータをロードできます。

このタスクについて

この手順のオプションとサンプル JCL について詳しくは、『DB2 Analytics Accelerator Loader 構文』セクション内の 9-3 ページの『整合ロードおよびイメージ・コピー・ロードのジョブ』を参照してください。

手順

1. SHLOSAMP ライブラリー内で、カスタマイズする以下のいずれかのメンバーを見つけます。
 - HLOSAMP1: このメンバーを使用して、ソースとターゲットの DBID/PSID/OBID 番号を手動で指定します。
 - HLOSAMP2: このメンバーを使用して、OBIDXLAT_CATALOG オプションによって DB2 カタログから変換情報を取得します。
2. 以下の変数を置き換えます。
 - <SSID> をターゲット・オブジェクトのサブシステム ID に
 - #HLQ# を SMP/E HLO LOADLIB に
 - #HLQ# を SMP/E FEC LOADLIB に
 - <CONTROL FILE> を HLO 制御ファイルのデータ・セット名に
3. SYSINHLO DD 内で、以下の手順を実行します。
 - a. CREATOR、NAME、TO_IC、および ACCELNAME の各オプションの値を、該当する値に置き換えます。
 - b. 変換情報を指定します (必要な場合)。
4. カスタマイズしたメンバーのコピーを別のライブラリーに保管します。

外部ファイルからのデータのロード

外部ファイルから IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS およびオプションで DB2 にデータをロードする JCL を生成できます。

| Accelerator Loader 拡張構文を、特定の基準に一致する既存のバッチ・ジョブに追加
| できます。また、ISPF インターフェースまたはバッチ・インターフェースを使用
| して、二重ロード・プロファイルまたは外部ロード・プロファイルを作成して JCL
| を生成することもできます。

Accelerator Loader は並列処理をサポートし、同一表からのさまざまなパーティションを並行して処理し、DB2 またはアクセラレーター、もしくはその両方にロードすることができます。

トピック:

- 『外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項』
- 7-7 ページの『既存のロード・ジョブへの構文の追加』
- 7-8 ページの『ISPF インターフェースを使用した、外部ファイルからロードするためのプロファイルの作成または編集』

外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項

| 外部ファイルからデータをロードする前に、使用に関する制約事項と考慮事項を検
| 討してください。

| 注: このセクションの情報に加えて、ご使用のシステムが、2-6 ページの『カスタ
| マイズ前の環境のセットアップ』にリストされている要件を満たしていることも確
| 認してください。

データに関する考慮事項

以下のデータ・タイプがサポートされています。

- BIGINT
- BINARY*
- CHAR
- DATE
- DECIMAL
- DOUBLE
- FLOAT
- GRAPHIC
- INTEGER
- REAL
- SMALLINT

- TIME
- TIMESTAMP
- TIMESTAMP WITH TIMEZONE*
- VARBINARY*
- VARCHAR
- VARGRAPHIC

* このデータ・タイプは、DB2 のみにロードされます。

以下の SYSIBM.SYSCOLUMNS(DEFAULT) 値がサポートされます。

- 数値: 0
- 固定長の文字ストリングまたはグラフィック・ストリング: ブランク
- 固定長バイナリー・ストリング: 16 進数ゼロ
- 可変長ストリング: ストリングの長さ 0
- 日付: 現在日付
- 時刻: 現在時刻
- タイム・スタンプ: `TIMESTAMP(integer) WITHOUT TIME ZONE`
- `CURRENT TIMESTAMP(p) WITHOUT TIME ZONE` (p は対応するタイム・スタンプ精度)

DB2 LOAD ユーティリティーの考慮事項

Accelerator Loader は、DB2 LOAD ユーティリティーの制約事項に従います。詳しくは、ご使用の DB2 バージョンの「*DB2 for z/OS Utility Guide and Reference*」を参照してください。以下に例を示します。

- `FORMAT INTERNAL` データの場合、DB2 LOAD ユーティリティーは、LOAD ユーティリティー・コマンド `LOAD DATA INTO TABLE` で 1 つの表のみをサポートします。複数の `INTO TABLE` 節を指定することはできません。
- DB2 LOAD ユーティリティーのフィールド指定の制約事項は DB2 Analytics Accelerator Loader にも適用されます。

一般的な制約事項と制限

外部ファイルからデータをロードする際に、以下の制約事項と制限が適用されます。

- DB2 Analytics Accelerator Loader は、`ORGANIZE BY HASH` を使用して定義された非パーティション化表をサポートします。`ORGANIZE BY HASH` を使用して定義された `PARTITION BY RANGE` 表はサポートしません。
- コード化文字セット ID (CCSID) 変換はサポートされません。
- EBCDIC コード・ページのみがサポートされます。
- オブジェクト名の末尾のスペースはサポートされません。
- ロードしようとする表スペースが `DEFINE YES` で作成されたこと、または `DEFINE NO` で作成された場合は、基礎の VSAM 線形データ・セットが `INSERT` または `LOAD` で作成されたことを確認してください。
- `GENERATED` として定義された列はサポートされません。

- FLOAT 列のデータは正確に変換されない場合があります。
- パーティション・キー列には DEFAULTIF オプションはサポートされません。
- ISPF インターフェースを使用する場合、1 つの SYSREC データ・セットのみを指定できます。複数の SYSREC データ・セットを指定するには、テンプレートを使用するか、生成された JCL に手動で SYSREC データ・セットを追加します。

Accelerator Loader は、外部形式から DB2 内部形式にデータを変換します。Accelerator Loader は DB2 の制約事項を検出せず、DB2 は必要に応じてエラー・メッセージを発行します。DB2 の制約事項について詳しくは、「DB2 10 for z/OS Utility Guide and Reference」で LOAD 制御ステートメントの構文とオプションを参照してください。

以下の構文は処理できません。

- ASCII (DB2 制約事項)
- CCSID (DB2 制約事項)
- CONTINUEIF
- DECFLOAT_ROUNDMODE (DB2 制約事項)
- EBCDIC (DB2 制約事項)
- FORMAT INTERNAL
- FORMAT SQL/DS
- FORMAT UNLOAD
- FORMAT DELIMITED
- FORMAT SPANNED
- IDENTITYOVERRIDE (DB2 制約事項)
- INCURSOR (DB2 制約事項)
- NOSUBS (DB2 制約事項)
- PRESORTED (DB2 制約事項)
- ROWFORMAT
- SHRLEVEL CHANGE (DB2 制約事項)
- STRIP
- TRUNCATE
- UNICODE (DB2 制約事項)

制約検査、重複キー処理、およびソートの考慮事項

Accelerator Loader は、違反および参照制約について入力ファイルを検査せず、ソートを実行しません。データをアクセラレーターのみにロードする場合、制約検査は行われません。この制限には、重複キーの検査が含まれます。

データを DB2 とアクセラレーターにロードする場合、DB2 LOAD ユーティリティは制約検査を実行し、違反レコードをロードしません。すなわち、制約に違反するレコードはアクセラレーターにロードされますが、DB2 にはロードされません。Accelerator Loader は、アクセラレーターにロードされたレコードを DB2 が廃棄したことを検出し、照会アクセラレーションを使用不可にして、アクセラレーター

表が照会に使用できないようにします。この状態を修正するには、ACCEL_LOAD_TABLES を実行して、アクセラレーター表を DB2 表と同期してから、照会アクセラレーションを使用可能にします。

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS の考慮事項

Accelerator Loader は、アクセラレーション可能な表に対する IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS の制約事項に従います。以下に例を示します。

- IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS の状況が InitialLoadPending である表の個々のパーティションを、Accelerator Loader を使用してロードすることはできません。
- IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS は、BINARY データ・タイプと VARBINARY データ・タイプをサポートしません。したがって、Accelerator Loader は次のように BINARY データと VARBINARY データを処理します。
 - データを DB2 にロードする場合、Accelerator Loader は BINARY データと VARBINARY データを DB2 内部形式に変換して、DB2 表にロードします。
 - データをアクセラレーターにロードする場合、Accelerator Loader は BINARY データと VARBINARY データをスキップします。

詳細については、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS の資料を参照してください。

アクセラレーターのみロードする場合の考慮事項

Accelerator Loader は、データを DB2 にロードすることなく、外部ファイルから IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS のみにロードするオプションを提供します (オプション IDAA_ONLY)。このオプションを選択する前に、以下の点を考慮してください。

- 以下のいずれかの条件が存在する場合にこのオプションを使用しないでください。
 - DB2 のデータを更新可能であることが必要である。
 - データがバックアップされず、作成された場所に保持されている。
 - データのバックアップが必要である。(DB2 はデータのバックアップもリカバリも行いません。)
- CURRENT QUERY ACCELERATION 特殊レジスターを ALL に設定して、表に対するすべての照会が IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS に送信されることを確実にする必要があります。詳しくは、「DB2 for z/OS SQL 解説書」を参照してください。
- 外部ファイルからアクセラレーターおよび DB2 にデータをロードする場合 (オプション IDAA_DUAL)、Accelerator Loader は DB2 を利用して参照整合性 (RI) 違反と固有索引違反を検出します。データをアクセラレーターのみロードする場合、これらの検査はバイパスされます。その結果、DB2 RI 制約または固有索引制約に違反するレコードをアクセラレーターにロードした後、照会アクセラレーションが有効になる場合があります。

- アクセラレーターのみロードする場合、廃棄データ・セットはサポートされません。DISCARD DN オプションを指定すると、ユーティリティーはエラーで終了します。Accelerator Loader は、制約違反レコードを DISCARD DN データ・セットに書き込みません。

データを表に追加するための制約事項と考慮事項 (LOAD RESUME)

既存のデータを置き換えることなく、既存のアクセラレーター表にデータを追加するには、DB2 LOAD ユーティリティーの RESUME YES 節を使用します。アクセラレーターのみロードする場合、DB2 表にデータは追加されず、DB2 の既存のデータは未変更のままになります。DB2 とアクセラレーターの両方にロードする場合、DB2 はデータを DB2 表にも追加します。

- 範囲パーティション化表または索引パーティション化表をロードする場合、一部のパーティション内のデータを置き換え、他のパーティションにデータを追加することができます。ただし、Accelerator Loader は、付加操作と置換操作の混合をサポートしません。
- RESUME YES オプションと ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES オプションは同時に指定することはできません。
- アクセラレーターと DB2 の両方への失敗したロードの再開後、前に失敗したジョブがアクセラレーターに正常にロードしたかどうかを確認するために、Accelerator Loader は、アクセラレーターのストアード・プロシージャが戻した最後のロード・タイム・スタンプを使用します。したがって、障害を解決するには、ジョブを再開するか、HLOMAINT ユーティリティーを使用する必要があります。その後、アクセラレーター表へのロードを実行できます。

並列ロードの制約事項と考慮事項

同じ表から異なるパーティションを並行してロードする場合、追加で以下の制約事項と考慮事項が適用されます。

- アクセラレーターへの並列ロードを実行する前に、表全体をアクセラレーターにロードしておく必要があります。その上で、選択したパーティションをロードできます。
- 並列ロードは、範囲パーティション化表スペースと索引パーティション化表スペースのロードのみに使用できます。増加対応パーティション表スペースをロードするには、並列オプションを定義しないでください。
- ロードするパーティションごとに個別の SYSREC データ・セットが必要です。各 SYSREC データ・セットには、1 つのパーティションのみのデータを含むことができます。指定のパーティションに属していないレコードは廃棄されます。
- パーティション・レベルの SYSREC データ・セットには PRESORT オプションはサポートされません。PRESORT が LOAD ユーティリティー・ステートメントで指定される場合、ユーティリティーはエラーで終了し、ジョブの再実行依頼前に PRESORT を除去する必要があります。

廃棄データ・セットの制約事項と考慮事項

以下の制約事項と考慮事項が適用されます。

- 外部ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方へのロードを実行する場合、1 つ以上の標準 DB2 LOAD 廃棄データ・セットを提供できます。

- アクセラレーターのみロードする場合、廃棄データ・セットはサポートされません。DISCARD DN オプションを指定すると、ユーティリティーはエラーで終了します。Accelerator Loader は、制約違反レコードを DISCARD DN データ・セットに書き込みません。
- SYSREC データ・セットには、F (固定) または V (可変) のレコード・フォーマット (RECFM) が必要です。製品は、スパン・レコード・フォーマットおよびフォーマット D (可変長の ISO/ANSI テープ・レコード) と U (未定義) をサポートしません。
- Accelerator Loader が SYSREC レコード内に無効なデータを検出すると、そのレコードを廃棄し、メッセージを発行し、残りのレコードのロードを続行します。レコードが廃棄されると、ジョブ・ステップは戻りコード 4 で完了します。
- 廃棄された SYSREC レコードはすべて、DB2 内部行フォーマットではなく、元のフォーマットで廃棄データ・セットに書き込まれます。
- 廃棄のソース (Accelerator Loader、DB2、または両方) に関係なく、レコードは該当する廃棄データ・セットに廃棄され、指定した DISCARDS 制限が受け入れられます。
- DB2 の廃棄により、行がアクセラレーション対象の表に追加された後でアクセラレーターと DB2 表が非同期となる場合、Accelerator Loader はこの非同期状態を検出し、アクセラレーションを無効にします。この状態が発生するのは、DB2 が、参照整合性 (RI) 妥当性検査エラーなどの違反を検出する場合、固有索引違反が検出される場合、表に RI が定義されていない場合やその他の違反の場合です。
- 以下の状態で、ロードされた表の照会アクセラレーションが無効になります。
 - レコードがアクセラレーターに送信された後、DB2 LOAD ユーティリティーがそのレコードを廃棄する。このタイプの廃棄処理が行われるのは、DB2 が DB2 LOAD ユーティリティーの INDEX BUILD 段階で固有索引キー違反を検出する場合です。
 - アクセラレーターが部分的にしかロードされなかった可能性があるため、DB2 LOAD ユーティリティーが失敗する。
- オプションで、Accelerator Loader は、正常なロードの終わりに表の照会アクセラレーションを有効にすることができます。このアクションを指定するには、ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE 拡張構文オプションまたはオプション・モジュールの「**Enable acceleration after successful load**」オプションを使用してください。
- アクセラレーターがダウンしたことを検出したときに DB2 のみにロードするように Accelerator Loader を構成できます。このアクションを指定するには、オプション・モジュールの「**Load DB2 if accelerator is offline**」オプションを使用します。

CDC の考慮事項

IBM Change Data Capture for z/OS (CDC) レプリケーションを使用する場合、ジョブが失敗したら、HLOMAINT ユーティリティーを使用して、失敗したジョブを除去し、オブジェクトを読み取り/書き込み (RW) 状況に戻します。

DATA CAPTURE NONE を指定して定義された表をロードしようとするときに、その表を連続レプリケーション・モードにする場合、ロードはエラーで終了します。オブジェクトに対して連続レプリケーションが有効であるかどうかを検証するには、ストアド・プロシージャ **SYSPROC.ACCEL_GET_TABLES_DETAILS** を実行し、以下の設定を検索します。

```
<acceleratorSetting name="CONTINUOUS_REPLICATION_ENABLED" value="true />
```

表に Accelerator Loader をロードするには、表を **DATA CAPTURE CHANGES** に変更してから、ロード・ジョブを実行します。

関連概念:

5-1 ページの『Accelerator Loader サーバーの制約事項および考慮事項』
Accelerator Loader サーバーを使用してロードを実行する前に、以下に示す使用上の制約事項および考慮事項を確認してください。

関連タスク:

11-520 ページの『特殊な状況での DB2 ユーティリティーの再始動』
状況によっては、Accelerator Loader HLOMAINT ユーティリティーを使用して、ユーティリティーの処理を正しく再開できます。

既存のロード・ジョブへの構文の追加

DB2 とアクセラレーターの両方に外部ファイルからのデータを迅速にロードするには、既存のバッチ・ジョブを変更します。

始める前に

- 既存の LOAD ユーティリティー・バッチ・ジョブが、SYSREC ファイルおよび SYSPUNCH ファイルとともに必要です。
- 並列ロードを実行するには、パーティションごとに SYSREC データ・セットが必要です。並列ロードの場合、製品は同じ表から異なるパーティションを並列に処理し、ロードします。
- 7-1 ページの『外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項』の情報を確認してください。

このタスクについて

拡張構文オプションについて詳しくは (例を含む)、9-25 ページの『外部ファイルからのロード』を参照してください。

手順

1. 既存のバッチ・ジョブ内で、LOAD DATA パラメーターの後に以下の拡張構文を追加します。
 - アクセラレーターのみでデータをロードするには、以下のようになります。
`IDAA_ONLY ON accelerator_name`
 - アクセラレーターと DB2 にデータをロードするには、以下のようになります。
`IDAA_DUAL ON accelerator_name`
2. 以下の DD ステートメントを JCL に追加します。
`//HLODUMMY DD DUMMY`

3. 並列ロードを実行するには、以下の手順で行います。
 - a. 並列に処理されるパーティションの数を制御するには、LOAD ユーティリティー・ステートメント内で拡張構文オプション ACCEL_LOAD_TASKS を指定します。
 - b. ロードするパーティションごとに 1 つの INTO TABLE PART 節を組み込みます。
 - c. INTO TABLE PART 節ごとに以下のものを指定します。
 - INDDN キーワードで、パーティションごとの SYSREC データ・セット。
 - フィールドの指定。
 - NUMRECS オプション。

LOAD ユーティリティーが NUMRECS 節または SORTKEYS 節で SYSREC レコードの数を指定しない場合、製品は、レコード数を見積もります。見積もったレコード数を使用して、INTO TABLE 節ごとに NUMRECS 節を追加します。レコード数により、DB2 は索引作成のソート・サイズを見積もることができ、アクセラレーターと DB2 の両方にロードする場合にソートが失敗する可能性を軽減することができます。
4. 正常なロードが完了した時点で表の照会アクセラレーションを有効にするには、LOAD ユーティリティー・ステートメントに拡張構文オプション ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES を指定します。
5. 必要に応じて、その他の拡張構文オプションを指定します。

ISPf インターフェースを使用した、外部ファイルからロードするためのプロファイルの作成または編集

二重ロード・プロファイルおよび外部ロード・プロファイルは、外部ファイルから DB2 またはアクセラレーター、あるいはその両方にデータをロードするジョブを作成するための、再使用可能なオプションのグループです。選択内容を保管するプロファイルを作成し、このプロファイルを再使用して、以後の外部ファイルからのロードを実行できます。

始める前に

7-1 ページの『外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項』に記載されている情報を確認します。

このタスクについて

DB2 表をプロファイルに追加する場合、表、単一の基本表のビュー、または別名でフィルタリングすることができます。製品は、ビューまたは別名を基本表スペースに解決して、生成された JCL に基本表スペースを組み込みます。複数の表の結合から作成されたビューはサポートされていません。製品は、生成前に指定された DB2 表の存在を検査します。ただし、パーティションを指定する場合は、製品はパーティションを検査できず、JCL の生成時に指定されたとおりにパーティションを使用します。

「Table creator like」フィールドおよび「Table name like」フィールドでアスタリスク (*) を使用できます。このフィールドの大/小文字の区別は、「Enter Table and Creator Like to Display」パネルの「Case sensitive」フィールドによって制御されます。設定によっては、ワイルドカード・パターン abc* により、パターン ABC* とは別の結果が返される場合があります。

手順

1. メインメニューから、「Manage Loader Profiles」を選択して Enter キーを押します。
2. 「Manage Loader Profiles」パネルで、既存のプロファイルをプロファイル名または作成者名でフィルターに掛けるには、アスタリスク (*) を使用してワイルドカード・パターンを指定し、Enter キーを押します。
3. 「Manage Loader Profiles」パネルで以下のいずれかのステップを実行します。
 - 新規プロファイルを作成するには、CREATE コマンドを発行して、「Create Profile」パネルで、作成するプロファイルのタイプを選択します。
 - 既存のプロファイルをコピーすることによって新規プロファイルを作成するには、コピーするプロファイルの隣の「Cmd」行に C と入力します。
 - 既存のプロファイルを編集するには、プロファイルの隣の「Cmd」行に E と入力します。
4. 「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルで、プロファイルの名前および処理オプションを指定します。並列ロードを実行するには、次のようにします。
 - 「Parallel load」に Yes と指定します。
 - 「Load tasks」値を指定します。
 - 「NUMRECS」値を指定します。

LOAD ユーティリティが NUMRECS 節または SORTKEYS 節で SYSREC レコードの数を指定しない場合、製品は、レコード数を見積もります。見積もったレコード数を使用して、INTO TABLE 節ごとに NUMRECS 節を追加します。レコード数により、DB2 は索引作成のソート・サイズを見積もることができ、アクセラレーターと DB2 の両方にロードする場合にソートが失敗する可能性を軽減することができます。

ISPF パネルを使用して LOAD JCL を生成する場合は、個々のパーティションに個別の NUMRECS 値を指定することはできません。行当たりの平均行数、または単一のパーティションにロードされるレコードの最大数のいずれかを指定します。ユーティリティ構文が生成されるときに、NUMRECS オプションは INTO TABLE PART 節ごとに 1 回生成されます。

5. DB2 表をプロファイルに追加するには、T パネル・コマンドを発行します。
6. 「Enter Table and Creator Like to Display」パネルで、オブジェクト作成者名およびオブジェクト名パターンを指定して、Enter キーを押し、一致するオブジェクトを表示します。表、ビュー、または別名を指定できます。
7. 「DB2 Table Selection」パネルで、S 行コマンドを使用して、プロファイルに追加するオブジェクトを選択し、Enter キーを押します。

8. F3 を押して、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルに戻ります。
9. データをロードするアクセラレーターを選択するには、A パネル・コマンドを発行して、「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネルでアクセラレーターを選択し、Enter キーを押します。
10. 表の列定義を編集する場合は、C コマンドを発行します。
11. テンプレート DD のオプションを定義する場合は、以下の手順で行います。
 - a. 「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルで、テンプレート DD の「Update」フィールドに Yes を指定します。
 - b. 「Template Specification」パネルで、TEMPLATE コマンドを発行し、テンプレートのデータ・セット名マスクを編集します。
 - c. 「DSN Template」パネルで、修飾子コードを指定してデータ・セット名マスクを作成します。
 - d. 結果の DSN マスクを確認するには、SHOW コマンドを発行します。
 - e. 保管して元のパネルに戻るには、PF3 を押します。
 - f. 必要に応じてテンプレート・オプションを更新します。
 - g. 保管して元のパネルに戻るには、PF3 を押します。

ロード・プロファイルの使用と管理

プロファイルでロード・オプションの再使用可能グループを作成できます。また、プロファイルアクセラレーターおよび表に関連付けます。その後、オプションを再度指定するのではなく、プロファイルを利用して、将来のロード用の JCL を生成できます。

以下のタイプのプロファイルが使用可能です。

- 「**Dual**」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Accelerator only**」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターのみを表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Consistent**」は、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Image copy**」は、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

メインメニューで、プロファイルの管理を選択したり、実行したいタイプのロード用にプロファイルを作成することを選択したりすることができます。

プロファイルの管理には、以下のタスクが含まれます。

- プロファイルを作成する。
- プロファイルの JCL を作成する。
- プロファイルを削除する。
- プロファイルを編集する。
- プロファイルの名前を変更する。
- プロファイルを表示する。
- プロファイルをコピーして別の名前でも保管する。

表示するロード・プロファイルを選択するには、フィルター基準を指定できます。

- デフォルトで、パネルにはすべてのプロファイルと作成者が表示されます。
- プロファイルと作成者をフィルターに掛けるには、「**Profile like**」および「**Creator like**」フィールドに、アスタリスクのワイルドカード (*) を付けた複数の文字を入力し、Enter キーを押します。これらのフィールドでは大/小文字が区別されます。ワイルドカードのパターン abc* と ABC* は異なる結果を戻します。
- ロード・プロファイルのタイプでフィルターに掛けるには、「**Profile type**」フィールドでデフォルト (ALL) のままにするか、アスタリスク (*) を入力して、Enter キーを押します。

選択基準を満たすプロファイルがない場合、プロファイル・パネルは開いたまま、プロファイルは表示されません。別のフィルター基準を指定して、再試行してください。

既存のプロファイルが選択基準を満たす場合、プロファイル・パネルには一致するプロファイルが表示されます。

トピック:

- 『ISPF インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成』
- 8-3 ページの『バッチ・インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成』
- 8-12 ページの『ロード・プロファイルの指定内容の表示』
- 8-12 ページの『ロード・プロファイルの名前変更』
- 8-13 ページの『ロード・プロファイルの削除』

関連資料:

12-21 ページの『「Create Profile」パネル』

このパネルを使用して、作成する Accelerator Loader プロファイルのタイプを選択します。

ISPF インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成

ISPF の作成機能を使用して、ロード・プロファイルによって DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを迅速に生成できます。

始める前に

以下のいずれかのトピックで説明されているとおりに、ロード・プロファイルを作成します。

- 6-3 ページの『ISPF インターフェースを使用した統合ロード・プロファイルまたはイメージ・コピー・ロード・プロファイルの作成または編集』
- 7-8 ページの『ISPF インターフェースを使用した、外部ファイルからロードするためのプロファイルの作成または編集』

手順

1. メインメニューから、「Manage Loader Profiles」を選択して Enter を押します。
2. プロファイルの横にある「Cmd」フィールドに B と入力して、Enter を押します。
3. 「Build Load JCL」パネルで、データ・セット名、および必要な場合は生成されるジョブのメンバー名を指定します。このデータ・セットが存在しない場合は、製品によって作成されます。
4. オプションの横にスラッシュ文字 (/) を入力して処理オプションを選択します。
5. サイトに応じて有効なジョブ・カードを指定します。
6. BUILD コマンドを発行して JCL を生成するか、PF3 を押して保存し、終了します。
7. ロードを実行するには、生成された JCL を実行依頼するか、ジョブ・スケジューラーにジョブを追加します。

関連タスク:

『バッチ・インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成』

バッチ・インターフェースを使用して、アクセラレーターおよび DB2 にデータをロードする JCL を生成できます。

バッチ・インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成

バッチ・インターフェースを使用して、アクセラレーターおよび DB2 にデータをロードする JCL を生成できます。

始める前に

ISPF インターフェースを使用して、使用するオプションを指定するロード・プロファイルを作成します。ISPF インターフェース内でプロファイルを作成する際に、表を指定する必要はありません。

このタスクについて

DB2 Analytics Accelerator Loader は、表名、データ・セット名などの妥当性検査を行いません。

SYSIN 行は 1 から 72 桁目に指定してください。長い表名を複数の SYSIN 行に分割するには、改行して次の行を 1 桁目から始めます。

SYSIN パラメーター値に以下の文字を含めることはできません。

- ' (アポストロフィ)
- " (引用符)
- & (アンパーサンド)
- < (より小記号)
- > (より大記号)

記号には以下のエンコードを使用してください。

- より小 (<) には <
- より大 (>) には >
- アンパーサンド (&) には &
- アポストロフィ (') には &APOS;
- 引用符 (") には "

例えば、<MY TABLE1> TABLE' "NAME" という名前の表には、以下のエンコードが必要です。

```
<TABLE NAME>='&LT;MY TABLE1&GT; TABLE&APOS; &QUOT;NAME&QUOT;'
```

DB2 表をプロファイルに追加する場合、表、単一の基本表のビュー、または別名でフィルタリングすることができます。製品は、ビューまたは別名を基本表スペースに解決して、生成された JCL に基本表スペースを組み込みます。複数の表の結合から作成されたビューはサポートされていません。製品は、生成前に指定された DB2

表の存在を検査します。ただし、パーティションを指定する場合は、製品はパーティションを検査できず、JCL の生成時に指定されたとおりにパーティションを使用します。

外部ファイルからロードする場合は、それぞれのパーティション、またはそれぞれの表 (表スペースがパーティション化されていない場合) に対して 1 つの SYSREC を指定できます。複数の SYSREC データ・セットを指定するには、テンプレートを使用するか、生成された JCL に SYSREC データ・セットを手動で追加します。アクセラレーターへの並列ロードを実行するには、まず表全体をロードする必要があります。その後、選択したパーティションをロードできます。

手順

1. SHLOSAMP ライブラリー内で以下のいずれかのメンバーを見つけます。
 - 二重ロード・プロファイル、またはアクセラレーターのみロード・プロファイルの場合: HLODGEN
 - 整合ロード・プロファイル、またはイメージ・コピー・ロード・プロファイルの場合: HLOCGEN
2. SYSIN ステートメント内で、パラメーター値の変数を独自の値に置き換えます。サンプル JCL からハッシュ記号 (#) を削除し、ただし引用符は残したままにします。
3. カスタマイズしたメンバーのコピーを別のライブラリーに保管します。
4. ロードを実行するには、生成された JCL を実行依頼するか、ジョブ・スケジューラーにジョブを追加します。

関連概念:

2-5 ページの『バッチ・ジョブのマイグレーション』

このバージョンの Analytics Accelerator Loader では、前のバージョンで作成したジョブを使用して、プロファイルをバッチで作成できます。

関連タスク:

8-2 ページの『ISPF インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成』

ISPF の作成機能を使用して、ロード・プロファイルによって DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを迅速に生成できます。

関連資料:

8-6 ページの『ロード・プロファイル・パラメーターの説明』

以下の表では、ロード・プロファイル・パラメーターについて説明し、パラメーターが適用されるプロファイル・タイプを示します。

サンプル JCL

整合ロード・プロファイル

```
//SYSIN DD *
<JOBPREFIX>='HLO'
<TARGET SSID>='DA1A'
<PROFILE SSID>='QA1A'
<PROFILE TYPE>='CONSISTENT'
<PROFILE NAME>='CONSISTENT LOAD PROFILE'
<PROFILE CREATOR>='TSNSB'
<OUTPUT-DSN>='HLO.HLODSN.OUT'

<TABLE>
  <TABLE NAME>='&LT;MY TABLE1&GT; TABLE&APOS; &QUOT;NAME&QUOT; '
  <TABLE CREATOR>='TABLECREATOR1'
  <PARTITION>='ALL'
</TABLE>

<TABLE>
  <TABLE NAME>='TABLENAME2'
  <TABLE CREATOR>='TABLECREATOR2'
  <PARTITION>='1-2,4:5'
</TABLE>

<TABLE>
  <TABLE NAME>='#VERY LONG TABLE NAME 12345678901234567890123456789012
3456789012345678901234567890123456789012345678901234567890#'
  <TABLE CREATOR>='TABLECREATOR3'
</TABLE>
/*
```

二重ロード・プロファイル

```
//SYSIN DD *
<JOBPREFIX>='HLO'
<TARGET SSID>='DA1A'
<PROFILE SSID>='QA1A'
<PROFILE TYPE>='DUAL'
<PROFILE NAME>='DUAL LOAD PROFILE'
<PROFILE CREATOR>='TSNSB'
<LOAD BY PARTITION>='YES'
<OUTPUT-DSN>='HLO.HLODSN.OUT'
<NUMBER OF JOBS>='2'

<TABLE>
  <TABLE NAME>='&LT;MY TABLE1&GT; TABLE&APOS; &QUOT;NAME&QUOT;';
  <TABLE CREATOR>='TABLECREATOR1'
  <PARTITION>='ALL'
  <SYSREC-TEMPLATE-NAME>='ISYSDISC'
  <SYSREC-TEMPLATE-DSN>='&AMP;US..IDSD.&AMP;DB..ABC&AMP;PA.'
  <PARALLELISM>='20'
</TABLE>

<TABLE>
  <TABLE NAME>='TABLENAME2'
  <TABLE CREATOR>='TABLECREATOR2'
  <PARTITION>='1-2,4:5'
  <FIELDSPEC-DSN>='HLO.NSBTEST.LOADCAR1'
  <SYSREC-TEMPLATE-NAME>='ISYSDISC'
  <SYSREC-TEMPLATE-DSN>='&AMP;US..IDSD.&AMP;DB..ABC&AMP;PA.'
</TABLE>

<TABLE>
  <TABLE NAME>='#VERY LONG TABLE NAME 12345678901234567890123456789012
345678901234567890123456789012345678901234567890#'
  <TABLE CREATOR>='#TABLECREATOR3#'
  <SYSREC-DSN>='#HLO.LOAD.SYSREC3#'
</TABLE>
/*
```

ロード・プロファイル・パラメーターの説明

以下の表では、ロード・プロファイル・パラメーターについて説明し、パラメーターが適用されるプロファイル・タイプを示します。

パラメーター	Profile type	必須かどうか	デフォルト値
<p><JOBPREFIX>='job_name_prefix' ジョブ・カード内のメンバー名とジョブ名の接頭部を指定します。最大 3 文字を指定します。</p> <p>製品は、ジョブごとに別個の 6 文字のジョブ名を作成します。例えば、2 つのジョブを生成する場合に、デフォルト接頭部の HLO を使用すると、定義されたすべての表から HLOAAA と HLOAAB の名前を持つ 2 つのジョブが生成されます。</p> <p>ジョブのステップ名は接頭部 S で始まり、その後にシンボリック形式のジョブ名とステップ名が続きます。例えば、ジョブ HLOAAB のステップ名は SAABAA と SAABAB です。</p>	二重 整合	いいえ	HLO
<p><TARGET SSID>='ssid' 生成されたジョブがデータをロードする先として指示される DB2 サブシステムを指定します。</p>	二重 整合	いいえ	なし。省略した場合は、<PROFILE SSID>内で指定された SSID が使用されます。
<p><PROFILE SSID>='profile_ssid' プロファイル・リポジトリ・データ・セット内の既存プロファイルを含む DB2 サブシステムを指定します。同じ作成者、名前、およびタイプを持つプロファイルが複数のサブシステムに存在する可能性があります。同じ作成者、名前、およびタイプを持つプロファイルはサブシステムごとに 1 つ限り存在できるので、プロファイルを修飾するためにこのパラメーターが使用されます。</p>	二重 整合	はい	なし
<p><PROFILE TYPE>='DUAL CONSISTENT' 作成するプロファイルのタイプを指定します (外部ファイルからロードする場合は Dual、整合ロードまたは履歴ロードの場合は Consistent)。</p>	二重 整合	はい	なし

パラメーター	Profile type	必須かどうか	デフォルト値
<p><PROFILE NAME>='profile_name'</p> <p>既に作成済みのロード・プロファイル名を指定します。<PROFILE NAME>、<PROFILE CREATOR>、および <PROFILE TYPE> の値は、JCL をバッチで生成するために使用する特定のプロファイルを修飾します。このプロファイルは、プロファイル・リポジトリ・データ・セット内に存在する必要があります。</p>	二重 整合	はい	なし
<p><PROFILE CREATOR>='profile_creator'</p> <p><PROFILE NAME>='profile_name' で指定されているプロファイル名に対応する、既存のロード・プロファイル作成者を指定します。 <PROFILE NAME>、<PROFILE CREATOR>、および <PROFILE TYPE> の値は、JCL をバッチで生成するために使用するプロファイルを修飾します。このプロファイルは、プロファイル・リポジトリ・データ・セット内に存在する必要があります。</p>	二重 整合	はい	なし
<p><OUTPUT-DSN>='data_set_name'</p> <p>JCL の生成に使用する区分データ・セット (PDS) の絶対パスを指定します。指定したデータ・セットが存在しない場合は、製品がデータ・セットを割り振ります。</p>	二重	いいえ	なし。省略すると、「Build Load JCL」パネルの「Data set name」フィールドで定義された、既存のプロファイルからの値が使用されます。
<p><LOAD BY PARTITION>='YES NO'</p> <p>パーティション並列処理を使用するかどうかを指定します。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 'YES' - 表パーティションごとに 1 つの SYSREC が、テンプレートを使用して JCL 内に生成されます。 • 'NO' - 表ごとに 1 つの SYSREC が JCL 内に生成されます。 	二重	いいえ	なし。省略した場合、「Load Accelerator from External File」パネルまたは「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「Parallel load」フィールドで定義された、既存のプロファイルからの値が使用されます。

パラメーター	Profile type	必須かどうか	デフォルト値
<p><NUMBER OF JOBS>='n' 生成するジョブの数を指定します (1 から 17576)。表はジョブ間で均等に分割されます。ジョブ内の最大ステップ数に達すると、同じジョブ・カードとジョブ名を使用して別のバッチ・ジョブが自動的に追加されます。</p>	二重	いいえ	1
<p><TABLE> 後続の表定義セクションを指定します。 (整合ロードのみ): ただ 1 つの JCL ファイルが生成されます。 (二重ロードのみ): 表の数をジョブ数で除算した値は、172380 以下であることが必要です。 表に適用される条件については、8-11 ページの『表定義セクションに関する考慮事項』を参照してください。</p>	二重 整合	はい	なし
<p><TABLE NAME>='table_name' JCL を生成する対象の表またはビューの名前、または別名を指定します。この名前は、既存のロード・プロファイルに定義されている必要はありません。このオブジェクトは、ロード・プロファイル内で定義されている他のオブジェクトに追加して JCL 内で生成されます。 名前が長すぎて SYSIN 内で 1 行に収まらない場合は、複数の行に分割できます。SYSIN 内で列 80 まで最初の行を完全に入力して、次の行の列 1 から始める必要があります。継続文字は不要です。</p>	二重 整合	はい	なし
<p><TABLE CREATOR>='table_creator' <TABLE NAME> パラメーターに指定した表名に対する表作成者を指定します。この値は表名を修飾します。</p>	二重 整合	はい	なし

パラメーター	Profile type	必須かどうか	デフォルト値
<p><PARTITION>='ALL 1,2,3'</p> <p>JCL を生成する対象の表パーティションを指定します。</p> <p>有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ALL」は、パーティションの数が DB2 から要求されることを指定します。 形式 a[(: -)b][,a[(: -)b]]* のパーティション番号の範囲 (ここで、a,b は 0 より大きい)。例えば、<PARTITION>='1-2,4:5,8'、<PARTITION>='1' など。 <p>(二重ロードのみ):</p> <ul style="list-style-type: none"> このパラメーターを使用すると、複数の INTO TABLE 節が JCL 内で生成されます。 <PARTITION>='ALL' を指定した場合に、表が SYSTABLEPART 表内になれば、表はパーティション化されていないものと見なされます。 	<p>二重 整合</p>	<p>いいえ</p>	<p>なし。省略した場合、表はパーティション化されていないものと見なされます。</p>
<p><PARALLELISM>='n'</p> <p>アクセラレーターにデータをロードする際に使用する並列タスクの数を指定します。有効な値は、1 から 20 の範囲内です。JCL 内では、ACCEL_LOAD_TASKS 値は $\min(\text{PARALLELISM}, \text{パーティション数}, 20)$ に設定されます。このパラメーターの値は、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS 環境変数 AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL の値と一致している必要があります。この環境変数の値は、並列にロードできるパーティションの数を示します。</p> <p>AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL の値が 2 ならば、アクセラレーターに同時に書き込むことができるパーティションの最大数は 2 です (<PARALLELISM> 値に関係なく)。</p>	<p>二重</p>	<p>いいえ</p>	<p>なし。省略した場合は、「Load Accelerator from External File」パネルまたは「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「Load tasks」フィールドで定義される既存のプロファイルの値が使用されます。</p>

パラメーター	Profile type	必須かどうか	デフォルト値
<p><FIELDSPEC-DSN>='fieldspec.dsn(mem1)' LOAD ユーティリティーの制御カードへの入力として使用される、表の列定義のデータ・セットを指定します。</p>	二重	いいえ。ただし、表が既存のプロファイル内でまだ定義されていない場合は必須です。	なし。省略した場合、「Load Accelerator from External File」パネルまたは「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「 Column info DSN 」フィールドで定義された、既存のプロファイルからの値が使用されます。
<p><SYSREC-DSN>='sysrec.dsn(mem1)' LOAD ユーティリティーの制御カードへの入力として使用される、表のSYSREC のデータ・セットを指定します。表がパーティション化されていない場合は、完全修飾 SYSREC ファイル名を指定します。表がパーティション化されている場合、または並列処理の場合には、テンプレートを指定して変数 &PA または &PART を含めます。</p>	二重	いいえ	なし。省略した場合、「Load Accelerator from External File」パネルまたは「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「 Input data set 」フィールドで定義された、既存のプロファイルからの値が使用されます。
<p><SYSREC-TEMPLATE-DSN>='&AMP;US..IDSD.&AMP;DB..ABC &AMP;PA.' 指定した表にロードする入力データを含む SYSREC データ・セットのテンプレートを指定します。変数 &PA または &PART が含まれている必要があります。このパラメーターは、パーティション化された表に対してのみ、<LOAD BY PARTITION>='YES' とともに指定します。</p>	二重	いいえ	なし。省略した場合、「Load Accelerator from External File」パネルまたは「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「 Input data set 」フィールドで定義された、既存のプロファイルからの値が使用されます。
<p></TABLE> 表定義セクションを閉じます。</p>	二重 整合	はい	なし

表定義セクションに関する考慮事項

指定したプロファイルに表が存在する場合は、以下の考慮事項が適用されます。

- <PARTITION> を省略すると、値は既存のプロファイルから取得されます。
- <LOAD BY PARTITION>='No' の場合、SYSREC データ・セット名は既存のプロファイルから取得されます。
- 「Load Accelerator from External File」パネルまたは「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「**Input data set**」フィールドが使用不可の

場合に、既存のプロファイルからの SYSREC データ・セットを使用するには、「Load Accelerator from External File」パネルまたは「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「Parallel load」フィールドに値 No を指定してから、入力データ・セットを指定する必要があります。

指定したプロファイルに表が存在しない場合は、以下の考慮事項が適用されます。

- <PARTITION> 値が存在しないので、製品は表がパーティション化されていないものと想定します。並列ロードは、パーティション化された表に対してのみサポートされます。
- 表の並列ロードを使用可能にする場合、および SYSREC テンプレートを使用する場合は、<PARTITION> の値を指定する必要があります。
- 非並列ロードを実行する場合は、<SYSREC-DSN> パラメーターに表の SYSREC データ・セットの名前を指定するか、「Load Accelerator from External File」パネルまたは「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「Parallel load」フィールドに値 No を指定する必要があります。

関連タスク:

8-3 ページの『バッチ・インターフェースを使用したプロファイルからのロード・ジョブの作成』

バッチ・インターフェースを使用して、アクセラレーターおよび DB2 にデータをロードする JCL を生成できます。

ロード・プロファイルの指定内容の表示

自身のプロファイル内、および他のユーザーが作成したプロファイル内で指定されたオプションを表示できます。プロファイルを表示することにより、指定された設定値を確認でき、そのプロファイルをコピーまたは編集する必要があるかどうか判断できます。

手順

1. 「Manage Loader Profiles」パネルで、表示するプロファイルの横にある「Cmd」行に V と入力します。
2. 指定されたオプションを確認します。
3. PF3 を押して前のパネルに戻ります。

ロード・プロファイルの名前変更

自身のプロファイルの名前、または他のユーザーが作成したプロファイルの名前（「Share Option」の指定を「Update」にして作成されたプロファイルの場合）を変更できます。

手順

1. 「Manage Loader Profiles」パネルで、名前を変更するプロファイルの横にある「Cmd」行に R と入力します。「Rename Profile」パネルが開きます。
2. 「Profile Name」フィールドに、既存のプロファイル名に上書きして新しいプロファイル名を入力します。
3. Enter を押します。

ロード・プロファイルの削除

ロード・プロファイルを使用しなくなった場合は、プロファイル・セットからロード・プロファイルを削除してください。

このタスクについて

「**Share Option**」に関係なく、自身のユーザー ID のもとで作成したすべてのプロファイルを削除できます。「**Share Option**」の指定を「**Update**」にして作成されたプロファイルの場合は、別のユーザーによって作成されたプロファイルを削除することもできます。

手順

1. メインメニューから、「Manage Loader Profiles」を選択して **Enter** を押しします。
2. 削除するプロファイルの横にある「**Cmd**」フィールドに **D** と入力して、**Enter** を押しします。
3. 確認パネルで、削除を確認して **Enter** を押しします。

構文

DB2 Analytics Accelerator Loader のサンプル JCL、構文図、および構文定義に関する情報を確認してください。サイトのニーズに合わせてサンプル JCL をカスタマイズできます。構文図は、有効な DB2 Analytics Accelerator Loader 構文を作成するために必要な情報を提供します。

トピック:

- 『DB2 以外のソースとリモート DB2 ソースからのデータのロード』
- 9-3 ページの『整合ロードおよびイメージ・コピー・ロードのジョブ』
- 9-25 ページの『外部ファイルからのロード』

DB2 以外のソースとリモート DB2 ソースからのデータのロード

DB2 以外のソース、またはリモート DB2 ソースからデータをロードするジョブを作成して実行する前に、正しい構文、使用上の考慮事項、例など、これらの機能に関するリファレンスと概念の説明をすべて確認してください。

サンプル JCL: 別の DB2 サブシステムからのデータをアクセラレーターにロードする

以下のサンプル構文は、別の DB2 サブシステムからアクセラレーターのみでデータをロードする制御カードを示しています。この例では、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。

```
EXEC SQL
  DECLARE HLOCSR CURSOR FOR
  SELECT * FROM USER1.SOURCE_DB2_TABLE
ENDEXEC
```

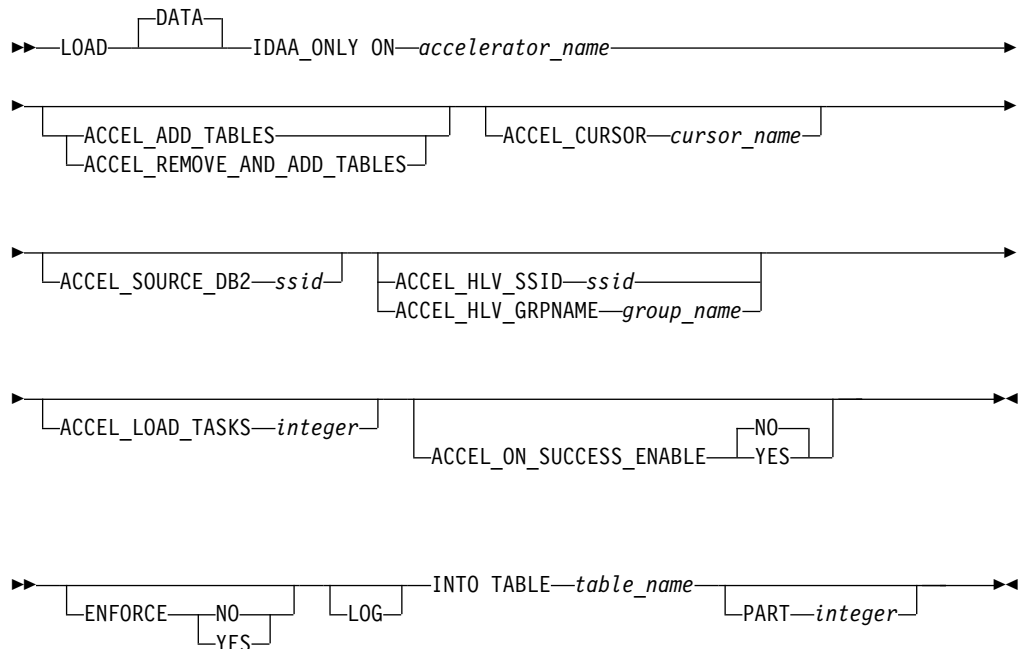
```
LOAD DATA REPLACE
  IDAA_ONLY ON UB1AACC1
  LOG NO NOCOPYPEND
  ENFORCE NO
  ACCEL_CURSOR HLOCSR
  ACCEL_SOURCE_DB2 RA1B
  ACCEL_HLV_SSID hlvid
  ACCEL_REMOVE_AND_ADD TABLES
  ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES
  ACCEL_LOAD_TASKS 1
INTO TABLE USER1.TARGET_DB2_TABLE
```

サンプル構文は、以下の DB2 LOAD ステートメントに変換されます。

```
LOAD DATA REPLACE
  INTO TABLE USER1.TARGET_DB2_TABLE
  INDDN HLOREC FORMAT INTERNAL
```

DB2 以外のソースまたはリモート DB2 ソースからのロードの構文図

DB2 以外のソースまたはリモート DB2 ソースからデータをロードするジョブの構文を確認してください。



DB2 以外のソースまたはリモート DB2 ソースからのロードの構文定義

DB2 以外のソース、またはリモート DB2 ソースからデータをロードするために有効な構文要素の説明を確認してください。

ACCEL_ADD_TABLES

ロード・ジョブを開始する前に、欠落している表をアクセラレーターに追加します。

ACCEL_CURSOR *cursor_name*

ソース・データを取得する Accelerator Loader サーバーのカーソルを指定します。有効なカーソル名は、最大 8 文字です。カーソルを参照する LOAD ステートメントの前に、EXEC SQL ユーティリティ・ステートメントによってカーソルを宣言する必要があります。

ACCEL_HLV_SSID *ssid* | ACCEL_HLV_GRPNAME *group_name*

これらのいずれかのオプションを指定して、DB2 Analytics Accelerator Loader が接続するサーバーを識別します。サーバーは SSID またはグループ名によって指定できます。

ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES

ロード・ジョブを開始する前に、既存の表を削除してアクセラレーターに再び追加します。

ACCEL_SOURCE_DB2 *ssid*

このオプションは、データ・ソースが DB2 サブシステムである場合のみ指定します。DB2 ソースにサーバー・マッピングは必要ないため、サブシステム ID を指定してソース DB2 表を示す必要があります。

ACCEL_LOAD_TASKS *integer*

外部ファイルからロードする場合に、アクセラレーター、およびオプションで DB2 に並列でロードするパーティションの数を指定します。有効な値は、1 から 20 の範囲です。

この値は、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS のパラメーター **AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL** の値を超えることはできません。このパラメーターは、並列でロードできるパーティションの最大数を指定します。

AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL が 2 に設定される場合、アクセラレーターに一度に書き込むことができるパーティションの最大数は 2 です。この数は、「Parallel load tasks」の **ACCEL_LOAD_TASKS** に指定する値に関係ありません。

ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES | NO

正常にロードされた後で、表に対して照会アクセラレーションが有効に設定されるかどうかを制御します。DB2 がロード中にいずれかの行を破棄した場合、照会アクセラレーションは有効になりません。有効な値は YES および NO です。

ENFORCE YES | NO

チェック制約と参照制約を適用するかどうかを指定します。

IDAA_ONLY ON *accelerator_name*

アクセラレーターのみデータを読み込むことを示します。

accelerator_name は、ロードするアクセラレーターの名前に置き換えてください。ロード・ジョブで LOAD REPLACE が指定される場合、DB2 表またはパーティションの既存のデータは削除されます。

LOG YES | NO

ログを有効にするかどうかを指定します。

整合ロードおよびイメージ・コピー・ロードのジョブ

整合ロードおよびイメージ・コピー・ロードのジョブのサンプル JCL、構文図、および構文定義を確認してください。

整合ロードおよびイメージ・コピー・ロードのジョブを作成して実行する前に、これらの機能に関するリファレンスと概念の説明をすべて確認してください。

サンプル JCL: 整合ロード

整合ロード・ジョブの JCL サンプルを確認してください。

例 1: 非並列整合ロード

以下の JCL サンプルは、並列処理を行わず、整合した時点でアクセラレーターにデータをロードします。

```

//JOB CARD JOB USER01,CLASS=A,MSGCLASS=X,MSGLEVEL=(1,1),
// USER=&SYSUID,NOTIFY=&SYSUID,REGION=0M
//*
//*
//** * * * * *
//*
//* Job Generated by Accelerator Loader *
//*
//* DB2 SSID: QAA5 *
//* Profile: USER01.SAMPL1 *
//* Desc: Consistent Load *
//* User: USER01 *
//* Date: Thursday 15/12/13 *
//* Time: 09:34:14.89 *
//*
//** * * * * *
//*
//** * * * * *
//*
//* Step: HLOC0100 *
//*
//* Desc: This step will invoke *
//* Accelerator Loader *
//*
//** * * * * *
//HLOC0100 EXEC PGM=HLO#MAIN,
// REGION=0M,
// PARM=(QAA5)
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=RSQA.HLO210.IBMTAPE.SHLOLOAD
// DD DISP=SHR,DSN=RSQA.FEC130.IBMTAPE.SFECLOAD
// DD DISP=SHR,DSN=QDS5.SDSNEXIT
// DD DISP=SHR,DSN=DSN.VA10.SDSNL0AD
//DB2PARMS DD DISP=SHR,DSN=RSTEST.HLO210.DB2CNTL
//SORAMSGS DD SYSOUT=*
//SR0AMSGS DD SYSOUT=*
//SORAWK00 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SORAWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SORAWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK00 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTMSG DD SYSOUT=*
//INFOM DD SYSOUT=*
//SYSINHLO DD *
        IDAA_CONSISTENT_LOAD
        (
            GROUP
            (
                SPACE
                (
                    CREATOR 'USER01'
                    NAME 'TBHLOA05_T01'
                )
                SPACE
                (
                    CREATOR 'USER01'
                    NAME 'TBHLOB05_T01'
                )
            )
            TO_CURRENT
        )
        ACCELNAME QDS5ACC1
        PARALLEL '0,1'
        LOG_COPY_PREFERENCE R1R2A1A2

```



```

        USER_INDICATOR HLQ
    )
/*
//

```

例 2: 並列整合ロード

以下の JCL サンプルは、それぞれ 16 のパーティションからなる 2 つの表の並列処理による整合ロード・ジョブを示しています。

```

//JOB CARD JOB USER01,CLASS=A,MSGCLASS=X,USER=&SYSUID,NOTIFY=&SYSUID,
// REGION=0M
//*
//*
//*
//** * * * * *
//*
//* Job Generated by Accelerator Loader *
//*
//* DB2 SSID: QAA5 *
//* Profile: USER01.PARALLEL '16,07' *
//* Desc: *
//* User: USER01 *
//* Date: Thursday 14/03/13 *
//* Time: 17:54:28.50 *
//*
//** * * * * *
//*
//** * * * * *
//*
//* Step: HLOC0100 *
//*
//* Desc: This step will invoke *
//* Accelerator Loader *
//*
//** * * * * *
//HLOC0100 EXEC PGM=HLO#MAIN,
// REGION=0M,
// PARM=(QAA5)
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=RSQA.HL0210.IBMTAPE.SHLOLOAD
// DD DISP=SHR,DSN=RSQA.HL0210.IBMTAPE.SFECLOAD
// DD DISP=SHR,DSN=QDS5.SDSNEXIT
// DD DISP=SHR,DSN=DSN.VA10.SDSNLOAD
//DB2PARMS DD DISP=SHR,DSN=RSTEST.HL0210.DB2CNTL
//*
//SORAMSGS DD SYSOUT=*
//SR0AMSGS DD SYSOUT=*
//SORAWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORAWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORAWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0AWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0AWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0AWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//*
//SORBMSGS DD SYSOUT=*
//SR0BMSGS DD SYSOUT=*
//SORBWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORBWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORBWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0BWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0BWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0BWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//*
//SORCMSGS DD SYSOUT=*
//SR0CMSGS DD SYSOUT=*
//SORCWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)

```

```

//SORCWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORCWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0CWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0CWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0CWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//*
//SORDMGS DD SYSOUT=*
//SR0DMGS DD SYSOUT=*
//SORDWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORDWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORDWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0DWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0DWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0DWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//*
//SOREMSG DD SYSOUT=*
//SR0EMSG DD SYSOUT=*
//SOREWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SOREWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SOREWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0EWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0EWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0EWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//*
//SORFMSG DD SYSOUT=*
//SR0FMSG DD SYSOUT=*
//SORFWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORFWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORFWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0FWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0FWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0FWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//*
//SORGMSG DD SYSOUT=*
//SR0GMSG DD SYSOUT=*
//SORGWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORGWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SORGWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0GWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0GWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//SR0GWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00020,00001),,,ROUND)
//*
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTMSG DD SYSOUT=*
//INFOM DD SYSOUT=*
//SYSINHLO DD *
      IDAA_CONSISTENT_LOAD
      (
        GROUP
        (
          SPACE
          (
            CREATOR 'USER01'
            NAME 'TBHLOA05_T01'
            PARTITION 1
          )
          SPACE
          (
            CREATOR 'USER01'
            NAME 'TBHLOA05_T01'
            PARTITION 2
          )
          SPACE
          (
            CREATOR 'USER01'
            NAME 'TBHLOA05_T01'

```

```

PARTITION 3
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 4
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 5
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 6
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 7
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 8
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 9
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 10
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 11
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 12
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 13
)
SPACE
(
CREATOR 'USER01'
NAME 'TBHLOA05_T01'
PARTITION 14
)

```

```

)
SPACE
(
  CREATOR 'USER01'
  NAME 'TBHLOA05_T01'
  PARTITION 15
)
SPACE
(
  CREATOR 'USER01'
  NAME 'TBHLOA05_T01'
  PARTITION 16
)
TO_CURRENT
)
ACCELNAME QDS5ACC1
PARALLEL '16,7'
LOG_COPY_PREFERENCE R1R2A1A2
USER_INDICATOR HLO
)
/*
//

```

例 3: すべてのパーティションを個別に処理するか、全体として処理するかの制御

ISPF インターフェース内では、「**Load partitions individually**」フィールドが、すべてのパーティションを個別に処理するか、全体として処理するかの制御を行います。以下の例は、それぞれの値に対して生成される SYSIN ステートメントを示しています。

図 9-1. *Load partitions individually=Yes*

```

//SYSINHLO DD *
  IDAA_CONSISTENT_LOAD
  (
    GROUP
    (
      SPACE
      (
        CREATOR 'AATRG1'
        NAME 'XFDPSI'
        PARTITION 1
      )
      SPACE
      (
        CREATOR 'AATRG1'
        NAME 'XFDPSI'
        PARTITION 2
      )
      SPACE
      (
        CREATOR 'AATRG1'
        NAME 'XFDPSI'
        PARTITION 3
      )
      SPACE
      (
        CREATOR 'AATRG1'
        NAME 'XFDPSI'
        PARTITION 4
      )
    )
  )
SPACE

```

```

        (
          CREATOR 'AATRG1'
          NAME 'XFDPSI'
          PARTITION 5
        )
        SPACE
        (
          CREATOR 'AATRG1'
          NAME 'XFDPSI'
          PARTITION 6
        )
        TO_CURRENT
      )
      ACCELNAME QA1AACC1
      PARALLEL '0,4'
      LOG_COPY_PREFERENCE R1R2A1A2
      USER_INDICATOR HLO
    )
  /*
  //

```

図 9-2. Load partitions individually=No

```

//SYSINHLO DD *
  IDAA_CONSISTENT_LOAD
  (
    GROUP
    (
      SPACE
      (
        CREATOR 'AATRG1'
        NAME 'XFDPSI'
      )
      TO_CURRENT
    )
    ACCELNAME QA1AACC1
    PARALLEL '0,4'
    LOG_COPY_PREFERENCE R1R2A1A2
    USER_INDICATOR HLO
  )
/*
//

```

サンプル JCL: イメージ・コピー・ロード

イメージ・コピー・ロード・ジョブの JCL サンプルを確認してください。

例 1: オブジェクト変換ターゲット ID 番号ペアの手動での指定

イメージ・コピー・データ・セットを指定して、そのイメージ・コピーからアクセラレーターにデータをロードできます。

以下の例では、OBIDXLAT オプションと制御カードのクラスター・オプションを使用して、オブジェクト変換ターゲット ID 番号ペアを手動で指定します。

```

//HLOSAMP1 JOB <JOB PARAMETERS>,REGION=0M
/*
/*-----*
/*
/* Licensed Materials - Property of IBM
/* 5639-OLE
/* (c) Copyright Rocket Software, Inc. 2001-2015 All Rights Reserved.*

```

```

/* US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or      *
/* disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp. *
/*                                                                    *
/* Product   : Accelerator Loader                                  *
/* Product # : 5639-OLE                                           *
/* Release   : 2.1                                               *
/*-----*
/*
/* PURPOSE:                                                       *
/*
/*      RUN A BATCH STEP TO LOAD AN IMAGE COPY DIRECTLY INTO THE  *
/*      ACCELERATOR WITH NO LOG APPLY PROCESSING.                 *
/*
/*-----*
/*
//HLORUN EXEC PGM=HLO#MAIN,REGION=0M,PARM='<SSID>'
//STEPLIB DD DISP=SHR,
//          DSN=#HLQ#.SHLOLOAD
//          DD DISP=SHR,
//          DSN=#HLQ#.SFECLOAD
//          DD DSN=DSN.VA10.SDSNEXIT
//          DD DSN=DSN.VA10.SDSNLOAD//DB2PARMS DD DISP=SHR,DSN=<CONTROL FILE>
//SORAMSGS DD SYSOUT=*
//SR0AMSGS DD SYSOUT=*
//SORAWK00 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SORAWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SORAWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK00 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//SYSOUT   DD SYSOUT=*
//SORTMSGS DD SYSOUT=*
//INFOM    DD SYSOUT=*
//SYSINHLO DD *
          IDAA_LOAD_IC
          (
            GROUP
            (
              SPACE
              (
                CREATOR 'USER01'
                NAME     'TBHLOA05_T01'
                TO_IC    'RSTEST.QA1A.DBHLOTS1.TSHLOSTA.DB2IC1'
                OBIDXLAT (
                  DBID '863,868'
                  PSID '2,2'
                  OBID '3,3'
                )
              )
            )
          )
          ACCELNAME QA1AACCC1
          PARALLEL '0,1'
          LOG_COPY_PREFERENCE R1R2A1A2
          USER_INDICATOR HLO
        )
/*
//

```

例 2: DB2 カタログからのオブジェクト変換ターゲット ID 番号ペアの取得

以下の例では、OBIDXLAT_CATALOG オプションを使用して、指定したオブジェクトの DB2 カタログからオブジェクト変換ターゲット ID 番号ペアを取得します。

```

//HLOSAMP2 JOB <JOB PARAMETERS>,REGION=0M
//*
/*-----*
/*
/* Licensed Materials - Property of IBM
/* 5639-OLE
/* (c) Copyright Rocket Software, Inc. 2001-2015 All Rights Reserved.*
/* US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or
/* disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp. *
/*
/* Product : IBM DB2 ANALYTICS ACCELERATOR LOADER FOR Z/OS
/* Product #: 5639-OLE
/* Release : 2.1
/*-----*
/*
/* PURPOSE:
/*
/* RUN A BATCH STEP TO LOAD AN IMAGE COPY DIRECTLY INTO THE
/* ACCELERATOR WITH NO LOG APPLY PROCESSING.
/*
/*-----*
/*
//HLORUN EXEC PGM=HLO#MAIN,REGION=0M,PARM='<SSID>'
//STEPLIB DD DISP=SHR,
//          DSN=#HLQ#.SHLOAD
//          DD DISP=SHR,
//          DSN=#HLQ#.SFECLOAD
//          DD DSN=DSN.VA10.SDSNEXIT
//          DD DSN=DSN.VA10.SDSNLOAD//DB2PARMS DD DISP=SHR,DSN=<CONTROL FILE>
//SORAMSGS DD SYSOUT=*
//SR0AMSGS DD SYSOUT=*
//SORAWK00 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SORAWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SORAWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK00 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SR0AWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(00010,00010),,,ROUND)
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTMSGS DD SYSOUT=*
//INFOM DD SYSOUT=*
//SYSINHLO DD *
    IDAA_LOAD_IC
    (
        GROUP
        (
            SPACE
            (
                CREATOR 'USER01'
                NAME 'TBHLOA05_T01'
                TO_IC 'RSTEST.QA1A.DBHLOTS1.TSHLOSTA.DB2IC1'
                OBIDXLAT_CATALOG
            )
        )
        ACCELNAME QA1AACC1
        PARALLEL '0,1'
        LOG_COPY_PREFERENCE R1R2A1A2
        USER_INDICATOR HLO
    )
/*
//

```

整合ロードとイメージ・コピー・ロードのサンプル JCL のカスタマイズ

以下の手順では、整合ロードおよびイメージ・コピー・ロードのサンプル JCL をサイトに応じてカスタマイズするために行う必要がある変更について説明します。

このタスクについて

DD 名をジョブ・ステップに追加する際には注意してください。製品は、一般的に使用される予約名の DD 名を処理時に動的に割り振ります。データ・セット別に制御カードを区別しやすくするために DD 名を追加する必要がある場合は、名前の一部として「HLO」を含む一般的でない DD 名を使用してください。以下に例を示します。

```
//SYSINHLO DD DSN=<dsn>
// DD DDNAME=SYSUT1HLO
// DD *
...
//SYSUT1HLO DD DSN=<dsn>
//
```

手順

1. サイトに応じて有効なジョブ・カードを入力します。多数のログ・レコードを処理することが予想される場合は、メモリー不足エラーを回避するために大きな REGION サイズを割り振ってください。
2. EXEC ステートメント内で、ジョブを実行するサブシステムのサブシステム ID (*ssid*) を入力します。以下に例を示します。

```
//HLOC0100 EXEC PGM=HLO#MAIN,PARM='QB1A'
```

3. DB2 Analytics Accelerator Loader プログラム・ライブラリーを指すように、STEPLIB DD データ・セットのファイル名を変更します。
4. 適切な INFOM DD を指定します。例を以下に示します。

```
//INFOM DD SYSOUT=*
```

注: 以下の INFOM DD 定義は両方とも有効です。

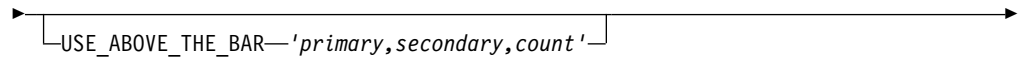
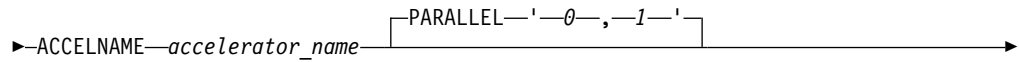
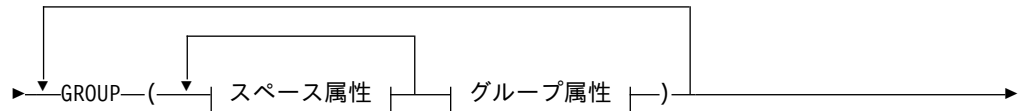
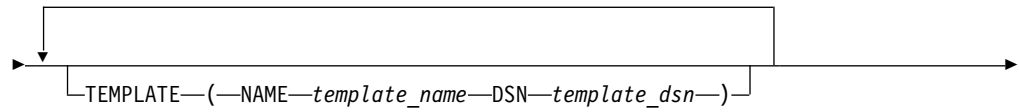
```
//INFOM DD SYSOUT=*
//INFOM DD DUMMY
```

5. オプション: ジョブの実行時に発生する問題の検出と修正を容易にするために、SYSUDUMP DD ステートメントを組み込みます。
6. SYSOUT に対してデータ・セットまたは * を指定します。
7. SORAMSGS -> SORBMSGs のメッセージに対して、データ・セットまたは * を指定します (実行時に必要なだけの数のグループを対象に)。
8. DB2 パラメーターに対して VSAM 制御ファイルを指定します。
9. SYSINHLO データ・セットは、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブ・オプションを定義するパラメーターを保管します。
10. サイトの必要に応じて構文を変更します。

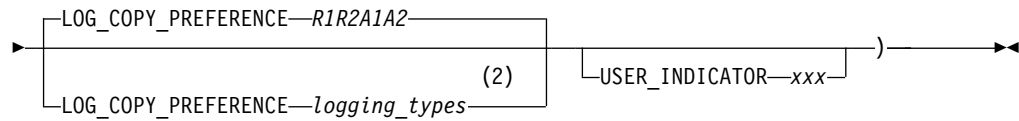
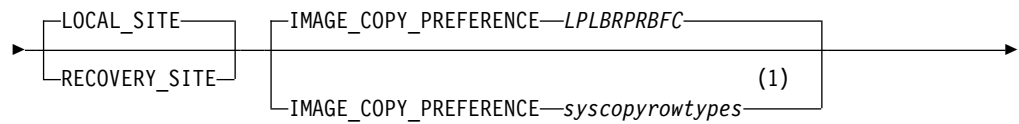
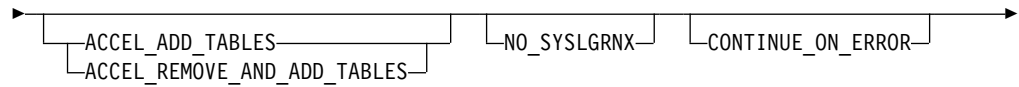
構文図: 整合ロードおよびイメージ・コピー・ロード

以下の構文図は、整合ロードおよびイメージ・コピー・ロードのジョブのために有効な DB2 Analytics Accelerator Loader 構文を作成する方法を示しています。

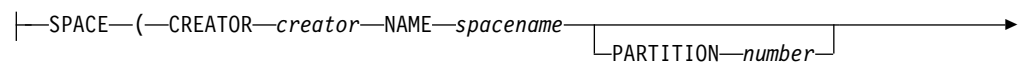
DB2 Analytics Accelerator Loader 整合ロードおよびイメージ・コピー・ロードの制御カードについては、構文は以下のとおりです。

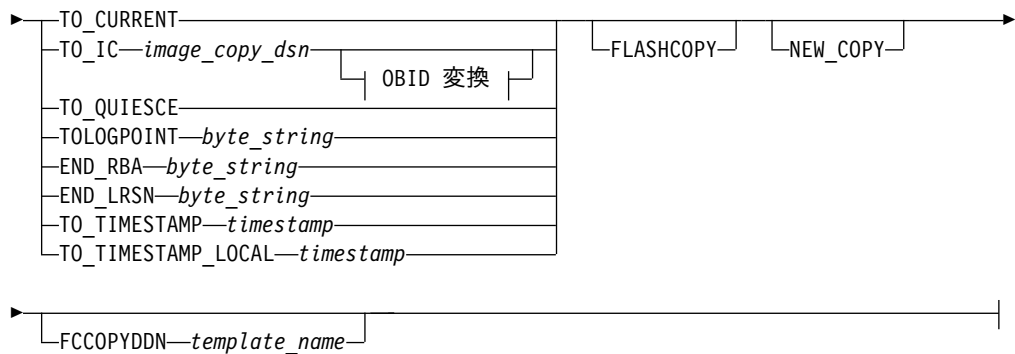


|

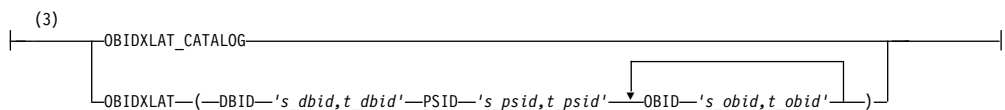


スペース属性:

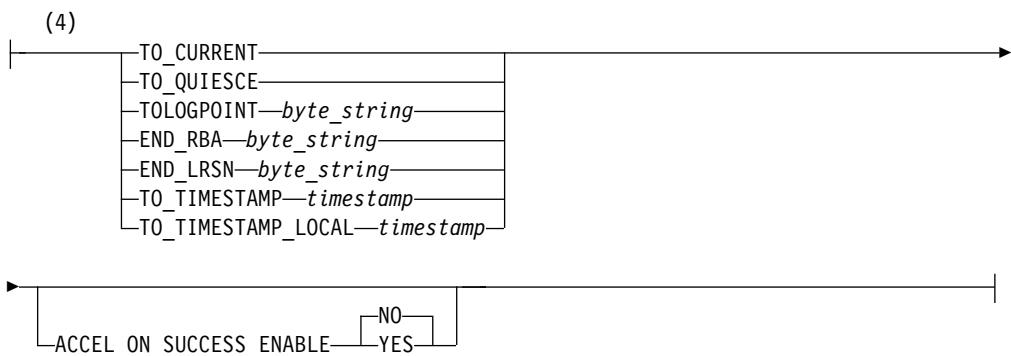




OBID 変換:



グループ属性:



注:

- 1 IMAGE_COPY_PREFERENCE 制御カードの有効な許容値について詳しくは、Accelerator Loader の構文を参照してください。
- 2 LOG_COPY_PREFERENCE 制御カードの有効な許容値について詳しくは、Accelerator Loader の構文を参照してください。
- 3 OBID 変換の図で、*s_xxid* はソース ID、*t_xxid* はターゲット ID です。
- 4 SPACE レベルで制御カードを指定する場合、GROUP レベルでも指定することはできず、その逆もできません。SPACE レベルと GROUP レベルでの制御カードの指定は相互に排他的です。

構文定義: 整合ロードおよびイメージ・コピー・ロード

DB2 Analytics Accelerator Loader は、整合ロード・ジョブおよびイメージ・コピー・ロード・ジョブに関して、以下の構文要素 (アルファベット順に整列) をサポートします。

ACCEL_ADD_TABLES

ロード・ジョブを開始する前に、欠落している表をアクセラレーターに追加します。

ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES | NO

正常にロードされた後で、表に対して照会アクセラレーションが有効に設定されるかどうかを制御します。DB2 がロード中にいずれかの行を破棄した場合、照会アクセラレーションは有効になりません。有効な値は YES および NO です。

ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES

ロード・ジョブを開始する前に、既存の表を削除してアクセラレーターに再び追加します。

ACCELNAME *acceleratorName*

ロードする IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS の名前。

ACCELNAME 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネル、または「Load Accelerator from a specified Image Copy」パネルの「Accelerator Name」フィールドを使用して指定できます。

CONTINUE_ON_ERROR

ほとんどのエラーを無視して処理を続行するように指示します。

注: CONTINUE_ON_ERROR 制御カードが JCL に組み込まれ、RC=4 より高いエラーが発生した場合、エラーはオーバーライドされます。RC=4 が報告され、ジョブは失敗しません。入出力エラーおよびその他の重大な問題(メモリー不足の問題など)は無視されず、ジョブは失敗します。

CONTINUE_ON_ERROR 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネル、または「Load Accelerator from a specified Image Copy」パネルを使用して以下のように指定できます。

Continue on errors = Y

CONTINUE_ON_ERROR

Continue on errors = N

CONTINUE_ON_ERROR 制御カードを省略します

CREATOR '*creator_name*'

イメージ・コピー・ロードの場合に、アクセラレーターにロードされるターゲット表の作成者を指定します。

DBID '*source_dbid,target_dbid*'

イメージ・コピー・ロードの場合に、OBIDXLAT オプションとともに使用され、ソースおよびターゲットの DBID のデータベース ID を指定します。(ソース ID は、複数の表を含む表スペースがイメージ・コピーの対象である場合のみ必要です。)

END_LRSN

END_LRSN *byte string* は、指定された LRSN までログを読み取って、データをイメージ・コピーに取り込むように DB2 Analytics Accelerator Loader に指示します。 *byte string* は 16 進値に置き換えてください。

END_LRSN 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**RBA or LRSN end point**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

RBA or LRSN end point *byte_string*

「**RBA or LRSN end point**」フィールドで 16 進の終点を指定した場合に、ジョブがデータ共用環境で作成されると、END_LRSN '*byte_string*' が構文に追加されます。

END_RBA

END_RBA *byte string* は、指定された RBA までログを読み取って、データをイメージ・コピーに取り込むように DB2 Analytics Accelerator Loader に指示します。 *byte string* は 16 進値に置き換えてください。

注:

- END_RBA は、データ共用環境では無効です。
- END_RBA に指定された RBA 値が有効な RBA であれば、DB2 Analytics Accelerator Loader はこの RBA を DB2 Analytics Accelerator Loader イメージ・コピーの終点として使用します。指定された RBA 値が有効な RBA でなければ、DB2 Analytics Accelerator Loader はその次に大きい有効な RBA を DB2 Analytics Accelerator Loader イメージ・コピーの終点として使用します。

END_RBA 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**RBA or LRSN end point**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

RBA or LRSN end point *byte_string*

「**RBA or LRSN end point**」フィールドで 16 進の終点値を指定した場合に、ジョブが非データ共用環境で作成されると、END_RBA '*byte_string*' が構文に追加されます。

FCCOPYDDN (*template_name*)

FCCOPYDDN (*template_name*) 制御カードは、NEW_COPY キーワードの後ろで使用し、FlashCopy データ・セット・テンプレートを指定します。このテンプレートは TEMPLATE 制御カードによって定義されます。Flash Copy 用のデータ・セットは、指定した TEMPLATE DSN に基づいて作成されます。

「Use FlashCopy DSN Template」に「N」を指定すると、FlashCopy イメージ・コピーには DSNZPARM 内のデフォルト・テンプレートが使用されます。

FCCOPYDDN (*template_name*) 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Use FlashCopy DSN Template**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

Use FlashCopy DSN Template = Y

FCCOPYDDN (*template_name*) 制御カードが JCL 内で生成されます。

Use FlashCopy DSN Template = N

FlashCopy イメージ・コピー用に DSNZPARM 内で指定されたデフォルト・テンプレートが使用されます。

FLASHCOPY

FLASHCOPY 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Use Flashcopy**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

Use Flashcopy = Y

制御カード FLASHCOPY が JCL 内で生成され、対応するテンプレート名、またはイメージ・コピー・データ・セット名のどちらかが使用されます。JCL には NEW_COPY キーワードも含まれません。FlashCopy イメージ・コピーは、ロード処理に関する表スペースごとに生成されます。このオプションを指定した場合のみ、新規 DB2 イメージ・コピーが作成されます。

Use Flashcopy = N

レガシー・イメージ・コピーが使用されます。

GROUP

1 つ以上の SPACE キーワードを囲んで指定するには、GROUP キーワードを使用します。それぞれ 1 つ以上の SPACE キーワードを含む、複数の GROUP キーワードを単一のジョブ内で指定できます。GROUP キーワードの後には左括弧を指定する必要があります。それぞれの GROUP キーワードに、1 つ以上の SPACE キーワードが含まれている必要があります。

IDAA_CONSISTENT_LOAD

IDAA_CONSISTENT_LOAD キーワードを使用して、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS 上のデータをリフレッシュします。

このキーワードは、「Use FlashCopy」オプションとともに使用され、以下のことを行います。

1. 単一の表、またはトランザクションの整合性がある表のリストに対して、新規 FlashCopy イメージ・コピーを作成します。
2. 新規イメージ・コピーからのデータをアクセラレーターにロードします。
3. 整合したイメージ・コピーからのデータをアクセラレーターにロードします。

このキーワードは、TO_CURRENT または TO_QUIESCE 制御カードとともに使用され、DB2 上のオブジェクトの有効なイメージ・コピーから開始して、ログ・レコードを指定された終点まで時刻順に適用します。

IDAA_LOAD_IC

IDAA_LOAD_IC キーワードを使用して、イメージ・コピー・データ・セット (イメージ・コピー・ロード) から IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にデータをロードします。

IMAGE_COPY_PREFERENCE LPLBRPRBFC | IMAGE_COPY_PREFERENCE syscopyrows

このオプション項目は、LOCAL_SITE および RECOVERY_SITE 制御カードとともに使用され、ユーザー指定のスキャン設定を使用するように DB2

Analytics Accelerator Loader に指示します。DB2 Analytics Accelerator Loader によって出力される SYSCOPY 行は、JCL 内の DD カードの指定によって決まります。

- IMAGE_COPY_PREFERENCE は、ユーザー指定のスキャン設定を使用します。このオプションは、以下のオプションを受け入れます。
 - LB: SYSCOPY 内の LB タイプのイメージ・コピーをスキャンします。
 - LP: SYSCOPY 内の LP タイプのイメージ・コピーをスキャンします。
 - LPLB: まず LP タイプのイメージ・コピーをスキャンし、次に LB タイプのイメージ・コピーをスキャンします (同一のタイム・スタンプが付いた SYSCOPY 行では LP タイプのイメージ・コピーを常に使用します)。
 - LPLBRB: SYSCOPY スキャン・プログラムが開始点に向けて SYSCOPY を逆方向にスキャンする際に、RB が最初に現れた場合は RB を取得できるようにします。
 - LPLBRPRBFC: (デフォルト) LP、LB、RP、RB、および FC の各タイプのイメージ・コピーをスキャンします (同一のタイム・スタンプが付いた SYSCOPY 行では、先にリストされているイメージ・コピー・タイプを使用します)。

最大 10 文字のバック・フィールドに合計で 1 から 5 個のコードを入力できます。有効なコードは、LP (ローカル 1 次)、LB (ローカル・バックアップ)、RP (リカバリー 1 次)、RB (リカバリー・バックアップ)、および FC (FlashCopy) です。

注:

1. この項目は、DB2 Analytics Accelerator Loader の実行には必要ありません。LOCAL_SITE、RECOVERY_SITE、および IMAGE_COPY_PREFERENCE が制御カードに指定されていない場合、DB2 Analytics Accelerator Loader は DB2 の実行に使用されている動作モードを検出し、ZPARM の内容に基づいて、LOCAL_SITE、RECOVERY_SITE のどちらかを自動的に挿入します。
2. このオプションは、DB2 Analytics Accelerator Loader が動作するモードを設定します。LOCAL_SITE をコーディングすると、ローカル・サイト・タイプのイメージ・コピーのみがスキャンされて使用されます。RECOVERY_SITE をコーディングすると、リカバリー・サイト・タイプのイメージ・コピーのみがスキャンされて使用されます。IMAGE_COPY_PREFERENCE をコーディングすると、ユーザー指定のスキャン設定が使用されます。

LOCAL_SITE、RECOVERY_SITE、および IMAGE_COPY_PREFERENCE 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「SYSCOPY Scan Operating Mode」フィールドを使用して指定できます。

SYSCOPY Scan Operating Mode = L
LOCAL_SITE

SYSCOPY Scan Operating Mode = R
RECOVERY_SITE

SYSCOPY Scan Operating Mode = Z
LOCAL_SITE, RECOVER_SITE および
IMAGE_COPY_PREFERENCE 制御カードを省略し、DB2 上の
ZPARM で検出された値を使用します

SYSCOPY Scan Operating Mode = U
IMAGE_COPY_PREFERENCE *syscopyrowtypes*

注: 「**SYSCOPY Scan Operating Mode**」フィールドで U を指定する場合は、「**SYSCOPY Selection Pref**」フィールドで *syscopyrows* の値も指定する必要があります。デフォルトの *syscopyrows* 値は LPLBRPRBFC です。

LOCAL_SITE | RECOVERY_SITE

このオプション項目は、IMAGE_COPY_PREFERENCE 制御カードとともに使用され、処理の開始点を検索する際に対象とする SYSCOPY 行を DB2 Analytics Accelerator Loader に指示します。LOCAL_SITE は LP/LB 行を使用し、RECOVERY_SITE は RP/RB 行を使用します。DB2 Analytics Accelerator Loader によって出力される SYSCOPY 行は、JCL 内の DD カードの指定によって決まります。

- LOCAL_SITE がデフォルト設定で、処理の開始点を検出するために LP/LB 行を参照します。LP 行と LB 行には等しい優先順位が与えられるので、DB2 が LB 行を最初に取得した場合は、その行が使用されます。
- RECOVERY_SITE は、処理の開始点を検出するために RP/RB 行を使用します。RP 行と RB 行には等しい優先順位が与えられるので、DB2 が RB 行を最初に取得した場合は、その行が使用されます。

注:

1. この項目は、DB2 Analytics Accelerator Loader の実行には必要ありません。LOCAL_SITE、RECOVERY_SITE、および IMAGE_COPY_PREFERENCE が制御カードに指定されていない場合、DB2 Analytics Accelerator Loader は DB2 の実行に使用されている動作モードを検出し、ZPARM の内容に基づいて、LOCAL_SITE、RECOVERY_SITE のどちらかを自動的に挿入します。
2. このオプションは、DB2 Analytics Accelerator Loader が動作するモードを設定します。LOCAL_SITE をコーディングすると、ローカル・サイト・タイプのイメージ・コピーのみがスキャンされて使用されます。RECOVERY_SITE をコーディングすると、リカバリー・サイト・タイプのイメージ・コピーのみがスキャンされて使用されます。IMAGE_COPY_PREFERENCE をコーディングすると、ユーザー指定のスキャン設定が使用されます。

LOCAL_SITE、RECOVERY_SITE、および IMAGE_COPY_PREFERENCE 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**SYSCOPY Scan Operating Mode**」フィールドを使用して指定できます。

SYSCOPY Scan Operating Mode = L
LOCAL_SITE

SYSCOPY Scan Operating Mode = R
RECOVERY_SITE

SYSCOPY Scan Operating Mode = Z
LOCAL_SITE, RECOVER_SITE および
IMAGE_COPY_PREFERENCE 制御カードを省略し、DB2 上の
ZPARAM で検出された値を使用します

SYSCOPY Scan Operating Mode = U
IMAGE_COPY_PREFERENCE *syscopyrows*

注: 「**SYSCOPY Scan Operating Mode**」フィールドで「U」を指定する場合は、「**SYSCOPY Selection Pref**」フィールドで *syscopyrows* の値も指定する必要があります。デフォルトの *syscopyrows* 値は LPLBRPRBFC です。

LOG_COPY_PREFERENCE R1R2A1A2 | LOG_COPY_PREFERENCE

logging_types

Accelerator Loader がログ・レコードのニーズを満たすためにログを検索する場合に BSDS 内のアーカイブ・ログおよびアクティブ・ログのリストがスキャンされる順序を指定します。このフィールドに指定する値は、構文 R1 (アーカイブ・ログ・コピー #1)、R2 (アーカイブ・ログ・コピー #2)、A1 (アクティブ・ログ #1)、および A2 (アクティブ・ログ #2) を使用する必要があります。コピー #2 が DB2 で使用されない場合でも、4 つの固有値をすべて指定する必要があります。例えば、以下のようになります。

- A1A2R1R2 - アーカイブ・ログをスキャンする前にアクティブ・ログをスキャンします。

注: DB2 が、Accelerator Loader が現在入力のために読み取っている出力のいずれかのアクティブ・ログをオープンしようとする可能性があるため、この設定の使用は避けてください。このような試行により、DB2 内でオープン・エラーが発生する可能性があります。

- R1R2A1A2 - (デフォルト) アーカイブ・ログを最初にスキャンして、アーカイブ・ログおよびアクティブ・ログに同じ範囲が存在する場合にアーカイブ・ログを使用します。

ISPF インターフェースで「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Log Reader Copy Preference**」フィールドを使用して、LOG_COPY_PREFERENCE 制御カードを指定できます。

Log Reader Copy Preference = log_tokens
LOG_COPY_PREFERENCE *log_tokens*

ISPF インターフェースで「Accelerator Loader Parameters」パネルの「**Log Reader Copy Preference**」フィールドを使用して、デフォルト値を変更することができます。

NAME 'table_name'

イメージ・コピー・ロードの場合に、アクセラレーターにロードされるターゲット表の名前を指定します。

NEW_COPY

使用する新規 FlashCopy データ・セット・テンプレートの名前を指定します。

NEW_COPY FCCOPYDDN (*template_name*) 制御カードは、ISPF インターフェイス内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「Use FlashCopy DSN Template」フィールドと「Update」フィールドを使用して指定できます。

NO_SYSLGRNX

製品が SYSIBM.SYSLGRNX の読み取りをスキップして、最も古いオブジェクト開始点から最新のオブジェクト終点まで DB2 ログを読み取るようにする場合は、このオプションを指定します。

注: このオプションを使用すると、多数のログ・データ・セットとログ・レコードが読み取られ、DB2 ログ全体が読み取られるため、処理時間が大幅に増加する場合があります。

OBID 'source_obid,target_obid'

イメージ・コピー・ロードの場合に、OBIDXLAT オプションとともに使用され、ソースおよびターゲットの OBID のオブジェクト ID を指定します。必要に応じて複数の OBID ペアを定義します。

OBIDXLAT

オブジェクト変換情報 (DBID / PSID / OBID) を指定します。

ソース変換番号がそれぞれの番号ペアの最初です。ターゲット番号は、データがコピーされる先になる同一の行構造化オブジェクトの番号です。それぞれのペアを別々の行で定義します。

OBIDXLAT_CATALOG

イメージ・コピー・ロードの場合、操作を実行する対象の DB2 システムから変換ターゲット番号を収集し、出力データ・ページにこれらの番号を取り込むように製品に指示します。

製品は、指定されたオブジェクト (*creator.name*) の DB2 カタログからターゲット番号を取得し、突き合わせ処理をスキップして、DB2 カタログからのターゲット番号によってイメージ・コピー内のすべての行データを処理します。

注: このオプションは、ただ 1 つの表を含むイメージ・コピーに対して有効です。複数表のイメージ・コピーに対してこのオプションを指定した場合、または表スペース内の表の数が 1 より大きいことをカタログが示している場合は、エラーが発生します。複数表のイメージ・コピーの場合は、DBID、PSID、および OBID とともに OBIDXLAT オプションを指定してください。

PARALLEL 'x,y'

並列で実行できるログ読み取りタスクとログ適用タスクの数を、以下のよう指定します。

x (デフォルト 0) 並列ログ読み取りタスクの数。有効な値は、0 から 16 の整数です。 x に値 0 を指定すると、データ共有グループ・メンバーごとに最大 1 つのタスクが同時に実行されます。 x にゼロ以外の値を指定する場合、その数はログ読み取りのために同時に実行できる並列タスクの最大数です。読み取るログの数が x に指定された並列タスク数を超える場合は、実行中のタスクが完了するとすぐに残りのログを読み取るタスクが開始され、必要なログがすべて読み取られるまで続きます。

y (デフォルト 1)

並列ログ適用タスクの数。有効な値は、1 から 10 までの整数です。1 より大きい値が指定された場合に、存在する GROUP(...) 制御カード構造がただ 1 つならば、DB2 Analytics Accelerator Loader バッチ処理はパーティション化されたオブジェクトをクラスター化して再配列し、オブジェクトを指定された数のタスクに配分して、パーティションを並列にロードします。複数の GROUP(...) 制御カード構造が存在する場合、 y の値は無視され、それぞれの GROUP に個別の並列タスクが割り当てられます。

パーティション・レベルのイメージ・コピーがテープ上にあり、 y の値が 1 より大きい場合は、以下の条件が適用されます。

- それぞれのイメージ・コピーが別々の VOLSER 上にある場合は、指定された数の並列タスクがログ適用処理に使用されます。
- すべてのイメージ・コピーが同じ VOLSER 上でスタックされている場合は、ただ 1 つのログ適用タスクが実行されます。

PARALLEL 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Number of PARALLEL log read**」フィールドと「**Number of PARALLEL log apply**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

Number of PARALLEL log read = x

Number of PARALLEL log apply = y

PARALLEL ' x,y '

バッチ・オプションのデフォルト値は 1 です。ただし、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Number of PARALLEL log apply**」フィールドのデフォルト値は 4 です。

PSID 'source_psid,target_dbid'

イメージ・コピー・ロードの場合に、OBIDLAT オプションとともに使用され、ソースおよびターゲットの PSID のページ・セット ID を指定します。(ソース ID は、複数の表を含む表スペースがイメージ・コピーの対象である場合のみ必要です。)

TEMPLATE

NAME *template_name*

DSN *template_dsn*

FCCOPYDDN とともに使用されて Flash Copy イメージ・コピー・データ・セットを指定する、テンプレートの定義に使用されます。1 つ以上のテンプレートを指定できます。

TOLOGPOINT

TOLOGPOINT *byte string* は、指定されたログ・ポイントまでログを読み取って、データをイメージ・コピーに取り込むように DB2 Analytics Accelerator Loader に指示します。 *byte string* は実際のログ・ポイント値に置き換えてください。

TOLOGPOINT は、非データ共用とデータ共用の両方の実行に有効です。TOLOGPOINT を使用する場合、値は非データ共用の場合は RBA として受け入れられ、データ共用の場合は LRSN として受け入れられます。

TO_TIMESTAMP | TO_TIMESTAMP_LOCAL

TO_TIMESTAMP *byte string* は、指定されたタイム・スタンプまでログを読み取って、データをイメージ・コピーに取り込むように DB2 Analytics Accelerator Loader に指示します。 *byte string* はタイム・スタンプ値に置き換えてください。

注: タイム・スタンプは、内部では常に GMT/世界時として扱われます。ローカル・タイム・スタンプが処理のために提供される場合は、条件付きで GMT/世界時に変換する必要があります。TO_TIMESTAMP は GMT/世界時のタイム・スタンプ (変換は不要) で、TO_TIMESTAMP_LOCAL は GMT/世界時に変換する必要があるローカル・タイム・ゾーンのタイム・スタンプです。マシンが動作するタイム・ゾーンは IPL 時に指定されるので、ローカルから GMT/世界時への変換にユーザー入力はありません。

TO_TIMESTAMP 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Timestamp end point**」フィールドと「**Time zone of timestamp**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

TO_CURRENT | TO_IC | TO_QUIESCE | END_RBA *byte string* | END_LRSN *byte string*

この必須選択項目を使用して、イメージ・コピーを作成する最終の時点指定できます。

注: DB2 Analytics Accelerator Loader では、ICTYPE 「Y」、「S」、または「W」の SYSCOPY (START_RBA) からの終点 (RBA/LRSN) を指定できます。

TO_CURRENT および TO_QUIESCE 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Load time**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

Load time = C
TO_CURRENT

Load time = Q
TO_QUIESCE

TO_CURRENT

現在の時点、つまりログ・ファイルの最後までログを読み取り、イメージ・コピーにデータを取り込みます。

TO_CURRENT 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Load time**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

Load time = C
TO_CURRENT

TO_IC '*image_copy_dsn*'

ソースのイメージ・コピー・データ・セットを指定します。ソース・データ・セットおよび関連したイメージ・コピーは、同じ DB2 サブシステム上にあっても、異なるサブシステム上にあっても構いません。ソース・イメージ・コピーとしては、例えばソース DB2 サブシステム上の SYSCOPY 表に対する SELECT から作成したデータ・セットを指定できます。

FlashCopy イメージ・コピーをソース・イメージ・コピーにすることはできません。

TO_QUIESCE

前の静止ポイントまでログを読み取り、イメージ・コピーにデータを取り込みます。

TO_QUIESCE 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator with Consistent Data」パネルの「**Load time**」フィールドを使用して以下のように指定できます。

Load time = Q
TO_QUIESCE

USER_INDICATOR *xxx*

操作対象の制御ファイル・レコードのグループを指定します。始動 CLIST が、USER_INDICATOR 制御カードの値を提供します。

注:

1. USER_INDICATOR の値がバッチ・ジョブ内で提供される場合は、セットアップ情報がロードされた制御ファイルが必要になります。

USER_INDICATOR 制御カードを ISPF インターフェース内で指定することはできません。始動 CLIST が、USER_INDICATOR 制御カードの値を提供します。

USE_ABOVE_THE_BAR '*primary,secondary,count*'

2 GB 境界より上のメモリーを使用可能にし、割り振る 1 次セグメント数、2 次セグメント数、および最大セグメント数を指定します。

- *primary* - 最初に取得する 2 GB 境界より上のストレージのセグメント数 (メガバイト)。
- *secondary* - 1 次セグメントが使い尽くされたときに取得する、2 GB 境界より上のストレージのセグメント数 (メガバイト)。
- *count* - 取得できるセグメントの最大数に対する限度。この限度に達した場合、ランナウェイ `getmain` は障害を起こして停止します。

外部ファイルからのロード

Accelerator Loader は、Analytics Accelerator のロード処理を拡張する DB2 LOAD ユーティリティのオプションを提供しています。これらのオプションは、ネイティブの DB2 LOAD ユーティリティに備わっているものに追加して提供されます。これらのオプションは、データがロードされる前に LOAD ユーティリティの入力レコード内のデータを操作します。

外部ファイルからのロードを行うジョブを作成して実行する前に、正しい構文、使用上の考慮事項、例など、これらの機能に関するリファレンスと概念の説明をすべて確認してください。また、以下のタスクが完了していることを確認してください。

- LOAD オプションの実装に使用する Accelerator Loader 開始タスクに関する DSNUTILB インターセプト・ポリシー内で、正しい DB2 サブシステムが指定されていることを確認します。<POLICY> セクション内の <DB2SYSTEM> 要素を使用して、拡張 LOAD 処理を実行するサブシステムを指定します。
- LOAD ユーティリティ・ステートメント内で、使用する Accelerator Loader オプションを追加します。
- DSNUTILB インターセプト状況が有効になっていることを確認します。インターセプト状況を表示するには、z/OS コンソールから DISPLAY INTERCEPT コマンドを発行します。インターセプトが無効になっている場合は、ACTIVATE INTERCEPT コマンドを使用して活動化します。
- バッチ・ユーティリティ JCL に DD ステートメント HLO//DUMMY DD DUMMY が含まれていることを確認します。

関連概念:

7-1 ページの『外部ファイルからのデータのロード』

外部ファイルから IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS およびオプションで DB2 にデータをロードする JCL を生成できます。

7-1 ページの『外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項』

外部ファイルからデータをロードする前に、使用に関する制約事項と考慮事項を検討してください。

11-515 ページの『DSNUTILB インターセプトの管理』

いくつかのルーチンと臨時タスクを実行すると、DSNUTILB インターセプトを管理できます。

関連タスク:

7-7 ページの『既存のロード・ジョブへの構文の追加』

DB2 とアクセラレーターの両方に外部ファイルからのデータを迅速にロードするには、既存のバッチ・ジョブを変更します。

7-8 ページの『ISPF インターフェースを使用した、外部ファイルからロードするためのプロファイルの作成または編集』

二重ロード・プロファイルおよび外部ロード・プロファイルは、外部ファイルから DB2 またはアクセラレーター、あるいはその両方にデータをロードするジョブを作成するための、再使用可能なオプションのグループです。選択内容を保管するプロファイルを作成し、このプロファイルを再使用して、以後の外部ファイルからのロードを実行できます。

サンプル JCL: 外部ファイルからのロード

例: 非並列ロード

以下の図は、アクセラレーターと DB2 の両方に外部ファイルからデータをロードするためのサンプル JCL を示しています。

```

//JOB CARD JOB USER01,CLASS=A,MSGCLASS=X,MSGLEVEL=(1,1),
// USER=&SYSUID,NOTIFY=&SYSUID
//*
//*
//** * * * * *
//*
//* Job Generated by Accelerator Loader
//*
//* DB2 SSID: QAA5
//* Profile: USER01.DUAL LOAD TEST
//* Desc: Load from External
//* User: USER01
//* Date: Friday 15/12/28
//* Time: 09:39:40.04
//*
//** * * * * *
//*
//** * * * * *
//*
//* Step: HL0D0100
//*
//* Desc: This step will invoke Accelerator Loader
//*
//** * * * * *
//HL0D0100 EXEC PGM=DSNUTILB,
// REGION=1024M,
// PARM=('QAA5','USER01.LOAD')
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=QDS5.SDSNEXIT
// DD DISP=SHR,DSN=DSN.VA10.SDSNLOAD
//HLODUMMY DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//UTPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
    TEMPLATE ISYSREC
        DSN 'USER01.DA1A.HLOLAB2D.HLOTS2.SYSREC'
        DISP(SHR,KEEP,KEEP)
    TEMPLATE ISYSERR
        DSN &US..IDSE.&DB..&TS..&UQ.
        DISP(MOD,CATLG,CATLG)
        SPACE (10,100) CYL
    TEMPLATE ISYSMAP
        DSN &DB..&SN..&US..&JO.
        DISP(MOD,CATLG,CATLG)
        SPACE (10,100) CYL
    TEMPLATE ISYSUT1
        DSN &US..IDSU.&DB..&TS..&UQ.
        DISP(MOD,DELETE,CATLG)
        SPACE (10,100) CYL
    TEMPLATE ISORTOUT
        DSN &US..IDSO.&DB..&TS..&UQ.
        DISP(MOD,DELETE,CATLG)
        SPACE (10,100) CYL
    LOAD DATA
        IDAA_DUAL ON QDS5ACC1
        INDDN ISYSREC
        KEEPDICTIONARY
        SORTDEVT SYSALLDA SORTNUM 4
        ERRDDN ISYSERR
        MAPDDN ISYSMAP
        DISCARDN ISYSDISC
        WORKDDN(ISYSUT1,ISORTOUT)
        INTO TABLE
            "HL0N22"."HLO0BJSTAT"
            NUMRECS 10
            (
                "NAME"
                POSITION( 00004:00023) CHAR(00020)
                , "CABLE"
                POSITION( 00025:00044) CHAR(00020)
                , "STATE"
                POSITION( 00046:00065) CHAR(00020)
            )
//*
//

```

図 9-3. 外部ファイルからの非並列ロードのサンプル JCL

例: 並列ロードのサンプル・ユーティリティー・ステートメント

```
LOAD DATA REPLACE
  IDAA_DUAL ON RA1BACC1
  ACCEL_LOAD_TASKS 2
  LOG NO
  INTO TABLE EXMTSTDB.PTB1
  PART 1 INDDN SYSR01
  NUMRECS 2000000
  ( INT_1 POSITION( 00001:00010 ) INTEGER EXTERNAL(10)
    ,CHAR_2 POSITION( 00020:00025 ) CHAR
  )
  INTO TABLE EXMTSTDB.PTB1
  PART 2 INDDN SYSR02
  NUMRECS 2000000
  ( INT_1 POSITION( 00001:00010 ) INTEGER EXTERNAL(10)
    ,CHAR_2 POSITION( 00020:00025 ) CHAR
  )
```

図 9-4. 並列ロードを実行するための DB2 LOAD ユーティリティー・ステートメント

外部ファイルからのロードを行うサンプル JCL のカスタマイズ

以下の手順では、サンプル JCL と一致するように既存の LOAD JCL に対して行う必要がある変更について説明します。特に明記しない限り、手順は必須です。

手順

1. サイトに応じて有効なジョブ・カードを入力します。
2. DB2 Analytics Accelerator Loader プログラム・ライブラリーを指すように、STEPLIB DD データ・セットのファイル名を変更します。製品ライブラリーから DB2 ロード・ライブラリーにモジュール DSNUTILF をコピーしなかった場合は、このステップが必須です。
3. SYSREC ファイルおよび SYSPUNCH ファイルを指定します。

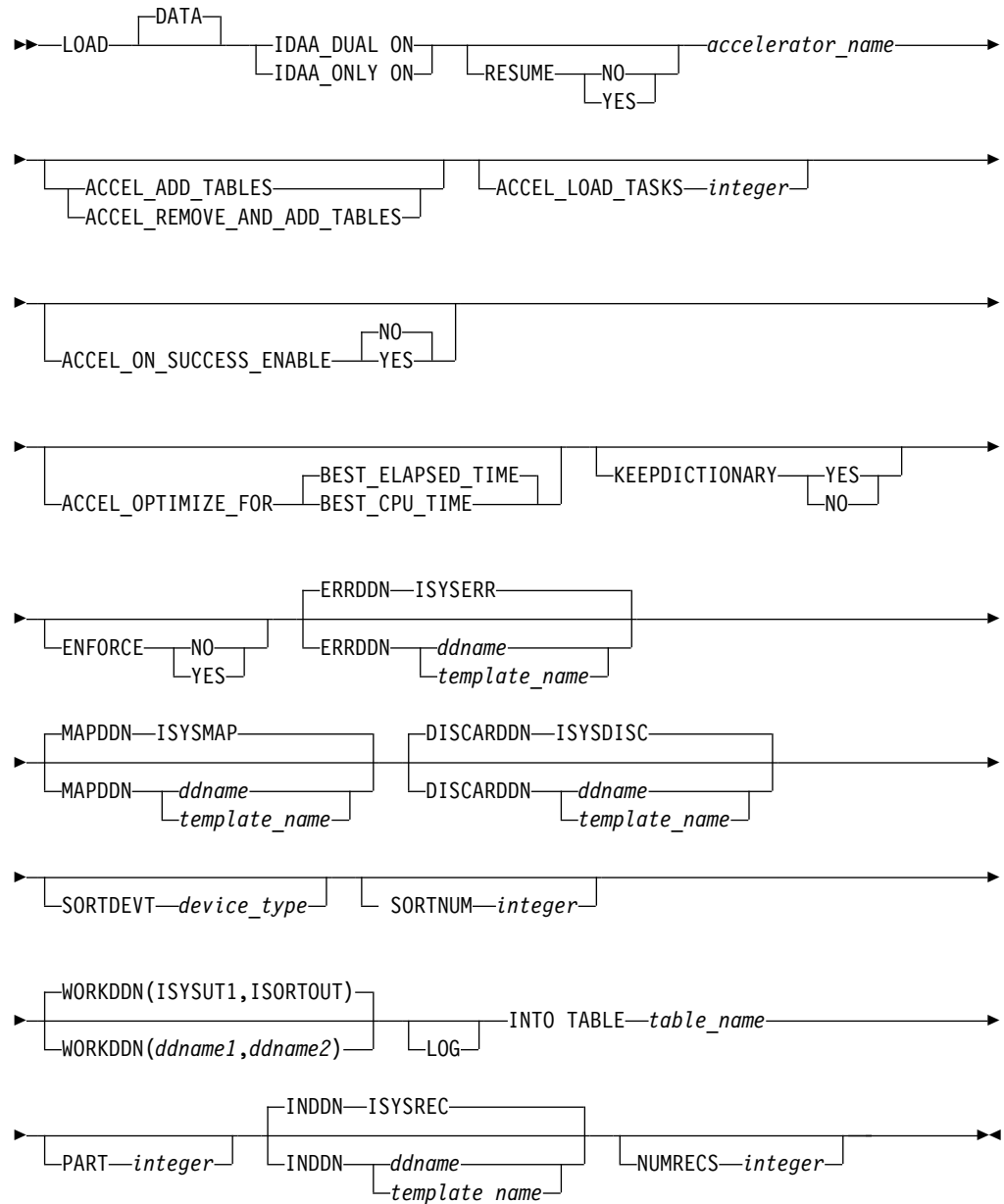
注: LOAD ユーティリティー・ステートメントをストリーム内で SYSIN DD に挿入する場合を除いては、SYSPUNCH ファイルは必須です。

4. ストリーム内で提供される制御カードの代わりに SYSPUNCH DD を使用する場合は、構文を編集して必須パラメーターを組み込む必要があります。
5. ストリーム内で LOAD 制御カードが JCL に提供される場合は、LOAD DATA パラメーターの後に以下の拡張構文オプションのいずれかを追加します。
 - アクセラレーターのみでデータをロードするには、以下のようにします。
`IDAA_ONLY ON accelerator_name`
 - アクセラレーターと DB2 の両方にデータをロードするには、以下のようにします。
`IDAA_DUAL ON accelerator_name`
6. 以下の DD ステートメントを JCL に追加します。
`//HLODUMMY DD DUMMY`
7. SYSPRINT に対してデータ・セットまたは * を指定します。
8. サイトの必要に応じて LOAD ユーティリティーの構文を変更します。

構文図: 外部ファイルからのロード

以下の構文図は、外部ジョブからのロードのために有効な DB2 Analytics Accelerator Loader 構文を作成する方法を示しています。

外部からのロードを行う DB2 Analytics Accelerator Loader 制御カードの構文は、以下のとおりです。



構文定義: 外部ファイルからのロード

DB2 Analytics Accelerator Loader は、外部ファイルからデータをロードする際に以下の構文要素 (アルファベット順に示す) をサポートします。

ACCEL_ADD_TABLES

ロード・ジョブを開始する前に、欠落している表をアクセラレーターに追加します。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルの「Add table to Accelerator」フィールドを使用して指定できます。

ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES

ロード・ジョブを開始する前に、既存の表を削除してアクセラレーターに再び追加します。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルの「Add table to Accelerator」フィールドを使用して指定できます。

ACCEL_LOAD_TASKS *integer*

外部ファイルからロードする場合に、アクセラレーター、およびオプションで DB2 に並列でロードするパーティションの数を指定します。有効な値は、1 から 20 の範囲です。

この値は、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS のパラメーター **AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL** の値を超えることはできません。このパラメーターは、並列でロードできるパーティションの最大数を指定します。**AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL** が 2 に設定される場合、アクセラレーターに一度に書き込むことができるパーティションの最大数は 2 です。この数は、「Parallel load tasks」の **ACCEL_LOAD_TASKS** に指定する値に関係ありません。

NUMRECS の値も指定します。詳しくは、NUMRECS オプションの説明を参照してください。

デフォルト値は 4 です。

対応するオプション・モジュールのオプションは「Parallel load tasks」です。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルの「Load tasks」フィールドを使用して指定できます。

ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES | NO

正常にロードされた後で、表に対して照会アクセラレーションが有効に設定されるかどうかを制御します。DB2 がロード中にいずれかの行を破棄した場合、照会アクセラレーションは有効になりません。有効な値は YES および NO です。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルの「Acceleration on success」フィールドを使用して指定できます。

ACCEL_OPTIMIZE_FOR BEST_ELAPSED_TIME | BEST_CPU_TIME

注: このパラメーターは以下の場合に適用されます。

- 二重ロード・プロファイルまたは IDAA_DUAL 拡張構文オプションを使用するロード
- 非並列処理
- 非パーティション化表または増加対応パーティション表へのロード

経過時間または CPU 使用量のどちらのためにロードを最適化するか指定します。有効値は以下のとおりです。

- BEST_ELAPSED_TIME: 経過時間を短縮します。
- BEST_CPU_TIME: CPU 使用量を削減します。

DATA

ロードするデータを指定します。このキーワードはオプションであり、指示を明確にするためにのみ使用されます。

DISCARD *ddname*

データ行の破棄に使用されるデータ・セットのテンプレートまたは DD 名を指定します。

このオプションは、ISPF インターフェースで、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「DISCARD *template DD name*」フィールドを使用して指定できます。

ENFORCE YES | NO

チェック制約と参照制約を適用するかどうかを指定します。IDAA_DUAL ON *accelerator_name* を指定した場合のみ有効です。ENFORCE YES の場合は MAPDDN が必要です。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「ENFORCE」フィールドを使用して指定できます。

ERRDDN *ddname*

エラー処理データ・セットのテンプレートまたは DD 名を指定します。このデータ・セットは、ENFORCE オプションを指定する場合に必要です。

このオプションは、ISPF インターフェースで、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「ERRDDN *template DD name*」フィールドを使用して指定できます。

IDAA_DUAL ON *accelerator_name*

アクセラレーターと DB2 の両方にデータをロードすることを示します。*accelerator_name* は、ロードするアクセラレーターの名前に置き換えてください。

この制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルを使用して選択できます。

IDAA_ONLY ON *accelerator_name*

アクセラレーターのみデータをロードすることを示します。*accelerator_name* は、ロードするアクセラレーターの名前に置き換えてください。ロード・ジョブで LOAD REPLACE が指定される場合、DB2 表またはパーティションの既存のデータは削除されます。

この制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator from External File」パネルを使用して選択できます。

INDDN *ddname*

この制御カードを LOAD ユーティリティ・コマンドに含めて、ロードするデータを含む SYSREC データ・セットまたはテンプレートの完全修飾データ・セットを指定します。データ・セットが PDS の場合は、メンバー名が必要です。

TEMPLATE ISYSREC *sysrec.file.name* ステートメントと INDDN ISYSREC 制御カードは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルの「**Input data set name**」フィールドを使用して指定できます。

KEEPDICTIONARY

LOAD ユーティリティがコンプレッション・ディクショナリーを新規に作成するかどうかを指定します。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「**KEEPDICTIONARY=Yes**」を使用して指定できます。

LOG YES | NO

ロギングを行うかどうかを示します。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「**LOG**」フィールドを使用して指定できます。

MAPDDN *ddname*

レコード処理に使用されるマップ・データ・セットのテンプレートまたは DD 名を指定します。このデータ・セットは、**ENFORCE** オプションを指定する場合に必要です。

このオプションは、ISPF インターフェースで、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「**MAPDDN template DD name**」フィールドを使用して指定できます。

NUMRECS *integer*

指定した表または表パーティションの入力レコードの数を指定します。有効な値は、1 から 1099511627776 までの整数またはブランクです。

LOAD ユーティリティが NUMRECS 節または SORTKEYS 節で SYSREC レコードの数を指定しない場合、製品は、レコード数を見積もります。見積もったレコード数を使用して、INTO TABLE 節ごとに NUMRECS 節を追加します。レコード数により、DB2 は索引作成のソート・サイズを見積もることができ、アクセラレーターと DB2 の両方にロードする場合にソートが失敗する可能性を軽減することができます。

LOAD ユーティリティが NUMRECS 節または SORTKEYS 節で SYSREC レコードの数を指定しない場合、製品は、レコード数を見積もります。見積もったレコード数を使用して、INTO TABLE 節ごとに NUMRECS 節を追加します。レコード数により、DB2 は索引作成のソート・サイズを見積もることができ、アクセラレーターと DB2 の両方にロードする場合にソートが失敗する可能性を軽減することができます。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「NUMRECS」フィールドを使用して指定できます。

RESUME

JCL の中に制御カード LOAD RESUME YES を生成するには、Yes を指定します。製品は、データを置き換えるのではなく、アクセラレーター表に追加します。DB2 とアクセラレーターの両方にロードする場合、DB2 は、データを DB2 表にも追加します。アクセラレーターのみでロードする場合、DB2 表にデータは追加されず、DB2 の既存のデータは未変更のままになります。製品がデータを追加するのではなく、既存のデータを置き換えるようにするには、No を指定します。

このオプションを指定するには、ISPF インターフェースで「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルの「RESUME」フィールドを使用します。

SORTDEVT *device_type*

一時的なソート・データ・セットに使用する装置タイプを指定します。有効な値は 1 から 8 文字の英数字です。IDAA_DUAL ON を指定した場合のみ有効です。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「SORTDEVT」フィールドを使用して指定できます。

SORTNUM *integer*

割り振るソート・データ・セットの数を指定します。有効な値は 2 から 255 です。IDAA_DUAL ON を指定した場合のみ有効です。

このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「SORTNUM」フィールドを使用して指定できます。

WORKDDN (*ddname1,ddname2*)

ソート入力およびソート出力用の一時作業ファイルのための DD ステートメントを指定します。LOAD が索引付きの表に関係している場合は、ソート入出力用の一時作業ファイルが必要です。

ddname1 は、ソート入力用の一時作業ファイルの DD 名です。デフォルト値は ISYSUT1 です。このオプションは、ISPF インターフェース内で、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルまたは「Load Accelerator from External File」パネルの「SYSUT1 template DD name」フィールドを使用して指定できます。

ddname2 は、ソート出力用の一時作業ファイルの DD 名です。デフォルト値は ISORTOUT です。このオプションは、ISPF インターフェースで、「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルの「SORTOUT template DD name」フィールドを使用して指定できます。

Accelerator Loader サーバーの管理

Accelerator Loader サーバーを管理し、トレースとイベントの機能を実行するタスクを実行できます。

トピック:

- 『サーバー拡張セキュリティーの構成 (オプション)』
- 10-10 ページの『IMS パラメーターの変更』
- 3-57 ページの『SMF ファイルへのアクセスの構成』
- 10-12 ページの『ルールおよびイベント』
- 10-73 ページの『LUW 認証』
- 10-78 ページの『サーバー・トレース情報の表示』
- 10-87 ページの『クライアントのタイムアウト・パラメーターの変更』
- 10-87 ページの『サーバーからの SMF レコードの作成』

サーバー拡張セキュリティーの構成 (オプション)

システム・プログラマーは通常、Accelerator Loader サーバーのカスタマイズ時に拡張セキュリティーを構成します。Accelerator Loader サーバーは、RACF クラス、Top Secret クラス、および ACF2 汎用リソース・ルールを使用してリソースを保護します。

サーバーの全体的な RACF クラス (または ACF2 のリソース・タイプ) は、構成パラメーター RESOURCETYPE で指定されます。このパラメーターはデータ・セット *hlq.SHLVEXEC* メンバー *hlvidIN00* にあります。ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。値を指定しない場合、RESOURCETYPE はデフォルトで NON (なし) に設定されます。これは、すべての製品許可検査を無効にします。

許可検査が無効である場合、有効な TSO ユーザー ID を持つ任意のユーザーが、製品 ISPF インターフェースにアクセスできます。この場合、このインターフェースによって提供される機能を実行する十分な権限が与えられます。

許可検査を有効にするには、RESOURCETYPE の値を HLV に変更します。

```
"MODIFY PARM NAME(RESOURCETYPE) VALUE(HLV)"
```

次の表は、製品のセキュリティー・メカニズムで保護されるリソースについて説明しています。

注: リソース名は変更できません。

名前	説明
ATHZOOM	サーバー・トレース許可イベント PF4 ズーム情報へのアクセス。
GLOBALS	グローバル変数へのアクセス。

名前	説明
PARMS	ISPF/SDF パラメーター表示へのアクセス。
SEF	Event Facility ダイアログへのアクセス。
TRACEBROWSE	サーバー・トレース機能へのアクセス。
TRACEDATA	SQL や基礎の 2 進ファイル・トレース・レコードを含む、すべてのトレース・データへのアクセス。

ユーザーが Accelerator Loader サーバー・リソースを呼び出すと、そのユーザーの ID とリソースのクラスが許可のためにセキュリティ・プログラムに渡されます。セキュリティ・プログラムは、ユーザーが指定するルールを使用して、リソースへのアクセス権限を付与するかどうかを判別します。

同一要求の今後の許可検査を迅速に処理するために、Accelerator Loader サーバーはすべてのセキュリティ検査の結果を保護ストレージに保持します。

「ルックアサイド」セキュリティ検査情報は、タスク制御ブロック (TCB) ベースで保管され、TCB が終了するまで有効なままです。当初アクセスが拒否されたものの、後でアクセスを許可するようにセキュリティ・プロファイルが変更された場合、ISPF/SDF アプリケーションを終了して TCB を終了する必要があります。セキュリティ・パッケージに基づいて、他のアクションを取ることが必要な場合があります。例えば、ACF2 では、**ACFRESET** コマンドを発行する必要があります。すべてのセキュリティ許可イベントはサーバー・トレース機能に記録され、アクセスが拒否されると、メッセージが生成されます。

要求するアクセスのタイプ (ADD/ALTER、READ、または UPDATE) は、使用するリソースによって異なります。ACF2 ADD は RACF ALTER と同じです。次の表は、Accelerator Loader サーバー機能の使用に必要なアクセスのタイプを示しています。

表 10-1. Accelerator Loader サーバーのアクセス要件

リソース	アクション	推奨ユーザー	必要なアクセス権限
ATHZOOM	サーバー・トレース許可イベント PF4 ズーム情報の表示。	DBA、プログラム製品、VTAM、オペレーション	READ
CONTROLBLOCK	HLV コマンドの使用。	DBA、プログラム製品、VTAM、オペレーション	READ
CONTROLBLOCK、HLV	ISPF/SDF オプション「 HLV Admin HLV Blocks 」を使用した製品制御ブロックの表示。	DBA、プログラム製品	READ
CONTROLBLOCK、HLV	将来の機能を使用した製品制御ブロックの変更。	DBA、プログラム製品	UPDATE
DATABASES	ADDRESS HLV DISPLAY DATABASE コマンドを使用したデータベースの表示。	DBA、プログラム製品、VTAM、オペレーション	READ
GLOBALS	グローバル変数の表示。	すべて (DBA、プログラム製品、オペレーション、開発者、エンド・ユーザー)	READ
GLOBALS	グローバル変数の更新。	DBA、管理者、開発者	UPDATE

表 10-1. Accelerator Loader サーバーのアクセス要件 (続き)

リソース	アクション	推奨ユーザー	必要なアクセス権限
PARMS、HLV	ADDRESS HLV MODIFY PARM コマンドを使用した Accelerator Loader サーバー・パラメーターの変更。	DBA、プログラム製品、VTAM、オペレーション	UPDATE
PARMS、HLV	すべてのサーバー・トレース・データの表示。	DBA、プログラム製品、VTAM、オペレーション	READ
SEF、DATAMAP	データ・マップのリフレッシュ	DBA、管理者	SEF への READ アクセス権限、DATAMAP への UPDATE アクセス権限。
TRACEBROWSE、TRACEDATA、HLV	SPUFI を使用した SQL ステートメントの発行。	DBA、プログラム製品、VTAM、オペレーション	READ

RACF に対するリソースの定義

手順

- Accelerator Loader サーバー・サブシステムの RACF クラス記述子テーブルに対して新しい RACF クラスを定義します。次のサンプル JCL をモデルとして使用してください。

```
//STEP1 EXEC ASMHCL
//C.SYSLIB DD DSN=SYS1.MODGEN,DISP=SHR
//C.SYSIN DD *
  HLV ICHERCDE CLASS=HLV,
      ID=128,
      MAXLNTH=39,
      FIRST=ALPHANUM,
      OTHER=ANY,
      POSIT=25,
      OPER=NO
  ICHERCDE
/*
//L.SYSLMOD DD DSN=SYS1.LINKLIB,DISP=SHR
//L.SYSIN DD *
  INCLUDE SYSLMOD(ICHRRCDE)
  ORDER HLV
  ORDER *** Previous user-defined classes ***
  ORDER *** Previous user-defined classes ***
  ORDER ICHRRCDE
  NAME ICHRRCDE(R)
/*
```

- RACF が新しいクラスを認識できるようにするために、以下の作業を実行します。
 - Accelerator Loader サーバーを再始動します。
 - IPL を実行して、RACF クラス記述子テーブルを変更します。

3. 以下のコマンドを使用して、すべての RACF リソース・タイプをクラス HLV に定義します。RACF リソース・タイプごとに RDEFINE コマンドを繰り返します。

```
RDEFINE HLV CONTROLBLOCKS UACC(NONE)
```

4. 以下のコマンドを使用して、リソースにアクセスできるようにします。ここで、USERID は、READ 許可のアクセス権限を付与する先のユーザーの ID です。

```
PERMIT CONTROLBLOCKS CLASS(HLV) ID(USERID) ACCESS(READ)
```

5. FACILITY クラスを使用したくない場合、RACF クラス記述子とルーター・テーブルを、メンバー *hlq.SHLVCNTL(HLVRADF2)* の例に従って定義します。

6. サイトで必要なリソースごとに許可を定義し、追加するために、メンバー *hlq.SHLVCNTL(HLVRARES)* にあるジョブを編集し、実行依頼します。

7. 次のコマンドを使用して RACF に対してクラスをアクティブにします。

```
SETRPTS CLASSACT(HLV)
```

次のタスク

これらのメンバーは、新しいセキュリティー・リソース名 (ATHZOOM、USERS、HLV など) が追加されるたびに更新が必要です。

Top Secret に対するリソースの定義

手順

1. 次の例に示されているように、RDT 内の項目を定義します。ここで、*x* は、Accelerator Loader サーバー・サブシステム名の最後の文字、*nn* は 01 から 3F までの 16 進コードです。

```
TSS ADDTO(RDT) RESCLASS(HLV) RESCODE(nn)-  
ATTR(LONG,PRIV,LIB,DEFPROT,GENERIC)-  
ACLST(NONE,ALL,ALTER=1COO,UPDATE,READ)DEFACC(READ)
```

2. 次のコマンドを使用して、所有者にすべてのリソースを追加します。すべてのリソース・タイプにコマンドを繰り返します。

```
TSS ADDTO(owner) HLV(CONTROLBLOCKS)
```

3. 次のコマンドを使用して、プロファイルまたはユーザーにリソースを許可します。

```
TSS PERMIT(userid) HLV(TRACEDATA) ACC(READ)
```

4. サイトで必要なリソースごとに許可を定義し、追加するために、メンバー *hlq.SHLVCNTL(HLVTSRES)* にあるジョブを編集し、実行依頼します。

次のタスク

これらのメンバーは、新しいセキュリティー・リソース名 (ATHZOOM、USERS、HLV など) が追加されるたびに更新が必要です。

ACF2 に対するリソースの定義

手順

1. HLV という名前の汎用リソース・クラスを定義します。

2. メンバー `hlq.SHLVCNTL(HLVA2RES)` の例に従って、リソース・クラスごとにリソース・ルールを定義します。
3. 以下のコマンドを使用して、ユーザーがリソース・ルールにアクセスできるようにします。
`ACFNRULE KEY(TRACEBROWSE) TYPE(HLV) ADD(UID(*****userid) ALLOW`
4. サイトで必要なリソースごとに許可を定義し、追加するために、メンバー `hlq.SHLVCNTL(HLVA2RES)` にあるジョブを編集し、実行依頼します。

ISPF ロード・モジュールの制限 (オプション)

TSO コマンドを使用して TSO コマンドへのアクセスを制限する場合、Accelerator Loader サーバー ISPF ロード・モジュールをセキュリティー製品に定義する必要があります。

表 10-2. Accelerator Loader サーバーのロード・モジュール

ロード・モジュール	説明
HLV	S_ 対話式アプリケーションを呼び出す TSO コマンド。
HLV2RU	Accelerator Loader サーバー ISPF アプリケーションを呼び出すルーチン。
HLV I	REXX Implicit Interpreter TSO コマンド・プロセッサ。
HLVICOMP	REXX Implicit Interpreter TSO コマンド・プロセッサ。
HLVIDB	REXX Implicit Interpreter TSO コマンド・プロセッサ。
HLVIMEX	REXX Implicit Interpreter TSO コマンド・プロセッサ。
HLVOB	HLVOCP の別名。
HLVOCP	Server Trace (Trace Browse) ルーチン。
HLVORU	Server Trace (Trace Browse) ルーチン。
HLVX	REXX Implicit Interpreter TSO コマンド・プロセッサ (Server REXX)。
HLVXCOMP	REXX Implicit Interpreter TSO コマンド・プロセッサ。
HLVXDB	REXX Implicit Interpreter TSO コマンド・プロセッサ。
HLVXSCAN	REXX Implicit Interpreter TSO コマンド・プロセッサ。
HLVOCM	アドレス HLV のホスト・コマンド環境。
HLVISCBR	製品制御ブロックの表示。
HLVISSTR	製品統計の表示。
HLVISTBR	汎用テーブル表示ルーチン。
HLVISVAR	ISPF 製品変数表示。
HLVLINK	主力製品モジュール。
HLVRXBR	REXX S_ 行変数の参照ルーチン。
HLVRXDM	新しい DMF パーサーを呼び出す REXX 関数。
HLVRXID	IDCAMS にコマンドを発行するための REXX 関数。
HLVRXIN	REXX 環境の初期化。
HLVRXLEL	ブリッジ REXX TO LE/370 メインルーチン。
HLVRXPC	製品関連の制御ブロック機能。
HLVRXSG	別のアドレス・スペース内のストレージを調べるための REXX 関数。

表 10-2. Accelerator Loader サーバーのロード・モジュール (続き)

ロード・モジュール	説明
HLVRXST	製品関連の制御ブロック機能。
HLVRXTE	REXX 環境の終了。
HLVRXTK	ストリングをトークンに構文解析するための REXX 関数。
HLVRXVA	呼び出し REXX exec における変数を操作するための REXX 関数。
HLVSLSVM	SSL
HLVSLUTC	SSL
HLVSLUTC	SSL
HLVSLUTD	SSL
HLVSLUTK	SSL
HLVSLUTP	SSL
HLVSLUTR	SSL

TRACEDATA リソースを使用した情報アクセスの制御

TRACEDATA リソースは、トレース・ログ内の情報へのアクセスを制御します。

このタスクについて

Accelerator Loader サーバーのトレース・ログ内に含まれている情報には、次の 2 つのタイプがあります。

- SQL ソース・ステートメント (データベース要求モジュールまたは準備されたストリングから取られる、実 SQL ソース・ステートメント。表名、列名などが含まれる場合があります)。
- トレース・ログに内在する 2 進データ。

TRACEDATA リソースに対する READ 権限、および HLV と TRACEBROWSE に対する READ 権限があるユーザーは、トレース・ログ全体を表示できます。READ 権限がないユーザーのみが、この情報へのアクセスを制限されます。

SQL イベントの場合、ご使用のユーザー ID が、イベントに関連付けられているユーザー ID と一致する場合、SQL イベントの無検閲のログを調べることができます。そうでない場合は、検閲された SQL ステートメントの表現のみを表示できます。検閲されたバージョンには、SQL verb は含まれていますが、表名、列名などは含まれません。

Secure Sockets Layer (SSL)

Secure Socket Layers (SSL) は、IBM TCP/IP 機能である Application Transparent Transport Layer Security (AT-TLS) によって透過的にサポートされます。

Accelerator Loader サーバーは、以下のように接続をサポートします。

- SSL 接続を認識し、自動的に SSL セッションを使用可能にするポート
- 暗号化されたデータを常に送信するセキュア接続用のポート

関連概念:

5-32 ページの『SSL 設定』

Accelerator Loader スタジオ と Accelerator Loader サーバーの間で JDBC および HTTP のネットワーク通信を保護するには、SSL を有効にします。

SSL サポートの有効化

Secure Socket Layers (SSL) サポートを有効にするための手順を検討します。

始める前に

ユーザー ID には、RACF FACILITY クラスにおける IRR.DIGTCERT.LISTRING プロファイルと IRR.DIGTCERT.LIST プロファイルに対する READ 許可が必要です。SSLUSERID が指定されない場合、Accelerator Loader サーバー・アドレス・スペースのデフォルト・ユーザー ID が使用されます。

このタスクについて

各パラメーターの説明については、手順の後に示す表を参照してください。

手順

1. データ・セット *hlq.SHLVEXEC* で、メンバー *hloidIN00* を見つけます。ここで、*hloid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。
2. MODIFY PARM コマンドを使用して、以下のパラメーターとポートを設定します。

```
"MODIFY PARM NAME(SSL) VALUE(YES)"  
"MODIFY PARM NAME(SSLAUTODETECT) VALUE(NO)"  
"MODIFY PARM NAME(SSLCLIENTAUTH) VALUE(LOCAL)"  
"MODIFY PARM NAME(SSLCLIENTNOCERT) VALUE(ALLOW)"  
"MODIFY PARM NAME(SSLUSERID) VALUE(USERID)"
```

必須ポート:

```
"MODIFY PARM NAME(OEPORTNUMBER) VALUE(XXXX)"  
"MODIFY PARM NAME(WSOEPORT) VALUE(XXXX)"
```

オプションのポート:

```
"MODIFY PARM NAME(OENLPORTNUMBER) VALUE(0)"  
"MODIFY PARM NAME(OESSLPORTNUMBER) VALUE(0)"  
"MODIFY PARM NAME(WSOEBALANCEDPORT) VALUE(0)"  
"MODIFY PARM NAME(WSOESSLPORT) VALUE(0)"
```

パラメーターおよび説明	有効な値
SSL SSL 接続を使用可能にします。	YES (デフォルト) SSL 接続が使用可能になります。 NO

パラメーターおよび説明	有効な値
<p>SSLAUTODETECT (オプション) 平文接続に通常使用されるポート上で送信される SSL 接続をサーバーが自動的に検出するかどうかを指定します。 注: 別途構成される SSL ポートは、SSL 接続のみを受け入れます。</p>	<p>YES YES に設定すると、サーバーは自動的に SSL 接続を検出します。</p> <p>NO (デフォルト) NO に設定すると、平文接続のみが平文ポートで処理できます。</p>
<p>SSLCLIENTAUTH SSL クライアント証明書の認証方法を指定します。</p> <p>Accelerator Loader サーバーで使用するための SSL サポートの構成には、IBM 提供の SSL コンポーネントが使用する証明書と鍵ストアの位置を指定することが必要です。サーバーに対する SSL サポートは、1 対のネイティブ IBM SSL 鍵データベースと鍵 stash ファイルを使用するように構成できます。</p>	<p>LOCAL (デフォルト) サーバーは、SSL 接続セットアップ・ハンドシェイク時にクライアント証明書を要求します。クライアントによって送信される証明書は、他の SSL 始動パラメーターによって指定される証明書ストアを使用して認証されます。GSK SSL 鍵データベースか、RACF 鍵リングのどちらかです。</p> <p>NONE サーバーは、SSL クライアント証明書処理をアクティブにせず、クライアント証明書を要求しません。</p> <p>PASSTHRU サーバーは、SSL 接続セットアップ・ハンドシェイク時にクライアント証明書を要求します。クライアントによって送信される証明書は、受け取り時には認証されません。しかし、トランザクションによって検査することができます。</p>
<p>SSLCLIENTNOCERT (オプション) SSL クライアントがセッション確立時に有効な x501 証明書を提供できない場合に実行するアクションを指定します。 注:</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互に信頼する署名権限がないため、クライアントが証明書を提供できない場合があります。証明書がないことにより、SSL セッションの確立や使用が妨げられることはありません。 セッション確立時の SSL ハンドシェイクは、FAILURE アクションの適用前に完了します。 	<p>ALLOW (デフォルト) クライアントが障害を起こしたり、証明書を提供できなかったりしても無視して、サーバーが処理を続行することを許可します。</p> <p>FAIL サーバーは、可能な限り最も早い機会にクライアントとのセッションを終了します。</p>

パラメーターおよび説明	有効な値
<p>SSLUSERID</p> <p>SSL リソース・マネージャー・サブタスクの動作で使用されるユーザー ID を指定します。これが指定されない場合、SSL リソース・マネージャーは、サブシステムのアドレス・スペース・レベルのユーザー ID を使用して動作します。このユーザー ID には、SSL 秘密鍵および証明書ファイルを開いて読み取る権限が必要です。このタスクに別のユーザー ID を使用すると、他のトランザクション・サブタスクとサーバー自体が、この機密性の高い情報にアクセスできなくなります。</p>	Null
<p>OEPORNUMBER</p> <p>同じロード・バランシング・グループ内の別の Accelerator Loader サーバーへのロード・バランシングの候補と見なしてはならないすべてのインバウンド TCP/IP セッションを LISTEN し、ACCEPT するのに使用されるポート番号を設定します。このポート番号は、メイン製品アドレス・スペースによる排他使用のために予約する必要があります。これは、主な OEPORNUMBER と OESSLPORT 番号 (使用される場合) とは異なっている必要があります。</p>	0 (デフォルト)
<p>WSOEPOR</p> <p>すべてのインバウンド・サービスと Accelerator Loader スタジオ 要求を listen するのに使用されるポート番号を指定します。</p>	0 (デフォルト)
<p>OENLPORTNUMBER</p> <p>(オプション) 同じロード・バランシング・グループ内の別の Accelerator Loader サーバーへのロード・バランシングの候補と見なしてはならないすべてのインバウンド TCP/IP セッションを LISTEN し、ACCEPT するのに使用されるポート番号を設定します。このポート番号は、メイン製品アドレス・スペースによる排他使用のために予約する必要があります。これは、主な OEPORNUMBER と OESSLPORT 番号 (使用される場合) とは異なっている必要があります。</p>	0 (デフォルト)

パラメーターおよび説明	有効な値
OESSLPORTNUMBER (オプション) すべてのインバウンド暗号化 OE ソケット TCP/IP セッションを LISTEN し、ACCEPT するのに使用されるポート番号を設定します。このポート番号は、メイン製品アドレス・スペースのみが使用するために予約される必要があります。SSL over OE Sockets が使用される場合、メイン製品アドレス・スペースの各コピーに独自のポート番号が必要です。この値が初期設定 EXEC で設定されない場合、SSL ポート番号のデフォルト値はありません。	Null
WSOEBALANCEDPORT (オプション) グループ・メンバーにバランシングできるサービス要求を listen するのに使用されるポート番号を指定します。	0 (デフォルト)
WSOESSLPORT (オプション) 暗号化セッションのサービスを listen するのに使用されるポート番号を指定します。	0 (デフォルト)

関連概念:

5-32 ページの『SSL 設定』

Accelerator Loader スタジオ と Accelerator Loader サーバーの間で JDBC および HTTP のネットワーク通信を保護するには、SSL を有効にします。

IMS パラメーターの変更

IMS パラメーターの値はカスタマイズ時に設定されます。ソフトウェア・サポートによって指示された場合、ご使用のサイトの必要に応じて、IMS DB パラメーターを変更してください。

手順

1. データ・セット *hlq.SHLVEXEC* で、メンバー *hlvidIN00* を見つけます。ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。
2. コメント `ENABLE IMS CCTL/DBCTL SUPPORT` を見つけます。

以下の表は、IMS パラメーターについて説明しています。

パラメーターおよび説明	デフォルト値またはサンプル値
IMSID IMS Database Control (DBCTL) 領域の IMSID。	サンプル値: IVP1

パラメーターおよび説明	デフォルト値またはサンプル値
IMSDBNAME IMS データベースの名前。	サンプル値: IMSX10.SDFSRESL
IMSMINTHREADS 最小スレッド数。	デフォルト値: 5
IMSMAXTHREADS 最大スレッド数。	デフォルト値: 10
IMSNBABUFFERS 通常バッファ割り振り (NBA) バッファの総数。	デフォルト値: 10
IMSFBBUFFERS スレッド当たりの高速機能バッファ数。	デフォルト値: 1
IMSFPOVERFLOW 高速機能オーバーフロー・バッファ数。	デフォルト値: 1
TRACEIMSDLIEVENTS トレース IMS DLI イベント。	有効な値: • YES • NO (デフォルト)

SMF ファイルへのアクセスの構成

順次ファイル・ソース・メソッドを使用して、システム管理機能 (SMF) データをアクセラレーターにロードすることができます。SMF ファイルへのアクセスを構成するには、Accelerator Loader サーバー JCL、サーバー構成メンバー、およびサーバー仮想表メンバーを構成する必要があります。

始める前に

- ご使用のユーザー ID にファイル SHLVXVTB に対する更新権限があることを確認してください。
- Accelerator Loader サーバー・ストアード・プロシージャーに、PDS メンバー *hlq.SHLVTXVTB(HLVSMFT2)* に対する更新権限があることを確認してください。
- 必要な SMF レコードを見つけてください。

手順

1. データ・セット *hlq.SHLVXVTB* メンバー *HLVSMFT2* で、パラメーター *GLOBAL2.SMFTBL2.DEFAULT* に、必要な SMF レコードが入っている SMF データ・セットを追加します。
2. サーバー *hlqidPROC* を更新し、SMF マップ・データ・セットを *HLVMAPP DD* に追加します。

ヒント: マップ・データ・セットを追加した後、Accelerator Loader スタジオは多数のマップを表示します。マップのリストを、頻繁に使用するマップに限定するには、スタジオでお気に入りを作成します。

3. 仮想表のルール・イベントを有効にするために、データ・セット `hlq.SHLVEXEC` メンバー `hlvoidIN00` で以下のように SEFVTBEVENTS パラメーターを変更します。

"MODIFY PARM NAME(SEFVTBEVENTS) VALUE(YES)"

4. DB2 Analytics Accelerator Loader ISPF インターフェースを使用して、SMF をルールとして有効にします。
 - a. メインメニューで、「**Server administration**」を選択します。
 - b. 「Administer Accelerator Loader server」パネルで、「**Manage Rules**」を選択します。
 - c. 「Event Facility (SEF) Control」パネルで、「**SEF Rule Management**」を選択します。
 - d. 「Event Facility (SEF) Ruleset Entry Profile」パネルでの「**Display Only the Ruleset Named**」フィールドでデフォルト値「*」(アスタリスク) を受け入れて、Enter キーを押します。
 - e. 「Event Facility Proc. Rulesets - Using SEF V4 Configuration」パネルで、**VTB** の横にある S 列に「S」と入力し、Enter キーを押します。
 - f. 「Event Facility (SEF) Event Procedure List」パネルで、メンバー `HLVSMFT2` の横にある S 列に、「B」と入力して、Enter キーを押します。

関連概念:

『ルールおよびイベント』

イベントごとに 1 つ以上のルールを作成できます。各ルール内で、イベントに対応して実行するアクションを指定します。

10-87 ページの『サーバーからの SMF レコードの作成』

システム管理機能 (SMF) は、SMF データ・セットに使用状況の情報を記録する方法を提供します。

ルールおよびイベント

イベントごとに 1 つ以上のルールを作成できます。各ルール内で、イベントに対応して実行するアクションを指定します。

ルールは以下の部分で構成されます。

- 基準
- ヘッダー・ステートメント
- 1 つ以上のプロセス・セクション
- 戻り値
- 変数

以下のタイプのイベントにルールを作成できます。

- Accelerator Loader サーバーが制御されたリソースに対して許可処理を実行するときに発生する許可 (ATH) イベント。
- Accelerator Loader サーバーが z/OS コンソールからコマンドを受け取るときに発生するコマンド (CMD) イベント。
- タスクが制限を超えるか、失敗したときに発生する例外 (EXC) イベント。これらのイベントが生成されるのは、これらのイベントを許可するように SEFGLVENTS パラメーターが設定されている場合のみです。
- グローバル変数の値が変更されたときに発生するグローバル変数イベント (GLV)。
- SQL イベントは、SQL ステートメントが実行される前に発生します。
- 時刻 (TOD) イベントは特定の時刻に発生します。
- 仮想表 (VTB) ルールにより、単一の仮想表を使用して、同じ構造の多数のデータ・セットを表すことができます。

ルールとイベントの例は次のとおりです。

- 重要なアプリケーションがいつでもデータをダウンロードでき、重要でないアプリケーションは特定の時間のみにデータをダウンロードできるようにするルールを作成します。
- LOGON イベントの場合、ユーザー ID が 24 時間以内に 3 回ログオン要求できるようにし、それ以降のログオン要求を拒否するルールを作成します。
- LOGON イベントの場合、特定の ID からのログオン試行をすべて拒否するルールを作成します。

関連タスク:

3-57 ページの『SMF ファイルへのアクセスの構成』

順次ファイル・ソース・メソッドを使用して、システム管理機能 (SMF) データをアクセラレーターにロードすることができます。SMF ファイルへのアクセスを構成するには、Accelerator Loader サーバー JCL、サーバー構成メンバー、およびサーバー仮想表メンバーを構成する必要があります。

ルールとイベントの管理

ISPF インターフェースを使用して、ルールとイベントを表示および操作します。

手順

1. メインメニューで、「**Server administration**」を選択します。
2. 「Administer Accelerator Loader server」パネルで、「**Manage Rules**」を選択します。
3. 「Event Facility (SEF) Control」パネルで、「**SEF Rule Management**」を選択します。
4. 「Event Facility (SEF) Ruleset Entry Profile」パネルで、「**Display Only the Ruleset Named**」を使用してルール・セットを以下のように表示します。
 - すべてのルール・セットを表示するには、アスタリスクをそのままにして Enter を押します。 6 (10-14 ページ) に進みます。
 - 特定のタイプのルール・セットを表示するには、以下のいずれかの値を指定して Enter を押します。

- ATH (許可イベント・ルールの場合)
 - CMD (コマンド・イベント・ルールの場合)
 - EXC (例外イベント・ルールの場合)
 - SQL (SQL イベント・ルールの場合)
 - TOD (時刻イベント・ルールの場合)
 - VTB (仮想表ルールの場合)
5. 「Event Facility (SEF) Event Procedure List」パネルで、メンバーの横にある「S」列に行コマンドを入力して、以下のいずれかのアクションを実行します。
- S: ISPF エディターを使用して変更対象のイベント・プロシージャーを選択します。
 - E: イベント・プロシージャーを有効にします。
 - D: イベント・プロシージャーを無効にします。
 - A: イベント・プロシージャー・メンバーに Auto-Enable (AE) フラグを設定します。
 - Z: イベント・プロシージャー・メンバーの Auto-Enable (AE) フラグをリセットします。
 - B: Auto-Enable (AE) フラグを設定して、イベント・プロシージャーを有効にします。
 - C: イベント・プロシージャーを無効にして、Auto-Enable (AE) フラグをリセットします。
6. 「Event Facility Proc. Rulesets - Using SEF V4 Configuration」パネルで、ルール・セットの横にある「S」列に行コマンドを入力して、以下のいずれかのアクションを実行します。
- S: ルール・セット内のメンバーのリストを表示します。
 - E: ルール・セット全体のすべてのメンバーを有効にします。
 - D: ルール・セット全体のすべてのメンバーを無効にします。
 - U: メンバーの名前変更、削除、または印刷を行うために ISPF/PDF ユーティリティー・パネルを表示します。
 - A: ルール・セットのすべてのメンバーに Auto-Enable (AE) フラグを設定します。
 - Z: ルール・セットのすべてのメンバーの Auto-Enable (AE) フラグをリセットします。

自動制限

ルールには、照会、接続、セッションなどを制御するカスタマイズ可能な制限を含むことができます。

ルールは、データ・セット *hlq.SHLVEXEC* メンバー *hlvoidIN00* で構成されます (ここで、*hlvoid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します)。

インストール時に、以下の制限ごとにデフォルト値が指定されます。

全体的なセッションあたりの CPU リミット

この制限に達すると、セッションは自動的に終了します。セキュリティ製品または製品パラメーターがこの制限を指定できます。

DB2 接続あたりの CPU リミット

この制限に達すると、現行の DB2 接続が自動的に終了し、関連したすべての DB2 リソースが解放されます。

SQL 照会あたりの CPU リミット

この制限に達すると、現行の SQL 照会が自動的に終了し、関連したすべての DB2 リソースが解放されます。

非活動タイムアウト

この制限は、指定された期間非アクティブであったユーザーのセッションを自動的に終了します。機密漏れを最小限に抑え、非アクティブ・ユーザーが保持するリソースを解放するために、この制限を使用します。

最大 timer-on 制限

この制限は、指定の値を超える SQL ステートメントの実行を妨げます。この制限により、過剰なリソース使用が防止されます。

最大行数制限

この制限は、照会で戻される行数を制限します。

ドロップされた接続の検出

このメカニズムは、接続に失敗したか、ネットワークに接続しなくなったクライアントを検出します。ドロップされた接続が検出されると、ホスト・セッションが終了し、すべてのリソースが解放されます。

ロック制御機能

このメカニズムは、長すぎる期間にわたって、DB2 ロック (共用、更新、排他) を保持しているクライアントを検出します。この制限に達すると、セッションは終了し、ロックが解除されます。

動的 SQL 制御機能

このメカニズムでは、動的 SQL がホスト上で拒否されます。このメカニズムは、静的 SQL の使用を強制するために使用します。

最大同時ユーザー数

この制限は、同時ユーザーの最大数を制御し、ホストで適用されます。

ルールの変数

ルールを作成する際に、動的変数、グローバル変数、一時変数、およびイベント固有の変数を使用できます。これらの変数は、REXX プログラミングで使用されません。

動的変数

動的変数は、ルールのプロセス・セクションが単純変数または複合変数の値を参照または設定するとき作成されます。動的変数はルールの実行中のみ存在し、REXX 環境が削除されると解放されます。動的変数には、REXX 以外のプロシージャや関数はアクセスできません。以下のコード・フラグメントは、2 つの単純変数 I と COUNT、および 1 つの複合変数 stemvar.I を示しています。

```
do I = 1 to COUNT
stemvar.I = "InitValue"
end
```

グローバル変数

グローバル変数には、次のいずれかのステム値があります。

- GLOBAL
- GLOBAL n 。ここで、 n は 1 から 9 の整数です。

グローバル変数はグローバル変数チェックポイント・データ・セットに保管されます。グローバル変数が参照されると、変数の値がチェックポイント・データ・セットから取り出されます。グローバル変数の値は、製品の再始動後も存続し、**SEFGLVEVENTS** パラメーターが YES に設定されていれば、すべてのルールで共有されます。パラメーター **SEFGLVEVENTS** は、データ・セット *hlq.SHLVEXEC* メンバー *hlvidIN00* にあります。変更をインターセプトし、追加の処理を実行するためのルールを作成できます。

一時変数

ステム値 GLVEVENT で始まる一時変数は、イベント中のみ存在し、イベントが終わると削除されます。一時変数は、これらのタイプの変数を作成し、問い合わせる高水準言語 (HLL) ルーチンで使用されます。一時変数を作成またはアクセスするには、HLVVALUE API 関数を使用します。ルールは一時変数を名前参照で参照できません。

イベント変数

イベントが発生すると、イベント変数が作成されます。これらの変数は、イベントに関する情報をイベントのルールに渡します。例えば、ATH.AUPWDBSS は、LOGON イベントのイベント変数です。ATH.AUPWDBSS 変数の値は、接続ストリングが提供する DB2 サブシステム名です。特定の DB2 サブシステムへのログオンを制限するルールでこの変数を使用できます。

大部分のイベント変数は読み取り専用ですが、一部の变数は変更できます。変更可能なイベント変数への変更は累積されます。最初に実行されるルールでは、変数の元の値を使用します。それ以降に実行される各ルールでは、直前のルールで変更された値が使用されます。ルールで変数の値が変更された場合であっても、実行の対象となるすべてのルールが実行されます。

許可 (ATH) イベント

このセクションでは、許可 (ATH) イベントのタイプについて説明します。

すべての許可イベント

許可要求が行われると、このイベントが発生します。このイベントのルールは要求を拒否、受け入れ、または変更することができます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチン呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたりソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたりソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
その他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたりソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

変数

これらの変数の値は、ATH ルールが ATH イベントを処理する場合にのみ設定されます。すべての変数のデータ・タイプは、特に注記がない限り、文字、読み取り専用です。

基準	変数名	内容
ALL	ATH.OPAU13WA	WAITS フラグは、待ち状態が許可されている場合はオンであり、許可されていない場合はオフです。待ち状態が許可されていない場合、タスクが待ち状態に入るアクションは許可されません。
ALL	ATH.OPAUACSR	要求されるアクセスのタイプ。アクセス・タイプに有効な値は次のとおりです (LOGON 要求を除く)。 <ul style="list-style-type: none"> • ADD • CONTROL • DISPLAY • DEFINE • EXECUTE • INFO • LIST • KILL • MODIFY • READ • SHOW • SET • WRITE
ALL	ATH.OPAUERMG	REXX プログラムは、クライアントに送信するエラー・メッセージを指定できます。 データ・タイプ: 文字、読み取り/書き込み。

基準	変数名	内容
ALL	ATH.OPAURQRC	<p>要求戻りコード。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 00: 要求が許可されました • 04: 要求を変更しなければなりません • 08: 要求が失敗しました • 12: 要求が異常終了しました • 16: 製品アドレス・スペースが使用不可です
ALL	ATH.OPAURQSR	<p>処理される要求のタイプ。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CICS CONNECTIONS: CICS® 接続 • CONTROL BLOCKS: 製品制御ブロック • DATABASES: 製品データベース • DATA MAP: データ・マップ定義 • FILE: 共用サーバー QSAM/BPAM データ・セット • GLOBALS: グローバル変数 • LINKS: 通信リンク • LOGON: パスワードとユーザー検証 • PARMS: 製品パラメーター • RPC: リモート・プロシージャー・コール • SDB: SDB コマンド • SEF: Event Facility コマンド • TRACE DATA: 詳細なサーバー・トレース (Trace Browse) データ • TRACE BROWSE: サーバー・トレース (Trace Browse) • TSO: TSO コマンド • USERS: リモート・ユーザー
ALL	ATH.OPAUSRID	<p>要求タイプをアクセス・タイプと組み合わせることによって作成される検索 ID。例えば、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PARMS.SHOW は製品パラメーターを表示します • SEF.INFO は SEF 情報を取得します

基準	変数名	内容
ALL	ATH.OPAUUSID	<p>検証されるユーザー ID (LOGON)、ログオフするユーザー ID (LOGOFF)、または制御されたリソースへのアクセスを要求するタスクのユーザー ID。</p> <p>データ・タイプ: 文字、読み取り専用 (特に注記がない限り)。</p> <p>注: ルールによって生成されたユーザー ID をセキュリティー製品による今後の検証に使用できるように、LOGON イベントのルールはユーザー ID の値を変更できます。その他の許可イベントのルールは、ATH.OPAUUSID 変数を変更しようとしてはなりません。</p>
ALL	ATH.USER	<p>ユーザー域は、同じイベントに対応して実行されるすべてのルールに渡されます。</p> <p>データ・タイプ: 読み取り専用</p>

制御ブロック・イベント

このイベントは、制御ブロックがアクセスされるか、更新されるときに発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティー製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチンを呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
その他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

変数

CONCROLBLOCK 変数は、製品制御ブロックへのアクセスまたは更新に関連するイベントに使用されます。

変数名	内容	データ・タイプ
ATH.AUBKCBAD	制御ブロックのアドレス。	文字、読み取り専用
ATH.AUBKCBAS	制御ブロックのアドレス・スペース (ASID)。	数値、読み取り専用
ATH.AUBKCBLN	制御ブロックの長さ。	数値、読み取り専用
ATH.AUBKCBNA	制御ブロックの名前。	文字、読み取り専用

データベース・イベント

このイベントは、データベースが定義、アクセス、または更新されるときに発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティー製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチン呼び出しします。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

変数

DATABASE 変数は、製品データベースの定義、アクセス、または更新に関連するイベントに使用されます。

変数名	内容	データ・タイプ
ATH.AUDBHOST	データベースのホスト名。	数値、読み取り専用
ATH.AUDBNAME	データベースの名前。	文字、読み取り専用
ATH.AUDBTYPE	データベースのタイプ。	文字、読み取り専用

IMSLTERM イベント

このイベントは、IMSLTERM (IMS 論理端末) 許可イベントが発生するときに発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティ製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティ・ルーチンを呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティ・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティ・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
その他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティ・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティ製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

変数

以下の変数が使用できます。IMSLTERM 変数は、IMSLTERM に関連するイベントに使用されます。

記述名	変数名	内容	データ・タイプ
仮想表名	ATH.AULTNAME	仮想表の名前。	文字、読み取り専用

通信リンク・イベント

このイベントは、通信リンクが定義、アクセス、または更新されるときに発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティ製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティ・ルーチンを呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティ・サブシステムによる追加の処理は実行されません。

戻り値	説明
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
その他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

変数

LINKS 変数は、通信リンクの定義、アクセス、または更新に関連するイベントに使用されます。

変数名	内容	データ・タイプ
ATH.AULIHOST	リンクのホスト名。この名前は切り捨てられる可能性があります。ホスト名の解決に必要な追加処理を避けるために、サーバーは通常、クライアント・ホスト名の取得も提供も行いません。	文字、読み取り専用
ATH.AULIPAD	4 バイト 2 進形式の TCP/IP アドレス。	2 進数、読み取り専用
ATH.AULILU	LU 6.2 リンクに対してのみ設定される LU 6.2 名。	文字、読み取り専用
ATH.AULIMODE	LU 6.2 リンクに対してのみ設定される LU 6.2 モード名。	文字、読み取り専用
ATH.AULITYPE	リンク・タイプ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 6: LU 6.2 リンク • T: IBM TCP/IP リンク • I インターリンク TCP/IP 	文字、読み取り専用

ログオフ・イベント

このイベントは、ホストとのクライアント・セッションが終了した後に発生します。したがって、クライアントに送信できる応答データはありません。

このイベントのルールは、以下の応答を提供できます。

- コンソールまたはサーバー・トレースにメッセージを書き込みます。エラー・メッセージ変数 (ATH.OPAUERMG) も設定できます。この変数のこの値がサーバー・トレースに表示されるのは、ATH メッセージがトレースされる場合です。

- SMF レコードを書き込みます。このルーチンに渡される ATH イベント変数に加えて、SDBINFO 関数も使用できます。
- 他のリソースにアクセスし、更新します。例えば、現行のユーザーが接続されなくなったことを示すように、グローバル変数を変更できます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチン呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

変数

LOGOFF 変数は、コンソールまたはサーバー・トレースへのメッセージの書き込み、SMF レコードの書き込み、またはその他のリソースのアクセスと更新に関連するイベントに使用されます。

記述名と変数名	内容	データ・タイプ
完了コード ATH.AULGABCD	4 バイトの 16 進数ストリングである完了コード。現行のスレッドが正常に終了した場合、この値は 0000 です。	文字、読み取り専用
許可スキーム ATH.AULGAUSC	許可スキーム。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • SDBECURE: ユーザー ID が SDBECURE API を使用して作成されました。 • RA-PROXY: RUNAUTH (プロキシ) ユーザー ID のログオフ。 • BASIC: HTTP 許可、要求ヘッダー・スキーム。 	文字

記述名と変数名	内容	データ・タイプ
キャッシュ ATH.AULGCAUS	ユーザー ID キャッシュ・フラグ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 (ゼロ): ユーザー ID はログオフしています。 • 1: ユーザー ID が以前にキャッシュされ、キャッシュに保持されている場合。 	文字、読み取り/書き込み
接続トークン ATH.AULGCNTK	接続トークンは 8 バイトの 16 進数ストリングです。終了するタスクを識別するために、この値が SDBINFO 関数に渡される場合があります。この値は、メイン製品アドレス・スペースのテスト (TSO) バージョンにのみ必要です。	文字、読み取り専用
CPU 時間 ATH.AULGCPTM	現行タスクで使用される CPU 時間。秒数と小数点以下の秒数で指定されます。	文字、読み取り専用
経過時間 ATH.AULGELTM	現行タスクの経過時間。秒数と小数点以下の秒数で指定されます。	文字、読み取り専用
GMT ログオン時間 ATH.AULGLGGM	タイム・スタンプとして提供される GMT ログオン時間。形式は YYYY/MM/DD-HH:MM:SS.NNNNNN. です。	文字、読み取り専用
ローカル・ログオン時間 ATH.AULGLGTM	タイム・スタンプとして提供されるローカル・ログオン時間。形式は YYYY/MM/DD-HH:MM:SS.NNNNNN. です。	文字、読み取り専用
圧縮解除バイト ATH.AULGWRT0	圧縮解除されたバイトの総数。これは、次のフィールドを使用して提供されます。	文字、読み取り専用

記述名と変数名	内容	データ・タイプ
待機 ATH.APAU13WA	<p>WAITS フラグ。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 (ゼロ): WAITS は許可されません。 • 1: WAITS は許可されます。 <p>WAITS が許可されていない場合、タスクが待ち状態に入る可能性がある入出力やその他のサービスは許可されません。不要なサブタスクの終了を防ぐために待機割り振りフラグをモニターすることが重要な場合、タスク終了処理中に何らかのログオフ操作が発生します。</p>	

ログオン・イベント

このイベントは、ログオンが行われたときに発生します。

このイベントのルールは、以下の応答を提供できます。

- 現行のクライアント・ユーザー ID に対してすべての実行制限を設定またはリセットします。デフォルト値がルールに渡されます。デフォルト値が変更されない場合は、デフォルト値が使用されます。
- 戻り値を REJECT に設定し、ATH.OPAUERMG 変数を使用してエラー・メッセージを送信します。
- 戻り値を ACCEPT に設定します。この戻り値を使用すると、セキュリティー製品が行うパスワード検証がバイパスされることに注意してください。インストールされているセキュリティー製品がないか、またはご使用のセキュリティー製品でパスワード検証をバイパスしたい場合、ACCEPT を使用してください。
- セキュリティー製品により処理される前にユーザー ID を変更します。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチン呼び出しします。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。

戻り値	説明
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

LOGON 変数は、現行のクライアント・ユーザー ID に対する実行制限の設定またはリセット、現行のログオン試行の拒否、パスワード検証のバイパス、または RACF/ACF2 で処理される前のユーザー ID の変更に関連するイベントに使用されます。

記述名と変数名	内容	データ・タイプ
セキュリティー最適化 ATH.AUPWAEAC	セキュリティー最適化フラグ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 (ゼロ): セキュリティー最適化がアクティブではありません。 1: セキュリティー最適化がアクティブです。 	文字、読み取り専用
セキュリティー最適化キャッシュ ATH.AUPWAERT	ユーザーのセキュリティー最適化キャッシュ項目が保持される時間 (秒数)。	文字、読み取り専用
アプリケーション名 ATH.AUPWAPNA	アプリケーションの名前。この値はオプションで ODBC アプリケーションによって設定されます。	文字、読み取り/書き込み
認証スキーム ATH.AUPWAUSC	ログオンの認証スキーム。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> SDBECURE: SDBECURE API を使用したログオン RA-PROXY: RUNAUTH (プロキシ) ユーザー ID のログオン BASIC: HTTP 許可、ヘッダー・ユーザー ID のログオン 	文字、読み取り/書き込み
ユーザー ID キャッシュ ATH.AUPWCAUS	ユーザー ID キャッシュ・フラグ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 (ゼロ): ユーザー ID のキャッシングを抑制します 1: クライアント・ユーザー ID/ACEE が再利用のためにキャッシュに入れられているか、入れることができる場合。 	

記述名と変数名	内容	データ・タイプ
ODBC 接続ストリング ATH.AUPWCNSR	クライアントからの ODBC 接続ストリング。	文字、読み取り/書き込み
基本 CPU 時間間隔 ATH.AUPWCPBA	タイム・スライシングの基本 CPU 時間間隔。	文字、読み取り/書き込み
エラー CPU 時間制限 ATH.AUPWCPER	制限検査タスクによって検査されるエラー CPU 時間制限。	文字、読み取り/書き込み
失敗 CPU 時間制限 ATH.AUPWCPFA	制限検査タスクによって検査される失敗 CPU 時間制限。	文字、読み取り/書き込み
実行時間間隔 ATH.AUPWCPIN	タイム・スライシングの実行時間間隔。	文字、読み取り/書き込み
CPU 時間の制限 ATH.AUPWCPTM	ODBC タスクによって検査される CPU 時間制限。	文字、読み取り/書き込み
プラン名 ATH.AUPWDBPN	プラン名。この値は、接続ストリング内で提供されます。	文字、読み取り/書き込み
DB2 subsystem name ATH.AUPWDBSS	DB2 サブシステム名。この値は、接続ストリング内で提供されます。	文字、読み取り/書き込み
データベース・ユーザー ID ATH.AUPWDBUS	DB2 との接続に使用されるデータベース・ユーザー ID。CAF を使用する場合、ユーザー ID を切り替えることができますが、エンタープライズ監査を使用している場合を除いて、RRSAF を使用してユーザー ID を切り替えることはできません。	文字、読み取り/書き込み
タスク優先順位 ATH.AUPWDPPR	現行タスクの z/OS タスク・ディスパッチ優先順位。値は 0 から 225 です。	文字、読み取り/書き込み
エンタープライズ監査 ATH.AUPWENTL	エンタープライズ監査フラグ。このフラグが 1 に設定されている場合、クライアントからのエンタープライズ監査要求が受け入れられます。このフラグがその他の値に設定される場合、要求は無視されます。	文字、読み取り/書き込み
排他ロック ATH.AUPWEXFA	制限検査タスクによって検査される排他ロック時間制限。	文字、読み取り/書き込み

記述名と変数名	内容	データ・タイプ
アプリケーション内部名 ATH.AUPWINNA	提供される場合、アプリケーション内部名。この値は、非コンソール・モードの Windows 32 ビット・アプリケーションにのみ使用可能であり、Windows バージョンのリソースから取得されます。	文字、読み取り専用
プレーン・テキストの新規パスワード ATH.AUPWLGW	アプリケーションが提供する新しいプレーン・テキスト・パスワード。 PROVIDEPASSWORDS パラメーターがこの変数を制御します。 PROVIDEPASSWORDS が YES に設定される場合、この変数は非ブランクのストリングに設定されます。そうでない場合は、この変数はブランク文字に設定されます。パスワードを変更できるのは、PROVIDEPASSWORDS パラメーターが CHANGE に設定される場合のみです。	文字、読み取り/書き込み
プレーン・テキスト・パスワード ATH.AUPWGPW	アプリケーションが提供するプレーン・テキスト・パスワード。 PROVIDEPASSWORDS パラメーターがこの変数を制御します。 PROVIDEPASSWORDS が YES に設定される場合、この変数は非ブランクのストリングに設定されます。そうでない場合は、この変数はブランク文字に設定されます。パスワードを変更できるのは、PROVIDEPASSWORDS パラメーターが CHANGE に設定される場合のみです。	文字、読み取り/書き込み
ネットワーク・ユーザー ID ATH.AUPLNID	クライアントからのネットワーク・ユーザー ID。	文字、読み取り/書き込み
アプリケーション・モジュール名 ATH.AUPWMDNA	提供される場合、アプリケーション・モジュール名。これは、.NET クライアントを使用しているアプリケーションの名前です。	文字、読み取り専用

記述名と変数名	内容	データ・タイプ
生成される最大行数 ATH.AUPWMXCA	エラーが RPC に報告されるまでに RPC コールが生成できる最大行数。	文字、読み取り/書き込み
フェッチされる最大行数 ATH.AUPWMXRW	SQL コード +100 がシミュレートされるまでにフェッチできる最大行数。	文字、読み取り/書き込み
最大 timeron 数 ATH.AUPWMXTM	クライアント・タスクによって検査される最大 timeron 制限。	文字、読み取り/書き込み
シングル・ログオン ATH.AUPWNTLG	クライアントからのシングル・ログオン・フラグ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 (ゼロ): クライアントはシングル・ログオンを使用しませんでした。 • 1: クライアントはシングル・ログオンを使用しました。 	文字、読み取り専用
RPC エンキュー制限 ATH.AUPWRPEH	制限検査タスクが検査する RPC エンキュー時間制限。	文字、読み取り/書き込み
RPC 実行制限 ATH.AUPWRPEL	RPC 実行時間制限。	文字、読み取り/書き込み
共用ロック制限 ATH.AUPWSHFA	制限検査タスクが検査する共用ロック時間制限。	文字、読み取り/書き込み
SQL あたりの CPU リミット ATH.AUPWSQFA	制限検査タスクが検査する、SQL あたりの CPU 時間制限。	文字、読み取り/書き込み
更新ロック制限 ATH.AUPWUPFA	制限検査タスクが検査する更新ロック時間制限。	文字、読み取り/書き込み
ユーザー・パラメーター ATH.AUPWUSPA	クライアントからのユーザー・パラメーター。	文字、読み取り/書き込み
パスチケット認証 ATH.AUPWSPT	RACF パスチケット・フラグ。以下の値が有効です。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 (ゼロ): ユーザーは認証に RACF パスチケットを使用しません。 • 1: ユーザーは認証に RACF パスチケットを使用します。 	文字、読み取り/書き込み
エラー待ち時間 ATH.AUPWAER	制限検査タスクが検査するエラー待ち時間制限。	文字、読み取り/書き込み

記述名と変数名	内容	データ・タイプ
障害待ち時間 ATH.AUPWAF	制限検査タスクによって検査される障害待ち時間制限。	文字、読み取り/書き込み
警告待ち時間 ATH.AUPWAWN	制限検査タスクによって検査される警告待ち時間制限。	文字、読み取り/書き込み
WAITS フラグ ATH.OPAU13WA	WAITS フラグ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 (ゼロ): WAITS は許可されません • 1: WAITS は許可されます WAITS が許可されていない場合、タスクが待ち状態に入る可能性がある入出力やその他のサービスは許可されません。	文字、読み取り/書き込み
受け入れタイプ・ストリング ATH.OPAUACSR	受け入れタイプ・ストリング。	文字、読み取り専用
エラー・メッセージ ATH.OPAUERMG	エラー・メッセージ。	文字、読み取り専用
要求タイプ・ストリング ATH.OPAURQSR	要求タイプ・ストリング。	文字、読み取り専用
ルール呼び出しマッチング・ストリング ATH.OPAUSRID	ルール呼び出しマッチング・ストリング。	文字、読み取り専用
クライアント・ユーザー ID ATH.OPAUUSID	システムにログオンしているクライアント・ユーザー ID。	文字、読み取り専用

関連タスク:

3-55 ページの『DB2 サブシステムへの・ユーザー・アクセスの構成』
DB2 へのユーザー・アクセスを提供します。

MQ イベント

IBM MQ リソースが定義されるときに、このイベントが発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティー製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチン呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

MQSERIES 変数は、MQ リソースの定義に関連したイベントの許可に使用されま
す。

記述名	変数名	内容	データ・タイプ
キュー・マネージャ	ATH.AUMQQMGR	キュー・マネージャの名前。この名前は、1 つのキュー・マネージャに固有のアクションに対してのみ設定されます。キュー・マネージャのリストが呼び出し元によって要求される場合、このフィールドは設定されません。	文字、読み取り専用

パラメーター・イベント

このイベントは、パラメーターが更新またはアクセスされるときに発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティー製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチンを呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。

戻り値	説明
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

PARMS 変数は、製品パラメーターのアクセスまたは更新に関連したイベントの許可に使用されます。

記述名	変数名	内容	データ・タイプ
製品パラメーター名	ATH.AUPAPANA	製品パラメーターの名前。	文字、読み取り専用

SDB イベント

このイベントは、SDB コマンドを実行しようとしたときに発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティー製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチン呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。 ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

SDB 変数は、SDB コマンドの実行に関連したイベントの許可に使用されます。

記述名	変数名	内容	データ・タイプ
オプション・ストリング	ATH.AUSDOTSR	SDB コマンド・オプションのストリング (例: 5.2)。	文字、読み取り専用
サブシステム名	ATH.AUSDSSNA	サブシステムの名前。	文字、読み取り専用

SEF イベント

このイベントは、Server Event Facility (SEF) コマンドを実行しようとしたときに発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティー製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチン呼び出しを呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティー製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

SEF 変数は、SEF コマンドの実行に関連したイベントの許可に使用されます。すべての変数のデータ・タイプは、文字、読み取り専用です。

記述名	変数名	内容
SEF ARCHIVE verb のサブコマンド	ATH.AUSEARSB	SEF ARCHIVE verb のサブコマンド。
現行の操作	ATH.AUSEAUOP	現行の操作がイベント・プロシージャのルール・セットに影響を与えるかどうかを示すフラグ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 (ゼロ): • 1:
ルール・セット名	ATH.AUSEAURS	ATH ルール・セット名。
コマンド・バッファ長	ATH.AUSEBULN	SEF コマンド・バッファ長。
コマンド・バッファ	ATH.AUSECMBU	SEF コマンド・バッファ。
z/OS DS 名	ATH.AUSEDSNA	SEF ルール・セットの z/OS DS 名 (ファイル管理コマンドの DS 名)。

記述名	変数名	内容
イベント・プロシージャー名	ATH.AUSERLNA	SEF コマンド・イベント・プロシージャー名 (ファイル管理コマンドのメンバー名)。
SEF ルール・セット名	ATH.AUSERSNA	SEF コマンドのルール・セット名 (ファイル管理コマンドの DD 名)。
SEF コマンド verb ストリング	ATH.AUSEVBSR	SEF コマンド verb ストリング。
コマンド要求	ATH.AUSERQTY	<p>SEF コマンドの要求タイプ。ルール・セット・コマンドには以下の値が有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • A: Auto-Enable フラグの設定 • B: Auto-Enable フラグの設定と有効化 • C: Auto-Enable フラグのリセットと無効化 • D: ルールの無効化 • E: ルールの有効化 • F: ルールのリフレッシュ • I: DS 名索引の設定 (STAR を使用する DS 名) • L: ルール・セットまたはルールのリスト • R: アーカイブ・コマンド • S: サブシステム・ストリングの設定または再送 • T: タイマー・ルールのテストまたは別のテスト • U: ルールの表示 • X: データの転送 • Y: SYSID ストリングの設定またはリセット • Z: Auto-Enable フラグのリセット <p>ファイル管理コマンドに以下の値が有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3: データ・セットのオープン • 4: データ・セットのクローズ • 5: データ・セットのリフレッシュ • 6: ファイル・リスト • 7: データ・セットの静止 • 8: データ・セットの割り振り • 9: DD 名の割り振り解除 <p>TSO サーバー管理コマンドには以下の値が有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • F: TSOSRV_LIST • K: TSOSRV_QUEUEUES • M: TSOSRV_STOP • O: TSOSRV_RESETO • P: TSOSRV_FREE • Q: TSOSRV_EXECSTATUS

トークン・イベント

このイベントは、トークンにアクセスするときに発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティ製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティー・ルーチン呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティー・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティー・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティ製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

TOKENS 変数は、実行トークンのアクセスに関連したイベントの許可に使用されます。

記述名	変数名	内容	データ・タイプ
ホスト名	ATH.AUTKHONA	現行のトークンを作成したクライアントのホスト名が入っているホスト名フィールド。このフィールドは、複数のトークン・フェッチ要求に対しては設定されません。	文字、読み取り専用
ID ストリング	ATH.AUTKIDSR	アクセスまたは削除されるトークン ID が入っているトークン ID ストリング。このフィールドは、複数のトークン・フェッチ要求に対しては設定されないことに注意してください。	文字、読み取り専用

記述名	変数名	内容	データ・タイプ
ユーザー・データ	ATH.AUTKUSDA	アクセスまたは削除されるトークンのユーザー・データが入っているユーザー・データ・フィールド。このフィールドは、複数のトークン・フェッチ要求に対しては設定されません。	文字、読み取り専用
ユーザー ID	ATH.AUTKUSID	現行のトークンを作成したクライアントのユーザー ID が入っているユーザー ID フィールド。このフィールドは、複数のトークン・フェッチ要求に対しては設定されません。	文字、読み取り専用

TSO イベント

このイベントは、TSO コマンドの実行時に発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティ製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティ・ルーチンを呼び出します。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティ・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティ・サブシステムによる追加の処理は実行されません。 ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティ・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティ製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

TSO 変数は、TSO コマンドの実行に関連したイベントの許可に使用されます。

記述名	変数名	内容	データ・タイプ
バッファ長	ATH.AUOSBULN	TSO コマンド・バッファ長。	文字、読み取り専用
バッファ	ATH.AUOSCMBU	TSO コマンド・バッファ。	文字、読み取り専用
コマンド verb ストリング	ATH.AUOSVBSR	TSO コマンド verb ストリング。	文字、読み取り専用

ユーザー・イベント

リモート・ユーザーに関する情報にアクセスするとき、リモート・ユーザー接続が終了するとき、および DB2 スレッド取り消し操作が行われるときに、このイベントが発生します。このイベントのルールによって要求の受け入れまたは拒否を行うこともでき、要求を許可するかどうかをセキュリティ製品によって決定することもできます。

戻り値

ATH イベントが終了すると、ルールが戻り値を設定します。サーバーはその戻り値を評価して、z/OS セキュリティ・ルーチン呼び出しします。

戻り値	説明
ACCEPT	要求されたリソースへのアクセスが許可され、z/OS セキュリティ・サブシステムによる追加の処理は実行されません。
REJECT	要求されたリソースへのアクセスが拒否され、z/OS セキュリティ・サブシステムによる追加の処理は実行されません。ルールには、ATH.OPAUERMG 変数を含むことができます。この変数は、大部分の許可要求で、要求側にエラー・メッセージを戻します。
他の値	別の値が戻されるか、値が戻されない場合、z/OS セキュリティ・サブシステムは妥当性検査を実行します。セキュリティ製品は、要求されたリソースへのアクセスを許可するか拒否する最終的な決定を行います。

USERS 変数は、リモート・ユーザーの接続のアクセスまたは取り消しに関連したイベントの許可に使用されます。すべての変数のデータ・タイプは、文字、読み取り専用です。

記述名と変数名	内容
接続 ID ATH.AUUSCNID	接続取り消し操作にのみ設定される接続 ID。
ユーザー名 ATH.AUUSKILL	取り消すユーザー接続の名前。

記述名と変数名	内容
接続タイプ ATH.AUUSTYPE	<p>接続タイプ。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AMDETRT: アクティブな会話があるタスクごとに固有の APPC/MVS 会話情報に関する情報をユーザーが要求する場合。 • AMINTSUM: APPC/MVS サマリーに関する情報をユーザーが要求する場合。 • DETAIL: メイン製品アドレス・スペースに保管されているユーザーまたは間隔の詳細データに関する情報をユーザーが要求する場合。 • IDDETRT: アクティブな会話があるタスクごとに固有の APPC/IDMS 会話情報に関する情報をユーザーが要求する場合。 • REMOTE: メイン製品アドレス・スペース内のすべてのリモート接続に関する情報をユーザーが要求する場合。 • REMOTEGRP: TCP/IP ホスト名とポート情報に関する情報をユーザーが要求する場合。 • RRRMINFO: リソース・リカバリー・サービスに関する情報をユーザーが要求する場合。 • SECOPT: セキュリティー最適化キャッシュ項目に関する情報をユーザーが要求する場合。 • SUMMARY: メイン製品アドレス・スペースに保管されているすべてのサマリー間隔データに関する情報をユーザーが要求する場合。 • TASKS: メイン製品アドレス・スペースで実行されるすべてのタスクに関する情報をユーザーが要求する場合。

コマンド (CMD) イベント

コマンド・イベントは、メインフレームへのクライアント/サーバー・アクセスを制御します。

Accelerator Loader サーバーが z/OS コンソールからコマンドを受け取る際に、ルールの実行がスケジュールされます。コンソールは物理コンソールまたは拡張ソフトウェア (システム表示/検索機能 (SDSF) や CA OPS/MVS Event Management and Automation など) のどちらかです。コマンドは、コマンド verb の後にオプションのオペランドが続きます。実行するルールを検出するために、コマンド verb スtringが有効な CMD ルールと照合されます。

CMD ルールは、以下のタスクを実行します。

- コマンドを調べ、オペランドを解析し、必要なアクション (読み取りや製品パラメーターの設定など) を実行します。その結果、z/OS コンソールからパラメーターの表示と変更を行うことができます。
- REXX グローバル変数にアクセスして更新します。
- REXX SAY ステートメントを使用して、コマンドを入力したコンソールと通信します。SAY ステートメントからの出力はすべて、元のコマンドを入力したコンソールに転送されます。その結果、Accelerator Loader サーバーと通信する ASO 製品はその状況を問い合わせ、制御します。

注: CMD ルールは製品の任意の部分にアクセスして更新できるため、CMD ルールの作成、有効化、および無効化をどのユーザーが実行できるかを制御する必要があります。

CMD ルールの処理はすべて、Accelerator Loader サーバー/REXX によって行われます。別のプログラミング言語での処理はサポートされていません。

構文

CMD ルールをトリガーするには、z/OS STOP または MODIFY コマンドを使用するか、サブシステム名を指定する z/OS コマンドを使用します。以下のコマンドが有効です (ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します)。

- `MODIFY hlvid, command text`
- `hlvid command text`
- `hlvid, command text`

z/OS STOP コマンドにより CMD ルールがトリガーされると、そのルールは製品のシャットダウンを制御または拒否する可能性があります。ルールの基準は、STOP であるか、またはこれより一般的な、STOP コマンドと一致する基準であることが必要です。z/OS STOP (P) コマンドも、マッチング基準を STOP とする CMD ルールをトリガーできます。

ヘッダー・ステートメント

CMD 基準は 1 文字から 30 文字のストリングです。すべてのコマンドに対してルールを実行するようにスケジュールするには、単一の * (アスタリスク) を基準として使用します。末尾の * (アスタリスク) はワイルドカード文字として使用します。

ヘッダー・ステートメントには以下の形式を使用します。

```
/*CMD criterion
```

プロセス・セクション

REXX プロセス・セクションは必須です。

戻り値

次の表では、CMD ルールの戻り値をリストしています。

戻り値	アクション
なし	ルールが RETURN コマンドを実行すると、Accelerator Loader サーバーは、ルールの正常終了を示す戻りコードを送信します。
ACCEPT	ルール内のコマンドが正常終了しました。
REJECT	ルール内のコマンドが拒否されました。コマンドが拒否された理由を指定するには、REXX SAY ステートメントを使用します。

STOP CMD ルールの戻り値により、Accelerator Loader サーバーがどのように終了したかが分かります。有効な戻り値は以下のとおりです。

戻り値	アクション
なし	終了が続行できます。
ACCEPT	終了が続行できません。
REJECT	終了が続行できません。

CMD イベント変数

これらの変数の値は、CMD ルールが CMD イベントを処理する場合にのみ設定されます。

変数	内容	データ・タイプ
CMD.TEXT	コンソールでコマンド名の後に入力されたオペランド。	文字、読み取り専用
CMD.VERB	コンソールで入力されたコマンド名。	文字、読み取り専用

例外 (EXC) イベント

タスクが指定の制限を超えると、例外イベントが発生します。

サーバーに付属の EXC プロシージャのサンプルには、例外タイプごとのサンプルが含まれています。サンプル内の手順では、以下の情報を説明しています。

- 例外が検出される環境。
- サーバーによる後続の処理に影響を与える操作制御。
- 有効な戻り値。

EXC ルールのヘッダー・ステートメントは `/*EXC criterion` です。ここで、`criterion` は以下の表にあるいずれかのストリングです。プロセス・セクションは必須です。

基準	説明	デフォルトのアクション
CPULIMIT	<p>トランザクション・タスクが最大 CPU 時間制限を超えました。この例外が検出されるのは、複数パーツ・メッセージが送信されるとき、および新しいメッセージ・セグメントが読み取られるときのみです。このイベントのルールは、以下の 1 つ以上のアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戻り値 IGNORE を使用して例外を無視します。 • 現行スレッドの制限を変更します。このアクションを取ると、この例外は再発生しません。 <p>戻り値 REJECT を使用して ODBC 接続を終了し、EXC.OPERXRMG 変数を使用してクライアントにエラー・メッセージを送信します。</p> <p>ルールは SDBINFO API 関数を使用し、2 番目のパラメーターとして接続トークンを渡すか、渡さなくてもかまいません。</p>	トランザクション・タスクを終了します。
CPUTIME	<p>トランザクション・タスクが最大 CPU 時間制限を超えました。この例外は、タスクの実行中いずれかの時点で検出される可能性があります。このイベントのルールは、以下の 1 つ以上のアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戻り値 IGNORE を使用して例外を無視します。 • 現行スレッドの制限を変更します。このアクションを取ると、この例外は再発生しません。 <p>戻り値 KILL を使用して ODBC 接続を終了します。クライアントにメッセージは送信されません。</p> <p>ルールは SDBINFO API 関数を使用でき、2 番目のパラメーターとして接続トークンを渡す必要があります。現行タスクではなく、例外があるタスクを特定するために、接続トークンが必要です。</p>	トランザクション・タスクを終了します。
IMSFAIL	IMS タスクで、IMS 操作の失敗が検出されました。この例外は、任意のタイプの IMS 処理に対して発生する可能性があります。ルールは、接続トークンを 2 番目のパラメーターとして渡すことなく SDBINFO 関数を使用できます。	IMS 操作を終了し、クライアント・タスクにエラーを反映します。

基準	説明	デフォルトのアクション
LOCKEXCLUSIVE	<p>トランザクション・タスクが DB2 排他ロック制限を超えました。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戻り値 IGNORE を使用して例外を無視します。 • 現行スレッドの制限を変更します。このアクションを取ると、この例外は再発生しません。 <p>戻り値 KILL を使用して ODBC 接続を終了します。クライアントにメッセージは送信されません。</p> <p>ルールは SDBINFO API 関数を使用でき、2 番目のパラメーターとして接続トークンを渡す必要があります。現行タスクではなく、例外があるタスクを特定するために、接続トークンが必要です。</p>	トランザクション・タスクを終了します。
LOCKSHARE	<p>トランザクション・タスクが DB2 共用ロック制限を超えました。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戻り値 IGNORE を使用して例外を無視します。 • 現行スレッドの制限を変更します。このアクションを取ると、この例外は再発生しません。 <p>戻り値 KILL を使用して ODBC 接続を終了します。クライアントにメッセージは送信されません。</p> <p>ルールは SDBINFO API 関数を使用でき、2 番目のパラメーターとして接続トークンを渡す必要があります。現行タスクではなく、例外があるタスクを特定するために、接続トークンが必要です。</p>	トランザクション・タスクを終了します。

基準	説明	デフォルトのアクション
LOCKUPDATE	<p>トランザクション・タスクが DB2 更新ロック制限を超えました。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戻り値 IGNORE を使用して例外を無視します。 • 現行スレッドの制限を変更します。このアクションを取ると、この例外は再発生しません。 <p>戻り値 KILL を使用して ODBC 接続を終了します。クライアントにメッセージは送信されません。</p> <p>ルールは SDBINFO API 関数を使用でき、2 番目のパラメーターとして接続トークンを渡す必要があります。現行タスクではなく、例外があるタスクを特定するために、接続トークンが必要です。</p>	
LOGFAILURE	<p>DB2 データベースが保留ロギング要求制限を超えました。この例外は任意の時点で検出される可能性があります。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戻り値 IGNORE を使用して例外を無視します。このアクションは、保留要求キューの内容を保存し、エラー・メッセージが発行されないようにします。 • 戻り値 CLEAR を使用して、保留要求キューをクリアし、関連したすべてのストレージを解放し、クリアされた要求の数を記載するエラー・メッセージをシステム・コンソールに送信します。 <p>例外が再発生しないように制限を変更します。</p>	

基準	説明	デフォルトのアクション
PERSQLCPU	<p>トランザクション・タスクが、SQL ステートメント当たりの CPU 時間制限を超えました。この例外は、サーバーが実行する SQL 操作 (例えば、/*EXESQL ルールの場合) でのみ検出されます。ユーザー作成の高水準言語 (HLL) プログラムが、長時間実行される SQL 操作を呼び出すときには検出されません。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戻り値 IGNORE を使用して例外を無視します。 • 例外が再発生しないように、現行スレッドの制限を変更します。 • 戻り値 KILL を使用して ODBC 接続を終了します。 • 戻り値 IGNORE を使用して例外を無視します。 • 現行スレッドの制限を変更します。このアクションを取ると、この例外は再発生しません。 <p>戻り値 KILL を使用して ODBC 接続を終了します。クライアントにメッセージは送信されません。</p> <p>ルールは SDBINFO API 関数を使用でき、2 番目のパラメーターとして接続トークンを渡す必要があります。現行タスクではなく、例外があるタスクを特定するために、接続トークンが必要です。</p>	トランザクションを終了します。
PGMDURATION	<p>RPC が停止したか、無期限の長時間待ち状態に入りました。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 問題のあるプログラム名を調べ、値を戻しません。この場合、デフォルトのアクションが取られます。 • 値 IGNORE を戻します。これにより、問題のあるタスクと RPC タスクが処理を続行できます。 <p>EXC.EXXDTMLM 変数を使用して制限を変更します。</p>	例外を処理するルールが有効でない場合、または戻り値が指定されない場合、デフォルトのアクションでは、問題のあるタスクを取り消し、RCP プログラムをクリアします。

基準	説明	デフォルトのアクション
RPCENQUEUE	<p>トランザクション・タスクで、クライアント・タスクが RPC エンキュー時間制限を超えたことが検出されました。この例外は任意の時点で検出される可能性があります。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 IGNORE を戻して例外を無視します。 • 現行スレッドの時間制限を変更します。 • 値 KILL を戻して ODBC 接続を終了します。 <p>ルールは SDBINFO API 関数を使用でき、2 番目のパラメーターとして接続トークンを渡す必要があります。現行タスクではなく、例外があるタスクを特定するために、接続トークンが必要です。</p>	
RTMONITOR	アプリケーションでクライアント応答時間を超えました。この例外は ODBC 接続の場合のみ検出されます。	なし
SESSIONFAILURE	<p>トランザクション・タスクで、クライアント・タスクがセッション障害制限を超えたことが検出されました。この例外は任意の時点で検出される可能性があります。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 IGNORE を戻して例外を無視します。 • 現行スレッドの時間制限を変更します。 • 値 KILL を戻して ODBC 接続を終了します。クライアントにメッセージは送信されません。 	ODBC クライアント・タスクを終了します。
SQLFAIL	トランザクション・タスクで、SQL ステートメントが失敗したことが検出されました。失敗が発生すると、負の SQL コードが設定されます。この例外は、サーバーが実行する SQL 操作 (例えば、/*EXECSQL ルールの場合) のみで検出されます。ユーザー作成の高水準言語 (HLL) プログラムが、長時間実行される SQL 操作を呼び出すときには、この例外は検出されません。	トランザクション・タスクに SQL エラー・コードを反映します。

基準	説明	デフォルトのアクション
TIMERONLIMIT	<p>トランザクション・タスクで、制限を超えた timer-on 値が準備で戻されたことが検出されました。この例外は、サーバーが実行する SQL 操作 (例えば、/*EXECSQL ルールの場合) のみで検出されます。ユーザー作成の高水準言語 (HLL) プログラムが準備を呼び出すときには、この例外は検出されません。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 ALLOW を戻して例外を許可します。 • 制限を変更します。 • SQL ステートメントを終了する値 REJECT を戻し、EXC.OPERMG 変数を使用してクライアントにエラー・メッセージを戻します。 <p>ルールは、接続トークンを 2 番目のパラメーターとして渡すことなく SDBINFO 関数を使用できます。</p>	
WAITTIME	<p>トランザクション・タスクが待ち時間制限を超えました。この例外は任意の時点で検出される可能性があります。このイベントのルールは、以下のいずれかのアクションを取ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 IGNORE を戻して例外を無視します。 • 制限を変更します。 • 値 KILL を戻して ODBC 接続を終了します。クライアントにメッセージは送信されません。 <p>ルールは SDBINFO API 関数を使用でき、2 番目のパラメーターとして接続トークンを渡す必要があります。現行タスクではなく、例外があるタスクを特定するために、接続トークンが必要です。</p>	
ZSQLALLIMSSEGMENTS	<p>SQL ソリューションは、SQL ステートメントにより、表として指定されたすべての IMS セグメントが読み取られることを判別しました。これは、結合される子セグメントが制限されないからです。照会では、WHERE 節の CHILD_ID 列と PARENT_ID 列は指定されません。</p>	<p>SQLENGDFLTEXCACTION パラメーターの値に基づいて、SQL ステートメントを許可するか、終了します。</p>
ZSQLFULLDBREAD	<p>SQL ソリューションは、SQL ステートメントにより、すべてのデータベース・ソース・レコードが読み取られることを判別しました。これは、副表照会が制限されないからです。照会では、WHERE 節の CHILD_KEY 列と PARENT_KEY 列は指定されません。</p>	<p>SQLENGDFLTEXCACTION パラメーターの値に基づいて、SQL ステートメントを許可するか、終了します。</p>

基準	説明	デフォルトのアクション
ZSQLINCKEYBEGINNING	SQL ソリューションでは、不完全なキーの先頭のみが照会でいずれかの表に指定されたことが判別されました。この状態が発生する可能性があるのは、複数の列がキーを構成し、照会で先頭の列のみが指定された場合です。この状態は VSAM アクセスには受け入れられますが、IMS アクセスには追加のオーバーヘッドが生じる可能性があります。	SQLENGDFLTEXCACTION パラメーターの値に基づいて、SQL ステートメントを許可するか、終了します。
ZSQLINCKEYPARTIAL	SQL ソリューションでは、不完全なキーの一部のみが照会でいずれかの表に指定されたこと、およびキーの先頭部分が指定されなかったことが判別されました。	SQLENGDFLTEXCACTION パラメーターの値に基づいて、SQL ステートメントを許可するか、終了します。
ZSQLNOKEYCOLUMNS	SQL ソリューションでは、WHERE 節にキー列が指定されなかったことが判別されました。この状態が原因で、データベース全体が読み取られます。	SQLENGDFLTEXCACTION パラメーターの値に基づいて、SQL ステートメントを許可するか、終了します。
ZSQLNOWHERECLAUSE	SQL ソリューションでは、表の WHERE 節が提供されなかったことが判別されました。この状態が原因で、データベース全体が読み取られます。	SQLENGDFLTEXCACTION パラメーターの値に基づいて、SQL ステートメントを許可するか、終了します。

すべての EXC イベントの変数

次の表の変数を任意の EXC ルールで使用できます。

変数	内容	データ・タイプ
EXC.OPEXACSR	<p>現行の例外のアクション・ストリング。このストリングを直接変更することはできません。ただし、一部のルールからの戻り値によりアクション・ストリングが変更される可能性があります。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ACCEPT: 現在の条件を受け入れ IGNORE: 現在の条件を無視 KILL: 現在のクライアント接続を強制終了 ALLOW: 現在の例外を許可 NOACTION: アクションを取らない REJECT: 現在の例外を拒否 TERMINATE: 現在のクライアント接続を終了 	文字、読み取り専用
EXC.OPEXCNTK	<p>例外が発生したスレッドに関する情報の取得に使用される接続トークン。制限検査タスクで検出されるすべての例外にこのフィールドを使用する必要があります。接続トークンは SDBINFO 関数の 2 番目のパラメーターとして渡されます。接続トークンが必要なのは、EXC.OPEXINFO フラグが 0 (ゼロ) に設定されている場合のみです。</p>	文字、読み取り専用
EXC.OPEXERMG	<p>エラー・メッセージ・フィールド。アプリケーションにメッセージを送信するためにこのフィールドを変更できます。</p>	文字、読み取り/書き込み

変数	内容	データ・タイプ
EXC.OPEXINFO	SDBINFO 関数が EXC ルールによって使用できるかどうかを示す変数。有効値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 (ゼロ): SDBINFO を使用できません 1: SDBINFO を使用できます 	文字、読み取り専用
EXC.OPEXSRID	検索 ID フィールドには、現行のルールをトリガーする基準が入ります。有効な値は前の表にリストされています。	文字、読み取り専用
EXC.OPEXWAOK	EXC ルールが、現行のサブタスクを待ち状態にする操作を実行できるようにするかどうかを示す変数。このようなタスクの一例は、入出力要求の発行です。有効値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 (ゼロ): WAITS は許可されません 1: WAITS は許可されます 	文字、読み取り専用
EXC.USER	ユーザー域は、同じイベントに対してトリガーされるすべてのルール間で渡されます。	文字、読み取り/書き込み

CPULIMIT イベントの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXCLSPLM	CPU 時間制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。CPU 時間の検査を停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。	文字、読み取り/書き込み
EXC.EXCLCPVL	CPU 時間値は、タスクが使用した CPU 時間量を示します。	文字、読み取り専用

IMSFAIL イベントの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXIMIMCD	IMS コード。この値は IMS から取得されます。	文字、読み取り専用

LOCKEXCLUSIVE イベントの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXXCTMLM	排他ロック時間制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。CPU 時間の検査を停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。	文字、読み取り専用
EXC.EXSHTMVL	共用ロック時間値は、現行のタスクが共用ロックを保持していた時間を示します。	文字、読み取り専用

LOCKUPDATE イベントの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXUPTMLM	更新ロック時間制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。CPU 時間の検査を停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。	文字、読み取り専用
EXC.EXUPTMVL	更新ロック時間値は、現行のタスクが更新ロックを保持していた時間を示します。	文字、読み取り専用

LOGFAILURE イベントの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXLGP.nlm	<p>保留要求制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。すべての保留要求の制限の検査を停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。</p> <p>2 つの要求制限 (警告制限と障害制限) があります。警告制限のルールがトリガーされると、警告制限のみを変更できます。障害制限のルールがトリガーされると、障害制限のみを変更できます。</p>	文字、読み取り専用
EXC.EXLGP.nvl	保留要求値は、保留中のログギング要求数を示します。	文字、読み取り専用
EXC.EXLGSS.na	データベース名は、保留ログギング要求の数が多すぎる DB2 サブシステムです。	文字、読み取り専用

PERSQLCPU イベントの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXPQC.plm	SQL ステートメント当たりの CPU 時間制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。SQL ステートメント当たりの時間検査をすべて停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。	文字、読み取り/書き込み
EXC.EXPQC.pvl	CPU 時間値は、現行の SQL ステートメントが使用した CPU 時間量を示します。	文字、読み取り専用

PGMDURATION ルールの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXXDT.mlm	<p>プログラムの所要時間制限 (秒数)。PGMDURATION ルールで IGNORE が戻される (RPC プログラムが続行できる) 場合、それ以降に制限が検査されるたびに、例外が発生します。</p> <p>追加の例外が生成されないようにするには、この変数を変更してプログラムの所要時間制限を増やすか、変数を 0 (ゼロ) に設定して追加のイベントが認識されないようにします。</p> <p>ルールが新しい制限を実施する場合、新しい制限は、現行の例外が生成された対象の未完了の RPC プログラム実行のみに適用されます。新しい制限はメモリー内に保存されません。</p>	文字、読み取り専用
EXC.EXXDT.mvl	所要時間値は、RPC プログラムが実行していた時間 (秒数) を示します。	文字、読み取り専用

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXXDPGNA	<p>実行中の RPC プログラム・ロード・モジュールの 8 バイトの名前。SQL CALL ステートメントの場合、この例外が認識されるときに SQL ステートメントからの完全なプロシージャ名は取得できません。</p> <p>SQL CALL プロシージャ名と一致する RPC ルールがない場合、この変数の値はプロシージャ名の先頭の 8 文字です。一致する RPC ルールに PROGRAM セクションが含まれている場合、この変数の値は、RPC ルールの PROGRAM セクションからの 8 バイトのロード・モジュール名です。この場合、この 8 文字が CALL ステートメント・プロシージャ名の先行文字と一致しない場合があります。</p>	文字、読み取り専用

RPCENQUEUE ルールの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXNQTMLM	RPC エンキュー時間制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。RPC エンキュー時間検査をすべて停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。	文字、読み取り/書き込み
EXC.EXNQTMVL	現行のタスクが RPC エンキューを保持している時間を示す、RPC エンキュー時間値。	文字、読み取り専用

RTMONITOR ルールの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXCRTGRT	受け入れ可能な応答時間を示す、クライアント応答時間目標。	文字、読み取り専用
EXC.EXCRTMMI	例外を生成したトランザクションの実際のクライアント応答時間。	文字、読み取り専用
EXC.EXCRTRTR	クライアント応答時間レコードの総数。	文字、読み取り専用
EXC.EXCRSRTR	すべてのレコードの合計応答時間の総計。	文字、読み取り専用
EXC.EXCRTMGR	応答時間目標を達成しなかったクライアント応答時間レコードの総数。	文字、読み取り専用
EXC.EXCRSMGR	応答時間目標を達成しなかったレコードの合計応答時間の合計。	文字、読み取り専用
EXC.EXCRIPAD	IP アドレス。	文字、読み取り専用
EXC.EXCRUSID	ユーザー ID。	文字、読み取り専用
EXC.EXCRAPNM	アプリケーション名。	文字、読み取り専用

SESSIONFAILURE ルールの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXSETMLM	セッション障害時間制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。RPC エンキュー時間検査をすべて停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。	文字、読み取り/書き込み
EXC.EXSETMVL	現行のタスクがクライアントのために処理していた時間を示すセッション障害時間値。	文字、読み取り専用

SQLFAIL ルールの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXSQSQCA	SQLCA は準備によって作成され、1 つの 2 進データ域として提供されます。	文字、読み取り専用
EXC.EXSQSQCD	SQLCA から取得される SQL コード。	文字、読み取り専用
EXC.EXSQSQSR	失敗した SQL ステートメント。	文字、読み取り専用

TIMERONLIMIT ルールの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXTMSQCA	SQLCA は準備によって作成され、1 つの 2 進データ域として提供されます。	文字、読み取り専用
EXC.EXTMSQSR	準備された SQL ストリング。	文字、読み取り専用
EXC.EXTMTMLM	timer-on 制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。timer-on 検査をすべて停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。	文字、読み取り専用
EXC.EXTMTMVL	timer-on 値は、準備によって戻された timer-on 値を示します。	文字、読み取り専用

WAITTIME ルールの変数

変数	内容	データ・タイプ
EXC.EXWATMLM	待ち時間制限。例外が再発生しないようにこの変数を変更できます。待ち時間検査をすべて停止するには、この変数を 0 (ゼロ) に設定します。	文字、読み取り/書き込み
EXC.EXWATMVL	現行のタスクがクライアントからの要求を待機していた時間を示す待ち時間値。	文字、読み取り専用

SQL イベント

SQL イベントは、SQL ステートメントが処理されるときに発生します。

SQL ルールは、SQL ソースが準備される前に実行されます。SQL ソースが変更されると、SQL ルールの実行直後に SQL ソースが実行のために準備されるか、渡されます。SQL ルールは、以下の目的に使用します。

SQL ソースの変更

SQL ソースを変更するには、WHERE 節を追加または変更します。

SQL ステートメントの拒否

SQL ステートメントを拒否するには、REJECT 戻り値を使用します。また、SQL.MESSAGE を使用して、クライアントにメッセージを送信することもできます。SQL ステートメントが拒否された場合、SQL.CODE 変数を負の値に設定します。そうでない場合は、値 -1 が SQL コードとして使用されます。

SQL ステートメントの受け入れ

SQL ステートメントを受け入れるには、戻り値を ACCEPT に設定します。SQL ステートメントが受け入れられると、DB2 はそれを実行しません。代わりに、ルールがそのステートメントを処理します。警告メッセージまたはエラー・メッセージをクライアントに送信するには、SQL.MESSAGE 変数を使用します。警告の場合は、正の値です。失敗の場合は、負の値を使用します。戻りコードが ACCEPT であるときに、SQL.CODE 変数にゼロ以外の値が設定される場合、メッセージがクライアントに送信されます。メッセージが指定されていない場合、デフォルトのメッセージが作成され、送信されます。

SQL イベントが発生すると、システムはそのイベントに関する情報を抽出し、以下の変数を作成します。これらの変数は、SQL ルールが実行のためにスケジュールに入れられるとインスタンス化されます。以下の変数にアクセスする SQL ルールを作成できます。

基準	変数	内容	データ・タイプ
ALL	SQL.CODE	クライアントに戻されるコード	文字、読み取り/書き込み
ALL	SQL.MESSAGE	クライアントに戻されるメッセージ	文字、読み取り/書き込み
ALL	SQL.SEARCHID	現行 SQL ストリングから抽出された SQL verb	文字、読み取り専用
ALL	SQL.TEXT	実際の SQL ソース	文字、読み取り専用
ALL	SQL.USER	すべてのルール間で渡されるユーザー域	文字、読み取り/書き込み

時刻 (TOD) イベント

時刻イベントは、ルールに関連付けられている z/OS タイマーが満了するときに発生します。

ヘッダー・ステートメントを指定するには、以下の構文を使用します。

```
/*TOD todspec, interval, endspec, maxexecs
```

ここで、

- *todspec* は日付または時刻です。 *todspec* か *interval* のどちらかを指定する必要があります。 *todspec* を指定するには、以下のいずれかの形式を使用します。
 - *ddMMMyyyy*。ここで、*dd* は日を表す 2 桁の整数 (01 から 31)、*MMM* は月を表す 3 文字の省略語 (JAN、FEB、MAR、APR、MAY、JUN、JUL、AUG、SEP、OCT、NOV、DEC)、*yyyy* は 4 桁の年です。
 - *yymmday*。ここで、*yy* は 2 桁の年、*mm* は 2 桁の月、*day* は曜日のフルネーム (例えば、SUNDAY や MONDAY) です。
 - *hh:mm:ss*。ここで、*hh* は時間を表す 2 桁の整数 (00 から 23)、*mm* は分を表す 2 桁の整数 (00 から 59)、*ss* は分の後の秒数を表す 2 桁の整数 (00 から 59) です。*ss* 値はオプションです。

- *interval* は、ルールを再度実行するまでに待つ時間量です。*todspec* か *interval* のどちらかを指定する必要があります。*interval* を指定するには、以下の形式を使用します。
 - *n units*。ここで、*n* は、ルールを実行する回数を表す整数、*units* は、ルールを再度実行するまでに待つ時間です。*units* には、DAY、 DAYS、 WEEK、 WEEKS、 HOUR、 HOURS、 MINUTE、 MINUTES、 SECOND、 SECONDS のいずれかを指定します。
- *endspec* は、ルールが実行を停止するまでに経過する必要がある時間または日です。このパラメーターはオプションです。
- *maxexecs* は、ルールを実行する最大回数を表す整数です。このパラメーターはオプションです。

注: パラメーターを省略する場合は、その場所にコンマをコーディングしてください。

TOD ルールから戻される値には、特別な意味はありません。

TOD イベントが発生すると、システムはそのイベントに関する情報を抽出し、以下の変数を作成します。これらの変数は、ルールの実行がスケジュールされるときにインスタンス化されます。

基準	変数	内容	データ・タイプ
ALL	TOD.NEXTFIRE	次回のルールの実行時を示す値。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>yyyy/mm/dd hh:mm:ss</i> 形式の日時。 • ルールが再度実行されない場合は NONE。 	文字、読み取り専用
ALL	TOD.USER	複数のルール間で情報を渡すための 8 バイト・フィールド。このフィールドは 2 進ゼロに初期化されます。	文字、読み取り/書き込み

仮想表 (VTB) イベント

仮想表イベントは、表名が SQL ステートメントで検出されたときに SQL エンジンによって生成されます。これらのイベントが生成されるのは、これらのイベントを許可するように **SEFVTBEVENTS** 始動パラメーターが設定されている場合のみです。ルールでは、仮想表を DMF モデル・マップから動的に作成し、特定の表の値を変更するのを可能にします。

VTB イベント・プロシージャーには現在キーワードは定義されていません。SQL エンジンのみが、SQL ステートメント内の表名ごとに、有効になった VTB イベント・プロシージャーの実行をスケジュールします。VTB イベント・プロシージャーを使用すると、DMF マップ内の情報を変更できます。VTB イベント・プロシージャーは、モデル・マップを使用して別名マップを作成することによって、1 つの DMF マップを使用して複数のデータ・セットにアクセスすることを可能にします。各別名マップは異なるデータ・セット名を指定できます。モデル・マップは、DMF を使用して作成されたマップでなければなりません。

イベント・プロシージャの基準値のみが使用できます (指定する必要があります)。

ヘッダー・ステートメントを指定するには、以下の構文を使用します。

```
/*VTB criterion
```

ここで、

- *criterion* は、VTB イベント・プロシージャの基準値です。この *criterion* は、次の表に示されている 2 つのイベント・タイプのいずれかです。

各 VTB イベント・プロシージャは、サーバー全体のグローバル変数にアクセスできます。

さらに、VTB イベント・プロシージャが呼び出される前に、VTB 固有の変数が作成されます。作成される変数は、基準によって異なります。

基準	変数	内容	データ・タイプ
すべての基準	VTB.USER	ユーザー域は、同じイベントに対して実行されるすべてのイベント・プロシージャ間で渡されます。	読み取り/書き込み
すべての基準	VTB.OPTBSRID	検索 ID フィールドには、現在のイベント・プロシージャの実行に使用される基準が入ります。 基準の形式は、ストリング「MODIFYTABLE.」の後に、SQL ステートメントで検出された表の名前が続いたものです。	文字 読み取り専用
すべての基準	VTB.OPTBTBNA	SQL ステートメントからの 1 文字から 128 文字の表名。	文字 読み取り専用
MODIFYTABLE. <i>tablename</i>	VTB.OPTBMTNA	モデル表名を設定します。これは、別名 <i>tablename</i> を使用して仮想表を作成するのに使用される、DMF マップの 1 文字から 50 文字の名前です。	文字、 書き込み

基準	変数	内容	データ・タイプ
MODIFYTABLE. <i>tablename</i>	VTB.OPTBMRDI	<p>MapReduce を無効にします。Map Reduce を無効にするには、この値を 1 に設定します。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。</p> <p>VTB.OPTBMRDI と VTB.OPTBMREN は相互に排他的です。</p>	文字、書き込み
MODIFYTABLE. <i>tablename</i>	VTB.OPTBMREN	<p>MapReduce を有効にします。Map Reduce を有効にするには、この値を 1 に設定します。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。</p> <p>VTB.OPTBMREN と VTB.OPTBMRDI は相互に排他的です。MapReduce を有効にするには、MapReduce 機能が有効であることが必要です。</p>	文字、書き込み
MODIFYTABLE. <i>tablename</i>	VTB.OPTBMRTC	使用する MapReduce スレッドの番号を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE. <i>tablename</i>	VTB.OPTBFLAT	<p>この表をフラット化します。表をフラット化するには、この値を 1 に設定します。すべての列とオカレンスが 1 つの表で戻されます。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。</p> <p>VTB.OPTBFLAT と VTB.OPTBSUBT は相互に排他的です。</p>	文字、書き込み

基準	変数	内容	データ・タイプ
MODIFYTABLE. <i>tablename</i>	VTB.OPTBSUBT	<p>副表を作成します。副表を作成するには、この値を 1 に設定します。occurs または occurs-depending-on Cobol 節の一部である列は、別の表として戻されます。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。</p> <p>VTB.OPTBFLAT と VTB.OPTBSUBT は相互に排他的です。</p>	文字、書き込み
MODIFYTABLE. <i>tablename</i>	VTB.OPTBCLSQ	<p>順次データ・セットのマップ関連フィールドをクリアします。データ・セット・メンバー名、書き込み前出口名、および読み取り後出口名をクリアするには、この値を 1 に設定します。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。</p> <p>これらのフィールドがクリアされてから、他の変数が処理されます。</p>	文字、書き込み
MODIFYTABLE. <i>tablename</i>	VTB.OPTBCLCI	<p>VSAMCICS マップ関連フィールドをクリアします。書き込み前出口名、読み取り後出口名、CICS ファイル管理テーブル項目名、CICS 接続名、および CICS トランザクション名の各フィールドをクリアするには、この値を 1 に設定します。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。</p> <p>これらのフィールドがクリアされてから、他の変数が処理されます。</p> <p>これらのフィールドをクリアすると、VSAMCICS ファイルがネイティブ VSAM ファイルとして処理されます。</p>	文字、書き込み

基準	変数	内容	データ・タイプ
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBCLD2	<p>DB2 マップ関連フィールドをクリアします。表名、サブシステム・マップ名、表作成者名、プラン名、およびユーザー ID の各フィールドをクリアするには、この値を 1 に設定します。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。</p> <p>これらのフィールドがクリアされてから、他の変数が処理されます。</p>	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBCLIM	<p>IMS DB マップ関連フィールドをクリアします。セグメント名、DBD 名、および PSB 名の各フィールドをクリアするには、この値を 1 に設定します。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。これらのフィールドがクリアされてから、他の変数が処理されます。</p>	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBCLIV	<p>IMS ビュー・マップ関連フィールドをクリアします。セグメント名、DBD 名、および PSB 名の各フィールドをクリアするには、この値を 1 に設定します。</p> <p>この値を 0 に設定しても効果はありません。</p> <p>これらのフィールドがクリアされてから、他の変数が処理されます。</p>	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBDSNA	<p>1 文字から 44 文字の VSAM または順次データ・セット名を設定します。</p>	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBMEMA	<p>1 文字から 8 文字の順次データ・セット・メンバー名を設定します。</p>	文字、書き込み

基準	変数	内容	データ・タイプ
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBPRWR	1 文字から 8 文字の VSAM、VSAMCICS、または順次データ・セットの書き込み前出口名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBPSRD	1 文字から 8 文字の VSAM、VSAMCICS、または順次データ・セットの読み取り後出口名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBVSBF	基本ファイルの 1 文字から 8 文字の CICS ファイル管理テーブル項目名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBCONN	1 文字から 4 文字の CICS 接続名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBCITR	1 文字から 4 文字の CICS トランザクション名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBD2TN	1 文字から 128 文字の DB2 表名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBD2SN	1 文字から 50 文字の DB2 サブシステム・マップ名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBD2TC	1 文字から 8 文字の DB2 表作成者 ID を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBD2PN	1 文字から 8 文字の DB2 プラン名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBIMSN	1 文字から 8 文字の IMS DB セグメント名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBIMDN	1 文字から 8 文字の IMS DB DBD 名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBPSB	1 文字から 8 文字の IMS DB PSB 名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBIVSG	1 文字から 8 文字の IMS ビュー・セグメント名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBIVDB	1 文字から 8 文字の IMS ビュー DBD 名を設定します。	文字、書き込み
MODIFYTABLE.tablename	VTB.OPTBIVPS	1 文字から 8 文字の IMS ビュー PSB 名を設定します。	文字、書き込み

基準	変数	内容	データ・タイプ
GETALIASES. <i>tablename</i>	VTB.OPTBLIST	<p>マップ <i>tablename</i> の別名である 1 文字から 50 文字の表名のリストを設定します。</p> <p>最大 637 個の、ブランクで区切られた 50 文字の別名用のスペースがあります。別名が短ければ、より多くの別名を設定可能です。</p>	文字、書き込み

ホスト・コマンド

指定されたホスト環境から出力情報を取得するのに、ホスト・コマンドを使用します。

DISPLAY コマンド

接続されたすべてのユーザーに関する情報を表示するには、DISPLAY コマンドを使用します。

基本情報の表示

接続されたすべてのユーザーに関する基本情報を表示するには、以下の構文を使用します。

```
"DISPLAY REMOTE USERS(*)"
```

このコマンドは、接続された各ユーザーに関する次の情報を表示します。

- ACTUAL BLOCK ADDRESS
- APPLICATION NAME
- CONNECTION ID
- DB2 SUBSYSTEM
- HOST NAME
- ICUV PATH ID
- IP ADDRESS
- LINK TYPE
- LOCAL IP PORT NUMBER
- REMOTE IP PORT NUMBER
- SOCKET NUMBER
- TRUSTED HOST
- USER ID
- TASK TCB ADDRESS
- TRUSTED HOST
- USER ID

追加情報の表示

接続されたすべてのユーザーに関する追加情報を表示するには、以下の構文を使用します。

```
"DISPLAY REMOTE USERS(*) VERBOSE"
```

このコマンドは、接続された各ユーザーに関する次の追加情報を表示します。

- ACEE SOURCE
- BUFFER FUNCTION CODE
- COMPRESSED SEND AMOUNT
- COMPRESSED TOTAL BYTES RECEIVED
- CPU TIME
- CUMULATIVE COMPRESSION
- CUMULATIVE RECEIVED COMPRESSION
- CURRENT COMPRESSED RECEIVED AMOUNT
- CURRENT RAW RECEIVED AMOUNT
- CURRENT STATE
- DB2 PLAN NAME
- DB2 REQUESTING SITE
- DB2 THREAD TOKEN
- DOMAIN NAME
- ELAPSED TASK TIME
- EXTENDED USER ID
- GENERIC USER ID
- HOST TIME
- INTERNAL NAME
- LAN USER ID
- LOCKS HELD
- MODULE NAME
- ODBC DRIVER DATE
- ODBC DRIVER VERSION
- PROGRAM NAME
- RAW BYTES RECEIVED
- RAW BYTES SENT
- RAW RECEIVED COMPRESSION
- RAW SEND AMOUNT
- RAW SEND COMPRESSION FACTOR
- SQL CODE
- SQL COUNT
- SQL CURSOR NUMBER
- SQL REASON CODE

- SQL RETURN CODE
- SQL STATEMENT NUMBER
- SQL STATEMENT TYPE
- STATE DURATION
- TELEPROCESSING TIME
- TELEPROCESSING TIME PERCENTAGE
- TOTAL RAW BYTES SENT
- USER PARAMETER
- WLM ENCLAVE COUNT
- WLM ENCLAVE CPU TIME

ルールの API 関数

ルールには、以下の API 関数が使用できます。

SDBVALUE API 関数

SDBVALUE 関数はグローバル変数の操作に使用します。

例えば、複合シンボルをデータベースの 1 つのタイプとして使用するのに、SDBVALUE 関数を使用します。この関数は、特殊な問い合わせまたは逐次化処理を実行するルールで使用します。

通常的环境下では、REXX 言語ステートメントを使用してグローバル変数の値を参照または設定できます。次のコードは、REXX ステートメントの使用例を示しています。

```
SAVENAME = GLOBAL.COMPANY.NAME
GLOBAL.COMPANY.NAME = "Keroc Software"
GLVEVENT.MYDATA = "ABC"
```

戻り値

SDBVALUE は、関数呼び出しから値を戻し、一部のアクション・コードの場合、情報を外部データ・キューに入れます。

アクション・コードおよび構文

次の表では、アクション・コードごとに実行されるアクションおよび戻される値を説明しています。

構文の変数は、次のとおりです。

- *derivedname* は、アクションを受け取るシンボルの名前です。このパラメーターを引用符なしで使用する場合、ステムの後に続く単純シンボル (大/小文字の区別あり) は値で置き換えられます。
- *actioncode* は、シンボルで取るアクションです。
- *newval* は、シンボルに割り当てる新しい値です。
- *oldval* は、アクションが取られる前のシンボルの値です。

コード、構文、および説明	戻り値
<p>A (Add)</p> <pre>val = SDBVALUE(derivedname 'A' increment)</pre> <p>増分で指定された数値を、<i>derivedname</i> で指定された既存の複合シンボルに追加します。複合シンボルの参照はすべて、追加操作中に逐次化されるので、この関数を使用して、同時タスクで設定されるカウンターを増分できます。</p>	<p>比較により、アクション前の値が古い値と等しいと判断され、複合シンボルが更新された場合、1 (true) を戻します。比較により、値が一致しないことが分かり、複合シンボルの値が更新されない場合、0 (false) を戻します。外部データ・キューを変更しません。</p>
<p>C (Compare and update)</p> <pre>val = SDBVALUE(derivedname, 'C', newval, oldval)</pre> <p>複合シンボルの値を検証してから、その値を更新します。複数のルールが使用するグローバル・シンボル、または同じルールの複数のコピーがアクセスし更新する可能性があるグローバル・シンボルを安全に更新します。グローバル値の比較および更新操作を逐次化します。</p>	<p>比較により、アクション前の値が古い値と等しいと判断され、複合シンボルが更新された場合、1 (true) を戻します。比較により、値が一致しないことが分かり、複合シンボルの値が更新されない場合、0 (false) を戻します。外部データ・キューを変更しません。</p>
<p>D (Drop)</p> <pre>val = SDBVALUE(derivedname, 'D')</pre> <p><i>derivedname</i> で指定される複合シンボルをドロップします。複合シンボルをその未初期化値または派生名にリセットします。<i>derivedname</i> でステムが指定される場合、そのステムに属するすべての複合シンボルがドロップされ、それらに割り振られている仮想ストレージが解放されます。複合シンボルはドロップ操作の開始前に存在していたため、またはドロップ操作の終了後に存在するので、他のすべての参照では複合シンボルが表示されます。</p>	<p><i>derivedname</i> の値を戻します。外部キューを変更しません。</p>
<p>E (Existence)</p> <pre>val=SDBVALUE(derivedname, 'E')</pre> <p>グローバル変数が存在するかどうかを判別します。</p>	<p>グローバル変数の状況について、以下のいずれかの値を戻します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • I: 初期化済み • U: 未初期化。変数はストレージに存在しますが、初期化されていないので、その名前の値に設定されます。 • N: 存在しません。この変数はストレージに存在しません。 <p>外部データ・キューを変更しません。</p>

コード、構文、および説明	戻り値
<p>F (Find)</p> <p><code>val=SDBVALUE(derivedname,'F')</code></p> <p>グローバル変数が存在するかどうかを判別します。外部データ・キューから引き出される文字列の最大長は 350 バイトです。これより長い文字列は切り捨てられます。</p>	<p>グローバル変数の状況について、以下のいずれかの値を返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • I: 初期化済み • U: 未初期化。変数はストレージに存在しますが、初期化されていないので、その名前の値に設定されます。 • N: 存在しません。この変数はストレージに存在しません。 <p>戻り値が I または U である場合、ノードの値が外部データ・キューで返されます。</p>
<p>I (Information)</p> <p><code>val=SDBVALUE(derivedname, 'I')</code></p> <p><i>derivedname</i> のすべての直接サブノードに関する情報を返します。</p>	<p>サブノードごとに、外部データ・キューに 2 行が入ります。最初の行には、<i>derivedname</i> の次のセグメントが含まれます。2 行目には、<i>derivedname</i> に関する以下の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 1、長さ 8: このノードの下にあるサブノードの数。 • ワード 2、長さ 8: yy/mm/dd 形式の作成日。 • ワード 3、長さ 8: hh:mm:ss 形式の作成時刻。 • ワード 4、長さ 17: 作成ルールまたはプログラム名。 • ワード 5、長さ 8: 作成したジョブ名、タスク名、または TSO ID。 • ワード 6、長さ 8: 最終変更日。 • ワード 7、長さ 8: 最終変更時刻。 • ワード 8、長さ 17: 最終変更ルールまたはプログラム名。 <p>部分的に更新されたシンボル名を返しません。</p>
<p>L (List)</p> <p><code>val=SDBVALUE(derivedname, 'L')</code></p> <p><i>derivedname</i> の各サブノードの派生名をリストします。</p>	<p>外部データ・キューにリストされているサブノードの数を返します。ドロップされたシンボルを返しますが、除去されたシンボルは返しません。</p>
<p>O (Obtain)</p> <p><code>val=SDBVALUE(derivedname, 'O')</code></p> <p>グローバル変数の値を取得します。</p>	<p>グローバル変数の値を返します。グローバル変数が存在しない場合は、エラーを返します。外部データ・キューを変更しません。</p>

コード、構文、および説明	戻り値
<p>R (Remove)</p> <pre>val=SDBVALUE(derivedname, 'R')</pre> <p>指定されたノードとそのすべてのサブノードを除去します。ノードが除去された後、存在しなくなります。</p>	<p>除去されたサブノードの数を返します。外部データ・キューを変更しません。複合シンボルの他のアクセサリーが、部分的に更新されたシンボルを表示することを許可しません。</p>
<p>S (Subtree)</p> <pre>val=SDBVALUE(derivedname,'S')</pre> <p><i>derivedname</i> のすべてのサブノードのグローバル変数名全体をリストします。</p>	<p>外部データ・キュー内のすべてのサブノードのグローバル変数名全体を返します。外部データ・キューにリストされているとおりに、存在するサブノードの数を返します。部分的に更新されたシンボル名を返しません。</p>
<p>T (Subtree and information)</p> <pre>val=SDBVALUE(derivedname,'S')</pre> <p>グローバル変数名全体および <i>derivedname</i> のすべてのサブノードをリストします。</p>	<p>グローバル変数名全体および外部データ・キュー内のサブノードごとに 2 行を返します。最初の行には、<i>derivedname</i> の次のセグメントが含まれます。2 行目には、Information コードで説明されている情報が <i>derivedname</i> ごとに含まれます。部分的に更新されたシンボル名を返しません。</p>
<p>U (Update)</p> <pre>val=SDBVALUE(derivedname,'U',newval)</pre> <p><i>newval</i> を、<i>derivedname</i> で指定された複合シンボルの値として割り当てます。複合シンボルが存在しない場合、複合シンボルが作成され、新しい値が割り当てられます。Update を使用すると、複合シンボルにアクセスする他のユーザーが、部分的に更新されたシンボルを取得しないようになります。</p>	<p><i>newval</i> で指定された変数を返します。外部データ・キューを変更しません。</p>
<p>V (Value)</p> <pre>val=SDBVALUE(derivedname,'V')</pre> <p>指定された複合シンボルの値を返します。Value を使用すると、SDVALUE の発行者が、部分的に更新されたシンボルを取得しないようになります。</p>	<p>ノードの現行値を返します。ノードが存在しない場合、ノードが作成されますが、値が割り当てられません。代わりに、名前と同じ値が指定されます。外部データ・キューを変更しません。</p>

SDBINFO API 関数

SDBINFO 関数は、Accelerator Loader サーバー・サブシステムに関する情報を取り出します。

SDBINFO 関数の構文は以下のとおりです。

```
var=SDBINFO(arg1[,arg2])
```

ここで、*arg1* は以下の表からのパラメーター、*arg2* は接続トークン (オプション) です。

この関数は常に戻り値を返します。要求された値が環境に有効でない場合は、NULL スtringが返されます。

パラメーター	戻り値
ASID	プログラム API を使用して呼び出される場合、アドレス・スペース ID (ASID) を 2 バイト 2 進値として返します。REXX から呼び出される場合、ASIDD を 4 バイト値として返します。
BYTES	保管されたバイト数を返します。
CLOCK	現在の時刻 (TOD) クロック値を 8 バイトの 2 進値として返します。これは、調整されていない STCK 値であることに注意してください。
CONNECTID	固有の接続 ID 値を返します。
CPUDELT	8 バイトのタスク CPU 時間差分値を返します。
CPUTIME	8 バイトのタスク CPU 時間値を返します。
DB2PLAN	DB2 プランの名前を返します。
DB2SUBSYS	DB2 サブシステムの名前を返します。
EVENTTYPE	ルールまたはプログラムに関連付けられているイベントのタイプを返します。
HOSTDOMAIN	現在の要求に関連付けられているホスト (サーバー) ドメインを返します。
HOSTNAME	現在の要求に関連付けられているホスト名 (クライアント) を返します。
IPADDRESS	現在の要求の完全フォーマット IP アドレスを 10.17.16.164 形式で返します。
JOBNAME	現在の 1 次アドレス・スペースに関連した z/OS ジョブ名を返します。
LASTCONNECTID	現在のリンクで使用された最後の接続 ID を返します。
LASTUSERID	現在のリンクで使用された最後のユーザー ID を返します。
LINKTYPE	現在の要求のリンク・タイプを返します。
LU	現在の要求の LU 名を返します。
MAINPGM	メイン REXX プログラムまたはルールの名前を返します。
MODE	現在の要求のモード名を返します。
ODBCDATE	.NET Client (ODBC) のコンパイル日を返します。
ODBCVERSION	.NET Client (ODBC) のバージョンを返します。
PRODUCT	製品識別 String を返します。
PRODUCTSTATUS	現在の製品状況を返します。

パラメーター	戻り値
PROGRAM	REXX プログラムまたはルールの名前を戻します。
ROWS	ソース行の数を戻します。
SEFFEATURE	Server Event Facility (SEF) が無効な場合、単一のブランクを戻します。
SUBSYS	アクセスされたサブシステム ID を現在の OPMS イメージから戻します。
SUBSYSASID	リアル OPMS からアクティブ・サブシステムの ASID を、プログラム API を使用して呼び出される場合は 2 バイトの 2 進値として、REXX から呼び出される場合は 4 バイト値として戻します。
SMFID	SMF ID を戻します。
TASKTYPE	タスク・タイプを戻します。
TRANSTYPE	トランザクション・プログラムのタイプを戻します。
USERID	ユーザー ID 値を戻します。
USERPARM	クライアントからのユーザー・パラメーター・ストリングを戻します。
VERSION	ルールまたはプログラムが実行している製品サブシステムのバージョンをストリングとして戻します。

例

次の呼び出しは、REXX 変数 IPA を、クライアント・プログラムの完全フォーマット TCP/IP アドレスに設定します。

```
IPA = SDBINFO(IPADDRESS)
```

次の呼び出しは、変数 USER を、例外を引き起こした接続のユーザー ID 値に設定します。この例では、接続トークンが入っている EXC.OPEXCNTK が、ユーザー ID の取得に使用されます。これは、例外ルールが、ユーザー接続タスクではなく、OPCKLM (制限検査) タスクで実行されるからです。

```
USER = SDBINFO(USERID,EXC.OPEXCNTK)
```

SDBECURE API 関数

SDBECURE 関数は、セキュリティー許可処理を実行します。

データ・セット・アクセスの検証

現在のユーザーにデータ・セットにアクセスする許可があることを確認するには、次の構文を使用します。

```
var = SDBECURE('D','dsname','accesstype','volser')
```

ここで、

- *dsname* はデータ・セットの名前です。

- *accesstype* は、検証するデータ・セット・アクセスのタイプです。タイプを指定しない場合、READ アクセスがデフォルトです。有効値は以下のとおりです。
 - A: ALTER アクセスを検証します。
 - C: CONTROL アクセスを検証します。
 - R: READ アクセスを検証します。
 - U: UPDATE アクセスを検証します。
- *volser* は、検証するボリューム通し番号です。 *volser* を指定しない場合、このパラメーターはデフォルトでブランクです。

この関数は、アクセスが許可されるかどうかを示すメッセージを戻します。

ログオン ID フィールド・データの取得

現行ユーザーの ACEE からセキュリティー・サブシステム情報を取得するには、以下の構文を使用します。

```
var = SDBECURE('F','fieldname')
```

ここで、*fieldname* は、以下の表のいずれかのフィールドです。

フィールド	説明	フィールド形式
ALTER	変更権限フラグ	ビット
APPLICATION	アプリケーション名	文字
APPLICATIONDATA	アプリケーション・データ	文字
APPLICATIONLEVEL	アプリケーション・レベル	Binary
AUDITOR	監査員属性	ビット
AUTOMATIC	自動属性	ビット
CLASSAUTHORIZATIONS	クラス許可	Binary
CONTROL	制御権限フラグ	ビット
DATE	日付	RACINT 日付
DEFINEUSERS	ユーザーを定義する権限	ビット
GROUP	ACEE グループ・フィールドの内容	文字
GROUPLIST	グループのリスト	文字
GROUPLISTCONTAINS	グループ・リスト内容フラグ	ビット
INSTALLATIONDATA	インストール・データ・フィールドの内容	文字
LOG	大部分の操作のためのログオン	ビット
NONE	None 権限フラグ	ビット
OPERATIONS	操作属性	ビット
PORTOFENTRYDATA	エントリー・データのポート	文字
PORTOFENTRYLEVEL	エントリー・レベルのポート	Binary
PRIVILEGED	特権フラグのある Accelerator Loader サーバー	ビット
PROTECTDASD	DASD を保護する権限	ビット

PROTECTTAPE	テープを保護する権限	ビット
PROTECDTERMINALS	端末を保護する権限	ビット
RACF	RACF 定義のユーザー・フラグ	ビット
READ	読み取り権限フラグ	ビット
SPECIAL	特殊属性	ビット
STCNAME	Accelerator Loader サーバー名	文字
SURROGATEUSERID	サロゲート・ユーザー ID	文字
TERMINAL	端末 ID	文字
UPDATE	更新権限フラグ	ビット
USERDATA	ユーザー・データ・フィールドの内容	文字
USERID	ACEE ユーザー ID フィールドの内容	文字
USERNAME	ユーザー名フィールド	文字
VERSION	ACEE バージョン・コード	Binary

フィールド形式に基づいて、以下の変換が行われます。

- 2 進数フィールドは、先行ゼロもブランクもなしに符号付き 10 進値に変換されます。数値ゼロは 0 として戻されます。
- 文字フィールドは現状のまま戻されます。文字フィールド名が最大許容ストリング長を超えると、Accelerator Loader サーバー/REXX 定義の最大ストリング長に切り捨てられます。
- 日付フィールドは、*yyyy/mm/dd* 形式に変換されます。結果が常に、非ブランクの 10 文字であるように、先行ゼロが保持されます。ゼロを含む日付フィールドは *****/**/*** として戻されます。
- ビット・フィールドは 0 (false または off) もしくは 1 (true または on) に変換されます。
- GROUPLIST フィールド照会は、グループ・リスト内の項目数を表す整数を戻します。各グループ名は、外部データ・キュー内の別の項目として戻されます。

セキュリティ製品情報の要求

セキュリティ製品に関する情報を取得するには、次の構文を使用します。

```
var = SDBECURE('i','name')
```

ここで、*name* は、以下の表のいずれかの値です。

値	戻り値
MODE ACF2 を実行するシステムにのみ有効です。	いずれかの ACF2 操作モード (ABORT、LOG、OFF、WARN、QUIET) を戻します。
PRODUCT	セキュリティ製品の名前またはメッセージ UNKNOWN SECURITY PRODUCT を戻します。

値	戻り値
RELEASE	セキュリティー製品のリリースおよびバージョン番号を戻します。

情報を取得できない場合は、NULL スtringが戻されます。

汎用リソースへのアクセスの検証

現在のユーザーが汎用リソースにアクセスできることを確認するには、次の構文を使用します。

```
var = SDBECURE('R', class, resource, requestcode)
```

ここで、

- *class* は汎用リソース・クラス名、または ACF2 の場合はタイプ名です。

注: リソースへのアクセスを検証するルールでは、SAF 処理を使用します。

ACF2 を使用する場合は、ACF2 リソース・タイプを SAF クラス名として定義する必要があります。

- *resource* は 1 バイトから 39 バイトのリソース・エンティティ名です。
- *requestcode* は、検証するアクセスのタイプです。要求コードを指定しない場合、READ アクセスがデフォルトです。有効な値は、次のとおりです。
 - A: ALTER アクセスを検証します。
 - C: CONTROL アクセスを検証します。
 - R: READ アクセスを検証します。
 - U: UPDATE アクセスを検証します。

リソースへのアクセスを許可されている場合は、String ALLOW が戻されます。それ以外の場合、エラー・メッセージが戻されます。

ユーザー ID とパスワードの検証

ユーザー ID とパスワードを検証するには、次の構文を使用します。パスワードが有効である場合、ユーザーはシステムにログオンします。この API 呼び出しは、ATH イベントに対してのみ有効です。

```
var = SDBECURE('P','userid','password','newpassword')
```

ここで、

- *userid* は、検証するユーザー ID です。
- *password* は、ユーザー ID に関連付けられているパスワードです。
- *newpassword* は、ユーザー ID に関連付ける新規パスワードです。

newpassword パラメーターを省略する場合、ユーザー ID とパスワードが検証されます。*newpassword* パラメーターを指定すると、パスワードが変更されます。

パスワードが正しい場合、戻り値はString ALLOW です。パスワードが誤っていると、エラー・メッセージが戻されます。ACF2 の場合、指定されたユーザー ID に対する無効なパスワード違反のカウンターは、試行が失敗するごとに増えることに注意してください。

暗黙パスワードを使用したユーザー ID の検証

この要求により、指定されたユーザー ID が検証されます。パスワードが有効である場合、ユーザーはシステムにログオンします。パスワードは関数呼び出しで指定されません。代わりに、初期のインバウンド・トランザクション要求でパスワードが送信されます。平文パスワードをプロシージャラーから使用可能にすることなく、カスタム・セキュリティ検査を実行するのに、この関数を使用します。この API 呼び出しは、ATH イベントに対してのみ有効です。

暗黙パスワードを使用してユーザー ID を検証するには、次の構文を使用します。

```
var = SDBECURE('PI', 'userid', 'newpassword')
```

ここで、

- *userid* は、検証するユーザー ID です。
- *newpassword* は、ユーザー ID に関連付ける新規パスワードです。

newpassword パラメーターを省略する場合、この関数では暗黙パスワードを使用してユーザー ID を検証します。*newpassword* を指定すると、関数はパスワードを変更します。パスワードが正しい場合、戻り値はストリング ALLOW です。パスワードが誤っていると、エラー・メッセージが戻されます。ACF2 の場合、指定されたユーザー ID に対する無効なパスワード違反のカウンターは、試行が失敗するごとに増えることに注意してください。

SDBSUBMIT API 関数

内部読み取りプログラムに JCL を実行依頼し、実行依頼されたジョブごとに JES2 または JES3 ジョブ ID を戻すのに、SDBSUBMIT 関数を使用します。

SDBSUBMIT 関数は、結果を呼び出し点に戻す関数参照として呼び出すか、REXX CALL ステートメントとして呼び出すことができます。対応する TSO/E REXX または高水準言語 (HLL) API インターフェースはありません。

- 入力ストリームから読み取られる JCL ステートメントは任意のサイズにすることができますが、各個別ステートメントは、内部読み取りプログラムから実行依頼されるときに 80 バイトになるように拡張または切り捨てられます。
- JCL 入力ストリームが ASCII または UTF-8 エンコードされる場合 (例えば、POSTED 入力の場合)、この関数は JCL ストリームを IBM-1047 EBCDIC に変換します。基本的な UTF-8 サポートのみが使用可能なので、2 バイト文字やコード・ポイント 0x7F より上の ASCII 文字を含めないでください。
- この関数は編集機能がなく、実行依頼される JCL における JOB ステートメント名の内容や形式にも制限を課しません。
- ジョブの境界を検出するために、この関数では各 JCL ステートメントをスキャンします。以下の状態はジョブ境界を示しています。
 - JCL ステートメントが「//」で始まり、その後に大文字の EBCDIC ローマ字、または IBM 1047 EBCDIC 文字「@」、「\$」、または「#」のいずれかが続く。
 - 接頭部の後に 0 文字から 7 文字のローマ字または数字、もしくは IBM 1047 EBCDIC 文字「@」、「\$」、または「#」が続く。
 - ブランクで区切られた次のワードが JOB である。このワードが見つかったら、スキャンはステートメントの解析を停止します。

- スキャンは、継続する PARM= オペランドを囲む引用符付きストリング境界を考慮せず、JCL ステートメントの継続の検出、適用、処理を行いません。
- クライアント・ユーザー ID のログオンが有効である間に実行依頼されるジョブには、クライアント・サブタスクのログオン ID と一致する USER 属性が指定されます。JOB ステートメントの JCL USER= オペランドが存在し、クライアント・タスク・ログオン ID とは異なり、PASSWORD= が存在しない場合、RACF サロゲート・ユーザー属性の割り当てと許可の制限が課されることがあります。
- SDBSUBMT 関数は REXX 言語ルールでのみ使用できます。この関数は、仮想記憶間モードで実行されるルール、またはシステム・サービスの待機が明示的に禁止されているルールでは使用できません。SDBSUBMT を使用できないか、条件付きでのみ使用できる範囲には、次のものがあります。
 - PHASE 変数が PROC に設定されていないときに発生する、ルールの有効化または無効化中には SDBSUBMT を使用できません。
 - SDBSUBMT は CMD、GLV、および TYP ルールで使用できません。
 - SDBSUBMT をいつ使用できるかを判別するために、ATH ルールは ATH.OPAU13WA 変数の値を検査でき、EXC ルールは EXC.OPEXWAOK 変数の値を検査できます。SDBSUBMT を使用できる場合、変数は 1 に事前設定されます。

以下の構文を使用してください。

```
SDBSUBMIT(arg1, arg2, arg3, arg4 )
```

または

```
CALL SDBSUBMIT(arg1, arg2, arg3, arg4 )
```

ここで、

- *arg1* と *arg2* は、入力 JCL ストリームの場合を指定します。
- *arg3* は、内部読み取りプログラムに割り振られる 1 文字の JES クラスを指定します。
- *arg4* は、トレースのタイプを指定するストリングです。

次の表は、*arg1* および *arg2* の有効な値をリストしています。

値	arg1: JCL 入力ストリームの場所	arg2
STEM	JCL は REXX ステム変数配列にあります。配列内の 0 番目の項目には、項目数が含まれています。項目 1 から <i>n</i> には、個々の JCL ステートメントが含まれています。	REXX 変数のステム名。この名前の末尾はピリオドでなければなりません。長さは 1 文字から 12 文字。
DSN	JCL は z/OS データ・セットにあります。	完全修飾 z/OS データ・セット名。この名前には PDS(E) メンバー名を含むことができます。長さは 1 バイトから 54 バイト。
DDN	JCL は、DD 名に事前割り振りされた z/OS データ・セットにあります。	DD 名。長さは 1 バイトから 8 バイト。

値	arg1: JCL 入力ストリームの場合	arg2
PATH	JCL は USS HFS ファイルにあります。	ファイルの完全修飾 HFS パス名。長さは 1 バイトから 256 バイト。
POSTED	JCL は、HTTP を介した通知ファイル・エンティティとして受信されます。	受信された HTTP 要求内の通知ファイル・エンティティの索引番号 1 から n。この引数を省略した場合、デフォルト値は 1 です。

arg3 は、内部読み取りプログラムに割り振られる 1 文字の JES クラスです。文字 A から Z、0 から 9、および * (アスタリスク) が有効です。デフォルトのジョブ・クラスを要求するには、* を使用します。このパラメーターを指定しない場合、* がデフォルトになります。

arg4 は、1 バイトから 5 バイトのストリングです。そのバイトに対応するトレース機能が有効であるかどうかを指定するために、ストリングの各文字は Y または N でなければなりません。次の表は、バイト位置とトレース機能について説明しています。

バイト位置	デフォルト	トレース機能
1	Y	JES が戻す JOB ID をトレースします。
2	Y	入力ソース JCL をトレースします。
3	Y	内部読み取りプログラムの動的割り振りアクティビティをトレースします。
4	N	内部読み取りプログラムへの書き込みをトレースします。
5	N	通知データのデコード (EBCDIC への変換) をトレースします。

障害条件のために REXX ERROR または FAILURE シグナルが生成される場合を除いて、arg4 は以下のいずれかの数値結果を戻します。

- 0 : 正常終了
- 4: パラメーター化エラー
- 8: 環境エラー
- 12: システム・サービス・エラー
- 16: トラップされた ABEND 条件
- 100 以上: 障害の前に 1 つ以上のジョブが実行依頼される場合、100 以上の値が結果に追加されます。障害コードを判別するには、100 を減算します。

JOBID. ステム変数

この関数は、エントリー処理中にすべての JOBID. ステム変数で REXX DROP を使用し、次の表に示されている値に変数を事前設定します。このリセット操作は、初期パラメーター検証後から JCL 処理までに行われます。リセットが失敗したら、REXX invalid symbol シグナルが生成されます。セットアップ後、REXX シグナル

がスローされなければ、JOBID.RC、JOBID.REASON、およびオーバーライドされた変数が説明のとおり設定されます。その他の JOBID. ステム変数はすべて未定義です。

変数	説明
JOBID.RC	関数呼び出しの評価された RESULT と同じ値が含まれています。また、他のすべての JOBID. ステム変数が正しく設定されないうちに問題が検出された場合は、NULL スtringが含まれています。JOBID.RC は入り口で NULL スtringに設定され、この変数を RESULT に設定することが、関数が出口の前取る最後のアクションです。
JOBID.REASON	関数呼び出しがゼロ以外の RESULT で終わる場合、エラー・テキストが含まれます。RESULT がゼロの場合、この変数は NULL スtringに設定されます。
JOBID.0	入力 JCL ストリームで検出され、内部読み取りプログラムに正常に実行依頼されたジョブの数を示す整数が含まれます。ジョブが正常に実行依頼されなかった場合、またはシステム障害により処理中にジョブ ID が戻されなかった場合、この変数には 0 (ゼロ) が入ります。障害の前に 1 つ以上の完了ジョブが実行依頼された場合、この変数には、ID が戻された実行依頼済みジョブの数が入ります。
JOBID.n	実行依頼された JCL ストリーム内の最初から n 番目のジョブに割り当てられたジョブ ID が入ります。有効なジョブ ID の形式は JOBxxxx または Jxxxx です。ここで、xxxx はシステムによって割り当てられたシーケンス番号です。変数 JOBID.1 から JOBID.n までのみが設定されます。ここで、n は JOBID.0 に割り当てられた数値です。

LUW 認証

デフォルトで、Accelerator Loader サーバーは、z/OS へのログオンに提示されたのと同じユーザー ID を使用して、LUW 上で DB2 にログオンしようとします。LUW 上で DB2 にアクセスするために、ユーザーのログオン資格情報を変更できません。

データ・センターでは、z/OS 上での DB2 へのアクセスと LUW (Linux/Unix/Windows) 上での DB2 へのアクセスに異なるユーザー ID を割り当てるのがよくあります。デフォルトで、Accelerator Loader サーバーは、z/OS へのログオンに提示されたのと同じユーザー ID を使用して、LUW 上で DB2 にログオンしようとします。

System Event Facility (SEF) 認証ルールを使用すると、LUW での DB2 へのログオン用にユーザー ID とパスワード・パラメーターを設定できます。サンプル・ルールが認証 (ATH) ルール・セット HLVALUWI で配布されています。ここでは、DB2LUWU が LUW のデフォルトのユーザー ID として設定され、defaultp がそれに対応するパスワードとして設定されます。このルールはアクティブであれば、最初の行が以下のとおりであるので、LUW サブシステムへのログオンでトリガーされます。

```
/*ATH DRDA.UIDLW.*
```

特定の LUW へのログオンでのみトリガーされる類似のルールを作成するには、最初の行が以下のようになります。

```
/*ATH DRDA.UIDLW1.PRODLW1
```

この行の例では、LUW1 が、データ・セット *hlq.SHLVEXEC* メンバー *hlvidIN00* ステートメント `DEFINE DATABASE` で `LOCATION(PRODLW1)` として定義されます。変数 *hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。

このタイプのルールを変更すると、着信 z/OS データベース (ATH.AUPWDBUS) またはネットワーク (ATH.AUPWLNID) ユーザー ID をテストし、必要に応じて LUW ユーザー ID を設定することができます。

グローバル変数を複数の SEF イベント・プロシージャで共用できます。不揮発性であり、システム IPL または製品の再始動後も保管されます。グローバル変数は通常、異なる REXX イベント・プロシージャ間、または同じ REXX イベント・プロシージャの複数の実行間での通信に使用されます。構成メンバーの HDBSINEF メンバーは、サーバーの初期化時にグローバル変数プールを初期化でき、定期的にグローバル変数にチェックポイントを指定します。

SEF ルールにおける ID とパスワードのハードコーディングに代わる方法として、グローバル変数からの LUW 資格情報を解決するために、HLVALUWG が提供されています。ルール HLVALUWG は、実行のトレースを切り替える目的以外では、変更してはなりません。

グローバル変数は、サーバーのリサイクル後にも、IPL 後にも保持されます。グローバル変数は、以下のようにマップされます。

```
GLOBAL2.DRDA.ATH.grexx.GLOBAL.DEFAULT  
GLOBAL2.DRDA.ATH.grexx.GLOBAL.userid  
GLOBAL2.DRDA.ATH.grexx.ssid.GLOBAL.DEFAULT  
GLOBAL2.DRDA.ATH.grexx.ssid.userid
```

ただし、以下のとおりです。

- *grexx* は、アクティブな SEF 認証ルールの名前です。この場合は HLVALUWG。
- *ssid* は、データ・セット *hlq.SHLVEXEC* メンバー *hlvidIN00* 内にある、以下のステートメントのターゲット LUW サブシステム名です。
`DEFINE DATABASE NAME(ssid)`
- *userid* は着信 z/OS ユーザー ID です。

検索では、以下の順序を使用して LUW 資格情報を解決します。

```
GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.ssid.userid  
GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.GLOBAL.userid  
GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.ssid.GLOBAL.DEFAULT  
GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.GLOBAL.DEFAULT
```

変数

記述名	変数名	内容	データ・タイプ
LUW ユーザー ID	ATH.AUDROTUS	ユーザー ID	文字
LUW パスワード	ATH.AUDROTPW	パスワード	文字

以下の例では、アクティブ SEF ルール HLVALUWG を使用して、デフォルトの LUW 資格情報を設定します。各グローバル変数の最後のノードは、以下の形式で LUW のユーザー ID とパスワードを設定します。

```
userid:password;comment
```

デフォルトの **LUW** 資格情報の設定

デフォルトの LUW ユーザー ID とパスワードを `luwuser/luwpswd` に設定するには、次のようにします。

サブノード値 `GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.GLOBAL.DEFAULT` を `luwuser:luwpswd;Global Default for any LUW` に設定します。

特定の **LUW** サブシステムのデフォルト資格情報の設定

サブシステム LUW1 のデフォルトの LUW ユーザー ID とパスワードを `luw1user/luw1pswd` に設定するには、次のようにします。

サブノード値 `GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.LUW1.GLOBAL.DEFAULT` を `luw1user:luw1pswd;Default for LUW subsystem named LUW1` に設定します。

特定の **LUW** サブシステムでのユーザーの固有資格情報の設定

サブシステム LUW1 のユーザーごとに固有の資格情報を設定するには、次のようにします。

- サブノード値 `GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.LUW1.ZOSUSER1` を `luw1usera:pswda;LUW1 credentials for ZOSUSER1` に設定します。
- サブノード値 `GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.LUW1.ZOSUSER2` を `luw1userb:pswdb;LUW1 credentials for ZOSUSER2` に設定します。

すべての **LUW** でのユーザーに固有の資格情報の設定

すべての LUW のユーザーごとに固有のデフォルト資格情報を設定するには、次のようにします。

- サブノード値 `GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.GLOBAL.ZOSUSER1` を `luw1usera:pswda;LUW credentials for ZOSUSER1` に設定します。
- サブノード値 `GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.GLOBAL.ZOSUSER2` を `luw1userb:pswdb;LUW credentials for ZOSUSER2` に設定します。

関連概念:

5-1 ページの『Accelerator Loader サーバーの制約事項および考慮事項』
Accelerator Loader サーバーを使用してロードを実行する前に、以下に示す使用上の制約事項および考慮事項を確認してください。

2-11 ページの『データ・ソースにアクセスするための権限要件』
データ・ソースにアクセスするには、以下の権限が必要です。

DB2 LUW 認証の有効化

DRDA を介して LUW (Linux/Unix/Windows) インスタンスに接続するために、ISPF パネルで System Event Facility (SEF) ルールを有効にすることができます。

手順

1. メインメニューで、「**Server administration**」を選択します。
2. 「Administer Accelerator Loader server」パネルで、「**Manage Rules**」を選択します。
3. 「Event Facility (SEF) Control」パネルで、「**SEF Rule Management**」を選択します。
4. 「Event Facility (SEF) Ruleset Entry Profile」パネルでの「**Display Only the Ruleset Named**」で、アスタリスクをそのままにしてすべてのルール・セットのリストを表示するか、ATH (AUTHORIZATIONS の省略形) を指定して特定のルールを表示し、Enter キーを押します。
5. 「ATH」の横に S と入力して Enter キーを押します。
6. HLVALUWG の横に B と入力して、Enter キーを押します。ルールが有効になり、IPL 後もサーバーでこのメンバーが有効なままになるように、自動的に有効化されます。このメンバーの隣に表示される状況は有効です。

LUW 許可用のグローバル変数の作成

SEF 認証ルール HLVALUWG は (有効であれば)、ユーザーが LUW サブシステムにアクセスしようとするたびに呼び出されます。LUW データベースに適切なログオン資格情報を設定するために、グローバル変数が HLVALUWG によって読み取られます。

このタスクについて

以下の場合に資格情報を定義できます。

- すべての LUW に 1 組の資格情報が使用される場合。
- 個別の LUW ごとに 1 組の資格情報が使用される場合。
- 着信ユーザー ID によって資格情報が判別される場合。
- 上記のオプションとデフォルト値との組み合わせ。

手順

すべての LUW サブシステムへのすべてのアクセスの資格情報を追加:

1. メインメニューで、「**Server administration**」を選択します。
2. 「**Manage rules**」を選択して Enter キーを押します。
3. 「**Global Variables**」を選択して Enter キーを押します。
4. 「**Global Prefix**」で、既存の値に上書きして GLOBAL2 と入力します。
5. コマンド行に S DRDA と入力し、Enter キーを押します。このステップでは、DRDA という名前のグローバル変数が作成されます。グローバル変数には大/小文字の区別があり、このプロセスではすべてが大文字でなければならないことに注意してください。

6. DRDA の横に S と入力し、Enter キーを押して DRDA を選択します。グローバル接頭部が GLOBAL2.DRDA と表示されます。
7. コマンド行に S ATH と入力します。このステップにより、サブノード ATH が作成されます。
8. ATH の横に S と入力し、Enter キーを押して ATH を選択します。グローバル接頭部が GLOBAL2.DRDA.ATH と表示されます。
9. コマンド行に S HLVALUWG と入力し、Enter キーを押してルール HLVALUWG を選択します。「Subnode Value」列に GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG が表示されます。
10. LUW へのこのアクセス試行に資格情報を定義する他の変数がない場合、最後の手段として使用されるデフォルトの資格情報を作成します。
 - a. HLVALUWG の横に S と入力して、Enter キーを押します。
 - b. コマンド行に S GLOBAL と入力します。
 - c. GLOBAL の横に S と入力し、Enter キーを押して GLOBAL を選択します。グローバル接頭部が GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.GLOBAL と表示されます。
 - d. コマンド行に S DEFAULT と入力し、Enter キーを押します。「Subnode Value」列に GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.GLOBAL.DEFAULT が表示されま
 - e. 「Subnode Value」列に、userid:password;comment 形式の新しい資格情報で既存の値を上書きします。この値はすべて小文字であることに注意してください。例えば、luwuser:luwpswd; Global UserID for Everyone です。

すべての LUW サブシステムへのすべてのアクセスにログオン ID luwuser とパスワード luwpswd を使用できます。

特定ユーザーの資格情報を追加

個別のユーザー用に 1 組の資格情報を作成できます。例えば、z/OS ユーザー ID が DBA001 であり、LUW 資格情報 db2admin:admin を必要とする DBA です。

11. コマンド行で、そのユーザー ID に対する Select コマンドを発行し、Enter キーを押します。例えば、S DBA001 と入力します。
12. 「Subnode Value」列に、userid:password;comment 形式の新しい資格情報で既存の値を上書きします。この値はすべて小文字であることに注意してください。例えば、db2admin:admin; Only for the DBA です。

複数の LUW サブシステム用の資格情報の作成

複数の LUW サブシステムがある (例えば、Solaris 上に SOL1 と AIX 上に AIX1) 場合、それぞれに別々の資格情報を作成できます。一致するルールがない場合、以前に作成したデフォルト値に戻すことができます。

始める前に

10-76 ページの『LUW 許可用のグローバル変数の作成』の説明どおりにデフォルトの資格情報を作成します。

このタスクについて

この手順では、サブシステム SOL1 の例を使用します。

手順

特定のサブシステムへのすべてのアクセスの資格情報を追加:

1. ISPF で、グローバル接頭部 GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG にナビゲートします。 10-76 ページの『LUW 許可用のグローバル変数の作成』を参照してください。
2. コマンド行に S SOL1 と入力し、Enter キーを押します。 このステップでは、LUW サブシステム SOL1 が作成されます。
3. SOL1 の横に S と入力し、Enter キーを押してそのサブシステムを選択します。 グローバル接頭部が GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.SOL1 と表示されます。
4. コマンド行に S GLOBAL と入力し、Enter キーを押します。「**Subnode Value**」列に GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.SOL1.GLOBAL が表示されます。
5. コマンド行に S DEFAULT と入力し、Enter キーを押します。
6. サブノード DEFAULT の場合、「**Subnode Value**」列で、新しい資格情報で既存の値を上書きします。例えば、sol1user:sol1pswd; Global for SOL1 です。

サブシステムに対する特定ユーザーの資格情報を追加

この例では、ユーザー ID は DBA001です。

7. PF3 を押して前のパネルに戻ります。 グローバル接頭部が GLOBAL2.DRDA.ATH.HLVALUWG.SOL1 と表示されます。
8. コマンド行に S DBA001 と入力し、Enter キーを押します。
9. サブノード DBA001 の場合、「**Subnode Value**」列で、新しい資格情報で既存の値を上書きします。 例えば、db2admin:admin; For the DBA です。
10. この手順を繰り返して、他の LUW サブシステムの資格情報を作成します。

タスクの結果

グローバル変数を作成して、SEF ATH ルールを使用可能にすると、選択されている資格情報と理由を示すためにメッセージがサーバー・トレースで作成されます。

サーバー・トレース情報の表示

Accelerator Loader サーバーは、個々のトランザクションの存続時に重要なイベントを記録できる強力な診断ツールを提供します。この情報は、問題の診断、デバッグ、および修正に使用できます。

サーバー・トレース

Accelerator Loader サーバーは、仮想ストレージに保持されるトレース・バッファにトレース・レコードを追加することによって実装される、広範囲にわたるトレース機能を組み込んでいます。トレース操作は、メモリー間の命令で完全に実行されます。セッションが完了するまでディスクには何も書き込まれません。その時点で、VSAM データ・セットを使用してトレース情報は自動的にディスクに保管され

ます。この方法は、メモリー間トレースのパフォーマンス上の利点を、標準ディスク・ストレージの不揮発性と組み合わせます。

Accelerator Loader サーバーのアドレス・スペースでさまざまなイベント用にトレース・レコードが作成されます。トレース・レコードは以下の項目について書き込まれます。

- SQL 操作
- IMS 呼び出し
- スレッド生成および切り離しイベント
- メッセージ・イベント
- エラー (異常終了)

サーバー・トレースを使用して、以下のアクションを実行できます。

- フォーマットされた情報列 (ユーザー ID や時刻など) を表示する
- FIND および LOCATE コマンドを使用して、データまたは特定の時刻と日付を検索する
- DISPLAY コマンドを使用して追加の情報列を表示する
- STATUS コマンドを使用して、サーバー・トレース状況域を表示する

通常、トレース・バッファは、数日間のすべてのクライアント/サーバー処理の完全な記録を収容できます。Accelerator Loader サーバーは、複数のサーバー・トレース・データ・セットをサポートします。階層型ストレージ管理を使用して、データの無制限の履歴を維持できます。サーバー・トレース・データ収集ルーチンは、監査、キャパシティー・プランニング、および使用パターンの傾向分析に必要なすべてのデータの収集をサポートします。サーバー・トレース・フィルター機能のセキュリティを設定して、無許可のユーザーによる機密データの表示を禁止することができます。

関連資料:

12-54 ページの『「Server Trace」パネル』

このパネルを使用して、環境内で実行されているサーバーによって収集された製品イベントのリストを表示します。

11-512 ページの『サポート用の診断情報』

問題が発生して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡を取る必要がある場合は、サポートに連絡する前に Accelerator Loader システムと問題に関する特定の情報を収集する必要があります。サポート担当員が問題を正しく診断して解決するために、この情報が必要です。

サーバー・トレースの使用ログ項目

デフォルトで、「Server Trace」パネルにはすべての項目が表示されます。(ログ項目のサブセットを表示するために、プロファイルを作成できます。)Accelerator Loader サーバーが zIIP サーバーで実行されている場合、その zIIP サーバーで実行される作業に関連した項目はピンク色で表示されます。サーバーが zAAP サーバーで実行されている場合、その zAAP サーバーで実行される作業に関連した項目は青緑色で表示されます。

手順

1. 「Server Trace」パネルには、リストの一番下に最新の項目が表示されます。デフォルトで、イベントの時刻、ホスト名、および説明が表示されます。
2. メインメニューで、「**Server administration**」を選択します。
3. 「Administer Accelerator Loader server」パネルで、「**Display server trace**」を選択します。
4. 「Server Trace」パネルで、以下の方法でトレース・メッセージをナビゲートすることができます。
 - UP、DOWN、RIGHT、および LEFT スクロール・コマンド (またはそれらに相当する PF キー) を使用して、このパネルをナビゲートします。
 - MAX または M スクロール・オペランドを使用して、任意の方向に最大量をスクロールします。
 - トレース・リストの先頭または一番下を表示している (リストが満杯である) 場合、**ENTER** を押してリストをスクロールダウンします。メッセージは一番上から除去され、一番下に追加されます。
5. オプション: 以下のいずれかのステップを実行します。
 - リストを最新表示するには、**Enter** キーを押します。
 - 表示の位置を変更する場合、最新の項目を表示するために、**DOWN MAX** コマンドを発行してから、**Enter** キーを押します。
 - 別の列セットを表示するには、コマンド行で **D** と入力し、その後に表示する列の名前を続けます。

「Server Trace」パネルの列

「Server Trace」パネルの特定の列を表示するには、**DISPLAY** コマンドを使用します。

表 10-3. 「Server Trace」パネルの列

列	説明
ACTION	以下のいずれかを表示します。 <ul style="list-style-type: none">• ACC (受け入れ)• REJ (拒否)• NOA (アクションなし)
ADDRESS	メモリー内で実際のレコードの位置。
ADDRJOB	JOBNAME ベクトルにおける現行レコードのメモリー内の位置。
ADDRUSR	USERID ベクトルにおける現行レコードのメモリー内の位置。
APMRC	APPC/MVS 戻りコード。
ASID	現行レコードを作成したユーザーのアドレス・スペース ID。
CLOCK	レコード作成時のタイム・スタンプ。
CNID	作成された各スレッドに割り当てられた ID。
CODE	イベントごとの最下位レベルの戻りコード。

表 10-3. 「Server Trace」パネルの列 (続き)

列	説明
COUNT	イベントを処理したルール数。
CPUTIME	特定のスレッドで使用された CPU 時間。形式は、ユーザーが使用した CPU 時間量によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> • 1000 秒未満: <i>mmn.nmns</i> • 1000 秒から 100 時間まで: <i>hh:mm:ss</i> • 100 時間以上: <i>hhhh: mm</i>
CVID	会話が開始したときに LU 6.2 が割り当てる会話 ID。
DATE	<i>dd:mm:yy</i> 形式での、メッセージが作成された日付。
ELAPSED	現行イベントが使用した合計時間 (10 進数のマイクロ秒 (100 万分の 1 秒) 単位)。合計を導き出すには、処理の開始時に記録された STCK (クロック保管) 値を、処理の終わりに記録された STCK 値から減算します。
EVENT	項目を作成したイベントのタイプ。
GTRIDTKN	グローバル・トランザクション。
HOSTNAME	TCP/IP ホスト名または LU 6.2 ホスト名。
HOSTX	拡張された TCP/IP ホスト名または IU6.2 ホスト名/モード。
IPADDR	項目に関連付けられている TCP/IP ソースまたはターゲットである IP アドレス。
ITCRC	インターリンク TCP/IP 戻りコード。
JOBID	項目を作成したジョブまたはアドレス・スペースのジョブ ID。
JOBNAME	項目を作成したジョブまたはアドレス・スペースの名前。
LENGTH	メッセージのテキスト・セクションの長さ。
LUNAME	メッセージに関連付けられている LU 6.2 ソースまたはターゲット。
MSGNO	メッセージ番号。データ収集が開始すると、メッセージ 1 は最初に収集されるメッセージ、メッセージ 2 は 2 番目のメッセージ、以下同様です。メッセージ領域内にスペースがない場合、新しいメッセージのスペースを確保するために最も古いメッセージが破棄されます。したがって、リスト内の先頭のメッセージがメッセージ 1 ではない場合があります。

表 10-3. 「Server Trace」パネルの列 (続き)

列	説明
MSGORIGN	メッセージが発信された SIS/XCF メンバー名。メッセージの起点の形式は SYSIDALS_SSIDSISID です。ここで、 <ul style="list-style-type: none"> • SYSID はシステム ID です。 • ALS_SSID は Accelerator Loader サーバーのサブシステム ID です。 • SISID は Instrumentation Server ID です。
NODENAME	メッセージに関連付けられている通信ノードの名前。各項目の形式は通信リンク・タイプによって異なります。
OERC	OE ソケットの TCP/IP 戻りコード。
PATHID	メッセージに関連付けられている IUCV パス ID。この列は、TCP/IP イベントにのみ適用されます。
RC	メッセージの最高レベルの戻りコード。
REASON	メッセージの第 2 レベルの戻りコード。
RULESET	NONE.NONE でイベントを処理した最初の RULESET.RULE の名前。
SDBFLAGS	トレースを作成したルーチンによって設定されたビット。
SECONDS	メッセージが作成された時点を示す、2 進タイム・スタンプの最初の 4 バイト。
SESSION	メッセージに関連付けられている通信セッション。各項目の形式は通信リンクのタイプによって異なります。
SOCKET	メッセージに関連付けられているソケット番号。この列は、TCP/IP イベントにのみ適用されます。
SQLRC	SQL 戻りコード。
SSID	サブシステム ID。例えば、DB2、IMS、または CICS。
TCBADDR	メッセージを作成した TCB のアドレスが入っている TCB アドレス・フィールド。
TERMNAME	イベントに関連付けられている端末の名前。
TIME	hh:mm:ss 形式での、メッセージが作成された時刻。
TIMEX	hh:mm:ss.uuuuuu 形式でマイクロ秒単位まで計算された、メッセージ作成時刻。
TRACE1	メッセージに固有のトレース・データ。
USERID	メッセージを最も適切に識別するセキュリティー製品ユーザー ID。
VCID	固有の仮想接続 ID。

表 10-3. 「Server Trace」パネルの列 (続き)

列	説明
VERSION	メッセージを生成した製品のバージョン。
VTAMRC	VTAM 戻りコード。
XIDTOKEN	XA トークン ID。

プロファイルの作成によるログ項目のフィルタリング

ログ項目のサブセットを表示するには、プロファイルを作成します。プロファイルで、表示する項目の選択に使用する基準を指定し、表示する特定のイベントを選択します。作成するプロファイルは、ログ項目の表示内容のみに影響を与えます。他のユーザーが独自のプロファイルを作成することができます。

手順

1. 「Server Trace」パネルで、コマンド行に PROFILE (オペランドなし) を入力します。
2. 「Trace Browse Profile」パネルで、以下の 1 つ以上のフィールドに**基準**を入力します。複数の基準を入力した場合、値は論理 AND 演算子で結合されます。1 つの基準に複数の値を入力した場合、値は論理 OR 演算子で結合されます。基準ごとに最大 4 つの値を入力できます。

表 10-4. プロファイル・フィルタリング基準

基準	説明
JOBNAME	JOBNAME 列に指定値が含まれている項目に制限します。アスタリスク (*) をワイルドカード文字として使用できます。
USERID	USERID 列に指定値が含まれている項目に制限します。アスタリスク (*) をワイルドカード文字として使用できます。
CONNECT	CONNECT 列に指定値が含まれている項目に制限します。
VCID	VCID (仮想接続 ID) 列に指定値が含まれている項目に制限します。
HOST NAME	HOST NAME 列に指定値が含まれている項目に制限します。アスタリスク (*) をワイルドカード文字として使用できます。
TCB	TCB 列に指定値が含まれている項目に制限します。
SSID	SSID 列に指定値が含まれている項目に制限します。アスタリスク (*) をワイルドカード文字として使用できます。
XIDTOKEN	XIDTOKEN (XA トークン ID) 列に指定値が含まれている項目に制限します。
GTRIDTKN	一致する GTRIDTKN (グローバル・トランザクション ID) が含まれている項目に制限します。

表 10-4. プロファイル・フィルタリング基準 (続き)

基準	説明
CONVTKN	一致する CONVTKN (会話トークン ID) が含まれている項目に制限します。
MSGORIGIN	一致する MSGORIGIN (メッセージ起点) が含まれている項目に制限します。アスタリスク (*) をワイルドカード文字として使用できません。以下の形式を使用して値を入力してください。 SYSIDALS_SSIDSISID。ここで、 <ul style="list-style-type: none"> • SYSID はシステム ID です。 • ALS_SSID は Accelerator Loader サーバーのサブシステム ID です。 • SISID は Instrumentation Server ID です。

3. Y または N を入力して、以下の特定タイプのイベントを結果セットに組み込むか、除外します。

表 10-5. プロファイル・フィルタリング・イベント

イベント	説明
ABN	異常終了項目。
APM	APPC/MVS 項目。
ATH	許可項目。
BKR	ACI ブローカー項目。
CMD	コマンド項目。
CPG	C プログラム項目。
DET	切り離し項目。
DIS	使用不可項目。
ECI	CICS EXCI 項目。
ENA	使用可能項目。
EXC	例外項目。
FIL	ファイル項目。
GLV	グローバル変数項目。
IMS	IMS 項目。
ITC	インターリンク TCP/IP 項目。
MFL	MicroFlow (MFL) 項目。
MQS	MQ メッセージ項目。
OTC	IBM OE ソケット TCP/IP 項目。
OTM	IMS/OTMA 項目。
PUB	Accelerator Loader サーバー z/Events 項目。
RPC	RPC 項目。
RRS	RRS 項目。

表 10-5. プロファイル・フィルタリング・イベント (続き)

イベント	説明
RSF	RRSAF 項目。
SIS	Instrumentation Server 項目。
SQL	SQL 項目。
SOM	Security Optimization Management 項目。
SQM	SQM 項目。
SSL	SSL 項目。
STG	ストレージ変更項目。
STR	システム・トレース項目。
TOD	時刻項目。
TSO	TSO 項目。
TXT	製品初期化、終了、および一般実行項目。
TYP	TYP 項目。
WLM	ワークロード・マネージャー項目。
WWW	WWW 項目。
XCF	カップリング・ファシリティ項目。
XTX	拡張テキスト項目。
ZSR	サービス項目。
6.2	LLU 6.2 項目。

4. **Enter** キーを押して、プロファイルを保管します。

特定のログ項目のラベル付けと検出

サーバー・ログ内の重要な項目を素早く見つけるには、項目のメッセージ番号をラベルで置き換えます。

手順

1. 「Server Trace」パネルで、DISPLAY コマンドを使用して該当する列を表示します。例えば、DISPLAY msgno date と入力します。
2. ラベルを追加する項目を見つけたら、MSGNO 列を編集し、ピリオドと最大 7 文字の英字から成るラベルを入力します。例えば、.POINTA と入力します。
3. LOCATE コマンドを入力して、その後に基準を入力します。例えば、時刻 21:51:58 の項目を検索するには、L 21:51:58 と入力します。

サーバー・ログ内の文字ストリングの検出

サーバー・ログ内の特定の文字ストリングを検出するには、FIND コマンドと RFIND コマンドを使用します。特定の一列または一連の列でストリングを検出できます。

手順

1. 「Server Trace」パネルで、FIND コマンドを入力して文字ストリングを検出します。USERID、EVENT、または SSID 列でストリングを検索するには、次の構文を使用します。

```
FIND column-name string prefix direction
```

ここで、

- *column-name* は USERID、EVENT、または SSID です。
- *string* は検索ストリングです。
- *prefix* は、検索ストリングが総称であることを指定し、接頭部文字のみを指定します。この引数は、EVENT 列または SSID 列を検索する場合に指定します。
- *direction* は、次に検出するマッチングを指定します。FIRST (デフォルト)、LAST、PREV、または NEXT を指定します。

一連の列でストリングを検索するには、次の構文を使用します。

```
FIND TEXT string direction start-column end-column msgno
```

ただし、以下のとおりです。

- TEXT は、項目のテキストのみを検索することを示すオプション・キーワードです。
- *string* は検索ストリングです。検索ストリングにブランク・スペースが含まれているか、FIND キーワードと同じである場合は、ストリングを引用符で囲みます。直前の FIND コマンドからの検索ストリングを使用するには、アスタリスク (*) を入力します。
- *direction* は、次に検出するマッチングを指定します。FIRST (デフォルト)、LAST、PREV、または NEXT を指定します。
- *start-column* は、検索の最初の列の番号を指定します。
- *end-column* は、検索の最後の列の番号を指定します。
- *msgno* は、検索する最大項目数です。デフォルトは 5000 です。

以下の FIND コマンドは、10,000 個のメッセージで列 10 から列 30 まで、先頭のメッセージ番号からストリング ADB1234W を検索します。

```
F 'HLV1234W XYZ' 10 30 10000
```

2. オプション: 直前の FIND コマンドを繰り返すには、RFIND を入力します。

サーバー・ログからの項目の出力

サーバー・ログ項目を ISPF リスト・データ・セットに出力するには、P、PP、および SS コマンドを使用します。

このタスクについて

出力する各項目には、「Server Trace」パネルで表示されるのと同じ列が含まれ、テキスト・フィールドの内容全体が含まれています。テキスト・フィールドが 1 行を超える場合、出力された項目は、追加の 3 行を含むように折り返されます。出力された項目を十分に保持できるスペースが ISPF リスト・データ・セットにあることを確認してください。SS コマンドには、PP コマンドより多くのスペースが必要です。SS コマンドは、トレース・ログに表示されているとおりに 1 個から 100 個の項目を出力し、その後に、項目ごとの詳細なフォーマットが続き、その後に次の 1 個から 100 個の項目が続きます。

手順

「Server Trace」パネルで、ログ項目を出力するために、以下のいずれかの手順を実行します。

- 単一の項目を出力するには、MESSAGENUM 列に P と入力します。
- 一連の項目の要約情報を出力するには、範囲内の先頭の項目と最後の項目で MESSAGENUM 列に PP と入力します。
- 要約情報と詳細情報を出力するには、MESSAGENUM 列に SS と入力します。

関連資料:

11-512 ページの『サポート用の診断情報』
問題が発生して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡を取る必要がある場合は、サポートに連絡する前に Accelerator Loader システムと問題に関する特定の情報を収集する必要があります。サポート担当員が問題を正しく診断して解決するために、この情報が必要です。

クライアントのタイムアウト・パラメーターの変更

サーバーがスレッドを閉じる前に、スレッドがアイドル状態のまま経過する最大の時間の長さを変更できます。

このタスクについて

Accelerator Loader サーバーは、複数のスレッドを使用してソース・システムからデータを読み取ります。1 つのスレッドがアイドル状態になってタイムアウトになると、サーバーはすべてのスレッドの処理を停止します。サーバーが処理を停止する前にスレッドがアイドル状態のまま経過する最大の時間の長さは、DSCLIENTCONNTIMEOUT パラメーターによって制御されます。

DSCLIENTCONNTIMEOUT のデフォルト値は 20 分です。有効な値は、1 から 1440 分の範囲内です。タイムアウト値を変更するには、以下の手順で行います。

手順

1. データ・セット *hlq.SHLVEXEC* で、メンバー *hlvidIN00* を見つけます。ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。
2. **MODIFY PARM** コマンドを使用して、DSCLIENTCONNTIMEOUT パラメーター値を以下のように変更します。

```
"MODIFY PARM NAME(DSCLIENTCONNTIMEOUT) VALUE(10)"
```

サーバーからの SMF レコードの作成

システム管理機能 (SMF) は、SMF データ・セットに使用状況の情報を記録する方法を提供します。

SMF サポートは、システムの使用状況の評価に使用される情報を収集し記録するための手段を提供します。また、SMF は Accelerator Loader サーバーに関する情報も収集できます。

サーバーは、サーバーのアクティビティーをログに記録するための SMF レコードを作成できます。このセクションで説明されているとおりに、サーバーが SMF レコードを作成できるようにしてください。

次の表は、SMF パラメーターをリストしています。

表 10-6. SMF パラメーター

パラメーター	説明	有効な値
CHECKSTORAGEINTERV	割り振られたストレージの統計が Accelerator Loader サーバーで収集される頻度 (秒数) を制御します。値が 0 の場合、この機能はオフになります。	0
LOGERRORSSMF	DB2 SQL エラー情報が SMF に書き込まれるかどうかを制御します。YES に設定される場合、この値は SMF サブタイプ 13 レコードを生成します。 SMF サブタイプ 13: DB2 SQL エラー	YES NO これはデフォルト値です。
LOGINTERVALS	セッション間隔情報がログに記録されるかどうかを制御します。セッション間隔情報をログに記録するには、DB2 表に行を挿入します。各記録間隔の終わりおよびセッション終了時にセッションごとに 1 行が挿入されます。	YES NO これはデフォルト値です。
LOGINTERVALSSMF	セッション間隔情報が SMF に書き込まれるかどうかを制御します。	YES NO これはデフォルト値です。
LOGLSESSIONINTVALSMF	間隔タイプ・レコードが SMF に書き込まれるかどうかを制御します。間隔レコードはセッション・ログにも書き込まれます。 SMF サブタイプ 02: 間隔要約レコード	YES NO これはデフォルト値です。
LOGSTORAGESMF	ストレージ使用状況情報が SMF に書き込まれるかどうかを制御します。ストレージ使用状況情報は DB2 表にも書き込むことができます。 SMF サブタイプ 09: ストレージ間隔要約レコード	YES NO これはデフォルト値です。

表 10-6. SMF パラメーター (続き)

パラメーター	説明	有効な値
RECORDINGINTERVAL	<p>間隔要約およびクライアント当たりの SMF または SQL レコード (もしくはその両方) が作成される頻度を制御します。これらのレコードは、現行の記録間隔中に使用されたりリソースを示します。間隔値は秒単位で指定され、1 時間区切りにする必要があります。つまり、その値が 3600 で割り切れる必要があります。</p>	900 (デフォルト)
SMFNUMBER	<p>SMF 記録を制御します。SMF 記録を使用可能にするには、SMFNUMBER を必要な数値に設定します。ゼロに設定されると、ロギングは行われません。</p>	<p>0 (デフォルト)</p> <p>ロギングなし</p>
SMFRULEDISABLE	<p>このタイプの SMF レコードが書き込まれるかどうかを示します。</p> <p>SMF サブタイプ 03: SEF ルール無効化レコード</p>	<p>YES</p> <p>NO これはデフォルト値です。</p>
SMFTRANSACT	<p>SMF トランザクション・レコードの作成を制御します。可能な値は YES および NO です。</p> <p>YES に設定される場合、インバウンド・クライアント要求ごとに SMF レコードが作成されます。</p> <p>NO に設定される場合、トランザクションごとのレコードは作成されません。</p> <p>SMF サブタイプ 06: トランザクション当たりの SMF レコード</p>	<p>YES</p> <p>NO これはデフォルト値です。</p>

関連タスク:

3-57 ページの『SMF ファイルへのアクセスの構成』

順次ファイル・ソース・メソッドを使用して、システム管理機能 (SMF) データをアクセラレーターにロードすることができます。SMF ファイルへのアクセスを構成するには、Accelerator Loader サーバー JCL、サーバー構成メンバー、およびサーバー仮想表メンバーを構成する必要があります。

サブタイプ 02 レコードの有効化

サブタイプ 02 レコードは各間隔の最後書き込まれ、その特定の区間中に接続されているすべてのユーザーのセッション情報が含まれています。その区間中にすべての接続によって使用されるすべてのリソースがここに記録されます。

このタスクについて

これらのレコードが書き込まれる区間は、RECORDINGINTERVAL パラメーターによって決定されます。

LOGINTERVALS パラメーターがデータ・セット *hlq.SHLVEXEC* メンバー *hlvidIN00* で YES に設定される場合、区間要約レコードは自動的に書き込まれます。ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。区間レコードを SMF にも記録するには、LOGINTERVALS が有効でなければなりません。

手順

Accelerator Loader サーバーのログイン表に区間レコードを記録する一方で、区間情報を SMF に記録しない場合は、以下のパラメーターを Accelerator Loader サーバー・ファイルを追加できます。LOGINTERVALS が YES に設定される場合、区間情報の SMF ログインを無効にするには、次のようにします。

```
"MODIFY PARM NAME(LOGLSESSIONINTVALSMF) VALUE(NO)"
```

ここで、LOGLSESSIONINTVALSMF は、区間タイプ・レコードが SMF に書き込まれるかどうかを制御します。区間レコードはセッション・ログにも書き込まれます。

SMF サブタイプ 02: 区間要約レコード

次の表は、サブタイプ 02 のレコード情報を示しています。

表 10-7. サブタイプ 02 のレコード情報

オフセット	Field Name	フィールドのサブタイプまたは値	説明
1	SMFHFG	BL1	ヘッダー・フラグ・バイト。 <ul style="list-style-type: none">• X'10' = MVS/ESA 4• X'08' = MVS/XA• X'04' = MVS/ESA• X'02' = VS2
2	SMFHRCTY	BL1	レコード・タイプ
3	SMFHTIME	BL4	レコード書き込み時刻 (TIME BIN)
7	SMFHDATE	PL4	レコード書き込み日 (0CYDDDDF)
11	SMFHSYID	CL4	システム ID (SMFID)
15	SMFHSSID	CL4	サブシステム ID (<i>hlvid</i> 、ここで、 <i>hlvid</i> は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します)
19	SMFHSTUTY	BL2	レコードのサブタイプ

表 10-7. サブタイプ 02 のレコード情報 (続き)

オフセット	Field Name	フィールドのサブタイプまたは値	説明
21	SMFHVRCD	CL8	Accelerator Loader サーバー バージョン・コード
37	SM02SMID	CL4	ホスト・システム (SMF ID)
41	SM02PDSS	CL4	製品サブシステム名
45	SM02RCTY	C	レコード・タイプ: C'I'=INTERVAL SUMMARY レコード・タイプ
53	SM02INST	CL8	間隔開始時刻
61	SM02SQCN	F	SQL COUNT
69	SM02ENCP	CL8	エンクレーブ CPU 時間
77	SM02CLCP	CL8	クライアント・タスク CPU 時間
85	SM02DBCP	CL8	DB2 CPU 時間
93	SM02NTCP	CL8	ネットワーク CPU 時間
101	SM02OHCP	CL8	OTHER CPU 時間
109	SM02RXCP	CL8	REXX CPU 時間
117	SM02RPCP	CL8	RPC CPU 時間
125	SM02ELTM	XL8	CLIENT ELAPSED 時間 (TOD)
133	SM02WRTO	XL8	RAW TOTAL BYTES WRITTEN
141	SM02USCN	F	USER カウント FOR THIS INTERVAL
145	SM02MXUS	F	MAX INTERVAL CONCURRENT USERS
149	SM02RPHW	F	RPC HIGH WATER MARK
153	SM02RPCU	F	CURRENT NUMBER EXECUTING RPCS
157	SM02CLWT	XL8	CLIENT WAIT 時間
165	SM02CLRC	F	CLIENT READ DATA カウント
173	SM02ENZQ	D	エンクレーブ zIIP QUALIFIED CPU 時間
181	SM02ENZI	D	エンクレーブ zIIP CPU 時間
189	SM02ENZC	D	エンクレーブ zIIP 時間 ON CP
197	SM02SLCP	D	SSL CPU 時間
205	SM02SRCP	D	SRB CPU 時間

サブタイプ 03 レコードの有効化

サブタイプ 03 レコードは、Event Facility (SEF) ルールが無効になるたびに作成されます。その間隔中にすべての接続によって使用されるすべてのリソースがここに記録されます。

このタスクについて

これらのレコードは、通常、Accelerator Loader サーバーのシャットダウン時に書き込まれます。また、ルールが手動で無効になる場合にも書き込まれます。

手順

1. データ・セット *hlq.SHLVEXEC* で、メンバー *hlvidIN00* を見つけます。ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。
2. 以下の SMFRULEDISABLE パラメーターを追加します。

```
"MODIFY PARM NAME(SMFRULEDISABLE) VALUE(YES)"
```

ここで、SMFRULEDISABLE は、このタイプの SMF レコードが書き込まれるかどうかを示します。

SMF サブタイプ 03: SEF ルール無効化レコード

次の表は、サブタイプ 03 のレコード情報を示しています。

表 10-8. サブタイプ 03 のレコード情報

オフセット	Field Name	フィールドのサブタイプまたは値	説明
1	SMFHFG	BL1	ヘッダー・フラグ・バイト。 <ul style="list-style-type: none">• X'10' = MVS/ESA 4• X'08' = MVS/XA• X'04' = MVS/ESA• X'02' = VS2
2	SMFHRCTY	BL1	レコード・タイプ
3	SMFHTIME	BL4	レコード書き込み時刻 (TIME BIN)
7	SMFHDATE	PL4	レコード書き込み日 (0CYDDDDF)
11	SMFHSYID	CL4	システム ID (SMFID)
15	SMFHSSID	CL4	サブシステム ID (<i>hlvid</i> 、ここで、 <i>hlvid</i> は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します)
19	SMFHSUTY	BL2	レコードのサブタイプ
21	SMFHVRCD	CL8	Accelerator Loader サーバー バージョン・コード
37	SM03RLTY	C	ルール・タイプ・フラグ
38	SM03LACK	XL8	このルールが最後に実行された時刻 (TOD)
49	SM03PRCN	F	プロセス・カウント
53	SM03FILI	F	発生限界
57	SM03FIMX	F	間隔ごとの発生上限基準点
61	SM03RSNM	CL8	ルール・セット名
69	SM03RLNM	CL8	ルール名
77	SM03ENTM	BL4	ルール有効化時刻 (TIME BIN)
81	SM03ENDT	PL4	ルール有効化日 (0CYDDDDF)
85	SM03CR	CL128	ルール基準
213	SM03ENTT	XL4	合計有効時間 (秒)

サブタイプ 06 レコードの有効化

サブタイプ 06 レコードは、インバウンド・クライアント要求ごとに書き込まれます。

このタスクについて

各 SMF トランザクション・レコードには、トランザクション要求ごとにクライアントのために実行されるすべての作業に関する情報が入っています。インバウンド・クライアント要求により、SQL 操作が実行されなかったか、1 つ以上の SQL 操作が実行された可能性があります。この機能により、大容量環境で多数の SMF レコードが書き込まれることがあります。これは、トランザクションごとに 1 つの SMF レコードが作成されるためです。

手順

Accelerator Loader サーバー・メンバーで SMFTRANSACT パラメーターを追加して、サブタイプ 06 レコードを有効にします。

```
"MODIFY PARM NAME SMFTRANSACT VALUE(YES)"
```

ここで、SMFTRANSACT は、SMF トランザクション・レコードの作成を制御します。YES に設定される場合、インバウンド・クライアント要求ごとに SMF レコードが作成されます。

SMF サブタイプ 06: トランザクション当たりの SMF レコード

次の表は、サブタイプ 06 のレコード情報を示しています。

表 10-9. サブタイプ 06 のレコード情報

オフセット	Field Name	フィールドのサブタイプまたは値	説明
1	SMFHFG	BL1	ヘッダー・フラグ・バイト。 <ul style="list-style-type: none">• X'10' = MVS/ESA 4• X'08' = MVS/XA• X'04' = MVS/ESA• X'02' = VS2
2	SMFHRCTY	BL1	レコード・タイプ
3	SMFHTIME	BL4	レコード書き込み時刻 (TIME BIN)
7	SMFHDATE	PL4	レコード書き込み日 (0CYYDDDF)
11	SMFHSYID	CL4	システム ID (SMFID)
15	SMFHSSID	CL4	サブシステム ID (<i>hlvid</i> 、ここで、 <i>hlvid</i> は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します)
19	SMFHSTUTY	BL2	レコードのサブタイプ
21	SMFHVRCD	CL8	Accelerator Loader サーバー バージョン・コード
37	SM06CLNA	CL16	クライアント・マシンのホスト名

表 10-9. サブタイプ 06 のレコード情報 (続き)

オフセット	Field Name	フィールドのサブタイプまたは値	説明
53	SM06CLTY	CL8	クライアント通信タイプ
61	SM06IPAD	XL4	TCP/IP クライアントの IP アドレス
65	SM06CLUS	CL8	クライアント・ユーザー ID
73	SM06CNID	XL4	固有のクライアント接続 ID
77	SM06SQOP	XL2	SQL 操作コード
79	SM06GNID	CL8	汎用ユーザー ID
87	SM06EXSZ	H	拡張ユーザー ID サイズ
89	SM06EXID	CL50	拡張ユーザー ID 領域
89	SM06SIID	CL16	SQLESETI クライアント・ユーザー ID
105	SM06WSNA	CL18	SQLESETI クライアント・ワークステーション名
139	SM06GNVL	CL1	汎用 ID の検証
140	SM06SETI	CL1	拡張ユーザー ID が SQLESETI (Y または N)
141	SM06PDSS	CL4	4 文字の Accelerator Loader サーバー・サブシステム名
145	SM06PLAN	CL8	DB2 プラン名
153	SM06SSNA	CL4	DB2 subsystem name
157	SM06ADLT	XL8	GMT と現地時間の差に合わせて調整されたクライアント・ログオン時刻
165	SM06ADCU	XL8	現在時刻 (GMT に合わせて調整)
173	SM06ELTM	XL8	クライアント接続の経過時間
181	SM06SQEL	XL8	現在の SQL ステートメント経過時間
189	SM06SQCP	XL8	現在の SQL ステートメント CPU 時間
197	SM06SQRC	F	現在の SQL ステートメント戻りコード
201	SM06SQRE	F	現在の SQL ステートメント理由コード
205	SM06SQSQ	F	現在の SQL ステートメント SQL コード
209	SM06SQAB	F	現在の SQL ステートメント異常終了コード
217	SM06VCID	F	現行ユーザーの VCID
221	SM06APPL	CL32	SQLESETI アプリケーション名
221	SM06APNA	CL18	アプリケーション名
253	SM06ATKN	CL22	SQLESETI アカウンティング・トークン
281	SM06NASB	CL8	Natural サブプログラム名
289	SM06SQAC	F	実際の SQL スtring の長さ
293	SM06SQLN	F	SQL ソースの長さ
297	SM06SQSR	CL256	SQL ソース・String

サブタイプ 09 レコードの有効化

サブタイプ 09 レコードは、16 MB 境界の上および下の Accelerator Loader サーバー・ストレージの使用をモニターするために使用されます。

このタスクについて

これらのレコードは、各 Accelerator Loader サーバー・ストレージ記録間隔の終わりに書き込まれます。これは CHECKSTORAGEINTERVAL パラメーターによって設定されます。CHECKSTORAGEINTERVAL パラメーターが 0 (デフォルト) に設定される場合、ストレージ使用記録は Accelerator Loader サーバーで無効になります。

手順

1. データ・セット *hlq.SHLVEXEC* で、メンバー *hlvidIN00* を見つけます。ここで、*hlvid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。
2. 以下の LOGSTORAGESMF パラメーターを追加します。

```
"MODIFY PARM NAME(LOGSTORAGESMF) VALUE(YES)"
```

ここで、LOGSTORAGESMF はストレージ使用状況情報が SMF に書き込まれるかどうかを制御します。ストレージ使用状況情報は DB2 表にも書き込むことができます。

SMF サブタイプ 09: ストレージ間隔要約レコード

次の表は、サブタイプ 09 のレコード情報を示しています。

表 10-10. サブタイプ 09 のレコード情報

オフセット	Field Name	フィールドのサブタイプまたは値	説明
1	SMFHFG	BL1	ヘッダー・フラグ・バイト。 <ul style="list-style-type: none">• X'10' = MVS/ESA 4• X'08' = MVS/XA• X'04' = MVS/ESA• X'02' = VS2
2	SMFHRCTY	BL1	レコード・タイプ
3	SMFHTIME	BL4	レコード書き込み時刻 (TIME BIN)
7	SMFHDATE	PL4	レコード書き込み日 (0CYDDDDF)
11	SMFHSYID	CL4	システム ID (SMFID)
15	SMFHSSID	CL4	サブシステム ID (<i>hlvid</i> 、ここで、 <i>hlvid</i> は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します)
19	SMFHSUTY	BL2	レコードのサブタイプ
21	SMFHVRCD	CL8	Accelerator Loader サーバー バージョン・コード
37	SM09SMID	CL4	ホスト・システムの SMFID
41	SM09PDSS	CL4	製品サブシステム名

表 10-10. サブタイプ 09 のレコード情報 (続き)

オフセット	Field Name	フィールドのサブタイプまたは値	説明
45	SM09RCTY	C	レコード・タイプ
53	SM09INST	CL8	間隔開始時刻
77	SM09MXUS	F	最大間隔同時ユーザー
81	SM09TSSP	F	一時サブプール
85	SM09TSBE	F	一時 HI ALLOC BTL
89	SM09TSAB	F	一時 HI ALLOC ATL
93	SM09HWBA	246D	HI ALLOC BTL HI ALLOC ATL

サブタイプ 13 レコードの有効化

サブタイプ 13 レコードは、LOGERRORSSMF パラメーターによるエラー記録に使用されます。これらのレコードには DB2 SQL エラーが含まれています。この記録は、DB2 表に DB2 SQL エラーを記録する既存の LOGERRORS パラメーターを補うものです。

手順

- データ・セット *hlq.SHLVEXEC* で、メンバー *hlvoidIN00* を見つけます。ここで、*hlvoid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します。
- 以下の LOGERRORSSMF パラメーターを追加します。

```
"MODIFY PARM NAME(LOGERRORSSMF) VALUE(YES)"
```

ここで、LOGERRORSSMF は、DB2 SQL エラー情報が SMF に書き込まれるかどうかを制御します。SMF サブタイプ 13 レコードを生成するには、この値を YES に設定します。

SMF サブタイプ 13: DB2 SQL エラー

次の表は、サブタイプ 13 のレコード情報を示しています。

表 10-11. サブタイプ 13 のレコード情報

オフセット	フィールド名	フィールドのサブタイプまたは値	説明
1	SMFHFG • SMFHESA4 • SMFHXA • SMFHESA • SMFHVS2	BL1	ヘッダー・フラグ・バイト。 • X'10' = MVS/ESA 4 • X'08' = MVS/XA • X'04' = MVS/ESA • X'02' = VS2
2	SMFHRCTY	BL1	レコード・タイプ
3	SMFHTIME	BL4	レコード書き込み時刻 (TIME BIN)
7	SMFHDATE	PL4	レコード書き込み日 (0CYDDDDF)
9	SM13GNVL	CL1	汎用 ID の検証

表 10-11. サブタイプ 13 のレコード情報 (続き)

オフセット	フィールド名	フィールドのサブタイプまたは値	説明
11	SMFHSYID	CL4	システム ID (SMFID)
15	SMFHSSID	CL4	サブシステム ID (<i>hloid</i> 、ここで、 <i>hloid</i> は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator Loader サーバー開始タスクの名前を表します)
19	SMFHSTY	BL2	レコードのサブタイプ
21	SMFHVRCD	CL8	Accelerator Loader サーバーのバージョン・コード
37	SM13SMID	CL4	ホスト・システムの SMFID
41	SM13PDSS	CL4	製品サブシステム名
45	SM13RCTY	C	レコード・タイプ
49	SM13SSAC	CL4	グループ接続メンバー名
69	SM13USID	CL8	クライアント・ユーザー ID
77	SM13GNID	CL8	汎用ユーザー ID
85	SM13EXID	CL(2+254)	拡張ユーザー ID
341	SM13HONA	CL(2+100)	クライアント・ホスト名
441	SM13PRTY	CL(2+8)	プロトコル・タイプ
453	SM13IPAD	XL4	IP クライアントの IP アドレス
457	SM13LUNA	CL(2+17)	LU 6.2 クライアントの LU 名
477	SM13CNID	F	セッション ID
481	SM13TMSP	CL8	現在のタイム・スタンプ
489	SM13LGTM	CL8	ログオン・タイム・スタンプ
497	SM13APNA	CL(2+18)	アプリケーション名
517	SM13PLAN	CL8	DB2 プラン名ストリング
525	SM13SSNA	CL4	DB2 サブシステム名ストリング
529	SM13CUNM	F	カーソル番号
533	SM13RC	F	戻りコード
537	SM13RECD	F	理由コード CODE
541	SM13SQCD	F	SQL コード
545	SM13ABCD	F	異常終了コード
549	SM13STNM	F	ステートメント番号
553	SM13STTY	F	ステートメント・タイプ

トラブルシューティング

DB2 Analytics Accelerator Loader で発生する問題に対して、これらのトピックを使用して、診断および修正を行います。

トピック:

- 『メッセージおよびコード』
- 11-511 ページの『Tools Customizer のトラブルシューティング』
- 11-512 ページの『サポート用の診断情報』
- 11-513 ページの『診断用のダンプの生成』
- 11-514 ページの『ジョブが失敗した後の共通ストレージのクリーンアップ』
- 11-515 ページの『DSNUTILB インターセプトの管理』
- 11-522 ページの『Accelerator Loader スタジオおよび Accelerator Loader サーバーのトラブルシューティング』

メッセージおよびコード

以下のトピックには、Tools Customizer と Accelerator Loader が発行するメッセージとコードに関する情報を記載しています。

Tools Customizer のメッセージ

これらのメッセージの情報は、Tools Customizer の問題の診断と解決に役立ちます。

CCQB000I The product parameter data was saved in the data store.

説明: 製品パラメーターに加えられた変更内容が、データ・ストアに保管されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQB001I The DB2 parameter data was saved in the data store.

説明: DB2 パラメーターに加えられた変更内容が、データ・ストアに保管されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQB002I The LPAR parameter data was saved in the data store.

説明: LPAR パラメーターに加えられた変更内容が、データ・ストアに保管されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQB003E At least one step must be selected in a selected task. The selected task is *task_description*.

説明: タスクが選択される場合、少なくとも 1 つのステップが選択されなければなりません。選択されるステップが指定のタスクから欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 指定のタスクでステップを選択するか、タスクの選択を解除してください。

CCQB004I The required information to run the Discover EXEC was saved in the data store.

説明: Discover EXEC の実行に必要なすべての情報が、データ・ストアに入っています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQB005E The conflicting values for the *parameter_name* parameter must be resolved before the information can be saved.

説明: あるパラメーターに関する 2 つの値が互いに矛盾しており、情報を保管するためには、その矛盾を解決する必要があります。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: パラメーターに関して矛盾している値を解決してください。

CCQB006E One row must be selected.

説明: 表内の 1 行を選択する必要があります。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 1 行を選択してください。

CCQB007E Only one row can be selected.

説明: 表内の複数の行が選択されていますが、選択できるのは 1 行のみです。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 1 行のみ選択してください。

CCQC000I The jobs have been customized on the selected DB2 entries.

説明: 選択された DB2 エントリーでジョブがカスタマイズされました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: Enter を押して、メッセージをクリアしてください。

CCQC001W The jobs were not generated on one or more of the selected DB2 entries. Press PF3 to check the DB2 entries that were not customized.

説明: 選択された DB2 エントリーの 1 つ以上で製品がカスタマイズされませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: PF3 を押して、製品がカスタマイズされなかった DB2 エントリーを確認してください。これらの DB2 エントリーの状況は「Errors in Customization」になります。

CCQC002I The edit session was started automatically because values for required parameters are missing or must be verified.

説明: 製品、LPAR パラメーター、または DB2 パラメーターが定義されていない場合、またはパラメーター定義の検証が必要である場合、未定義パラメーターまたは未検証パラメーターの編集セッションが自動的に開始します。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: すべての必須の、製品、LPAR パラメーター、または DB2 パラメーターに値を定義してください。

CCQC003W The *template_name* template in the *library_name* metadata library does not contain any parameters.

説明: 指定のテンプレートにパラメーターがありません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQC004S The value of the "type" attribute for the *template_name* template in the *library_name* metadata library does not match the value that was previously specified. The value is *value_name*, and the previously specified value is *value_name*.

説明: 「type」属性の値は、以前に指定された値と一致しなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC005S The *template_name* template exceeds the number of allowed templates for a customization sequence. The template is in the *library_name* metadata library.

説明: カスタマイズ・シーケンスは、*number* 個のテンプレートのみを処理できます。カスタマイズ・シーケンスに既に最大数のテンプレートが含まれているため、指定されたテンプレートを処理できません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC006E The jobs could not be generated for the *group_attach_name* DB2 group attach name.

説明: 指定された DB2 グループ接続名のカスタマイズ・ジョブを生成できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC007E The jobs could not be generated for the *subsystem_ID* DB2 subsystem.

説明: 指定された DB2 サブシステムのカスタマイズ・ジョブを生成できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC008E The jobs could not be generated for the *member_name* DB2 member.

説明: 指定された DB2 メンバーのカスタマイズ・ジョブを生成できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC009S The jobs were not generated for the DB2 entries.

説明: 選択された DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブの生成中に、1 つ以上のエラーが発生しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC010S The *template_name* template could not be accessed in the *library_name* metadata library.

説明: データ・セットに対する RACF アクセス権限がユーザーにないか、データ・セットに誤ったデータ特性

があるか、データ・セットがカタログされていないため、指定されたテンプレートにアクセスできませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: データ・セットに対する RACF アクセス権限があること、カスタマイズしようとする製品の仕様に従って特性が正しいこと、およびデータ・セットがカタログされていることを確実にしてください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC011S The *template_name* template could not be written to the *library_name* customization library.

説明: データ・セットに対する RACF アクセス権限がユーザーにないか、データ・セットに誤ったデータ特性があるか、データ・セットがカタログされていないため、指定されたテンプレートにアクセスできませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: データ・セットに対する RACF アクセス権限があること、カスタマイズしようとする製品の仕様に従って特性が正しいこと、およびデータ・セットがカタログされていることを確実にしてください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC012W The job card was generated with default values because the JOB keyword was missing.

説明: ジョブ・カードの最初の行で JOB キーワードが指定されなかったため、ジョブ・カードの生成にデフォルト値が使用されました。

システムの処置: ジョブ・カードは、デフォルト値を使用して生成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。独自の値を使用してジョブ・カードを生成するには、ジョブ・カードの最初の行に JOB キーワードを追加してください。

CCQC013W The job card was generated with the default value for the programmer name because the specified programmer name exceeded 20 characters.

説明: 指定されたプログラマー名に含まれている文字数が多すぎたため、ジョブ・カードの生成にデフォルト値が使用されました。

システムの処置: ジョブ・カードは、デフォルト値を使用して生成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。独自の値を使用してジョブ・カードを生成するには、有効なプログラマー名をジョブ・カードに追加してください。有効なプログラマー名は 1 文字から 20 文字です。

CCQC014W The job card was generated with default values because the JOB keyword was not followed by a space.

説明: JOB キーワードの後に 1 つのスペースが続いていなかったため、ジョブ・カードの生成にデフォルト値が使用されました。

システムの処置: ジョブ・カードは、デフォルト値を使用して生成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。独自の値を使用してジョブ・カードを生成するには、ジョブ・カードの JOB キーワードの後に 1 つのスペースを追加してください。

CCQC015S The *template_name* template in the *library_name* metadata library contains the following file-tailoring control statement: *statement_name*. This control statement is not valid in a *template_type* template.

説明: *template_type* テンプレートに、指定されたタイプのファイル調整制御ステートメントを含むことはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC016S The)DOT file-tailoring control statement exceeded the number of allowed occurrences for the *template_name* template in the *library_name* metadata library.

説明:)DOT ファイル調整制御ステートメントは、指定されたテンプレートで制限された回数のみ生じることができます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC017S The nested)DOT file-tailoring control statements exceeded the number of allowed occurrences in the *template_name* template in the *library_name* metadata library.

説明: ネストされた)DOT ファイル調整制御ステートメントは、*number* 回のみ生じることができます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC018S The *template_name* template in the *library_name* metadata library is not valid because it does not contain any data.

説明: 指定されたテンプレートには、必要なデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC019S The *template_name* template in the *library_name* metadata library is not valid because an)ENDDOT file-tailoring control statement is missing.

説明: 指定されたテンプレートでは、)ENDDOT ファイル調整制御ステートメントが必要です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC021S The *template_name* template in the *library_name* metadata library is not valid because the template must start with the *parameter_name* job card parameter.

説明: 指定されたテンプレートは、指定されたジョブ・カード・パラメーターで始まらなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC022S The parameters used in a)DOT file-tailoring control statement exceeded the number of allowed parameters in the *template_name* template. The template is in the *library_name* metadata library. The error occurs in)DOT section *section_number*.

説明:)DOT ファイル調整制御ステートメントには、制限された数のパラメーターしか含むことができません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC023S The)DOT file-tailoring control statement must include the *table-name* table name in the *template_name* template. The template is in the *library_name* metadata library. The error occurs in)DOT section *section_number*.

説明:)DOT ファイル調整制御ステートメントには、必要なテーブル名が欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC024S ISPF file tailoring failed for the *template_name* template in the *library_name* metadata library.

説明: 指定されたテンプレートの ISPF ファイル調整中にエラーが発生しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: Tools Customizer により生成されたトレース・データ・セット、および ISPF ファイル調整トレース・データ・セットを参照してください。ISPF ファイル調整トレース・データ・セットを作成するには、以下のステップを実行します。

1. エラーが発生する寸前まで、Tools Customizer を実行します。
2. ISPFTRC コマンドを指定し、Enter を押します。
3. エラーを出す Tools Customizer コマンドを発行します。
4. ISPFTRC コマンドを指定し、Enter を押します。ISPF ファイル調整トレース・データ・セットが作成されます。このトレース・データ・セットの命名規

則は、*TSO_ID.ISPFT.TRACE* です。ここで、*TSO_ID* は、使用されている TSO ユーザー ID です。

問題が解決しない場合は、以下の情報を収集したうえで、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

- Tools Customizer エラーの画面キャプチャー。PF1 を押して、エラー・メッセージ全体が表示されるようにしてください。
- Tools Customizer トレース・データ・セット。このトレース・データ・セットの命名規則は、*TSO_ID.CCQ.TRACE* です。ここで、*TSO_ID* は、Tools Customizer を実行している TSO ユーザー ID です。
- ISPF ファイル調整トレース・データ・セット。

CCQC025I Customized jobs do not exist because they have not been generated.

説明: どの DB2 エントリーでも製品がカスタマイズされなかったため、カスタマイズされたジョブのリストを表示できません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 製品をカスタマイズするステップを実行してください。カスタマイズされたジョブが生成されるのは、すべての必須の製品パラメーター、LPAR パラメーターおよび DB2 パラメーターが定義され、製品をカスタマイズする DB2 エントリーが少なくとも 1 つ選択されている場合です。

CCQC026S The value of the "customized" attribute for the *parameter_name* parameter in the *library_name* metadata library template does not match the value that was previously specified. The value is *value_name*, and the previously specified value is *value_name*.

説明: パラメーターの「customized」属性の値は、以前に指定された値と一致しなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC027S The *job_name* customization job was not found in the *library_name* customization library.

説明: 選択されたカスタマイズ・ジョブがカスタマイズ・ライブラリーに存在しません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC028S The *library_name* customization library was not found.

説明: このカスタマイズ・ライブラリーは存在しません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC029I The customization jobs were generated for *Product_name*.

説明: 特定の製品のカスタマイズ・ジョブが生成されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQC030S The customization jobs cannot be generated because at least one DB2 entry must be associated with this product.

説明: カスタマイズする製品のためのカスタマイズ・ジョブを生成するには、その前に、少なくとも 1 つの DB2 エントリーが関連付けられている必要があります。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: カスタマイズする製品に DB2 エントリーを関連付けてから、ジョブを再生成してください。

CCQC031I The jobs were generated for the associated DB2 entries.

説明: 製品に関連付けられている DB2 エントリーのカスタマイズ・ジョブが生成されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQC032S The customization jobs were not generated for *Product_name*.

説明: 指定された製品のジョブを生成中に、重大エラーが発生しました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQC033S The *customization_library_name* has no customized jobs.

説明: 指定されたカスタマイズ・ライブラリーは空であるため、ブラウズも編集もできません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 指定されたライブラリーのカスタマイズ・ジョブを生成し、そのライブラリーのブラウズまたは編集を再度実行してください。

CCQC034S The specified operation is not allowed.

説明: 「Finish Product Customization」パネルで開始された ISPF ブラウズまたは編集セッションから、カスタマイズ・ライブラリーのカスタマイズ・ジョブに対してコマンドを発行することは制限されています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: カスタマイズ・ジョブに変更を加えるには、再カスタマイズのステップに従ってください。

CCQC035E Before you generate customization jobs, edit the product parameters to select one or more tasks or steps, and then issue the G line command or the GENERATEALL command again.

説明: カスタマイズ・ジョブを生成するには、その前に、1 つ以上のタスクまたはステップが選択されていなければなりません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 製品パラメーターを編集して、1 つ以上のタスクまたはステップを選択します。次に、G 行コマンドまたは GENERATEALL コマンドを再実行します。

CCQC036E Before you exit the Product Parameters panel, you must select one or more tasks or steps to generate customization jobs or issue the CANCEL command.

説明: カスタマイズ・ジョブを生成するには、1 つ以上のタスクまたはステップが選択されている必要があります。あるいは、「Product Parameters」パネルを終了する前に CANCEL コマンドを実行する必要があります。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 1 つ以上のタスクまたはステップを選択するか、CANCEL コマンドを実行してください。

CCQD000W The *member_name* environment index member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: 指定された環境索引メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 警告について詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD001S The *member_name* environment index member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: 指定された環境索引メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: エラーについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD002S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: 指定された環境索引メンバー内に、不明なエレメントが含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD003S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: コンテンツを含めることができないエレメントでコンテンツが見つかりました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD004S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントには必須コンテンツが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD005S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. The content length for the *element_name* element exceeds *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD006S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. The *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 環境索引メンバー内で、指定されたエレメントの発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD007S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 環境索引メンバー内で、指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD008S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 環境索引メンバー内で、指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD009S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 環境索引メンバー内で、指定された属性の発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD010S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: コンテンツを含めることができない属性でコンテンツが見つかりました。属性の名前とその属性を含むエ

レメントの名前は、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD011S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 属性には必須コンテンツが含まれていません。属性の名前とその属性を含むエレメントの名前は、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD012S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. The content length for the *element_name* element exceeds *maximum_number* characters.

説明: エレメントの文字数が多すぎます。エレメントの名前および許される最大文字数が、メッセージ・テキストで示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD013S The XML structure of the *member_name* environment index member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: 環境索引メンバー内に、不明な属性が含まれています。不明な属性の名前とその属性を含むエレメントの名前が、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD050S The following LPAR serial number is duplicated in the environment index member: *serial_number*.

説明: 環境索引メンバー内に、重複した LPAR シリアル番号が含まれています。重複しているシリアル番号は、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD051S The following DB2 serial number is duplicated in the environment index member: *serial_number*.

説明: 環境索引メンバー内に、重複した DB2 シリアル番号が含まれています。重複しているシリアル番号は、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD052S The following DB2 group attach name is duplicated in the environment index member: *group_attach_name*.

説明: 環境索引メンバー内に、重複したグループ接続名が含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD053S The reference to the following DB2 subsystem for a DB2 group attach name is duplicated in the environment index member: *subsystem_ID*.

説明: 環境索引メンバー内に、DB2 グループ接続名について DB2 サブシステムへの重複した参照が含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD054S The reference to the following DB2 subsystem for the *LPAR_name* LPAR is duplicated in the environment index member: *subsystem_ID*.

説明: 環境索引メンバー内に、LPAR について DB2 サブシステムへの重複した参照が含まれています。重複したサブシステム ID が、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD055S The following DB2 group attach name was not found in the environment index member: *group_attach_name*.

説明: DB2 メンバーによって参照されるグループ接続名が、環境索引メンバー内に存在しません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD056S The following LPAR was not found in the environment index member: *LPAR_name*.

説明: LPAR が環境索引メンバー内に存在しません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD057S The following LPAR is duplicated in the environment index member: *LPAR_name*.

説明: 環境索引メンバー内に、重複した LPAR が含まれています。重複した LPAR の名前が、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD100W The *member_name* product index member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: 製品索引メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが、指定された例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 指定された例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD101S The *member_name* product index member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: 製品索引メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが、指定された例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 指定された例外のエラー・コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。 Tools Customizer データ・ストア・データ・セット DCB がサンプル SCCQSAMP(CCQCDATS) データ・セット DCB と同じであることを確認してください。

CCQD102S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: 指定された製品索引メンバー内に、不明なエレメントが含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD103S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: コンテンツを含めることができないエレメントのコンテンツが見つかりました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD104S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントには必須コンテンツが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD105S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. The content length for the *element_name* element exceeds *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD106S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. The *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 製品索引メンバー内で、指定されたエレメントの発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD107S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 製品索引メンバー内で、指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD108S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 属性の発生回数が多すぎます。属性の名前とその属性を含むエレメントは、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD109S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 製品索引メンバー内で、指定された属性の発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD110S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 属性にはコンテンツを含めることはできません。属性の名前とその属性を含むエレメントは、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD111S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 属性にはコンテンツが必要です。属性の名前とその属性を含むエレメントの名前は、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD112S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. The content length for the *element_name* element exceeds *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD113S The XML structure of the *member_name* product index member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: 製品索引メンバー内で、指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD118S The content of the *member_name* product index member is not valid. The *configuration_ID* configuration ID for the *configuration-name* configuration name is not unique.

説明:

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD120S The content of the *member_name* product index member is not valid. The pack ID *pack_ID* that is referenced by product prefix *product_prefix* in the metadata library *library_name* could not be found.

説明: 指定されたパック ID がメタデータ・ライブラリー内に見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD121I The specified pack contains the *component_name*, which was previously specified as a stand-alone product.

説明: 指定されたパックのコンポーネントは、以前にスタンドアロン製品として指定されていました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD122I The specified component metadata library was previously specified as part of the *pack_name*.

説明: コンポーネントの指定されたメタデータ・ライブラリーは、以前にパックの一部として指定されていました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD123E The customization library name *library_name* is being used by another product or component. Specify another customization library qualifier on the Tools Customizer Settings panel.

説明: 指定されたカスタマイズ・ライブラリーは、別の製品またはコンポーネントが使用中です。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 「Tools Customizer Settings」パネルで別のカスタマイズ・ライブラリー修飾子を指定してください。

CCQD300W The *member_name* product environment member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: 製品環境メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが指定された例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 指定された例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD301S The *member_name* product environment member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: 製品環境メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが、指定された例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 指定された例外のエラー・コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD302S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: 指定された製品環境メンバー内に、不明なエレメントが含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD303S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: コンテンツを含めることができないエレメントのコンテンツが見つかりました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD304S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントには必須コンテンツが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD305S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. The content length for the *element_name* element exceeds *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD306S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. The *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 製品環境メンバー内で、指定されたエレメントの発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD307S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 製品環境メンバー内で、指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD308S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。属性の名前とその属性を含むエレメントは、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD309S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 製品環境メンバー内で、指定された属性の発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD310S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。属性の名前とその属性を含むエレメントは、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD311S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性にはコンテンツが必要です。属性

の名前とその属性を含むエレメントの名前は、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD312S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. The content length for the *element_name* element exceeds *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD313S The XML structure of the *member_name* product environment member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: 製品環境メンバー内で、指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD350I The *subsystem_ID* DB2 subsystem is associated with this product.

説明: 指定された DB2 サブシステムが、カスタマイズ対象の製品の Tools Customizer データ・ストアに追加され、保管されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD351I The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name is associated with this product.

説明: グループ接続名の指定された DB2 メンバーが、カスタマイズ対象の製品の Tools Customizer データ・ストアに追加され、保管されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD352I The *group_attach_name* DB2 group attach name is associated with this product.

説明: 指定された DB2 グループ接続名が、カスタマイズ対象の製品の Tools Customizer データ・ストアに追加され、保管されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD353E The *subsystem_ID* DB2 subsystem is already associated with this product.

説明: 指定された DB2 サブシステムはデータ・ストア内の製品環境に既存であるため、カスタマイズ対象の製品に追加できません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: DB2 サブシステムが正しく指定されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD354E The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name is already associated with this product.

説明: グループ接続名の指定された DB2 メンバーは、データ・ストア内の製品環境に既存であるため、カスタマイズ対象の製品に追加できません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: DB2 グループ接続名が正しく指定されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD355E The *group_attach_name* DB2 group attach name is already associated with this product.

説明: 指定された DB2 グループ接続名は、データ・ストア内の製品環境に既存であるため、カスタマイズ対象の製品に追加できません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 グループ接続名が正しく指定されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD356S The *library_name* metadata library is already associated with the maximum number of allowed DB2 entries for this product.

説明: 指定されたメタデータ・ライブラリーが、許されている数の DB2 エントリーに既に関連付けられているため、このライブラリーをこれ以上の DB2 エントリーに関連付けることができません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 関連した DB2 エントリーを削除し、指定のライブラリーを別の DB2 エントリーに再度関連付けてください。

CCQD357I The *subsystem_ID* DB2 subsystem is unassociated with this product.

説明: 指定された DB2 SSID が、カスタマイズする製品と関連付けられていませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD358I The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name is unassociated with this product.

説明: DB2 グループ接続名の指定された DB2 メンバーが、カスタマイズする製品に関連付けられていませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD359I The *group_attach_name* DB2 group attach name is unassociated with this product.

説明: 指定された DB2 グループ接続名が、カスタマイズする製品と関連付けられていませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD360S The *library_name* metadata library is not associated with the specified DB2 subsystem *subsystem_ID*.

説明: 指定された DB2 サブシステムとメタデータ・ライブラリーが相互に関連付けられていません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: DB2 サブシステムとメタデータ・ライブラリーが関連付けられていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD361S The *library_name* metadata library is not associated with the specified DB2 data sharing group member *member_name* for the *group_attach_name* DB2 group attach name.

説明: グループ接続名の指定された DB2 データ共有グループ・メンバーとメタデータ・ライブラリーが相互に関連付けられていません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: グループ接続名の DB2 データ共有グループ・メンバーとメタデータ・ライブラリーが関連付けられていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD362S The *library_name* metadata library is not associated with the specified *group_attach_name* DB2 group attach name.

説明: 指定された DB2 グループ接続名とメタデータ・ライブラリーが相互に関連付けられていません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: DB2 グループ接続名とメタデータ・ライブラリーが関連付けられていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD400W The customization parser issued the *code_number* warning code while it parsed the product customization member *member_name*. See the PL/I programming guide for more information about this XML parser continuable exception code.

説明: 指定されたメンバーが有効かどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 警告について詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD401S The customization parser issued the *code_number* error code while it parsed the product customization member *member_name*. See the PL/I programming guide for more information about this XML parser terminating exception code.

説明: 指定されたメンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: エラーについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD500W The *data_set_name* data store data set was not found.

説明: Tools Customizer は、指定されたデータ・ストア・データ・セットを検出できませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD501W The *data_set_name* data store data set was not found, so it was created.

説明: Tools Customizer は、指定されたデータ・セットを検出できなかったため、そのデータ・セットを作成しました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD502E The *data_set_name* data store data set is not writable.

説明: Tools Customizer は、指定されたデータ・セットに書き込めません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: このデータ・セットが書き込み可能であることを確認してください。

CCQD503E The *data_set_name* data store data set could not be opened with the *disposition_type* disposition.

説明: Tools Customizer は、指定された後処理を使用してデータ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: このデータ・セットへの WRITE アクセス権限があることを確認してください。

CCQD504E The *data_set_name* data store data set could not be opened with the *option_name* option.

説明: Tools Customizer は、指定されたオプションを使用してデータ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: このデータ・セットへの WRITE アクセス権限があることを確認してください。

CCQD505E The *data_set_name* data store data set could not be created.

説明: Tools Customizer は、指定されたデータ・セットを作成できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: データ・セットを作成する権限があること、および DASD が満杯でないことを確認してください。

CCQD510I The DB2 SSID and DB2 group attach name were created.

説明: DB2 SSID および DB2 グループ接続名が作成され、データ・ストアに保管されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD511E The DB2 entry already exists in the list of DB2 entries to be associated.

説明: この DB2 エントリは、関連付けられる DB2 エントリのリストに既に存在するため、追加できません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別の DB2 エントリを指定してください。

CCQD512S An error occurred while a DB2 entry was being created.

説明: DB2 エントリの作成中に重大エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD513E The specified DB2 entry already exists and is associated with the current product on the Customizer Workplace panel.

説明: DB2 エントリーは既に存在するため、追加できません。このエントリーは、既にカスタマイズ対象の製品に関連付けられています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: F3 を押して「Customizer Workplace」パネルに進んでその DB2 エントリーを確認するか、または別の DB2 エントリーを指定してください。

CCQD514E A value is required for a DB2 subsystem, a DB2 group attach name, or both before they can be created.

説明: 必要な情報が欠落しています。DB2 サブシステムまたは DB2 グループ接続名、もしくはその両方を指定する必要があります。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: DB2 サブシステムまたは DB2 グループ接続名、もしくはその両方を指定してください。

CCQD515E The specified DB2 entry already exists in the list of DB2 entries and is already associated with the current product.

説明: この DB2 エントリーは既に作成され、カスタマイズしたい製品に関連付けられています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別の DB2 エントリーを指定してください。

CCQD516E The specified DB2 entry already exists in the list of DB2 entries on the Associate DB2 Entry with Product panel but is not associated with the current product.

説明: DB2 エントリーは既に存在しますが、カスタマイズ対象の製品に関連付ける必要があります。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 「Customizer Workplace」パネルで、ASSOCIATE コマンドを発行して、DB2 エントリ

ーを製品に関連付けてください。

CCQD517S An error occurred while a DB2 entry was being copied.

説明: DB2 エントリーのコピー中に重大エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD518E A value is required for a DB2 subsystem, a DB2 group attach name, or both before they can be copied.

説明: 必要な情報が欠落しています。DB2 サブシステムまたは DB2 グループ接続名、もしくはその両方を指定する必要があります。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: DB2 サブシステムまたは DB2 グループ接続名、もしくはその両方を指定してください。

CCQD519I The DB2 entry was copied.

説明: この DB2 エントリーはコピーされ、Tools Customizer データ・ストアに保管されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD520S The DB2 entry was copied to the list of DB2 entries but was not associated because the product is already associated with the allowed number of DB2 entries.

説明: 製品を関連付けることができるのは 1200 個の DB2 エントリーに限られるため、DB2 エントリーは完全にはコピーされませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 1 つの DB2 エントリーをリストから除去し、指定の DB2 エントリーを再度コピーしてください。

CCQD521E Line_command is not a valid line command.

説明: 指定された行コマンドが無効です。有効な行コマンドがパネルに表示されます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 有効な行コマンドを指定してください。

CCQD522E The *subsystem_ID* DB2 subsystem ID occurs more than once in the list. Each row must be unique.

説明: 指定された DB2 サブシステム ID を使用できるのは 1 回だけです。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 別の DB2 サブシステム ID を指定してください。

CCQD523E The *group_attach_name* DB2 group attach name occurs more than once in the list. Each row must be unique.

説明: 指定された DB2 グループ接続名を使用できるのは 1 回だけです。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 別の DB2 グループ接続名を指定してください。

CCQD524E The *member_name* DB2 member for the DB2 group attach name occurs more than once in the list. Each row must be unique.

説明: DB2 グループ接続名に指定の DB2 メンバーを使用できるのは 1 回だけです。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 グループ接続名に別の DB2 メンバーを指定してください。

CCQD525I The DB2 entries were created.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD526E The *subsystem_ID* DB2 subsystem ID occurs more than once in the list. Each DB2 subsystem ID must be unique.

説明: 指定された DB2 サブシステム ID を使用できるのは 1 回だけです。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 別の DB2 サブシステム ID を指定してください。

CCQD527I DB2 group attach names cannot be created during the copy process.

説明: コピー・プロセス中は DB2 グループ接続名を作成する機能は使用できません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 「Customizer Workplace」パネルで CREATE コマンドを発行して、DB2 グループ接続名を作成してください。

CCQD528E The *metadata_library* metadata library is already associated with number DB2 entries. The maximum number of associated DB2 entries for this metadata library is 256.

説明: 1 つのメタデータ・ライブラリーを関連付けることができる DB2 エントリーは、最大 256 個です。指定されたメタデータ・ライブラリーは、既に 256 個に関連付けられています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 指定されたメタデータ・ライブラリーと DB2 エントリーとの既存の関連付けを除去し、指定されたメタデータ・ライブラリーを別のエントリーに関連付けてください。

CCQD529I At least one row is required.

CCQD560E The *subsystem_ID* DB2 subsystem already exists and is associated with the current product on the Customizer Workplace panel.

説明: 指定された DB2 サブシステムは既存であり、カスタマイズする製品と関連付けられています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別の DB2 サブシステムを指定してください。

CCQD561E The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name already exists and is associated with the current product on the Customizer Workplace panel.

説明: DB2 グループ接続名の指定された DB2 データ共用グループは既存であり、カスタマイズする製品と関連付けられています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別の DB2 サブシステムを指定してください。

CCQD562E The *group_attach_name* DB2 group attach name already exists and is associated with the current product on the Customizer Workplace panel.

説明: 指定された DB2 グループ接続名は既存であり、カスタマイズする製品と関連付けられています。サブシステムは、「Customizer Workplace」パネルの表内にあります。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別の DB2 グループ接続名を指定してください。

CCQD563E A value is required for a DB2 subsystem, a DB2 group attach name, or both before they can be created.

説明: DB2 サブシステム、DB2 グループ接続名、またはその両方が指定されていないため、それらのいずれかまたは両方を作成できません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: DB2 サブシステム、DB2 グループ接続名、またはその両方の値を指定してください。

CCQD565E The *subsystem_ID* DB2 subsystem already exists in the list of DB2 entries and is already associated with the current product.

説明: 指定されたサブシステムは既に関連付けられています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別の DB2 サブシステムを指定してください。

CCQD566E The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name already exists in the list of DB2 entries and is already associated with the current product.

説明: 指定された DB2 メンバーは既に関連付けられています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別の DB2 メンバーを指定してください。

CCQD567E The *group_attach_name* DB2 group attach name already exists in the list of DB2 entries and is already associated with the current product.

説明: 指定された DB2 グループ接続名は既に関連付けられています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別の DB2 グループ接続名を指定してください。

CCQD568I To customize *product_name*, at least one DB2 entry must be associated with this product.

説明: 指定された製品には、DB2 エントリーを少なくとも 1 つ関連付ける必要があります。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 指定された製品のカスタマイズ・プロセスを続行するには、その製品に DB2 エントリーを 1 つ以上関連付けてください。

CCQD569I To customize the *product_name* product configuration, at least one DB2 entry must be associated with this configuration.

説明: 指定された製品の構成では、DB2 エントリーを少なくとも 1 つ関連付ける必要があります。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 指定された製品の構成のカスタマイズ・プロセスを続行するには、その構成に DB2 エントリーを 1 つ以上関連付けてください。

CCQD577W The *mode_name* DB2 mode of the *subsystem_ID* DB2 subsystem is not supported by the product.

説明: 指定された DB2 モードが製品でサポートされていません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: サポートされている DB2 モードを指定してください。

CCQD578W The *mode_name* DB2 mode of the *member_name* DB2 member for the DB2 group is not supported by the product.

説明: 指定された DB2 モードが製品でサポートされていません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: サポートされている DB2 モードを指定してください。

CCQD579W The *mode_name* DB2 mode of the *group_name* DB2 group attach name is not supported by the product.

説明: 指定された DB2 モードが製品でサポートされていません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: サポートされている DB2 モードを指定してください。

CCQD580S The *subsystem_ID* DB2 subsystem was copied to the list of DB2 entries but was not associated because the product is already associated with the allowed number of DB2 entries.

説明: 製品は最大数の DB2 エントリーと関連付けられているため、コピーした DB2 サブシステムを製品と関連付けることができませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 関連付けられている DB2 エントリーを削除して、コピーした DB2 サブシステムに製品を関連付けてください。

CCQD581S The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name was copied to the list of DB2 entries but was not associated because the product is already associated with the allowed number of DB2 entries.

説明: 製品は最大数の DB2 エントリーと関連付けられているため、DB2 グループ接続名としてコピーした DB2 メンバーを製品に関連付けることができませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 関連付けられている DB2 エントリーを削除して、コピーした DB2 メンバーに製品を関連付けてください。

CCQD582S The *group_attach_name* DB2 group attach name was copied to the list of DB2 entries but was not associated because the product is already associated with the allowed number of DB2 entries.

説明: 製品は最大数の DB2 エントリーと関連付けられているため、コピーした DB2 グループ接続名を製品と関連付けることができませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 関連付けられている DB2 エントリーを削除して、コピーした DB2 グループ接続名に製品を関連付けてください。

CCQD584I The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name is copied to the *subsystem_ID* DB2 subsystem.

説明: 指定された DB2 メンバーがコピーされました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD585I The *group_attach_name* DB2 group attach name cannot be copied because a DB2 member is required.

説明: 指定された DB2 グループ接続名は、DB2 メンバーが欠落していたため、コピーされませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD586S The current LPAR is *LPAR_name*, but the data store contains information about the *LPAR_name* LPAR. You must use the *LPAR_name* LPAR to customize the product.

説明: データ・ストアのデータ・セットに保管されている LPAR を使用して、製品をカスタマイズする必要があります。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: データ・ストア・データ・セットに保管されている LPAR を使用してください。

CCQD587W The *level_number* DB2 level of the *subsystem_name* DB2 subsystem is not supported by the product.

説明: 製品は、指定された DB2 のレベルをサポートしていません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの DB2 を指定してください。

CCQD588W The *level_number* DB2 level of the *member_name* DB2 member of the *group_name* DB2 group is not supported by the product.

説明: 製品は、指定された DB2 のレベルをサポートしていません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの DB2 を指定してください。

CCQD589W The *level_number* DB2 level of the *group_name* DB2 group attach name is not supported by the product.

説明: 製品は、指定された DB2 のレベルをサポートしていません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの DB2 を指定してください。

CCQD593I The *subsystem_ID* DB2 subsystem was deleted.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD594I The *member_name* DB2 for the *group_attach_name* DB2 group attach name was deleted.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD595I The *group_attach_name* DB2 group attach name was deleted.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD596E The *subsystem_ID* DB2 subsystem was not deleted.

説明: 指定された DB2 サブシステムの削除中に内部エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD597E The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name was not deleted.

説明: 指定された DB2 メンバーの削除中に内部エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD598E The *group_attach_name* DB2 group attach name was not deleted.

説明: 指定された DB2 グループ接続名の削除中に内部エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD600W The *member_name* product customization member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: 製品カスタマイズ・メンバーの XML 構造が有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD601S The *member_name* product customization member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: 製品カスタマイズ・メンバーの XML 構造が有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 例外エラー・コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD602S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: データ・ストア・メンバー内に不明なエレメントが含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD603S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD604S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントの必須コンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD605S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. The content length for the *element_name* element exceeds *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD606S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. The *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD607S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD608S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD609S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD610S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD611S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性には必須コンテンツが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD612S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. The content length for the *element_name* element exceeds *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD613S The XML structure of the *member_name* product customization member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: データ・ストア・メンバー内で、指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD614S The content of the *member_name* product customization member is not valid. The value of the *element_name* element is not valid. The value is *value_name*.

説明: 指定した値が無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQD700W The *member_name* DB2 data member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: DB2 データ・メンバーの XML 構造が有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD701S The *member_name* DB2 data member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: DB2 データ・メンバーの XML 構造が有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外エラー・コードについて詳しく

CCQD750W • CCQD901S

は、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD750W The *value_number* value in the DB2 parameter *parameter_name* was skipped because only *maximum_number* values are allowed.

説明: 指定された値が、DB2 パラメーターで許される値の数を超えたため、スキップされました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセージが発行されないようにするには、DB2 パラメーターから余分な値を除去してください。

CCQD800W The *member_name* LPAR data member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: LPAR データ・メンバーの XML 構造が有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD801S The *member_name* LPAR data member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: LPAR データ・メンバーの XML 構造が有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外エラー・コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD850W The *value_number* value in the LPAR parameter *parameter_name* was skipped because only *maximum_number* values are allowed.

説明: 指定された値が、LPAR パラメーターで許される値の数を超えたため、スキップされました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセー

ジが発行されないようにするには、LPAR パラメーターから余分な値を除去してください。

CCQD851I The *subsystem_ID* DB2 subsystem is copied to the *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD852I The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name is copied to the *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD854I The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group '*attach_name*' is copied to multiple DB2 entries.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD900W The *member_name* product data member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: 製品データ・メンバーの XML 構造が有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD901S The *member_name* product data member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: 製品データ・メンバーの XML 構造が有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQD950W The *value_number* value in the product parameter *parameter_name* was skipped because only *maximum_number* values are allowed.

説明: 指定された値が、製品パラメーターで許される値の数を超えたため、スキップされました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセージが発行されないようにするには、製品パラメーターから余分な値を除去してください。

CCQD960I The *subsystem_ID* DB2 subsystem was changed to the *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD961I The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name was changed to the *subsystem_ID* DB2 subsystem.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD962I The *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name was changed to the *member_name* DB2 member for the *group_attach_name* DB2 group attach name.

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQD963E The DB2 group attach name cannot be blank when the DB2 subsystem ID is blank.

説明: DB2 グループ接続名または DB2 サブシステム ID、あるいはその両方を指定する必要があります。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 グループ接続名または DB2 サブシステム ID、あるいはその両方を指定してください。

CCQE000S The specified message field name or message *message_ID* was not found.

説明: メッセージ・フィールド名または指定のメッセージを表示中にエラーが発生しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQE001E An incorrect trace level was specified. Valid trace levels are 0 - 4.

説明: 誤ったトレース・レベルが指定されました。有効なトレース・レベルは 0 から 4 です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 有効なトレース・レベル 0 から 4 を指定してください。

CCQH001W The specified option *option_name* is not valid.

説明: 指定されたオプションは、パネルの有効なオプションではありません。

システムの処置: Tools Customizer は停止します。

ユーザーの処置: パネルで有効なオプションを指定してください。

CCQH006W Before you customize a product, verify your user settings.

説明: 製品をカスタマイズする前に、ユーザー設定を検証する必要があります。

システムの処置: Tools Customizer は停止します。

ユーザーの処置: ユーザー設定を検証してください。

CCQH007E Check the user settings. One or more current values are not valid.

説明: ユーザー設定内の 1 つ以上の値が無効です。

システムの処置: Tools Customizer は停止します。

ユーザーの処置: ユーザー設定に指定された値が有効であることを確認してください。

CCQH008W Before you use Tools Customizer, you must select option 0 to verify your user settings.

説明: 製品をカスタマイズする前に、ユーザー設定を変更する必要があります。

システムの処置: Tools Customizer は停止します。

ユーザーの処置: ユーザー設定を変更してください。

CCQH009E You must select option 0 to change your user settings.

説明: 製品をカスタマイズする前に、ユーザー設定を変更する必要があります。

システムの処置: Tools Customizer は停止します。

ユーザーの処置: ユーザー設定を変更してください。

CCQI000W The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: DB2 パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI001S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: DB2 パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI002S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The *element name* element is unknown.

説明: DB2 パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定されたエレメントが不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI003S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI004S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツが必要です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI005S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI006S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element must be at least *minimum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI007S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI008S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI009S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が十分ではありませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI010S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI011S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性の必須コンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI012S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI013S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: DB2 パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI014S The content of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid because the value of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: エレメントの指定された値が、有効な値ではありません。

CCQI015S • CCQI053E

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI015S The content of the DB2 parameter metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value of the attribute is *value_name*.

説明: 属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI016S The content of the DB2 parameter metadata member is not valid because the data type of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: 指定されたデータ・タイプは、有効なデータ・タイプではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI017S The content of the DB2 parameter metadata member is not valid because the data type of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value of the attribute is *value_name*.

説明: 指定されたデータ・タイプは、有効なデータ・タイプではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI050S The *member_name* DB2 parameter metadata member was not found in the *data_set_name* data set.

説明: Tools Customizer は、指定された DB2 パラメ

ーター・メタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI051S The *parameter_name* LPAR parameter in the *template_name* template does not have associated metadata in the *member_name* LPAR parameter metadata member.

説明: 指定されたテンプレートに、LPAR パラメーターのメタデータが含まれていません。LPAR パラメーター・メタデータ・メンバーの名前、LPAR パラメーターの名前、およびテンプレートの名前が、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI052S The *parameter_name* product parameter in the *template_name* template does not have associated metadata in the *member_name* product parameter metadata member.

説明: 指定されたテンプレートに、製品パラメーターのメタデータが含まれていません。製品パラメーター・メタデータ・メンバーの名前、製品パラメーターの名前、およびテンプレートの名前が、メッセージ・テキストに示されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI053E The following metadata data set was not found: *data_set_name*.

説明: Tools Customizer は、指定されたメタデータ・データ・セットを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: メタデータ・データ・セットが正しく指定されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI054E The following metadata data set could not be opened: *data_set_name*.

説明: Tools Customizer は、指定された LPAR メタデータ・データ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: メタデータ・データ・セットが正しく指定されたことを確認してください。

CCQI055S The CCQ\$\$DB2 DB2 parameter metadata member was not found in the *data_set_name* Tools Customizer metadata data set.

説明: Tools Customizer は、指定された Tools Customizer メタデータ・データ・セット内に DB2 パラメーター・メタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI056S The CCQ\$\$LPR LPAR parameter metadata member was not found in the *data_set_name* data set.

説明: Tools Customizer は、指定された LPAR パラメーター・メタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI057S The *member_name* product parameter metadata member was not found in the *data_set_name* data set.

説明: 製品パラメーター・メタデータ・メンバーが、指定されているデータ・セットに見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI058I *Product_name* does not have any DB2 parameters.

説明: DB2 パラメーターは、指定された製品のカスタマイズに必要ありません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQI059I *Product_name* does not have any LPAR parameters.

説明: LPAR パラメーターは、指定された製品のカスタマイズに必要ありません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQI060S The *parameter_name* DB2 parameter in the *task_description* task condition does not have associated metadata in the *member_name* DB2 parameter metadata member.

説明: タスクで指定された DB2 パラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI061S The *parameter_name* LPAR parameter in the *task_description* task condition does not have associated metadata in the *member_name* LPAR parameter metadata member.

説明: タスクで指定された LPAR パラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI062S The *parameter_name* product parameter in the *task_description* task condition does not have associated metadata in the *member_name* product parameter metadata member.

説明: タスクで指定された製品パラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI063S **The *parameter_name* DB2 parameter in the *task_description* task and the *step_description* step does not have associated metadata in the *member_name* DB2 parameter metadata member.**

説明: タスクおよびステップで指定された DB2 パラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI064S **The *parameter_name* LPAR parameter in the *task_description* task and the *step_description* step does not have associated metadata in the *member_name* LPAR parameter metadata member.**

説明: タスクおよびステップで指定された LPAR パラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI065S **The *parameter_name* product parameter in the *task_description* task and the *step_description* step does not have associated metadata in the *member_name* product parameter metadata member.**

説明: タスクおよびステップで指定されたパラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI066S **The *parameter_name* DB2 parameter in the *task_description* task, *step_description* step, and *template_name* template condition does not have associated metadata in the *member_name* DB2 parameter metadata member.**

説明: タスク、ステップ、およびテンプレートで指定された DB2 パラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI067S **The *parameter_name* LPAR parameter in the *task_description* task, *step_description* step, and *template_name* template condition does not have associated metadata in the *member_name* LPAR parameter metadata member.**

説明: タスク、ステップ、およびテンプレートで指定された LPAR パラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI068S **The *parameter_name* product parameter in the *task_description* task, *step_description* step, and *template_name* template condition does not have associated metadata in the *member_name* product parameter metadata member.**

説明: タスク、ステップ、およびテンプレートで指定された製品パラメーターの関連メタデータが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI069S Product metadata does not support multiple configurations, but the *template_name* product template contains the *parameter_name* parameter. Enable multiple configurations support for this product, and try again.

説明: 指定されたテンプレートに、複数の構成用のパラメーターが含まれていますが、製品は、複数の構成をサポートできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 複数構成のサポートを使用可能にして、再試行してください。

CCQI070E The *parameter_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The default length for the *parameter-element_name* parameter element exceeds the length of the parameter. The default length is *default_length*, and the specified length is *specified_length*. The default length will be truncated accordingly.

説明: 指定された長さは、デフォルトの長さより長くなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI071E The *parameter_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The default length for the *parameter-element_name* parameter element exceeds the length of the parameter. The default length is *default_length*, and the specified length is *specified_length*. The default length will be truncated accordingly.

説明: 指定された長さは、デフォルトの長さより長くなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI072E The *parameter_name* product parameter metadata member is not valid. The default length for the *parameter-element_name* parameter element exceeds the length of the parameter. The default length is *default_length*, and the specified length is *specified_length*. The default length will be truncated accordingly.

説明: 指定された長さは、デフォルトの長さより長くなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI073S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The following value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element already exists: *value_name*.

説明: 指定された値は、既に属性に存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI074S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The following value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element already exists: *value_name*.

説明: 指定された値は、既に属性に存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI075S The XML structure of the *member_name* product parameter metadata member is not valid. The following value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element already exists: *value_name*.

説明: 指定された値は、既に属性に存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI076S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The *parameter_name* parameter refers to the *section-name* section. This section was not found in the DB2 parameter metadata member.

説明: 指定された値は、既に属性に存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI077S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The *parameter_name* parameter refers to the *section-name* section. This section was not found in the LPAR parameter metadata member.

説明: 指定されたパラメーターが、LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内にはないセクションを参照しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI078S The XML structure of the *member_name* product parameter metadata member is not valid. The *parameter_name* parameter refers to the *section-name* section. This section was not found in the product parameter metadata member.

説明: 指定されたパラメーターが、製品パラメーター・メタデータ・メンバー内にはないセクションを参照しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI080S The content of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value of the attribute is *value_name*.

説明: DB2 パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI081S The content of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value of the attribute is *value_name*.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI082S The content of the *member_name* product parameter metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value of the attribute is *value_name*.

説明: 製品パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI090S The product-defined DB2 parameter *parameter_name* in the *member_name* parameter metadata member references the *section_ID* section ID, but this ID does not exist in either the parameter metadata member or the DB2 parameter metadata member.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバーまたは DB2 パラメーター・メタデータ・メンバー内に存在しないセクションが、指定された DB2 パラメーターによって参照されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI091S The product-defined LPAR parameter in the *member_name* parameter metadata member references the *section_ID* section ID, but this ID does not exist in either the parameter metadata member or the LPAR parameter metadata member.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバーまたは LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内に存在しないセクションが、指定された LPAR パラメーターによって参照されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI092S The overridden DB2 parameter *parameter_name* in the *member_name* parameter metadata member does not exist in the DB2 parameter metadata member.

説明: 指定されたパラメーターは存在しません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI093S The overridden LPAR parameter *parameter_name* in the *member_name* parameter metadata member does not exist in the LPAR parameter metadata member.

説明: 指定されたパラメーターは存在しません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI094S The CCQ\$\$PRD product customization parameter metadata member was not found in the *data_set_name* data set.

説明: 指定されたデータ・セットに、CCQ\$\$PRD 製品カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバーが含まれていなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI100W The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI101S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI102S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定されたエレメントが不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI103S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI104S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツが必要です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI105S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI106S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element must be at least *minimum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI107S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI108S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI109S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が十分ではありませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI110S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI111S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性の必須コンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI112S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI113S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI114S The content of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid because the value of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内のエレメントに指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI115S The content of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value of the attribute is *value_name*.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI116S The content of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid because the data type of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内のエレメントに指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI117S The content of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid because the data type of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: LPAR パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI120S The XML structure of the *member_name* DB2 parameter metadata member is not valid. The *element_name* element in the *parameter_name* parameter contains duplicate values for the *element_name* element. The duplicate value is *value_name*.

説明: エレメントに値が重複して指定されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI121S The XML structure of the *member_name* LPAR parameter metadata member is not valid. The *element_name* element in the *parameter_name* parameter contains duplicate values for the *element_name* element. The duplicate value is *value_name*.

説明: エレメントに値が重複して指定されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI122S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *element_name* element in the *parameter_name* parameter contains duplicate values for the *element_name* element. The duplicate value is *value_name*.

説明: エレメントに値が重複して指定されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI123S The XML structure of the *member_name* discover metadata member is not valid. The *element_name* element in the *parameter_name* parameter contains duplicate values for the *element_name* element. The duplicate value is *value_name*.

説明: エレメントに値が重複して指定されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI124S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The *element_name* element in the *parameter_name* parameter contains duplicate values for the *element_name* element. The duplicate value is *value_name*.

説明: エレメントに値が重複して指定されています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI200W The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: 情報メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI201S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: 情報メタデータ・メンバーが有効であるかどうか

を判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI202S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: 情報メタデータ・メンバー内で、指定されたエレメントが不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI203S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI204S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツが必要です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI205S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed

maximum_number characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI206S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element must be at least *minimum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI207S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI208S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI209S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

CCQI210S • CCQI216S

説明: 指定された属性の発生回数が十分ではありませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI210S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI211S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性の必須コンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI212S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI213S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: 情報メタデータ・メンバー内で、指定された属性は不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI214S The content of the *member_name* information metadata member is not valid because the value of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: 情報メタデータ・メンバー内のエレメントに指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI215S The content of the *member_name* information metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: 情報メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI216S The content of the *member_name* information metadata member is not valid because the data type of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: 情報メタデータ・メンバー内のエレメントに指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI217S The content of the *member_name* information metadata member is not valid because the data type of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: 情報メタデータ・メンバー内の属性に指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI218S The content of the *member_name* information metadata member is not valid. The length of the *value_name* value that of the *attribute_name* attribute is longer than the *value_name* value of the *attribute_name* attribute.

説明: 最初に指定された値は、次に指定された値よりも短くなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI219S The content of the *member_name* information metadata member is not valid. The *value_name* value of the *attribute_name* attribute contains the *value_name* value.

説明: 最初に指定された値は、次に指定された値よりも短くなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI220S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. Content for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定された属性の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI223S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The value that is specified for the DB2 Level already exists. The value is *value_name*.

説明: 指定された値は、既に存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 別の DB2 レベルを指定してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI224S The XML structure of the *member_name* information metadata member is not valid. The value that is specified for the DB2 Mode already exists. The value is *value_name*.

説明: 指定された値は、既に存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 別の DB2 モードを指定してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI250S The information metadata member was not found in the *data_set_name* data set.

説明: Tools Customizer は、指定されたデータ・セット内で情報メタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: このメッセージが「Specify the Metadata Library」(CCQPHLQ) パネルで出た場合は、製品メタデータ・ライブラリーを指定してください。このライブラリーの名前は、*hlq.SHLOHLRDENU* です。

Tools Customizer メタデータ・ライブラリー (*hlq.SCCQDENU*) は指定しないでください。

問題が解決しない場合は、Tools Customizer トレース・データ・セットの名前を特定したうえで、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI251E The *member_name* member was not accessible in the *data_set_name* data set.

説明: 指定されたメンバーに、データ・セット内でアクセスできませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 正しいメタデータ・ライブラリーを指定してください。

CCQI252S The information metadata member was not found in the *library_name* component metadata library that is part of the *library_name* pack metadata library. The name of the pack is *pack_name*.

説明: 指定されたコンポーネント・メタデータ・ライブラリーに、情報メタデータ・メンバーが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 正しいメタデータ・ライブラリーを指定してください。

CCQI253E The *library_name* Tools Customizer metadata library is not current. Update the metadata library on the Tools Customizer Settings panel.

説明: 指定されたメタデータ・ライブラリーが、現行のものではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 「Tools Customizer Settings」パネルで、現行のメタデータ・ライブラリーを指定してください。

CCQI300W The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI301S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 例外エラー・コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI302S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバー内で、指定されたエレメントが不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI303S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI304S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントの必須コンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI305S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. Content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI306S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI307S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI308S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI309S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI310S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI311S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性の必須コンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI312S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI313S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバー内で、指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI314S The content of the *member_name* sequence metadata member is not valid because the value of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバー内のエレメントに指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI315S The content of the *member_name* sequence metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI316S The content of the *member_name* sequence metadata member is not valid because the data type of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバー内のエレメントに指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI317S The content of the *member_name* sequence metadata member is not valid because the data type of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバー内の属性に指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI350S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: シーケンス・メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI351S The *member_name* sequence metadata member was not found in the *data_set_name* metadata data set.

説明: Tools Customizer は、メタデータ・データ・セット内に指定されたシーケンス・メタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI352S The *template_name* product template was not found in the *data_set_name* metadata data set.

説明: Tools Customizer は、データ・セット内に指定

された製品・テンプレートを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI353S The sequence metadata member was not found in the *data_set_name* component data set that is part of the *data_set_name* pack.

説明: Tools Customizer は、シーケンス・メタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI360S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element already exists.

説明: 指定された属性には、既に存在する値が含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI361S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The condition element on the *level_type* level already contains a relational operator.

説明: 指定されたレベルの条件エレメントの関係演算子が既に存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI362S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The condition element on the *level_type* level must contain only one content string or content number element.

説明: 指定されたレベルの条件エレメントには、1 つのコンテンツ・ストリング・エレメントまたはコンテンツ番号エレメントのみを含むことができます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI363S The XML structure of the *member_name* sequence metadata member is not valid. The condition element in the *element_name* element with the *attribute_name* attribute must contain either the content string element or content number element.

説明: コンテンツ・ストリング・エレメントまたはコンテンツ番号エレメントのどちらかが、条件エレメント内になければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI400W The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI401S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI402S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定されたエレメントが不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI403S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI404S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツが必要です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI405S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI406S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element must be at least *minimum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI407S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI408S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI409S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI410S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI411S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性の必須コンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI412S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI413S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI414S The content of the *member_name* parameter metadata member is not valid because the value of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバー内のエレメントに指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI415S The content of the *member_name* parameter metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI416S The content of the *member_name* parameter metadata member is not valid because the data type of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバー内のエレメントに指定されたデータ・タイプの値は無効です。

CCQI417S • CCQI511S

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI417S The content of the *member_name* parameter metadata member is not valid because the data type of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI420S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *element_name* element is unknown for the overridden DB2 parameter.

説明:

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI421S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *element_name* element is unknown for the overridden LPAR parameter.

説明:

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI422S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown for the overridden DB2 parameter.

説明:

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI423S The XML structure of the *member_name* parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown for the overridden LPAR parameter.

説明:

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI450S The *member_name* product parameter metadata member was not found in the *data_set_name* data set.

説明: Tools Customizer は、指定された製品・パラメーター・メタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI510W The *data_set_name* data store data set does not exist.

説明: 指定されたデータ・ストア・データ・セットが存在しません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: そのデータ・ストア・データ・セットが存在することを確認してください。

CCQI511S The *data_set_name* data store data set cannot be opened by using the *disposition_type* disposition.

説明: 指定されたデータ・ストア・データ・セットを、指定された後処理を使用してオープンできませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI512S The *data_set_name* data store data set cannot be opened by using the *option-type* option.

説明: 指定されたデータ・ストア・データ・セットを、指定されたオプションを使用してオープンできませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI600W The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: 製品・カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 警告について詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI601S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: 製品・カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 警告について詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI602S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: 指定された製品・カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバー内に、不明なエレメントが含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI603S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found.

説明: コンテンツを含めることができないエレメントでコンテンツが見つかりました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI604S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントには必須コンテンツが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI605S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element 'cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI606S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 製品・カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定されたエレメントの発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI607S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 製品・カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI608S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 製品・カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI609S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 製品・カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバー内で、指定された属性の発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI610S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: コンテンツを含めることができないエレメントでコンテンツが見つかりました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI611S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute 'in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性には必須コンテンツが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI612S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The content length for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定された属性の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI613S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: 指定された製品・カスタマイズ・パラメーター・

メタデータ・メンバー内に、不明な属性が含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI614S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The value of the *element_name* element is not valid. The value *value_name*.

説明: エレメントの指定された値が、有効な値ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI615S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The value of the *attribute_name* attribute for the *element_name* element is not valid. The value is *value_name*.

説明: 属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI616S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The data type of the *element_name* element is 'not valid. The value of the element is *value_name*.

説明: 指定されたデータ・タイプは、有効なデータ・タイプではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI617S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The data type of the *attribute_name* attribute for the *element_name* element is not valid. The value of the attribute is *value_name*.

説明: 指定されたデータ・タイプは、有効なデータ・タイプではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI650S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The following value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element already exists: *value_name*.

説明: 属性に指定された値が既に存在しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI651S The XML structure of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The *parameter_name* parameter refers to the following section, which was not found in the *member_name* product customization parameter metadata member: *section-name*.

説明: 製品・カスタマイズ・パラメーター・メタデータ・メンバー内に、指定されたセクションがありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI652S The *member_name* product customization metadata member not valid. The default length for the *element_name* parameter element exceeds the length of the parameter. The default length is *default_length*, and the specified length is *specified_length*. The default length will be truncated accordingly.

説明: 指定された長さは、デフォルトの長さより長くなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI653S The content of the *member_name* product customization parameter metadata member is not valid. The value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is not valid. The value of the attribute is *value_name*.

説明: 属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI700W The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: *code_number*.

説明: 指定されたソリューション・パック・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 警告について詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI701S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: *code_number*.

説明: 指定されたソリューション・パック・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: エラーについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQI702S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The *element_name* element is unknown.

説明: 指定されたソリューション・パック・メタデータ・メンバー内に、不明なエレメントが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI703S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. Content is not allowed for the *element_name* element, but content was found

説明: コンテンツを含めることができないエレメントでコンテンツが見つかりました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI704S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントには必須コンテンツが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI705S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI706S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI707S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI708S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI709S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が十分ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI710S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI711S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性のコンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI712S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The content length for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定された属性の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』

CCQI713S • CCQI751S

を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI713S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: ソリューション・パック・メタデータ・メンバー内で、指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI714S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid because the value of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: エレメントの指定された値が、有効な値ではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI715S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value of the attribute is *value_name*.

説明: 属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI716S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid because the data type of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: 指定されたデータ・タイプは、有効なデータ・タイプではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI717S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid because the data type of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value of the attribute is *value_name*.

説明: 指定されたデータ・タイプは、有効なデータ・タイプではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI720S The XML structure of the *member_name* solution pack metadata member is not valid. The *msg* element is required for the *component_name* component that is not customizable.

説明: 指定されたコンポーネントにはメッセージ・エレメントが必要ですが、このコンポーネントは Tools Customizer を使用してカスタマイズできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI750S The solution pack metadata member was not found in the *library_name* metadata library.

説明: Tools Customizer は、指定されたライブラリー内でソリューション・パック・メタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI751S The version in the *library_name* solution pack metadata library is different than the version in the *library_name* component metadata library. The name of the pack is *pack_name*, and the name of the

component is component_name.

説明: ソリユーション・パック・メタデータ・ライブラリーのバージョンが、コンポーネント・メタデータ・ライブラリーのバージョンと一致していません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI752S The release in the library_name solution pack metadata library is different than the release in the library_name component metadata library. The name of the pack is pack_name, and the name of the component is component_name.

説明: ソリユーション・パック・メタデータ・ライブラリーのリリースが、コンポーネント・メタデータ・ライブラリーのリリースと一致していません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQI753S The modification level in the library_name solution pack metadata library is different than the modification level in the library_name component metadata library. The name of the pack is pack_name, and the name of the component is component_name.

説明: ソリユーション・パック・メタデータ・ライブラリーのモディフィケーション・レベルが、コンポーネント・メタデータ・ライブラリーのモディフィケーション・レベルと一致していません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQM002E The command_name line command is not valid: .

説明: 指定された行コマンドが無効です。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: パネルで有効な行コマンドを指定してください。

CCQO000W The XML structure of the member_name discover parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception warning code: code_number.

説明: ディスカバー・パラメーター・メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外警告コードを発行しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。

CCQO001S The XML structure of the member_name discover parameter metadata member is not valid. The PL/I XML parser issued the following exception error code: code_number.

説明: Discover メタデータ・メンバーが有効であるかどうかを判別中に、PL/I XML パーサーが例外エラー・コードを発行しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 例外の警告コードについて詳しくは、「Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド」を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO002S The XML structure of the member_name discover parameter metadata member is not valid. The element_name element is unknown.

説明: ディスカバー・パラメーター・メタデータ・メンバー内に指定されたエレメントが不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO003S The XML structure of the member_name discover parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the element_name element, but content was found.

CCQO004S • CCQO010S

説明: 指定されたエレメントにはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO004S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. Content is required for the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定されたエレメントの必須コンテンツが欠落しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO005S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. The content length for the *element_name* element cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定されたエレメントの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO006S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. The *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO007S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. The *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定されたエレメントの発生回数が多すぎではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO008S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element cannot occur more than *maximum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO009S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element must occur at least *minimum_number* times.

説明: 指定された属性の発生回数が多すぎではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO010S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. Content is not allowed for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was found.

説明: 指定された属性にはコンテンツを含めることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO011S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. Content is required for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element, but content was not found.

説明: 指定された属性にはコンテンツが必要です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO012S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. The content length for the *attribute_name* attribute in the *element_name* element in the cannot exceed *maximum_number* characters.

説明: 指定された属性の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO013S The XML structure of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid. The *attribute_name* attribute in the *element_name* element is unknown.

説明: 指定された属性が不明です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO014S The content of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid because the value of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: ディスカバー・パラメーター・メタデータ・メンバー内のエレメントに指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO015S The content of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid because the value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: ディスカバー・パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定された値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO016S The content of the *member_name* discover parameter metadata member is not valid because the data type of the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: ディスカバー・パラメーター・メタデータ・メンバー内のエレメントに指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO017S The content of the *member_name* product parameter metadata member is not valid because the data type of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is incorrect. The value is *value_name*.

説明: 製品・パラメーター・メタデータ・メンバー内の属性に指定されたデータ・タイプの値は無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO050S The *data_set_name* Discover REXX EXEC data set could not be initialized or was not found.

説明: Tools Customizer は、指定された Discover REXX EXEC データ・セットを検出できなかったか、初期化できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

CCQO051W • CCQO058W

ユーザーの処置: Discover REXX EXEC が正しく指定されていることを確認してください。

CCQO051W The *data_sharing_group_ID* data sharing group ID cannot contain more than four characters.

説明: 指定されたデータ共有グループ ID の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 指定されたデータ共有グループ ID が 4 文字を超えていないことを確認してください。

CCQO052S The *REXX_EXEC_name* Discover REXX EXEC was not found in the *data_set_name* Discover data set.

説明: Tools Customizer は、指定されたデータ・セット内に Discover REXX EXEC を検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: Discover データ・セットが正しく指定されていることを確認してください。

CCQO053W The *LPAR_name* LPAR name cannot contain more than eight characters.

説明: 指定された LPAR 名の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 指定された LPAR 名が 8 文字を超えていないことを確認してください。

CCQO054W The *subsystem_ID* DB2 SSID cannot contain more than four characters. The record was not processed.

説明: 指定された DB2 SSID の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 指定された DB2 SSID が 4 文字を超えていないことを確認してください。

CCQO055W The *parameter_name* DB2 group attach name parameter is in the *record_name* Discover record, but a DB2 group attach name was not specified. The record was not processed.

説明: Discover レコードにデータ共有グループ・パラメーターが含まれていますが、DB2 グループ接続名が指定されていませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 「Discover Customized Product Information」パネルに指定された情報が正しいことを確認してください。

CCQO056W The *parameter_name* DB2 parameter in the *record_name* Discover record did not have a DB2 group attach name or a DB2 SSID. The record was not processed.

説明: Discover レコードの DB2 パラメーターには、DB2 グループ接続名も、DB2 サブシステム ID もありませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 「Discover Customized Product Information」パネルに指定された情報が正しいことを確認してください。

CCQO057W The Discover EXEC could not find the *parameter_name* parameter in the metadata for the product to be customized. The record was not processed.

説明: 指定されたパラメーターが、カスタマイズする製品のメタデータ内に見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 「Discover Customized Product Information」パネルに指定された情報が正しいことを確認してください。

CCQO058W The *parameter_name* product parameter name in the *record_type* Discover record does not start with *CCQ_LPR_*, *CCQ_DB2_*, or *CCQ_PRD_*. The record was not processed.

説明: レコード内のパラメーターが *CCQ_DB2_*、*CCQ_LPAR_*、または *CCQ_PRD_* で始まっていません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO059W The *parameter_name* product parameter cannot contain more than 72 characters. The record was not processed.

説明: 指定された製品パラメーターの文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 指定された製品パラメーターが 72 文字を超えていないことを確認してください。

CCQO060W The *record_name* Discover record from the REXX EXEC output must start with the following record type: *record_type*. The record was not processed.

説明: REXX EXEC 出力からの Discover レコードは、指定された DB2 レコード・タイプで始まる必要があります。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO061I If you do not have a previously customized version of the product, do not run the Discover EXEC. Press END to go to the Customizer Workplace panel.

説明: このメッセージは、製品を初めてカスタマイズするときに発行されます。Discover EXEC を使用して、指定された製品の以前のカスタマイズからデータを検出するように求められます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置:

ヒント: Discover EXEC を使用すると、時間が節約され、パラメーターの手動指定時に発生する可能性があるエラーが減少します。Discover EXEC を使用する場合は、「Discover Customized Product Information」パネルに必要な情報を指定してください。使用しない場合は、End を押して、製品の以前のカスタマイズからのデータ検出を行わずに処理を進めます。

CCQO062W The Discover EXEC could not find the following *parameter_name* parameter in the DB2 metadata. The record was not processed.

説明: DB2 メタデータ内で、指定されたパラメーターが欠落しています。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: このパラメーターが必須である場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO064W The *Discover-record* Discover record did not have a parameter name. The record was not processed.

説明: Discover レコードでパラメーター名が欠落していました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO065W The value for the *parameter_name* parameter is ignored because it has more than *maximum_number* characters, which is the maximum length that is defined in the metadata. The value is *parameter_value*.

説明: 指定された値が、メタデータ内で定義された、許される最大長を超えました。Tools Customizer は、余分な文字を切り捨てました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO066W The *record_name* Discover record from the Discover REXX EXEC output does not have a parameter value. The record was not processed.

説明: Discover レコードには、Discover EXEC 出力からのパラメーター値が欠落していました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 「Discover Customized Product Information」パネルに指定された情報が正しいことを確認してください。

CCQO067W The *parameter_name* parameter is defined in the metadata to support one value, but more than one value was found. The last value was used.

説明: メタデータ内のパラメーターの定義は 1 つの値をサポートしますが、複数の値が指定されました。最後の値のみが使用されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 「Discover Customized Product Information」パネルに指定された情報が正しいことを確認してください。

CCQO068W The value of the *parameter_name* parameter is ignored because the parameter is defined as `internal=true`. The value is *value_name*.

説明: パラメーターが `internal=true` として定義されているため、指定されたパラメーター値は無視されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 「Discover Customized Product Information」パネルに指定された情報が正しいことを確認してください。

CCQO069W The Discover EXEC did not find the *parameter_name* parameter in the LPAR metadata. The record was not processed.

説明: 指定されたパラメーターが LPAR メタデータから欠落しています。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 「Discover Customized Product Information」パネルに指定された情報が正しいことを確認してください。

CCQO070W The *record_type* Discover record contains an incorrect delimiter between the Environment section and the Data section. The record was not processed.

説明: Tools Customizer は、Environment セクションと Data セクション間に誤った区切り文字を検出しました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQO071W The *member_name* member could not be found in the *data_set_name* Discover data set.

説明: Tools Customizer は、指定された Discover データ・セットを検出できませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQO072S The *member_name* discover metadata member was not found in the *data_set_name* metadata data set.

説明: Tools Customizer は、データ・セット内に指定されたメタデータ・メンバーを検出できませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO073E The *member_name* discover metadata member is not valid because the default length for the *element_name* parameter element exceeds the length of the parameter. The default length is *default_length*, and the specified length is *specified_length*. The default length will be truncated accordingly.

説明: 指定されたパラメーター・エレメントのデフォルト長が、パラメーターより長くなっています。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQO074S The content of the *member_name* discover metadata member is not valid. The value of the *attribute_name* attribute in the *element_name* element is not valid. The value of the attribute is *value_name*.

説明: 指定した値が無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO075W The *configuration_ID* configuration ID in the *record_name* Discover record is incorrect. The record was not processed.

説明: 指定された構成 ID が正しくありません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQO076W The *configuration_ID* configuration ID cannot contain more than *maximum_number* characters. The record was not processed.

説明: 指定された構成 ID の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQO077S The discover metadata member was not found in the *data_set_name* component data set that is part of the *data_set_name* pack.

説明: ディスカバー・メタデータ・メンバーが、指定されているコンポーネント・データ・セットに見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQO080I *Product_name* does not support the Discover process.

説明: 指定された製品は、Discover プロセスをサポートしていません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQP000E The value of the *mode_name* DB2 mode is not valid for the *level_name* DB2 level.

説明: 指定された DB2 モードが、DB2 レベルに無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 レベルに有効な DB2 モードを指定してください。

CCQP001E The value of the *mode_name* DB2 mode is missing.

説明: 指定された DB2 モードが定義されていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 モードに値を指定してください。

CCQP002E The value of the *mode_name* DB2 level is missing.

説明: 指定された DB2 レベルが定義されていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 レベルに値を指定してください。

CCQP003E The value of the *level_name* DB2 level is not valid.

説明: 指定された DB2 レベルに有効な名前がありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 レベルに有効な値を指定してください。

CCQP004S The *parameter_name* parameter does not exist in the CCQ\$\$DB2 DB2 parameter metadata member.

説明: CCQ\$\$DB2 DB2 パラメーター・メタデータ・メンバー内に、指定されたパラメーターが含まれていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 11-511 ページの『診断情報の収集』を参照してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CCQP005E The value of the *subsystem_ID* DB2 SSID is missing.

説明: 指定された DB2 SSID が定義されていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 SSID に有効な値を指定してください。

CCQP006E The value of the *group_attach_name* DB2 group attach name is missing.

説明: 指定された DB2 グループ接続名が定義されていません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 有効な DB2 グループ接続名を指定してください。

CCQQ000E Specify a valid metadata library. Each qualifier of the library must start with an alphabetic character and must be 1-8 alphanumeric characters. The library name must be 1-44 characters.

説明: メタデータ・ライブラリーが、正しい形式で指定されませんでした。高位修飾子には英数字が含まれている必要があります。また、先頭文字は数字であってはなりません。名前には、アスタリスク (*) やパーセント記号 (%) などのワイルドカード文字を含めることはできません。

システムの処置: Tools Customizer は、正しいライブラリー名を要求します。

ユーザーの処置: 正しい形式でライブラリーを指定してください。このメッセージが「Specify the Metadata Library」(CCQPHLQ) パネルで出た場合は、製品メタデータ・ライブラリーを指定してください。このライブラリーの名前は、*hlq.SHLOHLRDENU* です。

Tools Customizer メタデータ・ライブラリー (*hlq.SCCQDENU*) は指定しないでください。

CCQQ001E The *data_set_name* data set name that was specified for the metadata library was not found.

説明: データ・セットが存在しないか、データ・セット名が誤った形式で書き込まれました。高位修飾子には英数字が含まれている必要があります。また、先頭文字は数字であってはなりません。名前には、アスタリスク (*) やパーセント記号 (%) などのワイルドカード文字を含めることはできません。

システムの処置: Tools Customizer は、正しいデータ・セット名を要求します。

ユーザーの処置: 正しい形式でデータ・セット名を指定してください。

CCQQ002E The data set name that was specified for the *library_name* metadata library cannot be opened.

説明: Tools Customizer は、データ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: Tools Customizer は、使用可能なデータ・セットを要求します。

ユーザーの処置: 指定されたデータ・セットが、Tools Customizer でオープンするのに使用可能であることを確認してください。

CCQQ003E The *data_set_name* data set name that was specified for the metadata sample library is not valid. The data set must be in the following format:
HLQ.SxxxSAMP.

説明: 指定されたデータ・セット名が、正しい形式で指定されませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: *HLQ.SxxxSAMP* の形式でデータ・セット名を指定してください (*xxx* は製品の 3 文字の接頭部)。

CCQQ004E The *data_set_name* data set is being used by another user. Try again when the data set is not being used.

説明: 別のユーザーが、指定されたデータ・セットを使用しています。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 指定されたデータ・セットが使用中でないことを確認してください。

CCQQ009E The *data_set_name* data set name that was specified for the metadata library is not valid because the data set is empty.

説明: 指定されたデータ・セットが空です。

システムの処置: Tools Customizer は、使用可能なデータ・セットを要求します。

ユーザーの処置: 指定されたデータ・セットが、Tools Customizer でオープンするのに使用可能であることを確認してください。

CCQQ011E The *library_name* metadata library for the component that is part of the *library_name* pack was not found in the catalog. The name of the pack is *pack_name*, and the name of the component is *component_name*.

説明: 指定されたメタデータ・ライブラリーが、カタログ内にありません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 別のメタデータ・ライブラリーを指定してください。

CCQQ012E The *library_name* metadata library for the component that is part of the *library_name* pack cannot be opened.

説明: 指定されたメタデータ・ライブラリーを開くことができません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: ライブラリーの名前が正しく指定されていることを確認してください。

CCQS000I Tools Customizer is being invoked for the first time or the previous ISPF session ended before Tools Customizer was exited. In both cases, the fields on this panel are populated with default values. Review these default values or specify new values to be used to customize products or packs.

説明: スタンドアロン製品かソリューション・パックを初めてカスタマイズする際や、ISPF プロファイルを保管する前に ISPF セッションが予期せず終了した際には、Tools Customizer のユーザー設定を指定するか検討する必要があります。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: デフォルトの設定値を検討して受け入れるか、新しい設定値を指定してください。

CCQS001E The following command is not valid: *command_name*.

説明: 指定されたコマンドは、このパネルで有効なコマンドではありません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 有効なコマンドを指定してください。

CCQS002W The *data_set_name* Discover data set could not be found.

説明: Tools Customizer は指定されたデータ・セットを見つけられませんでした。

システムの処置: データ・セットが割り振られ、処理が続行されます。

ユーザーの処置: データ・セット名が正しく指定されていることを確認してください。値が保管された後、その名前のデータ・セットが割り振られます。

CCQS003W The *data_set_name* Discover data set was not found so it was created.

説明: Tools Customizer は指定されたデータ・セットを見つけられませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: データ・セット名が正しく指定されていることを確認してください。

CCQS004I The settings were saved.

説明: 変更した設定値が保管されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQS006W The length of a qualifier for the *data_set_name* customization library data set exceeds 26 characters.

説明: カスタマイズ・ライブラリー・データ・セットの修飾子が長すぎます。この修飾子は 26 文字を超えることはできません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 26 文字以下の修飾子を指定してください。

CCQS007E The discover data set *data_set_name* could not be opened with the *option-type* option.

説明: 指定されたオプションは、Discover データ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: WRITE アクセス権限があるデータ・セットを指定してください。

CCQS008E An error occurred while the *data_set_name* Discover data set was being created.

説明: 指定されたデータ・セットの作成中に、エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: このデータ・セットへの WRITE アクセス権限があることを確認してください。

CCQS010E The customization library qualifier is not valid.

説明: 指定されたカスタマイズ・ライブラリー修飾子が無効です。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: カスタマイズ・ライブラリーに有効な修飾子を指定してください。

CCQS011E The group attach option is not valid.

説明: 指定されたグループ接続オプションが無効です。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: グループ接続オプションに有効なオプションを指定してください。

CCQS012E The Tools Customizer metadata library is not valid.

説明: 指定されたメタデータ・ライブラリーが、有効なデータ・セットではありません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: メタデータ・ライブラリーに有効なデータ・セットを指定してください。

CCQS013E The Discover data set is not valid.

説明: 指定された Discover データ・セットが、有効なデータ・セットではありません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 有効な Discover データ・セットを指定してください。

CCQS014E The data store data set is not valid.

説明: 指定されたデータ・セットが、有効なデータ・セットではありません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 有効なデータ・ストア・データ・セットを指定してください。

CCQS015E Tools Customizer is already running.

説明: Tools Customizer のセッションが、ご使用の環境で既に実行中です。1 つの Tools Customizer セッションのみが許されます。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: トレース・データ・セットが使用中です。トレース・データ・セットを解放し、Tools Customizer を再度開始してください。

CCQS018E Information on the first line of the job card exceeds 57 characters.

説明: ジョブ・カードの最初の行には、57 文字のみを入れることができます。この文字の長さ制限には、継続文字が含まれます。

システムの処置: Tools Customizer は、ジョブ・カードの最初の行をクリアします。

ユーザーの処置: ジョブ・カードの最初の行に、57 文字を超えない情報を指定してください。

CCQS019E The required trace data set, *data_set_name*, is currently not accessible.

説明: このトレース・データ・セットはアクセス可能でなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: このトレース・データ・セットがアクセス可能であることを確認してください。

CCQS020E An error occurred while the customization library data set was being created. ALTER authority on the high-level qualifier for the customization library data set is required.

説明: カスタマイズ・ライブラリー・データ・セットを作成するには、指定された高位修飾子に対する ALTER 権限が付与されていなければなりません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 指定されたカスタマイズ・ライブラリー・データ・セットの ALTER 権限が付与されていることを確認してください。

CCQS021E The value *value_name* in the field that contains the cursor position is not valid.

説明: 指定した値が無効です。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。

CCQS022E An error occurred while the customization library data set was being opened. UPDATE authority on the high-level qualifier for the customization library data set is required.

説明: カスタマイズ・ライブラリー・データ・セットを開くには、指定された高位修飾子に対する UPDATE 権限が付与されていなければなりません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 指定されたカスタマイズ・ライブラリー・データ・セットの UPDATE 権限が付与されていることを確認してください。

CCQS023E An error occurred while the customization library data set was being opened. UPDATE authority on the high-level qualifier for the customization library data set is required.

説明: カスタマイズ・ライブラリー・データ・セットを開くには、指定された高位修飾子に対する UPDATE 権限が付与されていなければなりません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 指定されたカスタマイズ・ライブラリー・データ・セットの UPDATE 権限が付与されていることを確認するか、「Tools Customizer Settings」パネルでカスタマイズ・ライブラリー・データ・セットに別の高位修飾子を指定してください。

CCQS024E An error occurred while the customization library data set was being created. ALTER authority on the high-level qualifier for the customization library data set is required.

説明: カスタマイズ・ライブラリー・データ・セットを作成するには、指定された高位修飾子に対する ALTER 権限が付与されていなければなりません。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: 指定されたカスタマイズ・ライブラリー・データ・セットの ALTER 権限が付与されていることを確認するか、「Tools Customizer Settings」パネルでカスタマイズ・ライブラリー・データ・セットに別の高位修飾子を指定してください。

CCQS030E The following command is not a valid CREATE statement: *command_statement*.

説明: 指定された CREATE コマンド・ステートメントは無効です。ブランクまたは英字が含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 有効な CREATE コマンド・ステートメントを指定してください。正しい構文は、CREATE *nm* です。ここで、*nm* は 1 から 99 までです。

CCQS031E The following command is not a valid CREATE statement: *command_statement*. The number that can be specified with the CREATE command is 1 - 99.

説明: 指定された CREATE コマンド・ステートメントは無効です。0 かまたは 99 より大きい数値が含まれています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 有効な CREATE コマンド・ステートメントを指定してください。正しい構文は、CREATE *nm* です。ここで、*nm* は 1 から 99 までです。

CCQT000I The product configuration ID *copied_configuration_ID* was successfully copied from *configuration_ID*.

説明: 指定された構成 ID がコピーされました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT001E The *command_name* line command was specified more than once, which is not allowed.

説明: 指定された行コマンドは、複数回指定することはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: この行コマンドを 1 回のみ指定してください。

CCQT002E The *configuration_ID* configuration ID already exists. Specify a different configuration ID.

説明: 指定された構成 ID は存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 指定された構成 ID が固有であることを確認してください。

CCQT003I The product configuration ID *configuration_ID* was created.

説明: 指定された構成 ID が作成されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT004I The product configuration ID *configuration_ID* was removed.

説明: 指定された構成 ID が除去されました。

システムの処置: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT005E The product configuration ID *configuration_ID* is not valid. The product configuration ID cannot contain a colon (:).

説明: 指定された構成 ID にコロン (:) が含まれていますが、コロンは無効です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: コロンを含まない構成 ID を指定してください。

CCQT006E The *configuration_ID* configuration ID exists. Specify a different configuration ID.

説明: 指定された構成 ID は存在します。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 別の構成 ID を指定してください。

CCQT007E The *configuration_ID* configuration ID exists but was removed from the list of configurations. To use this configuration ID, you must restore it.

説明: 指定された構成 ID は存在しますが、使用可能な構成のリストからは除去されました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 別の構成 ID を指定してください。指定された構成 ID をリストアするには、CREATE コマンドを発行して、同じ構成 ID を再度指定してください。

CCQT008E The *configuration_ID* configuration ID exceeds *maximum_number* characters.

説明: 指定された構成 ID の文字数が多すぎます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition で設定された最大文字数を超えない、別の構成 ID を指定してください。

CCQT010I Create request for *configuration_ID* configuration was cancelled by user.

説明: 指定された構成の作成要求は取り消されました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT011I The *configuration_ID* configuration was not copied.

説明: 指定された構成がコピーされませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT012I The *configuration_ID* configuration was not removed.

説明: 指定された構成が削除されませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT013I None of the configurations were copied or removed. All of the previously selected configurations are deselected.

説明: 選択された構成はコピーまたは削除されませんでした。選択は解除されます。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT014E Specify Y or N and press Enter to continue, or press End to cancel.

説明: 関数には入力データが必要です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 続行するには、Y または N を指定して Enter を押してください。続行しない場合は、End を押して取り消してください。

CCQT015E The *command_name* command is not allowed during the process of "Select" configuration line command.

説明: 構成を選択する行コマンドの処理中は、指定されたコマンドは使用できません。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 指定された行コマンドを削除してください。

CCQT016I The *configuration_ID* configuration was not created

説明: 指定された構成が作成されませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT017I The *configuration_ID* configuration was not copied.

説明: 指定された構成がコピーされませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT018E Specify Y or N, and press Enter.

説明: 関数には入力データが必要です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 続行するには、Y または N を指定して、Enter を押してください。

CCQT019I The select *configuration_ID* configuration process ended.

説明: 指定された構成に関する選択プロセスは終了しました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT020E The *configuration_ID* configuration was not created because the data store was not accessible.

説明: データ・ストアにアクセスできなかったため、指定された構成は作成されませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: データ・ストアがアクセス可能であることを確認し、再び構成を作成してください。

CCQT021E The *configuration_ID* configuration was not copied because the data store was not accessible.

説明: データ・ストアにアクセスできなかったため、指定された構成はコピーされませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: データ・ストアがアクセス可能であることを確認し、再び構成をコピーしてください。

CCQT025I The *configuration_ID* configuration was not updated.

説明: 編集プロセスが取り消されたので、指定された構成は更新されませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQT027I The product configuration was successfully updated.

説明: 構成が更新されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCQX001S *Product_name* has already been customized by using values from *data_set_name* data store data set. Switch to the specified data store data set to continue customizing this product.

説明: 指定された製品は、指定されたデータ・ストア・データ・セットからの値を使用してカスタマイズされました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 指定されたデータ・ストア・データ・セットを使用して、製品のカスタマイズを続行してください。

CCQX002S *component_name* has already been customized by using values from *data_set_name* data store data set. Switch to the specified data store data set to continue customizing this component.

説明: 指定されたコンポーネントは、指定されたデータ・ストア・データ・セットの値を使用してカスタマイズされました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 指定されたデータ・ストア・データ・セットを使用して、コンポーネントのカスタマイズを続行してください。

CCQX011I *Product_name* was not found.

説明: 指定された製品が見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 別の製品を指定してください。

Accelerator Loader のメッセージ

Accelerator Loader メッセージを検索して、メッセージの説明や推奨される応答など、メッセージに関する情報を入手してください。

それぞれのメッセージに、固有のメッセージ ID が付いています。ID の先頭の 3 から 4 文字は、メッセージが発行された対象のコンポーネントを示しています。

- HLO は、ISPF インターフェースを示します。
- HLOG は、複数のコンポーネントに関するグローバル・メッセージを示します。
- HLOM は、保守ユーティリティ (HLOMAINT) を示します。
- HLOP は、パーサー・コンポーネントを示します。(これらのメッセージは、主にソフトウェア・サポートによって使用されます)
- HLOS は、Accelerator Loader 開始タスクを示します。
- HLOU は、DSNUTILB インターセプトを示します。
- HLV は、Accelerator Loader サーバーを示します。

すべてのメッセージ ID に、最後の文字として以下のような重大度コードが付いています。

- A: ただちに処置をとる必要があります。要求された処置をとるまで、関連するタスクは継続されません。
- D: 決定または処置がただちに必要です。要求された決定が行われるか、または要求された処置がとられるまで、関連するタスクは継続されません。
- E: エラー・メッセージ。一部のエラーは、ユーザーが修正できる場合があります。ユーザー応答を参照して適切な処置を判断してください。
- I: 通知専用。ユーザーの処置は不要です。
- S: 重大エラー・メッセージ。重大な内部エラーまたは環境エラーが発生しました。通常は、ソフトウェア・サポートに連絡して、これらのエラーを解決するための支援を受ける必要があります。
- W: 警告メッセージ。予期しない結果になっている可能性があります。

メッセージ出力の中で、タイム・スタンプはメッセージ ID の後、メッセージ・テキストより前に表示され、メッセージが発行された時点を示します。タイム・スタンプは、ユリウス日付の後に形式 HH:MM:SS:tt の時刻を付けたものです。変数の定義は、HH は時間、MM は分、SS は秒、tt は 100 分の 1 秒です。このタイム・スタンプは、ISPF インターフェースまたはバッチ・インターフェースから発行

されるメッセージ (HLO または HLOB メッセージ)、または WTO メッセージとして発行されるメッセージには出力されません。(WTO メッセージには、代わりにシステム・タイム・スタンプが示されます)

HLO002E Insufficient region size. Available region size of at least 30000 is required.

説明: 使用可能な領域サイズが製品で使用するのに十分な大きさではありません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、領域サイズを 30000 に増やしてください。

HLO003E Not enough memory. Close other applications and try again or contact your system administrator to increase the region size.

説明: 製品には、少なくとも 30000 の使用可能な領域サイズが必要です。

ユーザーの処置: 他のアプリケーションを閉じて再試行するか、システム管理者に連絡して、領域サイズを増やしてください。

HLO004E Insufficient region size. Available region size of at least 50000 is required for Accelerator Loader サーバ - administration.

説明: 使用可能な領域サイズが Accelerator Loader サーバ管理を実行するのに十分な大きさではありません。少なくとも 50000 の使用可能な領域サイズが必要です。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、領域サイズを 50000 に増やしてください。

HLO010E No objects match the filter.

説明: 指定されたフィルター基準に一致するオブジェクトはありません。

ユーザーの処置: フィルター値を変更するか、リストに新しいオブジェクトを追加してください。

HLO011 I Operation completed successfully.

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO101E ISPF error: <error_message>.

説明: ISPF エラーが発生したために、表示されているメッセージが生成されました。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、操作を再試行してください。必要な場合は、ISPF 資料を確認して、エラーの原因を判別してください。

HLO102E An invalid command was entered in the command or option line.

説明: 有効なコマンドがパネルにリストされています。

ユーザーの処置: 有効なコマンドを入力してください。

HLO103E Enter a valid line command as listed at the top of the panel.

説明: 有効な行コマンドがパネルの上部にリストされています。

ユーザーの処置: 有効な行コマンドを入力してください。

HLO104E An invalid option was entered. Enter a valid option.

説明: 指定されたオプションは、このフィールドでは無効です。

ユーザーの処置: 別のオプションを入力してください。

HLO105E An invalid value was entered.

説明: 指定された値は、このフィールドでは無効です。

ユーザーの処置: フィールドに有効な値を入力してください。

HLO106 I Move is pending.

説明: M(Move) 行コマンドが入力されましたが、A(After) コマンドまたは B(Before) コマンドが指定されていませんでした。

ユーザーの処置: 行コマンドが発行される位置の後または前にオブジェクトを移動するために、A(After) または B(Before) 行コマンドを入力してください。

HLO107E Element was not found.

説明: 指定されたエレメントが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: エレメント名を確認し、再入力してください。

HLO108 I No element was selected from the list.

HLO120E • HLO129E

説明: 少なくとも 1 つのエレメントがリストから選択されていなければなりません。

ユーザーの処置: 1 つ以上のエレメントを選択してください。

HLO120E File was not opened.

<error_message_text>.

説明: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明については、ルーチンのユーザーズ・ガイドを参照してください。関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLO121E File *<file_name>* is not a valid KSDS file.

説明: ファイルは有効な KSDS ファイルでなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な KSDS ファイルを指定してください。

HLO122E I/O operation cannot be performed on closed file (*<file_name>*).

説明: ファイル *<file_name>* はクローズされています。クローズされているファイルに対しては、入出力操作は拒否されます。

ユーザーの処置: ファイルの可用性を確認して、再試行してください。障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO123E Input operation cannot be performed on file (*<file_name>*) because the file was opened in read only mode.

説明: ファイル *<file_name>* は読み取り専用モードでオープンされました。このファイルに対しては、書き込み操作は拒否されます。

ユーザーの処置: ファイルの可用性を確認して、再試行してください。障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO124E Record to be added to file *<file_name>* already exists.

説明: ファイル内のレコードには別のキーが必要です。追加されるレコードには、既存のレコードと同じキーがあります。

ユーザーの処置: ファイルの整合性を確認して、再試行

してください。障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO125E Cannot add record to file.

<error_message_text>.

説明: ファイルにレコードを追加しているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明については、ルーチンの資料を参照してください。関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO126E Record for update in file *<file_name>* does not exist.

説明: 指定されたキーを持つ更新可能なレコードがファイルに存在している必要があります。

ユーザーの処置: ファイルの整合性を確認して、再試行してください。障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLO127E Cannot update record in file.

<error_message_text>.

説明: ファイルのレコードの更新中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明については、ルーチンの資料を参照してください。関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO128E Record for replace in file *<file_name>* does not exist.

説明: 指定されたキーを持つレコードがファイルに存在している必要があります。

ユーザーの処置: ファイルの整合性を確認して、再試行してください。障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO129E Cannot replace record in file.

<error_message_text>.

説明: ファイル内のレコードの置換中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明については、ルーチンの資料を参照してください。関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO130E Record for delete from file <file_name> does not exist.

説明: 指定されたキーを持つレコードがファイルに存在している必要があります。

ユーザーの処置: ファイルの整合性を確認して、再試行してください。障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO131E Cannot delete record from file. <error_message_text>.

説明: ファイルからレコードを削除しているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明については、ルーチンの資料を参照してください。関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO132E Cannot locate record in file. <error_message_text>.

説明: ファイル内のレコードを見つけているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明については、ルーチンの資料を参照してください。関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO133E Cannot read record from file. <error_message_text>.

説明: ファイルからのレコードの読み取り中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明については、ルーチンの資料を参照してください。関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO200E <message_text>.

説明: DB2 制御ファイル・ルーチンまたは VSAM データ・リポジトリ・ルーチンで内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラー・コードの説明については、ルーチンのユーザーズ・ガイドを参照してください。関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLO201E Accelerator Loader repository does not exist.

説明: 基本 PDS がリポジトリの高位修飾子 (HLQ) ではありません。

ユーザーの処置: 「CLIST」で VSAM データ・リポジトリに指定されている高位修飾子変数が正しいことを確認してください。問題を解決できない場合には、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLO202E Accelerator Loader control file does not exist.

説明: 基本 PDS が DB2 制御ファイルの HLQ ではありません。

ユーザーの処置: 「CLIST」で DB2 制御ファイルに指定されている高位修飾子変数が正しいことを確認してください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO203E DB2 version <version_number> is not supported by this version of the product.

説明: 製品には、DB2 10 以降が必要です。

ユーザーの処置: サポートされている DB2 バージョンの DB2 サブシステムを選択してください。

HLO204E Data changes cannot be saved because the profile was opened in View mode or Share option prevents saving.

説明: 共用オプションが「Update」である場合、またはプロファイルの所有者として「Edit」モードまたは「Build」モードで開いている場合、プロファイルに対する変更を保管できます。

ユーザーの処置: プロファイルを閉じてから、保管をサポートするモードで再び開いてください。

HLO206E Access method for specified data set is not supported.

説明: 製品は、順序データ・セットおよび区分データ・セットをサポートしています。

ユーザーの処置: 順次データ・セットまたは区分データ・セットのいずれかを指定してください。

HLO207 I No DB2 subsystem was defined in the DB2 control file.

説明: DB2 サブシステムが DB2 制御ファイルで定義されている必要があります。

ユーザーの処置: 制御ファイルで DB2 サブシステムを指定してください。

HLO208E An error occurred while saving JCL file: <file_name>. Error codes: <error_codes>.

説明: 示されているエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、操作を再試行してください。

HLO209E Profile repository error: <error_text>.

説明: 示されているリポジトリ・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO210E <profile creator> element value is too long: element_value. It cannot exceed 8 characters.

説明: 指定されたプロファイル作成者値は、8 文字の制限を超えているため、無効です。

ユーザーの処置: 最大 8 文字の有効な値を指定して、ジョブを再実行してください。

HLO211E <profile ssid> element must be set in the SYSIN DD.

説明: 示されているエレメントは必須です。

ユーザーの処置: 値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO212E <profile name> element must be set in the SYSIN DD.

説明: 示されているエレメントは必須です。

ユーザーの処置: 値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO213E <profile creator> element must be set in the SYSIN DD.

説明: 示されているエレメントは必須です。

ユーザーの処置: 値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO214E The output data set for Accelerator Loader load JCL generation must be a partitioned data set (PDS). The specified data set <data_set_name> does not exist and the member is empty in profile <profile_name>.

説明: <output dsn> エレメントは、ロード JCL 生成に使用される PDS への絶対パスを指定します。このエレメントを指定しない場合、製品は、プロファイルの値を使用します。この値は、「Build Load JCL」パネルの「Data set name」フィールドで定義されます。

ユーザーの処置: 「Build Load JCL」パネルの「Data set name」フィールドに、既存のデータ・セットの名前を指定するか、値を指定してください。データ・セット名を変更した後、ジョブを再実行してください。

HLO215E The output data set for Accelerator Loader profile_type load generation must be a partitioned data set (PDS). The specified data set data_set_name is not a PDS.

説明: 出力の JCL の PDS を指定する必要があります。

ユーザーの処置: PDS を指定して、ジョブを再実行します。

HLO216E <table name> subelement must be set in the <table> element in the SYSIN DD.

説明: 示されているサブエレメントは必須です。

ユーザーの処置: 値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO217E <table creator> subelement must be set in the <table> element in the SYSIN DD.

説明: 示されているサブエレメントは必須です。

ユーザーの処置: 値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO218E Output data set *data_set_name* does not exist. An error occurred while the product was attempting to allocate the data set.

説明: 製品は、示されているデータ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: <output data set> エlementに有効な値が含まれていることを確認してください。必要な場合は、訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO219W An error occurred while the product was setting ISPF statistics for member *member_name* of data set *data_set_name*.

説明: 製品は、示されているメンバーに ISPF 統計を設定できませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO220 I JCL file *file_name* for profile *profile_name*, *profile_type*, and *ssid* was successfully generated to *data_set_name* data set.

説明: 示されているロード・プロファイルの名前、タイプ、および SSID の JCL 生成が正常に終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO221E The value that was specified for the <number of jobs> element is too small. Cannot create jobs *job_names* for specified tables *table_names*.

説明: ジョブの数で除算した表の数が 172380 より小さくなっています。

ユーザーの処置: <number of jobs> の値を増やして、ジョブを再実行してください。

HLO222E The value that was specified for <number of jobs> element is too large: *specified_value*. Valid values are 1 - 17576.

説明: <number of jobs> エlementは、生成するジョブの数を指定します。有効な値は 1 から 17576 です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO223E Unknown subelement *element_name* found in the <table> element for profile type *profile_type*.

説明: SYSIN DD 内の示されているサブエレメント名が無効です。JCL 生成は停止しました。

ユーザーの処置: 有効なサブエレメントについては、製品資料を参照してください。サブエレメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO224E Unknown element *element_name* found for profile *profile_type*.

説明: SYSIN DD で不明なエレメントが指定されました。JCL 生成は停止しました。

ユーザーの処置: 有効なエレメントについては、製品資料を参照してください。エレメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO225E Unknown profile type found: <*profile_type*>. Valid values are: DUAL, CONSISTENT, ACCELERATOR ONLY, IMAGE COPY.

説明: <*profile_type*> エlementの値が無効です。プロファイル・タイプの説明については、製品資料の DB2 Analytics Accelerator Loader の用語に関するトピックを参照してください。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストに示されているように、有効な値を指定してください。

HLO226E No tables are defined for profile *profile_name*.

説明: バッチ JCL 生成プログラムの SYSIN DD で <table> エlementが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: <table name> エlementを使用して、少なくとも 1 つの表を指定してください。

HLO227E The <profile type> element was not found.

説明: <profile type> エlementは必須です。

ユーザーの処置: SYSIN DD で <profile type> エlementを指定してください。

HLO228E The profile version <*version_number*> is not supported by this version of the product.

説明: 指定されたプロファイルのバージョンはサポート

| されていません。プロファイルは、製品のより新しいバージョンで保管されました。

| ユーザーの処置: 別のプロファイルを指定するか、製品の最新バージョンを実行してください。

| **HLO229E** **The profile was created by an earlier version of the product. Use the ISPF interface to convert the profile to the latest version.**

| 説明: 選択されたプロファイルは、より古いバージョンの製品で作成されました。このプロファイルを使用するには、現行バージョンで使用するために更新する必要があります。

| ユーザーの処置: プロファイルをアップグレードするには、ISPF インターフェースを使用してプロファイルを編集します。「Confirm Action」パネルが表示されたら、プロファイルの更新を選択してください。

HLO240E **The <template_name> template name must be defined for table <table_name>.**

説明: 示されているテンプレート名は必須です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO241E **The <data_set_name> template data set must be defined for table <table_name>.**

説明: 示されているデータ・セットは必須です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO242E **The <template_name> template disposition must be defined for table <table_creator.table_name>.**

説明: 「DB2 for z/OS ユーティリティ・ガイドおよび解説書」で説明されているように、示されているテンプレート名に対して有効な z/OS データ・セットの後処理を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 「DD Template Specification」パネルの「Data set disposition」フィールドに有効な DD の後処理を入力して、ジョブを再実行してください。

HLO243E **The SYSREC data set must be defined for table <table_name>.**

説明: SYSREC データ・セットは必須です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO244E **The accelerator name must be defined for profile <profile_name>.**

説明: アクセラレーター名は必須です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定して、ジョブを再実行します。

HLO249E **SYSIN parsing error - invalid escape sequence: <escape_sequence>.**

説明: 無効なエスケープ・シーケンスが見つかりました。有効値は以下のとおりです。

< は、より小記号 (<)

> は、より大記号 (>)

& は、アンパーサンド (&)

' は、アポストロフィ (')

" は、二重引用符 (")

ユーザーの処置: シーケンスを訂正してください。

HLO250E **SYSIN parsing error - unexpected close tag symbol.**

説明: 製品で、誤って配置されたエレメント終了タグが検出されました。

ユーザーの処置: タグを訂正し、ジョブを再実行します。

HLO251E **SYSIN parsing error - value for tag is incorrectly placed.**

説明: 製品で、誤った配置されたエレメントの値が検出されました。

ユーザーの処置: 値を訂正し、ジョブを再実行します。

HLO252E **SYSIN parsing error - unexpected end of SYSIN.**

説明: SYSIN に、閉じていないタグまたは無効な値が含まれています。

ユーザーの処置: SYSIN を訂正し、ジョブを再実行します。

HLO253E <PARTITION> element must have a numeric value or numeric range with symbols '-:'. The specified value is *partition_value*.

説明: 単一のパーティションをパーティション番号で指定するか、パーティション番号の範囲を `a[(:|-)b][a[(:|-)b]]*` 形式で指定することができます。ここで、`a,b` は 0 より大きな数値です。例えば、`<PARTITION>='1-2,4:5,8'` および `<PARTITION>='1'` のように指定します。

ユーザーの処置: 値を訂正し、ジョブを再実行します。

HLO254 I SYSREC data set supplied by profile *profile_creator.profile_name* for table *table_creator.table_name*. To override this value, use element <SYSREC-DSN>.

説明: メッセージに示されているプロファイルから入力データ・セットが取得されました。

ユーザーの処置: SYSREC データ・セットを変更するには、<SYSREC-DSN> エlementに値を指定してください。

HLO255 I SYSREC template DSN supplied by profile *profile_creator.profile_name* for table *table_creator.table_name*. To override this value, use element <SYSREC-TEMPLATE-DSN>.

説明: メッセージに示されているプロファイルから SYSREC テンプレート・データ・セット名が取得されました。

ユーザーの処置: SYSREC テンプレート DSN を変更するには、<SYSREC-TEMPLATE-DSN> エlementに値を指定してください。

HLO256 I SYSREC template name supplied by profile *profile_creator.profile_name* for table *table_creator.table_name*. To override this value, use element <SYSREC-TEMPLATE-NAME>.

説明: メッセージに示されているプロファイルから SYSREC テンプレート名が取得されました。

ユーザーの処置: SYSREC テンプレート名を変更するには、<SYSREC-TEMPLATE-NAME> エlementに値を指定してください。

HLO257 I Column info data set supplied by profile <creator>.<name> for table <table_creator>.<table_name>. To override this value, use element <FIELDSPEC-DSN>.

説明: メッセージに示されているプロファイルから列情報データ・セットが取得されました。

ユーザーの処置: 列情報データ・セットを変更するには、<FIELDSPEC-DSN> エlementに値を指定してください。

HLO258E Profile <creator>.<name> created by <user-id> has NO ACCESS share option and cannot be built by <user-id>.

説明: 示されているプロファイルの「Share option」の値が「No access」であるため、他のユーザーはプロファイルを表示することも更新することもできません。

ユーザーの処置: 別のプロファイルを選択するか、「Share option」の値を「Update」または「View only」に変更してください。

HLO260E DB2 table <table_creator.table_name> was not found in catalog.

説明: 示されている DB2 表、ビュー、または別名が存在しません。

ユーザーの処置: 有効な DB2 表、ビュー、または別名を指定してください。

HLO261E DB2 object <object_creator.object_name> of type <object_type> is not supported.

説明: 示されている DB2 オブジェクトは、サポートされないタイプです。

ユーザーの処置: 有効な DB2 オブジェクトを指定してください。有効な DB2 オブジェクト・タイプは、T (表)、V (ビュー)、および A (別名) です。

HLO262E DB2 object <object_creator.object_name> of type <object_type> has more than one base table.

説明: 示されている DB2 オブジェクトは、複数の基本表に関連しています。

ユーザーの処置: 有効な DB2 表、ビュー、または別名を指定してください。オブジェクトには、タイプ T の基本表を 1 つのみ指定できます。

HLO263E DB2 object <object_creator.object_name> of type <object_type> has base table not of type T.

説明: 示されている DB2 オブジェクトは、タイプが T ではない基本表に関連しています。

ユーザーの処置: 有効な DB2 表、ビュー、または別名を指定してください。オブジェクトには、タイプ T の基本表を 1 つのみ指定できます。

HLO300E DB2 subsystem ID is required. Enter a valid DB2 SSID.

説明: DB2 サブシステム ID を指定する必要があります。既存のサブシステムのリストを開いて選択するために、フィールドに疑問符 (?) を入力できます。

ユーザーの処置: 有効な DB2 SSID 値を選択するか、入力してください。

HLO301E DB2 subsystem ID is invalid. Enter a valid DB2 SSID.

説明: DB2 サブシステム ID を指定する必要があります。既存のサブシステムのリストを開いて選択するために、フィールドに疑問符 (?) を入力できます。

ユーザーの処置: 有効な DB2 SSID 値を選択するか、入力してください。

HLO302E DB2 subsystem ID already exists. Enter another DB2 SSID to create.

説明: 指定された DB2 サブシステムは既にプログラムに定義されています。

ユーザーの処置: DB2 SSID として別の有効な値を入力してください。

HLO303E DB2 subsystem profile has empty required fields. Select option 1 to enter Accelerator Loader parameters.

説明: 必須フィールドに値を指定せずにプロファイルを保管することはできません。

ユーザーの処置: 製品パラメーターを入力するには、オプション 1 を選択してください。

HLO304E Member with specified name was not found.

説明: 指定されたメンバーを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 正しいメンバー名を指定したことを確認してください。

HLO305E Subsystem with specified SSID is not defined in the control file.

説明: 指定された DB2 サブシステムを、CLIST で指定されている DB2 制御データ・セットで見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 別の既存の SSID 値を入力するか、DB2 サブシステムを定義してください。

HLO306E Connection program load modules DSNALI, DSNHLI2, DSNWLI2, DSNTIAR were not found in specified load libraries for DB2 subsystem.

説明: リストされているロード・モジュールを、指定されたロード・ライブラリーで見つけることができませんでした。ロード・ライブラリーは通常、現行の DB2 パージョンのサブシステム固有の DSNEXIT ライブラリー、基本 DSNEXIT ライブラリー、および基本 DSNLOAD ライブラリーで構成されています。

ユーザーの処置: DB2 の現行のロード・ライブラリー連結で構成されていて、バッチ・ジョブ処理中に使用されるデータ・セットを指定してください。そのためには、「DB2 Subsystems」パネルおよび行コマンド E (編集) を使用してください。

HLO307 I DB2 subsystem <ssid> was successfully selected.

説明: 示されている DB2 サブシステムは正常に選択されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO308 I Successful selection.

説明: DB2 サブシステム <ssid> は正常に選択されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO308E DB2 subsystem ID is required. Enter a valid DB2 SSID.

説明: DB2 サブシステム ID を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な DB2 SSID 値を入力してください。

HLO309E DB2 subsystem ID is invalid. Enter a valid DB2 SSID.

説明: DB2 サブシステム ID を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な DB2 SSID 値を入力してください。

HLO310E Space units field is invalid. Specify BLKS, TRKS, CYLS, KB, MB, or BYTES.

説明: 指定されたスペース単位値が無効です。有効な値は、BLKS、TRKS、CYLS、KB、MB、および BYTES です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。

HLO311E Primary quantity field is invalid. Specify a numeric value.

説明: このフィールドには数値が必要です。

ユーザーの処置: 数値を指定してください。

HLO312E Invalid value.

説明: 2 次数量フィールドが無効です。

ユーザーの処置: 数値を指定してください。

HLO313E Block size field is invalid. Specify a numeric value.

説明: このフィールドには数値が必要です。

ユーザーの処置: 数値を指定してください。

HLO314E Specified device type could not be found in MVS.

説明: 指定された装置タイプを MVS™ で見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 別の装置タイプを指定してください。

HLO330E File tailoring OPEN failed: file tailoring already in progress condition.

説明: ファイル調整セッションが既に進行中であったため、ユーティリティのカスタマイズのためにファイル調整を実行する試みは失敗しました。複数のファイル調整セッションを同時に実行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO331E File tailoring OPEN failed: the output file is already in use condition -- ENQ failed.

説明: ファイル調整スケルトンにアクセスしようとして、ENQ エラー (メンバーが使用中) で失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべての調整ファイルが割り振られていること、および他の調整セッションが同時に実行中ではないことを確認してください。

HLO332E File tailoring OPEN returned the skeleton file or output file not allocated condition.

説明: 調整スケルトン・ファイルまたは出力ファイルのどちらかが割り振られていないため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 調整スケルトン・ファイルおよび出力ファイルが割り振られていることを確認してください。

HLO333E File tailoring OPEN returned a severe error condition.

説明: ファイルのオープン中に重大なエラー状態が発生したため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

HLO334E File tailoring OPEN returned an unknown code -- severe error.

説明: 重大エラー状態がオープンで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

HLO335E File tailoring CLOSE returned a file not open condition -- severe error.

説明: ファイルがオープンしていない状態がクローズで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であること、およびご使用のセッションと同時に実行されている他の調整セッションがないことを確認してください。

HLO336E File tailoring CLOSE returned an output file in use condition.

説明: 出力ファイルが使用中である状態がクローズで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であること、およびご使用のセッションと同時に実行されている他の調整セッションがないことを確認してください。

HLO337E File tailoring CLOSE returned a skeleton file or output file not allocated condition.

説明: 調整スケルトン・ファイルまたは出力ファイルのどちらかが割り振られていなかったため、ファイル調整をクローズしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であること、およびご使用のセッションと同時に実行されている他の調整セッションがないことを確認してください。

HLO338E File tailoring CLOSE returned a severe error.

説明: 重大エラー状態がクローズで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

HLO339E File tailoring CLOSE returned an unknown code -- severe error.

説明: 重大エラー状態がクローズで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

HLO340E File tailoring CLOSE failed: an output member exists in the output library and NOREPL was specified.

説明: クローズ・プロセスが出力ファイル内の既存の調整済みメンバーを置き換えることができなかったため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 出力メンバー名を新しい名前に変更するか、出力ライブラリーがメンバーの置き換えに確実に対応するようにしてください。

HLO341E File tailoring INCLUDE returned a skeleton does not exist condition.

説明: 調整プロセスが必要な調整スケルトンを見つけることができなかつたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行するために、必要なすべてのファイルが割り振られていることを確認してください。

HLO342E File tailoring INCLUDE returned a skeleton in use -- ENQ failed condition.

説明: 調整スケルトンにアクセスしようとして、ENQ エラー (メンバーが使用中) で失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべての調整ファイルが割り振られていること、および他の調整セッションが同時に行中ではないことを確認してください。

HLO343E File tailoring INCLUDE returned a data truncation, skeleton library, or output file not allocated condition.

説明: データが切り捨てられているか、調整スケルトン・ファイルまたは出力ファイルが割り振られていないために、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、データが損傷していないこと、および必要なすべてのファイルが割り振られていることを確認してください。

HLO344E File tailoring INCLUDE returned a severe error condition.

説明: 重大エラー状態がインクルード操作で検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

HLO345E File tailoring INCLUDE returned an unknown condition -- severe error.

説明: 重大エラー状態がインクルード操作で検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

HLO346E An error was encountered while allocating the ISPF DD - Process did not complete.

説明: ISPF DD の割り振り中に割り振りエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。これらのメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO347E Allocation Error - An error was encountered while reading the ISPF DD. Process did not complete.

説明: ISPF DD の読み取り中に割り振りエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 関連する z/OS メッセージから障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。これらのメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO440E Device type for work files could not be found in MVS. Enter a valid device type for work files.

説明: 作業ファイルに指定された装置タイプを MVS で見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 有効な DASD 装置またはテープ装置を入力してください。

HLO441E Device type for work files is required. Enter an existing MVS device type.

説明: 作業ファイルの装置タイプを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 既存の DASD 装置またはテープ装置を入力してください。

HLO442E Data set type for work files is invalid. Valid data set types are BASIC and LARGE.

説明: 製品は、作業データ・セットに対してデータ・セット・タイプ BASIC および LARGE をサポートしません。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO443E Data set type for work files is required. Valid data set types are BASIC and LARGE.

説明: 作業ファイルのデータ・セット・タイプとして BASIC または LARGE のいずれかを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO444E Track or cylinders for work files is invalid. Valid values are TRK for tracks and CYL for cylinders.

説明: 作業データ・セットの有効な割り振り単位を指定する必要があります。

ユーザーの処置: TRK (トラック) または CYL (シリンダー) を指定してください。

HLO445E Track or cylinders for work files is required. Valid values are TRK for tracks and CYL for cylinders.

説明: 作業データ・セットの有効な割り振り単位を指定する必要があります。

ユーザーの処置: TRK (トラック) または CYL (シリンダー) を指定してください。

HLO446E Primary quantity for work files is invalid. Enter a value of 1 - 16777215.

説明: 作業データ・セットの 1 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 16777215 までの値を入力します。

HLO447E Primary quantity for work files is required. Enter a value of 1 - 16777215.

説明: 作業データ・セットの 1 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 16777215 までの値を入力します。

HLO448E Secondary quantity for work files is invalid. Enter a value of 1 - 16777215.

説明: 作業データ・セットの 2 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 16777215 までの値を入力します。

HLO449E • HLO460E

HLO449E Secondary quantity for work files is required. Enter a value of 1 - 16777215.

説明: 作業データ・セットの 2 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 16777215 までの値を入力します。

HLO450E Maximum volumes for work files is invalid. Enter a value of 1 - 255.

説明: 作業データ・セットのボリュームの最大数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 255 までの値を入力します。

HLO451E Maximum volumes for work files is invalid required. Enter a value of 1 - 255.

説明: 作業データ・セットのボリュームの最大数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 255 までの値を入力します。

HLO452E Device type for SYSPRINT could not be found in MVS. Enter another device type.

説明: SYSPRINT ファイルに指定された装置タイプを MVS で見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 有効な DASD 装置またはテープ装置を入力してください。

HLO453E Device type for SYSPRINT is required. Enter an existing MVS device type.

説明: SYSPRINT ファイルの装置タイプを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な DASD 装置またはテープ装置を入力してください。

HLO454E Data set type for SYSPRINT is invalid. Valid data set types are BASIC and LARGE.

説明: 製品は、SYSPRINT ファイルに対してデータ・セット・タイプ BASIC および LARGE をサポートします。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO455E Data set type for SYSPRINT is required. Valid data set types are BASIC and LARGE.

説明: 製品は、SYSPRINT ファイルに対してデータ・セット・タイプ BASIC および LARGE をサポートします。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO456E Track or cylinders for SYSPRINT is invalid. Valid values are TRK for tracks and CYL for cylinders.

説明: SYSPRINT ファイルの有効な割り振り単位を指定する必要があります。

ユーザーの処置: TRK (トラック) または CYL (シリンダー) を指定してください。

HLO457E Track or cylinders for SYSPRINT is required. Valid values are TRK for tracks and CYL for cylinders.

説明: SYSPRINT ファイルの有効な割り振り単位を指定する必要があります。

ユーザーの処置: TRK (トラック) または CYL (シリンダー) を指定してください。

HLO458E Primary quantity for SYSPRINT is invalid. Enter a value of 1 - 16777215.

説明: SYSPRINT ファイルの 1 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 16777215 までの値を入力します。

HLO459E Primary quantity for SYSPRINT is required. Enter a value of 1 - 16777215.

説明: SYSPRINT ファイルの 1 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 16777215 までの値を入力します。

HLO460E Secondary quantity for SYSPRINT is invalid. Enter a value of 1 - 16777215.

説明: SYSPRINT ファイルの 2 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 16777215 までの値を入力します。

HLO461E Secondary quantity for SYSPRINT is required. Enter a value of 1 - 16777215.

説明: SYSPRINT ファイルの 2 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 16777215 までの値を入力します。

HLO462E Maximum volumes for SYSPRINT is invalid. Enter a value of 1 - 255.

説明: SYSPRINT ファイルのボリュームの最大数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 255 までの値を入力します。

HLO463E Maximum volumes for SYSPRINT is required. Enter a value of 1 - 255.

説明: SYSPRINT ファイルのボリュームの最大数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 255 までの値を入力します。

HLO464E Number of DDs is invalid. Enter a value of 1 - 99 for disk or 3 - 99 for tape device.

説明: 使用する DD ステートメントの数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ディスクの場合は 1 から 99、テープ装置の場合は 3 から 99 の値を入力してください。

HLO465E Number of DDs is required. Enter a value of 1 - 99 for disk or 3 - 99 for tape device.

説明: 使用する DD ステートメントの数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ディスクの場合は 1 から 99、テープ装置の場合は 3 から 99 の値を入力してください。

HLO466E Primary space in sort work parameters is invalid. Enter a value of 1 - 99999.

説明: ソート作業ファイル・パラメーターに 1 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 99999 までの値を入力します。

HLO467E Primary space in sort work parameters is required. Enter a value of 1 - 99999.

説明: ソート作業ファイル・パラメーターに 1 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 99999 までの値を入力します。

HLO468E Secondary space in sort work parameters is invalid. Enter a value of 1 - 99999.

説明: ソート作業ファイル・パラメーターに 2 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 99999 までの値を入力します。

HLO469E Secondary space in sort work parameters is required. Enter a value of 1 - 99999.

説明: ソート作業ファイル・パラメーターに 2 次スペースの数量を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 99999 までの値を入力します。

HLO470E Sort work unit device type is not recognized by OS/390 as a valid device type.

説明: Accelerator Loader がユーティリティー JCL を生成するときに使用されるソート作業ファイル・ユニット・デバイスを指定する必要があります。有効な値は、SYSALLDA、DISK などです。

ユーザーの処置: 有効な装置タイプを入力してください。

HLO471E Sort work unit device is required. Enter the unit device (SYSDA, DISK, etc.) that you want Accelerator Loader to generate when generating sort work file DDs.

説明: 製品がソート作業ファイル DD を生成するときに使用されるソート作業ファイル・ユニット・デバイスを指定する必要があります。有効な値は、SYSALLDA、DISK などです。

ユーザーの処置: 有効な装置タイプを入力してください。

HLO472E Utility REGION size is invalid. Enter the REGION size in megabytes that you want Accelerator Loader to use when generating utility JCL. Enter a value of 0 - 2047.

説明: 製品がユーティリティ JCL を生成するときに使用される領域サイズをメガバイト単位で指定する必要があります。

ユーザーの処置: 0 から 2047 までの値を入力します。

HLO473E Utility REGION size is required. Enter the REGION size in megabytes that you want Accelerator Loader to generate when generating utility JCL. Enter a value of 0 - 2047.

説明: 製品がユーティリティ JCL を生成するときに使用される領域サイズをメガバイト単位で指定する必要があります。

ユーザーの処置: 0 から 2047 までの値を入力します。

HLO474E When a tape device is used, data set type, tracks/cylinders, and primary/secondary space cannot be specified.

説明: データ・セット・タイプ、トラック/シリンダー、および 1 次/2 次スペースの値は、DASD 装置でのみ有効です。

ユーザーの処置: 装置タイプを DASD 装置に変更するか、テープ装置と互換性のない値を削除してください。

HLO475E Accelerator Loader Plan is required. Enter a value.

説明: DB2 カタログに接続するときに使用される製品プランを指定する必要があります。値には、最大 8 文字の英数字を含めることができます。

ユーザーの処置: 有効なプランを入力してください。

HLO476E Accelerator Loader Plan is invalid. Enter a valid value.

説明: DB2 カタログに接続するときに使用される有効な製品プランを指定する必要があります。値には、最大 8 文字の英数字を含めることができます。

ユーザーの処置: 有効なプランを入力してください。

HLO477E DB2 ZPARMs member is required. Enter a value.

説明: この DB2 サブシステム用に生成される ZPARM ロード・モジュール・メンバー名を指定する必要があります。値には、最大 8 文字の英数字を含めることができます。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO478E DB2 ZPARMs member is invalid. Enter a valid value.

説明: この DB2 サブシステム用に生成される ZPARM ロード・モジュール・メンバー名を指定する必要があります。値には、最大 8 文字の英数字を含めることができます。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO479E Bootstrap 01 data set could not be found in the MVS catalog.

説明: この DB2 サブシステムによって使用されているブートストラップ・データ・セットの完全データ・セット名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効なデータ・セット名を入力してください。

HLO480E DB2 Bootstrap DSN 01 is a required field. Enter the full DSN of the bootstrap data set.

説明: この DB2 サブシステムによって使用されているブートストラップ・データ・セットの完全データ・セット名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ブートストラップ・データ・セット名を入力してください。

HLO481E Bootstrap 02 data set could not be found in the MVS catalog.

説明: この DB2 サブシステムによって使用されているブートストラップ・データ・セット 02 の完全データ・セット名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ブートストラップ・データ・セット名を入力してください。

HLO482E DB2 Bootstrap DSN 02 is a required field. Enter the full DSN of the bootstrap data set.

説明: この DB2 サブシステムによって使用されている

ブートストラップ・データ・セットの完全データ・セット名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ブートストラップ・データ・セット名を入力してください。

HLO483E DB2 Loadlib1 data set could not be found in the MVS catalog.

説明: DB2 の現行のロード・ライブラリー連結で構成されていて、バッチ・ジョブ処理中に使用されるデータ・セットのフルネームを最大 47 文字の英数字で指定する必要があります。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・データ・セット名を入力してください。

HLO484E DB2 Loadlib1 is a required field. Enter the DSN of the DB2 load library concatenation used during batch job processing.

説明: DB2 の現行のロード・ライブラリー連結で構成されていて、バッチ・ジョブ処理中に使用されるデータ・セットのフルネームを最大 47 文字の英数字で指定する必要があります。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・データ・セット名を入力してください。

HLO485E DB2 Loadlib2 data set could not be found in the MVS catalog.

説明: DB2 の現行のロード・ライブラリー連結で構成されていて、バッチ・ジョブ処理中に使用されるデータ・セットのフルネームを最大 47 文字の英数字で指定する必要があります。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・データ・セット名を入力してください。

HLO486E DB2 Loadlib3 data set could not be found in the MVS catalog.

説明: DB2 の現行のロード・ライブラリー連結で構成されていて、バッチ・ジョブ処理中に使用されるデータ・セットのフルネームを最大 47 文字の英数字で指定する必要があります。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・データ・セット名を入力してください。

HLO487E DB2 Loadlib4 data set could not be found in the MVS catalog.

説明: DB2 の現行のロード・ライブラリー連結で構成されていて、バッチ・ジョブ処理中に使用されるデータ・セットのフルネームを最大 47 文字の英数字で指定する必要があります。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・データ・セット名を入力してください。

HLO488E DB2 Loadlib5 data set could not be found in the MVS catalog.

説明: DB2 の現行のロード・ライブラリー連結で構成されていて、バッチ・ジョブ処理中に使用されるデータ・セットのフルネームを最大 47 文字の英数字で指定する必要があります。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・データ・セット名を入力してください。

HLO489E Specified data set for generated JCL could not be found in the MVS catalog.

説明: 完全修飾データ・セット名を (引用符を使用せずに) 指定する必要があります。

ユーザーの処置: データ・セット名を入力します。

HLO490E Data set name for the generated JCL is required. Enter a valid data set name.

説明: 生成されたジョブを保管するために使用する完全修飾データ・セット名を (引用符を使用せずに) 指定する必要があります。データ・セットが存在しない場合は、製品によって作成されます。

ユーザーの処置: データ・セット名を入力します。

HLO491E Member name for generated JCL is invalid.

説明: 生成されるジョブを保持するデータ・セットが PDS である場合は、ジョブ出力の有効なメンバー名を指定する必要があります。メンバーが存在しない場合は、製品によって作成されます。

ユーザーの処置: PDS メンバー名を入力してください。

HLO492E Member name for generated JCL is required.

説明: 生成されるジョブを保持するデータ・セットが PDS である場合は、ジョブ出力の有効なメンバー名を指定する必要があります。メンバーが存在しない場合は、製品によって作成されます。

ユーザーの処置: 有効な PDS メンバー名を入力してください。

HLO493E Enter either DFSORT or SYNCSORT in the Sort program field. This value indicates the program to be used for sort processing.

説明: LPAR にインストールされるソート・プログラム (DFSORT または SYNCSORT) を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 使用するソート・プログラムを入力してください。

HLO494E Number of buffers value must be 1 - 99.

説明: 「Number of buffers」フィールドの値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO495E Channel programs value must be numeric.

説明: 製品によって使用されるチャンネル・プログラムの数を指定する必要があります。最適なパフォーマンスを得るためにあらかじめ決められたチャンネル・プログラム設定を使用する場合は 0 を指定し、それ以外の場合は 1 から 99 の値を指定します。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO496E Use DB2 Sort when possible value is invalid. Valid values are Yes and No.

説明: 「Use DB2 Sort when possible」フィールドでは、内部製品ソートに DB2 Sort 製品が使用されるかどうかを指定します。No を指定する場合、製品は、「Sort Program Installed」フィールドに指定されているソート・プログラム (DFSORT または SYNCSORT) を使用します。

ユーザーの処置: Yes または No を入力してください。

HLO497E An error occurred while checking <data_set_name> bootstrap data set: <message_text>.

説明: 示されているブートストラップ・データ・セット (BSDS) は、メッセージ・テキストに示されている理由のために無効です。

ユーザーの処置: 有効な BSDS を指定してください。

HLO500E Substring specification is invalid. Follow qualifier (start, length) notation with 1-based start and length.

説明: サブストリング修飾子コードを指定する場合は、サブストリングの開始位置および長さを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO501E Substring start position exceeds the qualifier length.

説明: サブストリングの開始位置が修飾子の長さを超えています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO502E Substring end position exceeds qualifier length.

説明: サブストリングの終了位置が修飾子の長さを超えています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO503E Unknown qualifier that starts with & was specified.

説明: アンパサンドで始まる不明な修飾子が指定されました。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO505E First character of every node must be alphabetic or national.

説明: 指定された値は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO506E All characters in DSN must be alphanumeric or national.

説明: 指定されたデータ・セット名は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO507E Consecutive periods are not allowed in data set names.

説明: 指定された値は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO508E Data set names cannot be terminated by a period.

説明: 指定された値は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO509E Data set name node must be less than 8 characters.

説明: 指定された値は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO510E Data set name cannot exceed 44 characters.

説明: 指定された値は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO511E GDG specification is invalid.

説明: 世代別データ・グループ (GDG) の指定が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO512E GDG specification must be the last qualifier.

説明: 世代別データ・グループ (GDG) の指定は、最後の修飾子でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO513E Specified qualifier is valid only for TEMPLATE specification.

説明: 指定された修飾子は、このフィールドでは無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO520E Template name is required.

説明: 必須の値が欠落しています。

ユーザーの処置: テンプレート名を入力してください。

HLO521E Member name is required for a partitioned data set.

説明: 必須の値が欠落しています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO522E Data set name is required.

説明: 必須の値が欠落しています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO523E SORTNUM is valid only when SORTDEVT is specified.

説明: SORTDEVT にも値を指定しない限り、SORTNUM に値を指定することはできません。

ユーザーの処置: SORTDEVT の有効な値を入力するか、SORTNUM の値を削除してください。

HLO524E Primary and secondary space are valid only when Space unit is specified.

説明: 1 次スペースおよび 2 次スペースの値を指定する場合、「Space units」フィールドに値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO525E FlashCopy DSN template and template name are required.

説明: FlashCopy テンプレート・データ・セット名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO526E Template DSN is required.

説明: テンプレート・データ・セット名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO527E Accelerator name is required.

説明: データをロードするアクセラレーターの名前を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO528 I Table has no referentially dependent tables

説明: 表に参照従属表がないため、指定された行コマンドは無効です。

HLO532E • HLO542E

ユーザーの処置: 有効な行コマンドを入力するか、別の表を選択してください。

HLO532E Member name is allowed only for partitioned data sets.

説明: 生成されるジョブを保持するデータ・セットが PDS である場合は、メンバー名を指定してください。メンバーが存在しない場合は、製品によって作成されます。

ユーザーの処置: メンバー名を削除するか、区分データ・セットを指定してください。

HLO533E Load time is CURRENT, but an end point was specified. Change load time to SPECIFIED or delete the end point.

説明: 値 CURRENT は、製品に対して、ログを読み取り、現在の時点、つまりログ・ファイルの終わりまでデータをロードするように指示します。終点の値が無効です。

ユーザーの処置: ロード時間を SPECIFIED に変更するか、終点を削除してください。

HLO534E Load time is SPECIFIED. RBA end point or timestamp end point are required.

説明: ロード時間値 SPECIFIED は、製品に対して、ログを読み取り、「RBA/LRSN」フィールドまたは「Timestamp End Point」フィールドに指定されている終点までデータをロードするように指示します。

ユーザーの処置: ロード時間を CURRENT に変更するか、RBA またはタイム・スタンプの終点を入力してください。

HLO535E RBA end point and timestamp end point cannot be specified at the same time.

説明: RBA の終点とタイム・スタンプの終点の両方を指定することはできません。

ユーザーの処置: RBA の終点またはタイム・スタンプの終点のいずれかを削除してください。

HLO536E Both primary and secondary space must be specified at the same time.

説明: 1 次スペースおよび 2 次スペースの値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 次スペースおよび 2 次スペースの

フィールドに値を入力してください。

HLO537E All objects must be partitions of only one table.

説明: 複数の表のパーティションが選択されました。

ユーザーの処置: 1 つのみの表のパーティションを選択してください。

HLO538W Some partitions of this table are already selected.

説明: この表のパーティションは複数回選択されています。

ユーザーの処置: パーティションを 1 回のみ選択してください。

HLO539W All partitions of this table are already selected.

説明: 追加のパーティションを選択する必要はありません。

ユーザーの処置: この表の他のパーティションを選択する必要はありません。

HLO540E Quiesce end point is valid only for load time = QUIESCE.

説明: 静止終点は、ロード時間値が QUIESCE の場合にのみ有効です。

ユーザーの処置: 静止終点値を削除するか、ロード時間値を変更してください。

HLO541E Only quiesce end point is valid for load time = QUIESCE.

説明: ロード時間値が QUIESCE である場合、静止終点のみが有効です。

ユーザーの処置: ロード時間値 QUIESCE に対して静止終点値のみを入力するか、ロード時間値を変更してください。

HLO542E Resume and Replace are mutually exclusive options.

説明: LOAD ジョブに RESUME と REPLACE の両方のオプションを含めることはできません。

ユーザーの処置: いずれかのオプションをジョブから削除してください。

HLO548E Invalid timestamp. Use YYYY-MM-DD-hh.mm.ss.nnnnnn format.

説明: タイム・スタンプ値の形式が無効です。

ユーザーの処置: YYYY-MM-DD-hh.mm.ss.nnnnnn 形式でタイム・スタンプを入力してください。

HLO549E Invalid time zone. Valid values are LOCAL and GMT.

説明: タイム・ゾーンの有効な値は、LOCAL および GMT です。

ユーザーの処置: 有効なタイム・ゾーンを入力してください。

HLO550E *field_value* value is invalid. Valid values are YES and NO.

説明: このフィールドの有効な値は、YES および NO です。

ユーザーの処置: YES または NO を入力してください。

HLO551E Invalid qualifier code. Enter a numeric value of 1 - 27.

説明: 有効な修飾子コードは 1 から 27 です。

ユーザーの処置: 有効な修飾子コードを入力してください。

HLO552E Specified qualifier code requires a free form literal.

説明: フリー・フォーム・リテラル修飾子コードが選択されましたが、フリー・フォーム・リテラルの値は入力されませんでした。

ユーザーの処置: フリー・フォーム・リテラルの値を入力するか、フリー・フォーム修飾子コードを削除してください。

HLO553E Invalid accelerator name is specified.

説明: アクセラレーターに指定された名前は無効です。

ユーザーの処置: 有効なアクセラレーター名を入力してください。

HLO554E FlashCopy = YES is valid only for load time = CURRENT.

説明: FlashCopy に値 YES を指定できるのは、「Load time」フィールドの値が CURRENT である場合のみです。

ユーザーの処置: FlashCopy の値を NO に変更するか、ロード時間値を変更してください。

HLO558E Substring starting position must be 1 - 8.

説明: 開始位置の値は 1 から 8 でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO559E Substring length must be 1 - 8.

説明: サブストリングの長さの値は 1 から 8 でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO560E Sum of starting position and length cannot exceed 9.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO561E Invalid load time value. Valid values are CURRENT, SPECIFIED, and QUIESCE.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO562E RBA or LRSN end point contains invalid hexadecimal character. Valid characters are 0 - 9 and A - F.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO563E Timestamp end point has invalid year value. Valid values are 0000 through 9999.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO564E **Timestamp end point has invalid month value. Valid values are 1 through 12.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO565E **Timestamp end point has invalid day value. Valid values are 1 through last day of specified month.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO566E **Timestamp end point has invalid hour value. Valid values are 0 through 23.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO567E **Timestamp end point has invalid minutes value. Valid values are 0 through 59.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO568E **Timestamp end point has invalid seconds value. Valid values are 0 through 59.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO569E **Timestamp end point has invalid microseconds value. Valid values are 000000 through 999999.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO570E **SYSCOPY scan operating mode is invalid. Valid values are LOCAL, RECOVER, ZPARM, and USER.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO571E **SYSCOPY selection preference is invalid. Valid value must consist of tokens LP, LB, RP, RB, and FC in any order.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO572E **Log reader copy preference value is invalid. Valid value must consist of tokens R1, R2, A1, and A2 in any order.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO573E **Number of PARALLEL log reads must be 0 - 16.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO574E **Invalid secondary space. Valid values are 1 through 1677215 or blank.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO575E **Enter a profile creator.**

説明: プロファイルを作成したユーザーのユーザー ID を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO576E **Enter a valid data set name.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO577E **Enter a valid member name.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO578E **Enter a valid profile name.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO579E Invalid share option. Valid options are UPDATE, VIEW ONLY, and NO ACCESS.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO580E Invalid value. Valid values are / or empty.

説明: 有効な値はスラッシュ (/) です。あるいは、フィールドをブランクのままにしておくことができます。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO581E Invalid DISCARDS value. Valid values are 0 through 2147483647.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO582E Invalid LOG value. Valid values are YES, NO, and NOCOPYPEND.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO583E Invalid NUMRECS value. Valid values are 1 through 1099511627776 and blank.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO584E Invalid SORTNUM value. Valid values are 2 through 255 and blank.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO585E Invalid SORTDEVT value. Valid values are disk or tape devices and blank.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO586E Invalid disposition. See documentation for valid syntax.

説明: 「DB2 for z/OS ユーティリティー・ガイドおよび解説書」で説明されているように、有効な z/OS デ

ータ・セットの後処理を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な DD の後処理を入力してください。詳しくは、製品資料を参照してください。

HLO587E Invalid unit type. Unit type must be a valid DASD type.

説明: 指定された装置タイプは有効な DASD タイプではありません。

ユーザーの処置: 有効な装置タイプを入力してください。

HLO588E Invalid space unit. Valid values are CYL, TRK, MB, and blank.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO589E Invalid primary space. Valid values are 1 through 1677215 and blank.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO590E Invalid PCTPRIME. Valid values are 0 through 100 and blank.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO591E Invalid MAXPRIME. Valid values are 0 through 99999999 and blank.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO592E Invalid NBRSECOND. Valid values are 1 through 10 and blank.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO593E Invalid profile type. Valid profile types are CONSISTENT and DUAL.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO594E Invalid profile type. Enter one of the listed values (ALL,1,2,3,4).

説明: 指定した値が無効です。有効な値は、二重を示す 1、アクセラレーターのみを示す 2、整合を示す 3、イメージ・コピーを示す 4、および ALL です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO595E Invalid *templateName* template DD name.

説明: 示されているテンプレートの DD 名は、TEMPLATE ユーティリティーには無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO596E Invalid quiesce end point. Valid values are 1 through 999.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO597E Invalid template name.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO598E Invalid substring qualifier code. Valid values are 1 through 25.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO599W Incomplete profile was saved successfully.

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: ジョブを作成する前に、プロファイルを完了してください。

HLO600 I Edited profile was saved successfully.

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO601 I Created profile was saved successfully.

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO602 I Renamed profile was saved successfully.

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO603E Cannot load profile description from repository.

説明: 製品は、リポジトリからプロファイルの説明をロードできませんでした。

ユーザーの処置: 障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO604E Incomplete profile. Edit profile to specify required options.

説明: 必須のプロファイル・オプションが欠落しています。

ユーザーの処置: 必須のプロファイル・オプションに値を指定してください。

HLO605E Profile is inaccessible for specified action.

説明: プロファイルは、指定されたアクションと互換性がありません。

ユーザーの処置: 有効なアクションを指定してください。

HLO606E Profile with the same creator, name, and type already exists.

説明: プロファイル情報は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 固有のプロファイル情報を指定してください。

HLO607E Cannot open table column info data set.

説明: 製品は、表列情報データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: 列情報データ・セットが存在していること、およびデータ・セットを読み取るための適切な権限があることを確認してください。

HLO608E Cannot open data set for JCL generation.

説明: 製品は、JCL 生成のためのデータ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: JCL 生成のためのデータ・セットが存在していること、およびデータ・セットに書き込むための適切な権限があることを確認してください。

HLO609E Cannot create data set for JCL generation.

説明: 製品は、JCL 生成のためのデータ・セットを作成できませんでした。

ユーザーの処置: データ・セットを作成するための適切な権限があること、およびデータ・セットを割り振るのに十分なスペースを使用できることを確認してください。「Data set allocation parameters」パネルでデータ・セット割り振りパラメーターを確認してください。

HLO610 I Job was built successfully.

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO611E Accelerators are not associated with this DB2 subsystem.

説明: 製品は、DB2 からアクセラレーターの空のリストを受信しました。

ユーザーの処置: Analytics Accelerator がインストールされている DB2 サブシステムを選択するか、管理者に連絡して、Analytics Accelerator を選択した DB2 サブシステムにインストールしてください。

HLO612 I Profile was deleted successfully.

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO613E This table is not supported.

説明: 指定された表はサポートされていません。サポートされている表について詳しくは、6-1 ページの『DB2 イメージ・コピーからのロードの制約事項と考慮事項』および 7-1 ページの『外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項』を参照してください。

ユーザーの処置: 別の表を選択してください。

HLO614W Profile without tables was saved successfully.

説明: 関連表がなくてもプロファイルを保管できます。ロードを実行する JCL を作成するためにプロファイルを使用するには、プロファイルを編集して表を追加する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を作成する前に、表を指定してください。

HLO615E No tables were specified in the profile.

説明: 関連表がなくてもプロファイルを保管できますが、ロードを実行する JCL を作成するためにプロファイルを使用するには、表を追加する必要があります。

ユーザーの処置: プロファイルを編集して、表を追加してください。

HLO616E Invalid utility ID. Valid values are blank and strings of letters, numerals, and symbols (@, \$, #, !, ~).

説明: 指定されたユーティリティ ID に無効な記号が含まれています。ユーティリティ ID 値の場合、フィールドをブランクのままにするか、ストリングを指定することができます。有効なストリング値は、文字 (A から Z)、数字 (0 から 9)、国別文字 (@、\$、#)、感嘆符 (!)、および否定記号 (~) です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO617E Invalid parallel task value. Valid values are blank or 1 - 20.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO618E Invalid <template_name> DSN template. A valid template must contain the &&PART or &&PA variable.

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO619E Input DSN template and template name are required for parallel load.

説明: 並列ロードが有効になっている場合、入力 DSN テンプレートおよびテンプレート名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO620E **Number of PARALLEL log apply must be 1 - 10.**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO621E **Invalid value. Enter one of the listed values (1,2,3,4).**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO623 I **The profile has been converted to the current product version.**

説明: 旧バージョンの製品でプロファイルが作成されました。Copy 行コマンドを使用して、現行バージョンに変換してください。元のプロファイルは未変更のままです。元のプロファイルに対して、Build、Delete、Rename、View、Copy の行コマンドを使用できます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO624E **Invalid value. Enter a valid value (No, Add, or Refresh).**

説明: 指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO627E **Invalid value. Adding table to accelerator with refresh is denied when RESUME is enabled.**

説明: 「Add table to Accelerator」に「Refresh」を指定して、同時に「Resume」に「Yes」を指定することはできません。

ユーザーの処置: 次のいずれかの方法でオプション値を変更してください。

- Resume = No
- Add table to Accelerator = No
- Add table to Accelerator = Add

HLO700E **An error occurred while opening the DB2 load libraries: RC = return_code.**

説明: 製品が DB2 ロード・ライブラリー・データ・セットをオープンしているときに、示されている戻りコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 「DB2 Subsystem Parameters」パネルに指定されているロード・ライブラリー・データ・セ

ットが存在していること、およびそれらを読み取るための適切な権限があることを確認してください。

HLO701E **An error occurred while attaching the DB2 attachment facility subtask: RC = return_code.**

説明: 製品が DB2 接続機能サブタスクを接続しているときに、示されている戻りコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 戻りコードについては、「DB2 for z/OS コード」を参照してください。

HLO702E **The task is not running APF-authorized.**

説明: このタスクでは、ロード・モジュール HLOXDBT が APF 許可されていることが必要です。

ユーザーの処置: ロード・モジュール HLOXDBT に対する APF 許可をセットアップしてください。

HLO703S **The DB2 attachment facility subtask ended unexpectedly: RC = return_code.**

説明: 製品で、示されている戻りコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 サブシステムがアクティブであることを確認してください。

HLO706E **Access for the specified user ID userID has been revoked.**

説明: DB2 サブシステムへの接続を確立するには、適切な権限を持つ有効なユーザー ID とパスワードが必要です。

ユーザーの処置: DB2 サブシステムに接続するのに適切な権限があることを確認してください。

HLO707E **An error occurred while performing authentication: SAF RC = return_code, RC = return_code, RSN = return_code.**

説明: DB2 サブシステムにアクセスするための適切な権限が必要です。

ユーザーの処置: 適切な権限があることを確認してください。コードについては、「z/OS Security Server RACF 呼び出し可能サービス」ガイドを参照してください。

HLO708E An invalid dynamic allocation parameter was specified: code = code.

説明: DB2 ロード・ライブラリー・データ・セットの DD 割り振りが失敗しました。

ユーザーの処置: 障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO709E A dynamic allocation error occurred: info code = infoCode, error code = errorCode.

説明: 製品で、示されているコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コードについては、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」を参照してください。エラーの原因を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO710E Dynamic allocation query error occurred: info code = infoCode, error code = errorCode.

説明: 製品で、示されているコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コードについては、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」を参照してください。エラーの原因を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO711E Dynamic free error occurred: info code = infoCode, error code = errorCode.

説明: 製品で、示されているコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コードについては、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」を参照してください。エラーの原因を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO712E Dynamic concatenation error occurred: info code = infoCode, error code = errorCode.

説明: 製品で、示されているコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コードについては、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」を参照してください。エラーの原因を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO713E SQL error occurred: SQL code = sqlCode, SQL state = sqlState.

説明: 製品で、示されているコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コードについては、「DB2 for z/OS コード」を参照してください。エラーの原因を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO714E SQL error occurred: error code = errorCode.

説明: 製品で、示されているコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コードについては、「DB2 for z/OS メッセージ」を参照してください。エラーの原因を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO715S DB2 attachment facility error occurred: function = functionCode, RC = return_code, reason = reasonCode.

説明: 製品で、示されているコードのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コードについては、「DB2 for z/OS アプリケーション・プログラミングおよび SQL 解説書」を参照してください。エラーの原因を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO716E Input DB2 command is too long.

説明: DB2 コマンドは、コマンドが無効であるために失敗しました。

ユーザーの処置: 障害の理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO717E Error occurred while making an IFI call.

説明: 製品がメッセージに示されている DB2 要求を実行しているときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: コードについては、「*DDB2 for z/OS* コード」を参照してください。エラーの原因を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO722E An error occurred while writing converted record (profile id=<id>, type=<type>, number=<number>).

説明: 製品が <HLQ>.PROFILE.RPT データ・セットに書き込んでいるときに、入出力エラーが発生しました。このメッセージは、HLO120 から HLO133 の範囲内の VSAM ライブラリー・メッセージの後に発行されません。

ユーザーの処置: VSAM ファイルが存在していること、WRITE 権限があること、およびファイルへの書き込みが可能であることを確認してください。

HLO723 I Profile <profile creator>.<profile name> for <ssid> was converted successfully.

説明: 製品は、示されているプロファイル新しいバージョンに変換しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO724W Profile <profile creator>.<profile name> for <ssid> was partially converted.

説明: 製品が <HLQ>.PROFILE.RPT データ・セットに書き込んでいるときに、入出力エラーが発生しました。プロファイルの一部はプロファイル・データ・セットに正常に書き込まれました。このメッセージは、HLO722E および HLO120 から HLO133 の範囲内の VSAM ライブラリー・メッセージの後に発行されません。

ユーザーの処置: VSAM ファイルが存在しているこ

と、WRITE 権限があること、およびファイルへの書き込みが可能であることを確認してください。

HLO725E An error occurred while writing converted profile <profile creator>.<profile name> for <ssid>.

説明: 製品が <HLQ>.PROFILE.RPT データ・セットに書き込んでいるときに、入出力エラーが発生しました。このメッセージは、HLO120 から HLO133 の範囲内の VSAM ライブラリー・メッセージの後に発行されません。

ユーザーの処置: VSAM ファイルが存在していること、WRITE 権限があること、およびファイルへの書き込みが可能であることを確認してください。

HLO726 I Total read profile count: <number_of_profiles>.

説明: 製品は、示されている数のプロファイルを読み取りました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO727 I Total converted profiles count: <number_of_profiles>.

説明: 製品は、示されている数のプロファイルを変換しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO728 I Total converted profiles count: <number_of_profiles>.

説明: 製品は、示されている数のプロファイルを変換しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO810E Invalid CNUM parameter. Valid parameters are ON, OFF, or blank.

説明: CNUM が無効なパラメーターを指定して発行されました。パラメーターを指定せずに CNUM を発行すると、ON/OFF の切り替えとして機能します。ON および OFF のみがパラメーターとして受け入れられません。ON は、CNUM 表示をオンにします。OFF は、CNUM 表示をオフにします。

ユーザーの処置: 有効な CNUM パラメーター (ON、OFF、またはブランク) を使用してください。

HLO811E Invalid COLS parameter. Valid parameters are ON, OFF, or blank.

説明: COLS が無効なパラメーターを指定して発行されました。パラメーターを指定せずに COLS を発行すると、ON/OFF の切り替えとして機能します。ON および OFF のみがパラメーターとして受け入れられません。

ユーザーの処置: COLS パラメーターに有効な値を指定してください。COLS ON は COLS 表示をオンにして、CCOLS OFF は COLS 表示をオフにします。

HLO812 I The FIND command requires a match string

説明: FIND コマンドにパラメーターが指定されていませんでした。マッチング・ストリングを指定する必要があります。

ユーザーの処置: FIND パラメーターを入力してください。

HLO813E The RFIND key can only be used after a FIND character string is entered.

説明: FIND コマンドが発行される前に、repeat FIND (RFIND) コマンドが発行されました。RFIND の前に FIND を発行する必要があります。

ユーザーの処置: FIND を発行してから、RFIND を発行してください。

HLO814E An unknown column *column* was specified.

説明: 製品は、SORT コマンドで指定された列を認識しません。

ユーザーの処置: 列名を正しく入力したかを確認するか、別の列を選択してください。

HLO815E SORT is not supported for the specified column.

説明: SORT を試行した列は、ソート対象の列としてはサポートされていません。

ユーザーの処置: 「Define Sort Columns」パネルで、ソートの基準として使用できる有効な列のリストを確認して、ソートを再定義してください。

HLO816E Max Sort Columns exceeded. Sorting first 9 columns.

説明: サポートされている数よりも多くの列がソート対象として選択されました。一度に 9 個の列をソートできます。特定の状況下では、内部の制約により、制限は 9 個よりも少なくなります。

ユーザーの処置: ソート列の許容最大数を指定してください。

HLO817E Invalid column selection. Set cursor to valid column.

説明: 無効な列が選択されました。

ユーザーの処置: カーソルを有効な列に移動してください。

HLO818E Invalid command parameters.

説明: 無効なコマンド・パラメーターが入力されました。

ユーザーの処置: コマンド入力を訂正して、再実行依頼してください。

HLO819E Invalid location for the moved column. The source column cannot be moved to the new position.

説明: ソース列を新しい位置に移動できません。

ユーザーの処置: コマンド入力を訂正して、再実行依頼してください。

HLO820E Not enough space for scrolling unfixed columns.

説明: 画面には、一部の非固定列を表示するのに十分なスペースがありません。

ユーザーの処置: パネルの右側に非固定列のために十分なスペースを残してください。

HLO821E Operation not valid for specified column.

説明: 無効な演算が入力されました。

ユーザーの処置: 有効な演算を入力してください。

HLO822E Fixed columns cannot be hidden.

説明: 固定列を非表示にしようとしたのですが、固定列を非表示にすることはできません。

ユーザーの処置: 選択した列を非固定にするか、非表示

HLO823E • HLO876E

の対象として別の列を選択してください。

HLO823E Invalid value entered for column size: non-numeric data.

説明: 無効なコマンド値が入力されました。列サイズ値は、MIN フィールドと MAX フィールドの値の間の数値でなければなりません。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、有効な値を入力してください。

HLO824E Invalid value entered for column size: out of range.

説明: 無効なコマンド値が入力されました。列サイズ値は、MIN フィールドと MAX フィールドの値の間の数値でなければなりません。MIN は最小の許容値、MAX は最大の許容値です。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

HLO825E SIZE is not supported for the specified column.

説明: 列のサイズを変更しようとしたが、その列では SIZE はサポートされていません。

ユーザーの処置: 最小サイズと最大サイズが等しくない別の列のサイズを変更できます。

HLO870E TBCREATE failed. RC= return_code.

説明: ビューを作成するために **TBCREATE** コマンドが発行されましたが、コマンドは、メッセージに示されている 16 進戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の **TBCREATE** を参照してください。

HLO871E TBOPEN failed. RC= return_code.

説明: 既存のビューをオープンするために **TBOPEN** コマンドが発行されましたが、コマンドは、メッセージに示されている 16 進戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の **TBOPEN** を参照してください。

HLO872E TBCLOSE failed. RC=return_code.

説明: **TBCLOSE** コマンドは、メッセージに示されている 16 進戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の **TBCLOSE** を参照してください。

HLO873E TBDELETE failed. RC=return_code.

説明: **TBDELETE** コマンドは、メッセージに示されている 16 進戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の **TBDELETE** を参照してください。

HLO874E TBMOD failed. RC= return_code.

説明: **TBMOD** コマンドは、メッセージに示されている 16 進戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の **TBMOD** を参照してください。

HLO875E TBGET failed. RC= return_code.

説明: **TBGET** コマンドは、メッセージに示されている 16 進戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の **TBGET** を参照してください。

HLO876E View table is in use.

説明: ISPTLIB および ISPTABL の DD は使用中です。ただし、「使用中」状態により、バッチ JCL 生成プログラムによる DD の読み取りが妨げられることはありません。

ユーザーの処置: ISPTLIB および ISPTABLE の割り振りを確認してください。ISPTLIB および ISPTABL については、ご使用のバージョンの ISPF の ISPF ユーザーズ・ガイドを参照してください。このメッセージの理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポート

にお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO877E View library not allocated.

説明: ISPTLIB および ISPTABL の DD が割り振られていません。バッチ JCL 生成は続行されますが、スケルトン・ファイルからジョブ・カード行が読み取られない可能性があります。

ユーザーの処置: ISPTLIB および ISPTABLE の割り振りを確認してください。ISPTLIB および ISPTABL については、ご使用のバージョンの ISPF の ISPF ユーザーズ・ガイドを参照してください。このメッセージの理由を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO878E TBTOP failed. RC=return_code.

説明: TBTOP コマンドは、メッセージに示されている 16 進戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の TBTOP を参照してください。

HLO879E TBSKIP failed. RC= return_code.

説明: TBSKIP コマンドは、メッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の TBSKIP を参照してください。

HLO940E Invalid selection character. Valid values are "F" and "U".

説明: 無効なコマンド文字が入力されました。有効な文字は、F (固定) および U (固定解除) です。

ユーザーの処置: 無効な文字を削除するか、有効な文字を入力してください。

HLO941E Column move failed: invalid location.

説明: 列を移動しようとしたのですが、この試みは、新しい位置が無効であったために失敗しました。新しい列番号を列の数より大きくすることはできません。

ユーザーの処置: 列の数より小さい列番号を指定してください。

HLO942E Invalid column size. Column size must be numeric.

説明: 無効なコマンド値が入力されました。列サイズは、MIN フィールドと MAX フィールドの値の間の数値でなければなりません。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

HLO943E Invalid column size. The specified value is out of range.

説明: 無効なコマンド値が入力されました。列サイズは、MIN フィールドと MAX フィールドの値の間の数値でなければなりません。MIN は最小の許容値です。MAX は最大の許容値です。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

HLO944E Total fixed column sizes cannot exceed screen size.

説明: 入力されたコマンド値では、固定列の合計サイズが画面サイズを超過します。固定列は常に表示されているため、画面に収まる必要があります。固定列の「Fix」列には F または P が示されています。

ユーザーの処置: 固定列サイズを変更して合計が画面サイズを下回るようにするか、または取り消して直前のパネルに戻ってください。

HLO945E Configuration request failed: at least one unfixed column would not be displayed

説明: 要求された列サイズでは、少なくとも 1 つの非固定列を表示できなくなります。問題が検出された値の上にカーソルが配置されています。画面の非固定域が小さすぎるため、カーソルが配置されている列を表示できなくなります。

ユーザーの処置: 問題を修正するには、次のようにします。

1. カーソルが指している列のサイズを小さくして、使用可能な非固定域に収まるようにします。
2. 非固定域を最大サイズ (幅) に設定します。
3. 固定域のサイズを減らします。
4. 取り消して、直前のパネルに戻ります。

HLO946E Configuration request failed: the unfixed area would be too small to display this column.

説明: 要求された列サイズでは、カーソルが配置されている非固定列を表示できなくなります。画面の非固定域が小さすぎるため、この列を表示できません。

ユーザーの処置: 列を固定解除するか、固定列を小さくすることにより、固定域を縮小できます。

HLO947E Configuration request failed: not all columns can be displayed.

説明: 要求された列を固定すると、非固定列に使用できる領域が縮小され、一部の列が表示されなくなります。エラーの原因となる列の 1 つを表す行にカーソルが配置されています。

ユーザーの処置: 列サイズを変更するには、CFIX 機能を取り消して、CSIZE 機能呼び出ししてください。取り消して、変更せずに CFIX を終了するか、許容される固定サイズに達するまで 1 つ以上の FIX の選択を無効にしてください。

HLO948E Invalid FIXed selections. Operation would not leave enough space for this column.

説明: 要求されたように列を固定すると、少なくとも 1 つの非固定列を表示できなくなります。エラーの原因となる非固定列の 1 つを表す行にカーソルが配置されています。これらの行の表示可能な最小サイズは使用可能な画面領域に収まりません。

ユーザーの処置: 要求された固定域を縮小するには、次のようにします。

- 要求する固定列の数を減らします。
- 1 つ以上の固定列を固定解除します。
- CFIX を終了して、CSIZE を呼び出し、すべての非固定列が必要なスペースを持つように 1 つ以上の固定列を縮小します。

HLO949E Duplicate Cmd values entered.

説明: 重複したコマンド数値が入力されました。カーソルは、コマンド値の 2 番目のインスタンスを指しています。

ユーザーの処置: この値を変更またはクリアするか、CORDER 機能を終了してください。

HLO950E Invalid sort number. Enter a valid numeric digit.

説明: 「Srt」列に無効な文字が入力されました。

ユーザーの処置: 有効な文字を入力してください。有効な文字は、数字 1 から 9 まで、またはソート可能な列の数のいずれか少ない方の数値です。

HLO951E Duplicate sort sequence number.

説明: 複数の列に対して同じソート・シーケンス番号が入力されました。画面は、2 番目のインスタンスに位置付けられます。

ユーザーの処置: 固有のソート・シーケンス番号を入力してください。

HLO952E Sort sequence skips a number.

説明: 選択されたソート・シーケンスは番号をスキップしています。画面は、シーケンス内の欠落している番号の後の選択項目に位置付けられます。

ユーザーの処置: 番号をスキップしない有効なソート・シーケンスを選択してください。

HLO953E Invalid Dir entered. Direction must be A (ascending) or D (descending).

説明: 選択されたソート方向は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。有効な値は、昇順を示す「A」、降順を示す「D」です。または、デフォルトの方向 (昇順) を使用するには、フィールドをブランクのままにしてください。

HLO954E Dir not valid without Ord.

説明: ソート対象 (Ord) として選択されていなかった列に対して、ソート方向 (Dir) が選択されました。ソート方向は、選択されている列に対してのみ有効な選択項目です。

ユーザーの処置: ソート順の方向を指定する前に、ソート対象 (Ord) の列を指定してください。

HLO955E Fixed columns cannot exceed screen size.

説明: 画面に収まるよりも多くの列が固定の対象として選択されました。

ユーザーの処置: 1 つ以上の列から固定 (F) 選択文字を削除してください。

HLO956E Invalid entry. Cmd values must be numeric.

説明: 無効なコマンド値が入力されました。コマンド値は数値でなければなりません。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

HLO957E Invalid entry for permanent column.

説明: 永続列に無効な値が入力されました。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

HLO958E Invalid entry for fixed column.

説明: 固定列に無効なコマンド値が入力されました。固定列に有効な選択値は、1 から n までの数値です。ここで、n は固定列の総数です。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、有効な数値を入力してください。

HLO959E Invalid entry for unfixed column.

説明: 非固定列に無効なコマンド値が入力されました。数値は、列の総数より少なく、固定列の数よりも大きくなければなりません。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、有効な数値を入力してください。

HLO960E Invalid Column Function value. Valid values: 1, 2, 3, and 4.

説明: 「Column Function」フィールドに無効文字が入力されました。有効な文字は、1、2、3、および 4 です。

ユーザーの処置: フィールドを訂正するか、CANCEL コマンドを発行してください。

HLO961E Invalid Permanent View value. Valid values: Y, N.

説明: 「Permanent View」フィールドに無効文字が入力されました。有効な文字は、Y (はい) および N (いいえ) です。

ユーザーの処置: フィールドを訂正するか、CANCEL コマンドを発行してください。

HLO962E Invalid Reset View value. Valid values are Y, N.

説明: 「Reset View」フィールドに無効文字が入力されました。有効な文字は、Y (はい) または N (いいえ) です。

ユーザーの処置: フィールドを訂正するか、CANCEL コマンドを発行してください。

HLO963E Invalid Stop Sorting value. Valid values: Y, N.

説明: 「Stop Sorting」フィールドに無効文字が入力されました。有効な文字は、Y (はい) または N (いいえ) です。

ユーザーの処置: フィールドを訂正するか、CANCEL コマンドを発行してください。

HLO964E Invalid data set name.

説明: 入力されたデータ・セット名は構文的に誤っています。データ・セット名は、1 つの名前セグメントにするか、結合した一連の名前セグメントにすることができます。セグメントは 8 文字に制限されており、先頭文字は英字 (A から Z) または特殊文字 (# @ \$) でなければなりません。残りの 7 文字は、英字、数字 (0 から 9)、特殊文字、またはハイフン (-) のいずれかです。名前セグメントはピリオド (.) で区切られます。データ・セット名の長さは、名前セグメントとピリオドをすべて合計して 44 文字を超えてはなりません。したがって、最大 22 個の名前セグメントでデータ・セット名を構成できます。

ユーザーの処置: 有効なデータ・セット名を入力してください。

HLO965E Invalid member name.

説明: メンバー名は 8 文字以内で、A から Z、0 から 9、\$、#、および @ の文字で構成できます。

ユーザーの処置: 有効なメンバー名を入力してください。

HLO966E Unable to allocate the report file.

説明: レポート・ファイルを割り振ることができません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO967E Unable to open the report file.

説明: レポート・ファイルをオープンできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO968E Invalid selection character. Valid values: "H" and "U".

説明: 無効なコマンド文字が入力されました。有効な文字は、H (HIDE) および U (UNHIDE) です。

ユーザーの処置: 無効な文字を削除するか、有効な文字を入力してください。

HLO970E TBCREATE failed. RC = return_code.

説明: ビューを作成するために TBCREATE コマンドが発行されましたが、メッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の TBCREATE を参照してください。

HLO971E TBOPEN failed. RC = return_code.

説明: 既存のビューをオープンするために TBOPEN コマンドが発行されましたが、コマンドは、メッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の TBOPEN を参照してください。

HLO972E TBCLOSE failed. RC = return_code.

説明: TBCLOSE コマンドは、メッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の TBCLOSE を参照してください。

HLO973E TBDELETE failed. R C= return_code.

説明: TBDELETE コマンドは、メッセージに示されている 16 進戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セッ

トへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の TBDELETE を参照してください。

HLO974E TBMOD failed. RC = return_code.

説明: TBMOD コマンドは、メッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の TBMOD を参照してください。

HLO975E TBGET failed. RC = return_code.

説明: TBGET コマンドは、メッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」の TBGET を参照してください。

HLO976E View table is in use.

説明: ISPTLIB および ISPTABL の DD は使用中です。一時ビューのみが使用可能です。

ユーザーの処置: ISPTLIB および ISPTABLE の割り振りを確認してください。ISPTLIB および ISPTABL については、ご使用のバージョンの ISPF の ISPF ユーザーズ・ガイドを参照してください。このメッセージの理由を判断できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO977E View library not allocated.

説明: ISPTLIB および ISPTABL の DD が割り振られていません。一時ビューのみが使用可能です。

ユーザーの処置: ISPTLIB および ISPTABLE の割り振りを確認してください。ISPTLIB および ISPTABL については、ご使用のバージョンの ISPF の ISPF ユーザーズ・ガイドを参照してください。このメッセージの理由を判断できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO980 I Discovery process completed successfully.

説明: これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO981E Control file <control_file_name> not found.

説明: ディスカバリー・プロセスは、示されている製品制御ファイルを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 有効な制御ファイル名を入力してください。

HLO982E Configuration <configuration_ID> was not found in the control file.

説明: ディスカバリー・プロセスは、示されている構成を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 有効な構成 ID を入力してください。

HLO983E Previous installation library <installation_library_name> not found.

説明: ディスカバリー・プロセスは、示されているインストール・ライブラリーを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 有効なインストール・ライブラリーを入力してください。

HLO984E Options module <options_module> was not found. Enter a valid previous installation location and options module name.

説明: ディスカバリー・プロセスは、示されているオプション・モジュールを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 有効な以前のインストール場所とオプション・モジュール名を入力してください。

HLO 001 IBM* Rocket Licensed Materials - Property of IBM 5697-P45 (c) Copyright Rocket Software, Inc. 2001 - 2016 All Rights Reserved. *Trademark of International Business Machines **Trademark of Rocket Software, Inc.**

説明: この通知メッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader の著作権の詳細が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 002E The subsystem ID field must have a valid DB2 subsystem identifier present.

説明: 指定された DB2 サブシステム ID は無効です。

ユーザーの処置: DB2 サブシステム ID を訂正してください。

HLO 004E The startup CLIST did not define the control file name for Accelerator Loader to use. Processing cannot continue.

説明: 呼び出そうとしている CLIST は、DB2 Analytics Accelerator Loader が使用する制御ファイル名を定義していません。DB2 Analytics Accelerator Loader が処理を続行するためには、制御ファイル名が CLIST 内になければなりません。

ユーザーの処置: 始動 CLIST を編集して、DB2 Analytics Accelerator Loader で使用する有効な制御ファイル名を含めてください。

HLO 005E The startup CLIST defined a control file for Accelerator Loader to use, but it could not be allocated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、始動 CLIST で定義されている制御ファイルを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: 始動 CLIST に指定されている制御ファイルを確認して訂正してください。

HLO 006 I Subsystem ID entered is not yet completely defined.

説明: DB2 サブシステム ID が無効であるか、「User Settings」パネルで完全に定義されていません。

ユーザーの処置: 有効な DB2 サブシステムを入力して、「User Settings」パネル (メインメニュー・オプション 0 からアクセスできます) に DB2 Analytics Accelerator Loader のインストール済み環境に関する正しい情報が含まれていることを確認してください。

HLO 007E An error has occurred obtaining ZPARM code Hex.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 008E Command is not supported on this screen. Please enter a valid command or clear the primary command line.

説明: 画面に無効なコマンドを入力しました。

ユーザーの処置: 基本コマンド行を消去して、有効なコマンドを再入力してください。

HLO 009E You are not authorized to enter any line commands for this profile. The creator of the profile is restricting all activity.

説明: アクティビティがプロファイルの作成者によって制限されているため、プロファイルに対して行コマンドを入力する権限がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 010E You are not authorized to update or delete this profile. Enter a "V" if you would like to view this profile.

説明: プロファイルを更新または削除する権限がありません。

ユーザーの処置: プロファイルを表示するか、プロファイルを更新または削除する必要がある場合は、システム管理者に現在の権限を確認してください。

HLO 011E Invalid line command entered.

説明: 入力した行コマンドは無効です。

ユーザーの処置: 有効な行コマンドを入力してください。

HLO 012E This profile's data has been corrupted in the HLO tables. It must be re-created.

説明: 選択したプロファイルは破損しているため、使用できません。

ユーザーの処置: プロファイルを再作成して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 013 I Profile *profilecreator.profilename* has been successfully added to your jobs profile.

説明: 示されているプロファイルは、ジョブのプロファイルに追加されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 014W No profiles were found that match your selection criteria. Press enter to create a new profile or change the selection criteria.

説明: 指定された選択基準と一致するプロファイルはありませんでした。

ユーザーの処置: 基準と一致する新規プロファイルを作成するか、選択基準を変更してください。

HLO 015E The profile creator is a required field. Please enter a valid creator.

説明: プロファイル作成者が入力されていません。

ユーザーの処置: 有効なプロファイル作成者を入力してください。

HLO 016E The Profile Name is a required field. Please enter a unique name.

説明: プロファイル名が入力されていません。

ユーザーの処置: 固有のプロファイル名を入力してください。

HLO 017E Invalid value. Enter a "U" to allow other users to update your profile, a "V" to allow other users to just view your profile, or "N" to disallow other users from viewing or updating your profile.

説明: 無効な値を入力しました。

ユーザーの処置: 他のユーザーがプロファイルを更新できるようにするには U を入力して、他のユーザーがプロファイルを表示できるようにするには V を入力して、ユーザーがプロファイルを表示または更新することを禁止するには N を入力してください。

HLO 018E Profile *profile_creator.profile_name* already exists in DB2 SSID *ssid*. Please enter a unique Profile Name and press Enter.

説明: 指定されたプロファイルは固有ではありません。

ユーザーの処置: 固有のプロファイル名を入力して、Enter キーを押してください。

HLO 019 I Profile *profile_creator.profile_name* saved.

説明: プロファイルは正常に保管されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 020E Invalid value. The only valid values are "Y" and "N".

説明: フィールドに入力された値は無効です。

ユーザーの処置: Y または N のいずれかを入力してください。

HLO 021E The options cannot be altered if they are not first selected.

説明: 変更するオプションが選択されていません。

ユーザーの処置: 変更する前にオプションを選択してください。

HLO 022E Invalid value. Enter a "U" to allow other users to update you profile, a "V" to allow other users to just view your profile, or "N" to disallow other users from viewing or updating your profile.

説明: 無効な値を入力しました。有効な値は U、V、および N です。

ユーザーの処置: 他のユーザーがプロファイルを更新できるようにするには U を入力して、他のユーザーがプロファイルを表示できるようにするには V を入力して、他のユーザーがプロファイルを表示または更新することを禁止するには N を入力してください。

HLO 023E Unknown command.

説明: 入力されたコマンドは不明です。

ユーザーの処置: 有効なコマンドを入力してください。

HLO 024E This profile's Mini Log DSN options have been set to "Y" but the Mini Log information has not yet been entered.

説明: プロファイルでミニ・ログ・データ・セットの使用を指定しましたが、まだ必要なミニ・ログ情報を入力していません。

ユーザーの処置: プロファイルに適切なミニ・ログ情報を入力してください。

HLO 025E This profile's Image Copy DSN options have been set to "Y" but the Image Copy information has not yet been entered.

説明: プロファイルでイメージ・コピー・データ・セッ

トの使用に対して Y を指定しましたが、まだ必要なイメージ・コピー情報を入力していません。

ユーザーの処置: プロファイルに適切なイメージ・コピー情報を入力してください。

HLO 026E The specified qualifier code is not a supported value.

説明: 入力された修飾子コードはサポートされていません。

ユーザーの処置: 製品パネルの下半分のリストから有効な修飾子コードを選択してください。

HLO 027W The symbolic data set name generation field is full.

説明: 満杯になっているデータ・セット名生成フィールドに情報を追加しようとした。

ユーザーの処置: データ・セット名生成フィールドを編集して、フィールド長により許可される適切な情報を含めてください。

HLO 028W Truncation has occurred in building the data set qualifier.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader がデータ・セット修飾子を作成しようとしたときに、データ・セット名の切り捨てが指定されました。

ユーザーの処置: 先に進む前に、データ・セット名生成修飾子ストリングを再指定してください。

HLO 029W An error may occur on this data set at job build time due to the fact that the GDG qualifier might extend beyond the 44 byte maximum data set name size.

説明: GDG 修飾子が、最大データ・セット名サイズの 44 バイトを超えています。

ユーザーの処置: 44 バイト以下になるように GDG 修飾子データ・セット名を編集してください。

HLO 030E An error was encountered while generating the data set name. The data set name was not completely formatted.

説明: 指定されたデータ・セット名は、エラーのために作成されませんでした。

ユーザーの処置: 指定したデータ・セット名生成修飾子ストリングが有効であることを確認してください。

HLO 031E This field cannot be left blank.

説明: 必須フィールドに値が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: このフィールドに値を入力する必要があります。

HLO 032E The entered device type is not recognized by OS/390 as a valid device type.

説明: 指定された装置タイプは認識されません。

ユーザーの処置: 有効な装置タイプを指定してください。

HLO 033E When using disk type devices, expiration date and retention period are not valid.

説明: ディスク・タイプの装置を使用しているため、有効期限と保存期間は無効です。

ユーザーの処置: 別の装置タイプを指定するか、有効期限も保存期間も指定しないでください。

HLO 034E If a tape device is selected, either retention period or expiration date must be specified.

説明: テープ装置を指定しましたが、保存期間または有効期限を指定しませんでした。

ユーザーの処置: 保存期間または有効期限を指定してください。

HLO 035E The entered value must be numeric.

説明: 指定された値は数値ではありません。

ユーザーの処置: 数値を入力してください。

HLO 036E The year in the expiration date must be in a range of 1999 and higher.

説明: 有効期限が 1999 以上の有効な範囲内にありません。

ユーザーの処置: 指定された形式になるように有効期限の年を訂正してください。

HLO 037E The day in the expiration date must be in the range of 1 to 366.

説明: 指定した有効期限の日が有効な範囲内にありません。

ユーザーの処置: 1 から 366 までの範囲内の日を指定してください。

HLO 038E A utility profile can only select one of Mini Log processing or Image Copy processing or OBID Report Job Generation.

説明: 複数の処理オプションが選択されました。選択できるのは 1 つのみです。

ユーザーの処置: 選択可能なオプション (ミニ・ログ処理、イメージ・コピー処理、または OBID レポート・ジョブ生成) のうち、1 つのみを選択してください。

HLO 039E The only valid values for End Point are To "C"urrent, To "Q"uiresce, "U"nified, "S"pecified or "T"o Consistent IC.

説明: 「End Point」に指定された値は無効です。

ユーザーの処置: 「To Current」の場合は C、「To Quiesce」の場合は Q、「Specified」の場合は S、「To Consistent IC」の場合は T を指定してください。

HLO 040E If the End Point is set to "S"pecified, you must enter a valid 12 digit hex value for the ending RBA/LRSN.

説明: 「End Point」を S (Specified) に設定したため、終了 RBA/LRSN の値も入力する必要があります。終了 RBA/LRSN 値は、有効な 12 桁の 16 進値でなければなりません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 041E The specified end point contains an invalid hexadecimal character.

説明: 指定された終点には、無効な 16 進文字が含まれています。

ユーザーの処置: 正しい終点を指定したことを確認してください。

HLO 042E If the value in the End Point field is set to "C"urrent then a Specified Hex End Point/Quiesce # is not allowed.

説明: 16 進の終点または静止番号を指定する場合、「End Point」フィールドに S または Q を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 「Specified Hex End Point/Quiesce

Number」フィールドに指定した値を削除するか、「**End Point**」フィールドの値を S または Q に調整してください。

HLO 043E The only valid values for the scan copy type are "L"ocal site, "R"ecovery site, "Z"parm to fetch from the startup zparm startup parameter in DB2, and "U"ser to specify the IC type directly.

説明: また、スキャン・コピー・タイプに有効な値が指定されませんでした。

ユーザーの処置: 有効なスキャン・コピー・タイプ値 (L、R、Z、または U) を指定してください。

HLO 044E The only valid values for the Process Indexes are "Y"es, "N"o and "P"arallel rebuild.

説明: 無効な値を指定しました。

ユーザーの処置: Y、N、または P を指定してください。

HLO 045E If mini log mode is used, SYSCOPY rows are never involved. This option must be left at "N"o.

説明: ミニ・ログ・モードも使用する場合は、SYSCOPY 行フィールドに Y を指定することはできません。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・モードを使用する場合は、SYSCOPY 行フィールドに N を指定してください。

HLO 046E At least one image copy type must be selected.

説明: イメージ・コピー・タイプを選択しませんでした。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのイメージ・コピー・タイプを選択してください。

HLO 047E When this type of processing is selected on this utility profile, required fields on subsequent panels must also be entered. Enter a "Y" and press Enter to proceed.

説明: 後続のパネルで必須フィールドを指定する必要があります。

ユーザーの処置: Y と入力して Enter キーを押し、先に進んでください。

HLO 048E Either the Date or Age field must be specified.

説明: 日付または経過時間のいずれかを指定する必要があります (これらのフィールドは相互に排他的です)。

ユーザーの処置: 日付または経過時間のどちらかを指定してください。

HLO 049E The date and age fields cannot be specified together.

説明: 日付または経過時間のいずれかを指定する必要があります (これらのフィールドは相互に排他的です)。

ユーザーの処置: 日付または経過時間のどちらかを指定して、両方は指定しないでください。

HLO 050E Invalid date. Enter a valid date in the form of YYYYMMDD.

説明: 入力された日付は YYYYMMDD 形式ではありませんでした。

ユーザーの処置: 有効な形式の YYYYMMDD になるように日付を訂正してください。

HLO 051E The age field has a valid range of 1-32767.

説明: 指定された経過時間は無効です。

ユーザーの処置: 1 から 32767 の範囲内の有効な経過時間を指定してください。

HLO 054E There was an error allocating the DB2 Control File filename. DB2 Analytics Accelerator Loader cannot run without allocating a valid Control File. Please verify that the control file in your execution CLIST is correct.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、製品の実行 CLIST に指定されている DB2 制御ファイルを割り振ることができません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader CLIST で正しい DB2 制御ファイルが指定されていることを確認してください。

HLO 055E The only valid values for the Write Mode are "I"image copy for image copies only, "V"sam to write to the space file(s), and "B"oth to make an image copy while writing to the space file.

説明: 「Write Mode」に指定された値は無効です。

ユーザーの処置: 「Write Mode」に有効な値を指定してください。

HLO 056E When producing mini logs, the write mode must remain in the default state of "I" for image copies.

説明: ミニ・ログを作成している場合、書き込みモードは、イメージ・コピーに対してデフォルトの状態の I のままでなければなりません。

ユーザーの処置: イメージ・コピーに書き込みモード I を指定してください。

HLO 057E When not producing image copies due to the setting of the write mode, the Image Copy Data Set Name Generation field must be "N".

説明: イメージ・コピーを作成していない場合は、イメージ・コピー・データ・セット名の生成が不要であることを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 「Image Copy Data Set Name Generation」フィールドに N を指定してください。

HLO 058E When the generation options are both set to no, the write mode must be set to "V" for write to VSAM.

説明: すべての生成オプションに no を指定する場合は、書き込みモードを V に設定して、変更が基礎の VSAM に書き込まれるようにする必要があります。

ユーザーの処置: 「Write Mode」フィールドに V を指定してください。

HLO 059E One or more of the load libraries allocated for DB2 Analytics Accelerator Loader is not APF Authorized. APF Authorization is required for all load libs allocated in the DB2 Analytics Accelerator Loader startup clist.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 始動 CLIST で割り振られている 1 つ以上のロード・ライブラリーが APF 許可されていません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader では、ロード・ライブラリーの SHLO LOAD、SHLO MLOAD、および SHLO LOAD が APF 許可されることが必要です。highlevel.SHLO LOAD、highlevel.SHLO MLOAD、および highlevel.SHLO LOAD の各ライブラリーをシステムの APF 許可リストに含めてください。

HLO 060E DB2 Subsystem ssid could not be found on this MVS Operating System

説明: メッセージに示されている DB2 サブシステムを検出できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader のメインメニューの「DB2 Subsystem ID」フィールドに指定した DB2 サブシステムが有効な DB2 サブシステムであり、現在稼働中であることを確認してください。

HLO 061E A critical error has occurred attempting to resolve the subsystem RC=returncode

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader では、ターゲットのロード・ライブラリーの highlevel.SHLO LOAD および highlevel.SFECLOAD が APF 許可されていることが必要です。このメッセージは、使用できる APF 許可が不十分であることを示しています。

ユーザーの処置: 以下の APF 許可要件が満たされていることを確認してください。

- highlevel.SHLO LOAD および highlevel.SFECLOAD の各ライブラリーをシステムの APF 許可リストに含めてください。DB2 Analytics Accelerator Loader の始動で問題が発生した場合は、システム管理者に連絡してください。
- プログラム FEC\$TSOC を SYS1.PARMLIB のメンバーの IKJTSO00 の AUTHPGM および AUTHTSF のセクションに追加してください。IKJTSO00 の詳細については、「OS/390® MVS 初期設定およびチューニング解説書」を参照してください。
- SYS1.PARMLIB を変更するには、PARMLIB の更新を有効にするために IPL コマンドを実行する必要があります。PARMLIB の更新を有効にするために、IPL を実行してください。

HLO 062E DB2 Subsystem ssid is currently not active. Starting DB2 is required to continue.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader のメインメニューの「DB2 Subsystem ID」フィールドに (ブルー

ブ接続名ではなく) データ共用メンバーが指定されていますが、データ共用メンバーは別の MVS で稼働しています。

ユーザーの処置: 「DB2 Subsystem ID」フィールドにグループ接続名を指定するか、現行の MVS で稼働している DB2 サブシステム ID を指定してください。

HLO 063E The retention period and expiration date fields cannot be entered at the same time.

説明: 「Expiration Date」と「Retention Period」の両方のフィールドに値を入力しました。この組み合わせは許可されていません。

ユーザーの処置: 「Expiration Date」または「Retention Period」のいずれかのフィールドの値をクリアしてください。

HLO 065W Line commands were cleared for a cursor sensitive screen command.

説明: 行コマンドの指定時にカーソル移動に影響される画面コマンドを発行したため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、行コマンドをクリアしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 066E In order to use mini log #2, mini log #1 must also be specified.

説明: 2 次ミニ・ログ・データ・セットを指定する場合、1 次ミニ・ログ・データ・セットも指定する必要があります。

注: 1 次ミニ・ログ・データ・セットを指定する場合は、2 次ミニ・ログ・データ・セットの指定は必須ではありません。

ユーザーの処置: この問題を解決するには、以下のいずれかを行ってください。

- ミニ・ログ #2 の指定を解除します
- ミニ・ログ #1 およびミニ・ログ #2 の両方を指定します
- ミニ・ログ #1 のみを指定します

HLO 068E If the SYSCOPY selection mode is set to "U"ser, the Image Copy Preference field must be entered.

説明: 「SYSCOPY Scan Operating Mode」が「U」(ユーザー) に設定されています。イメージ・コピー・データ・セットを選択するためにスキャンする特定の順序を入力する場合、その順序を「SYSCOPY Selection

Preference」フィールドに入力する必要があります。

ユーザーの処置: 「SYSCOPY Scan Operating Mode」を「U」(ユーザー) 以外に変更するか、「SYSCOPY Selection Preference」を定義してください。

HLO 069E The only valid codes are LP, LB, RP, and RB each specified a maximum of one time.

説明: 有効な 2 文字のコードは、ローカル 1 次を表す「LP」、ローカル・バックアップを表す「LB」、リカバリー 1 次を表す「RP」、リカバリー・バックアップを表す「RB」のみです。

ユーザーの処置: 最大 8 文字のバック・フィールドに合計 1 個から 4 個のコードを入力できます。

「LPLBRPRB」と入力すると、リカバリー・サイト・コピーの前にローカルが選択されます。「RPRBLPLB」と入力すると、最初にリカバリー・サイト・コピーが選択されます。「RB」と入力すると、リカバリー・サイトのバックアップ・タイプ・イメージ・コピーを検出できない場合にエラーが発生します。2 文字の各コードは 1 回のみ指定できます。

HLO 070E The only valid values are R1 for archive log 1, R2 for archive log 2, A1 for active log 1, and A2 for active log 2.

説明: 無効な値を入力しました。

ユーザーの処置: 優先順位のコマンドを形成するには、それぞれ 2 文字の長さ (R1、R2、A1、A2) の 4 つのコードを連続して入力してください。HLO が DB2 ログの読み取りを試行するときに、この順序で DB2 ログが選択されます。各コードを指定する必要があり、ストリング全体の中で各コードを 1 回のみ指定できます。

HLO 071E The specified quiesce number must be 1-3 digits in a range of 1-999.

説明: 指定された静止番号は、1 から 999 の有効な範囲内の 1 桁から 3 桁ではありません。

ユーザーの処置: 1 から 999 の範囲内の 1 桁から 3 桁の静止番号を指定してください。

HLO 072E The specified quiesce number must be numeric.

説明: 指定された静止番号は数値ではありません。

ユーザーの処置: 静止番号として、1 から 999 の範囲内の 1 桁から 3 桁の数値を指定してください。

HLO 073E If the Restore Before Point is specified, you must enter a valid 12 digit hex value for the RBA/LRSN.

説明: 「Restore Before Point」フィールドに無効な値が指定されました。

ユーザーの処置: 「Restore Before Point」フィールドに有効な 12 桁の 16 進値を指定してください。

HLO 074E The only valid values are "G"roup level and "S"pace level.

説明: 「ML Control Card Level」フィールドに無効な値が指定されました。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。有効な値は、「G」(ミニ・ログ制御カードをグループ・レベルで配置) および「S」(ミニ・ログ制御カードをスペース・レベルで配置) です。ミニ・ログ・データ・セット制御カードのレベルが「S」(スペース) に設定される場合、DB2 Analytics Accelerator Loader は、ミニ・ログの実行中にオブジェクトごとにミニ・ログ・データ・セットを一度に 1 つ割り振ります。「G」(グループ) に設定される場合、DB2 Analytics Accelerator Loader は、ミニ・ログ・データ・セットをグループ全体に対して 1 回割り振ります。

HLO 075E Invalid values. The only valid values are "Y", "N" and "W".

説明: 「Unified End Points In Group」フィールドに無効な値が指定されました。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。有効値は以下のとおりです。

- **Y** - UNIFIED キーワードを構文に組み込みます。つまり、DB2 Analytics Accelerator Loader は、GROUP または SPACE のすべてのオブジェクトを指定された終点にコピーできない限り、イメージ・コピーを作成しません。これにより、SYSCOPY への書き込みが妨げられ、DD の異常終了が処理されません。
- **N** - UNIFIED キーワードを構文に組み込みません。つまり、DB2 Analytics Accelerator Loader は、GROUP または SPACE の一部のオブジェクトを指定された終点にコピーできない場合でも、イメージ・コピーを作成します。
- **W** - UNIFIED_WARNING キーワードを構文に組み込みます。つまり、DB2 Analytics Accelerator Loader は、GROUP または SPACE の一部のオブジェクトを指定された終点にコピーできない場合でも、

イメージ・コピーを作成します。処理は RC=4 で終了して、メッセージ HLO 2810I および HLO 2811I が出力されます。

HLO 076E The specified number must be 1-4 digits in a range of 1-9999.

説明: 指定された数値は無効です。

ユーザーの処置: 1 から 9999 の範囲内の 1 桁から 4 桁の値を指定してください。

HLO 077E When not using above the bar storage, this field must be blank.

説明: 「Allow usage of above the bar memory」フィールドに N を指定する場合、このフィールドに値を指定してはなりません。

ユーザーの処置: このフィールドから値を削除するか、「Allow usage of above the bar memory」フィールドに「Y」を指定してください。

HLO 078E The only valid values are "R" for Sharelevel "R"eference, "C" for Sharelevel "C"hange, and blank to not generate the card.

説明: 「ML Sharelevel」フィールドに無効な値が指定されました。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。有効な値は、「REFERENCE」(SHRLEVEL REFERENCE ミニ・ログの作成) および「Change」(SHRLEVEL CHANGE ミニ・ログの作成) です。

注: このフィールドをブランクのままにすると、デフォルトで「REFERENCE」に設定されます。

HLO 079E If Volume Count is specified, it must have a value of 1-255 or you can leave the field blank.

説明: 「Volume Count」に値を指定する場合、その値を 1 から 255 の範囲内の数値にする必要があります。あるいは、このフィールドをブランクのままにすることができます。

ユーザーの処置: 「Volume Count」に有効な値を指定するか、このフィールドをブランクのままにしてください。ブランクにする場合、ボリューム・カウントはシステム・デフォルトに設定されます。

HLO 080E If PARALLEL is specified, it must have a value between 0 - 16

説明: 指定された値は無効です。PARALLEL は、0 から 16 まででなければなりません。

ユーザーの処置: 0 から 16 の値を指定してください。値 0 を指定する場合、データ共有グループ・メンバー当たり最大 1 個のタスクが同時に実行されます。

HLO 081E If Check After Quiesce is set to "Y", the End Point must be set to "Q"uiesce.

説明: 「Check After Quiesce」フィールドが Y に設定される場合、「End Point」は Q に設定される必要があります。

ユーザーの処置: 「Check After Quiesce」と「End Point」に値の有効な組み合わせを指定してください。

HLO 082E If Check After Quiesce is set to "Y", the Bypass SYSIBM.SYSLGRNX Proc must be set to "N"o.

説明: 「Check After Quiesce」フィールドが Y に設定される場合、「Bypass SYSIBM.SYSLGRNX Proc」は N に設定される必要があります。

ユーザーの処置: 「Check After Quiesce」と「Bypass SYSIBM.SYSLGRNX Proc」に値の有効な組み合わせを指定してください。

HLO 083E If Check After Quiesce is set to "Y", the Unified End Points In Group must be set to "N"o.

説明: 「Check After Quiesce」フィールドが Y に設定される場合、「Unified End Points In Group」は N に設定される必要があります。

ユーザーの処置: 「Check After Quiesce」と「Unified End Points In Group」に値の有効な組み合わせを指定してください。

HLO 084E Action aborted, MCLN internal error

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 085 I Action complete. No row was found.

説明: アクションが完了しました。行は検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 086 I Action skipped. Please change input params

説明: アクションはスキップされました。

ユーザーの処置: 入力パラメーターを変更してください。

HLO 087E Action aborted. Error delete data set: &GMESSAG2. Processed: &GMESSAGE &GMESSAG1

説明: アクションが異常終了しました。

ユーザーの処置: このメッセージには、エラーに関する情報が示されます。

HLO 088 I Action completed. Processed: &GMESSAGE &GMESSAG1

説明: アクションが完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 089 I Action aborted by user. Processed: &GMESSAGE &GMESSAG1

説明: アクションはユーザーによって異常終了されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 090E When the end point type is "T"o Consistent IC the write mode must be "I"mage copy.

説明: 書き込みモードがイメージ・コピーではありませんでした。

ユーザーの処置: 書き込みモードをイメージ・コピーに変更してください。

HLO 091E If the value in the End Point field is set "T"o Consistent IC then a Specified Hex End Point/Quiesce# is not allowed.

説明: 終点または静止番号が指定されましたが、許可されていません。

HLO 092E • HLO 911E

ユーザーの処置: 終点または静止番号を削除してください。

HLO 092E If Parallel log apply is specified, it must have a value between 1 - 10

説明: 「Number of PARALLEL log apply」に指定された値は無効です。有効な値は 1 から 10 です。DB2 Analytics Accelerator Loader 構文に複数の GROUP(...) セットが存在している場合、「Number of PARALLEL log apply」フィールドの唯一の有効な値は 1 です (複数の GROUP(...) セットがある場合、1 より大きいログ適用タスクの値を指定するのは無効です)。

ユーザーの処置: 「Number of PARALLEL log apply」フィールドに有効な値を指定してください。

HLO 902E A DB2 subsystem ID has to be entered for processing.

説明: DB2 サブシステム ID を指定しませんでした。

ユーザーの処置: 適切な DB2 サブシステム ID を指定してください。

HLO 903E The default GDG base data set name could not be located.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、デフォルトの GDG ベース・データ・セット名を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: GDG ベース・データ・セット名を指定したことを確認してください。

HLO 904E The specified data set could not be opened for I/O.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、指定されたデータ・セットを入出力のためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 処理のために正しいデータ・セットを指定したこと、およびデータ・セットが現在使用中でないことを確認してください。

HLO 905E An unexpected return code from VSAM was encountered while doing a read of the control file. RC=returncode

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 906 I The control file record for DB2 subsystem *ssid* has been successfully updated.

説明: 指定された制御ファイル・レコードは正常に更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 907E An unexpected return code from VSAM was encountered while doing an update operation of the control file.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 908 I The control file record for DB2 subsystem *ssid* has been successfully added.

説明: 指定された制御ファイル・レコードは正常に追加されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 909E Invalid value. Valid values are 1, 2, and 3.

説明: 入力された値は無効です。

ユーザーの処置: 適切なオプション (1、2、または 3) を入力してください。

HLO 910E An unexpected return code from VSAM was encountered while doing an add operation to the control file.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 911E The only valid dataset types at this time are "B"asic and "L"arge

説明: 無効なデータ・セット・タイプを指定しました。

ユーザーの処置: データ・セット・タイプとして B (基本) または L (ラージ) のいずれかの有効な値を指定してください。

HLO 912E The "L"arge option is only supported on z/OS V1.7 or higher.

説明: データ・セット・タイプに L (ラージ) を指定しましたが、ご使用の z/OS のレベルは V1.7 以上ではありません。

ユーザーの処置: データ・セット・タイプとして B (基本) を指定してください。

HLO 913E Invalid data set/member/alias. The data set, member name, or alias entered does not meet the MVS data set naming standards.

説明: 入力されたデータ・セット、メンバー名、または別名は、MVS データ・セットの命名標準を満たしていません。

ユーザーの処置: データ・セット・メンバー名または別名を訂正してください。

HLO 914E The data set and corresponding member name, if specified, have to be specified together.

説明: データ・セットまたは対応するメンバー名を省略しました。

ユーザーの処置: データ・セットおよびメンバー名を指定してください。

HLO 915E The Other LPAR Jobs Data Set and XML Alternate SSID Template if specified, have to be specified together.

説明: 「Other LPAR Jobs Data Set」と「XML Alternate SSID Template」の両方のフィールドではなく、1 つのフィールドを指定しました。これらのフィールドは一緒に指定する必要があります。

ユーザーの処置: 「Other LPAR Jobs Data Set」と「XML Alternate SSID Template」の両方のフィールドに値を指定してください。

HLO 915E When the Process Indexes options is set to "P"arallel Rebuild the Write Mode must be set to "V" for write to VSAM or "B" for write to both

説明: 「Process Indexes」が P に設定されましたが、「Rebuild the Write Mode」フィールドは V または B に設定されませんでした。

ユーザーの処置: 「Rebuild the Write Mode」フィー

ルドに有効な値を指定してください。

HLO 917E DB2 Rebuild Index ALL step and Process Indexes options are mutually exclusive.

説明: 「DB2 Rebuild Index ALL step」と「Process Indexes」の両方のオプションを指定しました。これらのフィールドは相互に排他的です。

ユーザーの処置: 「DB2 Rebuild Index ALL step」または「Process Indexes」のいずれかを指定してください。

HLO 938E The Plan Name is a required field. Please enter a value.

説明: 「Plan Name」は必須フィールドです。

ユーザーの処置: 「Plan Name」フィールドに値を指定してください。

HLO 939E The only valid values are "T" for tracks and "C" for cylinders.

説明: 入力した値が無効です。

ユーザーの処置: トラックの場合は T、シリンダーの場合は C を入力してください。

HLO 940E The specified data set could not be found in the MVS catalog.

説明: データ・セットを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 指定したデータ・セットが正しいことを確認してください。

HLO 941E The quantity fields must be numeric and within the specified range.

説明: 数量のフィールドに非数値を入力しました。

ユーザーの処置: 数量のフィールドに数値を入力してください。

HLO 943E When a TAPE device is used, Data Set Type, Tracks/Cylinders and Primary/Secondary space can not be specified.

説明: 装置タイプが TAPE である場合、主トラックの数に値を指定することはできません。

ユーザーの処置: 主トラックの数に指定した値を削除するか、装置タイプを DISK に変更してください。

HLO 944E The specified device could not be found in MVS.

説明: 指定された装置を MVS で見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 正しい装置を指定したことを確認してください。

HLO 945E The Number of Buffers field must be numeric.

説明: 「Number of Buffers」フィールドに非数値を入力しました。

ユーザーの処置: 「Number of Buffers」フィールドに数値を入力してください。

HLO 946E The Number of Buffers field must be greater than 0.

説明: 「Number Of Buffers」フィールドに 0 以下の値を入力しました。

ユーザーの処置: 「Number Of Buffers」フィールドに 0 より大きい値を入力してください。

HLO 947E The Channel Programs field must be numeric.

説明: 「Channel Programs」フィールドに非数値を入力しました。

ユーザーの処置: 「Channel Programs」フィールドに数値を入力してください。

HLO 948E The Channel Programs field must be greater than 0.

説明: 「Channel Programs」フィールドに 0 以下の値を入力しました。

ユーザーの処置: 「Channel Programs」フィールドに 0 より大きい値を入力してください。

HLO 949E Tape devices cannot be used for mini logs.

説明: テープ装置を指定しましたが、ミニ・ログ・データ・セットにはテープ装置は許可されません。

ユーザーの処置: ディスク装置を指定してください。

HLO 1001A The SYSOUT data set could not be opened for output.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で定義されている SYSOUT データ・セットを出力するためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定した SYSOUT データ・セットを使用できることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1002E The SYSOUT DD must have a 133 byte LRECL.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定された SYSOUT DD には 133 バイトの LRECL がありません。

ユーザーの処置: SYSOUT DD に 133 バイトの LRECL があることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1010E The following space is not set to LOG for a required log range.

説明: メッセージにリストされているスペースは、必要なログ範囲の LOG に設定されていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1012E No valid full image copy in the SYSCOPY history was found for space(s): spaces

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、メッセージに示されている表スペースの SYSCOPY 履歴で有効なフルイメージ・コピーを検出できませんでした。DB2 Analytics Accelerator Loader には、SYSCOPY に登録されたフルイメージ・コピーが必要です。

ユーザーの処置: イメージ・コピーが SYSCOPY に登録されていて、有効であることを確認してください。

HLO 1013E A table update ICTYPE was found in SYSCOPY that did not log for space(s): spaces

説明: 複数のスペースが処理されていましたが、DB2 Analytics Accelerator Loader は、選択された開始点から指定された終点までの間の同じ時点に何らかの操作 (LOAD REPLACE LOG(NO)、REORG LOG(NO) など) が実行されたために処理できませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1014 I Database: *database* Space: *space***Partition: *partition***

説明: このメッセージは、他の DB2 Analytics Accelerator Loader メッセージと併せて発行され、他のメッセージが適用されるデータベース、スペース、パーティションを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1015E Could not determine disk/tape status of unit name.

説明: 制御ファイルに入力された作業データ・セットの装置タイプは無効です。

ユーザーの処置: 正しい装置タイプを入力してください。

HLO 1016E The device type of the unit name from the control file could not be determined.

説明: 制御ファイルに入力された作業データ・セットの装置タイプは無効です。

ユーザーの処置: 正しい装置タイプを入力してください。

HLO 1017E The REPORT utility returned an unrecoverable error.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1018E The FULL image copy DD CA(LP/LB/RP/RB) {1} is missing from the JCL. Each CAxxxxx DD correlates to each SPACE(...) control card group.

説明: フルイメージ・コピー・データ・セットが DB2 Analytics Accelerator Loader JCL に含まれていません。

ユーザーの処置: JCL が正しくフォーマットされていて、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブに必要な情報が含まれていることを確認してください。

HLO 1019E The FULL image copy DD CA {1} refers to a DSNAME already in SYSCOPY.

説明: SYSCOPY に既に存在しているフルイメージ・コ

ピー・データ・セット名が指定されました。

ユーザーの処置: 別のイメージ・コピー・データ・セット名を指定してください。

HLO 1020 I Each CAxxxxx DD correlates to each SPACE(...) control card group.

説明: 各 CAxxxx DD ステートメントが対応する SPACE(...) 制御カード・グループに関連付けられている必要があります。

ユーザーの処置: JCL が正しくフォーマットされていて、各 CAxxxx DD ステートメントが SPACE(...) 制御カード・グループに関連付けられていることを確認してください。

HLO 1021E The TO_QUIESCE control card was specified, but no quiesce point was found.

説明: TO_QUIESCE 制御カードは、DB2 Analytics Accelerator Loader に対して、ログを読み取り、最新の静止ポイントまでデータをイメージ・コピーに取り込むように指示していますが、静止ポイントが検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1022E The stop point precedes the start point for space: Database: *database* Table space: *table_space* Partition: *partition* Start point X'*startpoint*' End point X'*endpoint*'.

説明: リストされているデータベース、表スペース、パーティションの停止点が開始点より先行している場合、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブは実行されません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1023 I The version of DB2 subsystem *ssid* is *ver*.

説明: DB2 サブシステムの SSID およびバージョンを表示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1024 I The version of DB2 group attach *member_name* is *version*.

説明: DB2 グループ接続メンバー・サブシステムが実

HLO 1025 I • HLO 1036 I

行している DB2 グループ接続のバージョンを表示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1025 I Control card stream process complete. Selected space count =*space count*.

説明: これは、制御カードのスキャン・プロセスが終了したことを示す通知メッセージです。制御カード・セットで検出されたオブジェクトの数が *space count* 変数によって示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1027 I DB2 Analytics Accelerator Loader will process *dataset* for tablespace *tablespace*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が処理するデータ・セット名を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1028 I The image copy is of all parts.

説明: イメージ・コピーが表スペースのすべてのパーティションのものであることを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1029 I The image copy contains one partition (*partition*).

説明: イメージ・コピーに含まれている 1 つのパーティションを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1030E A concurrent image copy was found in the SYSCOPY history. It cannot be used.

説明: 検出された DFDSS 同時イメージ・コピーを DB2 Analytics Accelerator Loader によって読み取ることとはできません。

ユーザーの処置: スペースをリカバリーするために使用する代替メカニズムを選択してください。

HLO 1031 I Only partition *partition* within the image copy will be updated with log data and written to an individual partition copy.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、イメージ・コピー内のパーティションのみをログ・データで更

新して、個々のパーティション・イメージ・コピーに書き込みます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1032 I All partitions will be updated with log data.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、すべてのパーティションをログ・データで更新します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1033E A partial recovery point was found in SYSCOPY and its data set name does not match the data set name specified in the STARTING_IC control card.

説明: 特定の開始点が指定されましたが、SYSCOPY で部分リカバリー・ポイントが検出されたために、この開始点を使用できず、関連付けられているデータ・セットを代わりに使用する必要があります。

ユーザーの処置: STARTING_IC 制御カードを DB2 Analytics Accelerator Loader 構文から削除する必要があります。

HLO 1034 I DB2 Analytics Accelerator Loader will process the log only for table space *table_space* PART *part*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されている表スペースおよびパーティションのログのみを処理します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1035E An image copy was found, but its RBA precedes the logging start point.

説明: このメッセージは、イメージ・コピーが検出されたにも関わらず、その RBA がロギングの開始点より先行しているために使用できなかったことを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1036 I DB2 Analytics Accelerator Loader processing ends.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader の処理が完了したことを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1038E An incremental image copy was marked as cataloged in SYSCOPY, but was not found in the MVS catalog.

説明: このメッセージは、増分イメージ・コピーに SYSCOPY にカタログ済みのマークが付けられているにも関わらず、MVS カタログで検出されなかったことを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1039E At least two end points within a single GROUP() are not the same.

説明: グループ内の少なくとも 2 つの終点が同じではありません。

ユーザーの処置: 定義した終点が正しいことを確認してください。

HLO 1040 I The SPACE(...) set involved that the error was detected in was #'XXXXX'

説明: メッセージに示されている SPACE セットにエラーがありました。

ユーザーの処置: 正しい SPACE 構文が指定されていることを確認してください。

HLO 1041W An error occurred during processing, but was overridden. Check all messages.

説明: エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 処理中のエラーに関するメッセージを確認してください。

HLO 1042W All objects are marked to skip. Log reading and further processing skipped.

説明: すべてのオブジェクトにスキップのマークが付けられているため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、後続の処理とログの読み取りをスキップします。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1044W *error_message*

説明: これは、ADD_TABLES キーワードおよび REMOVE_AND_ADD_TABLES キーワードに関連する警告メッセージです。ストアード・プロシージャが正常終了以外の戻りコードを返す場合、提供されるエラー・メッセージがこのエラー・メッセージの下に出力されます。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャによって生成された警告メッセージが正確かどうか検討してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

HLO 1045E An error occurred while attempting to load the DB2 call attach service.

説明: DB2 呼び出し接続サービスで z/OS ロード・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: //STEPLIB に、SDSNLOAD を含む DB2 loadlib データ・セットの正しいバージョンがあることを確認してください。

HLO 1046 I The space processing DATABASE_NAME.SPACE_NAME partition NUMBER was set to TO_CURRENT

説明: メッセージに示されているオブジェクトの終点が TO_CURRENT に設定されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1047 I The stop point precedes the start point for space: space part: part Start timestamp: start timestamp End timestamp: end timestamp

説明: このオブジェクトについて解決された終点は正しくないと判別されました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1048E The &HLO . runtime environment is not consistent. Installation error.

説明: 製品ロード・ライブラリーのモジュールに、製品ロード・ライブラリーと矛盾する名前が指定されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1049E *databaseName.tablespaceName* Part #nnnnnn Consistent RBA/LRSN = X'*rba/lrsn*'.

説明: Consistent Load は、RBA/LRSN *rba/lrsn* まで、すべてのコミット済みの作業単位を適用しました。このメッセージは、表ごとに発行されます。DB2 データ共用環境では、10 進形式のタイム・スタンプが 16 進数の RBA/LRSN から変換されてメッセージに表示されます。

HLO 1050 I • HLO 1059W

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1050 I Tape image copy process was optimized. Space count *x*. Group count 1.

説明: DSNUM 0 イメージ・コピーがテープにあり、PARALLEL *y* パラメーターの値が 1 より大きい場合、ログ適用タスクは 1 つのみ実行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1051 I Unused groups were dropped.

説明: 空のグループが検出されて削除されました。

ユーザーの処置: 詳細については、関連メッセージを確認してください。

HLO 1052 I IC process order requires single task log apply.

説明: テープ最適化プロセスにより、テープ・ボリューム・シーケンスが制御カードで指定された複数のグループを禁止したことが判別されました。実行時エラーを回避するために、グループは結合されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1053E The target table space cannot be configured for multiple tables.

説明: OBIDXLAT_CATALOG 制御カードが指定されている場合、複数表のイメージ・コピーを指定できません。

ユーザーの処置: 単一表のイメージ・コピーを指定するか、OBIDXLAT_CATALOG 制御カードをジョブから削除してください。

HLO 1053W Space order collision detected.

説明: スペースを指定された順序で処理できませんでした。スペース・プロセス・ロックを回避するために、スペースの再配分が実行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1054W Space order collision detected.

説明: 制御カードに指定されたオブジェクトの順序は、テープ・データ・セット・シーケンスの順序と矛盾しています。オブジェクトは再配置されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1054W Space order collision detected.

説明: 制御カードに指定されたオブジェクトの順序は、テープ・データ・セット・シーケンスの順序と矛盾しています。オブジェクトは再配置されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1055 I Space #<space_count> round robin distribution used. Group #<group_count>.

説明: スペースの再配分がラウンドロビン・アルゴリズムによって実行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1056 I Space #<space_count> sequential distribution used. Group #<group_count>.

説明: スペースの再配分が順次アルゴリズムによって実行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1057E Add tables macro internal error.

説明: ADD_TABLES キーワードまたは REMOVE_AND_ADD_TABLES キーワードの表追加機能を処理しているときに内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1058E Add or Remove+Add tables function could not connect to DB2.

説明: DB2 に接続しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: //STEPLIB loadlib のバージョン管理および完全性を確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1059W Warnings generated by the ADD_TABLES stored procedure: warnings

説明: ADD_TABLES キーワードまたは REMOVE_AND_ADD_TABLES キーワードの表を処理しているときに、内部ストアード・プロシージャが警告状態を返しました。ストアード・プロシージャの警告メッセージが表示されます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1060E Add or Remove+Add tables stored procedure error.

説明: ADD_TABLES キーワードまたは REMOVE_AND_ADD_TABLES キーワードの表を処理しているときに、内部ストアード・プロシージャが警告状態を返しました。ストアード・プロシージャの警告メッセージが表示されます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1061E Unknown Add or Remove+Add tables stored procedure return code.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1062E

説明: ADD_TABLES または REMOVE_AND_ADD_TABLES のストアード・プロシージャ呼び出し時に一般エラーが発生しました。ストアード・プロシージャからのエラー・メッセージがこのエラー・メッセージ接頭語の下に表示されます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO 1063E Error call
sysproc.accel_get_tables_details table
owner.name severity severity, reason
reason.**

説明: ストアード・プロシージャの *owner.name* 表への呼び出しでエラーが発生しました。HLO 1058I、HLO 1059I、HLO 1060I も確認してください。

ユーザーの処置: エラー・コードを調べて、問題を修正してください。

HLO 1064 I Error text: text

説明: このメッセージには、ストアード・プロシージャからのエラー・テキストが表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1065 I Error description: text

説明: このメッセージには、ストアード・プロシージャからのエラーの説明が表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1066 I Error action: text

説明: このメッセージには、ストアード・プロシージャからのエラーのアクションのテキストが表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 1067E Error; could not parse XML output.
XML output follows.**

説明: ストアード・プロシージャからの XML 出力の解析時にエラーが発生しました。XML 出力は、このメッセージの後にダンプされます。

ユーザーの処置: 出力を IBM ソフトウェア・サポートに提供してください。

HLO 1068 I Space

<database_name>.<space_name>.<partition>
not loaded.

説明: スペースのロード・プロセスが異常終了しました。詳細については、前のメッセージを確認してください。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 1069 I Cannot enable acceleration for table
<table_name>.**

説明: 示されている表のアクセラレーションを有効にすることができませんでした。この表はエラー状態です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 1070 I There is no table for which to enable
acceleration.**

説明: アクセラレーションを有効にする対象の表はありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 1071 I Acceleration enabled for table
<table_name>.**

説明: 示されている表に対してアクセラレーションが有効に設定されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 1101E The first control card was not a
request for DB2 Analytics Accelerator
Loader.**

説明: 実行依頼した JCL は、IDAA_CONSISTENT_LOAD を DB2 Analytics

HLO 1103E • HLO 1115E

Accelerator Loader 構文の最初の制御カードとして指定していませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 構文を訂正します。IDAA_CONSISTENT_LOAD は、メインのDB2 Analytics Accelerator Loader キーワードです。このキーワードの後に左括弧を指定して、残りのDB2 Analytics Accelerator Loader キーワードを括弧内に含める必要があります。

HLO 1103E Invalid syntax after IDAA_CONSISTENT_LOAD control card. Expected "(".

説明: IDAA_CONSISTENT_LOAD 制御カードの後の構文が無効です。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 制御カードが括弧で囲まれていることを確認してください。

HLO 1105E Invalid syntax after SPACE control card. Expected "(".

説明: SPACE 制御カードの後の構文が無効です。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 制御カードが括弧で囲まれていることを確認してください。

HLO 1106E The data base parameter was specified but no value was found with it.

説明: DATA_BASE パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: DATA_BASE キーワードの後に 8 文字のデータベース名を入力してください。

HLO 1107E The table space name parameter was specified, but no value was found with it.

説明: SPACE_NAME パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: SPACE_NAME キーワードの後に 8 文字のデータベース名を入力してください。

HLO 1108E The partition parameter was specified, but no value was found with it.

説明: PARTITION パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: PARTITION キーワードの隣にパーティション番号を入力してください。

HLO 1109E The data base parameter is invalid.

説明: DATA_BASE 構文が無効です。

ユーザーの処置: JCL に DATA_BASE キーワードが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 1110E The space name parameter is invalid.

説明: SPACE_NAME 構文が無効です。

ユーザーの処置: JCL に SPACE_NAME キーワードが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 1111E The partition parameter is invalid.

説明: PARTITION 構文が無効です。

ユーザーの処置: JCL に PARTITION キーワードが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 1112E The end RBA parameter was specified, but no value was found with it.

説明: END_RBA キーワードを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: END_RBA キーワードに有効な値を入力してください。

HLO 1113E Syntax error around end RBA value. Form is X'<6 byte hex value>'.

説明: 終了 RBA は x'nnnnnn'形式でなければなりません。ここで、nnnnnn は終了 RBA の 16 進値です。

ユーザーの処置: 終了 RBA 値を正しい形式で入力してください。

HLO 1114E The end RBA value contains an invalid hexadecimal value.

説明: 終了 RBA に指定された 16 進値は無効です。

ユーザーの処置: 終了 RBA 値を訂正してください。

HLO 1115E The end RBA value cannot be 0.

説明: END_RBA キーワードに指定する値を 0 にすることはできません。

ユーザーの処置: END_RBA キーワードに有効な値を指定してください。

HLO 1116E The end RBA value was already specified before end LRSN in a control group.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で、終了 RBA 値がグループの終了 LRSN の前に指定されています。

ユーザーの処置: 終了 RBA または終了 LRSN のどちらかのみを指定でき、両方は指定できません。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1117E The end LRSN parameter was specified, but no value was found with it.

説明: END_LRSN キーワードのパラメーター値が欠落しています。

ユーザーの処置: END_LRSN キーワードの後に終了 LRSN を入力してください。

HLO 1118E Syntax error around end LRSN value. Form is X"<6 byte hex value>".

説明: 終了 LRSN は X"nnnnnn" 形式でなければなりません。ここで、nnnnnn は終了 LRSN の 16 進値です。

ユーザーの処置: 終了 LRSN 値を正しい形式で入力してください。

HLO 1119E The end LRSN value contains an invalid hexadecimal value.

説明: 入力された 16 進値は無効です。

ユーザーの処置: 正しい値を入力してください。

HLO 1120E The end LRSN value cannot be 0.

説明: 終了 LRSN を 0 にすることはできません。

ユーザーの処置: 正しい値を入力してください。

HLO 1121E The end LRSN value was already specified before end RBA in a control group.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で、終了 LRSN 値がグループの終了 RBA の前に指定されています。

ユーザーの処置: 終了 RBA または終了 LRSN のどちらかのみを指定でき、両方は指定できません。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1122E One of the following options must be specified: TO_CURRENT, TO_QUIESCE, END_RBA, END_LRSN, TO_IC, TO_TIMESTAMP, TO_TIMESTAMP_LOCAL, or TOLOGPOINT.

説明: プロセスを完了するには、製品にログ範囲終点が必要です。

ユーザーの処置: 制御カード・セットに有効な終点制御カードまたはグループ・レベルの単一の終点制御カードが含まれていることを確認してください。メッセージ・テキストにリストされているオプションの 1 つを使用できます。

HLO 1123E Only one end point (END_RBA, END_LRSN, TO_CURRENT, TO_QUIESCE, TO_TIMESTAMP, TO_TIMESTAMP_LOCAL, TO_IC, or TOLOGPOINT) can be specified.

説明: 複数の終点パラメーターを指定しました。

ユーザーの処置: 終点パラメーターを 1 つのみ指定してください。

HLO 1124E The starting image copy value has mismatched apostrophes.

説明: STARTING_IC キーワードの開始イメージ・コピー・データ・セット名でアポストロフィが欠落しています。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 制御カードが括弧で囲まれていることを確認してください。

HLO 1125E The starting image copy value has no contents.

説明: STARTING_IC キーワードに含まれている開始イメージ・コピー・データ・セット名に問題があります。データ・セット名が欠落しているか、スペルが誤っているか、データ・セットをオープンできないか、データ・セットが有効なイメージ・コピー・データ・セットではありません。

ユーザーの処置: 正しいデータ・セットを指定してください。

HLO 1126E A token value was found that was either no DB2 Analytics Accelerator Loader command set or was misplaced in the DB2 Analytics Accelerator Loader control cards. The value of the invalid token is:

説明: 制御カードに無効なキーワードがあります。

ユーザーの処置: 有効なキーワードおよびパラメーターのリストを確認して、キーワードを訂正し、再実行依頼してください。

HLO 1127E A table/index space name pair or index name pair is incomplete.

説明: 指定された表/索引スペース名のペアの 1 つが不完全です。

ユーザーの処置: すべての表/索引スペース名のペアが正しく指定されていることを確認してください。必要に応じて JCL を編集し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1128E The space *space* was not found in the DB2 catalog. Space *space*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL に指定した表スペースは DB2 カタログに存在していません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1129E A partition was specified for {x} but the space is non-partitioned.

説明: 非パーティション化表スペースにパーティションが指定されました。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1130E A partition was specified for {x} but the partition is not defined.

説明: パーティションが指定されましたが、その表スペースにパーティションは定義されていません。

ユーザーの処置: 正しい表スペースのパーティション情報を指定してください。

HLO 1131E In a data sharing environment, specifying RBA values is not allowed.

説明: データ共有環境で RBA 値を指定しました。データ共有環境では RBA 値を使用できません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。必要な場合は、RBA 値の代わりに LRSN 値を使用してください。

HLO 1132E In a non data sharing environment, specifying LRSN values is not allowed.

説明: 現在、データ共有環境を使用しているため、指定した LRSN 値は許可されません。

ユーザーの処置: JCL またはプロファイルで LRSN 値を使用しないでください。

HLO 1133E The command set must end with a close parenthesis ")".

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 入力カードの後に右括弧がありません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 入力カードの後に右括弧を入力してください。

HLO 1134E The command set has extra parameters after the close parenthesis.

説明: コマンドが、右括弧の外にあります。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 制御カードが括弧で囲まれていることを確認してください。

HLO 1135E The SYSINHLO DD card could not be found in the JCL.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader には、ジョブへの入力として SYSINHLO DD が必要です。SYSINHLO DD が JCL で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: この DD をインストリームまたはデータ・セットとして指定してください。

HLO 1136E The SYSINHLO DD card could not be opened for input.

説明: SYSINHLO DD はデータ・セットを指していますが、そのデータ・セットを入力のためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: SYSINHLO DD が他のリソースによってアクセスされていないことを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1137E The SYSINHLO DD input stream is empty.

説明: インストリーム・ファイルまたは入力データ・セットに制御カードがありません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1138E The parsing process gave an invalid return code.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1139E The functional limit of DB2 Analytics Accelerator Loader is 20000 Space control card groups.

説明: 20000 を超える DB2 Analytics Accelerator Loader SPACE 制御カード・グループが指定されました。

ユーザーの処置: 20000 未満の SPACE 制御カード・グループを指定してください。

HLO 1140E The following object is specified at least 2 times in the control cards:

説明: リストされているオブジェクトを制御カードで 2 回以上指定しました。

ユーザーの処置: 制御カードでオブジェクトを最大 1 回指定してください。

HLO 1141E Duplicate objects found in control card stream: PART *part* SPACE NUMB *space numb*.

説明: 制御カード・ストリームで重複したオブジェクトが検出されました。

ユーザーの処置: 重複しているオブジェクトを削除してください。

HLO 1142E The DATABASE keyword has already been coded for this space group.

説明: SPACE グループに対して DATABASE パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1143E The SPACE_NAME keyword has already been coded for this space group.

説明: SPACE グループに対して SPACE_NAME パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1144E The PARTITION keyword has already been coded for this space group.

説明: SPACE グループに対して PARTITION パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1145E The END_RBA keyword has already been coded for this space group.

説明: END_RBA は SPACE グループに対して 1 回のみ指定できます。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1146E The END_LSRN keyword has already been coded for this space group.

説明: SPACE グループに対して END_LRSN パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL で END_LRSN パラメーターを最大 1 回指定して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1147E The TO_CURRENT keyword has already been coded for this space group.

説明: SPACE グループに対して TO_CURRENT キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1148E The TO_QUIESCE keyword has already been coded for this space group.

説明: SPACE グループに対して TO_QUIESCE パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1149E The STARTING_IC keyword has already been coded for this space group.

説明: SPACE グループに対して STARTING_IC パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1150E The MINI_LOG_DSN_2 keyword has already been coded for this run.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader GROUP キーワードに対して MINI_LOG_DSN_2 キーワードを複数回指定しました。GROUP キーワードごとに MINI_LOG_DSN_2 キーワードを 1 つのみ指定できません。

ユーザーの処置: 最大 1 つを残して、余分な MINI_LOG_DSN_2 キーワードを削除してください。

HLO 1151E The NO_SYSCOPY_ROW keyword has already been coded for this run.

説明: ジョブに対して NO_SYSCOPY_ROW パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1152E The RECOVERY_SITE keyword has already been coded for this run.

説明: ジョブに対して RECOVERY_SITE パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1153E The LOCAL_SITE keyword has already been coded for this run.

説明: ジョブに対して LOCAL_SITE パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1154E The SPACE(...) set involved that the error was detected in was #.

説明: このメッセージには、エラーが検出された SPACE セット番号が示されます。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1155 I Control card stream processed by Consistent Load follows...

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader によって処理された制御カード・ストリームを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1156 I Consistent Load processing messages follow...

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader メッセージが後に続くことを示します。

ユーザーの処置: 必要に応じてメッセージを評価してください。

HLO 1157E The MINI_LOG_DSN/ MINI_LOG_DSN_1 keyword has already been coded for this run.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader GROUP キーワードに対して MINI_LOG_DSN キーワードまたは MINI_LOG_DSN_1 キーワードを複数回指定しました。GROUP キーワードごとに MINI_LOG_DSN キーワードまたは MINI_LOG_DSN_1 キーワードを 1 つのみ指定できます。

注: MINI_LOG_DSN と MINI_LOG_DSN_1 の機能は同じです。

ユーザーの処置: MINI_LOG_DSN キーワードまたは MINI_LOG_DSN_1 キーワードはグループごとに 1 つのみコーディングしてください。

HLO 1158E The GROUP(...) set involved that the error was detected in was #'{x}'.

説明: エラーが検出された GROUP セットを示します。

ユーザーの処置: 示されている GROUP セットの構文を確認し、必要に応じて訂正してください。

HLO 1160E Either all groups need a mini-log data set or all groups must be without them.

説明: JCL 内のすべてのグループではなく、一部のグループにミニ・ログ・データ・セットを指定しました。

ユーザーの処置: JCL の中のすべてのグループにミニ・ログ・データ・セットを指定するか、どのグループにも指定しないでください。

HLO 1161E Each group must have it's own unique mini log data set name.

説明: 指定されたミニ・ログ・データ・セットの一部が固有ではありません。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットを名前変更して、それぞれに固有の名前を指定してください。

HLO 1162E The data set *dataset* already exists in the Consistent Load mini log control table.

説明: データ・セット名生成修飾子ストリングで指定したデータ・セットは、DB2 Analytics Accelerator Loader ミニ・ログ制御テーブルに既に存在しています。

ユーザーの処置: 固有のミニ・ログ・データ・セット名を指定してください。

HLO 1163E The specified mini log data set *data_set* already exists in the MVS catalog.

説明: メッセージに示されているミニ・ログ・データ・セットは、固有ではなく、MVS カタログに既に存在しています。

ユーザーの処置: 固有のミニ・ログ・データ・セット名を指定してください。

HLO 1164W The NO_SYSCOPY_ROW control card is ignored when producing mini logs.

説明: JCL で NO_SYSCOPY_ROW 制御カードを使用しましたが、このパラメーターはミニ・ログの生成時に無視されます。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1165E The mini log data set value has mismatched apostrophes.

説明: MINI_LOG_DSN に指定した値は、一致するアポストロフィで囲まれていません。

ユーザーの処置: JCL のアポストロフィを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1166E The mini log data set value has no contents.

説明: 値なしで MINI_LOG_DSN キーワードが指定されました。

ユーザーの処置: MINI_LOG_DSN キーワードに有効な値を指定してください。

HLO 1167E Operations on the DB2 directory are not allowed.

説明: DB2 ディレクトリー表スペースのイメージ・コピーを試行しました。この操作は許可されません。

ユーザーの処置: DB2 ディレクトリーに対して操作を実行しないでください。

HLO 1168E Operations on the DB2 Catalog table space *DSNDB06.SYSCOPY* are not allowed.

説明: DB2 カタログ表スペースのイメージ・コピーを試行しました。この操作は許可されません。

ユーザーの処置: DB2 カタログに対して操作を実行しないでください。

HLO 1169E Space can be designated as *DATA_BASE SPACE_NAME* pair, or *CREATOR INDEX* pair.

説明: SPACE() グループ内の制御カードが索引と表の両方を参照しています。これは許可されません。

ユーザーの処置: SPACE() グループ制御カードが索引または表の (両方ではなく) いずれかを参照するように、JCL を編集してください。

HLO 1170E The index creator name parm was specified, but no value was found with it.

説明: 索引作成者の名前を指定する場合、値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 索引作成者パラメーターに値を指定してください。

HLO 1171E The index creator parameter is invalid.

説明: 索引作成者に指定されたパラメーターが無効です。

ユーザーの処置: 有効な索引作成者の値を指定してください。

HLO 1172E The CREATOR keyword has already been coded for this space group.

説明: スペース・グループに複数の CREATOR キーワードが指定されました。CREATOR キーワードはスペース・グループに 1 回のみ指定できます。

HLO 1173E • HLO 1183E

ユーザーの処置: すべての余分な CREATOR キーワードを削除して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1173E The index name parameter was specified, but no value was found with it.

説明: INDEX_NAME パラメーターが指定されましたが、値が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: INDEX_NAME キーワードに値を指定するか、キーワードを削除してください。

HLO 1174E The index name parameter is invalid.

説明: INDEX_NAME パラメーターの指定が無効です。

ユーザーの処置: INDEX_NAME パラメーターの指定を訂正してください。

HLO 1175E The NAME keyword has already been coded for this space group.

説明: スペース・グループに NAME キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: すべての不要な NAME キーワードをスペース・グループから削除してください。NAME キーワードはグループに 1 つのみ指定できます。

HLO 1176E The object *object* was not found in the DB2 catalog.

説明: メッセージに示されているオブジェクトが DB2 カタログで検出されませんでした。示されているオブジェクトの処理を続行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1177E The value was not properly enclosed with apostrophes.

説明: 指定された構文は無効です。値をアポストロフィで囲む必要がありますが、アポストロフィで囲まれていませんでした。

ユーザーの処置: 値をアポストロフィで囲み、構文を訂正してください。

HLO 1178E The index does not currently have COPY=YES activated in DB2.

説明: COPY=YES が指定されていないため、索引をコピーできません。

ユーザーの処置: 索引に対して COPY=YES を指定してください。

HLO 1179E The index *index* was mapped to indexspace *indexspace* Space# *space#*.

説明: この通知メッセージには、制御カードで指定された索引のデータベース名と索引スペース名が示されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1180E The LOCAL_SITE and RECOVERY_SITE control cards cannot be specified together.

説明: LOCAL_SITE 制御カードと RECOVERY_SITE 制御カードは相互に排他的です。

ユーザーの処置: LOCAL_SITE または RECOVERY_SITE のいずれかを指定して、両方は指定しないでください。

HLO 1181E The WRITE_TO_VSAM keyword has already been coded for this run.

説明: WRITE_TO_VSAM 制御カードを複数回指定しました。最大 1 回指定してください。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1182E The NO_MINILOG_CHECKPOINTS keyword has already been coded for this run.

説明: NO_MINILOG_CHECKPOINTS キーワードの複数インスタンスが DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブでコーディングされました。このキーワードは、実行のために 1 回のみコーディングできます。

ユーザーの処置: NO_MINILOG_CHECKPOINTS キーワードの余分なインスタンスをすべて DB2 Analytics Accelerator Loader 構文から削除してください。

HLO 1183E The NO_SYSCOPY_ROW control card is ignored when writing directly to VSAM.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が新しいイ

メージ・コピーの新しい行での SYSCOPY カタログ表の更新をスキップするようにする場合、NO_SYSCOPY_ROW 制御カードが使用されます。WRITE_TO_VSAM または WRITE_TO_BOTH を指定する場合、これは適用されず、NO_SYSCOPY_ROW 制御カードは無視され、SYSCOPY カタログ表はイメージ・コピーの新しい行で更新されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。SYSCOPY カタログ表がイメージ・コピーの新しい行で更新されないようにするには、WRITE_TO_COPIES を指定してください。

HLO 1184E The WRITE_TO_VSAM and MINI_LOG_DSN control cards are mutually exclusive.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 構文に WRITE_TO_VSAM と MINI_LOG_DSN の両方の制御カードが含まれています。WRITE_TO_VSAM 制御カードを MINI_LOG_DSN 制御カードと一緒に使用することはできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 構文を訂正します。

HLO 1185E The control card set ended prematurely. Ensure proper continuation syntax

説明: IDAA_CONSISTENT_LOAD 制御カード・セットは、エラーを含んでいるため、不完全なまま早期に終了しました。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 構文を確認して訂正してください。

HLO 1186E The WRITE_TO_COPIES keyword has already been coded for this run.

説明: WRITE_TO_COPIES キーワードが IDAA_CONSISTENT_LOAD の実行で複数回指定されました。

ユーザーの処置: すべての余分な WRITE_TO_COPIES キーワードを削除して、構文を訂正してください。

HLO 1187E The WRITE_TO_BOTH keyword has already been coded for this run.

説明: WRITE_TO_BOTH キーワードが IDAA_CONSISTENT_LOAD の 1 回の実行で複数回指定されました。

ユーザーの処置: すべての余分な WRITE_TO_BOTH キーワードを削除して、構文を訂正してください。

HLO 1188E Only one WRITE_TO_ control card can be specified per run.

説明: 複数の WRITE_TO_ (WRITE_TO_VSAM、WRITE_TO_COPIES、WRITE_TO_BOTH) 制御カードが JCL で指定されました。実行ごとに 1 つのみが許可されます。

ユーザーの処置: すべての余分な WRITE_TO_ 制御カードを削除して、ジョブを再実行依頼してください。VSAM およびイメージ・コピーに書き込む必要がある場合は、WRITE_TO_BOTH を指定してください。

HLO 1190E An unexpected error occurred while trying to read the ZPARM information.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader で、ZPARM 情報の読み取りを試行したときに予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1191E Mini log data set #1 must be specified if mini log data set #2 is specified.

説明: 2 次ミニ・ログ・データ・セットを指定する場合、1 次ミニ・ログ・データ・セットも指定する必要があります。そのため、MINI_LOG_DSN_2 制御カードを DB2 Analytics Accelerator Loader 構文に含める場合は、MINI_LOG_DSN_1 制御カードも DB2 Analytics Accelerator Loader 構文に含める必要があります。

注: 1 次ミニ・ログ・データ・セットを指定する場合は、2 次ミニ・ログ・データ・セットの指定は必須ではありません。

ユーザーの処置: この問題を解決するには、以下のいずれかを実行する必要があります。

- MINI_LOG_DSN_2 制御カードを構文から削除します
- MINI_LOG_DSN_1 と MINI_LOG_DSN_2 の両方を指定します
- MINI_LOG_DSN_1 のみを指定します

HLO 1192E The TOLOGPOINT parameter was specified, but no value was found with it.

説明: 構文に TOLOGPOINT 制御カードが含まれていますが、値が指定されませんでした。TOLOGPOINT 制御カードは、イメージ・コピーを作成する有効なログ・ポイントを指定する必要があります。

HLO 1193E • HLO 1202E

ユーザーの処置: 構文の中で、正しい TOLOGPOINT 構文が指定されていることを確認してください。
TOLOGPOINT 制御カードにログ・ポイント値が指定されていることを確認してください。

HLO 1193E Syntax error around TOLOGPOINT value. Form is X'<6 byte hex value>'.

説明: TOLOGPOINT 制御カードの構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 指定したログ・ポイントが 6 バイトの 16 進値であることを確認してください。

HLO 1194E The TOLOGPOINT value contains an invalid hexadecimal value.

説明: TOLOGPOINT 制御カードに指定された値は有効な 16 進値ではありません。

ユーザーの処置: TOLOGPOINT 制御カードに指定した値を訂正してください。イメージ・コピーを作成する最後のポイントを示す有効な 16 進値を指定していることを確認してください。

HLO 1195E The TOLOGPOINT value can not be 0.

説明: TOLOGPOINT 制御カードに指定された値は無効です。値 0 を指定することはできません。

ユーザーの処置: TOLOGPOINT 制御カードに指定した値を訂正してください。イメージ・コピーを作成する最後のポイントを示す有効な 16 進値を指定していることを確認してください。

HLO 1196E The TOLOGPOINT value was already specified before end LRSN in a control group.

説明: TOLOGPOINT 値は、指定された END_LRSN 制御カードをオーバーライドします。

ユーザーの処置: 不要な END_LRSN 制御カードを削除し、必要に応じて TOLOGPOINT 値を調整するか、TOLOGPOINT 制御カードを削除してください。

HLO 1197E The TOLOGPOINT keyword has already been coded for this space group.

説明: TOLOGPOINT 制御カードはスペース・グループに 1 回のみ指定する必要があります。

ユーザーの処置: 余分な TOLOGPOINT 制御カードを削除して、構文に残す TOLOGPOINT 制御カードが正

しいログ・ポイントに設定されていることを確認してください。

HLO 1198E The grouping end point conflicts/duplicates a SPACE() level end point.

説明: GROUP の終点は無効であり、SPACE レベルの終点と競合しています。

ユーザーの処置: 構文を訂正します。

HLO 1199E The FORCE_COPIES keyword has already been coded for this run.

説明: FORCE_COPIES 制御カードを実行のために複数回コーディングしました。

ユーザーの処置: 構文を確認して、すべての不要な FORCE_COPIES 制御カードを削除してください。FORCE_COPIES 制御カードは実行ごとに 1 つのみ許可されます。

HLO 1200E The subsystem Consistent Load was started with could not be found in JES2.

説明: Consistent Load の開始に使用されたサブシステムを JES2 で検出できませんでした。

ユーザーの処置: 正しいサブシステムを指定したことを確認してください。

HLO 1201E The subsystem Accelerator Loader was started with is not active in JES2.

説明: このメッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader の開始に使用されたサブシステムが JES2 でアクティブになっていないことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1202E There are no active DB2 members on this machine for this data sharing group.

説明: 指定されたデータ共有グループにはアクティブな DB2 メンバーがないため、Accelerator Loader の処理を続行できません。

ユーザーの処置: 有効なデータ共有グループ接続名、または DB2 Analytics Accelerator Loader の処理を実行できる有効なサブシステムを指定してください。

HLO 1203 I DB2 subsystem is not defined to OS/390. Using group attach name instead.

説明: 指定された DB2 サブシステムは、OS/390 で定義されていません。グループ接続名を使用する場合、OS/390 でアクティブになっている DB2 サブシステムに接続できます。

ユーザーの処置: グループ接続名に接続するか、OS/390 でアクティブになっている DB2 サブシステムに接続するために、DB2 Analytics Accelerator Loader のセットアップを編集してください。

HLO 1204 I DB2 subsystem is not active on OS/390. Using group attach name instead.

説明: 指定された DB2 サブシステムは、OS/390 でアクティブになっていません。グループ接続名を使用する場合、OS/390 でアクティブになっている DB2 サブシステムに接続できます。

ユーザーの処置: グループ接続名に接続するか、OS/390 でアクティブになっている DB2 サブシステムに接続するために、DB2 Analytics Accelerator Loader のセットアップを編集してください。

HLO 1205 I The subsystem Accelerator Loader was started with is the group attach name.

説明: このメッセージには、Accelerator Loader プロセスで使用されているサブシステム・グループ接続名が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1206 I The following subsystems are part of the data sharing group.

説明: このメッセージは、メッセージ HLO 1207I と共に、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブが実行されたサブシステムに関する以下の情報を提供します。

- Subsystem — サブシステム。
- Member ID — メンバー ID。
- Defined to OS/390 — このメンバーが OS/390 に定義されているかどうか。
- Active — このメンバーが OS/390 で実行されているこの OS/390 に認識されているかどうか。

注: DB2 Analytics Accelerator Loader は、この OS/390 で実行されていないメンバーの状況を検出できません。DB2 メンバーは、非アクティブであるように見えても、別の OS/390 で実行されている可能性があります。

ります。いずれの場合でも、DB2 Analytics Accelerator Loader は、ログを読み取り、データ共有グループの各メンバーからのすべての必要なファイルを処理します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1207 I Subsystem: subsystem Member ID: memberid Defined to OS/390: system Active: status

説明: このメッセージは、メッセージ HLO 1206I と共に、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブが実行されたサブシステムに関する以下の情報を提供します。

- サブシステム。
- メンバー ID。
- このメンバーが OS/390 に定義されているかどうか。
- このメンバーが OS/390 で実行されているかどうか。

注: DB2 Analytics Accelerator Loader は、この OS/390 で実行されていないメンバーの状況を検出できません。DB2 メンバーは、非アクティブであるように見えても、別の OS/390 で実行されている可能性があります。いずれの場合でも、DB2 Analytics Accelerator Loader は、ログを読み取り、データ共有グループの各メンバーからのすべての必要なファイルを処理します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1208 I ssids

説明: このメッセージには、メッセージ HLO 1206I および HLO 1207I に関連する SSID が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1209A Accelerator Loader is not in an APF authorized concatenation. It needs to be.

説明: 実行するには、DB2 Analytics Accelerator Loader で、ロード・ライブラリー SHLO LOAD および SHLO LOAD が APF 許可されていることが必要です。

ユーザーの処置: *highlevel.SHLO LOAD* および *highlevel.SHLO LOAD* の各ライブラリーをシステムの APF 許可リストに含めてください。

HLO 1210A Accelerator Loader needs to run from a //STEPLIB concatenation.

説明: JCL が //STEPLIB 連結を指定していません。
ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1211A The following data set in the //STEPLIB concatenation is not APF authorized: *data_set*

説明: メッセージに示されているデータ・セットには APF 許可が必要です。
ユーザーの処置: メッセージに示されているデータ・セットを APF 許可してください。

HLO 1212A An internal error occurred while attempting to ascertain APF authorization status.

説明: 内部エラーが発生しました。
ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1300 I The ENQs for the spaces were successful.

説明: このメッセージには、表スペースの ENQ が正常に完了したことが示されます。
ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1301E The ENQ for database *database* PART *part* was not successful.

説明: ENQ が正常に完了しなかったデータベースおよびパーティションを示します。
ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1400 I Incremental image copy *image_copy* could not be allocated.

説明: 割り振ることができなかった増分イメージ・コピーを示します。
ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1402E Could not start log record writer.

説明: ロード読み取りフェーズ・プロセスのコンポーネントを開始しようとして、z/OS 接続エラーが発生しました。
ユーザーの処置: 製品ライブラリーが完了していること

を確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1403 I The desired incremental image copy could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、指定された増分イメージ・コピーをオープンできませんでした。
ユーザーの処置: ファイルが使用中でないことを確認してください。

HLO 1404 I The incremental image copy work file could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、増分イメージ・コピー作業ファイルをオープンできませんでした。
ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1405 I The incremental image copy sort input file could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、増分イメージ・コピー・ソート入力ファイルをオープンできませんでした。
ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1406 I A read request to the current incremental image copy failed.

説明: 現行の増分イメージ・コピーを読み取るための要求は正常終了しませんでした。
ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1407 I Could not allocate the sort input work file for incr. IC processing.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、増分イメージ・コピー処理のためにソート入力作業ファイルを割り振ることができませんでした。
ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルを割り振るための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1408 I Could not allocate the sort output work file for incr. IC processing.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、増分イメージ・コピー処理のためにソート出力作業ファイルを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルを割り振るための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1409 I An invalid return code was detected from the SORT program.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、SORT の試行中に無効な戻りコードを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1410 I Dynamic allocation return code =return code

説明: 動的割り振りにより、メッセージに示されている戻りコードが生成されました。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 1411 I The last reported incremental image copy returned an immediate EOF.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、最後に報告された増分イメージ・コピーで即時のファイルの終わりを検出しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1412 I Image copy name=image_copy RBA=rba.

説明: イメージ・コピーの名前および RBA を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1413 I The accumulation of incremental image copies failed.

説明: 増分イメージ・コピーの集計は正常終了しませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1414 I The DB2 log will be used instead of the unusable incremental image copies.

説明: このメッセージには、増分イメージ・コピーを使用できないために、DB2 ログが DB2 Analytics Accelerator Loader プロセスに使用されることが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1415 I The sort of the incremental image copies was successful.

説明: このメッセージには、増分イメージ・コピーのソートが正常に完了したことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1416E A FTR sort program could not be started.

説明: SORT プログラムを開始できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1417E An invalid return code was detected from the SORT program (FTR).

説明: SORT プログラムがエラーで終了しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1418 I All start points are Sharelevel Reference; checkpoint processing skipped.

説明: この通知メッセージには、すべての開始点が Sharelevel Reference であるためにチェックポイント処理がスキップされたことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1419E A mismatch between passed Zparm information and the JES SSCT was found.

説明: ソース・サブシステムの ZPARM メンバーを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: ログ適用ジョブの ZPARM 情報が正確であることを確認してください。ソース・サブシステムの ZPARM メンバーが含まれる正しいデータ・セットが割り振られていることを確認してください。問題が

HLO 1420E • HLO 1513E

解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1420E An unexpected error occurred while trying to read the ZPARM information.

説明: ZPARM メンバーを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: ログ適用ジョブの ZPARM 情報が正確であることを確認してください。ZPARM メンバーが含まれる正しいデータ・セットが割り振られていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1421E An unexpected error occurred while trying to read the bootstrap data set.

説明: ZPARM メンバーを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: ログ適用ジョブの ZPARM 情報が正確であることを確認してください。ZPARM メンバーが含まれる正しいデータ・セットが割り振られていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1500 I An invalid return code was detected from the SORT program (log).

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が無効な戻りログを検出しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1501E The following log data set is required for processing but got an error: error.

説明: DB2 には処理のためにログ・データ・セットが必要ですが、データ・セットにアクセスしようとしたときに、示されているエラー・コードを受け取りました。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1502E A gap was found in the logs needed for processing. Last usable log was:

説明: 処理に必要なログでギャップが検出されました。ギャップの後のログは使用できませんでした。後続のメッセージ HLO 1503I に、使用可能な最後のログのログ・データ・セット名が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1503 I data_set_name

説明: このメッセージは、HLO 1502I に付随して、最後に使用可能であったログ・データ・セット名を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1504E A desired log range cannot be found in any active/archive log.

説明: いずれのアクティブ・ログまたはアーカイブ・ログでもログ範囲を使用できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1506W db2_ssid The start point for log processing was not within any archive/active log range.

説明: この実行のオブジェクトのログ・レコードは、この db2_ssid で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1510 I Error code #1:'code' #2: 'code'

説明: このメッセージには、ログ・リーダー・プロセスがアクティブ・ログ・ファイルまたはアーカイブ・ログ・ファイルを割り振ることができない場合に発生する内部エラーが示されます。

ユーザーの処置: メッセージにリストされている戻りコードを使用して、問題を診断してください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) の資料を参照してください。

HLO 1512E An unexpected error occurred while trying to read the bootstrap data set.

説明: Accelerator Loader は、ブートストラップ・データ・セットを読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1513E An unexpected error occurred while trying to read the ZPARM information.

説明: ZPARM 情報の読み取りを試行したときに予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1514E An error was detected during end log processing for subsystem *ssid* RC=*rc*.

説明: Accelerator Loader で、示されているサブシステムのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 1515 I Log accumulated processing is beginning on subsystem *ssid*.

説明: メッセージに示されているサブシステムでログ集計処理が開始されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1516 I Above the bar storage exhausted.

説明: システムまたは制御カードの制限のために、2 GB 境界より上のストレージが使い尽くされました。

ユーザーの処置: 最大 2 次割り振りパラメーターによって設定された制限に達しました。

HLO 1518 I Reading *type* log *log*.

説明: 指定されたオブジェクトに関連するログ・レコードの ACTIVE/ARCHIVE ログ *log_dataset_name* が間もなく読み取られます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1519 I Log reader operating in no consistency checking mode.

説明: ミニ・ログの SHARELEVEL CHANGE の操作中に、ログで検出された非コミット処理に対して整合性検査が実行されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1519W Log reader operating in no consistency checking mode.

説明: ミニ・ログが SHARELEVEL CHANGE モードで書き込まれているか、WRITE_TO_VSAM 操作が実行されていて、すべての終点が TO_CURRENT です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1520 I The log reader task *#task_number* finished.

説明: このメッセージには、ログ・リーダーの処理が完了したことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1521 I Issuing HRECALL for log dataset *dsname*

説明: これは、処理に必要なログ・データ・セットがマイグレーションから再呼び出しされたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1600E The file used to hold log records as input to sort could not be allocated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、ソートへの入力としてログ・レコードを保持するために使用されるファイルを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないことを確認してください。

HLO 1601E The file used to hold log records as input to sort could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、ソートへの入力としてログ・レコードを保持するために使用されるファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないことを確認してください。

HLO 1602E The file used to hold log records after they are sorted could not be allocated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、ログ・レコードをソート後に保持するために使用されるファイルを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが現在使用中でないこと、および損傷していないことを確認してください。

HLO 1603E The mini log data set *mini_log_dsn* could not be allocated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、ミニ・ログ・データ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが現在使用中でないこと、および損傷していないことを確認してください。

HLO 1604E The mini log data set *min_log_dsn* could not be opened.

説明: ミニ・ログ・データ・セットをオープンしようとしたときに、問題が発生しました。

ユーザーの処置: ファイルが現在使用中でないこと、および損傷していないことを確認してください。

HLO 1605E Dynamic allocation return code 'rc'.

説明: この診断メッセージには、データ・セット割り振りの失敗が示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 1606 I The DB2 log record sort DD *ddname* was allocated.

説明: このメッセージには、入力 DDNAME が示されます。このメッセージは、DB2 Analytics Accelerator Loader が SORTIN2/SORTOUT2 DDNAMES を動的に割り振る場合に出力されます。ステップ JCL でユーザーによって SORTIN2/SORTOUT2 DDNAMES が指定されている場合、メッセージは表示されず、これらの DD は指定されたとおりに使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1607 I The DB2 log record sort DD *ddname* was allocated.

説明: このメッセージには、出力 DDNAME が示されます。このメッセージは、DB2 Analytics Accelerator Loader が SORTIN2/SORTOUT2 DDNAMES を動的に割り振る場合に出力されます。ステップ JCL でユーザーによって SORTIN2/SORTOUT2 DDNAMES が指定されている場合、メッセージは表示されず、これらの DD は指定されたとおりに使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1608E The mini log data set *dsn* could not be located for append purpose.

説明: ミニ・ログ・データ・セットを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットが使用可能であることを確認してください。

HLO 1609E The mini log data set *dsn* could not be renamed for append purpose.

説明: ミニ・ログ・データ・セットを名前変更できませんでした。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットが使用可能であることを確認してください。

HLO 1610E The sysout dataset for FTR "*name*" could not be allocated.

説明: FTR ランタイムのコンテキストでソートのためにデータ・セットを準備しているときに、SYSOUT=* 動的割り振り要求が失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1800E The most recent full image copy could not be allocated.

説明: このメッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader プロセス中に最新のフルイメージ・コピーを割り振ることができなかったことが示されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1801E The work file for sorting the full image copy file could not be allocated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、フルイメージ・コピー・ファイルを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: フルイメージ・コピー・ファイルが損傷していないことを確認してください。システム管理者と、必要なファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1802E The work file for re-keying the full image copy file could not be allocated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、フルイメージ・コピー・ファイルのキー再設定のために作業ファイルを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: フルイメージ・コピー・ファイルが損傷していないことを確認してください。システム管理者と、必要なファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1803E The most recent full image copy could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、最新のフルイメージ・コピーをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: フルイメージ・コピーが現在使用中でないことを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 1804E The temporary file used to re-key the full IC could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、フルイメージ・コピーのキー再設定に使用される一時ファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1805 I Dynamic allocation return code=rc.

説明: このメッセージには、動的割り振りの戻りコードが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1806 I Image copy name=image_copy_name RBA=rba

説明: イメージ・コピーの名前および RBA を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1807E An invalid return code was detected from the SORT program.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、SORT プログラムからの無効な戻りコードを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1808 I The full image copy image_copy could not be deallocated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、フルイメージ・コピーを割り振り解除することができませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、および損傷していないことを確認してください。システム管理者と、このファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1809E The full image copy file returned an immediate EOF.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、フルイメージ・コピーを割り振り解除することができませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、および損傷していないことを確認してください。システム管理者と、このファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 1810E This error occurred during the re-key process for a full IC.

説明: フルイメージ・コピーのキー再設定プロセス中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1811 I The sort of the REORG inline full image copy file was successful.

説明: このメッセージには、REORG インライン・フルイメージ・コピーが正常に完了したことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1812 I The sort of the re-keyed REORG inline full image copy file was successful.

説明: この通知メッセージには、キーの再設定が行われた REORG インライン・フルイメージ・コピーのソート・プロセスが正常に完了したことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1813 I The sort of the LOAD inline full image copy file was successful.

説明: このメッセージには、LOAD インライン・フルイメージ・コピー・ファイルが正常にソートされたことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1814 I The sort of the re-keyed LOAD inline full image copy file was successful.

説明: このメッセージには、キーの再設定が行われた LOAD インライン・フルイメージ・コピー・ファイルが正常に完了したことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1815E The catalog check on the most recent image copy failed.

説明: 最新のイメージ・コピーのカタログ検査が正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1816E Error processing was aborted by repeated error.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1817E Unexpected EOF was detected while reading full IC page.

説明: フルイメージ・コピー・リーダー・コンポーネントの内部で内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1818E Error to Close full IC.

説明: フルイメージ・コピー・リーダー・コンポーネントの内部で内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1819E An invalid return code from a sequential VSAM read was detected.

説明: フルイメージ・コピー・リーダー・コンポーネントの内部で内部エラーが発生しました。この場合、入力イメージ・コピー開始点として VSAM LDSファイルが使用されました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 1820 I DB2Sort block mode used.

説明: DB2 Sort プログラムが、ブロック・モードが使用されたことを返しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1821 I The sort of the COMPRESSED full image copy file was successful.

説明: 圧縮されたオブジェクト・イメージ・コピーに対して通常の SORT プログラム処理が実行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1822 I The sort of the rekeyed COMPRESSED full image copy file was successful.

説明: 8K/16K/32K ページのサイズの圧縮されたオブジェクト入力コピーの通常のソートが実行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1900 I Log range LRSN X'lrsn' to X'lrsn' is being processed.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader によって処理されているログ範囲を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 1901 I Log range RBA X'rba' to X'rba' is being processed.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader によって処理されているログ範囲を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2000E The output full image copy *image_copy* could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、出力フルイメージ・コピーをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 2001E Dynaloc function error DSN DSN rc=rc reason= reason.

説明: z/OS 動的割り振りの呼び出しが失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2002E Error process IDCAM output. Output follows: *output*

説明: IDCAMS システム・サービス要求により、エラー状態が返されました。IDCAMS 出力およびエラー・メッセージが続いて表示されます。

ユーザーの処置: IDCAMS 出力を確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2003E An internal error occurred in the Accelerator Loader merge section.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2004 I The number of pages in the full image copy is inconsistent with the page size.

説明: 指定されたページ・サイズは、フルイメージ・コピーのページの数と整合していません。

ユーザーの処置: 指定したページ・サイズを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2005E The number of pages in the incr. image copy is inconsistent with the page size.

説明: 指定されたページ・サイズは、増分イメージ・コピーのページの数と整合していません。

ユーザーの処置: 指定したページ数を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2006E An unexpected EOF was encountered on the sorted log records file.

説明: 予期しないファイルの終わりが見つかりました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2007E The selected full IC has a DBID/PSID mismatch to the DB2 catalog.

説明: 選択されたフルイメージ・コピーの DBID/PSID は、DB2 カタログ内のものと一致していません。

ユーザーの処置: 選択したフルイメージ・コピーの DBID/PSID を訂正してください。

HLO 2008 I Number of pages read from the full image copy file(s)=n.

説明: この通知メッセージには、フルイメージ・コピー・ファイルから読み取られたページの数が表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2009 I Number of pages read from the incremental image copy file(s)=n.

説明: この通知メッセージには、増分イメージ・コピー・データ・セットから読み取られたページの数が表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2010 I Number of records read from the log apply file=n.

説明: この通知メッセージには、ログ適用ファイルから読み取られたページの数が表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2011 I Number of pages written to the new full image copy file(s)=n.

説明: この通知メッセージには、新しいフルイメージ・コピー・データ・セットに書き込まれたページの数が表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2012 I Number of pages written to the table/index space file(s)=n.

説明: 表/索引スペース・ファイルに書き込まれたページ数を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2013 I Since no changes were found for this data set, it has been deleted: dsn

説明: このメッセージは、出力イメージ・コピー・データ・セットの動的割り振り中にそのデータ・セットに出力が書き込まれなかった場合に表示されます。このメッセージは、JCL の出力イメージ・コピー・データ・セットに出力が書き込まれない場合に報告される他のメッセージに似ています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2014E Error to start rebuild indexes thread.

説明: 索引の再作成処理を開始しようとして、エラーが返されました。

ユーザーの処置: 完全なインストールについて STEPLIB の内容を確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2015E A open failure occurred on the VSAM I/O module.

説明: VSAM 入出力モジュールでオープン障害が発生しました。

ユーザーの処置: メッセージ HLO 2023E で動的割り振りの戻りコードを確認して、システム・プログラマーに相談してください。受け取った動的割り振りの戻りコードについては、「*MVS Programming Authorized Assembler Service Guide*」(SA22-7608)を参照してください。

HLO 2016E A close failure occurred on the VSAM I/O module.

説明: VSAM 入出力モジュールでクローズ障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2017E A write failure occurred on the VSAM I/O module.

説明: VSAM 入出力モジュールで書き込み障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2018E An open for update failure occurred on the VSAM I/O module.

説明: VSAM 入出力モジュールでオープン障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2019E A random fetch failure occurred on the VSAM I/OI module.

説明: VSAM 入出力モジュールでフェッチ障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2020E A random write failure occurred on the VSAM I/O module.

説明: VSAM 入出力モジュールで書き込み障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2021E A random close failure occurred on the VSAM I/O module.

説明: VSAM 入出力モジュールでクローズ障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2022E The underlying table/index space data set could not be found in MVS.

説明: 表/索引スペースを MVS で見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2023E Dynamic allocation return code = 'return_code'.

説明: この診断メッセージには、データ・セット割り振りの失敗が示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「*DB2 UDB for z/OS V8* メッセージ」(GC88-4061-00) および「*DB2 UDB for z/OS V8* コード」(GC88-4062-00)を参照してください。

HLO 2024 I Object Database=database Space Name=space_name Partition=partition will have an image copy written anyway due to control card FORCE_COPIES.

説明: FORCE_COPIES 制御カードに値 Y が指定されていたため、Accelerator Loader は、メッセージに示されているオブジェクトのイメージ・コピーを書き込み、WRITE_TO_VSAM 制御カードをオーバーライドします。

ユーザーの処置: アクションは不要です。生成されたイメージ・コピーが不要である場合は、FORCE_COPIES N を指定してください。

HLO 2026E A CELL64 free request failed.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2027E Rebuild indexes thread returned error.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2028E Log apply process cancelled by request from task manager.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2029 I Space database.spacename Part # number will be written to DSN.

説明: SWITCH_VCAT キーワードが有効であり、WRITE_TO_VSAM の結果を配置するために、データ・セット名 *dsn* が生成されました。

ユーザーの処置: なし。

HLO 2030E Data set organization is not VSAM DSN DSN.

説明: REUSE オプションを指定した、示されているデータ・セットに対する WRITE_TO_VSAM 操作は、データ・セットが VSAM でないために完了できませんでした。

ユーザーの処置: 関連するデータ・セットを確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2031E The LP image copy spanned tape could not be freed for a device switch.

説明: テープを装置の切り替えのために解放できなかったため、スパン・テープへのイメージ・コピー・データ・セットの動的割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: スパン・テープを割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2032E The initial LP image copy could not be allocated on the tape device.

説明: テープ装置へのイメージ・コピー・データ・セットの割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: テープ装置を割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2033E The LP image copy data set to be created on tape could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2034E The LP image copy could not be allocated to the DASD device.

説明: DASD 装置へのデータ・セットの動的割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: 装置名が正しく、割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2035E The LP image copy data set to be created on DASD could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2036E The spanned LP image copy on tape could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2037E The LB image copy spanned tape could not be freed for a device switch.

説明: テープを装置の切り替えのために解放できなかったため、スパン・テープへのイメージ・コピー・データ・セットの動的割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: スパン・テープを割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2038E The initial LB image copy could not be allocated onto the tape device.

説明: テープ装置へのイメージ・コピー・データ・セットの割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: テープ装置を割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2039E The LB image copy data set to be created on tape could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2040E The LB image copy could not be allocated to the DASD device.

説明: DASD 装置へのデータ・セットの動的割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: 装置名が正しく、割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2041E The LB image copy data set to be created on DASD could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2042E The spanned LB image copy on tape could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2043E The RP image copy spanned tape could not be freed for a device switch.

説明: テープを装置の切り替えのために解放できなかったため、スパン・テープへのイメージ・コピー・データ・セットの動的割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: スパン・テープを割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2044E The initial RP image copy could not be allocated onto the tape device.

説明: テープ装置へのイメージ・コピー・データ・セットの割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: テープ装置を割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2045E The RP image copy data set to be created on tape could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2046E The RP image copy could not be allocated to the DASD device.

説明: DASD 装置へのデータ・セットの動的割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: 装置名が正しく、割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2047E The RP image copy data set to be created on DASD could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2048E The spanned RP image copy on tape could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2049E The RB image copy spanned tape could not be freed for a device switch.

説明: テープを装置の切り替えのために解放できなかったため、スパン・テープへのイメージ・コピー・データ・セットの動的割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: スパン・テープを割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2050E The initial RB image copy could not be allocated onto the tape device.

説明: テープ装置へのイメージ・コピー・データ・セットの割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: テープ装置を割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2051E The RB image copy data set to be created on tape could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2052E The RB image copy could not be allocated to the DASD device.

説明: DASD 装置へのデータ・セットの動的割り振りは失敗しました。

ユーザーの処置: 装置名が正しく、割り振りに使用できることを確認してください。

HLO 2053E The RB image copy data set to be created on DASD could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セ

ットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2054E The spanned RB image copy on tape could not be opened.

説明: 作成される予定のイメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で指定したイメージ・コピー・データ・セットが使用可能であることを確認して、DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2055 I A volume written to and left on the system could not be found.

説明: Accelerator Loader がテープ・データ・セットへの書き込みを終了するときに、テープ・カートリッジの巻き戻しと排出は行われません。後で別のデータ・セットを書き込む必要が生じる場合に備えて、テープ・ドライブ上に残されます。データ・セットは書き込まれた後にクローズされ、コードは戻って内部 MVS 制御ブロックを読み取り、そのデータ・セットに関する詳細を取得します。この後続のコードが、書き込まれてクローズされたばかりのデータ・セットを検出できない場合、エラーが発生します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2057E The following mini log data set could not be deallocated from OS/390:

説明: ミニ・ログ・データ・セットを OS/390 から割り振り解除できず、そのために DB2 Analytics Accelerator Loader の処理に使用できませんでした。このメッセージの後に HLO 2060I が続き、割り振り解除できなかったミニ・ログ・データ・セットの名前が示されます。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットが使用可能であることを確認してください。

HLO 2058E The following mini log data set could not be opened:

説明: ミニ・ログ・データ・セットをオープンできず、そのために HLO の処理に使用できませんでした。このメッセージの後に HLO 2060I が続き、オープンできな

HLO 2059E • HLO 2070E

かったミニ・ログ・データ・セットの名前が示されま
す。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットが使用可
能であることを確認してください。

HLO 2059E The following mini log data set could not be allocated:

説明: ミニ・ログ・データ・セットを割り振ることがで
きず、そのために DB2 Analytics Accelerator Loader
の処理に使用できませんでした。このメッセージの後に
HLO 2060I が続き、割り振ることができなかったミ
ニ・ログ・データ・セットの名前が示されます。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットが使用可
能であることを確認してください。

HLO 2060E *dsname*

説明: このメッセージには、他のメッセージに関連する
データ・セット名が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2061 I The mini log file *filename* has been processed.

説明: メッセージに示されているミニ・ログが処理され
ました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2062 I HLO will attempt to use the MINI_LOG_DSN_2 data set instead.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、
MINI_LOG_DSN_1 データ・セットを使用できなかった
ため、MINI_LOG_DSN_2 データ・セットの使用を試行
します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2063E A corrupted row was found in the mini log control table.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、行の破
損が原因でミニ・ログ制御テーブルを使用できません
でした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2064E Both mini log data sets for this space could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、スパー
スの両方のミニ・ログ・データ・セットをオープンしよ

うとしましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットが使用可
能であることを確認してください。

HLO 2066E An unexpected EOF was encountered on a merged mini log records file.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、マージ
されたミニ・ログ・レコード・ファイルで予期しない
EOF を検出しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2067E XLAT_DSN <DSN> will be used for <XLAT_TARGET>

説明: XLAT_DSN <DSN> が検出されず、
XLAT_VSAM または XLAT_COPY が指定されていま
せん。XLAT_TARGET は、DSN の形式によって決定
されます。そのため、DSN が DB2 スペース名の形式
に準拠している場合は、新しい VSAM データ・セット
が割り振られ、そうでない場合は、新しい順次データ・
セットが割り振られます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2068E The XML sequence number update process failed.

説明: OBIDXLAT 処理中に内部 XML シーケンス番号
の調整を完了できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡
してください。

HLO 2069 I The space space resulted in the error condition.

説明: その他多くのエラー・メッセージの後に続く汎用
メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2070E The alternative SSID XML sequence column update program failed.

説明: OBIDXLAT 処理中に内部 XML シーケンス番号
の調整を完了できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡
してください。

HLO 2071E An XML update job is needed, but the XML output DSN is missing.

説明: XML 出力の DSN が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: XML 出力の DSN を指定してください。

HLO 2072E An XML update job is needed, but the XML output prefix is missing.

説明: XML 出力の接頭部が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: XML 出力の接頭部を指定してください。

HLO 2073E An XML update job is needed, but the XML template DSN is missing.

説明: XML テンプレートの DSN が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: XML テンプレートの DSN を指定してください。

HLO 2074E The XML template data set could not be allocated.

説明: 必要な DSN を割り振ることができません。

ユーザーの処置: DSN が存在していてアクセス可能であることを確認してください。

HLO 2075E Control file loadlib information could not be obtained for ssid

説明: この DB2 SSID を持つ制御ファイルは最新状態ではありません。

ユーザーの処置: セットアップ・オプション 0 で更新してください。

HLO 2076E The XML template data set could not be opened.

説明: データ・セットは割り振られましたが、オープンできませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2077E The XML job output data set/member could not be allocated.

説明: 指定されたデータ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: 割り振るための権限があることを確認してください。

HLO 2078E The XML job output data set/member could not be opened.

説明: データ・セットは割り振られましたが、オープンできませんでした。

ユーザーの処置: 適切なアクセス権限があることを確認してください。

HLO 2079E The XML template does not conform to the automatically generated guidelines.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader によって生成された XML テンプレートは、予期される設計に準拠しない状態にまで変更されました。

ユーザーの処置: XML テンプレートを再生成してください。

HLO 2080E The target SSID for XML translation is missing in the control cards.

説明: 欠落しているパラメーターがあります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2081 I The SPACE(...) set involved that the error was detected in was spacesetnumber

説明: その他多くのメッセージの後に続く汎用メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2082E The XML target SSID/DBname/TSname control cards are missing.

説明: Space(...) セットで制御カードが欠落しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2083E The XML target SSID/DBname/TSname control cards are invalid.

説明: 制御カードに構文エラーがあります。

ユーザーの処置: 構文を訂正します。

HLO 2084 I XML update job created for SSID='ssid'.

説明: ジョブが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2085E No references to subsystem could not be found in the JES SSCT.

説明: 指定された DB2 SSID は、z/OS に定義されていません。

ユーザーの処置: 名前が正しいことを確認するか、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2086E The sorted log file could not be allocated.

説明: 割り振りエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 適切な権限が設定されていることを確認してください。

HLO 2087E The sorted log file could not be opened.

説明: 割り振り後にオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 適切な権限があることを確認するか、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2088E A log record page number exceeded the extent size boundary.

説明: DB2 内部エラーが発生しました。ログ・レコードにエンコードされたページ番号が、DB2 エクステンツで許可されるページの数を超えた番号を指しています。

ユーザーの処置: ダンプおよび表スペース/表作成の詳細を IBM ソフトウェア・サポートに送信してください。

HLO 2089E The XML template member does not exist in the PDS.

説明: 指定されたテンプレート名が存在しません。

ユーザーの処置: 関連する PDS メンバー名およびデータ・セット名を確認してください。

HLO 2090E The incoming FTRB LCB is corrupt.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2091E The mini log data set *minilog_dsname* could not be allocated.

説明: ミニ・ログ・データ・セットを割り振ることができず、そのために DB2 Analytics Accelerator Loader の処理に使用できませんでした。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットが使用可能であることを確認してください。

HLO 2092E The mini log data set *minilog_dsname* could not be opened.

説明: ミニ・ログ・データ・セットをオープンできず、そのために DB2 Analytics Accelerator Loader の処理に使用できませんでした。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットが使用可能であることを確認してください。

HLO 2095 I The sort of the applicable log records was successful.

説明: このメッセージには、該当するログ・レコードのソートがエラーなしに完了したことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2097E The allocate cellpool request for accelerator buffers failed.

説明: メモリ不足エラーまたは内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ジョブ・ステップで `region=0M` を確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2098E An invalid return code was detected from the SORT program.

説明: この SORT の試行により、エラーが返されました。

ユーザーの処置: SORT プログラムのエラー・メッセージを確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2099E Invalid image copy DSN:*image_copy_dsname*

説明: このメッセージには、イメージ・コピーを処理しようとしたときにエラーが発生したことが示されます。

ユーザーの処置: メッセージに示されているイメージ・コピーが使用可能であることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2100 I The following objects will not be added to the SYSCOPY DB2 table because a UNIFIED check failed, updates could not be found either in incremental image copies or the log(s), OBID translation took place on the image copy, or an error triggering a skip condition to be placed on the object:

説明: メッセージにリストされているオブジェクトは、SYSCOPY DB2 表に追加されません。UNIFIED 検査が失敗したか、更新が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2101 I The following data set information was added to the SYSCOPY DB2 table:

説明: このメッセージには、SYSCOPY DB2 表に追加されたデータ・セット情報が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2102 I The following data set information would have been added to the SYSCOPY DB2 table but was not because of control card NO_SYSCOPY_ROW:

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader JCL で NO_SYSCOPY_ROW が指定されたため、SYSCOPY DB2 表に追加されるはずであったデータ・セット情報は追加されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2103 I Object: *object* Database *database* Table Space *table_space* Partition *partition* ICBBackup

説明: このメッセージは、メッセージ HLO 2100、HLO 2101、または HLO 2102I と共に、関連メ

ッセージで説明されている状態の影響を受けたデータベースを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2104 I DSN: ICBBackup ()

説明: これは、メッセージ HLO 2103I の続きです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2105 I Since no changes were found for this data set, it has been deleted.

説明: 出力イメージ・コピー・データ・セット (CPLP0001 など) が通常の後処理としてカタログ (disp=(new,catlg,delete)) に設定されていますが、処理中に、新規データ・セットを出力する理由がありませんでした (ログ・レコードがなく、増分がありませんでした)。ファイルに書き込まれたレコードはないため、データ・セットの通常の後処理は「delete」にオーバーライドされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2106 I The following partial recovery information was added to the SYSCOPY DB2 table:

説明: このメッセージは、SYSCOPY DB2 表に追加された部分リカバリー情報の出力の前に示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2107 I Even though NO_SYSCOPY_ROW was specified for this run, the following partial recovery information was added to the SYSCOPY DB2 table:

説明: このメッセージは、SYSCOPY DB2 表に追加された部分リカバリー情報の出力の前に示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2108 I Object: *object* Database: *database* Table Space: *table_space* Partition: *partition* PIT LRSN/RBA X'' Starting LRSN/RBA X''

説明: このメッセージには、オブジェクト、データベース、表スペース、パーティション、PIT、LRSN/RBA、および開始 LRSN/RBA の情報が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2109E The following tape data set could not be cataloged: *dsn*

説明: 通常、JCL の終了ステップの後処理では、必要な場合はデータ・セットをカタログします。このメッセージは、DB2 Analytics Accelerator Loader がテープ・データ・セットに対してカタログを試行して、制御カードおよび動的割り振り処理のために失敗した場合に表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2110 I The following tape data set was cataloged: Unit (X'*device_code*') DSN: *dsn* Sequence: *label#*

説明: テープ・データ・セットに対するカタログの試行が正常終了した場合に、このメッセージが表示されます。*unit* は、データ・セットが作成された実際の 8 文字の装置です。*device_code* は、内部 MVS 装置指定を表す 4 バイトの 16 進数です。*dsn* は、カタログされたデータ・セット名です。*label#* は、スタック・テープ上のデータ・セットのファイル・シーケンス番号です。VOLSER は、テープ管理機能によってジョブ出力の他の場所で報告されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2200 I The following data set information was added to the HLO mini log table:

説明: この通知メッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader ミニ・ログ表に追加されたデータ・セット情報が示されます。このメッセージは、HLO 2201I、HLO 2202I、HLO 2203I、および HLO 2204I と一緒に使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2201 I Database *database* Table Space *table_space* Partition *partition*

説明: このメッセージの内容は、メッセージ HLO 2200I と一緒に使用されます。このメッセージに示されているデータベース、表スペース、パーティションは、DB2 Analytics Accelerator Loader ミニ・ログ表に追加されたデータ・セットのものに対応しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2202 I DSN:

説明: このメッセージの内容は、メッセージ HLO 2200I と一緒に使用されます。このメッセージに示されている DSN は、DB2 Analytics Accelerator Loader

ミニ・ログ表に追加されたデータ・セットのものに対応しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2203 I Begin LRSN/RBA: X'' End LRSN/RBA: X''

説明: このメッセージの内容は、メッセージ HLO 2200I と一緒に使用されます。このメッセージに示されている開始 LRSN/RBA は、DB2 Analytics Accelerator Loader ミニ・ログ表に追加されたデータ・セットのものに対応しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2204 I () ()

説明: このメッセージの内容は、メッセージ HLO 2200I と一緒に使用されます。このメッセージに示されている終了 LRSN/RBA は、DB2 Analytics Accelerator Loader ミニ・ログ表に追加されたデータ・セットのものに対応しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2205E The ENQ prior to Insert activity on the Minilog Control Table failed.

説明: ミニ・ログ制御テーブルの排他制御を持つ別の DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブが、ミニ・ログ制御テーブルの更新フェーズで実行されています。システムは、このアクションを直列化できず、異常終了しました。更新は行われていません。

ユーザーの処置: ミニ・ログ作成の他の DB2 Analytics Accelerator Loader ジョブが実行されていないことを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2206 I The following data set information was updated to the HLO mini log table:

説明: このメッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader ミニ・ログ表に追加されたデータ・セット情報が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2300E An internal error occurred unloading a mini log data set.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2301E The following mini log data set could not be deallocated from OS/390:

説明: 示されているミニ・ログ・データ・セットを OS/390 から割り振り解除することができませんでした。

ユーザーの処置: 正しいミニ・ログ・データ・セット名生成ストリングを指定したことを確認してください。

HLO 2302E The following mini log data set could not be opened:

説明: 示されているミニ・ログ・データ・セットをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 2303E The following mini log data set could not be allocated:

説明: 示されているミニ・ログ・データ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが使用中でないこと、およびこのファイルにアクセスするための適切な権限があることを確認してください。

HLO 2304 I dsn

説明: ミニ・ログの DSN を示します。このメッセージは、メッセージ HLO 2303I と一緒に発行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2305 I Dynamic allocation return code = 'return_code'

説明: この診断メッセージには、データ・セット割り振りの失敗が示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 2306E The CELL64 service could not be initialized.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2307E A get cell function call failed.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2310 I The mini log file: *mini_log_file* has been processed.

説明: このメッセージには、処理されたミニ・ログ・ファイルが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2311 I HLO will attempt to use the MINI_LOG_DSN_2 data set instead.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、JCL に指定された MINI_LOG_DSN_1 データ・セットを使用できなかったため、代わりにデータ・セットに指定されている MINI_LOG_DSN_2 データ・セットの使用を試行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2312E A space level mini log DSN has the same name as a group level mini log DSN.

説明: ログ適用制御カード内のスペースの別々のグループに同じミニ・ログ・データ・セットが指定されています。

ユーザーの処置: 制御カード内の命名を調整してください。

HLO 2313E Mini log data set *dsn* could not be appended because a gap is found for the object in the mini log control table.

説明: ミニ・ログ制御テーブルのミニ・ログ・チェーンにオブジェクトのギャップがあります。この理由から、このメッセージに示されているミニ・ログ・データ・セットを追加できませんでした。

ユーザーの処置: この問題を解決するには、ミニ・ログ制御テーブルおよび MVS カタログからミニ・ログの DSN を削除するか、ミニ・ログに新しい DSN を指定してください。

HLO 2400E The accelerator conversion program could not be attached.

説明: 行コンバーター・プログラムの z/OS 接続機能は失敗しました。

ユーザーの処置: STEPLIB でインストールを確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2401E The space *space* PART *part* has an unknown space status.

説明: このメッセージは、示されているスペースが WRITE_TO_VSAM プロセスを続行する前に停止されることを確認するものです。DB2 Analytics Accelerator Loader は、「-display db(dbname) spacename(tsname) part(0)」に似た呼び出しによってスペースを検査し、スペースが「停止」状況であることを確認します。このメッセージは、スペースが RO、STOP、RW、または UT 以外の状況で返される場合に表示されます。

ユーザーの処置: WRITE_TO_VSAM プロセスを続行する前に、示されているスペースを停止してください。

HLO 2402E The stop status check for space *space* PART *part* timed out.

説明: このメッセージは、DB2 Analytics Accelerator Loader が開始しようとするときに、WRITE_TO_VSAM 処理の実行時にスペースが本当に停止されていることを確認する必要がある場合に出力されます。(DB2 Analytics Accelerator Loader より前に) そのために生成される停止ステップは、データ・セットを停止するためのコマンドを DB2 に送信しますが、スペースが実際に停止するまで待機しません。オブジェクトに対する未完了の URID の処理中に停止が行われる場合、URID が終了するまで、スペースは「STOPP」または停止保留に変更されます。DB2 がバッファーをフラッシュするためにも若干時間がかかることがあります。いずれの場合も、DB2 Analytics Accelerator Loader は、実際の処理を実行する前にスペースを検査します。いずれかのスペースが「停止」で返されない場合、数秒待機してから、再び検査します。このような検査を数回実行した後で打ち切り、このメッセージを生成します。

ユーザーの処置: スペースが停止しない理由を診断してください。

HLO 2500E Fetching SYSIBM.SYSLOGRANGE data produced an error

説明: Accelerator Loader で、SYSIBM.SYSLOGRANGE データをフェッチしようとしたときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。レポート・ユーティリティーの出力は、このメッセージの後に出力されます。

HLO 2501E REPORT utility text follows: *text*

説明: このメッセージは、次の行から続く REPORT ユティリティーの出力のヘッダー行です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2502 I Skipping SYSIBM.SYSLGRNX processing.

説明: この通知メッセージには、NO_SYSLGRNX が指定されたために、DB2 Analytics Accelerator Loader が SYSIBM.SYSLGRNX を処理していないことが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2600E The USER_INDICATOR parameter was specified, but no value was found with it.

説明: USER_INDICATOR パラメーターに値が指定されていません。

ユーザーの処置: USER_INDICATOR パラメーターに有効なパラメーターを指定してください。

HLO 2601E The USER_INDICATOR keyword has already been coded.

説明: 複数の USER_INDICATOR キーワードが指定されています。

ユーザーの処置: 余分な USER_INDICATOR キーワードを削除してください。

HLO 2602E The USER_INDICATOR parameter specified is invalid.

説明: USER_INDICATOR パラメーターに指定された値は無効です。

ユーザーの処置: USER_INDICATOR に有効な値を指定してください。

HLO 2603E The INCREMENTAL parameter was specified, but no value was found with it.

説明: JCL に INCREMENTAL パラメーターが含まれていますが、値が指定されていません。

ユーザーの処置: INCREMENTAL パラメーターに有効な値を指定してください。

HLO 2604E The INCREMENTAL keyword has already been coded.

説明: Accelerator Loader 構文で INCREMENTAL キーワードが複数回コーディングされています。

ユーザーの処置: 余分なキーワードを削除して、JCL を再実行依頼してください。

HLO 2605E The INCREMENTAL parameter specified is invalid.

説明: Accelerator Loader ジョブの INCREMENTAL パラメーター指定は無効です。

ユーザーの処置: INCREMENTAL パラメーターに有効な値を指定してください。

HLO 2606E Control file values could not be read. Check for a user indicator mismatch.

説明: 制御ファイルの値を読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー標識の不一致がないか確認してください。

HLO 2607E The DB2 subsystem ID was not found in the control file.

説明: 制御ファイルに DB2 サブシステム ID が指定されていません。

ユーザーの処置: 制御ファイルで DB2 サブシステム ID を指定してください。

HLO 2608E The DB2 subsystem member *member* was not found in the control file.

説明: DB2 サブシステム・メンバーが制御ファイルで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 制御ファイルで正しい DB2 サブシステム・メンバーが指定されていることを確認してください。

HLO 2609 I The LOG_COPY_PREFERENCE parameter was specified, but no value was found with it.

説明: JCL に LOG_COPY_PREFERENCE パラメーターが含まれていますが、値が指定されていません。

ユーザーの処置: LOG_COPY_PREFERENCE パラメーターに有効な値を指定してください。

HLO 2610E The LOG_COPY_PREFERENCE keyword has already been coded.

説明: Accelerator Loader 構文で LOG_COPY_PREFERENCE キーワードが複数回コーディングされています。

ユーザーの処置: 余分なキーワードを削除して、JCL を再実行依頼してください。

HLO 2611E The LOG_COPY_PREFERENCE parameter specified is invalid.

説明: Accelerator Loader ジョブの LOG_COPY_PREFERENCE パラメーター指定は無効です。

ユーザーの処置: LOG_COPY_PREFERENCE パラメーターに有効な値を指定してください。

HLO 2612E The IMAGE_COPY_PREFERENCE parameter was specified, but no value was found with it.

説明: JCL に IMAGE_COPY_PREFERENCE パラメーターが含まれていますが、値が指定されていません。

ユーザーの処置: IMAGE_COPY_PREFERENCE パラメーターに有効な値を指定してください。

HLO 2613E The IMAGE_COPY_PREFERENCE keyword has already been coded.

説明: Accelerator Loader 構文で IMAGE_COPY_PREFERENCE キーワードが複数回コーディングされています。

ユーザーの処置: 余分なキーワードを削除して、JCL を再実行依頼してください。

HLO 2614E The IMAGE_COPY_PREFERENCE parameter specified is invalid.

説明: Accelerator Loader ジョブの IMAGE_COPY_PREFERENCE パラメーター指定は無効です。

ユーザーの処置: IMAGE_COPY_PREFERENCE パラメーターに有効な値を指定してください。

HLO 2615E LOCAL_SITE, RECOVERY_SITE, and IMAGE_COPY_PREFERENCE are mutually exclusive.

説明: Accelerator Loader 構文に、LOCAL_SITE、RECOVERY_SITE、または IMAGE_COPY_PREFERENCE のうち、複数のパラメーターが含まれています。これらのパラメーターは相互に排他的であるため、1 つのみを定義できます。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 構文を訂正します。

HLO 2620E Invalid syntax after the IC_LP control card. Must be IC_LP (...).

説明: IC_LP 制御カードの後の構文にエラーがありません。

ユーザーの処置: IC_LP 制御カードの後の構文が正しいことを確認してください。IC_LP 制御カードに付随するパラメーターを括弧 () で囲む必要があります。

HLO 2621E Invalid syntax after the IC_LB control card. Must be IC_LB (...).

説明: IC_LB 制御カードの後の構文にエラーがありません。

ユーザーの処置: IC_LB 制御カードの後の構文が正しいことを確認してください。IC_LB 制御カードに付随するパラメーターを括弧 () で囲む必要があります。

HLO 2622E Invalid syntax after the IC_RP control card. Must be IC_RP (...).

説明: IC_RP 制御カードの後の構文にエラーがありません。

ユーザーの処置: IC_RP 制御カードの後の構文が正しいことを確認してください。IC_RP 制御カードに付随するパラメーターを括弧 () で囲む必要があります。

HLO 2623E Invalid syntax after the IC_RB control card. Must be IC_RB (...).

説明: IC_RB 制御カードの後の構文にエラーがありません。

ユーザーの処置: IC_RB 制御カードの後の構文が正しいことを確認してください。IC_RB 制御カードに付随するパラメーターを括弧 () で囲む必要があります。

HLO 2624E The IC_DSN keyword has already been coded.

説明: SPACE グループに対して IC_DSN キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2625E Syntax error around IC_DSN value. Form is "dsn".

説明: IC_DSN 値を定義する構文が正しくありません。データ・セット名を引用符で囲む必要があります。

ユーザーの処置: IC_DSN 値の構文を確認して訂正してください。データ・セット名が引用符で囲まれていることを確認してください。

HLO 2626E The IC_DSN parameter was specified, but is either empty or too long.

説明: IC_DSN パラメーターが指定されましたが、指定された値が欠落しているか、長すぎます。

ユーザーの処置: IC_DSN パラメーターに有効な値を指定してください。指定するデータ・セット名が引用符で囲まれていることを確認してください。

HLO 2627E The IC_CATALOG keyword has already been coded.

説明: IC_** グループ (** は LP、LB、RP、または RB) に対して IC_CATALOG キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2628E The IC_DEVICE parameter was specified, but no value was found with it.

説明: IC_DEVICE パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。IC_DEVICE パラメーターには、装置名を (最大 8 文字で) 指定する必要があります。

ユーザーの処置: IC_DEVICE パラメーターに 1 文字から 8 文字の装置名を指定するか、オプションの IC_DEVICE パラメーターを削除してください。

HLO 2629E The IC_DEVICE keyword has already been coded.

説明: IC_** グループ (** は LP、LB、RP、または RB) に対して IC_DEVICE キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2630E The IC_DEVICE parameter specified is invalid.

説明: IC_DEVICE パラメーター構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: IC_DEVICE パラメーターおよび対応する値を適切に定義したことを確認してください。IC_DEVICE 制御カードは、1 文字から 8 文字の装置名値を受け入れます。

HLO 2631E The IC_SPACE parameter was specified, but no value was found with it.

説明: IC_SPACE パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。IC_SPACE パラメーターにはスペース名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: IC_SPACE パラメーターにスペース名を指定するか、オプションの IC_SPACE パラメーターを削除してください。

HLO 2632E The IC_SPACE keyword has already been coded.

説明: IC_** グループ (** は LP、LB、RP、または RB) に対して IC_SPACE キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2633E The IC_SPACE parameter specified is invalid.

説明: IC_SPACE パラメーター構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: IC_SPACE パラメーターおよび対応する値を適切に定義したことを確認してください。

HLO 2634E The IC_MGMT_CLASS parameter was specified, but no value was found with it.

説明: IC_MGMT_CLASS パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。IC_MGMT_CLASS パラメーターには管理クラスを指定する必要があります。

ユーザーの処置: IC_MGMT_CLASS パラメーターに管理クラスを指定するか、オプションの IC_MGMT_CLASS パラメーターを削除してください。

HLO 2635E The IC_MGMT_CLASS keyword has already been coded.

説明: IC_** グループ (** は LP、LB、RP、または RB) に対して IC_MGMT_CLASS キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2636E The IC_MGMT_CLASS parameter specified is invalid.

説明: IC_MGMT_CLASS パラメーター構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: IC_MGMT_CLASS パラメーターおよび対応する値を適切に定義したことを確認してください。

HLO 2637E The IC_DATA_CLASS parameter was specified, but no value was found with it.

説明: IC_DATA_CLASS パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。IC_DATA_CLASS パラメーターにはデータ・クラスを指定する必要があります。

ユーザーの処置: IC_DATA_CLASS パラメーターにデータ・クラスを指定するか、オプションの IC_DATA_CLASS パラメーターを削除してください。

HLO 2638E The IC_DATA_CLASS keyword has already been coded.

説明: IC_** グループ (** は LP、LB、RP、または RB) に対して IC_DATA_CLASS キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2639E The IC_DATA_CLASS parameter specified is invalid.

説明: IC_DATA_CLASS パラメーター構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: IC_DATA_CLASS パラメーターおよび対応する値を適切に定義したことを確認してください。

HLO 2640E The IC_STOR_CLASS parameter was specified, but no value was found with it.

説明: IC_STOR_CLASS パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。IC_STOR_CLASS パラメーターにはストレージ・クラスを指定する必要があります。

ユーザーの処置: IC_STOR_CLASS パラメーターにストレージ・クラスを指定するか、オプションの IC_STOR_CLASS パラメーターを削除してください。

HLO 2641E The IC_STOR_CLASS keyword has already been coded.

説明: IC_** グループ (** は LP、LB、RP、または RB) に対して IC_STOR_CLASS キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2642E The IC_STOR_CLASS parameter specified is invalid.

説明: IC_DATA_CLASS パラメーター構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: IC_STOR_CLASS パラメーターおよび対応する値を適切に定義したことを確認してください。

HLO 2643E The IC_EXP_DATE parameter was specified, but no value was found with it.

説明: IC_EXP_DATE パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。IC_EXP_DATE パラメーターには、有効期限を YYYYDDD 形式で指定する必要があります。

ユーザーの処置: IC_EXP_DATE パラメーターに有効期限を指定するか、オプションの IC_EXP_DATE パラメーターを削除してください。

HLO 2644E The IC_EXP_DATE keyword has already been coded.

説明: IC_** グループ (** は LP、LB、RP、または RB) に対して IC_EXP_DATE キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2645E The IC_EXP_DATE parameter specified is invalid.

説明: IC_EXP_DATE パラメーター構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: IC_EXP_DATE パラメーターおよび対応する値を適切に定義したことを確認してください。

HLO 2646E The IC_RETPD parameter was specified, but no value was found with it.

説明: IC_RETPD パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。IC_RETPD パラメーターには、4 桁の保存期間を指定する必要があります。

ユーザーの処置: IC_RETPD パラメーターに (4 桁の) 保存期間を指定するか、オプションの IC_RETPD パラメーターを削除してください。

HLO 2647E The IC_RETPD keyword has already been coded.

説明: IC_** グループ (** は LP、LB、RP、または RB) に対して IC_RETPD キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2648E The IC_RETPD parameter specified is invalid.

説明: IC_RETPD パラメーター構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: IC_RETPD パラメーターおよび対応する値を適切に定義したことを確認してください。

HLO 2649E DASD and tape allocation parameters cannot be specified together.

説明: DASD と TAPE の両方の割り振りパラメーターを指定しました。

ユーザーの処置: DASD または TAPE のいずれかの割

り振りパラメーターのみを指定して、両方は指定しないでください。

HLO 2650E Five or more errors have been detected in the control cards.

説明: 制御カードで 5 個を超えるエラーが検出され、Accelerator Loader の処理を続行できません。

ユーザーの処置: Accelerator Loader JCL の構文を確認して、必要に応じて再指定し、構文エラーを訂正してください。

HLO 2651E The Restore Before parameter was specified but no value was found with it.

説明: RESTORE_BEFORE パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: RESTORE_BEFORE パラメーターにバイト・ストリングを指定してください。バイト・ストリングを単一引用符で囲んでください。

HLO 2652E Syntax error around Restore Before RBA value. Form is X'<6 byte hex value>'.

説明: RESTORE_BEFORE パラメーター構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: RESTORE_BEFORE パラメーターおよび対応する値を適切に定義したことを確認してください。

HLO 2653E The Restore Before RBA value contains an invalid hexadecimal value.

説明: RESTORE_BEFORE パラメーターに指定された 16 進値が無効です。

ユーザーの処置: RESTORE_BEFORE パラメーターに 6 バイトの 16 進値を適切に定義したことを確認してください。

HLO 2654E The Restore Before RBA value cannot be 0.

説明: RESTORE_BEFORE パラメーターに値 0 が指定されました。これは無効です。

ユーザーの処置: 目的の RBA または LRSN に 6 バイトの 16 進値を指定するか、オプションの RESTORE_BEFORE パラメーターを削除してください。

HLO 2655E The Restore Before RBA/LRSN value was already specified.

説明: RESTORE_BEFORE パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2656E Invalid TO_QUIESCE(#nnn) control card syntax.

説明: TO_QUIESCE 構文にエラーがあります。

ユーザーの処置: TO_QUIESCE(#nnn) パラメーターを適切に定義したことを確認してください。

HLO 2657E The TO_QUIESCE keyword has already been coded for this group.

説明: グループに対して TO_QUIESCE キーワードが複数回コーディングされました。

ユーザーの処置: 余分な TO_QUIESCE キーワードを削除してください。

HLO 2658E The UNIFIED keyword has already been coded for this group.

説明: UNIFIED キーワードは、既にこのグループに対してコーディングされています。

ユーザーの処置: 余分な UNIFIED キーワードを削除してください。

HLO 2659E The UNIFIED keyword has already been coded for this space group.

説明: SPACE グループに対して UNIFIED キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: 余分な UNIFIED キーワードを SPACE グループから削除してください。

HLO 2660E The NO_SYSLGNRX keyword has already been coded for this run.

説明: 実行に対して NO_SYSLGNRX キーワードが複数回コーディングされました。

ユーザーの処置: 余分な NO_SYSLGNRX キーワードを削除してください。

HLO 2661E Mini log particulars cannot be specified at both the GROUP and SPACE levels.

説明: ミニ・ログ制御カードは、GROUP レベルまたは SPACE レベルの両方ではなく、いずれかでの指定が有効です。

ユーザーの処置: GROUP レベルまたは SPACE レベルのいずれかでミニ・ログ・パラメーターを指定して、両方は指定しないでください。

HLO 2662E The NO_MINILOG_CHECKPOINTS keyword is ignored when not writing minilogs.

説明: NO_MINILOG_CHECKPOINTS キーワードが指定されましたが、ミニ・ログを書き込むためのジョブが指定されなかったため、無視されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2663E The USE_ABOVE_THE_BAR parameter was specified, but no value was found with it.

説明: USE_ABOVE_THE_BAR パラメーターが指定されましたが、基本セグメント割り振り、2 次セグメント割り振り、および最大 2 次割り振りの値が含まれていませんでした。

ユーザーの処置: 基本セグメント割り振り、2 次セグメント割り振り、および最大 2 次割り振りの値は、1 桁から 4 桁で、単一引用符で囲み、コンマで区切る必要があります。USE_ABOVE_THE_BAR パラメーターに適切なセグメント割り振りを指定してください。

HLO 2664E The USE_ABOVE_THE_BAR keyword has already been coded.

説明: USE_ABOVE_THE_BAR キーワードは 1 回のみ指定してください。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 構文を確認して、余分な USE_ABOVE_THE_BAR キーワードを削除してください。

HLO 2665E The USE_ABOVE_THE_BAR keyword parameter specified is invalid.

説明: USE_ABOVE_THE_BAR パラメーター構文は無効です。基本セグメント割り振り、2 次セグメント割り振り、および最大 2 次割り振りの値は、1 桁から 4 桁で、単一引用符で囲み、コンマで区切る必要があります。

ユーザーの処置: 構文を確認して訂正してください。

HLO 2666E Use of the USE_ABOVE_THE_BAR keyword requires z/OS V1.5 or above.

説明: ご使用の z/OS のバージョンは 1.5 以上ではありません。USE_ABOVE_THE_BAR キーワードを使用するには、z/OS V1/5 以上が必要です。

ユーザーの処置: USE_ABOVE_THE_BAR キーワードを構文から削除してください。

HLO 2667E The MINILOG_SHARELEVEL was specified, but no value was found with it.

説明: MINILOG_SHARELEVEL パラメーターを指定しましたが、対応する値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: MINILOG_SHARELEVEL キーワードの後に有効な値を入力するか、このキーワードを削除してください。有効な値は REFERENCE および CHANGE です。

HLO 2668E The MINILOG_SHARELEVEL keyword has already been coded.

説明: MINILOG_SHARELEVEL キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: MINILOG_SHARELEVEL キーワードの余分な出現をすべて削除してください。

HLO 2669E The MINILOG_SHARELEVEL parameter specified is invalid.

説明: MINILOG_SHARELEVEL パラメーター指定が無効です。

ユーザーの処置: MINILOG_SHARELEVEL パラメーターは、REFERENCE または CHANGE のいずれかを有効な値として受け入れます。JCL を訂正し、再実行依頼してください。

HLO 2670 I The MINILOG_SHARELEVEL keyword is ignored when not producing mini logs.

説明: JCL に、ミニ・ログの SHARELEVEL のタイプを指定する MINILOG_SHARELEVEL キーワードを含めましたが、ミニ・ログを作成するための実動を指定しませんでした。そのため、MINILOG_SHARELEVEL キーワードは無視されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2671E The REPAIR_RECOVER_PENDING keyword has already been coded.

説明: REPAIR_RECOVER_PENDING キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2672W The REPAIR_RECOVER_PENDING keyword is ignored when only writing to copies.

説明: REPAIR_RECOVER_PENDING キーワードが指定されていますが、コピーに書き込む場合、このパラメーターは無視されます。

ユーザーの処置: コピーに書き込む場合、REPAIR_RECOVER_PENDING は無視されるため、REPAIR_RECOVER_PENDING 制御カードを削除できます。

HLO 2673E The OBIDXLAT keyword group has already been coded.

説明: OBIDXLAT キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2675E Invalid OBIDXLAT(...) keyword syntax.

説明: 指定した OBIDXLAT 構文は無効です。

ユーザーの処置: OBIDXLAT 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2676E The XLAT_IN_DSN keyword has already been coded.

説明: XLAT_IN_DSN キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2677E Invalid XLAT_IN_DSN syntax.

説明: 指定した XLAT_IN_DSN 構文は無効です。

ユーザーの処置: XLAT_IN_DSN 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2678E The XLAT_IN_DSN parameter was specified, but no value was found with it.

説明: XLAT_IN_DSN パラメーターには、dsn 値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: XLAT_IN_DSN パラメーターに dsn を指定してください。dsn 値を単一引用符で囲んでください。

HLO 2679E Invalid OBID syntax.

説明: 指定した OBID 構文は無効です。

ユーザーの処置: OBID 構文が、OBID 「obid,obid」形式になっています。

注: OBID のペアを指定する場合、すべてのペアをスペースで区切り、ソース ID を最初にリストして、ターゲット ID を 2 番目にリストする必要があります。各ペアを新しい行で定義する必要があります。必要に応じて複数の OBID ペアを定義してください。

HLO 2680E The OBID parameter was specified, but no value was found with it.

説明: OBID パラメーターには obid ペアを指定する必要があります。

ユーザーの処置: OBID 構文が、OBID 「obid,obid」形式になっています。

注: OBID のペアを指定する場合、すべてのペアをスペースで区切り、ソース ID を最初にリストして、ターゲット ID を 2 番目にリストする必要があります。各ペアを新しい行で定義する必要があります。必要に応じて複数の OBID ペアを定義してください。

HLO 2681E The OBID parameter was specified, but one of the subparms was out of range.

説明: 指定された OBID サブパラメーターは範囲外でした。

ユーザーの処置: 正しい OBID ペアを指定したことを確認してください。

HLO 2682W DB2 Sort was called for, but was not found in z/OS.

説明: セットアップ画面で設定された制御ファイル・オプションが DB2 Sort を呼び出しています。DB2 Sort をロードしようとして失敗しました。

HLO 2683W • HLO 2701E

ユーザーの処置: DB2 Sort の STEPLIB を確認してください。

HLO 2683W Parallel log apply values greater than 1 ignored in minilog mode.

説明: ミニ・ログ処理が複数のグループで呼び出される場合、最適化プロセスはスキップされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2684W If manual group configurations are used, parallel log apply value is ignored.

説明: 複数の GROUP(...) 制御カード・セットが入力として指定される場合、並列ログ適用値に基づくグループ構造の内部最適化の代わりに、その編成が並列タスク編成に使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2692E The DBID keyword has already been coded.

説明: DBID キーワード・グループは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2693E Invalid DBID syntax.

説明: 指定した DBID 構文は無効です。

ユーザーの処置: DBID 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2694E The DBID parameter was specified, but no value was found with it.

説明: DBID パラメーターには、ソースとターゲットの DBID ペアを指定する必要があります。

ユーザーの処置: DBID 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2695E The DBID parameter was specified, but one of the subparms was out of range.

説明: DBID パラメーターが指定されましたが、定義されたサブパラメーターの 1 つが範囲外でした。

ユーザーの処置: 正しい DBID ペアを指定したことを確認してください。

HLO 2696E The PSID keyword has already been coded.

説明: PSID キーワードは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2697E Invalid PSID syntax.

説明: 指定した PSID 構文は無効です。

ユーザーの処置: PSID 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2698E The PSID parameter was specified, but no value was found with it.

説明: PSID パラメーターには、ソースとターゲットの PSID ペアを指定する必要があります。

ユーザーの処置: PSID 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 2699E The PSID parameter was specified, but one of the subparms was out of range.

説明: PSID サブパラメーターが範囲外でした。

ユーザーの処置: 正しい PSID ペアを指定したことを確認してください。

HLO 2700E A needed incremental image copy could not be allocated.

説明: 必要な増分イメージ・コピーを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: イメージ・コピーが使用可能であることを確認してください。

HLO 2701E A needed incremental image copy could not be opened.

説明: 増分イメージ・コピーをオープンできなかったため、DB2 Analytics Accelerator Loader の処理を続行できませんでした。

ユーザーの処置: すべての必要な増分イメージ・コピーが使用可能であることを確認してください。

HLO 2702E Dynamic allocation return code 'rc'.

説明: 動的割り振りは、メッセージに示されている戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 2703 I Image copy name=*image_copy_name* RBA=*rba*'.

説明: イメージ・コピーの名前および RBA を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2704E The catalog check on the most recent image copy failed.

説明: 最新のイメージ・コピーのカタログ検査が失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2705E An internal error occurred during input incremental tape stacking processing.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2706 I Accelerator Loader will process the following incremental image copy file(s):

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、このメッセージにリストされている増分イメージ・コピーを処理します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2707 I For table space: *table_space* PART *part*

説明: このメッセージには、発行された他の DB2 Analytics Accelerator Loader メッセージに関連する表スペースおよびパーティションが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2801E A log record read service program could not be started.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2802E The writer service returned an error, RC=*rc*.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2803E The reader service returned an error, RC=*rc*.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2804E An unexpected error occurred while trying to read the bootstrap data set.

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2805E An unexpected error occurred while trying to read the ZPARM information.

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2806 I The log apply process will begin at RBA=*rba*'.

説明: ログ適用プロセスが、メッセージに示されている RBA で開始されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2807 I The log apply process will begin at LRSN: X'*lrsn*'

説明: このメッセージには、ログ適用プロセスが開始される LRSN 値が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2812E A mismatch between passed Zparm information and the JES SSCT was found.

説明: これは、DB2 Analytics Accelerator Loader に渡されている Zparm 配列が MVS のデータ構造内部で検出されたサブシステム・リストと矛盾していることを示す内部エラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2813 I The log reader process will launch a total of *nnnn* tasks.

説明: このメッセージには、起動されるタスクの総数が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2814 I The log reader will launch total of 1 task per member.

説明: PARALELL が 0 に設定されているため、ログ・リーダーの処理がメンバー当たり合計 1 個のタスクを起動することを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2815 I The log reader process will start with PARALLEL tasks = *nnnn*

説明: ログ・リーダー・プロセスは、示されている最大タスク数で開始されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2816 I The log reader task #*task_number* finished.

説明: ログ・リーダーの処理が終了したことを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2817E The log reader task init failed. RC=*X*"*return_code*"

説明: ログ適用処理で、ログを読み取るために必要なタスクの初期設定が失敗しました。理由コードがエラー・メッセージに示されます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 2900 I The sorted log record file could not be opened.

説明: ソートされたログ・レコード・ファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2901 I The mini log data set *data_set* could not be allocated.

説明: ミニ・ログ・データ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2902 I The mini log data set *dsn* could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、メッセージに示されているミニ・ログ・データ・セットをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2903 I Dynamic allocation return code=*rc*

説明: 動的割り振りは、メッセージにリストされている戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2904 I An unexpected EOF was encountered on the sorted log record file.

説明: ソートされたログ・レコード・ファイルで予期しない EOF が検出されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2905 I The mini log dataset *dsn* could not be located for resort purpose.

説明: 制御カード内のデータ・セットを MVS カタログで見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: データ・セットが正しいことを確認してください。

HLO 2906 I The mini log dataset *dsn* could not be renamed for resort purpose.

説明: ミニ・ログ・レコードを既存のミニ・ログ・データ・セットに追加しようとしたときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ミニ・ログ・データ・セットに対する適切な権限を確認してください。

HLO 2907 I The resort of the applicable space level minilog was successful.

説明: 再ソートは正常に終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 2908 I An invalid return code was detected from the SORT program (mini log resort).

説明: 内部エラー

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3000E The space database.table_space PART partition has an unknown space status.

説明: メッセージに示されているスペースの状況は不明です。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader がスペースがリカバリー保留であるかどうかを検査したときに、DB2 Analytics Accelerator Loader に認識されていない状況コードが検出されました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3001E The stop status check for space database.table_space PART partition timed out.

説明: メッセージに示されているスペースの停止状況検査は、タイムアウトになりました。

ユーザーの処置: 修復操作が開始された後、DB2 Analytics Accelerator Loader はスペースを検査して、リカバリー保留フラグが DB2 によって解除されるのを待機します。このメッセージが生成されたのは、15 秒間に 5 回検査した後、スペースがまだリカバリー保留状況であったためです。リカバリー保留状況を手動で解除する必要があります。

HLO 3002E An attempt to Repair the Recover Pending status failed.

説明: JCL がリカバリー保留状況を修復しようとしたのですが、修復は失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader がスペースのリカバリー保留状況を修復するために DB2 を呼び出したときに、操作はエラー状態で終了しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3003E An error occurred on an attempt to open the DSNUTILB Steplib.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、DSNUTILB Steplib をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 「Update DB2 Subsystem Parameters」パネルで指定された DB2 loadlib 連結は不完全です。DSNUTILB がこの連結を使用しようとしたときに、必要なロード・モジュールの一部が見つかりませんでした。「Update DB2 Subsystem Parameters」パネルに正しいロード・モジュールを指定したことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3004E The Repair operation's SYSPRINT output dataset could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、修復操作の SYSPRINT 出力データ・セットをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: データ・セットが存在していて使用可能であることを確認してください。

HLO 3005E The Repair operation's SYSIN dataset allocation failed.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、修復操作の SYSIN データ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: リカバリー保留状況を修復するために DB2 を呼び出すには、DB2 コマンド・ストリームを保持するために SYSIN データ・セットを割り振る必要があります。DB2 Analytics Accelerator Loader は、SYSIN データ・セットを割り振ることができませんでした。「User Settings」オプションに指定した設定を確認して、エラーがあれば訂正してください。

HLO 3006E Dynamic allocation return code = return_code

説明: このメッセージは、失敗した動的割り振りの試行に関連する戻りコードを報告します。

ユーザーの処置: データ・セットが存在していて使用可能であることを確認してください。

HLO 3007E The SYSIN DD could not be opened for output during Repair processing.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、修復処理中に SYSIN DD をオープンできませんでした。

HLO 3008E • HLO 3204E

ユーザーの処置: 「User Settings」オプションに指定した設定を確認して、エラーがあれば訂正してください。

HLO 3008E Open error code=*error_code*

説明: このメッセージは、DB2 Analytics Accelerator Loader が SYSIN DD をオープンしようとしたときに検出したオープン・エラー・コードを報告します。

ユーザーの処置: 「User Settings」オプションに指定した設定を確認して、エラーがあれば訂正してください。

HLO 3009E The Repair operation's SYSPRINT dataset allocation failed.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、修復操作の SYSPRINT データ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: リカバリー保留状況を修復するために DB2 を呼び出すには、DB2 コマンド・プロセッサの出力ストリームを保持するために SYSPRINT データ・セットを割り振る必要があります。DB2 Analytics Accelerator Loader は、このデータ・セットを割り振ることができませんでした。「User Settings」オプションに指定した設定を確認して、エラーがあれば訂正してください。

HLO 3100 I Truncation error displaying panel in HLO \$MAIN - *return_code*

説明: 切り捨てエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 3101 I Severe error displaying panel in HLO \$MAIN - *return_code*

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 3102 I Unexpected return code from panel in HLO \$MAIN - *return_code*

説明: 予期しない戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断して

ください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 3200E The XLAT_DSN, DBID, PSID, and at least one OBID must be specified.

説明: OBIDXLAT を実行する場合、Accelerator Loader 構文に XLAT_DSN、DBID、PSID、および少なくとも 1 つの OBID を指定する必要があります。

ユーザーの処置: Accelerator Loader 構文に XLAT_DSN、DBID、PSID、および少なくとも 1 つの OBID を指定してください。

HLO 3201E The CONTINUE_ON_ERROR keyword has already been coded.

説明: CONTINUE_ON_ERROR キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3202E The XLAT_IN_DSN keyword has already been coded.

説明: XLAT_IN_DSN キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3203E Invalid XLAT_IN_DSN syntax.

説明: 指定した XLAT_IN_DSN 構文は無効です。正しい構文は、XLAT_IN_DSN '*dsn*' です。ここで、*dsn* は、SYSCOPY を読み取る代わりに使用されるフルイメージ・コピーの完全修飾 DB2 データ・セット名です。XLAT_IN_DSN を指定する場合、フルイメージ・コピーの XLAT_IN_LOGPOINT も指定する必要があります。

ユーザーの処置: XLAT_IN_DSN 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3204E The XLAT_IN_DSN parameter was specified, but no value was found with it.

説明: 正しい構文は、XLAT_IN_DSN '*dsn*' です。ここで、*dsn* は、SYSCOPY を読み取る代わりに使用されるフルイメージ・コピーの完全修飾 DB2 データ・セット名です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3205E OBIDXLAT input override parameters found without output parameters.

説明: OBIDXLAT 構文が不完全です。

ユーザーの処置: OBIDXLAT キーワードを使用して、オブジェクト変換情報 (DBID/PSID/OBID) を指定し、WRITE_TO_VSAM を使用して、生成されたログに示されているものとは別の VSAM/表スペースへのイメージ・コピー内の表のリカバリーを有効にしてください。変数 *dataset_name* は、ターゲット表スペースの完全修飾 DB2 データ・セット名 (変換されたイメージ・コピーを格納するデータ・セットの名前) です。有効な値は、最大 44 バイトです。dbid、psid、および obid のペアを指定する場合、ソース/ターゲット ID のペアをこの順序で (最初に DBID、2 番目に PSID、その後に該当するすべての OBID ペア) 指定する必要があります。すべてのペアをスペースで区切り、ソース ID を最初にリストして、ターゲット ID を 2 番目にリストする必要があります。各ペアを新しい行で定義する必要があります。必要に応じて複数の OBID ペアを定義してください。

HLO 3206E The XLAT_IN_LOGPOINT parameter was specified, but no value was found with it.

説明: 正しい構文は、XLAT_IN_LOGPOINT '*logpoint*' です。ここで、*logpoint* は、オーバーライド・フルイメージ・コピー・データ・セットの RBA/LRSN です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3207E Syntax error around XLAT_IN_LOGPOINT value. Form is X"6-byte-hex-value"

説明: 正しい構文は、XLAT_IN_LOGPOINT '*logpoint*' です。ここで、*logpoint* は、オーバーライド・フルイメージ・コピー・データ・セットの RBA/LRSN の 6 バイトの 16 進値です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3208E The XLAT_IN_LOGPOINT value contains an invalid hexadecimal value.

説明: 正しい構文は、XLAT_IN_LOGPOINT '*logpoint*' です。ここで、*logpoint* は、オーバーライド・フルイメ

ージ・コピー・データ・セットの RBA/LRSN の 6 バイトの 16 進値です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3209E The XLAT_IN_LOGPOINT value cannot be 0.

説明: 正しい構文は、XLAT_IN_LOGPOINT '*logpoint*' です。ここで、*logpoint* は、オーバーライド・フルイメージ・コピー・データ・セットの RBA/LRSN の 6 バイトの 16 進値です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3210E The XLAT_IN_LOGPOINT keyword was already specified.

説明: XLAT_IN_LOGPOINT キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3211E The INCR_IN_LOGPOINT parameter was specified, but no value was found with it.

説明: 正しい構文は、INCR_IN_LOGPOINT '*logpoint*' です。ここで、*logpoint* は、増分 DSN の RBA/LRSN の 6 バイトの 16 進値です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3212E The INCR_IN_DSN keyword has already been coded.

説明: INCR_IN_DSN キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3213E Invalid INCR_IN_DSN syntax.

説明: 指定した INCR_IN_DSN 構文は無効です。正しい構文は、INCR_IN_DSN '*dsn*' です。ここで、'*dsn*' は、OBIDXLAT 処理に含まれる増分 DSN です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3214E The INCR_IN_DSN parameter was specified, but no value was found with it.

説明: 指定した INCR_IN_DSN 構文は無効です。正しい構文は、INCR_IN_DSN 'dsn' です。ここで、'dsn' は、OBIDXLAT 処理に含まれる増分 DSN です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3215E The INCR_IN_LOGPOINT keyword was already specified.

説明: INCR_IN_LOGPOINT キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3216E Syntax error around INCR_IN_LOGPOINT value. Form is X"6-byte-hex-value".

説明: 正しい構文は、INCR_IN_LOGPOINT 'logpoint' です。ここで、'logpoint' は、増分 DSN の RBA/LRSN の 6 バイトの 16 進値です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3217E The INCR_IN_LOGPOINT value contains an invalid hexadecimal value.

説明: 正しい構文は、INCR_IN_LOGPOINT 'logpoint' です。ここで、'logpoint' は、増分 DSN の RBA/LRSN の 6 バイトの 16 進値です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3218E The INCR_IN_LOGPOINT value cannot be 0.

説明: 正しい構文は、INCR_IN_LOGPOINT 'logpoint' です。ここで、'logpoint' は、増分 DSN の RBA/LRSN の 6 バイトの 16 進値です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3219E The INCR_IN_DSN and INCR_IN_LOGPOINT must be specified together.

説明: INCR_IN_DSN と INCR_IN_LOGPOINT を一

緒に指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3220E The XLAT_IN_DSN was not found in the MVS catalog.

説明: XLAT_IN_DSN が MVS カタログで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定した XLAT_IN_DSN データ・セットが有効であることを確認してください。

HLO 3221E The INCR_IN_DSN was not found in the MVS catalog.

説明: INCR_IN_DSN が MVS カタログで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定した INCR_IN_DSN データ・セットが有効であることを確認してください。

HLO 3223E Invalid XLAT_INCREMENTAL(...) keyword syntax.

説明: 指定した XLAT_INCREMENTAL 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3224E Using OBIDXLAT incremental image copies requires a starting full image copy.

説明: 指定した OBIDXLAT 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3225E The IC_VOLUME_COUNT parameter was specified, but no value was found with it.

説明: 指定した IC_VOLUME_COUNT 構文は無効です。正しい構文は、IC_VOLUME_COUNT 'n' です。ここで、'n' は、1 から 255 の範囲の整数です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3226E The IC_VOLUME_COUNT keyword has already been coded.

説明: IC_VOLUME_COUNT キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3227E The IC_VOLUME_COUNT parameter specified is invalid.

説明: 指定した IC_VOLUME_COUNT 構文は無効です。正しい構文は、IC_VOLUME_COUNT 'n' です。ここで、'n' は、1 から 255 の範囲の整数です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3228E The IC_LP keyword group has already been coded for this space group.

説明: スペース・グループで IC_LP キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3229E The IC_LB keyword group has already been coded for this space group.

説明: スペース・グループに IC_LB キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3230E The IC_RP keyword group has already been coded for this space group.

説明: スペース・グループに IC_RP キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3231E The IC_RB keyword group has already been coded for this space group.

説明: スペース・グループに IC_RB キーワードを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3232E One or both mini log data sets are found in the MVS catalog, but they are not found in the Accelerator Loader mini log control table.

説明: ミニ・ログ・データ・セットが、MVS カタログ内にありますが、ミニ・ログ制御テーブル内にありません。

ユーザーの処置: 使用できないミニ・ログ・データ・セットを MVS カタログから削除してください。

HLO 3233E Mini log data set *dsn* has mismatched type in the HLO mini log control table.

説明: ミニ・ログを誤ったデータ・タイプに追加しようとしました。

ユーザーの処置: 適切な GROUP レベルまたは SPACE レベルでミニ・ログ DSN を指定してください。

HLO 3234E Only one of two mini log data set names was found in the mini log control table.

説明: 2 個のミニ・ログ・データ・セット名が指定されましたが、ミニ・ログ制御テーブルでペアのうちの 1 個しか見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 正しいミニ・ログ・データ・セット・ペアを指定したことを確認してください。1 個のみの既存のミニ・ログに追加するデータ・セット名を 1 個のみ指定するか、新しい固有のデータ・セット名ペアを指定してください。

HLO 3235E Mini log DSN *dsn* is not appended because corresponding dataset not found in the MVS catalog.

説明: 示されているミニ・ログ・データ・セットを MVS カタログで見つけることができません。

ユーザーの処置: 誤ったデータ・セット名の行を DB2 Analytics Accelerator Loader ミニ・ログ制御テーブルから削除してください。

HLO 3236E Mini log data set *dsn* contains data for the different tablespace and could not be appended.

説明: メッセージ・テキストに示されているデータ・セットには別の表スペースのデータが含まれているため、追加できませんでした。

ユーザーの処置: 正しいミニ・ログ・データ・セット名を指定したことを確認してください。

HLO 3237E The XLAT_TARGET_SSID keyword has already been coded.

説明: XLAT_TARGET_SSID キーワードを複数回指定しました。

HLO 3238E • HLO 3249E

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3238E Invalid XLAT_TARGET_SSID syntax.

説明: XLAT_TARGET_SSID 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3239E The XLAT_TARGET_SSID parameter was specified, but no value was found with it.

説明: XLAT_TARGET_SSID パラメーターに有効な値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3240E The XLAT_TARGET_DBNAME keyword has already been coded.

説明: XLAT_TARGET_DBNAME キーワードは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3241E Invalid XLAT_TARGET_DBNAME syntax.

説明: 指定した XLAT_TARGET_DBNAME 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3242E The XLAT_TARGET_DBNAME parameter was specified, but no value was found with it.

説明: XLAT_TARGET_DBNAME パラメーターに有効な値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3243E The XLAT_TARGET_TSNAME keyword has already been coded.

説明: XLAT_TARGET_TSNAME キーワードは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3244E Invalid XLAT_TARGET_TSNAME syntax.

説明: XLAT_TARGET_TSNAME 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3245E The XLAT_TARGET_TSNAME parameter was specified, but no value was found with it.

説明: XLAT_TARGET_TSNAME パラメーターに有効な値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3246E The XLAT_TARGET_SSID/DBNAME/TSNAME must be specified together.

説明: XLAT_TARGET_SSID、DBNAME、および TSNAME の各パラメーターと一緒に指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3247E The XML_JOBS_DSN keyword has already been coded.

説明: XML_JOBS_DSN キーワードが複数回コーディングされました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3248E Invalid XML_JOBS_DSN syntax.

説明: XML_JOBS_DSN 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3249E The XML_JOBS_DSN parameter was specified, but no value was found with it.

説明: XML_JOBS_DSN パラメーターに有効な値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3250E The XML_JOBS_MEMBER_PFX keyword has already been coded.

説明: XML_JOBS_MEMBER_PFX キーワードは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3251E Invalid XML_JOBS_MEMBER_PFX syntax.

説明: XML_JOBS_MEMBER_PFX 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3252E The XML_JOBS_MEMBER_PFX parameter was specified, but no value was found with it.

説明: XML_JOBS_MEMBER_PFX パラメーターに有効な値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3253E The XML_TEMPLATE_DSN keyword has already been coded.

説明: XML_TEMPLATE_DSN キーワードは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3254E Invalid XML_TEMPLATE_DSN syntax.

説明: XML_TEMPLATE_DSN 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3255E The XML_TEMPLATE_DSN parameter was specified, but no value was found with it.

説明: XML_TEMPLATE_DSN パラメーターに有効な値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3256E The XML_TEMPLATE_MEMBER keyword has already been coded.

説明: XML_TEMPLATE_MEMBER キーワードは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3257E Invalid XML_TEMPLATE_MEMBER syntax.

説明: XML_TEMPLATE_MEMBER 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3258E The XML_TEMPLATE_MEMBER parameter was specified, but no value was found with it.

説明: XML_TEMPLATE_MEMBER パラメーターに有効な値が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3259E The XML_JOBS_* and XML_TEMPLATE_* parameters must be specified together.

説明: XML_JOBS_* パラメーターと XML_TEMPLATE_* パラメーターを一緒に指定する必要があります。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3260W Incremental method SORT is obsolete. MERGE mode used instead.

説明: INCREMENTAL SORT はサポートされなくなりました (無視されます)。代わりに使用される内部メソッドは MERGE です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3261E OBIDXLAT processing is not allowed.

説明: OBIDXLAT は許可されません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3262E At least one SPACE() control card set is required.

説明: 少なくとも 1 つの SPACE() 制御カードが必要ですが、SPACE 制御カード・セットが指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3263E The PARALLEL parameter was specified, but no value was found with it.

説明: 関連する値を指定せずにキーワード PARALLEL がコーディングされました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3264E Invalid PARALLEL value

説明: キーワード PARALLEL の値は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3265E The PARALLEL keyword has already been coded.

説明: PARALLEL キーワードは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3266E The REBUILD_INDEXES keyword was specified for the index space but the parent table space was not included.

説明: 索引スペースに REBUILD_INDEXES パラメーターが指定されましたが、親表スペースが含まれていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3267E Indexes can be rebuilt only when WRITE_TO_VSAM or WRITE_TO_BOTH is specified.

説明: REBUILD_INDEXES パラメーターが指定されましたが、WRITE_TO_VSAM または WRITE_TO_BOTH は指定されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3268E The OBIDXLAT keyword, present for the index space to rebuild, must be in line with the parent table space.

説明: REBUILD_INDEXES パラメーターに索引スペースおよび親表スペースが指定されましたが、それらに対して OBIDXLAT が 1 回のみ指定されています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3269E The REBUILD_INDEXES keyword and the end point specification are mutually exclusive for index spaces.

説明: リカバリー・プロセスに REBUILD_INDEXES パラメーターおよび終点を指定しました。これらは相互に排他的です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3270E One of TO_CURRENT, TO_QUIESCE, END_RBA, END_LRSN, TOLOGPOINT or REBUILD_INDEXES must be specified.

説明: JCL に TO_CURRENT、TO_QUIESCE、END_RBA、END_LRSN、TOLOGPOINT、または REBUILD_INDEXES のいずれかの必須指定のオプションが指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3271E The REBUILD_INDEXES keyword has already been coded.

説明: REBUILD_INDEXES パラメーターを複数回指定しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3272E The NO_REUSE keyword was coded multiple times for the same object.

説明: NO_REUSE キーワードが同じオブジェクトに対して複数回指定されました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3273E The NO_REUSE keyword is not valid in the current job environment.

説明: NO_REUSE キーワードが WRITE_TO_VSAM または WRITE_TO_BOTH 以外のジョブ・タイプに指定されました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3274E The CHECK_AFTER_QUIESCE keyword was coded multiple times for the same object.

説明: CHECK_AFTER_QUIESCE キーワードが同じオブジェクトに対して複数回コーディングされました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3275E The CHECK_AFTER_QUIESCE keyword specified without TO_QUIESCE.

説明: CHECK_AFTER_QUIESCE が指定されましたが、スペースに TO_QUIESCE が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3276E The CHECK_AFTER_QUIESCE keyword conflicts with UNIFIED check specified.

説明: CHECK_AFTER_QUIESCE キーワードは UNIFIED キーワードと矛盾しています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3277E The CHECK_AFTER_QUIESCE keyword conflicts with NO_SYSLGRNX keyword.

説明: CHECK_AFTER_QUIESCE 指定が NO_SYSLGRNX キーワードと一緒に指定されました。これは無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3278E The TO_CONSISTENT_IC has already been coded for this space group.

説明: スペース・グループに対して TO_CONSISTENT_IC が既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3279E Only WRITE_TO_COPIES is supported when TO_CONSISTENT_IC is specified.

説明: TO_CONSISTENT_IC が指定される場合、WRITE_TO_COPIES のみがサポートされます。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3280E Error token: token has an empty value. Space# number

説明: 示されているトークンの値は空です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3281E Error token: token appears more than once. Space# number.

説明: 示されているトークンを現行レベルで複数回指定できませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3282E Error token: token has an invalid value: value. Space# number.

説明: token の無効な value が検出されました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3283E Error token: token1 is unexpected with token: token2. Space# number.

説明: token2 が使用される場合、token1 を使用できません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3284E Error token: *token1* using require token: *token2*.

説明: *token2* を指定せずに *token1* を使用することはできません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3289E The FCCOPYDDN parameter was specified, but no value was found with it.

説明: FCCOPYDDN パラメーターが指定されましたが、値が検出されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3290E The FCCOPYDDN parameter specified is invalid.

説明: 指定された FCCOPYDDN パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3291E The FCCOPYDDN keyword has already been coded for this group.

説明: FCCOPYDDN キーワードはこのグループに対して既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3292E The FCCOPYDDN keyword can be used with NEW_COPY.

説明: FCCOPYDDN キーワードを NEW_COPY と一緒に使用することができます。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3293E The NEW_COPY keyword has already been coded for this group.

説明: NEW_COPY キーワードはこのグループに対して既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3295E The Name parameter was specified, but no value was found with it.

説明: Name パラメーターが指定されましたが、値が検出されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3296E The NAME parameter is invalid.

説明: NAME パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3297E The NAME keyword has already been coded for this space group.

説明: NAME キーワードはこのスペース・グループに対して既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3298E The Creator/Name specified did not match a DBNAME.TSNAME in SYSTABLES.

説明: 指定された作成者/名前が、SYSTABLE の DBNAME.TSNAME と一致していませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3300E Could not obtain SSID, user indicator from input parameters.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、入力パラメーターから SSID およびユーザー標識を取得できませんでした。

ユーザーの処置: 正しい SSID およびユーザー標識値が指定されていることを確認してください。

HLO 3301E Invalid parameter format

説明: 指定されたパラメーター・フォーマットは無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3302E No SYSOUT DD was found.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、SYSOUT DD を検出できませんでした。

ユーザーの処置: SYSOUT DD が使用可能であることを確認してください。

HLO 3303E Could not open SYSOUT DD.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、SYSOUT DD をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: SYSOUT DD が使用可能であることを確認してください。

HLO 3304E Invalid SYSOUT DD LRECL value.

説明: SYSOUT DD LRECL が無効です。

ユーザーの処置: 有効な SYSOUT DD LRECL 値を指定してください。

HLO 3305E No SYSIN DD was found.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、SYSIN DD を見つけられませんでした。

ユーザーの処置: SYSIN DD が使用可能であることを確認してください。

HLO 3306E Could not open SYSIN DD.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、SYSIN DD をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: SYSIN DD が使用可能であることを確認してください。

**HLO 3307E Control file values could not be read.
Check for a user indicator mismatch.**

説明: 制御ファイルの値を読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー標識の不一致がないか確認してください。

HLO 3308E Error in SYSIN line format.

説明: SYSIN 行書式にエラーがありました。

ユーザーの処置: SYSIN 行書式を訂正してください。

HLO 3400E The HLO #DATA instream DD could not be opened.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader によって生成されたジョブで DD が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: この LPAR で実行するために DB2 Analytics Accelerator Loader によって生成されたジョブが変更されていないこと、および生成されたジョブに HLO #DATA DD が存在していることを確認してください。

**HLO 3401E The following XML
SSID/DBname/TSname control card is
invalid:**

説明: 制御カードが、予期される構文に準拠していません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3402 I *message_text*

説明: このメッセージは、HLO 3401E と一緒に生成されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 3403E An internal error occurred in program
HLO #XMLD**

説明: 内部エラー

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO 3405E Could not obtain SSID and User
Indicator from input parameters.**

説明: ログ適用ジョブで、XML データが入っているスペースの処理時に、指定されたサブシステムに接続しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ジョブに指定されているサブシステム SSID が正確であることを確認してください。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3406E Could not open the SYSOUT DD.

説明: ログ適用ジョブは SYSOUT DD をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: ジョブに SYSOUT DD が指定されていることを確認してください。JCL を訂正し、ジョブを

HLO 3407E • HLO 3606E

再実行依頼してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3407E Invalid SYSOUT DD LRECL.

説明: SYSOUT DD で指定された LRECL が正しくありません。

ユーザーの処置: SYSOUT DD で指定された LRECL が正確であることを確認してください。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3450 I Object *object* required no action.

説明: オブジェクトを使用可能にするために、オブジェクトにアクションが不要であることが判別されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3451 I Object *object* had its sequence nbr increased by *rowcount*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、XML オブジェクトを使用可能にするためにカタログを更新しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3452 I With a source count=*count*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、XML オブジェクトを使用可能にするためにカタログを更新しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3500E The XML target SSID/DBname/TSname control cards are invalid.

説明: ログ適用制御カードのサブシステム、データベース名、または表スペース名が無効です。

ユーザーの処置: サブシステム、データベース名、または表スペース名を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3501 I The SPACE(...) set involved that the error was detected in was *spacesetnumber*

説明: エラーに関連する SPACE セットを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3600E A log apply task could not be started.

説明: ログ適用タスクを開始できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3601E Log apply task returned an error, RC=*return_code*.

説明: ログ適用コンポーネントを正常に終了できませんでした。異常条件が検出されました。

ユーザーの処置: ジョブ出力で、出力に示されているエラーをさらに詳しく説明している他のエラー・メッセージがないか確認してください。メッセージに示されている戻りコードを書き留めて、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3602E The CELL64 service could not be initialized.

説明: CELL64 サービスを初期設定できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3603E A get cell function call failed.

説明: セル取得機能の呼び出しが失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3604E The SPACE(...) set involved that the error was detected in was # XXXXX

説明: このメッセージには、エラーが検出された SPACE(...) セットが示されます。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3605E The end point for *database.table_space* did not match the UNIFIED value.

説明: メッセージに示されている表スペースの終点が、UNIFIED 値に指定された値と一致しませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3606E Consistency value = X'*consistency_token*'

説明: UNIFIED 制御カードまたは UNIFIED_WARNING 制御カードで問題が発生しました。メッセージには、グループ内の最初のオブジェクトから取られた整合性値が示されます。

ユーザーの処置: 診断の目的で HLO 3606E および HLO 3607E に示される値を比較できます。HLO 3606E に示される値はグループ内の最初のオブジェクトの値で、HLO 3607E に示される値は、その値と一致しないオブジェクトの値です。例えば、グループに 10 個のオブジェクトがあり、3 個が最初のものとは一致しない場合、HLO 3606E メッセージが表示され、3 つの (各グループの) HLO 3607E メッセージが表示されます。

**HLO 3607E Object's derived value =
X'consistency_token'**

説明: UNIFIED 制御カードまたは UNIFIED_WARNING 制御カードで問題が発生しました。メッセージには、グループ内の最初のオブジェクトの派生値が示されます。このメッセージには、(HLO 3606E に示される) グループ内の最初のオブジェクトと一致しないオブジェクトが示されます。

ユーザーの処置: 診断の目的で HLO 3606E および HLO 3607E に示される値を比較できます。HLO 3606E に示される値はグループ内の最初のオブジェクトの値で、HLO 3607E に示される値は、その値と一致しないオブジェクトの値です。例えば、グループに 10 個のオブジェクトがあり、3 個が最初のものとは一致しない場合、HLO 3606E メッセージが表示され、3 つの (各グループの) HLO 3607E メッセージが表示されます。

HLO 3608E The initialization phase of DB2 Sort failed.

説明: DB2 Sort の初期設定フェーズが失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3609E The resource optimization phase [1|2] of DB2 sort failed. RC='return_code'

説明: DB2 Sort は、最適化に必要な初期設定ステップで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3610E The terminate phase of DB2 Sort failed.

説明: DB2 Sort の終了フェーズが失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3611E There is not enough storage to perform the desired number of parallel sorts.

説明: 指定された数の並列ソートを実行するのに十分な仮想ストレージ・スペースがありません。

ユーザーの処置: 指定した並列タスクの数を減らすか、ジョブに使用できる指定の仮想メモリーの量を増やし、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3612E Insufficient total storage to perform the desired number of parallel sorts.

説明: ソートに使用できるストレージの量が不十分でした。

ユーザーの処置: 領域サイズを増やすか、並列タスクの数を減らし、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3613E The log apply tasks ended abnormally. Check messages.

説明: 1 つ以上のログ適用タスクの処理が失敗しました。

ユーザーの処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

HLO 3614E Rebuild indexes task manager could not be started.

説明: 索引再作成タスク・マネージャーを開始できませんでした。

ユーザーの処置: 付随するエラー・メッセージを確認してください。

HLO 3615 I Log apply task manager returned an error, RC=return_code.

説明: 並列ログ適用処理中に、示されているエラーが発生しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3619E The pipe mechanism initialization function returned an error.

説明: パイプの初期設定時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 関連エラーについてログを調べてください。

HLO 3620E The pipe mechanism cleanup function returned an error.

説明: パイプのクリーンアップ時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 関連エラーについてログを調べてください。

HLO 3621E The common storage name/token pair could not be found.

説明: プログラム始動時に作成された共通ストレージを見つけることができませんでした。これは、初期設定時にエラーが発生した可能性があることを示しています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3622E An error occurred while calling IEANTRT to get the name/token pair.

説明: IEANTRT を介して共通ストレージにアクセスしているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3623E A table was specified that was already being loaded.

説明: ジョブに含まれていた表は、既に別のジョブによってロードされています。

ユーザーの処置: 最初のジョブが完了するまで待ってから、2 番目のジョブを再実行してください。

HLO 3624E A table did not have a matching entry in common storage.

説明: 必要な表情報が共通ストレージで見つかりませんでした。初期設定時に問題が発生したか、共通ストレージがクリアされた可能性があります。

ユーザーの処置: 共通ストレージがクリアされていないことを確認してください。必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3625E An error occurred attempting to open a pipe.

説明: 製品がパイプをオープンしているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 関連エラーについてログを調べてください。また、開始タスクでエラー・メッセージがないか確認してください。

HLO 3626E An error occurred attempting an open on a pipe.

説明: 製品がデータをアクセラレーターに書き込むためにパイプをオープンしようとしたときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 開始タスクがまだ実行中であることを確認して、関連エラー・メッセージがないか調べてください。必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3627E An error occurred attempting to create a name/token pair.

説明: 製品が IEANTCR を介して共通ストレージのアドレスを保管しようとしたときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3628E An error occurred attempting to call the system post function.

説明: 製品が開始タスクに通知しているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 開始タスクを調べて、エラー・メッセージがないか確認してください。必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3629E An error occurred while attempting to attach ACCEL_LOAD_TABLES.

説明: 製品が新しいタスクを接続しているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3630E The ACCEL_LOAD_TABLES stored procedure ended prematurely.

説明: 製品がすべてのデータ・パイプをオープンする前に、ACCEL_LOAD_TABLES ストアド・プロシージャが終了しました。

ユーザーの処置: 関連エラーについてログを調べてください。

HLO 3631E The call to connect to DB2 returned an error.

説明: ストアド・プロシージャを呼び出すための DB2 への接続が失敗しました。

ユーザーの処置: サブシステムが稼動していることを確認します。

HLO 3632E The call to open the connection to DB2 returned an error.

説明: ストアード・プロシージャを呼び出すための DB2 接続のオープンが失敗しました。

ユーザーの処置: サブシステムが稼動していることを確認します。

HLO 3633E The ACCEL_LOAD_TABLES stored procedure returned an error.

説明: ACCEL_LOAD_TABLES の呼び出し中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ログで ACCEL_LOAD_TABLES エラー・メッセージがないか確認してください。

HLO 3634E The ACCEL_LOAD_TABLES stored procedure returned an SQLCODE other than +466.

説明: ACCEL_LOAD_TABLES ストアード・プロシージャの呼び出しで SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ログで ACCEL_LOAD_TABLES SQL エラー・メッセージがないか確認してください。

HLO 3635E The ACCEL_LOAD_TABLES stored procedure returned an unexpected SQLCODE.

説明: ACCEL_LOAD_TABLES ストアード・プロシージャの呼び出しで SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ログで ACCEL_LOAD_TABLES SQL エラー・メッセージがないか確認してください。

HLO 3636E The ACCEL_LOAD_TABLES stored procedure abended.

説明: ACCEL_LOAD_TABLES ストアード・プロシージャの呼び出しで異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3637E The pipe interface program returned an unknown error.

説明: ACCEL_LOAD_TABLES ストアード・プロシージャの呼び出しで異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3638E *message_text*

説明: このメッセージでは、以下の情報が提供されます。

SVC99 の詳細 = *svcc99_details*

SVC99_CODE_1

SVC99_CODE_2

SVC99_DDNAME *ddname*

SVC99_PIPE

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3639 I DDNAME = *ddname*.

説明: このメッセージには、DD 名が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3640 I This message provides SSID information.

説明: SSID = *ssid*。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3641 I This message provides DB2 connection error information.

説明: SSID = *ssid* プラン名 = *plan_name*。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3642 I This message provides a return code.

説明: 戻りコード = *return_code*。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3643E This message provides the message identifier and the table ID.

説明: 表情報は次のとおりです。

BAD_TABLE_ID = *table_ID*

BAD_TABLE_TEXT = *table_text*

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3644E This message provides table partition information.

説明: パーティション情報は以下のとおりです。

BAD_TABLE_PART_1 = *partition_number*。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3701E Error token: *token* unexpected end of input stream.

説明: *token* の近くで構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 制御カードの構文構造を確認してください。構文エラーを特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3702E Error token: *token*, open or close parenthesis expected.

説明: *token* の近くで構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 制御カードの構文構造を確認してください。構文エラーを特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3703E Error token: *token*, have no value.

説明: *token* の近くで構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 制御カードの構文構造を確認してください。構文エラーを特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3704E Error token: *token*, invalid value.

説明: *token* の近くで構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 制御カードの構文構造を確認してください。構文エラーを特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3705E Error token: *token*, appears more than once.

説明: *token* の近くで構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 制御カードの構文構造を確認してください。構文エラーを特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3706E Error token: *token*, value overflow.

説明: *token* の近くで構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 制御カードの構文構造を確認してください。構文エラーを特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3707E Error token: *token*, require token.

説明: 構文のコンテキストで *token* 制御カードが必要です。

ユーザーの処置: 制御カードの構文構造を確認してください。構文エラーを特定できない場合は、IBM ソフト

ウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3708E Error token: *token*, have no parameters.

説明: *token* の近くで構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 制御カードの構文構造を確認してください。構文エラーを特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3710E The TO_TIMESTAMP parameter was specified, but no value was found with it.

説明: TO_TIMESTAMP パラメーターが指定されましたが、値が検出されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3711E Syntax error around TO_TIMESTAMP value. Form is '*YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.XXXXXX*'

説明: TO_TIMESTAMP の値に構文エラーがあります。有効な形式は、'*YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.XXXXXX*' です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3712E The TO_TIMESTAMP value could not be converted. CONVTO macro return code: *returncode*. Space#*number*

説明: RBA の終点タイム・スタンプの変換処理中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3714E The TO_TIMESTAMP value was already specified before end LRSN in a control group.

説明: 制御グループで終了 LRSN の前に TO_TIMESTAMP 値が既に指定されています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3715E The TO_TIMESTAMP keyword has already been coded for this space group.

説明: TO_TIMESTAMP キーワードはこのスペース・グループに対して既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3716E Double count CREATOR keyword without NAME keyword between.

説明: CREATOR 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3717E Double count NAME keyword without CREATOR keyword between.

説明: NAME 構文および CREATOR 構文が無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3718E The SPACE() node contains tables from inconsistent database/tablespace.

説明: SPACE(...) ノードに、矛盾したデータベースと表スペースの組み合わせからの表が含まれています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3719E Error control card stream has no continuation.

説明: 制御カード・ストリームの終わりが検出されましたが、式が不完全です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3720E Error control card stream have unexpected continuation.

説明: 制御カード・ストリーム・プロセスは完了しましたが、継続が検出されました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3721E Error control card stream ended unexpectedly.

説明: 制御カードのコンテキストは、追加の入力を予期していましたが、代わりにファイルの終わりを検出しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3722E Error control card stream ended while token *token* value expected.

説明: 制御カードのコンテキストは、トークンに関連付けられた値を予期していましたが、代わりにファイルの終わりを検出しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3723E Consistent Load operations require DB2 V10 or later. This DB2=*db2_version*.

説明: 試行された操作には、DB2 バージョン 10 以降が必要です。

ユーザーの処置: ご使用のシステムが最小ソフトウェア要件を満たしていることを確認します。詳細については、製品資料でカスタマイズの準備に関するトピックを参照してください。

HLO 3732E The ACCELNAME keyword has already been coded.

説明: ACCELNAME キーワードは既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3733E The ACCELNAME parameter is invalid.

説明: ACCELNAME パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3734E The ACCELNAME parameter was specified, but no value was found with it.

説明: ACCELNAME パラメーターが指定されましたが、値が検出されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3735E The pipe mechanism initialization function returned an error.

説明: パイプの初期設定時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 関連エラーについてログを調べてください。

HLO 3736E Error in checking the accelerator name.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、DISPLAY ACCELERATOR コマンド出力の現行のアクセラレーター名を検査できませんでした。コマンド出力は、後続のメッセージに示されます。

ユーザーの処置: コマンド出力を確認して、問題を修正してください。

HLO 3737E Error accelerator name invalid state.

説明: DISPLAY ACCELERATOR コマンド出力のアクセラレーター状態が「STARTED」ではありません。

ユーザーの処置: コマンド出力を確認して、問題を修正してください。

HLO 3738E Error exec -DIS ACCEL command rc = RC, rs = SQLSTATE

説明: DB2 DISPLAY ACCELERATOR コマンドの実行中にエラーが発生しました。使用可能なコマンド出力が、このメッセージの後に示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを確認して、問題を修正してください。

HLO 3739E Error call

**sysproc.accel_get_tables_details table
owner.name severity severity, reason
reason.**

説明: ストアード・プロシージャの *owner.name* 表への呼び出しでエラーが発生しました。HLO 3740I、HLO 3741I、HLO 3742I も確認してください。

ユーザーの処置: エラー・コードを調べて、問題を修正してください。

HLO 3740 I Error text: text

説明: このメッセージは、ストアード・プロシージャからのエラー・テキストを示し、メッセージ HLO 3727I の後に表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3741 I Error description: text

説明: このメッセージは、ストアード・プロシージャからのエラーの説明を示し、メッセージ HLO 3727I の後に表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3742 I Error action: text

説明: このメッセージは、ストアード・プロシージャからのエラーのアクションのテキストを示し、メッセージ HLO 3727I の後に表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 3743E Error could not parse XML output.
XML output follows.**

説明: ストアード・プロシージャからの XML 出力の解析時にエラーが発生しました。XML 出力は、このメッセージの後にダンプされます。

ユーザーの処置: 出力を IBM ソフトウェア・サポートに提供してください。

**HLO 3744E Error table owner.table state state type
type.**

説明: アクセラレーターで *owner.table* の無効な状態が検出されました。

ユーザーの処置: 解決するには、表を削除して、アクセラレーターに再び追加してください。

**HLO 3745E Error table owner.table part number state
state type type.**

説明: アクセラレーターで *owner.table* の無効な状態が検出されました。

ユーザーの処置: 解決するには、表を削除して、アクセラレーターに再び追加してください。

**HLO 3746W Warning table owner.table part number
state state type type.**

説明: アクセラレーターで *owner.table* パーティション番号の無効な状態が検出されました。

ユーザーの処置: 必要であれば問題を修正してください。

**HLO 3747S The global Loader intercept is not
active.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、前回の IPL 以降、開始されていません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクを開始してください。z/OS コンソール・コマンド *S prefixstc* または SDSF コマンド */S prefixstc* を発行してください。変数 *prefixstc* は、システム PROCLIB の DB2 Analytics Accelerator Loader PROC のメンバー名を表します。詳しくは、製

品資料の『開始タスクの開始』を参照してください。

HLO 3748S The selected DB2 system is not on the Loader started task intercept list.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの DSNUTILB インターセプト・ポリシーは、DB2 システムを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 次のようにして、DSNUTILB インターセプト・ポリシーの <POLICY> セクションの中で <DB2SYSTEM> エレメントを使用することにより、DSNUTILB インターセプト・ポリシーに DB2 システムを含めてください。

```
<DSNUTILB_INTERCEPT>
<POLICY>
  <DB2SYSTEM SSID="ssid" ACTION="LOAD_ACCELERATOR">
  </DB2SYSTEM>
</POLICY>
</DSNUTILB_INTERCEPT>
```

詳細については、製品資料の参照セクションにある DSNUTILB インターセプトおよび DSNUTILB インターセプトのポリシーに関するトピックを参照してください。

HLO 3749S The selected DB2 system is not configured for intercepts by the Loader.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクが実行されていないため、DB2 Analytics Accelerator Loader は DB2 システムに接続できません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクを開始してください。z/OS コンソール・コマンド *S prefixstc* または SDSF コマンド */S prefixstc* を発行してください。変数 *prefixstc* は、システム PROCLIB の DB2 Analytics Accelerator Loader PROC のメンバー名を表します。詳しくは、製品資料の『開始タスクの開始』を参照してください。

HLO 3750E Error table *table* removed from processing. Multiple tables per table space unsupported.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、表スペースごとの複数の表の処理をサポートしていません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3751E A mismatch between passed Zparm information and the JES SSCT was found.

説明: 渡された Zparm 情報と JES SSCT の間で不一致が検出されました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3752E An unexpected error occurred while trying to read the bootstrap dataset.

説明: ブートストラップ・データ・セットを読み取ろうとして、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3753E Could not determine RBA of TO_TIMESTAMP point.

説明: TO_TIMESTAMP 制御カードが使用されましたが、RBA を判別できません。

ユーザーの処置: 有効な RBA を持つタイム・スタンプを指定してください。

HLO 3754E Could not find log data set to determine RBA of TO_TIMESTAMP point.

説明: TO_TIMESTAMP 制御カードが使用されましたが、指定されたタイム・スタンプをブートストラップ・データ・セット (BSDS) のどのログ・データ・セットとも関連処理できませんでした。タイム・スタンプが有効でなくなっている場合は、使用できません。

ユーザーの処置: BSDS に記録されているログの境界内のタイム・スタンプを指定してください。

HLO 3755 I Issuing HRECALL for log dataset

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、ログ・データ・セットに対して HRECALL を発行していません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3756E A desired log range can not be found in any active/archive log.

説明: 指定されたログ範囲が見つかりません。

ユーザーの処置: 指定したログ範囲を確認して訂正してください。

HLO 3757E The following log dataset is required for processing, but got an error:

説明: 指定された ERROR_ARCHIVE_LOG_DSN によってエラーが生成されました。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージ HLO 3758I を確認してください。

HLO 3758 I ERROR_ARCHIVE_LOG_DSN for GGC3757E message

説明: 指定された ERROR_ARCHIVE_LOG_DSN によってエラーが生成されました。

ユーザーの処置: 有効な ERROR_ARCHIVE_LOG_DSN 値を指定してください。

HLO 3759 I Table *table part part state state type type*.

説明: このメッセージには、他のエラー・メッセージに付随する情報が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3760E The TO_IC keyword has already been coded for this space group.

説明: スペース指定セットに重複したキーワードが含まれています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3761E The TO_IC value has no contents.

説明: 制御カードで構文エラーが見つかりました。データ・セット名は必須です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3762E The TO_IC parameter specified is invalid.

説明: 制御カードで構文エラーが見つかりました。データ・セット名は、単一引用符で囲む必要があります。最大 44 文字を含めることができます。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3763E The selected end point is inconsistent with the run type.

説明: 実行タイプが整合した時刻へのロード (CONSISTENT load) である場合、TO_IC 終点制御カードを使用できません。実行タイプがイメージ・コピー・ロードである場合、TO_IC 終点のみを使用できます。TO_IC などの終点は、IDAA_LOAD_IC オプションでのみ使用できます。TO_CURRENT などの他の終点は、IDAA_CONSISTENT_LOAD オプションでのみ使用できます。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3764E The TO_IC_INLINE control card has already been specified for this object.

説明: オブジェクト指定で重複した制御カードが見つかりました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3765E The DBID, PSID, and at least one OBID must be specified.

説明: ロード操作で変換が呼び出されましたが、機能を実行するための必須フィールドの一部が指定されていませんでした。変換操作を実行するために必要な一部の必須指定のオプションが指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3766E When a segmented object is loaded, OBIDXLAT information must be specified.

説明: 表スペースに現在含まれている表が 1 つのみである場合でも、基礎表スペースがセグメント化されている場合は、プロセスで OBIDXLAT 情報を指定する必要があります。

ユーザーの処置: オブジェクトの DBID/PSID/OBID 番号のペアを指定してください。

HLO 3767E The OBIDXLAT_CATALOG control card has already been specified for this object.

説明: オブジェクト指定で重複した制御カードが見つかりました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3768E Keywords OBIDXLAT and OBIDXLAT_CATALOG can not be specified at the same time.

説明: 指定されたオプションは相互に排他的であり、いずれか 1 つのオプションのみを構文で指定できます。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3769W The DEBUG parameter has already been coded for this space group.

説明: 重複した制御カードが見つかりました。

ユーザーの処置: 構文を訂正します。

HLO 3770E The DEBUG keyword has already been coded for this space group.

説明: DEBUG パラメーターが SPACE(...) グループに対して複数回コーディングされました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3771E The DEBUG value has no contents.

説明: DEBUG パラメーターに値が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3772E The DEBUG parameter specified is invalid.

説明: DEBUG パラメーターに指定した値が無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3773E The ACCEL_ADD_TABLES keyword has already been coded for this run.

説明: ACCEL_ADD_TABLES キーワードはこの実行に対して既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3774E The REMOVE_AND_ADD_TABLES keyword has already been coded for this run.

説明: REMOVE_AND_ADD_TABLES キーワードはこの実行に対して既にコーディングされています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3775E Both the ACCEL_ADD_TABLES and ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES keywords are present.

説明: ACCEL_ADD_TABLES キーワードと ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES キーワードは相互に排他的です。これらのパラメーターのうちの 1 つのみを指定してください。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3801E The conversion program returned an error.

説明: このメッセージは、後続の追加のメッセージのヘッダ行です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3802E The DB2 Analytics Accelerator Loader row conversion program ended unexpectedly.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 行変換プログラムでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: このメッセージには、問題に関する詳細情報を示す関連メッセージが付随します。問題を解決できない場合は、ジョブの戻りコードを書き留めて、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3803E The cellpool services get function returned an error.

説明: メモリー管理操作中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3804E The input image copy can only contain one table.

説明: 指定された入力イメージ・コピーに複数の表が含まれています。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 3805E Error start Image Copy reader.

説明: イメージ・コピー・リーダー・コンポーネントが loadlib 連結で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3901E Error allocate DD rc=returncode rs=reasoncode

説明: フラッシュ・コピー操作の準備中のデータ・セット割り振り処理が失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3902E Error deallocate DD rc=returncode rs=reasoncode

説明: フラッシュ・コピー処理完了後のデータ・セット割り振り解除が失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3903E Error set estae DD rc=returncode rs=reasoncode

説明: z/OS 機能呼び出しでエラー・トラップ・セットアップが失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3904E Error open DD rc=returncode rs=reasoncode

説明: フラッシュ・コピー全体の操作中に作業データ・セットのオープン障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3905E Error close DD rc=returncode rs=reasoncode

説明: フラッシュ・コピー全体の操作中に作業データ・セットのクローズ障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3906E Error ATTACH module rc=returncode

説明: DSNUTILB フラッシュ・コピー機能呼び出しが失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3907E Error open the DSNUTILB STEPLIB

説明: DSNUTILB を STEPLIB 連結で検出できませんでした。

ユーザーの処置: //STEPLIB の妥当性を確認するか、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3908 I flash copy start

説明: 要求されたフラッシュ・コピー操作が開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3909 I flash copy complete rc=returncode

説明: フラッシュ・コピー機能呼び出しからの正常終了の標識です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3910E DSNUTILB error rc=returncode

説明: DSNUTILB フラッシュ・コピー機能呼び出しからのエラー通知です。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 3911 I Start flash copy result output.

説明: フラッシュ・コピー機能呼び出しの結果が後に続きます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 3912 I Flash copy result output complete.

説明: フラッシュ・コピー操作が完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4001E Invalid call parameter count.

説明: プログラム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4002E Invalid call parameter value.

説明: プログラム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4003E Error to load rebuild indexes module.

説明: 環境エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていて、十分なストレージを使用できることを確認してください。

**HLO 4004 I Log apply thread error detected.
Cancelling in process.**

説明: 処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについてジョブ出力を確認してください。

**HLO 4005 I Starting cancel process, reason log
apply thread RC = <reason_code>.**

説明: 処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについてジョブ出力を確認してください。

**HLO 4006 I Starting cancel process, reason log
apply thread RC = <reason_code>.**

説明: 処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについてジョブ出力を確認してください。

**HLO 4007E Program error, rebuild indexes thread
not yet started. Cancelling in process.**

説明: プログラム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO 4008 I Rebuild indexes thread create error RC
= <reason_code>.**

説明: 環境エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについてジョブ出力を確認してください。

**HLO 4009E Rebuild indexes thread failed to start
RC = <reason_code>.**

説明: 環境エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについてジョブ出力を確認してください。

**HLO 4010E Unable to release rebuild indexes
module.**

説明: 環境エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについてジョブ出力を確認してください。

**HLO 4011E Error, could not get temporary file
name.**

説明: 環境エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについてジョブ出力を確認してください。

**HLO 4012E Error, could not create external link to
key sort module.**

説明: 環境エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについてジョブ出力を確認してください。

**HLO 4013E Program error, unexpected state
detected.**

説明: プログラム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO 4100A Parameters with the DB2 SSID and
PLAN name must be passed to
Accelerator Loader.**

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO 4101E The table space 'db_name.ts_name' does
not exist in the DB2 catalog.**

説明: Accelerator Loader JCL に指定された表スペースは DB2 カタログに存在していません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4102E Partition *part_num* was specified for '*db_name.ts_name*' but the space is non-partitioned or the partition is not defined.

説明: 非パーティション化表スペースにパーティションが指定されたか、パーティションが定義されていません。

ユーザーの処置: Accelerator Loader JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4103E Invalid syntax. Not allowed keyword '*word1*'. Expected '*word2 word3 ...*'.

説明: 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4104E Invalid syntax. Keyword *keyword* not allowed.

説明: 構文は無効です。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4105E The DATA_BASE parameter is invalid.

説明: DATA_BASE パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL に DATA_BASE キーワードが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 4106E The SPACE_NAME parameter is invalid.

説明: SPACE_NAME パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL に SPACE_NAME パラメーターが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 4107E The PARTITION parameter is invalid.

説明: PARTITION パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL に PARTITION パラメーターが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 4108E The SPACE_THREAD parameter is invalid.

説明: SPACE_THREAD パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL に SPACE_THREAD パラメーターが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 4109E The PART_THREAD parameter is invalid.

説明: PART_THREAD パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL に PART_THREAD パラメーターが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 4110E Invalid INDEX_THREAD parameter, decimal expected.

説明: INDEX_THREAD パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: JCL に INDEX_THREAD パラメーターが適切に指定されていることを確認してください。

HLO 4112E A DB.TS pair is incomplete.

説明: 指定された DB.TS のペアは不完全です。

ユーザーの処置: すべての DB.TS のペアが正しく指定されていることを確認してください。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4113E Operations on the DB2 directory are not allowed.

説明: DB2 ディレクトリー表スペースでは索引を再作成できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4114E Operations on the DB2 Catalog table space DSNDB06.SYSCOPY are not allowed.

説明: DB2 カタログ表スペースでは索引を再作成できません。

ユーザーの処置: なし。

HLO 4130 I Control card stream processed by Consistent Load follows.

説明: 解析された制御カード入力の直前のヘッダー・メッセージが出力にエコーされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4131 I Consistent Load processing messages follow...

説明: 実行時のメッセージの前のヘッダーです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4132 I Consistent Load processing ends.

説明: すべての処理が終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4133 I Consistent Load processing abnormally ends.

説明: すべての処理が終了しましたが、エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 生成されたエラーを確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4134A Could not allow thread to be canceled.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4140S The subsystem ID must be a valid DB2 subsystem name.

説明: 無効なサブシステム ID を指定しました。

ユーザーの処置: サブシステム ID を確認してください。

HLO 4141S The plan name must be a valid DB2 plan name.

説明: 無効なプラン名を指定しました。

ユーザーの処置: プラン名を確認してください。

HLO 4142S Error connecting to DB2 SSID *ssid* RC = *rc*

説明: プログラムは、DB2 サブシステムに接続できませんでした。呼び出し接続機能から返された戻りコードがメッセージにリストされます。

ユーザーの処置: メッセージ HLO 4151I にリストされている、呼び出し接続機能から返されたメッセージを確認してください。

HLO 4143S Error opening plan *plan_name* RC = *rc*

説明: プログラムは、示されているプランをオープンできませんでした。呼び出し接続機能から返された戻りコードがメッセージにリストされます。

ユーザーの処置: メッセージ HLO 4151I にリストされ

ている、呼び出し接続機能から返されたメッセージを確認してください。

HLO 4144S Error disconnecting from DB2 SSID *ssid* RC = *rc*

説明: プログラムは、DB2 サブシステムから切断できませんでした。呼び出し接続機能から返された戻りコードがメッセージにリストされます。

ユーザーの処置: メッセージ HLO 4151I にリストされている、呼び出し接続機能から返されたメッセージを確認してください。

HLO 4145S CAF request can not be completed.

説明: プログラムは、CAF 要求を完了できませんでした。

ユーザーの処置: 詳細についてメッセージ HLO 4151I、HLO 4152I、HLO 4153I、および DSNT300I を確認し、システム・プログラマーに相談してください。詳細については、「DB2 Version 9.1 for z/OS メッセージ」を参照してください。

HLO 4146A SQL request can not be completed.

説明: プログラムは、SQL 要求を完了できませんでした。

ユーザーの処置: 詳細についてメッセージ HLO 4154I、HLO 4155I、および HLO 4156I を確認し、システム・プログラマーに相談してください。

HLO 4147 I The attempt to reset the RBDP flag returned an error

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、ジョブに指定されたオブジェクトの再作成保留状況をリセットできませんでした。

ユーザーの処置: 出力で DSNUUTILB エラー・メッセージを確認して、システム・プログラマーに相談してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4148E An error occurred on an attempt to open the DSNUUTILB Steplib.

説明: 制御ファイル内の DB2 loadlib 連結をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: データ・セット名の妥当性を確認してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4150 I The version of DB2 subsystem *ssid* is *ver*.

説明: DB2 サブシステムの SSID およびバージョンを表示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4151 I CAF reason codes = '*rc1,rc2*'.

説明: この診断メッセージには、DB2 CAF 要求の失敗が示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 Version 9.1 for z/OS Codes」(GC18-9853-05)を参照してください。

HLO 4152 I *message_text*

説明: このメッセージは、テキスト・メッセージ情報を保持するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4154 I Pgm: *modulename Stmt: stmtnum Type: 'SQL type name' Code: sqlcode*

説明: この診断メッセージには、DB2 SQL 要求の失敗が示されます。

ユーザーの処置: 示されている SQL コードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 Version 9.1 for z/OS Codes」(GC18-9853-05)を参照してください。

HLO 4155 I *message_text*

説明: このメッセージは、テキスト・メッセージ情報を保持するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4160E Invalid name specified as job DD card, DDN '*DDN*'

説明: 無効な DDN が指定されました。

ユーザーの処置: 有効な DDN を指定してください。

HLO 4161E Invalid string specified as job.

説明: 無効なストリングが指定されました。

ユーザーの処置: 有効なジョブ・ストリングを指定してください。

HLO 4162E The SYSINHLO DD card could not be opened for input.

説明: JCL に指定された SYSINHLO DD データ・セットを入力のためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: SYSINHLO DD が他のリソースによってアクセスされていないことを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4164E The SYSINHLO DD input stream is empty.

説明: インストリーム・ファイルまたは入力データ・セットに制御カードがありません。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4165E The command set must end with a close parenthesis ")".

説明: DB2 Accelerator Loader 入力カードの後に右括弧がありません。

ユーザーの処置: Accelerator Loader 入力カードの後に右括弧を入力してください。

HLO 4166E The parsing process gave an invalid return code.

説明: Accelerator Loader JCL でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4200E A data set allocation failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを割り振ることができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セット名は、メッセージ HLO 4210I にリストされます。DD 名は、メッセージ HLO 4211I にリストされます。メッセージ HLO 4213I で動的割り振りの戻りコードを確認して、システム・プログラマーに連絡してください。受け取った動的割り振りの戻りコードについては、「MVS Programming Authorized Assembler Service Guide」(SA22-7608)を参照してください。

HLO 4201E A data set deallocation error occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを割り振り解除することができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セット名は、メッセージ HLO 4210I にリストされます。DD 名は、メッセージ HLO 4211I にリストされます。メッセージ HLO 4213I で動的割り振りの戻りコードを確認して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4202E A data set open failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットをオープンできませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セット名は、メッセージ HLO 4210I にリストされます。DD 名は、メッセージ HLO 4211I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4203E A data set close failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットをクローズできませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セット名は、メッセージ HLO 4210I にリストされます。DD 名は、メッセージ HLO 4211I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4204E A dataset write failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを書き込むことができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セット名は、メッセージ HLO 4210I にリストされます。DD 名は、メッセージ HLO 4211I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4206S The FULL image copy DD CA(LP/LB/RP/RB) {1} refers to a DSNAME already in SYSCOPY.

説明: SYSCOPY に既に存在しているフルイメージ・コピー・データ・セット名が指定されました。

ユーザーの処置: 別のイメージ・コピー・データ・セット名を指定してください。

HLO 4207S The FULL image copy DD CA(LP/LB/RP/RB) {1} is missing from the JCL.

説明: フルイメージ・コピー・データ・セットが Accelerator Loader JCL に含まれていません。

ユーザーの処置: JCL が正しくフォーマットされていて、Accelerator Loader ジョブに必要な情報が含まれていることを確認してください。

HLO 4210 I data_set_name

説明: このメッセージは、データ・セット名情報を保持するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4211 I DD_name

説明: このメッセージは、DD 名情報を保持するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4212 I Each CAxxxx DD correlates to each SPACE(...) control card group.

説明: 各 CAxxxx DD ステートメントが対応する SPACE(...) 制御カード・グループに関連付けられている必要があります。

ユーザーの処置: JCL が正しくフォーマットされていて、各 CAxxxx DD ステートメントが SPACE(...) 制御カード・グループに関連付けられていることを確認してください。

HLO 4213 I Dynamic allocation return codes = 'rc'.

説明: この診断メッセージには、データ・セット割り振りの失敗が示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。受け取った動的割り振りの戻りコードについては、「MVS Programming Authorized Assembler Service Guide」(SA22-7608) を参照してください。

HLO 4214 I The following data set information was added to the SYSCOPY DB2 table: data set information

説明: イメージ・コピー作成プロセスを完了するために、新しい SYSCOPY 行が追加されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4215 I Object: Database *db_name* Indexspace
is_name Partition *part_num* ICBakup
'*site*'**

説明: このメッセージは、メッセージ HLO 2101I、HLO 2102I、または HLO 4216I と共に、関連メッセージで説明されている状態の影響を受けたデータベースを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4216 I DSN:*data_set_name* LRSN/RBA:
X'xxxxxxxxxxxx'**

説明: このメッセージは、メッセージ HLO 2101I、HLO 2102I、または HLO 4215I と共に、関連メッセージで説明されている状態の影響を受けたデータ・セットの名前を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4220E An VSAM allocate failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを割り振ることができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I にリストされます。メッセージ HLO 4238I で動的割り振りの戻りコードを確認して、システム・プログラマーに相談してください。受け取った動的割り振りの戻りコードについては、「MVS Programming Authorized Assembler Service Guide」(SA22-7608) を参照してください。

**HLO 4221E An VSAM allocate failure occurred.
Data set is locked.**

説明: 指定されたデータ・セットは他のプログラムによってロックされているため、プログラムはそのデータ・セットを割り振ることができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I にリストされます。

**HLO 4222E An VSAM allocate failure occurred.
Data set is absent.**

説明: 指定されたデータ・セットは存在していないため、プログラムはそのデータ・セットを割り振ることができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I にリストされます。

HLO 4223E A VSAM deallocation error occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを割り振り解除することができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I および HLO 4237I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4224E A VSAM open failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットをオープンできませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I および HLO 4237I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4225E A VSAM close failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットをクローズできませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I および HLO 4237I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4226E A VSAM read failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを読み取ることができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4227E A VSAM write failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを書き込むことができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO 4230E A VSAM random read failure
occurred.**

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを読み取ることができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4232E A VSAM fetch failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットをフェッチできませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4233E A VSAM update failure occurred.

説明: プログラムは、指定されたデータ・セットを更新できませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4236I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4236 I data_set_name

説明: このメッセージは、データ・セット名情報を保持するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4237 I DD_name

説明: このメッセージは、DD 名情報を保持するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4238 I Dynamic allocation return code = 'rc'.

説明: この診断メッセージには、データ・セット割り振りの失敗が示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。受け取った動的割り振りの戻りコードについては、「MVS Programming Authorized Assembler Service Guide」(SA22-7608) を参照してください。

HLO 4260E An allocate failure occurred on the key sort module.

説明: プログラムは、一時データ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: メッセージ HLO 4271I で動的割り振りの戻りコードを確認して、システム・プログラマーに相談してください。受け取った動的割り振りの戻りコー

ドについては、「MVS Programming Authorized Assembler Service Guide」(SA22-7608) を参照してください。

HLO 4267E An invalid return code was detected from the SORT program.

説明: DB2 Accelerator Loader は、SORT プログラムからの無効な戻りコードを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4268E Could not create new address space. Error code error code.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4268E Create external link error %u

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4271 I Dynamic allocation return code = 'rc'.

説明: この診断メッセージには、データ・セットの割り振り失敗が起こったことが示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。詳細については、「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照してください。

HLO 4360E The table space 'db_name.ts_name' partition part_num has an unknown status.

説明: Accelerator Loader は、索引の再作成処理を続行する前に、-DISPLAY DATABASE コマンドに似た呼び出しを発行することにより、示されているスペースが停止されていることを確認します。状況が

「RO」、「RW」、または「UT」と等しくない場合、このメッセージが表示されます。

ユーザーの処置: 索引の再作成処理を続行する前に、示されているスペースを停止してください。

**HLO 4361E The status check for table space
db_name.ts_name partition *part_num*
 timed out.**

説明: 索引処理を実行するには、その前に、Accelerator Loader が関連するスペースの停止を試行する必要があります。しかし、未完了の URID が処理中で、オブジェクトが停止される場合、URID が終了するまで、状況は「STOP」または停止保留に変更されます。DB2 がバッファをフラッシュするためにも若干時間がかかることがあります。いずれの場合も、Accelerator Loader は、索引処理を開始する前にスペースを検査します。いずれかのスペースが停止されていない場合、Accelerator Loader は、数秒待機してから、再び検査します。数回検査した後、処理を打ち切り、このメッセージを発行します。

ユーザーの処置: スペースが停止しない理由を診断してください。

**HLO 4362E The ENQ for table space
db_name.ts_name partition *part_num* was
 not successful.**

説明: ENQ が正常に完了しなかったデータベースおよびパーティションを示します。

ユーザーの処置: スペースがエンキューされない理由を診断してください。

**HLO 4363E The index space '*db_name.is_name*'
 partition *part_num* has an unsupported
 type and will be skipped.**

説明: Accelerator Loader は、索引の再作成処理を続行する前に、-DISPLAY DATABASE コマンドに似た呼び出しを発行することにより、示されているスペースが停止されていることを確認します。状況が

「RO」、「RW」、または「UT」と等しくない場合、このメッセージが表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4364E The index space '*db_name.is_name*'
 belongs to a non-partitioned index and
 will be skipped.**

説明: 索引スペースに対してパーティションが指定されましたが、これは非パーティション化索引です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4370 I The table space '*db_name.ts_name*'
 partition *part_num* beginning
 offloading keys.**

説明: Accelerator Loader は、索引キーを生成するために、示されている表スペース・パーティションの読み取りを開始しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4371 I The table space '*db_name.ts_name*'
 partition *part_num* keys are being
 offloaded.**

説明: Accelerator Loader は、示されている表スペース・パーティションの読み取りを終了し、索引キーを生成しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4373 I The index space '*db_name.is_name*'
 partition *part_num* is being rebuilt.**

説明: Accelerator Loader は、索引キーのソートを終了し、示されている索引スペースを生成しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4374 I The table space '*db_name.ts_name*'
 partition *part_num* is empty and will
 be skipped.**

説明: 示されている表スペース・パーティションに、1つの表または索引がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4375 I The index space *db_name.ts_name*
 partition *part_num* is ICOPY pending.**

説明: 示されている索引スペース・パーティションは、通知目的のみのコピー保留状況です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 4380E The index space '*db_name.is_name*'
 partition *part_num* has an unknown
 status.**

説明: このメッセージは、示されているスペースが索引の再作成処理を続行する前に停止されることを確認するものです。Accelerator Loader は、「-display db(*db_name*) spacenam(*is_name*) part(*part_num*)」に似た呼び出しによってスペースを検査し、スペースが「停止」状況であることを確認します。データベースが「RO」、「RW」、または「UT」と等しくない状況で

返される場合、このメッセージが表示されます。

ユーザーの処置: 索引の再作成処理を続行する前に、示されているスペースを停止してください。

**HLO 4381E The status check for index space
'db_name.is_name' partition part_num
timed out.**

説明: HLO が開始しようとするときに、索引の再作成処理の実行時に索引スペースが本当に停止されていることを確認する必要がある場合、このメッセージが出力されます。(HLO より前に) そのために生成される停止ステップは、データ・セットを停止するためのコマンドを DB2 に送信しますが、索引スペースが実際に停止するまで待機しません。オブジェクトに対する未完了の URID の処理中に停止が行われる場合、URID が終了するまで、スペースは「STOP」または停止保留に変更されます。DB2 がバッファをフラッシュするためにも若干時間がかかることがあります。いずれの場合も、HLO は、実際の処理を実行する前にスペースを検査します。いずれかのスペースが「STOP」で返されない場合、数秒間待機してから、再び検査します。このような検査を数回実行した後で打ち切り、このメッセージを生成します。

ユーザーの処置: スペースが停止しない理由を診断してください。

**HLO 4400E The attempt to recreate the underlying
VSAM data set returned an error.**

説明: DB2 Accelerator Loader は、Accelerator Loader ジョブに指定されたオブジェクト用に VSAM ファイルを作成できませんでした。

ユーザーの処置: 出力で IDCAMS エラー・メッセージを確認して、システム・プログラマーに相談してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4401E An allocate failure occurred.

説明: プログラムは、一時データ・セットを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: メッセージ HLO 4411I で動的割り振りの戻りコードを確認して、システム・プログラマーに相談してください。受け取った動的割り振りの戻りコードについては、「MVS Programming Authorized Assembler Service Guide」(SA22-7608) を参照してください。

HLO 4402E An deallocate failure occurred.

説明: プログラムは、一時データ・セットを割り振り解除することができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4410I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4403E An open failure occurred.

説明: プログラムは、一時データ・セットをオープンできませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4410I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4404E A close failure occurred.

説明: プログラムは、一時データ・セットをクローズできませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4410I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 4405E A write failure occurred.

説明: プログラムは、一時データ・セットを書き込むことができませんでした。データ・セットは、メッセージにリストされます。

ユーザーの処置: データ・セットは、メッセージ HLO 4410I にリストされます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO 4406E An invalid or incompatible data set
name was specified.**

説明: 指定されたデータ・セット名を DB2 データ・セットへの VSAM アクセスに使用することはできません。データ・セット名は、メッセージにリストされません。

ユーザーの処置: データ・セット名は、メッセージ HLO 4412I にリストされます。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 4410 I • HLO 9009E

HLO 4410 I *DD_name*

説明: このメッセージは、DD 名情報を保持するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 4411 I Dynamic allocation return code = 'rc'.

説明: この診断メッセージには、データ・セットの割り振り失敗が示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して問題を診断してください。受け取った動的割り振りの戻りコードについては、「MVS Programming Authorized Assembler Service Guide」(SA22-7608)を参照してください。

HLO 4412 I *data_set_name*

説明: このメッセージは、データ・セット名情報を保持するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 5200 I Fallback occurred for DSN: *DSN* tablespace: *tablespace* PART: *PART* LRSN/RBA=*Xvariable*

説明: *DSN* を開始点として使用しようとした。割り振ることができませんでした。SYSCOPY のこれより前の時点へのフォールバックは行われません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 9001E Error func OPEN input DD REPLIB rc = returncode

説明: レポート・ライブラリー DD 連結のオープン時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 9002E Error func CLOSE input DD REPLIB rc = returncode

説明: レポート・ライブラリー DD 連結のクローズ時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 9003E Error func enumerate members input DD REPLIB rc = returncode, rsn = reasoncode.

説明: ロード・ライブラリー・メンバーの列挙時にエラ

ーが発生しました。DESERV サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリーを使用できません。ロード・ライブラリーをリカバーしてください。

HLO 9004E Error func STARTD rc = returncode , rsn = reasoncode

説明: ダイアログの開始時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 9005E Error func ENDD rc = returncode , rsn = reasoncode

説明: ダイアログの終了時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 9006E Error func CREATEW rc = returncode , rsn = reasoncode

説明: 作業モジュールの作成時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 9007E Error func DELETEW rc = returncode , rsn = reasoncode

説明: 作業モジュールの削除時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 9008E Error func RESETW rc = returncode , rsn = reasoncode

説明: 作業モジュールのリセット時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 9009E Error func INCLUDE entry ENTRY_NAME rc = returncode , rsn = reasoncode

説明: 項目を組み込むときにエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLO 9010E Error func GETBUF rc = returncode

説明: ストレージの取得時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 9011E Error func FREEBUF rc = returncode

説明: ストレージの解放時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO 9012E Error func GETN get sections entry ENTRY_NAME rc = returncode, rsn = reasoncode

説明: 項目のセクションの列挙時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLO 9013E Warning func GETN no sections entry ENTRY_NAME rc = returncode, rsn = reasoncode

説明: 項目のセクションの列挙時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。セクションが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLO 9014E Error func GETC get compile units entry ENTRY_NAME rc = returncode, rsn = reasoncode

説明: 項目のコンパイル・ユニットの列挙時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLO 9015W Warning func GETC no compile units entry ENTRY_NAME rc = returncode , rsn = reasoncode

説明: 項目のコンパイル・ユニットの列挙時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。コンパイル・ユニットが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLO 9016E Error invalid buffer size SIZE , expected SIZE.

説明: バッファ・サイズが小さすぎます。検出されたセクションが多すぎます。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLO 9017E Error func GETD get data ENTRY_SECTION_CALSS rc = returncode, rsn = reasoncode

説明: 項目セクション・クラスの読み取り時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLO 9018W Warning func GETD no data ENTRY_SECTION_CALSS rc = returncode, rsn = reasoncode

説明: 項目セクション・クラスの読み取り時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。クラスにデータがありません。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLO 9019E Error func CSNBOWH calc MD5 hash rc = returncode , rsn = reasoncode

説明: MD5 ハッシュの計算時にエラーが発生しました。CSNBOWH サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO 9020E Error func GETD get RLD data
ENTRY_SECTION_CALSS rc =
returncode, rsn = reasoncode**

説明: 項目セクション・クラスの読み取り時にエラーが発生しました。IEWBIND サービスからのエラーです。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

**HLO 9021E Warning func OPEN output DD
REPORT01 rc = returncode**

説明: REPORT01 DD のオープン時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**HLO 9022W Warning Module Section Usage report
skipped**

説明: REPORT01 DD が指定されていませんでした。レポートは生成されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 9023 I Module Section Usage report started

説明: レポート生成が開始されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 9024 I Module Section Usage report
completed**

説明: レポート生成が完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 9025W Warning func OPEN output DD
REPORT02 rc = returncode**

説明: REPORT02 DD のオープン時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**HLO 9026W Warning Section MD5 Hash Usage
report skipped**

説明: REPORT02 DD が指定されていませんでした。レポートは生成されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**HLO 9027 I Section MD5 Hash Usage report
started**

説明: レポート生成が開始されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 9028 I Section MD5 Hash Usage report
completed**

説明: レポート生成が完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 9029W Warning func OPEN output DD
REPORT03 rc = returncode**

説明: REPORT03 DD のオープン時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**HLO 9030W Warning Section APAR Usage report
skipped**

説明: REPORT03 DD が指定されていませんでした。レポートは生成されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 9031 I Section APAR Usage report started

説明: レポート生成が開始されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 9032 I Section APAR Usage report completed

説明: レポート生成が完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO 9033W Warning func OPEN output DD
REPORT04 rc = returncode**

説明: REPORT04 DD のオープン時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 9034W Warning APAR Section Affected report skipped

説明: REPORT04 DD が指定されていませんでした。レポートは生成されませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO 9035 I APAR Section Affected report started

説明: レポート生成が開始されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 9036 I APAR Section Affected report completed

説明: レポート生成が完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 9037 I (c) Copyright Rocket Software, Inc. 2016. All Rights Reserved.

説明: ユーティリティを開始します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 9038 I Load Library Report utility started

説明: ユーティリティが開始されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO 9039 I Load Library Report utility completed rc = returncode

説明: ユーティリティが完了しました。

ユーザーの処置: 戻りコードを確認してください。

HLO 9040 I Warning Entry %.*s have TEST attribute set

説明: 項目に対して TEST 属性を設定できませんでした。

ユーザーの処置: ロード・ライブラリー・メンバーを使用できない可能性があります。ロード・ライブラリーをリカバリーする必要があります。

HLOA001E Error occurred during attempt to offload to zIIP.

説明: 作業を zIIP に送信しようとして製品にエラーが発生し、処理は停止しました。

ユーザーの処置: ログに他のエラー・メッセージがないか確認してください。

HLOA002E LOB header page encountered.

説明: 製品が行の処理中に LOB イメージ・コピーを検出して、処理は停止しました。製品は、LOB をサポートしていません。

ユーザーの処置: フィルター・セットに LOB が含まれていないことを確認してください。

HLOA003E Edit procedure found during zIIP processing for table *tableName*.

説明: 示されている表に編集プロシージャが定義されていますが、zIIP プロセッサでは編集プロシージャを処理できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA004E Table versioning found for table *tableName*.

説明: 示されている表には、以前のバージョンの表を使用している行が含まれています。これらの行を処理できず、処理は停止しました。

ユーザーの処置: すべての行が最新バージョンのフォーマットになっている表のみを指定してください。

HLOA005E A CELL64 free request failed.

説明: ストレージを解放しようとして失敗し、処理は停止しました。

ユーザーの処置: ログに他のエラー・メッセージがないか確認してください。

HLOA006E Process halted, memory exhausted for *storageArea*.

説明: 内部ストレージ域が容量を超えて使用され、処理は停止しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA007E Edit proc error; name: *procedureName*; retcde: *return_code*; rescde: *reasonCode*

説明: 行のデコードを試行しているときに、示されている編集プロシージャが、示されている戻りコードと理由コードのエラーを返し、処理は停止しました。

ユーザーの処置: EDITPROC に基づいて戻りコードと

HLOA008E • HLOA102 I

理由コードの意味を判別してください。エラーの原因が製品である場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA008E Name/token pair could not be found.

説明: 共通ストレージ名/トークンのペアが欠落しています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA009E An error occurred while looking up a name/token pair: IEANTRTReturnCode

説明: 名前/トークンのペアへのアクセスでエラーが発生しました。IEANTRT 戻りコードが示されています。

ユーザーの処置: IBM 資料で IEANTRT エラー・コードを確認して、問題を判別してください。

HLOA010E Table not found in common storage table list: tableName

説明: 示されている表は共通ストレージ表リストで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA011E The LOAD job ended before all tables were written.

説明: IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS へのロードは、すべてのデータが書き込まれる前に終了しました。

ユーザーの処置: ジョブ・ログで、ロードが不完全のまま早期に終了した理由を示すその他のエラー・メッセージがないか確認してください。

HLOA012E Blocking named pipe failed. Return code: return_code; reason code: reasonCode; path name: pathName.

説明: 名前付きパイプをブロックしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA013E An error occurred while posting across address spaces. The ASID is asidName.

説明: POST の試行が失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA014E Opening named pipe failed. Return code: return_code; reason code: reasonCode; path name: pathName.

説明: 示されているパス名をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA015E Writing to pipe failed. Return code: return_code; reason code: reasonCode.

説明: パイプにデータを書き込もうとして、示されている戻りコードと理由コードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA015E Writing to pipe failed. Return code: return_code; reason code: reasonCode.

説明: パイプにデータを書き込もうとして、示されている戻りコードと理由コードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA100 I Start HLOPRPG (buildLevel buildDate buildTime).

説明: モジュール HLOPRPG が開始されました。モジュールのビルドのモディフィケーション・レベル、日付、および時刻が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA101 I Cleanup HLOPRPG.

説明: モジュール HLOPRPG が終了しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA102 I Processing page pageName

説明: 指定されたタイプのページが処理されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA103 I Expanding using dictionary for table:
DBID PSID partitionNumber

説明: 示されている DBID、PSID、およびパーティションからのディクショナリーを使用して行データが拡張されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA104 I Processing dictionary for table: DBID
PSID partitionNumber

説明: 示されている DBID、PSID、およびパーティション用にディクショナリーが作成されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA105 I Start HLOEDIT.

説明: モジュール HLOEDIT を開始しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA106 I HLOEDIT-RC4 attempting alt state.

説明: モジュール HLOEDIT が編集プロシージャへの新規パスを試行しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA107 I Start HLOERD (buildLevel buildDate
buildTime).

説明: モジュール HLOERD が開始されました。モジュールのビルドのモディフィケーション・レベル、日付、および時刻が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA108 I HLOERD zIIP cleanup error.

説明: zIIP のクリーンアップ中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 関連エラー・メッセージを参照してください。

HLOA109 I Pages processed=pageCount.

説明: 示されているイメージ・コピー・ページ数が実行のために処理されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA110 I Stack pops=popsCount.

説明: 示されているイメージ・コピー・ポップ数が実行に組み込まれました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA111 I Pages per pop=pageCount.

説明: 示されているポップ当たりのイメージ・コピー・ページ数が実行のために処理されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA112 I Rows processed=rowCount.

説明: 示されている行数が実行のために IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS で処理されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA113 I HLOPRPG page processing error.

説明: HLOPRPG がエラーを返しました。

ユーザーの処置: 関連エラー・メッセージを参照してください。

HLOA115E Error occurred during error processing
errorMessage.

説明: 示されているエラー・メッセージの処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 示されているエラー・コードを検索して、元のエラー状態を判別してください。

HLOA116 I Exiting HLOZSCHD with
RC=<error_code>.

説明: モジュール HLOZSCHD が示されているエラー・コードを返しました。

ユーザーの処置: 関連エラー・メッセージを参照してください。

HLOA117 I Opening a new pipe for tableName
partitionNumber.

説明: 示されている表およびパーティションの IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS への接続がオープンされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLOA118 I Closing a pipe for *tableName*
partitionNumber.**

説明: 示されている表およびパーティションの IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS への接続がクローズされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLOA119 I Edit procedure found. Turning off
zIIP.**

説明: 編集プロシージャが定義されている表が検出されました。処理を続行できるように、zIIP プロセッサは使用されなくなります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLOA121I No zIIP available.

説明: zIIP 適格処理に使用できる zIIP プロセッサはありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLOA200E Could not obtain SSID from input
parameters.**

説明: サブシステム ID (SSID) が PARM で指定されていませんでした。

ユーザーの処置: ジョブを確認して、SSID を指定してください。

HLOA201E Could not open the TABLE DD.

説明: 製品は、TABLE DD をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLOA202E Table not found in TABLE DD.

説明: TABLE DD が使用されましたが、表が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLOA203E Table owner not specified.

説明: TABLE DD が使用されましたが、表の所有者が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLOA204E Table name not specified.

説明: TABLE DD が使用されましたが、表名が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLOA205E Table owner too long.

説明: 指定された表所有者が長すぎます。表所有者名の最大文字数は 128 です。表所有者名は列 72 を超えることはできません。次の行で列 1 から継続してください。特殊文字は不要です。

ユーザーの処置: JCL を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

**HLOA206E The name/token does not exist for the
subsystem.**

説明: ジョブは、このサブシステムに存在していない共通ストレージをクリーンアップしようとしています。

ユーザーの処置: 指定したサブシステム値が正しいことを確認してください。

**HLOA207E Forcing cleanup failed. IEANTDL
rc=<return_code>.**

説明: クリーンアップ中に予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLOA208E Could not open the JOB DD.

説明: 製品は、JOB DD をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLOA209E Job ID not found in JOB DD.

説明: JOB DD が使用されましたが、ジョブ ID が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: JCL を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLOA210E Job name not found in JOB DD.

説明: JOB DD が使用されましたが、ジョブ名が指定されていませんでした。

| ユーザーの処置: JCL を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

| **HLOA211I Common storage successfully cleaned.**

| 説明: サブシステムのすべての共通ストレージがクリアされました。

| ユーザーの処置: アクションは不要です。

| **HLOA212I Specified table has been cleaned from storage.**

| 説明: 指定された表は共通ストレージからクリアされました。

| ユーザーの処置: アクションは不要です。

| **HLOA213I Specified job has been cleaned from storage.**

| 説明: 指定されたジョブに関連するすべての共通ストレージがクリアされました。

| ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO G8000S Internal error in API <api_context>, RC=<api_return_code>, RSN=<api_reason_code>.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 内部アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO G8001S Storage release failed.

Module=<module_name>, storage area=<storage_area_name>, RC=<return_code>.

説明: 示されているモジュールは、示されているストレージ域を解放しようとして失敗しました。このメッセージに付随するメッセージ HLO G8002S に、ストレージ域に関する追加情報が記載されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよびメッセージ HLO G8002S のテキスト全体をサポート担当員に提供してください。

HLO G8002S Address=storage_area_address, Length=storage_area_length, SP=storage_subpool, KEY=storage_key

説明: このメッセージは、ストレージの解放の失敗を示すメッセージ HLO G8001S に付随します。このメッセージには、解放できなかったストレージに関する詳細が記載されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよびメッセージ HLO G8001S のテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO G8003E Storage obtain failed.

Module=<module_name>, storage area=<storage_area_name>, RC=<return_code>.

説明: 示されているモジュールは、示されているストレージ域を取得しようとして失敗しました。メッセージ HLO G8004E が通常このメッセージに付随しており、ストレージ域に関する追加情報を示します。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader プログラムで使用できる領域サイズを増やして、製品を再実行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよびメッセージ HLO G8004E のテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO G8004E Length=storage_area_length, SP=storage_subpool, KEY=storage_key

説明: このメッセージは、ストレージの取得の失敗を示すメッセージ HLO G8003E に付随します。このメッセージには、取得できなかったストレージに関する詳細が記載されています。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader プログラムで使用できる領域サイズを増やして、製品を再実行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよびメッセージ HLO G8003E のテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO G8005E Unable to open file. DD name=dd_name

説明: 示されているデータ定義 (DD) によって割り振られたファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: JCL を調べて、正しい DD 名が指定されていること、および正しいファイル・タイプを使用

HLO G8006E • HLO M9605W

してデータ・セットが割り振られていることを確認してください。

HLO G8006E Unable to dynamically allocate data set. DD name=*dd_name*

説明: 示されているデータ定義 (DD) は、必要なデータ・セットを動的に割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO G8007E Unable to close file. DD name=*dd_name*

説明: 示されているデータ定義 (DD) によって割り振られたファイルをクローズできませんでした。

ユーザーの処置: この問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO G8008I System=*system_name*, Job=*job_name*, Job Id=*job_id*, Step=*step_name*, Program=*program_name*, User=*user_id*

説明: このメッセージには、現行のジョブ・ステップに関する情報が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO G8009E The operating system or hardware do not meet minimum requirements.

説明: 最小のオペレーティング・システム・レベルおよびハードウェア要件については、製品のプログラム・ディレクトリーを参照してください。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO G8010I CPU=*<cpu_type>*, *<cpu_model>*, *<cpu_manufacturer>*. OS=*<os_name>*, *<os_release>*, *<os_version>*.

説明: このメッセージには、CPU およびオペレーティング・システムに関する情報が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO M9600E An invalid function was supplied to utility.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 保守ユーティリティの HLO MAINT ジョブで無効な機能が指定されました。

ユーザーの処置: HLO MAINT ジョブの PARM ステートメントで、有効な機能 (例えば、TERM_UTILITY)

を指定します。HLO MAINT ユーティリティに有効な機能については、ユーザーズ・ガイドを参照してください。

HLO M9601E API Initialization failed

説明: HLO MAINT インターフェース・プログラムは初期化を完了できませんでした。この失敗は、内部 API の初期化時に発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO M9602E Unable to establish session with HLO ID: *identifier*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 保守ユーティリティは、示されている開始タスク構成とのセッションを確立できませんでした。

ユーザーの処置: 保守ユーティリティ・ジョブ (HLO MAINT) で指定されている構成 ID パラメーター値が有効な構成 ID であることを確認してください。

HLO M9603E Unable to connect to DB2 system: *db2_ssid*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 保守ユーティリティは、示されている DB2 サブシステムに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 保守ユーティリティ・ジョブ (HLO MAINT) で指定されている DB2 SSID パラメーター値が有効な DB2 サブシステム ID を指定していることを確認してください。

HLO M9604I Worklist maintenance successful for utility id: *db2_utility_id*, function: *maint_utility_function*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 保守ユーティリティは、ワーク・リスト表内の示されている DB2 ユーティリティ ID に対して示されている機能を正常に実行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO M9605W No worklist data found for UTILID: *db2_utility_id*, function: *maint_utility_function*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 保守ユーティリティは、示されている DB2 ユーティリティ ID のワーク・リスト・データを検出ませんでした。示されている機能を実行できませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO M9606E Error while accessing worklist data
for utility ID: *db2_utility_id*, function:
*MAINT_function***

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 保守ユーティリティ (HLO MAINT) で、示されている DB2 ユーティリティ ID に関連付けられているワーク・リスト・データへのアクセスの試行中にエラーが発生しました。示されている保守ユーティリティ機能を実行できませんでした。

ユーザーの処置: HLO MAINT ジョブで、PARM ステートメントが DB2 SSID およびユーティリティ ID のパラメーターに有効な値を指定していることを確認してください。関連する SQL エラーがないか、開始タスク SYSPRINT のログ内のメッセージも確認してください。

**HLO M9607E Session creation failed
RC=<*return_code*>, RSN=<*reason_code*>,
reason=<*description*>.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 保守ユーティリティ (HLO MAINT) は初期化を完了できませんでした。この失敗は、HLO MAINT のセッションの作成中に発生しました。

ユーザーの処置: 失敗の原因を判別するために、このメッセージの理由の説明を確認してください。問題を修正して、ジョブを再実行してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO M9608E Session has been terminated by the
server.**

説明: セッションがサーバーによって強制終了されたため、ユーティリティは完了しませんでした。

ユーザーの処置: システム管理者と確認して、保守ユーティリティ・プログラムの強制終了の理由を判別してください。

**HLO P9800E <!ATTLIST *attribute_name*> attribute
'*attribute_value*' has an invalid
enumeration value list**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが !ATTLIST 宣言を解析していたときに、属性の有効な値を定義する列挙値リストでエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 列挙リストを訂正して、再実行してください。

**HLO P9801E <!ATTLIST *attribute_name*> attribute
'*attribute_value*' missing enumeration
value**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが !ATTLIST 宣言を解析していたときに、無効な列挙型トークンを検出しました。列挙型トークンは有効な XML 名でなければなりません。

ユーザーの処置: 列挙リストを訂正して、再実行してください。

**HLO P9802E <!ATTLIST *attribute_name*> attribute
'*attribute_value*' no closing quote for
default value**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが !ATTLIST 宣言を解析していたときに、ストリング・タイプのデフォルト値を検出しましたが、終了引用符がありませんでした。

ユーザーの処置: ストリング定義を訂正して、再実行してください。

**HLO P9803E <!ATTLIST *attribute_name*> attribute
'*attribute_value*' enumerated type list
missing '('**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが !ATTLIST 宣言を解析していたときに、予期したように列挙または NOTATION のリストを検出しましたが、そのリストに左括弧がありませんでした。

ユーザーの処置: 列挙リストを訂正して、再実行してください。

**HLO P9804E <!ATTLIST *attribute_name*> attribute
'*attribute_value*' expected quoted default
value**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが !ATTLIST 宣言を解析していたときに、予期していたデフォルト値の指定を検出ませんでした。

ユーザーの処置: !ATTLIST 宣言にデフォルト値を指定して、再実行してください。

**HLO P9805E getAttribute(*missing_attribute_name*)
error: attribute not defined**

説明: XML エレメントの属性の値を取得するための要求が実行されましたが、属性は定義されていませんでした。

HLO P9806E • HLO P9816E

ユーザーの処置: 値を要求する前に属性が存在することを確認するか、属性を XML 文書に追加してください。

HLO P9806E '<![IGNORE[' not terminated by matching ']]>'

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが <![IGNORE[...]]> 条件セクションを解析していたときに、要求された終了文字シーケンスを検出ませんでした。

ユーザーの処置: 条件シーケンスを訂正して、再実行してください。

HLO P9807E '<![INCLUDE[' not terminated by matching ']]>'

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが <![INCLUDE[...]]> 条件セクションを解析していたときに、要求された終了文字シーケンスを検出ませんでした。

ユーザーの処置: 条件シーケンスを訂正して、再実行してください。

HLO P9808E Unable to open default input file

説明: XML パーサーは、最上位のデフォルト入力ファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが存在していること、および正しい名前が XML パーサーに渡されていることを確認してください。

HLO P9809E Unable to open DOCTYPE file 'DOCTYPE_file_name'

説明: !DOCTYPE 宣言が指定されましたが、DOCTYPE ファイル名を読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: DOCTYPE ファイルが存在していること、および正しいファイル名が !DOCTYPE 宣言で指定されていることを確認してください。

HLO P9810E Unable to open external ENTITY file 'ENTITY_file_name'

説明: 外部エンティティ・ファイルが定義されましたが、エンティティ参照を解決するためにこのファイルを読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: 外部エンティティ・ファイルが存在していること、および正しいファイル名が !ENTITY 宣言で指定されていることを確認してください。

HLO P9811E element <element_name> ended by <element_name_1>

説明: 誤ってネストされているエレメント定義が検出されました。エレメントの開始を定義しているタグが、終了タグと一致していませんでした。

ユーザーの処置: エレメント定義のネスト構造を訂正して、再実行してください。

HLO P9812E Closing tag <element_name missing '>' character

説明: XML パーサーがエレメントの終了タグを解析していたときに、必要な終了文字「>」を検出ませんでした。

ユーザーの処置: 終了タグを訂正して、再実行してください。

HLO P9813E <!ELEMENT element_name> is already declared

説明: エレメント・タグに指定できる !ELEMENT 宣言は 1 つのみです。

ユーザーの処置: 重複している !ELEMENT 宣言を削除して、再実行してください。

HLO P9814E <!ELEMENT element_name> expecting subelement name.

説明: XML パーサーが !ATTLIST 宣言の混合コンテンツの指定を解析していたときに、許可されるサブエレメントのリストでエラーを検出しました。

ユーザーの処置: サブエレメント・リストを訂正して、再実行してください。

HLO P9815E ENTITY &entity_name; not defined

説明: 宣言が存在していないエンティティ参照が検出されました。

ユーザーの処置: エンティティ参照名のスペルを確認するか、その名前のエンティティ定義を追加して、再実行してください。

HLO P9816E End-of-data encountered while parsing attribute value string

説明: XML パーサーが属性値ストリングを解析していたときに、ファイルの終わりの前で必要な終了引用符を検出ませんでした。

ユーザーの処置: 属性値ストリングを訂正して、再実行してください。

HLO P9817E End-of-data encountered in a CDATA section

説明: XML パーサーが <![CDATA[...]]> セクションを解析していたときに、「]]>」文字を検出ませんでした。これらの文字は、ファイルの終わりの前にセクションを終了するために必要です。

ユーザーの処置: CDATA セクションを訂正して、再実行してください。

HLO P9818E End-of-data encountered in a comment

説明: XML パーサーが XML コメントを解析していたときに、「-->」文字を検出ませんでした。これらの文字は、ファイルの終わりの前にコメントを終了するために必要です。

ユーザーの処置: コメントを訂正し、再実行してください。

HLO P9819E End-of-data encountered inside a declaration

説明: XML パーサーが XML 宣言を解析していたときに、「>」文字を検出ませんでした。この文字は、ファイルの終わりの前に宣言を終了するために必要です。

ユーザーの処置: 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9820E End-of-data encountered in DOCTYPE declaration

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが !DOCTYPE 宣言を解析していたときに、宣言が完了する前にファイルの終わりに達しました。

ユーザーの処置: !DOCTYPE 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9821E End-of-data encountered while parsing element attributes

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが要素の属性リストを解析していたときに、属性リストが完了する前にファイルの終わりに達しました。

ユーザーの処置: 要素の属性リストを訂正して、再実行してください。

HLO P9822E End-of-data encountered inside an <!ELEMENT ...> declaration

説明: XML パーサーが !ELEMENT 宣言を解析していたときに、宣言が完了する前にファイルの終わりに達しました。

ユーザーの処置: !ELEMENT 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9823E End-of-data encountered in ENTITY definition

説明: XML パーサーが !ENTITY 宣言を解析していたときに、宣言が完了する前にファイルの終わりに達しました。

ユーザーの処置: !ENTITY 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9824E End-of-data encountered in processing instruction

説明: XML パーサーが XML 処理命令を解析していたときに、処理命令が完了する前にファイルの終わりに達しました。

ユーザーの処置: 処理命令を訂正して、再実行してください。

HLO P9825E Invalid <!ATTLIST attribute_name> attribute name

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが XML !ATTLIST 宣言を解析していたときに、構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: !ATTLIST 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9826E Invalid DOCTYPE name

説明: XML パーサーが XML !DOCTYPE 宣言を解析していたときに、有効なエレメント名を検出ませんでした。

ユーザーの処置: !DOCTYPE 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9827E Invalid !ELEMENT name

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが XML !ELEMENT 宣言を解析していたときに、有効なエレメント名を検出ませんでした。

ユーザーの処置: !ELEMENT 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9828E Invalid element tag

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが XML ステートメントを解析していたときに、予期したエレメント・タグを検出ませんでした。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、再実行してください。

HLO P9829E Invalid name in ENTITY definition

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが ENTITY 定義を解析していたときに、有効なエンティティ名を検出ませんでした。

ユーザーの処置: ENTITY 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9830E Invalid ENTITY reference

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーがエンティティ参照を解析していたときに、エンティティ参照を終了するセミコロンを検出ませんでした。ストリングでアンパーサンドが誤って「&」として指定されていないかを確認してください。アンパーサンドは & として指定する必要があります。

ユーザーの処置: エンティティ参照を訂正して、再実行してください。

HLO P9831E Invalid value in ENTITY definition: *value*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが XML ENTITY 定義を解析していたときに、構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: ENTITY 定義を訂正して、再実行してください。

HLO P9832E typespec for <ELEMENT *element_name*> not correctly ended

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が !ELEMENT 宣言の typespec パラメーターを処理していたときに、構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: !ELEMENT 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9833E '<' character not legal in attribute value string

説明: 属性値の中で直接的または間接的に参照されるもののエンティティの置換テキストも、「<」文字を含んではなりません。

ユーザーの処置: 属性値を訂正して、再実行してください。

HLO P9834E No attributes defined for non-element node types

説明: 属性がない XML エレメントのタイプに対して属性を要求しようとしました。

ユーザーの処置: XML エレメント・オブジェクトがあることを確認してから、属性値を要求してください。

HLO P9835E Attribute name not found

説明: XML パーサーは属性名を予期していましたが、有効な属性名は検出されませんでした。

ユーザーの処置: XML ステートメントを訂正して、再実行してください。

HLO P9836E No closing ']' for DOCTYPE internal subset definition

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが XML !DOCTYPE 宣言のエンティティ定義リストを解析していたときに、終了文字「]」を検出ませんでした。終了文字は必須です。

ユーザーの処置: !DOCTYPE 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9837E No closing '>' for ENTITY definition: *entity_name*

説明: ENTITY 定義の終わりを示す終了文字「>」が検出されませんでした。

ユーザーの処置: ENTITY 定義を訂正して、再実行してください。

HLO P9838E No closing tag for <*element_name*>

説明: XML パーサーはエレメントの終了タグの検出を予期していましたが、検出ませんでした。

ユーザーの処置: XML エレメント宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9839E No '=' following attribute name *'attribute_name'*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが属性定義を解析していたときに、「=」記号を予期していましたが、別のものを検出しました。XML 言語では、属性定義の中で「=」記号の前後にスペースを使用できません。このようなスペースがある場合は、削除してください。

ユーザーの処置: 属性定義を訂正して、再実行してください。

HLO P9840E Tag does not follow '<'

説明: XML エlement・タグは、Element定義の開始文字「<」の直後になければなりません。XML パーサーは、「<」の後に代わりに空白文字があることを検出しました。

ユーザーの処置: Element定義を修正して、再実行してください。

HLO P9841E Tag does not follow '</'

説明: XML エlement・タグは、Element定義の終了文字「</」の直後になければなりません。XML パーサーは、「</」の後に代わりに空白文字があることを検出しました。

ユーザーの処置: Element定義を修正して、再実行してください。

HLO P9842E No value found for attribute 'attribute_name'

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader XML パーサーが属性定義を解析していたときに、「=」文字の後に値を予期していましたが、その位置で有効な値を検出できませんでした。XML 言語では、属性定義の中で「=」文字の前後にブランクを使用できません。このようなブランクがある場合は、削除してください。

ユーザーの処置: 属性定義を訂正して、再実行してください。

HLO P9843E parameter %parameter_name; is not defined

説明: 未定義のパラメーター参照が検出されました。

ユーザーの処置: パラメーター名のスペルを確認するか、パラメーターの定義を追加して、再実行してください。

HLO P9844E Unexpected character following DOCTYPE SYSTEM name

説明: XML パーサーは、!DOCTYPE 宣言を終了するための「>」文字を予期していましたが、別のものを検出しました。

ユーザーの処置: !DOCTYPE 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9845E Unexpected character in <!ELEMENT element_name> children

説明: XML パーサーが !ELEMENT 宣言に許可されている子Elementのリストを解析していたときに、構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: !ELEMENT 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9846E Unexpected characters following <!ELEMENT element_name (#PCDATA

説明: XML パーサーは、#PCDATA トークンの終了文字「)」を予期していましたが、別のものを検出しました。

ユーザーの処置: !ELEMENT 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9847E Unexpected characters in <!ELEMENT element_name> contentspec

説明: XML パーサーは、!ELEMENT 宣言の #PCDATA の部分の後に予期しない文字を検出しました。

ユーザーの処置: !ELEMENT 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9848E Unexpected contentspec <!ELEMENT element_name> declaration

説明: !ELEMENT 宣言の contentspec の部分で構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: !ELEMENT 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9849E Unexpected !DOCTYPE option: option

説明: XML パーサーは、!DOCTYPE 宣言で無効なオプションを検出しました。

ユーザーの処置: !DOCTYPE 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9850E Unexpected !DOCTYPE SYSTEM value

説明: XML パーサーは、!DOCTYPE 宣言の SYSTEM の部分で無効値を検出しました。

ユーザーの処置: !DOCTYPE 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9851E Unexpected !ENTITY SYSTEM value

説明: XML パーサーは、!ENTITY 宣言の SYSTEM の部分で無効値を検出しました。

ユーザーの処置: !ENTITY 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9852E Unexpected text in <!ELEMENT element_name>

説明: XML パーサーが !ELEMENT 宣言を解析していたときに、終了文字「>」の検出を予期していましたが、別のものを検出しました。

ユーザーの処置: !ELEMENT 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9853E Quotation delimiters do not match for attribute value attribute_value

説明: DSNUTILB インターセプト・ポリシーの中の示されている属性値を囲む区切り文字が一致していません。区切り文字は両方とも二重引用符または単一引用符でなければなりません。

ユーザーの処置: 示されている属性値を囲んでいる区切り文字を一致するように訂正してください。二重引用符と単一引用符のどちらかを使用してください。次に、ユーザーリティーを再実行します。

HLO P9854W USE_RULESET element in POLICY references an undefined ruleset. Name: ruleset_name.

説明: DSNUTILB インターセプト・ポリシーで、<POLICY> セクションの <USE_RULESET> エレメントが、<RULESET> エレメントによって定義されていないルール・セット名を参照しています。

ユーザーの処置: <USE_RULESET> エレメントによって指定されているルール・セット名が、同じポリシーの <RULESET> エレメントによって定義されているルール・セット名と一致していることを確認してください。<USE_RULESET> エレメントによって指定されているルール・セット名を訂正することも、<RULESET> エレメントによって定義されているルール・セット名を変更する (そのルール・セットがポリシーの他の <USE_RULESET> エレメントによって参照されていない場合) こともできます。

HLO P9855W VRUPDATE element omitted after ACTION=VRUPDATE for DB2SYSTEM db2_ssid.

説明: DSNUTILB ポリシーで、DB2SYSTEM エレメントの ACTION=VRUPDATE 属性では、VRUPDATE 子エレメントが DB2SYSTEM エレメントに含まれている必要があります。

ユーザーの処置: VRUPDATE エレメントが含まれていて、VRUPDATE エレメントに VR UPDATE ジョブ JCL を指定する DSN 属性が設定されていることを確認してください。

HLO P9856W Usage of RULE SYNONYM has been deprecated.

説明: DSNUTILB ポリシーで、RULE SYNONYM= が検出されました。RULE エレメントの SYNONYM の使用は非推奨になりました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO P9857E Invalid characters encountered in PART specification.

説明: XML パーサーは、PART 指定で無効文字を検出しました。

ユーザーの処置: PART 指定を訂正して、再実行してください。

HLO P9858E USE_PRACTICE in POLICY references an undefined practice. PRACTICE =practice_name.

説明: DSNUTILB ポリシーで、POLICY セクションの USE_PRACTICE エレメントが、PRACTICE エレメントによって定義されていない PRACTICE 名を参照しています。

ユーザーの処置: USE_PRACTICE エレメントによって指定されているプラクティス名が、同じポリシーのプラクティス・エレメントによって定義されているプラクティス名と一致していることを確認してください。USE_practice エレメントによって指定されているプラクティス名を訂正するか、プラクティス・エレメントによって定義されているプラクティス名を変更する (そのプラクティスがポリシーの他の USE_PRACTICE エレメントによって参照されていない場合) ことができます。

HLO P9859E A duplicate practice name was specified in the policy.
PRACTICE=<practice_name>.

説明: DSNUTILB ポリシーが、NAME 属性に同じ値を指定して 2 つの PRACTICE エlementを定義しました。ポリシーで名前が重複している PRACTICE エlementが検出された場合、ポリシーで最初にコーディングされた PRACTICE がユーティリティー・モニターによって使用されます。

ユーザーの処置: すべてのプラクティス名が固有であることを確認してください。

HLO P9860E A duplicate utility name was specified in a practice. UTILNAME =utility_name

説明: DSNUTILB ポリシーが、1 つのプラクティスで同じ NAME を指定して 2 つの UTILITY エlementを定義しました。

ユーザーの処置: PRACTICE 指定の中ですべてのユーティリティー名が固有であることを確認してください。

HLO P9861E The length of attribute is greater than 1024 characters:
ATTRIBUTE=attribute_name.

説明: SYNTAX ポリシー・Elementの属性 VALUE および SUBSTITUTE は、それぞれ 1024 文字に制限されています。

ユーザーの処置: 示されている属性を訂正してください。

HLO P9862E Attribute attribute_name_1 is incompatible with attribute attribute_name_2.

説明: 示されている 2 つの属性は相互に排他的であり、一緒に使用することはできません。

ユーザーの処置: 属性の指定を訂正してください。

HLO P9863E Multiple <USE_PRACTICE> elements were specified within one <DB2SYSTEM> element, DB2 SSID: <db2_ssid>.

説明: DSNUTILB ポリシーで、複数の <USE_PRACTICE> Elementが 1 つの <DB2SYSTEM> Element内で指定されました。それぞれの <DB2SYSTEM> Elementには、<USE_PRACTICE> Elementを 1 つのみ含めることができます。

ユーザーの処置: すべての <DB2SYSTEM> Elementに <USE_PRACTICE> Elementが 1 つのみ含まれていることを確認してください。

HLO P9864E <SUBSTITUTE> or <FAIL> attributes must be specified for <VALUE> attribute in <SYNTAX> element.

説明: DSNUTILB インターセプト・ポリシーで、必要な <SUBSTITUTE> 属性または <FAIL> 属性を指定せずに、<SYNTAX> Elementの <VALUE> 属性が指定されました。

ユーザーの処置: <SYNTAX> Elementの <VALUE> 属性が、<SUBSTITUTE> 属性または <FAIL> 属性とともに指定されていることを確認してください。

HLO P9865E Attributes are not specified in <SYNTAX> element.

説明: DSNUTILB インターセプト・ポリシーで、属性を指定せずに、<SYNTAX> Elementが指定されました。少なくとも 1 つの属性が必要です。

ユーザーの処置: <SYNTAX> Elementに少なくとも 1 つの属性が含まれていることを確認してください。使用可能な属性については、製品資料の DSNUTILB インターセプト・ポリシーに関するセクションを参照してください。

HLO P9866E <VALUE> attribute must be specified for <SUBSTITUTE> or <FAIL> attributes in <SYNTAX> element.

説明: DSNUTILB ポリシーで、<VALUE> 属性を指定せずに、<SYNTAX> Elementの <SUBSTITUTE> 属性または <FAIL> 属性が指定されました。

ユーザーの処置: <VALUE> 属性を指定するときに、<SYNTAX> Elementで <SUBSTITUTE> 属性または <FAIL> 属性が指定されていることを確認してください。

HLO P9867E ACCEL_CURSOR, ACCEL_HLV_SSID and ACCEL_HLV_GRPNAME are not valid on IDAA_ONLY type loads.

説明: サーバーからデータをロードする場合、アクセラレーターのみのロードを選択する必要があります。DB2 とアクセラレーターの両方へのロードは、サーバー・データ・ソースではサポートされていません。

ユーザーの処置: アクセラレーターのみのロードを選択して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9868E ACCEL_CURSOR requires an ACCEL_HLV_SSID or ACCEL_HLV_GRPNAME.

説明: ACCEL_CURSOR が指定される場合、サーバーのグループ名または SSID が必要です。

ユーザーの処置: ACCEL_HLV_SSID キーワードまたは ACCEL_HLV_GRPNAME キーワードをロード制御カードに追加して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9869E An ACCEL_CURSOR name must be provided with ACCEL_HLV_SSID or ACCEL_HLV_GRPNAME.

説明: サーバーからデータをロードする場合、ACCEL_CURSOR 名を指定する必要があります。カーソル名は、EXEC SQL ステートメントで以前に宣言されたカーソルを識別するものでなければなりません。

ユーザーの処置: ACCEL_CURSOR 節をロード・ステートメントに追加して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9870 E ACCEL_HLV_SSID and ACCEL_HLV_GRPNAME are mutually exclusive. Specify only one or the other.

説明: サーバーからデータをロードする場合、サブシステム ID (SSID) またはグループ名でサーバーを指定する必要があります。両方を指定することはできません。

ユーザーの処置: いずれかのオプションを削除して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9871E The WHEN clause is not compatible with the ACCEL_CURSOR clause.

説明: WHEN 節は、DB2 Analytics Accelerator Loaderサーバーからデータをロードする場合にはサポートされていません。

ユーザーの処置: WHEN 節をロード制御カードから削除して、ジョブを再実行してください。

HLO P9872E The INDDN and INCURSOR clauses are not compatible with the ACCEL_CURSOR clause.

説明: サーバーからデータをロードする場合、INDDN 節または INCURSOR 節も指定することはできません。

ユーザーの処置: ロード制御カードを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9873E Field specifications cannot be provided when ACCEL_CURSOR is specified.

説明: サーバーからデータをロードする場合、フィールド指定を含めることはできません。

ユーザーの処置: ロード制御カードを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9874E ACCEL_SOURCE_DB2 requires ACCEL_CURSOR and either ACCEL_HLV_SSID or ACCEL_HLV_GRPNAME.

説明: ACCEL_SOURCE_DB2 キーワードを指定できるのは、サーバーからデータをロードする場合のみです。サーバーを介して別の DB2 サブシステムからデータをロードする場合にのみ、ACCEL_SOURCE_DB2 を指定してください。

ユーザーの処置: ロード制御カードを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9875E IDENTIFIER <identifier_type> name length error. The maximum valid length is: <maximum_name_length>.

説明: 示されているタイプの ID または名前の長さが無効です。ID は、1 文字から MAX_LENGTH 文字でなければなりません。

ユーザーの処置: 制御カードを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9876E KEYWORD1 <keyword> and KEYWORD2 <keyword> are mutually exclusive keywords.

説明: 示されているキーワードは相互に排他的です。どちらか一方を指定することはできますが、両方は指定できません。

ユーザーの処置: いずれかのキーワードを削除して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9878E The keyword <keyword> is not valid as used.

説明: 示されているキーワードは、使用されているコンテキストでは有効ではありません。

ユーザーの処置: ロード・ステートメントを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9879E Validation error: ID 'enum_value' not found for IDREF reference

説明: 属性が IDREF として宣言されましたが、属性値は XML 文書内で ID として使用されていませんでした。

ユーザーの処置: IDREF 値のスペルを確認するか、IDREF 値を使用する、対応する ID 属性を追加します。

HLO P9880E Validation error: default 'enum_value' for attribute 'attribute_name' not a member of enumerated type

説明: 文書タイプ定義の !ATTLIST 宣言で属性に指定されているデフォルト値は、属性に有効な値ではありません。

ユーザーの処置: デフォルト値が有効な属性値の列挙型リスト内のいずれかの値になるように !ATTLIST 宣言を訂正して、再実行してください。

HLO P9881E Validation error: <!ELEMENT ...element_name> attribute value attribute_name='enum_value' is not a member of the enumerated type.

説明: 属性に指定されている値は、文書タイプ定義の属性に定義されている有効な値のいずれでもありません。指定された値が NULL またはブランクである場合、デフォルト値が使用されます。

ユーザーの処置: 属性値を訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO P9882E Validation error: attributes declared ID must be #REQUIRED or #IMPLIED

説明: ID 属性には、宣言されたデフォルトの #IMPLIED または #REQUIRED を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ID 属性のデフォルト値を訂正して、再実行してください。

HLO P9883E Validation error: duplicate ID ID_name='value'

説明: 名前は、XML 文書の中で ID 値として複数回指定されてはなりません。つまり、ID 値はエレメントを一意的に識別する必要があります。

ユーザーの処置: 重複している ID を除去して、再実行してください。

HLO P9884E Validation error: <!ELEMENT element_name EMPTY> cannot have subelement subelement_name.

説明: 文書タイプ定義 (DTD) は、示されているサブエレメントをエレメントに有効なものとしてリストしていません。

ユーザーの処置: エレメント定義を訂正して無効なサブエレメントを除去し、再実行してください。

HLO P9885E Validation error: <!ELEMENT element_name EMPTY> cannot contain text

説明: 文書タイプ定義で EMPTY として宣言されているエレメントには、コンテンツを含めることはできません。

ユーザーの処置: エレメント定義を訂正してコンテンツを削除し、再実行してください。

HLO P9886E Validation error: <!ELEMENT element_name> invalid attribute attribute_name='value'

説明: この属性は、文書タイプ定義に照らしてエレメントに有効ではありません。

ユーザーの処置: エレメント定義を訂正して無効な属性を削除し、再実行してください。

HLO P9887E Validation error: <!ELEMENT element_name> attribute attribute_name='attribute_value' not #FIXED default value 'default_value'

説明: 文書タイプ定義は、属性に特定の #FIXED 値が必要であることを指定していますが、属性定義は別の値を指定しています。

ユーザーの処置: #FIXED 値を使用するように属性を訂正して、再実行してください。

HLO P9888E Validation error: <!ELEMENT element_name> unexpected subelement subelement_name.

説明: 示されているサブエレメントは、文書タイプ定義 (DTD) に照らしてエレメントで有効ではありません。サブエレメントの順序が他のサブエレメントに対して間違っているか、誤った回数にわたって繰り返されている場合に、このエラーが起こることがあります。

ユーザーの処置: DTD と整合するようにエレメント定義を訂正してください。

HLO P9889E Validation error: <!ELEMENT element_name> missing required attribute 'required_attribute'

説明: エレメントの属性が文書タイプ定義で #REQUIRED として宣言されましたが、属性はエレメント定義に含まれていません。

ユーザーの処置: 必要な属性が含まれるようにエレメント定義を訂正して、再実行してください。

HLO P9890E Validation error: <!ELEMENT element_name> missing required choice 'required_choice'

説明: 文書タイプ定義は、指定されたエレメントに定義されている有効な選択項目の 1 つがエレメント内の特定の位置に現れる必要があることを指定しています。しかし、その位置で検出された値は、有効な選択項目のいずれでもありません。

ユーザーの処置: 文書タイプ定義に準拠するようにエレメント定義を修正して、再実行してください。

HLO P9891E Validation error: <!ELEMENT element_name> missing required subelement subelement_name.

説明: 文書タイプ定義 (DTD) は、示されているサブエレメントがエレメントに必要であることを指定しています。しかし、サブエレメントはエレメント定義で検出されませんでした。

ユーザーの処置: エレメント定義を訂正して必要なサブエレメントを指定し、再実行してください。

HLO P9892E Validation error: An element can have only one attribute of type ID

説明: エレメント・タイプには、複数の ID 属性を指定してはなりません。

ユーザーの処置: ID 属性が 1 つのみ指定されるように !ELEMENT 定義を訂正して、再実行してください。

HLO P9893E Validation error: Element <element_name> has not been declared

説明: 定義されているエレメントは、文書タイプ定義で宣言されていません。そのため、文書で許可されません。

ユーザーの処置: 無効なエレメント定義を除去して、再実行してください。

HLO P9894E XML Parser Exception: file_name line=line_number

説明: 以前に報告された XML パーサーのエラーにより、パーサーが停止しました。このエラーは、パーサーが、示されているファイルの示されている行番号にあるデータを処理しているときに発生しました。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、再実行してください。

HLO P9895E XML Parser Exception occurred while processing line=line_number

説明: 以前に報告された XML パーサーのエラーにより、パーサーが停止しました。このエラーは、パーサーが、最上位入力ファイルの示されている行番号にあるデータを処理しているときに発生しました。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、再実行してください。

HLO P9896E XML Parser Exception

説明: 以前に報告された XML パーサーのエラーにより、パーサーが停止しました。このエラーが入力ファイル内のどの特定の行に起因するのかを突き止めることはできませんでした。

ユーザーの処置: 以前に示されたエラーを訂正して、再実行してください。

HLO P9897E Allocation error for policy control block : enum_value

説明: いずれかのポリシー制御ブロックで割り振りエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メッセージ番号とテキストをサポートに提供してください。

HLO P9898E Value exceeds maximum length for RULE: rule_name='rule_value'

説明: DSNUTILB ポリシーで、示されているルール値の長さが、ルールに許可される最大長を超えています。このメッセージには、エラーのあるルール値の最初の 32 バイトが示されます。

ユーザーの処置: DSNUTILB ポリシーの示されているルール値を訂正して、ルールに許可される最大長を超えないようにしてください。許可される最大ルール長については、「DB2 Analytics Accelerator Loader for z/OS ユーザーズ・ガイド」を参照してください。訂正した後、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9899E Policy parser error.

説明: DSNUTILB ポリシー・パーサーは、エラー発生のために停止しました。

ユーザーの処置: エラーの詳細な説明については、このメッセージに続くメッセージを参照してください。エラーがポリシー構文エラーに関連している場合は、ポリシーを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

**HLO P9900E Abnormal termination: *file_name*
line=*line_number***

説明: XML パーサーは、内部エラーのために終了しました。

ユーザーの処置: 問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。

HLO P9901E Error: Input buffer size (size bytes) is too small.

説明: XML パーサーの入力バッファがオーバーフローしました。

ユーザーの処置: より大きな入力バッファ・サイズを指定してパーサーを再作成する必要があります。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO P9902E Invalid value specified for IGNOREFIELDS. Valid values and YES and NO.

説明: LOAD ユーティリティの INTO TABLE ステートメントの IGNOREFIELDS オプションに無効値が指定されました。

ユーザーの処置: LOAD 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9910 I *parsed_batch_syntax*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader バッチ・インターフェースは、このメッセージをスレッド取り消しジョブの SPRT0000 出力に書き込みます。このメッセージは、ジョブの HLO PARMS DD から解析されたパラメーターまたは取り消しコマンドを示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO P9911W '*parsed_batch_syntax*' can only occur once. Only the last occurrence is used to process the request.

説明: 示されているパラメーターは、バッチ・スレッド取り消しジョブの HLO PARMS DD で複数回出現して

います。DB2 Analytics Accelerator Loader は、最後に出現したパラメーターを処理して、それより前の出現をすべて無視します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO P9912E '*batch_parameter_value*' is not a recognized value

説明: バッチ・スレッド取り消しジョブのパラメーターに無効値が指定されました。パラメーターの名前および値は、ジョブの SPRT0000 出力に書き込まれています。

ユーザーの処置: 製品資料で、このパラメーターの有効な値を調べてください。ジョブの HLO PARMS DD 内のパラメーター値を訂正し、ジョブを再実行してください。

HLO P9913E Value '*user_specified_value*' must be from *minimum_valid_value* through *maximum_valid_value*

説明: 示されている値は、このバッチ・パラメーターの有効な値の範囲内にありません。パラメーターの名前および値は、スレッド取り消しジョブの SPRT0000 出力に書き込まれています。

ユーザーの処置: 製品資料で、このパラメーターの有効な値を調べてください。ジョブの HLO PARMS DD 内のパラメーター値を訂正し、ジョブを再実行してください。

HLO P9914E *parameter_value* value can be at most *maximum_length* bytes

説明: 示されているバッチ・ジョブ・パラメーター値は、このパラメーターで許可される最大長より長くなっています。

ユーザーの処置: バッチ・スレッド取り消しジョブの HLO PARMS DD 内のパラメーター値を訂正してください。このメッセージ・テキストに示されている最大長を超えていないことを確認してください。その後でジョブを再実行してください。

HLO P9915E Expected value '*expected_value*' not found

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されている値がバッチ・スレッド取り消しジョブの HLO PARMS DD 内にあることを予期していましたが、見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 示されている値を HLO PARMS DD

HLO P9916E • HLO P9927E

内の該当する位置に追加してください。その後でジョブを再実行してください。

HLO P9916E CANCEL_THREADS request is invalid because no selection criteria is specified.

説明: CANCEL_THREADS 要求にスレッド選択基準が指定されませんでした。ALL_THREADS パラメーター、THREAD_TOKEN パラメーター、または 1 つ以上のその他のスレッド・フィルタリング・パラメーターのいずれか 1 つが指定される必要があります。

ユーザーの処置: スレッド取り消しジョブの HLO PARMS DD にスレッド選択パラメーターを指定してください。その後でジョブを再実行してください。

HLO P9917E Initialization parameter value is unknown: parameter_name = parameter_value

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの初期設定パラメーターに無効値が指定されています。

ユーザーの処置: 示されている初期設定パラメーターに有効な値を判別するには、DB2 Analytics Accelerator Loader の資料を参照してください。その後、HLO OPTS ファイルの値を訂正してください。

HLO P9918E Initialization parameter value beyond range: parameter_name = parameter_value

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの初期設定パラメーターに、このパラメーターに許可されている範囲内でない値が指定されています。

ユーザーの処置: 示されている初期設定パラメーターに有効な値のセットを判別するには、DB2 Analytics Accelerator Loader の資料を参照してください。その後、HLO OPTS ファイルのパラメーター値を訂正してください。

HLO P9919E Initialization parameter value is too long: parameter_name can be at most parameter_max_length characters

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの初期設定パラメーターが、このパラメーターに許可されている最大長より長くなっています。

ユーザーの処置: 初期設定オプション・メンバーのパラメーター値を訂正してください。値が、このメッセージ・テキストに示されている最大長よりも長くないことを確認してください。その後でジョブを再実行してください。

HLO P9920E Internal parser error: parser expected the address of the control_block_name

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader バッチ構文パーサーまたは開始タスクの初期設定オプション・パーサーで内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO P9921W Keyword syntax_keyword is unexpected. It will be ignored.

説明: コマンド構文の予期しない位置でキーワードが検出されました。キーワードは無視されます。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行します。

HLO P9922E Initialization parameter contains nonnumeric characters: parameter_name = parameter_value.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの初期設定パラメーターに非数字が含まれています。数字のみが許可されます。

ユーザーの処置: 値を訂正して、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクを開始してください。

HLO P9925E Storage obtain failed. Module=<module_name>, storage area=<storage_area_name>, RC=<return_code>.

説明: 示されているモジュールは、示されているストレージ域を取得しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader プログラムで使用できる領域サイズを増やして、製品を再実行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポート担当員に提供してください。

HLO P9927E An error was detected while attempting to open the input data set

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、DB2 ユーティリティ・ジョブ・ステップの入力データ・セットを開こうとしてエラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム・ログで、このエラーに関連する他のメッセージを確認してください。その後、エラーを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9928E I/O error when reading the input data set.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、DB2 ユーティリティー・ジョブ・ステップの入力データ・セットの読み取り時に入出力エラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO P9929E Buffer overflow error.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、DB2 ユーティリティー・ジョブ・ステップの解析中にバッファオーバーフロー状態を検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO P9930E A syntax error was detected in the field specification for the field <field_name>.

説明: DB2 LOAD ユーティリティー・ジョブ・ステップで、示されているフィールドのフィールド指定に構文エラーが含まれています。

ユーザーの処置: ユーティリティー・ジョブ・ステップのエラーのあるフィールド指定を訂正してください。その後、ユーティリティーを再実行してください。

HLO P9931E Unbalanced parentheses detected in an INTO-TABLE specification.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、LOAD ユーティリティー・ジョブ・ステップの INTO-TABLE 指定で対になっていない括弧 (左括弧または右括弧が一致していない) を検出しました。

ユーザーの処置: LOAD ユーティリティー・ジョブ・ステップの INTO-TABLE 指定でこの構文エラーを訂正してください。その後、ユーティリティーを再実行してください。

HLO P9932E The DELIMITED option is incompatible with the VALUEIF field selection criterion (START:END).

説明: DB2 LOAD ユーティリティー構文の解析中に、DB2 Analytics Accelerator Loader は、ユーティリティー・ジョブ・ステップに DELIMITED オプション、および start:end バイト位置を指定する VALUEIF オプションのフィールド選択基準が含まれていることを検出しました。この構文は無効です。同じジョブ・ステップで、DELIMITED オプションと start:end 位置を含む

VALUEIF フィールド選択基準の両方を指定することはできません。

ユーザーの処置: LOAD ユーティリティー・ジョブ・ステップを編集して、DELIMITED オプションを削除するか、あるいは VALUEIF オプションのフィールド選択基準の start:end 位置の代わりにフィールド名を指定してください。その後、ユーティリティーを再実行してください。

HLO P9933W DATABASE keyword is ignored if database name is specified with tablespace or indexspace.

説明: データベース名が DATABASE パラメーターによって指定され、TABLESPACE パラメーター値または INDEXSPACE パラメーター値の一部としても指定されています。DATABASE パラメーター値は無視されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO P9934E An error was detected in the VALUEIF clause for field specification <field_name>.

説明: VALUEIF 節のフィールド選択基準のフィールド名が、ロードされる表に定義されているどのフィールド指定のフィールド名とも一致していません。

ユーザーの処置: LOAD ユーティリティー・ジョブ・ステップの INTO-TABLE の部分で、VALUEIF 節のフィールド選択基準またはエラーのあるフィールド指定を訂正して、VALUEIF 節のフィールド選択基準のフィールド名がフィールド指定のフィールド名と一致するようにしてください。その後、ユーティリティー・ジョブを再実行してください。

HLO P9935E An operand of the DISCARDTO keyword is missing and must be specified.

説明: CHECK DATA ユーティリティー構文に DISCARDTO キーワードが指定されましたが、いずれかのオペランドが指定されていませんでした。このキーワードには両方のオペランドが必要です。

ユーザーの処置: DISCARDTO キーワードに両方のオペランドを指定して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9936E An operand of the DISCARDSPACE keyword is missing and must be specified.

説明: CHECK DATA ユーティリティー構文に DISCARDSPACE キーワードが指定されましたが、いずれかのオペランドが指定されていませんでした。このキーワードには両方のオペランドが必要です。

ユーザーの処置: DISCARDSPACE キーワードに両方のオペランドを指定して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9937E A zero value for an operand of the DISCARDSPACE keyword was specified.

説明: CHECK DATA ユーティリティー構文に DISCARDSPACE キーワードが指定されましたが、指定されたいずれかのオペランドの値がゼロです。1 次数量と 2 次数量のどちらにもゼロの値は指定できません。

ユーザーの処置: DISCARDSPACE キーワードの両方のオペランドに有効な値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。有効な値は、-1、または 1 から 4,194,304 です。

HLO P9938E A value greater than the allowed maximum was specified in the DISCARDSPACE keyword.

説明: CHECK DATA ユーティリティー構文に DISCARDSPACE キーワードが指定されましたが、指定されたいずれかのオペランドが許可されている最大値を超えていました。

ユーザーの処置: DISCARDSPACE キーワードの両方のオペランドに有効な値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。有効な値は、-1、または 1 から 4,194,304 です。

HLO P9939E Keyword PRESORT is incompatible with &VARIABLE (where &VARIABLE can be one of the following values: FORMAT UNLOAD, FORMAT SQLDS, FORMAT INTERNAL, or NO FIELD SPECS).

説明: 示されている基準では、PRESORT はサポートされていません。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9940E Value exceeds maximum length for PRACTICE NAME <practice_name>.

説明: DSNUTILB ポリシーで、示されているプラクティス名の長さが、許可されている最大長の 32 文字を超えています。このメッセージには、エラーのあるプラクティス名の最初の 32 文字が示されます。

ユーザーの処置: DSNUTILB ポリシーで、示されているプラクティス名を訂正して、許可されている最大長を超えないようにしてください。訂正した後、ジョブを再実行依頼してください。PRACTICE エレメントについて詳しくは、製品資料を参照してください。

HLO P9941E Attribute <attribute_name> is duplicated within a single element RULE.

説明: DSNUTILB ポリシーで、メッセージ・テキストに示されている属性が単一エレメント RULE の中で重複しています。

ユーザーの処置: DSNUTILB ポリシーで、単一エレメント RULE で重複している属性を削除して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9942E Invalid specification for keyword <keyword>.

説明: 指定されたパーティション番号が無効です。パーティション番号は、1 から 4096 でなければなりません。最初の値は 2 番目の値より小さくなければなりません。

ユーザーの処置: 指定したパーティション番号を訂正してください。パーティション番号の指定については、製品資料を参照してください。POLICY 内で訂正を行った後、開始タスクを再開してください。

HLO P9943E Keyword *keyword1* is incompatible with keyword *keyword2*.

説明: ロード・ユーティリティー・ジョブ入力ストリームで、示されている両方のキーワードが存在することはできません。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9944E Value length of attribute <attribute_name> is more than <attribute_length> characters.

説明: DSNUTILB ポリシーで、示されている属性値の長さが、許可されている最大長を超えています。

ユーザーの処置: 属性値を修正してください。属性につ

いて詳しくは、製品資料を参照してください。

HLO P9945W Invalid operand <operand>.

説明: 示されているオペランドは、DB2 バージョン 9.1 以降を実行している場合のロード処理にのみ有効です。

ユーザーの処置: 示されているオペランドを削除して、ジョブを再開してください。詳しくは、製品のユーザー・ガイドのロード処理の機能拡張に関するセクションを参照してください。

HLO P9946E Only one table can be specified for load processing when you use the option <keyword_name>.

説明: 示されているオプションは、LOAD ステートメントの複数の表ではサポートされていません。

ユーザーの処置: 表を 1 つのみ指定して、ジョブを再開してください。詳しくは、製品資料を参照してください。

HLO P9947 I PRESORT was forced due to KEYWORD <keyword_name>.

説明: 示されているオプションでは、PRESORT が指定されていない場合、指定されている場合と同様に LOAD 処理が続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO P9948E Keyword <keyword_name> is incompatible with keyword <keyword_name>.

説明: 示されているキーワードを構文の中で一緒に使用することはできません。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9949E Keyword IDAA_DUAL ON <accelerator_name> is incompatible with keyword IDAA_ONLY ON <accelerator_name>.

説明: 示されているキーワードは一緒に使用できません。いずれか 1 つのキーワードのみをジョブに指定できます。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9950E Invalid length of accelerator name.

説明: キーワード IDAA_DUAL ON <accelerator_name> および IDAA_ONLY ON <accelerator_name> のアクセラレーター名は必須であり、その長さは 8 文字を超えることはできません。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9951E Keyword <keyword_name> is not supported when loading partition level SYSRECs.

説明: LOAD ユーティリティ・ステートメントで PART *n* INDDN が指定される場合、示されているキーワードはサポートされません。

ユーザーの処置: サポートされていないキーワードを削除して、ロード・ユーティリティ・ジョブを再実行してください。

HLO P9952 I The ACCEL_LOAD_TASKS value is outside the supported range of 1 - <max_value>.

説明: LOAD ユーティリティ・ステートメントの ACCEL_LOAD_TASKS オプションに指定されている値は、サポートされている値の範囲外です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO P9953E IDAA_ONLY loads do not support discard data sets.

説明: アクセラレーターのみをロードしている場合 (オプション IDAA_ONLY)、破棄データ・セットを指定することはできません。

ユーザーの処置: JCL から SYSDISC DD 名を削除するか、LOAD ステートメントから DISCARD DDN キーワードを削除して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9954E Field specifications are required for IDAA_DUAL and IDAA_ONLY LOADs.

説明: アクセラレーターをロードする場合 (オプション IDAA_ONLY)、またはアクセラレーターと DB2 をロードする場合 (オプション IDAA_DUAL)、LOAD ユーティリティの INTO TABLE 節にフィールド指定を含める必要があります。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9955E The value specified for ACCEL_LOAD_TASKS is invalid.

説明: ACCEL_LOAD_TASKS オプションに有効な値は、1 から *<max_tasks_value>* です。最適な結果を得るために、この値は、IBM DB2 Analytics Accelerator 環境変数 AQT_MAX_UNLOAD_IN_PARALLEL の設定と一致させてください。

ユーザーの処置: ACCEL_LOAD_TASKS 値を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9956E ACCEL_LOAD_TASKS is only valid with IDAA_DUAL and IDAA_ONLY LOADs.

説明: ACCEL_LOAD_TASKS オプションは、IDAA_DUAL オプションまたは IDAA_ONLY オプションも指定する場合にのみ指定できます。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9957E The value specified for ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE is invalid. Valid values are: YES | NO.

説明: LOAD ユーティリティー・オプション ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE に指定された値は無効です。

ユーザーの処置: ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE 値を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO P9958E ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE is only valid with IDAA_DUAL and IDAA_ONLY type LOAD jobs.

説明: ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE オプションは、IDAA_DUAL オプションまたは IDAA_ONLY オプションも指定される場合にのみ指定できます。

ユーザーの処置: LOAD ユーティリティー構文を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO S0000 I DB2 Analytics Accelerator Loader *<product_version>*, FMID=*<product_fmids>*, COMPONENT ID=*<product_compids>*.

説明: このメッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader 構成のバージョンとリリース、FMID (リリースの ID)、およびコンポーネント ID の情報が示されます。これは、開始タスクの開始後に開始タスクの SYSPRINT データ・セットに対して発行される最初のメッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0001 I Started task initialization is in progress

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの初期設定が開始されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0002 I Started task initialization is complete

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの初期設定処理が正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0003 I Started task termination is in progress

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの終了処理が開始されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0004 I Started task termination is complete

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、終了処理を正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0007 I TCB: *<tcba_address>* *<component_name>* - Component initialization is complete

説明: 示されているコンポーネントの初期設定が正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0009 I TCB: *<tcba_address>* *<component_name>* - Component termination is complete

説明: 示されているコンポーネントの終了が正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0010E TCB: *<tcba_address>* *<component_name>* - Component initialization failed.

説明: 示されているコンポーネントの初期設定は正常終了しませんでした。

ユーザーの処置: 初期設定の失敗の原因を判別するには、このコンポーネントについて発行されたその他のメッセージを確認してください。

HLO S0012S TCB: *< tcb_address >* *< component_name >*
received an unexpected post code. Post code=*< post_code >*.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0013S TCB: *< tcb_address >* *< component_name >*
received an unexpected request code. Request code=*< request_code >*.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0014 I SVC installation is complete. SVC number = *< svc_number >*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 監視プログラム呼び出し (SVC) が正常にインストールされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0015 I Removing SVC. SVC number = *< svc_number >*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 監視プログラム呼び出し (SVC) の削除が進行中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0016E SVC installation failed. SVC number = *< svc_number >*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 監視プログラム呼び出し (SVC) のインストールは正常終了しませんでした。

ユーザーの処置: SVC のインストールの失敗について詳しくは、このメッセージに付随するメッセージを確認してください。

HLO S0017S SVC removal failed. SVC number = *< svc_number >*, **RC =** *< return_code >*,
Reason = *< reason_text >*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 監視プログラム呼び出し (SVC) の削除は正常終了しませんでした。このメッセージには、この失敗に関する戻りコードと理由が示されます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。戻りコードと理由のテキストを含めて、このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0018E SVC installation failed. SVC number=*< svc_number >*,
RC=*< return_code >*, **reason=***< reason_text >*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 監視プログラム呼び出し (SVC) のインストールは正常終了しませんでした。このメッセージには、この失敗に関する戻りコードと理由が示されます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。戻りコードと理由のテキストを含めて、このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0019 I COMX: *comx_address*, **COMI:**
comi_address, **SVC EPA:**
svc_entry_point_address, **MNTLEVEL:**
maintenance_level

説明: このメッセージは、サポートに問題解決のための診断情報を提供することを目的として、他のメッセージに付随して発行されます。

ユーザーの処置: サポート担当員に要求されたときに、この情報を IBM ソフトウェア・サポートに提供してください。

HLO S0020 I Logging has been started.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、HLO LOG 表へのログ情報の書き込みを開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0021 I Logging has been terminated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、HLO LOG 表へのログ情報の書き込みを停止しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0022 I Auditing has been started.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、HLO AUDIT 表への監査情報の書き込みを開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0023 I Auditing has been terminated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、HLO AUDIT 表への監査情報の書き込みを停止しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0024 I Tracing has been started.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、内部トレース・テーブルへのトレース情報の書き込みを開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0025 I Tracing has been terminated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、内部トレース・テーブルへのトレース情報の書き込みを停止しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0080 I Product initialization parameters:

説明: このメッセージでは、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクに定義されている初期設定パラメーターのリストを紹介しています。このリストは、開始タスクの開始時に出力されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0081 I *parm_name = parm_value_dec*

説明: このメッセージには、示されている開始タスク初期設定オプションの現行の 10 進値が示されます。このメッセージは、10 進値が有効な値であるオプションについてのみ発行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0082 I *parm_name = parm_value_char*

説明: このメッセージには、示されている開始タスク初期設定パラメーターの現行の整数値が示されます。このメッセージは、整数値が有効な値であるパラメーターについてのみ発行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0083S A value for the initialization parameter '*parm_name*' must be specified

説明: 示されている開始タスク初期設定パラメーターが初期設定パラメーター・ファイルに含まれていないか、

ブランクのみで構成された値が指定されています。このパラメーターは必須であり、非ブランクの値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: この初期設定パラメーターが初期設定パラメーター・ファイル内にあること、および非ブランクの値に設定されていることを確認してください。

HLO S0085W '*parm_name*' must have a value from *parm_min* through *parm_max*. Parameter defaulted to: *parm_def*.

説明: 示されている DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスク初期設定パラメーターに設定されている値が、このパラメーターに許可されている範囲内にありません。結果として、この値は、パラメーターのデフォルト値に変更されます。

ユーザーの処置: デフォルト値を受け入れるか、初期設定オプション・メンバーでこのパラメーターに許可されている値の範囲内にある値を指定してください。

HLO S0101 I TCB: <*tcb_address*> Session created.

SESS: *session_token-session_number-session_type-session_job_name-session_job_ID-session_asid-session_user*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader セッションが作成されました。セッションは、このメッセージで「SESS」の後にリストされている情報によって識別されます。

- *Session_token* は、内部セッション ID です。
- *Session_number* は、新規セッションが作成されるたびに増分的に生成される固有のセッション ID です。
- *Session_type* は、セッションがバッチ・ジョブ (B)、ISPF ユーザー (I)、DSNUTILB インターセプト (U)、または HLO MAINT ユーティリティのものであることを示します。
- *Session_job_name* は、セッションに関連付けられているジョブの名前です。
- *Session_job_ID* は、セッションに関連付けられているジョブの ID です。
- *Session_asid* は、ユーザー・タイプ (セッション・タイプ) の 16 進アドレス・スペース ID です。
- *Session_user* は、ユーザー ID です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0103 I TCB: <tcbl_address> Session terminated. SESS:session_token-session_number-session_type-session_job_name-session_job_ID-session_asid-session_user

説明: 示されているタスク制御ブロック (TCB) アドレス・スペースを使用していた DB2 Analytics Accelerator Loader セッションが終了しました。このセッションの属性は、このメッセージで「SESS」の後にリストされています。

- *Session_token* は、内部セッション ID です。
- *Session_number* は、新規セッションが作成されるたびに増分的に生成される固有のセッション ID です。
- *Session_type* は、セッションがバッチ・ジョブ (B)、ISPF ユーザー (I)、DSNUTILB インターセプト (U)、または HLO MAINT ユーティリティのものであることを示します。
- *Session_job_name* は、セッションに関連付けられているジョブの名前です。
- *Session_job_ID* は、セッションに関連付けられているジョブの ID です。
- *Session_asid* は、ユーザー・タイプ (セッション・タイプ) の 16 進アドレス・スペース ID です。
- *Session_user* は、ユーザー ID です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0200E TCB: <tcbl_address> DB2 Call Attach Facility request <caf_request> failed, RC=<return_code>, RSN=<reason_code>.

説明: DB2 呼び出し接続機能 (CAF) が、示されている CAF 要求について、このメッセージに含まれている戻りコードと理由コードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージに示されている戻りコードと理由コードをサポートに提供してください。

HLO S0201S TCB: <tcbl_address> A Connect-to-DB2 request was received for db2_ssid, but a connection already exists.

説明: 示されている DB2 サブシステムに接続するための要求を受け取りました。しかし、そのサブシステムへの接続は既に確立されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0202E TCB: <tcbl_address> db2_error_msg

説明: SQL または DB2 計測機能インターフェース (IFI) の操作中にエラーが発生しました。このメッセージには、エラー発生時に DB2 DSNTIAR メッセージ形式ルーチンが発行したメッセージのテキストが示されません。

原因として、開始タスクに操作を実行するための適切な許可がないことが考えられます。開始タスクには、データ共有グループ内のすべてのアクティブなサブシステムに対するシステム管理権限 (SYSADM) が必要です。

ユーザーの処置: このエラーについて詳しくは、IBM DB2 メッセージの資料を参照してください。

HLO S0203 I TCB: <tcbl_address> Connection to DB2 was successful. SSID=db2_ssid

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されている DB2 サブシステムに正常に接続しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0204 I TCB: <tcbl_address> Disconnection from DB2 was successful. SSID=db2_ssid

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されている DB2 サブシステムから正常に切断しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0205S TCB: <tcbl_address> STIMER SET failed. RC=<return_code>. Processing continues.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、STIMERM マクロを使用して時間間隔を設定できませんでした。処理は続行されます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0206S TCB: <tcbl_address> STIMER CANCEL failed. RC=<return_code>. Processing continues.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、STIMERM マクロを使用して時間間隔を取り消すことができませんでした。処理は続行されます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0207E TCB: <tcbl_address> DB2

Instrumentation Facility request
<ifi_request> **failed**, RC=<return_code>,
RSN=<reason_code>, SSID=<db2_ssid>.

説明: DB2 計測機能インターフェース (IFI) に対する、示されている要求は、示されている SSID で、示されている戻りコードと理由コードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージに示されている戻りコードと理由コードをサポートに提供してください。

HLO S0208 I TCB: <tcbl_address> Session:

<session_token> - **CANCEL THREAD**
issued for thread token thread_token

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対して CANCEL THREAD コマンドを発行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0209E TCB: <tcbl_address> Connection to DB2 failed. SSID=db2_ssid

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されている SSID を持つ DB2 サブシステムに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 接続の失敗の原因を判別するには、メッセージ・ログでメッセージ HLO S0202E を確認してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0210E TCB: <tcbl_address> Fatal error while processing the DB2 trace record: place_marker

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が DB2 トレース・レコードを処理しているときにリカバリー不能エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0211 I db2_error_msg

説明: DB2 メッセージ形式サービス DSNTIAR が、SQL または IFI の操作によって実行されたアクションに応答して、このメッセージに続くメッセージをフォーマットしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0212 I TCB: <tcbl_address>. Lock data returned for ace token <ace_token>.

説明: DB2 計測機能 (IFI) が、示されているエース・トークンに関するロック・データを返しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0213 I TCB: <tcbl_address> Session: <session_token> - CANCEL THREAD NOBACKOUT was issued for thread token thread_token

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対して、NOBACKOUT オプションを指定して CANCEL THREAD コマンドを発行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0214E Escalated Cancel is not supported for threads executing on a remote DB2 system.

説明: エスカレート取り消しコマンドは、接続先の DB2 システムでアクティブになっているスレッドでのみサポートされます。通常の DB2 取り消しコマンドを使用して、同じデータ共有グループのメンバーになっている他の DB2 サブシステムでアクティブになっているスレッドを終了してください。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0215 I TCB: <tcbl_address> Session: <session_token> - ESCALATED THREAD CANCEL was issued for thread token thread_token

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドのエスカレート取り消しを実行しました。エスカレート取り消しは、オペレーター・コンソールを介してコマンドを発行し、スレッドを保持しているプロセスを終了します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0216E Escalated Cancel is not supported for connection type connection_type

説明: エスカレート取り消しコマンドは、示されている接続タイプではサポートされていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0217 I ESCALATED THREAD CANCEL
was issued for thread token
*thread_token***

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドのエスカレート取り消しを実行しました。エスカレート取り消しは、オペレーター・コンソールを介してコマンドを発行し、スレッドを保持しているプロセスを終了します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0218 I CANCEL THREAD was not issued
because a unit of recovery exists for
token *thread_token***

説明: 取り消しタイプとして NO BACKOUT オプションが指定されていたため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対して CANCEL THREAD コマンドを発行しませんでした。このオプションは、スレッドに未処理のリカバリー単位が存在する場合に取り消しが行われないようにします。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0219 I CANCEL THREAD was not issued
because unit of recovery status is
unknown for token *thread_token***

説明: 取り消しタイプとして NO BACKOUT オプションが指定されていたため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対して CANCEL THREAD コマンドを発行しませんでした。このオプションは、リカバリー単位情報を使用できない場合に取り消しが行われないようにします。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0220 I TCB: <*tcb_address*> Session:
<*session_token*> - CANCEL THREAD
requested for thread token *thread_token***

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対する CANCEL THREAD 要求を受け取りました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0221E TCB: <*tcb_address*> Session:
<*session_token*> - CANCEL THREAD
request failed security check for
thread token *thread_token***

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対する CANCEL THREAD 要求を受け取りました。しかし、要求は、セキュリティ出口検査に合格しなかったために失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0222E TCB: <*tcb_address*> Session:
<*session_token*> - pre-cancel exit denied
cancel request.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対する CANCEL THREAD 要求を受け取りました。しかし、要求は、取り消し前出口検査に合格しなかったために失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0223E TCB: <*tcb_address*> Session:
<*session_token*> - ESCALATED
CANCEL not allowed by startup parm**

説明: このタイプの取り消しを許可しない開始タスク初期設定オプションが指定されているため、エスカレート取り消しを実行できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0224E TCB: <*tcb_address*> Session:
<*session_token*> - CANCEL THREAD
suppressed for HLO token *thread_token***

説明: DB2 CANCEL THREAD コマンドおよびエスカレート取り消しコマンド (z/OS オペレーターの CANCEL コマンド) は、現行の DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクではサポートされていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0225E CANCEL THREAD request failed
security check for thread token
*thread_token***

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対する CANCEL THREAD 要求を受け取りました。しかし、要求は、セキュリティ出口検査に合格しなかったために失敗しました。

HLO S0226E • HLO S0234E

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0226E CANCEL THREAD request was denied by the pre-cancel exit for token *thread_token*

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、示されているスレッド・トークン値が指定されているスレッドに対する CANCEL THREAD 要求を受け取りました。しかし、要求は、取り消し前出口検査に合格しなかったために失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0227E TCB: <*tcb_address*> Session: <*session_token*> Start trace failed for instrumentation facility call

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、計測機能インターフェースの呼び出し前に DB2 モニター・トレース機能を開始しようとした。しかし、この試行は失敗しました。

原因として、開始タスクに操作を実行するための適切な許可がないことが考えられます。開始タスクには、データ共有グループ内のすべてのアクティブなサブシステムに対するシステム管理権限 (SYSADM) が必要です。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0228E TCB: <*tcb_address*> Session: <*session_token*> Start trace failed for get_threads request

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、get_threads 要求のために DB2 モニター・トレース機能を開始しようとした。しかし、この試行は失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0229E TCB: <*tcb_address*> Session: <*session_token*> Start trace failed for get_thread_detail request

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、get_thread_detail 要求のために DB2 モニター・トレース機能を開始しようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0230E DB2 CAF request <*db2_ssid*>, <*return_code*>, <*reason_code*>.

説明: DB2 呼び出し接続機能 (CAF) が、示されている CAF 要求について、このメッセージに含まれている戻りコードと理由コードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージに示されている戻りコードと理由コードをサポートに提供してください。

HLO S0231E TCB: <*tcb_address*> Session: <*session_token*> Start trace failed for get_objects_referenced request

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、get_objects_referenced 要求のために DB2 モニター・トレース機能を開始しようとした。しかし、この試行は失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0232E TCB: <*tcb_address*> Session: <*session_token*> -IP Address conversion error. RC=<*return_code*>, RSN=<*reason_code*>, *<*message_continuation_number*>.*

説明: フォーマット済み IP アドレスを 2 進数表現に変換しているときに、内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO S0233E TCB: <*tcb_address*> Session: <*session_token*> -IP Address conversion error. RC=<*return_code*>, RSN=<*reason_code*>, *<*message_continuation_number*>.*

説明: フォーマット済み IP アドレスを 2 進数表現に変換しているときに、内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO S0234E *<*message_continuation_number*>* <*ip_address*>.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、外部テキスト形式から内部 2 進形式への IP アドレスの変換に失敗しました。このメッセージに先行するメッセージ HLO S0232E または HLO S0233E に、このエラーの戻

りコードと理由コードが示されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0235W TCB: tcb_address. Authorization check for DB2 system db2_ssid failed.

説明: 開始タスク許可 ID に、示されている DB2 システムに対する必要最小限の許可が付与されていません。

ユーザーの処置: 開始タスク許可 ID に必要な許可を付与してください。許可の要件については、ユーザーズ・ガイドを参照してください。

HLO S0236E TCB: tcb_address. Authorization for primary DB2 system db2_ssid is insufficient.

説明: 開始タスク許可 ID に、1 次 DB2 システムに対する必要最小限の許可が付与されていません。

ユーザーの処置: 開始タスク許可 ID に必要な許可を付与してください。許可の要件については、ユーザーズ・ガイドを参照してください。

HLO S0237 I TCB: <tcb_address>. Messages from stored procedure <stored_procedure_name>.

説明: 示されているストアード・プロシージャへの呼び出しにより、1 つ以上のメッセージが返されました。返されたメッセージ・テキストについては、メッセージ HLO S0238I を確認してください。

ユーザーの処置: 返されたメッセージについて詳しくは、「DB2 Analytics Accelerator for z/OS Stored Procedures」資料を参照してください。

HLO S0238 I TCB: <tcb_address> MSGTEXT: <message_text>.

説明: ストアード・プロシージャが、正常終了または終了失敗の後でメッセージ・テキストを返しました。

ユーザーの処置: 返されたメッセージについて詳しくは、「DB2 Analytics Accelerator for z/OS Stored Procedures」資料を参照してください。

HLO S0300E TCB: <tcb_address> IEAVRLS Pause Release failed, RC=<return_code>.

説明: IEAVRLS 休止解放サービスが、示されている戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージに示されている戻りコー

ドをサポートに提供してください。

HLO S0301E TCB:<tcb_address>.

Session=<session_token>. Unable to return result.

説明: 示されている DB2 Analytics Accelerator Loader セッションは、操作の結果をユーザーに返すことができませんでした。

ユーザーの処置: このエラーについて詳しくは、示されているタスク制御ブロック (TCB) およびセッションについて発行されたその他のメッセージを確認してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0302E TCB: <tcb_address> HLO SRSLT bad parms, Session: <session_token>, FBUF=fbuf_address, UBUF=ubuf_address

説明: 内部エラーが発生しました。DB2 Analytics Accelerator Loader は、無効な FBUF アドレス・ポインターまたは UBUF アドレス・ポインターを使用して HLO SRSLT 結果処理プログラムを呼び出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0303 I TCB: <tcb_address> Failure to obtain ALET, Session:session_token

説明: 内部エラーが発生しました。DB2 Analytics Accelerator Loader は、クロスメモリー・アドレッシングを容易に行うための ALET トークンを取得できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0304 I TCB: <tcb_address> STOKEN release failure

説明: 内部エラーが発生しました。DB2 Analytics Accelerator Loader は、クロスメモリー・アドレッシングに関連する STOKEN トークンを解放できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0305S TCB: <tcb_address> Session failed.

SESS:session_token csect_name/offset_value/variable_value/variable_name

説明: 内部エラーが発生しました。DB2 Analytics Accelerator Loader は、クロスメモリー・アドレスを検

HLO S0306E • HLO S0401S

証できませんでした。この失敗の原因として、クライアント・アドレス・スペースの異常終了が考えられます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0306E TCB: <tcbl_address> SQL Error occurred. Module: module_name offset_value.

説明: SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーについて詳しくは、このメッセージに続く HLO S0202E メッセージの情報を確認してください。また、エラーの理由を判別するために、DB2 メッセージの資料を参照してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージに示されている TCB アドレスおよびモジュール名をサポートに提供してください。

HLO S0307E TCB: <tcbl_address> SRB Processing returned, RC=<return_code>, RSN=<reason_code>, RSN1=<extended_reason_code>.

説明: SRB 処理が、示されているエラー・コードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージに示されている戻りコードをサポート担当員に提供してください。

HLO S0308W TCB: <tcbl_address> Unable to determine the index space name for DBID: database_id OBID: object_id

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、このメッセージに示されている DBID および OBID の索引スペース名を判別できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0309W TCB: <tcbl_address> Unable to determine the table space name for DBID: database_id OBID: object_id

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、このメッセージに示されている DBID および OBID の表スペース名を判別できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0310W TCB: <tcbl_address> Unable to access HLO LOG table

説明: HLO LOG 表が見つかりませんでした。そのため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、この表にメッセージを書き込むことができません。この表は、1 次サブシステムでカスタマイズ時に作成されているはずで

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader のカスタマイズ手順を確認してください。Tools Customizer が 1 次サブシステム用に作成した DDL メンバーを使用して HLO LOG 表を作成したことを確認してください。また、product_idOPTS メンバーの DB2_SSID オプションが、HLO LOG 表が配置されている DB2 サブシステムを指定していることを確認してください。

HLO S0311W TCB: <tcbl_address> Unable to access HLO AUDIT table

説明: HLO AUDIT 表が見つかりませんでした。そのため、製品は、この表に監査情報を書き込むことができません。この表は、1 次サブシステムでカスタマイズ時に作成されているはずで

ユーザーの処置: 製品のカスタマイズ手順を確認してください。Tools Customizer が 1 次サブシステム用に作成したメンバーを使用して HLO AUDIT 表を作成したことを確認してください。また、HLO OPTS メンバーの DB2_SSID オプションが、HLO AUDIT 表が配置されている DB2 サブシステムを指定していることを確認してください。

HLO S0400S Task Manager initialization failed

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader タスク管理コンポーネントが開始タスクの初期設定中に障害を起こしました。処理は終了します。

ユーザーの処置: このエラーについて詳しくは、このメッセージの直前に発行された他のメッセージを確認してください。この問題を解決するために支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0401S Component ID=component_id Component not found in the MEPL table

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0402S Attach failed. Program=<program_name>, RC=<return_code>, RSN=<reason_code>.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0403W TCB: <tcb_address>, Detach failed. RC=<return_code>, RSN=<reason_code>.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0404S TCB: <tcb_address> Subtask failed. Termination ECB: event_control_block.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0405S TCB: <tcb_address> Subtask unexpectedly posted init ECB. Initialization ECB: event_control_block.

説明: 示されているイベント制御ブロック (ECB) に関連する内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0406S TCB: <tcb_address> Subtask failed during initialization. Termination ECB: event_control_block.

説明: 示されているイベント制御ブロック (ECB) に関連する内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0407W Task manager received an unexpected command code. Command code=<command_code>.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡

してください。このメッセージのテキスト全体をサポートに提供してください。

HLO S0408S No DB2 task started. Processing will be terminated.

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0409E Cannot connect to the DB2 subsystem db2_subsystem as required. Processing will be terminated.

説明: 初期設定オプション・メンバーで指定されている DB2 サブシステムがアクティブでないため、DB2 Analytics Accelerator Loader はこのサブシステムに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 初期設定オプション・メンバーで指定されている DB2 サブシステムが始動されていて、DB2 Analytics Accelerator Loader で使用できることを確認してください。

HLO S0500 I TCB: <tcb_address> Session: <session_token> SSID: db2_ssid BLOCKER ID: thread_blocker_id *message_continuation_number*

説明: 示されているブロkker ID を持つスレッド・ブロッキング操作が開始されました。このメッセージに続くメッセージに、操作および DB2 オブジェクトの状況変更が示されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0501 I *message_continuation_number* (cancel_specification_number) DB: database_name SP: space_name PART: partition_number OLD: old_status NEW: new_status

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、スレッド・ブロッキング操作の実行中に、示されている DB2 オブジェクトの状況を変更しました。このメッセージには、オブジェクトの以前の状況と新しい状況が示されません。メッセージ HLO S0500I に、スレッド・ブロッキング操作のブロkker ID が示されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0502 I **message_continuation_number**
(cancel_specification_number) **DB:**
database_name **SP:** *space_name* **PART:**
partition_number

説明: 示されている DB2 オブジェクトでスレッドが既にブロックされていたため、DB2 Analytics Accelerator Loaderは、そのオブジェクトに対してスレッド・ブロッキング操作を実行できませんでした。メッセージ HLO S0503I に、スレッド・ブロッキング操作のブロッカー ID が示されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0503W **message_continuation_number** **Object already blocked by blocker ID**
blocker_id

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、メッセージ HLO S0500I に示されているブロッカー ID が指定されていて、メッセージ HLO S0502I に示されている DB2 オブジェクト上のスレッドをブロックしようとしていたスレッド・ブロッキング操作を実行できませんでした。そのオブジェクト上のスレッドは、このメッセージに示されているブロッカー ID を持つ以前のスレッド・ブロッキング操作によって既にブロックされています。ジョブ・ステップに ON_FAILURE (CONTINUE) パラメーターが指定されているため、現行のスレッド・ブロッキング操作の処理は続行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0504E **message_continuation_number** **The blocker ID specified was not found for delete.**

説明: 示されているスレッド・ブロッカー ID に関する情報を DB2 Analytics Accelerator Loader オブジェクト状況表 (HLO OBJSTAT) から削除しようとした。この表にはそのブロッカー ID に関する情報が含まれていなかったため、この試行は失敗しました。

ユーザーの処置: スレッド・ブロッカー・ジョブ・ステップの EXEC ステートメントの PARM で指定されているブロッカー ID のスペルが正しいことを確認してください。

HLO S0505E **message_continuation_number** **Thread blocker ID is already in use.**

説明: ブロッカー ID が既に使用中であるため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、DB2 オブジェクトに対してスレッド・ブロッキング操作を実行できませんでした。ブロッカー ID は、メッセージ HLO S0500I に示されています。

ユーザーの処置: 固有のブロッカー ID を指定してください。

HLO S0506W **message_continuation_number**
(cancel_specification_number) **No objects could be resolved for cancel specification.**

説明: この取り消し指定でスレッド・ブロッキング・アクションのデータベースおよびスペースのオブジェクトを解決しようとしたが、失敗しました。オブジェクトが DB2 カタログで検出されませんでした。

ユーザーの処置: 取り消し指定で指定されているオブジェクト名のスペルが正しいことを確認してください。ワイルドカード・パターンが指定されている場合、それらが正しい DB2 オブジェクトに解決されることを確認してください。

HLO S0507 I **message_continuation_number** **Blocker ID deleted.**

説明: 示されているブロッカー ID がオブジェクト状況表から削除されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0508 I **message_continuation_number** **No objects to reset for this blocker ID.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、オブジェクト状況表 (ABOBSSTAT) でブロッカー ID と一致する行を検出できませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0509 I **message_continuation_number** **Reset status processing initiated.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、以前のエラー状態に回答してオブジェクト状況をリセットするための処理を開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0510 I **message_continuation_number** **Thread blocker operation is**
thread_blocker_operation

説明: このメッセージには、現行のスレッド・ブロッキング操作が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0511E **message_continuation_number**
(*cancel_specification_number*) **No objects could be resolved for cancel specification.**

説明: この取り消し指定でスレッド・ブロッキング・アクションのデータベースおよびスペースのオブジェクトを解決しようとしたのですが、失敗しました。オブジェクトが DB2 カタログで検出されませんでした。ジョブ・ステップに ON_FAILURE (TERMINATE) パラメーターが指定されていたため、処理は終了します。

ユーザーの処置: 取り消し指定で指定されているオブジェクト名のスペルが正しいことを確認してください。ワイルドカード・パターンが指定されている場合、それらが正しい DB2 オブジェクトに解決されることを確認してください。

HLO S0512E **message_continuation_number** **Object already blocked by blocker ID**
blocker_id

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、HLO S0500I メッセージに示されているブロッカー ID が指定されていて、HLO S0502I メッセージに示されている DB2 オブジェクト上のスレッドをブロックしようとしていたスレッド・ブロッキング操作を実行できませんでした。そのオブジェクト上のスレッドは、以前のスレッド・ブロッキング操作によって既にブロックされています。このメッセージには、以前のスレッド・ブロッキング操作のブロッカー ID が示されます。ジョブ・ステップに ON_FAILURE (TERMINATE) パラメーターが指定されていたため、現行のスレッド・ブロッキング操作の処理は終了しました。

ユーザーの処置: 現行のスレッド・ブロッキング操作が以前のスレッド・ブロッキング操作と競合しているかどうかを判別してください。競合している場合は、ALLOW_THREADS ジョブ・ステップまたは DELETE_BLOCKERID ジョブ・ステップが以前のスレッド・ブロッキング操作を終了するまで待ってください。競合していない場合は、現行のスレッド・ブロッキング操作の ON_FAILURE パラメーター値を CONTINUE に変更して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO S0513 I **message_continuation_number**
(*cancel_specification_number*) **DB:**
database_name SP: space_name PART:
partition_number **Object not found**

説明: 示されている DB2 オブジェクトは存在しなくなっているため、DB2 Analytics Accelerator Loader はこのオブジェクトの状況を変更できませんでした。メッセ

ージ HLO S0500I に、スレッド・ブロッキング操作のブロッカー ID が示されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0514 I **message_continuation_number**
(*cancel_specification_number*) **DB:**
database_name SP: space_name PART:
partition_number OLD: old_status

説明: 示されている DB2 オブジェクトは既に望ましい状態にあるため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、スレッド・ブロッキング操作の実行中にこのオブジェクトの状況を変更しませんでした。メッセージ HLO S0500I に、スレッド・ブロッキング操作のブロッカー ID が示されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0515 I **message_continuation_number** **Thread blocker is suppressed for DB2 system object database_name.**

説明: スレッド・ブロッカー操作は、DB2 システム・データベースの DSNDB01、DSNDB06、および DSNDB07 に対して抑止されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0516W **message_continuation_number**
(*cancel_specification_number*) **DB:**
database_name SP: space_name PART:
partition_number **Partition number is invalid.**

説明: スレッド・ブロッカー操作は、無効なパーティション番号の指定を検出しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0517E **message_continuation_number**
(*cancel_specification_number*) **DB:**
database_name SP: space_name PART:
partition_number **Partition number is invalid.**

説明: スレッド・ブロッカー操作は、DB2 バージョン 7 システムで無効なパーティション番号の指定を検出しました。スレッド・ブロッカー操作を続行できません。

ユーザーの処置: パーティションの指定を訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO S0518E *message_continuation_number*
(cancel_specification_number) DB:
database_name SP: space_name PART:
partition_number Partition number is
invalid.

説明: スレッド・ブロkker操作は、パーティション化されていないスペースにパーティション番号が指定されていることを検出しました。スレッド・ブロkker操作を続行できません。

ユーザーの処置: パーティションの指定を訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO S0519 I Thread blocker is suppressed for
DB2 Analytics Accelerator Loader
configuration object DB: database_name
SP: space_name.

説明: スレッド・ブロkker操作は、DB2 Analytics Accelerator Loader 構成データベースに対して抑止されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0520E *message_continuation_number* Userid
user_id denied access to blocker
operation by security exit.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 構成のセキュリティ出口により、示されているユーザーはスレッド・ブロkker操作を実行できませんでした。

ユーザーの処置: スレッド・ブロkker操作を実行するには、ユーザーにセキュリティ出口で適切な権限が与与されている必要があります。

HLO S0521 I Thread blocker is suppressed for the
DB2 object with type TEMP or
WORKFILE: database_name

説明: WORKFILE または TEMP として定義されているデータベースを RO 状況または UT 状況で開始することはできないため、そのようなオブジェクトに対してスレッド・ブロkker操作を試行してはなりません。そのため、スレッド・ブロkker操作は、データベース内で SYSIBM.SYSDATABASE TYPE 列に値「W」または「T」が指定されているオブジェクトに対して抑止されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0600 I DSNUTILB interception for DB2
SSID=DB2_ssid is enabled.

説明: 示されている DB2 サブシステムに対して DSNUTILB インターセプト・サービスが使用可能になりました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0601 I DSNUTILB interception for DB2
SSID=DB2_ssid is disabled.

説明: 示されている DB2 サブシステムに対して DSNUTILB インターセプト・サービスが使用不可になりました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0602W DSNUTILB interception for DB2
SSID=DB2_ssid not enabled.
Interception being performed by HLO
ID=product_id.

説明: 既に別の DB2 Analytics Accelerator Loader システムがインターセプト・サービスを提供していたため、このメッセージに示されている DB2 サブシステムに対して DSNUTILB インターセプト・サービスは使用可能に設定されませんでした。

ユーザーの処置: DSNUTILB インターセプト・ポリシーの DB2 サブシステムのリストが正しいことを確認してください。特定の DB2 サブシステムにインターセプト・サービスを提供できる DB2 Analytics Accelerator Loader システムは一度に 1 つのみです。

HLO S0603W DSNUTILB interception for DB2
SSID=DB2_ssid not enabled, product
cannot connect to the subsystem

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader がこのメッセージに示されている DB2 サブシステムに接続できないため、その DB2 サブシステムに対して DSNUTILB インターセプト・サービスは使用可能に設定されませんでした。

ユーザーの処置: DSNUTILB インターセプト・ポリシーで指定されている DB2 サブシステムのリストが正しいことを確認してください。特定の DB2 サブシステムにインターセプト・サービスを提供できる DB2 Analytics Accelerator Loader システムは一度に 1 つのみです。DB2 Analytics Accelerator Loader には、インターセプト・サービスを提供する DB2 サブシステムに適切にバインドされたプランが必要です。

**HLO S0604W DSNUTILB interception for DB2
SSID=*db2_ssid* not enabled, DB2
subsystem is not active.**

説明: このメッセージに示されている DB2 サブシステムは非アクティブであるため、そのサブシステムに対して DSNUTILB インターセプト・サービスは使用可能に設定されませんでした。

ユーザーの処置: DSNUTILB インターセプト・ポリシーで指定されている DB2 サブシステムのリストが正しいことを確認してください。特定の DB2 サブシステムにインターセプト・サービスを提供できる DB2 Analytics Accelerator Loader システムは一度に 1 つのみです。

**HLO S0605W DSNUTILB interception for *db2_ssid*
not enabled, insufficient authority.**

説明: このメッセージに示されている DB2 サブシステムに対する DB2 Analytics Accelerator Loader の権限が不十分であるため、その DB2 サブシステムに対して DSNUTILB インターセプト・サービスは使用可能に設定されませんでした。

ユーザーの処置: 開始タスク許可 ID に必要な許可を付与してください。許可の要件については、ユーザーズ・ガイドを参照してください。

**HLO S0608W TCB: <*tcb_address*>: Count of DB2
systems exceeds 256. Startup detection
disabled for SSID <*db2_ssid*>.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、ポリシーによって参照される DB2 サブシステムの数が最大数の 256 を超えていることを検出しました。

ユーザーの処置: 参照される DB2 サブシステムの数減らしてポリシーを調整してください。

**HLO S0700 I TCB *tcb_address* SESSION REPORT
*message_continuation_number***

説明: セッション・レポートが開始されました。後続のメッセージに、現在アクティブになっているセッションに関する詳細が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0701 I *message_continuation_number* SESS:
Session_token **Session_number**
Session_type *Session_job_name*
Session_job_ID *Session_asid* *Session_user***

説明: 製品セッションの詳細。セッションは、このメッ

セージで「SESS」の後に示される情報によって識別されます。

- *Session_token* は、内部セッション ID です。
- *Session_number* は、新規セッションが作成されるたびに増分的に生成される固有のセッション ID です。
- *Session_type* は、セッションがバッチ・ジョブ (B)、ISPF ユーザー (I)、DSNUTILB インターセプト (U)、または HLO MAINT ユーティリティのものであることを示します。
- *Session_job_name* は、セッションに関連付けられているジョブの名前です。
- *Session_job_ID* は、セッションに関連付けられているジョブの ID です。
- *Session_asid* は、ユーザー・タイプ (セッション・タイプ) の 16 進アドレス・スペース ID です。
- *Session_user* は、ユーザー ID です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0702 I *message_continuation_number* STATUS:
*session_status***

説明: セッション状況。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0703 I *message_continuation_number*
STARTED: *session_start_time***

説明: セッションが開始された日時。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0704 I *message_continuation_number* No active
sessions found**

説明: アクティブ・セッションは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO S0804W The trace table is too small. Tracing
will be disabled. Required minimum
size= *trace_table_minimum_size*,
Requested size= *trace_table_requested_size***

説明: トレース・テーブルのサイズは内部トレースを実行するには小さすぎます。トレースは無効になりますが、製品の操作は続行されます。

ユーザーの処置: トレース・テーブルのサイズを、少なくともこのメッセージに示されている最小サイズまで増やしてください。

HLO S0805W The trace table entry is larger than the trace table. Trace table size= trace_table_size, Trace entry size= trace_table_entry_size

説明: トレース情報項目のサイズが、トレース・テーブルのサイズよりも大きくなっています。この項目はトレース・テーブルに記録できません。

ユーザーの処置: トレース・テーブルのサイズを増やしてください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0806 I The user_exit_type User Exit user_exit_name is now in use.

説明: 示されているユーザー出口は使用中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0807S A severe error occurred while attempting to load the exit_type user exit exit_name

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクで、示されているユーザー出口をロードしようとして重大エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 以下の要件が満たされていることを確認してください。1) 出口が適切にアセンブルされてリンクされていること。2) 出口が、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクがアクセス可能な STEPLIB 連結ロード・ライブラリーにあること。3) 開始タスク初期設定オプション・メンバーで出口名が正しく指定されていること。

HLO S0808S A severe error occurred within exit_type user exit exit_name, FUNC=exit_function

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクで、示されているユーザー出口内の重大エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ユーザー出口の問題の診断を支援するために、MVS SVC ダンプが生成されています。問題を修正した後、出口をアセンブルしてリンクしてください。その後、DB2 Analytics Accelerator Loader を再始動してください。

HLO S0809S A severe internal error occurred preparing to drive the exit_type user exit exit_name, FUNC=exit_function

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクで、示されているユーザー出口を実行するために準備し

ているときに重大な内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0810 I The user_exit_type User Exit user_exit_name is now inactive.

説明: 示されているユーザー出口はアクティブではなくなっています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0811S The <user_exit_type> user exit <user_exit_name> FUNC=<user_exit_func> RC=12. The started task is terminating.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクは、示されているユーザー出口から戻りコード RC=12 を受け取りました。そのため、開始タスクは終了しています。

ユーザーの処置: ユーザー出口が RC=12 を発行する原因となった問題を特定して訂正してください。その後、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクを再開してください。

HLO S0812 I MODULE LEVEL DATE TIME EPA RREPA CC F1 F2 F3 SEQ

説明: このメッセージには、モジュール入り口点リスト (MEPL) 制御ブロック内のフィールドが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0813 I <module_name>, <maintenance_level>, <assembly_date>, <assembly_time>, <entry_point_address>, <rr_entry_point_address>, <component_code>, <flag_byte_1>, <flag_byte_2>, <flag_byte_3>, <sequence_number>.

説明: このメッセージには、モジュール入り口点リスト (MEPL) 制御ブロックのフィールドのデータが示されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0814 I Command issued: command_text

説明: このメッセージには、z/OS コンソールから発行された DB2 Analytics Accelerator Loader オペレーター・コマンドが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0815E Unrecognized command

説明: 不明なオペレーター・コマンドが DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクに対して発行されました。

ユーザーの処置: 有効な DB2 Analytics Accelerator Loader コマンドを指定してください。

HLO S0816E Invalid keyword provided for command: *command_name*

説明: このメッセージに示されている DB2 Analytics Accelerator Loader コマンドに、無効なキーワードが指定されました。

ユーザーの処置: このコマンドに有効なキーワードを指定してください。正しい構文については、DB2 Analytics Accelerator Loader の資料を参照してください。

HLO S0817 I *command_scope* DSNUTILB intercept status is: *dsnutilb_intercept_status*

説明: このメッセージには、開始タスクのローカル DSNUTILB インターセプト状況または z/OS イメージ全体のグローバル DSNUTILB インターセプト状況のいずれかが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0818 I *help_text*

説明: このメッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクについて発行された HELP コンソール・コマンドからの出力が示されます。このコマンドは、開始タスクでサポートされているすべてのコンソール・コマンドをリストします。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0819E Trace table size is zero. Trace table display is not possible.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader トレース・テーブルの SNAP が要求されましたが、トレース・テーブルは存在していません。トレース・テーブルが存在していないのは、トレース・テーブルのサイズ・オプションがゼロに設定されているためです。そのため、トレース・データを表示できません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 内部トレース・データを記録できるようにするには、開始タスク初期設定オプション・メンバーでトレース・テーブルのサイズをゼロ以外の値に設定してください。

HLO S0820W A display of the trace table is already in progress.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader トレース・テーブルの SNAP は既に進行中です。そのため、この追加の要求は無視されます。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 内部トレース・テーブルを再び表示するには、現在の表示要求が完了するまで待ってください。

HLO S0821 I Trace table display is complete.

説明: 要求された DB2 Analytics Accelerator Loader 内部トレース・テーブルの表示は完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0822 I DB2SSID=*db2_ssid* DB2VER=*db2_version* HLO ID=*configuration_id* DSNUTILB interception is *dsnutilb_interception_status*

説明: このメッセージには、示されている DB2 サブシステムの DSNUTILB インターセプト状況が示されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0823E Address contains invalid hex digits

説明: コンソール・コマンドで無効なアドレスが指定されました。アドレスに無効文字が含まれていました。アドレスは、0 から 9 と A から F までの文字のみで構成された 8 桁の 16 進数でなければなりません。

ユーザーの処置: コマンドに有効な 16 進アドレスを指定してください。

HLO S0824E Address is not for an active session

説明: TERMINATE SESSION コンソール・コマンドで指定されたアドレスは、アクティブ・セッションを参照していません。セッションが既に終了しているか、誤ったアドレスが入力された可能性があります。

ユーザーの処置: セッション・アドレスが正しく入力されていることを確認してください。セッション・アドレスが誤っていた場合は、有効なセッション・アドレスを指定して TERMINATE SESSION コマンドを再発行してください。アドレスが正しい場合は、セッションが既に終了しているため、さらなる処置を実行する必要はありません。

HLO S0830 I DSNUTILB Intercept Policy:

説明: このメッセージでは、DSNUTILB インターセプト・ポリシーを紹介しています。ポリシーの詳細は、このメッセージに続くメッセージに示されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0831 I DB2 SSID: *db2_ssid* ACTION: *action* | ACTION: VRUPDATE - SUBMIT_FROM_SERVER

説明: このメッセージには、示されている DB2 サブシステムの DSNUTILB インターセプト・ポリシーのセクションと、実行する定義済みアクションが示されます。

SUBMIT_FROM_SERVER="NO"がポリシーから除外されている場合、メッセージ HLO S0831I には、「HLO S0831I DB2 SSID: *db2_ssid* ACTION: *action*」と示されます。

ポリシーで SUBMIT_FROM_SERVER="YES"が指定されている場合、メッセージ HLO S0831I には、「HLO S0831I DB2 SSID: *db2_ssid* ACTION: VRUPDATE - SUBMIT_FROM_SERVER」 と示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0832 I Rule type: *rule_type*

説明: このメッセージには、DSNUTILB インターセプト・ポリシーの INCLUDE ルールまたは EXCLUDE ルールが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0833 I *rule_number delimiter rule_element_type* *delimiter rule_element_data*

説明: このメッセージには、DSNUTILB インターセプト・ポリシーに指定されている RULE エlementが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0834I DSNUTILB intercept is inactive.

説明: 初期設定オプションで DSNUTILB インターセプトがオフに設定されていたために、コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0835 I Active PRACTICE: *practice_name*

説明: このメッセージには、DSNUTILB インターセプト・ポリシーのアクティブなプラクティスの名前が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0836 I DB2 Analytics Accelerator Loader started task practice report

説明: このメッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクに対して発行された LIST PRACTICE コンソール・コマンドまたは DISPLAY PRACTICE コンソール・コマンドからの出力が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S0840E TCB: <*tcb_address*>. Error on INSERT to table SYSAUTO.UTILITYRUNS_HISTORY.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader ポリシーで ACTION=AUTO_DIRECTOR が指定されましたが、ユーティリティ実行履歴表に行を挿入しようとしたときに製品でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader SYSPRINT でその他の定様式 SQL エラー・メッセージを参照してください。

HLO S0841W TCB: <*tcb_address*>. DB2 Autonomics Director collection disabled. BBY\$NMIC bad offset to data.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクで検出されたモジュール BBY\$NMIC に、有効なバージョンを指していないデータ構造に対するオフセットが含まれています。DB2 Autonomics Director ユーティリティの履歴収集は使用できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0898D DEBUG: Field: *field_name* Value: *field_value*

説明: 初期設定オプション・メンバーで指定されている DB2 サブシステムがアクティブでないため、DB2 Analytics Accelerator Loader はこのサブシステムに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 初期設定オプション・メンバーで指定されている DB2 サブシステムが始動されていて、DB2

Analytics Accelerator Loader で使用できることを確認してください。

HLO S0899D **DEBUG: P Len:** *plan_length* **P Name:** *plan_name* **Q Len:** *qual_length* **N Len:** *name_length* **IN1:** *type_1* **IN2:** *type_2*
Flag: *flag*

説明: 初期設定オプション・メンバーで指定されている DB2 サブシステムがアクティブでないため、DB2 Analytics Accelerator Loader はこのサブシステムに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 初期設定オプション・メンバーで指定されている DB2 サブシステムが始動されていて、DB2 Analytics Accelerator Loader で使用できることを確認してください。

HLO S0900E **The product is not APF-authorized and is terminating.**

説明: 製品開始タスクのロード・ライブラリーは、要求されたように APF 許可ではありません。そのため、製品は終了しています。

ユーザーの処置: 開始タスクのロード・ライブラリーを APF 許可して、製品を再び始動してください。

HLO S0901S **RVT locate or allocate operation failed.**

説明: 製品は、RVT 制御ブロックを見つけられないか、割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0902S **DB2 Analytics Accelerator Loader started task ESTAE entered,**
S<*system_completion_code*>,
U<*user_completion_code*>.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのメインタスクでエラーが発生しました。ダンプが生成されました。

ユーザーの処置: ダンプ・データを確認して、問題を診断し、解決してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0903S **ESTAE processing completed**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、開始タスクのメインタスクで発生したエラーに関するダンプの生成を終了しました。

ユーザーの処置: ダンプ・データを確認して、問題を診断してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0904S **Started task subtask ESTAE entered,**
S<*system_completion_code*>,
U<*user_completion_code*>.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのサブタスクでエラーが発生しました。ダンプが生成されました。

ユーザーの処置: ダンプ・データを確認して、問題を診断し、解決してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0905S **User exit for the started task encountered an error. A dump was created. System**
RC=<*system_completion_code*>, **user**
RC=<*user_completion_code*>.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクに指定されたセキュリティ出口、取り消し前出口、取り消し後出口の実行時にエラーが発生しました。診断に使用するためのダンプが生成されています。

ユーザーの処置: ダンプ・データを確認して、ユーザー出口に関する問題を解決してください。すべてのユーザー出口の名前は、開始タスク初期設定オプション・メンバーで指定されています。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0906S **SVC removal failed**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、開始タスクの停止時に監視プログラム呼び出し (SVC) を削除できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S0907S **HLO GMODL Load Failed for**
MEPL=*mep1_name*.

説明: 製品開始タスクの初期設定中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 開始タスクの JCL が適切な STEPLIB を指していることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO S0908S HLO GMODL Load Failed for MEPL
entry=*mepe_name*.**

説明: 製品開始タスクの初期設定中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 開始タスクの JCL が適切な STEPLIB を指していることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO S0909S Started task subtask ESTAE entered,
system RC=<*system_completion_code*>,
user RC=<*user_completion_code*>.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのサブタスクでエラーが発生しました。問題の診断を支援するためにダンプが作成されます。

ユーザーの処置: ダンプ・データを確認して、問題を診断してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO S0910E A job name conflict with a started
task has been identified. The product
is terminating.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのジョブ名が、z/OS システム上の別の開始タスクのジョブ名と競合しています。そのため、製品は終了しています。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの名前、または競合している開始タスクの名前のいずれかを変更してから、DB2 Analytics Accelerator Loader を再び始動してください。

**HLO S0911E A job name conflict with a batch job
has been identified. The product is
terminating.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのジョブ名が、この z/OS システム上のバッチ・ジョブの名前と競合しています。そのため、製品は終了しています。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの名前、または競合しているバッチ・ジョブの名前のいずれかを変更してから、DB2 Analytics Accelerator Loader を再び始動してください。

HLO S0912E HLO ID already in use. Terminating.

説明: z/OS システムで実行されている別の DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクと同じ ID が指定されています。各製品開始タスクには固有 ID が必要です。そのため、このメッセージが発行された対象の開始タスクは終了しています。

ユーザーの処置: システムで同時に実行されるすべての製品開始タスクに固有 ID が指定されていることを確認してください。

HLO S0913 I ESTAE SDUMPX call

**RC=<*short_system_return_code*>,
RS=<*short_system_reason_code*>.**

説明: ESTAE 処理中に、z/OS SDUMPX 機能への呼び出しにより、示されている戻りコードと理由コードが返されました。

ユーザーの処置: RC=08 の場合、該当する SDUMPX の資料で理由コードを確認してください。その後、適切な診断ダンプを取得するために必要な変更をダンプ・サービスに加えてください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO S5100 I TCB: <*tcb_address*> Session:

**<*session_token*> SSID: *db2_ssid*
DSNUTILB utility id : *utility_id*
message_continuation**

説明: 示されている DSNUTILB ユーティリティ ID の DSNUTILB インターセプト操作が開始されました。このメッセージに続くメッセージに、インターセプト操作が示され、操作に関連するデータが表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S5101 I **message_continuation_number
DSNUTILB intercept operation is
DSNUTILB_*intercept_operation***

説明: このメッセージには、開始タスクによって実行されている現行の DSNUTILB インターセプト・ワーク・リスト管理操作が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S5102 I **message_continuation_number
(*DSNUTILB_statement_sequence_no.*)
Event: *DSNUTILB_event* Status:
*DSNUTILB_event_status***

説明: DSNUTILB ワーク・リストが、このメッセージに示されている情報で更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S5103 I **<message_continuation_number>**
 (<DSNUTILB_statement_sequence_no.>)
event=<DSNUTILB_event>,
status=<DSNUTILB_event_status>, **return**
code=<DSNUTILB_event_rc>.

説明: DSNUTILB ワーク・リストが、このメッセージに示されている情報で更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S5104E **message_continuation_number** **Unable to save worklist due to duplicate utility ID.**

説明: 同じ DSNUTILB ユーティリティー ID を持つワーク・リストが既に保管されているため、DSNUTILB ワーク・リストを保管できませんでした。ワーク・リストのユーティリティー ID は重複してはなりません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S5110 I DSNUTILB intercept operation was successful.

説明: 現行の DSNUTILB インターセプト操作が正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S5111E **message_continuation_number**
DSNUTILB intercept operation failed

説明: 現行の DSNUTILB インターセプト操作が失敗しました。

ユーザーの処置: この失敗の原因を判別するには、このエラーより前にログで報告された SQL エラーを確認してください。

HLO S5112W TCB: <*tcb_address*> **No worklist data found to delete for UTILID:**
db2_utility_id

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 保守ユーティリティーは、示されている DB2 ユーティリティー ID のワーク・リスト・データを検出できませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO S5113 I **message_continuation_number** **Worklist is in use by another utility. Owing Session: <session_token>**

説明: 現在、ワーク・リストは別のユーティリティーによって使用されています。DB2 ユーティリティー ID のワーク・リストが既に存在していて、現在、別のユーティリティー・ジョブによって使用されているため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、そのユーティリティー実行をインターセプトしません。このメッセージには、所有しているユーティリティー・セッションのセッション・トークン値が示されます。ワーク・リストを現在使用しているユーティリティー・ジョブのジョブ名およびジョブ ID を判別するには、一致するセッション・トークン値を示す前の HLO S0101I メッセージを確認してください。

ユーザーの処置: 必要に応じて、インターセプトする DSNUTILB ユーティリティー・ジョブのユーティリティー ID の変更、ワーク・リストを現在使用しているジョブの完了の待機、あるいは (別のユーティリティーが所有セッションを終了せずに異常終了した場合は) 所有セッションを強制終了するための TERMINATE SESSION コンソール・コマンドの使用のいずれのアクションでも実行できます。

HLO S5550E LE preinitialization service failed.
Operation=<*operation_name*>,
RC=<*return_code*>.

説明: 示されている Language Environment® (LE) 事前初期設定サービス操作は、示されている戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO S9999S Message formatter failed.
Message=<*message_id*>,
RC=<*return_code*>, **Reason**=<*reason_text*>.

説明: 示されているメッセージのフォーマット中にエラーが発生しました。このエラーがストレージの取得または解放に関連している場合、ストレージの詳細を示すメッセージ HLO S0802E または HLO S0803E も発行されます。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別するには、このメッセージに示されている戻りコードと理由のテキストを確認してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5001 I DB2 Analytics Accelerator Loader
product_version, FMID=product_fmids,
COMP_ID=product_compid

説明: このメッセージには、DB2 Analytics Accelerator Loader 構成に関する製品のバージョンとリリース、FMID、およびコンポーネント ID の情報が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5002 I Initialization is complete.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader の DSNUTILB インターセプト・コンポーネントの初期設定処理が正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5003I Intercept completed.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、この DB2 ユーティリティ実行のインターセプト処理を完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5004 I Analysis started. Step=step_number

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、この DB2 ユーティリティ・コマンドの分析フェーズを開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5005 I Analysis completed.

RC=<return_code>.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、この DB2 ユーティリティ・コマンドの分析フェーズを完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5006 I Thread cancel started.

Step=step_number

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、この DB2 ユーティリティ・コマンドのスレッド取り消し処理フェーズを開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5007 I Thread cancel completed.

RC=<return_code>.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、この DB2 ユーティリティ・コマンドのスレッド取り消し処理フェーズを完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5008 I Utility execution started.

Step=step_number

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、このユーティリティ・コマンドの DB2 ユーティリティ実行フェーズを開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5009 I Utility execution completed.

SYS=<system_abend_code>,

USR=<dsnutilb_return_code>.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、DB2 ユーティリティ・コマンドのユーティリティ実行フェーズを完了しました。このメッセージには、DSNUTILB プログラムからの戻りコード (USR 値) が示されます。DSNUTILB プログラムがシステム異常終了によって異常終了した場合、メッセージには、システム異常終了コード (SYS 値) も示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5010 I Allow threads started.

Step=step_number

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、この DB2 ユーティリティ・コマンドの許可スレッド処理フェーズを開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5011 I Allow threads completed.

RC=return_code

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、この DB2 ユーティリティ・コマンドの許可スレッド処理フェーズを完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5012 I Connected to started task HLO

ID=product_identifier.

説明: DB2 DSNUTILB ジョブは、示されている DB2

Analytics Accelerator Loader 開始タスクに接続しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5013E Unable to connect to DB2
subsystem=db2_ssid**

説明: DB2 DSNUTILB ジョブは、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクを介して、示されている DB2 サブシステムに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 必要な DB2 サブシステムが作動可能であることを確認してください。

**HLO U5014 I Delete blocker ID processing
started. Step=step_number**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader の DSNUTILB インターセプト・コンポーネントは、DB2 ユーティリティ・コマンドのスレッド・ブロッカー処理のブロッカー ID 削除フェーズを開始しました。このメッセージには、DELETE_BLOCKER_ID ステップのステップ番号が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5015 I Delete blocker ID processing
completed. RC=return_code**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader の DSNUTILB インターセプト・コンポーネントは、DB2 ユーティリティ・コマンドのスレッド・ブロッカー処理の DELETE_BLOCKER_ID ステップを完了しました。このステップは、示されている戻りコードで完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5016E Utility abended.

**SYS=system_abend_code,
USR=dsnutilb_return_code**

説明: システム異常終了が原因で DSNUTILB プログラムが異常終了したため、DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、DB2 ユーティリティ・コマンドの実行フェーズを完了できませんでした。このメッセージには、システム異常終了コード (SYS 値) および DSNUTILB 戻りコード (USR 値) が示されます。このメッセージは、WTO メッセージとして発行されます。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別するには、該当する IBM 資料でシステム異常終了コードおよび DSNUTILB 戻りコードを検索してください。

HLO U5017E SORT EXIT ERROR: error_reason

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、DB2 LOAD ユーティリティの追加のオプションを実装するために使用するソート出口でエラーを検出しました。エラーの説明については、このメッセージに示されているエラーの理由を確認してください。

ユーザーの処置: エラーがデータ変換の失敗に関連している場合は、データを訂正して、LOAD ユーティリティを再実行してください。エラーが製品の内部エラーに関連している場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5018 I SORT execution completed.

**SYS=system_abend_code,
USR=dsnutilb_return_code**

説明: SORT が完了しました。このメッセージには、SORT プログラムからの戻りコード (USR 値) が示されます。システム異常終了が原因で SORT プログラムが異常終了した場合、メッセージには、システム異常終了コード (SYS 値) も示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5019E SORT ended abnormally. DSNUTILB
will be canceled with an S222 abend.**

説明: DSNUTILB インターセプト中に SORT 処理が異常終了しました。DSNUTILB プログラムは、S222 異常終了によって取り消されます。

ユーザーの処置: SORT の失敗の原因を判別するには、SORT プログラムによって生成されたメッセージを確認してください。その後、この問題を修正して、ジョブを再実行してください。DSNUTILB プログラムの S222 異常終了は無視しても問題ありません。

HLO U5020E Cancel syntax member

cancel_syntax_member was not found.

説明: OPTIONS の HLO BMAIN_CANCEL_MEMBER で指定された HLO BMAIN 取り消し構文メンバーは、パラメーター・ライブラリーで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 必要なメンバーがパラメーター・ライブラリーに存在していて、オプション・メンバーで正しく指定されていることを確認してください。

HLO U5021E Global syntax member*global_syntax_member was not found.*

説明: OPTIONS の HLO

BMAIN_GLOBAL_MEMBER で指定された HLO BMAIN グローバル構文メンバーは、パラメーター・ライブラリーで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 必要なメンバーがパラメーター・ライブラリーに存在していて、オプション・メンバーで正しく指定されていることを確認してください。

HLO U5022E Subtask *module_name* terminated unexpectedly. SYS=*system_abend_code*, USR=*return_code*.

説明: DSNUTILB インターセプト・サービスによって接続されたタスクが予期せず終了しました。システム異常終了が原因でプログラムが異常終了した場合、メッセージには、システム異常終了コード (SYS 値) が示されます。このメッセージには、プログラムからの戻りコード (USR 値) が示されます。

ユーザーの処置: ジョブを再実行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5023E Unsupported SYSREC data set type RECFM=*record_format*, DS SEQNO=*data_set_sequence_number*.

説明: 製品で、サポートされないレコード・フォーマットの SYSREC データ・セットが検出されました。SYSREC データ・セットの RECFM は F または V でなければなりません。スパン・レコード・フォーマットと、RECFM=U および D はサポートされていません。

ユーザーの処置: 適切な SYSREC データ・セットを指定してジョブを再実行してください。

HLO U5024W Unable to load the accelerator due to IDENTITY column *column_name*. Loading only DB2.

説明: 表に、値が指定されていない IDENTITY 列が含まれています。製品は IDENTITY 列値を生成できず、そのために二重ロード (アクセラレーターと DB2 の方法へのデータのロード) を実行できません。

ACCEL_ON_UNSUPPORTED_LOAD オプションは LOAD_DB2 に設定されています。そのため、二重ロードは、DB2 のみへのロードに変換されます。

ユーザーの処置: DB2 のみへのロードが完了した後、ACCEL_LOAD_TABLES ストアド・プロシージャを実行して、データを DB2 からアクセラレーターにロ

ードし、アクセラレーター表を DB2 表と同期してください。

HLO U5025E Generation of identity column values is not supported. Col: *column_name*.

説明: 表に、GENERATE ALWAYS として定義されている ID 列が存在しているか、フィールド指定が含まれていない ID 列が存在しています。製品は、ID 列の値を生成できません。

ユーザーの処置: ID 列が GENERATE BY DEFAULT として定義されている場合、列のフィールド指定を含めることを検討してください。ID 列が GENERATE ALWAYS として定義されている場合、製品を使用して表をロードすることはできません。

HLO U5026E Unable to load the client API module *<module_name>*.

説明: 示されているクライアント API モジュールをメモリーにロードできませんでした。原因として、製品が正しくインストールされていないか、ロード・ライブラリーがバッチ・ジョブ STEPLIB に連結されていないことが考えられます。

ユーザーの処置: 製品ロード・ライブラリーがバッチ・ジョブの STEPLIB または JOBLIB に含まれていることを確認してください。

HLO U5027E No EXEC SQL DECLARE CURSOR statement was found for ACCEL_CURSOR *<cursor_name>*.

説明: ACCEL_CURSOR 節で指定されているカーソルに対して、DECLARE CURSOR ステートメントを指定する必要があります。

ユーザーの処置: EXEC SQL DECLARE CURSOR ステートメントを DB2 Analytics Accelerator Loader 制御カードに追加して、ジョブを再実行してください。

HLO U5028 E Invalid partitioning key definition for a table with data loader managed partitioning.

説明: 表のパーティション・キーに ACCEL_PARTITION_KEYCOL 列が含まれています。これは、ロードの並列処理を可能にするために、製品がパーティショニングを管理する必要があることを示しています。データ・ローダー管理パーティショニングには、ACCEL_PARTITION_KEYCOL という単一の INTEGER タイプの列で構成されるパーティション・キーが必要です。表のパーティション・キーは、この要件を満たしていません。

- | ユーザーの処置: ターゲット表の定義を訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5029E CALLTYPE <call_type> API call failed with RC <return_code> Server <server_name>.

説明: 呼び出されたクライアント API が失敗しました。ジョブは終了します。

ユーザーの処置: サーバー稼働していることを確認してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5030E RECV call failed. RC <return_code> SQLCODE <sql_code>.

説明: 製品が DB2 Analytics Accelerator Loader サーバーからデータをフェッチしようとしたときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ジョブ・ログで、詳細情報を示すその他のエラー・メッセージがないか確認してください。SQL ステートメントを調べて、正しくコーディングされていることを確認してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5031 E The client did not return an SQLDA.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader では、SQLDA が DB2 Analytics Accelerator Loader サーバーからデータをロードする必要があります。クライアントは、SQLDA を返すことができませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5032E The source and target tables must have the same number of columns.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader サーバーからデータをロードする場合、ソース表には、アクセラレーター上のターゲット表と同じ数の列が必要です。ただし、例外として、ターゲット表が範囲パーティション表である場合は、DB2 とアクセラレーターのターゲット表の一部にする必要がある特殊な ACCEL_PARTITION_KEYCOL 列をソース表に含めることはできません。

ユーザーの処置: ターゲット表の定義を訂正するか、DB2 Analytics Accelerator Loader サーバーの SQL ステートメントを変更して、ジョブを再実行してください。

HLO U5033 E Column <column_name> is not nullable, but DB2 Analytics Accelerator Loader Server column <column_number> is.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader サーバー表の列が NULL として定義されている場合、ターゲットの DB2 列も NULL 可能でなければなりません。

ユーザーの処置: ターゲットの DB2 表の定義を訂正して、ジョブを再実行してください。

| **HLO U5034E DATA TYPE <data_type> COLUMN <column_name> not compatible with SQLTYPE <sql_type>, COLNO <column_number>.**

| 説明: 示されているターゲット列のデータ・タイプが、ソース表の列のデータ・タイプと互換性がありません。

| ユーザーの処置: ターゲットの DB2 表の定義を訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5035E The scale of COLUMN <column_name> does not match that of DB2 Analytics Accelerator Loader Server column <column_number>.

説明: ターゲットの DB2 列の 10 進法の位取りは、DB2 Analytics Accelerator Loader サーバー表の列の位取りと一致している必要があります。

ユーザーの処置: ターゲットの DB2 表の定義を訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5036E COLUMN <column_name> data type <column_type> is not supported with ACCEL_CURSOR.

説明: 示されているターゲットの DB2 列は、DB2 Analytics Accelerator Loader サーバーからデータをロードする場合にはサポートされません。

ユーザーの処置: ターゲットの DB2 表の定義を訂正して、ジョブを再実行してください。

| **HLO U5037E MSGTEXT <message_text>.**

| 説明: RECV 呼び出しが失敗した後、クライアントがエラー・メッセージを返しました。

| ユーザーの処置: エラーの追加情報については、製品のジョブ・ログを確認してください。

HLO U5046E The version of the IBM DB2 Analytics Accelerator does not support LOAD RESUME.

説明: LOAD RESUME を使用するには、IBM DB2 Analytics Accelerator バージョン 4.1.5 以降が必要です。

ユーザーの処置: IBM DB2 Analytics Accelerator をサポート対象バージョンにアップグレードするか、ジョブの構文を変更して表のデータを置き換えてください。

HLO U5047 I No data was loaded to the accelerator.

説明: アクセラレーターにデータはロードされませんでした。ユーティリティー実行中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: SYSPRINT エラー・メッセージで説明されている問題を修正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5048E HLO PIPE error: Function=x'10' LOOKUP_RC=<return_code>.

説明: 製品は、ワークロード・マネージャー (WLM) で実行されていた UNLOAD をインターセプトしました。UNLOAD をトリガーしたバッチ・ジョブが、UNLOAD をエラーで強制終了するように要求しました。このイベントは、バッチ・ジョブでロード・プロセス中にエラーが発生したことを示しています。このメッセージは、DSNUTILU WLM アドレス・スペースでのみ発行されます。

ユーザーの処置: バッチ・ジョブ出力で詳細を確認してください。

HLO U5049E DB2 was successfully loaded but not the accelerator. Rerun this job with the option IDAA_ONLY.

説明: IDAA_DUAL および LOAD RESUME を指定したロード・ジョブは、DB2 表を正常にロードしましたが、アクセラレーターをロードすることはできませんでした。

ユーザーの処置: アクセラレーターのロードの原因となった状態を修正してから、IDAA_ONLY キーワードを指定してジョブを再実行してください。

HLO U5050W Accelerator loaded during prior failed utility execution. Only DB2 will be loaded.

説明: これは、失敗した IDAA_DUAL LOAD RESUME ジョブの再開です。失敗したユーティリティーは、すべてのデータをアクセラレーターに正常にロードしました。そのため、この再開では、DB2 のみがロードされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5051E The target table is not defined in DB2.

説明: ロードのターゲットである表が DB2 に定義されていません。

ユーザーの処置: 表名を訂正するか、DB2 で表を作成してから、ジョブを再実行してください。

HLO U5200E API Initialization failed.

説明: DSNUTILB インターフェース・プログラムは、初期設定の完了に失敗しました。この失敗は、内部 API の初期設定時に発生しました。

ユーザーの処置: 失敗の原因を判別するために、ジョブ出力で、このメッセージに先行するメッセージを確認してください。問題を修正して、ジョブを再実行してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5300 I Processing will not be performed.

説明: この DB2 ユーティリティー実行では DSNUTILB インターセプト処理は実行されません。

ユーザーの処置: インターセプトの失敗の理由を判別するには、このメッセージに先行するメッセージを確認してください。DSNUTILB インターセプトを実行するには、前のメッセージに示されている問題を修正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5301 I Thread cancel prevented by policy.

説明: 有効になっているインターセプト・ポリシーに基づき、この DSNUTILB ユーティリティーの実行前に、スレッドのブロックと取り消しは行われません。

ユーザーの処置: ユーティリティーに対するスレッドのブロックと取り消しを行うには、この機能を提供するようにインターセプト・ポリシーを編集して、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクを再開してください。

HLO U5302E Unable to rename DSNUTILB DD statements.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が DSNUTILB DD ステートメントの名前を変更できなかったため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。TIOT 内の既存の DDNAME が、利用可能なすべての DDNAME 名前変更パターンと競合していました。

ユーザーの処置: 可能な場合は、DSNUTILB ジョブ・ステップから、以下のいずれかのパターンと競合するすべての DD 割り振りを削除してください。HLO \$____、HLO #____、HLO @ ____、\$HLO ____、#HLO ____、および @HLO ____。競合している DDNAME 割り振りを削除できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を要請してください。

HLO U5303E DDNAME rename operation failed for DDNAME=*original DD name*, new DDNAME=*new DD name*.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が DSNUTILB DD ステートメントの名前を変更できなかったため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5304E SWAREQ failed for DDNAME=*dd_name*, RC=*return_code*.

説明: SWAREQ サービスは、示されている DD 名に JFCB アドレスを提供するために呼び出されたときに、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5305E DSNUTILB returned an error parsing the SYSIN data set.

説明: DSNUTILB パーサーが SYSIN データ・セットの解析中にエラーを返したため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DSNUTILB によって返されたエラー・メッセージを確認してください。SYSIN データ・セットのエラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5306E DSNUTILB syntax parser returned an error while parsing the SYSIN data set.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB ステートメントのパーサーが SYSIN データ・セットの解析中にエラーを返したため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DSNUTILB によって返されたエラー・メッセージを確認してください。SYSIN データ・セットのエラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5307E Unable to determine restart status.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader がユーティリティ ID の再開状況を判別できなかったため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5308 I UTILID in use by stopped utility but no worklist exists.

説明: ユーティリティ ID が停止済みのユーティリティによって使用されており、DB2 Analytics Accelerator Loader 再開表にワーク・リストが存在していないため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5309 I Move worklist failed for utility ID=*utility_ID*.

説明: この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。その理由は、示されているユーティリティ ID のワーク・リストが既に存在していること、再開可能なユーティリティが検出されなかったこと、およびワーク・リストの移動操作が失敗したことです。

ユーザーの処置: ユーザーズ・ガイドで説明されているようにワーク・リストを手動で削除し、ジョブを再実行してください。

HLO U5310 I Restart was specified but no stopped utility was found for utility ID=*utility_ID*.

説明: 再開が要求されましたが、このユーティリティ ID に対する停止済みのユーティリティが検出されな

HLO U5311E • HLO U5320E

かったため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: ユーティリティー・ジョブから再開パラメーターを削除して、ジョブを再実行してください。

HLO U5311E Save worklist failed for utility ID=*utility_ID*.

説明: インターセプト処理に必要なワーク・リストを保管できなかったため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5312E A running utility was found with utility ID=*utility_ID*.

説明: 別のユーティリティーが既に同じユーティリティー ID で実行されているため、この DSNUTILB ユーティリティー・ジョブはインターセプトされません。

ユーザーの処置: 実行中のユーティリティーが終了するまで待つか、このユーティリティー・ジョブに別のユーティリティー ID を指定して、このジョブを再実行してください。

HLO U5313E Get next worklist step failed for utility ID=*utility_ID*.

説明: インターセプト処理に必要なワーク・リスト内の次のステップを取得できないため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5314E Update worklist status failed for utility ID=*utility_ID*.

説明: ワーク・リスト状況を更新できないため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5315E Phase 2 policy processing failed.

説明: インターセプト・ポリシー・プロセスのフェーズ 2 が失敗したため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5316E SET worklist step failed for utility ID=*utility_ID*.

説明: SET ワーク・リスト・ステップ操作が失敗したため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5317S Unable to locate USTI for current step UTILID=*utility_ID*, STEP=*utility_step*.

説明: 内部エラーが発生したため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5318E LISTDEF expansion failed for utility ID=*utility_ID*.

説明: 処理する DB2 オブジェクトを判別するためにユーティリティー ID に指定された LISTDEF を拡張できないため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5319E Save object list failed for utility ID=*utility_ID*.

説明: オブジェクト・リストを保管できないため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5320E SAPI processing failed, RC=*return_code*, RSN=*reason_code*.

説明: SAPI 処理サービスが、SAPI 機能を実行しようとしたときにゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5321E SAPI processing failed,
RC=return_code, RSN=reason_code.

説明: SAPI 処理コンポーネントが SAPI 機能のセットアップ時にゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5322E Listdef processing failed,
RC=return_code, RSN=reason_code.

説明: インターセプトされた DB2 ユーティリティの LISTDEF の処理が、示されているゼロ以外の戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5323S A usable temporary LISTDEF name could not be generated.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader に認識されているすべての一時 LISTDEF 名がユーティリティ・ジョブの SYSIN データ・セットで出現していたため、使用可能な一時 LISTDEF 名を生成できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5324E Merge worklist failed for utility
ID=utility_ID.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader がユーティリティ再開の目的で生成したワーク・リストを元のワーク・リストとマージできないため、この DSNUTILB ユーティリティ実行を続行できません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5325 I Restart in progress for utility
ID=utility_ID

説明: 示されている DB2 ユーティリティ実行がユーザーの要求で再開されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5326E Open failed for DSN=data_set_name

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が示されているデータ・セットをオープンしようとしたときに、障害が発生しました。追加のメッセージに、この問題に関する診断情報が示されます。

ユーザーの処置: 関連するメッセージを確認して、問題を診断してください。問題を解決した後、ユーティリティを再実行してください。

HLO U5327E Open failed. Abend code =
systemCompletionCode, reason =
reasonCode

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader がデータ・セットをオープンしようとしたときに、障害が発生しました。このメッセージには、この障害の完了コードと理由コードが示されます。

ユーザーの処置: エラーの原因となっている問題を解決して、ジョブを再実行してください。

HLO U5328E Open failed. RC=return_code

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader がデータ・セットをオープンしようとしたときに、障害が発生しました。このメッセージには、OPEN マクロからの戻りコードが示されます。

ユーザーの処置: エラーの原因となっている問題を解決して、ジョブを再実行してください。

HLO U5329W Member not found in data set
DSN=data_set_name

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が示されているデータ・セットのメンバーをオープンしようとしたときに、障害が発生しました。メンバーが、データ・セットで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: エラーの原因となっている問題を解決して、ジョブを再実行してください。

HLO U5330 I Original DSNUTILB syntax follows:

説明: このメッセージでは、ユーティリティに対して実行依頼された元の変更前の DSNUTILB 構文を紹介しています。この構文は、このメッセージに続くメッセージ HLO U5331I に示されます。DB2 Analytics Accelerator Loader は、この構文を DSNUTILB プログラムに渡す前に変更します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5331 I *dsnutilb_syntax*

説明: このメッセージには、ユーティリティに対して実行依頼された元の変更前の DSNUTILB 構文の全部または一部が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5332 I **End of original DSNUTILB syntax listing.**

説明: このメッセージには、このユーティリティに対して実行依頼され、前のメッセージ HLO U5331I に示されている元の変更前の DSNUTILB 構文の終わりが示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5333E **TEMPLATE data set name processing failed, RC=return_code, RSN=reason_code.**

説明: TEMPLATE データ・セット名の処理は、エラーが発生したために、示されているゼロ以外の戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5334E **TEMPLATE expansion failed for utility ID=utility_ID.**

説明: LOAD ユーティリティ入力データのデータ・セット名を判別するために LOAD ユーティリティ・ステートメントで参照されている TEMPLATE を拡張できなかったため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5335E **UFSP processing failed, RC=return_code, RSN=reason_code.**

説明: UFSP 処理コンポーネントが、UFSP 機能のセットアップ時に 4 より大きい戻りコードを発行しました。失敗の原因として、表が DB2 に存在していないか、モジュールが必要なストレージ・スペースを取得できなかったことが考えられます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポート担当員に提供してください。

HLO U5336E **An error was detected during DB2 catalog lookup of column column_name.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader UFSP 処理コンポーネントが、DB2 カタログで情報を検索していたときにゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文および DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの SYSPRINT ログをサポート担当員に提供してください。

HLO U5337E **The UFSP component detected an index column with an unsupported data type.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader UFSP 処理コンポーネントが、DB2 LOAD ユーティリティの PRESORT オプションによってサポートされていないデータ・タイプが指定された索引キー列を検出しました。サポートされていないデータ・タイプは、REAL、DOUBLE、FLOAT、DECFLOAT、DISTINCT、BLOB、CLOB、および DBCLOB です。索引キーにサポートされていないデータ・タイプの列が含まれている場合、PRESORT オプションは、入力レコード内のデータを索引キーでソートしません。

ユーザーの処置: LOAD ユーティリティの入力レコード内のデータを索引キーでソートする場合は、手動でソートする必要があります。

HLO U5338E **Session has been terminated by the server.**

説明: セッションがサーバーによって強制終了されたため、DSNUTILB インターセプトは完了しませんでした。

ユーザーの処置: システム管理者と確認して、DSNUTILB インターセプト・プログラムの強制終了の理由を判別してください。

HLO U5339E **Session creation failed RC=return_code, RSN=reason_code, Reason=description**

説明: DSNUTILB インターセプトは、初期設定の完了に失敗しました。この失敗は、DB2 ユーティリティのインターセプト・セッションの作成中に発生しました。

ユーザーの処置: 失敗の原因を判別するために、このメッセージの理由の説明を確認してください。問題を修正して、ジョブを再実行してください。支援が必要な場合

は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5340E Worklist in use by another utility
ID=*utility_ID*

説明: 示されているユーティリティー ID のワーク・リストが既に存在していて、現在、別のユーティリティー・ジョブによって使用されているため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、そのユーティリティー ID に関連付けられている DB2 ユーティリティー実行をインターセプトしません。開始タスクの SYSPRINT データ・セットで対応するメッセージ HLO S5113I を確認して、所有しているユーティリティー・セッションのセッション・トークンを判別してください。

ユーザーの処置: インターセプトするユーティリティー・ジョブのユーティリティー ID を変更するか、ワーク・リストを現在使用しているユーティリティー・ジョブが完了するまで待ってください。その後、インターセプトが失敗したユーティリティー・ジョブを再実行してください。

HLO U5341E Unable to determine restart status for utility ID=*utility_ID*

説明: 現行のワーク・リスト・ステップ内の前回の DB2 ユーティリティー操作の状況がインターセプト・ワーク・リスト表に記録されなかったため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、このユーティリティーを再開すべきかどうかを判別できません。この状況の原因として、予期しないシステム障害が考えられます。

ユーザーの処置: HLO MAINT ユーティリティーを使用して、ユーティリティーの再開状況を設定してください。前回のユーティリティー操作が正常に完了していて、現行のワーク・リスト・ステップの次の操作からユーティリティーを再開する必要がある場合は MARK_COMPLETE、あるいは前回のユーティリティー操作を再開して処理を完了する必要がある場合は FORCE_RESTART のいずれかのオプションをユーティリティーに指定してください。

HLO U5342 I -TERM UTILITY issued by user, cleaning up utility ID=*utility_ID*

説明: ユーティリティーが再開可能状態で終了した後、示されているユーティリティー ID に対して -TERM UTILITY コマンドが発行されました。ユーティリティーは、現行のワーク・リスト・ステップを完了してから終了します。また、DB2 Analytics Accelerator Loader は、このユーティリティー ID に関連付けられているデータをインターセプト・ワーク・リスト表から自動的に

削除します。ユーティリティーは、再開可能ではありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5343 I -TERM UTILITY issued during utility execution for utility ID=*utility_ID*.

説明: ユーティリティーの実行中に、示されているユーティリティー ID に対して -TERM UTILITY コマンドが発行されました。ユーティリティーは、現行のワーク・リスト・ステップを完了してから終了します。また、DB2 Analytics Accelerator Loader は、このユーティリティー ID に関連付けられているデータをインターセプト・ワーク・リスト表から自動的に削除します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5344E Get discard table ROWID failed for utility ID=*utility_ID*

説明: 破棄表 ROWID を取得できないため、この DSNUTILB ユーティリティー実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: 製品開始タスクのログで、このエラーに関連するエラー・メッセージを確認してください。

HLO U5345E Unable to dynamically allocate data set. DD name=*ddname*, RC=*return_code*, RSN=*reason_code*.

説明: 示されている DD は、必要なデータ・セットを動的に割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: JES ジョブ・ログでメッセージを確認して、動的割り振りの失敗の原因を判別してください。エラーの原因となっている問題を解決して、ジョブを再実行してください。

HLO U5346E RDJFCB failed for DDNAME=*ddname*, RC=*return_code*.

説明: RDJFCB サービスは、示されている DD 名で呼び出されたときに、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5347E Open failed in ROUTINE=routine for DD name=ddname, RC=return_code.

説明: 製品が示されている DD 名をオープンしようとしたときに、障害が発生しました。このメッセージには、OPEN マクロからの戻りコードが示されます。

ユーザーの処置: エラーの原因となっている問題を解決して、ジョブを再実行してください。

HLO U5348E ATTACH failed for PROGRAM=program_name, RC=return_code.

説明: ATTACH サービスがゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5349E IDENTIFY failed, RC=return_code.

説明: IDENTIFY サービスがゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5350E The GET_SYSTEM_INFO call failed, RC=return_code.

説明: 開始タスクからシステム情報を取得できなかったため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5351S I/O Hook installation failed because no matching DB2I was found.

説明: 入出力フックを正常にインストールできないため、重大な内部エラーにより、DSNUTILB インターセプトを続行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5352S I/O Hook installation failed, RC=return_code.

説明: 入出力フックを正常にインストールできないため、重大な内部エラーにより、DSNUTILB インターセプトを続行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5353S I/O Hook removal failed, RC=return_code.

説明: 入出力フックを正常に削除できないため、重大な内部エラーにより、DSNUTILB インターセプトを続行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5354S Unknown UOBJ type encountered, UOBJ_OBJECT_TYPE=ujobj_object_type.

説明: UOBJ オブジェクト・タイプが不明であるため、重大な内部エラーにより、DSNUTILB インターセプトを続行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージの全文をサポートに提供してください。

HLO U5356W DSNUTILB syntax parser detected an empty SYSIN data set.

説明: 製品のパーサーが空の SYSIN データ・セットを検出したため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: SYSIN データ・セットのエラーを訂正して、ユーティリティ・ジョブを再実行してください。

HLO U5357E Tape data set detected for DDNAME=ddname

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、DDNAME がテープ・データ・セットを表していることを検出したため、DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5358E Column type is not supported for conversion to DB2 internal format.
TYPE=<columnType>.

説明: データを DB2 内部フォーマットに変換するプロセスでは、示されている列データ・タイプはサポートされていません。

ユーザーの処置: 表に標準の LOAD を使用するか、列のデータ・タイプを変更してください。

HLO U5359E Unable to dynamically allocate SYSREC dataset. RC= return_code
RSN= reason_code.

説明: SYSREC データ・セットを動的に割り振ることができませんでした。メッセージ HLO U5360E でデータ・セット名を確認してください。

ユーザーの処置: JES ジョブ・ログでメッセージを確認して、動的割り振りの失敗の原因を判別してください。エラーの原因となっている問題を解決して、ジョブを再実行してください。

HLO U5360E DSN=data_set_name.

説明: 示されているデータ・セットを動的に割り振ることができませんでした。メッセージ HLO U5359E で動的割り振りの戻りコードと理由コードを確認してください。

ユーザーの処置: JES ジョブ・ログでメッセージを確認して、動的割り振りの失敗の原因を判別してください。問題を解決して、ジョブを再実行してください。

HLO U5361E DEFAULTIF is not supported for partitioning key column column_name.

説明: 製品が、表のパーティション・キーに関与する列で DEFAULTIF キーワードが使用されていることを検出したため、この DSNUTILB ユーティリティ実行はインターセプトされません。DEFAULTIF キーワードをパーティション・キー列で使用することはできません。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5362E Loading a DEFINE NO table space whose data sets have not been created is not supported.

説明: DB2 表スペースが DEFINE NO 節を指定して作成されており、そのデータ・セットはまだ作成されていないため、アクセラレーター (オプション IDAA_ONLY) またはアクセラレーターと DB2 (オプション IDAA_DUAL) のロードは失敗しました。

ユーザーの処置: DEFINE YES を指定して表スペースを再作成するか、DB2 が表スペースの VSAM データ・セットを作成するためのアクションを実行してください。DB2 LOAD ユーティリティを実行するか、INSERT を実行すると、DB2 は VSAM データ・セットを作成します。

HLO U5363E Field column_name not found.

説明: LOAD 指定の処理中に、製品が示されている列を検出しましたが、その列はカタログに存在しておらず、NULLIF 条件または DEFAULTIF 条件に使用されていません。IGNOREFIELDS NO が指定されたため、LOAD ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: LOAD ユーティリティ構文を訂正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5364 I Record <record_nbr> discarded due to WHEN clause specification.

説明: レコードは、LOAD 制御カードに指定されているどの WHEN 節条件も満たしていなかったため、破棄されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5400E Utility processing failed by policy practice practice_name.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader ポリシーに失敗戻りコードが指定されていたため、ユーティリティ・ジョブ・ステップは終了しました。

ユーザーの処置: ユーティリティ・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

HLO U5401E Syntax denied: id=string.

説明: 示されているユーティリティ構文はポリシーによって拒否されました。

ユーザーの処置: ユーティリティ・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

HLO U5402E Syntax required: id=string.

説明: 示されているユーティリティ構文はポリシーに必要です。

ユーザーの処置: ユーティリティ・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**HLO U5403 I Utility statement altered by policy
practice *practice_name*.**

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader インターセプト・ポリシーの指定に従い、ユーティリティー・ステートメント構文は、ユーティリティー実行前に動的に変更されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5404E Utility monitor encountered an error
RC= *return_code* RSN= *reason_code*.**

説明: ユーティリティー・モニターで、構文変更の検査中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLO U5405 I Utility return code altered by policy
practice *practice_name*.**

説明: ユーティリティーの戻りコードは、ポリシーのプラクティス *practice_name* によって変更されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5406E SQL function *sql_function* failed with
SQLCODE= *sql_code***

説明: 開始タスクで、クライアントのために SQL 関数を実行しているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポート

**HLO U5407 I SQL CREATE successful for
mapping table *mapping_table_name***

説明: 製品は、REORG TABLESPACE ユーティリティーで使用するマッピング表とマッピング表索引を正常に作成しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5408 I SQL DROP successful for mapping
table *mapping_table_name***

説明: 製品は、REORG TABLESPACE ユーティリティーで使用するマッピング表とマッピング表索引を正常にドロップしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5409 I SQL CREATE successful for discard
table *discard_table_name***

説明: 製品は、CHECK DATA ユーティリティーで使用する破棄表スペースと破棄表を正常に作成しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5410 I SQL DROP successful for discard
table space *<discard_table_space_name>*.**

説明: 製品は、破棄表スペースを正常にドロップして、その結果として、CHECK DATA ユーティリティーで使用する関連破棄表を正常にドロップしました。ユーティリティーを実行している *<authid>* に付与されているすべての許可も、表スペースのドロップによって自動的に取り消されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5411 I GRANT INSERT successful to
discard table for authid *db2_authid***

説明: 製品は、CHECK DATA ユーティリティーで使用されている破棄表に対する挿入権限を正常に付与しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLO U5412W SYSREC records discarded during
CONVERT_INTERNAL processing.
Utility return code altered.**

説明: CONVERT_INTERNAL 処理によって 1 つ以上の SYSREC レコードが破棄されたため、ユーティリティーの戻りコードは、ユーティリティー実行後に動的に変更されました。SYSREC レコードが破棄された原因として、データの検証または変換のエラー、あるいは LOAD ジョブに含まれていたどのパーティションにも属していないレコードが検出されたことが考えられます。

ユーザーの処置: SYSREC データ・セット内の問題レコードを訂正して、ジョブを再実行してください。

**HLO U5413W The DB2 LOAD utility discarded
one or more rows already loaded to
the accelerator.**

説明: DB2 LOAD ユーティリティーは、DB2 Analytics Accelerator に正常にロードされた行を破棄しました。そのため、アクセラレーターと DB2 表は同期しなくなりました。つまり、アクセラレーターには、DB2 表の中に存在しない行が含まれています。この状態は、DB2 が索引作成フェーズで固有索引キー違反を検出したときに起こることがあります。

ユーザーの処置: 破棄された行に関連する SYSREC レコードを除去するか、修正してください。ジョブを再実行するか、破棄が有効である場合は、ACCEL_LOAD_TABLES を実行してアクセラレーターに DB2 データを再ロードしてください。

HLO U5414W Query acceleration has been disabled for the loaded table.

説明: LOAD プロセス中に障害が発生したか、すべての SYSREC レコードがアクセラレーターにロードされた後で DB2 が行を破棄したために、照会アクセラレーションは無効になりました。

ユーザーの処置: ジョブ・ログを確認してエラーの原因を診断し、問題を修正して、ジョブを再実行してください。

HLO U5415 I Query acceleration has been enabled for the loaded table.

説明: ロード・ジョブの正常完了時に、ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE オプションの設定に従って照会アクセラレーションは有効になりました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5416E

ACCEL_SET_TABLES_ACCELERATION stored procedure failed. Reason: accelerator_reason_code.

説明: ロード・ジョブの終了時に照会アクセラレーションを有効または無効にしようとしたましたが、失敗しました。理由は、ストアード・プロシージャが返した DB2 Analytics Accelerator メッセージに示されています。失敗の詳細については、サーバー・ログを確認してください。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5500 I Load pre-processing started.

説明: ロード・ジョブ入力ストリームで構文 IFDISCARDS または SHRLEVEL REFERENCE が見つかりました。シャドー・オブジェクトが作成されてロードされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5501 I Load pre-processing finished with RC=return_code.

説明: IFDISCARDS または SHRLEVEL REFERENCE の事前アクションが、示されている戻りコードで終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5502 I Load post-processing started.

説明: メインのロード処理フェーズが完了して、IFDISCARDS 処理または SHRLEVEL REFERENCE 処理のために追加のアクションが実行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5503 I Load post-processing finished with RC=return_code.

説明: IFDISCARDS または SHRLEVEL REFERENCE の追加のアクションが実行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5504E Storage release failed.

Module=module_name, storage area=storage_area_name, RC=return_code.

説明: 示されているモジュールは、示されているストレージ域を解放しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5505E Attempt to obtain storage failed.

Module=module_name, storage area=storage_area_name, RC=return_code.

説明: 示されているモジュールは、示されているストレージ域を取得しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader で使用できる領域サイズを増やして、ジョブを再実行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5506E SQL error.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションのロード処理中に開始タスクで SQL エラーが発生しました。メッセージ HLO U5507I にエラー・テキストが示されています。

ユーザーの処置: HLO U5507I に示される DB2 メッセージについては、「DB2 for z/OS メッセージ」資料

HLO U5507 I • HLO U5517E

を参照してください。エラーを解決できない場合には、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5507 I ERRORTXT=*error_text*.

説明: SQL エラーの診断情報。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5508E Insufficient authority to load data into table space *table_space_name*.

説明: ジョブを実行依頼したユーザー ID は、示されている表スペースへのロードの実行を許可されていません。

ユーザーの処置: ロード対象として別の表スペースを選択してください。

HLO U5509E Insufficient authority for load with STATS into table space *table_space_name*.

説明: ロード・ユーティリティー・ジョブで STATISTICS キーワードが指定される場合、STATS 特権を含む特権セットを使用する必要があります。

ユーザーの処置: 別の表スペースを選択するか、STATISTICS キーワードを削除してください。

HLO U5510E Operation *operation_name* on data set *data_set_name* failed, error number =*error_number_value*.

説明: 示されているデータ・セットに対する操作は失敗しました。

ユーザーの処置: 表示されているエラーに関する情報については、「z/OS UNIX システム・サービス メッセージおよびコード」資料を参照してください。エラーを解決できない場合には、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5511E Data set operation failed. RC=*return_code*.

説明: データ・セット操作は、示されている戻りコードで失敗しました。メッセージ HLO U5512I にエラー・テキストが示されています。

ユーザーの処置: HLO U5512I に示されるメッセージについては、「MVS システム・メッセージ」資料を参

照してください。エラーを解決できない場合には、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5512 I *error_text*.

説明: データ・セット操作のエラー・テキスト。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5513E Compilation of regular expression failed. Expression=*expression_name*.

説明: 示されている正規表現をコンパイルしようとして失敗しました。メッセージ HLO U5515I にエラー・テキストが示されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5514E Matching of regular expression failed. Expression: *expression_name*.

説明: 示されている正規表現をマッチングしようとして失敗しました。メッセージ HLO U5515I および HLO U5516I にエラー・テキストが示されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5515 I ERRORTXT=*error_text*.

説明: 正規表現パターンをコンパイルまたはマッチングしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5516 I ERRORTXT=*error_text*.

説明: 正規表現入力をマッチングしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5517E Dynamic allocation error.

DDNAME=*dd_name*,
operation=*operation_name*,
RC=*return_code*.

説明: DB2 ユーティリティーに対する、示されている一時 DD の動的割り振りは、示されている戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: 報告されたコードについては、

「MVS Programming Authorized Assembler Services Guide for z/OS」資料を参照してください。エラーを解決できない場合には、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5518E Invalid partition specified for table space table_space_name.

説明: 示されている表スペース・パーティションは存在しません。

ユーザーの処置: ロード・ジョブに別のパーティションを選択してください。

HLO U5519E Service function error. Service name=service_name, RC=return_code.

説明: 示されているサービス機能は、ゼロ以外の戻りコードで終了しました。表示される場合、メッセージ HLO U5520I および HLO U5521I にエラー・テキストが示されています。

ユーザーの処置: HLO U5520I および HLO U5521I に示されるメッセージについては、「DB2 for z/OS メッセージ」資料を参照してください。エラーを解決できない場合には、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5520 I ERRORTEXT=error_text.

説明: 失敗したサービス機能の入力ステートメント。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5521 I ERRORTEXT=error_text.

説明: 失敗したサービス機能の出力ステートメント。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5522E IFI error.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションのロード処理中に開始タスクで IFI エラーが発生しました。メッセージ HLO U5523I にエラー・テキストが示されています。

ユーザーの処置: HLO U5523I に示されるメッセージについては、「DB2 for z/OS コード」資料を参照してください。エラーを解決できない場合には、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5523 I ERRORTEXT=error_text.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションのロード処理中に開始タスクで IFI エラーが発生しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5524 I Some input records were discarded and IFDISCARDS PAUSE was specified.

説明: ロード・ユーティリティ・ジョブが戻りコード 4 で一時停止しました。実動表スペースは、読み取り専用アクセス・モード (RO) になり、変更されませんでした。

ユーザーの処置: 破棄されたレコードを確認してから、一時停止されたロード・ジョブを再開するか、終了してください。

HLO U5525 I Some input records were discarded, and IFDISCARDS FAIL was specified.

説明: ロード・ユーティリティ・ジョブは戻りコード 8 で終了しました。実動表スペースは変更されませんでした。

ユーザーの処置: 破棄されたレコードを確認して、ロード・ジョブのデータを訂正してください。

HLO U5526 I Utility was restarted after IFDISCARDS PAUSE. All valid records will be committed.

説明: ロード・ユーティリティ・ジョブは、IFDISCARDS PAUSE の後で再開されました。すべての有効なレコードがコミットされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5527E Exception with RC=return_code.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションのロード処理は、示されている戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5528E Unexpected exception.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションのロード処理中に重大エラーが発生しました。

HLO U5529E • HLO U5536 I

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5529E Table space *table_space_name* has NPSI and was not loaded.

説明: 示されている表スペースには非パーティション化副次索引 (NPSI) がありますが、IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションが指定される場合、これは部分ロードと互換性がありません。

ユーザーの処置: (パーティションではなく) 表スペース全体をロードするか、INDEXDEFER オプションを指定して NPSI を無視するように製品に指示してください。

HLO U5530E Table space *table_space_name* contains versioned rows and was not loaded.

説明: 示されている表スペースで、OLDEST_VERSION 列の値が CURRENT_VERSION 列の値よりも小さくなっています。IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションを RESUME YES と共に指定する場合、バージョン付きオブジェクトはサポートされません。

ユーザーの処置: OLDEST_VERSION 列の値が CURRENT_VERSION 列の値と等しくなるように表スペースを再編成するか、RESUME NO を指定してください。

HLO U5531E Table space *table_space_name* has status *space_status* and cannot be loaded.

説明: 示されている表スペースは、サポートされているアクセス・モードではありません。表スペースのアクセス・モードは、読み取り/書き込み (RW)、読み取り専用 (RO)、またはユーティリティ (UT) でなければなりません。

ユーザーの処置: オブジェクトを RW、RO、または UT のモードで開始して、LOAD ユーティリティ・ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5532E Table space *table_space_name* is VCAT-defined. VCAT-defined objects are not supported.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションが指定される場合、VCAT 定義の表スペースはサポートされません。

ユーザーの処置: ロード対象として別の表スペースを選択してください。

HLO U5533E Table space *table_space_name* contains an XML column. XML objects are not supported.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションが指定される場合、XML オブジェクトはサポートされません。

ユーザーの処置: ロード対象として別の表スペースを選択してください。

HLO U5534E Table space *table_space_name* contains a LOB column. LOB objects are not supported.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションが指定される場合、LOB オブジェクトはサポートされません。

ユーザーの処置: ロード対象として別の表スペースを選択してください。

HLO U5535 I DSCOPY_LIMIT value is *limit_value*.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションが指定される場合、DSCOPY_LIMIT パラメーターは、ロード処理の並行データ・セット操作の最大数を指定します。デフォルト値は 0 で、その場合は製品が制限を自動的に決定して、このメッセージに表示します。

ユーザーの処置: 大半の場合、アクションは不要です。ただし、ロード・ユーティリティ・ジョブがメモリー不足のために異常終了する場合は、DSCOPY_LIMIT 値を変更できます。有効な値は 0 から 250 です。

データ・セット *hlq.mlq.SHLO SAMP* のメンバー HLO DTDOP で、このメッセージに示されているよりも小さい値を DSCOPY_LIMIT に指定して、ロード・ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5536 I Load prevalidation restart handler started.

説明: SHRLEVEL REFERENCE オプションまたは IFDISCARDS オプションを指定したロード・ユーティリティ・ジョブが再開されました。シャドー・オブジェクトに対する追加の処理が必要です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5537 I Load prevalidation restart handler finished with RC *return_code*.

説明: SHRLEVEL REFERENCE オプションまたは IFDISCARDS オプションを指定したロード・ユーティリティー・ジョブが再開されました。シャドー・オブジェクトに対する追加の処理は、示されている戻りコードで完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5538 I Table space *table_space_name* is in check pending status.

説明: 示されている表スペースは参照関係に関与しており、ロード・ユーティリティー・ジョブに SHRLEVEL REFERENCE オプションまたは IFDISCARDS オプションが指定されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5539 I Table space *table_space_name* is in check pending status.

説明: 示されている表スペースは参照関係に関与しており、親表が REPLACE オプションを指定してロードされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5540 I Index space *index_space_name* is in rebuild pending status.

説明: 示されている索引スペースに非パーティション化副次索引 (NPSI) が含まれています。この索引はオプション INDEXDEFER によって据え置きされています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5541E Table space *table_space_name* was altered with option ROTATE PARTITION.

説明: IFDISCARDS オプションまたは SHRLEVEL REFERENCE オプションが指定される場合、循環パーティションを持つ表スペースはサポートされません。

ユーザーの処置: ロード対象として別の表スペースを選択してください。

HLO U5542E Feature is not accessible in this version of DB2.

説明: IFDISCARDS オプションおよび SHRLEVEL REFERENCE オプションには、DB2 バージョン 10 以降が必要です。

ユーザーの処置: サポートされていないオプションを LOAD ユーティリティー構文から削除してください。

HLO U5543E Index space *index_space_name* has status *space_status* and its base table space cannot be loaded.

説明: 示されている索引スペースは、サポートされているアクセス・モードではありません。索引スペースのアクセス・モードは、読み取り/書き込み (RW)、読み取り専用 (RO)、またはユーティリティー (UT) でなければなりません。

ユーザーの処置: オブジェクトを RW、RO、または UT のモードで開始して、LOAD ユーティリティー・ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5544E *error_text*.

説明: キーワード RESUME NO は、IFDISCARDS オプションおよび SHRLEVEL REFERENCE オプションと一緒に指定できません。

ユーザーの処置: 代わりに RESUME YES または REPLACE を指定してください。

HLO U5545 I Template data set was renamed.

説明: 製品がテンプレート・データ・セットを名前変更しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5546 I Template name: *template_name*.

説明: 製品は、メッセージ・テキストに示されているようにテンプレート・データ・セットを名前変更しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5547 I Old DSN: *old_data_set_name*.

説明: 製品は、メッセージ・テキストに示されているようにテンプレート・データ・セットを名前変更しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5548 I New DSN: *new_data_set_name*.

説明: 製品は、メッセージ・テキストに示されているようにテンプレート・データ・セットを名前変更しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5549E Requested module *module_name* not found.

説明: 要求されたモジュールは見つかりませんでした。
 ユーザーの処置: モジュール *module_name* が STEPLIB 連結またはリンク・リストに存在していることを確認してください。

HLO U5551 I ERRORTEXT *error_text*.

説明: サービス機能の失敗の説明。
 ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5700E Error from call to HLO PIPE from MODNAME = *module_name* Function = *function_code* RC = *return_code*.

説明: HLO PIPE がゼロ以外の戻りコードを返しました。このエラーの理由として以下が挙げられます。

- 製品ライブラリーが WLM STEPLIB にありません。
- パイプのクリーンアップが必要です。
- HLO PIPE API 呼び出し (INIT、LOOKUP、OPEN、CLOSE) が失敗しました。
- ACCEL_LOAD_TABLES ストアド・プロシージャが失敗しました。

ユーザーの処置:

- 機能 =02 RC=0A:
 - 製品ライブラリーが DSNUTILU/DSNUTILS WLM STEPLIB に含まれていることを確認してください。必要な場合は、STEPLIB に追加して、WLM 環境をリフレッシュし、ジョブを再実行依頼してください。(詳細情報については、製品資料で WLM 管理アドレス・スペースのセットアップに関するセクションを参照してください。)
 - ジョブ・ログでメッセージ HLO U5720I を調べて、失敗したストアド・プロシージャによって返されたエラー・メッセージがあるかどうかを確認してください。
- 機能 =01 RC=03: 別のバッチ・ジョブがターゲット表をロードしている可能性があります。そうでない場合は、ジョブ HLO #PIPE を実行して、共通ストレージをクリアし、WLM 環境をリフレッシュすることが必要になる可能性があります。(詳細情報については、資料で、ジョブが失敗した後の共通ストレージのクリアに関するセクションを参照してください。)
- 必要な場合は、入力データ・セット内のデータを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5701 I Total records bypassed as outside partition selection: *discard_count*.

説明: SYSREC レコードは、選択されたパーティション・リスト内になかったため、バイパスされました。
 ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5710E Accelerator name <*accelerator_name*> is not valid for DB2 SSID=<*ssid*>

説明: ユーティリティー構文で渡された IBM DB2 Analytics Accelerator の名前は、示されている DB2 サブシステムに有効なアクセラレーター名ではありません。
 ユーザーの処置: アクセラレーター名を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5711E Target table for LOAD utility not defined on accelerator <*accelerator_name*>.

説明: LOAD ユーティリティー構文に指定されているターゲット表は、IBM DB2 Analytics Accelerator で定義されていません。
 ユーザーの処置: 表名を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5712E LOAD utility partition specification includes archived partitions.

説明: LOAD ユーティリティーは、IBM DB2 Analytics Accelerator にアーカイブされているパーティションのロードを指定しています。
 ユーザーの処置: ユーティリティー・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5713E IBM DB2 Analytics Accelerator stored procedure ACCEL_GET_TABLES_DETAILS returned an error.

説明: IBM DB2 Analytics Accelerator のストアド・プロシージャ ACCEL_GET_TABLES_DETAILS は、パーティションの検証中にエラーを返しました。
 ユーザーの処置: エラーの詳細については、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの SYSPRINT ログを確認してください。

HLO U5714E Target table for LOAD utility has status conflict on IBM DB2 Analytics Accelerator.

説明: IBM DB2 Analytics Accelerator 表がロード・プロセスと互換性のない状況に設定されているため、LOAD ユーティリティー構文に指定されているターゲット表を IBM DB2 Analytics Accelerator にロードすることはできません。

ユーザーの処置: エラーの詳細については、IBM DB2 Analytics Accelerator の表の状況を確認してください。

HLO U5715E Unknown error during IBM DB2 Analytics Accelerator validation.

説明: 検証中に不明なエラーが発生したため、LOAD ユーティリティー構文に指定されているターゲット表をアクセラレーターにロードできません。原因として、検証プロセス中の DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの SQL エラーが考えられます。

ユーザーの処置: エラーの詳細については、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの SYSPRINT ログを確認してください。

HLO U5716E Partial load conflict with IBM DB2 Analytics Accelerator table status of InitialLoadPending.

説明: LOAD ユーティリティー構文に指定されているターゲット表をアクセラレーターにロードできません。表のアクセラレーター状況は InitialLoadPending で、一部のパーティションが指定されていませんでした。

ユーザーの処置: LOAD 構文を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5717W The accelerator is unavailable. Only DB2 will be loaded. Accelerator state: accelerator_state.

説明: アクセラレーターは、示されている状態であるため、ロードに使用できません。そのため、製品オプション・ファイルに指定されている ACCEL_WHEN_OFFLINE アクションに従い、DB2 表のみがロードされます。

ユーザーの処置: アクセラレーターがオンラインに戻った後で、ジョブを再実行するか、ACCEL_LOAD_TABLES ストアード・プロシージャを実行して、アクセラレーター表をリフレッシュしてください。

HLO U5718E The accelerator is unavailable.

Accelerator state: <accelerator_state>.

説明: アクセラレーターは、示されている状態であるため、ロードに使用できません。そのため、アクセラレーターのみのロードを実行できません。

ユーザーの処置: アクセラレーターがオンラインに戻った後で、ジョブを再実行してください。

HLO U5720E MSGTEXT =<message_text>.

説明: IBM DB2 Analytics Accelerator のストアード・プロシージャ ACCEL_LOAD_TABLES が、正常完了または失敗の後でメッセージ・テキストを返しました。

ユーザーの処置: エラーの詳細については、DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクの SYSPRINT ログを確認してください。

| HLO U5725 I MSGTEXT=<accelerator_message_text>.

| 説明: アクセラレーターのストアード・プロシージャ
| が、正常完了または失敗の後でメッセージ・テキストを
| 返しました。このメッセージの直前に発行されたメッセ
| ージに、これらのメッセージを生成したアクセラレータ
| ー操作が示されています。

| ユーザーの処置: いずれかのメッセージにエラー状態が
| 示されている場合、AQT エラー・メッセージについ
| て、IBM DB2 Analytics Accelerator ストアード・プロ
| シージャの参照資料を参照してください。さらに支援
| が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡
| してください。

| HLO U5726 I The table has been successfully added to the accelerator.

| 説明: 表はアクセラレーターに正常に追加されました。
| 追加操作が警告で完了した場合、アクセラレーターによ
| って返されたメッセージがこのメッセージの直後に報告
| されます。これらのアクセラレーター・メッセージは、
| メッセージ HLO U5725I で報告されます。

| ユーザーの処置: アクションは不要です。

| HLO U5727E Unable to add the table to the accelerator. Accelerator error messages follow.

| 説明: 表をアクセラレーターに追加しようとして失敗し
| ました。アクセラレーターによって返されたエラー・メ
| ッセージは、このメッセージの直後にメッセージ HLO
| U5725I で報告されます。

| ユーザーの処置: HLO U5725I で報告される AQT メ

HLO U5728 I • HLO U5800W

メッセージの説明については、IBM DB2 Analytics Accelerator ストアード・プロシージャの参照資料を参照してください。さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5728 I The table has been successfully removed from the accelerator.

説明: 表は、アクセラレーターから正常に削除されました。操作が警告で完了した場合、アクセラレーターによって返された警告メッセージがこのメッセージの直後に報告されます。これらのアクセラレーター・メッセージは、メッセージ HLO U5725I で報告されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5729E Unable to remove the table from the accelerator. Accelerator error messages follow.

説明: アクセラレーターから表を削除しようとして失敗しました。アクセラレーターによって返されたエラー・メッセージは、このメッセージの直後にメッセージ HLO U5725I で報告されます。

ユーザーの処置: HLO U5725I で報告される AQT メッセージの説明については、IBM DB2 Analytics Accelerator ストアード・プロシージャの参照資料を参照してください。さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5730E DB2 call attachment facility error.

RC=<hex_return_code>
RSN=<hex_reason_code>.

説明: 呼び出し接続機能を使用して DB2 に接続しようとして失敗しました。このエラー・メッセージは、製品が呼び出し接続機能をメモリーにロードできなかったことも示している可能性があります。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5731E Unable to parse the message document returned by SPNAME <stored_procedure_name>.

説明: 製品は、アクセラレーターのストアード・プロシージャ呼び出しによって返された XML メッセージ文書を解析できませんでした。そのため、製品は、ストアード・プロシージャ呼び出しが正常に実行されたかどうかを判別できません。詳細については、メッセージ HLO U5725I およびメッセージ HLO U5733I を確認してください。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5732E Unable to LOAD MODULE

<module_name>. RC=<hex_return_code>
RSN=<hex_reason_code>.

説明: 示されている DB2 インターフェース・モジュールをロードしようとして失敗しました。システムの戻りコードと理由コードもメッセージで報告されます。

ユーザーの処置: DB2 ロード・ライブラリーが STEPLIB または JOBLIB で割り振られていることを確認して、ジョブを再実行依頼してください。さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5733 I DOCTEXT <xml_document_text>.

説明: このメッセージで報告されている XML 文書を解析しようとして失敗しました。誤った形式の文書を返したストアード・プロシージャと解析エラーの詳細については、メッセージ HLO U5731E および HLO U5725I を確認してください。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5734E HLO ADDTB has failed with RC=<hex_return_code>.

説明: 表をアクセラレーターに追加しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5800W Partition discovery failed in USE15. Record = record_number.

説明: プロセス USE15 は、レコードが属しているパーティションを判別できませんでした。原因として、レコードが LIMITKEYS の範囲外にあることが考えられます。

ユーザーの処置: 示されている SYSREC レコード内のパーティション・キー値を訂正して、ジョブを再実行してください。レコードが誤って破棄されたことが確実である場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5801E Column <column_name> DEFAULT indicator value <column_default_indicator> is not supported.

説明: 製品は、この列では SYSIBM.SYSCOLUMNS (DEFAULT) のデフォルトの標識をサポートしていません。

ユーザーの処置: この列にデータを指定するか、DB2 内部フォーマットに変換するためにサポートされているデフォルトのタイプを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5802E Default value for column <column_name> is missing.

説明: 列が NOT NULL として定義されている場合は、値を指定するか、デフォルト値を使用する必要があります。

ユーザーの処置: 示されている列に有効な値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5803E A failure has occurred in a data conversion routine.

説明: データを変換しようとしたときに、ルーチン HLO USE15 でリカバリー不能エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ダンプを含めて、このジョブからの出力をすべてサポートに提供してください。

HLO U5804E Unsupported column type. COLUMN <column_name> TYPE <column_type>.

説明: 示されている列のデータ・タイプは、DB2 内部フォーマットへの変換ではサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているデータ・タイプについては、製品のユーザー・ガイドのロード処理の機能拡張に関するセクションを参照してください。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5805E Unsupported row format. FORMAT <format_type>.

説明: DB2 内部フォーマットにデータを変換する場合、表スペースの行フォーマットはサポートされていません。あるいは、フォーマットが不明なタイプです。サポートされている行フォーマットは、基本または再配列です。SYSIBM.SYSTABLEPART(FORMAT) にフォーマット・タイプが示されます。

ユーザーの処置: 行にサポートされているフォーマット

を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5806E Column <column_Name> input data is too long.

説明: 列に指定されている入力データが、ターゲット列の長さよりも長くなっています。

ユーザーの処置: LOAD または表列定義を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5806W Column column_name data is too long. Record = record_number.

説明: 入力データが、ターゲット列の長さよりも長くなっています。

ユーザーの処置: LOAD または表列定義を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5807W Column column_name has invalid data in record record_number.

説明: 示されている列のデータは無効です。

ユーザーの処置: SYSREC でデータを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5809W DB2 size limit exceeded for column column_name record record_number.

説明: 値が、列のデータ・タイプに対する DB2 のサイズ制限を超えています。

ユーザーの処置: SYSREC でデータを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5810W Input numeric invalid column column_name record record_number.

説明: 入力フィールドに、列に無効な数値データ・タイプが含まれています。

ユーザーの処置: SYSREC でデータを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5811E Unable to schedule SRB from sort E15 exit. RC=return_code.

説明: IEAMSCHD がゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このジョブからの出力をサポートに提供してください。

HLO U5812E IEAVPSE pause service failed.
RC=return_code.

説明: IEAVPSE 休止解放サービスは、示されている戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージに示されている戻りコードをサポートに提供してください。

HLO U5813E SE15SRBM initialization failed.
Reason=reason_text.

説明: スケジュールされた SRB で、初期設定処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このジョブからの出力をサポートに提供してください。

HLO U5814E IEAVXFR transfer pause service failed, RC=return_code.

説明: IEAVXFR 転送休止サービスは、示されている戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージに示されている戻りコードをサポートに提供してください。

HLO U5815E The INTO TABLE clause names a table with an unsupported ENCODING_SCHEME:
<encoding_scheme>.

説明: 表のコード化スキームは、要求された機能と互換性がありません。製品は、要求された機能の EBCDIC コード化スキームのみをサポートします。

ユーザーの処置: EBCDIC コード化スキームを使用している表を選択してください。

HLO U5817W Input packed decimal invalid for COLNAME <column_name>. RECORD <record_nbr>.

説明: 入力フィールドに、タイプ DECIMAL の列に対して無効なパック 10 進数データが含まれています。フィールド指定が含まれていないため、パック 10 進数データが予期されます。

ユーザーの処置: SYSREC ファイル内のデータを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5900E DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB exit module is not APF-authorized and is terminating.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB モジュールのロード・ライブラリーは、要求されたように APF 許可ではありません。そのため、DB2 ユーティリティーの DB2 Analytics Accelerator Loader DSNUTILB インターセプト処理は終了しています。

ユーザーの処置: DSNUTILB モジュールのロード・ライブラリーを APF 許可して、DB2 ユーティリティー・ジョブを再実行してください。

HLO U5901E RVT locate operation failed

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、RVT 制御ブロックを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つの DB2 Analytics Accelerator Loader システムが作動可能であることを確認してから、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5901S RVT locate operation failed.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、RVT 制御ブロックを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つの DB2 Analytics Accelerator Loader システムが作動可能であることを確認してから、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5902S COM locate operation failed.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader は、COM 制御ブロックを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つの DB2 Analytics Accelerator Loader システムが作動可能であることを確認してから、ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5903W DSNUTILF exit is inoperative for SSID: db2_ssid.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクが実行されていないか、示されている DB2 サブシステム ID (SSID) の DSNUTILB をインターセプトしていないため、DB2 ユーティリティーに対して DSNUTILB インターセプト処理を実行できません。DB2 ユーティリティー・ジョブは実行を続行します。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つの DB2 Analytics Accelerator Loader システムが作動可能であり、インターセプトに使用できることを確認してください。また、インターセプトの失敗に関連する他のメッセージがあるかどうかを確認してください。関連するエラーを訂正し

て、システムをインターセプトに使用できることを確認した後、ユーティリティー・ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5904W DB2 Analytics Accelerator Loader is not active.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクが実行されていないため、DB2 ユーティリティーに対して DSNUTILB インターセプトを実行できません。ユーティリティーは実行を続行します。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つの DB2 Analytics Accelerator Loader システムが作動可能であり、インターセプトに使用できることを確認してください。また、必要な場合は、開始タスクを開始してください。その後、DB2 ユーティリティー・ジョブを再実行依頼してください。

HLO U5905W Load library open failed.

説明: DSNUTILB インターセプトは現在使用できません。ユーティリティーは実行を続行しますが、DSNUTILB インターセプトは実行されません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクが操作可能であることを確認してください。また、ユーティリティー・ジョブを実行している DB2 サブシステムでインターセプトを実行できるようにインターセプト・ポリシーが定義されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5906W Load failed for HLO UMAIN.

説明: DSNUTILB インターセプトは現在使用できません。ユーティリティーは実行を続行しますが、DSNUTILB インターセプトは実行されません。

ユーザーの処置: DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクが操作可能であることを確認してください。また、ユーティリティー・ジョブを実行している DB2 サブシステムでインターセプトを実行できるようにインターセプト・ポリシーが定義されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5907E SYSPRINT DD is missing or unusable.

説明: SYSPRINT DD が欠落しているか、DUMMY または NULLFILE に割り振られています。

ユーザーの処置: JCL に有効な SYSPRINT DD ステートメントを指定してください。

HLO U5908I IBM DB2 SORT found and will be used.

説明: IBM DB2 SORT が検出され、LOAD の PRESORT に使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U5909W IBM DB2 SORT cannot be utilized. Not all modules found.

説明: IBM DB2 SORT の一部のモジュールが検出されませんでした。

ユーザーの処置: IBM DB2 SORT が正しくインストールされていることを確認してください。

HLO U5910 I DB2 Sort Program=*progname* returned non-zero return code, RC=*rc*

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージのテキスト全体をサポート担当員に提供してください。ソートは、デフォルトのソートによって実行されます。

HLO U5911 I DB2 sort program *program_name* abended. Default sort program will be used.

説明: ソート・プログラムが異常終了しました。デフォルトのソート・プログラムがソート処理に使用されません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。このメッセージおよび該当する関連メッセージが含まれるリストを用意しておいてください。

HLO U5912 I ESTAE SDUMPX call RC=*return code*, RS=*reason code*.

説明: ESTAE 処理中に、z/OS SDUMPX 機能への呼び出しにより、示されている戻りコードと理由コードが返されました。

ユーザーの処置: RC=08 の場合、該当する SDUMPX の資料で理由コードを確認してください。その後、適切な診断ダンプを取得するために必要な変更をダンプ・サービスに加えてください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5913E LOAD PRESORT of hash table unable to proceed due to error.

説明: **LOAD PRESORT** ハッシュ表の分析中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ジョブ出力および DB2 Analytics Accelerator Loader 開始タスクを調べて、エラーの原因を判別してください。

HLO U5914E Field length not supported for LOAD PRESORT: Column = *column_name*.

説明: **LOAD** に対して指定されたデータ項目の長さは、**PRESORT** ではサポートされていません。

ユーザーの処置: **LOAD** 指定で、エラーのあるフィールドの長さを訂正してください。

HLO U5915E FORMAT DELIMITED is not supported for PRESORT with an ORGANIZE BY HASH table.

説明: **PRESORT** は、ターゲット表が **ORGANIZE BY HASH** として定義されている場合、区切りファイル・フォーマットの **SYSREC** データをサポートしません。

ユーザーの処置: 区切りファイル・フォーマットではない **SYSREC** を指定してください。

HLO U5916E Started task encountered an SQL error=*sql_code*

説明: **SQL** エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーの理由を判別するために、開始タスクのアドレス・スペースで発行された **HLO S0202E** メッセージを確認して、**DB2** メッセージの資料を参照してください。支援が必要な場合は、**IBM** ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U5917E OPEN failed for SYSPRINT

説明: **SYSPRINT** の **OPEN** マクロが失敗しました。

ユーザーの処置: 発行されたメッセージを確認して、原因を判別してください。

HLO U5918E Field specification missing for a PRESORT key.

説明: **PRESORT** キーの一部であるフィールドには、フィールド指定が必要です。

ユーザーの処置: **PRESORT** キーの一部になっているフィールドごとにフィールド指定を含めてください。

HLO U9700 I The output saved in the Autonomics Director history table exceeds 8M and is truncated.

説明: **SYSAUTO.UTILITYRUNS_HISTORY** の **CLOB** 表で出力の 8 メガバイトの制限に達しました。製品は、出力の処理を停止します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U9701 I Module BBY\$NMIC not found in started task STEPLIB.

説明: **DB2 Analytics Accelerator Loader** 開始タスクの **STEPLIB** 連結でモジュール **BBY\$NMIC** が見つかりませんでした。**DB2 Autonomics Director** ユーティリティーの履歴収集は使用できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLO U9702W Module BBY\$NMIC does not conform to version 2, release 1 or later.

説明: **DB2 Analytics Accelerator Loader** 開始タスクで検出されたモジュール **BBY\$NMIC** に、バージョン 2 リリース 1 以降のマークが付けられていません。**DB2 Autonomics Director** ユーティリティーの履歴収集は使用できません。

ユーザーの処置: **DB2 Utilities Solution Pack** バージョン 2.1 以降を使用していることを確認してください。

HLO U9703W Module BBY\$NMIC contains invalid offset to data.

説明: **DB2 Analytics Accelerator Loader** 開始タスクで検出されたモジュール **BBY\$NMIC** に、有効なバージョンを指していないデータ構造に対するオフセットが含まれています。**DB2 Autonomics Director** ユーティリティーの履歴収集は使用できません。

ユーザーの処置: **IBM** ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U9704W BLDL error encountered searching for module BBY\$NMIC. RSN=*reason_code*.

説明: 製品で、モジュール **BBY\$NMIC** の検索中にエラーが発生しました。**DB2 Autonomics Director** ユーティリティーの履歴収集は使用できません。

ユーザーの処置: **IBM** ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLO U9705W Error encountered attempting to load module BBY\$NMIC.

説明: 製品で、モジュール BBY\$NMIC をロードしようとしているときにエラーが発生しました。DB2 Autonomics Director ユーティリティーの履歴収集は使用できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0001U desc GETMAIN failed - increase memory size

説明: ストレージが不足しています。製品は、初期プログラム・スタックを割り振るのに十分なストレージを取得できませんでした。

ユーザーの処置: 異常終了コードを調べて、領域サイズを増やす必要があるかどうかを判別してください。必要であれば、領域サイズを増やし、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明。

HLV0002S parm IS errdesc - desc

説明: このメッセージには、メインの開始タスクのエントリー・ポイントに渡されたパラメーター・ストリングの問題が示されます。実行は終了します。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに示されているエラーを訂正して、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター、errdesc はエラーの説明、desc は訂正の説明。

HLV0003S CODES BEGINNING WITH 'var1', NOT 'var2' SHOULD NOT BE USED TO SET THE '%2' PARAMETER

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0004S parm IS errdesc

説明: このメッセージには、メインの開始タスクのエントリー・ポイントに渡されたパラメーター・ストリングの問題が示されます。実行は終了します。

ユーザーの処置: パラメーター・ストリングが (PARM= を使用して) 開始タスク JCL に渡されていることを確認してください。パラメーター・ストリングに

は、少なくとも「INIT,ssnx」が含まれている必要があります。ここで、ssnx は 4 文字のサブシステム名です。エラーを訂正して、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター、errdesc はエラーの説明。

HLV0005S parm 'val' IS errdesc

説明: このメッセージには、メインの開始タスクのエントリー・ポイントに渡されたパラメーター・ストリングの問題が示されます。実行は終了します。

ユーザーの処置: 実行オプション (PARM= の最初のパラメーター) が INIT であることを確認してください。これが唯一の有効な値です。エラーを訂正して、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター、val は渡された値、errdesc はエラーの説明。

HLV0006S Product not APF authorized, execution terminating

説明: このメッセージは、製品が APF 許可されていないことを検出した場合に発行されます。メイン製品アドレス・スペースは即時に終了します。

ユーザーの処置: すべての STEPLIB データ・セットが APF 許可されていることを確認してください。製品ロード・モジュールを含むデータ・セットだけでなく、製品のすべてのデータ・セットが APF 許可されている必要があることに注意してください。STEPLIB データ・セットを修正して、製品を再始動してください。

HLV 0007S ss field IS errdesc

説明: 製品は、システム制御ブロック (または SSCT) の初期化または再初期化を試行しました。システム制御には、無効値が指定されたフィールドが含まれていました。このエラーにより、製品初期化は終了します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージと一緒に生成された他のエラー・メッセージがないか確認してください。このエラーについて、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: field は SSCT フィールド名、errdesc はエラーの説明。

HLV0008S Product cannot execute in batch, execution terminating

説明: このメッセージは、製品がバッチ実行中であることを検出した場合に発行されます。メイン製品アドレス・スペースは即時に終了します。

ユーザーの処置: 製品をバッチ・ジョブとして実行することはできません。製品は、開始タスクとして実行される必要があります。製品を開始タスクとしてインストールし、製品を再始動してください。

HLV0009S Execution DEQ failed - contact systems programming

説明: 製品が実行エンキューを解放しているときに、何らかのタイプのエラーが発生しました。実行エンキューは、製品の複数のコピーが単一のサブシステム ID を使用することを防止するために使用されます。製品の複数のコピーは、各コピーが別々のサブシステム ID を使用している限り、同時に実行できます。

ユーザーの処置: この問題に関連したエラー・メッセージを調べてください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0010H mod/func execution text

説明: このメッセージは、製品初期化をトレースするために使用されます。初期化ルーチンの各実行の前と後にメッセージが発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対するアクションはありません。このメッセージは、トレースおよびデバッグのみを目的として使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名、func は現行の機能コード、text はメッセージのテキスト。

HLV0011W STSI instruction failed with %1 - feedback = %2

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0012W CSRSI service returned RC=rc for CPU H/W identification request - product validation may be affected.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0013S SSCT locate error - contact systems programming

説明: 製品は、サブシステム制御ブロック・チェーンで現行のサブシステム ID を見つけようとしていました。サブシステム制御ブロック・チェーンでループが検出されました。

ユーザーの処置: これは、システムの他のコンポーネントが障害を起こす原因となる可能性がある重大エラーです。システムに他の問題 (ループ・エラーなど) がある場合は、製品を再始動する前に、他の問題の解決を試みてください。この製品が、問題が発生している唯一のコンポーネントである場合は、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLV0014S var1: var2 var3 var4 var5 var6 var7

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0015S %PX-js subsystem ss waiting for execution ENQ

説明: 製品の各アクティブ・コピーは別々のサブシステム ID を使用する必要があります。この制限は、製品の実行エンキューを使用して適用されます。製品の実行エンキューには現行のサブシステム ID が含まれているため、各コピーが別々のサブシステム ID を使用している場合は、製品の複数のコピーを実行できます。ss サブシステムの新規コピーが開始され、実行エンキューの取得を試行しています。サブシステム ss の実行エンキューは既に製品のコピーによって保持されています。

ユーザーの処置: 実行エンキューを待機している、新しく開始した ss サブシステムを取り消すか、ss サブシステムの現在アクティブになっているコピーを停止してください。ss サブシステムの現在アクティブになっているコピーを停止すると、ss サブシステムの新規コピーは初期化を完了して実行を開始することができます。ss サブシステムの新規コピーは、CANCEL コマンドの ASID キーワードを使用して停止する必要があることがあります。

HLV0016S Execution ENQ error - contact systems programming

説明: 製品の各アクティブ・コピーは別々のサブシステム ID を使用する必要があります。この制限は、製品の実行エンキューを使用して適用されます。製品の実行エ

ンキューには現行のサブシステム ID が含まれているため、各コピーが別々のサブシステム ID を使用している場合は、製品の複数のコピーを実行できます。製品は、実行エンキューを取得しようとして失敗しました。ENQ マクロは失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連したエラー・メッセージを調べてください。現在の問題について記述する ENQ/DEQ エラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0017S var1 PARAMETER INVALID: var2
var3 var4 var5 var6 var7 var8.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0018H var1 var2

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0019 I var1 var2

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0020S First character of subsystem name
must be an alphabetic character (A-Z).**

説明: 製品の各コピーは、固有のサブシステム ID ストリングを使用する必要があります。デフォルトのサブシステム ID は、開始タスク・プロシージャまたは製品の始動に使用される START コマンドで指定されています。いずれの場合も、サブシステム ID ストリングは必ず正確に 4 文字の長さでなければならず、先頭文字は英字 A から Z のいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置: 製品開始タスク・プロシージャを変更するか、製品の始動コマンドを変更することにより、製品の始動に使用されるサブシステム ID ストリングを修正してください。有効なサブシステム ID ストリングを使用して、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
subsysid はサブシステム ID。

**HLV0021S ABEND ERROR abcd REASON rscd
AT mod+off**

説明: 製品の初期設定、実行、または終了中に重大な異常終了が発生しました。この異常終了はリカバリー不能であり、製品は強制終了しました。

ユーザーの処置: この異常終了コードや関連した異常終了メッセージを調べてください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。上記のエラー・メッセージや、製品の障害に関連したその他のエラー・メッセージの正確な内容をメモしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、rscd は理由コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

**HLV0022S Second 2 characters of subsystem
name must be 'prodid'.**

説明: 製品の各コピーは、固有のサブシステム ID ストリングを使用する必要があります。デフォルトのサブシステム ID は、開始タスク・プロシージャまたは製品の始動に使用される START コマンドで指定されています。いずれの場合も、サブシステム ID ストリングは必ず正確に 4 文字の長さでなければならず、2 番目の 2 文字は有効な製品 ID のペアでなければなりません。例えば、HLV の場合は「DB」、HTTP-API の場合は「WS」です。

ユーザーの処置: 製品開始タスク・プロシージャを変更するか、製品の始動コマンドを変更することにより、製品の始動に使用されるサブシステム ID ストリングを修正してください。有効なサブシステム ID ストリングを使用して、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: prodid は 2 文字の製品 ID。

**HLV0023S Subsystem name must be four (4)
characters long**

説明: 製品の各コピーは、固有のサブシステム ID ストリングを使用する必要があります。デフォルトのサブシステム ID は、開始タスク・プロシージャまたは製品の始動に使用される START コマンドで指定されています。いずれの場合も、サブシステム ID ストリングは必ず正確に 4 文字の長さでなければなりません。

ユーザーの処置: 製品開始タスク・プロシージャを変更するか、製品の始動コマンドを変更することにより、製品の始動に使用されるサブシステム ID ストリングを修正してください。有効なサブシステム ID ストリングを使用して、製品を再始動してください。

HLV0024S Last character of subsystem name must be alphanumeric

説明: 製品の各コピーは、固有のサブシステム ID ストリングを使用する必要があります。デフォルトのサブシステム ID は、開始タスク・プロシージャーまたは製品の始動に使用される START コマンドで指定されています。いずれの場合も、サブシステム ID ストリングは必ず正確に 4 文字の長さでなければなりません。最後の文字は、英数字 A から Z、または 0 から 9 のいずれかにすることができます。

ユーザーの処置: 製品開始タスク・プロシージャーを変更するか、製品の始動コマンドを変更することにより、製品の始動に使用されるサブシステム ID ストリングを修正してください。有効なサブシステム ID ストリングを使用して、製品を再始動してください。

HLV0025S %PM not prepared for execution by feature code

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0026S ss not configured for this CPU var1, execution terminating.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0027S MVS/370 not supported

説明: 製品は、ホスト・システムを検査して、ホスト・システムが何らかのバージョンの MVS/370 であることを検出しました。製品は、MVS/370 をサポートしていません。

ユーザーの処置: 製品は、z/OS のみをサポートしません。製品を使用するには、z/OS をインストールする必要があります。

HLV0028S Product code "pdcd" is invalid.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0029S Configuration issue detected; ss not configured for CPU var1, execution continues

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0030S %PM will require configuration update in <x> days

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0031E %PM will require configuration update in <x> days.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0032S %PM configuration problem, execution terminating.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0033S CONFIGURATION FROM 'var2' PARAM. DOES NOT SUPPORT EXECUTION OF THIS PRODUCT - TERMINATING.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0034S PM feature code <feature> not configured.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0035S ss requires configuration update, execution continues.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0036S service OF desc FAILED, RC=rc,
DETECTED AT ad**

説明: これは、さまざまな製品初期化エラー、実行エラー、および終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

**HLV0037E servrtn errdesc FAILED, RC=rc,
DETECTED AT ad, %SK**

説明: 何らかのタイプのサービス・ルーチン (オペレーティング・システム固有または製品固有のもの) が失敗しました。このエラー・メッセージに問題のサービス・ルーチンとエラー・タイプが示されています。

ユーザーの処置: エラー・メッセージ全文を確認し、必要であればアプリケーション・プログラム・インターフェースを呼び出すプログラムを修正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: servrtn はサービス・ルーチン、errdesc はエラーの説明、rc は戻りコード。

**HLV0038S service OF desc FAILED, RC=rc,
REASON=rscd, DETECTED AT ad,
%SK**

説明: これは、さまざまな製品初期化エラー、実行エラー、および終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service

は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード、rscd は理由コード。

**HLV0039S servrtn errdesc FAILED, ABEND=abcd,
REASON CODE=rscd**

説明: これは、さまざまな製品初期化エラー、実行エラー、および終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: servrtn はサービス・ルーチン、errdesc はエラーの説明、abcd は異常終了コード、rscd は理由コードです。

HLV0040S cb CONTROL BLOCK AT addr text

説明: このメッセージは、制御ブロックのエラーを記述するために使用されます。エラーは、無効なタグ、無効な長さ、またはその他のエラーの場合があります。エラーが原因で、制御ブロックを使用できません。

ユーザーの処置: この問題に関連したエラー・メッセージを調べてください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cb は制御ブロック、addr はアドレス、text はメッセージのテキスト。

**HLV0042 I %PX Vvar1 initializing on processor
var2.var3.var4.var5 var6 var7.**

説明: このメッセージは、始動の早い段階で発行され、製品が実行されているハードウェアに関する情報を示します。このメッセージには、何らかの構成の問題が発生した場合に担当員をサポートするのに役立つ情報が示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。後で、メッセージに構成の問題が発生したことが示される場合、このメッセージが問題の迅速な解決に役立つことがあります。

HLV0043H • HLV0049 I

す。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

var1 はサーバーのバージョンと改訂レベル、
var2 は CPU ID (シリアル番号)、
var3 は CPU モデル・タイプ、
var4 は CPU 型式番号 (分かっている場合)、
var5 は CPU の製造元 (分かっている場合)、
var6 はアクティブな PCCA 数、
var7 は診断フラグ。

HLV0043H text

説明: このメッセージは、さまざまな内部制御ブロック、プロセッサ・レジスタの内容、およびその他の 16 進情報を出力するために使用されます。

ユーザーの処置: エラーを示すメッセージが他にある場合、このメッセージと共に使用して、問題の原因を判別してください。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text はメッセージのテキスト。

HLV0044S desc FREEMAIN FAILED

説明: ストレージ解放エラー。製品は、ストレージのセクションを解放できませんでした。

ユーザーの処置: 異常終了コードを調べて、エラーの原因を判別してください。問題を解決するために必要な変更を行い、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明。

HLV0045S Task or exit mod can not be executed

説明: 製品制御ブロックが不整合であるために、製品マクロを使用できません。このマクロは、タスクまたは出口の初期化に使用されます。タスクまたは出口を実行することはできません。

ユーザーの処置: このエラーが発生するのは、製品の終了時、またはメイン製品アドレス・スペースが実行中ではない場合に限られます。その他の時間にこのエラーが発生する場合は、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。このエラーが報告された場合、メイン製品アドレス・スペースを再始動する必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名。

HLV0046W Initialization procedure procname or IRXJCL ended with condition code rc - processing continues

説明: 初期化プロシーチャーを実行するために、IRXJCL が接続されました。報告されたゼロ以外の条件コードが実行後に設定されました。

ユーザーの処置: 初期化 EXEC を調べて、戻りコードが設定される原因となった可能性がある REXX 言語エラーがないか確認してください。IRXJCL の戻りコードとプロシーチャーによって設定された戻りコードを区別するのは不可能な場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

procname は初期化プロシーチャー名、rc は戻りコードまたは条件コードの値。

HLV0047 I DATASPACE procname CREATED TIME = t2 BY %PM

説明: DSPSERV システム・サービス・ルーチンが初期設定時に呼び出されました。データ・スペースが作成されました。

ユーザーの処置: 必要ありません。これは通知メッセージです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

procname はデータ・スペース名のプロシーチャー名

HLV0048E DSPSERV ERROR. RETURN CODE = rc. t2 %PM

説明: データ・スペースを作成するために、DSPSERV システム・サービス・ルーチンが初期設定時に呼び出されました。しかし、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。データ・スペースは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 「Auth Assembler Services Reference」でメッセージに示されている戻りコードを確認して、可能な場合は適切なアクションを実行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は DSPSERV の戻りコード。

HLV0049 I Dataspace added to PASN list. t2 %PM

説明: ALESERV システム・サービス・ルーチンが初期設定時に呼び出され、このアドレス・スペースが以前に作成されたデータ・スペースに追加されました。

ユーザーの処置: 必要ありません。これは通知メッセージです。

HLV0050W var1 configuration requires an update, certain features will need modification, execution continuing.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0053S Configuration issue: processor model number (var1) does not match configured model; execution continues.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0054H var1 Configuration installed until var2 (var3 parameter).

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0055E cs not found within %PM primary load module

説明: サブシステム初期化中に、製品の 1 次実行ロード・モジュールで示されている制御セクション (CSECT) が欠落していました。

ユーザーの処置: サブシステムの初期化は即時に S0C3 異常終了で終了します。ソフトウェア・サポート・グループにお問い合わせください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cs は制御セクション名。

HLV0056E Invalid data found in 'cs' loaded at addr ivdata

説明: サブシステム初期化中に、製品の 1 次実行ロード・モジュールの一部としてロードされた制御セクションまたは表の中で無効なデータが検出されました。

ユーザーの処置: サブシステムの初期化は即時に S0C3 異常終了で終了します。ソフトウェア・サポート・グループにお問い合わせください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cs は制御セクションまたは表の名前、addr は CSECT または表のロード・アドレス、ivdata は無効なデータ域の 16 進ダンプ。

HLV0057W var1 rejected for use - var2 var3.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0058W var1 refresh required in var2 days.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0059S Configuration issue: H/W processor ID var1 mismatched configuration for var2 of past var3 hours.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0060T LATCH SET CREATED:
LS-NAME='var1' LATCHES=var2
LS-TOKEN=var3 var4 var5 var6 var7
var8 var9

説明: アドレス・スペース内で新規ラッチ・セットが作成されるときにトレースに書き込まれる情報

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はラッチ・セット名、var2 は新規ラッチ・セット内のラッチの数、var3 はラッチ・セット・トークン、var4 は可変情報、var5 は可変情報、var6 は variable information、var7 は可変情報、var8 は可変情報、var9 は可変情報。

HLV0061E LATCH ERROR: var1 var2 var3 var4
var5 var6 var7 var8 var9

説明: ラッチ・マネージャー内部サポート・ルーチンでエラーまたは予期しない状態が検出されました。

ユーザーの処置: エラーの原因を示す関連メッセージを探して、その根本にある問題を修正してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は処理中の要求タイプ、var2は検出されたエラー、var3 は可変情報、var4 は可変情報、var5 は可変情報、var6 は可変情報、var7 は可変情報、var8 は可変情報、var9 は可変情報。

**HLV0062T LATCH var1: LSTOKEN=var2
LATCHNO=var3 LTOKEN=var4
RQSTR=var5 var6 var7 var8 var9**

説明: ラッチの取得時、解放時、または消去時にトレースに書き込まれた情報

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は操作、var2 はラッチ・セット・トークン、var3 はセット内のラッチ番号、var4 はラッチ・トークン、var5 は要求側 ID、var6 は可変情報、var7 は可変情報、var8 は可変情報、var9 は可変情報。

HLV0063S z/OS Version must be at 1.13 or higher. Execution terminating.

説明: 製品は、ホスト・システムを検査して、ホスト・システムが z/OS 1.13 以上で稼働していないことを検出しました。製品は、1.13 より下の z/OS レベルをサポートしていません。

ユーザーの処置: 製品は、z/OS 1.13 以上のみをサポートします。製品を完全にサポートするには、z/OS 1.13 以上をインストールする必要があります。

**HLV0064T Interval summary var1. SMLH at var2
SMLG at var3. Tag: var4**

説明: 間隔要約レコードの作成中に間隔記録で内部制御ブロック・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーのある間隔記録は破棄され、要約は続行します。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は操作、var2 は SMLH のアドレス、var3 は SMLG のアドレス、var4 は可変情報。

HLV0065T Interval summary %1: %2

説明: このメッセージには、検出された間隔要約レコードのエラーの数が示されます

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0066S Logon of the address space user ID
<userid> failed. Detected at <ad>.**

説明: 製品は、アドレス・スペースのユーザー ID を使用してタスクのためのセキュリティ環境を作成できませんでした。

ユーザーの処置: この問題について記述する追加のエラ

ー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid はアドレス・スペースのユーザー ID。

**HLV0067S LOGON of the SSLUSERID, userid,
failed. Detected at ad.**

説明: 製品は、SSLUSERID に指定されたユーザー ID を使用してタスクのためにセキュリティ環境を作成できませんでした。

ユーザーの処置: この問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid はアドレス・スペースのユーザー ID。

HLV0068T Logon of user ID <userid> failed.

説明: サービス要求で指定されたユーザー ID のログオンが失敗しました。

ユーザーの処置: ユーザー ID が有効であるかどうか、またはパスワードが正しいかどうかを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid は http userid (SOAP ユーザー ID または証明書)。

**HLV0069W The severity level of message cannot
be changed.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0080E Control block cb could not be located

説明: 製品は、製品初期化中にいずれかの制御ブロックを検出しようとして失敗しました。制御ブロックの 1 つが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: ホスト (MVS) オペレーティング・システムのバージョンが製品によってサポートされていることを確認してください。ホスト・オペレーティング・システムのバージョンが製品によってサポートされている場合は、現在の問題について記述している他のエラ

ー・メッセージがないか確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題を解決できない場合、またはホスト・オペレーティング・システムのバージョンが製品によってサポートされていない場合は、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cb は制御ブロック。

HLV0081E Unknown host operating system - host

説明: 製品は、ホスト・オペレーティング・システムを製品名で識別できませんでした。

ユーザーの処置: ホスト (z/OS) オペレーティング・システムのバージョンが製品によってサポートされていることを確認してください。オペレーティング・システムが製品によってサポートされている場合は、現在の問題について記述している他のエラー・メッセージがないか確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正してサーバーを再始動してください。問題を解決できない場合、またはオペレーティング・システムがサポートされていない場合は、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: host はホスト・オペレーティング・システムの製品名。

HLV0082 I var1 online CPs and var2 online zIIPs detected

説明: この通知メッセージには、製品の初期設定時に検出されたオンラインの汎用プロセッサ (CP) と zIIP の数が示されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はオンライン CP の数、var2 はオンライン zIIP の数

HLV0083 I LPAR var1. CEC MSUs: var2. LPAR MSUs: var3. Current var4. var5

説明: この通知メッセージには、LPAR およびプロセッサの容量が示されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は LPAR 名、var2 は CEC MSU 容量、var3 は LPAR MSU 容量、var4 は現行の長期的な平均 MSU 使用量、var5 は z/OS が VM ゲストである場合にのみ関連します。

HLV0084 I Decimal float support var1 available on this processor

説明: この通知メッセージには、10 進浮動のサポートを利用できるかどうかを示されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は 10 進浮動のサポート (「is」または「is not」)。

HLV0090 I TSOSRVACTIVE(YES) INVALID IN PROB STATE - SIMULATED USING TMP IN CURRENT A/S

説明: このメッセージは、始動パラメーターとして TSOSRVACTIVE(YES) が指定され、製品が TSO でテスト・モードで実行されているときに発行されます。外部機能は、監視プログラム状態で作動して、MVS 開始タスクとして作動することを許可されていないと、有効化/管理することができません。

ユーザーの処置: 外部 TSO サーバー機能は活動化されません。外部 TSO サーバー機能は、現行のアドレス・スペース内で TSO/E を使用して (使用可能な場合) シミュレートされます。TSO/E で開発されたアプリケーションをサブシステムの許可されたコピーに移動するときに再テストする必要があります。一部の操作 (時間制限処理や CPU 時間のモニターなど) は、問題のある状態で実行されている製品のテスト・コピー内では適切にシミュレートできないためです。

HLV0091E service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな TSO/SRV 初期化エラー、実行エラー、および終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の TSO/SRV の問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (allocation、deletion)、desc は説明、rc は戻りコード。

**HLV0092E CANCEL of server jb (ASID=asid)
failed**

説明: 通常の方法でシャットダウンされないサーバー・アドレス・スペース (例えば、まだ実行されている長時間実行中のサーバー・タスク) は取り消されます。何らかの理由で取り消しを受け入れられない場合、このメッセージが発行されます。

ユーザーの処置: サーバー・アドレス・スペースが製品の終了後も存続する場合は、手動で取り消すか、強制的に取り消すことができます。製品の再始動時にサーバー・アドレス・スペースがシステムに残っていても、製品の実行に悪影響はないため、無視できます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: jb はジョブ名、asid はアドレス・スペース ID。

HLV0093 I Waiting for TSO server termination to complete

説明: 非アクティブなサーバーがシャットダウンされることが通知されました。サーバーが正常にシャットダウンできるように、終了プロセスは短時間待機します。この期間の終わりに、いずれかのサーバーがまだアクティブである場合は、キャンセルされます。

ユーザーの処置: 必要ありません。これは通知メッセージです。

HLV0094S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな TSO/SRV 実行キュー初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、attach など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0095S MAIN TASK TIMED OUT WHILE WAITING TO BE POSTED BY THE TSO/SRV SUBTASK

説明: 製品のメインタスクが TSO/SRV サブタスクによって通知されるのを待機している間にタイムアウトになりました。TSO/SRV サブタスクは異常終了したか、

ハングしています。製品は処理を続行できる場合と続行できない場合があります。

ユーザーの処置: このメッセージに関連する他の異常終了や製品メッセージがないか確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0096S TSO/SRV ABEND abcd OCCURRED AT mod+off DURING desc

説明: このエラー・メッセージは、TSO/SRV 実行キュー処理の終了処理中に発生した異常終了を記述しています。

ユーザーの処置: 現行の問題に関連しているエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット、desc は説明 (例えば、CGI SUBTASK TERMINATION)。

HLV0097 I service OF desc FAILED, RC=rc

説明: サーバーの終了中に、製品は、ビジー状態の TSO サーバーが内部シャットダウン要求に回答しなかったことを検出しました。サーバーを終了するために MVS CANCEL コマンドを発行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: なし。サーバーで実行中のトランザクションは最終的に完了します。後で追加の TSO/SRV コマンドから読み取ろうとしても失敗します。サーバーは 614 異常終了の後で終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (cancel)、desc は TSO サーバー、rc は戻りコード。

**HLV0101S %PM PRODUCT USAGE EXCEEDS SPECIAL CONFIGURATION LIMITS:
var1**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0102S **EXCESS USAGE - LOCATIONS: var1,
DRIVER TYPES: var2, HOST
BUSINESS SYSTEMS: var3**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0103H **Access restricted to TCP/IP - LU 6.2
support not activated**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0104H **No usage parameter specified. Usage
specific to basic administrative
functions and SIS.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0105 I **TEST DATE "var1" (var2) FOR
CONFIGURATION, D-O-C(var3 var4),
'var5'**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0106S **Version 7 Configuration required,
contact Software Support.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0107S **Server parameter required, contact
Software Support.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0110H **INITIALIZATION OF QUICKREF
INTERFACE FAILED, VERIFY
QUICKREF DSN AND INSTALL
STATUS**

説明: このメッセージには、製品が QUICKREF イン

ターフェースを初期化できなかったことが示されます。

ユーザーの処置: QUICKREF がこのシステムにインストールされている場合は、QUICKREF ロード・ライブラリーがリンク・リスト内にあるか、開始タスク JCL の QWREFLIB DD ステートメントによって割り振られていることを確認してください。QUICKREF がこのシステムにインストールされていない場合は、開始タスク JCL から QUICKREF への参照をすべて削除してください。

HLV0111S **Invalid DB2 subsystem ID 'subsys' set
by LOGDB2SUBSYS parameter**

説明: LOGDB2SUBSYS パラメーターを使用して、ロギングに無効な DB2 サブシステムが指定されました。指定された DB2 サブシステムは存在していないか、前回の IPL 以降にシステムでインストールおよび活動化が行われていません。

ユーザーの処置: LOGDB2SUBSYS パラメーターを使用して、有効な DB2 サブシステムを指定してください。ロギングが不要な場合は、LOGDB2SUBSYS に「NONE」を指定してください。LOGDB2SUBSYS を未設定のままにすることもできます。その場合は、サーバーによって自動的に設定されたか、DEFAULTDB2SUBSYS パラメーターによって設定されたデフォルトの DB2 サブシステムが、有効な場合に使用されます。製品の初期化は終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys はサブシステム名。

HLV0112S **Invalid default DB2 subsystem
'subsys' set by DEFAULTDB2SUBSYS
parameter**

説明: DEFAULTDB2SUBSYS パラメーターを使用してデフォルトの DB2 サブシステム ID が明示的に指定されましたが、有効な DB2 サブシステム ID を指定していません。DEFAULTDB2SUBSYS パラメーターが明示的に (「NONE」以外の値に) 設定されている場合、ターゲットの DB2 サブシステム ID が検証されます。ターゲットの DB2 サブシステムが存在していないか、前回の IPL 以降にシステムで正常に活動化されていない場合、ID の検証は失敗します。

ユーザーの処置: 明示的に指定された ID が無効な場合、製品は終了しますが、デフォルトのサブシステム ID が自動的に選択した場合は始動して続行することができます。(DEFAULTDB2SUBSYS パラメーターが明示的に設定されていない場合、サーバーは、DSNHDECP ロード・モジュールのデフォルトの DB2 ID または標準のストリング「DSN」を使用します。) 製品の初期化は中断され、サーバーは終了します。

DEFAULTDB2SUBSYS に有効なデフォルトの DB2 サブシステムを指定するか、自動的に割り当てられたデフォルト値が使用されるようにパラメーターを未設定のままにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `subsys` は DEFAULTDB2SUBSYS のサブシステム名。

HLV0113W DEFAULT DB2 SUBSYSTEM ID ('subsys') FROM DSNHDECP IS INVALID, CONTINUING

説明: サーバーによって自動的に選択されたデフォルトの DB2 サブシステム ID は、有効な DB2 サブシステム ID ではありません。DEFAULTDB2SUBSYS パラメーターに値が設定されていなかったため、サーバーは DB2 サブシステム ID を自動的に選択しました。サーバーは、DSNHDECP ロード・モジュールのデフォルトの DB2 ID を使用するか、DSNHDECP をロードできない場合には標準の値「DSN」をデフォルトの ID として使用します。デフォルトのサブシステム ID が無効であるため、DB2 サブシステム ID を明示的に送信しない DB2 操作は失敗します。さらに、DB2 サブシステム ID の妥当性に対する依存関係が原因で DB2 ロギングが禁止されている場合は、このメッセージの後に MSG0114W が発行される可能性があります。

ユーザーの処置: DEFAULTDB2SUBSYS 始動パラメーターを使用して有効なデフォルトの DB2 サブシステム ID を指定するか、DB2 が使用されない場合は、このパラメーターに「NONE」を指定してください。製品の初期化は続行されます。サーバーの始動時に DB2 サブシステムがアクティブ (稼働中) になっている必要はありませんが、サーバーの始動前に少なくとも 1 回はシステムに正常にインストールされて始動されている必要があることに注意してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `subsys` は DSNHDECP からのサブシステム名 (通常は「DSN」)。

HLV0114W DB2 logging will not be activated - requires valid default DB2 subsystem ID

説明: サーバーによって (DSNHDECP ロード・モジュールから) 自動的に設定されたデフォルトの DB2 サブシステム ID は無効で、LOGDB2SUBSYS パラメーターに明示的な値が設定されていませんでした。DB2 ロギングには有効なデフォルトの DB2 ID が必要であるため、LOGDB2SUBSYS に値「NONE」が強制的に設定され、DB2 ロギングは活動化されていません。

ユーザーの処置: DEFAULTDB2SUBSYS パラメーターを使用して、デフォルトの DB2 として有効な DB2 サ

ブシステム ID を指定してください。すべての操作にグローバルなデフォルトの DB2 サブシステム ID を指定せずに、DB2 ロギングを活動化したい場合は、代わりに LOGDB2SUBSYS に有効な ID を指定してください。現在のサーバー始動中に DB2 ロギングは活動化されません。

HLV0115E LE/370 INTERFACE MODULE CEEPIPI CANNOT BE LOADED - IT IS REQUIRED FOR SSL SUPPORT

説明: 初期化中に、サブシステムの実行に MVS Language Environment インターフェースが必要であることが判別されました。SSL サポートには、LE/370 インターフェースを使用する必要があります。インターフェース・モジュールの CEEPIPI が STEPLIB またはリンク・リストで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 製品の初期化は中止されます。サブシステムを再始動するには、LE/370 ランタイム・ライブラリーを STEPLIB またはリンク・リストで使用できることを確認するか、SSL サポート・オプションをオフにしてください。

HLV0116W DB2 logging cannot be activated when DB2 SUBSYS default is 'NONE', logging deactivated

説明: 製品の DB2 ロギング機能をデフォルトの DB2 サブシステム設定「NONE」で使用することはできません。DEFAULTDB2SUBSYS パラメーターは、実際の DB2 サブシステム ID に設定されるか、未指定のままであればなりません。「NONE」が設定されたため、すべての DB2 処理が禁止されます。このメッセージは、LOGDB2SUBSYS パラメーターが明示的に「NONE」以外の DB2 サブシステム ID 値に設定されている場合のみ発行されます。LOGDB2SUBSYS パラメーターは無視され、DEFAULTDB2SUBSYS パラメーターと一致するように「NONE」に再設定されます。これにより、DB2 ロギングは活動化されません。製品の初期化は、DB2 ロギングを活動化せずに続行されます。

ユーザーの処置: DEFAULTDB2SUBSYS に有効なデフォルトの DB2 サブシステム ID を指定するか、このパラメーターを未設定のままにしてください (未設定の場合、DSNHDECP ロード・モジュールからデフォルト値がフェッチされます)。製品の初期化は、DEFAULTDB2SUBSYS と LOGDB2SUBSYS の両方に NONE が設定された状態で続行されます。

**HLV0117S typtcp TCP/IP port number is invalid
- %1 TCP/IP processing terminated**

説明: 製品によってサポートされているいずれかのタイプの TCP/IP に指定された TCP/IP ポート番号が無効です。いずれかのタイプの TCP/IP に無効な TCP/IP ポート番号が指定されている場合、メイン製品アドレス・スペースは初期化を完了できません。

ユーザーの処置: 無効なポート番号が検出されたタイプの TCP/IP に有効なポート番号を指定してください。そのタイプの TCP/IP が不要である場合は、失敗したタイプの TCP/IP に TCP/IP ポート番号を設定しないでおくことができます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: typtcp は TCP/IP のタイプ。

**HLV0118S Load balancing not available - VCF
feature code is required.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0119W Logging not available - DB2 feature
code is required.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0120 I SEF msg

説明: 製品は、製品の初期化中に SEF を初期化しようとして失敗しました。SEF の初期化は失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現行の SEF 初期化問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。セキュリティ製品関連の異常終了など、オープン・エラーがないか確認してください。また、ストレージ割りのエラーまたは異常終了がないかについても確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージまたはメッセージ・テキスト。

HLV0121W SEF - service OF desc FAILED, RC=rc

説明: 製品は、製品の初期化または終了中に SEF の初期化または終了を試行しました。SEF の初期化または終了中に呼び出された内部サービス・ルーチンがゼロ以外の戻りコードで終了しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。SEF の初期化または終了の現行の問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。セキュリティ製品関連の異常終了など、オープン・エラーがないか確認してください。また、ストレージ割りのエラーまたは異常終了がないかについても確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、割り振り、削除など)、desc は説明、rc は戻りコード。

**HLV0122S ABEND abcd REASON abrs
OCCURRED AT mod+off DURING
SEF desc**

説明: 製品は、製品の初期化または終了中に SEF の初期化または終了を試行しました。SEF 初期化/終了ルーチンは異常終了しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージおよび異常終了コードを確認してください。SEF の初期化または終了の現行の問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。セキュリティ製品関連の異常終了など、オープン・エラーがないか確認してください。また、ストレージ割りのエラーまたは異常終了がないかについても確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、abrs は異常終了の理由、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット、desc は説明。

HLV0123T SEF initialization complete

説明: 製品は、SEF 初期化を完了しました。すべてのトリガーおよびイベントが処理のために SEF に渡されるようになります。

ユーザーの処置: このメッセージに対応するためのアクションは不要です。ただし、このメッセージを使用して

1 つ以上のイベント処理プロシーチャーを活動化できません。

HLV0126S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな SEF 実行キュー初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、attach など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0127S MAIN TASK TIMED OUT WHILE WAITING TO BE POSTED BY THE process SUBTASK

説明: 製品のメインタスクが SEF サブタスクによって通知されるのを待機している間にタイムアウトになりました。SEF サブタスクは異常終了したか、ハングしています。製品は処理を続行できる場合と続行できない場合があります。

ユーザーの処置: このメッセージに関連する他の異常終了や製品メッセージがないか確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はプロセスのサブタスク名。

HLV0128S Dynamic definition of ddn library failed

説明: マップ・データ・メンバーをキャッシングできるようにマッピング・データ・セットを適切に定義できませんでした。

ユーザーの処置: この問題に関連する他の異常終了または製品メッセージがないか確認して、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn はマップ・ライブラリーの DD 名。

HLV0130H Initializing pkg release rel security environment

説明: このメッセージには、製品が製品と ACF2 または RACF の間のインターフェース用にセキュリティー環境を正常に初期化できたことが示されます。このメッセージには、インターフェースが確立されたセキュリティー製品とリリース・レベルが示されます。

ユーザーの処置: お客様がいずれのセキュリティー・パッケージも実行されていないのにセキュリティー・パッケージが識別されたか、リリース・レベルが誤っている場合を除き、アクションは不要です。そのようなエラーが検出された場合は、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pkg はセキュリティー・パッケージ、rel はリリースの番号またはストリング。

HLV0131S subsysid SSCT chain scanning error

説明: ACF2 または RACF を検索するために、セキュリティー・インターフェース・ルーチンによって SSCT チェーンがスキャンされました。SSCT チェーンにエラーが存在しているため、検索を続行できませんでした。

ユーザーの処置: SSCT チェーンを調べて、無効なチェーンまたは SSCT 制御ブロックがないか確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsysid はセキュリティー製品のサブシステム ID。

HLV0132W No security package found

説明: RACF、CA ACF2、または CA Top Secret のいずれかの既知のセキュリティー・パッケージを検索するために、セキュリティー・インターフェース・ルーチンによって SSCT チェーンがスキャンされました。既知のセキュリティー製品は検出されず、セキュリティー・パッケージ・フィールドは NONE に設定されました。

ユーザーの処置: システムにセキュリティー・パッケージが存在していない場合は、これはエラーではなく、さらなるアクションは不要です。RACF、CA ACF2、または CA Top Secret がアクティブである場合にこのメッセージを受け取った場合は、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLV0133E erel release unknown, release code is rel

説明: 製品は、ACF2 のリリース・レベルを認識しようとしたが、認識またはサポートされているリリース・レベルを見つけることができませんでした。現在の時点では、CA によってサポートされている ACF2 のリリースはすべて製品によってサポートされています。

ユーザーの処置: ご使用の ACF2 のリリースが CA によってサポートされている場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、そのリリースの ACF2 に対するサポートの追加を要求してください。リリース番号にエラーがあると考えられる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: erel はエラーのあるリリース番号、rel はリリースの番号またはストリング。

HLV0134W RUNAUTH USERID cache initialization failed - sharing of RUNAUTH USERIDs now disabled

説明: 始動中に、SHARERUNAUTHACEES オプションが ON に設定されましたが、キャッシュされた RUNAUTH ユーザー ID 表の初期化中にエラーが発生しました。原因として、GETMAIN の失敗が考えられます。

ユーザーの処置: 製品の初期化は、SHARERUNAUTHACEES オプションが OFF に設定された状態で続行されます。エラーの説明については、ラップアラウンド・トレースおよびコンソール・メッセージを確認してください。障害の理由が見つからない場合は、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLV0135W Security routine failed attempting to validate the LOGUSERID usid. RC=rc1.

説明: ログイン・タスクの新規ユーザー ID を検証しようとしたときに内部セキュリティ・サービス・ルーチンが失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。システム・ログに他のエラー・メッセージが存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid は LOGUSERID パラメーター値、rc1 はセキュリティ・モジュールの戻りコード。

HLV0136W LOGUSERID (usid) LOGON FAILED rc1 rc2 rscd - msg

説明: ログイン・タスクの新規ユーザー ID を検証しようとしたときにエラーが発生しました。これは、セキュリティ環境エラーです。

ユーザーの処置: 製品のログインは、ログインに使用された以前のユーザー ID で続行されます。LOGUSERID パラメーターの値を訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid は LOGUSERID パラメーター値、rc1 はセキュリティ・モジュールの戻りコード、rc2 は RACF (SAF) の戻りコード、rscd は RACF (SAF) の理由コード、msg は RACF (SAF) からのエラー・メッセージのテキスト。

HLV0137S ABEND abcd REASON abrs OCCURRED AT mod+off DURING SOM desc.

説明: Security Optimization Management フィーチャーの初期化時または終了時に異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージおよび異常終了コードを確認してください。初期化または終了の現行の問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。セキュリティ製品関連の異常終了およびストレージ割り振りのエラーまたは異常終了がないか確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、abrs は異常終了の理由、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット、desc は説明。

HLV0138W SOM facility is not available for var1. Processing continues.

説明: Security Optimization Management (SOM) が要求されましたが、セキュリティ・パッケージは RACF ではありません。SOM は、RACF のみに対して有効にすることができます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はセキュリティ・パッケージ。

HLV0139W Dynamic var1 services are not available

説明: MVS 動的 LPA サービスを利用できません。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はサービスの名前。

HLV0140 I The following catch-up rules require a final catch-up disposition

説明: このメッセージは、製品の前回の実行時に実行されなかったキャッチアップ・マニュアル・ルールがある場合に発行されます。このメッセージは、実行されなかったルールを示すメッセージ 0141I の後に発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対応するためのアクションは不要です。ただし、このメッセージを使用して 1 つ以上のイベント処理プロシーチャーを活動化できます。

HLV0141 I rule1 rule2 rule3 rule4 rule5 rule6 rule7

説明: このメッセージは、製品の前回の実行時に実行されなかったキャッチアップ・マニュアル・ルールがある場合に発行されます。実行されなかった最大 7 つのルールが `ruleset.rule` 形式でリストされます。すべてのキャッチアップ・マニュアル・ルールをリストできるように、複数のメッセージが発行される場合があります。

ユーザーの処置: このメッセージに対応するためのアクションは不要です。ただし、このメッセージを使用して 1 つ以上のイベント処理プロシーチャーを活動化できます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1 (固有性を確保するための `rule.ruleset` 形式)、rule2 (固有性を確保するための `rule.ruleset` 形式)、rule3 (固有性を確保するための `rule.ruleset` 形式)、rule4 (固有性を確保するための `rule.ruleset` 形式)、rule5 (固有性を確保するための `rule.ruleset` 形式)、rule6 (固有性を確保するための `rule.ruleset` 形式)、rule7 (固有性を確保するための `rule.ruleset` 形式)。

HLV0142R Reply 'YES' to catch-up all rules, 'NO' to bypasscatch-up, or 'MANUAL' for rule by rule prompting

説明: このメッセージは、製品の前回の実行時に実行されなかったキャッチアップ・マニュアル・ルールがある場合に発行されます。すべてのキャッチアップ・マニ

アル・ルールを実行するか、すべてのキャッチアップ・マニュアル・ルールが実行されないようにするか、個々のルールごとにキャッチアップ処理のタイプを指定することができます。このメッセージは、メッセージ 0140I および 0141I の後に発行されます。応答を待機している時間が 2 分を超えるか、無効な応答が 3 回行われた場合、デフォルトのアクションの NO が実行されません。

ユーザーの処置: すべてのキャッチアップ・マニュアル・ルールが実行されるようにするには、YES と応答してください。すべてのキャッチアップ・マニュアル・ルールが実行されないようにするには、NO と応答してください。MANUAL と応答すると、個々のルールごとにキャッチアップ処理のタイプを指定するように求めるプロンプトが表示されます。

HLV0143R Reply 'YES' to catch-up rule rule or 'NO' to bypasscatch-up

説明: このメッセージは、製品の前回の実行時に実行されなかったキャッチアップ・マニュアル・ルールがあり、メッセージ 0142R への応答で MANUAL を選択した場合に発行されます。プロンプトが表示されているルールの名前の形式は、`ruleset.rule name` です。応答を待機している時間が 2 分を超えるか、無効な応答が 3 回行われた場合、デフォルトのアクションの NO が実行されます。

ユーザーの処置: ルールが実行されるようにするには、YES と応答してください。ルールのキャッチアップが実行されないようにするには、NO と応答してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule は固有性を確保するための `rule.ruleset` 形式。

HLV0144E Invalid catch-up manual reply: 'reply'

説明: いずれかのキャッチアップ・マニュアル・コンソール・メッセージに無効な応答が指定されました。正しく応答できるように、このエラーの原因となっているメッセージが再発行されます。同じメッセージに対する 3 回の無効な応答の後、デフォルトのアクションが実行されます。デフォルトのアクションの説明については、元のメッセージの説明を確認してください。

ユーザーの処置: メッセージのテキストから適切な応答を判別して、正しく応答してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: reply は応答テキスト。

HLV0145E Catch-up reply wait exceeded 2 minutes. Default used

説明: 製品は、いずれかのキャッチアップ・マニュアル・メッセージへの応答を 2 分以上待機しました。その時間中に応答がなかったため、デフォルトのアクションが実行されました。

ユーザーの処置: なし。 応答が必要だった場合は、メッセージに迅速に応答する必要があります。

HLV0146E 3 Invalid catch-up replies. Default taken

説明: キャッチアップ・マニュアル・メッセージに対して 3 回の無効な応答が行われました。正しい応答を受け取っていないため、デフォルトのアクションが実行されました。

ユーザーの処置: なし。 次回、必要に応じて応答してください。

HLV0147E Catch-up service <service> for variable <varname> failed, RC=<rc>.

説明: HLVVALUE 関数または SWSVALUE 関数を実行するキャッチアップ処理中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作、varname は変数または変数ステムの名前、rc は関数の戻りコード。

HLV0148W Catch-up rule <rule> has changed. Catch-up bypassed.

説明: このメッセージは、ルールが前回有効になった後でキャッチアップ・ルールが変更された場合に発行されます。変更されなければ、ルールが前回実行されたときに製品または z/OS のいずれかがダウンしたために、ルールが実行されていたはずですが、ルールは、変更されたために、キャッチアップに対して実行されません。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule はルール・セットおよびルール名。

HLV0149E Catch-up rule rule global variable write failed, RC=rc

説明: このメッセージは、キャッチアップ・ルールが、次回の実行時刻を記述するグローバル変数を書き込もうとして失敗した場合に発行されます。その結果、ルール

のキャッチアップ処理は、製品が次回再始動されるときに失敗します。この状態は通常、GLOBALMAX 始動パラメーターを超過して、新しいグローバル変数を作成することができなくなった場合に起こります。戻りコード 93 は、GLOBALMAX を超過したことを示します。さらに、TOD ルールが実行されるたびに、内部グローバル変数が更新され、このメッセージに戻りコード 4 が表示されます。

ユーザーの処置: 製品をシャットダウンして、より大容量の SYSCHK1 データ・セットを割り振ってください。既に大規模なデータ・セットがあっても、GLOBALMAX 値が小さいためにその一部しか使用していない場合は、この操作が不要になる可能性があります。必要な場合は、IDCAMS REPRO コマンドを使用して、既存のデータベースを新しい大容量のデータベースにコピーしてください。初期パラメーター設定の GLOBALMAX パラメーターに割り当てられている値を増やして、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule は TOD キャッチアップ・ルール名、rc はグローバル変数書き込みの戻りコード。

HLV0150S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまなトレース初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0151S service OF dsn FAILED, RC=rc, REASON CODE=rscd

説明: このエラー・メッセージは、DIV (Data In Virtual) システム・サービスの使用中のトレースの初期化、実行、または終了時に発生したエラーを記述しています。DIV マクロからの戻りコードおよび理由コードのリストについては、該当する IBM 資料を参照してください。

ユーザーの処置: この問題に関連する DIV の戻りコードおよび理由コードを確認してください。現在の問題に

ついて記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service DIV サービス (例えば、DIV IDENTIFY など) dsn データ・セット (例えば、トレース・データ・セット) rc 戻りコード rscd 理由コード

HLV0152S service OF dsn FAILED, ABEND=abcd, REASON CODE=rscd

説明: このエラー・メッセージは、DIV (Data In Virtual) システム・サービスの使用中のトレースの初期化、実行、または終了時に発生した異常終了を記述しています。DIV マクロからの異常終了コードおよび理由コードは、IBM 資料の「z/OS プログラミング: アセンブラ・サービス解説書」に記載されています。

ユーザーの処置: この問題と関連する DIV の異常終了コードおよび理由コードを調べてください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service DIV サービス (例えば、DIV IDENTIFY など)、dsn データ・セット (例えば、トレース・データ・セット)、abcd 異常終了コードおよび理由コード

HLV0153H ddn data set not allocated

説明: 製品は、メイン製品アドレス・スペースを開始するために使用される JCL 内に TRACE DD カードが存在していないことを検出しました。

ユーザーの処置: 必要な DIV データ・セットが割り振られていることを確認した後、JCL を変更して、TRACE DD カードを指定してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn は DD 名 (TRACE)。

HLV0154S Any existing Trace Browse data discarded

説明: 製品はこのエラーを検出しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0155S Please standby - upgrading Trace Browse - all data retained

説明: 製品は、Trace Browse データ域をアップグレードしています。Trace Browse データ域で旧バージョンの製品からのメッセージが検出されるたびに、Trace Browse データ域をアップグレードする必要があります。アップグレードされた Trace Browse データ域は、要求されているように製品の旧リリースと互換性があります。

ユーザーの処置: このメッセージに対応するためのアクションは不要です。アップグレードされたデータ域フォーマットをサポートする製品の最初のリリースをインストールするときに、このメッセージが 1 回のみ表示されます。Trace Browse データ域がアップグレードされた後で旧バージョンの製品が使用されている場合、このメッセージが再び表示される場合があります。このメッセージは、Trace Browse データ域のアップグレードが完了するとすぐに削除されます。アップグレードには 100,000 個のメッセージごとに約 3 分必要です。このメッセージが繰り返し表示される場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

HLV0156S service PASSED desc - code

説明: これは、さまざまなトレース初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作に渡されたデータ (有効データまたは無効データ) を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (INIT/TERM など)、desc は説明、code はコード。

HLV0160S Possible shortage of storage, stg bytes required for Trace Browse

説明: これは、GETMAIN が失敗した場合にメッセージ 0150S を補足するメッセージです。このメッセージは、GETMAIN によって要求された領域の、バイト単位のサイズを示しています。

ユーザーの処置: GETMAIN の戻りコードにより、GETMAIN 要求を完了するためのストレージが不十分であることが示される場合は、(16 MB 境界の上の) 使

用可能ストレージを示されている量だけ増やしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stg は要求されたストレージのサイズ。

HLV0161S Main task timed out while waiting to be posted by the TRACE subtask

説明: 製品のメインタスクはトレース・サブタスクによって通知されるのを待機している間にタイムアウトになりました。トレース・サブタスクは異常終了したか、ハングしています。製品は処理を続行できる場合と続行できない場合があります。

ユーザーの処置: このメッセージの直前に発行された製品関連の他の異常終了またはメッセージがないか確認して、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

HLV0162S service OF dsn FAILED, ABEND=abcd AT mod+off, REASON CODE=rscd

説明: このエラー・メッセージは、DIV (Data In Virtual) システム・サービスの使用中のトレースの初期化、実行、または終了時に発生した異常終了を記述しています。DIV マクロからの異常終了コードおよび理由コードは、IBM 資料の「z/OS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」に記載されています。

ユーザーの処置: この問題と関連する DIV の異常終了コードおよび理由コードを調べてください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service DIV サービス (例えば、DIV IDENTIFY など)、 dsn データ・セット (例えば、トレース・データ・セット) abcd 異常終了コード mod モジュール名 off モジュールのオフセット rscd 理由コード

HLV0165 I SEF msg

説明: SEF サブタスクのマッピング情報メッセージ。

ユーザーの処置: 現時点ではありません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージまたはメッセージ・テキスト。

HLV0166E Unable to build process block for SEF interface, RC=rc

説明: サービス始動は、SEF タスクへのインターフェースとなる環境を構築できませんでした。戻りコードが示されます。

ユーザーの処置: 戻りコードを確認して、エラーについて説明している他のエラー・メッセージを探してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード。

HLV0167E Ruleset rule specifies DSN dsn, should be dsn for VirtualDirectory virt.

説明: サービスの始動時に、既存のルール・セットのデータ・セット名と一致しないデータ・セット名を持つルール・セットが指定された仮想ディレクトリーが検出されました。この仮想ディレクトリーは初期化されません。

ユーザーの処置: 関連するすべての仮想ディレクトリーのルール・セットとデータ・セット名の不整合を訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule はルール・セット名、 dsn はデータ・セット名、 dsn はデータ・セット名、 virt. dir. は仮想ディレクトリー名。

HLV0171S service OF dsn FAILED, RC=rc, REASON CODE=rscd

説明: このエラー・メッセージは、DIV (Data In Virtual) システム・サービスの使用中のグローバル変数の初期化、実行、または終了時に発生したエラーを記述しています。DIV マクロからの戻りコードおよび理由コードのリストについては、該当する IBM 資料を参照してください。

ユーザーの処置: この問題と関連する DIV の戻りコードおよび理由コードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は DIV サービス (例えば、DIV identify)、 dsn はデータ・セット (例えば、SYSCHK1 データ・セット)、 rc は戻りコード、 rscd は理由コード。

HLV0172S service OF dsn FAILED, ABEND=abcd, REASON CODE=rscd

説明: このエラー・メッセージは、DIV (Data In Virtual) システム・サービスの使用中のグローバル変数の初期化、実行、または終了時に発生した異常終了を記述しています。DIV マクロからの戻りコードおよび理由コードのリストについては、該当する IBM 資料を参照してください。

ユーザーの処置: この問題と関連する DIV の異常終了コードおよび理由コードを調べてください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は DIV サービス (例えば、DIV identify)、dsn はデータ・セット (例えば、SYSCHK1 データ・セット)、abcd は異常終了コード、rscd は理由コード。

HLV0173W ddn data set not allocated

説明: 製品は、メイン製品アドレス・スペースを開始するために使用される JCL 内に SYSCHK1 または SYSCHK2 のいずれかの DD カードが存在していないことを検出しました。

ユーザーの処置: 必要な DIV データ・セットが割り振られていることを確認した後、JCL を変更して、適切な DD カードを指定してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn は DD 名 (例えば、SYSCHK1)

HLV0174S Any existing global variables data discarded

説明: 製品はこのエラーを検出しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0175 I Global variable upgrade text

説明: 製品のバージョン 02.01.01 より前は、グローバル変数はリンク・リストで維持されていました。バージョン 02.01.01 以降では、パフォーマンスを向上させるために、これらは AVL ツリー構造で維持されます。このメッセージには、グローバル変数プールが新しいフォーマットにアップグレードされていることが示されます。このメッセージは、GLOBALREBUILD パラメーターが YES に設定された結果として発行されるか、グロ

ーバル変数データベースが破損している場合に発行されることもあります。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text はグローバル変数のテキスト・ストリング。

HLV0176S Duplicate global variable found, name=varname

説明: グローバル変数の AVL ツリーの作成/再作成中に、ノードをツリーに追加しようとしたのですが、ノードは既にツリーに存在していました。2 番目の値は無視され、ツリーの作成/再作成は続行されます。

ユーザーの処置: このメッセージをソフトウェア・サポートに報告してください。この状態は、以前の論理エラーが原因で発生しました。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname はグローバル変数の名前。

HLV0177S Main task timed out while waiting to be posted by the global variable checkpoint subtask

説明: 製品のメインタスクがグローバル変数チェックポイント・サブタスクによって通知されるのを待機している間にタイムアウトになりました。グローバル変数チェックポイント・サブタスクは異常終了したか、ハングしています。製品は処理を続行できる場合と続行できない場合があります。

ユーザーの処置: このメッセージの直前に発行された製品関連の他の異常終了またはメッセージがないか確認して、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLV0178S errdesc DETECTED IN GLOBAL VARIABLE LIST

説明: グローバル変数 AVL ツリーの作成/再作成時に、以下のいずれかが発生しました。(1) 順次リストで無限ループが検出された、(2) 順次リストで無効な項目が検出された、(3) 順次リストで無効なオフセットが検出された。ツリー再作成はこの時点で終了します。製品は、グローバル変数データ・セット全体を再構成しようとしています。一部のグローバル変数が破棄される可能性があります。

ユーザーの処置: このメッセージをソフトウェア・サポートに報告してください。この状態は、以前の論理エラーまたはストレージ・オーバーレイが原因で発生しました。グローバル変数データ・セットが正常に再構成された後、製品は通常どおりに機能し続けます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc はエラーの説明 (例えば、infinite loop)。

HLV0179 I Global variable conversion from version text ver

説明: 製品のバージョン 02.02.00 より前は、グローバル変数のサイズは 256 バイトに制限されていました。バージョン 02.02.00 以降では、この制限は解除されています。製品のバージョン 03.02.00 より前は、鍵サイズは 50 バイトに制限されていました。バージョン 03.02.00 以降では、鍵サイズの制限は 84 バイトに増えています。このメッセージには、グローバル変数が新しいフォーマットに変換されていることが示されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text はグローバル変数のテキスト・ストリング、ver は以前のデータベース・バージョンのストリング (例えば 03.01.01)。

HLV0180 I GLOBAL VARIABLE CHAIN REBUILD text, num GLOBALS

説明: グローバル変数ツリーの再作成中に、チェーン・リストが不完全で再作成が必要であることが検出されました。このメッセージには、チェーンの再作成処理の状況が示されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text はグローバル変数テキスト・ストリング、num はデータベース内のグローバル変数の数。

HLV0181 I varname BEING ADDED TO CHAIN

説明: グローバル変数ツリーの再作成中に、チェーン・リストが不完全で再作成が必要であることが検出されました。このメッセージには、グローバル変数チェーンに再び挿入される変数が示されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname はグローバル変数の名前。

HLV0182 I GLOBAL VARIABLE DATABASE BEING CONVERTED

説明: 製品のバージョン 02.02.00 は初めてこのグローバル変数 DIV データ・セットを処理しました。製品は、グローバル変数データベースを新しいフォーマット

に変換しています。後方変換ユーティリティが後で実行されない限り、変換されたグローバル変数データベースを以前のバージョンの製品で使用できなくなります。

ユーザーの処置: 通知専用。アクションは不要です。

HLV0183S ABEND abcd OCCURRED AT mod+off DURING desc

説明: このエラー・メッセージは、グローバル変数サブタスクの終了処理中に発生した異常終了を記述しています。始動中の AVL ツリーの再作成時、または GLOBALREBUILD パラメーターが YES に設定されている場合にも発生する可能性があります。

ユーザーの処置: 現行の問題に関連しているエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。AVL ツリー再作成ルーチンの場合、製品は、グローバル変数チェックポイント・データ・セットを自動的に再作成することによってリカバリーしようとしています。それ以外の場合はいずれも、エラー・メッセージに示されている問題の修正を試みて、製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット、desc は説明。

HLV0184S desc addr1 addr2 addr3

説明: グローバル変数チェックポイントの前にデータを検証しているときに論理エラーが発生しました。チェックポイントは打ち切れ、誤ったデータが保管されないように製品は終了します。前回のチェックポイント以降のグローバル変数データベースの変更は破棄されます。

ユーザーの処置: 製品の再始動を試みてください。同じエラーが発生する場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、このメッセージの情報を提供してください。製品を再始動する前に GLOBALREBUILD パラメーターを YES に設定することでデータベースを再構成できる可能性があります。そうでない場合は、以前のバックアップからグローバル変数データ・セットを復旧できます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明、addr1 はストレージ・アドレス、addr2 はストレージ・アドレス、addr3 はストレージ・アドレス。

HLV0185W GLOBALMAX VALUE OF value1 IS TOO LOW. RESET TO value2.

説明: GLOBALMAX パラメーター値が低すぎるため、グローバル変数データベースが破棄される原因になります。この値は無視され、前の値にリセットされました。

HLV0186S • HLV0191W

このシナリオは、製品の初期化 REXX プログラムまたは CLIST の障害によって引き起こされた可能性があります、それが原因でデフォルトの GLOBALMAX 値の使用が試みられました。

ユーザーの処置: このエラーが初期化 REXX プログラムまたは CLIST の障害によって引き起こされた場合は、できるだけ早く障害の原因の判別を試みてください。他の問題が発生するのを防ぐために、製品をシャットダウンするようにしてください。この障害が原因で、GLOBALMAX 値にデフォルトが使用された可能性があります。実際にグローバル変数データ・セットのサイズを減らそうとしている場合は、製品を停止し、DIV データ・セットを削除して新規 DIV データ・セットを再割り振りしてから、製品を再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value1 は問題のある GLOBALMAX 値、value2 は既存の GLOBALMAX 値。

HLV0186S CONVERSION FAILED. INCREASE GLOBALMAX BY AT LEAST value.

説明: SYSCHK1 データベースのバージョン 03.02.00 形式への変換が失敗しました。変換されたデータを含むのに、GLOBALMAX 値が十分な大きさでないためです。キー・サイズが増えるため、新規データベースには古いデータベースより多くのスペースが必要です。最悪の場合、データベースに必要なスペースが最大 2 倍になる可能性があります。

ユーザーの処置: 製品をシャットダウンし、より大きい SYSCHK1 データ・セットを割り振ります。既に大規模なデータ・セットがあっても、GLOBALMAX 値が小さいためにその一部しか使用していない場合は、この操作が不要になる可能性があります。必要な場合は、IDCAMS REPRO コマンドを使用して、既存のデータベースをより大きな新規データベースにコピーしてください。初期パラメーター設定で GLOBALMAX パラメーターに割り当てられた値を増やして、製品を再始動します。この値を増やすと、SYSCHK1 データ・セットにフリー・スペースが残らない可能性があります。システムの拡大を考慮して、十分なフリー・スペースを残してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value は GLOBALMAX に追加する最小値。

HLV0187 I OLD IN-USE BLOCK COUNT - value. NEW IN-USE BLOCK COUNT - %2.

説明: この通知メッセージは、03.02.00 形式への変換前に SYSCHK1 データベースで使用されていたストレージのブロック数と、変換後に使用されるようになるストレージのブロック数を示しています。

ユーザーの処置: 新規の使用ブロック数を GLOBALMAX 値と比較してください。この値が GLOBALMAX 値と近ければ、通常の操作に十分なフリー・スペースがないと考えられるため、できるだけ早く SYSCHK1 データベースのサイズを増やす必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value は GLOBALMAX に追加する最小値。

HLV0188S INCOMPATIBLE SYSCHK1 DATABASE LEVEL level, CANNOT BE USED.

説明: SYSCHK1 データベースが製品の現行バージョンと互換性のない形式になっています。このデータベースは、製品の新しいバージョンによってサポートされる形式に変換された可能性があります。

ユーザーの処置: 製品の現行バージョンと互換性があるデータベース・バージョンを使用してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: level は SYSCHK1 データベースのレベル番号。

HLV0190E SEF STARTUP ERROR: var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: SEF サービス・タスクの初期化中に、構成パラメーターのエラーまたは環境上のエラーが検出されました。この問題は、システム Web インターフェース (SWI) 機能の拡張実装に何らかの形で関連しています。SWI 機能の構成に使用されるパラメーターが競合しているか、このバージョンのサーバーが設定している新たな制限が満たされていません。

ユーザーの処置: SEF サービス・タスクの初期化はエラーで終了し、それによりサーバーがシャットダウン処理を開始します。エラーの原因を判別し、問題または競合を訂正してください。生成されたメッセージを見ても問題を理解できず、解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 可変、var2 可変、var3 可変、var4 可変、var5 可変、var6 可変、var7 可変、var8 可変、var9 可変

HLV0191W SWI FACILITY WARNING: var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: システム Web インターフェース (SWI) 機能による活動化、終了、または処理の最中に構成パラメーターのエラーまたは環境上のエラーが検出されました。SWI 機能は、報告された状態に応じて調整を行いながら操作を続行します。

ユーザーの処置: 警告が予期していたものかそうでないかを判別してください。予期していなかった状態が警告によって報告された場合は、構成またはその他の問題を修正してからサーバーを再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 可変、var2 可変、var3 可変、var4 可変、var5 可変、var6 可変、var7 可変、var8 可変、var9 可変

HLV0192 I SWI FACILITY: var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: システム Web インターフェース (SWI) 機能が問題の可能性のある状態を検出し、このメッセージ番号を使用してそれを報告しています。このメッセージは、報告された情報の性質に応じて、構成の問題またはランタイムの問題を示している可能性があります。

ユーザーの処置: リカバリー可能な状態が報告された場合は、その状態の原因となった可能性のある SWI 構成を確認し、次のサーバー再始動の前に訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 可変、var2 可変、var3 可変、var4 可変、var5 可変、var6 可変、var7 可変、var8 可変、var9 可変

HLV0193W SEFACTIVE = "NO" set - SEF rules will not be enabled during start-up .

説明: SEFACTIVE パラメーターが「NO」に設定されているため、サーバーの始動中にルールの有効化は行われません。後で、定義済みのルール・セットに対して手動で ENABLE SEF コマンドを発行し、ルールを有効化できます。

ユーザーの処置: 警告が予期していたものかどうかを判別してください。そうでない場合は、SEFACTIVE 始動パラメーターを訂正し、サーバーを再始動してください。

HLV0194W SEF start-up procedure ended with special RC (8) - auto-enable of SEF rules bypassed - no SEF rules are enabled.

説明: SxxxxINEF 始動プロシージャーが RC=8 で終了し、ルールの有効化をバイパスする必要があることを示しています。サーバーはルールの有効化をバイパスします。ルールは後で手動によって有効化できますが、それまでは、SEF 機能によってイベント関連の処理は実行されません。

ユーザーの処置: 警告が予期していたものかどうかを判別してください。そうでない場合は、SxxxxINEF 始動

プロシージャーを訂正し、サーバーを再始動してください。

HLV0195E XO DATASET ERROR: var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: SEF による実行可能オブジェクト (XO) データ・セットの処理中に、構成エラーまたはランタイム・エラーが検出されました。XO データ・セット・ライブラリーには、プリコンパイルされた SEF ルールおよび HTX 生成スケルトン・テキスト・ファイルが含まれています。これらは主に、サーバーで配布されるシステム Web インターフェース (SWI) 機能をサポートするために使用されます。

ユーザーの処置: SEF は現行操作の処理を終了し、状態が重大である場合は S0C3 ABEND が生成されることもあります。エラーが重大な場合、SEF はサーバーを強制終了する可能性があります。問題判別に役立つ可能性のある関連メッセージが発行されているか確認してください。SWI の場合は、SWICNTLDSN 始動パラメーターが正しく設定されていることを確認します。問題の判別と訂正ができない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 可変、var2 可変、var3 可変、var4 可変、var5 可変、var6 可変、var7 可変、var8 可変、var9 可変

HLV0196W SEF CONFIGURATION UPDATE var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: SEF が構成の更新 (例えば、ルール・セット定義の検証やルール・セットのオンライン化) を処理しています。構成の更新が正常に完了しない場合、このメッセージで問題または警告が報告されます。

ユーザーの処置: エラーが重大でない限り、SEF は次の構成の更新処理を続行します。元のリソース定義 (例えば、SxxxxIN00 プロシージャーの「DEFINE RULESET」や「DEFINE FILE」) を訂正し、要求を再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 可変、var2 可変、var3 可変、var4 可変、var5 可変、var6 可変、var7 可変、var8 可変、var9 可変

HLV0197S Critical SEF resource definition error found - server startup aborting

説明: 重大な SEF 構成リソース定義でエラーが検出されました。SEF タスクが実行を開始したときに新たな問題が発生するのを回避するために、サーバーは終了処理を開始します。

ユーザーの処置: コンソール・ログを調べて、SxxxxIN00 始動プロシージャによって入力された DEFINE RULESET 定義があるか確認してください。キーワード「INITERROR(ABORT)」でフラグが立てられた定義、および ATH、WWW-Master、および TYP ルール・セットの定義は、重要と見なされます。これらの定義でエラーが発生している場合、サーバーは始動できません。定義を訂正し、サーバーを再始動してください。

HLV0200S MODE SWITCH ROUTINE service FAILED RC=rc

説明: 製品が、境界より下の AMODE スイッチ・ルーチン用のストレージを獲得しようとしたか、境界より下の AMODE スイッチ・ルーチンによって使用されているストレージを解放しようとした。このストレージ管理操作は失敗しました。

ユーザーの処置: 戻りコードや他のいずれかのメッセージによってストレージ管理エラーに関する追加情報が得られるかどうかを確認してください。また、オペレーティング・システムが CSA のストレージ不足になっているかどうかを確認してください。ストレージ管理の問題が解決可能な場合は製品を始動または再始動します。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN または FREEMAIN)、rc は戻りコード。

HLV0201S SSVT service FAILED RC=rc

説明: 製品が、SSVT 制御ブロック用のストレージを獲得しようとしたか、SSVT 制御ブロックによって使用されているストレージを解放しようとした。このストレージ管理操作は失敗しました。

ユーザーの処置: 戻りコードや他のいずれかのメッセージによってストレージ管理エラーに関する追加情報が得られるかどうかを確認してください。また、オペレーティング・システムが CSA または ECSA のストレージ不足になっているかどうかを確認してください。ストレージ管理の問題が解決可能な場合は製品を始動または再始動します。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN または FREEMAIN)、rc は戻りコード。

HLV0202S SAST UDPATE FAILED RC=rc

説明: 製品が、システムによって使用されているサブシステム・インターフェース制御ブロックのいずれかを更新しようとした。この更新操作は失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージを確認してください。現在の問題について記述するサブシステム・インターフェース・エラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード。

HLV0203S SAST PLIST STORAGE service FAILED RC=rc

説明: 製品が、SAST 更新 PLIST 用のストレージを獲得しようとしたか、SAST 更新 PLIST によって使用されているストレージを解放しようとした。このストレージ管理操作は失敗しました。

ユーザーの処置: 戻りコードや他のいずれかのメッセージによってストレージ管理エラーに関する追加情報が得られるかどうかを確認してください。また、製品の領域を増やす必要があるかどうかを確認します。ストレージ管理の問題が解決可能な場合は製品を始動または再始動します。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN または FREEMAIN)、rc は戻りコード。

HLV0204W Total subsystem count was cnt, reset to nwcn

説明: 多くの製品 (例えば、IMS) が新規のサブシステム制御ブロックを作成し、それらをサブシステム制御ブロック・チェーンに追加しています。ただし、これらの同じ製品がサブシステム制御ブロックのカウント・フィールドを更新していません。製品は、サブシステム制御ブロックの実際のカウントがメインオペレーティング・システム制御ブロック内のカウント値と一致していないことを検出しました。製品はカウント値全体を更新しました。

ユーザーの処置: これはエラー・メッセージではなく、アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt はカウント、nwcn は新規カウント。

**HLV0206E servrtn errdesc FAILED, RC=rc,
DETECTED AT ad**

説明: 何らかのタイプのサービス・ルーチン (オペレーティング・システム固有または製品固有のもの) が失敗しました。このエラー・メッセージに問題のサービス・ルーチンとエラー・タイプが示されています。

ユーザーの処置: エラー・メッセージ全文を確認し、必要であればアプリケーション・プログラム・インターフェースを呼び出すプログラムを修正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: servrtn はサービス・ルーチン、errdesc はエラーの説明、rc は戻りコード。

**HLV0207 I JSAST TABLE ENTRY FOR ss WAS
ind FOUND - FORCEJSASTUPDATE
OPTION ACTIVE**

説明: FORCEJSASTUPDATE オプションがオンになっています。サブシステムの ID が JSAST 表内で見つかった、または見つかりませんでした。

FORCEJSASTUPDATE の設定がオンであるため、JESNRSS および JSAST 表に対する更新は無条件で行われます。

ユーザーの処置: 初期化ルーチンは、JESNRSS の更新と IEFJSBLD の呼び出しの実行を強制します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ind は標識テキスト (ヌル・ストリングまたは NOT)。

**HLV0230W SERVER'S DFHSM PENDING
HRECALL TABLE IS FULL -
DFHSM DRAIN(YES) FORCED**

説明: 125 を超える未処理の非同期 HRECALL 要求が、DFHSM によって完了として通知されるのを保留されたままになっています。サーバーは DFHSM 要求の処理を中断しています。サーバーは自動的に DFHSM DRAIN 製品オプションを YES に設定し、(1) 保留中の HRECALL 要求の数が 100 未満まで下がるか、(2) DFHSM DRAIN または DFHSM STATUS オプションが手動で変更されるまで、新たな HRECALL 要求がスケジュールされないようにしています。

ユーザーの処置: DFHSM HRECALL 処理が遅延または不可になっている理由を確認してください。DFHSM の問題を修正してから、サーバーが

DFHSM DRAIN(NO) オプションを自動的に設定 (25 件の要求が完了し、保留中の表から消去された後) するまで待つか、DFHSM DRAIN パラメーターを手動で NO に変更します。DFHSM DRAIN を手動で NO に変更する前に、未処理のままの HRECALL 要求数が 125 未満になっていることを確認してください。

**HLV0231E DFHSM INIT/TERM ROUTINE,
OPINHS, ENTERED WITH INVALID
FUNCTION CODE: code**

説明: 始動またはシャットダウン中に、DFHSM サービス・ルーチンに無効な要求コードが入力されました。

ユーザーの処置: これは論理エラーです。問題を解決するには、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: code は OPINHS に渡されたコード値。

**HLV0233E IBM-SUPPLIED DFHSM LOAD
MODULE, ARCGIVER, NOT
INSTALLED/LOCATED - DFHSM
SUPPORT DISABLED**

説明: 始動中に、DFHSM サポートを初期化するために DFHSM(YES) が選択されました。しかし、サーバーが IBM 提供の DFHSM インターフェース・モジュール ARCGIVER のコピーを見つけれられません。このモジュールは、リンク・リスト LPA 内、またはサーバーの STEPLIB ロード・ライブラリー内で使用可能になっていなければなりません。

ユーザーの処置: サーバーの始動は続行されますが、サーバーは DFHSM オプションを NO にリセットし、それ以降の DFSMSHsm との対話が行われなくなります。ARCGIVER モジュールが見つからない理由を判別し、サーバーの始動中にそのモジュールを使用できるようにしてください。DFSMSHsm がインストールされていない場合は、DFHSM(YES) 始動オプションの設定を試みないでください。

**HLV0234E DFHSM INTERFACE DISABLED DUE
TO STORAGE ALLOCATION ERROR**

説明: 始動中に、DFHSM サポートを初期化するために DFHSM(YES) が選択されました。しかし、ストレージ獲得エラーが発生したため、DFHSM インターフェースが作動できなくなります。

ユーザーの処置: サーバーの始動は続行されますが、DFHSM オプションは NO にリセットされ、以降の DFHSM 操作は行われなくなります。問題の実際の原因を判別するには、先行するメッセージを参照してください。

**HLV0235 I DFHSM support interface successfully
initialized**

説明: 始動中に、DFHSM サポートを有効にするために DFHSM(YES) が選択されました。サーバーは、その

DFHSM サポート・インターフェースの事前初期化を正常に行いました。

ユーザーの処置: サーバーの始動は続行されます。DFHSM が操作可能でない場合は、サーバーがその操作中に HRECALL 要求を生成している可能性があります。生成された要求は直ちに失敗します。DFHSM が実際にインストールされていない場合は、DFHSM 始動パラメーターを NO に変更して、サーバー内で DFHSM サポートが有効にならないようにしてください。任意の時点で DFHSMSTATUS(OFFLINE) を設定し、DFHSMSTATUS(ONLINE) にリセットされるまでサーバーが DFHSM サービスを呼び出さないようにすることができます。

**HLV0236E ABEND DURING DFHSM service PROCESSING -
CMP=cmpr,RS=rscd,AT=mod+off**

説明: DFHSM の処理中に異常終了がトラップされました。異常終了に関する情報はコンソール・ログに書き込まれます。

ユーザーの処置: 可能な場合、DFHSM インターフェースはサブシステムの終了や障害を防ぐよう、再試行します。問題の原因を示す可能性のある他のメッセージが発行されているか確認します。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は処理されている機能の説明、cmpr は異常終了の完了コード、rscd は異常終了の理由コード、mod は異常終了しているモジュール、off は異常終了しているモジュールのオフセット。

**HLV0237W HRECALL PENDING FOR dsn -
MWE ECB AT addr UNPOSTED -
ORPHANED**

説明: シャットダウン中に、不完全な非同期 DFHSM HRECALL 要求が検出されました。未処理要求があると、352 バイトの境界より下の CSA ストレージが孤立する原因になります。この状態は、未処理の HRECALL 要求が原因で DFHSM によって MWE ECB が割り振られるために発生します。サーバーは、DFHSM がこの ECB を通知してからでないこの ECB を解放できませんが、DFHSM はまだ通知していません。DFHSM は、要求側のアドレス・スペースが終了している場合、このストレージを自動的に解放しません。ただし、孤立した CSA ストレージ域は、実際にはこのメッセージに示されている ECB アドレスの数バイト前から開始されています (正確なオフセットを確認するには、IBM にお問い合わせください)。

ユーザーの処置: 処理は続行され、DFHSM MWE

ECB は孤立します。サーバーは、製品が再始動された後もこれらの ECB アドレスを記憶しておこうとしません。この状態を防ぐために、シャットダウン時における DFHSM HRECALL 完了の待機時間制限を延長できるようにサーバーの DFHSM SHUTDOWNWAIT パラメーターを設定することを検討してください。また、DFHSM STATUS パラメーターが手動で OFFLINE に設定されていないことも確認してください。OFFLINE に設定されていると、保留中の HRECALL 要求の待機とクリーンアップが妨げられます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn は HRECALL の発行対象のデータ・セット、addr は DFHSM MWE ECB のアドレス。

**HLV0238 I SERVER'S PENDING RECALL TABLE
NO LONGER FULL -
DFHSM DRAIN(NO) RESET TO NO**

説明: 以前にサーバーは、その保留中 HRECALL 表が満杯だったため DFHSM DRAIN(YES) を有効にしました。現在ではこの表に 25 の空きエントリーがあるため、サーバーは通常の HRECALL 処理を復元しています。

ユーザーの処置: なし。通常の HRECALL 処理が再開されます。

**HLV0239 I SHUTDOWN SUSPENDING FOR UP
TO sss SECONDS TO AWAIT cnt1
PENDING HRECALL COMPLETIONS
- cnt2**

説明: シャットダウン処理時に、1 つ以上の保留中 HRECALL 要求がまだ保留中です。サーバーは、DFHSM がこれらの保留中要求を完了として通知するのを待機するために一時停止します。DFHSM での完了のための一時停止後に、シャットダウン処理は再開されます。

ユーザーの処置: なし。サーバーは、DFHSM SHUTDOWNWAIT パラメーターによって指定された時間の間、保留中要求の完了を待機します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sss はサーバーが DFHSM のために一時停止する秒数、cnt1 は保留中の未通知の MWE ECB の数、cnt2 は HRECALL が要求している、一時停止したタスクの数。

**HLV0240E cnt PENDING DFHSM REQUESTS
(AND MWE's) ORPHANED BECAUSE
reason**

説明: シャットダウン処理時に、1 つ以上の保留中 HRECALL 要求が保留中のままになっている可能性があ

ります。しかし、サーバーはこれらの要求の確認中に、製品終了時の最終リカバリーをバイパスしています。

ユーザーの処置: なし。サーバーは、保留中の HRECALL 要求のリカバリー/クリーンアップを試みずに終了処理を続行します。DFHSM 最終リカバリーのバイパスは、通常、パラメーター DFHSMSTATUS (OFFLINE) が明示的に設定されていて、製品終了時に有効なままになっていることが原因で発生します。DFHSM が実際にオンラインである場合は、製品のシャットダウンを行う前に DFHSMSTATUS(ONLINE) を復元する必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt は保留中の可能性がある HRECALLS の数、reason はシャットダウン MWE リカバリーのバイパス理由。

HLV0250S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな IMS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0251S service PASSED desc - code

説明: これは、さまざまな IMS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作に渡されたデータ (有効データまたは無効データ) を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (INIT/TERM など)、desc は説明、code はコード。

HLV0253S service TO desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな IMS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0254S IMS rsrc name missing

説明: IMS 製品機能に必要なリソース名が欠落しています。現行操作は終了されます。メッセージ・テキストには欠落リソースの名前が記載されています。

ユーザーの処置: エラー・メッセージのリソース名を確認してください。製品パラメーターを使用してリソース名を設定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrc はリソース名の値。

HLV0255H Build in-storage profile failed for class class rc1 rc2 rscd - text

説明: 製品は、特定のクラスに関するストレージ内プロファイル作成要求からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: そのクラスのセキュリティ・エラーを確認してください。問題を修正するか、セキュリティ管理者に連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: class はセキュリティ・クラス、rc1 はセキュリティ・モジュールの戻りコード、rc2 は RACF (SAF) 戻りコード、rscd は RACF (SAF) 理由コード、text は RACF (SAF) からのエラー・メッセージ・テキスト。

HLV0261 I Server will use default filetype definitions for MIME CONTENT-TYPE mapping

説明: FILETYPE 表定義が初期化プロシージャによって明示的に提供されませんでした。明示的に定義されたエントリが一切存在しない場合、サーバーはデフォ

HLV0270T • HLV0282S

ルトの定義セットを生成します。

ユーザーの処置: 通常はアクションは不要であり、サーバーが提供する組み込みのデフォルトを使用するようにしてください。

HLV0270T Access to ACI feature is not configured.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0271W ACI internal service had to GETMAIN buffers

説明: ACI 内部サービスは、ストレージ用に 2 GB 境界より上のバッファ・プールを使用することがサポートされています。一部の ACI サービスが、構成済みのバッファ・プールからストレージを取得できませんでした。その結果、バッファを使用するために GETMAIN サービスに頼る必要が生じました。

ユーザーの処置: バッファ・プールの統計を調べて、どのバッファ・プールを拡大する必要があるかを判別してください。また、内部サービスが適切なバッファ・プールに合わせて構成されていることも確認してください。

HLV0272 I service errdesc, RC=rc, RSN=rscd, DETECTED AT ad

説明: ACI 内部サービスの初期化で、要求に応じて ACI バッファ・プール用のラージ・ページ・ストレージを取得できませんでした。

ユーザーの処置: バッファ・プールの要求を満たすために、ラージ・ページに割り振るストレージを増やしてください。標準ページ・ストレージが代わりに取得されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は実行された機能、errdesc は説明、rc は戻りコード、rscd は理由コード。

HLV0273T var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: ACI トレース・メッセージ。これらのメッセージは、ACITRACE が YES に設定されている場合に生成されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 可変情報、var2 可変情報、var3 可変情報、var4 可変情報

報、var5 可変情報、var6 可変情報、var7 可変情報、var8 可変情報、var9 可変情報

HLV0280S SSL msg

説明: 製品は製品初期化中に SSL を初期化しようとして失敗しました。SSL の初期化が失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の SSL 初期化問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。セキュリティ製品関連の異常終了など、オープン・エラーがないか確認してください。また、ストレージ割り振りのエラーまたは異常終了がないかについても確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージまたはメッセージ・テキスト。

HLV0281S SSL KEY/CERTIFICATE FILE func ERROR, DD=ddn, RC=rc

説明: 製品は製品初期化中に SSL を初期化しようとして失敗しました。サーバーの秘密鍵ファイルまたは証明書ファイルへのアクセス中にエラーが発生したため、SSL の初期化が失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の SSL 初期化問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。セキュリティ製品関連の異常終了など、オープン・エラーがないか確認してください。また、ストレージ割り振りのエラーまたは異常終了がないかについても確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は入出力機能、ddn はファイルの DD 名、rc は入出力サービスの戻りコード。

HLV0282S ABEND abcd OCCURRED AT mod+off DURING SSL desc

説明: 製品は製品の初期化または終了中に SSL を初期化または終了しようとして失敗しました。SSL の初期化/終了ルーチンが異常終了しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと異常終了コードを確認してください。現在の SSL

初期化または終了の問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。セキュリティー製品関連の異常終了など、オープン・エラーがないか確認してください。また、ストレージ割り振りのエラーまたは異常終了がないかについても確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット、desc は説明。

HLV0283T SSL initialization complete

説明: 製品が SSL の初期化を完了しました。これで、すべてのトリガーとイベントが SSL に渡され、処理されるようになります。

ユーザーの処置: このメッセージに対応するためのアクションは不要です。ただし、このメッセージを使用して 1 つ以上のイベント処理プロシーチャーを活動化できます。

HLV0284S SSL user ID <userid> logon failed.

説明: SSLUSERID システム・パラメーターによって指定された SSL マネージャー・ユーザー ID、またはデフォルトのサーバー・アドレス・スペース・ユーザー ID で、始動中のログオン処理が失敗しました。

ユーザーの処置: HTTP-API 初期化プロセスは打ち切られます。SSLUSERID 始動パラメーターによって指定されたユーザー ID が正しいことを確認してください。この障害について詳しくは、メッセージ HLV2107 を参照してください。

HLV0285 I SSL manager user ID <userid> logged on to server.

説明: SSLUSERID システム・パラメーターによって指定された SSL マネージャー・ユーザー ID がシステムにログオンしました。

ユーザーの処置: HTTP-API の初期化処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid は SSLUSERID 値。

HLV0286S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな SEF 実行キュー初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行

操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0287S MAIN TASK TIMED OUT WHILE WAITING TO BE POSTED BY THE process SUBTASK

説明: 製品のメインタスクが、SSL サブタスクによって送信されるのを待機している間にタイムアウトになりました。SSL サブタスクは異常終了したか、または停止しています。製品は、処理を続行できる場合もできない場合もあります。

ユーザーの処置: このメッセージに関連する他の異常終了や製品メッセージがないか確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はプロセスのサブタスク名。

HLV0288S SSL SERVER PRIVATE KEY/CERTIFICATE FORMAT INVALID FOR ddn

説明: サーバーの秘密鍵ファイルまたは証明書ファイルに無効な鍵または証明書が含まれているため、SSL リソース・マネージャーが初期化を行えませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージに関連する他の異常終了や製品メッセージがないか確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn はエラーになっているファイルの DD 名。

HLV0289S SSL SUPPORT CANNOT BE ENABLED - DDNAME ddn IS NOT ALLOCATED

説明: サーバーの証明書ファイルまたは秘密鍵ファイルの DD 名が割り振られていないため、SSL リソース・マネージャーが初期化を行えませんでした。

ユーザーの処置: サーバーは終了します。始動 JCL を調べて、証明書ファイルまたは秘密鍵ファイル (あるいはこの両方) が正しい DD 名に割り振られていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `ddn` はエラーになっているファイルの DD 名。

HLV0290S SSL ERROR: msg

説明: SSL ルーチンが重大なエラー・メッセージを記録しました。

ユーザーの処置: SSL ルーチンが、トレースすべき重大なエラーを記録しました。このメッセージはオペレーター・コンソールに複写されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `msg` は SSL エラー・メッセージ・テキスト。

HLV0291S SSL LDAP srvr NOT SPECIFIED

説明: LDAP サーバーによる SSL クライアント認証が要求されましたが、サーバーの名前またはそのポート番号 (あるいはこの両方) が指定されませんでした。

ユーザーの処置: サーバーの初期化プロセスは打ち切られます。 `SSLLDAPSERVER` パラメーターおよび `SSLLDAPPORT` パラメーターを使用して正しいサーバー名とポート番号が指定されていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `srvr` は SERVER または PORT 。

HLV0292 I GSK SSL SUPPORT CANNOT BE ENABLED - SSLKEYPATH PARAMETER NOT SPECIFIED, CHANGING TO SSLEAY SUPPORT

説明: `SSLKEYPATH` パラメーターが指定されていないために、SSL リソース・マネージャーが GSK SSL を初期化できませんでした。GSK SSL にはこのパラメーターが必要です。製品は、SSLEAY SSL サポートの使用を試みます。

ユーザーの処置: GSK SSL サポートは有効になりません。可能であれば、SSLEAY SSL サポートが使用されます。GSK SSL が必要な場合は、`SSLKEYPATH` パラメーターをコーディングし、製品を再始動してください。

HLV0293 I A CALL TO THE SET_DUB_DEFAULT UNIX SYSTEM SERVICE FAILED. RC=rc RS=rscd

説明: 製品の初期化で、`set_dbu_default` サービスの呼び出しからエラー戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: 製品の初期化は終了されます。戻りコードと理由コードの説明については、資料「IBM UNIX システム・サービス メッセージおよびコード」を参照してください。製品の USERID に OMVS セグメントが作成されなかった可能性があります。製品の USERID の作成および USERID に必要なセキュリティーについて詳しくは、製品のサーバー・インストール・ガイドを参照してください。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `rc` は戻りコード、`rscd` は理由コード。

HLV0320S Subroutine sroutine was found in module but belongs in module at offset off

説明: サブルーチンの定義が間違ったモジュール内にあります。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `sroutine` はサブルーチン名、`module` サブルーチンが見つかったモジュールの名前、`module` はサブルーチンが属するモジュールの名前、`off` は正しいモジュール内のモジュールのオフセット。

HLV0321S Subroutine sroutine at offset off in module module is out of sequence and should be offset off

説明: サブルーチンが正しい位置で定義されていません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `sroutine` はサブルーチン名、`off` はモジュールのオフセット、`module` はサブルーチンが見つかったモジュールの名前、`off` は正しいモジュール内のモジュールのオフセット。

HLV0322S Vector and list table offsets for subroutine routine in module module do not match

説明: サブルーチンのベクトル・テーブル内のオフセットが、リスト・テーブルで定義されているオフセットと一致していません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sroutine はサブルーチン名、module はサブルーチンが見つかったモジュールの名前。

HLV0323S Vector at offset offset in module module points to routine but should point to routine

説明: リスト・テーブルによって指示されているサブルーチンが定義されたものではありません。OPCOS% モジュールのベクトル・テーブル・エントリーが OPSBCL と一致していません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: offset はモジュールのベクトル・テーブル・エントリーのオフセット、module はサブルーチンが見つかったモジュールの名前、sroutine はサブルーチン名または無効データ、sroutine はサブルーチン名。

HLV0324 I service OF desc FAILED, RC=rc, REASON=rscd, DETECTED AT ad

説明: 圧縮用に zEDC サービスの使用が試みられました。zEDC エンジンが使用可能でない場合、または zEDC が構成されていない場合に、このメッセージが表示されることがあります。

ユーザーの処置: zEDC による圧縮が不要であれば、このメッセージを無視してかまいません。そうでない場合は、戻りコードと理由コードが zEDC の使用に関する問題を示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作、desc は説明、rc は戻りコード、rscd は理由コード。

HLV0325 I service OF desc SUCCEEDED, DETECTED AT ad

説明: zEDC サービスによる圧縮に対する要求が正常終了しました。zEDC サービスは使用可能になっています。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作、desc は説明。

HLV0326T var3 var3 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9, PGM=%SK

説明: zEDC 機能呼び出しが行われました。結果はトレースされます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var3、var3、var3、var4、var5、var6、var7、var8、var9 はそれぞれ可変情報。

HLV0334 I STOP command detected during initialization

説明: 製品初期化の早い段階で、製品によって STOP コマンドが検出されました。初期化 EXEC (SxxxxIN00) は正常に完了した場合も正常に完了していない場合もあります。初期化 EXEC の完了後に発行された STOP コマンドは、初期化が完了するまで受け入れられません。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV0335S ESTAE service ERROR RC=rc

説明: 製品は ESTAE リカバリー環境を作成しようとして失敗しました。ESTAE マクロは失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述する ESTAE エラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (ESTAE の作成または削除)、rc は戻りコード。

HLV0336S Service of <desc> failed, RC=<rc>. Detected at ad. stack: %SK.

説明: これは、さまざまな製品初期化エラー、実行エラー、および終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題につい

HLV0337E • HLV0343T

て記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0337E desc service ERROR RC=rc

説明: 製品の初期化または終了中に、何らかのタイプの処理ブロック・プール・エラーが発生しました。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明、service はプロセス・プールの操作 (作成、削除、取得、解放など)、rc は戻りコード。

HLV0338S INVALID desc LOCATED AT addr TAG IS tag

説明: 製品は、製品の終了中に無効な制御ブロックを検出しました。制御ブロック・タグに無効な文字ストリングが含まれていました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明、addr はアドレス、tag は制御ブロック・タグ。

HLV0339E cnt process block(s) still in use

説明: 製品は、メッセージやその他のイベントを処理するためにスタック制御ブロックのプールを使用します。スタック・ブロックは、さまざまな製品ルーチンの要求に応じて取得されたり解放されたりします。場合によっては製品ルーチンが処理ブロックの解放に失敗することがあります。

ユーザーの処置: この問題を解決するためのアクションは不要です。製品が、スタック制御ブロックによって使用されているスペースを、まだ使用中のように見える場合でもすべて解放します。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt は処理ブロックの数。

HLV0340 I msg

説明: このメッセージはエラー・メッセージではありません。現在のメッセージは、製品初期化 EXEC (SxxxxIN00) からの出力をシステム・コンソールに表示するために使用されます。

ユーザーの処置: 現在のメッセージはエラー・メッセージではありませんが、製品初期化 EXEC からの出力は、その初期化 EXEC がゼロ以外の戻りコードで終了した場合にのみ製品コンソールに送信されます。EXEC メッセージを慎重に調べて、エラー・メッセージがないか確認する必要があります。必要な場合は製品を再始動してください。問題 (ゼロ以外の EXEC 終了コード) が再発する場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージまたはメッセージ・テキスト。

HLV0341T %PM feature codes are not set - contact Software Support for assistance

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0342T %PM is running on an unconfigured CPU.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0343T %PM configuration will need refresh in <x> days.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0344T %PM configuration needs refresh on this system.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0345S DD allocation required in start-up JCL for proper execution of TSO/E REXX procedures.

説明: サーバーが TSO/E REXX プロシージャからの出力をインターセプトしようとしています。TSO/E REXX が SAY ステートメントを経路指定する宛先であり、その他の出力メッセージの送信先である出力データ・セットをオープンできませんでした。最も可能性の高い原因は、IRXPARMs へのサイト変更が行われ、IRXPARMs では、TSO/E REXX が出力用に非標準の DD 名を使用する必要があると指定されていることです。サーバーが IBM 提供のロード・モジュール IRXPARMs をロードして確認できない場合、IBM のデフォルトである SYSTSPRT が想定されます。

ユーザーの処置: メッセージに示されている DD 名がサーバーの始動 JCL によって事前割り振りされていることを確認してください。(製品提供のサンプル JCL に、このデータ・セットの事前割り振りのモデルとして使用できる SYSTSPRT DD ステートメントが含まれています。) 始動 JCL 内に既に DD ステートメントが存在する場合は、MVS DYNALOC 動的割り振り要求を使用してこの DD 名が解放されていないことを確認してください。この状態が SWSxIN00 パラメーター化プロシージャの処理中に発生しても、サーバーは終了されません。ただし、このプロシージャの実行中に発生したエラーは正しく報告されない可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

ddn は TSO/E REXX の実行に必要な DD 名です。
value は DD 名の値を 16 進数で読み出したものです。

HLV0346 I NETWORKBUFFERSIZE value inadequate for SQLMAXCOLUMNS value, raised to var1

説明: NETWORKBUFFERSIZE は、SQLMaxColumns によって指定された最大数の列を含むことができる SQLDA を保持するのに十分な大きさでなければなりません。正確な式は、NETWORKBUFFERSIZE >= SQLMaxColumns * 44 + 16 になります。

ユーザーの処置: NETWORKBUFFERSIZE は上記の式によって計算されたサイズに引き上げられてから、1K (1024) バイト境界に丸められます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は新しい NETWORKBUFFERSIZE 値。

HLV0347 I DSNREXX DB2 REXX INTERFACE NOT FOUND, ADDRESS DSNREXX SUPPORT NOT ACTIVATED

説明: DB2 との REXX インターフェース用のロード・モジュール DSNREXX が見つかりませんでした。この API のサポートは活性化されません。初期化は通常どおり続行されます。

ユーザーの処置: ADDRESS DSNREXX のサポートは有効になりません。DSNREXX のサポートが必要でない限り、これは必ずしもエラーではありません。

HLV0348S Invalid registry block ivdata found in logstream log

説明: レジストリー・ログ・ストリームに、妥当性検査にパスしなかったブロックが含まれていました。そのレコードはドロップされ、次の更新時に削除されます。

ユーザーの処置: このログ・ストリームの次のオフロード・データ・セットのコピーを作成し、ソフトウェア・サポートに送信してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ivdata は検出された無効データ、log はログ・ストリーム名。

HLV0349 I var1 REGISTRY LOGSTREAM log var2

説明: 初期化の一環として、レジストリー・ログ・ストリームが作成、削除、または接続されました。

ユーザーの処置: なし。これは通常の処理です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はレジストリー・タイプ (グローバルまたはローカル)、log はログ・ストリーム名、var2 はアクション (作成、削除、または接続)。

HLV0350S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな CICS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0351S • HLV0357 I

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0351S service PASSED desc - code

説明: これは、さまざまな CICS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作に渡されたデータ (有効データまたは無効データ) を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (INIT/TERM など)、desc は説明、code はコード。

HLV0352W mod is not REENTRANT

説明: 製品は、EXCI オプションのモジュール DFHXCOPT またはその別名 DFHXCOPE が REENTRANT でないことを検出しました。これが原因で、一部の EXCI 関連製品パラメーター (例えば、TIMEOUT パラメーター) が無視されることとなります。

ユーザーの処置: このモジュールを RENT オプションに再リンクしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名。

HLV0353S service TO desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな CICS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

ど)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0354S CICS rsrc NAME MISSING

説明: CICS 製品機能に必要なリソース名が欠落しています。現行操作は終了されます。メッセージ・テキストには欠落リソースの名前が記載されています。

ユーザーの処置: エラー・メッセージのリソース名を確認してください。製品パラメーターを使用してリソース名を設定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrc はリソース名の値。

HLV0355 I CICS support terminating

説明: これは、製品がその CICS サポートを終了すると発行される通知メッセージです。CICS サポートが致命的エラー状態のために終了されている場合、このメッセージの前に、検出されたエラー状態を正確に示すエラー・メッセージが発行されています。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの前に発行されたエラー・メッセージで推奨されている一連のアクションに従ってください。製品の CICS サポートが引き続き致命的エラー状態のために終了される場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

HLV0356 I CICS support activated

説明: このメッセージは、製品の CICS サーバーが、CICS 領域への接続が正常に確立されたという通知を受け取ると発行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。これは単なる通知メッセージです。

HLV0357 I EXCI support terminating

説明: これは、製品がその EXCI サポートを終了すると発行される通知メッセージです。EXCI サポートが致命的エラー状態のために終了されている場合、このメッセージの前に、検出されたエラー状態を正確に示すエラー・メッセージが発行されています。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの前に発行されたエラー・メッセージで推奨されている一連のアクションに従ってください。製品の EXCI サポートが引き続き致命的エラー状態のために終了される場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

HLV0358 I EXCI support activated

説明: このメッセージは、製品の EXCI サーバーが、EXCI 領域への接続が正常に確立されたという通知を受け取ると発行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。これは単なる通知メッセージです。

HLV0359T text

説明: これは汎用メッセージであり、何らかのタイプの EXCI エラーを示す場合も示していない場合もあります。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストを注意してお読みください。このメッセージ ID のもとで生成されるいくつかのメッセージが、実際のエラー・メッセージです。このメッセージがエラーを示している場合は、これに関連して EXCI によって生成されたエラー・メッセージがあるか確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text はメッセージ・テキスト。

**HLV0360S No matching CONNECTION name
rsrce for DEFINE SESSION**

説明: 初期化 EXEC 内の DEFINE SESSION ステートメントに、対応する DEFINE CONNECTION ステートメントのない CONNECTION 名が指定されました。メッセージ・テキストには誤りのある DEFINE SESSION の名前が記載されています。

ユーザーの処置: エラー・メッセージのセッション名を確認してください。DEFINE SESSION ステートメントを訂正します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrce はリソース名の値。

HLV0361 I %1 of %2 sessions connected to %3

説明: このメッセージは、指定された CICS へのアクティブ・セッションの数を示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

HLV0362 I No active session to %1

説明: このメッセージは、現在、指定された CICS へのアクティブ・セッションがないことを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

HLV0363T Acquisition of session to %1 failed

説明: セッションの獲得が失敗しました。これはエラーでない可能性があります。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

**HLV0364 I SDCITRU IS STARTED AND
ENABLED**

説明: CICS 領域でブローカー用の CICS タスク関連ユーザー出口が開始され、使用可能になっています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

**HLV0371E var1 ROUTINE ERROR - var2 var3
var4 var5 var6 var7 var8 var9**

説明: Actional サポート機能ルーチンでエラー状態または予期しない状態が検出されました。

ユーザーの処置: 初期化エラーの場合、サーバーは終了されます。終了時エラーの場合、サーバーのシャットダウンは続行されます。エラーの原因を示す関連メッセージを探して、その根本にある問題を修正してください。問題が見つからない場合または訂正できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は初期化機能または終了機能、var2 は検出されたエラー、var3、var4、var5、var6、var7、var8、var9 はそれぞれ可変情報。

HLV0372E CSQCAPX %1

説明: CSQCAPX (Actional Agent コネクター用 CICS MQSERIES API 切り替え出口) でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: この出口は自動的に使用不可になっているはずですが、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0373E SDAITRUE %1

説明: モジュール SDAITRUE (Actional Agent コネクター用 CICS TRUE) でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: この出口は自動的に使用不可になっているはずですが、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0380T ABEND IN REXXTOOLS DYNALLO
INTERCEPT CMP=cmpc, RS=rscd,
SVC-99-PLIST=addr**

説明: REXXtools 動的割り振りインターセプト/スクリーニング・ルーチン内で予期しない異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: この異常終了は、REXXtools によって処理されるためにパーコレートされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmpc は異常終了完了コード、rscd は異常終了理由コード、addr は DYNALLO 要求ブロック・ポインター・ワードのアドレス。

**HLV0381T ADD REXX VARIABLE NAME
FAILED WITH RETURN CODE rc,
REASON CODE rscd FOR NAME
name**

説明: REXX プロシージャの変数名を作成しようとしているときにエラーが発生しました。この後に S0C3 異常終了が続きます。

ユーザーの処置: 変数名を調べてそれが有効であることを確認するか、この REXX プロシージャ用のワークスペースを増やしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード、rscd は理由コード、name は REXX 変数名。

**HLV0388 I It contains additional diagnostic
information about the failure.**

説明: このメッセージは、問題の診断に役立つ情報を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request は要求タイプ、func は失敗した機能、rc は機能の戻りコード、rscd は機能の理由コード。

**HLV0388E DYNAMIC LPA request SERVICE
FAILED FOR mod. RETURN
CODE=rc. REASON CODE=rscd.**

説明: MVS 動的 LPA サービス CSVDYLPA を使用し

ようとしているときにエラーが発生しました。この障害に関連する要求タイプ、戻りコード、および理由コードがこのメッセージにリストされています。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request は要求タイプ、mod はモジュール名、rc は戻りコード、rscd は理由コード。

**HLV0389E DYNAMIC LPA request
FUNCTION=func RC=rc RS=rscd**

説明: このメッセージは前のメッセージの続きです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLV0390E NAMED-TOKEN var1 SERVICE
ERROR: RC=var2 FOR LVL=var3,
NAME='var4', DATA='var5',
POPT=var6**

説明: システム管理の、指定されたトークン・サービス要求の後に、予期しない戻りコードが設定されました。サービス・タイプ、戻りコード、トークン・レベル、およびトークン名がこのメッセージに表示されています。

ユーザーの処置: 指定されたトークンの戻りコードはサービスを要求したルーチンに送信され、処理は、サーバーに要求を行ったルーチンの指示どおりに続行されません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は要求対象の指定されたトークンのサービス、var2 はサービスの戻りコード、var3 は要求のトークン・レベル、var4 は要求のトークン名、var5 は要求のトークン・データ、var6 はトークン持続性オプション。

**HLV0391E var1 ROUTINE ERROR: var2 var3 var4
var5 var6 var7 var8 var9**

説明: 保守サポート機能ルーチンでエラー状態または予期しない状態が検出されました。

ユーザーの処置: 初期化エラーの場合、サーバーは終了されます。終了時エラーの場合、サーバーのシャットダウンは続行されます。エラーの原因を示す関連メッセージを探して、その根本にある問題を修正してください。問題が見つからない場合または訂正できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は初期化機能または終了機能、var2 は検出されたエラー、var3、var4、var5、var6、var7、var8、var9 はそれぞれ可変情報。

HLV0392W var1 ROUTINE WARNING: var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: 保守サポート機能ルーチンで予期しない状態が検出されました。

ユーザーの処置: 初期化エラーの場合、サーバーはその状態の修正を試みてから続行します。終了中に検出されたエラーはバイパスされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は初期化機能または終了機能、var2 は検出された予期しない状態、var3、var4、var5、var6、var7、var8、var9 はそれぞれ可変情報。

HLV0393S Services PARM var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8

説明: サービス構成始動パラメーターが欠落しているか、設定が誤っています。サービスは訂正された値を代わりに使用し、その更新された値で活動化します。デフォルト値を置き換えられない場合、サービスの活動化では MSG0391E を発行した後にサーバーの始動を終了します。

ユーザーの処置: メッセージに示されている z/Server 関連パラメーターが SxxxxIN00 処理中に有効な値に設定されていることを確認してください。サーバーを再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はパラメーター名、var2、var3、var4、var5、var6、var7、var8、var9 はそれぞれ可変情報。

HLV0394S SERVICES MAILBOX CONTROL routine FAILED: HASN=asid1, PASN=asid2, SASN=asid3, MODE=var2, RC=rc, CALLER=csect, LT=ltype

説明: サービス・メールボックス要求を実行しようとしているときに、ロック/アンロック・シリアライゼーション・ルーチン内で障害が検出されました。現在のメールボックス実行要求は中止され、失敗となります。SETLOCK または ENQ サービスが失敗した場合、メッセージの戻りコード・フィールドのバイト 3 に、ゼロ以外の値が含まれます。環境上のエラーの場合、バイト 1 または 2 にゼロ以外の値が含まれます。

ユーザーの処置: 現在のサービス・メールボックス要求

は失敗します。エラーの原因を示す可能性のある他のメッセージが発行されているか確認し、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: routine はロックまたはアンロック、asid1 はホーム asid、asid2 は 1 次 asid、asid3 は 2 次 asid、var2 は PROB または SUP、rc は戻りコード値、csect は呼び出し元の CSECT 名、ltype は使用中のロックのタイプ。

HLV0395E SERVICES MAILBOX REQUEST var1 ABEND var2 (var3) AT var4+var5 var6 var7 var8 var9

説明: サービス・メールボックス要求を実行しようとしているときに、ABEND 障害が検出されました。異常終了が発生したことを示す戻りコードが発行され、この要求はリジェクトされます。

ユーザーの処置: この障害は要求側のタスクに反映され、このタスクは状況に合った適切なアクションを実行します。エラーの原因を示す可能性のある他のメッセージが発行されているか確認し、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は SYSTEM または USER、var2 は異常終了完了コード、var3 は異常終了理由コード、var4 はモジュール名、var5 はオフセット、var6、var7、var8、var9 はそれぞれ可変情報。

HLV0396T SERVICES MAILBOX INVALID POINTER (var1/var2/var2) DURING PKM AUTH CHECK - ABEND var2 (var3)

説明: メールボックス要求の検証中、サービス・ルーチンは無効なアドレスが要求の一部として渡されたことを検出しました。ストレージ域の保護キーを調べようとしていて、ABEND が検出されました。

ユーザーの処置: ポインターは無効であるとしてリジェクトされ、メールボックス要求では要求全体が失敗となるか、またはリジェクトされたポインターを使用せずに操作が完了します。エラーの原因を示す可能性のある他のメッセージが発行されているか確認し、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はポインター・アドレス、var2 はポインター ALET、var2 はポインター・ストレージ長、var2 は異常終了完了コード、var3 は異常終了理由コード。

**HLV0397T var1 ROUTINE ERROR: var2 var3 var4
var5 var6 var7 var8 var9**

説明: 保守サポート機能ルーチンでエラー状態または予期しない状態が検出されました。このメッセージは Trace Browse に書き込まれ、MSG0391E によってコンソールにも書き込まれたものと同じ状態を記録します。

ユーザーの処置: 初期化エラーの場合、サーバーは終了されます。終了時エラーの場合、サーバーのシャットダウンは続行されます。エラーの原因を示す関連メッセージを探して、その根本にある問題を修正してください。問題が見つからない場合または訂正できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は初期化機能または終了機能、var2 は検出されたエラー、var3、var4、var5、var6、var7、var8、var9 はそれぞれ可変情報。

**HLV0398T var1 ROUTINE WARNING: var2 var3
var4 var5 var6 var7 var8 var9**

説明: 保守サポート機能ルーチンで予期しない状態が検出されました。このメッセージは Trace Browse に書き込まれ、MSG0392W によってコンソールにも書き込まれたものと同じ状態を記録します。

ユーザーの処置: 初期化エラーの場合、サーバーはその状態の修正を試みてから続行します。終了中に検出されたエラーはバイパスされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は初期化機能または終了機能、var2 は検出された予期しない状態、var3、var4、var5、var6、var7、var8、var9 はそれぞれ可変情報。

**HLV0399T Services E-O-T cleanup for TCB var1
RC=var2 RS/CC=var3/var4 FDBK=var5
var6 var7 var8 var9**

説明: 終了タスクで、サービスのタスク終了クリーンアップが処理されました。このメッセージは、クリーンアップ機能によってゼロ以外の戻りコードが設定されている場合、または ZSRMBOXTRACECMTC オプションがオンの場合にトレースされます。

ユーザーの処置: メッセージでゼロ以外の戻りコードが報告された場合は、E-O-T (タスク終了) クリーンアップを妨げている可能性のある他の条件を探し、それを修正してください。またはソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は TCB アドレス、var2 は戻りコード、var3 は戻りコードのロケータ情報、var4 は戻りコードのロケータ

情報、var5、var6、var7、var8、var9 はそれぞれフィードバック情報。

HLV0400S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな RRS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0401S service PASSED desc - code

説明: これは、さまざまな RRS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作に渡されたデータ (有効データまたは無効データ) を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (INIT/TERM など)、desc は説明、code はコード。

HLV0402S service TO desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな RRS 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0403S RRS rsrc NAME MISSING

説明: RRS 製品機能に必要なリソース名が欠落しています。現行操作は終了されます。メッセージ・テキストには欠落リソースの名前が記載されています。

ユーザーの処置: エラー・メッセージのリソース名を確認してください。製品パラメーターを使用してリソース名を設定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrc はリソース名の値。

HLV0404 I RRS support terminating

説明: これは、製品がその RRS サポートを終了すると発行される通知メッセージです。RRS サポートが致命的エラー状態のために終了されている場合、このメッセージの前に、検出されたエラー状態を正確に示すエラー・メッセージが発行されています。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの前に発行されたエラー・メッセージで推奨されている一連のアクションに従ってください。製品の RRS サポートが引き続き致命的エラー状態のために終了される場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

HLV0405 I RRS support activated

説明: このメッセージは、製品の RRS サーバーが、RRS 領域への接続が正常に確立されたという通知を受け取ると発行されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

HLV0406H text

説明: これは汎用メッセージであり、何らかのタイプの RRS エラーを示す場合も示していない場合もあります。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストを注意してお読みください。このメッセージ ID のもとで生成されるいくつかのメッセージが、実際のエラー・メッセージです。このメッセージがエラーを示している場合は、これに関連して RRS によって生成されたエラー・メッセージがあるか確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text はメッセージ・テキスト。

HLV0407E Failure trying to register with RRS

説明: このメッセージは、RRS 登録リソース・マネージャーの呼び出しが成功しなかったときに発行されます。製品は RRS サービスを使用できず、2 フェーズ・コミットのサポートが無効になります。

ユーザーの処置: RRS が正しく機能していることを確認してください。

HLV0408E ERROR SETTING RRS EXITS, CHECK RRS STATUS

説明: このメッセージは、RRS 出口情報設定の呼び出しが成功しなかったときに発行されます。通常これは、RRS サブシステムが稼働していないことを示します。製品は、RRS から RRS が稼働中であるという通知を受けると、RRS 出口の設定を試みます。製品が RRS に正常に接続できるまで、RRS のサポートと 2 フェーズ・コミットのサポートは使用できません。

ユーザーの処置: RRS サブシステムが稼働していることを確認してください。RRS サブシステムが稼働していない場合は、それを開始してください。

HLV0409E RRS %1 EXIT MANAGER UNAVAILABLE

説明: このメッセージは、RRS の IBM 出口マネージャーが使用できなくなったことを RRS が製品に警告すると発行されます。これにより、製品は RRS との接続を直ちに失います。製品は、RRS が稼働中であるという通知を受けると再接続を試みます。製品が RRS に正常に再接続できるまで、RRS のサポートと 2 フェーズ・コミットのサポートは使用できません。

ユーザーの処置: RRS サブシステムが稼働していることを確認してください。RRS サブシステムが稼働していない場合は、それを開始してください。

HLV0410E Product RRS exits have been unset

説明: このメッセージは、何らかのエラー状態が原因で製品の RRS 出口が設定解除されたことを、RRS が製品に警告すると発行されます。これにより、製品は RRS との接続を失います。RRS のサポートと 2 フェーズ・コミットのサポートは使用できなくなります。

ユーザーの処置: これは、起こってはならないエラーを示しています。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0411E TRANS: token FROM host -
REQUESTED trans1 BUT WAS
HEURISTICALLY trans2**

説明: z/OS 上で製品のもとで実行された分散トランザクションの一部が、手動またはプログラムによって (クライアント・サイドのトランザクション・マネージャーによってではなく)、ヒューリスティックにコミットまたはロールバックされました。直前に、トランザクション・マネージャーが、トランザクションのロールバックまたはコミットを求めていることを製品に通知しました。トランザクションに関するデータは不整合状態 (コミットまたはロールバック、あるいはその両方が部分的に行われた状態) になっている可能性があります。

ユーザーの処置: この状態は手動で訂正しなければならない可能性があります。MVS でコミットされたデータはバックアウトしなければならない可能性があり、データ・ソースをトランザクション前の状態に復元することが必要になる場合もあります。コミットされたデータは、既に後続のプログラムやトランザクションによってアクセスされた可能性がある点に注意してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: token はクライアント・サイドのトランザクション・マネージャーによって提供された XID トークン、host はホスト名、trans1 は COMMIT または BACKOUT、trans2 は BACKED OUT または COMMITTED。

**HLV0413E THE DB2ATTACHFACILITY
PARAMETER IS NOT SET TO
RRSAF, RRS SUPPORT
TERMINATED'**

説明: RRS サポートを正常に機能させるには、リカバリ可能リソース接続機能 (RRSAF) を使用するように製品の DB2ATTACHFACILITY を設定する必要があります。

ユーザーの処置: 製品パラメーターのデータ・セット・メンバーを変更してください。

**HLV0414E RRS RECOVERY TABLE SIZE
EXCEEDED - TRANSACTION
ABORTED'**

説明: RRS リカバリ表のサイズを超えました。トランザクションは中止されます。このことは別のメッセージに示されます。

ユーザーの処置: 製品パラメーター RECTABLEENTRIES によって指定される、RRS リカバリ表内のエントリー数を増やしてください。このパラメーターが指定されない場合、この値はデフォルトで 400 エントリーに設定されます。

**HLV0415E Incompatible supplied driver on client
system - transaction aborted**

説明: クライアント・システムで非互換の製品提供ドライバーが検出されました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0416E ZERO COLUMNS RETURNED FROM
PREPARE - ERROR IN SYSTEM**

説明: PREPARE から返された列がゼロでした。これは、z/OS、RRS、または DB2 (あるいはこのすべて) のエラーが原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: この問題の回避方法に関する最新情報については、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

**HLV0417E RRS IS NOT ACTIVATED FOR THIS
SERVER - XA TRANSACTION
ABORTED.'**

説明: このサーバーが初期化されたときに、RRS 接続を活動化するように指示されなかったか、または接続のための初期化が失敗しました。

ユーザーの処置: RRS を活動化することが初期化パラメーターによって指定されている場合は、このサーバーの初期化時に作成されたメッセージを調べて、関連する問題を修正してください。

**HLV0420E TWO-PHASE COMMIT SUPPORT
WAS REQUESTED, BUT RRS IS NOT
ACTIVE**

説明: RRS パラメーターが NO に設定されたか、RRS 初期化が失敗しました。RRS がアクティブでない場合は、2 フェーズ・コミットをサポートできません。

ユーザーの処置: RRS 初期化エラー・メッセージのジョブ・ログを確認し、問題があれば訂正してください。その後、RRS パラメーターを YES に設定してこのサーバーを再始動します。

**HLV0421E ERROR IN TWO-PHASE trans
PROCESS. RRS RETURN CODE = rc**

説明: このタスクからのすべてのトランザクションに対して 2 フェーズ・コミットが要求されました。RRS は、コミットが正常に行われなかったことを示すエラー・コードを返しました。

ユーザーの処置: 「z/OS プログラミング: リソース・リカバリ」という IBM 資料にある RRS ATRCMIT

機能からの戻りコードを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: trans は COMMIT または BACKOUT、rc は RRS 戻りコード。

**HLV0422E RRS RECOVERY TABLE COUNT
NEGATIVE, RESET TO ZERO**

説明: XA-RECOVER 処理中に RRS リカバリー表のエントリー・カウントが負であることが判明しました。エントリー・カウントはゼロにリセットされました。

ユーザーの処置: 不完全な状態で残された (通信回線の切断やホスト・システムの異常終了で残された) XA トランザクションがいくつか存在する可能性があります。

**HLV0423T Access to data sources through
Enterprise Transactions is not
configured.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0424E TWO-PHASE COMMIT SUPPORT
WAS REQUESTED, BUT THE RRS
MANAGER WAS NOT ACTIVE**

説明: RRS が要求されましたが、RRS がアクティブではありませんでした。

ユーザーの処置: ジョブ・ログを調べて RRS の初期化に関連するメッセージがあるか確認してください。初期化エラーを訂正し、このサーバーを再始動してください。

**HLV0425E IBM/MQSERIES/RRS SUPPORT
ENTRY entry IN MODULE mod
MISSING**

説明: IBM/MQSeries サポート・エントリーが、指定されたモジュールから欠落していました。提供された MQSeries® ライブラリーと製品の MQSeries/RRS サポートの間が非互換になっています。

ユーザーの処置: 提供されたライブラリーが標準の IBM ライブラリーであることを確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: entry は欠落しているサポート・エントリー・ポイント、mod は IBM/MQSeries モジュール名。

**HLV0426S IBM/MQSERIES/RRS SUPPORT
MODULE mod MISSING - NO
TWO-PHASE COMMIT SUPPORT
PROVIDED**

説明: 指定された IBM/MQSeries サポート・モジュールは、MQSeries の 2 フェーズ・コミットのサポートに必要なものです。処理は MQSeries の 2 フェーズ・コミットのサポートなしで続行されます。

ユーザーの処置: 製品の JCL プロシージャで定義されている IBM/MQSeries ライブラリーを確認してください。それが古いバージョンである可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod は IBM/MQSeries モジュール名。

**HLV0428T CREATION OF RRS PRIVATE
CONTEXT FAILED - CONNECTION
TERMINATED. CALL: type - R15:
return - R0: reason**

説明: 製品の RRS サポートがアクティブであり、専用コンテキストが選択されている場合、製品は、セッションが接続されると直ちに RRS 専用コンテキストを作成します。これを行うための RRS 呼び出しが失敗しました。

ユーザーの処置: IBM RRS 機能がアクティブであり、エラーが生じていないことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: type は RRS 呼び出しタイプ、return は RRS 戻りコード、reason は RRS 理由コード。

**HLV0480S MQSERIES support deactivated -
access routines cannot be loaded.**

説明: 初期化中に、MQSERIES アクセス・モジュールを HLVMQSLB と STEPLIB のいずれからもロードできませんでした。

ユーザーの処置: サーバーは MQSERIES のサポートを非活動化し、始動処理を続行します。サーバー始動 JCL 内に HLVMQSLB DD JCL ステートメントがあることを確認してください。

**HLV0500E IBM-assigned CSR table entry setup
error, contains var1, not product
OPVN pointer**

説明: 初期化中、製品のベンダー・ベクトル・テーブル・エントリーに無効値が含まれていました。割り当てられたフルワードに、製品の OPVN 制御ブロックをアドレス指定していない値が含まれています。このテーブル内の IBM 割り当てのエントリーは、ECVTCTBL に

HLV0501E • HLV0510E

よってアドレス指定されたベクトル・テーブルの 10 進オフセット 184、16 進オフセット B8 にあります。その位置にあるフルワード値に、製品の設定済み OPVN 制御ブロックを指していないゼロ以外の値が含まれていました。製品は、OPVN ブロック・ポインターを設定せずに初期化を行うことはできません。ベクトル・テーブルのフルワード内の既存値は保管され、製品の OPVN ブロック・アドレスによってオーバーレイされます。

ユーザーの処置: テーブル内に無効エントリーが作成された原因 (作成元/理由) を判別し、ワードを x'00' にクリアし、製品を再始動してください。エントリーをクリアするかどうかの決定は慎重に行ってください。別の ISV が意図せずにこのエントリーを使用していたと考えられるため、このエントリーを 0 にクリアすると、他の製品で問題を引き起こす可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はベンダー・ベクトル・テーブルで検出された誤りのある値。

HLV0501E service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまなサーバー初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作に関する情報を示しています。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0502E <ss> directory table entry exists.

説明: 初期化中、サーバー・ディレクトリー表に、始動されているものと同じサブシステム ID を持つエントリーが含まれていることが判明しました。この MVS イメージ上でこのサブシステム名を持つサーバー・アドレス・スペースがアクティブになっていると考えられません。

ユーザーの処置: このサブシステム名を持つサーバー・アドレス・スペースが現在アクティブになっているかどうかを確認してください。アクティブになっている場合、(別のサーバー・アドレス・スペースを開始する必要がある) サブシステム名を変更し、再始動を行ってくだ

さい。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0503E No ERLY exists for DB2 %1

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0504E %1 DB2 owned by another server.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0505E %1 DB2 search error.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0506E %1 server software PC reset failed.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0507E %1 product PC reset failed.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0508E %1 server software PC entry unknown.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0509E %1 DB2 server init error.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0510E %1 DB2 server %2 error.

説明: 指定された DB2 システムのサーバー・メインタスクで、共通サブルーチンからのエラーが検出されました。ECB WAIT または STIMER のいずれかのサブルーチンです。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0511E %1 DB2 SSCTSUSE ERROR,

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0512 I %1 DB2 main task PC reset error.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0513 I %1 product main task TERM PC error

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0515E MAXIMUM NUMBER OF DB2 SUBSYSTEMS PREVIOUSLY DEFINED. MAX = %1. DEFINE FOR DB2 SSID %2 IGNORED.

説明: 初期化中、入力パラメーター・データ・セットに、デフォルトまたは QSMAXDB2 によって設定された許容最大数より多くの DB2 サブシステム・ステートメントが含まれていました。

ユーザーの処置: この DB2 サブシステムに関連するすべてのパラメーター・ステートメントは無視されます。

HLV0516E DUPLICATE DB2 SUBSYSTEM DEFINITION FOR DB2 SSID %1

説明: 初期化中、入力パラメーター・データ・セットに、同じ DB2 サブシステム ID に対して複数の DEFINE が含まれていました。

ユーザーの処置: この DB2 に対する後続の DEFINE 内にあるすべてのパラメーター・ステートメントは無視されます。

HLV0517E RETURN CODE %1 FROM ALESERV ADD OF DB2 DBM1 FOR %2

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0518E TERMINATION WAITING ON DB2 STATUS TASK FOR %1

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0519E maximum number of server address spaces are already active. max possible %1. currently active %2.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0520E Maximum number of DB2 systems are all ready active. max possible %1. DB2 %3.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0521S DB2 subsysid STATUS TASK ABEND abcd AT +off DURING desc.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0522W Proprietary R&&D utilities are activated for this start-up

説明: この警告は、システム内で専用 R&D ユーティリティー機能が活動化されていることを示します。製品のお客様のコピーでは、始動処理中にこのメッセージが生成されることはないはずで。

ユーザーの処置: 始動中にこのメッセージが表示された場合は、サーバーを終了し、ソフトウェア・サポートに連絡してください。内部開発者ユーティリティーをオフサイトで実行すると、損傷を招く副次作用が生じる可能性があります。

HLV0523W E/SQA ROUTINE AT vars WILL BE REBUILT DUE TO INVALID PTR OR DATA

説明: この警告は、特殊な E/SQA 常駐 SRASTC ルーチンが再作成されることを示します。ルーチンへの既存のポインターまたはルーチン自体が損傷していると思われます。

ユーザーの処置: 始動処理で既存のポインターがクリアされ、必要なルーチンの新規コピーが E/SQA ストレージ内に作成されます。それ以前に OPVN ベンダー CSR テーブル制御ブロックによって固定されたストレージ (ある場合) は孤立します。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: vars は OPVNSRAT の値/アドレス。

HLV0600S IMS/OTMA XCF request FAILED, RC=rc RS=rscd IMS=imsid

説明: これは、さまざまな IMS/OTMA 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request は XCF 要求タイプ、rc は XCF 戻りコード、rscd は XCF 理由コード、imsid は OTMA IMS ssid。

HLV0601S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな IMS/OTMA 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV0602 I IMS/OTMA server waiting OTMA INIT for IMS SSID=%1

説明: このメッセージは、IMS/OTMA トランザクション・サーバーが選択された IMS サブシステムの初期化を待っていることを示します。このメッセージは通知メッセージであり、OTMA のサポートを有効にするために IMS サブシステムの始動が行われるのを待機しているときに定期的に発行されます。

ユーザーの処置: IMS サブシステムが使用できない理由を判別してください。IMS サブシステムを始動して、OTMA のサポートが有効になるようにします。このメッセージが誤って発行された場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0603 I IMS/OTMA server INIT in progress for IMS SSID=%1

説明: このメッセージは、選択された IMS サブシステムで IMS/OTMA トランザクション・サーバーの初期化が進行中であることを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV0604 I IMS/OTMA server INIT complete for IMS SSID=imsid using XCF member xcfid

説明: このメッセージは、選択された IMS サブシステムで IMS/OTMA トランザクション・サーバーの初期化が正常に完了したことを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: imsid は定義済みの IMS ID、xcfid は定義済みの XCF メンバー。

HLV0605 I IMS/OTMA server has detected OTMA TERM for IMS SSID=%1

説明: このメッセージは、IMS で OTMA のサポートが終了していることを IMS/OTMA トランザクション・サーバーが検出したことを示します。このメッセージは、IMS が XCF OTMA グループを離脱していると判断された場合に発行されます。この原因は、IMS の終了、/STOP OTMA コマンド、または OTMA の異常終了と考えられます。製品の IMS/OTMA サーバーは IMS が OTMA のサポートを再開するのを待機し、OTMA 要求アクティビティの処理を続行します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

**HLV0606 I IMS/OTMA server TERM in progress
for IMS SSID=%1**

説明: このメッセージは、選択された IMS サブシステムで IMS/OTMA トランザクション・サーバーが終了処理中であることを示します。このメッセージは製品の終了処理中に発行されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

**HLV0607 I IMS/OTMA server TERM complete for
IMS SSID=%1**

説明: このメッセージは、選択された IMS サブシステムで IMS/OTMA トランザクション・サーバーが終了処理を完了したことを示します。このメッセージは製品の終了処理中に発行されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

**HLV0608S IMS/OTMA TPIPE TASK name FOR
CONNECTION name ABENDED
CODE abcd**

説明: このメッセージは、IMS/OTMA トランザクション・パイプが異常終了したことを示します。

ユーザーの処置: Trace Browse と JES JOBLOG を調べて、ABEND が起こった理由を判別してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name は TPIPE タスク名、name は IMS/OTMA 接続名、abcd は異常終了コード。

**HLV0620S SIS/XCF XCF request FAILED, RC=rc
RS=rscd SIS=ssid**

説明: これは、さまざまな SIS/XCF 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request は XCF 要求タイプ、rc は XCF 戻りコード、rscd は

XCF 理由コード、ssid は SIS/XCF ssid。

HLV0621S service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまな SIS/XCF 初期化エラーおよび終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

**HLV0622T SIS/XCF member waiting SIS/XCF %1
INIT for mbr=%2**

説明: このメッセージは、SIS/XCF サーバーが選択された SIS サブシステムの初期化を待っていることを示します。このメッセージは通知メッセージであり、SIS/XCF 標準メンバーが SIS/XCF マネージャーが初期化されるのを待機しているときに定期的に発行されません。

ユーザーの処置: SIS/XCF マネージャーが使用できない理由を判別してください。SIS/XCF マネージャーを始動して、SIS/XCF のサポートが有効になるようにします。このメッセージが誤って発行された場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV0623 I SIS/XCF %1 INIT in progress for
member=%2**

説明: このメッセージは、選択された SIS サブシステムで SIS/XCF サーバーの初期化が進行中であることを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

**HLV0624 I SIS/XCF server INIT complete for SIS
SSID=ssid using XCF member xcfd**

説明: このメッセージは、選択された SIS サブシステムで SIS/XCF サーバーの初期化が正常に完了したことを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sisid は定義済みの SIS ID、xcfid は定義済みの XCF メンバー。

HLV0625 I SIS/XCF %1 instance has detected termination of %2 instance member %3

説明: このメッセージは、SIS で SIS/XCF のサポートが終了していることを SIS/XCF トランザクション・サーバーが検出したことを示します。このメッセージは、SIS が XCF OTMA グループを離脱していると判断された場合に発行されます。この原因は、SIS の終了または OTMA の異常終了と考えられます。SIS/XCF サーバーは SIS が SIS/XCF のサポートを再開するのを待機し、SIS 要求アクティビティの処理を続行します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

HLV0626 I SIS/XCF %1 TERM in progress for member=%2

説明: このメッセージは、選択された SIS サブシステムで SIS/XCF サーバーが終了処理中であることを示します。このメッセージは製品の終了処理中に発行されません。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

HLV0627 I SIS/XCF %1 TERM complete for member=%2

説明: このメッセージは、選択された SIS サブシステムで SIS/XCF トランザクション・サーバーが終了処理を完了したことを示します。このメッセージは製品の終了処理中に発行されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

HLV0701W ZIIPCLASS=class HAS TOO MANY PERIODS SPECIFIED

説明: このメッセージは、WLM の初期化で検出された一致レポート・クラスの数が多すぎることを示します。許容されているピリオドは 6 つのみであり、それより多くが命名規則と一致しました。

ユーザーの処置: 余分なレポート・クラスを削除してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: class は検出された WLM クラス。

HLV0702W CLASS class SPECIFIES A ZIPCLASS NAME THAT DOES NOT EXIST, class

説明: このメッセージは、WLM の初期化で、検出できない ZIIPCLASS を参照するクラスが検出されたことを示します。

ユーザーの処置: 示された WLM クラスを、既存の WLM 疑似クラスを参照するように訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: class は処理されている WLM クラス。class は検出できなかった WLM 疑似クラスの名前です。

HLV0703W ZIIPCLASS=class CONTAINS INVALID PARMs

説明: このメッセージは、WLM の初期化で、無効なパラメーターを含む ZIIPCLASS レポート・クラス定義が検出されたことを示します。記述には Pnnn パーセンテージ定義が含まれていなければならない、最後のもの以外のすべてに Dnnnnnnn 期間が含まれている必要があります。

ユーザーの処置: ZIIPCLASS レポート・クラス定義の定義フィールドを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: class は検出された WLM クラス。

HLV0704H WLM refresh command completed

説明: WLM コマンドが、製品内の WLM データをリフレッシュし、正常に完了しました。

ユーザーの処置: なし。

HLV0706 I pname subsys requires the following elements missing from WLM Service type policy

説明: 製品の初期化で、現在の WLM サービス・ポリシーに、製品のバージョン 7.1 に必要なすべての定義が含まれていないことが検出されました。必要なサービス定義エレメントをリストするメッセージがこのメッセージの後に続きます。

ユーザーの処置: これらのメッセージに続く WTOR プロンプトに応答してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pname は製品名、subsys はサブシステム名、type はポリシーまたは定義、policy は現在の WLM ポリシー/定義名。

**HLV0707 I Type: WLM, Server Parameter: WLM,
Value: Server**

説明: WLM サービス定義から欠落しているエレメントをリストするために、製品の WLM の初期化で使用される汎用メッセージ。

ユーザーの処置: このメッセージに続く WTOR プロンプトに回答してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: WLM はポリシー・エレメント・タイプ、WLM はポリシー・エレメント名、Server は IN00 パラメーター名。

**HLV0708R Reply 'GO' to update the WLM
Service Definition, or 'CANCEL' to
terminate server initialization**

説明: このメッセージは、製品の WLM の初期化で、現在の WLM サービス定義を製品のサーバー実行に必要なポリシー・エレメントによって更新しようとしているときに発行されます。

ユーザーの処置: サーバーが WLM サービス定義を更新できるようにするには「GO」と回答します。サーバーの初期化を終了するには「CANCEL」と回答します。

**HLV0709 I WLM Service Definition WLM has
been updated with required product
elements**

説明: このメッセージは、製品の WLM 初期化で、WLM サービス定義に必要な製品エレメントによって更新したときに発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージに続く WTOR プロンプトに回答してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: WLM はサービス定義名。

**HLV0710E Invalid reply: 'reply'. Reply 'GO' or
'CANCEL'**

説明: サーバーの WLM 初期化コンソール・メッセージに無効な回答が指定されました。

ユーザーの処置: メッセージが再発行されるようにするには「GO」と回答します。サーバーの初期化を終了するには「CANCEL」と回答します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: reply は回答テキスト。

**HLV0711E REPLY WAIT EXCEEDED 2
MINUTES. CANCEL ASSUMED**

説明: 製品が WLM 初期化メッセージへの応答を待機している時間が 2 分を超えました。その時間中に応答を受け取らなかったため、CANCEL が想定され、サーバーの初期化が終了されました。

ユーザーの処置: なし。 応答が必要だった場合は、メッセージに迅速に回答する必要があります。

**HLV0712E 3 INVALID REPLIES. CANCEL
ASSUMED**

説明: 製品の WLM 初期化メッセージに無効な回答が 3 回行われました。正しい回答を受け取らなかったため、CANCEL が想定され、サーバーの初期化が終了されました。

ユーザーの処置: なし。 次回は必要とされる回答を行ってください。

**HLV0713S WLM administration user ID <usid>
logon failed.**

説明: WLMUSERID システム・パラメーターによって指定された WLM admin ユーザー ID が、始動時のログオン処理に失敗しました。

ユーザーの処置: サーバーの初期化プロセスは打ち切られます。 WLMUSERID 始動パラメーターによって指定されたユーザー ID が正しいことを確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid は WLMUSERID パラメーター値。

**HLV0714 I WLM administration userid usid
logged on to system**

説明: WLMUSERID システム・パラメーターによって指定された WLM admin ユーザー ID がシステムにログオンしました。

ユーザーの処置: サーバーの初期化処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid は WLMUSERID 値。

HLV0715 I WLM Service Definition WLM does not contain current Service Policy WLM

説明: このメッセージは、製品の WLM 初期化で、WLM サービス定義が更新され、その定義に現在アクティブなサービス・ポリシーが含まれていないと判断されたときに発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージに続く WTOR プロンプトに回答してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: WLM はサービス定義名、WLM はサービス・ポリシー名。

HLV0716R Enter name of Service Policy to activate, 'LIST', or 'CANCEL' to terminate server initialization

説明: このメッセージは、製品の WLM 初期化で、サービス定義が更新され、活動化するサービス・ポリシーを確認する必要がある場合に発行されます。

ユーザーの処置: 名前を入力し、その名前でサービス・ポリシーを活動化します。使用可能なポリシーのリストを取得するには、「LIST」と応答します。サーバーの初期化を終了するには「CANCEL」と応答します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: WLM はサービス定義名、WLM はサービス・ポリシー名。

HLV0717 I The following Service Policies are available for activation

説明: このメッセージは、製品の WLM 初期化で、現在のサービス定義で定義されているサービス・ポリシーをリストしようとしているときに発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージに続く WTOR プロンプトに回答してください。

HLV0718 I Policy: WLM - WLM

説明: 活動化が可能なサービス・ポリシーをリストするために、製品の WLM 初期化で使用される汎用メッセージ。

ユーザーの処置: このメッセージに続く WTOR プロンプトに回答してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: WLM はポリシー・エレメント名、WLM はポリシー・エレメントの説明。

HLV0719R Reply 'GO' to activate Policy %1, or 'CANCEL' to terminate server initialization

説明: このメッセージは、製品の WLM 初期化で、WLM サービス定義を指定されたサービス・ポリシーによって更新したときに発行されます。

ユーザーの処置: サーバーがサービス・ポリシーを活動化できるようにするには「GO」と応答します。サーバーの初期化を終了するには「CANCEL」と応答します。1 は作成する WLM ポリシーのポリシー名です。

HLV0720S WLM reset to service class srvccls failed for job jobname subsystem subsystem ASID asid

説明: サーバーの WLM 初期化で、サーバーのサービス・クラスのリセットに失敗しました。

ユーザーの処置: システム・ログ内で先に発行されたエラー・メッセージを探してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: srvccls は必要なサービス・クラス、jobname はサーバーのジョブ名、subsystem はサーバーの SSID、asid はサーバーの ASID。

HLV0721 I WLM classify successful for tran - Service Class srvccls

説明: サーバーの WLM エンクレーブの分類が正常に実行されました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: tran は使用されたトランザクション名、srvccls は割り当てられたサービス・クラス。

HLV0722 I Unable to classify transaction tran for subsystem subsystem

説明: サーバーが、指定されたトランザクションを分類できませんでした。

ユーザーの処置: システム・ログ内で先に発行されたエラー・メッセージを探してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: tran は使用されたトランザクション名、subsystem は WLM サブシステム・タイプ。

HLV0723 I WLM enclave create successful for Service Class srvcls

説明: サーバーの WLM エンクレーブの分類が正常に実行されました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: srvcls は割り当てられたサービス・クラス。

HLV0724 I ss WLM health changed from subsystem%% to oper1%% oper2

説明: 指定された製品サブシステムの WLM ヘルス値が、最初の値から 2 番目の値に変更されました。

ユーザーの処置: ヘルス値が低下した場合は、サーバー内で異常終了またはタイムアウトを探してください。現在では、ACI の異常終了とタイムアウトのみが測定されます。ヘルス値が高まった場合、追加の障害が検出されず、製品が完全に正常な状態に戻っていることを示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsystem は WLM サブシステム・タイプ、oper1 は古いヘルス値、oper2 は新しいヘルス値、reason は理由の説明。

HLV0725 I RACF administration USERID usid logged on to system

説明: SERVERID システム・パラメーターによって指定された RACF 管理 USERID がシステムにログオンしました。

応答: サーバーの初期化処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid は SERVERID の値。

HLV0726S RACF administration USERID (usid) logon failed

説明: SERVERID システム・パラメーターによって指定された RACF 管理 USERID が、始動時のログオン処理に失敗しました。

応答: サーバーの初期化プロセスは打ち切られます。SERVERID 始動パラメーターによって指定された USERID が正しいことを確認してください。可能であれば、エラー・メッセージに示された問題を修正して、製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid は SERVERID パラメーター値。

HLV0800 I IDMS SERVER INIT IN PROGRESS FOR CONNECTION=%1

説明: このメッセージは、選択された IDMS 接続名で IDMS 初期化が進行中であることを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV0801 I IDMS SERVER INIT COMPLETE FOR CONNECTION=target USING MAILBOX=cnid

説明: このメッセージは、選択された IDMS ターゲットで、定義された接続を使用して IDMS 初期化が正常に完了したことを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: target は定義済みの IDMS ターゲット、cnid は接続 ID。

HLV0802 I CONNECTION BROKEN WITH IDMS CONNECTION=cnid USING MAILBOX=jobname

説明: このメッセージは、選択された IDMS 接続が切断されたことを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnid は IDMS 接続名、jobname は IDMS ジョブ名。

HLV0900E Service of ddnxcb failed, RC=rc.

説明: REXX プログラムのコンパイルまたは実行中に MVS サービスによってゼロ以外のエラー・コードが返されました。以下のいずれかが発生しました。(1) ファイルのオープンまたはクローズに失敗しました。(2) レコードの書き込み (WRITE または ENDREQ) が失敗しました。(3) 制御ブロック用のストレージを取得または解放できませんでした。(4) コマンドの解析が失敗しました。

ユーザーの処置: 上記のどのケースが該当するかに応じて、以下のいずれかのアクションを実行してください。(1) ファイルのオープンまたはクローズが失敗した理由を示すメッセージがあるか確認します (SYSEXEC ファイル名が正しく割り振られなかったと考えられます。例えば、区分データ・セットの代わりに順次ファイルに割り振りが行われました)。(2) WRITE または ENDREQ が失敗したというメッセージが発行された場合は、HLVCOMP または SWSCOMP DD で割り振られた

PDS の状況を確認します (その PDS が正しく割り振られていない可能性があります。例えば、スペース不足になっていました)。 (3) エラーで GETMAIN が割り振りの失敗が報告された場合は、TSO セッションの TSO 領域サイズの増加が必要と考えられます。 (4) 発行したコマンドの構文が正しいかどうかを確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はオープン、クローズ、GETMAIN、FREEMAIN、割り振り、削除、IKJPARS、ddncb は DD 名 (オープン/クローズの場合) か制御ブロック名 (他のすべての場合)、rc は戻りコード。

HLV0901E CANNOT OPEN mem (ABEND abcd AT mod+off)

説明: 実行する REXX プログラムのオープン処理中に異常終了が発生しました。その異常終了が原因で、REXX ソース・プログラムを含む PDS メンバーをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 他の REXX ライブラリーに対する定義を調べて、示されたライブラリーが PDS と同等のものであることを確認してください。異常終了コードについては、IBM のメッセージとコードの資料を確認してください。そのメンバーが存在しないか、データ・セット属性に誤りがある可能性があります (順次 DSORG または LRECL および BLKSIZE が対応していません)。システム 913 異常終了コードが報告された場合、データ・セット・アクセスがセキュリティー・サブシステムによって許可されていませんでした。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem はメンバー名、abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV0902E Cannot find program pgmname ddn var1.

説明: REXX インタープリター (HLVI、HLVX、SWSI、または SWSX TSO コマンド・プロセッサ) が、指定された REXX プログラムを、SYSEXEC DD 名に割り振られたデータ・セット内 (SDBI か SWSI の場合) あるいは HLVX または SWSX コマンドに指定されたデータ・セット内で見つけれませんでした。

ユーザーの処置: 実行しようとしているプログラムの名前が、いずれかの SYSEXEC 連結データ・セット内 (HLVI か SWSI の場合)、あるいは HLVX または SWSX コマンドに指定されたデータ・セット内に存在することを確認してください。プログラム名のスペルを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

pgmname はプログラム名、ddn は DD 名、var1 はなし。

HLV0903E ERROR 43 request caller, LINE lineno: ROUTINE routine NOT FOUND

説明: REXX プログラムのコンパイル中に、REXX インタープリターがメインプログラムによって、またはそのサブルーチンのいずれかによって呼び出されたルーチンを見つけられませんでした。

ユーザーの処置: (このメッセージに示されている) 呼び出し側プログラムを調べて、サブルーチン名のスペルが正しいことを確認してください。スペルが正しい場合、SYSEXEC DD 名に割り振られたライブラリー、または呼び出し側プログラムが含まれているものと同じライブラリーに、存在しないルーチンが追加されたと考えられます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request はコンパイラーのタイプ、request caller は呼び出し側プログラムの名前、lineno は呼び出し側プログラムの行番号、routine は存在しないルーチンの名前。

HLV0906 I No syntax errors found during scan.

説明: コンパイラーは HLVX のスキャン中に構文エラーを検出しませんでした。これは通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLV0907S ABEND abcd OCCURRED AT csect+off OF PROGRAM pgm

説明: REXX インタープリター (HLVI または HLVX TSO コマンド) による REXX プログラムの実行中に異常終了が発生しました。異常終了発生時に実行されていた REXX プログラムの名前はこのメッセージに示されています。

ユーザーの処置: 異常終了発生時に実行されていた行を確認してください。IBM のメッセージとコードの資料に記載された異常終了コードを調べて、そこに規定されたアクションに従ってください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、csect は CSECT 名、off はモジュールのオフセット、pgm はプログラム名。

HLV0908E PROGRAM pgm IS TOO LARGE - INPUT BUFFER OVERFLOW

説明: REXX インタープリター (HLVI または HLVX TSO コマンド) が、REXX プログラムを正常にコンパイルできませんでした。そのプログラムのサイズが大きすぎるためです。

ユーザーの処置: そのプログラムを小さいサブルーチンに分割してください。このエラーは、単一の REXX プログラム内のソース入力行の数と長さに直接関連しています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `pgm` はプログラム名。

HLV0909E PROGRAM `pgm` - ARG LENGTH (`length1`) EXCEEDS MAXIMUM LENGTH (`length2`)

説明: REXX プログラムの引数ストリングの長さが実装制限を超えています。

ユーザーの処置: 引数ストリングに過剰な数のブランクが存在するかどうかを確認してください。存在する場合は、それらのブランクを引数ストリングから除去してください。REXX プログラムに `long` 値を渡す必要がある場合は、グローバル変数を使用してその値を渡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `pgm` はプログラム名、`length1` は引数ストリングの長さ、`length2` は引数ストリングの実装制限。

HLV0911E Missing REXX program name

説明: HLVI コマンドが (実行する REXX プログラムの名前を含む) パラメーター・フィールドのない TSO CALL コマンドを使用して呼び出されたか、または ISPF 編集内から `@#$I` コマンドが呼び出されましたが、ISPF 環境を確立できませんでした。

ユーザーの処置: HLVI コマンドが TSO CALL コマンドによって呼び出された場合、REXX プログラム名 (およびオプションの引数) を含むパラメーター・フィールドを追加する必要があります。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

HLV0912E Missing REXX program name detected at - ad

説明: HLVI または HLVIX TSO コマンドが、プログラム名を指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: HLVI または HLVIX TSO コマンドにプログラム名を指定する必要があります。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV0913E Invalid REXX program name detected - text

説明: 指定された REXX プログラム名が無効です。この名前は有効な PDS メンバー名でなければならず、長

さが 8 文字を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 有効な REXX プログラム名を指定してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `text` はコマンドのテキスト・データ。

HLV0914E UNKNOWN RETURN CODE FROM PARSE ROUTINE, RC=`rc`

説明: 内部解析ルーチンから予期しない戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `rc` は戻りコード。

HLV0915E BATCH OR TSO CALL PARAMETER STRING TOO LONG

説明: バッチ・プログラム、または TSO CALL によって呼び出されるプログラムに渡されるパラメーター・フィールドは 100 文字を超えてはなりません。

ユーザーの処置: パラメーター・ストリングの長さを短くしてください。ソフトウェア・サポートに連絡し、追加支援を受けてください。

HLV0916E <routine> built-in function not found - called by <caller>.

説明: 使用中の製品サブシステムと、再ロードされているプリコンパイル済み REXX プログラムとの間に互換性の問題が存在します。プリコンパイル済み REXX プログラムによって使用されることになっていた製品の組み込み関数が存在しなくなっています。

ユーザーの処置: REXX プログラムのコンパイル時に使用されたサブシステムのリリース・レベルを確認してください。現在の製品サブシステムのもので REXX プログラムをもう一度再コンパイル (HLVICOMP) することが必要と考えられます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `routine` は存在しないルーチンの名前、`caller` は呼び出し側プログラムの名前。

HLV0917E ERROR SAVING THE COMPILED OUTPUT IN %1

説明: プリコンパイルされたプログラムを保管しようとして、エラーが発生しました。このメッセージに先立つ

て、エラーの原因を詳述する付随メッセージが発行されます。

ユーザーの処置: 先行するエラー・メッセージを調べて、実行可能なアクションを確認してください。

**HLV0918E CANNOT WRITE EXECUTABLE
OBJECT var1.var2 TO DS(var1) var4
var5 var6 var7 var8**

説明: SEF が、実行時の問題が原因で実行可能オブジェクト・バイナリー・イメージまたはデータ域を保管できません。ソース・ルールまたはデータ・ファイルは、ターゲット・データ・セットとともに指定されています。

ユーザーの処置: 問題の原因を示すメッセージが他に発行されているか確認し、要求を再試行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はルール・セットまたはデータ・ファイル、var2 はルールまたはデータ・メンバー、var1 はオブジェクト出力 PDS の DS 名、var4、var5、var6、var7、var8 はそれぞれ可変

**HLV0919 I Successful compile and save of <pgm>
in <ddn>.**

説明: REXX インタープリター (HLVICOMP、HLVXCOMP、SWSICOMP、または SWSXCOMP コマンド) が、正常に REXX プログラムをコンパイルし、保管しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm はプログラム名、ddn は DD 名。

**HLV0920E REBUILD FAILED FOR COMPILED
REXX PROGRAM - pgm**

説明: 障害発生時、REXX インタープリター・コマンド・プロセッサは以前にコンパイルされた PDS メンバーから REXX プログラムを再作成しようとしていました。

ユーザーの処置: 付随する他のエラー・メッセージがあるか確認してください。コンパイル済みバージョンのプログラムを削除してから、もう一度再コンパイルするか、REXX ソース・プログラムを実行する必要があると考えられます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm はプログラム名。

**HLV0921W ALLOCATION OF COMPILED
LIBRARY (dsn) FAILED**

説明: 製品は、コンパイル済みバージョンの REXX プログラムを使用してライブラリーを割り振ろうとしました。その動的割り振りが失敗しました。

ユーザーの処置: このアプリケーションの最初のパネルで指定されたデータ・セット名が有効であることを確認してください。正しいデータ・セット名を取得するには、インストール済み環境の製品担当者に連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn はメインパネルに指定されているデータ・セット名。

**HLV0922W ITRACE KEYWORD NOT ALLOWED
DURING COMPILE ONLY REQUEST**

説明: COMPILE ONLY 要求では初期トレース値の設定は許可されません。

ユーザーの処置: COMPILE ONLY 要求では ITRACE キーワードを指定しないでください。ITRACE 値に意味があるのは、REXX の実行フェーズ中のみです。

**HLV0923S COMPILE ALL FAILED - ERROR
READING THE DIRECTORY OF dsn**

説明: PDS 全体に対する COMPILE ONLY 要求を受け取りましたが、ディレクトリーの読み取り中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: ISPF を使用してデータ・セットの表示を試みて、PDS のメンバー・リスト・ディレクトリーがアクセス可能かどうかを確認してください。アクセスできない場合は、考えられるデータ・セット・リカバリーについてローカル側の DASD 管理者に問い合わせてください。データ・セットの表示およびそのメンバーのリストを正しく行うことができる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn はデータ・セット名。

**HLV0990E RUNNING pgmname:
INCOMPATIBLE CONTROL BLOCKS**

説明: REXX プログラムが、製品の REXX インターフェース・モジュールの旧バージョンを使用してコンパイルされました。コンパイルされたモジュール内の REXX 制御ブロックが現行バージョンと非互換です。

ユーザーの処置: このエラーが発生するのは、プリコンパイルされた保管済みバージョンのプログラムまたはルールの実行時のみです。この場合、プログラムまたはル

ールを再コンパイルしてから再実行する必要があります。これ以外の状況でこのエラーが発生した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
pgmname は REXX プログラム名。

HLV0991E RUNNING pgmname: INTERNAL ERROR DETECTED AT ad

説明: REXX インターフェース・モジュールで内部エラーが検出されました。

ユーザーの処置: この状態に関連した他のエラー・メッセージが発行されている可能性があります。このエラーは、REXX ワークスペースのオーバーフロー条件が原因で発生すると考えられます。これが該当する場合は、メッセージ 0998E で追加情報を参照してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
pgmname は REXX プログラム名。

HLV0997T Ino' TRACE MESSAG

説明: 単なる通知メッセージです。このメッセージは、REXX TRACE コマンドがルール内で使用されたときの、そのコマンド出力を示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Ino は REXX プログラムの行番号。

HLV0998E RUNNING pgmname LINE Ino: COMPILER WORK SPACE OVERFLOW (value1 value2)

説明: ルールまたはプログラムが、使用可能な REXX 変数ワークスペースをすべて使い尽くしました。

ユーザーの処置: いずれの場合も、プログラムが誤って変数を多く作成しすぎているかどうかを確認してください。該当する場合は、プログラムを訂正し、操作を再試行してください。プログラムが正しく動作している場合は、ワークスペースのサイズが小さすぎる可能性があります。ルール環境では、SEFSIZE パラメーターの値を増やして製品を再始動する必要があります。製品の REXX プログラム (SWSI コマンド) の場合は、WORKSPACE キーワード・パラメーターを使用してデフォルト・サイズをオーバーライドしてください。WWW ルールの場合は、ルールの /*WWW ヘッダー・ステートメントに WORKSPACE() オペランドをコーディングして、デフ

ォルトのワークスペース指定をオーバーライドします。

HLV0999E STAX ind MACRO FAILED - RC=rc

説明: 製品の REXX コンパイラーが REXX プログラムの初期化または実行の終了を行おうとしているときに、STAX マクロが示された戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージと戻りコードを記録してください。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ind は STAX マクロ呼び出しのタイプを示す標識 (ON または OFF)、rc は STAX マクロから (レジスター 15) の戻りコード。

HLV1000 I text

説明: REXX SAY ステートメントに使用される製品メッセージ。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text は REXX SAY ステートメントのテキスト。

HLV1004 I ERROR 4 process pgmname, LINE Ino: PROGRAM INTERRUPTED

説明: 何らかのエラーまたはユーザー要求によって、システムは REXX プログラムの実行を停止しました。SIGNAL ON HALT によってトラップされたのでない限り、このメッセージによって言語プロセッサは直ちに強制的に実行を終了されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、Ino は REXX プログラムの行番号。

HLV1005 I ERROR 5 process pgmname, LINE Ino: MACHINE RESOURCES EXHAUSTED

説明: REXX プログラムを実行しようとしているときに、言語プロセッサが実行を続けるために必要なリソースを取得できませんでした。このメッセージの原因となったと考えられる項目は、(1) 外部データ・キューが満杯であること、または (2) 使用可能なすべてのストレージが使用されたことです。

ユーザーの処置: 外部データ・キューのサイズ、または

プログラムが使用できるストレージ量を増やしてみてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1006 I ERROR 6 var1 var2, LINE lno:
UNMATCHED "/" OR QUOTE**

説明: コメント・ストリングまたはリテラル・ストリングが開始されましたが、終了しませんでした。コメントの場合、これはプログラムの終わり、または INTERPRET 命令の終わりに検出される可能性があります。リテラル・ストリングの場合、これは行の終わりに検出される可能性があります。

ユーザーの処置: ルールまたは REXX プログラムを調べて、ストリングを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はなし、var2 はなし、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1007 I ERROR 7 process pgmname, LINE lno:
WHEN OR OTHERWISE EXPECTED**

説明: SELECT 構成内では、少なくとも 1 つの WHEN 構成 (および場合によっては OTHERWISE 節) が必要とされます。これ以外の命令が検出されると (または WHEN 構成が OTHERWISE の前にあると)、結果的にこのメッセージが発行されます。このエラーの一般的な原因は、WHEN に続く命令のリストを囲む DO と END が忘れられていることです。

ユーザーの処置: REXX プログラムを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1008 I ERROR 8 process pgmname, LINE lno:
UNEXPECTED THEN OR ELSE**

説明: 対応する IF または WHEN 節と一致しない THEN または ELSE が検出されました。このエラーは、多くの場合、複合的な IF...THEN...ELSE 構成の中に END または DO...END が欠落していることが原因で発生します。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1009 I ERROR 9 process pgmname, LINE lno:
UNEXPECTED WHEN OR
OTHERWISE**

説明: WHEN または OTHERWISE が SELECT 構成の外部で検出されました。END 命令が省略され、それが意図せずに DO...END 構成の中に囲まれていたか、SIGNAL 命令によってそこへ分岐しようと試みられた (SELECT は SIGNAL によって終了されるため、これは機能できません) 可能性があります。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、誤りのある部分を修正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1010 I ERROR 10 process pgmname, LINE
lno: UNEXPECTED OR UNMATCHED
END**

説明: プログラム内の END の数が DO と SELECT より多いか、または END の配置が誤っているために DO と SELECT と一致していません。プログラムの構成を示すトレース・スキャンを使用することで、エラーの発生場所をより明確にすると、エラーの解消に役立つ可能性があります。このエラーを引き起こす一般的な誤りは、SIGNAL 命令を使用して中間ループにジャンプしようとすることです。END が THEN や ELSE の直後にある場合にもこのエラーが生成されます。

ユーザーの処置: 誤りのある行を調べ、REXX プログラムを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1011 I ERROR 11 process pgmname, LINE
lno: CONTROL STACK FULL**

説明: 制御構造 (DO...END、IF...THEN...ELSE など) のネスト・レベルの実装制限を超えました。メッセージに実際の制限が記載されるはずですが、このエラーは、INTERPRET 命令のループまたは無限の再帰呼び出しが原因で起こる可能性があります。

ユーザーの処置: 誤りのある行を調べ、プログラムを修正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1012 I ERROR 12 process pgmname, LINE
lno: CLAUSE TOO LONG**

説明: 節の内部表記の長さを制限する実装制限が存在する場合があります。このメッセージは、この制限を超えた場合に生成されます。

ユーザーの処置: 記録されている制限を超えたりテラル・ストリングと 16 進数ストリングの長さを短くしてください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1013 I ERROR 13 process pgmname, LINE
lno: INVALID CHARACTER IN
PROGRAM**

説明: プログラムが、リテラルの引用符付きストリングの外部に、英数字でなく、許容されているどの特殊文字でもない文字を含んでいます。

ユーザーの処置: 誤りのある行を調べ、無効な文字を訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1014 I ERROR 14 process pgmname, LINE
lno: INCOMPLETE DO/SELECT/IF**

説明: プログラムの終わり (または INTERPRET 命令内のストリングの終わり) に達しようとしているときに、一致する END のない DO または SELECT、あるいは実行する THEN 節が後に続いていない IF があることが検出されました。

ユーザーの処置: 対になっていない DO または SELECT を見つけ、訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1015 I ERROR 15 process pgmname, LINE
lno: INVALID HEXADECIMAL OR
BINARY CONSTANT**

説明: 16 進定数は先行ブランクも末尾ブランクも含むことはできず、バイト境界で組み込みブランクのみを含むことができます。数字 0 から 9、および文字 a から f のみを使用できます。バイナリー・ストリングでは、4 桁の 2 進数のグループの境界にのみブランクを追加で

きます。数字 0 と 1 のみを使用できます。このエラーは、リテラル・ストリングの後に 1 文字のシンボル「x」(このストリングが 16 進数の指定として解釈されることを意図していない場合)、またはシンボル「b」(このストリングが 2 進数の指定として解釈されることを意図していない場合)が続くことによっても引き起こされる可能性があります。この状態では、明示的な連結演算子「|」を使用してストリングをシンボルの値に連結してください。

ユーザーの処置: 行のエラーを見つけて訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1016 I ERROR 16 process pgmname, LINE
lno: LABEL NOT FOUND**

説明: SIGNAL 命令が実行されたか、またはトラップが設定されているイベントが発生し、指定されたラベルがプログラム内で見つかりません。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1017 I ERROR 17 process pgmname, LINE
lno: UNEXPECTED PROCEDURE**

説明: PROCEDURE 命令が検出されましたが、これは呼び出しまたは関数呼び出し後に実行された最初の命令ではありませんでした。このエラーの考えられる原因は、その命令が正しく呼び出されるのではなく、内部ルーチン内で失敗したことです。

ユーザーの処置: 行を調べて問題を修正し、プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1018 I ERROR 18 process pgmname, LINE
lno: THEN EXPECTED**

説明: REXX 内のすべての IF および WHEN 節の後には THEN 節を続ける必要があります。THEN が必要とされているときに、他の何らかの節が検出されました。

ユーザーの処置: 行を調べ、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1019 I ERROR 19 process pgmname, LINE
lno: STRING OR SYMBOL
EXPECTED**

説明: キーワード呼び出しまたはシーケンス SIGNAL ON または SIGNAL OFF の後には、リテラル・ストリングまたはシンボルが必要とされていましたが、どちらも検出されませんでした。

ユーザーの処置: 必要なリテラル・ストリングまたはシンボルを追加してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1020 I ERROR 20 process pgmname, LINE
lno: SYMBOL EXPECTED**

説明: 節

END、ITERATE、LEAVE、NUMERIC、PARSE、および PROCEDURE 内でシンボルが必要とされている可能性があります。必要なときにシンボルが存在していなかったか、他の何らかのトークンが検出されました。あるいは、DROP、および PROCEDURE の EXPOSE オプションでシンボルのリストが必要とされています。他の何らかのトークンが検出されました。

ユーザーの処置: REXX プログラムを訂正し、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1021 I ERROR 21 process pgmname, LINE
lno: INVALID DATA ON END OF
CLAUSE**

説明: SELECT や NOP などの節の後に、コメント以外の何らかのトークンが続いています。

ユーザーの処置: 行を訂正し、REXX プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1022 I ERROR 22 process pgmname, LINE
lno: INVALID CHARACTER STRING**

説明: このエラーは、特定のインストール環境で無効な文字コードがリテラル・ストリングに含まれていることによって発生します。考えられる原因は、一部の文字が使用不可能であること、または文字セットが何らかの方法で拡張され、特定の文字の組み合わせが許可されないことです。

ユーザーの処置: 行を調べ、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1024 I ERROR 24 process pgmname, LINE
lno: INVALID TRACE REQUEST**

説明: トレース命令に指定された設定、またはトレース組み込み関数への引数として指定された設定が、有効なトレース設定のいずれにも一致しない文字で始まっています。このエラーは、いずれかの種類の制御構成内においてトレース・スキャンを要求しようとした場合にも発生します。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1025 I ERROR 25 process pgmname, LINE
lno: INVALID SUB-KEYWORD
FOUND**

説明: 式の中で特定のサブキーワードが必要とされていた位置に、予期しないトークンが検出されました。

ユーザーの処置: 行を訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1026 I ERROR 26 process pgmname, LINE
lno: INVALID WHOLE NUMBER**

説明: 以下のいずれかが、整数に評価されなかったか、またはこれらの使用での実装制限を超えています。(1) 数値命令内の数字または FUZZ の式、(2) 解析の定位置パラメーター、(3) DO 節の反復句、(4) POWER("**") 演算子の右側。DO 節で負の反復回数が検出された場

合にもこのエラーが発生します。

ユーザーの処置: エラーを修正し、ジョブを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1027 I ERROR 27 process pgmname, LINE
lno: INVALID DO SYNTAX**

説明: DO 命令内で何らかの構文エラーが検出されました。TO、BY、または FOR サブキーワードが 2 回使用されているか、制御変数が指定されていない可能性があります。

ユーザーの処置: エラーを修正し、ジョブを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1028 I ERROR 28 process pgmname, LINE
lno: INVALID LEAVE OR ITERATE**

説明: LEAVE または ITERATE 命令が無効な位置で検出されました。アクティブなループがないか、または命令に指定された名前がアクティブ・ループの制御変数と一致していません。内部ルーチン呼び出しと INTERPRET 命令によって DO ループが保護されるため、それらのループが非アクティブになることに注意してください。このエラーの一般的な原因は、SIGNAL 命令を使用してループ内で、またはループ内に制御権を移動しようとしていることです。

ユーザーの処置: 行の問題を修正し、ジョブを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1029 I ERROR 29 process pgmname, LINE
lno: ENVIRONMENT NAME IS TOO LONG**

説明: ADDRESS 命令によって指定された環境名が、REXX が実行されているシステムで許可されている長さを超えています。許可されている最大長がこのメッセージに示されるはずですが。

ユーザーの処置: 問題を修正し、REXX プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログ

ラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1030 I ERROR 30 process pgmname, LINE
lno: NAME OR STRING TOO LONG**

説明: このエラーは、変数名、ラベル名、またはリテラル・ストリングの長さが実装制限を超えていることによって発生します。

ユーザーの処置: エラーを修正し、REXX プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1031 I ERROR 31 process pgmname, LINE
lno: NAME STARTS WITH NUMBER OR "."**

説明: 名前が数字またはピリオドで始まる変数に値を割り当てることはできません (それが許容されている場合は、数値定数が再定義された可能性があります)。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、REXX プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1033 I ERROR 33 process pgmname, LINE
lno: INVALID EXPRESSION RESULT**

説明: 命令内の式の結果が、それが使用された特定のコンテキストでは無効であることが判明しました。この原因として考えられるのは、数値命令内の FUZZ または数字の値が無効であることです (FUZZ は数字より大きくってはなりません)。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1034 I ERROR 34 process pgmname, LINE
lno: LOGICAL VALUE NOT 0 OR 1**

説明: IF、WHEN、DO WHILE、または DO UNTIL 句内の式の結果は、論理演算子によって演算される項と同様に、0 または 1 でなければなりません。

ユーザーの処置: バグを修正し、プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process

HLV1035 I • HLV1041 I

はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1035 I ERROR 35 process pgmname, LINE lno: INVALID EXPRESSION

説明: この原因は、式の文法上のエラー (例えば、末尾が演算子になっている、2 つの演算子を間に何も入れずに隣接させている、など) です。式が必要とされているのに欠落していることが原因の場合もあります。よくあるエラーとして、対象の文字式の中に引用符で囲まらずに特殊文字を含めていることがあります。

ユーザーの処置: 行を調べ、問題を修正してから再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1036 I ERROR 36 process pgmname, LINE lno: UNMATCHED "(" IN EXPRESSION

説明: この原因は、式の中で右括弧と左括弧が正しく対になっていないことです。右括弧よりも多くの左括弧があります。

ユーザーの処置: 行を調べ、問題を修正してから再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1037 I ERROR 37 process pgmname, LINE lno: UNEXPECTED "," OR ")"

説明: コンマが関数呼び出しの外側にあったか、式の中の右括弧の数が多すぎます。

ユーザーの処置: 行を調べ、問題を修正してから再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1038 I ERROR 38 process pgmname, LINE lno: INVALID TEMPLATE OR PATTERN

説明: 解析テンプレートの中に、使用が認められていない特殊文字があったか、変数パターンの構文が正しくありません。このエラーは、解析値命令の中で WITH サブキーワードが省略されている場合にも発生する可能性があります。

ユーザーの処置: プログラムを調べ、問題を修正してから再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1039 I ERROR 39 process pgmname, LINE lno: EVALUATION STACK OVERFLOW

説明: 式が複雑すぎて、言語プロセッサによって評価できません。ネストされた括弧や関数などが多すぎます。実際の制限はメッセージに示されるはずですが。

ユーザーの処置: プログラムを調べ、式を簡約化してから再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1040 I ERROR 40 process pgmname, LINE lno: INCORRECT CALL TO ROUTINE

説明: 指定された組み込みルーチンまたは外部ルーチンは存在しますが、正しく使用されていません。無効な引数がルーチンに渡されたか、呼び出されたプログラムが REXX 言語プロセッサに対応していないか、または実装制限の数より多くの引数がルーチンに渡されました。

ユーザーの処置: ルーチンを呼び出しているステートメントを調べ、訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1041 I ERROR 41 process pgmname, LINE lno: BAD ARITHMETIC CONVERSION

説明: 算術演算に含まれる項のいずれかが有効な数値でないか、その指数が実装制限を超えています。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、問題を修正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1042 I ERROR 42 process pgmname, LINE
lno: ARITHMETIC OVERFLOW/
UNDERFLOW**

説明: 算術演算の結果によって、実装でサポートされる範囲を外れた指数が求められています。これは、式の評価中 (一般に、数値を 0 で除算しようとするとき) や、場合によっては DO ループ制御変数のステップ実行中に発生する可能性があります。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1043 I ERROR 43 process pgmname, LINE
lno: ROUTINE NOT FOUND**

説明: 式の中で呼び出された関数が見つからないか、または呼び出しによって呼び出されたサブルーチンが見つかりません。指定された名前前のラベルがプログラム内に存在しません。その名前が組み込み関数の名前でないため、言語プロセッサがそれを外部で見つけることができませんでした。おそらく、その名前が誤って入力されたか、あるいはシンボルまたはリテラル・ストリングが空白や他の何らかの演算子で区切られるはずだったときに、そのストリングに「|」が隣接していました。INTERPRET ステートメント内で参照されている関数が、製品の組み込み関数ではなく、それ以前に参照されていない場合にも、このエラーが発生します。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1044 I ERROR 44 process pgmname, LINE
lno: FUNCTION DID NOT RETURN
DATA**

説明: 式の中で外部関数が呼び出されました。しかし、その関数はエラーなしで終了したように見えたが、式の中で使用するデータを返しませんでした。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1045 I ERROR 45 process pgmname, LINE
lno: NO DATA SPECIFIED IN
FUNCTION RETURN**

説明: プログラムが関数として呼び出されましたが、データを渡さずに (RETURN によって) 戻ろうとしています。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1046 I ERROR 46 process pgmname, LINE
lno: INVALID VARIABLE
REFERENCE**

説明: 変数を間接的に参照しようとする動作は無効です。この状況はおそらく EXPOSE 命令または INTERPRET 命令で発生します。例えば、EXPOSE (Y) (Y は数値) の場合です。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1048 I ERROR 48 process pgmname, LINE
lno: FAILURE IN SYSTEM SERVICE**

説明: REXX 言語プロセッサによって使用される何らかのシステム・サービス (例えば、ストリームの入力や出力) が正しく機能できなかったために、通常の実行を続けられません。

ユーザーの処置: プログラムを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1049 I ERROR 49 process pgmname, LINE
lno: INTERPRETATION ERROR**

説明: REXX 言語の実装環境では、通常、実行中に内部自己整合性検査を行います。このメッセージは、言語プロセッサまたは実行プロセス内である種の重大エラーが検出されたことを示します。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process

はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1064 I ERROR 64 process pgmname, LINE
lno: UNIMPLEMENTED FEATURE**

説明: プログラムが、このバージョンの REXX インタープリターによってサポートされない REXX 言語機能を使用しました。コード 64 は、REXX のみで使用される拡張エラー・コードです。

ユーザーの処置: この機能のサポートについては、資料を調べてください。この機能の使用がバイパスされるように、REXX プログラムを変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1066 I ERROR 66 process pgmname, LINE
lno: AMPERSAND VARIABLES
UNSUPPORTED**

説明: プログラムが、シンボルの接頭部としてアンパサンドを使用しました。これは REXX インタープリターでは許可されません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1067 I ERROR 67 process pgmname, LINE
lno: DUPLICATE LABEL**

説明: プログラムが同じラベル名を 2 回定義しました。

ユーザーの処置: 2 つのステートメントのいずれかでラベルを変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1068 I ERROR 68 process pgmname, LINE
lno: FUNCTION NAME > 32
CHARACTERS**

説明: プログラムが、関数名の最大長である 32 文字を超える名前を持つ関数を定義または参照しました。

ユーザーの処置: 関数名を短縮名に変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログ

ラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1069 I ERROR 69 process pgmname, LINE
lno: FUNCTION HAS TOO FEW
ARGUMENTS**

説明: プログラムが、関数呼び出しに指定されている数より多くの引数を必要とする関数を呼び出しました。

ユーザーの処置: 必要な引数を関数呼び出しに追加してください。指定された関数に関する資料を調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1070 I ERROR 70 process pgmname, LINE
lno: FUNCTION HAS TOO MANY
ARGUMENTS**

説明: REXX プログラムが呼び出した関数に必要な引数が、関数呼び出しに指定されている数を下回っています。

ユーザーの処置: 関数呼び出しの余分な引数を除去してください。指定された関数に関する資料を調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1071 I ERROR 71 process pgmname, LINE
lno: CODE VERSION IS DOWN
LEVEL**

説明: REXX プログラムが、プログラムの実行に使用されたバージョンより低いバージョンの REXX インタープリターを使用してコンパイルされました。

ユーザーの処置: このエラーが発生するのは、プリコンパイルされた保管済みバージョンのプログラムまたはルールの実行時のみです。この場合、プログラムまたはルールを再コンパイルしてから再実行する必要があります。これ以外の状況ではすべて、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1072 I ERROR 72 process pgmname, LINE
lno: FUNCTION RETURNED
UNASSIGNED STEM DATA**

説明: アセンブラーで書かれた REXX 関数が誤ったデータを返しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1073 I ERROR 73 process pgmname, LINE
lno: RECORD REFERENCE EXCEEDS
VARIABLE VALUE**

説明: このエラーは起こりません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1074 I ERROR 74 process pgmname, LINE
lno: MAX STATEMENT COUNT**

説明: このエラーは起こりません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1075 I ERROR 75 process pgmname, LINE
lno: ELSE NEEDS SEMICOLON**

説明: このエラーは起こりません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1076 I ERROR 76 process pgmname, LINE
lno: VARIABLE VALUE TOO LONG**

説明: REXX プログラムが変数に値を割り当てようとしていました。その文字列値が許容最大長を超えています。

ユーザーの処置: 文字列値を短くしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1077 I ERROR 77 process pgmname, LINE
lno: CODE AREA FULL**

説明: REXX プログラムをコンパイルできませんでした。ターゲット・コード域が、コンパイルされたプログラムの結果を保持できる十分な大きさではありません。

ユーザーの処置: REXX プログラムを複数のサブルーチンに分割して短くし、それらのサブルーチンを別個のメンバーとして保管してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1080 I ERROR 80 process pgmname, LINE
lno: PULL FOUND EMPTY QUEUE**

説明: このエラーは起こりません。旧リリースの製品の REXX との互換性を確保するために、代わりにヌル・ストリングが返されます。ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**HLV1081 I ERROR 80 process pgmname, LINE
lno: NOT SUPPORTED WITHIN
INTERPRET**

説明: REXX プログラムが、INTERPRET でサポートされない REXX 構造を含む INTERPRET 命令を実行しました。

ユーザーの処置: 解釈されたコードを変更してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1082 I ERROR 82 process pgmname, LINE
lno: ARRAY BOUNDARY EXCEEDED**

説明: REXX プログラムが配列の要素を保管しようとしていました。要素数とその配列で宣言された大きさを超えました。

HLV1083 I • HLV1090 I

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1083 I ERROR 83 process pgmname, LINE lno: CODE BLOCK TOO LARGE, EVAL STACK FULL

説明: これがコンパイル・フェーズ中に発生した場合、複雑すぎてコンパイラーが処理できない構造がプログラムで使用されています。これは、SELECT ステートメントに含まれる WHEN 節が多すぎる場合、またはネストされた制御構造が多すぎる場合に発生する可能性があります。

ユーザーの処置: 指摘されている構造の複雑さを低減して、コンパイルを再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1084 I ERROR 84 process pgmname, LINE lno: TOO MANY SYMBOLS, SYMBOL TABLE FULL

説明: これがコンパイル・フェーズ中に発生した場合は、プログラムが使用しているシンボルが多すぎてシンボル・テーブルがオーバーフローしています。

ユーザーの処置: プログラムによって使用されているシンボルの数を減らして、コンパイルを再試行してください。これで問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1085 I ERROR 85 process pgmname, LINE lno: INVALID USE OF EXTENDED VARIABLE TYPE

説明: REXX プログラムが、サポートされない方法で変数を使用しようとしました。これは、製品のグローバル変数が制御された反復ループの制御変数として使用されている場合 (例えば、DO GLOBALI = 1 TO 10) に発生する可能性があります。

ユーザーの処置: REXX プログラムがグローバル変数

をループの制御変数として使用しないよう、このプログラムを変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1086 I ERROR 86 process pgmname, LINE lno: INVALID GLOBAL SYMBOL

説明: 製品の REXX グローバル・シンボルが使用されましたが、その派生名が、製品の REXX グローバル変数シンボルの長さ制限である 50 文字を超えています。

ユーザーの処置: エラーになっているステートメントを調べ、どのシンボル置換が原因でグローバル変数の派生名が指定の長さを超えたかを判別してください。短い派生名を使用するようにプログラムを変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1087 I ERROR 87 process pgmname, LINE lno: INVALID INTERNAL OBJECT

説明: これは、製品の REXX に関する内部エラーです。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1088 I ERROR 88 process pgmname, LINE lno: INTERPRETER STACK ERROR

説明: これは、製品の REXX に関する内部エラーです。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1090 I var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9 var1 0var11

説明: メッセージ: SWS1090I REXX abend in OPRXCMRU+x'offset' 通常このメッセージには 1049I メッセージが付随します。1049I メッセージは示されたルール・タイプのエラー 49 に関連しています。

ユーザーの処置: 示されたルールを確認してください。

示されたエラー行に変数が渡された場合は、その変数が有効であることを確認してください。RULE などのフィールドを Trace Browse で表示します。示されたルールまたは REXX プログラムのテスト状況の場合は、エラー時に示された変数の値を出力するための SAY ステートメントを含めてください。エラーが変数に関連していない場合は、示された行を検証し、適切なアクションを実行してください。これがグローバル変数ルールのエラーであれば、BROWSEGLV などのパラメーターが使用されている可能性があります。他のブラウザ・パラメーターを確認し、必要に応じて使用してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 なし、var2 なし、var3 なし、var4 なし、var5 なし、var6 なし、var7 なし、var8 なし、var9 なし、var10 なし、var11 なし

**HLV1091 I ERROR 91 process pgmname, LINE
lno: INVALID OR MISPLACED
OPTIONS STATEMENT**

説明: OPTIONS ステートメントに無効なオプションが含まれています。不明な OPTIONS キーワードは無視され、エラーのフラグは立てられないことに注意してください。部分的に誤りのある OPTIONS キーワードのみにフラグが立てられます。

ユーザーの処置: OPTIONS ステートメントを訂正し、操作を再試行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号。

**HLV1092 I ERROR 92 process pgmname, LINE
lno: OVER num CLAUSES
EXECUTED IN RECOVERY EXIT**

説明: 製品制限超過条件の発生後に、REXX プログラムまたはルールが SIGNAL ON 構文または SIGNAL ON HALT リカバリー・ルーチンで許容されている節の最大数を超過しました。製品制限タイプのエラーからのリカバリー時に許容される節の最大数は、エラー・テキストに示されます。

ユーザーの処置: 制限超過リカバリー・ルーチンで実行されている節の数を減らしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号、num はリカバリーで許容される節の最大数。

**HLV1093E ERROR 93 process pgmname, LINE
lno: GLOBAL VARIABLE
WORKSPACE OVERFLOW (parmval -
wrkspe)**

説明: 共用/永続グローバル変数または一時グローバル変数の値を正常に保管できません。このメッセージは、グローバル変数またはグローバル一時変数の更新/追加が失敗した場合、数種類の状況下で発行される可能性があります。このメッセージが発行される原因となる条件を以下に示します。1) 現在割り振られ、使用中のグローバル変数 (一時ワークスペースでは GLOBALUSED または RXWSGVCN) の数が、GLOBALMAX (共用/永続変数) または GLOBALTEMPMAX (一時変数) パラメーターによって構成された最大カウント制限を超えています。必ず ISPF C.3 表示を使用してください。

RXWSGVCN を表示し、一時ワークスペース変数カウントを取得するには、「RXWS GLVEVENT. WORKSPACE」を選択して、ISPF C.3 パネル表示を使用する必要がありますので注意してください。2) 変数の値を更新または変更するための十分なフリー・スペースが、グローバル・ワークスペース内のどこにもありません。この値を保管するために複数のワークスペース・セグメント (RXGV) が必要であり、空きエレメント・チェーン (RXWSFCCN/GLOBALFREEAREAS) 上に十分な空き RXGV が見つからなかったか、ワークスペースの終わりにある未割り振りスペース (RXWSLN / GLOBALSIZE から RXWSNXFR / GLOBALNEXT を引いたサイズ) が不十分でした。値のストレージ域の割り振りには、連続した RXGV フリー・スペース・ブロックが必要です。パラメーター

GLOBALFREEAREAS、GLOBALSIZE、および GLOBALNEXT は共用/永続ワークスペースにのみ適用される点に注意してください。一時ワークスペースの場合は、ISPF C.3 の「RXWS GLVEVENT. WORKSPACE」ブロック表示を使用して RXWS フィールド値を調べる必要があります。一時ワークスペースの場合、製品パラメーターはこれらの値をマップしません。TEMPORARY グローバル・ワークスペースがオーバーフローした場合、メッセージ内に最後のワードとして (最後の括弧内) 「TEMP」が挿入されます。GLVEVENT. ステム変数および内部使用のグローバル・ステム変数は、一時グローバル・ワークスペース内で割り振られます。そうでない場合、メッセージにワード「TEMP」は表示されず、オーバーフローしたのは共用/永続グローバル・ワークスペースということになります。GLOBAL、および GLOBAL0 から GLOBAL9 までのステム変数は、共用/永続ワークスペース域内にあります。

ユーザーの処置: グローバル変数アプリケーション、製品パラメーター、または ISPF C.3 RXWS 表示を使用

して、グローバル変数データベースの内容を分析しなければならぬ可能性があります。ISPF E.1 パネルを使用して不要な永続 GLOBAL. ステム変数を除去してください。そうでない場合は、GLOBALMAX または GLOBALTEMPMAX 始動パラメーターの値を増やします。ワークスペースが小さすぎる場合は、より大きいグローバル変数チェックポイント DIV データ・セットを(再) 割り振りし、アクセス方式サービス・プログラム REPRO を使用して元の DIV を新しい DIV にコピーすることも必要になると考えられます。今後のスペース不足のハード障害を防ぐには、警告しきい値パーセンテージ (GLOBALWARNTHRESH または GLOBALTEMPWARNTH) および警告のインターバル (GLOBALWARNINTERVAL または GLOBALTEMPWARNIV) を設定して、しきい値が設定され、メッセージ 4290 によって定期的に報告されるようにします。このメッセージを自動化することで、ワークスペースの拡張が可能になる前にスペース不足のハード障害の限度数に達することがないように、十分な通知が送られるようにします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号、parmval は GLOBALMAX または GLOBALTEMPMAX パラメーター値、wrkspc はワークスペースのタイプを示す「TEMP」または「」(空欄)。

**HLV1094E ERROR 94 process pgmname, LINE
lno: OVER sss SECONDS USED FOR
EXECUTION**

説明: ルールまたは REXX プログラムが、SEFMAXSECONDS (ルール) または REXXMAXSECONDS (REXX プログラム) 製品パラメーターによって設定された壁時計時刻の制限を超えました。これらの制限は、REXX OPTIONS ステートメントで NOMAXSECONDS または MAXSECONDS=nnnn を使用してオーバーライドできます。

ユーザーの処置: この問題がループ・プログラムによって引き起こされたかどうか、または制限値が低すぎるかどうかを判別してください。すべてのルール/プログラムに影響する制限は、xxxPARM の制限 (SEFMAXSECONDS または REXXMAXSECONDS、あるいはこの両方) を変更することによって変更できます。個々のプログラムの制限は、製品のリファレンス・マニュアルで説明されているように REXX OPTIONS ステートメントを使用してオーバーライドできます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号、sss は秒数単位での時間制限。

**HLV1095E ERROR 95 process pgmname, LINE
lno: OVER num HOST COMMANDS
ISSUED**

説明: ルールまたは REXX プログラムが、SEFMAXCOMMANDS (ルール) または REXXMAXCOMMANDS (REXX プログラム) 製品パラメーターによって設定されたそのホスト・コマンドの制限を超えました。これらの制限は、REXX OPTIONS ステートメントで NOMAXCOMMANDS または MAXCOMMANDS=nnnn を使用してオーバーライドできます。

ユーザーの処置: この問題がループ・プログラムによって引き起こされたかどうか、または制限値が低すぎるかどうかを判別してください。すべてのルール/プログラムに影響する制限は、xxxPARM の制限 (SEFMAXCOMMANDS または REXXMAXCOMMANDS、あるいはこの両方) を変更することによって変更できます。個々のプログラムの制限は、製品のリファレンス・マニュアルで説明されているように REXX OPTIONS ステートメントを使用してオーバーライドできます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号、num はホスト・コマンドの許容最大数。

**HLV1096E ERROR 96 process pgmname, LINE
lno: OVER num "SAY" CLAUSES
EXECUTED**

説明: ルールまたは REXX プログラムが、SEFMAXSAYS (ルール) または REXXMAXSAYS (REXX プログラム) 製品パラメーターによって設定されたその SAY/TRACE の制限を超えました。これらの制限は、REXX OPTIONS ステートメントで NOMAXSAYS または MAXSAYS=nnnn を使用してオーバーライドできます。

ユーザーの処置: この問題がループ・プログラムによって引き起こされたかどうか、または制限値が低すぎるかどうかを判別してください。すべてのルール/プログラムに影響する制限は、xxxPARM の制限 (SEFMAXSAYS または REXXMAXSAYS、あるいはこの両方) を変更することによって変更できます。個々のプログラムの制限は、製品のリファレンス・マニュアルで説明されているように REXX OPTIONS ステートメントを使用してオーバーライドできます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号、num は SAY ステートメントの許容最大数。

**HLV1097E ERROR 97 process pgmname, LINE
lno: OVER num CLAUSES
EXECUTED**

説明: ルールまたは REXX プログラムが、SEFMAXCLAUSES (ルール) または REXXMAXCLAUSES (REXX プログラム) 製品パラメーターによって設定されたその節の制限を超えました。これらの制限は、REXX OPTIONS ステートメントで NOMAXCLAUSES または MAXCLAUSES=nnnn を使用してオーバーライドできます。

ユーザーの処置: この問題がループ・プログラムによって引き起こされたかどうか、または制限値が低すぎるかどうかを判別してください。すべてのルール/プログラムに影響する制限は、xxxPARM の制限 (SEFMAXCLAUSES または REXXMAXCLAUSES、あるいはこの両方) を変更することによって変更できません。個々のプログラムの制限は、製品のリファレンス・マニュアルで説明されているように REXX OPTIONS ステートメントを使用してオーバーライドできます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process はコンパイルまたは実行、pgmname は REXX プログラム名、lno は REXX プログラムの行番号、num は節の許容最大数。

HLV1098 I lno' TRACE MESSAG

説明: 単なる通知メッセージです。このメッセージは、REXX TRACE コマンドからの出力を示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lno は REXX プログラムの行番号。

HLV1099 I stmt

説明: このメッセージは、REXX コンパイラーがコンパイル中にエラーを検出すると発行されます。メッセージの 1 行目にはエラーになったステートメントがリストされ、2 行目は 1 行目のどこでエラーが検出されたかを示します。

ユーザーの処置: REXX ステートメントを調べて、エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stmt は REXX プログラムのステートメント/ポインター。

**HLV1100S RETRY LIMIT CONVERSION ERROR
- VALUE SPECIFIED = value**

説明: 指定された再試行制限の文字表現をそれに対応する整数表現に変換しようとして、エラーが検出されました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに含まれている再試行制限の指定を調べてください。指定された再試行制限に無効値が含まれる場合は、エラーを訂正し、DSN コマンドを再呼び出ししてください。指定された再試行制限の訂正の試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value は文字での再試行制限の値。

**HLV1101S TEST LEVEL CONVERSION ERROR -
VALUE SPECIFIED = value**

説明: 指定されたテスト・レベルの文字表現をそれに対応する整数表現に変換しようとして、エラーが検出されました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに含まれているテスト・レベルの指定を調べてください。指定されたテスト・レベルに無効値が含まれる場合は、エラーを訂正し、DSN コマンドを再呼び出ししてください。指定されたテスト・レベルの訂正の試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value は文字でのテスト・レベルの値。

**HLV1102S subsys NOT VALID SUBSYSTEM ID,
COMMAND TERMINATED**

説明: エラー・メッセージに含まれるサブシステム名に対応するサブシステム制御テーブルを、SSCT チェーン・スキャン・ロジックによって見つけられませんでした。

ユーザーの処置: サブシステム名が SYSTEM() コマンド引数に指定されていた場合は、その名前を調べ、必要であれば SYSTEM() の指定を修正してください。SYSTEM() コマンド行引数が指定されなかった場合、製品指定のデフォルト値はご使用のインストール済み環境に適さない可能性があります。この値は、DSNHDECP DB2 パラメーター・モジュールのローカル・コピー (見つかった場合) から取得されたものです。DSNHDECP パラメーター・モジュールのローカル・コピーに無効値が含まれる場合は、REP 制御カードを更新した後に、HLV CNTL データ・セット・メンバー ZAPDECP に含まれる JCL ジョブ・ストリームを実行してください。DSNHDECP パラメーター・モジュールのローカ

HLV1104S • HLV1113S

ル・コピーが見つからなかった場合、製品は標準の IBM デフォルト・サブシステムである DSN を使用しようとしています。製品に正しいサブシステム名の値を入力する際に追加支援が必要な場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `subsys` は抽出されたサブシステム名の値。

HLV1104S Subsystem `subsys` is not a valid DB2 subsystem

説明: 抽出されたサブシステム名で見つかった `SSCT` が、有効な製品 `SSCT` でも有効な DB2 `SSCT` でもありません。

ユーザーの処置: サブシステム名が `SYSTEM()` コマンド引数に指定されていた場合は、その名前を調べ、必要であれば `SYSTEM()` の指定を修正してください。

`SYSTEM()` コマンド行引数が指定されなかった場合、製品指定のデフォルト値はご使用のインストール済み環境に適さない可能性があります。この値は、`DSNHDECP DB2` パラメーター・モジュールのローカル・コピー (見つかった場合) から取得されたものです。 `DSNHDECP` パラメーター・モジュールのローカル・コピーに無効値が含まれる場合は、`REP` 制御カードを更新した後に、`S_ CNTL` データ・セット・メンバー `ZAPDECP` に含まれる `JCL` ジョブ・ストリームを実行してください。 `DSNHDECP` パラメーター・モジュールのローカル・コピーが見つからなかった場合、製品は標準の IBM デフォルト・サブシステムである `DSN` を使用しようとしません。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `subsys` はサブシステム名。

HLV1105S LOAD FOR DSNECP00 FAILURE

説明: `DSNECP00` の名前変更バージョンをロードしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 製品のインストール・プロセスが正常に完了したことを確認してください。 `DSNECP00` の名前変更バージョンを含むロード・ライブラリーが製品によってアクセス可能であることを確認します。問題状況を訂正する試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

HLV1106S `subsys` NOT OPERATIONAL, RETRY COUNT ZERO

説明: 製品の `SSCT` で、製品が現在アクティブでないことが示されました。

ユーザーの処置: 製品が開始されてから、異常終了した

可能性があるかどうかを判別してください。異常終了した場合は、`SYSLOG` にある付随メッセージを調べてください。製品が異常終了しなかった場合は、適切な開始コマンドを発行します。必要であれば、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `subsys` はサブシステム名。

HLV1110S CONNECTION FAILURE RC = `rc` REASON = `rscd`

説明: リモート DB2 サブシステムに接続しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに含まれる戻りコードと理由コードの値を確認してください。その戻りコードと理由コードを IBM SQL アプリケーション・プログラミングの資料にリストされたものと比較して、適切なアクションを実行してください。問題を修正する試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `rc` は呼び出し接続の戻りコード、`rscd` は呼び出し接続の理由コード。

HLV1112S DISCONNECT FAILURE RC = `rc` REASON = `rscd`

説明: リモート DB2 サブシステムから切断しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに含まれる戻りコードと理由コードの値を確認してください。その戻りコードと理由コードを IBM SQL アプリケーション・プログラミングの資料にリストされたものと比較して、適切なアクションを実行してください。問題を修正する試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `rc` は呼び出し接続の戻りコード、`rscd` は呼び出し接続の理由コード。

HLV1113S COMMAND REJECTED - `cmd` CMD NOT SUPPORTED UNDER DSN

説明: 指定されたサブコマンドは、`DSN` コマンドのもとではサポートされません。

ユーザーの処置: 入力されたコマンド・ストリングを確認してください。必要に応じて、コマンド・ストリングを修正してください。修正したコマンド・ストリングを再入力します。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd は指定されたサブコマンド。

HLV1114R text

説明: モジュール OPDSN10 が、有効なサブコマンドの入力用プロンプトとして現在のメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: 適切なサブコマンド名で応答するか、処理が完了している場合は END サブコマンドを入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text はサブコマンド・プロンプトのテキスト・ストリング。

HLV1115S ERROR ISSUING SUBCOMMAND PROMPT - RC = rc

説明: サブコマンド・プロンプトを出しているとき、または有効なサブコマンドの入力を待っているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード。

HLV1117S COMMAND BUFFER SCAN ERROR - RC = rc

説明: IKJSCAN のサービスを使用してコマンド・バッファをスキャンしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 入力されたコマンド・ストリングを確認してください。必要に応じて、コマンド・ストリングを修正してください。修正したコマンド・ストリングを再入力します。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード。

HLV1118S RUN SUBCOMMANDS CAN NOT HAVE A PROGRAM PARAMETER AND A CP PARAMETER

説明: RUN サブコマンドの PROGRAM パラメーターと CP パラメーターは同時には指定できません。

ユーザーの処置: 入力されたサブコマンド・ストリングを修正してください。実行するプログラムが TSO コマンド・プロセッサでない場合は、PROGRAM() パラメーターのみを指定します。実行するプログラムが TSO コマンド・プロセッサである場合は、CP パラメーターのみを指定します。

HLV1119S RUN SUBCOMMAND REQUIRES (1)PROGRAM PARAMETER OR (2)PLAN AND CP PARAMETER

説明: RUN サブコマンドには、PROGRAM パラメーターを指定するか、または PLAN パラメーターと CP パラメーターを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 入力されたサブコマンド・ストリングを修正してください。実行するプログラムが TSO コマンド・プロセッサでない場合は、PROGRAM() パラメーターのみを指定します。実行するプログラムが TSO コマンド・プロセッサである場合は、PLAN パラメーターと CP パラメーターを指定します。

HLV1120S DSNRLI func FUNCTION FAILED. RC = rc REASON = rscd

説明: RRSF 機能が失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに含まれる戻りコードと理由コードの値を確認してください。その戻りコードと理由コードを IBM SQL アプリケーション・プログラミングの資料にリストされたものと比較して、適切なアクションを実行してください。問題を修正する試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は RRSF 機能、rc は RRSF の戻りコード、rscd は RRSF の理由コード。

HLV1121 I PLEASE WAIT...CONNECTION RETRY IN PROGRESS

説明: リモート DB2 サブシステムが現在アクティブでなく、1 を超える RETRY() 値が指定されました。接続要求は再試行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLV1122 I COMMAND SPUFI IGNORED, VALID ISPF ENVIRONMENT MUST EXIST

説明: SPUFI サブコマンドを使用するには有効な ISPF 環境が存在する必要があります。

ユーザーの処置: ISPF 内から DSN コマンドを再呼び出ししてください。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

HLV1123S COMMAND REJECTED, CMD NOT SUPPORTED UNDER DSN

説明: 指定されたサブコマンドは、DSN コマンドのものとはサポートされません。

ユーザーの処置: 入力されたコマンド・ストリングを確認してください。必要に応じて、コマンド・ストリングを修正してください。修正したコマンド・ストリングを再入力します。入力されたコマンド・ストリングのエラーを訂正したにもかかわらずエラー状態が解消されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV1126S PLAN OPEN FAILURE RC = rc REASON = rscd

説明: アプリケーション・プランをオープンしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに含まれる戻りコードと理由コードの値を確認してください。その戻りコードと理由コードを IBM SQL アプリケーション・プログラミングの資料にリストされたものと比較して、適切なアクションを実行してください。問題を修正する試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は呼び出し接続の戻りコード、rscd は呼び出し接続の理由コード。

HLV1127S PLAN CLOSE FAILURE RC = rc REASON = rscd

説明: アプリケーション・プランをクローズしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに含まれる戻りコードと理由コードの値を確認してください。その戻りコードと理由コードを IBM SQL アプリケーション・プログラミングの資料にリストされたものと比較して、適切なアクションを実行してください。問題を修正する試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は呼び出し接続の戻りコード、rscd は呼び出し接続の理由コード。

HLV1129R ENTER TSO COMMAND

説明: モジュール OPDSN10 が、有効な TSO コマンドのプロンプトとして現在のメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: 有効な TSO コマンド名で応答してください。

HLV1130S ERROR ISSUING TSO COMMAND PROMPT - RC = rc

説明: TSO コマンド・プロンプトを出しているとき、または有効な TSO コマンド入力を待っているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード。

HLV1131S cmd NOT VALID COMMAND

説明: 入力された TSO コマンドが有効なコマンドではありません。

ユーザーの処置: 指定された値を訂正し、RUN サブコマンドを再入力してください。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd は入力されたコマンド。

HLV1132S cmd ENDED DUE TO ERROR

説明: ユーザー・タスクで異常終了が検出されたために、DSN コマンドが終了しました。

ユーザーの処置: 指定されたプログラムまたは TSO コマンドのエラー状態を修正し、DSN コマンドを再入力してください。エラー状態が解消しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd は DSN コマンドを呼び出すために入力されたコマンド。

HLV1133S MODULE pgm NOT FOUND

説明: RUN サブコマンドの PROGRAM() パラメータに指定されたモジュール名が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定された値を訂正し、RUN サブコマンドを再入力してください。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm はプログラム名。

HLV1134S UNABLE TO ESTABLISH THE STAX EXIT

説明: OPDSN01 - STAX マネージャーが STAX 出口を確立できませんでした。

ユーザーの処置: DSN コマンドの呼び出しを再試行してください。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

HLV1135S UNABLE TO TERMINATE THE STAX EXIT

説明: OPDSN01 - STAX マネージャーが STAX 出口を終了できませんでした。

ユーザーの処置: DSN コマンドの呼び出しを再試行してください。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

HLV1136S STAX EXIT INTERNAL LOGIC ERROR

説明: OPDSN01 - STAX マネージャーは、STAX 出口環境が存在していないにもかかわらず、その除去が試みられたか、STAX 出口環境が既に存在しているにもかかわらず、その確立が試みられたと判断しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

**HLV1137S ERROR EXECUTING TSO
COMMAND RC = rc REASON = rscd**

説明: OPDSN10 は入力されたコマンドが TSO コマンドであることを検出しましたが、その TSO コマンドを呼び出そうとしているときにエラーが検出されました。上記のメッセージは、製品の TSOEXEC サービス・ルーチンから受け取った戻りコードと理由コードの値を示しています。

ユーザーの処置: 入力された TSO コマンドを調べて、エラーが検出された場合はコマンド・ストリングを訂正してください。コマンド・ストリングのエラーを訂正したにもかかわらずエラー状態が解消されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード、rscd は理由コード。

HLV1138 I SET_CLIENT_ID CALL FAILED - DB2 NOT AT PROPER MAINTENANCE LEVEL OR RELEASE. SUBSYSTEM: DB2

説明: クライアントが SET_CLIENT_ID コマンドを DB2 に発行することを要求しました。通常これは、SQLESETI クライアント機能によって実行されます。しかし、DB2 がその要求をリジェクトしました。この原因として考えられるのは、APAR PQ67691 (または同等のもの) が適用されたことです。

ユーザーの処置: これは重大な問題ではありません。単に、クライアントから提供された追加情報が DB2 DISPLAY THREAD の表示に含まれなくなります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: DB2 サブシステム名。

**HLV1154S COMMAND BUFFER INTERNAL
FORMAT ERROR**

説明: DSN コマンド・プロセッサがコマンド・バッファの内容を分析しようとしているときに、コマンド・バッファの長さが正しくない、オペランドが無効である、または形式が正しくないと判断されました。

ユーザーの処置: 入力されたコマンド・ストリングを確認してください。必要に応じて、コマンド・ストリングを修正してください。修正したコマンド・ストリングを再入力します。入力されたコマンド・ストリングのエラーを訂正したにもかかわらずエラー状態が解消されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

**HLV1163S COMMAND BUFFER PARSE ERROR
- RC = rc**

説明: IBM TSO 解析ルーチン IKJPARS が、DSN コマンド・ストリングの解析を試みた後に、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: SYSLOG 内の付随する TSO エラー・メッセージを調べてください。入力されたコマンド・ストリングを確認してください。必要に応じて、コマンド・ストリングを修正してください。TSO メッセージの資料にある推奨アクションを実行します。修正したコマンド・ストリングの入力の試みがすべて失敗した場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード値。

HLV1250 I var1 var2

説明: xxxPARM コマンドで要求されたパラメーター値を表示するために使用されるメッセージ ID。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV1251T • HLV1258E

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 なし、var2 なし

HLV1251T THE VALUE OF THE var1 PARAMETER WAS ROUNDED UP TO var1 BYTES

説明: パラメーターが 1K (1024) バイト境界に丸められました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はパラメーター名、var1 は新規パラメーター値。

HLV1252T THE VALUE SPECIFIED FOR THE var1 PARAMETER WAS CHANGED FROM var1 TO var1

説明: パラメーターの値が変更されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はパラメーター名、var1 は古いパラメーター値、var1 は新規パラメーター値。

HLV1253T THE VALUE OF ROLLBACKPOSITIVERC WAS CHANGED TO 'NO' BECAUSE IGNOREPOSITIVESC WAS SET TO 'YES'

説明: IGNOREPOSITIVESC パラメーターが YES に設定されていたため、ROLLBACKPOSITIVERC パラメーターの値が「NO」に変更されました。正の SQL コードのロールバックは、それらが無視されている場合は実行できません。

ユーザーの処置: なし。これは通知メッセージです。正の SQL コードのロールバックが必要な場合は、IGNOREPOSITIVESC を「NO」に設定してから、ROLLBACKPOSITIVERC を「YES」に設定します。

HLV1254T THE VALUE OF ROLLBACKPOSITIVERC CANNOT BE CHANGED TO 'YES' BECAUSE IGNOREPOSTIVESC IS 'YES'

説明: IGNOREPOSITIVESC パラメーターが YES に設定されているため、ROLLBACKPOSITIVERC パラメーターの値を「YES」に設定できません。正の SQL コードのロールバックは、それらが無視されている場合は実行できません。

ユーザーの処置: なし。これは通知メッセージです。正の SQL コードのロールバックが必要な場合は、IGNOREPOSITIVESC を「NO」に設定してから、ROLLBACKPOSITIVERC を「YES」に設定します。

HLV1255E parm - cannot be changed after initialization

説明: 多くの製品パラメーターは随時変更できますが、一部は初期化時に 1 回しか設定できません。変更しようとしたパラメーターは、製品の初期化時に設定しなければならないものです。

ユーザーの処置: 初期化 REXX EXEC xxxxIN00 を更新してください。これらの変更は、次回製品を始動したときに有効になります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター名。

HLV1256E parm - cannot be changed

説明: 多くの S__ パラメーターはいつでも変更できますが、中には初期化時にしかリセットできないものがあります。また、表示の目的にしか使用されず、リセットが一切できないものもあります。入力したパラメーターは変更できないものです。

ユーザーの処置: 初期化 REXX EXEC xxxxIN00 を更新してください。これらの変更は、次回製品を始動したときに有効になります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター名。

HLV1257E parm - cannot be displayed

説明: 選択したパラメーターを表示できません。

ユーザーの処置: 資料を確認して、要求したパラメーターが正しいスペルになっているかどうかを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター名。

HLV1258E desc - errmsg suffix

説明: ADDRESS HLV 処理ルーチンが、MODIFY PARM コマンドで渡されたパラメーター・テキスト・ストリング内でエラーを検出しました。そのパラメーター・テキスト・ストリングは無効です。MODIFY PARM コマンドの処理は打ち切られます。

ユーザーの処置: VALUE キーワード値を検証し、そのエラーを訂正し、コマンドを再開してください。MODIFY PARM コマンドについて詳しくは、製品のユ

ユーザー・ガイドを参照してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc はパラメーター・フィールドの説明、errmsg はエラー・メッセージ・ストリング、suffix はエラー・メッセージの接尾部ストリング。

HLV1259E PARAMETER parm POINTS TO UNINITIALIZED ENUMERATED VALUE IN cb AT addr

説明: パラメーターの表示操作時に、製品パラメーター・テーブル・エントリーが、製品制御ブロック内の未初期化フィールドを指していました。このフィールドは、このパラメーターに対して列挙された有効な値のいずれかを使用して初期化する必要があります。

ユーザーの処置: 製品パラメーターの値が「*INTERNAL-ERROR*」と表示され、処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター・フィールド名、cb はターゲット制御ブロック名、addr はパラメーター・データ・フィールドのアドレス。

HLV1262 I text1 text2

説明: この xxxPARM コマンドによってリストされているパラメーター・グループが見つかりませんでした。コマンドは終了されます。

ユーザーの処置: 実行されている xxxPARM コマンドを調べ、グループ・オペランドおよびそれに対してリストされているグループがあるかどうかを確認してください。xxxPARM コマンドとそのグループ・オペランドの使用について詳しくは、製品のサーバー開始タスク・パラメーター・ガイドを参照してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text1 はグループ説明ストリング、text2 はグループ名ストリング。

HLV1263E prefixparmvalsuffix

説明: このメッセージは表示されてはならないものです。これは、製品パラメーターを印刷可能文字ストリングに変換するために OPPAFU によって使用されます。

ユーザーの処置: このメッセージが表示されたら、内部エラーが発生しています。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: prefix は接頭部ストリング、parmvval はパラメーター値、suffix は接尾部ストリング。

HLV1264W No parameter value information is available

説明: 使用しようとしている xxxPARM パラメーターは使用できません。SHLVPARM コマンドは終了されます。

ユーザーの処置: SHLVPARM を使用して設定しようとしているパラメーターは、製品のこのリリースではサポートされていないか無効です。製品資料でこのパラメーターを確認してください。

HLV1265W WARNING: parm PARAMETER (value) CONTAINS TOO FEW QUALIFIERS TO ENSURE PROPER HTTP COOKIE OPERATION

説明: ホスト・ドメイン・ネーム・パラメーターに含まれる修飾子 (ピリオドで区切った名前セグメント) は、Web ブラウザーが HTTP Cookie を正しく保管および送信できるようにするには数が少なすぎます。HTTP Cookie を正しく保管し、その後に再送できるようにするには、通常、少なくとも 3 つのレベル (名前が .com、.edu、.net、.org、.gov、.mil、または .int で終わる場合は 2 つのレベル) の修飾子が必要です。

ユーザーの処置: このパラメーターは受け入れられますが、常に小文字ストリングに変換されます。サーバーの組み込みブラウザー・ベースの管理ユーティリティーは、正しく動作するために HTTP Cookie が必要です。現在設定されているホスト・ドメイン・ネーム・ストリングを使用する場合、これらの管理ユーティリティーが正しく機能しない可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm は HOSTDOMAIN パラメーターの名前、value はホスト・ドメインに対して設定される小文字の値。

HLV1266W WARNING: parm PARAMETER (value) MAY CAUSE INCONSISTENT OPERATION USING HTTP COOKIES

説明: ホスト・ドメイン・ネーム・パラメーターにドット表記形式の IP アドレスが含まれています。ドット表記ホスト・ドメイン・ネーム値を使用すると、HTTP Cookie の不適切な保管や誤った再送信を引き起こすブラウザー異常が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: パラメーターは受け入れられます。サーバーの組み込みブラウザー・ベースの管理ユーティリティーは、正しく動作するために HTTP Cookie が必要です。現在設定されているホスト・ドメイン・ネーム・ストリングを使用する場合、これらの管理ユーティリティーが正しく機能しない可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm

HLV1275S • HLV1293E

は HOSTDOMAIN パラメーターの名前、value はホスト・ドメイン・ネームの値セット。

HLV1275S ABEND abcd IN AUTHORIZATION ROUTINE mod+off

説明: 許可検査ルーチンで異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV1277S cb Control block not found

説明: MODIFY PARM 機能ルーチンに無効な製品制御ブロック名が渡されました。

ユーザーの処置: まず MODIFY PARM コマンドを確認し、エラーを訂正して再実行してください。問題が解決しない場合は、すべての製品モジュールが同じリリース・レベルであることを確認してください。また、前回の製品インストールが正常に行われたことも確認してください。上記をすべて確認しても問題が解決しない場合は、関連するすべての問題データ (エラー・データ、SVFX レベル、インストール情報) を収集し、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cb は制御ブロック。

HLV1281E service desc FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: これは、さまざまなエラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は操作 (GETMAIN、FREEMAIN、SYSEVENT など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV1290H jb parm parmval

説明: このメッセージは、ADDRESS HLV MODIFY コマンドによる製品パラメーターへの変更をログに記録します。メッセージには製品パラメーターの名前とその新しい値が記載されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセージは、通知およびトラッキングの目的でのみログに書き込まれます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター・フィールドの名前、parmval はパラメーター・フィールドの値。

HLV1291W Warning: parm is an obsolete parameter

説明: このメッセージは、廃止されたパラメーターの値が変更されると発行されます。

ユーザーの処置: このパラメーターについては、製品のサーバー資料を参照してください。廃止されたパラメーターを変更しても、希望する結果が得られない可能性があります。多くの場合、廃止されたパラメーターはサーバーに対して作用せず、無視されます。通常、廃止されたパラメーターは次のリリースで製品から除去されます。製品の初期化 EXEC (xxxxIN00) を確認し、この廃止されたパラメーターをそこから除去する必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はパラメーター・フィールドの名前。

HLV1292E Exit code exc is invalid for parm

説明: 製品パラメーター・テーブル・エントリーを定義する内部の製品制御ブロックで、無効な出口コードが定義されました。

ユーザーの処置: これは内部エラーです。この問題をソフトウェア・サポートに報告してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: exc は oppy エントリーに指定された出口コード、parm はパラメーター・フィールドの名前。

HLV1293E errdesc

説明: 製品パラメーターを設定しようとして失敗しました。このエラー・メッセージに失敗の理由が記載されています。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージを検討し、問題の訂正を試みてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc はエラーの説明。

HLV1294E desc OF process FOR PARAMETER CHANGE EVENT NOTIFICATION FAILED WITH RC=rc

説明: 製品パラメーターの更新が試みられましたが、システムが変更の非同期プロセスを正しく通知できませんでした。パラメーターに対する更新は完了した可能性もそうでない可能性もありますが、いずれの場合も非同期プロセスは現在不明な状態です。

ユーザーの処置: エラー・メッセージおよびこの問題に関連する他のメッセージを確認して、ソフトウェア・サポートに通知してください。通常、シャットダウン中のタイミング・エラーは、連続して発生しなければ深刻な状態を表すものではありません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc はサービスの説明、process は非同期プロセス、rc は戻りコードまたは条件コード。

HLV1295W PARM parm AND ANY DEFINE ISPFCONCAT ARE MUTUALLY EXCLUSIVE. parm WILL BE IGNORED.

説明: xxxxIN00 EXEC に、少なくとも 1 つの DEFINE ISPFCONCAT ステートメントと、それと同時に指定できない ISPF PARM ステートメントが指定されました。1 つ以上の DEFINE ISPFCONCAT ステートメントが指定されている場合、ISPF PARM ステートメントはすべて無視されます。無視される ISPF パラメーターは、EXECDSNAME、COMPEXECDSNAME、ISPLLIBDSNAME、ISPMLIBDSNAME、ISPSLIBDSNAME、および ISPTLIBDSNAME です。

ユーザーの処置: xxxxIN00 EXEC を変更して、すべての必須ライブラリーに DEFINE ISPFCONCAT ステートメントを指定するようにし、廃止されている PARM NAME(ISP%LIBDSNAME) パラメーターを除去してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm と parm はいずれもパラメーター名。

HLV1296T Security optimization processing terminated

説明: TERMINATESECOPT パラメーターが「YES」に設定されたため、すべてのセキュリティ最適化処理が停止しました。製品は通常どおり動作を続けます。

ユーザーの処置: セキュリティ最適化をアクティブにして実行するには、製品を停止し、再始動する必要があります。

HLV1297T Logging processing terminated

説明: TERMINATELOGGING パラメーターが「YES」に設定されたため、すべてのロギング機能が停止しました。製品は通常どおり動作を続けます。

ユーザーの処置: ロギングをアクティブにして実行するには、製品を停止し、再始動する必要があります。

HLV1298T Interval recording %1

説明: インターバルの記録が使用可能または使用不可に設定されました。製品は通常どおり動作を続けます。

ユーザーの処置: TERMINATEINTERVAL パラメーターが「NO」に設定された場合は、インターバルの記録を再度使用可能に設定できます。

HLV1299T Interval recording terminated

説明: TERMINATEINTERVAL パラメーターが「YES」に設定されたため、すべてのインターバルの記録が停止しました。製品は通常どおり動作を続けます。

ユーザーの処置: インターバルの記録をアクティブにして実行するには、製品を停止し、再始動する必要があります。

HLV1340 I text

説明: このメッセージは単に、発行された WTOR に対する応答のエコーです。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text はエコー情報のテキスト・ストリング。

HLV1346E MESSAGE ID AND TEXT ARE TOO LONG

説明: WTO または WTOR のパラメーター・リストを作成しているときに、製品は、メッセージ ID とメッセージ・テキストの長さの合計がシステム制限を超えていることを検出しました。WTO の制限は 125 文字、WTOR の制限は 122 文字です。

ユーザーの処置: これは、製品内の内部ロジック・エラーを示している可能性があります。ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

HLV1348E NO WTOR REPLY RECEIVED - TIMER EXPIRED

説明: WTO/WTOR に対する応答を受け取る前にタイムアウトが発生しました。

ユーザーの処置: これは、製品内の内部ロジック・エラー

ーを示している可能性があります。ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

HLV1349 I THE MESSAGE IDENTIFICATION NUMBER IS wtoid

説明: このメッセージは単に、メッセージを識別するために WTO/WTOR によって返されるメッセージ識別番号のエコーです。

ユーザーの処置: なし。強調表示されたメッセージの DOM を行うには、WTOID を使用できます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: wtoid は WTO の識別番号。

HLV1364S ss RETURN CODE = rc

説明: 製品のシステム管理ルーチン内、またはシステム・サービスの直接呼び出しで、何らかのタイプのエラーが発生しました。説明については、メッセージの実際のテキストを参照してください。このエラーは、オペレーティング・システム・サービス内の障害が原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ss はシステム・サービス (例えば、STIMERM、STAX など)、rc は戻りコード。

HLV1370H jb code1 code2 mcsfgcno time mgid text

説明: このメッセージは、内部で生成された WTO を記録するために使用されます。これはハードコピー・ログに書き込まれ、発行されたメッセージの発行元を識別します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: code1 は経路コード、code2 は記述子コード、mcsfg は MCS フラグ、cno はコンソール番号、time は REPLY キーワードがコーディングされた場合の待機時間、mgid はメッセージ ID (MSGID キーワードがコーディングされない場合は、デフォルトで xxx1371I に設定)、text はメッセージ・テキスト。

HLV1400S TSO/E is not installed

説明: ISPF/HLV の使用をサポートするには TSO/E (IBM のプログラム製品番号 5665-293) が必要です。

ユーザーの処置: ご使用のインストール済み環境でこの製品が使用可能であることを確認してください。

HLV1401S service CMD(mod) FAILED, RC=rc

説明: HLV が ISPSTART を実行するために TSO を呼び出して、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。ISPF の開始の試みは中止されます。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストを調べて、要求が正常に完了しなかった理由を確認してください。ISPF/HLV 環境を確認して、訂正アクションを行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はサービス名ストリング、mod はモジュール名ストリング、rc は戻りコード値。

HLV1402S Dialog Manager service 'service' error, RC=rc

説明: 製品の内部ルーチンが ISPSTART を実行するために TSO を呼び出し、ダイアログ・マネージャー・サービスのエラーを受け取りました。

ユーザーの処置: ISPF エラーを調べ、どのサービスが呼び出されたかを示すサービス名ストリングを確認し、訂正アクションを行ってください。追加支援が必要な場合は、ローカル S_ システムのプログラミング・サポート・グループに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はサービス名ストリング、rc は戻りコード。

HLV1404S ABEND OCCURRED PROCESSING SUBROUTINE sroutine IN MODULE module

説明: 製品の ISPF アプリケーションが、サブルーチンのプロログ内の定数から情報を抽出しているときに異常終了しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sroutine はベクトル・テーブル内のサブルーチンの名前、module はサブルーチン・ベクトル・テーブルのモジュール名。

**HLV1405T ABEND OCCURRED PROCESSING
SUBROUTINE *sroutine* IN MODULE
module**

説明: 製品の ISPF アプリケーションが、サブルーチンのプロログ内の定数から情報を抽出しているときに異常終了しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
sroutine はベクトル・テーブル内のサブルーチンの名前、*module* はサブルーチン・ベクトル・テーブルのモジュール名。

**HLV1406S THE ENTRY FOR SUBROUTINE
sroutine IN MODULE module
POINTS TO SUBROUTINE *sroutine***

説明: ISPF アプリケーションがサブルーチン・ベクトル・テーブル内でエラーを検出しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
sroutine はベクトル・テーブル内のサブルーチンの名前、*module* はサブルーチン・ベクトル・テーブルのモジュール名、*sroutine* はベクトル・テーブルによって指示されているサブルーチン。

**HLV1407T THE ENTRY FOR SUBROUTINE
sroutine IN MODULE module
POINTS TO SUBROUTINE *sroutine***

説明: ISPF アプリケーションがサブルーチン・ベクトル・テーブル内でエラーを検出しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
sroutine はベクトル・テーブル内のサブルーチンの名前、*module* はサブルーチン・ベクトル・テーブルのモジュール名、*sroutine* はベクトル・テーブルによって指示されているサブルーチン。

**HLV1420S service OF DIRECTED LOAD
LIBRARY (*ddn*) FAILED RC=*rc***

説明: S__ ISPF アプリケーションが、OPMS(ISPLLIBDSNAME) 内のパラメーター設定に基づいて、宛先指定ロードを行おうとしました。

ユーザーの処置: 上記のパラメーターに指定されたデータ・セット名を確認してください。名前を訂正したら、

サーバーのアドレス・スペースを再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: *service* は割り振りまたは割り振り解除、*ddn* は失敗した宛先指定ロード・ライブラリーの DD 名、*rc* は失敗した割り振りの戻りコード。

HLV1421E text1 COMMAND text2

説明: 次のメッセージは、実際には製品内のどのコードでも使用されていません。そのメッセージは戻りコードを予約するために使用されます。アクションは不要です。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: *text1* と *text2* はいずれも情報テキスト・ストリング。

HLV1423E errmsg

説明: 製品のセキュリティで、Trace Browse への現行ユーザーのアクセスが拒否されました。

ユーザーの処置: これが希望しない状態であれば、製品のシステム・サポート・グループに連絡して必要なアクセス権限を付与してもらってください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: *errmsg* はエラー・テキスト・ストリング。

**HLV1424E CURRENT cmd COMMAND NOT
AUTHORIZED - errmsg**

説明: 許可検査に失敗しました。HLV/SWS の使用はインストール・セキュリティ製品によって制限されています。

ユーザーの処置: ご使用のインストール済み環境で製品のインストールと保守を行う担当者に連絡して、アクセス権限を取得してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: *cmd* はコマンド名、*errmsg* はエラー・メッセージ・ストリング。

**HLV1440W ISPF LOADLIB at level level, but
Server LOADLIB at level level.
Processing continues.**

説明: ISPF に割り振られたロード・ライブラリーのバージョンが、サーバーのものとは異なるリリースです。

ユーザーの処置: 製品の ISPF アプリケーションは続行されます。サーバーと ISPF ロード・ライブラリー間の不整合を解決する必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: *level* と *level* はいずれも製品レベル。

**HLV1441S ABEND abcd IN AUTHORIZATION
ROUTINE mod+off**

説明: 許可検査ルーチンで異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のインストール済み環境のセキュリティ製品をインストールおよび保守する担当者に連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV1442S COMMAND BUFFER PARSE RC=rc

説明: IBM TSO 解析ルーチン IKJPARS が、コマンド・ストリングの解析を試みた後に、ゼロ以外の戻りコードを返しました。コマンドの解析プロセスは終了されます。

ユーザーの処置: 関連の問題データを収集し、地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード。

**HLV1443S COMMAND BUFFER INTERNAL
FORMAT ERROR**

説明: コマンド・バッファの内容を分析しようとしているときに、コマンド・バッファの長さが正しくない、オペランドが無効である、または形式が正しくないと判断されました。

ユーザーの処置: 入力されたコマンド・ストリングを確認してください。必要に応じて、コマンド・ストリングを修正してください。修正したコマンド・ストリングを再入力します。入力されたコマンド・ストリングのエラーを訂正したにもかかわらずエラー状態が解消されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

**HLV1444S parm PARAMETER req SPECIFIED
WITH ARCHTYPE(parmval)**

説明: 無効なパラメーターを指定して Trace Browse/表示プログラムが呼び出されました。

ユーザーの処置: 入力されたコマンド・ストリングを確認してください。必要に応じて、コマンド・ストリングを修正してください。修正したコマンド・ストリングを再入力します。入力されたコマンド・ストリングのエラーを訂正したにもかかわらずエラー状態が解消されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はエラーになっているパラメーター、req はパラメーター値の要件、parmval は ARCHTYPE パラメーターの値。

**HLV1445S SYSTEM MANAGER SERVICE
'service' ERROR, RC=rc**

説明: 製品のブラウズ・サブルーチンが、要求を検証するために許可を要求しましたが、この検証に必要な制御ブロックが見つかりませんでした。要求は打ち切られます。

ユーザーの処置: このメッセージは、製品の ISPF インターフェース・エラーの可能性を示しています。データを収集し、地域担当のシステム・プログラミング・サポート・グループに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はサービス名ストリング、rc は戻りコード。

**HLV1446S ISPF service service error, return code
= rc**

説明: HLV がエラー・メッセージに示されている ISPF 関連タスクを実行するために ISPF サービス・ルーチン呼び出し、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストを調べて、要求が正常に完了しなかった理由を確認してください。ISPF/HLV 環境を確認して、訂正アクションを行ってください。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はサービス名ストリング、rc は戻りコード値。

HLV1447E Member mem not found

説明: BLDL が指定されたメンバーを見つけられませんでした。

ユーザーの処置: データ・セットの連結を調べて、適切なライブラリーが割り振られていることを確認してください。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem はメンバー。

HLV1448E func failed for member=mem RC=rc

説明: BLDL を行おうとしているときに、入出力操作が失敗しました。

ユーザーの処置: このメッセージと、これに付随する可

能性のある他のメッセージを利用して問題を解決してください。データ・セットに問題がないかどうか調べてみてください。問題が訂正されたら、製品を再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は現在の入出力操作、mem はメンバー、rc は現在の入出力操作の戻りコード。

HLV1449E ISPF LOADLIB at version %1, Server LOADLIB at %2, please correct inconsistency

説明: ISPF に割り振られたロード・ライブラリーのバージョンが、サーバーのものとは異なるリリースです。

ユーザーの処置: 診断機能は終了されます。ISPF アプリケーションを呼び出す前に、ライブラリーの不整合を解決する必要があります。

HLV1450H jb subsysid

説明: このメッセージは、製品の Trace Browse オプションを使用しているときに、Trace Browse で監査証跡を提供するために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセージは監査証跡の目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsysid は製品のサブシステム ID。

HLV1451H jb subsysid ARCHIVE REVIEW dsn

説明: このメッセージは、トレース・アーカイブ表示機能を使用しているときに、Trace Browse で監査証跡を提供するために使用されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは監査証跡の目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsysid は製品のサブシステム ID、dsn はアーカイブ・データ・セット名。

HLV1452S ABEND abcd REASON reason OCCURRED IN mod+off

説明: ブラウズ・プログラムで、異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: 他のエラーがないか確認し、問題を修正してください。問題を修正できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、reason は異常終了の理由、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV1453S service OF desc FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: これは、製品の ISPF のさまざまな初期化エラー、実行エラー、および終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV1454S servrtn errdesc FAILED, ABEND=abcd, REASON CODE=rscd

説明: これは、製品の ISPF のさまざまな初期化エラー、実行エラー、および終了エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: servrtn はサービス・ルーチン、errdesc はエラーの説明、abcd は異常終了コード、rscd は理由コード。

HLV1455S Subsystem opmssid not active

説明: 指定されたサブシステムがアクティブではありません。

ユーザーの処置: 指定されたサブシステムを開始してから ISPF アプリケーションを再始動するか、ISPF アプリケーションの開始に使用するために別のサブシステム ID を選択してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: opmssid はサブシステム。

HLV1456S ISPF service service error, return code = rc. Unable to start ISPF dialog.

説明: HLV が ISPF ダイアログを開始するために ISPF サービス・ルーチン呼び出し、終了戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストを調べて、要求が正常に完了しなかった理由を確認してください。ISPF/HLV 環境 (具体的には xxxxIN00 EXEC 内の DEFINE ISPFCONCAT ステートメント) を確認して、訂正アクションを行ってください。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はサービス名ストリング、rc は戻りコード値。

HLV1457W Subsystem opmssid not active

説明: 指定されたサブシステムがアクティブではありません。

ユーザーの処置: ISPF ダイアログで、指定されたサブシステムが見つかりませんでした。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: opmssid はサブシステム。

HLV1600E Module DSNACAF not properly linked

説明: 製品関連の DB2 インターフェース・モジュールが実際の DB2 システムへの接続に必要なモジュールのアドレスをロードしようとした。このアドレス・フィールドがゼロでした。モジュールを呼び出すことができず、実際の DB2 システムへの接続は失敗しました。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。エラー・メッセージ内で参照されているロード・モジュールは、同じ名前の製品モジュールと正しくリンクされている必要があります。DSNACAF モジュールを再リンクし、DB2 アプリケーション・プログラムを再実行してください。

HLV1601E Product is not active at this time

説明: 製品関連の DB2 インターフェース・モジュールがメイン製品 (DB2 以外) アドレス・スペースと通信しようとした。メイン製品アドレス・スペースがアクティブではありませんでした。通常このエラーは、SQL アプリケーション・プログラムの実行開始時に発生します。

ユーザーの処置: メイン製品アドレス・スペースがアクティブであることを確認してください。必要に応じてメイン製品アドレス・スペースを始動または再始動しま

す。SQL アプリケーション・プログラムを最初から再実行してください。

HLV1602E Product failed while SQL application program executing

説明: 製品関連の DB2 インターフェース・モジュールがメイン製品 (DB2 以外) アドレス・スペースと通信しようとした。メイン製品アドレス・スペースがアクティブではありませんでした。通常このエラーは、SQL アプリケーション・プログラムの実行開始時に発生します。

ユーザーの処置: メイン製品アドレス・スペースがアクティブであることを確認してください。必要に応じてメイン製品アドレス・スペースを始動または再始動します。SQL アプリケーション・プログラムを最初から再実行してください。

HLV1603E Module DSNTIAR not properly linked

説明: 製品関連の DB2 インターフェース・モジュールが実際の DB2 システムへの接続に必要なモジュールのアドレスをロードしようとした。このアドレス・フィールドがゼロでした。モジュールを呼び出すことができず、実際の DB2 システムへの接続は失敗しました。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。エラー・メッセージ内で参照されているロード・モジュールは、同じ名前の製品モジュールと正しくリンクされている必要があります。DSNTIAR モジュールを再リンクし、DB2 アプリケーション・プログラムを再実行してください。

HLV1700E service desc FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: これは、さまざまなエラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとした内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は操作 (GETMAIN、FREEMAIN、SYSEVENT など)、desc は説明、rc は戻りコード。

**HLV1701E ERROR CODE name SENDING
MESSAGE TO %2 QUEUE**

説明: 製品キューにレコードを送信しようとしているときに、エラーが発生しました。このメッセージの原因として可能性が高いのは、キューが満杯であることです。このことはエラー・コード 4 で示されます。どの製品ロード・バランシング・キューの場合でも、キュー満杯状態が発生すると、そのキューにある保留中の作業が大幅に減少するまで、グループ・ディレクターによってこのサーバーに後続セッションは送信されません。それ以外のエラー・コードでは、このサーバーに追加作業は送信されず、サーバーを終了して再始動しなければなりません。

ユーザーの処置: 地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はキュー名。

**HLV1720E desc func FAILED, RC=rc, DETECTED
AT ad**

説明: これは、製品の制御ブロックの割り振りまたは解放を行おうとしているときに発生したエラーを記述するために使用される、汎用エラー・メッセージです。通常、割り振り失敗は仮想ストレージが不十分なことを示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明、func は現行機能 (割り振りまたは削除)、rc は戻りコード。

**HLV1740T Invoking IEFSSREQ for SSI function
func - desc**

説明: ADDRESS SPOOL S/REXX ホスト・コマンド環境、または Sysout Application Programming Interface (SAPI) 共通ルーチンを使用する別のルーチンがサブシステム (SSI) サービスを呼び出しています。このメッセージは、IEFSSREQ SSI ゲートウェイ・マクロのそれぞれの呼び出しの前にトレースされます。

ユーザーの処置: なし。示された SSI 機能は、このメッセージがトレースされた直後に呼び出されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は

SSI 機能コード (SSOBFUNC)、desc は SSI 機能コードの説明。

HLV1741T IEFSSREQ SSI return code is RC

説明: サブシステム・インターフェース (SSI) マクロ IEFSSREQ の呼び出しが完了し、結果の戻りコードがメッセージに表示されています。SSITRACE コマンド・オプションが有効な場合、SSI サービス要求のそれぞれの呼び出しの後に、このメッセージがトレースされます。

ユーザーの処置: なし。SSI ゲートウェイ・インターフェースが、R15 で、メッセージに示されている IEFSSREQ 戻りコードを返しました。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: RC は R15 からの IEFSSREQ 戻りコード。

**HLV1742T SSOBRETN FUNCTION-SPECIFIC
RETURN CODE IS RC**

説明: サブシステム・インターフェース (SSI) マクロ IEFSSREQ の呼び出しが戻りコード 0 で完了しました。SSITRACE コマンド・オプションが有効な場合、実行される SSI サービス要求のそれぞれの呼び出しの後に、このメッセージによって機能固有の戻りコードがトレースされます。

ユーザーの処置: なし。示された SSI 機能が、メッセージに示されている SSOBRETN 戻りコードで完了しました。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: RC はサービス機能からの SSOBRETN 戻りコード。

**HLV1743T WAITING FOR NEW SYSOUT FILES
FOR Secs SECONDS**

説明: PUTGET 要求によって Sysout Application Programming Interface の SSI サービスが呼び出され、END-OF-DATA シグナルが返されました。システムは、示された時間の間、新しい SYSOUT 出力が使用可能になるのを待機します。このメッセージは、より多くの SYSOUT 出力データが使用可能になるのを待つための WAIT に入る前にトレースされています。

ユーザーの処置: なし。より多くの SYSOUT 出力を取得するために WAIT に入っていますが、これは示された秒数が経過すると期限切れになります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Secs は WAIT が期限切れになるまでの時間。

**HLV1744T WAIT TIMELIMIT EXPIRED -
END-OF-DATA FOR SYSOUT**

説明: Sysout Application Programming Interface の SSI サービス要求ルーチンは、END-OF-DATA シグナルの受け取り後、追加の SYSOUT 出力が使用可能になるまで待つための WAIT に入っていました。追加の SYSOUT 出力が使用可能になるのを待機する時間制限が満了し、要求ルーチンは END-OF-DATA シグナルを処理するようになります。SSITRACE コマンド・オプションが有効な場合、このメッセージがトレースされます。

ユーザーの処置: なし。新しい SYSOUT 出力の WAIT が終了し、END-OF-DATA シグナルを認識することによってプロシージャーが続行されます。

**HLV1745T NEW SYSOUT FILE NOW
AVAILABLE**

説明: Sysout Application Programming Interface の SSI サービス要求ルーチンは、追加の SYSOUT 出力が使用可能になるまで待つための WAIT に入っていました。1 次サブシステムは、要求側に準備完了を通知し、追加の SYSOUT 出力が使用可能になったことを示しました。SSITRACE コマンド・オプションが有効な場合、このメッセージがトレースされます。別のプロセスまたは書き出しプログラムが同じ SYSOUT ファイルを処理用に選択する可能性があるため、選択が要求されたときにそのファイルが使用可能である保証はありません。

ユーザーの処置: なし。新しい SYSOUT 出力の WAIT が完了し、新しい SYSOUT ファイルを処理用に選択しようとすることでプロシージャーは続行されます。

**HLV1746T IRXEXCOM action REQUEST FOR
varname FAILED WITH
RC/SHVRET=RCSHV**

説明: ADDRESS SPOOL ホスト・コマンド・インターフェースが、S/REXX 変数プール内で変数を設定、変更、または除去しようとしているときにエラーを検出しました。処理されているホスト・コマンドは、重大エラーのシグナルで失敗します。

ユーザーの処置: 製品の REXX プロシージャーの実行用に、追加のワークスペースを使用できるようにしてください。問題が解消せず、割り振り済みワークスペースを増やしても解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: action は要求されている変数アクション、varname は処理が

失敗した変数の名前、RCSHV は IRXEXCOM 戻りコードおよび SHVRET 値。

**HLV1747T ADDRESS SPOOL ENCOUNTERED
ABEND CC=abcc, RS=reason AT
module+offset, PSW=psw, RETRY BY
ad**

説明: ADDRESS SPOOL ホスト・コマンド・インターフェースが、現在の要求の処理中に ABEND を検出しました。ADDRESS SPOOL ホスト・コマンドは、障害シグナルで終了します。

ユーザーの処置: ABEND の原因の洞察に役立つ可能性のある他のメッセージがあるか確認してください。ホスト・コマンド、または他の条件を必要に応じて訂正してください。解決されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcc は異常終了完了コード、reason は異常終了の理由コード、module は異常終了しているモジュール名 (分かっている場合)、offset は異常終了しているモジュールのオフセット、psw は異常終了の PSW、AD は障害が発生したアドレス。

**HLV1748T ABEND CC=abcc, RS=reason AT
module+offset, PSW=psw,
ACCESSING dsect STRCT AT addr,
RETRY BY ad**

説明: ADDRESS SPOOL JOBSTATUS コマンドが、示された拡張状況情報の DSECT の処理中に ABEND を検出しました。コマンドは、SSI サービスによって返された拡張状況情報のそれ以降の処理を中止します。

ユーザーの処置: ABEND の原因の洞察に役立つ可能性のある他のメッセージがあるか確認してください。ホスト・コマンド、または他の条件を必要に応じて訂正してください。解決されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcc は異常終了完了コード、reason は異常終了の理由コード、module は異常終了しているモジュール名 (分かっている場合)、offset は異常終了しているモジュールのオフセット、psw は異常終了の PSW、dsect は処理されている拡張状況 dsect、addr は処理されている dsect のアドレス、AD は障害が検出された/再試行が行われたアドレス。

HLV1749T SSI ABEND CC=abcc, RS=reason AT module+offset, PSW=psw, RETRY BY ad

説明: IEFSSREQ インターフェースに対する SSI サービス要求の呼び出しが異常終了しました。ABEND の完了コードと理由がこのメッセージに表示されます。ABEND の原因として考えられるのは、サービス要求で渡されたパラメーターに何らかのエラーがあったこと、または何らかの永続的または一時的なオペレーティング・システム障害です。

ユーザーの処置: ABEND の原因の洞察に役立つ可能性のある他のメッセージがあるか確認してください。ホスト・コマンド、または他の条件を必要に応じて訂正してください。解決されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcc は異常終了完了コード、reason は異常終了の理由コード、module は異常終了しているモジュール名 (分かっている場合)、offset は異常終了しているモジュールのオフセット、psw は異常終了の PSW、AD は障害が検出された/再試行が行われたアドレス。

HLV1750T DDNAME ddname ALLOCATED TO SYSOUT FILE 'dsname'

説明: SYSOUT データ・セットが示された DDNAME に割り振られました。呼び出し元は現在、その DDNAME 割り振りを使用して SYSOUT ファイルを処理していると考えられます。SSITRACE コマンド・オプションが有効な場合、このメッセージがトレースされます。DDNAME が「<SKIPPED>」である場合、示された SYSOUT データ・セットの割り振りは行われておらず、未処理の DDNAME 割り振りなしで処理が続行されます。

ユーザーの処置: なし。SYSOUT 割り振りは、次の SAPI 要求が処理されるまで、または環境が終了するまで残ります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddname は割り振り対象の DDNAME、dsname は割り振り対象の DSNAMES。

HLV1751T DDNAME ddname DEALLOCATED

説明: SYSOUT データ・セットがトレース・メッセージに示されている DDNAME から割り振り解除されました。SSITRACE コマンド・オプションが有効な場合、このメッセージがトレースされます。

ユーザーの処置: なし。SYSOUT ファイルが割り振り解除されて、処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddname は割り振り対象の DDNAME。

HLV1752T SPOOL HCE ERRORrcrs: msg

説明: SPOOL ホスト・コマンド環境要求の処理中にエラーが検出されました。コマンドの処理中にトレース・オプションが有効かどうかに応じて、エラー後にこのメッセージがトレースされる場合があります。要求は、(括弧内に示される) 戻りコードと理由コードでリジェクトされ、説明がメッセージに示されます。

ユーザーの処置: 問題の原因の洞察に役立つ可能性のある他のメッセージがあるか確認してください。ホスト・コマンド、または他の条件を必要に応じて訂正してください。解決されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rcrs は 10 進数での (戻りコード、理由コード)、msg は理由の説明。

HLV1753T SPOOL HCE SECONDARY ERRORrcrs: msg

説明: SPOOL ホスト・コマンド環境要求の処理中にエラーが検出されました。直前のエラーは既にログに記録されており、このエラーはホスト・コマンド環境のクリーンアップ中に発生しました。コマンドの処理中にトレース・オプションが有効かどうかに応じて、エラー後にこのメッセージがトレースされる場合があります。要求は元の戻りコードと理由コードでリジェクトされます。このメッセージは 2 次エラーを記述しています。

ユーザーの処置: 問題の原因の洞察に役立つ可能性のある他のメッセージがあるか確認してください。ホスト・コマンド、または他の条件を必要に応じて訂正してください。解決されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rcrs は 10 進数での (戻りコード、理由コード)、msg は理由の説明。

HLV1754T SPOOL CLEANUP ABEND CC=abcc, RS=reason AT module+offset, PSW=psw, action, RETRY RTNE AT ad

説明: ADDRESS SPOOL 環境クリーンアップ・ルーチンが、リソースのリカバリー処理中に ABEND を検出しました。リソースのリカバリー処理は続行されます。1 つ以上のリソースが正しくリカバリーされない可能性があります。

ユーザーの処置: ABEND の原因の洞察に役立つ可能

HLV1755T • HLV2022S

性のある他のメッセージがあるか確認してください。ホスト・コマンド、または他の条件を必要に応じて訂正してください。解決されない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcc は異常終了完了コード、reason は異常終了の理由コード、module は異常終了しているモジュール名 (分かっている場合)、offset は異常終了しているモジュールのオフセット、psw は異常終了の PSW、action は実行されている処理、AD は障害が検出された/再試行が行われたアドレス。

HLV1755T SPOOL HCE MSGrcrs: msg

説明: SPOOL ホスト・コマンド環境要求の処理中に通知メッセージがトレースされました。コマンドの処理中にトレース・オプションが有効かどうかに応じて、エラー後にこのメッセージがトレースされる場合があります。

ユーザーの処置: なし。処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rcrs は 10 進数での (戻りコード、理由コード)、msg は理由の説明。

HLV1840E errdesc

説明: EXECIO コマンドの分析中に構文エラーが検出されました。

ユーザーの処置: EXECIO コマンド構文エラーを訂正し、REXX プログラムの実行を再試行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc は構文エラーの説明。

HLV1841E errdesc, RC=rc

説明: 何らかのタイプのサービス・ルーチン (オペレーティング・システム固有または製品固有のもの) が失敗しました。エラー・メッセージにエラーのタイプが示されます。

ユーザーの処置: エラー・メッセージの全文を調べて、エラーの訂正を試みてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc はエラーの説明、rc は戻りコード。

HLV1842E errdesc1 ddn errdesc2

説明: EXECIO コマンドで指定された DD 名は現在のジョブに割り振られていません。

ユーザーの処置: 適切なデータ・セットを DD 名に割り振るか、DD 名を変更してください。その後に REXX

プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc1 はエラーの説明の最初の部分、ddn は EXECIO コマンドに指定された DD 名、errdesc2 はエラーの説明の最後の部分。

HLV1843E ddn io FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: EXECIO コマンドに関連した製品の入出力ルーチンの呼び出し中に、何らかのタイプのエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn は DD 名、io は入出力サービス、rc は戻りコード。

HLV2020S desc FAILURE RC=rc

説明: 製品サブシステム・データ・セットのためのストレージを取得または解放しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 製品サブシステム・データ・セット・サービスを要求しているアドレス・スペースに、十分な大きさの領域があることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明 (例えば、サブシステム・データ・セット)、rc は戻りコード。

HLV2021S desc CANNOT USE SUBSYS FILE ALLOCATIONS

説明: 製品は、システム・アドレス・スペース (例えば、*master*) または TSO ユーザーが、製品サブシステム・データ・セットをオープンするように要求したことを検出しました。これは許可されません。

ユーザーの処置: サブシステム・データ・セット・インターフェースは、通常の (システム以外の) 開始タスクとバッチ・ジョブでしか使用できません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明 (例えば、システム・タスク)。

HLV2022S UNKNOWN SUBSYS OPEN ENVIRONMENT ASID asid

説明: 製品はサブシステム・データ・セットの OPEN 要求を受け取りましたが、要求元のアドレス・スペース

がどの環境で実行されているかを判別できません。

ユーザーの処置: サブシステム・データ・セット・インターフェースは、TSO サーバー開始タスクでのみ使用できます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: asid はアドレス・スペース ID。

HLV2023S No server block found for USERID=jb

説明: 製品はサブシステム・データ・セットの OPEN 要求を受け取りましたが、その要求が、製品によって外部サーバーとして開始された TSO サーバー・アドレス・スペースからのものではなかったことを検出しました。

ユーザーの処置: これは内部の問題と思われる。ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: jb はジョブ名。

HLV2026S Invalid subsystem file count cnt found for server jb

説明: 製品は、サブシステム・データ・セットのクローズ処理中に内部エラーを検出しました。このアドレス・スペースのオープン・サブシステム・データ・セットのカウントが負になっていました。

ユーザーの処置: 取得可能な問題データを収集し、地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して、この分野でのサポートを受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt はオープン・サブシステム・データ・セットのカウント。

HLV2027S SUBSYS request cb VALIDATION ERROR - ADDRESS addr

説明: 製品は、製品サブシステム・データ・セット制御ブロックの OPEN 要求の処理中、システム制御ブロックの検証時にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 取得可能な問題データを収集し、地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request は OPEN、cb は制御ブロック名 (例えば、ACB)、addr は制御ブロックのアドレス。

HLV2030S ABEND abcd IN USER EXIT mod+off

説明: 許可検査ルーチンで異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のインストール済み環境で製品のセキュリティ出口ルーチンのインストールと保守を

行う担当者に連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV2031W TSO SERVER (procname) - SYSTSIN BLKSIZE = blksize1, USE blksize2

説明: TSO サーバー開始タスク JCL 内の SYSTSIN DD カードに指定された BLKSIZE が、サーバーに送信可能なコマンドの長さを制限する要因の 1 つになっています。

ユーザーの処置: PROCNAME によって指定されたプロシージャ内の SYSTSIN DD カードの BLKSIZE を、指定された BLKSIZE に変更することをお勧めします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: procname は TSO サーバー開始タスクのプロシージャ名、blksize1 は現在の SYSTSIN BLKSIZE、blksize2 は最大 SYSTSIN BLKSIZE。

HLV2032T SUBSYSTEM DATA request (rqc) PROCESSED FOR DDNAME ddn - RC=rc

説明: 製品のサブシステム・データ・セットの SSI インターセプト・ルーチンが要求を処理しました。このメッセージはインターセプト要求をトレースします。

ユーザーの処置: なし。これは診断メッセージです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request は要求名、rqc は要求コード、ddn はデータ・セットの DD 名 (分かっている場合)、rc は SSI インターセプト・ルーチンによって設定された戻りコード。

HLV2040T SRP RABND: SRVR NOT RESPONDING - ASID=asid ASCB=ascb TCB=tcb

説明: メイン製品アドレス・スペースの内部または外部のサーバー・サブタスクに対して、サービス要求が行われました。要求元タスクはタイムアウトまたはシャットダウンの理由で要求を取り消そうとしましたが、サーバーが確認の応答をしませんでした。サービス要求は強制的に取り消されました。

ユーザーの処置: 要求の性質に応じて、要求元タスクまたはサーバー・タスク TCB のいずれかが取り消されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: asid はサーバー・タスクの ASID、ascb はサーバー・タスクの ASCB、tcb はサーバー・タスクの TCB。

HLV2041T SRP SFREE: RQSTR CANNOT BE POSTED - CODE=pc - ASID=asid TCB=tcb CNID=cnid TOKEN=token SMAF=addr

説明: メイン製品アドレス・スペースの内部または外部のサーバー・サブタスクに対して、サービス要求が行われました。サーバー・タスクは、要求側タスクが終了したため、そのタスクへの通知ができません。

ユーザーの処置: サーバー・タスクは、要求側に通知せずに続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pc は通知コード、asid は要求側の ASID、tcb は要求側の TCB、cnid は要求側の CNID、token は要求側のトークン、addr は要求側の SMAF 制御ブロック・アドレス。

HLV2042T SRP RBIND: RC=rc CMTC=addr BEFORE=word1 AFTER=word2 TB=tb

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc はサーバーの戻りコード、addr は要求側の CMTC アドレス、word1 はイメージの前の制御ワード、word2 はイメージの後の制御ワード、tb はトレースバック・ポイント。

HLV2043T SRP RWAIT process: CMTC=addr BEFORE=word

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process は実行されている処理、addr は要求側の CMTC アドレス、word はイメージの前の制御ワード。

HLV2044T SRP RWAIT: RC=rc CMTC=addr BEFORE=word1 AFTER=word2 TB=tb

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc はサーバーの戻りコード、addr は要求側の CMTC アドレス、word1 はイメージの前の制御ワード、word2 はイメージの後の制御ワード、tb はトレースバック・ポイント。

HLV2045T SRP RVOKE process: CMTC=addr BEFORE=word

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process は実行されている処理、addr は要求側の CMTC アドレス、word はイメージの前の制御ワード。

HLV2046T SRP RVOKE: RC=rc CMTC=addr BEFORE=word1 AFTER=word2 TB=tb

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc はサーバーの戻りコード、addr は要求側の CMTC アドレス、word1 はイメージの前の制御ワード、word2 はイメージの後の制御ワード、tb はトレースバック・ポイント。

HLV2047T SRP RABND: RC=rc CMTC=addr BEFORE=word1 AFTER=word2 TB=tb

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc はサーバーの戻りコード、addr は要求側の CMTC アドレス、word1 はイメージの前の制御ワード、word2 はイメージの後の制御ワード、tb はトレースバック・ポイント。

**HLV2048T SRP SBIND: RC=rc SERVER=addr1
RQSTR=addr2 TB=tb**

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc はサーバーの戻りコード、addr1 はサーバーの CMTC アドレス、addr2 は要求側の CMTC アドレス、tb はトレースバック・ポイント。

**HLV2049T SRP SFREE: RC=rc SERVER=addr1
RQSTR=addr2 TB=tb**

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc はサーバーの戻りコード、addr1 はサーバーの CMTC アドレス、addr2 は要求側の CMTC アドレス、tb はトレースバック・ポイント。

**HLV2050T SRP SPOST: RC=rc CODE=addr1
SERVER=%3 RQSTR=addr2 TB=tb**

説明: これは、サービス・リクエスト/プロバイダー・インターフェースによって発行される診断メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、診断専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc はサーバーの戻りコード、pc は通知コード、addr1 はサーバーの CMTC アドレス、addr2 は要求側の CMTC アドレス、tb はトレースバック・ポイント。

HLV2082S ss PRODUCT FAILURE DETECTED

説明: この要求の処理中に、製品のメインコマンド処理機能によって製品の異常シャットダウンが検出されました。

ユーザーの処置: 異常終了、異常終了の原因、および製品の最適な再始動方法を確認してください。現在の問題を解決し、続行します。

**HLV2083W ss OUTBOARD TSO SERVER
jb,ASID=asid FAILED**

説明: 製品のメモリーの終わり (EOM) 処理で、外部 TSO サーバー・アドレス・スペースの予期しない終了が検出されました。サーバーの制御制限が変更されていなければ、サーバーは製品によって自動的に再始動されるはずですが。

ユーザーの処置: サーバーで障害が発生した理由を判別するようにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: jb はジョブ名、asid は ASID。

**HLV2084E service oper1 FAILED, RC=rc,
DETECTED AT ad**

説明: 製品のメモリーの終わり (EOM) 内の CALLRTM 呼び出しが失敗しました。EOM ルーチンが外部 TSO サーバーを取り消そうとしました。

ユーザーの処置: サービスおよび戻りコードを確認し、問題の解決を試みてください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はサービス名、oper1 はサービスのオペランド、rc はサービスの戻りコード。

HLV2101S usid init FAILED - service RC=rc

説明: 何らかの専用ストレージの製品セキュリティー機能処理ルーチン GETMAIN が失敗しました。このストレージはセキュリティー制御ブロックの処理に必要です。

ユーザーの処置: 上記に示すストレージの GETMAIN のエラーを調べます。ストレージが使用できない理由を判別してください。境界より下の専用ストレージの使用量を制限する出口があるか確認します。上記の問題を解決して再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid はユーザー ID スtring、init は初期化タイプ・String、service はマクロ名String、rc は戻りコード。

**HLV2102E service REQUEST FOR usid FAILED -
reason**

説明: 製品のセキュリティー機能ルーチンが、リストされたユーザー ID に対してゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: そのユーザー ID のセキュリティー・エラーを確認してください。アクセスの問題を修正

HLV2103S • HLV2121S

するか、セキュリティー管理者に連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はセキュリティー機能サービス要求タイプ、userid は USERID のストリングまたは説明、reason は障害理由のテキスト。

HLV2103S userid rc FAILED - RACF CODES rscd text

説明: 製品が RACF から不明な戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: 関連の RACF エラーを確認し、RACF のメッセージとコードの資料でその戻りコードを検証してください。地域担当のシステム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid はユーザー ID ストリング、rc は RACF の戻りコード、rscd は RACF の理由コード、text は RACF のテキスト・ストリング。

HLV2104E userid init FAILED - reason

説明: LOGON コマンドのセキュリティー検査中、製品のセキュリティー機能ルーチンが現在のユーザー ID に対してセキュリティー・パッケージからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: そのユーザー ID のセキュリティー・エラーを確認してください。アクセスの問題を修正するか、セキュリティー管理者に連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid は USERID のストリングまたは説明、init は初期化タイプのストリングまたは説明、reason は障害理由のテキスト。

HLV2106H userid init FOR cnno AT t2 ON d2

説明: 製品のセキュリティー機能ルーチンが、TSO アドレス・スペースに関するこの通知メッセージを発行しました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid はユーザー ID ストリング、init は初期化タイプ・ストリング、cnno はコンソール ID ストリング。

HLV2107H LOGON FAILED FOR userid. rc1 rc2 rscd - text.

説明: 製品が、内部タスクの LOGON 要求からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: そのユーザー ID のセキュリティー・エラーを確認してください。アクセスの問題を修正するか、セキュリティー管理者に連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid は対象となっているユーザー ID、rc1 はセキュリティー・モジュールの戻りコード、rc2 は RACF (SAF) 戻りコード、rscd は RACF (SAF) 理由コード、text は RACF (SAF) からのエラー・メッセージ・テキスト。

HLV2108E text1 text2 FAILED - RC=rc

説明: 製品がセキュリティー製品のユーザー ID の抽出に失敗しました。

ユーザーの処置: 現在のシステム状況を検証します。製品を開始する前に、セキュリティー・パッケージの初期化が完了していることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text1 はエラー・メッセージ・テキスト、text2 はエラー・メッセージ・テキスト、rc は戻りコード値。

HLV2120 I MEMBER mem - text

説明: 製品のコピー・ユーティリティーが、PDS 間でのメンバーのコピーを開始しました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem は現在のメンバー名、text は通知のテキスト・ストリング。

HLV2121S io FAILED, RC=rc, MEMBER=mem, DDNAME=ddn, DSN=dsn

説明: 製品のコピー・ユーティリティーがある PDS から別の PDS にメンバーをコピーしていましたが、そのコピーが失敗しました。

ユーザーの処置: 戻りコードと関連の MVS エラー・メッセージを調べます。データ・セットに十分なスペースがあることを確認してください。戻りコードについて推奨されているアクションを実行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: io は現在の入出力操作のストリング、rc は現在の入出力操作の戻りコード、mem は現在のメンバー名、ddn は DD 名ストリング、dsn はデータ・セット名ストリング。

**HLV2122 I MEMBER mem RECORD num
LENGTH %3 IS INVALID**

説明: 製品の VB から FB への変換プログラムが無効な長さのレコードを検出しました。

ユーザーの処置: 無効なレコードを修正し、VB から FB への変換プログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem は現在のメンバー名、num は 1 から始まるレコード番号。

**HLV2200E service desc FAILED RC=rc,
DETECTED AT ad**

説明: これは、さまざまなエラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、SYSEVENT など)、desc は説明、rc は戻りコード。

**HLV2300E NLS SERVICE ROUTINE (OPTRTB)
ABEND abcd, RS=rscd AT mod+off**

説明: NLS サービス・ルーチンが、要求の処理中に異常終了を検出しました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、rscd は異常終了の理由コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

**HLV2301 I NLS INVOKED WITH INVALID
FUNCTION CODE func**

説明: NLS サービス・ルーチンが無効な機能コードによって呼び出されました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生

成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は 16 進数での機能コード。

**HLV2302 I NO VALID MAPPING FOR code1
CODEPOINT code2 TO code3 -
SUBSTITUTING code4**

説明: DBCS 文字ストリームと ASCII/EBCDIC との間の変換を行うために NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。入力 DBCS コード・ポイントに対応する有効な DBCS コード・ポイントが定義されていません。

ユーザーの処置: DBCS コード・ポイントは標準の置換文字に変換され、操作は続行されます。変換ルーチンに渡される文字ストリームに、定義済みの変換コード・ポイント割り当てを含む DBCS 文字のみが含まれていることを確認してください。始動時に、GAJJI コード・ポイントまたはシステムに組み込まれていないコード・ポイントに対応する ASCII/EBCDIC コード・ポイント・エントリーを定義することが必要と考えられます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: code1 はソース・エンコード、code2 は 16 進数でのソース・コード・ポイント、code3 は出力エンコード、code4 は使用されている置換 (sub) コード・ポイント。

**HLV2303 I UNEVEN BYTES IN PURE DBCS
STRING - byte FOUND IN
TRAILING POSITION - DISCARDED**

説明: EBCDIC のピュア DBCS データの変換を行うために NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。入力ストリーム内に存在するバイト数が奇数になっています。

ユーザーの処置: 現在の DBCS 変換の処理は、末尾にある一致していない 1 バイトをスキップして完了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: byte は末尾のバイト。

**HLV2304 I NO TRAILING SHIFT-IN DELIMITER
BEFORE END OF DBCS STRING -
ASSUME SHIFT-IN WAS PRESENT**

説明: EBCDIC の混合 SBCS/DBCS ストリングの変換を行うために NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。DBCS 文字の処理中、シフトイン文字が検出され

HLV2305 I • HLV2310 I

る前に入力ストリームが終わってしまいました。DBCS シーケンスは常に、末尾のシフトイン・バイトで終了する必要があります。

ユーザーの処置: 現在の DBCS 変換の処理は、シフトイン文字が存在しているものと想定して完了します。

HLV2305 I INVALID ENCODING PARAMETER (parm) DETECTED IN NLS E-TO-A ENCODING ROUTINE

説明: EBCDIC から ASCII への変換を行うために NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。エンコード・パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: サーバーは、ISO-8859-1 SBCS EBCDIC から ASCII への変換を想定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm はエンコード・パラメーター。

HLV2306 I DESTRUCTIVE OVERLAP DETECTED IN SBCS E-TO-A OR A-TO-EENCODING ROUTINE

説明: SBCS データの EBCDIC から ASCII へのエンコード、または ASCII から EBCDIC へのエンコードを行うために NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。入力域と出力域のオーバーラップが検出されました。S0C3 異常終了が意図的に生成され、エンコード要求は打ち切られます。

ユーザーの処置: これは論理エラーの可能性がありま
す。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV2307 I NO NLS TABLE FOUND FOR ASCII/EBCDIC MAPPING CODE table

説明: NLS の EBCDIC から ASCII、または ASCII から EBCDIC への変換テーブルを検索するために NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。要求されたテーブルが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: サーバーの ASCII/EBCDIC MAPPING パラメーターおよび CHARACTERENCODING パラメーターに有効な値が設定されていることを確認してください。現在のトランザクションの処理中にデフォルト以外の設定が選択されたかどうかを示す、他のメッセージがあるか確認します。また、ISPF 5.19 表示を調べて、システムに対して定義されているコード化文字セットのリストを確認します。サーバーは、SBCS 操作の組み込みの ENU ASCII/EBCDIC MAPPING テーブルを使用して操作を続行し、CHARACTERENCODING を ISO-8859-1 に設定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: table は NLS テーブル名。

HLV2308 I NO BUILT-IN NLS TABLE FOUND FOR code1 (table)

説明: マルチバイト文字セット・アルゴリズムを含むデータをエンコードまたはデコードするために、NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。組み込みの NLS 文字セット変換テーブルが存在しませんでした。

ユーザーの処置: S0C3 異常終了が意図的に生成され、エンコード/デコード操作は打ち切られます。メッセージに示されている組み込みテーブルがシステムに対して定義されていない理由を確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: code1 は文字エンコード・スキーム、table は組み込みテーブル名。

HLV2309 I UNPAIRED code DBCS LEAD-BYTE value SKIPPED BY DECODER

説明: マルチバイト文字セット・アルゴリズムを含むデータをデコードするために、NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。2 バイト DBCS 文字シーケンスの最初のバイトであるはずの 1 バイトが検出されましたが、それ以降の入力バイトが存在しませんでした。

ユーザーの処置: デコード・ルーチンは無効な DBCS リード・バイトをスキップし、それを EBCDIC 結果から除外します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: code は文字エンコード・スキーム、value は無効なバイト値。

HLV2310 I UNSUPPORTED ESCAPE SEQUENCE sq FOR code

説明: エスケープ・シーケンスを組み込んだマルチバイト文字セットを含むデータをデコードするために、NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。メッセージに報告されているエスケープ・シーケンスはサーバーによってサポートされていません。

ユーザーの処置: デコード・ルーチンはエスケープ・シーケンスをコピーして SBCS EBCDIC に変換します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sq は入力内にあるエスケープ・シーケンス、code は文字エンコード方式。

**HLV2311 I UTF-8 var1 NOT SUPPORTED FOR
NLS var2 - ASSUMING HOST CODE
PAGE IS "ENU"**

説明: UTF-8 データ・ストリームをデコードまたはエンコードするために NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。サーバーは、選択された EBCDIC ホスト・コード・ページでは UTF-8 データ・ストリームをサポートしません。

ユーザーの処置: このルーチンは、EBCDIC ホスト・コード・ページが ENU (IBM-1047) に設定されることを想定します。このことが原因で、入力ストリームまたは出力ストリームの処理時に誤った結果を生じる可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は「デコード」または「エンコード」、var2 は現在のホスト・コード・ページの指定。

**HLV2312 I BYTE var1 IS AN INVALID UTF-8
BYTE - SKIPPING TO NEXT BYTE
OF STREAM**

説明: UTF-8 データ・ストリームをデコードするために NLS サービス・ルーチンが呼び出されました。UTF-8 ストリーム (x80-xBF または xF8-xFF) 内に無効なリード・バイト値が検出されました。デコーダーは問題のあるバイトをスキップし、次の入力バイト位置で方向の再設定を試みます。

ユーザーの処置: デコード操作は次の入力ストリーム位置から続行されます。このエラーが原因で、追加エラーやストリームのデコードの誤りが生じる可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は無効なリード・バイト値。

**HLV2320T DBCS conversion bypassed for
parameter var1: var2**

説明: DBCS 動的変換サービスが、リストされた理由で指定されたパラメーターのグラフィックへの変換をバイパスしました。操作は DB2 に渡され、DB2 によって SQLCODE = -301 エラーが発行される可能性があります。

ユーザーの処置: これはクライアント・アプリケーション内のプログラミング・エラーです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 はパラメーター番号、var2 は理由。

**HLV2401E db2id connect function ERROR, RC=rc
REASON=reason**

説明: DB2 Streams Collector が、CAF または RRSAF 機能から予期しない障害の戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: このエラーについて詳しくは、「DB2 メッセージおよびコード」を参照してください。メッセージ 2402 も発行される場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: db2id は Streams ソースの DB2 名、connect は接続タイプ、function は CAF/RRSAF 機能、rc は戻りコード、reason は理由コード。

HLV2402E db2id : message

説明: DB2 Streams Collector が、CAF または RRSAF 機能から予期しない障害の戻りコードを受け取りました。

ユーザーの処置: このメッセージについて詳しくは、「DB2 メッセージおよびコード」を参照してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: db2id は Streams ソースの DB2 名、message は DB2 メッセージ。

**HLV2403E connect module mismatch for DB2
subsystem db2id**

説明: DB2 Streams Collector が、指定された DB2 への CAF または RRSAF 接続を作成しようとして、戻りコード 4 および理由コード 00C10823 を受け取りました。

ユーザーの処置: 製品によって使用される STEPLIB を変更して、最上位バージョンの DB2 を指すようにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: connect は接続タイプ、db2id は Streams ソースの DB2 名。

**HLV2404E User ID <userid> does not have
authority to access DB2 %1**

説明: DB2 Streams Collector が、指定された DB2 への CAF または RRSAF 接続を作成しようとして、戻りコード 8 および理由コード 00F30013 を受け取りました。

ユーザーの処置: この特定の DB2 へのアクセスが許可されたユーザー ID を指定するよう、DEFINE PUBLISH ステートメントを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid は

HLV2405E • HLV2412 I

指定されたユーザー ID、db2id は Streams ソースの DB2 名。

HLV2405E DB2 system db2id not defined

説明: DB2 Streams Collector が、指定された DB2 への CAF または RRSAF 接続を作成しようとして、戻りコード 8 および理由コード 00F30006 を受け取りました。

ユーザーの処置: DEFINE PUBLISH ステートメントを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: db2id は Streams ソースの DB2 名。

HLV2406T db2id connect ISSUED, RC=rc REASON=reason

説明: Streams の DB2 CAF および RRSAF 戻りコードをトレースします。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: db2id は Streams ソースの DB2 名、connect は接続タイプ、rc は戻りコード、reason は理由コード。

HLV2407T PUBLISH SOURCE db2id USERID usid LOGON FAILED rc1 rc2 rscd

説明: 指定された PUBLISH USERID にログオンできませんでした。このメッセージの後には、SAF エラー・メッセージを伴う別のメッセージが続きます。

ユーザーの処置: Streams ルーチンは打ち切られます。指定されたユーザー ID が正しいことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: db2id は公開ソースの DB2 システム名、usid は USERID パラメーター値、rc1 はセキュリティ・モジュールの戻りコード、rc2 は RACF (SAF) 戻りコード、rscd は RACF (SAF) 理由コード。

HLV2408E Streams plan plan not defined TO db2id

説明: 指定されたプランをオープンしようとして、戻りコード 8、理由コード 00F30040 を受け取りました。

ユーザーの処置: Streams ソース・タスクは打ち切られます。指定されたプランがバインド済みであることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: plan は Streams によって使用されるプラン、db2id は公開ソースの DB2 システム名。

HLV2409 I srctype %2 Streams source task now starting

説明: DEFINE PUBLISH TYPE(DB2) タスクが開始しています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: srctype は公開ソースのタイプ。

HLV2410 I Streams destination task for destid starting

説明: DEFINE PUBLISH DESTINATION タスクが開始しています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: destid は公開宛先名。

HLV2411W PUBLISH - service OF desc FAILED, RC=rc

説明: 公開タスクの初期化または終了中に呼び出された内部サービス・ルーチンがゼロ以外の戻りコードで終了しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の公開タスクの初期化または終了の問題について記述する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する可能性があります。また、ストレージ割り振りのエラーまたは異常終了がないかについても確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、割り振り、削除など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV2412 I Streams taskid task for destid terminating

説明: DEFINE PUBLISH タスクが終了しています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: taskid はタスク・タイプ、destid は公開宛先名。

**HLV2413T data1 data2 data3 data4 data5 data6
data7 data8 data9 %SK**

説明: Streams の DB2 ルーチンをトレースします。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data1、data2、data3、data4、data5、data6、data7、data8、data9 はそれぞれトレース・データ、stack はスタックのトレース情報。

**HLV2414W UNABLE TO FIND DATASET NAME
FOR DDNAME ddname**

説明: Streams の宛先が、リストされた DD 名のデータ・セット名にアクセスできません。ここでは XML フォーマット情報が含まれています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddname は障害が発生した DD 名。

**HLV2415E CANNOT SERIALIZE ON db2id
QUALIFIER qualifier**

説明: 製品のこのコピーが使用しようとしているイベント・パブリッシャー DB2 表を、製品の別のコピーが使用していると思われる。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: db2id は DB2 システム、qualifier は DB2 システム内の表修飾子。

**HLV2416S Streams support not configured - it
cannot be initialized**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV2417E Invalid return from Streams rule
ruleid 'retval'**

説明: Streams イベントの SEF ルールが構文上無効な戻り値を返しました。そのイベントは公開されませんでした。

ユーザーの処置: SEF ルールを訂正し、再試行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ruleid は SEF ルール名、retval はルールからの無効な RETURN 値。

**HLV2418T PUBLISH ITEM rowid FOR SOURCE
srcid - error - STATUS=status RC=rc
REASON=reason DIAG=diag %8 -
FAILED**

説明: 特定の項目の更新を公開しようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーの訂正を試みてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rowid は更新のキー・フィールド、srcid はソースの ID、error はエラー・テキスト、status は状況コード、rc は戻りコード、reason は理由コード、diag は追加の診断情報。

**HLV2419T PUBLISH DESTINATION dest
FAILURE error - STATUS=status
RC=rc REASON=reason DIAG=diag
%7 - WILL RETRY**

説明: 特定の項目の更新を公開しようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーの訂正を試みてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dest は宛先の名前、error はエラー・テキスト、status は状況コード、rc は戻りコード、reason は理由コード、diag は追加の診断情報。

**HLV2420E DB2 db2id CONTENTION ON table
CODE -sqlcode - WILL RETRY
LATER**

説明: Streams 表のいずれかにアクセスしようとしてタイムアウトが検出されました。

ユーザーの処置: なし。Streams が要求を再試行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: db2id は DB2 システム ID、table は表名、sqlcode は SQL 戻りコード。

**HLV2421E DUPLICATE PUBLISH OF keyfield
(HTX) TO destination IGNORED**

説明: Streams ルールが特定の宛先に対して同じ更新の発送を複数回試みました。最初のインスタンスのみが公開されました。

ユーザーの処置: SEF ルールを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: keyfield は HTX パッケージの宛先。

HLV2422E MACHINE machine (machine) IS USING UNKNOWN PROTOCOL 'requested'

説明: 保管済みの ODBC 生成の宛先が、サポートされないプロトコルを要求しています。その宛先は無視されます。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
machine は ID、machine は索引、requested はプロトコル。

HLV2423E MACHINE machine (machine) DOES NOT HAVE A SAVED URL

説明: 保管済みの ODBC 生成 TCPIP 宛先に、保管済み URL がありません。

ユーザーの処置: クライアント・プロセスによって ENABLETRANSMISSIONS ODBC 呼び出しを再発行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
machine は ID、machine は索引。

HLV2424E MACHINE machine (machine) INVALID URL 'URL' - detailed

説明: 保管済みの ODBC 生成 TCPIP 宛先に無効な保管済み URL があります。

ユーザーの処置: クライアント・プロセスによって ENABLETRANSMISSIONS ODBC 呼び出しを再発行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
machine は ID、machine は索引、URL は URL、detailed はエラー・コード。

HLV2425E WORKTABLE UPDATE FOR keyfield destination FAILED - ROW NO LONGER EXISTS

説明: 特定の項目の公開に関する据え置き状況を作業表に反映できませんでした。その項目を記述する行が存在しなくなっているためです。

ユーザーの処置: 状況が「未処理」であるときにその行が削除された場合は、無視してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
keyfield は宛先マシン。

HLV2426E MACHINE machine (machine) DOES NOT HAVE A SAVED MQ NAME

説明: 保管済みの ODBC 生成 MQSeries 宛先に、保管済みのターゲット MQ 名がありません。

ユーザーの処置: クライアント・プロセスによって ENABLETRANSMISSIONS ODBC 呼び出しを再発行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
machine は ID、machine は索引。

HLV2427E Task <task> not started - not licensed for feature.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV2428E <task> SOURCE TASK PARAMETER MQREPLYQNAME mqreplyqname IGNORED - NOT LICENSED FOR USE

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV2429E NON-REPORT MQ MESSAGE RECEIVED ON mqreplyqname (start) - IGNORED

説明: MQREPLYQNAME で状況レポート以外の MQSeries メッセージを受け取りました。

ユーザーの処置: Streams 以外で MQREPLYQNAME MQSeries Q が MQREPLYQNAME として使用されていないことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
mqreplyqname はテキストの最初。

HLV2430E source MQSERIES MQ FAILURE ON mqreplyqname RC=return REASON=reason - error

説明: 作業ファイルにレポート・メッセージを記録しようとして、予期しない MQSeries 障害が発生しました。

ユーザーの処置: MQREPLYQNAME が MQSeries カ

タログ内で正しく定義されていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source は MQ 関数の名前、mqreplyqname、戻りコード、理由コード、エラーの説明。

HLV2431 I CICS Streams exitname exit enabled

説明: CICS PLTPI フェーズ 3 の初期化中に、Streams CICS グローバル・ユーザー出口が使用可能になりました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、exitname は出口名。

HLV2432E UNRECOGNIZED MQ REPORT MESSAGE RECEIVED ON mqreplyqname (correlation)

説明: MQSeries レポート・メッセージに認識されない関連 ID 値がありました。

ユーザーの処置: Streams 以外で MQREPLYQNAME MQSeries Q が MQREPLYQNAME として使用されていないことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mqreplyqname は関連 ID。

HLV2433E EVENT DEFINITION BUILD FAILED FOR source event data

説明: データ・マップからイベント定義を作成しようとしているときに、Streams ソース・タスクの初期化が失敗しました。

ユーザーの処置: イベント定義で使用されているデータ・マップが正しく、また、キャプチャーされるデータのレイアウトと一致していることを確認してください。IMS/DB マップの場合は、データ・フィールドを定義する COBOL マップが正常にマージされていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source は名前、event は名前、data はマップ名。

HLV2434W task task DB2 EVENT TABLE ROWNUM percentage %% FULL

説明: 指定された公開タスクの EVENT 表 DTRIGGERTABLE の列名 ROWNUM に、使用可能な範囲の限度に近づいている値があります。範囲内の使用可能な数値が使い尽くされる前に、リセットを行う必要

があります。範囲は 1 から 2147483647 までです。メッセージに示されているパーセンテージは、その範囲のうちの使用済みの量を示しています。

ユーザーの処置: ソース・タスクを静止するか製品を停止し、TRIGGERTABLE の DROP を行い、適切な TRIGGERTABLE の CREATE を行ってください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、task はタイプ、percentage はパーセンテージ。

HLV2436S CICS error inquiring CICS system information for Streams - EIBRESP: CICS

説明: Streams PLTPI プログラムが、CICS システム情報の問い合わせ中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: おそらく CICS エラーです。システム・ログを調べてエラーを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、CICS は EIB 応答コード。

HLV2437S CICS error enabling Streams exit program program for exit exit - EIBRESP: CICS

説明: Streams PLTPI プログラムが、Streams 出口プログラムを使用可能にしているときにエラーを検出しました。

ユーザーの処置: その出口プログラムが CICS に対して正しく定義されていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、program は名前、exit は名前、CICS は EIB 応答コード。

HLV2438S CICS error extracting GWA address for Streams program program - EIBRESP: CICS

説明: Streams PLTPI プログラムが、出口プログラムのグローバル作業域アドレスを抽出しているときにエラーを検出しました。

ユーザーの処置: おそらく CICS エラーです。システム・ログを調べてエラーを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、program は名前、CICS は EIB 応答コード。

HLV2439 I VSAM capture not enabled, already being processed by subsystem Owning

説明: VSAM のキャプチャーは既に別の製品サブシステムによって処理されています。VSAM イベントをキャプチャーできる製品サブシステムは 1 つのみです。

ユーザーの処置: 通知メッセージです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Owning はサブシステム名。

HLV2440 I VSAM event capture enabled

説明: この製品サブシステムでは VSAM イベントのキャプチャーが使用可能になっています。

ユーザーの処置: 通知メッセージです。

HLV2441E Error in enabling VSAM event capture, RC=Return

説明: VSAM イベントのキャプチャーを使用可能にしているときに、エラーが検出されました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Return は戻りコード。

HLV2443T VSAM caller is in key callers and only key 8 callers are supported, VSAM capture terminated.

説明: VSAM キャプチャーではキー 8 プログラムのみがサポートされます。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: callers は実行キー。

HLV2444E VSAM capture prefix not set, VSAM capture not enabled

説明: VSAM イベントをキャプチャーするには、キャプチャー接頭部 (PUBLISHVSAMPREFIX) を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV2445S CICS error operation Streams exit program program - EIBRESP: CICS

説明: Streams PLT プログラムが、ユーザー出口プログラムの開始または停止中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: その出口プログラムが CICS に対して正しく定義されていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、operation は STARTING|STOPPING、program は名前、CICS は EIB 応答コード。

HLV2446 I CICS enabling Streams exit program for exit exit

説明: Streams PLTPI プログラムが出口プログラムを使用可能にしようとしています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、program は NAME、exit は名前。

HLV2447 I CICS operation Streams exit program program

説明: Streams PLT プログラムが、出口プログラムを開始または停止しようとしています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、operation は STARTING|STOPPING、program は NAME。

HLV2448 I CICS Streams exit program program operation

説明: Streams グローバル・ユーザー出口プログラムが開始または停止されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、program は NAME、operation は STARTED|STOPPED。

HLV2449 I Unable to create capture file name, RC = return, REC = reason, SSIRC = return

説明: VSAM キャプチャー・ファイルを作成しようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 戻りコードと理由コードはメッセージ IDC3009I に記載されています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はキャプチャー・ファイルの名前、return はカタログ管理からの戻りコード、reason はカタログ管理からの理由コード、return は SMS SSI 呼び出しからの戻りコード。

HLV2450 I Unable to allocate capture file name, RC = error, REC = info

説明: VSAM キャプチャー・ファイルを割り振ろうとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 戻りコードと理由コードは「Authorized Assembler Services Guide」に記載されています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はキャプチャー・ファイルの名前、error は動的割り振りからのエラー・コード、info は動的割り振りからの情報コード。

HLV2451 I Unable to open capture file name, RC = return

説明: VSAM キャプチャー・ファイルをオープンしようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 戻りコードは「Macro Instructions for Data Sets」に記載されています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はキャプチャー・ファイルの名前、return はオープンでの戻りコード。

HLV2452 I Capture file name is not SMS managed, but SMS is required for the capture file

説明: キャプチャー・ファイルは非 SMS ですが、キャプチャー・ファイルには SMS 管理が必要です。

ユーザーの処置: データ・セットの SMS 管理が必要とされているように SMS ACS ルールを変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はキャプチャー・ファイルの名前。

HLV2453S Streams work file not allocated - Streams source task terminated

説明: Streams グローバル・ユーザー出口が、イベント・ファイルにイベント・レコードを書き込もうとしています。

ユーザーの処置: ファイルが CICS に対して正しく割り振られ、定義されていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams は CICS ソース名。

HLV2454E task task TASK NOT STARTED - MQSERIES NOT ACTIVE

説明: 指定された公開タスクは、MQSeries がアクティブでないため開始できませんでした。

ユーザーの処置: MQSeries がシステムでアクティブであること、および Streams 初期化 EXEC が MQACTIVE パラメーターを YES に設定していることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、task はタイプ。

HLV2455E task task type FILE, NAME name VERSION MISMATCH, EXPECTED expected, FOUND found

説明: 指定された公開タスクを開始できませんでした。ファイルに、このリリースではサポートされないバージョン番号のデータが含まれていたためです。

ユーザーの処置: Streams で適切な EVENT、WORK、または DB2 ファイルが使用されていることを確認してください。示されたファイルの作成に別のバージョンが使用されたと考えられます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、task はタイプ、type はファイルのタイプ、name はファイルの名前、expected はバージョン番号、found はバージョン番号。

HLV2456W task task WORK FILE, DDNAME dd percentage %% FULL

説明: 指定された公開タスクの WORK ファイルに、使用可能スペースのうちの指定されたパーセンテージを使用するレコードがあります。残りのスペースがこのメッセージで示されている量より少ない可能性があります。

ユーザーの処置: 正常な動作を続けるために十分なフリー・スペースが WORK ファイルにあることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、task はタイプ、dd は WORK ファイルの名前、percentage はパーセンテージ。

**HLV2457E task task WORK FILE, DSNAME
dataset COMPLETELY FULL**

説明: 指定された公開タスクの WORK ファイルがレコードで満杯になっているため、VSAM が追加のレコードの書き込みを拒否しました。公開ソース・タスクは停止しました。

ユーザーの処置: WORK ファイルに使用できるスペースを増やしてください。WORK ファイルに追加のエクステンツが割り振られている可能性がある場合は、この WORK ファイルがあるボリューム (複数の場合もあり) 上の使用可能スペースを増やしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、task はタイプ、dataset はファイル名。

**HLV2458E SOURCE NAME task NOT ACTIVE
OR NOT FOUND**

説明: 指定された名前のアクティブな公開ソース・タスクが見つかりませんでした。要求されたアクションは完了しませんでした。

ユーザーの処置: アクティブなソース・タスクの名前を要求に入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前。

**HLV2459E UNICODE CONVERSION for table
FROM source TO target NOT
SUPPORTED**

説明: このシステムの Unicode 変換サービスは、Streams の定義に必要なデータ変換をサポートするように構成されていません。

ユーザーの処置: リストされた CCSID 間のコード・ページ変換をサポートするように、z/OS Unicode 変換サービスを再構成してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: table は名前、source は CCSID、target は CCSID。

**HLV2460E THE ZEVRAW SPECIFICATION ON
EVENT DEFINITION source event
REQUIRES THE RAW DATA
OPTION**

説明: イベント定義で ZEVRAW フォーマットが要求されました。これには、生データ・オプションを選択すること、またはソースまたはイベント定義にルールを指定することが必要です。

ユーザーの処置: ソースまたはイベント定義を編集してイベント・ルーティングに関するルールを指定するか、

またはイベント定義で生データ・オプションを選択してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source は名前、event は定義名。

**HLV2461S Error loading Streams program -
program**

説明: Streams PLT プログラムが、指定されたプログラムをロードしようとしてエラーを検出しました。

ユーザーの処置: そのプログラムが CICS に対して正しく定義されていることを確認してください。サンプルの CICS 定義が配布されており、CNTL ライブラリーの CICSCSD メンバーに入っています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: program は名前。

**HLV2462E EVENT DATA TOO LONG FOR
source event data**

説明: データ・マップからイベント定義を作成しようとしているときに、Streams ソース・タスクの初期化が失敗しました。

ユーザーの処置: イベント定義で使用されているデータ・マップが正しく、また、キャプチャーされるデータのレイアウトと一致していることを確認してください。IMS/DB マップの場合は、データ・フィールドを定義する COBOL マップが正常にマージされていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source は名前、event は名前、data はマップ名。

**HLV2463E DATA CAPTURE CHANGES NOT
DEFINED FOR event table table**

説明: DB2 表のイベント定義を作成しようとしているときに、Streams ソース・タスクの初期化が失敗しました。

ユーザーの処置: イベント定義によって参照されている表の DATACAPTURE 属性がオンになっていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: event は名前、table は修飾子、table は名前。

**HLV2464E MONITOR2 and TRACE Authority are
required for user ID <userid>.**

説明: Streams DB2 IFI ソース・タスク・ユーザー ID には、START MONITOR TRACE コマンドを発行するために DB2 SYSOPR 権限が必要です。

ユーザーの処置: DB2 IFI ソース定義に指定されているユーザー ID に、SYSOPR 権限が付与されていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ユーザー ID。

HLV2465 I Streams native VSAM capture not enabled

説明: この製品サブシステムでは VSAM イベントのキャプチャーが使用可能になっていません。

ユーザーの処置: 通知メッセージです。

HLV2466W task task WORK FILE, DDNAME dd EXTENDED, NOW percentage %% FULL

説明: 指定された公開タスクの WORK ファイルに、使用可能スペースのうちの指定されたパーセンテージを使用するレコードがあります。使用済みパーセンテージが減少し、データ・セットが拡張されたことを示しています。

ユーザーの処置: WORK ファイルを含むボリュームに、正常な動作を続けるために必要な WORK ファイルの追加拡張を可能にする、十分なフリー・スペースがあることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、task はタイプ、dd は WORK ファイルの名前、percentage はパーセンテージ。

HLV2467E MORE THAN ONE EVENT TABLE CANNOT BE ACTIVE FOR SOURCEtask. ALL ACTIVE EVENT TABLES FOLLOW.

説明: 1 つの Streams ソース・タスクで、複数のイベント表にアクティブとマーク付けされています。一度にアクティブとマーク付けできるイベント表は 1 つのみです。アクティブなイベント表のリストがこの後に示されます。

ユーザーの処置: アクティブとマーク付けされているイベント表が 1 つのみであることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前。

HLV2468E Streams source task, event table Event in map Map marked active.

説明: 指定された公開ソース・タスクで、このイベント表にアクティブとマーク付けされています。一度にアク

ティブとマーク付けできるイベント表は 1 つのみです。

ユーザーの処置: アクティブとマーク付けされているイベント表が 1 つのみであることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、Event は表名、Map は表を含む名前。

HLV2469E Streams source task, event table Event in map Map, cannot find map Map.

説明: このソースの指定されたイベント表がマップを参照していますが、そのマップが見つからないか、アクティブでないか、またはイベント公開に使用できません。

ユーザーの処置: イベント表がアクティブなマップを参照していること、および各マップがイベント公開に使用可能であることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、Event は表名、Map は表を含む名前、Map は見つからなかった名前。

HLV2470S Streams IMS source task Streams not activated - RRS not enabled

説明: Streams のグローバル IMS ソース・タスクを活動化できませんでした。この Streams サーバーで RRS が有効でなかったためです。

ユーザーの処置: RRS(YES) を指定するようにサーバーの初期化パラメーターを変更し、サーバーを再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams は IMS ソース名。

HLV2471S Streams IMS source task Streams not activated - EVENTQ not defined

説明: Streams の IMS ソース・タスクを活動化できませんでした。必要な MQSeries イベント・リポジトリが正しく定義されていなかったためです。

ユーザーの処置: サーバーの初期化パラメーターで ZEV.EVENTQ の DEFINE SEM_ENDPOINT 指定を訂正し、サーバーを再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams は IMS ソース名。

HLV2472 I Streams Capture successful/failed return reason

説明: Streams キャプチャー・プロセスによって汎用デバッグ・メッセージが発行されました。キャプチャー・プロセス・ロード・ライブラリー内に SDPHDEBUG ロ

ード・モジュールが存在すると、これらのデバッグ・メッセージが発行されます。SDPHDBUG を作成するには、製品のサンプル・ライブラリーにあるメンバー ZEVDBUG を編集し、必要なデバッグ・トレース・オプションを設定し、SDPHDBUG としてアセンブルおよびリンクを行います。

ユーザーの処置: メンバー SDPHDBUG を除去してこれらのメッセージが発行されないようにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams はキャプチャー・ルーチン名、Capture は操作、successful/failed は成功/失敗、return は失敗した場合の戻りコード、reason は失敗した場合の理由コード。

HLV2473 I Streams text1 text2 text3 text4

説明: Streams キャプチャー・プロセスの初期化によって汎用デバッグ・メッセージが発行されました。キャプチャー・プロセス・ロード・ライブラリー内に SDPHDBUG ロード・モジュールが存在すると、これらのデバッグ・メッセージが発行されます。SDPHDBUG を作成するには、製品のサンプル・ライブラリーにあるメンバー ZEVDBUG を編集し、必要なデバッグ・トレース・オプションを設定し、SDPHDBUG としてアセンブルおよびリンクを行います。

ユーザーの処置: メンバー SDPHDBUG を除去してこれらのメッセージが発行されないようにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams はキャプチャー・ルーチン名、さらに text1、text2、text3、text4 のテキストがあります。

HLV2474 I Streams text1 text2 text3 text4

説明: Streams イベント・キャプチャーによって汎用デバッグ・メッセージが発行されました。キャプチャー・プロセス・ロード・ライブラリー内に SDPHDBUG ロード・モジュールが存在すると、これらのデバッグ・メッセージが発行されます。SDPHDBUG を作成するには、製品のサンプル・ライブラリーにあるメンバー ZEVDBUG を編集し、必要なデバッグ・トレース・オプションを設定し、SDPHDBUG としてアセンブルおよびリンクを行います。

ユーザーの処置: メンバー SDPHDBUG を除去してこれらのメッセージが発行されないようにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams はキャプチャー・ルーチン名、さらに text1、text2、text3、text4 のテキストがあります。

HLV2475 I Streams Blocksize:maximum Blocklen:length Blockid:blockid

説明: Streams イベント・キャプチャーによってログ・ストリーム・デバッグ・メッセージが発行されました。キャプチャー・プロセス・ロード・ライブラリー内に SDPHDBUG ロード・モジュールが存在すると、これらのデバッグ・メッセージが発行されます。SDPHDBUG を作成するには、製品のサンプル・ライブラリーにあるメンバー ZEVDBUG を編集し、必要なデバッグ・トレース・オプションを設定し、SDPHDBUG としてアセンブルおよびリンクを行います。

ユーザーの処置: メンバー SDPHDBUG を除去してこれらのメッセージが発行されないようにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams はキャプチャー・ルーチン名、maximum はキャプチャー・ログ・ストリームのブロック・サイズ、length は現行ブロックの長さ、blockid は現行ブロックのブロック ID。

HLV2476 I Streams Streamtoken:%1

説明: Streams イベント・キャプチャーによってログ・ストリーム・デバッグ・メッセージが発行されました。キャプチャー・プロセス・ロード・ライブラリー内に SDPHDBUG ロード・モジュールが存在すると、これらのデバッグ・メッセージが発行されます。SDPHDBUG を作成するには、製品のサンプル・ライブラリーにあるメンバー ZEVDBUG を編集し、必要なデバッグ・トレース・オプションを設定し、SDPHDBUG としてアセンブルおよびリンクを行います。

ユーザーの処置: メンバー SDPHDBUG を除去してこれらのメッセージが発行されないようにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams はキャプチャー・ルーチン名、Logstream はトークン。

HLV2477 I Streams text1 text2 text3 text4

説明: Streams イベント・キャプチャーによって汎用デバッグ・メッセージが発行されました。キャプチャー・プロセス・ロード・ライブラリー内に SDPHDBUG ロード・モジュールが存在すると、これらのデバッグ・メッセージが発行されます。SDPHDBUG を作成するには、製品のサンプル・ライブラリーにあるメンバー ZEVDBUG を編集し、必要なデバッグ・トレース・オプションを設定し、SDPHDBUG としてアセンブルおよびリンクを行います。

ユーザーの処置: メンバー SDPHDBUG を除去してこれらのメッセージが発行されないようにしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams

はキャプチャー・ルーチン名、さらに text1、text2、text3、text4 のテキストがあります。

HLV2478E task task TASK NOT STARTED - STRNO STRNO TOO SMALL

説明: 指定された公開タスクは、始動時に十分な VSAM スtringが割り振られていなかったために開始できませんでした。

ユーザーの処置: PUBLISHSTRNO 値が Streams の SOURCE タスクの数より大きい値であることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: task は名前、task はタイプ、STRNO は値。

HLV2479S CICS ERROR OBTAINING CONTAINER DATA FOR CICS - EIBRESP: CICS

説明: Streams の CICS イベント処理アダプターが、チャンネル・コンテナからデータを取得しているときにエラーを検出しました。

ユーザーの処置: おそらく CICS エラーです。システム・ログを調べてエラーを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、CICS はコンテナ名、CICS は EIB 応答コード。

HLV2480 I Streams server version Server does not match DB2 function version Function

説明: DB2 イベントを公開するように構成された Streams サーバーが、Streams の DB2 wake_publish 機能のバージョンと一致していません。

ユーザーの処置: wake publish 機能のロード・モジュール (SDD2PCRU) の正しいバージョンが DB2 RUNLIB 内にあることを確認し、Streams サーバーが同じレベルであることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Server はバージョン、Function はバージョン。

HLV2481 I CICS Streams version V.R.L High High High

説明: Streams の CICS ロード・ライブラリーの保守レベル情報。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS はジョブ名、V.R.L は例えば 05.01.00、High は SVFX 番号、High は日付、High は時刻。

HLV2482T RENDEZVOUS CALL FAILED - RC=rc1 REAS=rscd - ENCLAVE RC=rc2 FEEDBACK=(fc1 fc2 fc3)

説明: Tibco Rendezvous 宛先にメッセージを送信しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 失敗の原因を示す他のメッセージがあるか確認し、可能であれば問題を解決してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc1 は Rendezvous インターフェースの戻りコード、rscd は Rendezvous インターフェースの理由コード、rc2 は LE/370 エンクレーブ・マネージャーの戻りコード、fc1、fc2、fc3 はそれぞれ LE/370 エンクレーブ終了フィールドバック・コード。

HLV2483T Streams Streams parameter not specified

説明: ファイルのデータ・セット名接頭部が指定されていませんでした。このファイルを割り振ることはできません。

ユーザーの処置: サーバー初期化 EXEC (xxxxIN00) 内でパラメーターが正しく指定されていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams はパラメーター。

HLV2484T Capture Streams Name/Token Operation Result for Token

説明: Streams キャプチャー・プロセスが名前/トークン操作を試みました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Capture はプロセスのジョブ名操作 (CREATE/RETRIEVE/DELETE)、Result は SUCCEEDED/FAILED、Token は名前。

HLV2485 I Streams DB2 FUNCTION VERSION Exit Exit Exit

説明: Streams DB2 出口の保守レベル情報。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Exit はバージョン、Exit はアセンブル日、Exit はアセンブル時刻。

**HLV2486 I Streams Streams improper version
Version found Version**

説明: Streams は不適切なバージョンを含むレコードを検出しました。

ユーザーの処置: 不適切なレコードは削除されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: Streams はソース名、Version は Streams のバージョン、Version は検出されたレコードのバージョン。

HLV2487T PUBLISH LOGON FAILED - msg

説明: PUBLISH LOGON が以下の理由で失敗しました。

ユーザーの処置: Streams ルーチンは打ち切られます。指定されたユーザー ID が正しいことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg は RACF (SAF) からのエラー・メッセージ・テキスト。

**HLV2488R REPLY 'GO' TO CONTINUE, OR
'CANCEL' TO TERMINATE Streams
Initialization**

説明: このメッセージは、PUBLISHIMSUEX1 パラメーターによって指定された IMS データ・キャプチャー・ユーザー出口をロードしようとして失敗したときに発行されます。正しい出口プログラム名が指定されていること、およびそのプログラムが Streams サーバーのロード・ライブラリーにコピーされていることを確認してください。ユーザーの応答を待機している間に 2 分を超えた場合、または無効な応答を 3 回行った場合、デフォルト・アクションである CANCEL が実行されません。

ユーザーの処置: Streams サーバーの初期化を続行するには「GO」と応答し、Streams サーバーの初期化を終了する場合は CANCEL と応答してください。

**HLV2489E Invalid Streams initialization reply:
'reply'**

説明: Streams 初期化コンソール・メッセージに対して無効な応答が指定されました。ユーザーが正しく応答できるように、エラーの原因となったメッセージが再発行されます。同じメッセージに対して無効な応答を 3 回行くと、デフォルト・アクションが実行されます。デフォルト・アクションの説明については、元のメッセージの説明を参照してください。

ユーザーの処置: メッセージのテキストから適切な応答を判別し、正しく応答してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: reply は応答テキスト。

**HLV2490E Streams reply wait exceeded 2
minutes. Default used**

説明: 製品が Streams 初期化メッセージへの応答を待機している時間が 2 分を超えました。その時間の間に応答されなかったため、デフォルト・アクションが実行されました。

ユーザーの処置: なし。応答が必要だった場合は、メッセージに迅速に応答する必要があります。

**HLV2491E 3 Invalid Streams replies. Default
taken**

説明: Streams 初期化メッセージに無効な応答が 3 回行われました。正しい応答を受け取らなかったため、デフォルト・アクションが実行されました。

ユーザーの処置: なし。次回は必要とされる応答を行ってください。

HLV2492 I Streams not active on this server

説明: Streams 制御タスクにアクセスしようとしたのですが、それがアクティブではありませんでした。

ユーザーの処置: サーバーが Streams サーバーとして意図されている場合は、サーバーの IN00 初期化パラメーターを確認してください。

**HLV2493E Streams TASK name UNABLE TO
oper LOGSTREAM name, RC=rc,
RSN=rsn**

説明: Streams タスクが MVS ログ・ストリームで操作を試みましたが、成功しませんでした。

ユーザーの処置: ログ・ストリーム機能の戻りコードと理由コードから問題を判別し、エラーを訂正してください。これらのコードは、SYS1.MACLIB(IXGCON) 内、および「z/OS MVS アセンブラー・サービス解説書」内の IXGxxxx マクロ戻りコードの項に記載されています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はタスク名、oper は実行された操作、name はログ・ストリーム名、rc はログ・ストリーム機能の戻りコード、rsn はログ・ストリーム機能の理由コード。

**HLV2494W INVALID RECORD FOUND IN name
LOGSTREAM name, FOUND STATUS
status, TO dest. KEY key**

説明: Streams タスクが、その MVS ログ・ストリーム内に、状況と宛先名が無効なレコードを検出しました。このレコードは破棄されます。

ユーザーの処置: 他のログ・ストリーム・アクティビティを調べて、データが他の何らかのプログラムのデータによって壊されていないことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はタスク名、name はログ・ストリーム名、status はレコードで見つかった状況コード、dest. はレコードで見つかった宛先名、key はレコードで見つかったタイム・スタンプ。

**HLV2495W TASK name LOG name MISSING
REPLY, STATUS status, DEST. dest.,
KEY key**

説明: Streams タスクは MQSeries の確認を受け取りましたが、それがタスクのログ・ストリーム内の次のレコードと一致していませんでした。このレコードは破棄されます。

ユーザーの処置: 他の MQSeries アクティビティを調べて、メッセージまたは応答が誤って破棄されていないことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はタスク名、name はログ・ストリーム名、status はレコードで見つかった状況コード、dest. はレコードで見つかった宛先名、key はレコードで見つかったタイム・スタンプ。

**HLV2496W TASK name LOG name RECORD
WITH STATUS status, DEST. dest.,
KEY key, CONFIRMATION
ARRIVED, RECORD MISSING**

説明: Streams タスクは MQSeries の確認を受け取りましたが、それがタスクのログ・ストリーム内の次のレコードと一致していませんでした。この確認は破棄されます。

ユーザーの処置: 他のログ・ストリーム・アクティビティを調べて、メッセージが誤って破棄されていないことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name はタスク名、name はログ・ストリーム名、status は検出されているべき状況コード、dest. は検出されているべき宛先名、key は検出されているべきタイム・スタンプ。

HLV2497W Logstream operation text

説明: ログ・ストリームの操作で戻りコードを受け取りました。このメッセージは戻りコードと理由コードを説明しようとしています。

ユーザーの処置: 他のログ・ストリーム・メッセージを調べて問題を判別してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text は戻りコード/理由コードの説明。

**HLV2498T Streams does not support Tibco
Rendezvous destinations**

説明: Tibco Rendezvous の宛先がサポートされていません。

ユーザーの処置: Tibco Rendezvous の宛先を削除してください。

**HLV2499T Streams does not support Oracle
destinations**

説明: Oracle の宛先がサポートされていません。

ユーザーの処置: Oracle の宛先を削除してください。

HLV2500T source COPYWORK time time

説明: Streams のトレース・レコード。イベントがトリガー表から作業ファイルにコピーされました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、COPYWORK、time は更新時刻、time はレコードがコピーされた時刻。

HLV2501T source RUNRULES

説明: Streams のトレース・レコード。イベント・プロセッサが、作業ファイル内でレコードに関する SEF ルールを実行しています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、RUNRULES。

HLV2502T source DYNDEST time id idx

説明: Streams のトレース・レコード。動的 JCA 1.5 宛先に関するイベントが処理されています。JCS 1.5 アダプター・リクエストの ID がトレースされます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、DYNDEST、time は更新の

HLV2503T • HLV2521T

KEYFIELD、 id はマシン ID、 idx はマシンの索引番号。

HLV2503T dest SENDPLUP-RESTART

説明: Streams のトレース・レコード。宛先に対して、イベント・ソースの処理が再始動されています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dest は宛先名、 SENDPLUP-RESTART。

HLV2504T source MQMARK

説明: Streams のトレース・レコード。イベント・ソースの MQSeries 処理で、更新レコードの現在の状況にマーク付けが行われています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、 MQMARK。

HLV2505T source SENDITEM dest time

説明: Streams のトレース・レコード。イベントが、宛先への送信キューに入れられています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、 SENDITEM、 dest は宛先名、 time は更新の KEYFIELD。

HLV2506T source DOPRUNE time count

説明: Streams のトレース・レコード。古い公開レコードが作業ファイルから除去されています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、 DOPRUNE、 time は除去操作の時刻、 count は除去されたレコードの数。

HLV2507T source WAITABIT caller time SECONDS

説明: Streams のトレース・レコード。Streams タスクが後続の作業を待機しています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、 WAITABIT、 caller は待機ルーチンを呼び出したサブルーチン、 time は待機秒数、 SECONDS。

HLV2508T source PREPROC dest time urid

説明: Streams のトレース・レコード。Streams タスクが、宛先に送信するために更新を前処理しています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、 PREPROC、 dest は宛先名、 time は更新の KEYFIELD、 urid は更新の URID (ある場合)。

HLV2509T source PREPROC **SKIP** time

説明: Streams のトレース・レコード。Streams タスク・プリプロセッサが、どの宛先にも更新を送信してはならないと判断しました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、 PREPROC、 **SKIP** は選択された宛先がないこと、 time は更新の KEYFIELD。

HLV2510T source POSTPROC dest time rc urid

説明: Streams のトレース・レコード。Streams タスクが更新の後処理を行っています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース名、 POSTPROC、 dest は宛先名、 time は更新の KEYFIELD、 rc は更新の状況コード、 urid は更新の URID (ある場合)。

HLV2520T ENABLETRANSMISSIONS dest name

説明: Streams のトレース・レコード。Streams が JCA 1.5 インターフェースの動的宛先への送信を有効にしています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ENABLETRANSMISSIONS、 dest は宛先名、 name はマシン名。

HLV2521T DISABLETRANSMISSIONS dest name

説明: Streams のトレース・レコード。Streams が JCA 1.5 インターフェースの動的宛先への送信を無効にしています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: DISABLETRANSMISSIONS、 dest は宛先名、 name はマシン名。

HLV2530T ADDCOLUMN name value

説明: Streams のトレース・レコード。Streams JCA 1.5 アダプター・インターフェースが公開データの列を追加しています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ADDCOLUMN、 name は列名、 value は列値。

HLV2531T ADDTOPIC name

説明: Streams のトレース・レコード。Streams JCA 1.5 アダプター・インターフェースが MQ ブローカー処理のトピックを追加しています。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ADDTOPIC、 name はトピック名。

HLV2540T source capture EVENT CAPTURE type operation mapname

説明: Streams のトレース・レコード。Streams キャプチャー・プロセスがイベントをキャプチャーしました。そのイベントに関連するデータが Streams サーバーによって所有されているデータベースに保管されました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース・タスク名、 capture はキャプチャー・プロセス名、 type はデータ・タイプ、 operation は変更タイプ、 mapname はイベント・マップ名。

HLV2541T source capture EVENT BUILD type operation mapname

説明: Streams のトレース・レコード。Streams キャプチャー・プロセスが、Streams サーバーによって所有されているデータベース内にイベント・レコードを作成しました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース・タスク名、 capture はキャプチャー・プロセス名、 type はデータ・タイプ、 operation は変更タイプ、 mapname はイベント・マップ名。

HLV2542T source capture EVENT POST type operation mapname

説明: Streams のトレース・レコード。Streams キャプチャー・プロセスが、Streams サーバーでソース・タスクを通知しました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース・タスク名、 capture はキャプチャー・プロセス名、 type はデータ・タイプ、 operation は変更タイプ、 mapname はイベント・マップ名。

HLV2543T source capture EVENT BACKOUT type operation mapname

説明: Streams のトレース・レコード。Streams キャプチャー・プロセスが、イベントの保管済みデータをバックアウトしました。このイベントは破棄されます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース・タスク名、 capture はキャプチャー・プロセス名、 type はデータ・タイプ、 operation は変更タイプ、 mapname はイベント・マップ名。

HLV2544W source CATALOG SEARCH ERROR, RC=rc REASON=reason ID=mod TYPE=var1, ENTRY=var2

説明: Streams が CSI カタログ検索インターフェースを使用してアーカイブ・データ・セットのカタログを検索しているときに、エラーを検出しました。このエントリーはスキップされます。

ユーザーの処置: 示された診断情報を使用して、VSAM カタログにエラーがないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: source はソース・タスク名、 rc は戻りコード、 reason は理由コード、 mod は IBM モジュール ID、 var1 はエントリー・タイプ・コード、 var2 はエントリー名。

HLV2545E Invalid Streams service request received

説明: Streams メインタスクが無効なサービス要求を受け取りました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV2600T ABEND abcd RS=rscd OCCURRED AT var1+var1. FUNCTION CODE=var1.

説明: セキュリティー最適化マネージャー要求の処理中に ABEND が発生しました。

ユーザーの処置: ルーチンは呼び出し元にエラーをシグナルで通知し、可能であれば処理を続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd

は異常終了完了コード、rscd は異常終了理由コード、var1 は異常終了しているモジュールの名前、var1 は異常終了しているモジュールのオフセット、var1 は機能コード。

HLV2606E Security optimization processing is terminated

説明: 内部処理エラーが原因でセキュリティ最適化処理が終了しました。製品はセキュリティ・オプティマイザーを使用せずに動作を続けます。

ユーザーの処置: セキュリティ・オプティマイザーを使用して実行する場合は、製品を停止し、再始動する必要があります。

HLV2607 I Security server ENF signal 71 not available

説明: セキュリティ最適化での、イベント通知機能シグナル (ENF) 71 (RACF ユーザー・プロファイルの変更) の listen 要求が失敗しました。イベントは通知なしで動作を続けます。

ユーザーの処置: このメッセージに付随する他のメッセージを調べてください。使用しているセキュリティ・サーバーが ENF シグナル 71 をサポートしない場合は、セキュリティ・サーバー製品のベンダーに詳細を確認してください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

HLV2608W SOM RACF new password exit is not installed

説明: Security Optimization Management (SOM) の初期化で、製品の RACF 新規パスワード出口 S_ICHPWX が ICHPWX01 ロード・モジュールの一部としてインストールされていることを検証できませんでした。

ユーザーの処置: 製品は実行を続けます。この出口は、製品以外のアプリケーションへのログオン中に行われたパスワード変更を検出します。ユーザーは、SOM キャッシュ・エントリーの有効期限が切れるまで、引き続き製品で古いパスワードを使用できます。製品のログオン中に行われたパスワード変更はこの出口なしで認識され、SOM は他のすべての製品サーバーに、このユーザーのパスワードが変更されたことをシグナルで通知します。

HLV2620 I Security optimizer entry for user ID <userid> was expired.

説明: セキュリティ最適化キャッシュ内のユーザー ID のエントリーを期限切れにする要求が正常に行われました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid はユーザー ID。

HLV2621 I Security optimization is not active

説明: セキュリティ最適化エントリーを期限切れにする要求は、セキュリティ最適化がアクティブでないため処理できませんでした。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV2622 I User ID <userid> was not located by the security optimizer.

説明: ユーザー ID が見つからなかったため、セキュリティ・オプティマイザー・エントリーを期限切れにする要求を処理できませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid はユーザー ID。

HLV2623 I Security optimizer processing abended

説明: 期限切れ要求の処理中にセキュリティ最適化マネージャーが異常終了しました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV3000T recovery LEVEL level errdesc=abcd
REASON CODE=reason TIME=t2
SEQ=sqno CPU=cpu ASID=asid**

説明: 製品は異常終了エラーを検出しました。現在のメッセージが異常終了に関する一部の情報を提供します。このメッセージを他のメッセージとともに参照することで、現在の異常終了エラーに関する詳しい説明が得られるはずですが。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生

成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
recovery は「ESTAE」、「FRR」、または「ARR」、level はレベル番号、errdesc はエラーの説明、abcd は異常終了コード、reason は理由コードまたは「UNKNOWN」、sqno はシーケンス番号、cpu は CPUID 番号、asid はアドレス・スペース ID。

HLV3001S func errdesc, ABEND abcd AT mod+off

説明: 製品の ESTAE ルーチンが、それによって呼び出されたルーチンで異常終了を検出しました。メッセージがこの異常終了エラーについて説明します。製品の ESTAE ルーチンは、引き続き元のエラーからのリカバリーを試みます。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は現行機能、errdesc はエラーの説明、abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV3002T Data at PSW PSWData

説明: 製品は異常終了エラーを検出しました。現在のメッセージが異常終了に関する一部の情報を提供します。このメッセージを他のメッセージとともに参照することで、現在の異常終了エラーに関する詳しい説明が得られるはずです。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
PSWData は PSW のアドレスとデータ。

HLV3005S ESTAE level level ESTAE func error RC=rc

説明: 製品の ESTAE ルーチンが、ESTAE マクロを発行して自らを保護しようとした。その ESTAE がゼロ以外の戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ESTAE ルーチンは自らの ESTAE なしで実行を続けます。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: level はレベル番号、func は現行機能、rc は戻りコード。

HLV3006T PSW at time of error fpsw ILC ilc INTC intc

説明: 製品の ESTAE ルーチンが異常終了エラーを検出しました。このエラーには製品固有のリカバリーがありません。ESTAE ルーチンは、障害のある PSW を表示することで、その異常終了エラーを文書に記録しようとした。このメッセージは現在の異常終了エラーの記述に使用されるミニダンプの一部です。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージとともに他のエラー・メッセージ (ミニダンプ以外) が生成されたかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: fpsw はフォーマット済み z/Architecture® PSW、ilc は命令長コード、intc は割り込みコード。

HLV3007T Current routine name=mod address=addr offset=off

説明: 製品の ESTAE ルーチンが異常終了エラーを検出しました。このエラーには製品固有のリカバリーがありません。ESTAE ルーチンは、障害のある PSW とレジスターを表示することで、その異常終了エラーを文書に記録しようとした。このメッセージは現在の異常終了エラーの記述に使用されるミニダンプの一部です。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージとともに他のエラー・メッセージ (ミニダンプ以外) が生成されたかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡

HLV3008T • HLV3022S

して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名、addr はアドレス、off はモジュールのオフセット。

HLV3008T var1 regs

説明: 製品の ESTAE ルーチンが異常終了エラーを検出しました。このエラーには製品固有のリカバリーがありません。ESTAE ルーチンは、障害のある PSW とレジスターを表示することで、その異常終了エラーを文書に記録しようとしていました。このメッセージは現在の異常終了エラーの記述に使用されるミニダンプの一部です。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージとともに他のエラー・メッセージ (ミニダンプ以外) が生成されたかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 は「AR/GR」または「GR」、regs はレジスターの内容。

HLV3009T mod ctype mod+off

説明: 製品の ESTAE ルーチンが異常終了エラーを検出しました。このエラーには製品固有のリカバリーがありません。ESTAE ルーチンは、現在のルーチンの呼び出し側モジュールのシーケンスを表示することで、その異常終了エラーを文書に記録しようとしていました。このメッセージは現在の異常終了エラーの記述に使用されるミニダンプの一部です。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージとともに他のエラー・メッセージ (ミニダンプ以外) が生成されたかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名、ctype は呼び出しタイプ、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV3010T Too many entries

説明: 製品の ESTAE ルーチンが異常終了エラーを検出しました。モジュール呼び出しトレース (メッセージ 3009T) を生成しているときに、ループの限度に達しました。製品はモジュール呼び出しトレース・メッセージの発行を停止し、他の処理に進みます。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージとともに他のエラー・メッセージ (ミニダンプ以外) が生成されたかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV3020S INVALID STRING ADDRESS straddr, DETECTED ad

説明: トークン化ルーチンに対する要求で、無効なストリング・アドレスが渡されました。パラメーター・リスト内のアドレスがゼロ以下でした。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、地域担当のソフトウェア・サポート・グループに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: straddr はルーチンに渡された無効なストリング・アドレス。

HLV3021S INVALID STRING LENGTH num, DETECTED ad

説明: トークン化ルーチンに対する要求で渡されたストリングの長さが、ストリングの許容最大長を超えています。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num はストリングの長さの最大値。

HLV3022S TOKENIZATION LOGIC ERROR, DETECTED ad

説明: トークン化ルーチンが、現在の要求の処理中に論理エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して、こ

の問題に関する支援を受けてください。

**HLV3030E servrtn errdesc FAILED, RC=rc,
 DETECTED AT ad**

説明: 製品の共通サブルーチンのいずれかで、何らかのタイプのエラーが発生しました。説明については、メッセージの実際のテキストを参照してください。このエラーは、サブルーチンによって要求されたオペレーティング・システム・サービス内の障害が原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: servrtn はサービス・ルーチン、errdesc はエラーの説明、rc は戻りコード。

**HLV3031E ABEND abcd IN servrtn, REASON
 CODE=rscd, CALLED BY cs**

説明: 製品の共通サブルーチンのいずれかで異常終了が発生しました。異常終了コードとサービス・ルーチンはメッセージ・テキストに示されています。このエラーは、サブルーチンによって要求されたオペレーティング・システム・サービス内の障害が原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、servrtn はサービス・ルーチン、rscd は理由コード。

**HLV3032T INVALID INPUT COMMUNICATION
 BUFFER PREFIX READ - blksize**

説明: クライアント・アプリケーションから無効なバッファ接頭部が読み取られました。バッファ接頭部が負の値であったか、入力バッファの最大サイズを超えていました。

ユーザーの処置: クライアント・システムへの接続は終了します。クライアント・アプリケーションがエラーを報告する可能性があります。クライアント・システムのエラー・メッセージが発行されていないか確認してくだ

さい。障害が続く場合はソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: blksize はブロック・サイズ。

**HLV3033T DATASPACE CREATED, NAME=dspc,
 CALLED BY cs**

説明: データの一時ストレージ用に MVS データ・スペースが作成されました。スペース名はメッセージに示されています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dspc データ・スペース名。

**HLV3034T DATASPACE DELETED, NAME=dspc,
 CALLED BY cs**

説明: MVS データ・スペースが削除されました。スペース・トークンはメッセージに示されています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dspc データ・スペース名。

**HLV3035T DATASPACE EXTENDED,
 NAME=dspc, CALLED BY cs**

説明: MVS データ・スペースが拡張されました。データ・スペース内のストレージがすべて使用されたため、追加のストレージが割り振られました。スペース・トークンはメッセージに示されています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dspc データ・スペース名。

**HLV3036T DATASPACE RELEASED,
 NAME=dspc, CALLED BY cs**

説明: MVS データ・スペース内のストレージが解放されました。そのストレージは不要になったものです。スペース・トークンはメッセージに示されています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dspc データ・スペース名。

**HLV3037T DATASPACE func FAILED,
NAME=dspc, RETURN CODE=rc,
REASON CODE = rscd,CALLED BY
cs**

説明: データ・スペース機能が失敗しました。戻りコードと理由コードはメッセージに示されています。スペース・トークンはメッセージに示されています。

ユーザーの処置: インストール先制限が障害の原因となった可能性があります。インストール済み環境の IEFUSI 出口によって設定された制限を調べて、それが障害の原因だったかどうかを確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func はデータ・スペース機能名、dspc はデータ・スペース名、rc は戻りコード、rscd は理由コード。

**HLV3038T ALET CREATED, NAME=dspc,
ALET=alet, CALLED BY cs**

説明: データ・スペースにアクセスするための ALET が作成されました。スペース・トークンはメッセージに示されています。作成された ALET はメッセージに示されています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dspc はデータ・スペース名、alet は ALET。

**HLV3039T ALET DELETED, NAME=dspc,
ALET=alet, CALLED BY cs**

説明: データ・スペースにアクセスするための ALET が削除されました。スペース・トークンはメッセージに示されています。削除された ALET はメッセージに示されています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dspc はデータ・スペース名、alet は ALET。

**HLV3040T ALESERV func FAILED, NAME=dspc,
RETURN CODE=rc, REASON CODE
= rscd,CALLED BY cs**

説明: ALESERV 機能が失敗しました。戻りコードと理由コードはメッセージに示されています。スペース・トークンはメッセージに示されています。

ユーザーの処置: インストール先制限が障害の原因とな

った可能性があります。インストール済み環境の IEFUSI 出口によって設定された制限を調べて、それが障害の原因だったかどうかを確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は ALESERV 機能名、dspc はデータ・スペース名、rc は戻りコード、rscd は理由コード。

**HLV3041T ABEND abcd IN servrtn, REASON
CODE=rscd, NAME=dspc, ALET=alet,
CALLED BY cs**

説明: データ・スペースの操作中に異常終了が検出されました。異常終了コードとサービス・ルーチンはメッセージ・テキストに示されています。このエラーは、サブルーチンによって要求されたオペレーティング・システム・サービス内の障害が原因で発生した可能性があります。スペース・トークンはメッセージに示されています。ALET があればメッセージに示されます。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。リカバリー状況によっては、このメッセージが無視される場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、servrtn はサービス・ルーチン、rscd は理由コード、dspc はデータ・スペース名、alet は ALET。

HLV3042S Module 'mod' is not AMODE(31)

説明: AMODE(31) でロードしなければならないモジュールが、代わりに AMODE(24) または AMODE(64) を使用してロードされました。これは重大なエラーです。RPC やユーザー・レコード出口などの多くのモジュールでは、AMODE(31) しか認められていません。

ユーザーの処置: AMODE(31) を使用してモジュールを再リンクします (これ以外の変更も必要な場合があります)。アプリケーションを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名。

**HLV3043S MODULE 'mod' LOAD FAILED,
ABEND=abcd, REASON CODE=rscd**

説明: モジュールをロードできませんでした。ロードは異常終了エラーで失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと理由コードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名、abcd は異常終了コード、rscd は理由コード。

**HLV3044S MODULE 'mod' DELETE FAILED,
RETURN CODE=rc**

説明: モジュールを削除できませんでした。削除はゼロ以外の戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと理由コードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名、rc は戻りコード。

**HLV3060S INVALID PC FUNCTION CODE func,
DETECTED AT ad**

説明: 製品のスペース切り替え PC ルーチンが、無効な機能コードを使用して呼び出されました。システム内にリリース・レベルの異なる複数の製品コピーが存在するときに、誤った製品サブシステム ID が要求で指定されたことが、この原因の可能性があります。

ユーザーの処置: 製品のスペース切り替え PC ルーチンが呼び出されるきっかけとなった要求が、正しい製品サブシステムに発行されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は機能コード。

HLV3061E service ABEND abcd AT mod+off

説明: 製品のスペース切り替え PC ルーチンで異常終了障害が発生しました。このエラー・メッセージに異常終了コードと異常終了の場所が記載されています。この障害は、呼び出しルーチン内またはスペース切り替え PC ルーチン内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (READ/WRITE など)、abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

**HLV3062E service desc FAILED RC=rc,
DETECTED AT ad**

説明: これは、さまざまなエラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行の操作 (SYSEVENT など) desc 説明 rc 戻りコード

HLV3063E obj action FAILED, DETECTED AT ad

説明: スペース切り替え PC ルーチンが、その呼び出し元によって渡されたパラメーター・リストをスペース切り替えモードでアクセス可能なストレージにコピーしようとしていますが、そのターゲット・ストレージ域の大きさが十分でないことを検出しました。

ユーザーの処置: これは内部の製品エラー状態です。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: obj は plist、action はコピー。

**HLV3070S func (code) SERVICE errdesc cmprc
rscd loc mod+off creg15**

説明: 製品のスタッキング PC 機能が、無効な方法で呼び出されたか、無効な環境状態で呼び出されたか、または実行中に異常終了しました。

ユーザーの処置: スタッキング・スペース切り替え PC ルーチンが呼び出されるきっかけとなった要求が、正しい製品サブシステムに発行されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は PC 副次機能の説明、code は PC ルーチン副次機能コード、errdesc はエラーの説明、cmprc は完了コードまたは戻りコード、rscd は理由コード、loc はエラーまたは障害の場所、mod は障害が起こったモジュール、off は障害が起こったオフセット、creg15 は制御レジスター 15 (ある場合) またはゼロ。

**HLV3071T func (code) SERVICE errdesc cmprc
rscd loc mod+off creg15**

説明: 製品のスタッキング PC 機能が、無効な方法で呼び出されたか、無効な環境状態で呼び出されたか、または実行中に異常終了しました。これはメッセージ 3070S と同じですが、トレースに書き込まれます。

ユーザーの処置: スタッキング・スペース切り替え PC ルーチンが呼び出されるきっかけとなった要求が、正しい製品サブシステムに発行されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は PC 副次機能の説明、code は PC ルーチン副次機能コード、errdesc はエラーの説明、cmprc は完了コードまたは戻りコード、rscd は理由コード、loc はエラーまたは障害の場所、mod は障害が起こったモジュール、off は障害が起こったオフセット、creg15 は制御レジスター 15 (ある場合) またはゼロ。

HLV3080E text FAILED FOR usid RC=rc AT ad

説明: 現在のサーバー・アドレス・スペースに対するログオフが、現在ログオンしているユーザー以外のユーザーによって試みられました。現在のサーバー・アドレス・スペースが終了し、新たなサーバー・アドレス・スペースが開始されます。

ユーザーの処置: サーバーに関して問題が検出された場合、製品はサーバーを取り消して再始動します。これは製品の通常の動作です。現在の ABEND が単独で発生したのか製品によって引き起こされたのかを確認し、それぞれ適切に問題を解決してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text は現行操作のテキスト・ストリング、usid はユーザー ID、rc は戻りコード。

**HLV3081T TSO SERVER IN ASID asid var1 var2
var3 var4**

説明: これは、サブシステム・データ・セット読み取り/書き込みルーチンによって発行されたトレース・メッセージです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: asid は TSO サーバーのアドレス・スペース ID、var1、var2、var3、var4 はそれぞれ可変トレース情報。

**HLV3082W OUTPUT LIMIT EXCEEDED (value
LINES) - CANCEL SELF WITH S722**

説明: 製品の TSO サーバー・アドレス・スペースで実行されている TSO コマンドが、TSOSRVMAXLINES パラメーターに指定されているサーバー・コマンドの出力行の制限を超えました。

ユーザーの処置: コマンドを変更して出力の行数を減らすか、TSOSRVMAXOUTPUTLINES 値を増やしてください。TSO サーバーは S722 完了コードで自らを取り消して、現在のコマンドの処理を打ち切ります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value は TSO コマンドの出力行の制限。

**HLV3083S Command requested more input -
command aborted**

説明: 製品のサーバーでは、サブコマンド・モードでの追加入力が必要なコマンドはサポートされません。

ユーザーの処置: サブコマンドの入力が不要になるようにコマンド・プロセッサを変更してください。

HLV3084W service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、製品の TSOSRV サブシステム・インターフェースの読み取り/書き込みインターフェース・ルーチンによって検出されたさまざまなエラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで

示された問題を修正して製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は通知、desc は説明 (例えば、TSO 実行プロセッサ一)、rc は戻りコード。

HLV3085H jb A=asid1 (asid2) TSO server terminated by request

説明: 製品のサーバー・アドレス・スペースが終了要求を受け取りました。これは、シャットダウン時、または TSO サーバーを制御するパラメーター (MIN 値または MAX 値) のいずれかが変更されたときに発生する可能性があります。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: jb はジョブ名、asid1 は 10 進数でのアドレス・スペース ID、asid2 は 16 進数でのアドレス・スペース ID。

HLV3086H LOGON of usid to TSO server failed - RC=rc1 (rc2) Reason=rscd

説明: 製品の TSO サーバー・アドレス・スペースへの、示されたクライアント・ユーザー ID による LOGON ができませんでした。現在のコマンドはパイパスされます。

ユーザーの処置: クライアント・ユーザー ID のログオンが失敗した理由を判別し、コマンドを再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid はクライアント・ユーザー ID、rc1 は SAF インターフェースの戻りコード、rc2 は RACF の戻りコード、rscd は RACF の理由コード。

HLV3087H Requestor has revoked command request - cancel self with S622

説明: 製品の TSO サーバー・アドレス・スペースが、TSO コマンドの結果を返そうとしているときに、要求側タスクにバインドできませんでした。サーバーは要求を破棄し、622 完了コードで自らを取り消して要求の追加処理を強制終了します。

ユーザーの処置: 要求側タスクが要求を破棄した理由を判別し、要求を再実行依頼してください。要求側タスクが要求への応答の待機中にタイムアウトになった可能性があります。

HLV3100S Invalid text insertion address - msg addr mnoff

説明: 製品のメッセージ・フォーマット・ルーチンが、それに渡されたデータ・アドレス内でエラーを検出しました。データ・アドレスが無効であるため、製品のメッセージを送信できません。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。オフセットは、無効データを渡した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージ番号、addr はアドレス、mnoff はモジュールの名前とオフセット。

HLV3101S Message number num not found - mnoff

説明: 製品のメッセージ・フォーマット・ルーチンが、製品のメッセージ・テーブル内で、それに渡されたメッセージ番号を見つけられませんでした。メッセージ番号が見つからなかったため、製品のメッセージを送信できません。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。このエラーの原因は、呼び出しルーチンが無効なメッセージ番号を渡したこと、またはメッセージ・テーブル内のエラーです。オフセットは、見つからなかったメッセージ番号を渡した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。メッセージ・テーブルのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num は番号、mnoff はモジュールの名前とオフセット。

**HLV3102S Invalid message text variable - msg
"varname" mnoff**

説明: 製品のメッセージ・フォーマット・ルーチンが、メッセージ・スケルトン内で見つかった置換変数 (「%」) を処理できませんでした。置換変数を処理できなかったため、製品のメッセージを送信できません。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。このエラーの原因は、メッセージ・テーブル内のプログラミング・エラーです。オフセットは、メッセージ・フォーマット・ルーチンを呼び出した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。メッセージ・テーブルのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージ番号、varname は変数、mnoff はモジュールの名前とオフセット。

**HLV3103S Invalid text insertion data length -
msg mnoff**

説明: 製品のメッセージ・フォーマット・ルーチンが、メッセージ・スケルトン内で見つかった置換変数の長さ部分 (「%()」) を処理できませんでした。置換変数を処理できなかったため、製品のメッセージを送信できません。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。このエラーの原因は、メッセージ・テーブル内のプログラミング・エラーです。オフセットは、メッセージ・フォーマット・ルーチンを呼び出した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。メッセージ・テーブルのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージ番号、mnoff はモジュールの名前とオフセット。

**HLV3104S Invalid text insertion data type - msg
mnoff**

説明: 製品のメッセージ・フォーマット・ルーチンが、呼び出しルーチンによって無効なデータ・タイプ値がそれに渡されたことを検出しました。データ・タイプ値が無効であるため、製品のメッセージを送信できません。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。このエラーの原因は、呼び出しルーチン内のプログラミング・エラーです。オフセットは、無効なデータ・タイプ値を渡した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。メッセージ・テーブルのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージ番号、mnoff はモジュールの名前とオフセット。

**HLV3105S Output message buffer overflow - msg
mnoff**

説明: 製品のメッセージ・フォーマット・ルーチンは、現在のメッセージが出力バッファに収まらないことを検出しました。バッファ・オーバーフロー状態になっているため、製品のメッセージを送信できません。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。このエラーの原因は、呼び出しルーチン内のプログラミング・エラー、またはメッセージ・テーブルのエラーです。オフセットは、メッセージ・フォーマット・ルーチンを呼び出した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。呼び出しモジュールのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。また、メッセージ・テーブルのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号も確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成された他のエラー・メッセージがあるかどうかを確認してください。この問

題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg はメッセージ番号、mnoff はモジュールの名前とオフセット。

HLV3106S Invalid packed decimal for text insertion - ivdata mnoff

説明: 製品のメッセージ・フォーマット・ルーチンが、呼び出しルーチンによって無効な 10 進データ値がそれに渡されていたことを検出しました。10 進データ値が無効であるため、製品のメッセージを送信できません。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。このエラーの原因は、呼び出しルーチン内のプログラミング・エラーです。オフセットは、メッセージ・フォーマット・ルーチンを呼び出した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。呼び出しモジュールのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成された他のエラー・メッセージがあるかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ivdata は無効なデータ値、mnoff はモジュールの名前とオフセット。

HLV3107S INVALID REPLY PARAMETER - mnoff

説明: 製品のメッセージ・フォーマット・ルーチンが、メッセージ・テーブルで WTOR としてマーク付けされていないメッセージに対する応答域がそれに渡されていたことを検出しました。この論理的不整合のために、製品のメッセージを送信できません。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。このエラーの原因は、呼び出しルーチン内のプログラミング・エラー、またはメッセージ・テーブルのエラーです。オフセットは、メッセージ・フォーマット・ルーチンを呼び出した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。呼び出しモジュールのアセン

ブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。また、メッセージ・テーブルのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号も確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成された他のエラー・メッセージがあるかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mnoff はモジュールの名前とオフセット。

HLV3108S INVALID REPLY AREA LENGTH - rplen mnoff

説明: ユーザーが入力したデータ値は、呼び出しルーチンによって渡された応答域には長すぎました。このエラーはメッセージ・フォーマット・ルーチンによって検出されました。このエラーの原因は、呼び出しルーチン内のプログラミング・エラーです。オフセットは、メッセージ・フォーマット・ルーチンを呼び出した呼び出しルーチンの場所になります。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。呼び出しモジュールのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成された他のエラー・メッセージがあるかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rplen は応答域の長さ、mnoff はモジュールの名前とオフセット。

HLV3109E INTERNAL ERROR DETECTED AT OPSNMG + X'off', RC = X'rc'

説明: メッセージ・フォーマット・ルーチンが重大な内部エラーを検出しました。例えば、システム・サービスがゼロ以外の戻りコードで失敗したか、異常終了が発生した可能性があります。この状況は、他の何らかのエラーが発生した可能性があっても、現在のエラーのために、そのエラー・メッセージが送信されなかったことを意味します。このエラーの原因は、呼び出しルーチン内のプログラミング・エラー、またはメッセージ・テーブルのエラーです。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。呼び出しモジュールのアセンブル時間、日付、およびバージョン番号を確認してください。また、メッセージ・テーブルのアセンブル時間、

日付、およびバージョン番号も確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成された他のエラー・メッセージがあるかどうかを確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: off はモジュールのオフセット、rc は戻りコード。

**HLV3110 I data1 data2 data3 data4 data5 data6
data7 data8 data9 data10**

説明: 有効化/クローズ/強制の結果をリストします。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

data1 はトレース・データ、
data2 はトレース・データ、
data3 はトレース・データ、
data4 はトレース・データ、
data5 はトレース・データ、
data6 はトレース・データ、
data7 はトレース・データ、
data8 はトレース・データ、
data9 はトレース・データ、
data10 はトレース・データ。

**HLV3111 I data1 for data2 not found for data3
command.**

説明: VSAM ファイル・コマンドの処理中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: コマンドを訂正し、再入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

data1 はエラーの説明、
data2 はデータ・セット名、
data3 は入力されたコマンド。

**HLV3119T data1 data2 data3 data4 data5 data6
data7 data8 data9 %SK**

説明: オープン/クローズ機能をトレースします。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data1、data2、data3、data4、data5、data6、data7、data8、data9 はそれぞれトレース・データ、stack はスタックのトレース情報。

**HLV3120S am service FAILED FOR
DDNAME=ddn, DSNAME=dsn**

説明: 指定されたデータ・セットのオープンを試みましたが失敗しました。

ユーザーの処置: この試みが失敗した理由を判別してください。失敗の理由を判別できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: am はアクセス方式 (QSAM、BSAM、またはBPAM)、service はオープン、ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名。

**HLV3121S RECORD SIZE size INVALID,
LRECL=lrecl, BLKSIZE=blksize,
DDNAME=ddn, DSNAME=dsn**

説明: WRITE/PUT 操作中、製品の入出力ルーチンにレコード・サイズが無効なレコードが渡されました。そのレコード・サイズは 0 であるか、または示されたデータ・セットに許容されている最大論理レコード・サイズ (LRECL) を超えています。

ユーザーの処置: この障害の理由の判別を試みてください。障害の理由を判別できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: size は現在のレコードのサイズ、lrecl は DCB からの LRECL、blksize は DCB からの BLKSIZE、ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名。

**HLV3122S VSAM service FAILED, RC=rc, field1
FIELD=field2, DDNAME=ddn,
DSNAME=dsn**

説明: 製品の汎用入出力処理ルーチンが、VSAM データ・セットのオープンを試みましたが、その VSAM OPEN は失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージ・テキストを確認してください。戻りコードに基づいて、OPEN が失敗した原因を判別してください。現在のデータ・セットに明らかなエラーがないか調べてください。上記の問題を修正し、再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は操作のタイプ (OPEN)、rc は戻りコード、field1 は ACB または RPL フィールド名、field2 は ACB または RPL フィールド値、ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名。

**HLV3123S UNSUPPORTED obj TYPE,
DDNAME=ddn, DSNAME=dsn**

説明: 製品の汎用入出力ルーチンに、サポートされない DSORG または RECFM が渡されました。

ユーザーの処置: 指定されたデータ・セットに、サポートされているデータ・セット編成 (DSORG) またはレコード・フォーマット (RECFM) があることを確認してください。失敗の理由を判別できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: obj はオブジェクト (DSORG または RECFM)、ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名。

**HLV3124S SHOWCAT FAILED, RC=rc,
DDNAME=ddn, DSNAME=dsn**

説明: 製品の汎用入出力処理ルーチンがデータ・セットから必要なメッセージ・データをリストしようとしたが、SHOWCAT 操作が上記の戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージ・テキストを確認してください。戻りコードに基づいて、SHOWCAT 操作が失敗した原因を判別してください。上記の問題を修正し、再始動します。追加支援を受けるには、地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード、ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名。

**HLV3125S INVALID VSAM OBJECT ("obj"),
DDNAME=ddn, DSNAME=dsn**

説明: VSAM データ・セットの処理中に、製品の汎用入出力処理ルーチンはオブジェクトが無効であることを検出しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージ・テキストを確認してください。VSAM オブジェクトを検証し、その整合性を分析してください。現在のデータ・セットの定義にエラーがないか調べます。データ・セットが正しく定義されていること、およびそれに関する他のエラーが存在しないことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: obj は VSAM データ・オブジェクト、ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名。

**HLV3126E DYNAMIC ALLOCATION FAILED,
RC=rc, ERROR CODE=ec, INFO
CODE=rscd, DDNAME=ddn,
DSNAME=dsn**

説明: データ・セットを動的に割り振ろうとして失敗しました。このエラー・メッセージには、失敗した要求に関連する情報が含まれています。

ユーザーの処置: メッセージに含まれる情報を検討し、問題の訂正を試みてください。コードに関する情報を得るには IBM の資料を参照してください。この情報を検討しても問題を修正できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード、ec はエラー・コード、rscd は情報の理由コード、ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名。

**HLV3127S VSAM service FAILED, RC=rc,
DDNAME=ddn, DSNAME=dsn**

説明: 製品の汎用入出力処理ルーチンが、現在の VSAM データ・セットの検査エラー・メッセージを表示できませんでした。操作は失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージ・テキストを確認してください。VSAM データ・セットを検証し、その整合性を分析してください。現在のデータ・セットの定義に関するエラーがないか調べます。データ・セットが正しく定義されていること、およびそれに関する他のエラーが存在しないことを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は操作のタイプ (CHECK)、rc は戻りコード、ddn は DD 名、dsn は DS 名 (データ・セット名)。

**HLV3128E service desc FAILED RC=rc,
DETECTED AT ad**

説明: これは、さまざまな入出力関連エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc は説明、rc は戻りコード。

HLV3129E service desc

説明: これは、さまざまな入出力関連エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行操作および現行操作で実行しようとしていた内容を示します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)、desc はエラーの説明。

**HLV3130E DYNAMIC ALLOCATION
COMMAND ERROR. desc cmd**

説明: 動的割り振り/割り振り解除コマンドの形式が無効です。このメッセージに、誤りのある 1 つ以上のパラメーターに関連する情報が記載されています。

ユーザーの処置: メッセージに含まれる情報を検討し、コマンド・フォーマットを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc はコマンド・パーサーのエラー・メッセージ、cmd は動的割り振り/割り振り解除コマンド。

**HLV3131E DESERV GET_ALL FAILED: RC=rc
RSN=rscd - ddname-index:dsname**

説明: ディレクトリー・エントリー情報を取得するために DESERV マクロを発行しているときに、システムが予期しない戻りコードと理由コードを返しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は DESERV マクロからの戻りコード、rscd は FUNC=GET_ALL サービスからの理由コード、ddname は製品のファイル・ブロックからの DD 名、index はエラー発生時の連結索引、dsname は製品のファイル・ブロックからの DS 名。

**HLV3132E HFS service FAILED FOR 'path' -
RC=rc (name1), RSN=rscd (name2) -
desc1 / desc2**

説明: パスによって示されているエンティティーのオープン・エディション HFS サービスを呼び出しているとき

に、システムが予期しない戻りコードと理由コードを返しました。

ユーザーの処置: 戻りコードと理由コードの意味については、該当するオープン・エディションの資料を調べてください。エラーの原因を簡単に判別できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はサービス名、path はパス名、rc はオープン・エディション・サービスからの戻りコード、name1 はオープン・エディション・サービスからの ERRNO 名ストリング、rscd はオープン・エディション・サービスからの理由コード、name2 はオープン・エディション・サービスからの JERRNO 名ストリング、desc1 は ERRNO の説明、desc2 は JERRNO の説明。

**HLV3133E HFS service FAILED FOR 'path' -
desc1 var1**

説明: パスによって示されているエンティティーのオープン・エディション HFS サービスを呼び出しているときに、サーバー・インターフェースでエラーが検出されました。

ユーザーの処置: このメッセージおよび他のメッセージを参照してもエラーを容易に判別できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service はサービス名、path はパス名、desc1 はエラーの説明、var1 は可変情報。

**HLV3134 I DSNAMES Library directory empty
(DDN=DDNAME)**

説明: PDS(E) データ・セット・ディレクトリーを読み取ろうとしているときに、入出力サービス・ルーチンは PDS(E) ディレクトリーが空であることを検出しました。

ユーザーの処置: PDS(E) ディレクトリーが空である状態は、アクセスされているライブラリーにより、正常な場合も問題を表す場合もあります。空のディレクトリーが異常な状態であるために問題が生じた場合、この通知メッセージがその解決に役立つ可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: DSNAMES はデータ・セット名、DDNAME はライブラリー割り振りの DD 名。

**HLV3135E DYNAMIC DEALLOCATION FAILED,
RC=rc, ERROR CODE=ec, INFO
CODE=rscd, DDNAME=ddn,
DSNAME=dsn**

説明: データ・セットを動的に解放しようとして失敗しました。このエラー・メッセージには、失敗した要求に関連する情報が含まれています。

ユーザーの処置: メッセージに含まれる情報を検討し、問題の訂正を試みてください。コードに関する情報を得るには IBM の資料を参照してください。この情報を検討しても問題を修正できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc は戻りコード、ec はエラー・コード、rscd は情報の理由コード、ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名。

HLV3136T User record exits cannot be loaded because DDNAME name is not allocated. Exits: pgm and pgm

説明: HLVRPCLB DD ステートメントが割り振られていないため、ユーザー・レコード読み取り後または書き込み前 (あるいはこの両方の) 出口ルーチンをロードしようとして失敗しました。ユーザー・レコード出口ルーチンは S_RPCLB ライブラリーに入っていなければなりません。

ユーザーの処置: HLVRPCLB DD ステートメントを含めるように、製品のサーバー開始タスク JCL を変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name は RPC ライブラリーの DD 名、pgm は読み取り後出口プログラム名、pgm は書き込み前出口プログラム名。

HLV3137S Load for user record exit program pgm failed

説明: ユーザー・レコード読み取り後または書き込み前 (あるいはこの両方の) 出口プログラムをロードしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ユーザー・レコード読み取り後および書き込み前プログラムは、製品の HLVRPCLB DD ステートメントに割り振られたライブラリーに入っていなければなりません。JOBLOG に関連のエラー・メッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm はユーザー・レコード出口プログラム名。

HLV3138T User record exits cannot be used because the SQL feature is not configured

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV3139T Non-zero return code from user exit pgm. RC=rc

説明: ユーザー・レコード出口プログラムがゼロ以外の戻りコードを返しました。

ユーザーの処置: タスクは終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm はユーザー・レコード出口プログラム名、rc は戻りコード。

HLV3140W INVALID desc CODE func FOR service, DETECTED AT ad

説明: 製品ルーチンが、無効な機能コードを使用してシステム管理モジュールを呼び出しました。この障害は、呼び出しルーチン内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明、func は現行機能、service は現行操作。

HLV3141E rsrce ss FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: 製品のシステム管理ルーチン内で、何らかのタイプのエラーが発生しました。説明については、メッセージの実際のテキストを参照してください。このエラーは、製品のシステム管理ルーチンによって要求されたオペレーティング・システム・サービス内の障害が原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェ

HLV3142W • HLV3146S

ア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `rsrce` はリソース名、`ss` はシステム・サービス、`rc` は戻りコード。

HLV3142W Invalid ivdata FOR func, Detected at ad. Stack: %SK

説明: 製品のシステム管理ルーチン内で、何らかのタイプのエラーが発生しました。説明については、メッセージの実際のテキストを参照してください。この障害は、呼び出しルーチン内またはシステム管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `ivdata` は無効データ、`func` は現行機能。

HLV3143U DISPATCHER FAILURE DETECTED AT ad

説明: 内部製品ディスパッチャーが重大なエラーを検出しました。この障害は、システム管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV3144E rsrce ss FAILED, RC=rc, DETECTED AT rtn+off

説明: 製品のシステム管理ルーチン内で、何らかのタイプのエラーが発生しました。説明については、メッセージの実際のテキストを参照してください。このエラーは、製品のシステム管理ルーチンによって要求されたオペレーティング・システム・サービス内の障害が原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問

題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `rsrce` はリソース名、`ss` はシステム・サービス、`rc` は戻りコード、`rtn` はルーチン名、`off` はルーチンのオフセット。

HLV3145S cb ERROR SUBSYS =subsys

説明: 製品はオペレーティング・システム制御ブロックの重大なエラーを検出しました。このオペレーティング・システム制御ブロック・エラーにより、システム管理ルーチンが呼び出し元のための何らかの要求を実行できませんでした。この制御ブロック・エラーは他のシステム・エラーを引き起こす可能性があり、オペレーティング・システムの障害の原因となる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。この問題を解決するために、システムの IPL が必要になる場合があります。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `cb` は制御ブロック、`subsys` はサブシステム名。

HLV3146S EMERGENCY PRODUCT SHUTDOWN STARTED - errdesc

説明: 製品は重大なエラーが発生したためにシャットダウンしています。メッセージ・テキストにエラーの説明があります。このエラーは、製品内の異常終了障害、または製品の速度制限の超過が原因で発生した可能性があります。また、製品のプログラミング・エラーや何らかの種類のシステム障害によってこのエラーが引き起こされた可能性もあります。製品は自らをオフにし、オペレーティング・システムから切り離します。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `errdesc` はエラーの説明。

HLV3147T rsrce ss FAILED, RC=rc, DETECTED AT rtn+off

説明: 製品のシステム管理ルーチン内で、何らかのタイプのエラーが発生しました。説明については、メッセージの実際のテキストを参照してください。このエラーは、製品のシステム管理ルーチンによって要求されたオペレーティング・システム・サービス内の障害が原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題をIBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrce はリソース名、ss はシステム・サービス、rc は戻りコード、rtn はルーチン名、off はルーチンのオフセット。

HLV3148E Main product address space not active

説明: 何らかのルーチンが、メイン製品アドレス・スペースがアクティブでなければならない製品機能を使用しようとした。メイン製品アドレス・スペースがアクティブでないため、その製品機能を使用できませんでした。

ユーザーの処置: これはエラー状態の場合もそうでない場合もあります。必要に応じてメイン製品アドレス・スペースを始動または再始動します。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV3149E ENFREQ type CODE code FAILED, RC=rc. STACK: %SK

説明: z/OS イベント通知機能要求 ENFREQ が失敗しました。戻りコードの意味は、IBM Authorized Assembler Services の資料に記載されています。

ユーザーの処置: 使用しているセキュリティー・サーバーが ENF シグナル 71 をサポートしない場合は、セキュリティー・サーバー製品のベンダーに詳細を確認してください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡し、この問題に関して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: type は ENFREQ 要求タイプ、code は ENFREQ イベント・コ

ード、rc は戻りコード、stack はスタック・トレース情報。

HLV3150E INVALID desc, VALUE ivdata, DETECTED AT ad

説明: システム管理ルーチンが無効データを検出しました。このエラー・メッセージに無効データの説明があります。この障害は、呼び出しルーチン内またはシステム管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題をIBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明、ivdata は無効データ。

HLV3151H ABEND abcd IN func mod+off

説明: システム管理ルーチンが、メッセージ・キューの処理中に異常終了を検出しました。メッセージ・テキストに、異常終了コード、現行操作、および異常終了の場所が記載されています。この障害は、呼び出しルーチン内またはシステム管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。メッセージ・キューを含むアドレス・スペースが予期せずに終了した場合にも、この障害が発生します。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、func は現行機能、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV3152W errdesc1 errdesc2 errdesc3, DETECTED AT ad

説明: システム管理ルーチンが、呼び出し元のための要求の処理中にエラーを検出しました。メッセージ・テキストに障害の説明があります。この障害は、呼び出しルーチン内またはシステム管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品

のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc1、errdesc2、errdesc3 はいずれもエラーの説明。

HLV3153E ABEND abcd IN func mod+off

説明: システム管理ルーチンが、呼び出し元のためのサービスの実行中に異常終了を検出しました。メッセージ・テキストに、異常終了コード、現行操作、および異常終了の場所が記載されています。この障害は、呼び出しルーチン内またはシステム管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、func は現行機能、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

HLV3156E rsrce MISSING AND REQUIRED FOR ss, DETECTED AT ad

説明: システム管理ルーチンが、ユーザーのためのサービスの実行に必要なリソースが使用可能でないことを検出しました。エラーが原因でそのサービスを提供できません。メッセージ・テキストに、ユーザーが要求したサービスと使用可能でないリソースが示されています。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrce はリソース名、ss はシステム・サービス。

HLV3157E func ABEND abcd AT addr

説明: システム管理ルーチンが MVS サービス・ルーチン呼び出したときに、異常終了障害が発生しました。その異常終了は MVS サービス・ルーチンで発生しました。このエラー・メッセージに異常終了コードと異常終了の場所が記載されています。この障害は、呼び出しルーチン内、システム管理モジュール内、または場合によっては IBM サービス・ルーチン内のプログラミング・エラーが原因で発生しました。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は現行機能、abcd は異常終了コード、addr は異常終了が発生したアドレス。

HLV3200W INVALID SUBPOOL NUMBER=subp REQUESTED BY mod+off

説明: ストレージ管理ルーチンが、呼び出し元によって渡されたパラメーター・リスト内で無効なサブプール番号を検出しました。そのサブプール番号はストレージ管理ルーチンによってサポートされていません。ストレージ管理モジュールは、呼び出し元が要求したサービスを実行できません。このエラー・メッセージに、無効なサブプール番号および呼び出しルーチンの場所が記載されています。この障害は、呼び出しルーチン内またはストレージ管理ルーチン内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subp はストレージ・サブプール番号、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

**HLV3202W func ERROR RC=rc REQUESTED BY
mod+off, SP=subp, LEN=length, A=stg**

説明: GETMAIN または FREEMAIN 要求がゼロ以外の戻りコードで失敗しました。エラー・メッセージに、ストレージ要求タイプ (GET または FREE)、戻りコード、および呼び出しルーチンの場所が記載されています。この障害は、呼び出しルーチン内またはストレージ管理ルーチン内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 何らかのタイプのオペレーティング・システムの問題 (例えば、ストレージ不足) がこの問題の原因になった可能性があるかどうかを確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は現行機能、rc は戻りコード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット、subp は要求されたサブプール、length は要求された長さ、stg は指定されたアドレスまたはゼロ。

**HLV3204T mod+off func stype subp stg1 stg2
token**

説明: これは、製品のストレージ管理ルーチンによって生成されたストレージ・トレース・メッセージです。ストレージ・トレースは、製品のストレージ使用状況を分析し、ストレージ管理バグを検出するために使用します。これはエラー・メッセージではありません。このメッセージには、呼び出しモジュール名、呼び出しモジュールのオフセット、現行機能 (GET または FREE)、ストレージ・タイプ、サブプール番号、ストレージ域サイズ、古いストレージ合計、および新しいストレージ合計が記載されています。

ユーザーの処置: ストレージ・トレースが何らかの理由で活動化されたのかどうかを確認してください。ストレージ・トレースがアクティブであれば、このメッセージを無視してください。そうでない場合、ストレージ・トレースがメモリー・オーバーレイによって誤って活動化されました。この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット、func は現行機能、stype はストレージ・タイプ (E/CSA または E/Private)、subp はストレージ・サブプール番号、stg1 はストレージ域のサイズまたは量、stg2 はストレ

ージ域のサイズまたは量、token はストレージ・トークン (ある場合)。

**HLV3205E STORAGE ROUTINE ABEND CODE
abcd AT mod+off**

説明: ストレージ管理ルーチンが、呼び出し元のためのサービスの実行中に異常終了を検出しました。メッセージ・テキストに異常終了コードと異常終了の場所が記載されています。この障害は、呼び出しルーチン内またはストレージ管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 何らかのタイプのオペレーティング・システムの問題 (例えば、ストレージ不足) がこの問題の原因になった可能性があるかどうかを確認してください。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd は異常終了コード、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

**HLV3206S SUBPOOL subp REQUIRES GLOBAL
MASTER AT mod+off**

説明: ストレージ管理ルーチンは、メイン製品アドレス・スペースの制御ブロックを使用する場合にのみ実行できる、サブプール要求を検出しました。しかし、呼び出し元がメイン製品アドレス・スペースの制御ブロックを提供しませんでした。現在のストレージ要求はリジェクトされます。このメッセージは製品の内部エラーを示しています。この障害は、呼び出しルーチン内またはストレージ管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subp はサブプール番号、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

**HLV3207S CROSS MEMORY REQUIRES
GLOBAL MASTER AT mod+offset**

説明: ストレージ管理ルーチンは、メイン製品アドレス・スペースの制御ブロックを使用する場合にのみ実行できる、クロスメモリーの GETMAIN または FREEMAIN 要求を検出しました。しかし、呼び出し元がメイン製品アドレス・スペースの制御ブロックを提供しませんでした。現在のストレージ要求はリジェクトされます。このメッセージは製品の内部エラーを示しています。この障害は、呼び出しルーチン内またはストレージ管理モジュール内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

**HLV3208S stype1 RETURNED FOR stype2
REQUESTED BY mod+offset, SP=subp,
LEN=length**

説明: ストレージ管理ルーチンは、拡張ストレージ (16 MB 境界より上) 要求が、非拡張ストレージ (16 MB 境界より下) によって満たされたことを検出しました。この状況は、拡張ストレージ域が使い果たされ、MVS がストレージ要求を満たすために非拡張ストレージを返している場合にのみ発生します。例えば、製品は ECSA ストレージを要求していますが、ECSA はすべて割り振られてしまったため、MVS が CSA ストレージを返しています。この問題は専用ストレージでも発生する場合があります。

ユーザーの処置: これは非常に深刻なエラーであり、即時アクションが必要です。ECSA 要求に対して CSA が返されていることをメッセージが示している場合は、ECSA が使い果たされています。ECSA を解放するために、1 つ以上の製品を終了することが必要になる可能性があります。適当な時点で、割り振り対象の ECSA の量を増やす必要があると考えられます。このケースでは、製品は実行を継続できることに注意してください。ただし、CSA が使い果たされる可能性があり、それによって完全な MVS システム障害が発生します。問題が専用ストレージで発生していることがメッセージに示されている場合は、この問題についてソフトウェア・サポートに問い合わせてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stype1

はストレージ・タイプ (E/CSA または E/Private)、stype2 はストレージ・タイプ (E/CSA または E/Private)、mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット、subp は要求されたサブプール、length は要求された長さ。

**HLV3209S NO ASCB SPECIFIED FOR
TCB-LEVEL STORAGE REQUEST AT
mod+offset**

説明: ストレージ管理ルーチンは、TCB の関連付けが明示的に指定されたクロスメモリーの GETMAIN または FREEMAIN で、要求と一緒にアドレス・スペースの指定が行われなかったことを検出しました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod はモジュール名、off はモジュールのオフセット。

**HLV3210S req XFORM SP=sp LEN=len A=addr
FROM module+offset,reason**

説明: ストレージ管理ルーチンは、SRB モードのメモリーの GETMAIN または FREEMAIN 要求を内部で適切な分岐エントリー要求に変換できなかったと判断しました。変換を行わないと、要求を SRB モードで実行できません。

ユーザーの処置: ストレージの取得または解放要求はリジェクトされます。上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: req は要求タイプ、sp は元の要求のサブプール、len は元の要求の長さ、addr は元の要求のアドレス、module は呼び出しモジュールの名前、offset は呼び出しモジュールのオフセット、reason は変換が失敗した理由。

HLV3211S STG OBTAINED AT stg NOT 2al
BOUNDARY ALIGNED REQUESTED
BY module+offset**

説明: ストレージ管理ルーチンは、取得されたストレージ

ジが要求された境界に位置合わせされていないと判断しました。

ユーザーの処置: ストレージ管理ルーチンは S0C3 を生成して呼び出しプロシーチャーを異常終了させます。これは、正しく位置合わせされていないストレージが使用された場合に発生する可能性のある、後続エラーを防ぐために行われます。この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stg は取得されたストレージのアドレス、al は要求された位置合わせを表す 2 の累乗、module は呼び出しモジュールの名前、offset は呼び出しモジュールのオフセット。

HLV3212S INVALID REQUEST TO FREE ALL SUBPOOL sp STORAGE REQUESTED BY module+offset

説明: ストレージ管理ルーチンは、製品のストレージ FREEMAIN 要求がゼロのアドレスを使用して行われたと判断しました。このような要求を行うと、指定されたサブプール内のすべてのストレージが解放されます。要求側が FREEMAIN ストレージ・アドレスを誤ってゼロとして指定したか、または正当な FREEPOOL 要求のコーディングが正しく行われませんでした。

ユーザーの処置: ストレージ管理ルーチンは S0C3 を生成して呼び出しプロシーチャーを異常終了させます。これは、サブプール全体が誤って解放された場合に発生する可能性のある、後続エラーを防ぐために行われます。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sp は解放されるストレージのサブプール、module は呼び出しモジュールの名前、offset は呼び出しモジュールのオフセット。

HLV3250S service ERROR RC=rc

説明: このメッセージは、QEDIT 監視プログラム・サービスを使用しているときに検出されたさまざまなエラーについて説明しています。

ユーザーの処置: この問題は、製品またはオペレーティング・システムのいずれかの障害が原因で発生した可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service は現行操作、rc は戻りコード。

HLV3251 I cmd text

説明: このメッセージは、製品がデバッグ・モードになっているときにのみ発行されます。これは、製品に送信されたコマンドをエコー出力します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd はコマンド verb、text はメッセージ・テキスト。

HLV3252S <comp> initialization timeout detected

説明: このメッセージは、製品が SEF のフルサポートを初期化しようとして、SEF 初期化が許容時間内に完了しなかったときに発行されます。これは重大なエラーです。製品の初期化は終了されます。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: comp は製品コンポーネント (SEF、サービス)。

HLV3253 I name version ver build num subsystem subsys initialization complete

説明: これは、製品の初期化が完了したことを示す標準メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name は製品名、ver は製品のバージョン、num はビルド番号 (SVFX レベル)、subsys はサブシステム名。

HLV3254 I comp map build beginning d2 at t2 for ss

説明: このメッセージは、SQL マップの作成が完了したときに発行されます。

応答: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: comp は製品コンポーネント (SQL)。

HLV3255 I comp map build complete on d2 at t2 for ss

説明: このメッセージは、SQL マップの作成が完了したときに発行されます。

HLV3256S • HLV3303E

応答: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: comp は製品コンポーネント (SQL)。

HLV3256S SQL map build failed due to comp

説明: このメッセージは、SQL エンジン・マップ作成プロセスが許容時間 (5 分) 内に完了していないときに発行されます。これは重大なエラーです。製品の主要部分が正しく機能していない可能性があります。

応答: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: comp は製品コンポーネント (SQL)。

HLV3259E (cmd) invalid command

説明: 製品はオペレーター・コマンドを既存のコマンド・ルールと突き合わせようとしたましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: 指定されたコマンドのスペルが正しいことを確認してください。また、そのコマンドが存在し、現行コマンド・ルール・データ・セット内で使用可能になっていることも確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd はコマンド・ルール名。

HLV3260 I Server subsystem ss is an ERLY subsystem

説明: この製品は、一般に通常の製品サブシステムより前に開始され、他の (製品以外の) サブシステムによって使用される ERLY サブシステムとして開始されました。ERLY 製品サブシステムは、必要であれば SUB=MSTR で開始できます。これは通常の製品処理を実行せず、システム・リソースをほとんど使用しません。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV3300W INVALID desc CODE func FOR service, DETECTED AT ad

説明: 製品ルーチンが、無効な機能コードを使用して SQL 管理モジュールを呼び出しました。この障害は、呼び出しルーチン内のプログラミング・エラーが原因で発生した可能性があります。製品のインストールおよび

保守のエラーがこの障害の原因になる場合もあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc は説明、func は現行機能、service は現行操作。

HLV3301E PLAN pln DBRM dbrm TIMESTAMPS MISMATCH time1 time2

説明: SQL ステートメントの plist に伴うタイム・スタンプが、DBRM 内のタイム・スタンプと一致していません。SQL ステートメントを正確に表示できません。

ユーザーの処置: メイン製品ライブラリーの JCL に指定された DBRM ライブラリーが、アプリケーション・プログラム・ロード・ライブラリーと同期されていること (すなわち、ロード・ライブラリーと DBRM ライブラリーがいずれも同じバージョンのソースから生成されたこと) を確認してください。不一致を訂正し、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pln はプラン名ストリング、dbrm は DBRM 名ストリング、time1 は plist のタイム・スタンプ、time2 は DBRM のタイム・スタンプ。

HLV3302E ddn DDNAME not allocated - SQL source not available

説明: DBRM DD ステートメントが、メイン製品アドレス・スペースを開始するために使用される JCL 内に存在しません。

ユーザーの処置: DBRM DD ステートメントをメイン製品アドレス・スペースの JCL に追加してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn は DD 名 (DBRM)。

HLV3303E DBRM OPEN failed for DDNAME=ddn DSNAME=dsn RC=rc

説明: HLV は入力するために DBRM ライブラリーをオープンしようとしたましたが、オープン操作は失敗しました。実際の SQL ステートメント・テキストには、1 つ以上の DBRM が必要です。

ユーザーの処置: データ・セット、およびこのメッセージに付随している可能性のある他のメッセージを調べて

ください。問題を解決できたら、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn は DD 名、dsn はデータ・セット名、rc は入出力戻りコード。

HLV3304E Member dbrm not found in DBRM library

説明: DBRM メンバーの BLDL が失敗しました。

ユーザーの処置: DBRM ライブラリーからその DBRM が欠落している理由を判別してください。必要であれば、メインアドレス・スペースの JCL に指定されたライブラリーを変更し、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dbrm は DBRM 名。

HLV3305E func failed for MEMBER=mem DDNAME=ddn DSN=dsn RC=rc

説明: DBRM ライブラリーにアクセスしようとしているときに、入出力操作が失敗しました。

ユーザーの処置: このメッセージと、これに付随する可能性のある他のメッセージを利用して問題を解決してください。データ・セットに問題がないかどうか調べてみてください。問題が訂正されたら、製品を再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func は現行入出力操作、mem は DBRM メンバー名、ddn は DD 名テキスト・ストリング、dsn はデータ・セット名、rc は現行入出力操作の戻りコード。

HLV3306E DBRM MEMBER mem TOO LARGE, MAXIMUM SIZE IS num RECORDS

説明: 現在の DBRM が大きすぎて HLV によって処理できません。

ユーザーの処置: 実際に最大数を超えるレコードが DBRM に含まれていることを確認してください。その場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem は DBRM 名、num は DBRM レコードの最大数。

HLV3307E DBRM member mem is empty

説明: メッセージに指定された DBRM メンバーにレコードが含まれていません。

ユーザーの処置: データ・セットにレコードが含まれていないことを確認してください。レコードが含まれていない場合は、そのデータ・セットを訂正済みの DBRM

メンバーに置き換えてください。そのメンバーにレコードが含まれている場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem は DBRM メンバー名。

HLV3308E DBRM MEMBER NAME mem DOES NOT MATCH PROGRAM NAME pgm

説明: DBRM メンバー名が、DBRM 内に含まれるプログラム名と一致していません。

ユーザーの処置: その DBRM メンバーの名前が変更された可能性があります。これが問題であることを確認し、問題を修正してください。DBRM メンバー名と DBRM 内に含まれるプログラム名は同一でなければなりません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem は DBRM メンバー名、pgm は DBRM 内に含まれるプログラム名。

HLV3309E SQL statement num missing from DBRM dbrm

説明: アプリケーション・プログラムの plist によって示されている SQL ステートメントが、対応する DBRM メンバー内で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: plist のステートメント番号は DBRM 内のいずれかのステートメントと一致している必要があります。アプリケーション・プログラム・ロード・モジュールと DBRM が同期されている (すなわち、それらが同じバージョンのソースから同時に生成された) ことを確認してください。不一致をすべて訂正し、製品を再起動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num は plist の SQL ステートメント番号、dbrm は DBRM 名。

HLV3310E DBRM close FAILED FOR DDNAME=ddn DSN=dsn RC=rc

説明: HLV が DBRM ライブラリーをクローズしようとしたのですが、クローズ操作は失敗しました。リソースが完全に解放されていない可能性があります。

ユーザーの処置: データ・セット、およびこのメッセージに付随している可能性のある他のメッセージを調べてください。問題を解決できたら、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn は

HLV3311T • HLV3701 I

DD 名、dsn はデータ・セット名、rc は入出力戻りコード。

HLV3311T ASSIGN AND CONCATENATE LOB REQUESTS ARE SUSPENDED

説明: LOB データをクライアントからサーバーに送信するための割り当て機能と連結機能が一時的に使用できなくなっています。このメッセージは、CLIENTMAXLOBSIZE パラメーター値がゼロ (0) に設定されると発行されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV3312T NETWORKBUFFERSIZE または MXBU の値が、SQL ステートメント内の列数に対して十分ではありません。

説明: SQL ステートメントの SQLDA (メタデータ) を保持するための通信バッファ内のスペースが不足しています。NETWORKBUFFERSIZE パラメーターと MXBU パラメーターの値は、最も多くの列を参照する SQL ステートメントのメタデータを保持できる、十分な大きさでなければなりません。

ユーザーの処置: NETWORKBUFFERSIZE または MXBU (あるいはこの両方) を適切な値に変更してください。

HLV3313T DB2 subsystem with ASID subsys was not found

説明: DB2 サブシステムの ERLY 制御ブロックが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 製品は、ASID を使用して DB2 サブシステムの ERLY 制御ブロックを見つけることができませんでした。このエラーが原因でルーチンが続行できません。これは、DB2 サブシステムがシステム 04F ABEND で終了すると発生する可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys は DB2 サブシステム名。

HLV3314S DB2 subsystem with ASID subsys was not found

説明: DB2 サブシステムの ERLY 制御ブロックが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 製品は、ASID を使用して DB2 サブシステムの ERLY 制御ブロックを見つけることができませんでした。このエラーが原因でルーチンが続行できません。これは、DB2 サブシステムがシステム 04F ABEND で終了すると発生する可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys は DB2 サブシステム名。

HLV3315W Operational mode for DB2 subsystem subsys could not be determined

説明: 製品は、DB2 サブシステムで実行されている DB2 のバージョンを認識していないため、操作モードを判別できません。

ユーザーの処置: 処理を続行します。ソフトウェア・サポートに連絡してこのメッセージを報告してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys は DB2 サブシステム名。

HLV3316T Operational mode for DB2 subsystem subsys could not be determined

説明: 製品は、DB2 サブシステムで実行されている DB2 のバージョンを認識していないため、操作モードを判別できません。

ユーザーの処置: 処理を続行します。ソフトウェア・サポートに連絡してこのメッセージを報告してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys は DB2 サブシステム名。

HLV3700H TSO/SRV now using num servers - MIN=parmval1 MAX=parmval2

説明: 製品は、新規サーバー記述子制御ブロックを割り振り済みなので、新しい TSO/SRV サーバー・アドレス・スペースを始動します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num アクティブ・サーバーの現在の数 parmval1 CGIMIN パラメーターの現在の設定 parmval2 CGIMAX パラメーターの現在の設定

HLV3701 I service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、製品のサーバー・ルーチン・マネージャーによって検出されたさまざまなエラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。このメッセージ・テキストは、現行操作と、現行操作が行おうとしていた処理を示しています。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題に関するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、タイマー設定、タイマー取り消し、ECB 通知など) desc 説明 rc 戻りコード

HLV3702H TSO/SRV started server jb,ASID=asid

説明: 製品が、新規の TSO/SRV サーバー・アドレス・スペースを作成するために START コマンドを発行し、そのアドレス・スペースが作成されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: jb ジョブ名 asid TSO/SRV サーバー・アドレス・スペースの ASID

HLV3703W TSO/SRV SUBTASK UNABLE TO SCHEDULE EXTERNAL TSO SERVER - ABEND/POST CODES=(abcd/pc)

説明: 製品の TSO/SRV 実行キュー処理機能が、コマンドのスケジュールを外部 TSO サーバー・アドレス・スペースに入れようとしているときに異常終了またはエラーを検出しました。このメッセージは、元の要求側に戻されます。

ユーザーの処置: すべての異常終了エラー・データを収集し、地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd 異常終了コードまたはゼロ、pc 通知戻りコードまたはゼロ

HLV3704H TSO/SRV cancelled server jb,ASID=asid

説明: 製品は、TSO/SRV サーバー・アドレス・スペースを除去するために CANCEL コマンドを発行しました。これは、TSOMINSERVERS パラメーターの値に変更 (削減) があったためか、またはサーバー・コマンドがその実行制限を超えているために発生する可能性があります。

ユーザーの処置: サーバー・コマンドがサーバー実行制限を超えると、このメッセージが、どの制限を超えたかについて説明するメッセージと一緒に出力されます。制限を変更するか、またはサーバー・コマンド/プログラムを修正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: jb ジョブ名 asid TSO/SRV サーバー・アドレス・スペースの ASID

HLV3705 I Idle TSO server terminated due to TSOMAXSERVERS

説明: 製品は、TSOMAXSERVERS パラメーターに指定されたよりも多くのサーバーが現在アクティブであることを検出し、問題のサーバーが現在アイドル状態であったためにサーバーを終了しました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV3706W Transaction aborted

説明: このメッセージは、サーバーがトランザクションの実行中に終了したときに、TSO/SRV サーバー・コマンドの発行者に送信されます。

ユーザーの処置: この状態に関連したメッセージが他にないか確認して、問題の解決を試みてください。

HLV3707S TSO/SRV server failed during initialization

説明: 製品は、TSO/SRV サーバー・アドレス・スペースの始動を試みました。しかし、そのアドレス・スペースは、初期化中に失敗しました。

ユーザーの処置: TSO/SRV サーバーの開始タスク JCL が正しいことを確認してください。何らかの種類の JCL エラー (例: データ・セットが存在しない) がこの状態を引き起こしている場合がよくあります。問題を解決できない場合には、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV3708E Unable to find ASVT entry for TSO/SRV server ASID=asid

説明: TSO/SRV アドレス・スペースの内部 START コマンドを発行した後で、製品は、返された ASID の妥当性検査を試み、その ASID が無効であることを検出しました。このエラーは、以下の条件のいずれかを示しています。(1) ASID が負である。(2) ASID がシステム MAXUSER 値より大きい。(3) 関連した ASVT 項目が現在使用中でない。

ユーザーの処置: このエラー条件はほとんど発生しません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: asid システムによって返された ASID

HLV3709W TSO server canceled - max transaction time exceeded

説明: 問題のサーバーが現在処理しているトランザクションは、TSOMAXCMDRUNTIME によって許可されて

HLV3710 I • HLV3715H

いる最大時間を超過しており、サーバーの取り消しの原因となりました。

ユーザーの処置: `_3710I` 関連メッセージの `SYSLOG` を調べてください。そのメッセージは、エラーのあるコマンドおよびその開始時刻について詳しく説明していません。エラーのあるコマンドを修正するか、または `TSOMAXCMDRUNTIME` 値を増やしてください。

HLV3710 I CMD TEXT = text ,START TIME = time

説明: これは、`_3709W` の関連メッセージです。このメッセージは、取り消されたサーバーによって処理されていたコマンドと、そのおおよその開始時刻について詳しく説明しています。

ユーザーの処置: エラーのあるコマンドを修正するか、または `TSOMAXCMDRUNTIME` の指定を増やしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `text` コマンドの部分テキスト `time` このコマンドの開始時刻

HLV3711 I Idle server terminated due to TSOMINSERVERS or TSOSRVDORMANT timeout

説明: 製品は、サーバーの現行数が、ユーザー指定の `TSOMINSERVERS` パラメーターより大きい、ユーザー指定の `TSOMAXSERVERS` 値以下であること、また、サーバーのアイドル状態がユーザー指定の `TSODORMANTTIMEOUT` 値を超えて続けていることを検出しました。製品は、問題のサーバーを終了しました。そのサーバーがその時点でアイドル状態であったためです。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

HLV3712W TSOMAXSERVERS value (parmval1) invalid. Set to TSOMINSERVERS (parmval2).

説明: 製品のサーバー処理により、`TSOMAXSERVERS` 値が `TSOMINSERVERS` 値より小さい値に設定されていることが検出されました。この設定は無効です。サーバーの最大数がサーバーの最小数より小さいものであってはなりません。最大値は最小値に変更されます。

ユーザーの処置: 誤った値が始動 `exec` または他のプログラムを介して設定されている場合は、該当のプログラム (複数の場合あり) を修正してください。ISPF パラメーターの表示を使用して、`TSOMINSERVERS` 値および `TSOMAXSERVERS` 値を調整することもできます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `parmval1` `TSOMAXSERVERS` の現行 (無効) 値 `parmval2` 現行 `TSOMINSERVERS` 値

HLV3713 I TSO/SRV server added due to excessive queue depth (qd)

説明: `TSO/SRV` サーバー実行キューでの要求の数が、現在、ユーザー指定の `TSOSRVQUEUEADDDEPTH` によって設定されたしきい値を超えています。サーバーの数は、その数がまだサーバー制限の最大数を下回っているため、1 ずつ増えています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `qd` 現行 `TSO/SRV` 実行キュー項目数

HLV3714H TSO/SRV terminated server jb,ASID=asid

説明: 製品は、`TSO` サーバー・アドレス・スペースを終了させました。サーバーが終了したのは、サーバーの現行数が `TSOMAXSERVERS` 限度を超えたためか、またはサーバーの現行数が `TSOMINSERVERS` 値を超え、かつ現行サーバーのアイドル状態の時間が `TSOSRVDORMANTTIMEOUT` 秒を超えたためです。このメッセージは、制御コマンドがサーバーの終了を要求した場合にも起こる可能性があります。サーバー・アドレス・スペースは、現在トランザクションを実行中である場合、即時に終了しない可能性があります。サーバーが限られた時間内に自発的に終了しない場合は、製品によって取り消されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `jb` ジョブ名 `asid` `TSI` サーバー・アドレス・スペースの `ASID`

HLV3715H TSO/SRV SUBTASK ABEND abcd IN func mod+off

説明: 製品 `TSO/SRV` 実行キュー処理機能が異常終了コードを検出しました。メッセージ・テキストには、異常終了コード、現行操作、および異常終了の場所が含まれています。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `abcd`

異常終了コード、func 現行機能、mod モジュール名、off モジュール・オフセット

HLV37160 Canceled TSO server jb stepname (ASID=asid), has not terminated

説明: 製品は、TSO サーバーを終了させるために CANCEL コマンドを発行しました。CANCEL コマンドが発行されてから 1 分を超える時間が経過しましたが、サーバー・アドレス・スペースは終了していません。

ユーザーの処置: まず最初に、メッセージからの STEP NAME を使用して、CANCEL コマンドを再度発行します。それでもサーバーが終了しない場合は、MVS FORCE コマンドを使用するか、ユーザーの裁量で、別の手段を使用してサーバー・アドレス・スペースの強制終了を試してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: jb ジョブ名 stepname ステップ名 asid TSO サーバー・アドレス・スペースの ASID

HLV3717H TSO server execute queue reset

説明: 制御コマンドが原因で、TSO/SRV 実行キューが消去されました。保留中のすべての TSO トランザクションが破棄されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV3718E TSO ADDRESS SPACE CREATION FAILED, RC = rc, REASON CODE = rscd

説明: アドレス・スペースの作成をスケジュールに入れるサービス・ルーチンで障害が発生しました。TSO アドレス・スペースは作成されません。メッセージに示されている戻りコードおよび理由コードは、MVS ASCRE サービス・ルーチンからのものです。

ユーザーの処置: メッセージ内の戻りコードを確認してください。戻りコードが 52 より大きい場合、このエラーは、一般的に、システム関連問題である可能性が高いため、これについてシステム・プログラミング・スタッフに報告する必要があります。必要であれば、TSOSRVUSEASCRE を NO に設定してください。このように設定すると、TSO 外部サーバー・アドレス・スペースを作成するのに START コマンド (ASCRE ではなく) が使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc 戻りコード rscd 理由コード

HLV3720T TSO EXECUTE QUEUE ADD; QD=qd, CMD=cmd

説明: このメッセージは、DEBUG FLAG が ON に設定されている場合に、ADDRESS TSO | CGI プロセッサによって実際に発行されます。このメッセージは、製品のサーバー・キューへコマンドが送信されていることを示しています。キュー項目数は現行コマンドの追加前に表示されることに注意してください。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、デバッグおよび分析目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: qd 現行 TSO 実行キュー項目数 cmd サーバーへ送信されたコマンドの部分テキスト

HLV3721T TSO COMMAND DISPATCH; QD=qd, ASID=asid, QTIME=sss, CMD=cmd

説明: このメッセージは、TSO 実行キューからコマンドが除去され、製品 TSO サーバー・アドレス・スペースへ送信済みであることを示しています。このメッセージは、DEBUG が ON に設定されている場合にのみ発行されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、デバッグおよび分析目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: qd 現行 TSO 実行キュー項目数 depth asid サーバーのアドレス・スペース ID sss TSO 実行キューに費やされた時間 (100 分の 1 秒) cmd サーバーへ送信されたコマンドの部分テキスト

HLV3722T TSO COMMAND RECEIVED; ASID=asid, ETIME=sss, CMD=cmd

説明: このメッセージは、サーバーがコマンドを受信したことを示しています。TSO コマンド・ディスパッチ・メッセージが発行されてから、このメッセージが発行されるまでの遅延は、オペレーティング・システムのスケジューリングが要因となって生じます。このメッセージは、DEBUG が ON に設定されている場合にのみ発行されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、デバッグおよび分析目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドは次のとおりです。asid サーバーのアドレス・スペース ID sss コマンドがサーバーへ送信されてからの時間 (100 分の 1 秒) cmd サーバーへ送信されたコマンドの部分テキスト

HLV3723T TSO COMMAND COMPLETE;
ASID=asid, ETIME=sss, CPU=time,
I/O=num, CMD=cmd

説明: このメッセージは、サーバーがコマンドの実行を完了したことを示しています。このメッセージは、DEBUG が ON に設定されている場合にのみ発行されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、デバッグおよび分析目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: asid サーバーのアドレス・スペース ID sss コマンドがサーバーへ送信されてからの時間 (秒) time 16 進数でのコマンド CPU 時間 (マイクロ秒) num コマンドによって実行された入出力の回数 cmd サーバーへ送信されたコマンドの部分テキスト

HLV3724H pgm (usid) SENT TSO CMD cmd

説明: このメッセージは、サーバーがコマンドを受信したことを示しています。プログラムまたは ruleset.rulename は、コマンドの発信元を示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

pgm プログラム名または ruleset.rulename
 usid コマンドを実行するためのランタイム・ユーザー ID
 cmd サーバーへ送信されたコマンドの部分テキスト

HLV3725T TSO execute processor posted by comp

説明: このメッセージは、TSO 実行プロセッサが別のコンポーネントからシグナルを受信したことを示しています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、デバッグおよび分析目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: comp コンポーネントの説明

HLV3729T msg var2 var3

説明: このメッセージは TSO のトレース目的でのみ使用されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、デバッグおよび分析目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg メ

ッセージまたはメッセージ・テキスト var2 なし var3 なし

HLV3750H SEF var1 var2

説明: このメッセージは、製品実行プロセッサが終了したことを示しています。

ユーザーの処置: このメッセージは、SEF コマンド・キューが割り振られていないことを示している場合を除き、通知目的でのみ使用されます。その場合、この問題の解決に役立つ可能性がある、製品の初期化中にコンソールに表示されたメッセージが他にないか確認する必要があります。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 なし、var2 なし

HLV3751 I SEF service OF desc FAILED, RC=rc

説明: これは、さまざまなグローバル変数の初期化および終了のエラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。このメッセージ・テキストは、現行操作と、現行操作が行おうとしていた処理を示しています。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題に関するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など)
 desc 説明 rc 戻りコード

HLV3752W SEF API INITIALIZATION FAILED DUE TO desc var1 var2

説明: SEF の初期化段階で、API インターフェース・リンケージを作成中にエラーが検出されました。このメッセージは、検出されたエラーについて説明しています。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題に関するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 初

期化ステップの説明、var1 可変情報、var2 可変情報

**HLV3753W ABEND var1 AT var2+var3, SEF
COMMAND 'var4' ABORTED**

説明: 製品はこのエラーを検出しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 なし、var2 なし、var3 なし、var4 なし

HLV3754 I SEF command syntax error: "cmd"

説明: SEF 実行プロセッサは、ADDRESS 環境について、無効な構文を持つコマンドを検出しました。通常、この構文エラーは、ルールの使用可能化時またはプログラム・コンパイル時に検出されているはずですが。

ユーザーの処置: 有効な ADDRESS SEF コマンドを使用するよう、問題のコマンドを発行したルールまたはプログラムを変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 無効な SEF コマンド

**HLV3755E service OF PRECOMPILED DATA
SET (dsn) FAILED RC=rc**

説明: SEF 実行プロセッサがコンパイル済みルール・ライブラリーの割り振り/割り振り解除要求を検出し、その要求が失敗しました。割り振りエラー・データが他にもないか、この失敗の前に出されたエラー・メッセージを調べてください。

ユーザーの処置: 診断情報が他にもないか、このメッセージの前に出された割り振りエラー・メッセージがあればすべて調べてください。問題を修正した後、パラメーターの SEFPRECOMPILED および SEFPRECOMPILEDDSN をリセットします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 割り振りまたは割り振り解除 dsn 失敗したデータ・セット名 rc 失敗した割り振り戻りコード

HLV3756 I SEF precompiled rules active

説明: SEF は、コンパイル済みルール機能を活動化しました。この機能は、パラメーター SEFPRECOMPILED を ON に設定し、かつ、パラメーター SEFPRECOMPILEDDSN を有効なコンパイル済みルール・ライブラリーに設定することによってアクティブになります。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV3757 I SEF var1 var2

説明: このメッセージは、コマンドが実行され、状況情報を戻していることを示します。コマンドが成功したか、失敗したかを示します。

ユーザーの処置: このメッセージは通知目的でのみ使用されます。メッセージが、コマンドが失敗したことを示している場合は、指定したパラメーターが正しいか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 なし、var2 なし

HLV3780 I func OF desc FAILED, RC=rc

説明: 次のトレース・チェックポイントの待機タイマー間隔を設定するサービス・ルーチンで障害が発生しました。このメッセージの前に、MVS STIMERM サービスからの戻りコードが含まれているメッセージが出されているはずですが。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func 実行機能 (SET) desc 説明 (ブラウズ・タイマー) rc 戻りコード (製品サービス・ルーチンによって設定されます)

**HLV3781S ABEND abcd OCCURRED AT
mod+off - desc**

説明: トレース・チェックポイント処理中に異常終了が発生しました。異常終了の場所は、異常終了エラー・メッセージに示されています。すべてのトレース・チェックポイント処理は、メイン製品アドレス・スペースが再始動されるまで中断状態になります。メイン製品アドレス・スペースは、DIV データ・セットが割り振られていない場合と同様に非 VIO ASM スロットの累積を開始することに注意してください。ASM スロットがメイン製品アドレス・スペースによって徐々に累積されると、最終的に ASM スロット不足になる可能性があります。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと異常終了コードを確認してください。現在のトレース・チェックポイント処理問題に関する追加のエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する場合があります。セキュリティ製品関連の異常終了など、オープン・エラーがないか確認してください。また、ストレージ割り振りのエラーまたは異常終了がないかについても確認してください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd

HLV3782S • HLV3887 I

異常終了コード、mod モジュール名、off モジュール・オフセット、desc 説明

**HLV3782S desc1 ddn errmsg FAILED RC=rc
desc2**

説明: 製品データ・セットのオープンまたはリフレッシュ時に問題が検出されました。このメッセージは、障害の原因を示しています。

ユーザーの処置: この問題に関連したエラー・メッセージを調べてください。現在の処理問題に関するエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc1 ファイル記述 ddn ファイル DD 名 errmsg 検出された障害 rc 戻りコード desc2 エラーの追加説明

**HLV3783S desc ddn processing ABENDED
code=abcd reason=rscd at mod+off**

説明: 製品データ・セットのオープンまたはリフレッシュ時に問題が検出されました。このメッセージは、処理機能と関連する異常終了コードを示しています。

ユーザーの処置: この問題に関連したエラー・メッセージを調べてください。現在の処理問題に関するエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc ファイル記述、ddn ファイル DD 名、abcd 異常終了コード、rscd 異常終了理由コード、mod モジュール名、off モジュール・オフセット

**HLV3784T var1 DUPLICATES THE var2 var3 IN
var4 - SKIPPED**

説明: 製品データ・セットのオープンまたはリフレッシュ時に問題が検出されました。このメッセージは、重複エンティティが検出されたことを示しています。DUPLICATING エンティティは無視されます。

ユーザーの処置: この問題に関連したエラー・メッセージを調べてください。現在の処理問題に関するエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラーメッセージによって特定された問題を解決してから、製品をリフレッシュまたは再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフ

トウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 重複しているエンティティ・ソース、var2 エンティティ・タイプ、var3 重複エンティティ ID、var4 重複エンティティ・ソース

**HLV3785H var1 DUPLICATES THE var2 var3 IN
var4 - SKIPPED**

説明: 製品データ・セットのオープンまたはリフレッシュ時に問題が検出されました。このメッセージは、重複エンティティが検出されたことを示しています。DUPLICATING エンティティは無視されます。

ユーザーの処置: この問題に関連したエラー・メッセージを調べてください。現在の処理問題に関するエラー・メッセージまたは異常終了が 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラーメッセージによって特定された問題を解決してから、製品をリフレッシュまたは再始動してください。通常、これは、メッセージで特定されているソース・ファイルのいずれかを手動で除去することによって行います。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 重複しているエンティティ・ソース、var2 エンティティ・タイプ、var3 重複エンティティ ID、var4 重複エンティティ・ソース

**HLV3886E RULESET ruleset var2 var2 var4 var5
var6 var7 var8 var9**

説明: ルール・セット状況により SEF 要求の実行が妨げられるため、要求はリジェクトされます。

ユーザーの処置: 以前に報告された状態を調べて、問題の原因を判別してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ruleset ルール・セット名 var2 可変情報 var2 可変情報 var4 可変情報 var5 可変情報 var6 可変情報 var7 可変情報 var8 可変情報 var9 可変情報

**HLV3887 I RULESET ruleset var2 var2 var4 var5
var6 var7 var8 var9**

説明: SEF 要求を処理している時にエラーが発生し、ルール・セットの状況に影響しました。このメッセージは、元のエラー・メッセージの後に続いて示され、エラーからの追加/進行中の影響について警告します。

ユーザーの処置: サーバーは、以前に報告されたエラーの原因から回復するために、このメッセージで報告されているアクションを行います。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ruleset

ルール・セット名 var2 可変情報 var2 可変情報 var4
可変情報 var5 可変情報 var6 可変情報 var7 可変情報
var8 可変情報 var9 可変情報

HLV3888E Required master WWW ruleset not defined - HTTP processing impossible

説明: SEF ルール・マネージャーは、マスター WWW ルール・セット定義を見つけられませんでした。ルール・マネージャーは、いずれの WWW ルール・セットも使用可能にしません。

ユーザーの処置: 初期化プロシージャ SWSxIN00 を調べ、そのプロシージャが「WWWCLASS (MASTER)」キーワードを使用して 1 つのマスター WWW ルール・セットを定義することを確認してください。

HLV3889 I SEF ver OPERATIONAL MODE DOES NOT SUPPORT THE func FUNCTION

説明: SEF ルール・マネージャーは、示された動作モードで動作中に、サポートしていないコマンドを受け取りました。

ユーザーの処置: コマンドを訂正して、再度発行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ver SEF が動作しているバージョン func サポートされていないコマンド機能

HLV3790 I func OF desc FAILED, RC=rc

説明: 次のグローバル変数チェックポイントの待機タイマー間隔を設定するサービス・ルーチンで障害が発生しました。このメッセージの前に、MVS STIMERM サービスからの戻りコードが含まれているメッセージが出されているはずです。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func 現行機能 (SET) desc 記述 (グローバル変数チェックポイント・タイマー) rc 戻りコード (プロダクト・サービス・ルーチンによって設定されます)

HLV3791E func for creating global variable backup, RC = rc, ReaSon code = rscd

説明: アドレス・スペースの作成をスケジュールに入れるサービス・ルーチンで障害が発生しました。グローバル変数のバックアップは実行されません。メッセージに示されている戻りコードおよび理由コードは、MVS

ASCRES サービス・ルーチンからのものです。

ユーザーの処置: メッセージ内の戻りコードを確認してください。戻りコードが 52 より大きい場合、このエラーは、一般的に、システム関連問題である可能性が高いため、これについてシステム・プログラミング・スタッフに報告する必要があります。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func 現行機能 (ASCRES) rc 戻りコード rscd 理由コード

HLV3792 I Global Variable Backup address space proc has been created

説明: これは通知メッセージです。このメッセージは、製品がグローバル変数バックアップ・アドレス・スペースを作成したことを示しています。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: proc procname

HLV3800T An unknown value was found in field <field> by routine.

説明: 制御ブロック・フィールド内に、SERVER API によって検証できない値が見つかりました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: field 検証できないフィールド名 routine SERVER ルーチン名

HLV3847W Error compiling SEF rule rule, closing */ not found where expected.

説明: SEF ルール・マネージャーは、無効な構文が含まれている /*%include ステートメントを使用して REXX ルールをコンパイルしようとしていました。メンバー名の後には、*/ のみが許されます。/*%include 句内での埋め込みコメントはサポートされていません。

ユーザーの処置: /*%include ステートメントを訂正し、再度試行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule コンパイル中のルール名。

HLV3848W Error compiling SEF rule rule, INCLUDE name mem too long.

説明: SEF ルール・マネージャーは、8 バイトよりも長いメンバー名を指定する /*%include ステートメント

HLV3849T • HLV3855 I

を使用して REXX ルールをコンパイルしようとした。
た。

ユーザーの処置: /*%include ステートメントを訂正し、再度試行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule コンパイル中のルール名。 mem ルールに指定されたメンバー名。

HLV3849T SEF ver operational mode does not support the func function

説明: SEF ルール・マネージャーは、示された動作モードで動作中に、サポートしていないコマンドを受け取りました。

ユーザーの処置: コマンドを訂正して、再度発行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ver SEF が動作しているバージョン func サポートされていないコマンド機能

HLV3850E INTERNAL routine1 ERROR DETECTED BY routine2: CALLER(csect) RTADDR(addr) - var1 var2 var3

説明: 内部 API ルーチンの実行中にエラーが発生しました。このメッセージは、何らかの不整合や、考えられる論理エラーを報告します。

ユーザーの処置: API は、現行要求をリジェクトし、続行します。この問題を引き起こす原因を示す可能性のあるメッセージが他にないか、調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: routine1 API ルーチンの名前または説明、routine2 エラーが検出されたルーチン、csect 呼び出し側の CSECT 名、addr 呼び出し側ルーチンへの戻りアドレス、var1 可変情報、var2 可変情報、var3 可変情報

HLV3851 I NO EXECUTABLE OBJECT (XO) DATASETS ARE CURRENTLY DEFINED OR IN-USE

説明: この応答は、定義済み、あるいは使用中の実行可能オブジェクト・イメージ (XO) データ・セットがない場合に、'LIST =XOFILES' SEF コマンドに対して戻されます。XO データ・セットに、SEF ルールまたは HTX スケルトンといった、プリコンパイルされた実行可能オブジェクト・イメージが含まれている場合があります。

ユーザーの処置: なし。

HLV3852 I %1

説明: この応答は、システム内で割り振られている個々の XO データ・セットごとに 'LIST =XOFILES' SEF コマンドに対して戻されます。このメッセージの後に、1 つ以上の関連のリストが続く場合と、続かない場合があります。

ユーザーの処置: なし。

HLV3853 I %1

説明: この応答は、XO データ・セットとの関連ごとに、'LIST =XOFILES' SEF コマンドに対して返されません。このメッセージは、XO データ・セット状況メッセージ MSG3852I の後に出されます。

ユーザーの処置: なし。

HLV3854 I %%INCLUDE processing ignored when ISPF EDIT source being compiled, line line

説明: コンパイルされている製品の REXX プログラムのソース内で %INCLUDE ステートメントが検出されました。プロシージャー・ソースは現在の ISPF Edit セッションから フェッチされ、この環境では %INCLUDE はサポートされません。

ユーザーの処置: %INCLUDE ステートメントは、その包含コメント区切り文字とともに、処理されません。元のテキストは、現在の編集セッションからフェッチされるプロシージャー・ソースに保存されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: line /*%INCLUDE ... */ が入っている行番号

HLV3855 I %%INCLUDE statement syntax invalid, line line

説明: コンパイルされている製品の REXX プログラムのソース内で %INCLUDE ステートメントが検出されましたが、ステートメントが不完全でした。/*%INCLUDE、指定されたメンバー、および */ がすべて、単一のソース行に存在する必要があります。メンバー名の長さは、8 バイト以下でなければなりません。

ユーザーの処置: %INCLUDE ステートメントはリジェクトされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: line /*%INCLUDE ... */ が入っている行番号

HLV3856 I %%INCLUDE member (member) not found, line line

説明: コンパイルされている製品の REXX プログラムのソース内で %INCLUDE ステートメントが検出されましたが、ステートメントに示されているメンバーは、ソース・メンバーが収容されているライブラリー・データ・セットでも、SYSEXEC ライブラリー連結でも見つかりません。

ユーザーの処置: %INCLUDE ステートメントはリジェクトされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: member %INCLUDE 行からのメンバー名 line /*%INCLUDE ... */ が入っている行番号

HLV3886E RULESET ruleset var2 var2 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: ルール・セット状況により SEF 要求の実行が妨げられるため、要求はリジェクトされます。

ユーザーの処置: 以前に報告された状態を調べて、問題の原因を判別してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ruleset ルール・セット名 var2 可変情報 var2 可変情報 var4 可変情報 var5 可変情報 var6 可変情報 var7 可変情報 var8 可変情報 var9 可変情報

HLV3887 I RULESET ruleset var2 var2 var4 var5 var6 var7 var8 var9

説明: SEF 要求を処理している時にエラーが発生し、ルール・セットの状況に影響しました。このメッセージは、元のエラー・メッセージの後に続いて示され、エラーからの追加/進行中の影響について警告します。

ユーザーの処置: サーバーは、以前に報告されたエラーの原因から回復するために、このメッセージで報告されているアクションを行います。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ruleset ルール・セット名 var2 可変情報 var2 可変情報 var4 可変情報 var5 可変情報 var6 可変情報 var7 可変情報 var8 可変情報 var9 可変情報

HLV3888E Required master WWW ruleset not defined - HTTP processing impossible

説明: SEF ルール・マネージャーは、マスター WWW ルール・セット定義を見つけられませんでした。ルール・マネージャーは、いずれの WWW ルール・セットも使用可能にしません。

ユーザーの処置: 初期化プロシージャー SWSxIN00 を

調べ、そのプロシージャーが「WWWCLASS (MASTER)」キーワードを使用して 1 つのマスター WWW ルール・セットを定義することを確認してください。

HLV3889 I SEF ver OPERATIONAL MODE DOES NOT SUPPORT THE func FUNCTION

説明: SEF ルール・マネージャーは、示された動作モードで動作中に、サポートしていないコマンドを受け取りました。

ユーザーの処置: コマンドを訂正して、再度発行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ver SEF が動作しているバージョン func サポートされていないコマンド機能

HLV3890 I data

説明: SEF rule manager uses this message to list formatted control block output messages.

ユーザーの処置: これらのメッセージには、フォーマット済み制御ブロック・イメージが含まれています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data フォーマット済み制御ブロック出力行データ

HLV3891 I data

説明: SEF ルール・マネージャーは、出力域に対してルール・セット情報をリストするために現在のメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは統計に基づくものであり、出力域内のルール・セットをリストします。このメッセージに対する応答は不要です。ルール出力リストを調べ、適宜、選択してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data メッセージ出力行

HLV3892 I INDEX COMMAND OPERAND (oper1) IS NOT VALID - NO ACTION TAKEN

説明: このメッセージは、無効な INDEX コマンドが ADDRESS SEF ホスト・コマンド環境に渡された場合に生成されます。

ユーザーの処置: アクションは実行されず、このコマンドのそれ以上の処理は行われません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1 オペラントまたは INDEX コマンド

**HLV3893E SEF RULESET ruleset HAVE
INVALID RULETYPE(ruletype) -
RULESET STOPPED/OFFLINE**

説明: ルール・セット SEF をオープンする際に、SEF は、そのルール・セットの定義に無効な RULETYPE() 指定が含まれていることを検出しました。

ユーザーの処置: このルール・セットはオフラインであると見なされ、オープンされません。メッセージに示されているルール・セット名に対する RULETYPE() 指定が無効である理由について、説明する原因がないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ruleset
ルール・セット NAME() 値 ruletype ルール・タイプ
の内部コード値

HLV3895 I data

説明: このメッセージは、SEF INDEX URL コマンドに対する応答として発行されます。これは、アクティブなルールごとに最初に返されるメッセージです。このメッセージ内の、ブランクで区切られて返されるデータ項目は、ルール・セット名、ルール・メンバー名、マスター/従属、ゲートウェイ/ターゲット、ルール処理セクションの数、および URL マッチング基準です。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data 上記のとおり、ブランクで区切られた情報

**HLV3896E RULESET OFFLINE rule dsname
ruletype reason**

説明: 処理のためにルール・セットをオープンする必要がある SEF 要求が出されましたが、そのルール・セットは現在停止されているか、またはオフラインです。

ユーザーの処置: ルール・セットをオンラインにするアクションを行って、要求を再度発行してください。よくある問題は、ルール・セット DS 名がもう存在しないことです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule
ルール・セット名 dsname ルール・セット DS 名
ruletype このルール・セット内のルール・タイプ
reason ルール・セットがオフラインである理由

HLV3897E RULESET rule is not defined

説明: 処理のためにルール・セットをオープンする必要がある SEF 要求が出されました。そのルール・セットがシステムに対して定義されていません。

ユーザーの処置: 定義済みのルール・セットのリストを調べて、ルール・セットが正しく定義されなかったかどうかを判別するか、または正しいルール・セット名を指定してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule
ルール・セット名

**HLV3898W RULESET rule1 AND rule2 ARE
BOTH DEFINED AS MASTER WWW
RULESETS - RULESET rule3
FLAGGED WITH STATUS(OFFLINE)**

説明: SEF ルール・マネージャーは、システムに対して定義されているルール・セットのリストを処理しようとしたときに、複数のマスター WWW ルール・セットが定義済みであることを検出しました。

RULETYPE(WWW) WWWCLASS(MASTER) 属性を使用して定義できるルール・セットは 1 つのみです。

ユーザーの処置: マスター WWW ルール・セットとして定義されている 2 次ルール・セットは処理されません。このルール・セットは、RULESET 定義が変更されるまでデータ・セットの処理が発生しないように、STATUS(OFFLINE) のフラグが立てられ、停止されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
最初のマスター WWW ルール・セット名 rule2 2 番目
または後続のマスター WWW ルール・セット rule3 強
制的に STATUS(OFFLINE) 状態にされたルール・セ
ット

HLV3899W No SEF rulesets have been defined

説明: SEF ルール・マネージャーは、システムに対して定義されているルール・セットのリストを処理しようとしたときに、有効なルール・セットが定義されていないことを検出しました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは、ルール状況レポート・メッセージであり、応答は不要場合があります。ルール・セットを定義する必要がある場合は、DEFINE RULESET ステートメントの処理中に発生した可能性があるエラーがないか、始動プロシーチャーを確認してください。

HLV3900T RULE rule1.rule2 FOR ruletype crit st

説明: SEF ルール・マネージャーは、現在のルールの状況を報告するために、現在の通知メッセージを発行しました。ルール・セットのルール名が使用可能になりました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは、ルール状況レポート・メッセージであり、応答は不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
 ルール・セット名 rule2 ルール名 ruletype ルール・タイプ記述ストリング crit 基本基準 st 状況

HLV3901E service OF oper1 FAILED, RC=rc

説明: SEF ルール・マネージャー要求の実行中に、構成、許可、ランタイム、または入出力のエラーが検出されました。この要求は完了できませんが、後で、完了できる可能性があります。この要求と関連した SEF ルール・セットは、「STOPPED」状態または「OFFLINE」状態になる場合があります。

ユーザーの処置: 前後のメッセージを調べて、この SEF 要求を実行するための要求側の部分に対する許可が不十分であるために要求が失敗したかどうかを判断してください。要求の原因が構成エラーである場合、サーバーの始動パラメーターを訂正して、サーバーを再始動することが必要な場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service
 サービス名 oper1 サービス・オペランド rc サービス戻りコード

HLV3902E var1 var2 SECTION IN RULE var3

説明: SEF ルール・マネージャーは、一致するセクション・ヘッダーのテーブル・エントリーを見つけられませんでした。現在のルールの処理は終了します。

ユーザーの処置: ルール・セクションが正しくコーディングされ、有効であることを確認してください。明らかなコーディング・エラーがないか、ルールをよく調べます。ルールのコーディングについて詳しくは、製品のサーバー管理ガイドを参照してください。上記の問題を修正して、再開します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 なし、var2 なし、var3 なし

HLV3903E INVALID CRITERION "crit" IN desc rule rule

説明: SEF ルール・マネージャーは、現在のルールの処理中に無効な基準を検出しました。ルール基準で許可されるワイルドカードは 1 つのみです。ルール処理は終了します。

ユーザーの処置: 基準フィールドのエラー・メッセージ・テキストを調べて、その基準が 1 つのマッチング基準または 1 つのワイルドカードに制限されていることを確認してください。ルールおよび有効な基準の実行について詳しくは、製品のサーバー管理ガイドを参照してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: crit 基

準の指定 desc ルール・タイプの説明 rule ルール・セットのルール名

HLV3906 I data

説明: SEF ルール・マネージャーは、出力域に対して、ルール・データ・セット索引 (接頭部/接尾部) をリストするために現在のメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは統計に基づくものであり、出力域内のルール・セットをリストします。このメッセージに対する応答は不要です。ルール出力リストを調べ、適宜、選択してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data
 メッセージ出力行

HLV3907 I SEF is not active

説明: SEF ルール・マネージャーは SEF がアクティブでないことを検出しました。

ユーザーの処置: 製品が始動済みで、SEF がアクティブであることを確認してください。地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

HLV3908 I INVALID SEF REQUEST TYPE "request" rule1 rule2

説明: SEF ルール・マネージャーは、ルール要求の処理中に無効な SEF ルール要求タイプを検出しました。現在の要求は終了します。

ユーザーの処置: エラーがないか、現在の要求を調べてください。矛盾がないか、製品サーバー管理ガイドのルール・セクションに照らしてエラー・メッセージ・テキスト内の要求タイプを調べます。問題をよく調べて、修正アクションを行います。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request
 要求タイプ rule1 ルール・セット名 rule2 ルール名

HLV3909 I RULE rule1.rule2 IS NOT ENABLED

説明: ルールを使用不可にしようとしたましたが、該当のルールは現在、使用可能でないため、失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
 ルール・セット名 rule2 ルール名

HLV3910 I No rules enabled in Rule Set rule

説明: これは、SEF ルール・マネージャーによって発行された通知メッセージまたは状況レポート・メッセージです。ルールが存在しないか、またはルール・セット内に使用可能になっているルールがありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール・セット名

HLV3911 I RULE rule var1

説明: SEF ルール・マネージャーは、現行ルールが含まれているメンバー名を見つけられませんでした。ルール要求は打ち切られました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージのルール名フィールドにリストされているルールが存在していることを確認するか、あるいはその要求を呼び出す前に該当のルールを作成してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ruleset.rulename スtring、var1 見つかりませんでした

HLV3912E No ISPF statistics for rule <rule> in ruleset.

説明: SEF ルール・マネージャーは、指定されたルール・セット内でルール・メンバーの ISPF 統計を見つけられませんでした。

ユーザーの処置: PDS ディレクトリー内にルールの統計が存在しており、ISPF 統計がオンになっていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール名 String ruleset ルール・セット情報

HLV3913E var1 Criterion syntax error "lineno" in rule rule

説明: ルールを使用可能に設定しようとしているときに、ルール内で構文エラーが検出されました。時刻基準の構文に誤りがあります。

ユーザーの処置: 正しい構文について製品のサーバー管理ガイドで確認してください。ルールを訂正して、再度、使用可能に設定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 時刻または画面、lineno エラーのあるルールの行、rule エラーのある ruleset.rule の名前

HLV3914E INCONSISTENT var1 CRITERION "lineno" IN RULE rule

説明: 時刻または画面の基準の構文は適切ですが、矛盾があります。開始時刻が終了時刻を超えているか、または最初の行値が 2 番目の行値を超えている行範囲が原因でこのエラー・メッセージが表示されている可能性があります。

ユーザーの処置: 矛盾のある基準を訂正して、ルールを再度使用可能にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 時刻または画面、lineno エラーのあるルールの行、rule エラーのある ruleset.rule の名前

HLV3915E MAXIMUM OF num var2 CRITERIA EXCEEDED IN RULE rule

説明: ルールのヘッダー・セクションに指定された画面基準または時刻基準の数が多すぎます。

ユーザーの処置: ルールの時刻基準または画面基準の数を減らしてから、ルールを再度使用可能にします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num 許可される基準の最大数 var2 エラーのある ruleset.rule の時刻または画面のルール名

HLV3916 I TOD RULE rule1.rule2 HAS BEEN DISABLED - ALL TIME CRITERIA HAVE EXPIRED

説明: SEF ルール・マネージャーは、すべての時刻基準が期限切れになった後で現行ルール (TOD) を使用不可にしました。これがエラーである場合も、そうでない場合もあります。

ユーザーの処置: 現在の TOD ルール時刻基準は、最後の発生時刻以降は無効になります。このルールが最後の発生時刻以降も有効になるはずだった場合は、次の TOD ルールが必要な開始/停止/間隔または適切な時刻基準を指定して作成されていることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1 ルール・セット名 rule2 ルール名

HLV3918E Error 43 request caller, line lineno: routine routine not found

説明: SEF ルール・マネージャーは、現行ルーチンを見つけられませんでした。

ユーザーの処置: ルーチン名の正しい呼び出しおよびコーディングについて、現行ルール・コードを確認してください。ルーチンの呼び出しについては、製品のサーバ

ー管理ガイドを参照してください。問題を修正して、再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request コンパイラ要求のタイプ caller 呼び出し側プログラム名 lineno 呼び出し側プログラム行番号 routine 被呼ルーチン名

**HLV3919E NO VALID RULE HEADER FOUND
IN RULE rule - reason**

説明: SEF ルール・マネージャーは、現行ルール内で有効なルール・ヘッダーを見つけられませんでした。

ユーザーの処置: 有効なルール・ヘッダーがないか、現行ルール・コードを確認してください。ルール・ヘッダーのコーディングについては、製品のサーバー管理ガイドを参照してください。問題を修正して、再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール名ストリング reason エラーが示された理由

HLV3920W Following line(s) ignored in rule rule:

説明: SEF ルール・マネージャーは、スキップされた行を検出したため、以降の行を無視します。

ユーザーの処置: 現行ルール・コードを調べて、ブランク行があればすべて除去します。ルールを訂正して、再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール名ストリング

HLV3921W Rule rule contains no executable sections

説明: SEF ルール・マネージャーは、現行ルール内で実行可能なセクションを検出しませんでした。

ユーザーの処置: 現行ルール・コードをよく調べて、実行可能コードであることを確認してください (例: これがメッセージ・ルールである場合は、PROC セクション内の RETURN SUPPRESS)。実行可能なセクションがない場合、SEF マネージャーは現行ルールを処理できません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール名ストリング

HLV3922 I MATCH TABLE LIST - d1 t2

説明: SEF ルール・マネージャーは、マッチング・テーブル (メッセージ・パラメーター・リスト) をリストするためにこのメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

**HLV3923 I MATCH TABLE AT addr PFX=prefix
SFX=suffix LEN=length PRI=code
ROOT AT loc**

説明: SEF ルール・マネージャーは、メッセージ・テキストに示されているアドレスにあるマッチング・テーブルをリストするためにこのメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: addr マッチング・テーブル・アドレス接頭部 prefix マッチング・テーブル接頭部の長さ suffix マッチング・テーブル接尾部の長さ length ワイルドカードを使用したマッチング・テーブルの長さ code マッチング・テーブルの内部優先順位コード loc マッチング・テーブル・ツリーのルート

HLV3924 I Match table list empty

説明: SEF ルール・マネージャーは、空のマッチング・テーブル項目をリストするためにこのメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

**HLV3925 I sqno rule crit NODE LVL=level
ADR=addr1 LO=addr2 HI=addr3
AORL=addr4 LEN=length**

説明: このメッセージはデバッグ目的でのみ使用されません。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sqno 順次順序 rule ruleset.rule crit 基準 level ノード・ネスティング・レベル addr1 アドレスの現行 OPTI addr2 低サブツリー・アドレス addr3 高サブツリー・アドレス addr4 アドレスの現行 AORL length AORL の長さ

**HLV3926 I SECTION sect INVALID reason ON
LINE lineno**

説明: SEF 機能によりルール内に無効なセクション・ヘッダーが検出されたため、そのルールを有効にできませんでした。

ユーザーの処置: イベント・プロシージャーを訂正して、再度、使用可能に設定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sect セクション名または名前フラグメント reason 生成された理由エラー条件 lineno 無効なセクション・ヘッダーがある行番号

HLV3927 I No match for rule

説明: 製品ルール・マネージャーは、このルールとのマッチングを見つけられませんでした。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール名ストリング

HLV3928E RULESET rule 'prefix' IS msg

説明: SEF ルール・マネージャーは、ルール・セット接頭部ストリングを調べ、それがブランクであることを検出しました。

ユーザーの処置: ルール・セット接頭部ストリングがブランクでないようにします。ルール・データ・セットおよび関連する接頭部の指定については、製品のサーバー管理ガイドを参照してください。上記の問題を修正して、再開します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule 現行ルール・セット・セクション prefix ルール・セット接頭部ストリング msg エラー・メッセージ・テキスト

HLV3929E Maximum ruleset count (msg) exceeded

説明: SEF ルール・セットの SEF ルール・マネージャーの内部リストがオーバーフローしました。定義された SEF ルール・セットが多すぎます。

ユーザーの処置: サーバーの始動時に、定義済みルール・セット数がサポートされるルール・セットの最大数を超えた場合、SEF 初期化処理は打ち切られます。始動後、余分のルール・セットは即時に停止/オフライン状況に置かれます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg サポート SEF ルール・セットの最大数

HLV3930E RULESET rule 'prefix' msg1 msg2

説明: SEF ルール・マネージャーは、現行のルール・セット高位修飾子が別の高位修飾子の複写であることを検出しました。

ユーザーの処置: 現行のルール・セット命名規則が正しくありません。ルール・セット定義が製品ルール・セットの標準コードに適合していることを確認します。詳しくは、製品のサーバー管理ガイドを参照してください。

くは、製品のサーバー管理ガイドを参照してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule 現行ルール・セット・セクション prefix ルール・セットの代替接頭部ストリング msg1 エラー・メッセージ・ストリング msg2 エラー・メッセージ・ストリング

HLV3931E pgm dsn is too large - input buffer overflow

説明: SEF ルール・マネージャーが入力バッファのオーバーフローを検出しました。プログラムが大きすぎて、現行バッファにロードできません。

ユーザーの処置: 入力サイズについて現行プログラムを調べ、可能であれば、それを訂正します。地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm 現行入力ソース (プログラム) dsn プログラム DS 名 (メンバー)

HLV3932E service OF table FAILED, RC=rc

説明: SEF ルール・マネージャーは、製品 REXX 外部ルーチン・テーブルをセットアップできませんでした。GETMAIN は失敗しました。

ユーザーの処置: 上記の表を作成するために必要なストレージの GETMAIN が失敗した理由を判別してください。MVS メッセージの戻りコードについて、あらゆる MVS メッセージを調べます。出口ルーチンが ASID による指定ストレージの獲得を制限しないことを確認してください。現行エラー・テキストをよく調べて、問題を修正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service サービス名 table 外部ルーチン表 rc 戻りコード

HLV3933E ABEND IN CELL POOL PROCESSING DURING func

説明: SEF ルール・マネージャーによって開始されたセル・プール処理中に異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: このエラーが GET 中に発生した場合は、製品の領域サイズを調べてください。このエラーの発生が GET 中でなかった場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func 誤差関数

HLV3934E msg BE STORED IN RULESET rule1 - ERROR FOUND FOR rule2

説明: SEF ルール・マネージャーは、現在のルール・ヘッダーが現在のルール・セット内のストレージに適用できないことを検出しました。

ユーザーの処置: セキュリティー・ルールは、セキュリティー・ルール・セットにのみ保管できます (セキュリティー・ルールが検出されている場合)。また、セキュリティー・ルール以外をセキュリティー・ルール・セットに保管することはできません。現行ルールを、必ず、適切なルール・セット環境に保管してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg エラー・メッセージ・テキスト rule1 ルール・セット名ストリング rule2 処理中の ruleset.rule

HLV3935E CANNOT OPEN ddn (ABEND abcd AT mod+off)

説明: コンパイル済みルール・ライブラリーのオープン処理中に異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: 指定されたライブラリーが PDS (製品提供の他のプリコンパイル済みライブラリーと定義が類似のもの) であることを確認します。異常終了コードについて、IBM メッセージおよびコード解説書を調べてください。メンバーが存在しないか、データ・セット属性にエラーがある (順次 DSORG、または LRECL と BLKSIZE の非互換性) 可能性が高いと考えられます。システム 913 異常終了コードが報告された場合、データ・セット・アクセスはセキュリティー・サブシステムにより禁止されています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn DD 名、abcd 異常終了コード、mod モジュール名、off モジュール・オフセット

HLV3936E cmd FAILED FOR rule - service OF ddn FAILED

説明: COMPILE コマンドまたは LISTCOMP SEF コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 指定されたライブラリーが正しく割り当てられていることを確認してください。また、指定されたライブラリーが PDS (製品提供の他のプリコンパイル済みライブラリーと定義が類似のもの) であることを確認します。異常終了コードについて、IBM メッセージおよびコード解説書を調べてください。メンバーが存在しないか、データ・セット属性にエラーがある (順次 DSORG、または LRECL と BLKSIZE の非互換性) 可能性が高いと考えられます。システム 913 異常終了コードが報告された場合、データ・セット・アクセスはセキュリティー・サブシステムにより禁止されています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd SEF コマンド・タイプ rule ruleset.rule 名 service 失敗したサービス ddn データ・セットの DD 名

HLV3937E LISTCOMP FOR RULESET rule FAILED - NO RULES FOUND

説明: 個々のルール・セットに対する LISTCOMP コマンドが失敗しました。コンパイル済みルール・ライブラリーで、保管済みのコンパイル・ルールが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: LISTCOMP コマンドの指定済みルール・セットが有効なものであることを確認して、コマンドを再発行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール・セット名

HLV3938E RULESET- rule UNABLE TO ACCESS COMPILED RULES

説明: COMPILE コマンド、LISTCOMP コマンド、または DELCOMP SEF コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 指定されたルール・セットの XODSN キーワードに適切な PDS が割り振られていることを確認してください。SWIRULE ルール・セットには特別な制約事項が適用されます。このルール・セットをお客様がコンパイルすることはできません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール・セット名

HLV3939E SEF COMPILE PROCESSING OF rule FAILED

説明: COMPILE コマンド、LISTCOMP コマンド、または DELCOMP SEF コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: このメッセージには、他のメッセージが付随しているはずです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール名またはルール・セット名

HLV3940E AUTOENABLED FAILED - rule IS A REXX EXTERNAL ROUTINE

説明: 実際に製品の REXX 外部ルーチンであるルール・セットのメンバーに対して AUTOENABLE コマンドが出されました。

ユーザーの処置: ご使用のコマンドを確認してください。可能であれば、コマンドを再発行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール名またはルール・セット名

**HLV3941W SOURCE OF rule MODIFIED SINCE
LAST COMPILE - SEF WILL USE
SOURCE**

説明: SEF は、現在のルールのコンパイル済みバージョンが存在していることを検出しました。しかし、ルールのソース・バージョンは、ルールが最後にコンパイルされた後に変更されていることを検出しました。SEF は、これを使用可能にするために、ルールのソース・バージョンを使用します。

ユーザーの処置: ルールの再コンパイルまたは自動的な使用可能化が必要になる場合があります。その場合、ルールのコンパイル済みバージョンも自動的に保管されません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール名

**HLV3942 I NO ruletype RULES ENABLED IN
RULESET rule**

説明: これは、製品の SEF コマンド LISTINST RULETYPE() 通知メッセージまたは状況レポート・メッセージです。指定されたタイプのルールで、ルール・セットで使用可能なものはありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
ruletype ルール・タイプ rule ルール・セット名

HLV3943 I 現在、使用可能なルールはありません。

説明: 使用可能なルールがないため、SEF コマンド LISTINST はルールまたはルール・セットの統計を返すことができませんでした。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV3944 I rule

説明: SEF コマンド LISTINST ruleset.rulename は、ルール・セット内の使用可能なルールごとに 1 つの行を作成します。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは、通知目的でのみ使用され、出力域に使用可能なルールに関する情報をリストします。このメッセージに対する応答は不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule 使用可能なルールの情報

HLV3945 I rule

説明: SEF コマンド LISTINST ルール・セット (ルール名なし) は、使用可能なルール・セットごとに 1 行を作成します。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは、通知目的でのみ使用され、出力域に使用可能なルール・セットに関する情報をリストします。このメッセージに対する応答は不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule 使用可能なルール・セットの情報

**HLV3946 I TYP PROCEDURE (set mem) SET
INVALID parm VALUE OF "value"**

説明: TYP イベント・プロシーチャーの初期化処理中に、REXX ルーチンが無効なパラメーター値を設定しました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは、通知目的でのみ使用され、使用可能化の試行に関する情報をリストします。TYP ルールは使用可能化されません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: set イベント・プロシーチャー・セット名 mem イベント・プロシーチャー・メンバー名 parm パラメーター名 value 無効だった値

**HLV3947 I TYP EXECUTION MODULE mod
NOT FOUND FOR varname IN (set
mem)**

説明: TYP イベント・プロシーチャーの初期化処理中に、無効なロード・モジュール名が指定されました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは、通知目的でのみ使用され、使用可能化の試行に関する情報をリストします。TYP ルールは使用可能化されません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod 検出されなかったロード・モジュール名 varname 該当の名前を指定した REXX 変数 set イベント・プロシーチャー・セット名 mem イベント・プロシーチャー・メンバー名

**HLV3948W Too many sections found in rule
procname**

説明: ルールで、複数の処理セクションが検出されました。この制限は将来のリリースで除去される可能性があります。

ユーザーの処置: 現時点では、1 つの WWW ルールまたは RPC ルール内でコーディングすることができるプロセス・セクションは 1 つのみです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
procname エラーが検出されたイベント・プロセス
一名

**HLV3949 I ruletype WWW RULE rule1.rule2
ALREADY DEFINES THE URL 'crit'**

説明: 重複した URL 基準値が、同じ管理レベルで複数の WWW ルールに指定されています。重複 URL 処理ルールが活動化されるのは、ペアの一方がマスター WWW ルール・セット内に存在し、もう一方が従属セット内に存在する場合のみです。このような場合、マスター・ルールは必ず従属ルールより前に処理され、従属ルールが処理されるのは、マスター・ルールがヘッダー専用の汎用ルールであるときに限られます。マスター・ルールに REXX、FILE、または PROGRAM セクションといったプロシージャ型の指定が含まれている場合、従属ルールは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のルールを活動化する前に重複ルールを無効にするか、現行ルール内の URL 基準値を固有値に変更してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
ruletype ルール・セットのタイプ: MASTER または
SUBORDINATE rule1 重複が検出されたルール・セ
ット rule2 重複が検出されたルール crit URL 基準値

HLV3950 I data

説明: SEF ルール・マネージャーは、データ・セット統計と状況をリストするために現在のメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは統計に基づくものであり、データ・セット情報をリストします。このメッセージに対する応答は不要です。PDS 出力リストを調べ、適宜、選択してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data メ
ッセージ出力行

HLV3951E DDNAME ddn NOT ALLOCATED

説明: SEF ルール・マネージャーは、/*FILE セクションの処理のためにデータ・セットをオープンしようとした。該当のデータ・セットは、DD 名が割り当て解除されているため、オープンできませんでした。

ユーザーの処置: メッセージに示されている DD 名が、サブシステムが開始したタスク JCL 内のデータ・セットに割り振られていることを確認するか、または正しい DD 名の値が /*FILE セクション・ヘッダー内に指定されていることを確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn デ
ータ・セットの DD 名

**HLV3952E DDNAME ddn COULD NOT BE
OPENED (rc) addon**

説明: SEF ルール・マネージャーは、/*FILE セクションの処理のためにデータ・セットをオープンしようとした。The data set could not be opened.

ユーザーの処置: メッセージに示されている DD 名が、サブシステムが開始したタスク JCL 内のデータ・セットに割り振られていることを確認するか、または正しい DD 名の値が /*FILE セクション・ヘッダー内に指定されていることを確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn デ
ータ・セットの DD 名 rc ファイル・プロセッサ
・ルーチンの戻りコード (数値コードの場合) または文字
理由 (オープン障害の場合) addon 追加の診断情報

HLV3953T text

説明: Web トランザクションは、中間処理を行うために ADDRESS SEF コマンドを呼び出しました。ADDRESS SEF コマンドが失敗しました。ADDRESS SEF コマンドによって発行されたメッセージは、このメッセージ ID を使用してトレースに記録されます。

ユーザーの処置: メッセージを調べて、元の /*FILE 要求がリジェクトされた理由を確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text
ADDRESS SEF メッセージのテキスト

**HLV3954E MEMBER mem NOT FOUND IN
DATA SET ddn**

説明: 示されたメンバーは、参照対象の PDS データ・セット内で見つかりませんでした。このファイルの関連プロセスは、メンバーでエラーが見つからずに終了します。

ユーザーの処置: メッセージを調べて、元の /*FILE 要求がリジェクトされた理由を確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem
メンバー名 ddn DD 名

**HLV3955E MEMBER mem NOT FOUND IN
DATA SET ddn**

説明: 参照対象の PDS データ・セット内で、示されたメンバーが見つかりませんでした。このファイルの関連プロセスは、メンバーでエラーが見つからずに終了します。

HLV3956 I • HLV3964E

ユーザーの処置: メッセージを調べて、元の /*FILE 要求がリジェクトされた理由を確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mem
メンバー名 ddn DD 名

HLV3956 I FILE ddn NOW st

説明: 示されたファイルは、メッセージが示すとおり、オンラインまたはオフラインにされました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、共用 PDS ファイルの /*FILE 関連の活動化または非活動化を示すためにトレースされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn
DD 名 st 状況 (OFFLINE または ONLINE)

HLV3957 I data

説明: SEF ルール・マネージャーは、PDS メンバー統計をリストするために現在のメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは統計に基づくものであり、PDS データ・セット・メンバー情報をリストします。このメッセージに対する応答は不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data
メッセージ出力行

HLV3958E ABEND abcd (reason) IN mod+off DURING service PROCESSING, SOME FILES MAY NOT BE st

説明: 初期化時または終了時のファイルのオープンまたはクローズ処理中に異常終了が発生しました。一部のファイルは処理されていない可能性があります。

ユーザーの処置: 初期化プロセスまたは終了プロセスは続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd
異常終了コード、reason 異常終了理由、mod 異常終了が発生したモジュール、off モジュール内の異常終了のオフセット、service 実行されている操作、st ファイルの状況

HLV3959 I cnt1 of cnt2 shared data files now st

説明: 初期化または終了中に、ファイル処理の結果を示すメッセージが出されます。

ユーザーの処置: 一部のファイルがオープン時にオープンされないままである場合を除き、アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt1 現在オープンしているか、またはクローズしているファイ

ルの数 cnt2 共用ファイルの合計数 st ファイルの現在の状況

HLV3960E DSNAME dsn could not be allocated (rc)

説明: SEF ルール・マネージャーは、/*FILE セクションの処理のためにデータ・セットを割り振ろうとしました。データ・セットは開けませんでした。

ユーザーの処置: メッセージに示されている DS 名が存在することを確認するか、または正しい DS 名の値が /*FILE セクション・ヘッダー内に指定されていることを確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn データ・セットの DS 名 rc ファイル・プロセッサ・ルーチンの戻りコード (数値コードの場合) または文字理由 (オープン障害の場合)

HLV3961 I DSNAME dsn DDNAME ddn ALLOCATED

説明: 示された DS 名は、示された DD 名に割り振られました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、/*FILE 関連の割り振りを示すためにトレースされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn DS 名 ddn DD 名

HLV3962 I DDNAME ddn DEALLOCATED

説明: 示された DD 名は割り振り解除されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、DD 名の割り振り解除を示すためにトレースされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn
DD 名

HLV3963 I Generated DDNAME counter field rollover occurred

説明: DD 名を生成するために使用された 8 バイト・カウンター・フィールドがロールオーバーしました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、DD 名の生成に使用された 8 バイト・カウンター・フィールドのロールオーバーを示すためにトレースされます。

HLV3964E Member list not valid for sequential data sets DDNAME ddn, DSNAME dsn

説明: メンバー・リスト関数は順次データ・セットに対して出されました。メンバー・リスト関数は、区分デー

タ・セット (PDS または PDSE) に対してのみ使用可能です。

ユーザーの処置: メンバー・リスト関数は、PDS データ・セットまたは PDSE データ・セットに対してのみ発行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn データ・セットの DD 名 dsn データ・セットの DS 名

HLV3965T WARNING: OUTBOUND RESP DATA PRECEDES THIS FILE REQUEST - HTTP RESP PROTOCOL ELEMENTS WILL BE UNUSABLE BY CLIENT

説明: ファイルを HTTP クライアントに送信するために SWSFILE(SEND) または /*FILE が呼び出されたときに、サーバーは、出力データが以前に、そのクライアントへの送信のためにフラッシュされていたことを検出しました。サーバーは、この警告メッセージを出した後、ファイル要求を続行します。サーバーのファイル・ルーチンは HTTP 応答プロトコル・ヘッダー (Content-Type、Content-Length、Expires など) を生成するため、これらのヘッダーの前にデータがあると、クライアントで、予測できない結果が生じることがあります。例えば、ファイル・ルーチンによって送信されたデータが表示されなかったり、誤って解釈されたりする (つまり、クライアントが HTML テキストを GIF イメージとして処理しようとすることがある)、あるいはクライアントが通信セッションを閉じることがあります。

ユーザーの処置: ファイル要求に先行する出力が、ユーザー作成トランザクション・プロシージャによって生成された場合、先行する出力を除去するか、同じトランザクション内の /*FILE または SWSFILE(SEND) の使用を避ける、あるいは SWSSEND(FLUSH) 操作が発生しないようにすることによって、この状態を修正できます。

HLV3966T External data queue full

説明: SWSFILE 操作がその結果を外部データ・キューに出力し (QUEUE 機能および MBRLIST 機能)、すべての情報を書き込めないうちに外部データ・キューがいっぱいになると、このメッセージがトレースされます。

ユーザーの処置: 現在の SWSFILE 操作は、戻りコード 28 で終了します。/*WWW ヘッダー・ステートメントに QUEUESIZE() オーバーライドを指定して、外部データ・キューのサイズを増やしてください。

HLV3967 I DSN var1

説明: SEF ルール・マネージャーは、単一共用ファイル DD 名の次の連結データ・セット、または SEF ルール・セットの次の連結データ・セットをリストするために現在のメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: 現在のメッセージは統計に基づくものであり、データ・セット情報をリストします。このメッセージに対する応答は不要です。PDS 出力リストを調べ、適宜、選択してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: DSN データ・セット名、var1 連結索引 (1 からの相対値)

HLV3968 I service FAILED. RETURN CODE: rc

説明: SEF ルール・マネージャーは、システム・サービスで障害が発生したために、このメッセージを発行しました。

ユーザーの処置: この問題は、ファイル処理エラーに起因して生成されます。該当のファイルを訂正して、再度、要求を処理します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 障害が発生したシステム・サービス rc システム・サービスからの戻りコード

HLV3969 I FORMAT OF SHARED FILE BLOCK FAILED - INVALID IDENTIFIER 'vlu'

説明: 内部 FMITSFILE コマンドに対して、無効な ID 値または一致しない ID 値が指定されました。該当の ID が無効であったか、対応する共用ファイル・ブロックが存在しなくなりました。

ユーザーの処置: 共用ファイル・ブロックはフォーマット設定されず、処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: vlu 共用ファイル・ブロックの固有 ID の値

HLV3970E MATCH CRITERION MUST BEGIN WITH /set - %2.%3

説明: イベント・プロシージャの使用可能化中に、WWW ルールのマッチング基準が指定のストリングで始まっていないため、そのルールは無効であることが検出されました。WWW イベント・プロシージャのマッチング基準はすべて、マスター・プロシージャ・セットに定義されていない限り、イベント・プロシージャ・セット名で始まる必要があります。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、再度、イベント・プロシージャを使用可能にしてください。

HLV3971E • HLV3978T

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: set イベント・プロシージャー・セットの名前

HLV3971E /*WWW STMT - text - %2.%3

説明: イベント・プロシージャーの使用可能化中に、WWW プロシージャー・ヘッダー・ステートメントのコーディングが誤っていることが検出されました。このプロシージャーは使用可能化されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、再度、イベント・プロシージャーを使用可能にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エラー・テキスト

HLV3972E /*WWW STMT - key MAY ONLY BE CODED WITHIN THE rule RULESET - %3.%4

説明: イベント・プロシージャーの使用可能化中に、WWW プロシージャー・ヘッダー・ステートメントのコーディングが誤っていることが検出されました。示されたキーワードのコーディングは、マスター WWW ルール・セットのヘッダー・ステートメントでのみ可能です。マスター WWW ルール・セットとしての指定を行うには、そのルール・セットを定義する DEFINE RULESET ステートメントで、WWWCLASS(MASTER) をコーディングする必要があります。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、再度、イベント・プロシージャーを使用可能にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: key 有効でないキーワード rule マスター WWW ルール・セットの名前または説明

HLV3973E /*REXX STMT - text - %2

説明: イベント・プロシージャーの使用可能化時に、REXX セクション・ヘッダー・ステートメントのコーディングが誤っていました。このプロシージャーは使用可能化されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、再度、イベント・プロシージャーを使用可能にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エラー・テキスト

HLV3974T RUNAUTH USERID 'usid' - SETUP SUCCEEDED

説明: RUNAUTH ユーザー ID は、システムに記録されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid RUNAUTH ユーザー ID

HLV3975T RUNAUTH USERID 'usid' - USERID INVALID

説明: RUNAUTH ユーザー ID は無効なため、システムにログオンできませんでした。

ユーザーの処置: セッションは続行を許可されません。Web トランザクションは、(理由コード 27 で) サーバー・エラーを示す、SYSTEM/ERROR/500 URL への再スキャンによってリジェクトされます。無効な RUNAUTH ユーザー ID を指定した WWW ルールを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid RUNAUTH ユーザー ID

HLV3976E DPRTY OPERAND 'oper1' - reason

説明: DPRTY オペランド値は、メッセージに示されている理由により無効でした。

ユーザーの処置: WWW ルールが使用可能になっていません。無効な DPRTY オペランドを指定した WWW ルールを訂正して、ルールを再度使用可能にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1 DPRTY キーワードのオペランド reason オペランドが無効である理由

HLV3977T WWW task dispatch priority changed from value1 by value2

説明: WWW トランザクション・サブタスクのディスパッチング優先順位は、DPRTY() キーワードを指定した /*WWW ルールに一致したため、変更されました。

ユーザーの処置: WWW サブタスクは、この新しい優先順位値を使用し続けます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value1 以前の優先順位値 value2 優先順位値に対して行われた変更

HLV3978T ovrd OVERRIDE FAILED IN loc - RC=rc AT ad

説明: REXX ワークスペースまたは外部データ・キューのサイズをオーバーライドしようとしているときに、障害が発生しました。WORKSPACE オペランドまたは

QUEUESIZE オペランドが大きすぎる可能性があります。

ユーザーの処置: WWW サブタスクは、再度、システム・エラーのリカバリー手順に転送され、トランザクションは打ち切られました。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ovrđ
処理中のオーバーライド loc 障害の場所 rc サービス戻りコード

HLV3979E ATH LOGON rule must exit with 'ACCEPT' if ACEE is created for subtask

説明: ATH ログオン・プロシージャが原因で、現行サブタスクの TCBSENV ポインタがゼロ以外の値に設定されました。ATH ログオン・ルールは、ACEE ブロックを作成する場合、ログオン処理が完了したことを示すコード付きで戻ることも必要です。これにより、ACEE ブロックが組み込みサーバー・セキュリティー処理によって誤って孤立化されたり破棄されたりしないようになります。

ユーザーの処置: ログオン要求全体がリジェクトされ、ログオン要求プロセスは SOC3 異常終了で打ち切られません。

HLV3980E RUNAUTH USERID (userid) LOGON FAILED

説明: WWWDEFAULTRUNAUTH システム・パラメーターによって指定された RUNAUTH ユーザー ID は、始動時にログオン処理に失敗しました。

ユーザーの処置: HTTP-API 初期化プロセスは打ち切られます。WWWDEFAULTRUNAUTH 始動パラメーターによって指定されたユーザー ID が正しいことを確認してください。そのユーザー ID についての関連メッセージがないか、JOBLOG を調べます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid
WWWDEFAULTRUNAUTH ユーザー ID

HLV3981 I Default RUNAUTH USERID userid logged onto system

説明: WWWDEFAULTRUNAUTH システム・パラメーターによって指定された RUNAUTH ユーザー ID は、システムにログオンしました。

ユーザーの処置: HTTP-API 初期化処理は続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid
WWWDEFAULTRUNAUTH ユーザー ID

HLV3982E INDEXED DELETE OF rule1.rule2 (crit) FAILED (TRACE=tb) - RULE NOT DELETED

説明: 示されているルールは、内部ルール検索ツリーの索引から削除できませんでした。このルールは削除されませんが、無効に設定されます。

ユーザーの処置: このエラーが再発する場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
ルール・セット名 rule2 ルール名 crit ルールの基準 tb
内部トレースバック値

HLV3983E RULESET rule1 action REJECTED BY SEF - var var var var var var var

説明: 示されているルール・セット定義または変更を処理して SEF 構成に入れることができませんでした。

ユーザーの処置: 元の要求を訂正して、再度実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
ルール・セット名 action 定義または変更 var 可変情報 var 可変情報 var 可変情報 var 可変情報 var 可変情報 var 可変情報

HLV3984H SEF ruleset rule1 SEF configuration action accepted

説明: 示されているルール・セット定義または変更は、SEF によって処理され、アクティブな構成に入れられました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
ルール・セット名 action 定義または変更

HLV3985E XO DATASET dsname ERROR - var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8

説明: 示されている実行可能オブジェクト (XO) データ・セットの処理中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsname
XO データ・セットの名前 var2 各種 var3 各種 var4 各種 var5 各種 var6 各種 var7 各種 var8 各種

HLV3986E FILE DDN action REJECTED BY SEF - var var var var var var var

説明: 示されている共用ファイルの定義または変更を処理して SEF 構成に入れることができませんでした。

HLV3987H • HLV3993H

ユーザーの処置: 元の要求を訂正して、再度実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: DDN
共用ファイル DD 名 action 定義または変更 var 可変
情報 var 可変情報 var 可変情報 var 可変情報 var 可
変情報 var 可変情報 var 可変情報

HLV3987H Shared file DDN SEF configuration action accepted

説明: 示されている共用ファイルの定義または変更は正
常に完了しました。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: DDN
共用ファイル DD 名 action 定義または変更

HLV3988E SEF task is terminating due to severe configuration or environmental error with critical resource

説明: SEF サブタスクは自己終了し、サーバーはシャ
ットダウンします。クリティカル・リソースが適切に構
成されていないか、または環境エラーによりクリティカ
ル・リソースにアクセスできません。通常、これは、ク
リティカル共用ファイルか、WWWCLASS(MASTER)
がある ATH、TYP、または WWW のルール・セット
に関して、定義、OPEN エラー、またはルールの自動使
用可能化エラーが発生したことを意味します。

ユーザーの処置: 先行メッセージを調べて、欠落してい
るか定義されていないリソースまたは定義、あるいはア
クセスできないリソースまたは定義を判別してくださ
い。該当のリソースに関係する始動定義を訂正して、サ
ーバーを再始動します。

HLV3989W SEF RULE MGR ABEND ABCD REASON ABRS AT MOD+OFF WHILE PROCESSING REQUEST var1

説明: SEF ルール・マネージャーは、示されているロ
ケーションで異常終了からトラップしてリカバリーされ
ました。ルール・マネージャーはサービス要求側に異常
終了完了コードを返すので、要求側は、そのエラーの重
要性がクリティカルなものであるかどうかを判断する必
要があります。呼び出し側は、要求に合わせて、エラー
を無視するか、補正する、またはエスカレートします。

ユーザーの処置: 先行するメッセージや後ろに続くメ
ッセージを調べて、欠落しているか、構成が正しくない、
あるいはアクセスできないリソースまたは定義を判別し
てください。該当のリソースに関係する SEF 始動定義
を訂正して、サーバーを再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ABCD
異常終了完了コード、ABRS 異常終了理由コード、
MOD 異常終了が発生しているモジュール名、OFF 異
常終了が発生しているモジュール・オフセット、var1
ルール・マネージャー PLIST

HLV3990E /*FILE STMT - text

説明: イベント・プロシーチャーの使用可能化時に、示
されたエラーが原因で /*FILE セクションが有効ではあ
りませんでした。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、再度、イベント・
プロシーチャーを使用可能にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エ
ラー・テキスト

HLV3991H SEF RULESET rule1 DATASET dsn IS status

説明: 示されたルール・セット・データ・セットの状況
が変更されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的で
のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
ルール・セット名 dsn データ・セット名 status 新しい
ルール・セット状況

HLV3992T SEF RULESET rule1 DATASET dsn IS status

説明: 示されたルール・セット・データ・セットの状況
が変更されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的で
のみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
ルール・セット名 dsn データ・セット名 status 新しい
ルール・セット状況

HLV3993H SEF RULESET rule1 DATASET dsn WAS STOPPED. RSN: rsn

説明: 示されたルール・セットは停止されました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。ルール・
セットを停止する必要がない場合は、Trace Browse お
よび SYSLOG を調べて、ルール・セット停止の原因を
判別してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
ルール・セット名 dsn データ・セット名 rsn ルール・
セットが停止された理由

**HLV3994T SEF RULESET rule1 DATASET dsn
WAS STOPPED. RSN: rsn**

説明: 示されたルール・セットは停止されました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。ルール・セットを停止する必要がない場合は、Trace Browse および SYSLOG を調べて、ルール・セット停止の原因を判別してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1
ルール・セット名 dsn データ・セット名 rsn ルール・
セットが停止された理由

HLV3998 I data

説明: SEF ルール・マネージャーはこのメッセージを使用して、共用ファイルのフォーマット済み制御ブロック出力メッセージをリストします。

ユーザーの処置: これらのメッセージには、フォーマット済み制御ブロック・イメージが含まれています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data フォーマット済み制御ブロック出力行データ

HLV4000H text

説明: これは、特定の VTAM エラーについての汎用メッセージです。

ユーザーの処置: このメッセージで報告されるすべての状態が実際にエラーというわけではありません。メッセージのテキストを熟読して、エラーが発生したかどうかを判別してください。エラーが発生したが、それを解決できない場合には、ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text
VTAM エラー・メッセージのテキスト

**HLV4001H UNKNOWN service CODES - R0=r0
R15=r15**

説明: このメッセージは、SHLV が認識していない VTAM 戻りコードと理由コード (R0と R15) を報告しています。

ユーザーの処置: これは、何らかのタイプの内部エラーを示している場合があります。HLV によってまだサポートされていない VTAM のバージョンを実行している可能性もあります。実行している VTAM のバージョンがサポート対象であると考えられる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service
現行操作 r0 レジスター 0 の内容 r15 レジスター 15
の内容

**HLV4002H UNKNOWN service CODES -
RCPR=code1 RCSC=code2**

説明: このメッセージは、4001H メッセージと組み合わせて表示されます。

ユーザーの処置: これは、何らかのタイプの内部エラーを示している場合があります。この製品によってまだサポートされていない VTAM のバージョンを実行している可能性もあります。実行している VTAM のバージョンがサポート対象であると考えられる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service
現行操作 code1 1 次応答拡張コード code2 2 次応答拡張コード

HLV4003H service

説明: このメッセージは、製品内での特定の VTAM 関連イベントをトレースするために使用します。

ユーザーの処置: ユーザーのトレース要求なしにトレース・メッセージが表示されている場合を除き、アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service
現行操作

HLV4004H service - lu

説明: このメッセージは、製品内での特定の VTAM 関連イベントをトレースするために使用します。

ユーザーの処置: ユーザーのトレース要求なしにトレース・メッセージが表示されている場合を除き、アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service
現行操作 lu LU 名

HLV4005H service - lu/mode

説明: このメッセージは、製品内での特定の VTAM 関連イベントをトレースするために使用します。

ユーザーの処置: ユーザーのトレース要求なしにトレース・メッセージが表示されている場合を除き、アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service
現行操作 lu LU 名 string mode モード名ストリング

**HLV4006H VTAM APPLID NOT SET - LU 6.2
SUPPORT NOT ACTIVATED**

説明: ローカル VTAM アプリケーション ID が設定

HLV4007H • HLV4016S

されていません。この HLV のコピーに対する VTAM 処理は不可能です。

ユーザーの処置: メイン・アドレス・スペースの VTAM タスクはシャットダウンします。xxxxxIN00 EXEC に VTAM アプリケーション ID を実際に指定した場合を除き、これはエラーではありません。VTAM LU6.2 が使用されていないなくても、他の通信プロトコルが活性化される可能性があることに注意してください。

HLV4007H INVALID FMH-5 CONTROL BLOCK RECEIVED FROM lu

説明: 無効な FMH-5 制御ブロックをピア LU から受け取りました。この無効な FMH-5 ブロックは無視され、会話は即時に終了されます。

ユーザーの処置: このエラーは、別の製品がメイン製品アドレスとの会話を確立しようとした場合にのみ発生します。その別の製品の担当者にこのエラーを報告する必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lu
VTAM LU 名ストリング

HLV4010T TCB MODE SWITCH ERROR: errdesc var %3 %4 %5 %6 %7

説明: SRB から TCB のディスパッチ可能単位実行モードに切り替え中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: SRB から TCB への切り替え要求は失敗します。SRB モード・ルーチンは、メッセージに示されているとおり、続行できない場合は S0C3 ABEND を生成し、それ以外の場合は SRB モードで処理を続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc
エラーの説明 var その他の関連情報

HLV4012T SRB MODE SWITCH ERROR: errdesc var %3 %4 %5 %6 %7

説明: TCB から SRB のディスパッチ可能単位実行モードに切り替え中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: TCB モードからの切り替え要求は失敗します。TCB モード・ルーチンは、メッセージに示されているとおり、続行できない場合は S0C3 ABEND を生成し、それ以外の場合は TCB モードで処理を続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc
エラーの説明 var その他の関連情報

HLV4014T Shunting to mode execution mode prior to ABEND retry, retry GPR14 in ABEND traces contains retry target address

説明: インターセプトされた異常終了の後、再試行の実行中です。作業のディスパッチ可能単位は現在、再試行ルーチンが予期しているモードとは異なるモード (SRB または TCB) で実行しています。サーバーは、実行を正しいディスパッチ・モードに変えてから、再試行します。

ユーザーの処置: このメッセージは、別の実行モードへのシャントが必要な場合にのみ、しかも休止エレメント・ディスパッチ・アクティビティのトレース中のみ、異常終了の再試行に対してトレースされます。先行する ABEND イベント・トレース・レコードの GPR14 再試行レジスターには、シャント後に制御を与えられた真のターゲット再試行アドレスが含まれています。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mode
再試行が実行されるモード

HLV4015 I cnt new SRBs scheduled with PRIORITY=CURRENT because no WLM enclave is joined

説明: このメッセージは、優先する PRIORITY=ENCLAVE オプションの代わりに PRIORITY=CURRENT を使用してスケジュールされた SRB の数に変更があることが認識された場合に発行されます。これは、タスクが SRB をスケジュールする時点で WLM エンクレーブに結合されない場合に発生します。SRB は、スケジューリング・タスクと同じ優先順位でスケジュールされます。これにより、zIIP コプロセッサでの SRB の実行が不可能になります。

ユーザーの処置: 通常、アクションは不要です。一部のサイトは、規則的な頻度でこれらの通知を受け取る場合がありますが、これらの通知をほとんど、またはまったく受け取らないサイトもあります。これらのメッセージの数が増えたことに気付いた場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、詳細な分析を求めてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 新しい PRIORITY=CURRENT SRB スケジュール

HLV4016S FRR PARAMETER UNSTACK ERROR - var1

説明: このメッセージは、PC ルーチンが、SRB モードの実行中にネスト FRR パラメーターをアンスタックしてリストアしようとしたときに発行されます。現行 FRR スタックの状態が予想に反して変更されたため、アンスタック操作は失敗しました。

ユーザーの処置: PC ルーチンは、このメッセージの発行後に SOC3 異常終了を生成します。既存の FRR は、制御を受け取り、リカバリーを試みる可能性があります。この PC 呼び出しスタック域は、定期処理中にチェック制限処理によって再活動化されるまでリカバリーされません。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 アンスタックが失敗した理由

HLV4017T TYPE-1 LDU TERMINATION CALL ERROR - var1 var2 var3 var4

説明: TCB/SRB モード切り替えに使用された Type-1 論理ディスパッチ可能単位作成の終了中にエラーが検出されました。LDU 終了の要求はバイパスされます。

ユーザーの処置: 終了ルーチンは、呼び出しルーチンに戻ります。このメッセージは、この種の論理ディスパッチ可能単位処理をサポートできないサブタスクについて LDU 終了を処理するルーチンに入って以降の、タスクの終わりのクリーンアップ処理中の潜在的な論理エラーの通知として機能します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 要求拒否の理由、var2 その他の情報、var3 その他の情報、var4 その他の情報

HLV4018 I cnt New SRB schedule (IEAMSCHD) failures encountered

説明: このメッセージは、IEAMSCHD サービスによって返された障害が原因で、スケジュールされなかった SRB の数に変更があることが認識された場合に発行されます。これらの障害の原因は、SRB がスケジュールされた WLM エンクレーブが無効になったためである可能性があります。

ユーザーの処置: 詳細な分析については、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 新しい SRB スケジューリング障害

HLV4019T Session lost (hung) due to type-4 LDU schedule failure

説明: このメッセージは、通信セッションを閉じるよう TYPE-4 LDU を構成したりスケジュールしたりできない場合にトレースされます。このセッションは孤立化し、サーバーがリサイクルされるまでハングします。

ユーザーの処置: 詳細な分析については、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4020T DRDA processing bypassed for connection to var1, var2

説明: このメッセージは、DRDA 処理が接続についてスキップされる場合にトレースされます。

ユーザーの処置: 接続は、ターゲット DB2 サブシステムへの標準 RRSF インターフェースを使用して処理されます。詳細な分析については、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 ターゲット DB2 サブシステム、var2 DRDA 処理がスキップされた理由

HLV4021T Generic (TLS) USERID var1 ignored for DRDA connection

説明: このメッセージは、総称 (TLS) ユーザー ID が現行の SQL 要求メッセージと一緒に送信された場合にトレースされます。

ユーザーの処置: 総称ユーザー ID (TLS) サポートは、DRDA のバックエンド接続が使用されている場合は使用不可になります。総称ユーザー ID は、クライアントによって送信された DB2 の処理については無視されません。これは、SMF ログ・レコードの作成時などにも使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 要求に対して送信された総称 (TLS) ユーザー ID

HLV4022T CONNECT TO DDF HOST=var1, PORT=var2, CMIDADR=var3 CMID=var4

説明: このメッセージは、DRDA 接続が正常にオープンされた場合にトレースされます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 DDF サーバー・ホスト・ドメインまたは IP アドレス、var2 DDF サーバー・ポート番号、var3 CMID アドレス、var4 CMID イメージ

HLV4023T var1 CALL TRACE: %SK

説明: このメッセージは、呼び出しルーチンのトレースを生成します。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 呼び出しタイプ、sk 呼び出しルーチンのリスト

**HLV4024T Passticket generation failed for
USERID=var1, APPL=var2, with RC =
var3**

説明: 指定されたユーザー ID と APPL 名の組み合わせに対して、パスチケットを生成できませんでした。

ユーザーの処置: RACF PTKTDATA クラスが活動化されていること、および該当の APPL 名に一致するリソースがクラスで定義されていることを確認します。可能な戻りコードは以下のとおりです。RC = x'04' - 無効なパスチケット・パラメーター・リスト、RC = x'08' - APPL 名について PTKTDATA プロファイルは検出されていない、RC = x'0C' - タスクまたはアドレス・スペース ACEE は検出されていない、RC = x'10' - 呼び出し側は許可されていない、RC = x'14' - PTKTDATA クラスはアクティブでない

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 ユーザー ID、var2 ターゲット APPL 名/PTKTDATA リソース名、var3 サービスからの戻りコード

**HLV4025S Metal-C function var1 in module var2
not found, var3**

説明: 初期化時に、外部可視性を必要とする Metal-c 関数が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 初期化は打ち切られます。欠落している関数が呼び出されたときに、サーバーでの DRDA 処理が異常終了することがあります。ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 関数名、var2 関数が配置されている必要のあるモジュール、var3 関数項目が見つからなかった理由

**HLV4026 I DRDA modules not loaded, Machine
below architecture-9 level, Found(var1)**

説明: 初期化時に、対応する XL C/C++ コンパイラー・アーキテクチャー・レベルを判別するために、インストール済みのマシン命令セットが調べられます。

DRDA モジュールは、ARCH(9) 以上のレベルでマシンをサポートするためにのみ提供されます。

ユーザーの処置: DRDA 処理モジュールはロードされず、DRDA サポートは使用不可です。DRDA 接続をオープンしようとする、 「Z196 (2817-xxx)

INSTRUCTION SET REQUIRED」という説明付きで MSG4020T がトレースされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 インストールされることが判明したアーキテクチャー・レベル

**HLV4027T var being issued to avoid DRDA idle
thread time limit**

説明: クライアント ODBC/JDBC セッションが長期間アイドル状態であるため、ROLLBACK が自動的に発行されています。IDTHOIN 制限時間の終わりに DRDA 接続が非アクティブ状態になってから DRDA がアイドル接続を終了するよう、準備済みステートメントを解放するために ROLLBACK が発行されます。あるいは、クライアントへの現行応答の送信が DDF アイドル時間制限より長い時間掛かっているため、SNDPKT (ping) 要求が自動的に発行されます。SNDPKT (ping) 要求/応答を交換すると、アクティブだが活動停止中の接続に課されるアイドル接続時間制限 DRDA がリセットされます。

ユーザーの処置: 追加のクライアント入力の待機前に、ROLLBACK が一度発行されます。クライアントに対する大きな応答の送信が進行中に、定期的に SNDPKT 要求が発行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var 「ROLLBACK」または「SNDPKT」

HLV4030T errdesc

説明: 新しいセッションのセットアップは、メッセージに報告されている理由により失敗しました。通常、この失敗は、初期送信の最初の部分を受け取るようとしているときに、接続が失われたか、タイムアウトしたために発生します。初期セットアップは、セッションが HTTP 接続用にオープンされるのか、ODBC/JDBC 接続用にオープンされるのかを判別します。これが失敗時に認識された場合、メッセージの先行位置は、そのセッションが HTTP 用であったのか、ODBC/JDBC 用であったのかを示します。また、これが判別できた時点で、SSL 暗号化がセッションに対して使用されているかどうかを示します。クライアント IP アドレスは必ず、メッセージに含まれており、メッセージにはセッション・セットアップが失敗した障害の説明も含まれています。

ユーザーの処置: クライアント・システムへの接続は終了します。クライアント・アプリケーションは、エラーを報告すると考えられます。クライアント・システムのエラー・メッセージや、通信または SSL 問題を報告する関連トレース・メッセージがないか確認してください。タイムアウトの場合は通常、SELECT トレース・メッセージのみがこのメッセージに先行します。SELECT は受信の準備ができていないソケットがない状態で完了し、これはタイムアウト障害として認識されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc エラーの説明 ip TCP/IP IP アドレス

HLV4040E errdesc

説明: この接続のパートナー ACI セッションの処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: セッションは終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc エラーの説明

HLV4041T service buffer size length, address addr, length length

説明: この接続のパートナー ACI セッションの処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: セッションは終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service GET または FREE length 要求されたバッファの長さ addr バッファのアドレス length 返されたバッファの長さ

HLV4042E Parallel I/O ACI processing disabled

説明: 並列入出力処理に対する ACI サポートの初期化中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 並列入出力処理は使用不可です。

HLV4043T errdesc info

説明: MAP REDUCE は、この VSAM データ・セットを処理できませんでした。VSAM KSDS が小さすぎる場合、ACI タスクによって並列処理用に分割することはできません。VSAM KSDS は、最小限、2 つのシーケンス・セット・レコードを持っている必要があります。そのようなファイルのサイズは、索引の CI サイズと、シーケンス・セット・レコード内でのキーの圧縮方法によって異なります。

ユーザーの処置: 不要な ACI 処理タスクを開始および停止するオーバーヘッドを除去するために、このデータ・セットのデータ・マップについて MapReduce を無効にすることをお勧めします。VSAM ファイルは単一のタスクによって処理され、このファイルに対して MAP REDUCE は使用されません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc エラーの説明 info 追加情報

HLV4044E Map Reduce processing disabled

説明: MAP REDUCE 処理に対する ACI サポートの初期化中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: MAP REDUCE 処理は使用不可です。

HLV4045E ACI FUNCTION function FAILED, RC=rc errdesc

説明: MAP REDUCE ACI セッションの処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: セッションは終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: function 障害が発生した関数 rc 戻りコード errdesc エラーの説明

HLV4046T errdesc info info info info info

説明: MAP REDUCE 要求の処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: この要求の MAP REDUCE 処理は終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc エラーの説明 info 追加情報 info 追加情報 (オプション) info 追加情報 (オプション) info 追加情報 (オプション) info 追加情報 (オプション)

HLV4047T info info info info info info

説明: MapReduce は、セッションに関する情報をトレースしています。

ユーザーの処置: この要求の MAP REDUCE 処理は続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: info トレースの説明 info 追加情報 info 追加情報 (オプション) info 追加情報 (オプション) info 追加情報 (オプション) info 追加情報 (オプション)

HLV4048S BRFRSV unable to decrement OPDM active count. Service ACI,ACI,ACI

説明: ACI サービスのサービス・マップは、ACI サービスが最大アクティブ・サーバーに到達しないようにするためのフリー・サーバー・ルーチンである、モニター ACI サービスによって検出されませんでした。

ユーザーの処置: できるだけ早く、サーバーの再始動をスケジュールします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ACI サービス名 ACI サービス・クラス ACI Service のサービス

HLV4050E Invalid HTTP headers - errdesc - received from ip

説明: 無効な HTTP ヘッダーをリモート・システムか

HLV4051E • HLV4081T

ら受け取りました。この無効な HTTP ヘッダーは処理できませんでした。

ユーザーの処置: クライアント・システムへの接続は終了します。クライアント・アプリケーションは、エラーを報告すると考えられます。クライアント・システムのエラー・メッセージがないか確認してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc
エラーの説明 ip TCP/IP IP アドレス

HLV4051E SSL CONNECTION FAILED - errdesc - RECEIVED FROM ip

説明: クライアント・アプリケーションが、SSL を使用してホストへの接続を確立しようとした。接続は、SSL 処理に関連する何らかの理由で作成できませんでした。

ユーザーの処置: クライアント・システムへの接続は終了します。クライアント・アプリケーションは、エラーを報告すると考えられます。クライアント・システムのエラー・メッセージがないか確認してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc
エラーの説明 ip TCP/IP IP アドレス

HLV4052T var1 (var2,var3) - RV=var4 RC=var5 RE=var6

説明: Unix システム・サービスの呼び出し可能サービス要求が出されましたが、結果は予期しないものでした。

ユーザーの処置: このメッセージは、USS 呼び出し可能サービスからの予想戻り値または戻りコードを示すためにトレースされます。後続の処理は、発行された呼び出しによって異なります。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 呼び出し可能サービス・エントリ・ポイント名、var2 呼び出し可能サービス・フォーマット名、var3 追加のサービス呼び出し情報、var4 呼び出しからの戻り値、var5 呼び出しからの戻りコード (ERRNO)、var6 呼び出しからの理由コード

HLV4053E OPTPIN timed out waiting for a session to be passed

説明: OPTPIN は、新しい接続に渡されることを見越してポスト済み状態にされましたが、該当の新規セッション

は ECB はポストされませんでした。接続試行は中止されます。

ユーザーの処置: このメッセージは、予想した接続がリスニング・タスクからサービス・タスク (OPTPIN) に正常に渡されなかったことを示すためにトレースされます。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4054T No data read from socket - errdesc - received from ip

説明: データ受信 (TCP/IP 読み取り) を 10 回試行後に、ゼロ・バイトの読み取りと、いずれの種類ネットワーク・エラーも示されずに戻りました。

ユーザーの処置: クライアント・システムへの接続は終了します。クライアント・アプリケーションは、エラーを報告すると考えられます。クライアント・システムのエラー・メッセージがないか確認してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc
エラーの説明 ip TCP/IP IP アドレス

HLV4080T Invalid logon attempt by an unknown client detected, connection rejected.

説明: 未知のクライアント・ドライバーによりログオンしようとした。サーバーに接続できるのは、有効なクライアント・ドライバーのみです。接続はリジェクトされます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4081T Insufficient storage reserve for type (cnt) detected, connection rejected

説明: 指定された領域 (LSQA、Private、または EPrivate) のストレージ予約が超過しました。ホストへの現在の接続試行はリジェクトされました。ホスト・セッションは終了します。ストレージ予約の値は、製品パラメーターを使用して計算または設定されます。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡して、この件に関するアドバイスを求めてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: type ストレージ域 cnt 残りのストレージ

HLV4082T Maximum connected session limit is set to zero, server not accepting new connections

説明: 接続済みセッションの最大限度 (CONCURRENTMX パラメーター) が、現在、ゼロに設定されています。サーバーは、いずれの新規クライアント接続も受け入れません。ゼロという限度は通常、シャットダウン前に、静止期間中に設定され、既存のクライアント接続がそれぞれの操作を正常に完了できるようにします。QUIESCESYSTEMTYPE の設定に応じて、既存のクライアント・セッションは、取り消される (IMMEDIATE) か、または正常終了を許されます (ATTRITION)。

ユーザーの処置: 新規クライアント接続を許す必要がある場合は、CONCURRENTMX パラメーターをゼロ以外の値に変更してください。

HLV4083T SQL is not activated on the server.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4084T ODBC driver connections are not activated on the server. Session rejected.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4085T Transaction Level Security is not activated on the server. Session rejected.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4086T Network authentication is not enabled on this server. Session rejected

説明: クライアント・アプリケーションが、ネットワーク認証 (SECU=YES) を使用してホストに接続しようとしたが、該当のサーバーはネットワーク認証を許可するように構成されていません。

ユーザーの処置: サーバーは、その接続要求をリジェクトします。

HLV4087T Access to IDMS is not activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4088T Access to IDMS is not enabled, set the desired APPC/IDMS initialization parameters

説明: 製品は、クライアント・アプリケーションから IDMS と一緒に使用できるようになっていません。ホスト上でクライアントを使用して IDMS に接続する現行要求はリジェクトされました。現在のホスト・セッションは終了します。

ユーザーの処置: クライアント・アプリケーションからの IDMS へのアクセスが必要な場合は、該当する IDMS 接続パラメーターを設定して IDMS を有効にしてください。APPC/IDMS を、製品サーバー・アドレス・スペースから IDMS への通信用のトランスポートとして使用することができます。

HLV4089T STORED PROCEDURE CALLS ARE NOT SUPPORTED WHEN USING EXTENDED CURSOR POOLS (EXCU=YES).

説明: 製品は、拡張カーソル・プール・サポートが有効な状態 (EXCU=YES) でクライアントがサーバーに接続されている場合、ストアード・プロシージャー呼び出しをサポートしません。

ユーザーの処置: クライアントを再構成して、拡張カーソル・プール・サポートを使用不可 (EXCU=NO) にしてください。

HLV4090T Access to IMS/TM is not activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4091T Access to IMS/TM is not enabled, set the desired IMS/OTMA and/or IMS/APPC initialization parameters

説明: 製品は、クライアント・アプリケーションから IMS/TM と一緒に使用できるようになっていません。ホスト上でクライアントを使用して IMS/TM に接続する現行要求はリジェクトされました。現在のホスト・セッションは終了します。

ユーザーの処置: クライアント・アプリケーションから

HLV4092T • HLV4101T

の IMS/TM へのアクセスが必要な場合は、該当する IMS 接続パラメーターを設定して IMS を有効にします。IMS/OTMA または IMS/APPC のいずれかを、製品サーバー・アドレス・スペースから IMS への通信用のトランスポートとして使用することができます。

HLV4092T Access to CICS is not activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4093T Maximum number of type (cnt) already connected, connection rejected.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4096T Access to VSAM is not activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4097T Access to IMS/DB is not enabled, enable access by setting the DBCTL parameter value to YES

説明: 製品は、クライアント・アプリケーションから IMS/DB と一緒に使用できるようになっていません。ホスト上でクライアントを使用して IMS に接続する現行要求はリジェクトされました。現在のホスト・セッションは終了します。

ユーザーの処置: クライアント・アプリケーションからの IMS/DB へのアクセスが必要な場合は、DBCTL 製品パラメーターを YES に設定して IMS/DB を有効にします。

HLV4098T No active started task copy of the product located

説明: 製品のアクティブな開始済みタスク・コピーがないため、クライアント・アプリケーションによって提供されるユーザー ID およびパスワードを妥当性検査することはできません。クライアント・アプリケーションが、TSO の下で実行されている製品の開始済みテスト・コピーに接続している場合、ユーザー ID およびパスワードの妥当性検査には製品の開始済みタスク・コピーが必要です。このエラーは、TSO の下で実行されるホスト・コードのテスト・コピーに接続しようと試みておきのみ発生する可能性があります。

ユーザーの処置: セッションは続行を許可されません。インストールによって製品の開始済みタスク・コピーが活動化されてから、製品の TSO コピーへの接続は続行できるようになります。

HLV4099T CLIENT USERID 'usid' UNEQUAL TO TSO USERID 'usid'

説明: クライアント・アプリケーションによって提供されたユーザー ID は、製品のテスト・コピーを実行している TSO ユーザー ID と同じではありません。接続の試みはリジェクトされ、接続は切断されます。このエラーは、TSO の下で実行されるホスト・コードのテスト・コピーに接続しようと試みておきのみ発生する可能性があります。

ユーザーの処置: セッションは続行を許可されません。クライアントは、セッションが続行するために、ユーザー ID とパスワードの有効な組み合わせ (ホスト用) を提供する必要があります。クライアントのユーザー ID を変更して、TSO ユーザー ID と同じにします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid クライアントのユーザー ID usid TSO ユーザー ID

HLV4100E BIND WITH rntype host FAILED - NO MATCHING desc

説明: ローカル・システムとリモート・システムが特定の HLV から HLV までの通信パラメーターについて合意できなかったために、リモート・システムとのバインドは失敗しました。

ユーザーの処置: バインド・プロセスは失敗しました。リモート・システムとの通信は不可能です。失敗したのが VTAM バインドでないことに注意してください。このメッセージが指すバインドは、HLV と HLV の間のバインドです。処理を再試行してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rntype リモート・ノードのタイプ host リモート・ホスト名 desc バインド問題の説明

HLV4101T Password validated for USERID 'usid' from rntype host

説明: リモート (および非トラステッド) クライアントからのユーザー ID とパスワードの組み合わせは正常に検証されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。処理は続行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid リモート・ユーザー ID rntype リモート・ノードのタイ

プ host リモート・ホスト名

**HLV4102T LOGON attempt failed for USERID
'usid' from rntype host**

説明: リモート・クライアントは、次のいずれかの理由で接続できませんでした。(1) ユーザー ID とパスワードの組み合わせが有効でない可能性がある、または (2) System Event Facility (SEF) がログオン試行をリジェクトした可能性がある。

ユーザーの処置: セッションは続行を許可されません。クライアントは、セッションが続行するために、ユーザー ID とパスワードの有効な組み合わせ (ホスト用) を提供する必要があります。クライアントの非トラステッドとしての分類が有効であることを確認してください。有効でなかった場合は、ADDRESS HLV MODIFY LINK コマンドを使用してその状況を変更します。クライアントが System Event Facility (SEF) によってリジェクトされた場合には、SEF ATH イベント・ログオン・ルールの変更が必要である可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid リモート・ユーザー ID rntype リモート・ノードのタイプ host リモート・ホスト名

HLV4103T text

説明: このメッセージは、ユーザー ID とパスワードの検証結果として作成された可能性がある ACF2/RACF メッセージを表示するために使用します。この形式は、成功したユーザー ID とパスワードの検証に使用されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text ACF2/RACF メッセージのテキスト

HLV4104T text

説明: このメッセージは、ユーザー ID とパスワードの検証結果として作成された可能性がある ACF2/RACF メッセージを表示するために使用します。この形式は、失敗したユーザー ID とパスワードの検証に使用されます。

ユーザーの処置: セッションは続行を許可されません。クライアントは、セッションが続行するために、ユーザー ID とパスワードの有効な組み合わせ (ホスト用) を提供する必要があります。クライアントの非トラステッドとしての分類が有効であることを確認してください。有効でなかった場合は、ADDRESS HLV MODIFY LINK コマンドを使用してその状況を変更します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text ACF2/RACF メッセージのテキスト

HLV4105E Bind failed - no matching compression type

説明: ローカル・システムとリモート・システムが圧縮タイプについて合意できなかったために、リモート・システムとのバインドは失敗しました。

ユーザーの処置: バインド・プロセスは失敗しました。リモート・システムとの通信は不可能です。失敗したのが VTAM バインドでないことに注意してください。このメッセージが指すバインドは、HLV と HLV 間のバインドです。処理を再試行してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV4106E BIND FAILED - NO MATCHING
POINTER ENCODING TYPE**

説明: ローカル・システムとリモート・システムがポインター・エンコード・タイプについて合意できなかったために、リモート・システムとのバインドは失敗しました。

ユーザーの処置: バインド・プロセスは失敗しました。リモート・システムとの通信は不可能です。失敗したのが VTAM バインドでないことに注意してください。このメッセージが指すバインドは、HLV と HLV 間のバインドです。処理を再試行してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV4107E BIND FAILED - NO MATCHING
DATA ENCODING TYPE**

説明: ローカル・システムとリモート・システムがデータ・エンコード・タイプについて合意できなかったために、リモート・システムとのバインドは失敗しました。

ユーザーの処置: バインド・プロセスは失敗しました。リモート・システムとの通信は不可能です。失敗したのが VTAM バインドでないことに注意してください。このメッセージが指すバインドは、HLV と HLV 間のバインドです。処理を再試行してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV4108E BIND FAILED - NO MATCHING
APPLICATION TYPE**

説明: ローカル・システムとリモート・システムがアプリケーションについて合意できなかったために、リモート・システムとのバインドは失敗しました。

ユーザーの処置: バインド・プロセスは失敗しました。リモート・システムとの通信は不可能です。失敗したの

HLV4109E • HLV4116T

が VTAM バインドでないことに注意してください。このメッセージが指すバインドは、S__-to-S__ バインドです。処理を再試行してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4109E BIND FAILED - NO MATCHING PROCESSING FUNCTIONS

説明: ローカル・システムとリモート・システムが処理機能について一致できなかったために、リモート・システムとのバインドは失敗しました。

ユーザーの処置: バインド・プロセスは失敗しました。リモート・システムとの通信は不可能です。失敗したのが VTAM バインドでないことに注意してください。このメッセージが指すバインドは、S__-to-S__ バインドです。処理を再試行してください。障害が続く場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4110S INVALID MODE DETECTED - LU lu ROUTINE routine

説明: LU 6.2 処理ルーチンは、無効なモード・ストリングを検出しました。このモード・ストリングを使用してさらに処理を行うことはできません。

ユーザーの処置: このエラーをソフトウェア・サポートに報告してください。問題を診断するためには、完全なメッセージが必要になります。1 回以上の接続試行が失敗して、再試行が必要になることがあります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lu
VTAM LU 名ストリング routine ルーチン名ストリング

HLV4111S INVALID LU NAME DETECTED - ROUTINE routine

説明: LU 6.2 処理ルーチンは、無効な LU 名ストリングを検出しました。LU 名ストリングを使用してさらに処理を行うことはできません。

ユーザーの処置: このエラーをソフトウェア・サポートに報告してください。問題を診断するためには、完全なメッセージが必要になります。1 回以上の接続試行が失敗して、再試行が必要になることがあります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: routine
ルーチン名ストリング

HLV4112T Usage restricted to oem.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4113T %1

説明: 接続は、以下のいずれかの理由によりリジェクトされます。

1. 同時ユーザーの最大数に達した。
2. 何らかの仮想ストレージ・リソース不足が検出された。ホストに接続するための現在の要求がリジェクトされました。
3. PIO ポートとして指定されたポートで圧縮バッファを受信した。PIO は圧縮バッファをサポートしていません。接続はクローズされました。

ユーザーの処置: メッセージによっては、製品サーバーの管理担当者に連絡して、現在の最大ユーザー数を増やすことを検討してください。あるいは、仮想ストレージの現在の使用率が高すぎて、追加の接続が不可能であることを製品が検出しました。標準 ODBC ポートを使用するよう変更するか、非圧縮バッファを送信するよう接続を変更します。

HLV4114T Dynamic SQL is not allowed by this instance of the server

説明: この製品サーバーのインスタンスは、静的専用 DB2 アプリケーションに使用されます。動的 SQL 要求はリジェクトされました。

ユーザーの処置: 動的 SQL をサポートする使用可能な製品サーバー (単数または複数) について、製品サーバーの管理担当者にお問い合わせください。

HLV4115S SECONDARY USERID COUNT (%1) EXCEEDS MAXIMUM (%2)

説明: 現行タスクの 2 次ユーザー ID の実際の数、サポートされる 2 次ユーザー ID の最大数を超過しています。この問題のため、2 次ユーザー ID リストを使用することができず、現行セッションは終了します。

ユーザーの処置: 現行ユーザー ID で 2 次ユーザー ID の数が多すぎることを確認します。2 次ユーザー ID の数を減らしてから、接続を再試行してください。障害が続く場合や、2 次ユーザー ID の数を減らすことができない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4116T Access to DB2 is not activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4117T Connection mode is not activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLV4118T Insufficient virtual storage is available to handle this session. Session rejected

説明: クライアント・アプリケーションがホストに接続しようとした。このセッションを処理するには、使用できる仮想ストレージが不足しています。セッションは、ホストによってリジェクトされ、終了されます。

ユーザーの処置: サーバー・アドレス・スペースに、指示された数の接続を処理できるだけの十分な仮想ストレージがありません。製品パラメーターを使用して、最小ストレージ要件を減らすことができます。ただし、これはお勧めできません。以下に示す解決策のいずれかをお勧めします。(1) 接続ごとの仮想ストレージの量を減らす。(2) 接続の数を減らす。(3) 負荷を、製品の複数のコピー全体に分散させる。

HLV4119T REXX VARIABLE ERROR rc1-fc rc2 DURING FETCH OF varname FOR SEF rule procname

説明: 製品 REXX プロセッサが、製品の REXX EXEC に対する終了処理中に障害を検出しました。REXX 変数値を、終了プロセス中にフェッチして、製品の内部 SEF ルーチンに返すことができませんでした。切り捨てられたか欠落している値が原因でルール処理機能内でクリティカル・エラーが発生した可能性があるため、製品は SOC3 異常終了を生成します。SOC3 異常終了により、製品 REXX インタープリターは強制的に終了されます。また、プロシージャが定義されている現在の SEF ルールの処理も停止します。注: SHVRET コード X'01-(新規変数/削除された変数) の場合、このエラーの最も可能性の高い原因は、メイン製品 REXX プロシージャのサブルーチンからの EXIT です。サブルーチンに PROCEDURE {EXPOSE} ステートメントが含まれている場合は、サーバーの組み込み変数の一部またはすべてが、EXIT 処理時に非表示になり、ルール機能による REXX 後の実行状態表示に使用できません。製品 REXX ルーチンが内部 PROCEDURE から EXIT を意図的に指定していないことを確認してください。他の SHVRET エラー・コードについては、エラーの一番可能性の高い原因は、内部サーバー・エラーです。

ユーザーの処置: REXX EXEC プロシージャを調べ、障害を引き起こす原因を示している可能性のあるメッセージが他にないか、ログをトレースし、問題 (単数または複数) を訂正してください。この手順で問題を解

決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc1 IRXEXCOM の IRXSHVB 制御ブロックで定義されたとおりの SHVRET 戻りコード値 fc SHVRET フィードバック・コードの説明 rc2 IRXEXCOM からの R15 戻りコード varname REXX 変数名 procname REXX プロシージャ名

HLV4120T REXX VARIABLE "varname" TRUNCATED FOR SEF RULE rule - SIZE (size1) LONGER THAN MAX SIZE (size2)

説明: SEF ルール・プロセッサが、REXX プロシージャの処理を終了中に障害を検出しました。REXX によって組み込みサーバー変数に割り当てられた終了時刻値が、SEF 機能で許可されている定義済みの最大サイズを超えています。変数は、最大許容サイズで切り捨てられます。ただし、切り捨てが原因で、スピンオフ・エラー状態がさらに発生する場合があります。

ユーザーの処置: REXX EXEC プロシージャを調べて、特定の組み込み変数の実装最大値を超える値が割り当てられたかどうかを確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname REXX 変数名 rule REXX EXEC が入っている SEF ルール size1 変数データの実際のサイズ size2 この変数の許容される最大サイズ

HLV4121W service OF desc FAILED, RC=rc

説明: SEF メッセージ処理で、製品サービス・ルーチンの障害が発生しました。この汎用メッセージの特定のインスタンスが、REXX ワークスペースを割り振ろうとしているときに発生する GETMAIN 障害に関連している場合があります。この場合、戻りコードはストレージ管理ルーチンからの戻りコードを示します。

ユーザーの処置: この障害に関連したメッセージを調べて、問題の解決を図ってください。ストレージ割り振り障害の場合は、関連する MVS および製品のメッセージがないか調べてください。また、ご使用のインストール済み環境に、仮想ストレージの割り振りを制限する出口 (IEFUSI など) があることも確認します。可能であれば、問題を修正して、操作を再試行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現在の操作 (例: 割り振り、RELEASE、RESET、COPY) desc 説明 rc 戻りコード

**HLV4122W ABEND abcd AT mod+off IN LINE
num OF rule**

説明: SEF イベント処理が異常終了を検出しました。現在のルール処理要求は終了します。

ユーザーの処置: 異常終了の原因を判別してください。外部割り込み (ジョブ CANCEL など) が原因で、異常終了が発生する場合があります。いずれかの製品パラメーターが現在のルールの処理を制限しているかどうか判別してください。製品の「サーバー管理ガイド」および「サーバー開始タスク・パラメーター」資料を参照してください。地域担当の製品管理者に連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd 異常終了コード、mod 異常終了時のモジュール名、off 異常終了時のモジュール・オフセット、num 実行中のステートメント番号、rule ルール・セットのルール名

**HLV4123W SEF PROCESSING OF ruletype
searchid FOR jb ABORTED**

説明: SEF イベント処理ルーチンが、異常終了を検出しました。現在のルール処理要求は打ち切られます。

ユーザーの処置: 異常終了の原因を判別してください。外部割り込み (ジョブ CANCEL など) が原因で、現在のルールが打ち切られる場合があります。製品で異常終了が発生した場合は、地域担当の製品システム・プログラマー・グループに連絡して支援を受けてください。ジョブ内で異常終了が起こった場合は、このエラーを環境エラーとして処理してください。ご使用の環境に応じて、現在のエラーを訂正するか、無視します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
ruletype 現在のルール・タイプ searchid 異常終了時の検索 ID jb 異常終了時のジョブ名

**HLV4124W CANNOT language PROCEDURE
procname - %3 SECTIONS NOT
ENABLED**

説明: SEF イベント処理ルーチンが、別のイベント・プロシージャーによって参照される TYP ルールが使用不可になっていることを検出しました。TYP ルールは現在使用不可であるため、そのイベント・プロシージャーは実行できません。プロシージャーの処理はバイパスされます。

ユーザーの処置: TYP ルールが使用不可になっている理由を判別し、そのルールを再度使用可能にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
language TYP ルールの言語名 procname 実行できな

いイベント・プロシージャー

HLV4127E text FOR MESSAGE ID=mgid

説明: SEF イベント処理で、複合記号の数が多すぎることを判別しました。パターン・マッチング・エラーが報告されます。現行ルールの処理は終了します。

ユーザーの処置: 超過した複合記号値を調べ、ルール・コードをその値に調整します。上記の問題を修正して、再開します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エラー・テキスト mgid メッセージ ID スtring

**HLV4128E RULE rule SET varname TO AN
INVALID cb VALUE**

説明: SEF イベント処理で、文字から整数への変換中にエラーが発生しました。これ以降の処理は終了します。

ユーザーの処置: エラー・テキストを調べて、このエラーの原因となっている無効な入力文字データを見つけてください。無効なデータを削除するか変更して、再開します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール・セットのルール名 varname 複合変数名 cb 制御ブロックのフィールド名

HLV4129E text FOR ruletype RULE rule

説明: SEF イベント処理で、内部で生成された複合記号 (セキュリティ関連) の数が多すぎることを検出されたか、または内部で生成された複合記号名のいずれかの長さが内部製品の限度を超えています。このルールの以降の処理は終了します。

ユーザーの処置: これは内部製品エラー状態です。このエラー状態を即時にソフトウェア・サポートに報告してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エラー・テキスト ruletype ルール・タイプ・String rule ルール・セットのルール名 String

**HLV4130E Rule rule disabled for exceeding firing
limit of value**

説明: SEF イベント処理が、メッセージに示されたルールが必要以上に実行されていることを検出しました。その結果、ルールは使用不可になりました。

ユーザーの処置: 必要に応じて、実行制限を増やして、ルールを使用可能にします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ル

ール・セットのルール名ストリング value ルールの実行制限

HLV4131E Rule rule has exceeded the SEF firing limit of value

説明: SEF イベント処理が、メッセージに示されたルールが必要以上に実行されていることを検出しました。関連するパラメーター SEFLIMITDISABLE は、そのルールを使用不能にしないことを指示します。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。応答は不要です。このルールを条件付きで使用不可にするメッセージ・ルールのコーディングを行うことができます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule ルール・セットのルール名ストリング value ルールの実行制限

HLV4132 I User program mod not found in library

説明: ユーザー・ロード・モジュールの実行を指定するルールを有効にするときに、システムは、示されたモジュールをプリロードできませんでした。ルールの有効化は抑制されます。

ユーザーの処置: ルールで指定されたモジュールは、実際には、ユーザー・プログラムのロード・ライブラリーまたは STEPLIB 内に存在することを確認します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod ユーザー・ロード・モジュール名

HLV4134E rsrce ss FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: 製品サービス・ルーチンで、何らかのタイプのエラーが発生しました。説明については、メッセージの実際のテキストを参照してください。このエラーは、おそらく、製品サービス・ルーチンによって要求されたオペレーティング・システム・サービスでの障害が原因です。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrce リソース名 ss システム・サービス rc 戻りコード

HLV4135E SEF rule processor entered by csect for invalid event type - code

説明: SEF ルール処理機能が、無効なイベント・タイプで呼び出されました。これは、おそらく内部エラーです。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージとともにその他のエラー・メッセージが生成されていないか確認してください。TCB アドレスを示す、このエラーの発生時刻前後のトレース・レコードのコピーを取り込み、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csect 呼び出し側 csect 名 code 無効なイベント・タイプ・コードの値

HLV4136E ABEND DURING cb CONTROL BLOCK LOCATE - SEF RULE EXECUTION BYPASSED

説明: SEF イベント実行のスケジューリング前に、内部制御ブロックを見つけれませんでした。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cb 制御ブロック名

HLV4137T ENTERPRISE AUDITING GENERIC USERID <userid> NOT DEFINED TO HOST SECURITY SYSTEM OR REJECTED.

説明: 接続時にエンタープライズ監査が活動化され、クライアントは許可検査のために指定の総称ユーザー ID を送信しようとしていました。しかし、そのユーザー ID は、ホスト・セキュリティー・システム (RACF または Top Secret) に対して定義されていないか、または他の何からの理由で無効でした。

ユーザーの処置: セッションは続行を許可されません。クライアントは、有効なホスト・ユーザー ID を指定する必要があります。インストール・セキュリティー管理者に連絡して、ユーザー ID を定義または修復してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: userid 提供された総称ユーザー ID

HLV4138T ENCRYPTION METHOD CANNOT BE NEGOTIATED, HOST STORAGE UNAVAILABLE, BIND REJECTED

説明: このメッセージは、要求された鍵交換および暗号化方式が、ホスト・ストレージがないためにホストで正常にネゴシエーションできない場合に、クライアントに送信されます。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントが要求した暗号化方式をリジェクトします。クライアントは、暗号化なしで続行するか、セッションを終了させることができます。

HLV4139T BIND ENCRYPTION METHOD REJECTED - code var2 %3 %4 %5

説明: このメッセージは、クライアントの要求された鍵交換および暗号化方式がバインド処理中にホストで正常にネゴシエーションできないときに、トレースされます。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントが要求した暗号化方式をリジェクトします。クライアントは、暗号化なしで続行するか、セッションを終了させることができます。クライアントに、

MSG4138T、MSG4142T、MSG4143T、または MSG4144T が送信されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: code バインドから要求された暗号化方式 var2 障害に関する追加情報

HLV4140T LOGON credentials cannot be decrypted

説明: このメッセージは、ログオン資格情報を暗号化解除できないときに、クライアントに送信されます。クライアントのログオンは、ユーザー ID、パスワード、および新規パスワードの各フィールドが処理のために平文に変換できないことが原因でリジェクトされます。クライアントは、ログオン認証情報を暗号化するために Diffie-Hellman 鍵交換および DES を使用して動作中です。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントによるログオン要求をリジェクトします。ホストは、暗号化解除障害に関する追加情報を使用して MSG4146T をトレースします。

HLV4141T LOGON credentials rejected for VCF reconnect, new key exchange required

説明: このメッセージは、Diffie-Hellman ログオン資格情報の暗号化が再接続 VCF セッションに使用されて

おり、VCF セッションの VCF セキュリティー成果物が期限切れになったか無効化された場合に、クライアントに送信されます。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントによるログオン要求をリジェクトします。VCF クライアントは、完全な Diffie-hellman 鍵交換を繰り返し、暗号化されたログオン資格情報を再送信する必要があります。

MSG4145T は、検出された問題に関する追加情報を提供するためにトレースされます。

HLV4142T ENCRYPTION METHOD CANNOT BE NEGOTIATED, DIFFIE-HELLMAN MODULE NOT LOADED, BIND REJECTED

説明: このメッセージは、要求された鍵交換および暗号化方式を、Diffie-Hellman 鍵交換ルーチンおよび暗号化解除ルーチンが存在しないためにホストで正常にネゴシエーションできない場合に、クライアントに送信されます。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントが要求した暗号化方式をリジェクトします。クライアントは、暗号化なしで続行するか、セッションを終了させることができます。

HLV4143T ENCRYPTION METHOD CANNOT BE NEGOTIATED, DIFFIE-HELLMAN KEY EXCHANGE FAILED, BIND REJECTED

説明: このメッセージは、有効な共有秘密鍵を計算するために、要求された鍵交換および暗号化方式を、Diffie-Hellman 鍵交換ルーチンの障害によりホストで正常にネゴシエーションできない場合にクライアントに送信されます。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントが要求した暗号化方式をリジェクトします。クライアントは、暗号化なしで続行するか、セッションを終了させることができます。

HLV4144T ENCRYPTION METHOD CANNOT BE NEGOTIATED, UNKNOWN ENCRYPTION METHOD REQUESTED, BIND REJECTED

説明: このメッセージは、要求された鍵交換および暗号化方式をホストで正常にネゴシエーションできない場合に、クライアントに送信されます。要求された暗号化方式は、ホストに認識されていません。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントが要求した暗号化方式をリジェクトします。クライアントは、暗号化

なしで続行するか、セッションを終了させることができます。

HLV4145T LOGON CREDENTIALS REJECTED FOR VCID VCID, NEW KEY EXCHANGE REQUIRED, reason %3 %4

説明: このメッセージは、クライアント Diffie-Hellman ログオン資格情報の暗号化が、再接続 VCF セッションに使用されており、そのセッションの VCF セキュリティー成果物が期限切れになったか無効化された場合にトレースされます。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントによるログオン要求をリジェクトします。 VCF クライアントは、Diffie-hellman 鍵交換を再度開始し、暗号化ログオン資格情報を再送信する必要があります。クライアントに MSG4141T が送信されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: VCID ログオンがリジェクトされたセッション VCID reason 資格情報がリジェクトされた理由

HLV4146T LOGON CREDENTIALS CANNOT BE DECRYPTED - reason %2 %3 %4

説明: このメッセージは、クライアントのログオン資格情報を暗号化解除できない場合にトレースされます。ユーザー ID、パスワード、および新規パスワードの各フィールドを平文形式にすることができないために、クライアントのログオンはリジェクトされます。

ユーザーの処置: ホストは、クライアントによるログオン要求をリジェクトします。クライアントに MSG4140T が送信されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: reason 暗号化方式がリジェクトされた理由

HLV4148T MISSING OR INVALID PARAMETERS IN SQL CALL RULE ruleset.rule,reason

説明: このメッセージは、一部の SQL CALL RULE パラメーターが指定されなかったか、パラメーターが長すぎて新規バッファに収まらなかったために処理できない場合にトレースされます。

ユーザーの処置: SQL CALL ステートメントへの更新は破棄されます。示された理由に基づいて、SQL CALL ルールを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ruleset 該当のルールが含まれているルール・セット名 rule 処理できなかったルール名 reason 処理が失敗した理由

HLV4149T Connection from ipaddr ip, host name host, is using unsupported driver version ver

説明: リモート・クライアント接続が、サーバーによってサポートされていない製品ドライバーのバージョンを使用しています。これは通知メッセージです。トランザクション処理は続行されます。

ユーザーの処置: アプリケーション・ドライバーを、サーバーがサポートしているレベルにアップグレードする必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ip TCP/IP IP アドレス host ホスト名ストリング ver ドライバー・バージョン

HLV4150T desc addr size PLAN pln %SK

説明: これは、TRACECURSOR パラメーターが「YES」に設定されていると必ず出されるトレース・メッセージです。このメッセージは、製品の SQL PLIST および状況域に関する情報を提供します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 制御ブロックの説明 addr 制御ブロックのアドレス size 16 進数での制御ブロックのサイズ pln プラン名 stack スタック・トレース情報

HLV4151T desc addr1 size DBRM dbrm CURSOR num1 DATA addr2 cnt QUERY length num2 TYPE stmt FLAGS tf %SK

説明: これは、TRACECURSOR パラメーターが「YES」に設定されていると必ず出されるトレース・メッセージです。このメッセージは、製品のカーソル制御ブロックをトレースするために使用されます。製品の SQL PLIST ごとに複数のカーソル制御ブロックが存在する可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 制御ブロックの説明 addr1 制御ブロックのアドレス size 16 進数での制御ブロックのサイズ dbrm DBRM 名 num1 SQL セクション番号 addr2 最初のデータ・ブロック・アドレス cnt チェーン・データ・ブロックの数 length データ行の全長 num2 照会列の数 stmt 最後に準備されたステートメント・タイプ tf トレース・フラグ stack スタック・トレース情報

HLV4152T desc addr size value1 value2 %SK

説明: これは、TRACECURSOR パラメーターが「YES」に設定されていると必ず出されるトレース・メッセージです。このメッセージは、製品のデータ・ブロックをトレースするために使用されます。製品のカーソル・ブロックごとに複数のデータ・ブロックが存在する可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 制御ブロックの説明 addr 制御ブロックのアドレス size 16 進数での制御ブロックのサイズ value1 次のオフセット値 (16 進数) value2 最後のオフセット値 (16 進数) stack スタック・トレース情報

HLV4153T desc data length1 length2 col %SK

説明: これは、TRACECURSOR パラメーターが「YES」に設定されていると必ず出されるトレース・メッセージです。このメッセージは、SQLDA の列をトレースするために使用されます。SQLDA によって記述された列が複数存在する場合があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 制御ブロックの説明 data 列のデータのタイプ (整数) length1 列内のデータの長さ (16 進数) length2 列名の長さ (整数) col 列名 (最大 30 文字) stack スタック・トレース情報

HLV4154T desc addr1 size DBRM dbrm CURSOR num1 DATA addr2 cnt QUERY length num2 TYPE stmt FLAGS tf %SK

説明: これは、TRACECURSOR パラメーターが「YES」に設定されていると必ず出されるトレース・メッセージです。このメッセージは、製品のカーソル制御ブロックの解除をトレースするために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 制御ブロックの説明 addr1 制御ブロックのアドレス size 16 進数での制御ブロックのサイズ dbrm DBRM 名 num1 SQL セクション番号 addr2 最初のデータ・ブロック・アドレス cnt チェーン・データ・ブロックの数 length データ行の全長 num2 照会列の数 stmt 最後に準備されたステートメント・タイプ tf トレース・フラグ stack スタック・トレース情報

HLV4177T SQL tracing for RPC transactions is not available

説明: DB2 DSNACAB モジュールを検証できなかったため、RPC トランザクションの SQL トレースを実行できません。

ユーザーの処置: 製品では、TRACERPCSQL パラメーターおよび TRACESQLERRORS パラメーターが「NO」に設定されています。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4178W SQL tracing for RPC transactions is not available

説明: DB2 DSNACAB モジュールを検証できなかったため、RPC トランザクションの SQL トレースを実行できません。

ユーザーの処置: 製品では、TRACERPCSQL パラメーターおよび TRACESQLERRORS パラメーターが「NO」に設定されています。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4179W cnt New RPC tasks timed out before redispatch by RPC concurrent execution facility

説明: このメッセージは、RPC 同時実行機能によって再度ディスパッチされる前にタイムアウトになった、中断された RPC タスクの数に変更があることが認識された場合に発行されます。RPC プログラムを実行する順番を待っているときに中断されたタスクは、RPCSLEEPINTERVAL パラメーターによって設定された期間内に再ディスパッチされなかった場合、再度起動します。タイムアウトが原因で再起動するタスクは、RPCMAX の限度に関係なく、RPC プログラムを実行する場合や、-438 エラー戻りコードを生成することによって実行をバイパスする場合があります。行うアクションは、RPCSTALLACTION パラメーターに準拠します。

ユーザーの処置: 通常、アクションは不要であり、一部のサイトでは、規則的な頻度でこれらの通知を受け取る場合がありますが、これらの通知をほとんど、またはまったく受け取らないサイトもあります。タイムアウト障害の数が増えたことに気付いた場合は、アクティブ・タスク表示を調べて、RPC プログラムが完了中であるか確認してください。このメッセージは、1 つ以上の未完了の RPC プログラムが停止され、新規 RPC プログラム実行のディスパッチを妨げていることを示す場合があります。タイムアウトを防ぐために、RPCMAX パラメーターまたは RPCSLEEPINTERVAL パラメーター (あるいはその両方) を必要に応じて調整してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 新規 RPC 同時機能のタイムアウト

HLV4180S Invalid buffer received from a client system

説明: このメッセージは、無効な通信バッファークライアント・システムから受信された場合に出されます。このバッファには本来、追加の RPC データの要求が含まれているはずですが、そのような要求は含まれていませんでした。

ユーザーの処置: セッションは失敗します。セッションを再試行してください。問題が解決しない場合は、別の問題を示している可能性がある他のメッセージがあるかどうか確認してください。他のメッセージがない場合には、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4181S RPC DATA WILL NOT FIT INTO BUFFER

説明: このメッセージは、ある種の RPC データ項目が通信バッファに収まらない場合に出されます。本来、このエラーは発生しないはずですが。

ユーザーの処置: セッションは失敗します。セッションを再試行してください。問題が解決しない場合は、別の問題を示している可能性がある他のメッセージがあるかどうか確認してください。他のメッセージがない場合には、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4182 I value percent of max concurrent RPC threshold achieved, value, value

説明: このメッセージは、現在実行中の rpc の数が、RPCMAX パラメーターによって指定された最大許容の 80% 以上である場合、60 秒ごとに 1 回出されます。最初の値は、サーバーの存続期間中に監視対象となった最大数です。2 番目の値は、メッセージの時点での監視対象の値です。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value 最大設定の現在のパーセンテージ value 現在の最大設定 value 同時に実行中の数

HLV4183 I Max concurrent RPC execution less than value percent of max setting value, value

説明: このメッセージは、RPC の並行実行数がパーセントしきい値を下回り、RPC 実行がこのしきい値を超えたことを報告するメッセージ 4182 が以前に発行され

ている場合に出されます。レポート作成が発生する RPCMAX のパーセンテージは、RPCMAXMSGPCENT によって設定されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value 現在の最大設定 value 同時に実行中の数 value 報告する RPCMAX のパーセント (RPCMAXMSGPCENT)

HLV4184T ABEND CC=var1 RS=var2 DETECTED AT var3+var4 BY RPC CONCURRENCY ROUTINE var5 var6 var7 var8 var9

説明: 並行 RPC 実行ルーチンのいずれかが制御されているときに、異常終了がインターセプトされました。この異常終了に関する情報は、このメッセージに記録されます。

ユーザーの処置: RPC 並行性ルーチンは、追加のトレース・メッセージの生成、または異常終了への応答としての SDUMP の生成 (あるいはその両方) を行う場合があります。可能であれば、それらのルーチンはリカバリして、続行します。このメッセージは、取るべきリカバリ・アクション、または異常終了の原因を特定するその他の情報を示す場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 異常終了の完了コード、var2 異常終了の理由コード、var3 異常終了が発生しているモジュール、var4 異常終了のオフセット、var5 RPC ルーチン名、var6 リカバリ・アクションまたはその他の情報、var7 追加情報、var8 追加情報、var9 追加情報

HLV4185H RPC CONCURRENCY FACILITY SDUMP REQUEST RC=var1, ASSOC TRACE MSGNO=var2, STATUS AREA=var3

説明: このメッセージは、SDUMP 要求が並行 RPC 中断/再開機能によって発行された後に出されます。SDUMP 要求が行われる原因となる SDUMP によって要求される属性セットを持つクリティカル・イベントがトレースされました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、SDUMP ルーチンから受け取った戻りコードを報告します。ゼロの戻りコードは、SDUMP が処理またはスケジュールされたことを示します。10 進数 300 (16 進数 X'0000012c') の戻りコードは、ルーチンには SDUMP を要求する権限がないことを示します。10 進数 304 (16 進数 x'00000130') の戻りコードは、SDUMP 要求の頻度が毎秒 5 回という最大値を上回るため、サーバー内

の MAXSDUMPRATE 流量制限により SDUMP が抑止されたことを示します。SDUMP からのゼロ以外の戻りコードには、フルワードの下位 2 バイトに SDUMP 戻りコードが含まれ、戻りコード 8 の場合は、フルワードの上位 2 バイトに理由コードが含まれます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 SDUMP サービスからの理由コード/戻りコード、var2 記録されたトレース・イベント・メッセージ番号、var3 専用域状況情報のアドレス

HLV4186 I Max concurrent RPC allowed (RPCMAX) value exceeded. Suspending execution of RPC.

説明: このメッセージは、開始された RPC の数が RPCMAX パラメーターで指定された最大並行 RPC 許可値を超えたときに出力されます。RPC は、RPC 実行中断テーブルに追加され、待ち状態に置かれます。並行実行中の RPC の数が、許される最大値を下回ると、中断テーブル内の一番古い RPC が再開されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV4187 I Max concurrent RPC allowed (RPCMAX) value within parameter setting. Execution resumes.

説明: このメッセージは、中断された RPC が再開されたときに出力されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV4188T RPCMAX TRACE SMTE CONTAINS INVALID TYPE var1 - ASSUMING ERROR/FFDC FOR CAPTURE

説明: RPCMAX トレース・ルーチンが、無効なコードを含むトレース SMTE エレメントを使用して呼び出されました。

ユーザーの処置: このコードは、SMTE が初回障害データ・キャプチャーとして記録されるように、リカバリ可能エラーまたはまたは差し迫ったエラーのものと想定されます。これは、おそらく論理エラーが原因です。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 SMTE タイプ・コードおよびトレース・ポイントの 16 進数値

HLV4189H WARNING: var1 ADDITIONAL var2 EVENTS DETECTED BY RPC CONCURRENCY ROUTINES

説明: RPCMAX ルーチンは、何らかのリソースが部分的にのみリカバリーされた状態のままである 1 つ以上の検出済み ERROR イベントまたは ABEND イベントをトレースしました。RPC 並行実行制限機能が正常に機能しなくなる可能性があるか、または現在既に作動不能です。システムがこのコンソール・メッセージを出すのは、RPC ルーチンで ABEND がインターセプトされる場合、ヒューリスティック検査で機能の IMMINENT-FAILURE が発生する可能性があることを確認された場合、あるいはリソースの PARTIAL-RECOVERY のみが予測可能である異常が検出された場合です。このタイプのイベントは、RPCMAXTRACE が NONE に設定されていない限り、必ず、トレースされます。このコンソール・メッセージは、機能が徐々に劣化しているか急速に障害が起きている可能性がある、あるいは既に作動不能になったというアラートとして、1 分に一度だけ出されます。ABEND-INTERCEPT メッセージは、ごくまれな場合を除き、機構内での論理エラーが原因で出される可能性が高いものです。ただし、それらの論理エラーは、クライアント・トランザクション・スレッドが手動で強制終了されたり、RPC プログラム処理に無関係な理由で異常終了したりすると、まれに発生する可能性があります。FAILURE-IMMINENT メッセージは、問題の診断に役立つ可能性のある情報をログに記録するために、通常、機能が作動不能になる直前に出されます。PARTIAL-RECOVERY イベントは、最終的にリカバリーできないリソースが多すぎる場合、今後の機能障害を示すことがあります。ただし、システムは、現在バイパスされているリソースが最終的にはリカバリーされるのか、それとも永続的に作動不能のままになるのかを予測的に判断することができず、後で確認することもできません。イベント数が少ない、少数の偶発的な PARTIAL-RECOVERY メッセージは、いくつかのシステム・ワーク・ロードのほぼ正常な作動状態を表します。RPC 終了、タスクの終わり、または取り消されたタスクのクリーンアップは、メインライン RPCMAX 制限処理からわずかに遅れており、一部の予測ヘルス・チェックが、未完了のリカバリー・アクションが正常に完了できることを確認できなくなります。ただし、多数の PARTIAL-RECOVERY イベントが頻繁に出される場合は、一部のケースでリソースがリカバリーされていないことを示すと考えられます。これらのイベント・トレースは、多くの場合、下方スパイラルの発生原因を判別するのに使用できます。

ユーザーの処置: これらのメッセージが頻繁に出される場合、あるいは FAILURE-IMMINENT イベントを報告するメッセージの場合は、Trace Browse アクティビテ

ィーと一緒に、並行 RPC 実行機能の状態を調べてください。トレースにより、生じつつある問題の原因が早期に示され、機能障害が発生する前に問題を修正できる場合があります。機能が作動不能になった場合、または急速に作動不能になっている場合は、RPCMAX パラメーターをゼロに設定してください。こうすると、新規 RPC 実行要求の機能内でほとんどの処理がオフにされます。低下または障害の原因を修正することができない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。特定のタイプのイベントの場合、システムは、製品アドレス・スペースの SDUMP を生成します。SDUMP は、1 分に一度のみの頻度で生成されます。問題の直接の原因を直ちに解決できない場合は、そのダンプを保存して、ソフトウェア・サポートに転送してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 最後のコンソール・メッセージ以降のイベントの数、var2 ABEND、FAILURE、または PARTIAL-RECOVERY

HLV4190E BIND WITH rntype host FAILED - NO MATCHING desc

説明: このメッセージは、ローカル・システムがリモート・システムとバインドをネゴシエーションできないときに表示されます。これは VTAM バインドではないことに注意してください。これは、HLV 固有のバインドです。

ユーザーの処置: セッションは失敗します。セッションを再試行してください。問題が解決しない場合は、別の問題を示している可能性がある他のメッセージがあるかどうか確認してください。他のメッセージがない場合には、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rntype リモート・ノードのタイプ host リモート・ノードの名前 desc 問題の詳しい説明

HLV4191E text

説明: このメッセージは、ログオン障害を示しています。メッセージのテキストは、セキュリティ・パッケージ (RACF、ACF2) によって作成されます。

ユーザーの処置: メッセージのテキストを調べて、ログオン障害の原因を判別してください。追加で権限が必要となる場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4192T service1 - service2 - desc

説明: ODBC 要求の処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージは、ユーザー・インターフェース・エラーを識別するための汎用メッセージです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service1 呼び出されている ODBC サービス (IMSTM、CICSEXC1) service2 エラーのあるエレメント/操作 desc エラーの説明

HLV4193T Access to DB2 LUW is not activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4200 I host: 'cmd'

説明: このメッセージは、ホスト・コマンドが製品の REXX MESSAGE 環境に送信された結果として出されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。応答は不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: host ホスト環境名ストリング (メッセージ) cmd ホスト・コマンドの挿入

HLV4201E BIND WITH text %2 FAILED - NO MATCHING %3

説明: このメッセージは、ログオン障害を示しています。メッセージのテキストは、セキュリティ・パッケージ (RACF、ACF2) によって作成されます。

ユーザーの処置: メッセージのテキストを調べて、ログオン障害の原因を判別してください。追加で権限が必要となる場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4233 I Error sending message to external data queue

説明: 外部データ・キューに通知レコードを送信しようとしているときに、エラーが発生しました。これは完全外部データ・キューが原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

HLV4240 I Load balancing resumed for %1

説明: このメッセージは、ロード・バランシング・キューがいっぱいでなくなり、再びグループ・ディレクターからセッションを受け取る資格ができたことが検出されたときに出されます。

ユーザーの処置: なし。

HLV4250E text

説明: このメッセージは、リモート・システムから受信したエラー・メッセージを書き出すために使用されます。

ユーザーの処置: メッセージのテキストを調べて、問題の原因を判別してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4251E INVALID ADDRESS addr PASSED BY PROGRAM 'pgm'

説明: このメッセージは、ユーザー・プログラムから、リモート・システムに送信されるバッファにデータをコピーするルーチンで無効なアドレスが検出された場合に出されます。指定されたアドレスにあるデータにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 無効なアドレスを製品に渡すプログラムは、失敗するか、または正しくない結果が生じる可能性があります。DB2 アプリケーション・プログラムを調べて、可能であれば修正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: addr 無効なデータ・アドレス pgm 無効なアドレスを渡すプログラム

HLV4260E Client processing disabled

説明: クライアント・プログラム処理に対する ACI サポートの初期化中にエラーが発生しました。クライアント・プログラム処理は使用不可です。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4261E ACI FUNCTION *function* FAILED, RC=*rc errdesc*

説明: クライアント ACI セッションの処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: セッションは終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

function 障害が発生した関数 rc 戻りコード errdesc エラーの説明

HLV4262E Server client is not activated on server ss.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4263 I Client processing is enabled.

説明: クライアント処理は使用可能です。クライアント初期化は正常に完了し、クライアントは新しい接続を受け入れる準備ができています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

HLV4270H %1 SUBSYSTEM NAME NOT SET - %1 TCP/IP SUPPORT NOT ACTIVATED

説明: OEM ベンダー TCP/IP サブシステムの名前が設定されていません。製品のこのコピーを使用する TCP/IP 処理は、OEM ベンダーの TCP/IP スタックを使用することができません。

ユーザーの処置: メイン・アドレス・スペースの TCP/IP タスクはシャットダウンします。お客様がその TCP/IP サブシステム名を xxxxIN00 実行可能プログラムで実際に指定してある場合を除き、これはエラーではありません。OEM ベンダー TCP/IP インターフェースが使用されていないときでも他の通信プロトコル (OE SOCKETS TCP/IP など) が使用される場合があることに注意してください。

HLV4271S SSL and non-SSL ports match - TCP/IP terminated

説明: SSL 処理が要求されました。しかし、SSL ポート番号が、非 SSL ポート番号と同じです。インターリンク TCP/IP は終了しました。

ユーザーの処置: SSL ポート番号または非 SSL ポート番号を変更して、製品を再始動してください。SSL ポート番号を設定するための製品パラメーターは ITCSSLPORTNUMBER です。非 SSL ポート番号を設定するための製品パラメーターは ITCPORTNUMBER です。

**HLV4272H 'vend' TCP/IP comp FOR SUBSYSTEM
'subsys' st**

説明: このメッセージは、未完了の INTERLINK TCP/IP 初期化を示すために使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。TCP/IP 初期化が完了すると、HLV はそれぞれ独自の TCP/IP 関連の初期化を完了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: vend TCP/IP ベンダー comp TCP/IP コンポーネント subsys TCP/IP コンポーネント・サブシステム名 st コンポーネントの状況

HLV4273H vend comp support is being activated

説明: このメッセージは、対応するプロトコル・サポートが活動化されているときに、4 つの使用可能な通信プロトコル・タスクのそれぞれによって出されます。特定のプロトコルのサポートが始動時にアクティブにされない場合には、他のメッセージが出されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: vend プロトコル・ベンダー comp プロトコル・タイプ

**HLV4274S Non-load balancing TCP/IP port
matches normal port or SSL port,
server terminating.**

説明: 非ロード・バランシング TCP/IP ポートが指定されました。しかし、そのポート番号は、標準 TCP/IP ポートまたは SSL ポートと同じです。

ユーザーの処置: ポート番号が一致しないように変更して、製品を再始動してください。SSL ポートを設定するための製品パラメーターは OESSLPORTNUMBER です。非ロード・バランシング・ポートの製品パラメーターは OENLPORTNUMBER です。非 SSL ポート番号を設定するための製品パラメーターは OEPORTNUMBER です。

**HLV4275 I parm reached -- at least one process
waiting**

説明: このメッセージは、先行検査の間隔でターゲット・スレッド限度に到達した場合に出されます。これは、いくつかの要求で、サブタスクが別の要求の完了により解放されるまでそれぞれの処理が遅延することを意味します。これがまれにしか起こらない場合は、重大なエラーではありません。応答時間に対するエラーに続いてこれらのメッセージが出される場合は、限度を上げる必要があります。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターの値を大きくしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm 限度に達したパラメーターの名前

**HLV4276S <cnt> new process block dynamic
allocation failures due to unknown
reasons.**

説明: このメッセージは、処理ブロックの動的割り振り障害の数に変更があることが認識された場合に出されます。これらの障害は、処理ブロックの動的割り振りがストレージの制約以外の理由で失敗した場合に認識されません。これは重大なエラーです。

ユーザーの処置: バイパスとは、PROCESS パラメーターを使用した製品の初期化中に、十分な数の処理ブロックを事前に割り振ることです。この数は、製品 ISPF パネル (HLV Stats) C.4 と、『PC ルーチン処理ブロック』セクションの「高水準カウント」値から判別することができます。この数値に 2 または 3 を加算し、それを初期 PROCESS パラメーター値として使用します。永続的なソリューションについては、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 動的割り振り障害の数

**HLV4277S <cnt> new process block dynamic
allocation failures due to storage
restraints.**

説明: このメッセージは、処理ブロックの動的割り振り障害の数に変更があることが認識された場合に出されます。これらの障害は、処理ブロックの動的割り振りが、製品アドレス・スペース内の専用ストレージも、拡張共通ストレージ域 (ECSA) 内の共通ストレージも取得できない場合に認識されます。これは重大なエラーです。

ユーザーの処置: バイパスとは、PROCESS パラメーターを使用した製品の初期化中に、十分な数の処理ブロックを事前に割り振ることです。この数は、製品 ISPF パネル (HLV Stats) C.4 と、『PC ルーチン処理ブロック』セクションの「高水準カウント」値から判別することができます。この数値に 2 または 3 を加算し、それを初期 PROCESS パラメーター値として使用します。永続的なソリューションについては、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 動的割り振り障害の数

**HLV4278 I cnt1 new process blocks allocated.
Total process block count: cnt2**

説明: このメッセージは、動的に割り振られた新規処理ブロックの数に変更があることが認識された場合に出されます。このメッセージは、プール内のクロスメモリー処理ブロックの合計数も示します。

ユーザーの処置: 処理ブロック・プールの初期化カウンターの設定が低すぎる場合、実行の早い段階で、または操作の最初のピーク期間中に、これらのメッセージのいくつかが出されます。これは、通常の操作と見なす必要があります。それでもこれらのメッセージが表示され、処理ブロック・プロセスのサイズが継続的に増える場合は、処理ブロックが本来どおり、解放され、プールに戻されていない可能性があります。この場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、さらなる分析を求めてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:: cnt1 新規処理ブロックの動的割り振り cnt2 プール内の処理ブロックの合計数

HLV4279 I cnt new RESMGR E-O-T cleanup failures or stalls detected and corrected

説明: このメッセージは、サブシステムのタスクの終わり SSI インターセプトにより検出されて自動的に訂正された、MVS リソース・マネージャーのタスクの終わり障害または停止の数に変更があることが認識された場合に出されます。RESMGR EOT 通知の欠落は、通常、次のような接続済み TSO ユーザー ID に対してのみ発生します。(1) S622 異常終了で取り消された (RESMGR EOT インターセプトが MVS によってスケジューラされない)、または (2) メイン製品アドレス・スペースの再開の合間にダイアログ (トレース表示など) の終了/再入を行わない。メイン製品アドレス・スペース内で実行中のサブタスクについてそれらのイベントが発生した場合、EOT イベントが検出されないということは、さらに重大な問題を表している可能性があります。

ユーザーの処置: 通常、アクションは不要です。一部のサイトは、規則的な頻度でこれらの通知を受け取る場合がありますが、これらの通知をほとんど、またはまったく受け取らないサイトもあります。RESMGR EOT 障害の数が増えたことに気付いた場合は、トレースを確認して、DET イベントを見つけます (TRACEDETACHEVENTS が「YES」でなければなりません)。対象とするのは、テキストの EOT または EOM が含まれている項目です。ジョブ名およびユーザー ID の列を表示します。障害が発生している DET イベントが TSO ユーザー・アドレス・スペースについて記録さ

れていない場合は、さらに詳しい分析のために DET ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 検出された新たな RESMGR 障害

HLV4280T tlimtyp TIME LIMIT EXCEEDED FOR usid FROM rntype NODE host PLAN pln CNID cnid TP pgm

説明: このメッセージは、何らかの種類の警告限度をタスクが超えた場合に出されます。この限度は、CPU 時間制限または待機時間制限であった可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ただし、このメッセージへの自動応答が必要になる場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: tlimtyp 時間制限タイプ (CPU または待機) usid ユーザー ID ストリング rntype リモート・ノードのタイプ host リモート・ホスト名 pln プラン名ストリング cnid 接続 ID 値 pgm プログラム名

HLV4281T tlimtyp TIME LIMIT EXCEEDED FOR usid FROM rntype NODE host PLAN pln CNID cnid TP pgm

説明: このメッセージは、何らかの種類のエラー限界をタスクが超えた場合に出されます。この限度は、CPU 時間制限または待機時間制限であった可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ただし、このメッセージへの自動応答が必要になる場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: tlimtyp 時間制限タイプ (CPU または待機) usid ユーザー ID ストリング rntype リモート・ノードのタイプ host リモート・ホスト名 pln プラン名ストリング cnid 接続 ID 値 pgm プログラム名

HLV4282T tlimtyp TIME LIMIT EXCEEDED FOR usid FROM rntype NODE host PLAN pln CNID cnid TP pgm

説明: このメッセージは、何らかの種類の障害限度をタスクが超えた場合に出されます。この限度は、CPU 時間制限または待機時間制限であった可能性があります。タスクは、異常終了で終了します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ただし、このメッセージへの自動応答が必要になる場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: tlimtyp 時間制限タイプ (CPU または待機) usid ユーザー ID ストリング rntype リモート・ノードのタイプ host リ

モート・ホスト名 pln プラン名ストリング cnid 接続
ID 値 pgm プログラム名

**HLV4283T SMAF update failed for TCB addr1
CMTC entry addr2 SMAF addr3**

説明: このメッセージは、SMAF ブロックの製品制限を更新しようとして、何らかの理由で失敗した場合に出されます。更新は実行されません。このエラーは、通常、SMAF を更新しようとしているときにターゲット・タスクが終了した場合にのみ発生します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: addr1
ターゲット TCB アドレス addr2 TCB リスト項目アド
レス addr3 SMAF ブロック・アドレス

**HLV4284S Process block pool is empty, size is
size**

説明: このメッセージは、処理ブロック・プールが空である場合に出されます。これは、すべての処理ブロックが使用中である場合や、処理ブロックが失われつつある(割り振られているが、解放されない)場合に発生する恐れがあります。

ユーザーの処置: これは、極めて重大なエラーです。メイン製品アドレス・スペースを可能な限り速やかに終了し、製品初期化 EXEC で PROCESS 製品パラメーターを使用して処理ブロックの数を増やします。処理ブロックの数は、最小でも、IMS/DRA スレッドに 5 を加算した値と同じなければなりません。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: size 処理
ブロック・プール・サイズ

**HLV4285S cnt process block allocation failures
have been detected**

説明: このメッセージは、処理ブロック割り振り障害が検出された場合に出されます。これは、すべての処理ブロックが使用中である場合や、処理ブロックが失われつつある(割り振られているが、解放されない)場合に発生する恐れがあります。

ユーザーの処置: これは、極めて重大なエラーです。メイン製品アドレス・スペースを可能な限り速やかに終了し、製品初期化 EXEC で PROCESS 製品パラメーターを使用して処理ブロックの数を増やします。必要な処理ブロックの最小数 (MINIMUM) は、IMS/DRA スレッドに 5 を加算したものです。これは、必要最小限の数値であり、各種のボリューム・ベース要求処理は考慮されません。PROCESS パラメーター値を増やした後もエ

ラーが続く場合、またはサブシステムによって処理ブロックのリリース・エラーも報告されている場合には、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 処理
ブロック割り振り失敗

**HLV4286S OPMS UPDATE FAILED FOR A
LOGGING EXCEPTION LIMIT**

説明: このメッセージは、OPMS ブロックの製品制限を更新しようとして、何らかの理由で失敗した場合に出されます。更新は実行されません。このエラーは通常、重大な内部エラーが発生した場合にのみ発生します。このエラーは、製品がしきい値の更新を試みていたと同時に、ISPF インターフェースを使用したしきい値の更新も行われていた場合に発生する可能性があります。

ユーザーの処置: これは、極めて重大なエラーです。エラーが解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

**HLV4287S cnt PENDING LOGGING REQUESTS
FOUND FOR DATABASE 'subsys'**

説明: 保留中のロギング要求の数が製品限界値を超えています。このメッセージは、制限を超えたことをシステムのオペレーターまたは自動化操作製品のオペレーターに通知するために出されます。

ユーザーの処置: これは重大なエラーです。保留中の要求の累積の理由を判別し、修正する必要があります。考えられるいくつかの理由として、DB2 サブシステムの停止や、DB2 ロギング表へのアクセス中のエラーがあります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 数
subsys データベース・サブシステム名

**HLV4288S cnt pending logging requests cleared
for database 'subsys'**

説明: データベース・サブシステムの保留中のロギング要求のすべてがクリアされ、関連したストレージは解放されました。このメッセージは、保留中のロギング要求がリリースされたことを、システムのオペレーターまたは自動化操作製品のオペレーターに通知するために出されます。

ユーザーの処置: これは重大なエラーです。保留中の要求の累積の理由を判別し、修正する必要があります。考えられるいくつかの理由として、DB2 サブシステムの停止や、DB2 ロギング表へのアクセス中のエラーがあります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 数
subsys データベース・サブシステム名

**HLV4289S cnt SS-PC ENTRY FAILURES
DETECTED, LAST: 'reason' AT time**

説明: 製品のスペース切り替えまたはスタッキング PC ルーチンのためのエンタリー処理中に、1 つ以上の新規障害が検出されました。各新規障害は、処理できなかったトランザクション・タスクまたはユーザー・インターフェース要求を表します。通常、これらの障害は、製品が、その事前割り振りクロスメモリー処理ブロックのプールからスタック・ストレージを取得できないために発生するので、このメッセージの直前にメッセージ 4285S が出されます。

ユーザーの処置: このメッセージの前にメッセージ 4285S が出された場合、メイン製品をできるだけ早く終了し、メッセージ 4285S で説明するように、PROCESS 製品パラメーターを使用して処理ブロック数を増やします。メッセージ 4285S が前に示されない場合、あるいは問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt PC エンタリー障害の数 reason PC エンタリー・ルーチンに設定された最後のテキスト理由 time 最後の PC エンタリー障害のタイム・スタンプ

**HLV4290E wrkspc GLOBAL VARIABLE
WORKSPACE IS var2 FULL (cnt OF
num BLOCKS USED).
PROGRAM=pgmname.**

説明: グローバル変数を含むグローバル (または一時グローバル) 変数ワークスペースが、GLOBALWARNTHRESH (または GLOBALTEMPWARNTH) 製品パラメーターによって定義されている、使用中のブロックの警告しきい値に達したかそれを超過しました。このメッセージは、以前の上限基準点より少なくとも 5% 上の新しい上限基準点に達するか超えるたびに発行されます。このメッセージが出される頻度は、GLOBALWARNINTVAL (または GLOBALTEMPWARNIV) 製品パラメーターによって制御されます。このメッセージを発行する検査は、新規グローバル変数が割り振られるか、または既存のグローバル変数が展開されたときにのみ行われることに注意してください。この状態が記録され、メッセージは、グローバル変数に対する次の参照で出されます。グローバル変数の参照が発生しない場合、データベースがいっぱいになるまで、この状態が警告されない可能性があります。

ユーザーの処置: グローバル変数アプリケーションを使用してグローバル (または一時グローバル) 変数データ

ベースの内容を分析し、使用されていないシンボルを削除する必要が生じることがあります。グローバル変数データ・セットが小さすぎる場合は、さらに大きなグローバル変数 DIV データ・セットを割り振り、アクセス方式サービス REPRO コマンドを使用して、そのデータ・セットに以前のデータ・セットをコピーしてください。より大きなグローバル変数ブロックの最大数を示すよう、製品 GLOBALMAX (または GLOBALTEMPMAX) パラメーターを変更します。メッセージ内のプログラム名または rule.ruleset 名は、単に、状態が検出された時点か、据え置きメッセージが出された時点で実行中のプログラムを表します。このプログラムは、グローバル・ワークスペースの大部分が使用された原因である可能性も、そうでない可能性もあります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: wrkspc ワークスペースのタイプを示す TEMP または " " var2 グローバル変数ワークスペースの使用済み % cnt 使用中の現行グローバル・ワークスペース・ブロック数 num ブロックの合計数 (GLOBALMAX) pgmname REXX プログラム名または ruleset.rulename

HLV4291T var1 var2 var3 var4 var5

説明: このトレース・メッセージは、デバッグ目的のみ使用されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 なし、var2 なし、var3 なし、var4 なし、var5 なし

**HLV4292E POSSIBLE wrkspc GLOBAL
VARIABLE WORKSPACE INTEGRITY
PROBLEM DETECTED (var2 - var3).
REBUILD SCHEDULED.**

説明: グローバル変数ワークスペースまたは一時的なグローバル変数ワークスペースのいずれかで重要な制御ブロックを更新しているときに、異常終了が発生しました。グローバル変数ワークスペースは、次のチェックポイント・インターバルで再作成されます。この再作成が完了するまでは、グローバル変数のアクセスや更新を試みても、おそらく失敗します。

ユーザーの処置: ほとんどの場合、問題は実際には発生しません。再作成は、単純にデータのすべてを検証してリカバリーします。再作成と関連する 0180I メッセージが、データの消失を示している場合は、以下を実行してください。(1) 製品によって作成されたあらゆる LOGREC ソフトウェア・レコードを出力する。(2) このメッセージの発行につながった Trace Browse の関連セクションを出力する。(3) このメッセージの正確なテキ

ストを記録する。(4) ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受ける。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: wrkspc ワークスペースのタイプを示す TEMP または " " var2 エラー検出タイプ (SYNC または DELAYED) var3 16 進数での保水性フラグ・バイト

HLV4296S GLV subtask has terminated. Zeroing workspace pointers.

説明: グローバル変数へのアクセスを試みているときに、グローバル変数サブタスクが既に終了していることが検出されました。ワークスペース・ポインタは、このデータへの今後のアクセス試行を防ぐためにゼロにリセットされます。今後の HLVVALUE 要求または SWSVALUE 要求はすべて、REXX エラー 48 (システム・サービスの障害) になります。

ユーザーの処置: 製品が自動的にシャットダウンしない場合、MVS STOP コマンドを使用して手動でシャットダウンを試してください。製品がまだ終了しない場合は、取り消しを試みてください。

HLV4297S routine OF GLOBAL VARIABLE POOL FAILED: HASN=asid1, PASN=asid2, SASN=asid3, MODE=var2, RC=rc, CALLER=csect

説明: グローバル変数プール・ストレージへのアクセスを試みているときに、ロックまたはアンロック逐次化ルーチン内の障害が検出されました。現在のグローバル変数操作は中止され、障害戻りコードが示されます。SETLOCK サービスまたは ENQ サービスが失敗した場合、戻りコード・フィールドには、バイト 3 のゼロ以外の値が入ります。また、環境エラーの場合は、バイト 1 またはバイト 2 のゼロ以外の値が入ります。

ユーザーの処置: 現在のグローバル変数プール操作は失敗します。エラーの原因を示す可能性のあるメッセージが他にないか調べ、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: routine ロックまたはアンロック asid1 ホーム・アドレス・スペース ID asid2 1 次アドレス・スペース ID asid3 2 次アドレス・スペース ID var2 PROB または SUP rc 戻りコード値 csect 呼び出し側の CSECT 名

HLV4298S GLOBAL VARIABLE routine RECURSION ERROR DETECTED AT ad

説明: グローバル変数プール・ストレージへのアクセスを試みているときに、ロックまたはアンロック逐次化

ルーチン内の障害が検出されました。

ユーザーの処置: 現在のグローバル変数プール操作は失敗します。エラーの原因を示す可能性のあるメッセージが他にないか調べて、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: routine ロックまたはアンロック

HLV4300 I SEF command rejected - subsystem subsys is not active

説明: 現在のプログラムまたはルーチンで、メイン製品アドレス・スペースのサービスを必要としています。しかし、メイン製品アドレス・スペースはアクティブではありません。

ユーザーの処置: メイン製品アドレス・スペースを開始または再開してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys サブシステム名

HLV4301S service - desc FAILED, RC=rc

説明: これは、製品システム管理サービスの呼び出しの結果として発生するさまざまな内部エラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。

ユーザーの処置: メッセージ・テキスト内のすべての情報を記録して、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 desc 説明 rc 戻りコード

HLV4302S ABEND abcd, RS=abrs IN 'ADDRESS hostenv' AT mod+off, PSW=psw

説明: 現行のプログラムまたはルーチンがメイン製品アドレス・スペースのサービスを使用しているときに異常終了が発生しました。このメッセージは、発生した異常終了のタイプと、その発生場所について詳細な説明を提供します。

ユーザーの処置: エラー・メッセージの全文を調べて、該当する修正アクションをすべて行ってください。この問題に関して追加の支援を受けるには、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd 異常終了コード、abrs 異常終了理由コード、hostenv REXX ホスト・コマンド環境、mod モジュール名、off モジュール・オフセット、psw 異常終了 PSW (使用可能な場合)

HLV4303E SEF command timed out before all responses received.

説明: SEF コマンドは、SEF からの完了応答を受け取ることなく、かなりの時間待機した後でタイムアウトになりました。

ユーザーの処置: 製品がまだアクティブであることを確認してください。製品がまだアクティブである場合は、HLV/SWS を使用して SEF 実行キューの状況を調べます。SEF 要求のバックログが存在する場合は、そのバックログの原因を判別し、問題の解決を試みてください。問題が解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4304E SEF COMMAND errdesc: 'cmd'

説明: ADDRESS SEF 環境構文チェッカーにより、無効な SEF verb または無効な SEF コマンドが検出されました。

ユーザーの処置: SEF コマンドの構文を訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc エラーの説明 (例えば、無効な verb) cmd SEF verb またはコマンド・ストリング

HLV4305E HLV/SWS version ver1 is incompatible with version ver2 of subsystem subsystem.

説明: ご使用の TSO 環境で使用している製品のバージョンは、SEF コマンドのアドレス指定先であるサブシステムに関連するメイン・サーバー・アドレス・スペースで実行中の製品のバージョンと互換性がありません。

ユーザーの処置: 正しい製品ロード・ライブラリーが TSO 環境に割り振られていることを確認するか、または SEF 要求を、互換性のあるバージョンを実行している製品のコピーにアドレス指定してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

ver1 HLV/SWS バージョン・ストリング

ver2 メイン製品バージョン・ストリング

subsys サブシステム名

HLV4307E SUBSYS SEF command cannot be issued in a rule

説明: SUBSYS SEF コマンドを SEF ルール環境から発行できません。

ユーザーの処置: OPSREQ を使用して、コードのこのセクションをサーバー内で強制的に実行してください。

HLV4308E errdesc, RC=rc

説明: 何らかのタイプのサービス・ルーチン (オペレーティング・システムまたは製品固有) が失敗しました。このエラー・メッセージは、エラーのタイプを示しています。

ユーザーの処置: エラー・メッセージの全文を調べて、エラーの訂正を試みてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc エラーの説明 rc 戻りコード

HLV4319T ABEND IN 'ADDRESS SWSSEND' CODE=cmpr, REASON=rc AT ad

説明: ADDRESS SWSSEND ホスト環境内で異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: この状態を説明できるエラーが他にないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmpr 異常終了完了コード rc 異常終了理由コード

HLV4320H subsystemid SEF CMD FROM(jb,userid): cmd

説明: このメッセージは、ハードコピー・コンソールに対する SEF ホスト・コマンドの使用をログに記録します。FROM キーワードには、許可目的で使用されるジョブ名およびユーザー ID が含まれています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセージは、情報トラッキング目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsystemid: コマンドがアドレス指定された製品サブシステム userid: 許可に使用されるユーザー ID cmd: SEF コマンドのテキスト

HLV4321E CURRENT verb COMMAND NOT AUTHORIZED - msg

説明: 製品 REXX コマンド権限検査ルーチンは、現行ユーザーが SEF コマンドを実行する許可を受けていないことを検出しました。EXECUTE コマンドへのアクセスは拒否されます。

ユーザーの処置: アクセスが拒否されるコマンドのエラー・メッセージ・テキストの verb ストリングを調べてください。現行ユーザーが必要なアクセス権限を持っていることを確認します。必要であれば、セキュリティ・システム管理者に連絡して、追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: verb verb ストリング msg 許可エラー検査メッセージ

**HLV4322S ABEND abcd IN AUTHORIZATION
ROUTINE mod+off**

説明: 許可検査ルーチンで、異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のインストール済み環境のセキュリティ製品をインストールおよび保守する担当者に連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd 異常終了コード、mod モジュール名、off モジュール・オフセット

**HLV4336E var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7
var8**

説明: SEF コマンドが、無効であるか、あるいはメッセージに示されている理由により失敗しました。

ユーザーの処置: SEF コマンドを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 可変情報、var2 可変情報、var3 可変情報、var4 可変情報、var5 可変情報、var6 可変情報、var7 可変情報、var8 可変情報

**HLV4337T THE TSO COMMAND IS INVALID
DUE TO errdesc**

説明: ADDRESS TSO 環境または ADDRESS TSOSRV 環境に渡されたコマンドは、示された理由により無効です。システムはコマンドをリジェクトし、無効なホスト・コマンド環境コマンドを示す RC=-3 が出力されます。

ユーザーの処置: このコマンドがリジェクトされた理由を判別して、コマンドを再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc 妥当性検査エラーの説明

**HLV4338 I TSO REMOTE EXECUTION
TIMEOUT VALUE SET TO time**

説明: ADDRESS TSO インターフェースに GETTIMEOUT コマンドが渡されました。このメッセージは、応答として外部データ・キューで戻されます。

ユーザーの処置: なし。このタイムアウト値は、100 分の 1 秒単位で指定されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: time 100 分の 1 秒単位での現在のタイムアウト値

HLV4339T addr COMMAND TIMED OUT

説明: ADDRESS TSO ホスト・コマンドまたは ADDRESS CGI ホスト・コマンドが許容時間内に完了しませんでした。要求側ルーチンは再ディスパッチされます。

ユーザーの処置: ホスト・コマンドが必要な時間枠内に完了しなかった理由を判別してください。この遅延は、TSO/CGI コマンド・プロシーチャー内部でのループ、あるいは外部 TSO サーバーの使用率が高いことが原因である可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: addr アドレス環境名

**HLV4340S Subsystem subsysid inactive, must be
(re)started**

説明: ADDRESS TSO ホスト・コマンドまたは ADDRESS TSOSRV ホスト・コマンドが、現在アクティブになっていない製品サブシステムに送信されました。

ユーザーの処置: メッセージに示されているサブシステム ID を持つ製品サブシステムを始動または再始動するか、あるいはアクティブ製品サブシステムの ID を指定するようプログラムを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsysid 製品サブシステム ID

HLV4341S TSO/E is not installed

説明: 製品の使用をサポートするには、TSO/E (IBM のプログラム製品番号 5665-293) が必要です。

ユーザーの処置: この製品が、ご使用のインストール済み環境で使用可能であることを確認します。

**HLV4342E TSO command length (length1)
exceeds maximum length (length2)**

説明: TSO コマンドの長さが、実装制限を超えています。OSF ルールから OSF 実行キューに送信された TSO ホスト・コマンドの長さに下限 (256 バイト、またはサーバー SYSTSIN DD ステートメントの BLKSIZE のどちらか小さい方) があることに注意してください。

ユーザーの処置: TSO コマンド・ストリング内のブランクの数が多すぎるかどうか調べてください。多すぎる場合は、そのコマンド・ストリングからブランクを除去します。ルールからサーバー REXX プログラムへ long 値を渡す必要がある場合は、グローバル変数を使用して、その値を渡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: length1

TSO コマンド・ストリングの長さ length2 TSO コマンド・ストリングの実装制限

HLV4343S TSO service error - errdesc

説明: TSO コマンド・サービス・ルーチンによって TSO コマンドを実行する製品サービス・ルーチンでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errdesc エラーの説明

HLV4344S TSO service error - abcd1 abcd2 - reason code rscd

説明: TSO コマンド・サービス・ルーチンによって TSO コマンドを実行する製品サービス・ルーチンで異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージとともにその他のエラー・メッセージが生成されていないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd1 異常終了コード、abcd2 異常終了コード、rscd 理由コード

HLV4345S TSO service error - desc - reason code rscd

説明: TSO コマンド・サービス・ルーチン呼び出す製品サービスに渡されたパラメーター・リストでエラーが見つかりました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 説明 rscd 理由コード

HLV4346E Current verb command not authorized - msg

説明: 許可検査が失敗しました。ADDRESS OSF の使用は、ご使用のインストール済み環境のセキュリティー製品によって制限されます。

ユーザーの処置: ご使用のインストール済み環境のセキュリティー製品をインストールおよび保守する担当者に連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: verb アドレス OSF verb msg 許可処理からのエラー・メッセージ

HLV4347S ABEND abcd IN AUTHORIZATION ROUTINE mod+off

説明: 許可検査ルーチンで、異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のインストール済み環境のセキュリティー製品をインストールおよび保守する担当者に連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd 異常終了コード、mod モジュール名、off モジュール・オフセット

HLV4348S rsrce ss FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: ADDRESS TSO 環境または ADDRESS OSF 環境に関連した製品サービス・ルーチンの呼び出し中に、何らかのタイプのエラーが発生しました。このエラーは、TSO/E コマンド・サービス・ルーチンを使用して TSO コマンドを実行するための環境をセットアップしようとしたときに発生しました。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrce リソース名 ss システム・サービス rc 戻りコード

HLV4349S MESSAGE SEND TO TSO EXECUTE QUEUE FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: 製品は製品サーバー・アドレス・スペース内の TSO サーバー実行キューにコマンドを送信しようとしたのですが、その試みが失敗しました。メッセージ内の戻りコードが 4 の場合、TSO 実行キューはいっぱいで

す。以下の状態の 1 つまたは複数の組み合わせが起きている可能性があります。(1) 1 つのルール、または複数のルールの組み合わせでループが発生している。(2) TSO コマンドが非常に頻繁に発行される原因となっているループがアプリケーション内に存在する。(3) サーバーの数が少なすぎる、または比較的長時間かかる処理を実行するためにサーバーが占有されている。(4) サーバー・ワークロードに対して TSO 実行キューが小さすぎる。

ユーザーの処置: メッセージおよび関連するメッセージの内容を検討して、問題の解決を試みてください。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc 製品の送信メッセージ・サービスからの戻りコード

HLV4350 I Load for module mod failed, CCTL initialization error

説明: このメッセージは、IMS に対する CCTL インターフェースを初期化するために必要なモジュールをロードできなかった場合に出されます。このメッセージには、モジュール名が含まれています。このモジュールが欠落しているか、またはその他のエラーが発生していません。

ユーザーの処置: 他のメッセージが出されていないか、確認してください。指定されたモジュールが検索シーケンスにあるかどうか確認します。この問題は、メイン製品アドレス・スペースを再始動せずに解決できることに注意してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod モジュール名

HLV4351 I DRA control exit invalid PAMPL subfunction = sfunc

説明: このメッセージは、製品 DRA 制御出口が、DRA 障害の通知を受け取ったが、認識されない副次機能コードを渡されたときに出されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。製品は、IMS 制御領域との接続を復元しようと試みます。製品が IMS DBCTL への再接続を試みるのに合わせて、このエラー・メッセージの後に続いて、他の、さらに詳しいエラー・メッセージが出される場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: sfunc PAMPL 副次機能コード

HLV4352 I DRA control exit invalid PAMPL function = func

説明: このメッセージは、認識されない機能コードを製品 DRA 制御出口が受け取ったときに出されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。製品は、IMS 制御領域との接続を復元しようと試みます。製品が IMS DBCTL への再接続を試みるのに合わせて、このエラー・メッセージの後に続いて、他の、さらに詳しいエラー・メッセージが出される場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func PAMPL 機能コード

HLV4353 I IMS CCTL support activated

説明: このメッセージは、IMS 制御領域への接続が正常に確立されたという通知を製品の DRA 制御出口が受信したときに発行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。これは単なる通知メッセージです。

HLV4354 I IMS CCTL support terminating

説明: これは通知メッセージであり、製品がその IMS CCTL サポートを終了すると発行されます。IMS CCTL サポートが致命的エラー条件のために終了している場合は、このメッセージの前に、検出された正確なエラー条件を示すエラー・メッセージが発行されます。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージの前に出されたエラー・メッセージについて推奨されている一連のアクションに従います。製品の CCTL サポートが致命的エラー条件のために引き続き終了する場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加の支援を受けてください。

HLV4355 I IMS CCTL control exit resync failure

説明: IMS CCTL 制御出口は、製品の初期化中に再同期要求を正常に処理できませんでした。

ユーザーの処置: この障害の時刻近くで発生した IMS メッセージがないか、MVS システム・ログを調べてください。発生した可能性のある IMS 問題があれば、訂正します。次に、このサーバーの未確定 UOR を異常終了してください。問題が解決しない場合、ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の支援を受けてください。

HLV4356 I IMS DRA terminating due to unknown error condition

説明: メイン製品アドレス・スペースの内部で実行する IMS Data Resource Adaptor は、何らかの不明なエラー状態が原因で終了しました。製品の IMS サポートは終了します。

ユーザーの処置: この障害の時刻近くで発生した IMS メッセージがないか、MVS システム・ログを調べてください。発生した可能性のある IMS 問題を修正して、HLV アドレス・スペースを再始動します。問題が解決しない場合、ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の支援を受けてください。

HLV4357 I Invalid request, IMS CCTL feature not enabled

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4358 I Request failed product not identified to IMS

説明: 製品は、IMS DBCTL 領域に対して自らを識別させようと、1 回以上試みましたが、現在、製品アドレス・スペースと IMS DBCTL 領域との間にアクティブな接続がありません。

ユーザーの処置: 関連する製品メッセージがないか、Trace Browse を調べてください。関連する MVS メッセージがないか、IMS システム・ログを調べます。検出された IMS 問題があれば、訂正してください。製品は、正常な接続が確立されるまで、引き続き、IMS 領域への接続を試みます。

HLV4359 I PSB schedule request unsuccessful

説明: 製品は、クライアント・アプリケーションが指定した PSB を正常にスケジュールできませんでした。

ユーザーの処置: PSB 名を調べて、その名前が正しいか確認してください。問題が解決しない場合、ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: psb
PSB 名

HLV4360 I Request failed - PSB not in scheduled state

説明: 現在の要求には、前の PSB スケジュール試行が正常に完了していることが必須ですが、このタスクには

アクティブ・スレッドは見つかりませんでした。

ユーザーの処置: クライアント・サイド・アプリケーションのプログラム・ロジックを調べて、DL/I 要求または「TERM」メッセージの発行前に、「CC」メッセージが送信されていることを確認してください。問題が解決しない場合、ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の支援を受けてください。

HLV4362 I Invalid buffer function code func

説明: このルーチンに渡されたバッファ機能コードは無効でした。ホスト・トランザクション・プログラムは、クライアントによって渡されたバッファ機能コードを処理できませんでした。

ユーザーの処置: クライアントによって要求されたホスト・アプリケーションがホストに対する現行呼び出しと一致していることを確認してください。必要であれば、ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func
バッファ機能コード

HLV4363 I Previous CCTL termination failed, initialization will use previous session PAPLCTOK value

説明: これは通知メッセージで、CCTL 初期化ルーチンが、前の CCTL 終了が正常に完了しなかったと判断した場合に、製品の初期化中に出されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV4370T Access to Services is not activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4371T Services is not active on the server

説明: サービスはサーバー上で開始されておらず、クライアント・アプリケーションで使用することができません。クライアントを使用して web サービスを実行するという現在の要求はリジェクトされました。現在のホスト・セッションは終了します。

ユーザーの処置: サービスへのアクセスが必要な場合は、サーバー上で正しいパラメーターを設定してサービスを有効にしてください。

HLV4372H WEB SERVICE %1 UNDER VIRTUAL DIRECTORY %2 HAS BEEN %3

説明: Web サービスが有効または無効になりました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

HLV4375W OE sockets WSOEPORT conflict with PIO port - zervices HTTP listener terminating

説明: OE ソケット・サービスのポート番号 (WSOEPORT) が、並列入出力ポートと同じ非ゼロ値に設定されています。

ユーザーの処置: メイン・アドレス・スペースのこの OE ソケット・タスクはシャットダウンします。始動は、サービス・サポートなしで続行します。

HLV4376W MongoDB support services TCP/IP port(s) conflict with other port number assignments - Mongo terminating

説明: MongoDB サーバー・サポートに割り当てられているポート番号 (単数または複数) が、他の製品サポート・サービスのための他の非ゼロ・ポート番号割り当てと競合しています。

ユーザーの処置: MongoDB リスナー・タスクは終了し、Mongo サポートは非活動化されます。

HLV4377W MongoDB listener ports not set - MongoDB support willnot be activated

説明: MongoDB クライアント接続のポート番号が設定されていません。MongoDB 始動パラメーターによって要求された MongoDB サポートは、活動化できません。

ユーザーの処置: MongoDB リスナー・タスクはシャットダウンし、始動は MongoDB サポートなしで続行されます。

HLV4378W OE sockets HTTP port (WSOEPORT) conflicts with main OE port (OEPORTNUMBER) - HTTP listener terminating

説明: OE ソケット HTTP およびサービス・アクセスのポート番号が、通常の (ODBC) ポートと同じ非ゼロ値に設定されています。サービス HTTP リスナー・タスクは終了し、このサーバーへの HTTP アクセスは使用不可になります。

ユーザーの処置: メイン・アドレス・スペースのこの

OE ソケット・タスクはシャットダウンします。始動は、HTTP およびサービス・サポートなしで続行します。

HLV4379W OE sockets HTTP port (WSOEPORT) unset - HTTP && Services support unavailable

説明: OE ソケット HTTP およびサービス・アクセスのポート番号が設定されていません。WSACTIVE オプションによって要求されたサービス・サポートは、リセットされており、使用できなくなります。Studio によるサーバーへの HTTP アクセスも使用できなくなります。

ユーザーの処置: メイン・アドレス・スペースのこの OE ソケット・タスクはシャットダウンします。始動は、HTTP およびサービス・サポートなしで続行します。

HLV4380E MongoDB feature is not configured - Mongo listener on port %1 will not be activated.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4381H Parallel I/O port OPEN failure

説明: 並列入出力ポートのソケットをオープンしようとしているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ポート番号が正しいことを確認してください。

HLV4382H Non load-balanced port OPEN failure

説明: 非ロード・バランシング・ポートのソケットをオープンしようとしているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ポート番号が正しいことを確認してください。

HLV4383H OE sockets TCP/IP DubProcess failed. RC=%1. Reason code=%2.

説明: OE ソケット処理の DUBPROCESS オプションを設定しようとしているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: サーバーを始動するために使用するユーザー ID に OMVS セグメントが定義されていることを確認してください。それでも問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の支援を受けてください。

HLV4384S Services load balancing port not unique, server terminating

説明: ロード・バランシング・サービス・ポートが指定されました。しかし、そのポート番号は既に別のリスナー (メイン TCP/IP リスナー、SSL、または通常のサービスなど) に使用されています。

ユーザーの処置: ポート番号が一致しないように変更して、製品を再始動してください。SSL ポートを設定するための製品パラメーターは OESSLPORTNUMBER です。非ロード・バランシング・ポートの製品パラメーターは OENLPORTNUMBER です。非 SSL ポート番号を設定するための製品パラメーターは OEPORTNUMBER です。サービス・ポート番号を設定するための製品パラメーターは WSOEPORT です。サービス SSL ポート番号を設定するための製品パラメーターは WSOESSLPORT です。サービス・バランシング・ポート番号を設定するための製品パラメーターは WSOEBALANCEDPORT です。

HLV4385H WS load-balanced port OPEN failure

説明: サービス・ロード・バランシング・ポートのソケットをオープンしようとしているときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ポート番号が正しいことを確認してください。

HLV4386S SSL port number required - OE sockets TCP/IP processing terminated

説明: SSL 処理が要求されました。しかし、SSL ポート番号が設定されていないか、ゼロに設定されていません。OE ソケットは終了しました。

ユーザーの処置: 初期化 EXEC で SSL ポート番号を設定して、製品を再始動してください。それでも問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の支援を受けてください。

HLV4387S PIO and ODBC ports match - OE sockets PIO port is reset to zero

説明: PIO 処理が要求されました。しかし、PIO ポート番号が、ODBC ポート番号と同じです。OEPIOPORTNUMBER がゼロに設定されています。並列入出力サポートは使用不可になります。

ユーザーの処置: OEPIOPORTNUMBER を、OEPORTNUMBER 値とは別の値に変更してください。

HLV4388S SSL and non-SSL ports match - OE sockets SSL port is reset to zero

説明: SSL 処理が要求されました。しかし、SSL ポート番号が、非 SSL ポート番号と同じです。

OESSLPORTNUMBER がゼロに設定されています。この非 SSL ポート番号は、SSL と非 SSL 両方のインバウンド要求を受け入れます。

ユーザーの処置: 必要ありません。メッセージを除去するには、初期化 EXEC から OESSLPORTNUMBER パラメーターを削除してください。

HLV4389S OE stack 'oename' can not be used - OE sockets TCP/IP processing terminated

説明: 特定の OE スタックの名前が、TCPNAME 製品パラメーターを使用して指定されました。しかし、この OE スタックが何らかの理由で使用できません。OE ソケットは終了しました。

ユーザーの処置: TCPNAME 製品パラメーターを変更して OE スタックの名前を訂正してください。メイン製品アドレス・スペースを再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oename
OE スタック名

HLV4390E Invalid dynamic VIPA IP address %I specified

説明: 動的 VIPA サポートが構成されていますが、使用する動的 VIPA サポートに指定された IP アドレスが無効です。動的 VIPA サポートは使用不可になります。

ユーザーの処置: 動的 VIPA IP アドレスを削除するか、または小数点表記法を使用して IP アドレスを正しく指定します。

HLV4391 I OE stack binding port svr to IP address ip

説明: オープン・エディション・サポートは、製品を、示されているポートおよび示されている IP アドレスにバインドします。

ユーザーの処置: なし。これは単なる通知メッセージです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: svr バインド先であるポート ip バインド先である IP アドレス

**HLV4392 I OE stack returning invalid results
when sockets are ready**

説明: このメッセージは、戻されたソケット・マスクに作動可能なソケットがあった場合でも select() がゼロの戻り値を返したことを OE メインタスクが検出したときに出されます。これが原因で、listen ソケットの処理を試行中に、OPMAOT 内でループが発生する可能性があります。

ユーザーの処置: IBM オープン・エディション・コードでのこの問題に関する資料を収集する方法については、営業担当員にお問い合わせください。

**HLV4393 I OE stack returning too soon from
select when no sockets are ready**

説明: このメッセージは、タイムアウト値が指定されていて、処理のために使用可能なソケットがなかったときに、予想よりも早く select() が戻ったことを OE メインタスク OE が検出すると出されます。これが原因で、実行する作業がない場合に OPMAOT での時間が無駄になる可能性があります。

ユーザーの処置: この問題に関する資料を収集する方法については、ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

HLV4400T text

説明: これは汎用メッセージであり、何らかのタイプの TCP/IP エラーを示している場合も、そうでない場合もあります。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストを注意してお読みください。このメッセージ ID のもとで生成されるいくつかのメッセージが、実際のエラー・メッセージです。このメッセージがエラーを示している場合は、これに関連して TCP/IP によって生成されたエラー・メッセージがあるか確認してください。問題を診断できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4401W No TCP/IP port number specified.

説明: このメッセージは、製品が listen する対象であり、インバウンド OE ソケット TCP/IP セッションを受け入れるポート番号が指定されていないことを示します。

ユーザーの処置: xxxxIN00 EXEC を変更して、listen の対象となり、すべてのインバウンド OE ソケット TCP/IP セッションを受け入れるために使用される

OEPORNUMBER パラメーターのポート番号を指定します。

**HLV4410E service OF desc FAILED RC=rc,
DETECTED AT ad**

説明: これは、多種多様なメッセージ処理エラーを説明するために使用される汎用エラー・メッセージです。このメッセージ・テキストは、現行操作と、現行操作が行おうとしていた処理を説明します。

ユーザーの処置: 関連するエラーの詳細をすべて保持し、地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して、この問題に関する支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 desc 説明 rc 戻りコード

**HLV4411E GLOBAL VARIABLE RULE
CHAINING DEPTH EXCEEDS
MAXIMUM VALUE**

説明: グローバル変数ルール・チェーニングが最大値を超えました。保留中のグローバル変数ルールはすべて、起動されません。現行操作が続行されます。

ユーザーの処置: この状態が再帰的な無限グローバル変数ルールのループによって生じている場合は、この状況を回避するようグローバル変数ルールを変更してください。この状況が REXX プログラミング・エラーによるものではない場合には、グローバル変数ルール・チェーニング限度 (GLVCHAINMAX) を増やします。

**HLV4413 I num MESSAGES SINCE THE LAST
ARCHIVE. CURRENT MESSAGE
NUMBER IS sqno**

説明: 最後の Trace Browse メッセージがアーカイブされた後で Trace Browse に追加されたメッセージの数が、ユーザー定義のしきい値を超えました。

ユーザーの処置: このメッセージは、TODARCH ルールを使用した時間ベースではなく、最後のアーカイブ以降のメッセージの数に基づいて Trace Browse アーカイブ・プログラムを開始するためのトリガーとして使用される場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num 最後のアーカイブ以降のメッセージの数 sqno 現在の Trace Browse メッセージのシーケンス番号

HLV4420H text

説明: これは汎用メッセージであり、何らかのタイプの TCP/IP エラーを示している場合も、そうでない場合もあります。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストを注意してお読みください。このメッセージ ID のもとで生成されるいくつかのメッセージが、実際のエラー・メッセージです。このメッセージがエラーを示している場合は、これに関連して TCP/IP によって生成されたエラー・メッセージがあるか確認してください。問題を診断できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4421H UNKNOWN service CODES - R0=r0 R15=r15

説明: このメッセージは、HLV が認識していない TCP/IP の戻りコードと理由コード (R15 および R0) を報告しています。

ユーザーの処置: これは、何らかのタイプの内部エラーを示している場合があります。HLVによってまだサポートされていない TCP/IP のバージョンを実行している可能性もあります。実行している TCP/IP のバージョンがサポート対象であると考えられる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 r0 レジスター 0 の内容 r15 レジスター 15 の内容

HLV4422H UNKNOWN service CODES - ERCD=ec DGCD=dc

説明: このメッセージは、4421H メッセージと組み合わせて表示されます。

ユーザーの処置: これは、何らかのタイプの内部エラーを示している場合があります。HLVによってまだサポートされていない TCP/IP のバージョンを実行している可能性もあります。実行している TCP/IP のバージョンがサポート対象であると考えられる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 ec 1 次 TPL エラー・コード dc 2 次 TPL 診断コード

HLV4423H UNKNOWN service CODES - ERCD=ec DGCD=dc

説明: このメッセージは、4421H メッセージと組み合わせて表示されます。

ユーザーの処置: これは、何らかのタイプの内部エラーを示している場合があります。HLVによってまだサポートされていない TCP/IP のバージョンを実行している可能性もあります。実行している TCP/IP のバージョンがサポート対象であると考えられる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 ec 1 次エラー・コード dc 2 次診断コード

HLV4450S CICS error inquiring CICS system information for client - EIBRESP: CICS

説明: クライアント PLTPI プログラムが、CICS システム情報の照会でエラーを検出しました。

ユーザーの処置: おそらく CICS エラーです。エラーがないか、システム・ログを調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 CICS EIB 応答コード

HLV4451S CICS error enabling client exit program program - EIBRESP: CICS

説明: クライアント PLTPI プログラムが、クライアント出口プログラムの使用可能化でエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 出口プログラムが CICS に対して適切に定義されているか確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 program 名前 CICS EIB 応答コード

HLV4452S CICS error extracting GWA address for client program program - EIBRESP: CICS

説明: クライアント PLTPI プログラムが、出口プログラムのグローバル作業域アドレスの抽出でエラーを検出しました。

ユーザーの処置: おそらく CICS エラーです。エラーがないか、システム・ログを調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 program 名前 CICS EIB 応答コード

HLV4453S CICS error starting client exit program
program - EIBRESP: CICS

説明: クライアント PLT プログラムが、ユーザー出口プログラムの開始でエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 出口プログラムが CICS に対して適切に定義されているか確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 program 名前 CICS EIB 応答コード

HLV4454 I CICS client exit program program
started

説明: クライアント・タスク関連ユーザー出口プログラムが開始されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは通知目的でのみ使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 program 名前

HLV4455S CICS GWA length not as expected for
client exit program program - expected:
expected, returned: GWA

説明: クライアント TRUE について CICS によって戻された GWA の長さが、予期した長さではありません。

ユーザーの処置: 出口プログラムが CICS に対して適切に定義されているか確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 program 名前 expected GWA の長さ GWA EXEC CICS EXTRACT EXIT によって戻された長さ

HLV4456 I CICS program creation date: program

説明: このメッセージは、クライアント TRUE 出口プログラムの作成日を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 Program 名前 Program 作成日

HLV4457S CICS Program load failed - EIBRESP:
EIBRESP

説明: クライアント API インターフェース・ルーチンをロードできませんでした。

ユーザーの処置: そのロード・モジュールが CICS 領域で使用可能であることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS

ジョブ名 Program 名前 EIBRESP コード

HLV4458W CICS client exit program program is
already enabled

説明: クライアント PLTPI プログラムが、クライアント出口プログラムの使用可能化でエラーを検出しました。プログラムは既に使用可能になっています。

ユーザーの処置: PLTPI プログラムが CICS に対して適切に定義されているか確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 Program 名前

HLV4459 I CICS client exit program program is
enabled

説明: クライアント PLTPI プログラムは使用可能です。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 Program 名前

HLV4460 I CICS Program GWA address: GWA

説明: このメッセージは、クライアント TRUE 出口のグローバル作業域のアドレス (GWA) を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: CICS ジョブ名 Program 名前 GWA アドレス

HLV4470S IMS CTL FEATURE MUST BE
ENABLED TO ISSUE DL/I CALLS

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV4471S INVALID PSB SCHEDULE ATTEMPT
- PSB ALREADY SCHEDULED

説明: ユーザー作成の RPC プログラムが、プログラムの PSB をスケジュールするために IMS PCB 呼び出しを発行しようとした。しかし、プログラムの PSB は既にスケジュールされています。

ユーザーの処置: ユーザー作成の RPC プログラムの内部論理エラーを訂正し、RPC プログラムを再度呼び出してください。

**HLV4472S PSB SCHEDULE FAILURE - PSB
NAME = psb**

説明: ユーザー作成の RPC プログラムがプログラムの PSB をスケジュールしようとした。PSB スケジュールの試みが失敗しました。

ユーザーの処置: PSB スケジュールが失敗した理由としては、さまざまなことが考えられます。PSB ロード・モジュールが IMS で使用可能であることを確認してください。PSB によって参照されるデータベースが使用可能であることを確認します。以前のエラーのために、PSB が IMS により停止されていないことを確認してください。上記の状態のいずれもこのエラーの原因でない場合、関連するエラー・メッセージがないか、IMS MTO ログおよび MVS MCS コンソールを調べてください。PSB をスケジュールする試みがすべて失敗する場合には、ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: psb スケジュールの失敗に関与する PSB の名前

**HLV4473S INVALID DL/I CALL ATTEMPT -
PSB NOT SCHEDULED**

説明: ユーザー作成の RPC プログラムが、プログラムの PSB を終了するために IMS 終了呼び出しを発行しようとした。しかし、プログラムの PSB は以前にスケジュールされていませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー作成の RPC プログラムの内部論理エラーを訂正し、RPC プログラムを再度呼び出してください。

**HLV4500U desc INITIAL GETMAIN FAILED -
INCREASE STORAGE SIZE**

説明: ストレージが足りません。製品は、初期プログラム・スタックを割り振るための十分なストレージを取得できませんでした。

ユーザーの処置: 異常終了コードを調べて、領域サイズを大きくする必要があるかどうか判別します。必要な場合は、領域サイズを増やして、製品を再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 説明

**HLV4501U desc UNABLE TO LOCATE THE
MASTER BLOCK**

説明: サブタスクは、製品制御ブロックを見つけられず、強制的に終了させられました。サブタスクによって提供されるサービスは使用可能になりません。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題に関する異常終了エラー・メッセージが 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、この問題に関してソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 説明

HLV4502H process subtask is active

説明: これは、標準サブタスク初期化メッセージです。

ユーザーの処置: これはエラー・メッセージではなく、アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process 処理名

HLV4503S ESTAE service ERROR RC=rc

説明: サブタスク・ドライバーが、ESTAE リカバリ環境を作成しようとした。ESTAE マクロは失敗しました。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題に関する ESTAE エラー・メッセージが 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、この問題に関してソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 (ESTAE の作成または削除) rc 戻りコード

**HLV4504E rsrce ss FAILED, RC=rc, DETECTED
AT ad**

説明: 製品のシステム管理ルーチンで、何らかのタイプのエラーが発生しました。説明については、メッセージの実際のテキストを参照してください。このエラーは、製品のシステム管理ルーチンによって要求されたオペレーティング・システム・サービス内の障害が原因で発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡し、この問題に関して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rsrce

リソース名 ss システム・サービス rc 戻りコード

HLV4505H ABEND abcd IN func mod+off

説明: サブタスク・ドライバ・ルーチンが、ドライバによって呼び出されたルーチンで異常終了を検出しました。メッセージ・テキストは、異常終了コード、現行操作、および異常終了の場所を提供します。この障害は、サブタスク出口が制御を取得する原因となったルーチン、またはサブタスク出口ルーチン自身のプログラミング・エラーが原因となっている可能性があります。この障害は、製品インストールおよび保守のエラーが原因で生じることもあります。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd 異常終了コード、func 現行機能、mod モジュール名、off モジュール・オフセット

HLV4506H process subtask terminating

説明: これは、サブタスク実行が完了したことを示す標準メッセージです。

ユーザーの処置: これはエラー・メッセージではなく、アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: process 処理名

HLV4507E rc SUBTASK ERROR TERMINATION: RC=%1

説明: このメッセージは、サブタスク・ドライバ・モジュールがエラーにより終了したときに発行されます。

ユーザーの処置: 上記のエラー・メッセージと一緒に生成されたメッセージがないか確認してください。この問題について、一緒に示されたエラー・メッセージで十分に説明が得られた場合には、適切な修正アクションをすべて行ってください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc 戻りコード

HLV4508H stsk SUBTASK: obj value

説明: このメッセージは、DEBUGATMD オプションを使用して製品サービス・タスクのデバッグが要求された場合にのみ出されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。これは通知メッセージです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stsk サブタスク名 obj オブジェクト名 value オブジェクト値

HLV4520W LOAD FOR MODULE mod FAILED, ODBA INITIALIZATION ERROR

説明: このメッセージは、IMS への ODBA インターフェースを初期化するために必要なモジュールをロードできなかった場合に出されます。このメッセージには、モジュール名が含まれています。このモジュールが欠落しているか、またはその他のエラーが発生しています。

ユーザーの処置: 他のメッセージが出されていないか、確認してください。指定されたモジュールが検索シーケンスにあるかどうか確認します。問題を解決して、サーバーを再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod モジュール名

HLV4521S Unable to implant ODBA interface, return code: rc

説明: このメッセージは、製品が ODBA インターフェース・ルーチンを組み込むことができなかった場合に出されます。戻りコードが示されます。

ユーザーの処置: 他のメッセージが出されていないか、確認してください。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc システム・サービスからの戻りコード

HLV4522W UNABLE TO CONNECT TO IMS/ODBA FOR STARTUP TABLE ID: stid, RETURN CODE: rc, REASON CODE: rsn, ERROR CODE: errc

説明: このメッセージは、製品が、メッセージに示されている始動テーブル ID について IMS/ODBA に接続できなかった場合に発行されます。

ユーザーの処置: 他のメッセージが発行されていたかどうか、および IMS/DB がアクティブかどうかを確認します。始動テーブルが存在しない場合は、それを生成してください。この始動テーブル ID の次の ODBA 要求により、この操作は再試行されます。

HLV4523W • HLV4529W

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stid 始動テーブル ID rc AIBRETRN からの戻りコード rsn AIBREASN からの理由コード errc AIBERRXT からのエラー・コード

HLV4523W ERROR IN DISCONNECTING FROM IMS/ODBA CONNECTIONS. RETURN CODE: rc, REASON CODE: rsn

説明: このメッセージは、製品が IMS/ODBA から切断できなかった場合に出されます。

ユーザーの処置: 他のメッセージが発行されていたかどうか、および IMS/DB がアクティブかどうかを確認します。始動テーブルが存在しない場合は、それを生成してください。この始動テーブル ID の次の ODBA 要求により、この操作は再試行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc AIBRETRN からの戻りコード rsn AIBREASN からの理由コード

HLV4524W ERROR IN DISCONNECTING FROM IMS/ODBA CONNECTION stid. RETURN CODE: rc, REASON CODE: rsn, ERROR CODE: errc

説明: このメッセージは、製品が、メッセージに示されている始動テーブル ID について IMS/ODBA に接続できなかった場合に発行されます。

ユーザーの処置: 他のメッセージが発行されていたかどうか、および IMS/DB がアクティブかどうかを確認します。始動テーブルが存在しない場合は、それを生成してください。この始動テーブル ID の次の ODBA 要求により、この操作は再試行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stid 始動テーブル ID rc AIBRETRN からの戻りコード rsn AIBREASN からの理由コード errc AIBERRXT からのエラー・コード

HLV4525 I MAXIMUM NUMBER OF SIMULTANEOUS ODBA CONNECTIONS (max) REACHED - cnt TIMES - CONNECTION DENIED

説明: このメッセージは、同時接続の最大数に達したために製品が IMS/ODBA に接続できなかった場合に発行されます。

ユーザーの処置: MAXODBACONNECT パラメーターの値を大きくしてください。指定されない場合、デフォルトは 8 です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: max

ODBA 接続の最大数 cnt 最大値に達した回数

HLV4526 I num ODBA CONNECTION ENTRIES FREED

説明: このメッセージは、製品 ODBA 接続項目テーブル・クリーンアップ・ルーチンが以前に割り振られた項目を解放できた場合に発行されます。このメッセージは、接続を拒否し始めるテーブル・フル状態の警告です。

ユーザーの処置: MAXODBACONNECT パラメーターの値を大きくしてください。指定されない場合、デフォルトは 8 です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num ODBA 接続テーブル項目の数

HLV4527T ODBA interface not type

説明: このメッセージは、製品の ODBA インターフェースが初期化されていないか、使用可能になっていない場合に出されます。

ユーザーの処置: 初期化されていない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。使用可能になっていない場合は、初期化パラメーターを調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: type 初期化済みまたは使用可能

HLV4528 I Load for module mod failed, ODBA interface disabled

説明: このメッセージは、IMS への ODBA インターフェースを初期化するために必要なモジュールをロードできなかった場合に出されます。このメッセージには、モジュール名が含まれています。このモジュールが欠落しているか、またはその他のエラーが発生しています。

ユーザーの処置: IMS/ODBA サポートが必要でない場合には、アクションは不要です。そうでない場合は、他のメッセージが発行されたかどうか調べてください。指定されたモジュールが検索シーケンスにあるかどうか確認します。問題を解決して、サーバーを再始動します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod モジュール名

HLV4529W ERROR IN DEALLOCATING PSB: psb FOR STARTUP TABLE stid DURING ODBA/RPC CLEANUP. RC: retn, RE: resn

説明: このメッセージは、IMS/DB ODBA インターフェースを使用していた RPC が終了し、いくつかの PSB が割り振られたままになっていて、製品クリーンアップ

がそれらの割り振り解除でエラーを検出した場合に出されます。

ユーザーの処置: これらの PSB を割り振り解除せずに RPC が終了する原因となった RPC 内のエラーを訂正します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: psb
PSB 名 stid ODBA 始動テーブル ID retn AERTDLI
呼び出しからの戻りコード resn AERTDLI 呼び出しからの理由コード

HLV4530 I IMS/DB ODBA INTERFACE TERMINATED

説明: このメッセージは、製品が IMS/DB ODBA インターフェースを終了したときに発行されます。

ユーザーの処置: なし。

HLV4531W ERROR TERMINATING IMS/DB ODBA INTERFACE. RC: rc, RE: re

説明: このメッセージは、製品が IMS/DB ODBA インターフェースを終了したときに発行されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc
ODBA から戻された戻りコード re ODBA から戻された理由コード

HLV4532S ODBA STARTUP TABLE MODULE - mod - IS NOT RE-ENTRANT. UNABLE TO MODIFY

説明: このメッセージは、IMS/ODBA 接続が要求されたが、始動テーブル・モジュールに再入可能のマークが付けられていない場合に出されます。製品は、必要に応じてサーバー・ユーザー ID を使用してモジュールを変更できず、DEFINE IMSODBA パラメーターをマージすることもできません。

ユーザーの処置: 示された DFSxxxx0 モジュールを再生成し、それを再入可能としてリンクしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod
ODBA 始動テーブル・モジュール名

HLV4533S ODBA MODIFY ACTION BYPASSED FOR TABLE mod - %2

説明: このメッセージは、IMS/ODBA Modify Action が要求されたが、要求された名前の下にアクティブな ODBA 接続がないと思われる場合に出されます。

ユーザーの処置: 適切な始動テーブル名を使用して Modify コマンドを再入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod
ODBA 始動テーブル・モジュール名

HLV4534 I req OF IMS/ODBA CONNECTION FOR STARTUP TABLE mod res

説明: このメッセージは、IMS/ODBA 接続に対するアクションが要求されたときに出されます。要求の状況が表示されます。その状況が「failed」(失敗)の場合は、戻りコードと理由コードを示すメッセージが他にないか探してください。

ユーザーの処置: 他のメッセージで示されたエラーに対処した後で、Modify コマンドを再入力します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: req 要求
mod ODBA 始動テーブルのモジュール名 res 解決
-- succeeded (成功) または failed (失敗)

HLV4550T OPRXSQ - USER user CONNECTED WITH UNOPTIMIZED PLAN plan

説明: このメッセージは、以前の最適化されていない OPRXSQ DB2 プランとユーザーが接続された場合に出されます。

ユーザーの処置: 最適化パッケージ OPRXSQA-R が含まれているように、指定されたプランを再バインドしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: user 接続されているユーザーのユーザー ID plan DB2 プラン名

HLV4551T dbrm - UNRECOGNIZED typ PROVIDED - SECTION stmt - STATEMENT sectn

説明: このメッセージは、認識されないステートメントまたはセクション番号が OPRXSQ プラン変換ルーチンに提供された場合に出されます。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dbrm
まだ選択されている場合は DBRM 名 typ SECTION
または STATEMENT のいずれか stmt 提供されたステートメント番号 sectn 提供されたセクション番号

HLV4552T COLLECTION ID coll FOR PLAN plan WILL USE PACKAGE PROCESSING

説明: この通知メッセージは、現行接続の DB2 コレクション名が判別されたときに出されます。

HLV4553T • HLV4603 I

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: coll コレクション名 plan プラン名

HLV4553T PACKAGE OPRXSQdbrm SECTION sect USED FOR SECTION sect STATEMENT stmt

説明: この通知メッセージは、SQL セクション番号変換が製品の DB2 プラン OPRXSQ に対して実行されたときに発行されます。このメッセージは、ソフトウェア・サポートの指示のもとでのみ出されます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dbrm 選択された DBRM 名 sect 新しい OPRXSQ セクション番号 sect 元の OPRXSQ セクション番号 stmt 元の OPRXSQ ステートメント番号

HLV4554T PLAN plan DOES NOT USE PACKAGE PROCESSING

説明: この通知メッセージは、DB2 プランが、パッケージ・リストと一致するコレクション名を持っていないときに出力されます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: plan プラン名

HLV4555T PACKAGE OPRXSQpack IN COLLECTION coll SELECTED

説明: この通知メッセージは、SQL セクション番号変換が製品の DB2 プラン OPRXSQ に対して実行されたときに発行されます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pack 使用されるパッケージの名前 coll コレクション名

HLV4556T PLAN plan WILL USE PACKAGE PROCESSING

説明: この通知メッセージは、最適化パッケージが DB2 要求の処理に使用されることを示すために出力されます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: plan プラン名

HLV4557T PACKAGE OPRXSQpack SELECTED

説明: この通知メッセージは、SQL セクション番号変換が製品の DB2 プラン OPRXSQ に対して実行されたときに発行されます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pack 使用されるパッケージの名前

HLV4558T PLAN plan WILL USE DRDA SUBSTITUTE PACKAGES

説明: この通知メッセージは、DB2 プランが DRDA 接続のための代替パッケージの使用に内部的に変換されたときに出力されます。

ユーザーの処置: なし

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: plan プラン名

HLV4601 I st

説明: このメッセージには、TSOSRV_LIST コマンドに対するそれぞれ 2 行からなる応答の 1 行目が含まれています。それぞれ 2 行からなる応答グループは、TSO サーバーおよび実行中のコマンドの状況を示します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: st この TSO サーバーの状況情報

HLV4602 I cmd

説明: このメッセージには、TSOSRV_LIST コマンドに対するそれぞれ 2 行からなる応答の 2 行目が含まれています。それぞれ 2 行からなる応答グループは、TSO サーバーおよび実行中のコマンドの状況を示します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 実行中のコマンドまたは「N/A」

HLV4603 I SERVER asid POSTED FOR TERMINATION

説明: TSOSRV_STOP コマンドは、終了するようサーバーに通知しました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: asid 終了するよう通知されたサーバーの ASID

**HLV4604 I SERVER POSTED TO FREE TSSD AT
addr**

説明: TSOSRV_FREE コマンドは、TSSD を解放するようにサーバーに通知しました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: addr
解放される TSSD の ADDR

HLV4605 I st

説明: TSOSRV_QUEUE コマンドは、このメッセージを使用して情報を返します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: st TSO
サーバー実行キューの状況

**HLV4606E ADDRESS SEF TSOSRV_STOP asid:
ASID NOT SERVER ADDRESS
SPACE**

説明: TSOSRV_STOP コマンドに、無効な 16 進 ASID が指定されました。

ユーザーの処置: ASID を訂正して、TSOSRV_STOP コマンドを再発行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: asid 指定された ASID

HLV4607S funcc OF qn FAILED, RC=rc

説明: 指定された機能は、ADDRESS SEF ホスト・コマンド環境で失敗しました。

ユーザーの処置: どの機能が失敗したのか、メッセージ・テキストから判別して、失敗した機能の戻りコードをよく調べてください。地域担当の製品システム・プログラミング・グループに連絡して支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: funcc
機能コード・ストリング qn キュー名 (またはキュー・タイプ) rc 戻りコード

**HLV4608E ADDRESS SEF TSOSRV_FREE addr:
ADDRESS NOT THAT OF A TSSD**

説明: TSOSRV_FREE コマンドに無効なアドレスが指定されました。

ユーザーの処置: 該当のアドレスを訂正して、TSOSRV_FREE コマンドを再発行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: addr
無効なアドレス

HLV4609 I stats

説明: TSOSRV_EXECSTATS コマンドは、このメッセージを使用して情報を返します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stats
TSO サーバーの実行状況

**HLV4612H jb HAS RESET THE TSO SERVER
COMMAND EXECUTION QUEUE**

説明: 指定されたジョブから TSOSRV_RESETP コマンドが出されました。

ユーザーの処置: TSO サーバー・コマンド・キューは消去されます。

**HLV4650E UNABLE TO OBTAIN stg BYTES
BELOW THE LINE**

説明: ADDRESS LINKMVS は、要求されたプログラムに渡されるパラメーターとレジスター保管域の両方を保持するために、16 MB 境界より下のストレージを取得する必要があります。このストレージを取得できない場合、ホスト・コマンドの処理は終了します。

ユーザーの処置: バッチ・ジョブは、16 MB 境界より下の領域サイズを大きくして再実行する必要があります。TSO ユーザーは、領域サイズをより大きくしてログオンして、該当のコマンドを再発行する必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stg 要求されたストレージ域のサイズ

**HLV4680T ENCLAVE SET RC=rc FOR CALL
CODE code (ctype1) - ctype2**

説明: MVS Language Environment CEEPIPI インターフェース・モジュールを使用して高水準言語 (HLL) サブルーチンを呼び出そうとしているときに、エラーが発生しました。このメッセージは該当のエラーをログに記録します。このメッセージの後に、サブルーチン呼び出しのためにメッセージ 4681 が続いていることがあります。

ユーザーの処置: HLL サブルーチンは呼び出されず、製品の LE/370 エンクレーブが、他のメッセージが示すように終了する場合があります。可能であれば、ログに記録された他のメッセージを使用してエラーの原因を判別して問題を修正するか、ソフトウェア・サポート・グループに連絡してください。

HLV4681T • HLV4687T

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc
CEEPIPI 戻りコードの値 code CEEPIPI 呼び出しの呼
び出しコードの値 ctype1 CEEPIPI 呼び出しの呼び出し
タイプ ctype2 呼び出しタイプに固有の障害メッセージ

HLV4681T ROUTINE INVOKED WAS code - sroutine

説明: このメッセージは、サブルーチン呼び出しが進行
中の場合に、4680T メッセージに続いて出されます。サ
ブルーチン CEEPIPI テーブル索引値とその外部名が報
告されます。

ユーザーの処置: メッセージ 4680T を参照してくださ
い。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: code
CEEPIPI サブルーチン・テーブル索引コード sroutine
外部サブルーチン名

HLV4682T ROUTINE RC=rc REASON=rscd ENCLAVE FEEDBACK(fc1 fc2 fc3)

説明: このメッセージは、4681T メッセージの後に
出され、サブルーチン戻りコード、理由コード、および
LE/370 エンクレーブのフィードバック・コードを報告
します。

ユーザーの処置: メッセージ 4680T を参照してくださ
い。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc サブ
ルーチン戻りコード rscd サブルーチン理由コード fc1
エンクレーブ・フィードバック・コード 1 fc2 エンク
レーブ・フィードバック・コード 2 fc3 エンクレーブ・フ
ィードバック・コード 3

HLV4683T ENCLAVE MGR CANNOT REENTER SUPERVISOR STATE

説明: LE/370 CEEPIPI ルーチンへの呼び出しの後
で、エンクレーブ・マネージャーの通常の監視プログラ
ム状態操作を復元できませんでした。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してく
ださい。

HLV4684T ENCLAVE ABENDED CONDITION CODE=cndc, REASON=rscd FOR CALL CODE code (ctype) - msg

説明: MVS Language Environment CEEPIPI インタ
ーフェイス・モジュールを使用して高水準言語 (HLL)
サブルーチンを呼び出そうとしているときに、異常終了
がインターセプトされました。このメッセージは該当の
エラーをログに記録します。このメッセージの後に、サ

ブルーチン呼び出しのためにメッセージ 4681T が続い
ていることがあります。

ユーザーの処置: HLL サブルーチンは呼び出されず、
製品の LE/370 エンクレーブが、他のメッセージが示す
ように終了する場合があります。可能であれば、ログに
記録された他のメッセージを使用してエラーの原因を判
別して問題を修正するか、ソフトウェア・サポート・グ
ループに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cndc 異
常終了条件コードの値 rscd 異常終了理由コードの値
code CEEPIPI 呼び出しの呼び出しコード値 ctype
CEEPIPI 呼び出しの呼び出しタイプ msg 呼び出しタイ
プに固有の障害メッセージ

HLV4685T api PLIST ERROR reason - value (data)

説明: 高水準言語 (HLL) コールバック・ルーチンと呼
び出そうとしたときに、コールバック・ルーチンがパラ
メーター・リスト妥当性検査エラーを検出しました。こ
のメッセージは、PLIST 妥当性検査エラーの理由をログ
に記録します。

ユーザーの処置: API 関数によって無効な PLIST 戻り
コードが設定され、HLL プログラムに戻されます。こ
のエラーを IBM ソフトウェア・サポートに連絡してく
ださい。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: api 呼
び出される内部使用専用 API reason PLIST 妥当性検査
エラーの理由 value PLIST ポインター・ワードの値
data PLIST ポインターによって示されるデータ

HLV4686S text

説明: 重大エラー・メッセージが、メイン製品の高水準
言語 (HLL) コンポーネントによってトレースに記録さ
れました。このメッセージは、このメッセージ ID を使
用してオペレーター・コンソールにも記録されます。

ユーザーの処置: この状態の前後のメッセージおよびト
レースの内容を参照し、問題を修正してください。この
エラーを IBM ソフトウェア・サポートに連絡してくだ
さい。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text
HLL コンポーネントによって記録されたメッセージ・
テキスト

HLV4687T ENCLAVE TERMINATED BY COBOL STOP RUN - CLIENT CONNECTION TERMINATED

説明: COBOL RPC プログラムが、LE エンクレーブ

を終了させる原因となった STOP RUN ステートメントで終了しました。

ユーザーの処置: STOP RUN ステートメントを GOBACK ステートメントで置き換え、プログラムを再コンパイルしてリンクしてください。

HLV4700T '%1' MODEL QUEUE NAME NOT SET - '%2' USED AS MODEL QUEUE

説明: このキュー・マネージャー・インスタンスのモデル・キューの名前が設定されていません。可能であれば、デフォルトのモデル・キューが使用されます。

ユーザーの処置: MQ タスクは、デフォルトのモデル・キューを使用してキューをオープンしようとしません。

HLV4702T '%1' INPUT QUEUE NAME NOT SET - '%1' PROCESSING TERMINATED

説明: このキュー・マネージャー・インスタンスの入力キューの名前が設定されていません。可能であれば、デフォルトの入力キューが使用されます。

ユーザーの処置: MQ タスクは、デフォルトの入力キューを使用してキューをオープンしようとしません。

HLV4704H UNKNOWN service CODES - RE=rscd RC=rc

説明: このメッセージは、HLV が認識していない IBM/MQ の戻りコードと理由コードを報告しています。

ユーザーの処置: これは、何らかのタイプの内部エラーを示している場合があります。HLVによってまだサポートされていない IBM/MQ のバージョンを実行している可能性もあります。実行している IBM/MQ のバージョンがサポート対象であると考えられる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 rscd 理由コードの内容 rc 戻りコードの内容

HLV4706T text

説明: これは汎用メッセージであり、何らかのタイプの IBM/MQ エラーを示している場合も、そうでない場合もあります。

ユーザーの処置: メッセージ・テキストを注意してお読みください。このメッセージ ID のもとで生成されるいくつかのメッセージが、実際のエラー・メッセージです。このメッセージがエラーを示している場合は、これに関連して IBM/MQ によって生成されたエラー・メッセージがあるか確認してください。問題を診断できない

場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4750T IDCAMS SYSPRINT: text

説明: IDCAMS ユーティリティーが SYSPRINT 出力を生成しました。出力行は、メッセージ・テキストに示されます。IDCAMS は、製品の S_HLVRXID インターフェースを使用して呼び出されました。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、IDCAMS ユーティリティーによって生成された SYSPRINT 行のテキストを示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4751T IDCAMS WARNING: text

説明: IDCAMS ユーティリティーが SYSPRINT 出力を生成しました。出力行は、メッセージ・テキストに示されます。IDCAMS は、製品の HLVRXID インターフェースを使用して呼び出されました。このメッセージは、IDCAMS によって検出された IDCxxxx メッセージ条件への応答で出されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、IDCAMS ユーティリティーによって生成された SYSPRINT 行のテキストを示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4752T IDCAMS SYSIN: text

説明: IDCAMS ユーティリティーが HLVRXID REXX インターフェース・プログラムによって呼び出されようとしています。このメッセージは、IDCAMS ユーティリティーに渡されるコマンド・テキストをトレースします。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、IDCAMS に示されるコマンド・テキストを示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text メッセージのテキスト

HLV4753T IDCAMS RESULTS: LASTCC=lstcc COMPCODE=cmprc REASCODE=rc

説明: IDCAMS ユーティリティーが完了しました。このメッセージは、LASTCC、完了コード、および理由コードを報告します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、IDCAMS 要求の終了時に完了コードを報告します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lstcc コマンドからの IDCAMS LASTCC cmpc IDCAMS システム完了コード rc IDCAMS 理由コード

HLV4800E DYNALLOC request ddn - ABEND - COND=cndc REASON=rc

説明: 異常終了のために DYNALLOC 要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 要求は失敗します。この障害の原因を示す可能性のあるメッセージが他にないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request DYNALLOC 要求のタイプ ddn データ・セットの DD 名または DS 名 cndc 異常終了条件コード rc 異常終了理由コード

HLV4801H 'cmd' command (issued internally) rejected - another request request is already running

説明: システムで処理を許されるこのタイプの要求は一度に 1 つのみであるため、内部生成された SEF コマンドは現時点でスケジュールできません。

ユーザーの処置: システムはこの要求をリジェクトし、未完了の要求の処理を続行します。通常、このメッセージは、不定期に出されます (特定の「競合」状態の場合のみ)。このメッセージが頻繁に出される場合は、ソフトウェア・サポートに連絡し、サーバーの始動パラメーターの設定に関するアドバイスを求めてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd SEF コマンドの識別

HLV4802H ABEND CC(cndc) REASON(rc) IN mod+off WHILE PROCESSING 'cmd' COMMAND ISSUED BY usid

説明: SEF コマンド・サービス処理サブタスクが、示されたコマンドの処理中に、異常終了しました。

ユーザーの処置: この障害の原因を示す可能性のあるメッセージが他にないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cndc 異常終了条件コード rc 異常終了理由コード mod モジュール名 off モジュール・オフセット cmd 処理されている SEF コマンド (既知の場合) usid 要求側のユーザー ID (既知の場合)

HLV4803E 'cmd' COMMAND FROM usid FAILED - RC = rc desc cmpc

説明: SEF コマンド・サービス処理ルーチンがエラーで終了しました。このメッセージは、処理されているコマンド、要求側 MVS ユーザー ID、サービス戻りコード、および検出されたすべての異常終了条件コードを報告します。

ユーザーの処置: この障害の原因を示す可能性のあるメッセージが他にないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 処理されたサービス・コマンド usid 要求側のユーザー ID rc サービス全体の戻りコード desc 異常終了の説明 cmpc 異常終了の完了コード

HLV4804E BROWSEMAX(value1) 値が、許される最小値 (value2) よりも小さいために、Trace Browse アーカイブは使用不可です。

説明: Trace Browse アーカイブ・サポートはオフにされました。トレースに少なくとも指定の最小数のメッセージが含まれている必要があるためです。

ユーザーの処置: トレースでサポートされるメッセージの数が少なすぎる場合、トレースのアーカイブが作成可能になる前に、トレースが循環する可能性があります。このメッセージは、現行トレースに含まれるメッセージの数が少なすぎるために、この状態が発生する可能性が高いことを示しています。BROWSEMAX 始動パラメーター値を、少なくとも最小の数量まで増やしてください。設定された最小値はおおよその見積りにすぎず、循環が発生しないことを保証するには極めて不十分である可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value1 現在の BROWSEMAX パラメーター値 value2 許される最小の BROWSEMAX 値

HLV4805H BROWSEARCHIVECOUNT parameter has been set to value1 - was below minimum (value2) allowed

説明: Trace Browse アーカイブ・サポートはオンにされましたが、BROWSEARCHIVECOUNT パラメーターが設定されていなかったか、または設定が低すぎました。

ユーザーの処置: システムは、BROWSEARCHIVECOUNT 値を BROWSEMAX 値の 1/3 として再計算します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value1

現在の BROWSEARCHIVECOUNT 値 value2 システムで許される最小値

HLV4806H BROWSEARCHIVECOUNT parameter has been set to value1 - was above maximum (value2) allowed

説明: Trace Browse アーカイブ・サポートはオンにされましたが、BROWSEARCHIVECOUNT パラメーターの設定が高すぎました。

ユーザーの処置: システムは、BROWSEARCHIVECOUNT 値を BROWSEMAX 値の 1/3 として再計算します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value1
現在の BROWSEARCHIVECOUNT 値 value2 システムで許される最大値

HLV4807H BROWSEARCHIVECUSHION parameter has been set to value

説明: Trace Browse アーカイブ・サポートはオンにされましたが、BROWSEARCHIVECUSHION パラメーターの設定が高すぎたか、または低すぎました。

ユーザーの処置: システムは、示されている許容される最小値のとおり BROWSEARCHIVECUSHION 値をリセットします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value
現在の BROWSEARCHIVECUSHION 値

HLV4808S Archive backup is under stress - value messages can be logged before overlay

説明: トレースのアーカイブ・バックアップは、既に進行中であるため、現在、スケジュールできません。循環トレース記録はメッセージの最終範囲に入り、新しいアーカイブのスケジュールに間に合うように前のアーカイブが完了しない限り、循環が発生します。

ユーザーの処置: システムは状況のモニターを続行し、状態が訂正されたときにこのメッセージを削除するか、循環が実際に発生した場合に重大度を上げます。何らかの処理により適切なタイミングでアーカイブ・バックアップ処理を完了できない場合は、その問題を修正してください。トレース・サイズ (BROWSEMAX) またはアーカイブ制御パラメーター (BROWSEARCHIVECOUNT および BROWSEARCHIVECUSHION)、あるいはその両方を増やす必要があるか検討してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value
現在の BROWSEARCHIVECOUNT 値

HLV4809S Trace Browse in overlay mode - unarchived records are being overwritten

説明: トレース・ログは循環し、現在、アーカイブされていないメッセージは上書きされています。ストレス状態が解消されない場合、このメッセージが 4808S メッセージに代わって発行されます。

ユーザーの処置: システムは操作と状態のモニタリングを続行します。全体的なストレス状態を解消する新たなアーカイブ・バックアップを完了できる場合、このメッセージは削除されます。ただし、オーバーレイされたレコードを回復することはできません。

HLV4810H Trace 'BACKUP ARCHIVE' command should be externally scheduled

説明: BROWSEARCHIVE オプションは MESSAGE に設定されており、システムは、トレースのバックアップ・アーカイブを作成する必要があることを検出しました。

ユーザーの処置: システムは、このメッセージを発行し、他のアクションは行いません。即時にアーカイブ・バックアップ操作をスケジュールしてください。

HLV4811H Trace 'ARCHIVE BACKUP' is being automatically requested

説明: BROWSEARCHIVE オプションは AUTO に設定されており、トレース・サブタスクは選択されたメッセージのバックアップ・タイプのアーカイブを要求しています。

ユーザーの処置: BACKUP ARCHIVE 要求は、非同期実行のために SEF サブタスクによってスケジュールされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value
現在の BROWSEARCHIVECOUNT 値 num アーカイブに取り込まれる最初の MSGNO

HLV4812E SEF INTERFACE SET RC=rc FOR 'cmd' COMMAND REQUEST ISSUED BY usid

説明: コマンド処理インターフェース・ルーチンでの予期しないエラーのため、内部生成された SEF コマンドがスケジュールされませんでした。

ユーザーの処置: SEF コマンドはスケジュールされません。コマンド要求側は続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc SEF コマンド・インターフェースによって設定された戻りコ

ード cmd 発行されたコマンド usid 要求側情報

HLV4813 I 'cmd' command cannot be scheduled at this time - a similar request is already running

説明: アーカイブ要求が行われましたが、以前の同じタイプの要求がまだ完了していないため、要求の処理はこの時点でスケジュールできません。システムでは、実行するアーカイブ・バックアップ/クリーンアップ・タスクは多くても 1 つのみ、また、ユーザーが要求したアーカイブ抽出が多くても 1 回のみ許可されます。

ユーザーの処置: なし。 前の要求が完了した後で、この要求を再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd アーカイブ・コマンドのテキスト

HLV4814 I 'cmd' command cannot be scheduled at this time - all SEF service subtasks are busy

説明: アーカイブ要求が行われましたが、サブタスクが要求の処理に使用できないため、要求の処理はこの時点でスケジュールできません。

ユーザーの処置: なし。 サブタスクが解放された後で、この要求を再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd アーカイブ・コマンドのテキスト

HLV4815 I SEF service task, tsk, attached for 'cmd' - requested by usid-loc

説明: 長時間実行コマンドの処理のために、非同期 SEF サービス・サブタスクが付加されました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: tsk サービス・タスク名 cmd SEF コマンド usid コマンド要求側の MVS ユーザー ID loc コマンド要求の発信元

HLV4816 I Running: EFTK addr1 Routine:routine TCB addr2 USERID usid UTYPE request ECB ecb CMD cmd

説明: アーカイブ状況要求が出されました。このメッセージは応答の一部です。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: addr1 EFTK 制御ブロック・アドレス routine サブタスク・ルーチン名 addr2 TCB アドレス usid 要求側ユーザー ID request 要求発信元タイプ ecb タスク終了 ECB の

内容 cmd 処理されているコマンド

HLV4817 I TRACE: CURRENTMSG num1 LASTARCHIVED num2 LASTTRIGGERED num3 DSNAME word1 CTLS word2 %6

説明: アーカイブ状況要求が出されました。このメッセージは応答の一部です。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num1 トレース内の番号の高いメッセージ num2 正常にバックアップされた最後のメッセージ番号 num3 最後のバックアップの原因となったメッセージ word1 内部制御ワード 1 word2 内部制御ワード 2

HLV4818E Processing of 'cmd' command by stsk subtask terminated by E-O-T - RC=rc

説明: SEF コマンドの処理中に、非同期コマンド・プロシージャ・サブタスクが終了しました。このメッセージは、障害の通知として要求側に送信されます。

ユーザーの処置: 予期せぬ終了の原因を示すメッセージが他にないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 処理中のコマンド stsk サブタスク名 rc コマンド要求の戻りコード

HLV4819T Service subtask stsk completed processing of 'cmd' command sent by usid - RC=rc

説明: 非同期コマンド・プロシージャ・サブタスクが終了しました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stsk サブタスク名 cmd コマンド usid 要求側ユーザー ID rc タスクの終わりハンドラー戻りコード

HLV4820E Processing of 'cmd' command by stsk subtask terminated by product shutdown - RC=rc

説明: 非同期コマンド・プロシージャ・サブタスクが、製品シャットダウンによって強制的に終了されました。このメッセージは、シャットダウンの通知として要求側に送信されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 処

理中のコマンド stsk サブタスク名 rc コマンド要求の
戻りコード

**HLV4821T Service subtask stsk forcibly detached
at shutdown - 'cmd' command sent by
userid - RC=rc**

説明: 非同期コマンド・プロシージャ・サブタスク
は、自身の操作の終了が遅れたため、シャットダウン中
に強制的に切り離されました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stsk サ
ブタスク名 cmd コマンド userid 要求側ユーザー ID rc
タスクの終わりハンドラー戻りコード

**HLV4822H 'ARCHIVE BACKUP' processor has
been attached as an SEF service
subtask**

説明: Trace Browse データのバックアップ・タイプ・
アーカイブが要求されました。プロセッサのサービ
ス・ルーチンは、現在付加されています。追加の状況メ
ッセージおよび完了メッセージはログに記録され、バック
アップ操作の結果を報告します。

ユーザーの処置: なし。

**HLV4823H Archive file: DSN='dsn',
FirstMsg=num1, LastMsg=num2,
Count=cnt**

説明: 新規アーカイブ・データ・セットが正常に作成さ
れました。このメッセージは、DSN 名、アーカイブに記
録された最初と最後のメッセージ、およびメッセージの
数をログに記録します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn 出
力データ・セット名 num1 出力の最初のメッセージ番
号 num2 出力の最後のメッセージ番号 cnt メッセージ
の割り振り数

**HLV4824H cnt messages beginning at number
num cannot be backed up due to
Trace wraparound**

説明: Trace Browse データのバックアップ・タイプ・
アーカイブがスケジュールされました。指定されたメ
ッセージ範囲は、トレース内の循環によって既にオーバ
レイされているか、またはまもなくオーバーレイされる
ため、バックアップすることができません。

ユーザーの処置: 処理は続行されます。

BROWSEMAX、BROWSEARCHIVECOUNT、および

BROWSEARCHIVECUSHION の各パラメーターを調べ
て、バックアップ操作が完了しない状態でトレースが循
環しないように調整してください。ある程度の期間にわ
たって使用されている既存のトレース・ファイルに対し
て自動アーカイブを活動化する場合、このメッセージは
正常です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt ス
キップされたメッセージ num スキップされた最初の相
対メッセージ番号

**HLV4825H NO WORK TO DO - ARCHIVE
STARTING MESSAGE = num1 -
ENDING MESSAGE = num2**

説明: Trace Browse データのバックアップ・タイプ・
アーカイブがスケジュールされました。

BROWSEARCHIVECUSHION 値が許す範囲内で現在バ
ックアップできるメッセージはありません。

ユーザーの処置: 処理は終了します。

BROWSEMAX、BROWSEARCHIVECOUNT、および
BROWSEARCHIVECUSHION の各パラメーターを調べ
て、バックアップ操作が完了しない状態でトレースが循
環しないように調整するか、あるいはストレージ余裕分
の値の処理をバイパスするように ARCHIVE
BACKUP、TOEND 操作を明示的に要求してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num1
最初にバックアップされるメッセージ num2 最後にバ
ックアップされるメッセージ

**HLV4826W ARCHIVE PROCESSING ABORTED
DUE TO SUBSYSTEM OR SEF
TERMINATION REQUEST**

説明: サブシステムのシャットダウンが進行中であるた
め、または SEF がプロシージャの早期終了を要求し
たため、アーカイブ処理が異常終了中です。

ユーザーの処置: 処理は、可能な限り早く終了します。
サブシステムが再始動するまで、一部のリソース・クリ
ーンアップが据え置かれる場合があります。

HLV4827 I data

説明: S_ARCHIV REXX プロシージャが、アーカイ
ブ割り振りまたはクリーンアップ・サービスの実行中に
実行されました。REXX ルーチンにより、トレース・メ
ッセージまたは SAY メッセージが出されました。

ユーザーの処置: S_ARCHIV によって出されたメッセ
ージは、このメッセージによりログに記録されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data
SYSTSPRT からのデータ行

HLV4828E **procname REXX PROCEDURE
RETURNED INVALID/INCORRECT
RESULT FOR ARCHIVE DATA SET
ctype REQUEST**

説明: S_ARCHIV REXX プロシージャは実行されましたが、結果を戻さなかったか、正しくない形式の結果を戻しました。REXX プロシージャは失敗したと見なされます。

ユーザーの処置: 現在のアーカイブ関連操作は終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
procname REXX プロシージャ名 ctype REXX プロシージャの呼び出しタイプ

HLV4829E **procname REXX PROCEDURE FAILED
FOR ctype REQUEST - ROUTINE SET
RETURN CODE TO rc**

説明: S_ARCHIV REXX プロシージャは実行されましたが、障害戻りコード値が設定された状態で戻されました。

ユーザーの処置: 現在のアーカイブ関連操作は終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
procname REXX プロシージャ名 ctype REXX プロシージャの呼び出しタイプ rc REXX によって設定された戻りコード

HLV4830E **procname REXX PROCEDURE FAILED
TO RETURN DATA SET NAME FOR
ctype REQUEST**

説明: S_ARCHIV REXX プロシージャは実行されましたが、副次機能要求での必要に応じて MVS データ・セット名を渡さずに戻されました。

ユーザーの処置: 現在のアーカイブ関連操作は終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
procname REXX プロシージャ名 ctype REXX プロシージャの呼び出しタイプ

HLV4831E **DYNALLOC FAILURE - RC=rc
ERROR=ec REASON=rscd desc1 desc2
desc3**

説明: Trace Browse のアーカイブを作成中に動的割り振り障害が発生しました。アーカイブ処理は終了します。

ユーザーの処置: この障害の原因を示すメッセージが他

にないか、調べてください。

DYNALLOC 操作の説明メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc DYNALLOC 戻りコード ec DYNALLOC エラー・コード rscd DYNALLOC 情報コード desc1 DYNALLOC 操作の説明 desc2 DYNALLOC 操作の説明 desc3 DYNALLOC 操作の説明

HLV4832H **Allocated: DDN=ddn, DSN='dsn' - for
archive output**

説明: アーカイブ出力線形データ・セットに対して DD 名の割り振りが行われました。アーカイブ処理は続行されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn DD 名 dsn VSAM 線形出力アーカイブ・データ・セット名

HLV4833H **LDS 'dsn' created for 'cmd' command
issues by usid**

説明: アーカイブ・バックアップまたは抽出プロシージャで、出力用に新規 VSAM 線形データ・セットが作成されました。実際の IDCAMS 定義は、SYSEXEC の S_ARCHIV REXX ルーチンによって実行されました。このメッセージは、新しいクラスター名を記録します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn 新しい DIV データ・セット名 cmd 処理されているアーカイブ・コマンド usid サービス要求側のユーザー ID

HLV4834S **service OF desc FAILED, RC=rc**

説明: これは、さまざまなアーカイブ・データ・セットの初期化および終了のエラーを記述するために使用される汎用エラー・メッセージです。このメッセージ・テキストは、現行操作と、現行操作が行おうとしていた処理を示しています。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題に関するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行操作 (GETMAIN、FREEMAIN、ATTACH など) desc 説明 rc 戻りコード

**HLV4835S service OF dsn FAILED, RC=rc,
REASON CODE=rscd**

説明: このエラー・メッセージは、アーカイブの初期化、実行、または終了時に DIV (仮想域内データ) システム・サービスを使用しているときに発生したエラーについて説明しています。DIV マクロからの戻りコードおよび理由コードのリストについては、該当の IBM 資料を参照してください。

ユーザーの処置: この問題と関連する DIV の戻りコードおよび理由コードを調べてください。現在の問題に関するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service DIV サービス (例えば、DIV IDENTIFY など) dsn データ・セット (例えば、トレース・データ・セット) rc 戻りコード rscd 理由コード

**HLV4836S service OF dsn FAILED, ABEND=abcd,
REASON CODE=rscd**

説明: このエラー・メッセージは、アーカイブの初期化、実行、または終了時に DIV (仮想域内データ) システム・サービスを使用しているときに発生した異常終了について説明しています。DIV マクロからの異常終了コードおよび理由コードは、IBM 資料の「z/OS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書」に記載されています。

ユーザーの処置: この問題と関連する DIV の異常終了コードおよび理由コードを調べてください。現在の問題に関するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する場合があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service DIV サービス (例えば、DIV IDENTIFY など)、 dsn データ・セット (例えば、トレース・データ・セット)、abcd 異常終了コードおよび理由コード

**HLV4837S Possible shortage of storage, stg bytes
required to build archive output data
set**

説明: これは、GETMAIN が失敗した場合に出される、メッセージ 4834S の後続メッセージです。このメッセージは、GETMAIN によって要求された領域の、バイト単位のサイズを示しています。

ユーザーの処置: GETMAIN の戻りコードにより、GETMAIN 要求を完了するためのストレージが不十分であることが示される場合は、(16 MB 境界の上の) 使用可能ストレージを示されている量だけ増やしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stg 要求されたストレージのサイズ

**HLV4838H Deallocated: DDN=ddn, DSN='dsn' -
for archive output**

説明: アーカイブ・データ・セットについて DD 名割り振り解除が処理されました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ddn DD 名 dsn VSAM 線形出力アーカイブ・データ・セット名

**HLV4839W Archive file: cnt invalid/overlaid
messages detected during execution**

説明: アーカイブ・データ・セットの作成時に、メッセージがオーバーレイされているかその他の理由で無効であることが検出されました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt オーバーレイされたか、または無効なメッセージの検出数

**HLV4840H CLEARARCHIVERECOVERY
PARAMETER SET TO YES -
IN-FLIGHT ARCHIVE archtyp
INFORMATION BEING CLEARED**

説明: サブシステムの始動時に、CLEARARCHIVERECOVERY パラメーターが設定されました。示されたアーカイブ・タイプについて、未完了のリカバリー情報は削除されます。

ユーザーの処置: なし。リカバリー情報は無条件でクリアされます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: archtyp 未完了だったアーカイブのタイプ

**HLV4841H CLEARED BACKUP RECOVERY INFO
- OUTDSN=dsn MSGSTART=num1
MSGCOUNT=cnt LASTARCH=num2**

説明: このメッセージは、メッセージ 4840H に続いて出され、クリアされるリカバリー情報を記録します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn ア

HLV4842H • HLV4849 I

アーカイブ・データ・セット名 num1 アーカイブされる先頭のメッセージ cnt アーカイブされるメッセージ数 num2 以前にアーカイブされた最大メッセージ番号

HLV4842H CLEARED EXTRACT RECOVERY INFO - OUTDSN=dsn MSGSTART=num1MSGCOUNT=cnt FORUSER=num2

説明: このメッセージは、メッセージ 4840H に続いて出され、クリアされるリカバリー情報を記録します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn アーカイブ・データ・セット名 num1 アーカイブされる先頭のメッセージ cnt アーカイブされるメッセージ数 num2 抽出アーカイブを要求したユーザー

HLV4843 I 'cmd' command from usid completed successfully

説明: SEF コマンド・サービス処理ルーチンが正常に終了しました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 処理されたサービス・コマンド usid 要求側のユーザー ID

HLV4844H トレースのアーカイブ・バックアップが正常に完了しました。

説明: Trace Browse のチェックポイント・タイプ・バックアップが正常に完了しました。

ユーザーの処置: なし。

HLV4845H Trace: current message is num - cnt messages since last archive

説明: Trace Browse アーカイブは使用可能です。このメッセージは、アーカイブ要求が生成される直前に出されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num 現在トレース中の最大メッセージ番号、cnt 最後のアーカイブ以降にトレースに追加されたメッセージの数

HLV4846H Trace: last message archived was num1 - last requested for message num2

説明: Trace Browse アーカイブは使用可能です。この

メッセージは、アーカイブ要求が生成される直前に出されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num1 正常にアーカイブされた最後のメッセージ num2 最後のアーカイブが要求されたときのメッセージ番号

HLV4847 I 'cmd' CMD NOT SCHEDULED - DUPLICATE %2 CMD RECOVERY NOT COMPLETED

説明: 別の操作が既に進行中であることを内部制御が示しているため、SEF サービス要求を処理することはできません。ただし、現在、その要求を処理しているサブタスクはありません。このエラーは、特定のコマンドが失敗し、個別のリカバリー・プロシーチャーをスケジュールする必要がある場合に発生する可能性があります。少しの間、「競合」状態が発生する可能性があります。その場合は、リカバリー・コマンドが優先されます。

ユーザーの処置: 直前のプロセスがリカバリーされるまで待ちます。この状態が続く場合は、手動で、リカバリーを要求してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd コマンド・テキスト

HLV4848H 'cmd' CMD NOT SCHEDULED - DUPLICATE %2 CMD RECOVERY NOT COMPLETED

説明: メッセージ 4847I を参照してください。このメッセージは、内部で発行された要求についてのハードコピー・メッセージです。

ユーザーの処置: メッセージ 4847I を参照してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd コマンド・テキスト

HLV4849 I PARAMETERS: OPTION parval1 COUNT parmal2 CUSHION parval3

説明: アーカイブ状況要求が出されました。このメッセージは応答の一部です。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parval1 BROWSEARCHIVE パラメーター値 parmal2 BROWSEARCHIVECOUNT パラメーター値 parval3 BROWSEARCHIVECUSHION パラメーター値

**HLV4850 I desc TYPE archtyp USER usid
STARTMSG num MSGCOUNT cnt
DSNAME dsn**

説明: アーカイブ状況要求が出されました。このメッセージは応答の一部です。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc 情報の説明 archtyp アーカイブ・タイプ usid 要求側 num 先頭のメッセージ cnt メッセージ数 dsn 出力データ・セット

**HLV4854E THE DIV OBJECT, dsn, CANNOT BE
MAPPED - THE VERSION CODE
(%1) IS BACKLEVEL AND
INCOMPATIBLE**

説明: オブジェクトについて DIV がサイズを報告していますが、LISTCAT が別のサイズを報告しているため、アーカイブ・データ・セット確認要求を処理することができません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn アーカイブ・データ・セット名 code LISTCAT によって報告された高使用 RBA size ページ数から計算されたオブジェクトのバイト・サイズ

**HLV4855E THE DIV OBJECT, dsn, CANNOT BE
MAPPED - THE HI-USED-RBA code
IS LESS THAN THE DIV-ACCESS
PAGE COUNT size RETURN VALUE**

説明: オブジェクトについて DIV がサイズを報告していますが、LISTCAT が別のサイズを報告しているため、アーカイブ・データ・セット確認要求を処理することができません。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn アーカイブ・データ・セット名 code LISTCAT によって報告された高使用 RBA size ページ数から計算されたオブジェクトのバイト・サイズ

**HLV4856E THE DIV OBJECT, dsn, CANNOT BE
MAPPED - THE DATA SET
CONTROL AREA (BOST) IS
INVALID**

説明: 線形データ・セット・オブジェクトの最初のページに、必要な制御情報が含まれていないため、アーカイブ・データ・セット確認要求を処理することができません。

ユーザーの処置: このエラーの推定原因は、まだ作成中であるか、または正しくクローズされなかったアーカイブ・データ・セットを確認しようとしていることです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn アーカイブ・データ・セット名

**HLV4857E THE DIV OBJECT, dsn, CANNOT BE
MAPPED - THE DATA SET
CONTROL AREA SIZE
INFORMATION (size1/size2) DOES
NOT MATCH THE DIV OPEN
STATS (size3/size4)**

説明: 線形データ・セット・オブジェクトの最初のページに、DIV によって戻されたサイズ情報に一致する制御情報が含まれていないため、アーカイブ・データ・セット確認要求を処理することができません。

ユーザーの処置: このエラーの推定原因は、まだ作成中であるか、または正しくクローズされなかったアーカイブ・データ・セットを確認しようとしていることです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn アーカイブ・データ・セット名 size1 バイト単位での DIV の制御域サイズ size2 ページ単位での DIV の制御域サイズ size3 バイト単位での DIV のオープン時サイズ size4 ページ単位での DIV のオープン時サイズ

**HLV4858E THE DIV OBJECT, dsn, CANNOT BE
MAPPED - THE DATA SET
CONTROL AREA pointer POINTER
(value) IS renALID name2/cnt**

説明: 線形データ・セット・オブジェクトの最初のページに、構造的に正しい制御情報が含まれていないために、アーカイブ・データ・セット確認要求を処理することができません。

ユーザーの処置: このエラーの推定原因は、まだ作成中であるか、または正しくクローズされなかったアーカイブ・データ・セットを確認しようとしていることです。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn アーカイブ・データ・セット名 pointer ポインター名 value ポインター値 name2 基本ポインター cnt メッセージ数

HLV4859 I Archive reset command issued by usid has changed last-archived message from num1 to num2

説明: ARCHIVE RESET コマンドが処理されました。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: usid コマンドを発行したユーザーのユーザー ID num1 直前の最後のアーカイブ・メッセージ番号 num2 新しい、最後にアーカイブされたメッセージ番号

HLV4860T ARCHIVE FILE: DSN='dsn', FIRSTMSG=num1, LASTMSG=num2, COUNT=cnt

説明: 新規アーカイブ・データ・セットが正常に作成されました。このメッセージは、DS 名、アーカイブに記録された最初と最後のメッセージ、およびメッセージの数をログに記録します。このメッセージは、4823 (トレース用に使用) の複写です。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn 出力データ・セット名 num1 出力の最初のメッセージ番号 num2 出力の最後のメッセージ番号 cnt メッセージの割り振り数

HLV4861 I stmt

説明: アーカイブ状況要求が出されました。このメッセージは応答の一部です。このメッセージは、最大 8 回繰り返されます。サーバーは、構成済みパラメーターを使用してモデル IDCAMS DEFINE CLUSTER ステートメントを構成します。このステートメントを調べると、構成パラメーターが正しく設定されていることを確認することができます。このメッセージで報告されているステートメントは、アーカイブ・バックアップ・ファイルを定義するのに使用されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stmt IDCAMS 定義クラスター・ステートメント・モデル

HLV4862 I stmt

説明: アーカイブ状況要求が出されました。このメッセージは応答の一部です。このメッセージは、最大 8 回繰り返されます。サーバーは、構成済みパラメーターを使用してモデル IDCAMS DEFINE CLUSTER ステートメントを構成します。このステートメントを調べると、構成パラメーターが正しく設定されていることを確認することができます。このメッセージで報告されているス

テートメントは、アーカイブ抽出ファイルを定義するのに使用されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: stmt IDCAMS 定義クラスター・ステートメント・モデル

HLV4863 I parmval1 parmval2 parmval3 parmval4 parmval5

説明: アーカイブ状況要求が出されました。このメッセージは応答の一部です。このメッセージは、アーカイブ・バックアップ・データ・セットを作成するために設定された出力データ・セット割り振りの関連パラメーター値を報告します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

parmval1 ARCHIVEDSNPREFIX パラメーター設定値
parmval2 ARCHIVEDATACLASS パラメーター設定値
parmval3 ARCHIVEMGMTCLASS パラメーター設定値
parmval4 ARCHIVESTORCLASS パラメーター設定値
parmval5 ARCHIVEDEFCLPARMS パラメーター設定値

HLV4864 I parmval1 parmval2 parmval3 parmval4 parmval5

説明: アーカイブ状況要求が出されました。このメッセージは応答の一部です。このメッセージは、アーカイブ抽出データ・セットを作成するために設定された出力データ・セット割り振りの関連パラメーター値を報告します。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

parmval1 EXTRACTDSNPREFIX パラメーター設定値
parmval2 EXTRACTDATACLASS パラメーター設定値
parmval3 EXTRACTMGMTCLASS パラメーター設定値
parmval4 EXTRACTSTORCLASS パラメーター設定値
parmval5 EXTRACTDEFCLPARMS パラメーター設定値

HLV4865E Trace Browse archiving disabled because 'ARCHIVEDSNPREFIX' parameter is not set

説明: 出力データ・セット名の接頭部パラメーター ARCHIVEDSNPREFIX が設定されていないため、Trace Browse アーカイブ・サポートはオフにされました。データ・セット名接頭部は必須です。

ユーザーの処置: アーカイブ・データ・セット割り振り関連パラメーター ARCHIVEDSNPREFIX、

ARCHIVEDATACLASS、ARCHIVEMGMTCLASS、ARCHIVESTORCLASS、および ARCHIVEDEFCLPARMS の値を確認でき、場合によっては設定できることに注意してください。

HLV4866E service of archive output data set failed due to 'reason'

説明: 以下のいずれかのエラーが発生しました。(1) 新しいアーカイブ・バックアップ・ファイルまたはアーカイブ抽出ファイルの割り振りが失敗した。(2) 失敗したアーカイブのクリーンアップ中に削除が失敗した。割り振り障害の場合、IDCAMS DEFINE CLUSTER ステートメントの生成に使用されたランタイム・パラメーターが適切に設定されていないことがその理由である可能性があります。

ユーザーの処置: 現在のアーカイブ関連操作は終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 割り振りまたは削除 reason 操作が失敗した理由

HLV4867E IDCAMS UTILITY LASTCC=value --- ABEND CONDITION cndc, REASON rc - SYSPRINT FOLLOWS

説明: このメッセージは、IDCAMS ユーティリティを使用して IDCAMS DEFINE CLUSTER ステートメントまたは DELETE CLUSTER ステートメントを処理できなかった場合に、メッセージ 4866E に続いて出されます。IDCAMS ユーティリティの SYSPRINT 出力がある場合は、このメッセージに続きます。

ユーザーの処置: 現在のアーカイブ関連操作は終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value IDCAMS ユーティリティの LASTCC 値 cndc 異常終了条件コードまたはゼロ rc 異常終了理由コードまたはゼロ

HLV4868E IDCAMS SYSPRINT: data

説明: このメッセージは、IDCAMS ユーティリティを使用して IDCAMS DEFINE CLUSTER ステートメントまたは DELETE CLUSTER ステートメントを処理できなかった場合に、メッセージ 4867E に続いて出されます。IDCAMS ユーティリティの SYSPRINT 出力が、このメッセージに続きます。

ユーザーの処置: 現在のアーカイブ関連操作は終了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data IDCAMS ユーティリティの sysprint 出力行

HLV4869E TRACE BROWSE EXTRACTS DISABLED BECAUSE 'EXTRACTDSNPREFIX' PARAMETER IS NOT SET

説明: 出力データ・セット名の接頭部パラメーター EXTRACTDSNPREFIX が設定されていないため、Trace Browse 抽出サポートはオフにされました。データ・セット名接頭部は必須です。

ユーザーの処置: アーカイブ抽出データ・セット割り振りパラメーター EXTRACTDSNPREFIX、EXTRACTDATACLASS、EXTRACTMGMTCLASS、EXTRACTSTORCLASS、および EXTRACTDEFCLPARMS の値を確認でき、場合によっては設定できることに注意してください。

HLV4870E request func - ABEND - CODE=abcd REASON=rc

説明: アプリケーション・プログラミング・インターフェース要求が異常終了しました。

ユーザーの処置: 要求は失敗します。この障害の原因を示す可能性のあるメッセージが他にないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request 要求のタイプ、func 要求機能、abcd 異常終了コード、rc 異常終了理由コード

HLV4871S Automatic archival of Trace suspended due to previous error - correct problem and issue "ARCHIVE CLEANUP"

説明: アーカイブ・バックアップ操作は、介入を必要とするエラーで失敗しました。このような状態は、例えば、IDCAMS 割り振りパラメーターが正しく構成されていない場合に存在します。アーカイブを自動的にスケジュールするよう新たに試みても、問題を修正するアクションが行われるまでは、すべて失敗する可能性があります。

ユーザーの処置: コンソール・ハードコピー・ログおよび Trace Browse を調べて、前の自動バックアップ操作が失敗した理由を判別してください。この状態を修正してください。障害の原因が修正された後で、障害の進行中標識をリセットするために、SEF インターフェースから ARCHIVE CLEANUP コマンドを発行します。このコマンドは、ISPF E.3 アプリケーションを使用して発行できます。

HLV5000S MESSAGE NUMBER num IS NOT DEFINED

説明: このメッセージは、未定義のメッセージ番号が検出されるたびに出力されます。

ユーザーの処置: これは、おそらく内部製品エラーを示しています。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num 指定されたメッセージ番号

HLV5001S obj IS AN INVALID %PX OBJECT

説明: 不明な HLV オブジェクトを定義/変更しようとしてしました。

ユーザーの処置: DEFINE/MODIFY コマンドを訂正して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: obj 不明な HLV オブジェクトの名前

HLV5002S cmd is an invalid %PX command.

説明: コーディングしたコマンドは、ADDRESS HLV に認識されません。

ユーザーの処置: 正しい HLV コマンドを入力して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 入力されたコマンド

HLV5003S key is an invalid keyword.

説明: このキーワードは、HLV コマンドの一部ではありません。

ユーザーの処置: HLV コマンドを再コーディングして、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: key 誤りのあるキーワード

HLV5004S The key keyword is missing.

説明: 示されたキーワードは必須ですが、コーディングされませんでした。

ユーザーの処置: そのキーワードを使用して HLV コマンドを再コーディングし、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: key 欠落しているキーワード

HLV5005S value is not a valid value for the keyword.

説明: 指定した値は、このキーワードに有効な値ではありません。

ユーザーの処置: 値を再コーディングしてから、HLV コマンドを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value 無効な値 key キーワードの名前

HLV5006S key is only valid for IS ONLY VALID FOR TYPE = ktype

説明: 示されたキーワードは、このタイプのキーワードに指定される値として有効ではありません。

ユーザーの処置: 誤りのあるキーワードを削除 (またはタイプを変更) して、コマンドを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: key 誤りのあるキーワードの名前 ktype キーワードが有効なタイプ

HLV5007S LINK host already exists.

説明: 示されたリンクは既に定義されています。

ユーザーの処置: どの定義が正しいかを判別して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: host ホスト・キーワードの値

HLV5008U OPRXPC TERMINATED WITH SEVERE ERROR RC = rc

説明: ADDRESS HLV の内部コンポーネントで障害が発生しました。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc OPRXPC 戻りコード

HLV5009S MODIFY CONTAINS FIELDS NOT SUPPORTED BY LINK TYPE

説明: このタイプのリンクについて未定義のフィールドを変更することはできません。

ユーザーの処置: 誤りのあるキーワードを削除して、コマンドを再実行してください。

HLV5010E HOST = host DOES NOT EXIST

説明: ホストによって定義されたリンクがまだ定義されていません。そのため、それを変更することはできません。

ユーザーの処置: 該当のリンクを定義するか、または MODIFY を削除します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: host ホスト・キーワードの値

HLV5011S obj DISPLAY FAILED WITH RC = rc

説明: オブジェクトの表示で重大な障害が発生しました。

ユーザーの処置: 何らかの種類の内部エラーがあると考えられます。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: obj 表示されているオブジェクトの名前 rc OPRXPC モジュールの戻りコード

HLV5012S key CONTAINS A QUOTE AND QUOTES ARE NOT PERMITTED

説明: HLV キーワードでは、引用符は不要か、または許されません。

ユーザーの処置: 引用符を削除して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: key 引用符が検出されたキーワード

HLV5013S %PX SUBSYSTEM subsys IS NOT ACTIVE

説明: 示されたサブシステムは実行中ではありません。ADDRESS HLV ホスト環境コマンドを処理できません。

ユーザーの処置: サブシステムを始動し (または SUBSYS コマンドを使用して別のサブシステムを特定し)、コマンドを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys 使用されるサブシステムの名前

HLV5014S subsys IS AN INVALID SUBSYSTEM NAME

説明: コーディングされたサブシステム名が無効です。

ユーザーの処置: サブシステム名は英字 (a から z) で始まる必要があり、他のすべての文字は英数字にするこ

とができます。また、名前の長さは 4 文字にする必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys エラーのあるサブシステム名

HLV5015E DATABASE subsys IS ALREADY DEFINED

説明: 示されたデータベースは既に定義されています。

ユーザーの処置: どの定義が正しいかを判別して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys データベース・サブシステム名

HLV5016E DATABASE = subsys DOES NOT EXIST

説明: 名前で定義されたデータベースがまだ定義されていないため、変更できません。

ユーザーの処置: データベースを定義するか、MODIFY を除去してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys データベース・サブシステム名

HLV5017S parm IS NOT A VALID PRODUCT PARAMETER NAME

説明: このパラメーター名は、認識された有効な製品パラメーターではありません。

ユーザーの処置: パラメーター名を訂正して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm パラメーター名

HLV5018S parmval IS NOT A VALID VALUE FOR parm

説明: パラメーター値が、このパラメーターには無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parmval エラーのあるパラメーター値 parm パラメーター名

HLV5019E subsys IS A DB2 DATABASE SUBSYSTEM

説明: データベース・サブシステムが実際の DB2 サブシステムであるため、このサブシステムを定義できません。

HLV5020E • HLV6000T

ユーザーの処置: データベース・サブシステム名を変更して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys
使用されるサブシステムの名前

HLV5020E ANOTHER COPY OF THE PRODUCT USES DATABASE SUBSYSTEM NAME subsys

説明: 製品の別のコピーがデータベース・サブシステムを使用しているため、データベース・サブシステムを定義できません。

ユーザーの処置: データベース・サブシステム名を変更して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys
使用されるサブシステムの名前

HLV5021E DATABASE SUBSYSTEM subsys COULD NOT BE CREATED

説明: データベース・サブシステム制御ブロックを作成できませんでした。

ユーザーの処置: 関連したエラーがあれば修正して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys
使用されるサブシステムの名前

HLV5022E ANOTHER PRODUCT USES DATABASE SUBSYSTEM NAME subsys

説明: 別の製品がデータベース・サブシステムを使用しているため、データベース・サブシステムを定義できません。

ユーザーの処置: データベース・サブシステム名を変更して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys
使用されるサブシステムの名前

HLV5023E CONNECTION value IS ALREADY DEFINED

説明: 示された接続は既に定義されています。

ユーザーの処置: どの定義が正しいかを判別して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value
名前キーワードの値

HLV5024E SESSION value IS ALREADY DEFINED

説明: 示されたセッションは既に定義されています。

ユーザーの処置: どの定義が正しいかを判別して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value
名前キーワードの値

HLV5025 I DDNAME %1 IS NOT ALLOCATED TO PRODUCT ADDRESS SPACE

説明: 示された DD 名は、製品アドレス・スペースに割り振られていません。

ユーザーの処置: ファイルを定義しようとして失敗しました。示されたファイルの製品始動 JCL に DD ステートメントを追加して、製品を再始動してください。

HLV5026T MEASURED USAGE request COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: このメッセージは、従量課金要求が正常に完了したことを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request
要求タイプ

HLV5027T MEASURED USAGE request REQUEST MAY HAVE FAILED, RC=rc

説明: このメッセージは、従量課金要求が失敗した可能性があることを示します。戻りコードと要求タイプを確認してください。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request
要求タイプ rc 戻りコード

HLV6000T ENTER MODULE csect

説明: この診断トレース・メッセージは、制御が特定の製品モジュールに入ったことを示すために発行されました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、詳細な説明を依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csect
CSECT 名

**HLV6003T MATCHING SSCT LOCATED FOR
SUBSYSTEM subsystemid**

説明: この診断トレース・メッセージは、抽出されたサブシステム名と一致する SSCT を検出可能になったことに対応して発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
subsysid サブシステム ID

**HLV6004T TRANSFERRING CONTROL TO
MODULE DSNCEP00**

説明: この診断トレース・メッセージは、IBM 提供の DSN コマンドに制御権を転送する直前に発行されます。現行の DSN コマンド・セッションは、接続が製品によって管理されていない DB2 のコピー向けであることが判明しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

**HLV6007T PRIOR TO LINKING TO OPDSN10
SUBCOMMAND HANDLER**

説明: この診断トレース・メッセージは、サブコマンド・ハンドラー OPDSN10 にリンクする直前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

**HLV6008T RETURN FROM LINKING TO
OPDSN10 SUBCOMMAND HANDLER**

説明: この診断トレース・メッセージは、サブコマンド・ハンドラー OPDSN10 へのリンクから戻った後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

**HLV6009T PRIOR TO ATTACHING OPDSN10
SUBCOMMAND HANDLER**

説明: この診断トレース・メッセージは、サブコマンド・ハンドラー OPDSN10 を接続する直前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

**HLV6010T RETURN FROM ATTACHING
OPDSN10 SUBCOMMAND HANDLER**

説明: この診断トレース・メッセージは、サブコマンド・ハンドラー OPDSN10 の接続から戻った後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

**HLV6011T OPDSN10 SUBCOMMAND HANDLER
DETACHED SUCCESSFULLY**

説明: この診断トレース・メッセージは、サブコマンド・ハンドラー OPDSN10 を正常に切り離れた後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6013T EXITING MODULE csect

説明: この診断トレース・メッセージは、診断トレース・メッセージで指定されたモジュールの終了直前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csect
CSECT 名

**HLV6014T OPDSN10 STAX EXIT
SUCCESSFULLY ESTABLISHED**

説明: この診断トレース・メッセージは、モジュール OPDSN10 の STAX 出口を正常に設定した後に発行されます。

HLV6015T • HLV6021T

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6015T OPDSN10 STAX EXIT SUCCESSFULLY REMOVED

説明: この診断トレース・メッセージは、モジュール OPDSN10 の STAX 出口を正常に除去した後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6016T VALID SUBCOMMAND cmd ACCEPTED

説明: この診断トレース・メッセージは、ユーザーが入力したサブコマンドが、モジュール OPDSN10 によってサポートされる有効なサブコマンドのセットのいずれかであると判別された後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 入力されたサブコマンド

HLV6017T UNRECOGNIZED SUBCOMMAND ASSUME TSO COMMAND cmd

説明: この診断トレース・メッセージは、ユーザーが入力したサブコマンドが、OPDSN10 によってサポートされる有効なサブコマンドのセットのいずれでもなく、OPDSN10 によってサポートされない TSO コマンドのセットのいずれでもないことが判別された後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 入力されたサブコマンド

HLV6018T PRIOR TO LINKING TO TSO COMMAND cmd

説明: この診断トレース・メッセージは、DSN サブコ

マンドとして指定された TSO コマンドにリンクする直前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 入力されたサブコマンド

HLV6019T RETURN FROM LINKING TO TSO COMMAND cmd

説明: この診断トレース・メッセージは、DSN サブコマンドとして指定された TSO コマンドへのリンクから戻った後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 入力されたサブコマンド

HLV6020T PRIOR TO ATTACHING TSO COMMAND cmd

説明: この診断トレース・メッセージは、DSN サブコマンドとして指定された TSO コマンドを接続する直前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 入力されたサブコマンド

HLV6021T RETURN FROM ATTACHING TSO COMMAND cmd

説明: この診断トレース・メッセージは、DSN サブコマンドとして指定された TSO コマンドの接続から戻った後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd 入力されたサブコマンド

**HLV6022T SUCCESSFUL DETACH TSO
COMMAND cmd**

説明: この診断トレース・メッセージは、DSN サブコマンドとして指定された TSO コマンドを正常に切り離れた後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd
TSO コマンド名

**HLV6023T SUCCESSFULLY ALLOCATED DATA
SET dsn**

説明: この診断トレース・メッセージは、RUN サブコマンドの LIBRARY() パラメーターで指定されたデータ・セットを正常に割り振った後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn
LIBRARY() パラメーターからのデータ・セット名

**HLV6024T SUCCESSFULLY DEALLOCATED
DATA SET dsn**

説明: この診断トレース・メッセージは、RUN サブコマンドの LIBRARY() パラメーターで指定されたデータ・セットを正常に割り振り解除した後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn
LIBRARY() パラメーターからのデータ・セット名

**HLV6025T RUN SUBCOMMAND BUFFER
PARSED SUCCESSFULLY**

説明: この診断トレース・メッセージは、RUN サブコマンド・バッファーを正常に構文解析した後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6026T LIBRARY : dsn

説明: この診断トレース・メッセージは、解釈されたライブラリー指定を明示するために発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn
LIBRARY() パラメーターからのデータ・セット名

HLV6027T PLANID : pln

説明: この診断トレース・メッセージは、解釈されたプラン指定を明示するために発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pln
PLAN() パラメーターからのプラン名

HLV6028T PROGRAM : pgm

説明: この診断トレース・メッセージは、解釈されたプログラム指定を明示するために発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm
PROGRAM() パラメーターからのプログラム名

HLV6029T CP : ind

説明: この診断トレース・メッセージは、CP パラメーターが指定されたかどうかを示す YES/NO 値を明示するために発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ind CP
パラメーターが指定されたかどうか (YES または NO) を示します

HLV6030T PARMS : ind

説明: この診断トレース・メッセージは、PARMS() パラメーターが指定されたかどうかを示す YES/NO 値を明示するために発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ind
PARMS() パラメーターが指定されたかどうか (YES または NO) を示します

HLV6031T BEFORE IDENTIFY DB2 CALL
=====

説明: この診断トレース・メッセージは、DB2 識別要求を処理する前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6032T AFTER IDENTIFY DB2 CALL
=====

説明: この診断トレース・メッセージは、DB2 識別要求を処理した後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6033T BEFORE CREATE THREAD DB2 CALL
=====

説明: この診断トレース・メッセージは、DB2 スレッド作成要求を処理する前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6034T AFTER CREATE THREAD DB2 CALL
=====

説明: この診断トレース・メッセージは、DB2 スレッド作成要求を処理した後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア

ア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6037T BEFORE TERMINATE DB2 CALL
=====

説明: この診断トレース・メッセージは、DB2 終了要求を処理する前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

HLV6038T AFTER TERMINATE DB2 CALL
=====

説明: この診断トレース・メッセージは、DB2 終了要求を処理した後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

**HLV6039T PRIOR TO LINKING TO PROGRAM
pgm**

説明: この診断トレース・メッセージは、RUN サブコマンドの PROGRAM() パラメーターで指定されたプログラムへのリンクの直前に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm プログラム名

**HLV6040T RETURN FROM LINKING TO
PROGRAM pgm**

説明: この診断トレース・メッセージは、RUN サブコマンドの PROGRAM() パラメーターで指定されたプログラムへのリンクから戻った後に発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pgm プログラム名

**HLV6041T APPLICATION PROGRAM FAILED
WITH ABEND CODE abcd**

説明: この診断トレース・メッセージは、アプリケーション・プログラムがいずれかのタイプの異常終了コードを出して失敗した場合に発行されます。このメッセージが生成されるのは、アプリケーション・プログラムが接続されたときとリンクされたときの両方です。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、ソフトウェア・サポートの要求により診断トレースをオンにした場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd
異常終了コード

**HLV6042T RRSAF func function RC rc Reason
rscd was converted to RC 0 Reason 0.**

説明: このメッセージは、製品が RRSAF 関数呼び出しからの特定のエラー理由コードを無視したときに発行されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。ただし、このアクションがプロセスの後半でスレッド・エラーの原因となる場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して、詳細な説明を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: func
RRSAF 関数 rc RRSAF 関数からの戻りコード rscd
RRSAF 関数からの理由コード

**HLV6500S ABEND abcd RS=rscd OCCURRED
AT var1+var1 DURING DMF var1
var1**

説明: Data Mapping Facility (DMF) 要求の処理中に異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: ルーチンは呼び出し元にエラーをシグナル通知し、可能な場合は処理を続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd
異常終了完了コード、rscd 異常終了理由コード、var1
異常終了するモジュール名、var1 異常終了するモジュール・オフセット、var1 処理されている DMF 機能、
var1 エンティティ ID 情報

HLV6501W DMF var1 WARNING: var2 var3

説明: Data Mapping Facility (DMF) 要求の処理中に訂正可能な状態が検出されました。

ユーザーの処置: ルーチンはこの警告メッセージを発行し、要求された機能を処理します。この警告は、注意が

必要な状態を示す場合があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 処理中の操作、var2 警告の理由、var3 警告が検出されたときに処理中であった項目

HLV6502S DMF var1 ERROR: var2 var3

説明: Data Mapping Facility (DMF) 要求の処理中に訂正不能な状態が検出されました。

ユーザーの処置: ルーチンはこのエラー・メッセージを発行し、要求された機能の処理を終了させます。この状態を修正して、要求を再実行してください。STOW エラーの場合、十分なスペースと十分なディレクトリー・ブロック割り振りがあるか、データ・セット割り振りを調べてください。データ・セットが Services Metadata または Microflow データ・セットである場合、PROZSERV のパラメーター WSALLOC を使用して、デフォルトの割り振り値をオーバーライドすることができます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 処理中の操作、var2 エラーの理由、var3 エラーが検出されたときに処理中であった項目

**HLV6503 I DMF IMPORT var1 MAP 'var2' FROM
'var3' var4**

説明: DMF IMPORT 要求で、XML データ・マップ定義が正常にインポートされ、新規または変更されたデータ・マップがマッピング・ライブラリーに保管されました。

ユーザーの処置: このメッセージは、XML マップ定義文書から正常にインポートされた、新規または変更されたデータ・マップごとに発行されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1
"SAVED" または "REPLACED"、var2 保管された、新規/変更されたマッピング・ライブラリー・メンバー、
var3 インポートされた XML 文書のソース、var4 必要に応じて追加情報

**HLV6504 I DMF import has refreshed in-storage
data maps**

説明: DMF IMPORT 要求で、新規または変更されたデータ・マップのインポート後に、ストレージ内にあるデータ・マップ・イメージがリフレッシュされました。

ユーザーの処置: このメッセージは、新規または変更されたデータ・マップがすべて、XML インポート処理時に保管された後に発行されます。

HLV6505 I DMF import parsed map 'var1' from 'var2'

説明: DMF IMPORT 要求で、XML データ・マップ定義が正常に処理されましたが、保管するように要求されていません。データ・マップは破棄されます。

ユーザーの処置: 新規/変更されたデータ・マップがマップ・ライブラリーに保管されない、またはマップ・ライブラリー内で置換されない場合に、このメッセージが XML 文書から構文解析されたデータ・マップごとに発行されます。このメッセージは、XML 文書が有効であることを示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 XML 文書からのマップの名前、var2 インポートされた XML 文書のソース

HLV6506T Required map var1 for conversion of EXCI to ACI missing

説明: 指定されたマップが DMF から欠落しています。このマップは、EXCI から ACI への変換用に ACI サーバー定義を動的に作成するのに必要です。

ユーザーの処置: 製品の ISPF オプション「D.I」を使用して、製品に必要なマップを初期化してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 データ ACI サーバー・マップの名前

HLV6507T Unable to create server var1var2 for CICS connection var3

説明: 指定された CICS 接続用に EXCI から ACI への変換用の ACI サーバーを作成できません。

ユーザーの処置: このメッセージは、ACI を使用するために変換する必要がある CICS 接続ごとに発行されます。考えられる原因は GETMAIN エラーです。さらにメッセージがないか Trace Browse と Joblog を調べて、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 ACI サーバーの名前 (EXCI_xxxx) xxxx=cics、var2 CICNID からの CICS 接続名、var3 CICNID からの CICS 接続名

HLV6509 I DMF PROCESSING COMPLETE

説明: DMF 要求が処理を完了しました。これは、現行の DMF コマンドに関連した最後のメッセージです。

ユーザーの処置: このメッセージは、DMF コマンドが処理を完了したときに発行されます。一連の関連した DMF メッセージの最後を識別するために使用されます。

HLV6520H DMF Data-In-Virtual cache is being initialized for revision level var1 support

説明: 初期設定中に、Data Mapping Facility (DMF) では、その仮想域内データ・キャッシュが空であるか、エラーが含まれているか、または異なる改訂レベルの操作にフォーマットされていることが確認されました。現行のソフトウェア・サポート改訂レベルで使用するために、DIV オブジェクトの初期設定または再初期設定が行われます。

ユーザーの処置: この DMF DIV 仮想域内データ・キャッシュは、使用するために初期設定され、オンラインになります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 DMF の現行ソフトウェア・サポート改訂レベル

HLV6521H Existing DMF DIV cache at revision level var1 must be re-initialized at current level

説明: 初期設定中に、Data Mapping Facility (DMF) で、DIV 線形データ・セット・キャッシュ・データ・セット (@#\$MAPL) に、サーバー・ソフトウェアが現在サポートしているものより古い、異なる改訂レベル用にフォーマットされている情報が含まれていることが検出されました。現行のソフトウェア・サポート改訂レベルに切り替えるために、キャッシュを廃棄し、再ロードする必要があります。

ユーザーの処置: DMF キャッシュ・データ・マップは廃棄され、DIV データ・セットは新しいサポート・レベルで再初期設定されます。これらのデータ・マップが @#\$MAPP PDS ライブラリーからストレージに読み取られると、DMF はデータ・マップをキャッシュに再ロードします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 DMF キャッシュの古いサポート・レベル

HLV6522H Existing DMF DIV cache being discarded due to incomplete update at last LDS expansion

説明: 初期設定中に、Data Mapping Facility (DMF) で、DIV 線形データ・セット・キャッシュ・データ・セット (@#\$MAPL) をオンラインにすることができなかったことが検出されました。前の始動時に DIV 拡張操作が正しく完了できなかったためです。不完全に割り振られた論理ウィンドウ領域を除去するために、キャッシュを廃棄し、再ロードする必要があります。

ユーザーの処置: DMF キャッシュ・データ・マップは廃棄され、DIV データ・セットは再初期設定されます。

これらのデータ・マップが @#\$MAPP PDS ライブラリーからストレージに読み取られると、DMF はデータ・マップをキャッシュに再ロードします。

HLV6523H Existing DMF DIV cache being discarded due to window relocation problem

説明: 初期設定中に、Data Mapping Facility (DMF) で、DIV 線形データ・セット・キャッシュ・データ・セット (@#\$MAPL) をオンラインにすることができなかったことが検出されました。DIV ウィンドウ内でマップとマップ・ポインターを再配置しようとしているときに問題が発生したためです。エラー/問題のある情報を除去するために、キャッシュを廃棄し、再ロードする必要があります。

ユーザーの処置: DMF キャッシュ・データ・マップは廃棄され、DIV データ・セットは再初期設定されます。これらのデータ・マップが @#\$MAPP PDS ライブラリーからストレージに読み取られると、DMF はデータ・マップをキャッシュに再ロードします。

HLV6524H Existing DMF DIV cache being discarded due to unknown object type (%1)

説明: 初期設定中に、Data Mapping Facility (DMF) で、DIV 線形データ・セット・キャッシュ・データ・セット (@#\$MAPL) に、ガーベッジまたは不明なエレメント・ブロックが置かれている DMF ブロック域が含まれていることが検出されました。壊れたデータ・ブロックを除去するために、キャッシュを廃棄し、再ロードする必要があります。

ユーザーの処置: DMF キャッシュ・データ・マップは廃棄され、DIV データ・セットは再初期設定されます。これらのデータ・マップが @#\$MAPP PDS ライブラリーからストレージに読み取られると、DMF はデータ・マップをキャッシュに再ロードします。

HLV6525S DMF DIV cache routine %1 invoked within invalid x-mem environment

説明: 処理中に、DMF サービス・ルーチンが、サポートしていないクロスメモリー環境内で呼び出されました。DMF サービス要求を完了できません。

ユーザーの処置: 一部のサービス要求の場合、このルーチンは S0C3 ABEND を生成して異常終了します。その他のサービス・ルーチンは呼び出し元にエラーを戻します。これにより、呼び出し元のプログラマーが失敗するか、異常終了する可能性があります。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV6526S Free of DMF block in DIV cache failed - address of block (%1) is not %2

説明: DIV キャッシュから dmf データ域を除去する要求を処理中に、妥当性検査エラーが検出されました。示されている理由で、このデータ域は無効であるとみなされます。

ユーザーの処置: この除去ルーチンは、呼び出し元にエラーを戻します。この結果、実行中のプログラマー内で障害が起きる可能性があります。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV6527H Existing dmf div cache being discarded. an invalid %1 OBJECT chain was found by %2.

説明: 初期設定中に、Data Mapping Facility (DMF) で、DIV 線形データ・セット・キャッシュ・データ・セット (@#\$MAPL) に、無効な制御ブロック・チェーンが含まれていることが検出されました。壊れたデータ・ブロックを除去するために、キャッシュを廃棄し、再ロードする必要があります。

ユーザーの処置: DMF キャッシュ・データ・マップは廃棄され、DIV データ・セットは再初期設定されます。これらのデータ・マップが @#\$MAPP pds ライブラリーからストレージに読み取られると、DMF はデータ・マップをキャッシュに再ロードします。

HLV6528H Too many virtual directories - dataset %1 not processED For path %2

説明: Data Mapping Facility (dmf) によるストレージ内マップのリフレッシュ中に、200 を超える個別の仮想ディレクトリー・データ・セットが定義されました。システムが処理できるのは、仮想ディレクトリーとして割り振られた 200 個以下の個別データ・セットです。

ユーザーの処置: この仮想ディレクトリー定義項目はスキップされ、示された仮想ディレクトリー・データ・セットはオンラインになりません。

HLV7000 I Syntax error: unmatched parenthesis

説明: システム機能の呼び出しに使用されるコマンドが正しくコーディングされませんでした。対になっていない括弧が入力コマンドで検出されたため、解釈も処理もできませんでした。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

HLV7001 I Syntax error: unmatched quotation mark or apostroph

説明: システム機能の呼び出しに使用されるコマンドが正しくコーディングされませんでした。リテラル・ストリングが、対応する引用符またはアポストロフィで囲まれていませんでした。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

HLV7002 I Syntax error: insufficient storage for parsing the command (rscd)

説明: コマンド解析機能に十分なストレージが存在しないため、システム機能の呼び出しに使用されるコマンドを構文解析できませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードが「1」である場合、領域のストレージ・サイズを増やして、コマンド要求を再実行依頼してください。理由コードが「2」である場合、コマンドが正しく入力されたことを確認します。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rscd 理由コード

HLV7003 I Syntax error: invalid hex literal

説明: システム機能の呼び出しに使用されるコマンドは、誤ってフォーマットされた 16 進数リテラルを含んでいるため、構文解析できませんでした。この 16 進数リテラルに 8 桁を超える 16 進数字が含まれているか、無効な数字が含まれています。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

HLV7004 I Syntax error: extraneous or undefined input at 'token

説明: システム機能の呼び出しに使用されるコマンドは、無関係な未定義のオペランドまたは重複したキーワード・オペランドを含んでいるため、構文解析できませんでした。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: token 無関係または未定義のトークン

HLV7005 I Syntax error: positional param. pano of parm - errdesc

説明: システム機能の呼び出しに使用されるコマンドは、定位置パラメーターにエラーが含まれているため、構文解析できませんでした。このメッセージの全文は、エラーが含まれているコマンドのパラメーター番号と部分を説明します。また、このメッセージには、パラメーターが無効である理由に関する説明も含まれています。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: pano 起点を基準にしたパラメーター番号 parm キーワード・パラメーター名またはコマンド errdesc パラメーターが無効である理由

HLV7006 I Syntax error: required keyword key - missing

説明: 必須のキーワードがコマンド行に入力されませんでした。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: key キーワード

HLV7007 I Syntax error: required keyword missing - must be on

説明: 必須のキーワードがコマンド行に入力されませんでした。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

HLV7008 I key

説明: このメッセージは、選択対象のキーワードをリストします。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: key キーワード

HLV7009 I Syntax error: operand of key is invalid or missing

説明: 示されたキーワードに対してコーディングされたオペランドが無効であるか、省略されました。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: key キーワード

HLV7010 I Syntax error: reason

説明: このメッセージに示された理由で入力が無効でした。

ユーザーの処置: 訂正したコマンドを再入力してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: reason 入力が無効な理由

HLV7050T Variable varname (value) set to "%3"

説明: このメッセージは、インバウンド HTTP トランザクション・ヘッダーから構文解析された変数値のトレースに使用されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname rexx またはその他の変数名 value 変数の値

HLV7101T Error 01 @(lineno/loff) - too many nexted html extension deLIMiter pairs on this source line.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7102T Error 02 @(lineno/loff) - un-matched <%% delimiter in sourcE LIne.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7103T Error 03 @(lineno/loff) - too many tokens, or tokens invalid IN statement.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7104T Error 04 @(lineno/loff) - un-identified or invalid html extENSion statement.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7105T Error 05 @(lineno/loff) - this statement type must be on a LINE with no other non-blank text.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7106T Error 06 @(lineno/loff) - invalid token or label precedes sTATEment operation keyword.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラー

が検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7107T Error 07 @(lineno/loff) - invalid statement label syntax.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7108T Error 08 @(lineno/loff) - too many operands for statement tYPE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7109T Error 09 @(lineno/loff) - too few operands for statement tYPE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7110T Error 10 @(lineno/loff) - invalid exit statement operand vaLUE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7111T Error 11 @(lineno/loff) - invalid keyword specified - not aDVANce or noadvance.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7112T Error 12 @(lineno/loff) - invalid condition name for if staTEMEnt operand two.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7113T Error 13 @(lineno/loff) - variable name symbol too long - mAXIMum name size is 50 characters.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラー

が検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7114T Error 14 @(lineno/loff) - number of nested if/endif statementNT Pairs exceeds compiler maximum.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7115T Error 15 @(lineno/loff) - else without preceding if statementNT.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7116T Error 16 @(lineno/loff) - duplicate else statements for curRENT if/endif pair.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff`

エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7117T Error 17 @(lineno/loff) - endif not preceded by if statementT.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7118T Error 18 @(lineno/loff) - nested do/endo groups exceeds coMPILER maximum nesting levels.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7119T Error 19 @(lineno/loff) - statement should only appear withIN Do/endo statement group.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7120T Error 20 @(lineno/loff) - label name not defined by any preCEDing do statement.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7121T Error 21 @(lineno/loff) - number of leave statements exceedS COmpiler maximums.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7122T Error 22 @(lineno/loff) - duplicate do statement label name DEFined.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7123T Error 23 @(lineno/loff) - label not defined in source file

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7124T Error 24 @(lineno/loff) - compiler maximum for label names WITHin a source file exceeded.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7125T Error 25 @(lineno/loff) - one or more referenced statement LABELs are undefined in source file.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7126T Error 26 @(lineno/loff) - compiler area overflow - source FILE too complex.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff

エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7127T Error 27 @(lineno/loff) - one or more if statements has no MATChing endif.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7128T Error 28 @(lineno/loff) - one or more do statements has no MATChing enddo.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7129T ERROR 29 @(lineno/loff) - ADDITIONAL ERRORS WERE DETECTED IN SOURCE FILE - FIRST 5 REPORTED.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7130T ERROR 30 @(lineno/loff) - INVALID SWSINFO() PSEUDO=FUNCTION OPERAND VALUE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7131T ERROR 31 @(lineno/loff) - HTXINDEX. STEM SYNTAX INVALID.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7132T ERROR 32 @(lineno/loff) - FOR 'HTXINDEX.LABEL' - THE 'LABEL' NAME IS NOT DEFINED.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7133T ERROR 33 @(lineno/loff) - INVALID SWSPARM() PSEUDO-FUNCTIONOPERAND VALUE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML

HLV7134T • HLV7139T

拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7134T ERROR 34 @(lineno/loff) - INVALID TOUPPER() PSEDUO-FUNCTIONOPERAND VALUE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7135T ERROR 35 @(lineno/loff) - NESTED RULE STATEMENTS ARE NOT ALLOWED.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7136T ERROR 36 @(lineno/loff) - AN UNMATCHED /RULE STATEMENT WAS ENCOUNTERED.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML

拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7137T ERROR 37 @(lineno/loff) - STORAGE ALLOCATION FAILURE DURING RULE PROCESSING.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7138T ERROR 38 @(lineno/loff) - ONE OR MORE RULE STATEMENTS HAS NO MATCHING /RULE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7139T ERROR 39 @(lineno/loff) - ENABLEMENT FAILED FOR EMBEDDED RULE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7140T ERROR 40 @ (lineno/loff) - /*FILE SECTIONS ARE NOT ALLOWED WITHIN EMBEDDED RULES.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7141T ERROR 41 @ (lineno/loff) - DATE(?) OPERAND INVALID OR NOT SPECIFIED.

説明: DATE(?) HTML 拡張関数で構文エラーが検出されました。正しいオプションについては、資料を参照してください。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7142T ERROR 42 @ (lineno/loff) - TIME(?) OPERAND INVALID OR NOT SPECIFIED.

説明: TIME(?) HTML 拡張関数で構文エラーが検出されました。正しいオプションについては、資料を参照してください。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7143T ERROR 43 @ (lineno/loff) - EMBEDDED RULES CANNOT BE EMPTY.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7144T ERROR 44 @ (lineno/loff) - TARGET OF ASSIGNMENT MUST BE L-VALUE.

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。割り当てステートメントのターゲットは有効な左辺値 (変数名、または変数の名前に対して実行時に評価できる複合式のいずれか) でなければなりません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7145T ERROR 45 @ (lineno/loff) - IMS AUTO-HTML VARIABLE REFERENCE IS BADLY FORMED

説明: テキスト・ファイルのスキャンによって HTML 拡張ステートメントを検索しているときに、構文エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。IMS Auto-HTML 機能のランタイム変数 (SWSSETFO、SWSFOCUS、SWSINMAP、または SWSCNVID) への参照には、追加/無関係な文字が含まれています。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7146T ERROR 46 @ (lineno/loff) - !OPTIONS STATEMENT INVALID

説明: HTX ソース・ファイル内の !OPTIONS ステートメントを処理中に、構文エラーが検出されました。エラーが検出された行番号と行内のオフセットが、メッセージに示されています。!OPTIONS ステートメントで検出された正確なエラーを示す、さらに複雑なメッセージがトレースに存在する場合があります。

ユーザーの処置: ソース・ファイル調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7147T ERROR 47 @(lineno/loff) - !OPTIONS STATEMENT OUT OF ORDER

説明: HTX ソース・ファイル内の `!OPTIONS` ステートメントを処理中に、構文エラーが検出されました。ランタイム `!OPTIONS` は、ソース・ファイル内で他の HTX 実行可能ファイルまたは `INSERT` ステートメントの前に指定されなければなりません。

ユーザーの処置: ソース・ファイル調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7148T ERROR 48 @(lineno/loff) - INVALID ENVIRONMENT FOR STATEMENT

説明: ステートメントの処理中に構文エラーが検出されました。一部のステートメントは、HTTP Web Server または Accelerator Loader サーバーのみで有効です。このステートメントが誤った環境で検出されました。

ユーザーの処置: ソース・ファイル調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7149T ERROR 49 @(lineno/loff) - IMSATTR STATEMENTS NO LONGER SUPPORTED

説明: ステートメントの処理中に構文エラーが検出されました。推奨されない `IMSATTR` ステートメントは、このバージョンのサーバーでサポートされなくなりました。

ユーザーの処置: ソース・ファイル調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。HTML 拡張ファイルが `IMS Auto-HTML` 機能によって生成された場合、`MFS` ソース・マップを再抽出し、HTML ファイルを再生成してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `lineno` エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 `loff` エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7150T /*UTILITY STMT - text (funcce)

説明: イベント・プロシーチャーの有効化中に、示されたエラーのため、`/*UTILITY` セクションが有効になりませんでした。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、イベント・プロシーチャーを再度有効にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `text` エラー・テキスト `funcce` 機能コード

HLV7151T /*UTILITY STMT - msg - sqlstmt

説明: `/*UTILITY` ステートメントの実行中、そのステートメントが無効であるか、実行不能であることが判明しました。

ユーザーの処置: ステートメントのテキストが無効である場合、ステートメントのテキストを訂正してください。そうでない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `msg` 短いエラー・メッセージ / (続く) `sqlstmt` SQL ステートメントのテキスト

HLV7152T UTILITY FUNCTION funcce NOT ENABLED. ASSOCIATED MODULE (mod) NOT FOUND IN THE %3 LIBRARY.

説明: ユーティリティー機能を有効にしようとしているときに、その機能に関連付けられているモジュールが `S_RPCLB` ライブラリーで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 関連したベンダー・ライブラリーが `S_RPCLB` ライブラリーと連結されなければなりません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: `funcce` 有効にする機能コード `mod` `S_RPCLB` ライブラリーで見つからないモジュール

HLV7153T ACCESS TO UTILITY ROUTINES IS NOT AUTHORIZED.

説明: ご使用のライセンス・コードでは、ユーティリティー・ルーチンを実行する権限がありません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV7160T LINE lineno - HTML EVALUATION ERROR (errdesc) - info

説明: HTML 拡張を含むファイル情報を処理中に、ステートメントの評価が失敗しました。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、エラーが発生した理由を確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno
ソース・ファイルの行番号 errdesc エラーの説明 info
追加のエラー情報

HLV7161E ABEND abcd, REASON rc DURING HTX PROCESSING

説明: HTML 拡張処理中に、異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、エラーが発生した理由を確認してください。エラーの原因を示す可能性がある他のメッセージがないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd
異常終了コード、rc 異常終了理由コード

HLV7162E var1var2var3var4

説明: このメッセージは、異常終了エラー報告ページ (HTML またはテキスト形式) を作成するために OPHTXPR が内部で使用します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは内部使用専用です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 変数 1、var2 変数 2、var3 変数 3、var4 変数 4

HLV7163E ABEND abcd, REASON rc DURING OPHTXPR ABEND RECOVERY

説明: 直前の異常終了からのリカバリーを試行中に、第 2 レベルの異常終了インターセプトが OPHTXPR に入力されました。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、異常終了が発生した理由を確認してください。エラーの原因を示す可能性がある他のメッセージがないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd
異常終了コード、rc 異常終了理由コード

HLV7164T RUNTIME ERROR (LINE lineno) - EMBEDDED RULES AND RESCAN STMT NOT ALLOWED IN THIS FILE.

説明: HTML 拡張プロセッサがテキスト・ファイルを処理中に、ランタイム・エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号が、メッセージに示されています。組み込みルールが許可されている場合、RESCAN のみが許可されるため、HTX 実行可能 RESCAN ステートメントもこのエラーを生成する可能性があることに注意してください。

ユーザーの処置: サーバーは、現行ファイルの処理を中止し、エラー・メッセージ出力ページ (HTML またはテキスト形式) を生成します。HTML 拡張要求が RC=16 を出して失敗します。この状態が発生する原因となったルールまたは RESCAN ステートメントを除去するか、このファイル内で組み込みルールの実行を許可してください。組み込みルールの実行を許可するには、(1) /*FILE プロセス・セクションまたは /*WWW PATH() (HFS から) を介してファイルを要求し、(2) /*FILE に RULE(YES) キーワードを指定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno
エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号

HLV7165T RUNTIME ERROR (LINE lineno) - ASSIGNMENT STMT FAILED - errdesc - value

説明: HTML 拡張プロセッサがテキスト・ファイルを処理中に、ランタイム・エラーが検出されました。エラーが検出されたソース・ファイルの行番号が、メッセージに示されています。このメッセージに示された理由で、変数割り当てステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: 左辺値がグローバル変数でなければならないことがメッセージで示される場合は、元の割り当てステートメントがグローバル変数のみを参照していることを確認してください。これには、GLOBAL、GLVEVENT、または .GLVSTATE 変数が含まれます。そうでない場合は、障害の原因を示している可能性のある他のメッセージがないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno
エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号
errdesc エラーの説明 value 割り当てターゲット左辺値のランタイム値

HLV7166T <%RULE%> EXECUTION MUST NOT DRIVE RECURSIVE <%RULE%> EXECUTION

説明: HTML 拡張プロセッサがテキスト・ファイルを処理中に、ランタイム・エラーが検出されました。HTML 拡張プロセッサが組み込みルールを実行しようとしたが、組み込まれた <%RULE%> の実行が既に進行中です。このタイプの再帰は許可されません。

HLV7167E • HLV7178T

ユーザーの処置: 現行の (ネストされた) <%RULE%> セクションはバイパスされ、ファイルの HTML 拡張処理が中止されます。

HLV7167E ABEND abcd, REASON rc DURING HTX PROCESSING OF EMBEDDEDruletype RULE

説明: HTML 拡張機能の処理中、組み込みルールの実行中に異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、エラーが発生した理由を確認してください。エラーの原因を示す可能性がある他のメッセージがないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd 異常終了コード、rc 異常終了理由コード、ruletype 組み込みルール・タイプ

HLV7168T LINE lineno - EXIT-FLUSH STATEMENT EXECUTED - RESCAN AND NEW RULE MATCHES DISABLED

説明: HTML 拡張を含むファイル情報を処理中に、<%EXIT FLUSH%> ステートメントが実行されました。これにより、HTML 拡張ファイル調整が即時に終了し、追加の RESCAN またはルールの突き合わせが禁止されるように制御が設定されます。

ユーザーの処置: サーバーは、ただちにトランザクションをフラッシュ (完了) します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno ソース・ファイルの行番号

HLV7169T LINE lineno - RESCAN STATEMENT OPERAND INVALID - reason - VALUE='value'

説明: HTML 拡張を含むファイル情報の処理中に、<%RESCAN x%> ステートメントが実行されました。報告された理由で RESCAN URL オペランドは無効です。RESCAN URL 値が部分的に検証された場合、メッセージに表示されます。部分的に検証されていない場合、値のストリングはヌルです。

ユーザーの処置: サーバーは値 SYSTEM/ERROR/500 を無効な RESCAN URL の代替として使用します。また、HTTP 応答コードを 500 (サーバー・エラー) に設定し、エラー・コードを 61 に設定します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno ソース・ファイルの行番号 reason rescan URL が無効である理由 value rescan URL オペランド値 (部分的に有効な場合)

HLV7170T LINE lineno - EXIT OPTION, option, IGNORED BECAUSE <%RULE%> PROCESSING NOT ENABLED

説明: HTML 拡張を含むファイル情報を処理中に、示されたオプションを指定した <%EXIT%> ステートメントが実行されました。組み込みルールの実行をサポートしないインターフェースを介して HTML 拡張処理が要求されたため、このオプションは無視されます。

ユーザーの処置: EXIT オプションは無視されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno ソース・ファイルの行番号 option 無視される EXIT オプション

HLV7171T LINE lineno - !OPTIONS var1 - var2

説明: !OPTIONS ステートメントの構文解析中に、構文エラーが検出されました。このメッセージは、障害の詳細な理由を提供するためにトレースされます。ファイルの HTX 処理がエラー・コード 46 で失敗しました。

ユーザーの処置: !OPTIONS ステートメントを訂正して、再試行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno ソース・ファイルの行番号、var1 !OPTIONS ステートメントのテキスト、var2 構文エラーの説明

HLV7172T ERROR 72 @(lineno/loff) - RESULTSET OPERAND INVALID OR NOT SPECIFIED.

説明: RESULTSET HTML 拡張関数で構文エラーが検出されました。この時点でサポートされている値は 1 または 2 のみです。

ユーザーの処置: ソース・ファイルを調べて、HTML 拡張ステートメントの構文エラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: lineno エラーが検出されたソース・ファイル内の行番号 loff エラーが検出されたソース行内のオフセット

HLV7178T var1 var2 var3 var4 var5

説明: このメッセージは、各種内部作業域をトレースにダンプするのに使用されます。これをトリガーするには、診断パラメーターまたは制御を設定します。

ユーザーの処置: エラーを示すメッセージが他にある場合、それらのメッセージと一緒にこのメッセージを使用して、問題の原因を判別してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 診断テキスト、var2 診断テキスト、var3 診断テキスト、var4 診断テキスト、var5 診断テキスト

HLV7179E DATA MAPPING - map FIELD IS TOO LONG

説明: データ・マップの処理中に、長すぎて処理できないフィールドが定義されました。3074 バイトのフィールドが、現在許可されている最長のフィールドです。

ユーザーの処置: より短いフィールドを使用してマップを再作成するか、このフィールドを使用不可にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: map マップ名 field フィールド名

HLV7180E /*EXECSQL STMT - text

説明: イベント・プロシーチャーの有効化中に、示されたエラーのため、/*SQL セクションが有効になりませんでした。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、イベント・プロシーチャーを再度有効にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エラー・テキスト

HLV7181T /*EXECSQL STMT - msg - sqlstmt

説明: /*EXECSQL ステートメントの実行中、その SQL ステートメントが無効であるか、実行不能であることが判明しました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントのテキストが無効である場合、SQL ステートメントのテキストを訂正してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg 短いエラー・メッセージ / (続く) sqlstmt SQL ステートメントのテキスト

HLV7182T HTML MEMBER NAME MISSING OR INVALID. DATA MAP: map, HTML MEMBER: mem

説明: 出力ファイル SEND の実行中、データ・マップで HTML メンバー名が指定されなかったか、HTML メンバー名が無効でした。

ユーザーの処置: このエラーは、Web ブラウザーでシステム・エラーとして報告されました。この問題は、HTML 生成が完了した後にデータ・マップをリフレッシュして訂正できることがあります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: map エラーのあるデータ・マップの名前 mem 欠落しているか無効な HTML メンバー名

HLV7183E /*EXECIMS STMT - text

説明: イベント・プロシーチャーの有効化中に、示されたエラーのため、/*EXECIMS セクションが有効になりませんでした。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、イベント・プロシーチャーを再度有効にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エラー・テキスト

HLV7184T /*EXECIMS STMT - msg - text

説明: /*EXECIMS ステートメントの実行中、そのステートメントが無効であるか、実行不能であることが判明しました。

ユーザーの処置: IMS ステートメントのテキストが無効である場合、IMS ステートメントのテキストを訂正してください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg 短いエラー・メッセージ / (続く) text IMS ステートメントのテキスト

HLV7185E UNABLE TO OBTAIN INPUT STORAGE WORK AREA. LENGTH %1

説明: 入力要求の処理中に、入力マップの製品マッピング機能定義に基づいて入力メッセージを作成するためのストレージが不十分でした。

ユーザーの処置: これは、マップ定義のエラーが原因と考えられます。入力マップには、オフセットまたは長さにエラーのあるフィールドが含まれている可能性があります。入力メッセージの合計長は 32,702 バイトを超えることはできません。

HLV7186E REQUIRED HTML VARIABLE MISSING. NAME=varname

説明: 入力 URL の処理中に、/*EXECIMS は特定の照会变数 (SWSINMAP、SWSCNVID および PFKIN) を予期します。これらの 1 つ以上の変数が欠落していました。

ユーザーの処置: これは、HTML のコーディングのエラーが原因と考えられます。SWSINMAP 変数には、この URL の処理に必要な入力マップ名が含まれていません。SWSCNVID 変数には、会話型 IMS トランザクションの処理に必要な会話 ID が含まれています。PFKIN 変数には割り込みキー (ENTER、PF01...PF24) が含まれています。

HLV7187E • HLV7200T

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
varname 欠落している変数名

HLV7187E /*EXECCICS STMT - text

説明: イベント・プロシージャーの有効化中に、示されたエラーのため、/*EXECCICS セクションが有効になりませんでした。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、イベント・プロシージャーを再度有効にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エラー・テキスト

HLV7188T /*EXECCICS STMT - msg - text

説明: /*EXECCICS ステートメントの実行中、そのステートメントが無効であるか、実行不能であることが判明しました。

ユーザーの処置: CICS ステートメントのテキストが無効である場合、CICS ステートメントのテキストを訂正してください。そうでない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg 短いエラー・メッセージ / (続く) text CICS ステートメントのテキスト

HLV7189T TEMPORARY MAP map USED FOR HTML FILE SELECTION

説明: 出力ファイル SEND の実行中、出力ファイル名が一時マップ名から選択されました。永続マップは、SWSAHTML DD 名に関連付けられているファイルを任意に使用します。

ユーザーの処置: /*EXECIMS および /*EXECCICS ルール・セクションの場合、指定されたマップ名内に保管されている HTML データ・セット名からの HTML ファイル出力が選択されます。この情報は監査および制御の目的で提供されています。アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: map 一時マップ名

HLV7190E /*TSOSRV STMT - text

説明: イベント・プロシージャーの有効化中に、示されたエラーのため、/*TSOSRV セクションが有効になりませんでした。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、イベント・プロシージャーを再度有効にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text エラー・テキスト

HLV7191T /*TSOSRV STMT - msg1 - text

説明: /*TSOSRV ステートメントの実行中、その TSO コマンド・ステートメントが無効であるか、実行不能であることが判明しました。

ユーザーの処置: TSO コマンドのテキストが無効である場合、そのコマンド・ステートメントのテキストを訂正してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg1 短いエラー・メッセージ / (続く) text TSO コマンドのテキスト

HLV7192T /*TSOSRV STMT - msg - text

説明: /*TSOSRV ステートメントの実行中、その TSO コマンド・ステートメントが無効であるか、実行不能であることが判明しました。

ユーザーの処置: TSO コマンドのテキストが無効である場合、そのコマンド・ステートメントのテキストを訂正してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg 短いエラー・メッセージ / (続く) text TSO コマンドのテキスト

HLV7195E rule1.rule2, /*PROGRAM STMT - text

説明: イベント・プロシージャーの有効化中に、示されたエラーのため、/*PROGRAM セクションが有効になりませんでした。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、イベント・プロシージャーを再度有効にしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rule1 ルール・セット名 rule2 ルール名 text エラー・テキスト

HLV7200T HTTP-RECV: text

説明: TRACEURLREAD オプションがオンの場合に発行されます。このメッセージは、インバウンド HTTP 要求の受信が処理中であることを示し、これまでの進行状況を示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、HTTP 要求の受信操作中に実行される処理を示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text 操作を記述するテキスト

**HLV7201T HTTP-RECV: RECEIVED length1,
TOTAL length2**

説明: TRACEURLREAD オプションがオンの場合に発行されます。このメッセージは、インバウンド HTTP 要求の受信が処理中であることを示し、進行状況を示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、HTTP 要求の受信操作中に実行される処理を示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: length1 最後に読み取られたバッファの長さ length2 これまでのインバウンド HTTP 要求の合計の長さ

**HLV7202T HTTP-RECV: HTTP REQUEST
HEADERS - LENGTH length,
DELIMITER dlmtr**

説明: TRACEURLREAD オプションがオンの場合に発行されます。このメッセージは、インバウンド HTTP 要求の受信が処理中であることを示し、これまでの進行状況を示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、HTTP 要求の受信操作中に実行される処理を示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: length HTTP 要求メッセージ・ヘッダーの長さ dlmtr HTTP ヘッダーの終わりにマークを付ける区切り文字

**HLV7203T HTTP-RECV: HTTP
CONTENT-LENGTH: value**

説明: TRACEURLREAD オプションがオンの場合に発行されます。このメッセージは、インバウンド HTTP 要求の受信がトレース中であることを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、HTTP 要求の受信操作中に実行される処理を示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value Content-Length ヘッダーの値

**HLV7204T VARIABLE WWW.varname NOT
BUILT - reason**

説明: WWW. イベント変数が、示された理由で URL 構文解析中に作成されませんでした。

ユーザーの処置: インバウンド・データの送信に使用される HTML 入力フォームを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname 作成されなかった変数 reason 変数が作成されなかった理由

**HLV7205T SSL ACCEPT FAILED - RC=rc1
REAS=rscd - ENCLAVE RC=rc2
FEEDBACK=(fc1 fc2 fc3)**

説明: 保留中の SSL 接続は、妥当性検査の失敗または SSL 接続処理エンジン内の障害のため、サーバーが受け入れることができませんでした。このエラーは障害を報告します。

ユーザーの処置: 終了の原因を示す他のメッセージがないか調べて、可能な場合は問題を解決してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc1 SSL 受け入れコードの戻りコード rscd SSL 受け入れコードの理由コード rc2 LE/370 エンクレーブ・マネージャー戻りコード fc1 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc2 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc3 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード

**HLV7206T SSL READ FAILED RC=rc1 REAS=rc2
- ENCLAVE RC=rc3 FEEDBACK=(fc1
fc2 fc3)**

説明: SSL 接続の RECEIVE 要求は、妥当性検査の失敗または SSL 接続エンジン内の障害のため、失敗しました。このエラーは障害を報告します。

ユーザーの処置: 終了の原因を示す他のメッセージがないか調べて、可能な場合は問題を解決してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc1 SSL 読み取り戻りコード rc2 SSL 読み取り戻りコード rc3 LE/370 エンクレーブ・マネージャー戻りコード fc1 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc2 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc3 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード

**HLV7207T SSL WRITE FAILED RC=rc1
REAS=rc2 - ENCLAVE RC=rc3
FEEDBACK=(fc1 %4 fc3)**

説明: SSL 接続の SEND 要求は、妥当性検査の失敗または SSL 接続エンジン内の障害のため、失敗しました。このエラーは障害を報告します。

ユーザーの処置: 終了の原因を示す他のメッセージがないか調べて、可能な場合は問題を解決してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc1 SSL 書き込み戻りコード rc2 SSL 書き込み戻りコード rc3 LE/370 エンクレーブ・マネージャー戻りコード fc1 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc2 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コー

HLV7208T • HLV7214T

ド fc3 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード

**HLV7208T SSL CLOSE FAILED RC=rc1
REAS=rc2 - ENCLAVE RC=rc3
FEEDBACK=(fc1 fc2 fc3)**

説明: SSL 接続の CLOSE 要求は、妥当性検査の失敗または SSL 接続エンジン内の障害のため、失敗しました。このエラーは障害を報告します。

ユーザーの処置: 終了の原因を示す他のメッセージがないか調べて、可能な場合は問題を解決してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc1 SSL クローズ戻りコード rc2 SSL クローズ戻りコード rc3 LE/370 エンクレーブ・マネージャー戻りコード fc1 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc2 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc3 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード

HLV7209T var1 var2 var3 var4 var5

説明: このメッセージは、インバウンド HTTP 要求の解析中に異常な状態が検出されるときにさまざまな警告メッセージを発行するのに使用されます。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 可変情報、var2 可変情報、var3 可変情報、var4 可変情報、var5 可変情報

**HLV7210T SERVER VARIABLE varname
SKIPPED BY GLVSTATE.
PROCESSING**

説明: 示されたインバウンド HTML 照会变数または HTTP Cookie 変数は、GLVSTATE. 情報セットを再作成するために正しく処理されませんでした。

ユーザーの処置: インバウンド HTTP 要求の処理は続行します。ただし、それ以降のトランザクション処理で、GLVSTATE. セットがないために問題が発生する可能性があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname 照会 (VAR.) または Cookie 変数名

**HLV7211T SSL CONNECT FAILED - RC=rc1
REAS=rc2 - ENCLAVE RC=rc3
FEEDBACK=(fc1 fc2 fc3)**

説明: SSL 接続の確立試行は、妥当性検査の失敗または SSL 接続処理エンジン内の障害のため、失敗しました。このエラーは障害を報告します。

ユーザーの処置: 終了の原因を示す他のメッセージがないか調べて、可能な場合は問題を解決してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc1 SSL 受け入れコードの戻りコード rc2 SSL 受け入れコードの理由コード rc3 LE/370 エンクレーブ・マネージャー戻りコード fc1 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc2 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード fc3 LE/370 エンクレーブ終了のフィードバック・コード

**HLV7212T RELEASE OF SPECIALLY SIZED type
AT addr1 FOR OPPr AT addr2
FAILED WITH RC=rc**

説明: トランザクションの終わりのクリーンアップ時に、サイズ超過の SEF 作業域を解放できなかったため、孤立しました。サイズ超過の作業域は、直前のトランザクションの実行時に、WWW ルールの QUEUESIZE() キーワードの WORKSIZE() を使用して割り振られました。サイズ超過の領域が解放されるのは、スレッドの再利用が有効である場合のみです。そうでない場合、それらの領域はタスク処理の終わりまでに解放されます。

ユーザーの処置: 終了の原因を示す他のメッセージがないか調べて、可能な場合は問題を解決してください。このエラーをローカル側で解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: type SEF 作業域のタイプ addr1 SEF 作業域のアドレス addr2 所有する処理ブロックのアドレス rc リリース・サービスからの戻りコード

HLV7213T SSL READ: text

説明: TRACEURLREAD オプションがオンの場合に発行されます。このメッセージは、インバウンド HTTP 要求の受信がトレース中であることを示します。このメッセージは SSL 受信ルーチンによって生成されます。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、HTTP 要求の受信操作中に実行される処理を示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: text 操作を記述するテキスト

**HLV7214T MAXIMUM NUMBER OF QUERY
VARIABLES(cnt) EXCEEDED -
INBOUND REQUEST CANNOT BE
PARSED**

説明: このメッセージは、インバウンド HTTP 要求に、サーバーが解析できるより多くの照会变数の名前/値のペアが含まれていることを示しています。効率よく

処理できる変数の最大数がメッセージに示されています。

ユーザーの処置: サーバーは現行の HTTP 要求の構文解析を中止し、HTTP 400 状況メッセージで応答します。これは、インバウンド要求メッセージが無効であることを示します。問題を解決するために、アプリケーションが任意の 1 つのインバウンド要求でより少ない照会変数を送信するように、アプリケーションを再設計する必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cnt 照会変数の最大数

HLV7215T CANNOT DECODE DBCS QUERY DATA 'data'

説明: このメッセージは、インバウンド HTTP 要求に、サーバーによってデコードできず、EBCDIC に変換された ASCII エンコード・ストリングが含まれていることを示します。

ユーザーの処置: この照会データは、EBCDIC に変換できたストリングの部分のみを含むように設定されています。DECODETRACE パラメーターを YES に設定し、トランザクションを再実行してください。障害の理由 (無効な ISO-2022-JP またはシフト JIS エンコード) を判別できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: data ASCII 照会データ

HLV7216T SSL ACCEPT LEFT count UNCONSUMED LOOK-AHEAD BYTES - REJECTING SESSION

説明: このメッセージは、SSL 受け入れ処理が正常に完了したものの、一部の受信バイトが受け入れ処理中に先読み受信バッファから取り込まれなかったことを示します。SSL 受け入れ処理にはリアルタイム証明書と鍵ネゴシエーションが含まれるので、先読みバイトが残ってはいけません。

ユーザーの処置: これは、おそらく、サーバー内の論理エラーが原因です。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: count 取り込まれなかった先読みバイト数

HLV7217T HTTP-RECV: HTTP TRANSFER-ENCODING: value

説明: TRACEURLREAD オプションがオンの場合に発行されます。このメッセージは、インバウンド HTTP

要求の受信がトレース中であることを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、HTTP 要求の受信操作中に実行される処理を示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value Content-Length ヘッダーの値

HLV7218T HTTP-RECV: HTTP CONTENT CHUNK LENGTH: value

説明: TRACEURLREAD オプションがオンの場合に発行されます。このメッセージは、インバウンド HTTP 要求の受信がトレース中であることを示します。

ユーザーの処置: なし。このメッセージは、HTTP 要求の受信操作中に実行される処理を示します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value Content-Length ヘッダーの値

HLV7230T WEB BUFFER FLUSH ATTEMPTED IN X-MEM MODE BY mod+off

説明: Web トランザクション・プログラムが、アウトバウンド応答バッファを送信するフラッシュ要求を発行しました。呼び出し元は仮想記憶間モードで動作し、要求を処理できません。このバッファ・フラッシュ要求は無視されます。

ユーザーの処置: エラーの原因を示す可能性がある他のメッセージがないか調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod 呼び出し側モジュール名 off 呼び出しルーチンのオフセット

HLV7231T SWSSEND REQUESTS EXCEPT PURGE OR FLUSH ARE INVALID FOLLOWING SWSFILE(SEND) REQUEST

説明: Web トランザクション・プログラムが、追加のアウトバウンド応答データをバッファに入れる要求を発行しましたが、この要求は、SWSFILE(SEND) 操作の完了後に出されました。SWSFILE(SEND) は、合計応答サイズを指定する HTTP 応答ヘッダーを生成したため、まずファイル送信要求が出力バッファからパーズされるか、クライアントにフラッシュされるかのどちらかが行われない限り、追加データを出力できません。

ユーザーの処置: エラーの原因を示す可能性がある他のメッセージがないか調べて、問題を修正してください。

**HLV7232T HTTP RESPONSE BUFFER LIMIT
(value) EXCEEDED - SWSEND WILL
ISSUE USER ABEND X'722'**

説明: 1 つの HTTP 応答について同時に保持される出力バッファの総数が、MAXHTTPRESPBUFFERS の限度を超えました。これは、ランナウェイ・トランザクション・プロシージャが原因であるか、または単に予想外に大きい出力が原因である可能性があります。

ユーザーの処置: SWSEND API ルーチンは、ユーザー異常終了 X'722' を発行して、Web トランザクション・サブタスクの取り消しを開始します。ご使用のプログラムが過剰な出力を生成すると予想される場合は、MAXHTTPRESPBUFFERS の限度を引き上げてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value
現行の応答バイト限度値

**HLV7233T HTTP RESPONSE BYTE LIMIT
(value) EXCEEDED - SWSEND WILL
ISSUE USER ABEND X'722'(1826)**

説明: 1 つの HTTP 応答の一部として出力される総バイト数が、MAXHTTPRESPBYTES の限度を超えました。これは、ランナウェイ・トランザクション・プロシージャが原因であるか、または単に予想外に大きい出力が原因である可能性があります。

ユーザーの処置: SWSEND API ルーチンは、ユーザー異常終了 X'722' を発行して、Web トランザクション・サブタスクの取り消しを開始します。ご使用のプログラムが過剰な出力を生成すると予想される場合は、MAXHTTPRESPBYTES の限度を引き上げてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value
現行の応答バイト限度値

**HLV7240T USER-SPECIFIED CONTENT-LENGTH
DIFFERENT THAN CALCULATED
LENGTH. USER LENGTH = value,
CALCULATED LENGTH = length**

説明: Web トランザクション・プログラムが作成した Content-Length HTTP ヘッダーの長さが、送信中のデータの計算された長さとは異なります。製品サーバーは、ユーザーが指定したコンテンツの長さを使用します。持続セッション・サポート (KEEPALIVE) が有効である場合、サーバーは Connection: Close ヘッダーを生成して、誤ったメッセージ本文長の値の送信に関連する問題を防止します。

ユーザーの処置: ユーザー生成の Content-Length HTTP ヘッダーが、ユーザー生成の HTTP ヘッダーの長さを含まず、送信されたデータの長さを正しく表して

いることを確認してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value
ユーザー生成の Content-Length 値 length サーバーが計算した長さ

**HLV7250E OPISTBRU FUNCTION
TERMINATED: reason**

説明: 製品表示機能が誤って起動されました。

ユーザーの処置: 起動パラメーター・リストを訂正して再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: reason
終了の理由

**HLV7251T UNKNOWN OR INVALID COOKIE
FOUND. msg : text**

説明: OPISTBRU の実行中、認識不能または不明な Cookie が受け取られました。

ユーザーの処置: なし。これは警告メッセージです。不明な Cookie は無視され、製品のデフォルトが使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg 短い説明 / (続く) text Cookie テキスト

**HLV7252T ONE OR MORE INVALID COOKIE
VALUE FOUND. field : value**

説明: OPISTBRU の実行中、Cookie フィールドの値が無効であったため、1 つ以上の Cookie フィールドがデフォルト値に設定されました。

ユーザーの処置: なし。これは警告メッセージです。無効な Cookie フィールドは無視され、このフィールドには製品のデフォルト値が使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: field
Cookie フィールド value Cookie 値

**HLV7253T INVALID COOKIE FORMAT num
INVALID VARIABLES FOUND: value**

説明: OPISTBRU の実行中、Cookie フィールドのフォーマットが無効であったため、示された数の Cookie フィールドがデフォルト値に設定されました。このメッセージの発行前に、無効な Cookie フィールドごとに 7252T メッセージが発行されます。

ユーザーの処置: なし。これは警告メッセージです。無効な Cookie フィールドは無視され、これらのフィールドには製品のデフォルト値が使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: num 無効な Cookie フィールドの数 value Cookie 値

**HLV7254T TIMESTAMP UNRECOGNIZABLE IN
RFC1123, RFC850 OR ANSI C
ASCTIME() FORMAT 'time'**

説明: HTTP 要求または応答ヘッダーの構文解析中に、有効なタイム・スタンプを得るためにタイム・スタンプ値を構文解析できませんでした。これは、サーバーが制御できない、ブラウザに依存する問題である可能性があります。

ユーザーの処置: なし。サーバーは、対応する要求または応答ヘッダーに値が指定されていないことを前提にします。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: time 構文解析できなかったタイム・スタンプ・ストリング

**HLV7255T VALUE OF 'varname' IS
IMPROPERLY ENCODED: reason**

説明: HTTP 要求の構文解析中に、SWSECRET_ 照会値が検出されました。サーバーは、示されている理由で情報を暗号化解除できません。製品の再始動前にブラウザに送信された照会变数が失効し、再始動後に暗号化解除できないことに注意してください。

ユーザーの処置: なし。サーバーは、誤った形式の照会变数または無効な照会变数を拒否し、その後、400 (Bad Request) HTTP 状況メッセージを出してトランザクションを拒否します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
varname 照会变数名 reason 暗号化解除エラーの理由

HLV7300 I Invalid command syntax: msg

説明: ホスト・コマンド・ステートメントが無効であるか、または示された理由により構文解析できませんでした。初期のコマンド構文スキャン中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg 構文エラーを記述するメッセージ

HLV7301S subsys is an invalid subsystem name

説明: コーディングされたサブシステム名が無効です。

ユーザーの処置: サブシステム名は 4 文字の長さで、先頭が正しい製品 ID でなければなりません。4 番目の文字は A から Z の範囲の任意の文字にすることができます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys エラーのあるサブシステム名

**HLV7302 I Parser routine (OPXPR) failed with
RC=rc**

説明: 汎用テキスト構文解析ルーチンが、失敗の理由を戻すことなく失敗したため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc 構文解析ルーチンによって発行される戻りコード

**HLV7303S obj IS AN INVALID OBJECT FOR
verb**

説明: SHLV ステートメントの無効なコマンド/オブジェクトの組み合わせを入力しました。

ユーザーの処置: コマンドを訂正して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: obj 不明な SHLV オブジェクトの名前 verb コマンド・ステートメントからの verb

**HLV7304 I oper1 KEYWORD MUST BE
SPECIFIED FOR 'verb name'
STATEMENT**

説明: このタイプのコマンド・ステートメントに必要なオペランドが省略されたため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1 指定する必要があるオペランド verb コマンド・ステートメントからの verb name コマンド・ステートメントからのエンティティ名

**HLV7305 I oper1 KEYWORD MUST reason -
SHOULD BE type**

説明: オペランド値が無効であったため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1 コーディングされた無効なオペランド reason オペランドが無効である理由 type 必要なオペランド値のタイプ

**HLV7306 I EITHER oper1 OR oper2 KEYWORD
MUST BE SPECIFIED FOR 'verb
name' STATEMENT**

説明: 示されたオペランドがいずれもコーディングされていなかったため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。少なくとも 1 つが必要です。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1 指定できるオペランド oper2 指定できるオペランド verb コマンド・ステートメントからの verb name コマンド・ステートメントからのエンティティ名

**HLV7307 I oper1 KEYWORD INVALID FOR
'verb name' STATEMENT**

説明: このタイプのコマンド・ステートメントに無効なオペランドがコーディングされたため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1 省略する必要があるオペランド verb コマンド・ステートメントからの verb name コマンド・ステートメントからのエンティティ名

**HLV7308 I ONLY oper1 KEYWORD ALLOWED
FOR 'verb name' STATEMENT**

説明: このタイプのコマンドに使用できないオペランドがコーディングされたため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。示されている単一のキーワード・オペランドのみをコーディングしてください。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1 許容できるオプションのオペランド verb コマンド・ステートメントからの verb name コマンド・ステートメントからのエンティティ名

**HLV7309 I oper1 KEYWORD MUST BE value
info**

説明: オペランドが無効であったため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。キーワード・オペランドに許可されているフォーマットが示されています。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1

無効なキーワード・オペランド value キーワード・オペランドの有効な値 info 追加情報

**HLV7310S cmd1 IS AN INVALID cmd2
COMMAND**

説明: コーディングしたコマンドが不明です。

ユーザーの処置: 正しいコマンドを入力して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd1 入力したコマンド cmd2 SHLV コマンド名

HLV7311S cmd1 subsystem subsys is not active

説明: 示されたサブシステムは実行中ではありません。SHLV のアドレス機能は続行できません。

ユーザーの処置: サブシステムを始動し (または SUBSYS コマンドを使用して別のサブシステムを特定し)、コマンドを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: cmd1 SHLV コマンド名 subsys 使用されるサブシステムの名前

**HLV7312S 'verb name' STATEMENT FAILED
WITH RC = rc**

説明: 要求された操作で重大な障害が起きました。

ユーザーの処置: おそらく、何らかの内部エラーがあります。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: verb コマンド・ステートメントからの verb name コマンド・ステートメントからのエンティティ名 rc 製品ルーチンの戻りコード

**HLV7313S Authorization check failed for 'verb
name' statement**

説明: ホスト・コマンド・ステートメントの許可検査ルーチンで、現行のユーザーがコマンド・ステートメントを実行する権限がないことが検出されました。このステートメントを実行するためのアクセスは拒否されます。

ユーザーの処置: アクセスが拒否されたコマンド・ステートメントについて、エラー・メッセージ・テキストの変数を調べてください。現行のユーザーに必要なアクセス権限があることを確認してください。必要に応じて、セキュリティー・システム管理者に連絡してさらに支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: verb コマンド・ステートメントからの verb name コマンド・ステートメントからのエンティティ名

HLV7314S parm is not a valid product parameter name

説明: このパラメーター名は、認識された有効な製品パラメーターではありません。

ユーザーの処置: パラメーター名を訂正して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: parm
パラメーター名

HLV7315S parmval is not a valid value for parm

説明: パラメーター値が、このパラメーターには無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
parmval エラーのあるパラメーター値 parm パラメーター名

HLV7316E name value does not exist

説明: 名前で定義されたエンティティがまだ定義されていないため、変更できません。

ユーザーの処置: エンティティを定義するか、MODIFY を除去してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name
コマンド・ステートメントからのエンティティ名
value 識別キーワードの値

HLV7317E name value is already defined

説明: 示されたエントリーは既に定義されています。

ユーザーの処置: どの定義が正しいかを判別して、再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name
DEFINE コマンド・ステートメントからのエンティティ名
value 識別キーワードの値

HLV7318S INVALID UPDATE ATTEMPT FOR name

説明: 無効な更新試行が検出されました。

ユーザーの処置: 誤りのあるキーワードを削除して、コマンドを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name
コマンド・ステートメントからのエンティティ名

HLV7319 I DDNAME %1 is not allocated to product address space

説明: 示された DD 名は、製品アドレス・スペースに割り振られていません。

ユーザーの処置: ファイルを定義しようとして失敗しました。示されたファイルの製品始動 JCL に DD ステートメントを追加して、製品を再始動してください。

HLV7320 I DSNNAME(dsn) MUST BE A PDS(E) DATA SET

説明: 示されたデータ・セットは PDS データ・セットでも PDSE データ・セットでもありません。

ユーザーの処置: ファイルまたはルール・セットを定義しようとして失敗しました。DSNAME() キーワードを変更してエラーを訂正してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn 無効な DS 名

HLV7321 I RULESET ind NOT rule

説明: 示されたルール・セット定義が処理されました。

ユーザーの処置: このメッセージは、SEF ルール・セット定義の定義内容または変更をログに記録します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ind 標識 (ルール・セットの定義 (DEFINED) または変更 (MODIFIED) のどちらが行われたかを示す) rule 定義または変更されたルール・セット名

HLV7322H jib HAS QUEUED RULESET(ruleset) text FOR PROCESSING BY SEF

説明: 示されたジョブまたはユーザーが、SEF タスクによる処理のために正常にスケジュールされた重要な構成変更コマンドを発行しました。SEF タスクは、要求の結果を示します。

ユーザーの処置: 通知専用。このメッセージは、ハードコピー・コンソール・ログに送信されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: ruleset
ルール・セットの名前 text 定義または変更

HLV7323H SUPERVISOR STATE REQUIRED FOR 'verb1 verb2' COMMAND

説明: 示されたアクションの実行には監視プログラム状態が必要であるため、示されたコマンドは製品の実際の開始タスク・コピーによってのみ処理できます。

ユーザーの処置: 通知専用。このメッセージは、ハードコピー・コンソール・ログに送信されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: verb1
 コマンド verb verb2 コマンド verb エンティティ

**HLV7324 I oper1 KEYWORD CONTAINS
 INVALID CHARACTER(S) AT
 OFFSET loff OF THE STRING**

説明: オペランドが無効であったため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。無効な文字または文字の組み合わせが、オペランド・ストリング内の示されたオフセットで見つかりました。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1
 無効なキーワード・オペランド loff 無効な文字が見つかった場所のオフセット

**HLV7325E oper1 IS INVALID IN
 COMBINATION WITH oper2 FOR
 'verb name' STATEMENT**

説明: 指定されたパラメーターが競合するため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1
 指定されたオペランド oper2 指定されたオペランド
 verb コマンド・ステートメントからの verb name コ
 マンド・ステートメントからのエンティティ名

**HLV7326E oper1 MUST BE SPECIFIED IN
 COMBINATION WITH oper2 FOR
 'verb name' STATEMENT**

説明: 必須パラメーターが指定されなかったため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1
 指定されたオペランド oper2 欠落していたオペランド
 verb コマンド・ステートメントからの verb name コ
 マンド・ステートメントからのエンティティ名

**HLV7327E oper1 VALUE MUST BE error THAN
 oper2 FOR 'verb name' STATEMENT**

説明: 指定されたパラメーターが競合するため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper1
 指定されたオペランド oper2 指定されたオペランド
 error エラー状態 verb コマンド・ステートメントから
 の verb name コマンド・ステートメントからのエン
 ティティ名

**HLV7328E oper VALUE 'value' INVALID - error
 FOR 'verb name' STATEMENT**

説明: 指定されたパラメーターが無効であるため、ホスト・コマンド・ステートメントは無効でした。

ユーザーの処置: コマンド・ステートメントを訂正して、再実行依頼してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: oper オ
 ペランド名 value 無効値 error エラー状態 verb コマ
 ンド・ステートメントからの verb name コマンド・ス
 テートメントからのエンティティ名

**HLV7329S Not configured for "verb name"
 statement.**

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV7330S name RULESET DEFINITION
 REJECTED - var2 var3 var4**

説明: 示された状態のため、ルール・セット定義は無効です。この定義は破棄されます。

ユーザーの処置: ルール・セット定義を訂正し、サーバーを再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name
 ルール・セット名 var2 可変テキスト var3 可変テキ
 スト var4 可変テキスト

**HLV7331S name SHARED FILE DEFINITION
 REJECTED - var2 var3 var4**

説明: 示された状態のため、ファイル定義は無効です。この定義は破棄されます。

ユーザーの処置: 共用ファイル定義を訂正し、サーバーを再始動してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: name
 ルール・セット名 var2 可変テキスト var3 可変テキ
 スト var4 可変テキスト

HLV7333T Authorization check failed for 'verb name' statement

説明: ホスト・コマンド・ステートメントの許可検査ルーチンで、現行のユーザーがコマンド・ステートメントを実行する権限がないことが検出されました。このステートメントを実行するためのアクセスは拒否されます。

ユーザーの処置: アクセスが拒否されたコマンド・ステートメントについて、エラー・メッセージ・テキストの変数を調べてください。現行のユーザーに必要なアクセス権限があることを確認してください。必要に応じて、セキュリティー・システム管理者に連絡してさらに支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: verb コマンド・ステートメントからの verb name コマンド・ステートメントからのエンティティ名

HLV7400T 'varname' INVALID GLVSTATE. VARIABLE - reason info

説明: 示された変数が、有効な GLVSTATE. 接頭部変数ではありません。適切な変数名のフォーマットについては、自動状態管理機能に関する情報を参照してください。

ユーザーの処置: 変数名を訂正し、EXEC またはプログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname 変数名 reason 妥当性検査の理由 info 追加のフィードバックまたはエラー情報

HLV7401T 'set' DOES NOT EXIST AND CANNOT BE service

説明: 指定された状態情報セットがシステムで認識されないため、そのセットで制御操作を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 現在の要求は無視されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: set セット名 service 要求されている操作

HLV7402T 'value' IS NOT A VALID VALUE FOR THE 'varname' VARIABLE

説明: 示されている値は、示されている変数に対して有効な値タイプではありません。

ユーザーの処置: 変数値を訂正し、EXEC またはプログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: value 値 varname 変数

HLV7403T 'set' IS A READ-ONLY VARIABLE AND CANNOT BE UPDATED

説明: 示された変数が読み取り専用であるため、指定された状態情報セットの更新試行が失敗しました。

ユーザーの処置: 変数の更新試行を除去してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: set セット名

HLV7404T 'GLVSTATE.set' MUST BE ACTIVE BEFORE UPDATE TO 'varname'

説明: 示された変数が、指定されたアクティブな状態情報セットに属していません。GLVSTATE. グループが期限切れになったか、作成されませんでした。

ユーザーの処置: 変数を設定しようとする前にセットを作成してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: set セット名 varname 存在しないセットに含まれている変数

HLV7405T 'varname' REQUIRES A NUMERIC VALUE - FOUND 'value'

説明: 値を更新するには、示された変数に数値が必要です。

ユーザーの処置: 変数の指定を訂正し、EXEC またはプログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname 変数名 value 割り当て時に渡された値

HLV7406T 'varname' ADJUSTED FROM value1 TO MINIMUM VALUE OF value2 for '%4'

説明: 設定中の値が最小値より小さいため、示された変数が調整されました。代わりに最小値が使用されます。

ユーザーの処置: 変数の指定を訂正し、EXEC またはプログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname 変数名 value1 割り当て時に渡された値 value2 オーバーライドとして使用された最小値

HLV7407T 'varname1' IN 'varname2' MUST BE ALPHAMERIC, BEGIN ALPHA OR AN INTEGER 0-N

説明: 示された変数が、GLVSTATE. ユーザー割り当て名として使用するには無効です。GLVSTATE.name では、name は長さ 8 バイト未満であり、英字で始まり、文字と数字のみで構成されなければなりません。読

HLV7408T • HLV7413T

み取り専用変数 GLVEVENT.0 から GLVEVENT.n も有効ですが、指定された状態変数セットを示しません。

ユーザーの処置: 変数の指定を訂正し、EXEC またはプログラムを再実行してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

varname1 変数名の 2 番目の修飾子 varname2 変数名

HLV7408T 'qual' ALREADY EXISTS

説明: 示された GLVSTATE.name グループは既に存在します。制御変数に NEW を割り当てようとした。このような試行は、以前に存在してはならないセットに対する無条件セット作成要求と見なされます。

ユーザーの処置: NEW セット作成要求はエラーを出して拒否されます。以前に作成されたセットが存在する可能性がある場合は、要求を発行する前に GLVSTATE.name を調べてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: qual
GLVSTATE.name セットの修飾子

HLV7409T +++++ request varname Diagnostic WWST Trace +++++

説明: 内部使用の診断トレースが作成されています。さまざまな内部状態関連制御ブロックがフォーマットされ、Trace Browse に書き込まれます。

ユーザーの処置: なし。ソフトウェア・サポートが使用します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: request
GLVSTATE. 操作要求タイプ varname 操作対象の
GLVSTATE. 変数名

HLV7410T SERVER TOKEN CREATE/DELETE SERVICE FAILED RC=rc - GLVSTATE.set UPDATE WILL FAIL

説明: 内部サービスで、GLVSTATE. 変数セットの管理に必要なサーバー・トークンの作成/削除に失敗しました。現行の GLVSTATE. 更新要求は、(1) 無効な変数フィールド名に対する更新が行われた場合と同じように、または (2) HALT エラーとして失敗します。どちらで失敗するかは、更新のタイプによって決まります。

ユーザーの処置: この失敗に関連したメッセージが他にないか調べ、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: rc トークン作成サービスからの戻りコード set
GLVSTATE.name は状態セット名

HLV7411T REQUEST VARIABLE 'varname' INVALID AUTOMATED STATE TRANSPORT - reason

説明: Web トランザクションの初期設定中に、名前が SWSSTATE_xxxxxxx または SWSTOKEN_xxxxxxx で始まる HTML 照会变数または HTTP 要求ヘッダー Cookie が見つかりました。この形式の名前を持つ照会变数および Cookie はすべて、状態情報の自動処理用に予約されています。

ユーザーの処置: サーバーは、この変数用に組み込まれている処理をバイパスします。この結果、不適切なセッション状態管理アクティビティーが生じる可能性があります。xxxxxxx 部分が無効な場合も、この形式の変数は拒否されます。有効にするには、お客様が割り当てる名前が 1 バイトから 8 バイトの長さであり、英字で始まり、英字、数字 0 から 9、および下線文字のみを含む必要があります。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
varname バイパスされる照会/Cookie 変数 reason 照会または Cookie 変数が拒否された理由

HLV7412T 'varname' BYPASSED BY ASMF - DUPLICATE GLVSTATE.set SET ALREADY EXISTS

説明: Web トランザクションの初期設定中に、GLVSTATE. 情報セット用に組み込まれている管理情報を含む HTML 照会变数または HTTP 要求ヘッダー Cookie、もしくはその両方が見つかりました。この GLVSTATE. セットの情報は、このインバウンド要求内の別の照会变数または Cookie から既に受け取られています。

ユーザーの処置: サーバーは、この変数用に組み込まれている処理をバイパスし、最初の GLVSTATE. 回復情報のみを使用します。この状態が発生する可能性があるのは、HTML フォーム・フィールドおよび HTTP Cookie の両方に同じ GLVSTATE.xxxxxxx 情報を組み込む場合、またはブラウザが同じ名前を持つ 2 つの HTTP Cookie を送信する場合であることに注意してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
varname スキップされるインバウンド変数の名前 set
重複した GLVSTATE. セットの名前

HLV7413T VARIABLE 'varname' DOES NOT CONTAIN A VALID SERVER TOKEN ID - reason

説明: Web トランザクションの初期設定中に、名前が SWSTOKEN_xxxxxxx で始まる HTML 照会变数また

は HTTP 要求ヘッダー Cookie が見つかりました。この形式の名前を持つ照会变数および Cookie はすべて、組み込まれている GLVSTATE. 処理用に予約されています。しかし、このエレメントの内容に、予想された表示可能な 16 進数の 24 バイト・トークン ID 値が含まれていませんでした。

ユーザーの処置: 誤った情報は使用されず、インバウンド照会または Cookie 情報は無視され、GLVSTATE. 情報セットは作成されません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname 照会または Cookie 変数名 reason 値データが無効な理由

HLV7414T varname VARIABLE DOES NOT CONTAIN VALID INFORMATION TO RECONSTRUCT GLVSTATE.set - reason

説明: Web トランザクションの初期設定中に、名前が SWSSTATE_ で始まる HTML Cookie 変数が見つかりました。しかし、この値データは、GLVSTATE. セットの回復のために予期されたフォーマットになっていないと考えられます。これは、誤った長さ情報、データの誤ったエンコード、またはその他の何らかの入力異常がある場合に発生する可能性があることに注意してください。

ユーザーの処置: 誤った情報は使用されず、インバウンド Cookie 情報は無視され、この変数の GLVSTATE. 情報セットは作成されません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname インバウンド照会/Cookie 変数の名前 set GLVSTATE. セットの名前 reason 値データが無効な理由

HLV7415T SERVER TOKEN ID (token) REUSED IMPROPERLY FOR GLVSTATE.set1/GLVSTATE.set2 SETS

説明: Web トランザクションの初期設定中に、名前が SWSSTATE_xxxxxxx で始まる HTML 照会变数または HTTP 要求ヘッダー Cookie が見つかりました。この形式の名前を持つ照会变数および Cookie はすべて、組み込まれている GLVSTATE. 処理用に予約されています。しかし、このエレメントの内容に、トークン ID が不適切に再使用されたことを示す標識が含まれていました。

ユーザーの処置: これは論理エラーです。サーバーは SOC3 異常終了を生成します。ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: token

再使用されたトークン ID 値 set1 トークンからの GLVSTATE. セットの名前 set2 照会变数からの GLVSTATE. セットの名前

HLV7416T GLVSTATE.set NOT RECONSTRUCTED FOR TOKENID=token DUE TO ERROR errmsg

説明: Web トランザクションの初期設定中に、名前が SWSTOKEN_xxxxxxx で始まる HTML 照会变数または HTTP 要求ヘッダー Cookie が見つかりました。この形式の名前を持つ照会变数および Cookie はすべて、組み込まれている GLVSTATE. 処理用に予約されています。しかし、内部エラーのために、サーバー・サイド・トークンを取得できませんでした。この GLVSTATE. セットはバイパスされます。

ユーザーの処置: これは、ストレージの不足などの問題が原因で起きる可能性があります。状態情報は、トークンの有効期限が切れた場合と同じように処理されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: set GLVSTATE. セットの名前 token 取得が失敗したトークン ID errmsg トークン・データにアクセス中に検出されたエラー

HLV7417T AUTOMATED STATE MGMT MODULE (OPASMF) - INVALID PLIST plist

説明: 自動状態管理ルーチン OPASMF が、無効なパラメーター・リストと一緒に呼び出されました。

ユーザーの処置: モジュールは SOC3 異常終了を生成して要求を強制終了します。ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: plist パラメーター・リストのイメージ (16 進数)

HLV7418T 'GLVSTATE.suffix' MUST EXIST BEFORE UPDATE TO 'varname'

説明: 示された GLVSTATE. コレクションは存在しません。コレクション・メンバーの更新を実行する前に作成されていなければなりません。

ユーザーの処置: 変数を設定しようとする前にセットを作成してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: suffix セット名または索引番号 varname 更新が要求された変数

HLV7419T UPDATE TO 'csym' NOT ALLOWED FOR GLVSTATE.collect COLLECTION WITH STATUS='st'

説明: 示された GLVSTATE. コレクションには、現在、更新を許可しない状況であるというフラグが立てられています。コレクションをリセットするか、いったん削除してから再作成して、コレクションを ACTIVE 状況に変更してください。

ユーザーの処置: 現在の要求は拒否されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csym 更新されるコレクション・シンボル collect コレクション名 st 現在のセット状況値

HLV7420T UPDATE TO 'csym' NOT ALLOWED BECAUSE value EXCEEDS CURRENT SUBKEY COUNT OF num

説明: セット内のキー付き値の数が、シンボルによる参照によって指定されたキー索引値より小さい値です。新しいキー付き値のペアの作成にキー索引参照を使用できません。

ユーザーの処置: 現在の要求は拒否されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csym 更新されるコレクション・シンボル value シンボルによる参照内のキー索引値 num 定義されたキーの現在の数

HLV7421T UPDATE TO 'csym' IGNORED BECAUSE GLVSTATE.collect IS A value TYPE SET WHICH DOES NOT USE HTTP COOKIES

説明: 示された GLVSTATE. コレクションは、トランスポート・メカニズムとして HTTP Cookie を使用しません。非 Cookie ベースの情報セットに適用されないため、現在の更新は無視されます。

ユーザーの処置: 現在の要求は無視されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csym 更新されるコレクション・シンボル collect コレクション名 value 現在のセット・タイプ値

HLV7422T UPDATE TO 'csym' IGNORED BECAUSE GLVSTATE.collect IS A value TYPE SET WHICH DOES NOT USE SERVER-SIDE TOKENS

説明: 示された GLVSTATE. コレクションは、間接ストレージ・メカニズムとしてトークンを使用しません。非トークン・ベースの情報セットに適用されないため、

現在の更新は無視されます。

ユーザーの処置: 現在の要求は無視されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csym 更新されるコレクション・シンボル collect コレクション名 value 現在のセット・タイプ値

HLV7423T VALUE ASSIGNED TO 'csym' TRUNCATED BECAUSE field MAXIMUM LENGTH IS size

説明: 示されたサイズまでの長さのみがサポートされるため、割り当て中の示された GLVSTATE. 変数値は切り捨てられました。

ユーザーの処置: 現在の要求は無視されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csym 更新されるコレクション・シンボル field フィールド使用量 size このフィールドの最大サイズ

HLV7425T UPDATE OF 'csym' IGNORED - TOKEN WITH ID=token HAS ALREADY EXPIRED

説明: 示されたトークンの有効期限が既に切れているため、示された GLVSTATE. 変数値の更新が失敗しました。

ユーザーの処置: 現行の要求はエラーを出して拒否されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: csym 更新されるコレクション・シンボル token 更新が要求されたトークン ID

HLV7426T 'collect' HAS BEEN RESET

説明: 示された GLVSTATE. 情報セットはリセットされました。

ユーザーの処置: なし。 要求は正常に完了します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: collect リセットされるセット・コレクション

HLV7427T NO "SET-COOKIE:" SENT FOR GLVSTATE.set - COOKIE WOULD EXCEED 4K MAX. SIZE

説明: 値データの合計の長さがエンコード後に、名前/値ペアのサイズに対して Netscape Cookie 指定によって許可されている最大 4k を超えたため、示された GLVSTATE. 情報セットは、アウトバウンド HTTP Set-cookie: 応答の生成に使用されませんでした。

ユーザーの処置: 示された状態セットはバイパスされません。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: set 状態情報セット名

**HLV7428T ERROR WHILE BUILDING
SET-COOKIE: RESPONSE FOR
GLVSTATE.set - RC=rc**

説明: 示された状態情報セットのアウトバウンド Set-cookie: 応答ヘッダーを作成中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: バッファ・フラッシュ処理は続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: set 状態情報セット名 rc 応答ハンドラーからの戻りコード

**HLV7429T VARIABLE varname CONTAINS
INVALID SERVER TOKENID ID
WHICH MAY BE SPOOF ATTEMPT
(ID=token)**

説明: サーバー・サイドのトークン ID を使用して保管済みの状態情報をリストアしようとしているときに、エラーが検出されました。検出されたエラーの特性は、サーバー・トークン ID 値のスプーフ試行を示している可能性があります。ただし、これは確実ではありません。エラーが頻繁に発生する場合は、この可能性をさらに調査することができます。

ユーザーの処置: このサーバー・トークン ID は、リストアできるアプリケーション・データ値がない期限切れトークンを指定した場合と同じように処理されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: varname 要求からの照会または Cookie 変数 token エラーがあったトークン ID

HLV7500 I msg

説明: これは、SWSWTO 関数を使用する RPC プログラムからの通知レベルのメッセージに使用される汎用メッセージです。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg ユーザーが提供したメッセージ

HLV7501W msg

説明: これは、SWSWTO 関数を使用する RPC プログラムからの警告レベルのメッセージに使用される汎用メッセージです。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg ユー

ザーが提供したメッセージ

HLV7502S msg

説明: これは、SWSWTO 関数を使用する RPC プログラムからの重大レベルのメッセージに使用される汎用メッセージです。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg ユーザーが提供したメッセージ

HLV7503H msg

説明: これは、SWSWTO 関数を使用する RPC プログラムからのハードコピー・レベルのメッセージに使用される汎用メッセージです。

ユーザーの処置: なし。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: msg ユーザーが提供したメッセージ

HLV8000E Java JVM feature is not configured.

説明: なし。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV8002E Unable to get the JVM Profile List
from the Local Registry.**

説明: ローカル・レジストリーから JVM プロファイル・リストを取得できませんでした。

ユーザーの処置: 製品に対してレジストリーが定義されていることを確認してください。

HLV8003E Unable to build JVM Profile List.

説明: JVM プロファイル・リストを作成できませんでした。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**HLV8004E Unable to allocate latch for JVM
profile.**

説明: JVM プロファイル用のラッチを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HLV8900E reason var1 var2 var3 var4 var5 var6
var7 var8

説明: C 言語のメイン製品ルーチンのタスク・ランタイム環境を初期設定しようとしているときに、エラーが検出されました。

ユーザーの処置: ランタイム環境は初期設定されませんでした。失敗の原因を示す可能性がある他のメッセージがないか調べ、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: reason 失敗の理由、var1 可変情報またはテキスト、var2 可変情報またはテキスト、var3 可変情報またはテキスト、var4 可変情報またはテキスト、var5 可変情報またはテキスト、var6 可変情報またはテキスト、var7 可変情報またはテキスト、var8 可変情報またはテキスト

HLV8901T desc var1 var2 var3 var4 var6 var6
var7 var8

説明: C 言語ランタイム環境の初期設定中に、統計トレースが使用可能になりました。このメッセージは、この環境に関する情報のトレースに使用されます。

ユーザーの処置: 初期設定処理が続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc トレースされた情報の説明、var1 可変情報またはテキスト、var2 可変情報またはテキスト、var3 可変情報またはテキスト、var4 可変情報またはテキスト、var6 可変情報またはテキスト、var6 可変情報またはテキスト、var7 可変情報またはテキスト、var8 可変情報またはテキスト

HLV8902W errmsg var1 var2 var3 var4 var5 var6
var7 var8

説明: C 言語のメイン製品ルーチンのタスク・ランタイム環境の初期設定中に、訂正可能エラーが検出されました。

ユーザーの処置: エラーの訂正後、このランタイム環境は初期設定されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errmsg 検出されたエラー、var1 可変情報またはテキスト、var2 可変情報またはテキスト、var3 可変情報またはテキスト、var4 可変情報またはテキスト、var5 可変情報またはテキスト、var6 可変情報またはテキスト、var7 可変情報またはテキスト、var8 可変情報またはテキスト

HLV8903T desc var1 var2 var3 var4 var5 var6
var7 var8

説明: C 言語ランタイム環境の終了中に、統計トレースが使用可能になりました。このメッセージは、この環境に関する情報のトレースに使用されます。

ユーザーの処置: 終了処理は続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc トレースされた情報の説明、var1 可変情報またはテキスト、var2 可変情報またはテキスト、var3 可変情報またはテキスト、var4 可変情報またはテキスト、var5 可変情報またはテキスト、var6 可変情報またはテキスト、var7 可変情報またはテキスト、var8 可変情報またはテキスト

HLV8904W errmsg var1 var2 var3 var4 var5 var6
var7 var8

説明: C 言語のメイン製品ルーチンのタスク・ランタイム環境の終了中に、訂正可能エラーが検出されました。

ユーザーの処置: エラーが訂正可能である場合、このランタイム環境は終了します。そうでない場合、終了要求はより重大なエラーで失敗します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: errmsg 検出されたエラー、var1 可変情報またはテキスト、var2 可変情報またはテキスト、var3 可変情報またはテキスト、var4 可変情報またはテキスト、var5 可変情報またはテキスト、var6 可変情報またはテキスト、var7 可変情報またはテキスト、var8 可変情報またはテキスト

HLV8905E desc var1 var2 var3 var4 var5 var6
var7 var8

説明: C 言語ランタイム環境の終了中に、エラーが検出されました。終了処理は続行しますが、割り振られたリソースが孤立したままになる可能性があります。

ユーザーの処置: 終了処理は続行します。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: desc トレースされた情報の説明、var1 可変情報またはテキスト、var2 可変情報またはテキスト、var3 可変情報またはテキスト、var4 可変情報またはテキスト、var5 可変情報またはテキスト、var6 可変情報またはテキスト、var7 可変情報またはテキスト、var8 可変情報またはテキスト

HLV9000H mod/func execution text

説明: このメッセージは、製品の終了をトレースするのに使用されます。各終了ルーチンの実行前と実行後にメッセージが発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対するアクションはありません。このメッセージはトレースとデバッグのためだけに使用されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: mod モジュール名 func 現行の機能コード text メッセージの本文

HLV9001 I Subsystem ss termination complete

説明: これは、標準の製品終了処理の完了メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys サブシステム名

HLV9002E Subsystem ss termination incomplete

説明: 製品の実行が終了しました。しかし、製品の終了中に 1 つ以上のエラーが検出されました。その結果、正常な製品終了が可能ではありませんでした。

ユーザーの処置: 終了中に発行されたエラー・メッセージがないか確認します。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。上記のエラー・メッセージや、製品終了エラーに関連したその他のエラー・メッセージの正確な内容をメモしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: subsys サブシステム名

HLV9008S ABEND ERROR abcd-abre AT mod+off

説明: 製品の初期設定、実行、または終了中に重大な異常終了が発生しました。この異常終了はリカバリー不能であり、製品は強制終了しました。

ユーザーの処置: この異常終了コードや関連した異常終了メッセージを調べてください。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して製品を再始動してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。上記のエラー・メッセージや、製品の障害に関連したその他のエラー・メッセージの正確な内容をメモしてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: abcd 異常終了コード、abre 異常終了理由コード、mod モジ

ュール名、off モジュールのオフセット

HLV9100T INVALID COMBINATION OF ./ or ../ in "path"

説明: HFS パス名のストリングに ./、../、または実行時に解決不能なその他の文字の無効な組み合わせが含まれているため、このパス名ストリングは拒否されました。

ユーザーの処置: WWW 突き合わせルールの PATH() オペランドにワイルドカード(*) が含まれている場合、これは、クライアントによる、アクセス権限が付与されない HFS サブディレクトリーの参照試行を示している可能性があります。また、このメッセージは、サーバー DOCUMENTROOT 始動パラメーター、DEFINE RULESET ステートメントの HFSROOT() パラメーター、または WWW ルール定義の PATH() パラメーターの指定の誤り、あるいはこれらの指定の誤った組み合わせによって生じる可能性もあります。トランザクションは、404 (file not found) エラー状況で拒否されます。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: path 無効なパス名ストリング

HLV9504E service OF desc FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: これは、さまざまな内部エラーの記述に使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行の操作の説明、および現行の操作が試行していた内容を説明します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service 現行の操作 (GETMAIN、FREEMAIN など) desc 説明 rc 戻りコード

HLV9505 I メッセージ

説明: これは、さまざまな内部エラーの明確化に使用される汎用通知メッセージです。メッセージ・テキストは、現行の操作の詳細情報、および現行の操作が試行していた内容を説明します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可

HLV9506S • HLV9511E

能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:
message 直前のエラーの説明

HLV9506S service OF desc FAILED, RC=rc, DETECTED AT ad

説明: これは、さまざまな内部エラーの記述に使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行の操作の説明、および現行の操作が試行していた内容を説明します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service
現行の操作 (GETMAIN、FREEMAIN など) desc 説明
rc 戻りコード

HLV9507E DATA SET dsn DOES NOT EXIST - LOCATE OF %1 FAILED, RC=rc, REASON=rscd

説明: データ・セットの検出中に障害が発生しました。このメッセージ内の戻りコードと理由コードは LOCATE ルーチンからのものです。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn データ・セット名 rc 戻りコード rscd 理由コード

HLV9508E OBTAIN OF FORMAT1 DSCB FOR DSNAME dsn VOLUME vid FAILED, RC = rc, REASON CODE = rscd

説明: データ・セットの取得中に障害が発生しました。このメッセージ内の戻りコードと理由コードは OBTAIN FORMAT1 DSCB ルーチンからのものです。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセー

ジと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn データ・セット名 vid ボリューム ID rc 戻りコード rscd 理由コード

HLV9509E OBTAIN OF FORMAT1 DSCB FOR DSNAME dsn VOLUME vid FAILED BECAUSE DATA SET IS MIGRATED

説明: データ・セットの取得中に障害が発生しました。データ・セットの volser が、データ・セットがオフラインでマイグレーションされたことを示す MIGRAT に設定されます。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。一部のサーバー機能では、操作を再試行する前に、データ・セットの手動再呼び出しが必要な場合があります。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: dsn データ・セット名 vid ボリューム ID

HLV9511E service OF desc FAILED, RC=rc, RS=rs, DETECTED AT ad

説明: これは、さまざまな内部エラーの記述に使用される汎用エラー・メッセージです。メッセージ・テキストは、現行の操作の説明、および現行の操作が試行していた内容を説明します。

ユーザーの処置: この問題に関連するエラー・メッセージと戻りコードを確認してください。現在の問題について記述するエラー・メッセージが 1 つ以上存在する可能性があります。可能であれば、エラー・メッセージで示された問題を修正して操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: service
現行の操作 (GETMAIN、FREEMAIN など) desc 説明
rc 戻りコード rs 理由コード

HLV9513E Unknown I/O var1, var2 var3 %4

説明: サーバー入出力ルーチンによって不明なサービス要求コードが検出されました。この要求は処理できず、内部異常終了が生成され、症状レコードが LOGREC に記録されます。一般的なエラー戻りコードが呼び出し元に反映されます。

ユーザーの処置: この問題に関連したエラー・メッセージが他にないか確認してください。現行の問題、または要求を発行するコンポーネントまたは機能を参照するエラー・メッセージが 1 つ以上ある可能性があります。問題を解決できない場合は、ソフトウェア・サポートに連絡して追加支援を受けてください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 サービス要求コード、var2 診断情報、var3 診断情報

HLV9990 I var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9 var10 var11

説明: これは、製品によって検出された異常終了に関連した情報のフォーマットに使用される汎用メッセージです。異常終了モジュール、異常終了オフセット、異常終了コード、および異常終了の時点でのレジスターはすべて、デバッグのためにフォーマットされます。内部エラーの場合、内部異常終了の理由も示されます。

ユーザーの処置: すべての情報を記録し、問題をソフトウェア・サポートに報告してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 なし、var2 なし、var3 なし、var4 なし、var5 なし、var6 なし、var7 なし、var8 なし、var9 なし、var10 なし、var11 なし

HLV9998S TEXTMERGE (MSGID=M998) PROCESSING FAILURE REASON=var1

説明: 特殊な textmerge 関数呼び出しのメッセージ送信ルーチンに、無効なパラメーターが渡されました。これは、呼び出しルーチンの一部での論理エラーが原因である可能性があります。

ユーザーの処置: この問題を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明: var1 textmerge 関数に固有の理由コード

HLV9999S var1 var2 var3 var4 var5 var6 var7 var8 var9 %SK

説明: このメッセージは内部製品テスト用です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

メッセージ・テキストの変数フィールドの説明:

var1 なし
var2 なし
var3 なし
var4 なし
var5 なし
var6 なし
var7 なし
var8 なし
var9 なし
stack スタック・トレース情報

FECA900E Invalid Column Function value. Valid values: 1, 2, 3, 4

説明: 「Column Function」フィールドに無効文字が入力されました。

ユーザーの処置: 有効な文字 (1、2、3、または 4) を指定してください。

FECA901E Invalid Permanent View value. Valid values: Y, N

説明: 「Permanent View」フィールドで無効値が検出されました。

ユーザーの処置: 値を訂正するか、取り消してください。有効な値は Y および N です。

FECA902E Invalid Reset View value. Valid values are Y, N

説明: 「Reset View」フィールドに無効文字が入力されました。有効な文字は Y および N です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定するか、取り消してください。有効値は以下のとおりです。

- Y - すべてのカスタマイズをリセットします。
- N - カスタマイズはリセットされません。

FECA903E Invalid Stop Sorting value. Valid values: Y, N

説明: 指定されたソート停止値は無効です。有効値は以下のとおりです。

- Y - ソートが停止されることを示します。
- N - ソートが続行することを示します。

ユーザーの処置: 有効な値を指定するか、取り消してください。

FECA904E Invalid command in FORM display

説明: FORM 表示を表示しているときに発行されたコマンドは有効ではありませんでした。

ユーザーの処置: FORM 表示に有効なコマンドには、NROW および PROW が含まれます。

FECA905E FORM command not supported from CSETUP function

説明: FORM コマンドが CSETUP 機能から発行されました。FORM は、CSETUP 機能の中ではサポートされていません (CSETUP 機能には CFIX、CORDER、CSIZE、および CS が含まれます)。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA906E Invalid parameter for NROW. Must be numeric.

説明: 指定されたパラメーターは数値ではないため、無効です。

ユーザーの処置: 先に進める行の数に対応した数値を指定してください。NROW のデフォルト値は 1 です。

FECA907E Invalid parameter for PROW. Must be numeric.

説明: 指定されたパラメーターは数値ではないため、無効です。

ユーザーの処置: 逆スクロールする行の数に対応した数値を指定してください。PROW のデフォルト値は 1 です。

FECA908E Invalid parameter for NROW. Too many digits.

説明: NROW キーワードに対して無効なパラメーターが指定されました。8 桁を超える桁が指定されました。解析は 8 桁で停止します。

ユーザーの処置: NROW のパラメーターは、1 から現在レポート表示に含まれている行の数まででなければなりません。パラメーターが指定されない場合、1 が前提となります。

FECA909E Invalid parameter for PROW. Too many digits.

説明: PROW に対して無効なパラメーターが指定されました。8 桁を超える桁が指定されました。解析は 8 桁で停止します。

ユーザーの処置: PROW のパラメーターは、1 から現

在レポート表示に含まれている行の数まででなければなりません。パラメーターが指定されない場合、1 が前提となります。

FECA910E CSETUP command not supported from FORM function

説明: CSETUP 機能は、FORM 表示の中ではサポートされません。CSETUP 機能には、CFIX、CORDER、CSIZE、CSORT、および CSETUP (CSET) が含まれます。

ユーザーの処置: 現在の FORM 機能を終了してから、CSETUP 機能を発行してください。

FECA911E Invalid ICR command. Use RIGHT command.

説明: ICR は、列が最大サイズではない場合にのみ有効です。CSIZE を発行することにより、列の現行サイズと最大サイズを確認できます。

ユーザーの処置: RIGHT コマンドおよび LEFT コマンドを使用して、この列のすべての部分を表示することができます。

FECA912E Invalid ICL command. Use LEFT command.

説明: ICL は、列が最大サイズではない場合にのみ許可されます。CSIZE を発行することにより、列の現行サイズと最大サイズを確認できます。

ユーザーの処置: RIGHT コマンドおよび LEFT コマンドを使用して、この列のすべての部分を表示することができます。

FECA913E Format mix data element not updated.

説明: フォーマット MIX データは、データの一部のみが表示されているときには更新できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA914E FORM command not supported from FORM function

説明: FORM が FORM 表示の中から発行されました。これはサポートされていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**FECA915E FORM PF keys set; NROW = nrow
PROW = prow**

説明: NROW (次の行) コマンドおよび PROW (前の行) コマンドは、FORM 表示ウィンドウを別の行に移動するために使用されます。UP、DOWN、LEFT、および RIGHT の各コマンドは、現在の行の中で FORM 表示ウィンドウを移動します。

上記のように、行とは、再フォーマットされた FORM 表示行ではなく、元のレポート表示の行を指します。

デフォルトでは、NROW は、FORM 表示を次の行に進めます。NROW *n* が発行された場合、FORM 表示は *n* 行だけ先に進められます。

同様に、PROW は、FORM 表示ウィンドウを直前の行に移動します。PROW *n* は、現在の FORM 表示ウィンドウを *n* 番目に前の行に移動します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA916E Invalid CNUM parm. Valid parms are ON, OFF, or blank.

説明: CNUM が無効なパラメーターを指定して発行されました。パラメーターを指定せずに CNUM を発行すると、ON/OFF の切り替えとして機能します。ON および OFF のみがパラメーターとして受け入れられません。ON は、CNUM 表示をオンにします。OFF は、CNUM 表示をオフにします。

ユーザーの処置: 有効な CNUM パラメーター (ON、OFF、またはブランク) を使用してください。

FECA917E Report width for print too large.

説明: レポートの幅が最大出力幅を超えています。

ユーザーの処置: 現在サポートされている最大レポート幅は 32,760 です。

FECA918E string not found. Press PF5 to continue from top.

説明: 示されている文字ストリングは検出されませんでした。

ユーザーの処置: ダイアログの先頭から文字ストリングの検索を続行するには、PF5 を押してください。

FECA920I Chars chars found n times

説明: 指定された文字が検出された回数を示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA921I Chars chars not found on any lines

説明: 指定された文字がどの行でも検出されなかったことを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA922I Search for CHARS chars was successful.

説明: 示されている文字の検索で一致が検出されたことを示します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA923E Check for misspelled keywords or embedded blanks in search string.

説明: 検索ストリングに無効なキーワードまたはブランクが埋め込まれている可能性があることを示します。

ユーザーの処置: 検索ストリングを確認して訂正し、埋め込みブランクを削除するか、キーワードを訂正してください。

FECA924E string and string cannot both be specified for FIND command.

説明: FIND コマンドに 2 つのストリングを指定しました。

ユーザーの処置: FIND のストリングは一度に 1 つ指定する必要があります。

FECA925E Put quotes (" ") around the string of characters to be displayed.

説明: 文字のストリングが引用符で囲まれていません。

ユーザーの処置: 文字のストリングの横に引用符を入力してください。

FECA926E Maximum parameter length is 80

説明: 指定したパラメーターが長すぎます。

ユーザーの処置: 80 文字以下のパラメーターを指定してください。

FECA927E Invalid COLS parm. Valid parms are ON, OFF, or blank

説明: COLS が無効なパラメーターを指定して発行されました。パラメーターを指定せずに COLS を発行すると、ON/OFF の切り替えとして機能します。ON および OFF のみがパラメーターとして受け入れられません。

FECA930I • FECA942E

ユーザーの処置: COLS ON または COLS OFF と入力してください。COLS ON は COLS 表示をオンにして、COLS OFF は COLS 表示をオフにします。

FECA930I No columns eligible for resizing.

説明: どの列もサイズ変更することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA931I No columns eligible for sorting

説明: どの列もソートできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA932I TBMOD failed. RC=*rc*

説明: TBMOD の実行中に予期しない戻りコードが返されました。

ユーザーの処置: 推奨される診断は次のとおりです。

- 「z/OS ISPF サービス・ガイド」の TBMOD を参照してください。
- ISPTLIB 割り振りを確認してください。
- ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。

FECA933E Invalid column name: missing quote

説明: 先頭の引用符文字は指定されていて 2 番目の終了引用符は指定されていないパラメーターを指定して、SORT または CSORT が発行されました。

ユーザーの処置: コマンド行をクリアして、表示される選択リストから目的のソート列を選択するか、コマンド行でコマンドを訂正してください。

FECA934E More than 9 columns specified

説明: SORT または CSORT が発行されましたが、ソート列として指定された列が多すぎます。最大 9 個のソート列を指定できます。

ユーザーの処置: コマンド行をクリアして、表示される選択リストから目的のソート列を選択するか、コマンド行でコマンドを訂正してください。

FECA935E Invalid column name

説明: どの列名とも一致しない列パラメーターを指定して、SORT または CSORT が発行されました。正しい列名のリストは、SORT 選択パネルに表示されます。

ユーザーの処置: コマンド行をクリアして、表示される選択リストから目的のソート列を選択するか、コマンド行でコマンドを訂正してください。

FECA936E Invalid row selection character

説明: SSID 選択リストに無効な選択文字が入力されました。唯一の有効な選択文字は S です。あるいは、目的の行にカーソルを置いて、Enter キーを押してください (行選択文字は使用しません)。

ユーザーの処置: 無効文字を消去してください。

FECA937E Only one row selection allowed

説明: SSID 選択リストから複数の SSID が選択されました。最大 1 個の SSID を選択できます。

ユーザーの処置: すべての行選択文字を消去するか、1 個の行選択文字を残してすべてを消去してください。

FECA938E Invalid command

説明: SSID 選択リスト・パネルに無効なコマンドが入力されました。

ユーザーの処置: コマンドを消去してください。

FECA939E Read of control file failed

説明: 制御データ・セットの読み取りが失敗しました。

ユーザーの処置: (メインメニューからアクセスして) 製品のセットアップを調べ、現在使用中の制御データ・セットを確認してください。データ・セット名が正しいことを確認してください。

FECA940E Invalid DB2 Control data set

説明: 制御データ・セットの割り振りが失敗しました。

ユーザーの処置: (メインメニューからアクセスして) 製品のセットアップを調べ、現在使用中の制御データ・セットを確認してください。データ・セット名が正しいことを確認してください。

FECA942E IFCARC1=*return code* IFCARC2=*reason code*

説明: 発行された DB2 コマンドが失敗しました。DB2 からの戻りコードと理由コードがエラー・メッセージに示されています。コマンド出力がある場合は表示されません。

ユーザーの処置: 戻りコードと理由コードについては、ご使用のバージョンの DB2 のメッセージおよびコードの資料を参照してください。コマンドにタイプミス、無効な構文、その他の誤りがあるかどうかを調べてください。

FECA943E Invalid command

説明: 無効なコマンドが発行されました。現在のパネルではサポートされていません。

ユーザーの処置: コマンドにタイプミスがないか確認してください。コマンドを消去するか、訂正してください。

FECA944I Empty History

説明: これは通知メッセージです。履歴データベースが空です。コマンドが以前に入力されたことがある場合、HCLEAR が発行されたか、履歴データベースのサイズが 0 に設定されました。ISPTABL および ISPTLIB が割り振られていない場合、セッション間で履歴は記憶されず、各新規セッションの履歴データベースは空になります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ISPTLIB および ISPTABL の割り振りを確認するには、ISRDDN および ISPLIBD が役立ちます。ISRDDN および ISPLIBD については、ISPF の資料を参照してください。

FECA945E Invalid history size limit

説明: 「History Size Limit」フィールドで無効文字が検出されました。有効な数値は、0 から 999 のみです。

ユーザーの処置: 「History Size Limit」フィールドに有効な値を入力してください。

FECA946I No DB2 command history output library allocated

説明: これは通知メッセージです。ISPTABL が割り振られていません。ISPTABL が割り振られていない場合、セッション間で履歴データベースを保管できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。セッション間で履歴を保管する必要がある場合、ISPTABL (および ISPTLIB) の割り振りに関する製品のインストール手順を参照してください。

FECA947I No DB2 command history input library allocated

説明: これは通知メッセージです。ISPTLIB が割り振られていません。(ISPTABL DD を使用して) セッション間で履歴データベースが保管されている場合、新しい DB2 Command Processor セッションを初期設定するために ISPTLIB DD が使用されます。ISPTLIB が割り振られていない場合、これを実行することはできず、履

歴は空の状態を開始します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。セッション間で履歴を保管する必要がある場合、ISPTLIB (および ISPTABL) の割り振りに関する製品のインストール手順を参照してください。

FECA948E TBOPEN failed. RC=return code

説明: 履歴表に対する TBOPEN が失敗しました。*return code* は TBOPEN サービスからの戻りコードです。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りを確認してください。ISPTLIB 内のデータ・セットを確認してください。有効な PDS であることを確認してください。ISPTLIB の要件については、ISPF の資料を参照してください。

FECA949E Invalid command

説明: 無効なコマンドが入力されました。

ユーザーの処置: タイプミスがないか調べてください。コマンドを消去するか、訂正してください。HELP を発行して、DB2 Command Processor チュートリアルで有効なコマンドを確認してください。いくつかの PF キーが有効な DB2 Command Processor コマンドに設定されているため、KEYS コマンドも役立つ可能性があります。

FECA950E No SSIDs in control file

説明: 指定された DB2 制御ファイルで有効な SSID は見つかりませんでした。

ユーザーの処置: SSID が入っていない制御ファイルは有用ではありません。これは、望ましい制御ファイルではない可能性があります。制御ファイルの作成および構築については、製品のインストール手順を参照してください。

FECA951I History cleared

説明: HCLEAR コマンドが発行されたか、History Size Limit が 0 に設定されたため、履歴がクリアされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA952E Unable to list data sharing members. Display failed

説明: データ共有メンバーのリストを取得しようとしたコマンドが失敗しました。理由コードと戻りコードがメッセージにリストされています。

ユーザーの処置: ご使用のバージョンの DB2 の DB2

FECA953I • FEC801E

メッセージおよびコードの資料で理由コードと戻りコードを検索してください。

FECA953I Zero data sharing members found

説明: 検出されたデータ共有メンバーはゼロでした。現在の SSID は、データ共有グループのメンバーではありません。

ユーザーの処置: 「Datasharing Member」フィールドをブランクのままにしてください。

FECA954E Invalid command

説明: データ共有メンバーのリスト/選択パネルから無効なコマンドが発行されました。

ユーザーの処置: コマンドを消去してください。

FECA955I No member selected

説明: データ共有メンバーを選択せずにデータ共有メンバー選択パネルを終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FECA956E Invalid row selection character

説明: 「History」出力画面に無効な選択文字が入力されました。「History」表示にリストされているコマンドを実行対象として選択するには、「S」選択文字を使用して選択するか、コマンドの中の行の任意の場所にカーソルを置いて Enter キーを押します。

カーソルを置いて選択する場合、コマンド番号も示されている行選択入力行、またはコマンド・テキストが示されている行にカーソルを置くことができます。

ユーザーの処置: 無効文字を消去してください。

FECA957E Only one row selection allowed

説明: 「History」表示から複数のコマンドが選択されました。History コマンドは 1 つのみ選択できます。

ユーザーの処置: すべての行選択文字を消去するか、1 個の行選択文字を残してすべてを消去してください。

FECA958E Invalid row selection character

説明: データ共有メンバーの表示リストに無効な選択文字が入力されました。この表示でデータ共有メンバーを選択するには、「S」選択文字を使用して選択するか、目的の行の任意の場所にカーソルを置いて Enter キーを押します。

ユーザーの処置: 無効文字を消去してください。

FECA959E Only one row selection allowed

説明: 表示されているデータ共有メンバーのリストから複数のデータ共有メンバーが選択されました。

ユーザーの処置: すべての行選択文字を消去するか、1 個の行選択文字を残してすべてを消去してください。

FECA960E Cannot list commands without SSID

説明: コマンド構文図を選択するためにコマンドが発行されましたが、SSID が選択されていませんでした。SSID が選択されるまで、構文図を表示できません。

ユーザーの処置: SSID を選択してください。「SSID」フィールドをクリアするか、疑問符 (?) を入力することにより、SSID のリストを生成できます。

FECA961E Invalid row selection character

説明: DB2 コマンドの表示リストに無効な選択文字が入力されました。この表示で DB2 コマンドを選択するには、「S」選択文字を使用して選択するか、目的の行の任意の場所にカーソルを置いて Enter キーを押します。

ユーザーの処置: 無効文字を消去してください。

FECA962E Only one row selection allowed

説明: 表示されている DB2 コマンドのリストから複数の DB2 コマンドが選択されました。

ユーザーの処置: すべての行選択文字を消去するか、1 個の行選択文字を残してすべてを消去してください。

FECA963E Invalid command

説明: DB2 コマンドのリスト/選択パネルから無効なコマンドが発行されました。

ユーザーの処置: コマンドを消去してください。

FEC801E Pgm: program name Stmt: statement Type: type

説明: このメッセージは、SQL 戻りコード情報をテキスト・メッセージに変換するために使用されます。SQLCA からのデータが DSNTIAR を使用して呼び出され、このメッセージにフォーマットされます。

ユーザーの処置: 「DB2 UDB for z/OS: SQL 解説書」(SC88-9817-02) を参照して解決してください。

FEC802E **An invalid return code of *code* was encountered on *function* function. The error message text follows: *text***

説明: 示されている関数で無効な戻りコードが検出されました。エラー・メッセージで、支援用の診断データが返されます。

ユーザーの処置: ご使用のバージョンの DB2 の DB2 メッセージおよびコードの資料を参照して解決してください。

FEC803E **The first character of the command is not a dash. Correct the syntax of the DB2 command and resubmit.**

説明: コマンドの先頭文字がダッシュではありません。DB2 コマンドの正しい構文では、コマンドの前にダッシュを付けます。

ユーザーの処置: コマンドの前にダッシュ (「-」) を付けて再入力してください。

FEC804E *message_text*

説明: 呼び出し接続の初期設定時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージ・テキストを確認してください。理由コードにメッセージが付随している場合は、理由コードを使用して、適切な修正処置を判別してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FEC901E **The default load library could not be located.**

説明: DB2 Tools Load Library に入力されたデータ・セット名が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 有効な loadlib データ・セット名を入力して、処理を続行してください。

FEC902E **A DB2 subsystem ID has to be entered for processing.**

説明: DB2 サブシステム ID に有効な値が入力されていません。

ユーザーの処置: 有効な DB2 サブシステム名を入力してください。

FEC903E **The default GDG base data set name could not be located.**

説明: GDG 基本モデルに対して入力されたデータ・セット名が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 有効なモデル・データ・セット名を入力して、処理を続行してください。

FEC904E **The specified data set could not be opened for I/O.**

説明: DB2 制御データ・セットに指定されたデータ・セットをオープンしようとしているときに、VSAM オープン・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: VSAM データ・セットがアクセス可能であることを確認してください。

FEC905E **An unexpected return code from VSAM was encountered while doing a read of the control file. RC1=*rc* RC2=*rc***

説明: DB2 制御データ・セットに指定されたデータ・セットにアクセスしようとしているときに、VSAM READ エラーが発生しました。診断の目的で VSAM 戻りコードが提供されます。

ユーザーの処置: 「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照して解決し、先に進んでください。

FEC906I **The control file record for DB2 subsystem *ssid* has been successfully updated.**

説明: DB2 制御データ・セット・フィールドに指定された制御ファイルは、正常に更新され、示されている DB2 サブシステムに指定された変更と定義を組み込みました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FEC907E **An unexpected return code from VSAM was encountered while doing an update operation of the control file. RC1=*rc* RC2=*rc***

説明: DB2 制御データ・セットに指定されたデータ・セットを更新しようとしているときに、VSAM 更新エラーが発生しました。診断の目的で RC1 および RC2 (VSAM 戻りコード) が提供されます。

ユーザーの処置: 「DB2 UDB for z/OS V8 メッセー

FEC908I • FEC918

ジ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照して解決し、先に進んでください。

FEC908I The control file record for DB2 subsystem *sys* has been successfully added.

説明: DB2 制御データ・セット・フィールドに指定された制御ファイルは、正常に更新され、示されている DB2 サブシステムに指定された定義に基づいて新規レコードを組み込みました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FEC909E Invalid value. Valid options are 1 and 2.

説明: 指定された値は無効です。有効な値は 1 および 2 です。

ユーザーの処置: 有効な値を入力してください。

FEC910E An unexpected return code from VSAM was encountered while doing an add operation to the control file. RC1=*rc* RC2=*rc*

説明: 指定された DB2 制御データ・セットへの追加操作を実行しようとしているときに、VSAM エラーが発生しました。診断の目的で RC1 および RC2 (VSAM 戻りコード) が提供されます。

ユーザーの処置: 「DB2 UDB for z/OS V8 メッセージ」(GC88-4061-00) および「DB2 UDB for z/OS V8 コード」(GC88-4062-00) を参照して解決し、先に進んでください。

FEC911E The (F)IND command was entered but no parameters were specified.

説明: (F)IND コマンドにパラメーターが指定されませんでした。検索対象の文字列を指定しない限り、突き合わせは行われません。

ユーザーの処置: FIND パラメーターを入力してください。

FEC912I The requested find string was not found.

説明: FIND コマンドに指定された文字列との一致は検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FEC913I The control file record has been successfully updated.

説明: 制御ファイルは正常に更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FEC914E An unknown column was specified using the SORT command.

説明: SORT コマンドに指定された列は不明です。

ユーザーの処置: 列名を正しく入力したかを確認するか、別の列を選択してください。

FEC915E SORT is not supported for the specified column.

説明: SORT を試行した列は、ソート対象の列としてはサポートされていません。

ユーザーの処置: 「Define Sort Columns」パネルにリストされているソート列を参照して、ソートの基準として使用できる有効な列のリストを確認し、ソートを再定義してください。

FEC916E Sort column not entered. Column name or number must be specified.

説明: SORT に列が指定されませんでした。SORT コマンドには、列名または列番号を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 列名が使用されているかどうか、および名前に含まれるすべてのスペースが下線に置き換えられていることを確認してください。

FEC917E Put an ending quote at the end of the string.

説明: スtringの終わりに引用符を入力する必要があります。

ユーザーの処置: Stringの終わりに引用符を入力してください。

FEC918 CHARS *string* not found. Press PF5 to continue from top.

説明: 示されている文字列は検出されませんでした。

ユーザーの処置: ダイアログの先頭から文字列の検索を続行するには、PF5 を押してください。

FEC919 *chars foundstr not found. Press PF5 to continue from bottom.*

説明: 示されている文字ストリングは検出されませんでした。

ユーザーの処置: ダイアログの終わりから文字ストリングの検索を続行するには、PF5 を押してください。

FEC920E **File tailoring open returned a file tailoring already in progress condition**

説明: ユーティリティのカスタマイズのためにファイル調整を実行する試みが失敗しました。既に進行中のファイル調整セッションがありました。複数のファイル調整セッションを同時に実行できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FEC921E **File tailoring open returned the output file already in use condition -- ENQ failed**

説明: DB2 制御データ・セットをオープンしようとして、ENQ エラーで失敗しました。このデータ・セットは出力のために既にオープンしています。

ユーザーの処置: このファイルにアクセスしようとする唯一のユーザーであることを確認してください。

FEC922E **File tailoring open returned the skeletal file or output file not allocated condition**

説明: 調整スケルトン・ファイルまたは出力ファイルのどちらかが割り振られていないため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られていることを確認してください。

FEC923E **File tailoring open returned a severe error condition**

説明: 重大エラー状態がオープンで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

FEC924E **File tailoring open returned an unknown code -- severe error**

説明: 重大エラー状態がオープンで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

FEC925E **File tailoring close returned a file not open condition -- severe error**

説明: ファイルがオープンしていない状態がクローズで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であること、およびご使用のセッションと同時に実行中である他の調整セッションがないことを確認してください。

FEC926E **File tailoring close returned an output file in use condition**

説明: 出力ファイルが使用中である状態がクローズで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であること、およびご使用のセッションと同時に実行中である他の調整セッションがないことを確認してください。

FEC927E **File tailoring close returned a skeletal file or output file not allocated condition**

説明: 調整スケルトン・ファイルまたは出力ファイルのどちらかが割り振られていなかったため、ファイル調整をクローズしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であること、およびご使用のセッションと同時に実行中である他の調整セッションがないことを確認してください。

FEC928E **File tailoring close returned a severe error**

説明: 重大エラー状態がクローズで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

FEC929E File tailoring close returned an unknown code -- severe error

説明: 重大エラー状態がクローズで検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

FEC930E File tailoring close returned an output member exists in the output library and NOREPL was specified

説明: クローズ・プロセスが出力ファイル内の既存の調整済みメンバーを置き換えることができなかったため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 出力メンバー名を新しい名前に変更するか、出力ライブラリーがメンバーの置き換えに確実に対応するようにしてください。

FEC931E File tailoring include returned a skeleton does not exist condition

説明: 調整プロセスが必要な調整スケルトンを見つけることができなかったため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行するために、必要なすべてのファイルが割り振られていることを確認してください。

FEC932E File tailoring include returned a skeleton in use -- ENQ failed condition

説明: 調整スケルトンにアクセスしようとして、ENQ エラー (メンバーが使用中) で失敗しました。

ユーザーの処置: 必要なすべての調整ファイルが割り振られていること、および同時に実行中である他の調整セッションがないことを確認してください。

FEC933E File tailoring include returned a data truncation or skeleton library or output file not allocated condition

説明: 調整スケルトン・ファイルまたは出力ファイルのどちらかが割り振られていないため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られていることを確認してください。

FEC934E File tailoring include returned a severe error condition

説明: 重大エラー状態がインクルード操作で検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

FEC935E File tailoring include returned an unknown condition -- severe error

説明: 重大エラー状態がインクルード操作で検出されたため、ファイル調整を実行しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル調整を実行する前に、必要なすべてのファイルが割り振られ、アクセス可能であることを確認してください。

FEC936E Allocation error - The ISPF DD is already allocated and cannot be deallocated - Process not completed

説明: ISPF DD 割り振りが失敗しました。この DD は既に割り振られ、この TSO セッションのために割り振り解除できません。このプロセスは正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

FEC937E Allocation Error - An error was encountered allocating the ISPWRK1 or ISPWRK2 DD - Process not completed

説明: ISPWRK1 または ISPWRK2 の DD 割り振りが失敗しました。

ユーザーの処置: これらの DD ステートメントの割り振りの前に、TSO セッション・パラメーターがサイトに正しく設定されていることを確認してください。このプロセスは正常に完了しませんでした。

FEC938E Field Required - The data set entered is a partitioned data set and the member name is required

説明: 必須フィールドが指定されていませんでした。入力されたデータ・セットは PDS (区分データ・セット) であり、この PDS 内のメンバーが参照されなければなりません。

ユーザーの処置: PDS アクセスに有効なメンバー名を入力してください。

FEC939E The only valid values are "T" for tracks and "C" for cylinders

説明: 無効な値を指定しました。有効値はトラックを示す「T」、シリンダーを示す「C」のみです。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。

FEC940E The specified data set could not be found in the MVS catalog.

説明: 指定されたデータ・セットを MVS カタログで見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: データ・セット名が正しいことを確認してください。

FEC941E The RFINd key works only after a FIND character string is entered.

説明: FIND コマンドが発行される前に、repeat FIND (RFINd) が発行されました。RFINd が機能する前に、FIND を発行しておく必要があります。

ユーザーの処置: FIND を発行してから RFINd を発行してください。

FEC942E Invalid Sort number. Enter a valid digit.

説明: 「Srt」列に無効な文字が入力されました。有効な文字は、数字 1、2、3 から 9 まで、またはソート可能な列の数のいずれか少ない方の数値です。

ユーザーの処置: 有効なソート番号を指定してください。

FEC943E Same Sort number entered twice

説明: 複数の列に対して同じソート番号が入力されました。画面は、2 番目のインスタンスに位置付けられません。ソート・シーケンス番号は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なソート番号を指定してください。

FECA944I Empty History

説明: これは通知メッセージです。履歴データベースが空です。コマンドが以前に入力されたことがある場合、HCLEAR が発行されたか、履歴データベースのサイズが 0 に設定されました。ISPTABL および ISPTLIB が割り振られていない場合、セッション間で履歴は記憶されず、各新規セッションの履歴データベースは空になります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ISPTLIB および ISPTABL の割り振りを確認するには、ISRDDN および ISPLIBD が役立ちます。ISRDDN および ISPLIBD については、ISPF の資料を参照してください。

FEC945E Invalid Dir entered. Must be A or D (ascending/descending).

説明: 選択されたソート方向は無効です。A (昇順) または D (降順) のみを指定できます。ブランクは、昇順 (デフォルト) を指定します。

ユーザーの処置: 有効なソート方向を指定してください。

FEC946E Dir not valid without Ord.

説明: ソート対象として選択されていなかった列に対して、ソート方向が選択されました。ソート方向は、選択されている列に対してのみ有効な選択項目です。

ユーザーの処置: ソートの方向および順序を選択してください。

FEC947E Max Sort Columns exceeded. Sorting first 10 columns.

説明: サポートされている数よりも多くの列がソート対象として選択されました。9 個の列を選択できます。特定の状況下では、内部の制約により、制限は 9 個よりも少なくなります。例えば、日付フィールドのソートは、部分的な列のフィールドを 3 回ソートすることで実装できます。この場合、この列は、最大 9 個のうち、1 個ではなく、3 個としてカウントされます。

ユーザーの処置: ソート列の適切な許容最大数を指定してください。

FEC948E Fix Columns cannot exceed screen size.

説明: 画面に収まるよりも多くの列が固定の対象として選択されました。

ユーザーの処置: 1 つ以上の列から (F) 選択文字を削除してください。

FEC950E Invalid selection character. "F" and "U" are valid.

説明: 無効なコマンド文字が入力されました。有効な文字は、F (固定) および U (固定解除) です。固定により、列は画面の左側の固定域に移動します。固定列は、LEFT または RIGHT スクロール・コマンドが発行されたときに水平方向にスクロールしません。固定解除によ

FEC951E • FEC959E

り、列は固定域から移動され、LEFT および RIGHT スクロール・コマンドが発行されたときに水平方向にスクロールできるようになります。

ユーザーの処置: 無効な文字を削除するか、有効な文字を入力してください。

FEC951E Invalid entry. Must be numeric.

説明: 無効なコマンド値が入力されました。コマンド値は数値でなければなりません。列が固定されている場合、数値は固定範囲内でなければなりません。列が固定されていない場合、数値は非固定範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

FEC952E Invalid entry for fixed column.

説明: 固定列に無効なコマンド値が入力されました。固定列に有効な選択値は 1 から固定列の数までです。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

FEC953E Invalid entry for unfixed column.

説明: 非固定列に無効なコマンド値が入力されました。数値は、列の数より小さく、固定列の数より大きくなければなりません。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

FEC954E Invalid value entered for column size: non-numeric data.

説明: 無効なコマンド値が入力されました。これは、MIN フィールドと MAX フィールドの値の間の数値でなければなりません。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

FEC955E Invalid value entered for column size: out of range.

説明: 無効なコマンド値が入力されました。これは、MIN フィールドと MAX フィールドの値の間の数値でなければなりません。MIN は最小の許容値です。MAX は最大の許容値です。

ユーザーの処置: 無効な数値を削除するか、または有効な数値を入力してください。

FEC956E Total fixed column sizes cannot exceed screen size.

説明: 入力されたコマンド値では、固定列の合計サイズが画面サイズを超過します。これは許可されません。固定列の「Fix」列には F または P が示されています。固定列は常に表示されているため、画面に収まる必要があります。

ユーザーの処置: 固定列サイズを変更して合計が画面サイズを下回るようにするか、または取り消して直前のパネルに戻ってください。

FEC957E New configuration makes this column size invalid.

説明: 要求された列サイズでは、少なくとも 1 つの非固定列を表示できなくなります。問題が検出された値の上にカーソルが配置されています。画面の非固定域が小さすぎるため、カーソルが配置されている列を表示できなくなります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行ってください。

- カーソルが配置されている列を小さくして、使用可能な非固定域に収まるようにします。
- 最大サイズ (幅) に設定します。
- 固定域を小さくします。
- 取り消して直前のパネルに戻ります。

FEC958E Column does not fit in unfixed area in new configuration.

説明: 要求された列サイズでは、カーソルが配置されている非固定列を表示できなくなります。画面の非固定域が小さすぎるため、この列を表示できません。

ユーザーの処置: 列を固定解除するか、固定列を小さくすることにより、固定域を縮小してください。カーソルが配置されている列は部分的に表示する (最小から最大まで) ことはできないため、その列のサイズは変更できません。

FEC959E New configuration makes this column size invalid.

説明: 要求された列を固定すると、非固定列に使用できる域が許容できないほどに縮小されます。1 つ以上の非固定列が画面の残りの非固定域に収まりません。そのような列の 1 つを示す行にカーソルが置かれています。したがって、要求された構成は許可されません。

ユーザーの処置: 列サイズを変更するには、CFIX 機能を取り消して、CSIZE 機能呼び出ししてください。取り消して、変更せずに CFIX を終了するか、許容される

固定サイズに達するまで 1 つ以上の FIX の選択を無効にしてください。

FEC960E Invalid fixed selections. Would not leave enough space for this column.

説明: 要求された列を固定すると、少なくとも 1 つの非固定列を表示できなくなります。このような非固定列の 1 つを表す行にカーソルが配置されています。これらの行の表示可能な最小サイズは使用可能な画面区域に収まりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、要求された固定域を縮小してください。

- 要求する固定列の数を減らします。
- 1 つ以上の固定列を固定解除します。
- CFIX を取り消して、CSIZE を呼び出し、すべての非固定列が必要なスペースを持つように 1 つ以上の固定列を縮小します。

FEC962E Duplicate Cmd values entered.

説明: 重複したコマンド数値が入力されました。カーソルは、コマンド値の 2 番目のインスタンスを指しています。

ユーザーの処置: この値を変更またはクリアするか、CORDER 機能を終了してください。

FEC963E Cursor not on data element.

説明: CEXPAND が発行され、カーソルが有効な (拡張可能な) 領域にありませんでした。CEXPAND では、カーソルが表示の動的領域にあるデータ・エレメント (非見出し域) に配置されている必要があります。または、拡張するデータ・エレメントの行と列を指定して CEXPAND を発行できます。

ユーザーの処置: カーソルが有効な (拡張可能な) 領域にあることを確認してから、CEXPAND コマンドを発行してください。

FEC964E Invalid scroll amount for CRIGHT. Must be numeric.

説明: CRIGHT に無効な (非数値) パラメーターが指定されました。CRIGHT は 1 つの数値パラメーター (右にスクロールする列数) を受け入れます。パラメーターが入力されない場合は、値 1 が前提となります。

ユーザーの処置: CRIGHT コマンドに数値パラメーターを指定してください。

FEC965E Invalid scroll amount for CLEFT. Must be numeric.

説明: CLEFT に無効な (非数値) パラメーターが指定されました。CLEFT は 1 つの数値パラメーター (左にスクロールする列数) を受け入れます。パラメーターが入力されない場合は、値 1 が前提となります。

ユーザーの処置: CLEFT コマンドに数値パラメーターを指定してください。

FEC966E Invalid parameter to ICRIGHT; must be numeric.

説明: ICRIGHT に対するパラメーターが数値ではありません。ICRIGHT (内部列の右スクロール) は、0、1、または 2 の数値パラメーターを受け入れます。ICRIGHT は ICR と省略することができます。

ユーザーの処置: ICRIGHT に有効な数値パラメーターを指定してください。

FEC967E Parameter to ICRIGHT too long. Invalid.

説明: ICRIGHT に対するパラメーターが長すぎます。ICRIGHT は、適切な値の 2 倍を超える 8 桁より多くのパラメーターを処理しません。

ユーザーの処置: ICRIGHT に有効なパラメーターを指定してください。

FEC968E Parameter to ICRIGHT is zero. Invalid.

説明: ICRIGHT に対するパラメーターの値がゼロです。これはサポートされていません。

ユーザーの処置: ICRIGHT にゼロ以外のパラメーターを指定してください。

FEC969E ICRIGHT: unspecified column.

説明: ICRIGHT がパラメーターなしで呼び出され、カーソルが動的パネル区域に配置されていません。

ユーザーの処置: スクロールする列にカーソルを置くか、または列を番号で指定してください。列番号は、(現在の表示ウィンドウに) 表示されている列のみを参照できます。番号は、左側から 1 で始まります。

FEC971E ICRIGHT: Column number specified is too big.

説明: ICRIGHT に対する列番号パラメーターは、1 か

FEC972E • FEC981E

ら現在表示画面に表示されている列の数まででなければなりません。

ユーザーの処置: 列を番号で参照するには、最初に、目的の列が表示されるように表示ウィンドウを位置調整する必要があります。

FEC972E Invalid parameter to ICLEFT; must be numeric.

説明: ICLEFT に対するパラメーターが数値ではありません。ICLEFT (内部列の左スクロール) は、0、1、または 2 の数値パラメーターを受け入れます。ICLEFT は ICL と省略することができます。

ユーザーの処置: ICLEFT に有効なパラメーターを指定してください。

FEC973E Parameter to ICLEFT too long. Invalid.

説明: ICLEFT に対するパラメーターが長すぎます。ICLEFT は、適切な値の 2 倍を超える 8 桁より多くのパラメーターを処理しません。

ユーザーの処置: ICLEFT に 8 桁以下のパラメーターを指定してください。

FEC974E Parameter to ICLEFT is zero. Invalid.

説明: ICLEFT に対するパラメーターの値がゼロです。これはサポートされていません。

ユーザーの処置: ICLEFT にゼロ以外の数値を指定してください。

FEC975E ICLEFT: unspecified column.

説明: ICLEFT がパラメーターなしで呼び出され、カーソルが動的パネル区域に配置されていません。

ユーザーの処置: スクロールする列にカーソルを置くか、または列を番号で指定してください。列番号は、(現在の表示ウィンドウに) 表示されている列のみを参照できます。番号付けは、左側から 1 で始まります。

FEC976E Column selected not sortable. Sort selection list presented.

説明: 選択した列に対して SORT を実行できません。有効なソート列は、ソート選択リストに表示されています。

ユーザーの処置: 選択リストに表示されているいずれかの有効な列をソートしてください。

FEC977E ICLEFT: Column number specified is too big.

説明: ICLEFT に対する列番号パラメーターは、1 から現在表示画面に表示されている列の数まででなければなりません。

ユーザーの処置: 列を番号で参照するには、最初に、目的の列が表示されるように表示ウィンドウを位置調整する必要があります。

FEC978E Invalid column number specified for SORT (not numeric).

説明: CSORT に対して無効な列番号パラメーター (非数値) が指定されました。

ユーザーの処置: 1 から現在表示画面に表示されている列の数までの列番号パラメーターを CSORT に指定してください。その後方向値の A または D (昇順/降順) を指定できます。

FEC979E Invalid column number specified. Too many digits.

説明: CSORT に対して無効なパラメーターが指定されました。8 桁を超える桁が指定されました。解析は 8 桁で停止します。

ユーザーの処置: 1 から現在表示画面に表示されている列の数までの列番号パラメーターを指定してください。その後方向値の A または D (昇順/降順) を指定できます。

FEC980E Invalid column number specified: zero.

説明: CSORT に対して無効なパラメーター (ゼロ) が指定されました。

ユーザーの処置: 1 から現在表示画面に表示されている列の数までの列番号パラメーターを CSORT に指定してください。その後方向値の A または D (昇順/降順) を指定できます。

FEC981E Invalid column number specified: out of range.

説明: CSORT に対して無効なパラメーター (ゼロ) が指定されました。

ユーザーの処置: 1 から現在表示画面に表示されている列の数までの列番号パラメーターを CSORT に指定してください。その後方向値の A または D (昇順/降順) を指定できます。

FEC982E Invalid view. View adjusted.

説明: 現在のビューは調整されましたが、削除はされていません。保管されたビューはレポートの要件に一致していませんでした。原因として、レポートの変更またはビュー・ファイルの破損が考えられます。

ユーザーの処置: 調整されたビューが使用されます。CSET を発行してビューを変更することができます。

FEC983E Invalid view. View deleted.

説明: このレポートのビューで無効なデータが検出されました。ビューは削除され、その内容は無視されました。原因として、レポートの変更またはビュー・ファイルの破損が考えられます。

ユーザーの処置: CSET を発行して、現在のレポートと一致するビューを作成することができます。

**FEC984E Unexpected return code from
TBSTATS: rc**

説明: TBSTATS の発行で予期しない障害を受け取りました。

ユーザーの処置: (16 進) 戻りコードの説明については、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。また、ISPTLIB および ISPTABL の割り振りを確認してください。ISPTLIB および ISPBABL については、ISPF の資料を参照してください。

FEC985E View Library not allocated.

説明: ビュー入力ライブラリーが割り振られていません。CSET コマンドによって作成されたレポート・カスタマイズを保管して使用するには、ISPTABL および ISPTLIB が割り振られている必要があります。

ユーザーの処置: ISPTLIB および ISPTABL については、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。

FEC986E TBCREATE failed. RC=rc

説明: ビューを作成するために、TBCREATE が発行されました。これは、メッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティ管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。

FEC987E TBOPEN failed. RC=rc

説明: ビューを開くために、TBOPEN が発行されました。これは、メッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティ管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。

FEC988E TBGET failed. RC=rc

説明: TBGET によって (メッセージに示されている) 戻りコードが生成されました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティ管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。

FEC989E TBMOD failed. RC=rc

説明: TBMOD によって (メッセージに示されている) エラーおよび戻りコードが生成されました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティ管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。

FEC990E TBCLOSE failed. RC=rc

説明: TBCLOSE がメッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティ管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。

FEC991E TBDELETE failed. RC=rc

説明: TBDELETE がメッセージに示されている (16 進) 戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティ管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。

FEC992E Invalid selection.

説明: このパネルでサポートされていないコマンドが選択されました。

ユーザーの処置: パネルに有効なコマンドを発行してください。

FEC993I Permanent view not supported.

説明: DB2 Analytics Accelerator Loader が、何らかの原因でビューを保管できないことを検出しました。永続ビュー・フラグを Y に設定できません。最も考えられる原因は、ISPTLIB または ISPTABL のいずれか (あるいは両方) が適切に割り振られていないことです。

ユーザーの処置: ISPTLIB 割り振りおよびデータ・セット特性を確認してください。ISPTLIB データ・セットへのセキュリティー管理アクセスを確認してください。戻りコードについては、「ISPF サービス・ガイド」(SC88-8962-03) を参照してください。

FEC994E Invalid row number.

説明: CEXPAND が無効なパラメーターであるゼロを指定して発行されました。CEXPAND は、パラメーターなしでカーソルをデータ・フィールドに配置して発行するか、2 つのパラメーターを指定して発行することができます。2 つのパラメーターは行番号で、その後に拡張するデータ・エレメントの列番号が続きます。行番号は、最初のスクロール可能な行を始めとして先頭からカウントされます (見出しはカウントされません)。列番号は、現在の表示ウィンドウの左側の列を始めとして左から右に向かってカウントされます。

ユーザーの処置: CEXPAND で使用する有効なパラメーターのカウントを指定してください。

FEC995E Invalid column number.

説明: CEXPAND が無効なパラメーターであるゼロを指定して発行されました。CEXPAND は、パラメーターなしでカーソルをデータ・フィールドに配置して発行するか、2 つのパラメーターを指定して発行することができます。2 つのパラメーターは行番号で、その後に拡張するデータ・エレメントの列番号が続きます。行番号は、最初のスクロール可能な行を始めとして先頭からカウントされます (見出しはカウントされません)。列番号は、現在の表示ウィンドウの左側の列を始めとして左から右に向かってカウントされます。

ユーザーの処置: CEXPAND で使用する有効なパラメーターのカウントを指定してください。

FEC996E Invalid digits.

説明: CEXPAND が無効なパラメーターであるゼロを指定して発行されました。CEXPAND は、パラメーターなしでカーソルをデータ・フィールドに配置して発行するか、2 つのパラメーターを指定して発行することができます。2 つのパラメーターは行番号で、その後に拡張するデータ・エレメントの列番号が続きます。行番号は、最初のスクロール可能な行を始めとして先頭からカウントされます (見出しはカウントされません)。列番号は、現在の表示ウィンドウの左側の列を始めとして左から右に向かってカウントされます。

ユーザーの処置: CEXPAND で使用する有効なパラメーターのカウントを指定してください。

FEC997E Too many digits.

説明: CEXPAND が無効なパラメーターであるゼロを指定して発行されました。CEXPAND は、パラメーターなしでカーソルをデータ・フィールドに配置して発行するか、2 つのパラメーターを指定して発行することができます。2 つのパラメーターは行番号で、その後に拡張するデータ・エレメントの列番号が続きます。行番号は、最初のスクロール可能な行を始めとして先頭からカウントされます (見出しはカウントされません)。列番号は、現在の表示ウィンドウの左側の列を始めとして左から右に向かってカウントされます。

ユーザーの処置: CEXPAND で使用する有効なパラメーターのカウントを指定してください。

FEC998E Zero parameter invalid.

説明: CEXPAND が無効なパラメーターであるゼロを指定して発行されました。CEXPAND は、パラメーターなしでカーソルをデータ・フィールドに配置して発行するか、2 つのパラメーターを指定して発行することができます。2 つのパラメーターは行番号で、その後に拡張するデータ・エレメントの列番号が続きます。行番号は、最初のスクロール可能な行を始めとして先頭からカウントされます (見出しはカウントされません)。列番号は、現在の表示ウィンドウの左側の列を始めとして左から右に向かってカウントされます。

ユーザーの処置: ゼロ以外のパラメーターを指定してください。

FEC999E Invalid parameter count: must be either two or zero parms.

説明: CEXPAND が無効な数のパラメーターを指定して発行されました。CEXPAND は、パラメーターなしでカーソルをデータ・フィールドに配置して発行するか、2 つのパラメーターを指定して発行することができ

ます。2つのパラメーターは行番号で、その後に拡張するデータ・エレメントの列番号が続きます。行番号は、最初のスクロール可能な行を始めとして先頭からカウントされます (見出しはカウントされません)。列番号は、現在の表示ウィンドウの左側の列を始めとして左から右

に向かってカウントされます。

ユーザーの処置: CEXPAND で使用する有効なパラメーターのカウントを指定してください。

Tools Customizer のトラブルシューティング

Tools Customizer で発生する問題に対して、この情報を使用して、診断および訂正を行います。

診断情報の収集

Tools Customizer の問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告する前に、適切な診断情報を収集する必要があります。

手順

Tools Customizer のすべての問題について、以下の情報を提供してください。

- 問題の分かりやすい説明と、問題を再現するために必要な手順
- 関連する画面キャプチャー
- 問題の結果として発行されたすべてのメッセージ
- 製品のリリース番号、および最後にインストールされたプログラム一時修正 (PTF) の番号
- 使用している DB2 のバージョン、および使用しているオペレーティング・システムのタイプとバージョン
- Tools Customizer のトレース・データ・セット
- Tools Customizer のデータ・ストア・データ・セットおよび *high_level_qualifier.SCCQTENU* データ・セット

トレース・データ・セット名の判別

トレース・データ・セットを割り振ることができない場合、トレース・データ・セットのスペースが不足する場合、または IBM ソフトウェア・サポートが要求する場合、トレース・データ・セットの名前を識別する必要があります。

トレース・データ・セットの名前は、TSO プロファイル内の接頭部設定によって決まります。トレース・データ・セットの名前を識別するには、接頭部の設定を知っておく必要があります。

- PREFIX が設定される場合、トレース・データ・セットの名前は *prefix.CCQ.TRACE* です。ここで、*prefix* は、プロファイルで指定した TSO 接頭部です。
- NOPREFIX が設定される場合、トレース・データ・セットの名前は *user_ID.CCQ.TRACE* です。ここで、*user_ID* はご使用の TSO ユーザー ID です。

サポート用の診断情報

問題が発生して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡を取る必要がある場合は、サポートに連絡する前に Accelerator Loader システムと問題に関する特定の情報を収集する必要があります。サポート担当員が問題を正しく診断して解決するために、この情報が必要です。

以下のタイプの診断情報をサポートに提供してください。

- Accelerator Loader のバージョン。
- システムに適用された最新の Accelerator Loader APAR または PTF の ID。
- オペレーティング・システムのタイプ、バージョン、およびメンテナンス・レベル。
- DB2 のバージョン、および DB2 データ共有を使用しているかどうか。
- Accelerator Loader 開始タスクからのすべての出力。
- (DSNUTILB インターセプト・ユーザーのみ) 問題が発生した DB2 ユーティリティの実行に関するすべての出力
- (バッチ・インターフェース・ユーザーのみ) Accelerator Loader バッチ・ジョブからのすべての出力。
- (ISPF インターフェース・ユーザーのみ) 問題が発生したときにインターフェース内で実行していたアクティビティの説明 (例えば、可能な場合は、該当する ISPF パネルの画面キャプチャーなど)。さらに、インターフェースを使用していた TSO ユーザーのログの内容を提供してください。
- ストアード・プロシージャのアドレス・スペースからの出力すべて。
- サポートから依頼されたダンプの完全な内容。 11-513 ページの『診断用のダンプの生成』を参照してください。
- Accelerator Loader サーバーからの出力すべて。
- 問題に関するサーバー・トレース・データ。
- 問題に関係している可能性のある z/OS システム・ログ内のメッセージ。

サポート担当員が、この情報を送信するための手順を示します。

関連タスク:

10-86 ページの『サーバー・ログからの項目の出力』

サーバー・ログ項目を ISPF リスト・データ・セットに出力するには、P、PP、および SS コマンドを使用します。

5-23 ページの『サーバー・トレースの使用』

「**Server Trace**」ビューを使用して、トラブルシューティングのためにサーバー操作を記録し、表示します。

関連情報:

10-78 ページの『サーバー・トレース情報の表示』

Accelerator Loader サーバーは、個々のトランザクションの存続時に重要なイベントを記録できる強力な診断ツールを提供します。この情報は、問題の診断、デバッグ、および修正に使用できます。

診断用のダンプの生成

報告する問題をサポートが診断するための参考として、ダンプを提供する必要があることがあります。

このタスクについて

z/OS システム上で一度に要求するダンプは 1 つのみにしてください。SDATA オプションの説明など、DUMP コマンドについては、IBM 資料「MVS システム・コマンド」を参照してください。

手順

1. JCL には、ダンプの生成をシステムに指示する SYSMDUMP DD ステートメントが含まれています。
2. 外部からのロード機能に関連した問題については、以下のようにします。
 - 開始タスクのアドレス・スペースのみのシステム・ダンプを生成する場合は、z/OS コンソールから以下の Modify オペレーター・コマンドを発行できます。

```
F started_task_name,DUMP
```

ここで、*started_task_name* は Accelerator Loader 開始タスク構成の名前です。

- 複数のアドレス・スペースのシステム・ダンプを生成する場合は (例えば、開始タスクと、使用しているユーザー・インターフェースのアドレス・スペースのダンプ)、z/OS コンソールから MVS DUMP コマンドを以下のように発行します。

```
DUMP COMM=(dump_title)
R id,JOBNAME=(name1,name2,...),SDATA=(CSA,LPA,LSQA,PSA,RGN,SUM,SWA,TRT)
```

ただし、以下のとおりです。

- *dump_title* は、ダンプに割り当てる名前です。
- *id* は、システム・メッセージ IEE094D に指定される応答識別番号です。
- *name2,name2, ...* は、ダンプを生成する Accelerator Loader アドレス・スペースを識別する値です。名前値は以下のいずれかです。
 - 開始タスク名 (開始タスクのアドレス・スペースのダンプを生成する場合)
 - バッチ・ジョブ名 (バッチ・インターフェース・ジョブ、または DSNUTILB バッチ・ジョブのダンプを生成する場合)
 - ISPF インターフェース・ユーザーの TSO ユーザー ID (ISPF インターフェース・アドレス・スペースのダンプを生成する場合)
- SDATA は、ダンプを生成する特定のストレージ・エリアを示すオプションを指定します。

次のタスク

ダンプを生成した後、サポートに送信します。サポート担当員が送信手順の説明を行います。

ジョブが失敗した後の共通ストレージのクリーンアップ

カスタマイズ中、「Product Parameters」パネルでステップ「**Create repository maintenance members**」を選択すると、Tools Customizer は SAMPLIB 内にいくつかのジョブを生成します。これらのジョブの 1 つ、HLO#PIPE は、パイプ・クリーンアップ・ユーティリティ・プログラム HLOCOMCL を実行します。

一般に、パイプ・クリーンアップ・ユーティリティの実行は必要ありません。表が実際に別の Accelerator Loader ジョブによって同時にロードされているかどうかの判別は、Accelerator Loader が行います。該当しない場合は、Accelerator Loader が共通ストレージをクリーンアップし、ジョブを終了したりエラーを発行したりすることはありません。

ただし、場合によっては、Accelerator Loader ジョブが失敗して共通ストレージがクリーンアップされていないときに、データ・パイプに関するエラーを防ぐために、パイプ・クリーンアップ・ユーティリティを実行して共通ストレージをクリーンアップする必要があることがあります。

以下のメッセージは、パイプ・クリーンアップ・ユーティリティを実行する必要がある状況を示している可能性があります。

- メッセージ「HLOU5700E: Error from call to HLOPIPE from HLOUSE35 Function=01 RC=03」の中の「Function=01 RC=03」
- HL03623E: A table was specified that was already being loaded.

注: 同じ表に対して別のジョブが実行されている可能性があります。この場合は、パイプ・クリーンアップ・ユーティリティを実行しないでください。実行すると、他のジョブが破壊されます。HLO#PIPE にはリスクが伴うため、IBM ソフトウェア・サポートから指示があった場合のみ実行してください。

表の共通ストレージのクリーンアップ

パイプ・クリーンアップ・ユーティリティを使用して、SSID 内の個々の表に関連する共通ストレージをクリーンアップできます (つまり、指定した表のみをストレージから削除して、他の共通ストレージはすべて保存する)。Accelerator Loader ジョブでエラー「HL03623E: A table was specified that was already being loaded」が繰り返し出る場合に、パイプ・クリーンアップ・ユーティリティを使用してこのタスクを実行することが役立つ可能性があります。同じ指定された表を参照していない限り、他の Accelerator Loader が破壊されることはありません。

1 つの表に関連する共通ストレージをクリーンアップするには、以下の例に示すように、HLO#PIPE を編集して表の作成者と名前を指定します。*creator.tablename* の最大文字数は 128 で、列 72 を越えることはできません。列 1 で次の行に継続してください。特殊文字は必要ありません。

```
//TABLE DD *  
creator.tablename  
/*
```

ジョブの共通ストレージのクリーンアップ

パイプ・クリーンアップ・ユーティリティを使用して、失敗した特定の Accelerator Loader ジョブの実行に関連する共通ストレージをクリーンアップでき

ます。ジョブが異常終了した場合に、この ABEND が原因でエラー「HL03623E: A table was specified that was already being loaded.」が発生したことがわかっていれば、パイプ・クリーンアップ・ユーティリティーを使用してこのタスクを実行することが役立つ可能性があります。指定したジョブが現在実行されていない限り、他の Accelerator Loader ジョブが破壊されることはありません。

1 つのジョブに関連する共通ストレージをクリーンアップするには、HLO#PIPE を編集して、以下の例に示す順序でジョブ ID とジョブ名を指定します。この例では、#jobid# は SDSF 出力ジョブ番号です。

```
//JOB DD *  
#jobid#  
#jobname#  
/*
```

DSNUTILB インターセプトの管理

いくつかのルーチンと臨時タスクを実行すると、DSNUTILB インターセプトを管理できます。

ルーチン・ベースで、ユーティリティー処理からのメッセージを調べて、DSNUTILB インターセプトが行われたかどうか、および Accelerator Loader バッチ・ジョブが正しく処理されたかどうかを確認します。場合によっては、他のタスクを実行できます。例えば、インターセプトの活動化状況の確認、インターセプト問題の診断、インターセプトが発生したユーティリティーの終了、および関連したワーク・リスト・データのクリーンアップ、または正常な DB2 再始動が失敗した場合の適切な時点からのユーティリティーの再始動などです。

関連概念:

12-58 ページの『コンポーネントおよび構造』

Accelerator Loader は、z/OS システム上の開始タスクとして実行されます。開始タスクは DB2 と通信して、製品機能を実行し、製品のアクティビティーに関する情報を DB2 表に保管します。

2-13 ページの『DB2 データ共用環境に関する考慮事項』

DB2 データ共用環境に Accelerator Loader をデプロイする前に、開始タスク hloidPROC に関するデプロイメントと構成の問題に関する情報を検討してください。

9-25 ページの『外部ファイルからのロード』

Accelerator Loader は、Analytics Accelerator のロード処理を拡張する DB2 LOAD ユーティリティーのオプションを提供しています。これらのオプションは、ネイティブの DB2 LOAD ユーティリティーに備わっているものに追加して提供されます。これらのオプションは、データがロードされる前に LOAD ユーティリティーの入力レコード内のデータを操作します。

関連タスク:

3-49 ページの『WLM アプリケーション環境の設定 (必須)』

このカスタマイズ・ステップは、Accelerator Loader 開始タスクが DSNUTILB インターセプト・サービスを実行するために必要です。

DSNUTILB インターセプト処理が発生したかどうかの確認

DB2 LOAD ユーティリティに対して予想したとおりに DSNUTILB インターセプト処理が発生したかどうかを確認できます。これを行うには、ユーティリティー・ジョブの SYSPRINT データ・セットおよび Accelerator Loader 開始タスクの SYSPRINT データ・セットに組み込まれている Accelerator Loader メッセージを調べます。SDSF またはこれに相当するツールを使用して、この情報を表示します。

DB2 ユーティリティーの SYSPRINT データ・セット内のメッセージ

以下の表では、DB2 ユーティリティーの SYSPRINT データで発生する可能性がある DSNUTILB インターセプトに関する主な Accelerator Loader メッセージについて説明しています。インターセプト処理が予定どおりに完了したかどうかを確認するには、これらのメッセージを探してください。これらのメッセージは、SYSPRINT データ・セットに表示される順に説明されています。

ワーク・リスト・ステップ (ユーティリティー・コマンド) に対して発行されるメッセージは、多くの場合、対になっています。最初のメッセージは、ワーク・リスト・ステップのステップ番号を示し、2 番目のメッセージは、そのワーク・リスト・ステップの戻りコードを示します。8 未満の戻りコードは無視され、DSNUTILB インターセプト処理が続行します。8 以上の戻りコードは、エラーが発生し、DSNUTILB インターセプト処理が異常終了したことを示します。スレッド取り消し処理に関連するメッセージ内の戻りコードは、DSNUTILB インターセプトまたはバッチ・インターフェースのいずれかからのものです。インターセプトは、インターセプト処理中にバッチ・インターフェースを呼び出します。

表 11-1. ユーティリティー SYSPRINT データ・セット内のインターセプト・メッセージ

メッセージ	説明
HLOU5001I <i>date time</i> Accelerator Loader <i>product_version</i> , FMID= <i>product_fm</i> id, COMP_ID= <i>product_comp</i> id	指定されたバージョンの製品がインストールされ、インターセプト処理に必要な DSNUTILF モジュールが使用可能です。
HLOU5012I <i>date time</i> Connected to started task HLOID= <i>configuration_id</i> HLOU5002I <i>date time</i> Initialization is complete.	DSNUTILB インターセプトは、指定の Accelerator Loader 開始タスク構成に接続され、初期化を完了しました。
HLOU5340E <i>date time</i> Worklist in use by another utility ID= <i>utility_ID</i>	指定されたユーティリティー ID のワーク・リストが既に存在し、別のユーティリティー・ジョブで現在使用中であるため、DSNUTILB インターセプトを行うことができません。この場合、詳しくは、開始タスクの SYSPRINT データ・セットで HLOS5113I メッセージを参照してください。

表 11-1. ユーティリティー *SYSPRINT* データ・セット内のインターセプト・メッセージ (続き)

メッセージ	説明
HLOU5004I <i>date time</i> Analysis started. Step= <i>step_number</i> HLOU5005I <i>date time</i> Analysis completed. RC= <i>return_code</i>	Accelerator Loader は、指定されたワーク・リスト・ステップに対する分析段階を開始してから、指定された戻りコードで分析段階を完了しました。この戻りコードは DSNUTILB インターセプトから発行されます。
HLOU5008I <i>date time</i> Utility execution started. Step= <i>step_number</i> HLOU5009I <i>date time</i> Utility execution completed. RC= <i>return_code</i>	指定されたワーク・リスト・ステップに関連付けられている DB2 ユーティリティー・コマンドが、実行を開始しました。このユーティリティー・コマンドは、指定された戻りコードを出して実行を完了しました。これらのメッセージは、元の DSNUTILB SYSIN ストリーム内のユーティリティー・コマンドごとに発行されます。 HLOU5009I 内の戻りコードは、DB2 ユーティリティーまたは DSNUTILB インターセプトのいずれかからのものです。インターセプトの戻りコードが使用されるのは、1) 8 以上であり、2) ユーティリティーの戻りコードと等しいか、それより大きい場合です。ワーク・リスト・ステップに対していずれかの HLOU5009I メッセージで提供される最も大きな戻りコードは、ユーティリティー・ジョブ全体に対する戻りコードです。
HLOU5003I <i>date time</i> Accelerator Loader intercept completed.	DSNUTILB インターセプトは、ユーティリティーのインターセプト処理を完了しました。

元の DSNUTILB SYSIN ストリームを変更するユーティリティーの機能強化 (LOAD ユーティリティーの追加オプション) の場合、拡張 DSNUTILB SYSIN ストリームを提示するために、メッセージ HLOU5330、HLOU5331、および HLOU5332 も、*SYSPRINT* データ・セットに書き込まれます。SYSIN が正しく処理されたかどうかを確認するには、ユーティリティーのこの SYSIN ストリームを後続の DSNUTILB メッセージと比較してください。

開始タスクの **SYSPRINT** データ・セット内のメッセージ

以下の表では、開始タスクの *SYSPRINT* データ・セットで発生する可能性がある DSNUTILB インターセプト処理に関する主なメッセージについて説明しています。

表 11-2. 開始タスク SYSPRINT データ・セット内のインターセプト・メッセージ

メッセージ	説明
HLOS0101I <i>date time</i> TCB: <i>tcb_address</i> Session created. SESS: <i>session_token-session_number-session_type-session_job_name-session_job_ID-session_asid-session_user</i>	DSNUTILB インターセプト処理用の Accelerator Loader セッションが作成されました。DSNUTILB インターセプトのセッションのセッション・タイプは「U」です。
HLOS5100I <i>date time</i> TCB: <i>tcb_address</i> Session: <i>session_token</i> SSID: <i>ssid</i> DSNUTILB utility id : <i>utility_id</i> * <i>message_continuation_number</i> *	ユーティリティ ID の DSNUTILB 処理中にエラーが発生した場合、メッセージ HLOS5111E が、インターセプト処理に関する詳細情報を提供するメッセージ HLOS5100I および HLOS5101I と一緒に発行されます。
HLOS5101I <i>date time</i> * <i>message_continuation_number</i> * DSNUTILB intercept operation is <i>operation_name</i>	
HLOS5113I <i>date time</i> * <i>message_continuation_number</i> * Worklist is in use by another utility. Owning Session: <i>session_token</i>	同じユーティリティ ID でワーク・リストが既に使用中であるために障害が発生した場合、HLOS5113I メッセージも発行されます。この場合、前の HLOS0101I メッセージを参照してください。このメッセージには、ワーク・リストを現在使用しているユーティリティ・ジョブのジョブ名とジョブ ID を判別するための、一致するセッション・トークン値が含まれています。
HLOS5111E <i>date time</i> * <i>message_continuation_number</i> * DSNUTILB intercept operation failed	

DSNUTILB インターセプト状況の表示

z/OS コンソール・コマンドを指定することにより、開始タスクに割り振られた SYSPRINT データ・セットに DSNUTILB インターセプト状況 (有効または無効) を書き込むことができます。この機能は、現在のインターセプト状況を素早く確認する必要があるときに有用です。

手順

現在のインターセプト状況を表示するには、z/OS コンソールから以下の Modify オペレーター・コマンドを指定します。

```
F hlostc,DISPLAY INTERCEPT[,GLOBAL|ALL]
```

ここで *hlostc* は、システム PROCLIB 内の Accelerator Loader PROC のメンバー名です。

SDSF を使用する場合は、以下のように Modify コマンドの前にスラッシュ (/) を追加します。

```
/F hlostc,DISPLAY INTERCEPT[,GLOBAL|ALL]
```

オプションの GLOBAL パラメーターまたは ALL パラメーターを指定せずにコマンドを発行すると、コマンドは指定された開始タスクのみに対して設定されたローカル状況を表示します。GLOBAL パラメーターを指定すると、コマンドは z/OS イメージ全体に対して設定されたグローバル・インターセプト状況を表示します。ALL パラメーターを指定すると、コマンドはすべての情報を SYSPRINT データ・セ

ットに書き込みます。書き込まれる情報は、ローカル・インターセプト状況、グローバル・インターセプト状況、および DSNUTILB インターセプトが発生する DB2 SSID のリスト (インターセプト処理に関係する開始タスクの HLOID (構成 ID) を含む) です。

タスクの結果

コマンドを発行した後、開始タスクの SYSPRINT データ・セットにナビゲートして、コマンド出力を表示します。

例

以下の例では、**DISPLAY INTERCEPT,ALL** コマンドから出されたメッセージを表示します。これらのメッセージは、ローカル・インターセプト状況、グローバル・インターセプト状況、および DSNUTILB インターセプトが発生する単一のサブシステムの SSID を示しています。

```
HLOS0814I date_timestamp Command issued: DISPLAY INTERCEPT,ALL
HLOS0817I date_timestamp LOCAL DSNUTILB intercept status is: ENABLED
HLOS0817I date_timestamp GLOBAL DSNUTILB intercept status is: ENABLED
HLOS0822I date_timestamp DB2 SSID=DBP1 810 HLOID=HL001 DSNUTILB interception is installed
```

インターセプトが発生した DB2 ユーティリティーの終了

DSNUTILB インターセプト処理が発生している、または発生した DB2 ユーティリティーを終了する必要がある場合は、Accelerator Loader が提供する HLOMAINT ユーティリティーを使用して終了してください。

このタスクについて

HLOMAINT ユーティリティーは、特定のユーティリティー ID に対して DB2 -TERM UTILITY コマンドを発行するとともに、Accelerator Loader リポジトリー内のすべてのインターセプト・ワーク・リスト表から、そのユーティリティー ID を含むワーク・リスト行を削除します。

代わりに DB2 -TERM UTILITY コマンドを手動で発行する場合でも、*hloidMAINT* ユーティリティーを実行して、終了したユーティリティー (ユーティリティー ID) のデータをワーク・リスト表から削除する必要があります。終了したユーティリティーのデータがワーク・リスト表に残っている場合にユーティリティーを再始動すると、DSNUTILB インターセプトは、ワーク・リスト表に示されている現行ワーク・リスト・ステップの最初からユーティリティー処理を再開しようとします。

手順

1. Accelerator Loader 開始タスクが実行されていて、Accelerator Loader の DB2 プランが、DB2 ユーティリティーの実行対象のサブシステムにバインドされていることを確認してください。
2. HLOMAINT ユーティリティーの JCL を以下のようにカスタマイズします。この JCL は、*hlq.mlq.SHLOSAMP* ライブラリーの *hloidMNT* メンバー (ここで、*hloid* は Accelerator Loader 構成 ID) 内にあります。

要確認: Tools Customizer は、定義する開始タスク構成ごとに別個の *hloidMNT* メンバーを作成します。

- a. 必要な場合は、ジョブ・カードを追加します。 Tools Customizer を実行したときにジョブ・カード・テンプレートを指定した場合は、そのジョブ・カード情報が既に設定されています。
- b. EXEC ステートメント内で、PARM に以下のオプションを設定します。

```
PARM='hloid,#FUNCTION#,#DB2SSID#,#UTILITY_ID#'
```

ここで、

- *hloid* は、DSNUTILB インターセプトを実行するために使用する Accelerator Loader 開始タスクの構成 ID です。この値は、ユーザーがカスタマイズ時に Tools Customizer 内で指定したもので、Tools Customizer がこの値を自動的に挿入します。
 - #FUNCTION# は TERM_UTILITY (DB2 ユーティリティを終了してワーク・リスト表をクリーンアップする機能の名前) という値にする必要があります。
 - #DB2SSID# は、DB2 ユーティリティを実行する対象の DB2 サブシステムのサブシステム ID (SSID) を表します。
 - #UTILITY_ID# は、DB2 ユーティリティの DB2 ID (UTILID) を表します。
- c. STEPLIB DD ステートメント内で、HLOLOAD ライブラリーの高位修飾子 (?HLQ?) と中位修飾子 (?MLQ?) を指定します (必要な場合)。 Tools Customizer がこれらの値を自動的に挿入済みです。

3. HLOMAINT ジョブを実行依頼します。

タスクの結果

HLOMAINT ユーティリティは、DB2 ユーティリティを終了し、ユーティリティ ID に関連したすべてのデータをワーク・リスト表から削除します。

特殊な状況での DB2 ユーティリティの再始動

状況によっては、Accelerator Loader HLOMAINT ユーティリティを使用して、ユーティリティの処理を正しく再開できます。

このタスクについて

DSNUTILB インターセプトの対象の DB2 ユーティリティが異常終了した場合でも、DB2 は通常、ユーティリティの再始動時に適切なポイントからユーティリティ処理を再開でき、特別なユーザー介入は必要ありません。ただし、アクセラレーターにデータをロードするために Accelerator Loader が LOAD ユーティリティをインターセプトしているときに、LOAD ユーティリティが何らかの理由で失敗した場合は、ワーク・リスト・テーブル内のユーティリティ ID も再始動する必要があります。

例えば、Accelerator Loader 開始タスクまたは DB2 の異常終了などのイベントが発生したために DB2 ユーティリティが終了したとき、Accelerator Loader がインターセプト・ワーク・リスト表のワーク・リスト・ステップ内で最後のユーティリティ・コマンド操作の状況をまだ記録していなかった場合は、HLOMAINT ユーティリティの使用を検討してください。この状況では、HLOMAINT ユーティリティを使用して、現行ワーク・リスト・ステップ内で最後のユーティリ

ー・コマンド操作、現行ワーク・リスト・ステップ内で次の操作、または次のワーク・リスト・ステップから、ユーティリティ処理を再開できます。

手順

1. Accelerator Loader 開始タスクが実行されていて、Accelerator Loader の DB2 プランが、DB2 ユーティリティの実行対象のサブシステムにバインドされていることを確認してください。
2. HLOMAINT ユーティリティの JCL を以下のようにカスタマイズします。この JCL は、*hlq.mlq.SHLOSAMP* ライブラリーの *hloidMNT* メンバー (ここで、*hloid* は Accelerator Loader 構成 ID) 内にあります。

要確認: Tools Customizer は、定義する開始タスク構成ごとに別個の *hloidMNT* メンバーを作成します。

- a. 必要な場合は、ジョブ・カードを追加します。Tools Customizer を実行したときにジョブ・カード・テンプレートを指定した場合は、そのジョブ・カード情報が既に設定されています。
- b. EXEC ステートメント内で、PARM に以下のオプションを設定します。

```
PARM='hloid,#FUNCTION#,#DB2SSID#,#UTILITY_ID#'
```

ここで、

- *hloid* は、DSNUTILB インターセプトを実行するために使用する Accelerator Loader 開始タスクの構成 ID です。この値はカスタマイズ時に設定済みです。
- #FUNCTION# は、使用する再始動機能を示す、以下のリテラル値のいずれかにする必要があります。
 - FORCE_RESTART - 現行ワーク・リスト・ステップ内で最後のユーティリティ・コマンド操作 (ユーティリティの異常終了時に状況が記録されなかった操作) の状況を設定します。これにより、ユーティリティがその操作から強制的に再始動されます。
 - MARK_COMPLETE - 現行ワーク・リスト・ステップ内で最後のユーティリティ・コマンド操作 (完了したが、ユーティリティの終了時に完了として記録されなかった操作) の状況を完了に設定します。Accelerator Loader は、ユーティリティ・コマンド操作が正常に完了したことを前提とします。DB2 ユーティリティを再始動すると、現行ワーク・リスト・ステップ内で次の操作の最初からインターセプト処理が再開されます。
 - STEP_ADVANCE - 現行ワーク・リスト・ステップの状況を完了に設定します。DB2 ユーティリティを再始動すると、次のワーク・リスト・ステップの最初からインターセプト処理が再開されます。この機能を指定するには、そのワーク・リスト・ステップの状況が完了に設定される前に現在のワーク・リスト・ステップでインターセプト処理が完了していなかった、必要なすべての操作をユーザーが手動で実行する準備ができている必要があります。例えば、REORG TABLESPACE ユーティリティのために作成されたマッピング表とマッピング表索引を手動でドロップしたり、スレッドがブロックされた DB2 オブジェクトのアクセス状況をリセットしたりする必要があります。

- TERM_UTILITY - ユーティリティを再始動する代わりに終了します。詳しくは、11-519 ページの『インターセプトが発生した DB2 ユーティリティの終了』を参照してください。
 - #DB2SSID# は、DB2 ユーティリティを実行する対象の DB2 サブシステムのサブシステム ID (SSID) を表します。
 - #UTILITY_ID# は、DB2 ユーティリティの DB2 ID (UTILID) を表します。
- c. STEPLIB DD ステートメント内で、HLOLOAD ライブラリーの高位修飾子 (?HLQ?) と中位修飾子 (?MLQ?) を指定します (必要な場合)。Tools Customizer がこれらの値を自動的に挿入済みです。
3. HLOMAINT ジョブを実行依頼します。
4. HLOMAINT ジョブが完了した後、DB2 ユーティリティを再始動します。指定した機能に基づいて、ユーティリティが処理を再開します。

関連概念:

7-1 ページの『外部ファイルからのロードの制約事項と考慮事項』
外部ファイルからデータをロードする前に、使用に関する制約事項と考慮事項を検討してください。

Accelerator Loader スタジオおよび Accelerator Loader サーバーのトラブルシューティング

この情報を使用して、Accelerator Loader スタジオと Accelerator Loader サーバーの使用時に生じる問題を診断し、修正してください。

スタジオの問題のトラブルシューティング

スタジオ・メッセージがサーバーのトレース出力に含まれるようにするには、スタジオに対してサーバー・トレースを有効にしたことを確認してください。詳細は、5-23 ページの『サーバー・トレースの使用』を参照してください。

サーバーの問題のトラブルシューティング

Accelerator Loader サーバーは、問題の診断、デバッグ、および修正に使用できる診断ツールと情報を提供しています。詳しくは、10-78 ページの『サーバー・トレース情報の表示』を参照してください。

ネットワーク接続の変更

仮想表またはソース・ライブラリーを作成しようとして失敗し、エラー・メッセージ HTTP 401/403 が出された場合は、ネットワーク接続を変更すると問題が解決することがあります。

このタスクについて

「Active Providers」は、接続を開く際に使用されるプロファイルを制御します。値は以下のとおりです。

- **Native** (デフォルト): オペレーティング・システム (OS) 内で検出された設定が使用されます。OS にプロキシ設定が存在する場合は、URL 要求がサーバーの検出に失敗する可能性があります。
- **Direct**: 接続はプロキシ・サーバーを使用せずに開かれます。
- **Manual**: Eclipse 内で定義されている設定が使用されます。

手順

1. 「**Window**」メニューから、「**Preferences**」>「**General**」>「**Network Connections**」>「**Active Providers**」を選択します。
2. 「**Direct**」を選択します。

関連概念:

5-29 ページの『設定』

「Preferences」では、いくつかの Accelerator Loader 設定をカスタマイズできます。

Unicode がインストールされていることの確認

Accelerator Loader サーバーは、変換のために Unicode を必要とします。

手順

1. 使用可能な変換の状況、および変換サービスが初期化済みかどうかを表示するには、以下の MVS システム・コマンドを発行します。

```
/D UNI, A11
```

以下のような出力が表示されます。

```
CUN3000I 11.36.02 UNI DISPLAY 277
ENVIRONMENT:      CREATED      01/13/2006 AT 14.52.07
                  MODIFIED     01/13/2006 AT 14.52.09
                  IMAGE CREATED 02/16/2005 AT 10.13.49
SERVICE: CHARACTER CASE NORMALIZATION COLLATION
STORAGE: ACTIVE    427 PAGES
          LIMIT     1564 PAGES
CASECONV: NORMAL
NORMALIZE: DISABLED
COLLATE: DISABLED
CONVERSION: 00037-00437-E      00037-00437-R
             00037-00819-R      00037-01041-E
             00037-01041-R      00037-00367-E
             00037-00930-RE     00037-01200(13488)-R
             00037-01208-R      00300-00301-E
             00939-00942-RE     00939-01208-R
             01027-00367-E      01027-01200(13488)-R
             01027-01208-R      01027-01041-E
             01027-01041-R      01027-00930-RE
             01047-00367-E      01047-01200(13488)-R
01047-01208-R                01047-00437-E
             01047-00437-R      01047-00819-R
             01047-00930-RE     00301-00300-E
             00301-01200(13488)-R 00942-00939-RE
01047-01208-R                00437-00037-E
             00437-00037-R      00437-01047-E
             00437-01047-R      01041-00037-E
             01041-00037-R      01041-01027-E
             01041-01027-R      00437-00367-E
             00437-00930-RE     00437-01200(13488)-R
             00437-01208-R      00819-00037-R
             00819-01047-R      00819-00367-E
```

00819-00930-RE	00819-01200(13488)-R
00819-01208-R	00930-00037-RE
00930-01047-RE	00930-00437-RE
00930-00819-RE	00930-00367-R
00930-01200-R	00930-01208-R
00367-00037-E	01200(13488)-00037-E
01208-00037-E	00367-00930-RE
01200-00930-E	01208-00930-E
00367-01027-E	01200(13488)-01027-E
01208-01027-ER	00367-01047-E
01200(13488)-01047-E	01200(13488)-00300-E
01200(13488)-00301-E	01208-01047-E
01208-00939-E	01208-00942-E
00367-00437-E	01200(13488)-00437-E
01208-00437-E	00367-00819-E
01200(13488)-00819-E	01208-00819-E
01208-00367-ER	00367-01208-R
01200-01208-ER	01208-01200-ER

2. 出力の中で、Unicode に対応する以下のコード変換ページを見つけてください。これらは、Accelerator Loader サーバーが使用するデフォルトです。

- 1208 から 1047
- 1047 から 1208

変換 CCSID 表

Accelerator Loader サーバーは、多文化サポートを提供します。

サイトで使用されるコード化文字セット ID (CCSID) を指定します。以下の表に、サーバーがデフォルトで提供する CCSID と、変換技法をリストします。

表 11-3. 変換 CCSID

ソース CCSID	ターゲット CCSID	技法
00037	00367	E
00037	00367	E
00037	00367	ER
00037	00437	E
00037	00437	ER
00037	00437	R
00037	00819	ER
00037	00819	R
00037	00930	RE
00037	01041	E
00037	01041	R
00037	01200	ER
00037	01200	R
00037	01208	ER
00037	01208	R
00300	00301	E
00301	00300	E
00301	01200	R
00367	00037	E

表 11-3. 変換 CCSID (続き)

ソース CCSID	ターゲット CCSID	技法
00367	00037	ER
00367	00437	E
00367	00437	ER
00367	00819	E
00367	00819	ER
00367	00930	RE
00367	01027	E
00367	01047	E
00367	01047	ER
00367	01208	ER
00367	01208	R
00437	00037	E
00437	00037	ER
00437	00037	R
00437	00367	E
00437	00367	ER
00437	00930	RE
00437	01047	E
00437	01047	ER
00437	01047	R
00437	01200	ER
00437	01200	R
00437	01208	ER
00437	01208	R
00819	00037	ER
00819	00037	R
00819	00367	E
00819	00367	ER
00819	00930	RE
00819	01047	ER
00819	01047	R
00819	01200	ER
00819	01200	R
00819	01208	ER
00819	01208	R
00930	00037	RE
00930	00367	R
00930	00437	RE
00930	00819	RE
00930	01047	RE

表 11-3. 変換 CCSID (続き)

ソース CCSID	ターゲット CCSID	技法
00930	01200	R
00930	01200	E
00930	01200	RE
00930	01208	R
00930	01208	E
00930	01208	RE
00939	00942	RE
00939	01208	R
00942	00939	RE
00942	01208	R
01027	00367	E
01027	00930	RE
01027	01041	E
01027	01041	R
01027	01200	R
01027	01208	R
01041	00037	E
01041	00037	R
01041	01027	E
01041	01027	R
01047	00367	E
01047	00367	ER
01047	00437	E
01047	00437	ER
01047	00437	R
01047	00819	ER
01047	00819	R
01047	00930	RE
01047	01200	ER
01047	01200	R
01047	01208	ER
01047	01208	R
01200	00037	E
01200	00037	ER
01200	00300	E
01200	00301	E
01200	00437	E
01200	00437	ER
01200	00819	E
01200	00819	ER

表 11-3. 変換 CCSID (続き)

ソース CCSID	ターゲット CCSID	技法
01200	00930	R
01200	00930	E
01200	00930	RE
01200	01027	E
01200	01047	E
01200	01047	ER
01200	01208	ER
01208	00037	E
01208	00037	ER
01208	00367	ER
01208	00367	ER
01208	00437	E
01208	00437	ER
01208	00819	E
01208	00819	ER
01208	00930	R
01208	00930	E
01208	00930	RE
01208	00939	E
01208	00942	E
01208	01027	ER
01208	01047	E
01208	01047	ER
01208	01200	ER

キャラクター・ディスプレイの問題の修正 (DRDA のみ)

使用する CCSID によっては、DRDA ソースに対してスタジオに間違った文字が表示される場合があります。問題を解決するには、必要な文字変換テーブルをロードするようにサーバーに指示します。

始める前に

- Unicode がインストールされていることを確認します (11-523 ページの『Unicode がインストールされていることの確認』を参照)。
- コード・ページがインストールされていることを確認します (11-524 ページの『変換 CCSID 表』を参照)。コード・ページがテーブルにリストされていない場合は、このタスクで説明されているとおりにコード・ページを追加します。
- キャラクター・ディスプレイの問題が生じているかどうか確認します。
 1. Accelerator Loader スタジオの「Server」ビューで、DRDA の SQL メタデータを表示します。「SQL」 > 「Data」 > 「Other Subsystems」を選択します。

- |
- | 2. ツリーをナビゲートする際に、名前の文字化けが発生する場合は、サーバー
- | がカタログ・データにアクセスする際に必要な文字変換を実行できなかった
- | 可能性があります。この問題を確認して、必要な CCSID 値を設定するに
- | は、サーバー・トレースを検討して以下のようなメッセージを探します。

| Assert Warning(UCSconvertCCSIDs): No matching UCS conversion -

| source CCSID *ccsid*, target CCSID *ccsid*

| 手順

- | 1. データ・セット *hlq.SHLVEXEC* のメンバー *hloidIN00* を見つけます (ここで、
- | *hloid* は、Tools Customizer を使用してカスタマイズされた Accelerator
- | Loader サーバー開始タスクの名前を表します)。
- | 2. DRDA データ・ソースのセクションを見つけて、以下のステートメントを追加
- | します。

| "DEFINE CONV SOURCE(*ccsid1*) TARGET(*ccsid2*) TECH(RE)"

| "DEFINE CONV SOURCE(*ccsid2*) TARGET(*ccsid1*) TECH(RE)"

| ここで

- | • ソースおよびターゲットの *ccsid1* と *ccsid2* は、サーバー・トレース・メッ
- | セージに表示される CCSID 値です。
- | • TECH は、変換に使用する技法を指定します。文字変換について詳しくは、
- | IBM Knowledge Center を参照してください。
- |

参照情報

以下の参照トピックでは、Accelerator Loader のカスタマイズと機能に関する情報にすぐにアクセスできます。

トピック:

- 『Tools Customizer のリファレンス』
- 12-8 ページの『Accelerator Loader の用語』
- 12-10 ページの『製品パネルのナビゲーション』
- 12-11 ページの『基本コマンド』
- 12-12 ページの『パネル・コマンドおよびフィールドのリファレンス』
- 12-58 ページの『コンポーネントおよび構造』
- 12-60 ページの『Accelerator Loader 開始タスクのコンソール・コマンド』
- 12-62 ページの『列表示機能 (CSETUP)』

Tools Customizer のリファレンス

Tools Customizer を使用する前に、Tools Customizer の用語、および Tools Customizer がカスタマイズ時に使用するデータ・セットを理解しておく必要があります。

Tools Customizer の用語およびデータ・セット

Tools Customizer を使用する前に、Tools Customizer の用語、および Tools Customizer がカスタマイズ時に使用するデータ・セットを理解しておく必要があります。

Tools Customizer の用語

Tools Customizer では、複数の固有の用語を使用します。Tools Customizer の使用を開始する前にこれらの用語を理解しておく必要があります。

製品およびコンポーネント

IBM Tool は、どのようにパッケージされるかによって、Tools Customizer 資料やインターフェースで製品と呼ばれるか、コンポーネントと呼ばれるかが決まります。スタンドアロン・エンティティとして注文される (つまり、ソリューション・パックに含まれていない) IBM Tool は、製品と呼ばれます。ソリューション・パックに含まれている IBM Tool は、コンポーネントと呼ばれます。一部の IBM Tools は両方の形式で入手可能であるため、同じ IBM Tool が、パッケージ方法に応じて、製品と呼ばれたりコンポーネントと呼ばれたりすることがあります。

DB2 エントリー

1 つ以上の DB2 エントリーで、DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズできます。DB2 エントリーは次のいずれかの項目にすることができます。

DB2 サブシステム

データ共有グループに含まれていないリレーショナル・データベース管理システム (RDBMS) の特殊なインスタンス。DB2 サブシステム名の例は DB01 です。

DB2 グループ接続名

TSO/バッチ接続、呼び出し接続機能 (CAF)、DL/I バッチ、ユーティリティ、およびリソース・リカバリー・サービス接続機能 (RRSAF) で総称接続名として使用される名前。グループ接続名の例は DSG1 です。

DB2 データ共有メンバー

システム間カップリング・ファシリティ (XCF) によってデータ共有グループに割り当てられる DB2 サブシステム。DB2 データ共有メンバー名の例は DB02 です。

Tools Customizer は、以下の DB2 エントリーのリストを維持します。

関連リスト

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けられている DB2 エントリーのリスト。カスタマイズする製品に DB2 エントリーが必要である場合、関連リスト内にある DB2 エントリーのみで DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズできます。DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズする場合、このリストは、「Customizer Workplace」パネルの「DB2 Entries, Associations, and Parameter Status」セクションに表示されます。

DB2 エントリーを関連リストに追加およびコピーすることができます。関連リストに DB2 エントリーを追加またはコピーすると、それらのエントリーは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けられます。

マスター・リスト

定義されているものの、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けられていない、すべての DB2 エントリーのリスト。Tools Customizer は、これらの DB2 エントリーに関する情報を、手動で作成されたエントリーから、または検出された他の製品のカスタマイズから取得します。関連リストから DB2 エントリーを除去すると、その DB2 エントリーはマスター・リストに追加されます。新しい DB2 エントリーを作成すると、そのエントリーはマスター・リストに追加されます。新しいエントリーを DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けると、そのエントリーはマスター・リストから除去され、関連リストに追加されます。マスター・リストは、「Associate a DB2 Entry for Product」パネルに表示されます。

関連リストに、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズしたい DB2 エントリーがない場合、マスター・リストにある既存のエントリーを関連リストに関連付けることができます。

新しい DB2 エントリーを作成し、既存のエントリーをマスター・リストにコピーすることができます。

高位修飾子

高位修飾子は、最低位修飾子を除くすべての修飾子であると見なされます。高位修飾子には中位修飾子が含まれます。

製品パラメーター

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に固有のパラメーター。これらのパラメーターは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition で定義され、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition で定義されるデータ・メンバー内に保管されます。

LPAR パラメーター

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のカスタマイズに必要な、ローカル LPAR 上のパラメーター。これらのパラメーターは、Tools Customizer によって定義され、LPAR パラメーター・データ・メンバー内に保管されます。

DB2 パラメーター

DB2 エントリーのパラメーター。これらのパラメーターは、Tools Customizer によって定義され、DB2 パラメーター・データ・メンバー内に保管されます。

構成

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするジョブの生成に使用する、パラメーター値および選択したタスクとステップの集合。

例えば、同じ DB2 エントリー上にテスト構成と実動構成を持つことができます。

状況タイプ

製品、LPAR、および DB2 エントリーの状況タイプ

カスタマイズしたい製品を指定すると、製品、LPAR、DB2 エントリーには、ある状況が付与されます。状況は、必須パラメーターが定義されているかどうかにより一部に基づきます。一部の製品では、LPAR パラメーターまたは DB2 パラメーターが必須でない場合があります。これらの場合、状況は「Not Required」です。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするには、すべての必須パラメーターが定義されなければなりません。

製品パラメーター、LPAR パラメーター、または DB2 パラメーターの必須パラメーターが定義されない場合、それらのパラメーターの状況は「Incomplete」です。パラメーターの値を定義するには、

それらを手動で編集するか、またはカスタマイズ・ジョブを生成し、パネルに表示されているすべての必須パラメーターの値を指定します。

すべての必須パラメーターの値が定義されると、状況は「Ready to Customize」になります。カスタマイズ・ジョブを生成できるのは、製品パラメーター、LPAR パラメーター、および DB2 Analytics Accelerator Loader DB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition がカスタマイズされる DB2 エントリーの DB2 パラメーターについて、すべての必須パラメーターが定義され、状況が「Ready to Customize」または「Customized」である場合のみです。

以下の表は、状況タイプの意味を示しています。各状況の定義は、パラメーターのタイプごとに異なります。

表 12-1. 製品、LPAR、および DB2 エントリーの状況タイプ

状況	製品	LPAR	DB2 エントリー
Incomplete	必須の製品パラメーターが定義されていません。あるいは、必須の製品パラメーターは定義されていますが、LPAR パラメーターまたは DB2 パラメーター (あるいはその両方) が定義されていません。	必須パラメーターが定義されていません。	必須パラメーターが定義されていません。
Discovered	製品パラメーターの定義が、製品の Discover EXEC を使用して検出されました。	該当せず	該当せず
Ready to Customize	必須の製品パラメーター、LPAR パラメーター、および DB2 パラメーターが定義され、LPAR および関連した 1 つ以上の DB2 エントリーの状況が「Ready to Customize」または「Customized」です。カスタマイズ・ジョブを生成できます。	必須の LPAR パラメーターが定義されているか、LPAR パラメーターが必須ではありません。	必須の DB2 パラメーターが定義されているか、DB2 パラメーターが必須ではありません。
Customized	ローカル LPAR でジョブがカスタマイズされています。	製品、またはローカル LPAR 上のすべての関連 DB2 エントリーに対してジョブがカスタマイズされています。	DB2 エントリーのジョブがカスタマイズされています。

表 12-1. 製品、LPAR、および DB2 エントリーの状況タイプ (続き)

状況	製品	LPAR	DB2 エントリー
Errors in Customization	該当せず	該当せず	カスタマイズ・ジョブの生成中にエラーが発生しました。
Not Required	該当せず	LPAR パラメーターは必須ではありません。	DB2 パラメーターは必須ではありません。

関連タスク:

3-22 ページの『DB2 エントリーの作成と関連付け』

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の場合、新しい DB2 エントリーを作成し、それらを DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition に関連付けることができます。

3-41 ページの『DB2 エントリーのコピー』

関連 DB2 エントリーでも、関連しない DB2 エントリーでも、他の DB2 エントリーや新しい DB2 エントリーにコピーできます。

3-43 ページの『DB2 エントリーの除去』

DB2 エントリーを関連リストから除去できます。

Tools Customizer がカスタマイズ時に使用するデータ・セット

Tools Customizer は、カスタマイズ・プロセス中に複数の固有のデータ・セットを使用します。Tools Customizer の使用を開始する前に、これらのデータ・セットをよく理解しておいてください。

Tools Customizer を使用して、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするには、複数の異なるデータ・セットが必要です。これらのデータ・セットは、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition によって提供されるか、Tools Customizer によって提供されるか、Tools Customizer によって割り振られます。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition は、以下のデータ・セットを提供します。

メタデータ・ライブラリー

カスタマイズされる製品のメタデータが入っています。Tools Customizer は、このメタデータを使用して、「Product Parameters」パネル、「LPAR Parameters」パネル、および「DB2 Parameters」パネルに表示するタスク、ステップ、およびパラメーターを決定します。また、このデータ・セットには、Tools Customizer がカスタマイズ・ジョブの生成に使用するテンプレートも入っています。

メタデータ・ライブラリーの命名規則は

high_level_qualifier.SHLOHLRDENU です。*high_level_qualifier* は、最低位修飾子を除くデータ・セット名のすべてのセグメントです。

メタデータ・ライブラリーは、「Specify the Metadata Library」パネルで指定します。このデータ・セットへの READ アクセス権限は必須です。

Discover EXEC ライブラリー

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC が入っています。DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズする場合、Discover EXEC を使用して、製品情報 (パラメーター値など) を、既にカスタマイズ済みの製品から自動的に取得し、保管することができます。Tools Customizer は、検出された情報をデータ・ストアに保管します。

データ・セットのデフォルト名は、メタデータ・ライブラリーの高位修飾子に、最低位修飾子を加えたものです。DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の場合、最低位修飾子は SHLOHLRDENU DENU です。「Discover Customized Product Information」パネルでデフォルト値を変更できます。このデータ・セットへの EXECUTE アクセス権限が必須です。

Tools Customizer は以下のデータ・セットを提供します。

Tools Customizer metadata library

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Editionのカスタマイズに必要な DB2 および LPAR パラメーターのメタデータが入っています。Tools Customizer は、メタデータを使用して、「DB2 Parameters」パネルと「LPAR Parameters」パネルにどのパラメーターが表示されるかを判別します。さらに、Tools Customizer は、メタデータ・ライブラリー内の情報を使用して、これらのパネルに追加の DB2 および LPAR パラメーターが表示される必要があるかどうかも判別します。カスタマイズする製品が異なれば、定義する必要がある DB2 および LPAR パラメーターも異なる場合があります。

このデータ・セットのデフォルト名は DB2TOOL.CCQ110.SCCQDENU です。「Tools Customizer Settings」パネルでデフォルト値を変更できます。このデータ・セットへの READ アクセス権限は必須です。

Tools Customizer テーブル・ライブラリー

カスタマイズされるジョブに関する情報を保管します。保管されるジョブの情報には、ジョブの説明、そのメンバー名とテンプレート名、SSID、グループ接続名、およびジョブが生成された日時があります。

このデータ・セットのデフォルト名は DB2TOOL.CCQ110.SCCQTENU です。このデータ・セットへの WRITE アクセス権限は必須です。

Tools Customizer では、以下のデータ・セットがカスタマイズ・プロセス中に存在することが必要です。これらのデータ・セットが存在しない場合、Tools Customizer はそれらのデータ・セットを自動的に割り振ります。

ディスクカバー出力データ・セット

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC の実行時に生成される出力が入っています。DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の Discover EXEC は、パラメーターのメタデータと値を、DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition の前のカスタマイズから取得します。

このデータ・セットのデフォルト名は DB2TOOL.CCQ110.DISCOVER です。「Tools Customizer Settings」パネルか、「Discover Customized Product Information」パネルでデフォルト値を変更できます。このデータ・セットへの WRITE アクセス権限は必須です。

データ・ストア・データ・セット

製品、LPAR、および DB2 パラメーター値、ならびに DB2 エントリーの関連付け情報が入っています。Tools Customizer は、このデータ・セットを使用して、ローカル LPAR での製品のカスタマイズ時に製品、DB2 サブシステムまたはデータ共有グループ、および LPAR に関して取得されたすべての情報を永続的に保管します。

このデータ・セットのデフォルト名は DB2TOOL.CCQ110.DATASTOR です。「Tools Customizer Settings」パネルでデフォルト値を変更できます。このデータ・セットへの WRITE アクセス権限は必須です。

カスタマイズ・ライブラリー

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition のために Tools Customizer が生成するカスタマイズ・ジョブが入っています。

Tools Customizer は、同じ製品の同じバージョンの複数のインスタンスに 1 つのカスタマイズ・ライブラリー名が指定されていないか検査します。同じバージョンの複数の製品に同じカスタマイズ・ライブラリー名が指定されている場合は、以前に生成されたカスタマイズ・ジョブを上書きしないように、CCQD123E メッセージが出されます。製品のインスタンスごとに、カスタマイズ・ライブラリー用の固有の修飾子を指定するようにしてください。

DB2 Analytics Accelerator LoaderDB2 Analytics Accelerator Loader Enterprise Edition をカスタマイズするには、データ・セットのメンバーを、「Finish Product Customization」パネルに表示されている順序で実行依頼します。

データ・セットの命名規則は *hlq.\$LPAR_name\$.xyzorm* です。ここで、

- *hlq* は、「Tools Customizer Settings」パネル (CCQPSET) の「**Customization library qualifier**」フィールドの値です。
- *LPAR_name* は、4 文字の LPAR 名です。
- *xyzorm* は、3 文字の製品 ID と、バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

例えば、データ・セット名は DB2TOOL.PRODUCT.CUST.\$MVS1\$.XYZ410 のようになります。

このデータ・セットへの WRITE アクセス権限は必須です。

Tools Customizer は、ディスクカバー出力、データ・ストア、およびカスタマイズ・ライブラリーのデータ・セットを、以下の表に示されている属性を使用して割り振ります。

表 12-2. ディスカバー出力、データ・ストア、およびカスタマイズ・ライブラリーの各データ・セットを割り振るためのデータ・セット属性

データ・セット	組織	レコード・フォーマット	レコード長	ブロック・サイズ	データ・セット名タイプ
ディスカバー出力データ・セット	PO	可変ブロック	16383	32760	LIBRARY
データ・ストア・データ・セット	PO	可変ブロック	16383	32760	LIBRARY
製品カスタマイズ・ライブラリー	PO	固定ブロック	80	32720	LIBRARY

制約事項:

- 複数のユーザーが、ディスカバー出力データ・セット、データ・ストア・データ・セット、Tools Customizer メタデータ・ライブラリー、およびメタデータ・ライブラリーを同時に共用することはできません。
- 共用 DASD を持つ複数の LPAR 間でデータ・ストア・データ・セットを共用したり、データ・ストア・データ・セットを別の LPAR にコピーしたりすることはできません。Tools Customizer は、製品関連と DB2 関連の間に多数の相互参照を作成します。したがって、データ・ストア・データ・セットを共用またはコピーすると、空のメンバー名や、存在しないメンバー名が生成される可能性があります。

Accelerator Loader の用語

DB2 Analytics Accelerator Loader には、複数の固有の用語があります。製品の使用を開始する前に、これらの用語を確実に理解してください。

Accelerator Loader サーバー

すべてのデータ・ソースにアクセスできるようにする、メインフレーム常駐のデータ・アクセス・サーバー。

Accelerator Loader スタジオ

アクセラレーターにデータをロードするための JCL を生成するタスクの実行に使用するグラフィカル・ユーザー・インターフェース。

アクセラレーター専用ロード・プロファイル

「プロファイル・タイプ」を参照してください。

整合データ・ロード

Accelerator Loader を使用して、1 つのバッチ・ジョブで表のグループを処理し、関連したデータのセットを共通のチェックポイントまでアクセラレーターにロードするプロセス。

整合ロード・プロファイル

「プロファイル・タイプ」を参照してください。

DB2 Analytics Accelerator

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OSを参照してください。

二重ロード

Accelerator Loader を使用して、DB2 データをアクセラレーターと DB2 に同時にロードするプロセス。

二重ロード・プロファイル

「プロファイル・タイプ」を参照してください。

外部ロード

Accelerator Loader を使用して、アクセラレーター上のデータを、DB2 以外のソースからのデータで更新するプロセス。

履歴データ・ロード

Accelerator Loader を使用して、1 つのバッチ・ジョブで表のグループを処理し、関連したデータのセットを過去の特定期間までアクセラレーターにロードするプロセス。

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS

System z[®] と Netezza[®] のテクノロジーを結合して、複雑な分析ニーズに対応する混合ワークロード・パフォーマンスを実現する、ワークロード最適化アプライアンス。アクセラレーターは最大 2000 倍高速で複合照会を実行し、単一レコード検索速度を維持し、照会処理のオフロード中にコストのかかる照会チューニングを不要にします。

イメージ・コピー・ロード

ユーザーが指定した DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一表のデータをロードするプロセス。終了時刻の指定やログの適用は不要です。製品は、ロードされるオブジェクトのコンテンツとしてイメージ・コピーを使用します。

イメージ・コピー・ロード・プロファイル

「プロファイル・タイプ」を参照してください。

Netezza アプライアンス

IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS (アクセラレーター) の基盤である IBM Netezza Data Warehouse Appliance。Accelerator Loader は、データをアクセラレーターにロード中に実動表への更新アクティビティーを停止することなく、アクセラレーター上のデータを更新するツールです。

プロファイル・タイプ

DB2 Analytics Accelerator Loader プロファイルのタイプは以下のとおりです。

- 「**Dual**」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Accelerator only**」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターのみ表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Consistent**」は、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Image copy**」は、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

仮想ソース・ライブラリー

ソース・データを Accelerator Loader サーバー上のターゲットの DB2 表にマッピングするために必要な情報が入っている z/OS 上の区分データ・セット (PDS)。仮想ソース・ライブラリーとは、DB2 Analytics Accelerator Loader がソース・データの仮想化に必要とする情報が含まれている z/OS 上の既存のライブラリーを参照するためのものです。

サブシステム表

DRDA に接続されている他の RDBMS に定義されている表。

仮想表

Accelerator Loader サーバー内に登録されていて Accelerator Loader スタジオに表示される、製品によって作成されたオブジェクト。照会元となる形式のデータを表します。仮想表は、どのデータ・ソースでも作成でき、データをアクセラレーターにロードするために 1 つ存在している必要があります。

仮想ビュー

ソース・データからからの列を含む SELECT ステートメント。この列は、データ・ソースからデータを直接読み取るために使用されます。

関連概念:

1-7 ページの『Accelerator Loader の機能』

Accelerator Loader は、DB2 と IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にデータをロードする機能を提供します。

製品パネルのナビゲーション

データがパネルのサイズを超えると、標識により、表示されているパネルの外部に追加のデータが存在するという警告が表示されます。

パネルの右上隅にあるテキスト「**Row x of y**」または「**More: +**」は、スクロール可能なページを示すのに使用されます。ページは横方向または縦方向、もしくはその両方にスクロール可能です。

正符号 (+) または負符号 (-) は、縦方向の追加データが表示可能であることを示します。

- 正符号 (+) は、下に追加データがあることを示します。PF8 を使用してスクロールダウンしてください。
- 負符号 (-) は、上に追加データがあることを示します。PF7 キーを使用してスクロールアップしてください。

より小記号 (<) またはより大記号 (>) は、横方向の追加データが表示可能であることを示します。

- より小記号 (<) は、左側に追加データがあることを示します。PF10 を使用して左にスクロールしてください。
- より大記号 (>) は、右側に追加データがあることを示します。PF11 を使用して右にスクロールしてください。

関連タスク:

4-1 ページの『ISPF インターフェースの開始』
製品の ISPF インターフェースを使用して、外部ファイルまたはイメージ・コピーから DB2 と IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にデータをロードする JCL を作成するために必要な JCL と制御カードを作成します。

基本コマンド

DB2 Analytics Accelerator Loader 基本コマンドを使用して、情報の検出、パネルのナビゲート、データの表示の変更、および情報の出力を行います。

FIND *abc*

データのパネル内で固有のストリングを検出します。ここで、*abc* は、検索する対象のストリングです。指定されたストリングが検出されると、カーソルが、検出されたストリングの最初の位置に移動します。指定されたストリングが検出されない場合、メッセージが表示されます。正しい結果が戻されるように、**FIND** コマンドを使用する場合は可能な限り具体的に指定する必要があります。

構文は次のとおりです。

```
FIND <string>
```

ここで、<string> は、検出したいテキストです。

例えば、「apple」という語を検出するには、次のコマンドを使用します。

```
FIND apple
```

ストリングの次の検索結果とそれ以降の検索結果を検出するには、PF5 を押します。

SORT *column_number direction*

(スクロール可能データまたは表データのパネル上で) データを列でソートします。ここで、*column_number* は、ソートに使用する列の番号です。*direction* は **A** (昇順にデータをソートする場合) または **D** (降順にデータをソートする場合) のどちらかにすることができます。

列は列番号 (列名ではなく) でのみ参照できます。列番号はパネルに表示されません。CMD 列が列 1 であり、右側の列の番号が順に増えます。

ソート順を指定するには、SORT コマンドの終わりに **A** または **D** を追加します。デフォルトは昇順 (**A**) です。例えば、列 2 を降順にソートするには、コマンド行に次のように入力して Enter キーを押します。

```
SORT 2 D
```

関連タスク:

4-1 ページの『ISPF インターフェースの開始』
製品の ISPF インターフェースを使用して、外部ファイルまたはイメージ・コピーから DB2 と IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にデータをロードする JCL を作成するために必要な JCL と制御カードを作成します。

パネル・コマンドおよびフィールドのリファレンス

このトピックでは、Accelerator Loader ISPF パネルのコマンドとフィールドのリファレンスを示します。パネルについて詳しくは、そのパネルで PF1 を押してください。

- 12-13 ページの『メインメニュー』
- 12-14 ページの『「User Settings」パネル』
- 12-14 ページの『「DB2 Subsystems」パネル』
- 12-15 ページの『「New DB2 Subsystem」パネル』
- 12-15 ページの『「DB2 Subsystem Parameters」パネル』
- 12-16 ページの『「Accelerator Loader Parameters」パネル』
- 12-16 ページの『「Confirm Action」パネル』
- 12-19 ページの『「Set Batch Job Card Information」パネル』
- 12-19 ページの『「Manage Loader Profiles」パネル』
- 12-21 ページの『「Create Profile」パネル』
- 12-22 ページの『「Save Profile」パネル』
- 12-22 ページの『「Load Accelerator and DB2 from External File」パネル』
- 12-27 ページの『「Load Accelerator from External File」パネル』
- 12-31 ページの『「DD Template Specification」パネル』
- 12-33 ページの『「DD DSN Template」パネル』
- 12-35 ページの『「DD DSN Template (View)」パネル』
- 12-36 ページの『「Resulting DSN Using Current」パネル』
- 12-36 ページの『「Load Accelerator with Consistent Data」パネル』
- 12-43 ページの『「Load Accelerator from specified Image Copy」パネル』
- 12-45 ページの『「Enter Table and Creator Like to Display」パネル』
- 12-45 ページの『「Add DB2 Tables/DB2 Table Selection」パネル』
- 12-46 ページの『「DB2 Table List」パネル』
- 12-47 ページの『「Referentially Dependent Table Selection」パネル』
- 12-48 ページの『「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネル』
- 12-48 ページの『「FlashCopy DSN Template」パネル』
- 12-50 ページの『「FlashCopy DSN Template (View)」パネル』
- 12-51 ページの『「Rename Profile」パネル』
- 12-51 ページの『「Build Load JCL」パネル』
- 12-53 ページの『「Warning」パネル』
- 12-53 ページの『「Data set allocation parameters」パネル』
- 12-54 ページの『「Administer Accelerator Loader server」パネル』
- 12-54 ページの『「Server Trace」パネル』
- 12-55 ページの『「ISPF Session Parameters」パネル』
- 12-55 ページの『「Parameter Groups」パネル』
- 12-56 ページの『「Event Facility (SEF) Control」パネル』
- 12-56 ページの『「Display Global Variables」パネル』

- 12-57 ページの『「Event Facility (SEF) Ruleset Entry Profile」パネル』
- 12-58 ページの『「SEF - Command Response Display」パネル』

メインメニュー

DB2 Analytics Accelerator Loader のメインパネルには、以下のオプションとフィールドがあります。実行するタスクに対応する数字または文字を入力します。

Setup 「User Settings」パネルを開きます。このパネルでは、製品を実行する対象、または JCL を作成する際に使用するジョブ・カードを指定する対象の DB2 サブシステムを選択できます。

Server administration

「Administer Accelerator Loader サーバー」パネルを開きます。このパネルでは、Accelerator Loader サーバーを操作できます。

Manage Loader profiles

「Manage Loader Profiles」パネルを開きます。このパネルでは、既存のプロファイル定義を作成、編集、または表示できます。

Load Accelerator and DB2 from external file

「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルを開きます。このパネルは、新規の二重プロファイル・タイプのオプションを指定するか、既存のプロファイルのオプションを編集するために使用します。二重プロファイルは、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。

Load Accelerator from external file

「Load Accelerator from External File」パネルを開きます。このパネルは、新規の外部プロファイル・タイプのオプションを指定するか、既存のプロファイルのオプションを編集するために使用します。外部プロファイルは、外部データ入力ファイルからアクセラレーターのみ表データをロードするためのオプションを指定します。

Load Accelerator with consistent data

「Load Accelerator with Consistent Data」パネルを開きます。このパネルは、新規の整合ロード・プロファイルのオプションを指定するか、既存のプロファイルのオプションを編集するために使用します。整合ロード・プロファイルは、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

Load Accelerator from a specified image copy

「Load Accelerator from specified Image Copy」パネルを開きます。このパネルは、イメージ・コピー・プロファイル・タイプのオプションを指定するために使用します。イメージ・コピー・プロファイルは、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

Exit メインメニューを閉じます。

User ID

ユーザー ID。

System ID

DB2 Analytics Accelerator Loader が実行されている z/OS システム。

Appl ID

DB2 Analytics Accelerator Loader アプリケーション ID。

Version

実行している DB2 Analytics Accelerator Loader のバージョン。

DB2 SSID

DB2 Analytics Accelerator Loader を実行する DB2 サブシステムの DB2 サブシステム ID。既存の DB2 SSID のリストを表示するには、フィールドに疑問符 (?) を入力して Enter を押します。「DB2 Subsystems」パネルが開きます。

Accelerator Loader サーバー ID

Accelerator Loader サーバーが実行されている z/OS システムの名前を入力します。

関連タスク:

4-1 ページの『ISPF インターフェースの開始』

製品の ISPF インターフェースを使用して、外部ファイルまたはイメージ・コピーから DB2 と IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にデータをロードする JCL を作成するために必要な JCL と制御カードを作成します。

「User Settings」パネル

製品を実行する DB2 サブシステムを選択し、JCL の作成時に使用するジョブ・カードを指定します。

以下のオプションおよびフィールドを使用できます。

DB2 subsystem

「DB2 Subsystems」パネルを開きます。

Batch 「Set Batch Job Card Information」パネルを開きます。

User ID

ユーザー ID。

System ID

DB2 Analytics Accelerator Loader が実行されている z/OS システム。

DB2 SSID

DB2 Analytics Accelerator Loader が実行されている DB2 サブシステムの ID。

関連タスク:

4-3 ページの『DB2 サブシステムの構成』

少なくとも 1 つの DB2 サブシステムを Accelerator Loader で使用するために構成する必要があります。

4-5 ページの『ジョブ・カード情報の指定』

バッチ・ジョブに含めるジョブ・カードを定義します。

「DB2 Subsystems」パネル

DB2 Analytics Accelerator Loader を実行する DB2 サブシステムに関する情報を選択または編集します。

次のコマンドを使用できます。

- **CREATE:** コマンド行にこのコマンドを入力して、新規 DB2 サブシステム項目を作成します。
- 既存の SSID の隣にある「**Cmd**」フィールドに、以下のいずれかのコマンドを入力します。
 - 処理対象の DB2 サブシステムを選択する場合は **S**。
 - 選択した DB2 サブシステムを制御ファイルから削除する場合は **D**。このコマンドは、「**Confirm Action**」パネルを開きます。
 - DB2 サブシステムに関する情報を編集する場合は **E**。このコマンドは、「**Edit DB2 Subsystem Parameter**」パネルを開きます。
 - DB2 サブシステムに関する情報を表示する場合は **V**。このコマンドは、「**View DB2 Subsystem Parameter**」パネルを開きます。
 - 2 つのサブシステム間で情報をコピーする場合は **C**。このコマンドは、「**New DB2 Subsystem**」パネルを開きます。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

Current DB2 SSID

編集、表示、または作成する DB2 サブシステム。

Current user indicator

製品の開始に使用される、CLIST に指定されたユーザー標識。このフィールドは製品 CLIST の開始時に設定され、変更できません。

DB2 control data set

DB2 制御データ・セットの名前。これは、ユーザーが以前に作成して CLIST に指定した VSAM 制御ファイルです。このフィールドを変更できません。

「New DB2 Subsystem」パネル

新規 DB2 サブシステム ID を指定します。使用可能なフィールドは次のとおりです。

DB2 SSID

DB2 Analytics Accelerator Loader を実行する DB2 サブシステムの ID。

「DB2 Subsystem Parameters」パネル

既存の DB2 サブシステム項目の定義を変更します。

使用可能なコマンドおよびフィールドは次のとおりです。

Accelerator Loader parameters

「Accelerator Loader Parameters」パネルを開きます。

SSID 編集、表示、または作成する DB2 サブシステム。

Description

サブシステムのわかりやすい説明 (最大 44 文字の英数字)。

Accelerator Loader plan

(必須) DB2 カタログに接続する際に使用される製品プラン (最大 8 文字の英数字)。デフォルト値はありません。

DB2 ZPARMs member

この DB2 サブシステムに対して生成される ZPARM ロード・モジュールのメンバー名 (最大 8 文字の英数字)。デフォルト値はありません。

DB2 Bootstrap DSN #01

DB2 Bootstrap DSN #02

(必須) この DB2 サブシステムによって使用される 2 つのブートストラップ・データ・セットの完全なデータ・セット名。デフォルト値はありません。

DB2 Loadlib1

(必須) DB2 の現行のロード・ライブラリー連結を構成し、バッチ・ジョブ処理時に使用されるデータ・セットの名前 (最大 47 文字の英数字)。デフォルト値はありません。

通常、ロード・ライブラリーは以下のもので構成されます。

- サブシステム固有の DSNEXIT ライブラリー
- 現行 DB2 バージョン用の基本 DSNEXIT ライブラリー
- 現行 DB2 バージョン用の基本 DSNLOAD ライブラリー

DB2 Loadlib2

DB2 Loadlib3

DB2 Loadlib4

DB2 Loadlib5

バッチ・ジョブ処理時にサブシステムのために必要なオプションの追加ライブラリーの名前。

「Confirm Action」パネル

削除 (DB2 SSID またはプロファイルの削除など)、または変更 (表の変更など) を確認したり、取り消したりします。パネルには、影響を受けるオブジェクトの名前と説明が表示されます。

- 削除または変更を確認するには、Enter を押します。
- 削除または変更を取り消すには、F12 を押します。
- (一部のパネルでは利用不可) パネルの以後の表示を抑止するには、「Set item delete confirmation off」の隣のフィールドにスラッシュ (/) を入力します。

「Accelerator Loader Parameters」パネル

ソート・プログラム、ログの読み取りおよび適用に関する設定、ファイル割り振りパラメーターなどの製品オプションを指定します。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

Use DB2 Sort when possible

内部製品ソートに DB2 Sort 製品を使用するかどうかを指定します。

- Y** Y を指定すると、DB2 Sort プログラム製品が内部製品ソートに使用されます。
- N** N を指定すると、製品は LPAR にインストールされたソート・プログラム (DFSORT または SYNCSORT) を使用します (「Sort Program Installed」フィールドに指定されている)。

Sort program installed

LPAR、DFSORT、または SYNCSORT にインストールされたソート・プログラムを指定します。

ログ読み取りおよびログ適用に関する設定は、以下のとおりです。

Log reader copy preference

ログ・リーダー・コピー設定のデフォルト値を設定します。変更しない限り、デフォルト値は R1R2A1A2 です。SSID ごとに異なる値を指定できます。現行の SSID ログ・リーダーの値が JCL の生成に使用されます。詳しくは、9-14 ページの『構文定義: 整合ロードおよびイメージ・コピー・ロード』の LOG_COPY_PREFERENCE を参照してください。

ファイル割り振りパラメーターは、以下のとおりです。

Number of buffers

製品が使用するバッファの数。有効な値は 1 から 99 です。(JCL BUFNO= パラメーターと同義。)

Channel programs

製品が使用するチャンネル・プログラムの数。(JCL NCP= パラメーターと同義。) 値 0 が設定されると、最適なパフォーマンスが得られるように、製品はあらかじめ決められたチャンネル・プログラム設定を使用します。そうでなければ、1 から 99 を指定してサイトに最適な値を判別できます。

注: 指定するチャンネル・プログラムの数は、最も古いものの完了が検査される前に同時に実行できる、未処理の QSAM チャンネル・プログラムの数を制御します。

データ・セット・パラメーターは、以下のとおりです。

Device type

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの装置タイプ。DASD 装置およびテープ装置は、作業ファイルおよび SYSPRINT ファイルに有効です。

データ・セット・タイプ

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されるデータ・セットに使用されるデータ・セットのタイプ。

Track or cylinder

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成される作業データ・セットの割り振り単位。有効な値は、TRK (トラック) および CYL (シリンダー) です。

Primary quantity

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの 1 次数量 (「Track or Cylinder」フィールドで指定した単位)。

注: 1 次または 2 次の数量のフィールドに指定できる最大値は 16777215 です。最大値よりも大きなスペースを指定する必要がある場合は、別のスペース単位に変換して (例えば、1024 で除算することによってバイトをキロバイトに変換します)、新しい値を指定します。

Secondary quantity

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの 2 次数量 (「**Track or Cylinder**」フィールドで指定した単位)。

注: 1 次または 2 次の数量のフィールドに指定できる最大値は 16777215 です。最大値よりも大きなスペースを指定する必要がある場合は、別のスペース単位に変換して (例えば、1024 で除算することによってバイトをキロバイトに変換します)、新しい値を指定します。

Maximum volumes

作業データ・セットに使用できるボリュームの最大数。

注: 「**Maximum Volumes**」フィールドは、装置タイプが DASD または磁気テープ装置に設定されている場合に有効です。

SMS data class

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの SMS データ・クラス。

SMS storage class

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの SMS ストレージ・クラス。

SMS management class

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの SMS 管理クラス。

ソート作業パラメーターは、以下のとおりです。

Unit device

ユーティリティー JCL を生成する際に使用される、ソート作業ファイルのユニット・デバイスを指定します。有効な値は、SYSALLDA、DISK などです。指定するユニット・デバイスに応じて、DD の数を以下のように設定します。

- 磁気テープ装置の場合は、3 から 99 の「**Number of DDs**」値を指定します。
- DASD 装置の場合は、1 から 99 の「**Number of DDs**」値を指定します。

Number of DDs

製品のソート作業データ・セットに使用される SORTWKnn DD ステートメントの数。指定するユニット・デバイス値に応じて、値を以下のように設定します。

- 磁気テープ装置の場合は、3 から 99 の値を指定します。
- DASD 装置の場合は、1 から 99 の値を指定します。

Primary space

製品のソート作業データ・セットに使用される 1 次スペース (シリンダー数)。

Secondary space

製品のソート作業データ・セットに使用される 2 次スペース (シリンダー数)。

Utility REGION Size

製品がユーティリティー JCL の生成時に使用する REGION サイズをメガバイト単位で指定します。有効な値は 0 から 2047 です。

「Set Batch Job Card Information」パネル

このパネルを使用して、Accelerator Loader によって JCL を生成する際にバッチ・ジョブを作成する方法を指定します。次のコマンドを使用できます。

- ADD: ジョブ・カードに別の行を追加するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- タスクを実行するには、行の隣の「**Cmd**」フィールドにコマンドを入力します。
 - D は、行を削除します。
 - I は、改行を挿入します。
 - M は、行を新しい位置に移動します。

「Manage Loader Profiles」パネル

このパネルを使用して、既存のプロファイル定義を作成、編集、または表示します。

次のコマンドを使用できます。

- CREATE: コマンド行にこのコマンドを入力して、プロファイルを作成します。このコマンドは、「Create Profile」パネルを開きます。
- 既存のプロファイルの隣にある「**Cmd**」フィールドに、以下のいずれかの行コマンドを入力します。
 - 選択したプロファイルの JCL を作成する場合は B。このコマンドは、「Build Accelerator Loader JCL」パネルを開きます。
 - 選択したプロファイルまたは表を削除する場合は D。このコマンドは、「Confirm action」パネルを開きます。
 - 選択したプロファイルを編集する場合は E。このコマンドは、プロファイルのオプション・パネルを編集モードで開きます。
 - 選択したプロファイルの名前を変更する場合は R。このコマンドは、「Rename Profile」パネルを開きます。
 - 選択したプロファイルを表示する場合は V。このコマンドは、プロファイルのオプション・パネルを表示モードで開きます。
 - 作成者、説明、および共用オプションの変更を反映して、選択したプロファイルを別のプロファイル名にコピーする場合は C。このコマンドは、コピーしたタイプの新規プロファイルを作成するためのパネルを開きます。

このパネルでは、以下のフィールドと列を使用できます。すべてのフィールドを表示するには、右方にスクロールしてください。

Profile Like

プロファイル名またはマスク。この画面に異なるプロファイルを表示するには、名前またはマスクを変更して Enter を押します。アスタリスク・ワイルドカード (*) を単独で使用すると、すべてのオブジェクト・プロファイル

が表示されます。1 つ以上の文字とアスタリスク・ワイルドカード (*) を入力すると、表示される名前のリストが、指定した文字を含むものだけに絞り込まれます。

Creator Like

作成者の名前またはマスク。この画面で別の作成者を表示するには、名前またはマスクを変更して、Enter キーを押します。すべてのオブジェクト・プロファイルを表示するには、アスタリスクのワイルドカード (*) を単独で使用します。指定する文字を含む名前のみが表示されるように名前のリストを制限するには、1 つ以上の文字とアスタリスクのワイルドカード (*) を入力します。

DB2 SSID

DB2 Analytics Accelerator Loader が実行されている DB2 サブシステム。

Name/Profile Name

最大 30 文字のプロファイルの名前。(「Objects for Employee App」など、プロファイルに分かりやすい名前を使用すると、見つけて再利用するのが容易になります。)

Creator/Profile creator

プロファイルの作成者。

Type/Profile type

DB2 Analytics Accelerator Loader プロファイルのタイプは以下のとおりです。

- 「**Dual**」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Accelerator only**」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターのみ表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Consistent**」は、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。
- 「**Image copy**」は、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。
- 「**All**」または * (アスタリスク) は、すべてのプロファイル・タイプを指定します。

Share option

他のユーザーがプロファイルを使用できる方法を制御します。

U (Update)

他のユーザーはプロファイルを更新できます。

V (View only)

他のユーザーはプロファイルを表示できます。

N (No access)

他のユーザーはプロファイルを表示することも更新することもできません。

Description

プロファイルの説明。

Created Userid

プロファイル作成者のユーザー ID。

Created Timestamp

プロファイルが作成された日時。

Last Updated Userid

プロファイルを最後に更新したユーザーのユーザー ID。

Last Updated Timestamp

プロファイルが最後に更新された日時。

「Create Profile」パネル

このパネルを使用して、作成する Accelerator Loader プロファイルのタイプを選択します。

Load Accelerator and DB2 from external file

「Load Accelerator and DB2 from External File」パネルを開きます。このパネルは、新規の二重プロファイル・タイプのオプションを指定するか、既存のプロファイルのオプションを編集するために使用します。二重プロファイルは、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。

Load Accelerator from external file

「Load Accelerator from External File」パネルを開きます。このパネルは、新規の外部プロファイル・タイプのオプションを指定するか、既存のプロファイルのオプションを編集するために使用します。外部プロファイルは、外部データ入力ファイルからアクセラレーターのみ表データをロードするためのオプションを指定します。

Load Accelerator with consistent data

「Load Accelerator with Consistent Data」パネルを開きます。このパネルは、新規の整合ロード・プロファイルのオプションを指定するか、既存のプロファイルのオプションを編集するために使用します。整合ロード・プロファイルは、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

Load Accelerator from a specified image copy

「Load Accelerator from specified Image Copy」パネルを開きます。このパネルは、イメージ・コピー・プロファイル・タイプのオプションを指定するために使用します。イメージ・コピー・プロファイルは、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

関連概念:

8-1 ページの『ロード・プロファイルの使用と管理』

プロファイルでロード・オプションの再使用可能グループを作成できます。また、プロファイルをアクセラレーターおよび表に関連付けます。その後、オプションを再度指定するのではなく、プロファイルを再利用して、将来のロード用の JCL を生成できます。

「Save Profile」パネル

このパネルを使用して、新規プロファイルに関する情報を指定します。

Save Accelerator Loader options as a profile?

「Yes」を選択すると、指定したオプションを適用して新規プロファイルが保管されます。

Creator/Profile creator

プロファイルの作成者。

Type/Profile type

DB2 Analytics Accelerator Loader プロファイルのタイプは以下のとおりです。

- 「Dual」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「Accelerator only」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターのみ表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「Consistent」は、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。
- 「Image copy」は、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

「Load Accelerator and DB2 from External File」パネル

このパネルを使用して、二重ロード・プロファイル・タイプのオプションを指定または表示します。二重ロード・プロファイルは、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。以下のコマンドはすべて、パネルの編集可能バージョンで使用できます。パネルの表示専用バージョンでは、BUILD コマンドのみが使用できます。

- TABLE: DB2 表をプロファイルに追加するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- ACCELERATOR: データをロードするアクセラレーターを選択するには、このコマンドをコマンド行に入力します。このコマンドは、「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネルを開きます。アクセラレーターのリストにアクセスするための適切な DB2 権限が必要です。
- COLINFO: 「Column Info DSN」フィールドで定義されているデータ・セット内の列定義を編集します。このコマンドは、LOAD 制御カードの列情報の作成または編集を行うための ISPF 編集セッションを開きます。このデータ・セットには、LOAD ユーティリティ構文全体ではなく、(括弧なしの) 表の列定義のみが含まれている必要があります。
- SAVE: 指定をプロファイルに保管するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- BUILD: 指定したデータ・セットにプロファイルの JCL を作成するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

このパネルでは次のフィールドを使用できます。すべてのフィールドを表示するには、下方にスクロールしてください。

| **Creator/Profile creator**

| プロファイルの作成者。

| **Name/Profile Name**

| 最大 30 文字のプロファイルの名前。(「Objects for Employee App」な
| ど、プロファイルに分かりやすい名前を使用すると、見つけて再利用するの
| が容易になります。)

| **Share option**

| 他のユーザーがプロファイルを使用できる方法を制御します。

| **U (Update)**

| 他のユーザーはプロファイルを更新できます。

| **V (View only)**

| 他のユーザーはプロファイルを表示できます。

| **N (No access)**

| 他のユーザーはプロファイルを表示することも更新することもでき
| ません。

| **Description**

| プロファイルの説明。

| **Schema**

| **Table Name**

| **Partition**

| これらのフィールドには、現在選択されている DB2 表の値が表示されま
| す。表を変更するには、TABLE コマンドを発行します。

| ターゲット・オプション:

| **Accelerator name**

| データがロードされるアクセラレーター。既存のアクセラレーターのリスト
| を表示するには、フィールドに疑問符 (?) を入力して、Enter キーを押しま
| す。

| **Add table to Accelerator**

| ロード・ジョブを開始する前に、欠落している表をアクセラレーターに追加
| するかどうかを示します。

| (デフォルト) **N** (いいえ)

| 表を追加しません。

| **A** (追加)

| 欠落している表を追加します。この値は、JCL の中に制御カード
| ACCEL_ADD_TABLES を生成します。

| **R** (最新表示)

| 欠落している表を追加して、既存の表を削除して再び追加します。
| この値は、JCL の中に制御カード
| ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES を生成します。

| **Acceleration on success**

| 正常にロードされた後で DB2 Analytics Accelerator Loader が表に対して
| 照会アクセラレーションを有効に設定するかどうかを制御します。有効値は
| 以下のとおりです。

- Y (はい): 正常にロードされた後で表に対してアクセラレーションを有効にします。この値は、JCL の中に制御カード `ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES` を生成します。
- (デフォルト) N (いいえ): 正常にロードされた後で表に対してアクセラレーションを有効にしません。JCL の中に制御カード `ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE NO` が生成されます。

Parallel load

並列処理を可能にするロード制御カードを生成することを指定します。このフィールドは、パーティション化表のロードを選択する場合に使用できます。非パーティション化オブジェクトの場合、フィールドは読み取り専用で、値は「No」です。有効な値は、「Yes」および「No」です。

値が「Yes」である場合、「Input data set」に `TEMPLATE` データ・セット名パターンを入力する必要があります。このデータ・セット名パターンは、テンプレート定義を生成するために使用されます。

Load tasks

使用する並列ロード・タスクの数を指定します。有効な値は、ブランクまたは 1 から 20 です。値が指定されない場合、オプション・モジュール・パラメーター `ACCEL_LOAD_TASKS` の値が使用されます。この値は、ロード・ステートメントの `ACCEL_LOAD_TASKS n` 節を生成するために使用されます。

このフィールドは、「Parallel load」の値が「Yes」である場合に使用できます。

必須のロード・オプション:

Input data set

外部形式の表のデータが入った `SYSREC` データ・セットの場合、次のように名前またはパターンを指定します。

- `SYSREC` データ・セットの完全修飾データ・セット名。PDS の場合、メンバー名を括弧で囲みます。例えば、`HLO.LOADCARD(FILE)` と指定します。既存のデータ・セットを指定する場合、製品は、出力の JCL の中に `DD ISYSREC` を生成します。
- `SYSREC` データ・セットの `DSN` テンプレート。並列ロードと非並列ロードの両方に `DSN` テンプレートを指定できます (「Parallel load」フィールド)。並列ロードの場合、パーティションごとに固有の `SYSREC` データ・セット名が生成されるように、`DSN` テンプレート・パターンに `&PART` 変数を組み込む必要があります。パーティション番号をパーティション・レベルの `SYSREC` データ・セットに組み込む必要があります。

`DSN` テンプレートを指定する場合、製品は、出力の JCL の中に `TEMPLATE(...)` ステートメントを生成します。

`DSN` テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに `Yes` を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの割り振りに使用するパラメーターを指定できます。

「Parallel load」の値を変更する場合、製品は、SYSREC データ・セットの以前の値を復元しません。この場合、並列ロードで &PART 変数を要求するために、SYSREC フィールド検証のみが変更されます。

Column info DSN

製品は、表の列情報データ・セットが UNLOAD ユーティリティーからのものであるかどうかを検出します。そうである場合、生成する JCL に正確な情報を自動的に組み込みます。そうでない場合は、SYSPUNCH データ・セットの列情報が入った完全修飾データ・セット名を指定してください。単一のデータ・セットを指定してください。このフィールドではテンプレートを使用できません。

DB2 ロード・オプション:

Utility ID

DB2 内のこのユーティリティーを表す固有 ID を指定します。これは、EBCDIC のタイプ VARCHAR(16) の入力パラメーターです。//DLD0001 EXEC PGM=PGM#DLD, PARM=('QA1A, ,utility ID') のように、JCL に PARM フィールドのパラメーターとして渡されます。

RESUME

JCL の中に制御カード LOAD RESUME YES を生成するには、Yes を指定します。製品は、データを置き換えるのではなく、アクセラレーター表に追加します。DB2 とアクセラレーターの両方にロードする場合、DB2 は、データを DB2 表にも追加します。アクセラレーターのみでロードする場合、DB2 表にデータは追加されず、DB2 の既存のデータは未変更のままになります。製品がデータを追加するのではなく、既存のデータを置き換えるようにするには、No を指定します。

KEEPDICTIONARY

JCL の中に制御カード KEEPDICTIONARY を生成するには、Yes を指定します。

例:

```
LOAD DATA INDDN SYSREC REPLACE KEEPDICTIONARY
INTO TABLE schema.tableName part#
```

ENFORCE

チェック制約と参照制約を適用するかどうかを指定します。このオプションに Yes を指定する場合、「MAPDDN」は必須です。JCL の中に制御カード ENFORCE NO を生成するには、No を指定します。

例:

```
LOAD DATA INDDN SYSREC REPLACE KEEPDICTIONARY LOG NO ENFORCE NO
INTO TABLE schema.tableName part#
```

LOG ログが行われるかどうかを指定します。JCL の中に制御カード **LOG NO** を生成するには、No を指定します。

例:

```
LOAD DATA INDDN SYSREC REPLACE KEEPDICTIONARY LOG NO
INTO TABLE schema.tableName part#
```

NUMRECS

指定した表または表パーティションの入力レコードの数を指定します。有効な値は、1 から 1099511627776 までの整数またはブランクです。

LOAD ユーティリティーが NUMRECS 節または SORTKEYS 節で SYSREC レコードの数を指定しない場合、製品は、レコード数を見積もります。見積もったレコード数を使用して、INTO TABLE 節ごとに NUMRECS 節を追加します。レコード数により、DB2 は索引作成のソート・サイズを見積もることができ、アクセラレーターと DB2 の両方にロードする場合にソートが失敗する可能性を軽減することができます。

並列ロードに指定する場合、値は、LOAD 制御カードの各 INTO TABLE 節に渡されます。

ISPF パネルを使用して LOAD JCL を生成する場合は、個々のパーティションに個別の NUMRECS 値を指定することはできません。行当たりの平均行数、または単一のパーティションにロードされるレコードの最大数のいずれかを指定します。ユーティリティー構文が生成されるときに、NUMRECS オプションは INTO TABLE PART 節ごとに 1 回生成されます。

SORTDEVT

一時ソート・データ・セットに使用される装置タイプを指定します。有効な値は、1 文字から 8 文字の英数字です。製品は、適格装置テーブル (EDT) を検査して、指定された値が有効であることを確認します。

SORTNUM

割り振られるソート・データ・セットの数を指定します。この値を指定できるのは、「SORTDEVT」値も指定される場合のみです。有効な値は 2 から 255 です。

DISCARDS

破棄データ・セットに書き込まれるソース・レコードの最大数を指定します。有効値は 0 から 2147483647 です。デフォルト値は 0 で、その場合は最大値を設定しないことを指定します。入力データ・セット全体を破棄できます。破棄の最大数に達すると、LOAD ジョブは異常終了し、破棄データ・セットは空となり、どのレコードが破棄されたのかは判別できなくなります。限界値を大きくしてジョブを再開するか、ユーティリティーを終了することができます。

DISCARDS 値を指定する場合、DISCARD DDN テンプレートの DD 名を指定する必要があります。

DISCARD DDN template DD name

データ行の破棄に使用されるデータ・セットのテンプレート名を指定します。DISCARD DDN が必要でない場合は、このフィールドをブランクにしてください。この値はオプションです。デフォルトは ISYSDISC です。

「Parallel load」が「YES」である場合、テンプレートの DSN に &PA 変数または &PART 変数を組み込む必要があります。並列ロードの JCL が生成されると、表パーティションごとに別々の INDDN 節が作成されます。並列ロードには、パーティションごとに別々の DISCARD DDN 節も必要です。

テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに Yes を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの

割り振りに使用するパラメーターを指定できます。DD を組み込む場合は、プロファイルでテンプレートを少なくとも 1 回定義する必要があります。

ERRDDN template DD name

エラー処理データ・セットのテンプレート名を指定します。「ENFORCE」に Yes を指定する場合、この値は必須です。デフォルトは ISYSERR です。

テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに Yes を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの割り振りに使用するパラメーターを指定できます。DD を組み込む場合は、プロファイルでテンプレートを少なくとも 1 回定義する必要があります。

MAPDDN template DD name

レコード処理に使用されるマップ・データ・セットのテンプレート名を指定します。「ENFORCE」に Yes を指定する場合、この値は必須です。デフォルトは ISYSMAP です。

テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに Yes を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの割り振りに使用するパラメーターを指定できます。DD を組み込む場合は、プロファイルでテンプレートを少なくとも 1 回定義する必要があります。

SYSUT1 template DD name

2 個の作業データ・セットのうち、最初のを指定します。LOAD ユーティリティーを実行している場合、この値は必須です。デフォルトは ISYSUT1 です。

テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに Yes を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの割り振りに使用するパラメーターを指定できます。DD を組み込む場合は、プロファイルでテンプレートを少なくとも 1 回定義する必要があります。

SORTOUT template DD name

2 個の作業データ・セットのうち、2 番目のものを指定します。LOAD ユーティリティーを実行している場合、この値は必須です。デフォルトは ISORTOUT です。

テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに Yes を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの割り振りに使用するパラメーターを指定できます。DD を組み込む場合は、プロファイルでテンプレートを少なくとも 1 回定義する必要があります。

「Load Accelerator from External File」パネル

このパネルを使用して、外部ロード・プロファイル・タイプのオプションを指定または表示します。外部ロードは、外部データ入力ファイルからアクセラレータのみに表データをロードするためのオプションを指定します。以下のコマンドはすべて、パネルの編集可能バージョンで使用できます。パネルの表示専用バージョンでは、COLINFO コマンドが使用できます。

- TABLE: DB2 表をプロファイルに追加するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

- **ACCELERATOR:** データをロードするアクセラレーターを選択するには、このコマンドをコマンド行に入力します。このコマンドは、「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネルを開きます。アクセラレーターのリストにアクセスするための適切な DB2 権限が必要です。
- **COLINFO:** 「**Column Info DSN**」フィールドで定義されているデータ・セット内の列定義を編集します。このコマンドは、LOAD 制御カードの列情報の作成または編集を行うための ISPF 編集セッションを開きます。このデータ・セットには、LOAD ユーティリティー構文全体ではなく、(括弧なしの) 表の列定義のみが含まれている必要があります。
- **SAVE:** 指定をプロファイルに保管するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- **BUILD:** 指定したデータ・セットにプロファイルの JCL を作成するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

このパネルでは次のフィールドを使用できます。

Creator/Profile creator

プロファイルの作成者。

Name/Profile Name

最大 30 文字のプロファイルの名前。(「Objects for Employee App」など、プロファイルに分かりやすい名前を使用すると、見つけて再利用するのが容易になります。)

Share option

他のユーザーがプロファイルを使用できる方法を制御します。

U (Update)

他のユーザーはプロファイルを更新できます。

V (View only)

他のユーザーはプロファイルを表示できます。

N (No access)

他のユーザーはプロファイルを表示することも更新することもできません。

Description

プロファイルの説明。

Schema

Table Name

Partition

これらのフィールドには、現在選択されている DB2 表の値が表示されます。表を変更するには、TABLE コマンドを発行します。

ターゲット・オプション:

Accelerator name

データがロードされるアクセラレーター。既存のアクセラレーターのリストを表示するには、フィールドに疑問符 (?) を入力して、Enter キーを押します。

Add table to Accelerator

ロード・ジョブを開始する前に、欠落している表をアクセラレーターに追加するかどうかを示します。

(デフォルト) **N** (いいえ)

表を追加しません。

A (追加)

欠落している表を追加します。この値は、JCL の中に制御カード `ACCEL_ADD_TABLES` を生成します。

R (最新表示)

欠落している表を追加して、既存の表を削除して再び追加します。この値は、JCL の中に制御カード `ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES` を生成します。

Acceleration on success

正常にロードされた後で DB2 Analytics Accelerator Loader が表に対して照会アクセラレーションを有効に設定するかどうかを制御します。有効値は以下のとおりです。

- **Y** (はい): 正常にロードされた後で表に対してアクセラレーションを有効にします。この値は、JCL の中に制御カード `ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES` を生成します。
- (デフォルト) **N** (いいえ): 正常にロードされた後で表に対してアクセラレーションを有効にしません。JCL の中に制御カード `ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE NO` が生成されます。

Parallel load

並列処理を可能にするロード制御カードを生成することを指定します。このフィールドは、パーティション化表のロードを選択する場合に使用できます。非パーティション化オブジェクトの場合、フィールドは読み取り専用で、値は「**No**」です。有効な値は、「**Yes**」および「**No**」です。

値が「**Yes**」である場合、「**Input data set**」に `TEMPLATE` データ・セット名パターンを入力する必要があります。このデータ・セット名パターンは、テンプレート定義を生成するために使用されます。

Load tasks

使用する並列ロード・タスクの数を指定します。有効な値は、ブランクまたは 1 から 20 です。値が指定されない場合、オプション・モジュール・パラメーター `ACCEL_LOAD_TASKS` の値が使用されます。この値は、ロード・ステートメントの `ACCEL_LOAD_TASKS n` 節を生成するために使用されます。

このフィールドは、「**Parallel load**」の値が「**Yes**」である場合に使用できます。

必須のロード・オプション:

Input data set

外部形式の表のデータが入った `SYSREC` データ・セットの場合、次のように名前またはパターンを指定します。

- SYSREC データ・セットの完全修飾データ・セット名。PDS の場合、メンバー名を括弧で囲みます。例えば、HLO.LOADCARD(FILE) と指定します。既存のデータ・セットを指定する場合、製品は、出力の JCL の中に DD ISYSREC を生成します。
- SYSREC データ・セットの DSN テンプレート。並列ロードと非並列ロードの両方に DSN テンプレートを指定できます (「Parallel load」フィールド)。並列ロードの場合、パーティションごとに固有の SYSREC データ・セット名が生成されるように、DSN テンプレート・パターンに &PART 変数を組み込む必要があります。パーティション番号をパーティション・レベルの SYSREC データ・セットに組み込む必要があります。

DSN テンプレートを指定する場合、製品は、出力の JCL の中に TEMPLATE(...) ステートメントを生成します。

DSN テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに Yes を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの割り振りに使用するパラメーターを指定できます。

「Parallel load」の値を変更する場合、製品は、SYSREC データ・セットの以前の値を復元しません。この場合、並列ロードで &PART 変数を要求するために、SYSREC フィールド検証のみが変更されます。

Column info DSN

製品は、表の列情報データ・セットが UNLOAD ユーティリティからのものであるかどうかを検出します。そうである場合、生成する JCL に正確な情報を自動的に組み込みます。そうでない場合は、SYSPUNCH データ・セットの列情報が入った完全修飾データ・セット名を指定してください。単一のデータ・セットを指定してください。このフィールドではテンプレートを使用できません。

DB2 ロード・オプション:

Utility ID

DB2 内のこのユーティリティを表す固有 ID を指定します。これは、EBCDIC のタイプ VARCHAR(16) の入力パラメーターです。//DL0001 EXEC PGM=PGM#DLD, PARM=('QA1A, ,utility ID') のように、JCL に PARM フィールドのパラメーターとして渡されます。

RESUME

JCL の中に制御カード LOAD RESUME YES を生成するには、Yes を指定します。製品は、データを置き換えるのではなく、アクセラレーター表に追加します。DB2 とアクセラレーターの両方にロードする場合、DB2 は、データを DB2 表にも追加します。アクセラレーターのみでロードする場合、DB2 表にデータは追加されず、DB2 の既存のデータは未変更のままになります。製品がデータを追加するのではなく、既存のデータを置き換えるようにするには、No を指定します。

SYSUT1 template DD name

2 個の作業データ・セットのうち、最初のを指定します。LOAD ユーティリティを実行している場合、この値は必須です。デフォルトは ISYSUT1 です。

テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに Yes を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの割り振りに使用するパラメーターを指定できます。DD を組み込む場合は、プロファイルでテンプレートを少なくとも 1 回定義する必要があります。

SORTOUT template DD name

2 個の作業データ・セットのうち、2 番目のものを指定します。LOAD ユーティリティを実行している場合、この値は必須です。デフォルトは ISORTOUT です。

テンプレートおよびパラメーターを更新するには、「Update」フィールドに Yes を指定します。テンプレート・パターン、およびデータ・セットの割り振りに使用するパラメーターを指定できます。DD を組み込む場合は、プロファイルでテンプレートを少なくとも 1 回定義する必要があります。

「DD Template Specification」パネル

このパネルを使用して、ERRDDN、MAPDDN、DISCARDN、SYSUT1、または SORTOUT テンプレートの割り振りオプションを指定します。

以下のコマンドが使用可能です。

TEMPLATE: コマンド行にこのコマンドを入力して、テンプレートの DSN マスクを編集します。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

Data set disposition

「DB2 for z/OS ユーティリティ・ガイドおよび解説書」に記載されている、有効な z/OS データ・セットの後処理を指定します。デフォルトは MOD,DELETE,DELETE です。値を指定すると、制御カードが TEMPLATE ステートメント内で *DISP(specified_value)* として生成されます。

例:

```
TEMPLATE SYSERR
          DSN      'syserr.dataset.name'
          DISP     (MOD,DELETE,DELETE)
```

テンプレートのタイプに応じたデフォルトの後処理は、以下のとおりです。

- ERRDDN: DISP(MOD,CATLG,CATLG)
- MAPDDN: DISP(MOD,CATLG,CATLG)
- DISCARDN: DISP(MOD,CATLG,CATLG)
- SYSUT1: DISP(MOD,DELETE,CATLG)
- SORTOUT: DISP(MOD,DELETE,CATLG)

Unit type

ご使用のシステムに有効な DASD 割り振り単位を指定します。製品は、適格装置テーブル (EDT) を検査して、指定された値が有効であることを確認します。デフォルトは空白です。値を指定すると、制御カードが TEMPLATE ステートメント内で *UNIT specified_unit_type* として生成されます。

例:

```

TEMPLATE SYSERR
UNIT      SYSALLDA
DSN       'syserr.dataset.name'
SPACE     TRK
MAXPRIME  00006666
UNCNT     5
DISP      (MOD,DELETE,DELETE)

```

Space units

スペース割り振りの計測単位を指定します。有効な値は CYL、TRK、および MB です。デフォルトは CYL です。制御カードは、JCL 内で SPACE unit として生成されます。「**Space primary**」と「**Space secondary**」に値を指定しない場合、DB2 は実行時に 1 次と 2 次の割り振りスペースを計算します。「**Space unit**」は、「**Space primary**」と「**Space secondary**」に値を指定する場合には必須です。

例は以下のとおりです (「**Space unit**」のみが定義されている)。

```

TEMPLATE SYSERR
UNIT      SYSDA
DSN       'syserr.dataset.name'
SPACE     CYL
DISP      (MOD,DELETE,DELETE)

```

例は以下のとおりです (「**Space primary**」、「**Space secondary**」、および「**Space unit**」が定義されている)。

```

TEMPLATE SYSERR
UNIT      SYSALLDA
DSN       'syserr.dataset.name'
SPACE     (10,5) CYL
DISP      (MOD,DELETE,DELETE)

```

Space primary

Space secondary

1 次および 2 次のディスク・スペースの割り振りを指定します (1 から 1677215)。デフォルト値はブランクです。「**Space primary**」の値を指定する場合は「**Space secondary**」の値も指定する必要があり、その逆も同じです。制御カードは、JCL 内で SPACE (*primary,secondary*) として生成されます。

例:

```

TEMPLATE SYSERR
UNIT      SYSALLDA
DSN       'syserr.dataset.name'
SPACE     (10,5) CYL
MAXPRIME  00006666
UNCNT     5
DISP      (MOD,DELETE,DELETE)

```

PCTPRIME

1 次スペース割り振りをパーセントとして指定します。有効値は 0 から 100 です。デフォルト値はブランクです。値を指定すると、制御カードが JCL 内で PCTPRIME *value* として生成されます。

例:


```

TEMPLATE SYSERR
UNIT      SYSALLDA
DSN       'syserr.dataset.name'
SPACE     (10,5) CYL
PCTPRIME  50
DISP      (MOD,DELETE,DELETE)

```

MAXPRIME

許容される最大の 1 次スペース割り振りを指定します。デフォルトはブランクです。最大 8 文字の整数値を指定できます。制御カードは、JCL 内で MAXPRIME *value* として生成されます。

例:

```

TEMPLATE SYSERR
UNIT      SYSALLDA
DSN       'syserr.dataset.name'
SPACE     (10,5) CYL
MAXPRIME  000024
PCTPRIME  50
DISP      (MOD,DELETE,DELETE)

```

NBRSECOND

2 次スペース割り当ての分割を指定します。まず 1 次スペースが割り振られ、さらに残りのスペースが、指定された 2 次の割り振りに分割されます。デフォルトはブランクです。1 から 10 の値を指定できます。制御カードは、JCL 内で NBRSECOND *value* として生成されます。

例:

```

TEMPLATE SYSERR
UNIT      SYSALLDA
DSN       'syserr.dataset.name'
SPACE     (10,5) CYL
MAXPRIME  000024
PCTPRIME  50
NBRSECOND 10
DISP      (MOD,DELETE,DELETE)

```

Current Template DSN

定義している DSN のデフォルト・テンプレートを表示します。

各テンプレートのデフォルト DSN マスクは、以下のとおりです。

- ERRDDN: &US..IDSE.&DB..&TS..&UQ.
- MAPDDN: &US..IDSM.&DB..&TS..&UQ.
- DISCARDN: &US..IDSD.&DB..&TS..&UQ.
- SYSUT1: &US..IDSU.&DB..&TS..&UQ.
- SORTOUT: &US..IDSO.&DB..&TS..&UQ.

「DD DSN Template」パネル

このパネルを使用して、DB2 Analytics Accelerator Loader が生成する DSN のオプションを指定します。使用可能なコマンドおよびフィールドは次のとおりです。

SHOW

DSN マスクを表示するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

Template name

編集中のテンプレートの名前が表示されます。

Qualifier code

有効なコードのリストからデータ・セット名の指定コードを指定して、Enter キーを押します。

Free form literal

「Use freeform literal」に修飾子コードを指定して、このフィールドに、データ・セット名に組み込むリテラル値を入力します。

Current data set name qualifier string

選択された修飾子コードのシンボリック・ストリングが表示されます。データ・セット名をこのフィールドに直接入力することもできます。

Database

データベース名を組み込みます。

Space name

表スペース名を組み込みます。

Partition/DSNUM

この修飾子を選択する場合、データ・セット名を有効にするために接頭部を入力するよう求めるプロンプトが表示されます。パーティションを選択するには、文字 P を入力します。

Date (YYYYDDD)

現在日付を YYYYDDD 形式で組み込みます。

Year (YYYY)

現在の年を YYYY 形式で組み込みます。

Month (MM)

現在の月を MM 形式で組み込みます。

Day (DD)

現在の日を DD 形式で組み込みます。

Julian Day (DDD)

ユリウス日を DDD 形式で組み込みます。

Time (HHMMSS)

現在時刻を HHMMSS 形式で組み込みます。

Hours (HH)

現在時刻の時間を HH 形式で組み込みます。

Minutes (MM)

現在時刻の分を MM 形式で組み込みます。

Seconds (SS)

現在時刻の秒を SS 形式で組み込みます。

Local/Recovery (L/R)

選択される場合、この修飾子はバックアップ・タイプを組み込みます。L はローカル・サイト、R はリカバリー・サイトを表します。

Primary/Backup (P/B)

バックアップ・タイプを組み込みます。P は 1 次、B はバックアップを表します。

Copy type (Full/Incr)

タイプを組み込みます。F はフルイメージ・コピー・タイプ、I は増分イメージ・コピー・タイプを表します。

Listdef

LISTDEF 制御ステートメントを使用して定義され、この TEMPLATE と同じ制御ステートメントで参照されるリストの名前を組み込みます。

Sequence

処理中のリスト内の項目のシーケンス番号を組み込みます。

Unique

DB2 が割り振り時にシステム・クロックから取得する固有の 8 文字。

SSID 関連サブシステム ID を組み込みます。

User ID

ジョブ・ビルダーの TSO ユーザー ID を組み込みます。

Job name

ジョブ名を組み込みます。

Step name

ジョブ・ステップ名を組み込みます。

Utility ID

ユーティリティー ID を組み込みます。

Utility name

ユーティリティー名を組み込みます。

Use Freeform Literal

「Free Form literal」フィールドに入力された 8 文字のリテラルを組み込みます。

Substring qualifier

サブストリング修飾子を組み込みます。この修飾子コードを指定する場合、以下のフィールドを示す「Substring Parameters」ポップアップが表示されます。

Enter the Qualifier Code

追加する修飾子コードに対応する番号を入力します。

Enter Starting Position

サブストリングの開始位置を入力します。

Enter Substring Length

サブストリングの長さを入力します。

「DD DSN Template (View)」パネル

このパネルを使用して、DD DSN テンプレートに関する情報を表示します。テンプレートとオプションの使用については、DB2 ユーティリティー・ガイドの TEMPLATE に関する項を参照してください。使用可能なコマンドおよびフィールドは次のとおりです。

SHOW

DSN マスクを表示するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

Template name

編集中のテンプレートの名前が表示されます。

Qualifier code

有効なコードのリストからデータ・セット名の指定コードを指定して、Enter キーを押します。

Free form literal

「Use freeform literal」に修飾子コードを指定して、このフィールドに、データ・セット名に組み込むリテラル値を入力します。

Current data set name qualifier string

選択された修飾子コードのシンボリック・ストリングが表示されます。データ・セット名をこのフィールドに直接入力することもできます。

「Resulting DSN Using Current」パネル

パネルを使用して、指定結果を反映した DSN マスクを表示できます。

「Resulting DSN Using Current Symbolic String」パネル

このパネルを使用して、いずれかのデータ・セット・テンプレート・パネルの指定結果を反映した DSN マスクを表示します。このパネルは通知専用です。

Resulting DSN Using Current Prefix

このパネルを使用して、データ・セット・テンプレート・パネルでの接頭部の指定結果を反映した DSN マスクを表示します。このパネルは通知専用です。

「Load Accelerator with Consistent Data」パネル

このパネルを使用して、整合ロード・プロファイルの処理オプションを指定または表示します。

このパネルへの入力から生成されるロード・ジョブは、カタログされた DB2 イメージ・コピーから、複数の表のデータをアクセラレーターにロードします。以下のコマンドはすべて、パネルの編集可能バージョンで使用できます。表示専用のパネルでは、TABLES と BUILD が使用できます。

- TABLES: DB2 表をプロファイルに追加するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- ACCELERATOR: データをロードするアクセラレーターを選択するには、このコマンドをコマンド行に入力します。このコマンドは、「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネルを開きます。アクセラレーターのリストにアクセスするための適切な DB2 権限が必要です。
- SAVE: 指定をプロファイルに保管するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- BUILD: 指定したデータ・セットにプロファイルの JCL を作成するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

このパネルでは次のフィールドを使用できます。

Creator/Profile creator

プロファイルの作成者。

Name/Profile Name

最大 30 文字のプロファイルの名前。(「Objects for Employee App」など、プロファイルに分かりやすい名前を使用すると、見つけて再利用するのが容易になります。)

Share option

他のユーザーがプロファイルを使用できる方法を制御します。

U (Update)

他のユーザーはプロファイルを更新できます。

V (View only)

他のユーザーはプロファイルを表示できます。

N (No access)

他のユーザーはプロファイルを表示することも更新することもできません。

Description

プロファイルの説明。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

ユーティリティー処理オプションは、以下のとおりです。

Accelerator name

データがロードされるアクセラレーター。既存のアクセラレーターのリストを表示するには、フィールドに疑問符 (?) を入力して、Enter キーを押します。

Add tables to Accelerator

ロード・ジョブを開始する前に、欠落している表をアクセラレーターに追加するかどうかを示します。

(デフォルト) **N (いいえ)**

表を追加しません。

A (追加)

欠落している表を追加します。この値は、JCL の中に制御カード ACCEL_ADD_TABLES を生成します。

R (最新表示)

欠落している表を追加して、既存の表を削除して再び追加します。この値は、JCL の中に制御カード ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES を生成します。

Acceleration on success

正常にロードされた後で DB2 Analytics Accelerator Loader が表に対して照会アクセラレーションを有効に設定するかどうかを制御します。有効値は以下のとおりです。

- **Y (はい)**: 正常にロードされた後で表に対してアクセラレーションを有効にします。この値は、JCL の中に制御カード ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES を生成します。

- (デフォルト) N (いいえ): 正常にロードされた後で表に対してアクセラレーションを有効にしません。JCL の中に制御カード ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE NO が生成されます。

Load time

データがロードされる整合ポイントまたは履歴ポイントを指定します。有効値は以下のとおりです。

CURRENT

DB2 Analytics Accelerator Loader 構文に TO_CURRENT キーワードを含めます。このオプションは、現在の時点 (ログ・ファイルの最後) までログを読み取ってデータをロードするように DB2 Analytics Accelerator Loader に指示します。ロード時点値「CURRENT」とオプション「RBA or LRSN End Point」は、相互に排他的です。ロード時点値「CURRENT」は、「Use Flashcopy」が Yes に設定されている場合には必須です。

SPECIFIED

「RBA/LRSN」フィールドまたは「Timestamp End Point」フィールドに終点を指定することを示します。

QUIESCE

「Quiesce end point」フィールドに終点を指定することを示します。DB2 Analytics Accelerator Loader 構文に TO_QUIESCE キーワードを含めます。このオプションは、指定した静止ポイントまでログを読み取り、データをロードするように DB2 Analytics Accelerator Loader に指示します。

注:

- 選択される RBA (相対バイト・アドレス) は、処理中の URID の開始点まで RBA をロールバックすることによって決定されます。該当するものがない場合、RBA は次の SYSLOGRANGE 開始点 (存在する場合)、またはログから読み取られた最新の有効なログ・レコードの RBA (その先の SYSLOGRANGE レコードが存在しない場合) まで順方向に調整される場合もあります。これにより、DB2 Analytics Accelerator Loader は指定されたログ・ポイントの妥当性を検査する必要がなくなります。この妥当性検査のためには、実際のログ内でそのログ・レコードの読み取りを試みる必要があり、テープ・マウント、データ・セットの割り振り、または余分な入出力が発生する可能性があります。
- TO_QUIESCE オプション (オプション Q) を指定した場合のみ、RBA (SYSCOPY から取得) は妥当性検査済みと見なされません。ユーザー指定の RBA は、妥当性検査済みとは見なされません。このため、DB2 Analytics Accelerator Loader は、新規イメージ・コピー用の SYSCOPY にその妥当性検査済みの RBA をロードする一方、ユーザー指定の RBA に関連する既知の有効なポイントに RBA を進めて、余分なテープ・マウント、データ・セットの割り振り、および入出力が発生しないようにします。

RBA or LRSN end point

このオプションを指定する場合、「Load Time」値は SPECIFIED であることが必要です。指定された 16 進の終点までログを読み取って、データをイメージ・コピーに取り込むように DB2 Analytics Accelerator Loader に指示します。データ共用環境では、**END_LRSN byte_string** が構文に追加されます。非データ共用環境では、**END_RBA byte_string** が構文に追加されます。

Timestamp end point

このオプションを指定する場合、「Load Time」値は SPECIFIED であることが必要です。DB2 Analytics Accelerator Loader の処理が停止する終点を指定します。タイム・スタンプは、形式 (YYYY-MM-DD-hh.mm.ss.nnnnnn) で指定します。便利な方法として、SYSCOPY から終点をコピーしてこのフィールドに貼り付けることができます。

Time zone of timestamp

制御カード **TO_TIMESTAMP/TO_TIMESTAMP_LOCAL** が JCL 内で生成されます。タイム・スタンプは、内部では GMT/世界時として処理されます。ローカル・タイム・スタンプを指定した場合は、GMT/世界時に変換されます。**TO_TIMESTAMP** は GMT/世界時のタイム・スタンプで、変換は不要です。**TO_TIMESTAMP_LOCAL** はローカル・タイム・ゾーンのタイム・スタンプで、GMT/世界時に変換する必要があります。コンピューターが動作するタイム・ゾーンは IPL 時に指定されるので、ローカルから GMT/世界時に変換するために処置を行う必要はありません。

Quiesce end point

このオプションを指定する場合、「Load Time」値は QUIESCE であることが必要です。

Continue on errors

大半のエラーが無視されて処理が続行されるようにします。値 **Yes** を指定すると、JCL の中に制御カード **CONTINUE_ON_ERROR** が生成されます。

注: **CONTINUE_ON_ERROR** 制御カードが JCL に組み込まれ、RC=4 より高いエラーが発生した場合、エラーはオーバーライドされます。RC=4 が報告され、ジョブは失敗しません。入出力エラーおよびその他の重大な問題 (メモリー不足の問題など) は無視されず、ジョブは失敗します。

Load partitions individually

パーティション化表のパーティションに対する **SPACE** ステートメントを生成する方法を指定します。デフォルト値「**Yes**」を指定すると、すべてのパーティションが指定されたときに、**SPACE** ステートメントがパーティションごとに生成されます。値「**No**」を指定すると、表に対して 1 つの **SPACE** ステートメントが生成されます。

FlashCopy オプションは、以下のとおりです。

Use FlashCopy

ロード処理に関係するそれぞれの表スペースに対して、新規 FlashCopy イメージ・コピーを作成するかどうかを指定します。**Yes** を指定すると、制御カード **FLASHCOPY** が JCL 内で生成され、対応するテンプレート名またはイ

メッセージ・コピー・データ・セット名が使用されます。**NEW_COPY** キーワードも JCL 内で生成されます。FlashCopy を使用するには、「**Load Time**」の値として **CURRENT** を指定する必要があります。

値 **No** を指定すると、レガシー・イメージ・コピーが使用されます。

注: 新規 DB2 イメージ・コピーを作成する場合は、「**Use FlashCopy**」を **Yes** に設定する必要があります。他のオプションを指定した場合、新規イメージ・コピーは作成されません。

Use FlashCopy DSN template

FlashCopy データ・セット・テンプレートを指定するか、DSNZPARM に指定されている FlashCopy イメージ・コピーのデフォルト・テンプレートを使用するかを指定します。**Yes** を指定すると、JCL 内で **NEW_COPY** キーワードの後に制御カード・パラメーター **FCCOPYDDN template_name** が生成されます。*template_name* は、作成したテンプレートの名前です。

```
TEMPLATE (template_name)  
    DSN 'image.copy.dsn.spec'
```

```
NEW_COPY FCCOPYDDN (template_name)
```

更新 「**Use FlashCopy DSN Template**」に対して **Yes** を指定した場合に、テンプレートを変更する必要がある場合は、**Yes** を指定して「FlashCopy DSN Template」パネルにアクセスします。

ログ読み取りおよびログ適用に関するオプションは、以下のとおりです。

SYSCOPY scan operating mode

処理の開始点を検索する際に対象とする SYSCOPY 行を指定します。有効値は以下のとおりです。

ZPARM

これがデフォルトです。DB2 が実行されている動作モードを DB2 Analytics Accelerator Loader が検出し、対応する制御カードを自動的に挿入します。このオプションは、**LOCAL_SITE**、**RECOVER_SITE**、および **IMAGE_COPY_PREFERENCE** 制御カードを省略し、DB2 上の ZPARM で検出された値を使用します。

LOCAL

LP/LB 行を参照して処理の開始点を検出します。DB2 Analytics Accelerator Loader 構文に **LOCAL_SITE** キーワードを含めます。

RECOVER

RP/RB 行を使用して処理の開始点を検出します。DB2 Analytics Accelerator Loader 構文に **RECOVERY_SITE** キーワードを含めます。

USER 「**SYSCOPY Selection Preference**」フィールドに定義されたユーザー指定のスキャン設定を使用して、処理の開始点を検出します。DB2 Analytics Accelerator Loader JCL に **IMAGE_COPY_PREFERENCE** キーワードを含めます。

SYSCOPY selection preference

開始点について SYSCOPY をスキャンする際に使用を試みるイメージ・コ

ピー・タイプを指定します。この結果、制御カード **IMAGE_COPY_PREFERENCE** **LPLBRPRB** が JCL 内で生成されます。スキャンする対象のイメージ・コピー・タイプを少なくとも 1 つ、最大 5 つ指定できます。以下に例を示します。

LB SYSCOPY 内の LB タイプのイメージ・コピーをスキャンします。

LP SYSCOPY 内の LP タイプのイメージ・コピーをスキャンします。

LPLB まず LP タイプのイメージ・コピーをスキャンし、次に LB タイプのイメージ・コピーをスキャンします (同一のタイム・スタンプが付いた SYSCOPY 行では LP タイプのイメージ・コピーを常に使用します)。

LPLBRB

SYSCOPY スキャン・プログラムが開始点に向けて SYSCOPY を逆方向にスキャンする際に、RB が最初に現れた場合は RB を取得できるようにします。

LPLBRPRBFC

(デフォルト) SYSCOPY 選択設定が無視されるようにします。

この選択設定は、「**SYSCOPY scan operating mode**」が「**USER**」に設定されている場合のみ適用されます。最大 10 文字のパック・フィールドに合計で 1 から 5 個のコードを入力できます。有効なコードは以下のとおりです。

LP ローカル 1 次。

LB ローカル・バックアップ。

RP リカバリー 1 次。

RB リカバリー・バックアップ。

FC FlashCopy。DB2 Analytics Accelerator Loader 処理のイメージ・コピー開始点として、DB2 V10 以降の FlashCopy データ・セットに加えて、DB2 Recovery Expert (ARY) によって管理される FlashCopy データ・セットを DB2 Analytics Accelerator Loader が使用することを可能にします。

Log reader copy preference

DB2 Analytics Accelerator Loader によって生成される JCL に LOG_COPY_PREFERENCE キーワードを含めます。

Accelerator Loader がログ・レコードのニーズを満たすためにログを検索する場合に BSDS 内のアーカイブ・ログおよびアクティブ・ログのリストがスキャンされる順序を指定します。このフィールドに指定する値は、構文 R1 (アーカイブ・ログ・コピー #1)、R2 (アーカイブ・ログ・コピー #2)、A1 (アクティブ・ログ #1)、および A2 (アクティブ・ログ #2) を使用する必要があります。コピー #2 が DB2 で使用されない場合でも、4 つの固有値をすべて指定する必要があります。例えば、以下のようになります。

- A1A2R1R2 - アーカイブ・ログをスキャンする前にアクティブ・ログをスキャンします。

注: DB2 が、Accelerator Loader が現在入力のために読み取っている出力のいずれかのアクティブ・ログをオープンしようとする可能性があるため、この設定の使用は避けてください。このような試行により、DB2 内でオープン・エラーが発生する可能性があります。

- R1R2A1A2 - (デフォルト) アーカイブ・ログを最初にスキャンして、アーカイブ・ログおよびアクティブ・ログに同じ範囲が存在する場合にアーカイブ・ログを使用します。

ISPF インターフェースで「Accelerator Loader Parameters」パネルの「Log Reader Copy Preference」フィールドを使用して、デフォルト値を変更することができます。

Number of PARALLEL log read

(デフォルト 0)

並列ログ読み取りタスクの数。有効な値は、0 から 16 の整数です。値 0 を指定すると、データ共有グループ・メンバーごとに最大 1 つのタスクが同時に実行されます。ゼロ以外の値を指定する場合、その数はログ読み取りのために同時に実行できる並列タスクの最大数です。読み取るログの数が「Number of PARALLEL log read」に指定された並列タスク数を超える場合は、実行中のタスクが完了するとすぐに残りのログを読み取るタスクが起動され、必要なログがすべて読み取られるまで続きます。

Number of PARALLEL log apply

(デフォルト 4)

並列ログ適用タスクの数。有効な値は、1 から 10 までの整数です。1 より大きい値が指定された場合に、存在する GROUP(...) 制御カード構造がただ 1 つならば、DB2 Analytics Accelerator Loader バッチ処理はパーティション化されたオブジェクトをクラスター化して再配列し、オブジェクトを指定された数のタスクに配分して、パーティションを並列にロードします。複数の GROUP(...) 制御カード構造が存在する場合、y の値は無視され、それぞれの GROUP に個別の並列タスクが割り当てられます。

パーティション・レベルのイメージ・コピーがテープ上にあり、y の値が 1 より大きい場合は、以下の条件が適用されます。

- それぞれのイメージ・コピーが別々の VOLSER 上にある場合は、指定された数の並列タスクがログ適用処理に使用されます。
- すべてのイメージ・コピーが同じ VOLSER 上でスタックされている場合は、ただ 1 つのログ適用タスクが実行されます。

Bypass SYSIBM.SYSLGRNX Proc

製品が SYSIBM.SYSLGRNX の読み取りをスキップし、DB2 ログのみを読み取るかどうかを指定します。

Y 製品は SYSIBM.SYSLGRNX の読み取りをスキップし、最も古いオブジェクト開始点から最新のオブジェクト終点まで、DB2 ログ全体を読み取ります。

N 製品は、SYSIBM.SYSLGRNX を読み取って、処理中のオブジェクトについてアクティブな変更対象というマークが付けられた DB2 ログの部分のみに、読み取りの対象を制限します。

注: SYSIBM.SYSLGRNX をスキップすると、多数のログ・データ・セットとログ・レコードが読み取られ、最も古いオブジェクト開始点から最新のオブジェクト終点まで DB2 ログ全体が読み取られるために、処理時間が大幅に増大する可能性があります。

「Load Accelerator from specified Image Copy」パネル

このパネルを使用して、イメージ・コピー・ロード・プロファイル・タイプの処理オプションを指定または表示します。

このパネルへの入力から生成されるロード・ジョブは、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーから、単一の表のデータをアクセラレーターにロードします。以下のコマンドはすべて、パネルの編集可能バージョンで使用できます。表示専用のパネルでは、BUILD が使用できます。

- TABLE: DB2 表をプロファイルに追加するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- ACCELERATOR: データをロードするアクセラレーターを選択するには、このコマンドをコマンド行に入力します。このコマンドは、「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネルを開きます。アクセラレーターのリストにアクセスするための適切な DB2 権限が必要です。
- SAVE: 指定をプロファイルに保管するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- BUILD: 指定したデータ・セットにプロファイルの JCL を作成するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

Creator/Profile creator

プロファイルの作成者。

Name/Profile Name

最大 30 文字のプロファイルの名前。(「Objects for Employee App」など、プロファイルに分かりやすい名前を使用すると、見つけて再利用するのが容易になります。)

Share option

他のユーザーがプロファイルを使用できる方法を制御します。

U (Update)

他のユーザーはプロファイルを更新できます。

V (View only)

他のユーザーはプロファイルを表示できます。

N (No access)

他のユーザーはプロファイルを表示することも更新することもできません。

Description

プロファイルの説明。

Schema

Table Name

Partition

これらのフィールドには、現在選択されている DB2 表の値が表示されます。表を変更するには、TABLE コマンドを発行します。

ユーティリティー処理オプションは、以下のとおりです。

Accelerator name

データがロードされるアクセラレーター。既存のアクセラレーターのリストを表示するには、フィールドに疑問符 (?) を入力して、Enter キーを押します。

Add table to Accelerator

ロード・ジョブを開始する前に、欠落している表をアクセラレーターに追加するかどうかを示します。

(デフォルト) **N** (いいえ)

表を追加しません。

A (追加)

欠落している表を追加します。この値は、JCL の中に制御カード ACCEL_ADD_TABLES を生成します。

R (最新表示)

欠落している表を追加して、既存の表を削除して再び追加します。この値は、JCL の中に制御カード ACCEL_REMOVE_AND_ADD_TABLES を生成します。

Acceleration on success

正常にロードされた後で DB2 Analytics Accelerator Loader が表に対して照会アクセラレーションを有効に設定するかどうかを制御します。有効値は以下のとおりです。

- **Y** (はい): 正常にロードされた後で表に対してアクセラレーションを有効にします。この値は、JCL の中に制御カード ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE YES を生成します。
- (デフォルト) **N** (いいえ): 正常にロードされた後で表に対してアクセラレーションを有効にしません。JCL の中に制御カード ACCEL_ON_SUCCESS_ENABLE NO が生成されます。

Continue on errors

大半のエラーが無視されて処理が続行されるようにします。値 **Yes** を指定すると、JCL の中に制御カード CONTINUE_ON_ERROR が生成されます。

注: CONTINUE_ON_ERROR 制御カードが JCL に組み込まれ、RC=4 より高いエラーが発生した場合、エラーはオーバーライドされます。RC=4 が報告され、ジョブは失敗しません。入出力エラーおよびその他の重大な問題(メモリー不足の問題など)は無視されず、ジョブは失敗します。

Input image copies DSN

表スペースのイメージ・コピーを含むデータ・セット。データ・セットには、DBNAME TSNAME PART ICDSN の形式の非固有レコードが含まれています。

レコードは DB2 SYSCOPY 表から取得され、タイム・スタンプ順に事前に配列されます。

JCL 生成プログラムは、ユーザーが TABLES コマンドを発行する際に選択した入力データ・セットからイメージ・コピー DSN を取得し、出力 JCL の SPACE() スコープ内で TO_IC *data_set* のように使用します。

「Enter Table and Creator Like to Display」パネル

このパネルを使用して、プロファイルに含める対象を選択するための表をフィルターに掛けます。使用可能なフィールドは次のとおりです。

Table creator like

表作成者の検索基準。ワイルドカード値が許可されます。ワイルドカード文字はアスタリスク (*) です。

注: このフィールドの大/小文字の区別は、「Enter Table and Creator Like to Display」パネルの「Case sensitive」フィールドによって制御されます。

Table name like

表名の検索基準。ワイルドカード値が許可されます。ワイルドカード文字はアスタリスク (*) です。

注: このフィールドの大/小文字の区別は、「Enter Table and Creator Like to Display」パネルの「Case sensitive」フィールドによって制御されます。

Match views and aliases

オブジェクト・タイプの基準。「Yes」を指定すると、表、ビュー、および別名が表示されます。「No」を指定すると、表のみが表示されます。製品はビューまたは別名を基本表スペースに解決し、生成される JCL にその基本表スペースを組み入れます。

Case sensitive

プロファイルのオブジェクトを選択するとき表名の大/小文字を区別するかどうかを制御します。値が「No」(デフォルト)の場合は、小文字が大文字のオブジェクト名と一致し、その逆も同じです。値が「Yes」の場合、ワイルドカード・パターン abc* と ABC* は異なる結果を返します。

「Add DB2 Tables/DB2 Table Selection」パネル

このパネルを使用して、ロード・プロファイルに含める表を選択します。次のコマンドを使用できます。

- DEFAULT: パネルの内容をデフォルトの順序でソートするために、このコマンドをコマンド行に入力します。
- DEFAULT: コマンド行にこのコマンドを入力して、パネルの内容をデフォルトの順序でソートします。
- S: 選択する表の隣にある「Cmd」フィールドにこのコマンドを入力します。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

Table creator like

表作成者の検索基準。ワイルドカード値が許可されます。ワイルドカード文字はアスタリスク (*) です。

注: このフィールドの大/小文字の区別は、「Enter Table and Creator Like to Display」パネルの「Case sensitive」フィールドによって制御されます。

Table name like

表名の検索基準。ワイルドカード値が許可されます。ワイルドカード文字はアスタリスク (*) です。

注: このフィールドの大/小文字の区別は、「Enter Table and Creator Like to Display」パネルの「Case sensitive」フィールドによって制御されます。

DB2 SSID

DB2 Analytics Accelerator Loader が実行されている DB2 サブシステム。

Table Name

表名。

Part パーティション番号 (表スペースがパーティション化されている場合)。この列の以下の値に注意してください。

ALL すべてのパーティションが組み込まれます。

N/A 表スペースがパーティション化されていない。

Creator

表スペース作成者のユーザー ID。

Database

データベース名。

Tablespace

表スペース名。

Type

オブジェクト・タイプ:

- 表
- 別名
- ビュー

「DB2 Table List」パネル

このパネルを使用して、整合ロード・プロファイルに含める表を選択します。次のコマンドを使用できます。

- **ADD:** コマンド行にこのコマンドを入力して、「Enter Table and Creator Like to Display」パネルを開きます。
- **D:** 表を削除する場合は、表名の隣にある「Cmd」フィールドにこのコマンドを入力します。

- RIS: 表名の隣にある「**Cmd**」フィールドにこのコマンドを入力すると、「Referentially Dependent Table Selection」パネルが表示されます。このパネルには関連した表のリストが表示され、リストから選択できます。
- RIA: 表名の隣にある「**Cmd**」フィールドにこのコマンドを入力すると、関連した表がすべて選択されます。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

Creator/Profile creator

プロファイルの作成者。

Name/Profile Name

最大 30 文字のプロファイルの名前。(「Objects for Employee App」など、プロファイルに分かりやすい名前を使用すると、見つけて再利用するのが容易になります。)

Share option

他のユーザーがプロファイルを使用できる方法を制御します。

U (Update)

他のユーザーはプロファイルを更新できます。

V (View only)

他のユーザーはプロファイルを表示できます。

N (No access)

他のユーザーはプロファイルを表示することも更新することもできません。

Description

プロファイルの説明。

Table Name

表名。

Part パーティション番号 (表スペースがパーティション化されている場合)。この列の以下の値に注意してください。

ALL すべてのパーティションが組み込まれます。

N/A 表スペースがパーティション化されていない。

Creator

表スペース作成者のユーザー ID。

Database

データベース名。

Tablespace

表スペース名。

「Referentially Dependent Table Selection」パネル

このパネルを使用して、整合ロード・プロファイルに含める表を選択します。次のコマンドを使用できます。

- **ALL:** すべての表を選択する場合は、コマンド行にこのコマンドを入力します。

- **DEFAULT**: パネルの内容をデフォルトの順序でソートするために、このコマンドをコマンド行に入力します。
- **S**: プロファイルの表を選択または選択解除する場合は、表名の隣にある「**Cmd**」フィールドにこのコマンドを入力します。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

Table Name

表名。

Part パーティション番号 (表スペースがパーティション化されている場合)。この列の以下の値に注意してください。

ALL すべてのパーティションが組み込まれます。

N/A 表スペースがパーティション化されていない。

Creator

表スペース作成者のユーザー ID。

Database

データベース名。

Tablespace

表スペース名。

「DB2 Analytics Accelerator Selection」パネル

このパネルを使用して、データをロードする先のアクセラレーターを選択します。このパネルは、使用しているサブシステムに対して定義されているアクセラレーターを表示します。次のコマンドを使用できます。

S: 選択するアクセラレーターの隣にある「**Cmd**」フィールドにこのコマンドを入力します。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

名前 アクセラレーターの名前。

状況 アクセラレーターの状況。

SSID アクセラレーターが定義されているサブシステム。この列は、SSID がデータ共有グループである場合のみ表示されます。

「FlashCopy DSN Template」パネル

このパネルを使用して、FlashCopy DSN テンプレートを変更します。次のコマンドを使用できます。

「FlashCopy DSN Template」パネル

テンプレートとオプションの使用について詳しくは、「DB2 for z/OS ユーティリティー・ガイドおよび解説書」を参照してください。

SHOW

DSN マスクを表示するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

Template name

編集中のテンプレートの名前が表示されます。

Qualifier code

有効なコードのリストからデータ・セット名の指定コードを指定して、Enter キーを押します。

Free form literal

「Use freeform literal」に修飾子コードを指定して、このフィールドに、データ・セット名に組み込むリテラル値を入力します。

Current data set name qualifier string

選択された修飾子コードのシンボリック・ストリングが表示されます。データ・セット名をこのフィールドに直接入力することもできます。

Database

データベース名を組み込みます。

Space name

表スペース名を組み込みます。

Partition/DSNUM

この修飾子を選択する場合、データ・セット名を有効にするために接頭部を入力するよう求めるプロンプトが表示されます。パーティションを選択するには、文字 P を入力します。

Date (YYYYDDD)

現在日付を YYYYDDD 形式で組み込みます。

Year (YYYY)

現在の年を YYYY 形式で組み込みます。

Month (MM)

現在の月を MM 形式で組み込みます。

Day (DD)

現在の日を DD 形式で組み込みます。

Julian Day (DDD)

ユリウス日を DDD 形式で組み込みます。

Time (HHMMSS)

現在時刻を HHMMSS 形式で組み込みます。

Hours (HH)

現在時刻の時間を HH 形式で組み込みます。

Minutes (MM)

現在時刻の分を MM 形式で組み込みます。

Seconds (SS)

現在時刻の秒を SS 形式で組み込みます。

Local/Recovery (L/R)

選択される場合、この修飾子はバックアップ・タイプを組み込みます。L はローカル・サイト、R はリカバリー・サイトを表します。

Primary/Backup (P/B)

バックアップ・タイプを組み込みます。P は 1 次、B はバックアップを表します。

Copy type (Full/Incr)

タイプを組み込みます。F はフルイメージ・コピー・タイプ、I は増分イメージ・コピー・タイプを表します。

Listdef

LISTDEF 制御ステートメントを使用して定義され、この TEMPLATE と同じ制御ステートメントで参照されるリストの名前を組み込みます。

Sequence

処理中のリスト内の項目のシーケンス番号を組み込みます。

Unique

DB2 が割り振り時にシステム・クロックから取得する固有の 8 文字。

SSID 関連サブシステム ID を組み込みます。

User ID

ジョブ・ビルダーの TSO ユーザー ID を組み込みます。

Job name

ジョブ名を組み込みます。

Step name

ジョブ・ステップ名を組み込みます。

Utility ID

ユーティリティー ID を組み込みます。

Utility name

ユーティリティー名を組み込みます。

Use Freeform Literal

「Free Form literal」フィールドに入力された 8 文字のリテラルを組み込みます。

Substring qualifier

サブストリング修飾子を組み込みます。この修飾子コードを指定する場合、以下のフィールドを示す「Substring Parameters」ポップアップが表示されます。

Enter the Qualifier Code

追加する修飾子コードに対応する番号を入力します。

Enter Starting Position

サブストリングの開始位置を入力します。

Enter Substring Length

サブストリングの長さを入力します。

「FlashCopy DSN Template (View)」パネル

このパネルを使用して、FlashCopy DSN テンプレートに関する情報を表示します。次のコマンドを使用できます。

テンプレートとオプションの使用について詳しくは、「DB2 for z/OS ユーティリティー・ガイドおよび解説書」を参照してください。

SHOW

DSN マスクを表示するには、このコマンドをコマンド行に入力します。

Template name

編集集中のテンプレートの名前が表示されます。

Qualifier code

有効なコードのリストからデータ・セット名の指定コードを指定して、Enter キーを押します。

Free form literal

「Use freeform literal」に修飾子コードを指定して、このフィールドに、データ・セット名に組み込むリテラル値を入力します。

Current data set name qualifier string

選択された修飾子コードのシンボリック・ストリングが表示されます。データ・セット名をこのフィールドに直接入力することもできます。

「Rename Profile」パネル

このパネルを使用して、自身のプロファイルの名前、または他のユーザーによって作成されたプロファイルの名前（「Share Option」の指定を「Update」にして作成されたプロファイルの場合）を変更します。使用可能なフィールドは次のとおりです。

Creator/Profile creator

プロファイルの作成者。

Type/Profile type

DB2 Analytics Accelerator Loader プロファイルのタイプは以下のとおりです。

- 「Dual」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターと DB2 の両方に表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「Accelerator only」は、外部データ入力ファイルからアクセラレーターのみで表データをロードするためのオプションを指定します。
- 「Consistent」は、カタログされた DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに複数の表のデータをロードするためのオプションを指定します。
- 「Image copy」は、ユーザー定義の DB2 イメージ・コピーからアクセラレーターに単一の表のデータをロードするためのオプションを指定します。

Name/Profile Name

最大 30 文字のプロファイルの名前。（「Objects for Employee App」など、プロファイルに分かりやすい名前を使用すると、見つけて再利用するのが容易になります。）

「Build Load JCL」パネル

このパネルでは、既存のロード・プロファイルを使用してジョブを作成する方法を指定します。次のコマンドを使用できます。

- BUILD: 指定したデータ・セットにプロファイルの JCL を作成するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- ADD: ジョブ・カードに別の行を追加するには、このコマンドをコマンド行に入力します。
- タスクを実行するには、行の隣の「**Cmd**」フィールドにコマンドを入力します。
 - D は、行を削除します。
 - I は、改行を挿入します。
 - M は、行を新しい位置に移動します。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

生成される JCL データ・セット名:

Data set name

生成されたジョブを保管する完全修飾データ・セット名 (引用符なし)。データ・セットが存在しない場合、DB2 Analytics Accelerator Loader はデータ・セットを作成します。メンバー名を指定しない場合、DB2 Analytics Accelerator Loader は順次ファイルを作成します。メンバー名を指定する場合、DB2 Analytics Accelerator Loader は PDS を作成します。このデータ・セットの割り振りパラメーターを指定するには、「**Specify new data set allocation parameters**」を選択します。

Member name

生成されたジョブを保持するデータ・セットが PDS である場合は、ジョブ出力用のメンバー名を指定します。メンバーが存在しない場合は、DB2 Analytics Accelerator Loader が作成します。

処理オプション (選択するオプションの隣にスラッシュを入力します):

Specify new data set allocation parameters

このデータ・セットの割り振りパラメーターを指定するかどうかを示します。選択した場合、BUILD コマンドを入力すると、「**Data set allocation parameters**」パネルが開きます。

Review generated JCL

ジョブの生成後、ジョブを検討して編集するかどうかを指定します。選択した場合、BUILD コマンドを入力すると、ジョブが編集セッションで開きます。選択しない場合は、BUILD コマンドを入力すると、現行パネルが表示されます。

Warn if JCL already exists

生成された JCL が既存の JCL を上書きする場合に警告を出すかどうかを指定します。

Warn if JCL was edited after generation

生成された JCL が、生成後に編集された既存の JCL を上書きする場合に警告を出すかどうかを指定します。

Job Card Information

ジョブを作成する方法を指定します。

「Warning」 パネル

「Build Accelerator Loader JCL」パネルで、生成された JCL が既存の JCL を上書きする場合に警告を出すオプションを選択しました。

「Build Accelerator Loader JCL」パネルで、生成された JCL が既存の JCL を上書きする場合に警告を出すオプションを選択しました。

- この JCL を上書きして続行するには、Enter を押します。
- JCL の生成を取り消すには、F12 を押します。

「Data set allocation parameters」 パネル

このパネルを使用して、DB2 Analytics Accelerator Loader JCL データ・セットのデータ・セット割り振りパラメーターを定義します。使用可能なフィールドは次のとおりです。

このパネルを使用して、DB2 Analytics Accelerator Loader JCL データ・セットのデータ・セット割り振りパラメーターを定義します。使用可能なフィールドは次のとおりです。

SMS management class

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの SMS 管理クラス。

SMS storage class

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの SMS ストレージ・クラス。

Volume serial

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成された JCL データ・セットに使用するボリューム・シリアル番号。JCL データ・セットを割り振るボリュームの選択を SMS に任せる場合は、フィールドをブランクのままにします。

Device type

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成された JCL データ・セットに使用する装置タイプ。JCL データ・セットを割り振る装置タイプの選択を SMS に任せる場合は、このフィールドをブランクのままにします。

SMS data class

DB2 Analytics Accelerator Loader によって作成されたデータ・セットの SMS データ・クラス。

Space units

スペース割り振りの計測単位を指定します。有効な値は、BLKS、TRKS、CYLS、KB、MB、BYTES です。デフォルトは CYLS です。

Primary quantity

Secondary quantity

「Space units」で指定した計測単位で、JCL データ・セットを割り振る際に使用する 1 次および 2 次のスペース割り振り量を指定します。

ブロック・サイズ

JCL データ・セットに保管するブロックのブロック・サイズ (物理レコード長) をバイト単位で指定します。

「Administer Accelerator Loader server」パネル

このパネルを使用して、Accelerator Loader サーバーを管理し、トレースとイベントの機能を操作します。

Display server trace

「Server Trace」パネルを開きます。このパネルには、トレース・データの最後のページ全体が表示されます。トレース・データは Accelerator Loader サーバーによって保守され、すべての通信、SQL、および内部イベントをメッセージ形式で記録します。

Configure server

「Server Management Menu」パネルを開きます。このパネルでは、指定したサブシステムのメイン製品アドレス・スペースから抽出したサーバー・データを表示および変更できます。

Manage rules

「Event Facility (SEF) Control」パネルを開きます。このパネルでは、サーバー・イベント・プロシージャー、およびプロシージャーに適用される一連のルール (ルール・セット) を表示および変更できます。

「Server Trace」パネル

このパネルを使用して、環境内で実行されているサーバーによって収集された製品イベントのリストを表示します。

このリストには、発生したすべてのイベント (SQL、IMS、TCP/IP、LU 6.2 など) が含まれています。最新の変更がリストの一番下に示され、最も古いメッセージが一番上に示されます。ユーザー ID や時刻などの書式設定された情報列を表示できます。

以下のコマンド行コマンドが使用可能です。

- FIND: データまたは特定の日時を検索します。
- LOCATE: データまたは特定の日時を検索します。
- DISPLAY: 追加の情報列を表示します。
- STATUS: トレースのブラウズ状況域を表示します。

関連情報:

10-78 ページの『サーバー・トレース情報の表示』

Accelerator Loader サーバーは、個々のトランザクションの存続時に重要なイベントを記録できる強力な診断ツールを提供します。この情報は、問題の診断、デバッグ、および修正に使用できます。

Server Management Menu

このパネルを使用して、指定したサブシステムのメイン製品アドレス・スペースから抽出した Accelerator Loader サーバー・データを表示および変更します。

Display and modify ISPF session parameters

このオプションを選択して、「ISPF Session Parameters」パネルを開きます。ISPF セッション・パラメーターは、現行ユーザーのみを対象に ISPF アプリケーションを制御します。

Display and modify Server parameters

このオプションを選択すると、「Parameter Groups」パネルが開きます。これらのパラメーターはサーバーを制御し、すべての製品ユーザーに影響を及ぼします。

Display product module information

このオプションを選択すると、ソフトウェア・サポートが問題の診断に役立つことができる情報が表示されます。

「ISPF Session Parameters」パネル

このパネルを使用して、製品の ISPF アプリケーションのパラメーターを変更します。設定は、SDB ISPF アプリケーションのもとで現行ユーザーのプロファイル変数プールに保管されます。

Subsystem Name (SSID)

製品のアドレス・スペースのサブシステム名 (4 文字)。この名前は、デバッグ機能のパラメーター化 EXEC の名前を作成するために使用されます。

Status Information

製品のバージョンおよびビルドの情報。

Trace Browse Facility

Accelerator Loader サーバーのトレース・ブラウズ機能サブシステムのサブシステム名 (4 文字)。

「Parameter Groups」パネル

このパネルを使用して、Accelerator Loader サーバーのアドレス・スペースを制御するパラメーターのリストを表示します。

これらのパラメーターは、アドレス・スペース内で使用可能なインターフェースと機能の動作を制御します。パラメーターまたはパラメーター・グループごとの指示に従い、これらのパラメーターの一部は、アドレス・スペースが稼働中でアクティブになっているときに変更できます。その他のパラメーターを変更するには、アドレス・スペースをシャットダウンして再始動する必要があります。

以下の行コマンドがサポートされます。

- D: グループ内のパラメーターを表示します。
- F: 選択した行の情報を書式設定します。
- P: 選択した行に関連した制御ブロックを印刷します。
- S: 選択した行に関連した制御ブロックを表示します。

「Product module information」パネル

このパネルを使用して、Accelerator Loader サーバーの製品モジュールに関する情報を表示します。

このパネルには、サーバーのアドレス・スペース内で使用される各モジュールに関する状況情報が表示されます。この情報は、モジュールの場所を判別したり、その他の状況情報を入手したりするために使用します。ソフトウェア・サポートは、状況情報を保管するために作成されたデータ・セットを問題診断に役立てることができま

「Event Facility (SEF) Control」パネル

このパネルを使用して、サーバー・イベント機能 (SEF) イベント・プロシージャとプロシージャ・ルール・セットを表示および変更します。

グローバル変数

このオプションを選択して、「Display Global Variables」パネルを開きます。このパネルでは、グローバル変数を表示および変更できます。

SEF Rule Management

このオプションを選択して、「Event Facility (SEF) Ruleset Entry Profile」パネルを開きます。このパネルでは、SEF イベント・プロシージャとライブラリーを制御できます。

Interactive Command

このオプションを選択して、「SEF - Command Response Display」パネルを開きます。このパネルでは、対話式コマンド要求の結果を表示できます。

「Display Global Variables」パネル

このパネルを使用して、グローバル変数を表示、作成、および変更します。

グローバル変数は TSO アドレス・スペースおよび Accelerator Loader サーバーのイベント機能プロシージャによって共有されます。これらは、システム IPL と製品の再始動が行われた後も保管されます。グローバル変数は REXX 複合として実装され、ステム文字列「GLOBAL」または「GLOBALx」によって他の複合シンボルと区別されます。ここで、「x」は英数字 (A から Z または 0 から 9) です。別のグローバル変数ステムを表示するには、パネルの「GLOBAL PREFIX:」項目を変更します。

Subnode Name

変数テールの最後の部分。

Nodes

このノードの下にあるサブノードの数。

Nodes Value

この変数に割り当てられているデータ値。このサブノードが存在しない場合は、テキスト・ストリング「NO VALUE ASSIGNED AT THIS LEVEL」が表示されます。

Created

作成日。

Last Change

最終変更日。

Time 最終変更時刻。

Rule or Program

変数を最後に更新したルールまたはプログラム。

Jobname

変数を最後に更新したジョブ。

Updates

変数に対する更新の回数。

「Event Facility (SEF) Ruleset Entry Profile」 パネル

このパネルを使用して、SEF プロシージャー・ルール・セット・リストの表示方法を制御するとともに、以下のアプリケーション制御オプションを設定します。

- 関心のある単一のルール・セットのみに表示を制限する、または (SEF V4 使用時のみ) 特定のタイプのルールを含むルール・セットのみを表示する。
- 毎日更新されるメンバー統計情報が必要ない場合に、ルール・セットの PDS(E) ディレクトリーの再読み取りをバイパスする。
- 大量変更操作を要求する際に確認パネルをバイパスする。
- 今後はこの入力パネルをバイパスするように指示する。

「Event Facility Proc. Rulesets - Using SEF V4 Configuration」 パネル

このパネルは、イベント・プロシージャー・ルール・セットのリストを表示します。入力パネル・オプションを設定することによって、このリストをフィルター操作できます。

メンバーの横にある「S」列に行コマンドを入力して、以下のいずれかのアクションを実行します。

- S: ルール・セット内のメンバーのリストを表示します。
- E: ルール・セット全体のすべてのメンバーを有効にします。
- D: ルール・セット全体のすべてのメンバーを無効にします。
- U: メンバーの名前変更、削除、または印刷を行うために ISPF/PDF ユーティリティー・パネルを表示します。
- A: ルール・セットのすべてのメンバーに Auto-Enable (AE) フラグを設定します。
- Z: ルール・セットのすべてのメンバーの Auto-Enable (AE) フラグをリセットします。

「Event Facility (SEF) Event Procedure List」 パネル

このパネルは、特定のルール・セット内のメンバーをすべて表示し、新規イベント・プロシージャーを作成するために使用します。

メンバーの横にある「S」列に行コマンドを入力して、以下のいずれかのアクションを実行します。

- S: ISPF エディターを使用して変更対象のイベント・プロシージャーを選択します。

新規イベント・プロシージャを作成するには、「S」に続けてスペースと新規イベント・プロシージャの名前を入力します。

- E: イベント・プロシージャを有効にします。
- D: イベント・プロシージャを無効にします。
- A: イベント・プロシージャ・メンバーに Auto-Enable (AE) フラグを設定します。
- Z: イベント・プロシージャ・メンバーの Auto-Enable (AE) フラグをリセットします。
- B: Auto-Enable (AE) フラグを設定して、イベント・プロシージャを有効にします。
- C: イベント・プロシージャを無効にして、Auto-Enable (AE) フラグをリセットします。

「SEF - Command Response Display」パネル

このテスト機能を使用するには、必要なホスト環境名を最上部に入力し、その下のコマンド行にその環境で有効なコマンドを入力します。

コマンドが要求された環境に送信され、以降の出力が表に表示されます。

コンポーネントおよび構造

Accelerator Loader は、z/OS システム上の開始タスクとして実行されます。開始タスクは DB2 と通信して、製品機能を実行し、製品のアクティビティに関する情報を DB2 表に保管します。

以下のトピックでは、DB2 Analytics Accelerator Loader のコンポーネントとそれらの連携方法について説明します。

Accelerator Loader 開始タスク

Accelerator Loader 開始タスクは、SVC を使用してインターフェースからの入力を受け取り、DB2 サブシステムと通信して JCL を実行します。1 つの開始タスクで、システム全体の複数のユーザーからの同時要求を処理できます。開始タスクを開始した後、製品機能を実行することができます。

ヒント: DB2 データ共有環境では、データ共有グループ内のすべてのサブシステムが同じ DB2 カタログを共有します。その結果、グループ内の任意の 1 つのメンバーでワーク・リスト表を作成できます。

カスタマイズ時に、初期設定オプション・メンバーで Accelerator Loader 開始タスクにいくつかのオプションを設定する必要があります。例えば、監査表とロギング表が保管される 1 次 DB2 サブシステムを指定するオプションを設定する必要があります。

Tools Customizer は、ユーザーが使用するために *hlq.mlq.SHLOSAMP* ライブラリーで、サンプル初期設定オプション・メンバー *hloidOPTS* (ここで、*hloid* は、Tools Customizer でユーザーが指定する開始タスク構成 ID) を生成します。このメンバーは、開始タスクの初期設定に使用されるオプションを指定します。このメンバー

には、1) 1 次サブシステムと DB2 DSNLOAD ライブラリーを指定するオプション、2) DB2 接続を制御するオプション、および 3) DB2 タスクを制御するオプションが含まれます。必要に応じて、オプション・メンバーを編集できます。

DSNUTILB インターセプトおよび DSNUTILB インターセプト・ポリシー

Accelerator Loader DSNUTILB インターセプトは、データを外部ファイルからロードする際の DSNUTILB プログラムと DB2 LOAD ユーティリティーのフロントエンドです。

インターセプトを使用するには、製品のカスタマイズ時に作成される DSNUTILB インターセプト・ポリシーを XML で使用する必要があります。ポリシー・メンバー (*hloidPLCY*) が開始タスク PROC で指定されます。ポリシーは、DSNUTILB インターセプトを実行する対象の DB2 サブシステムと、実行されるアクション LOAD_ACCELERATOR を指定します。次の例では、Accelerator Loader DSNUTILB インターセプト・ポリシーを示しています。

```
<?XML VERSION="1.0" ENCODING="UTF-8"?>
<!DOCTYPE OPTIONS SYSTEM "DD:DTD(HLODTPDPL)">
<DSNUTILB_INTERCEPT>
  <POLICY>
    <DB2SYSTEM SSID="ssid" ACTION="LOAD_ACCELERATOR">
    </DB2SYSTEM>
  </POLICY>
</DSNUTILB_INTERCEPT>
```

<POLICY> セクションは、DB2 サブシステム "ssid" を示します。

<DB2SYSTEM> エレメントは、DB2 LOAD 処理をモニターする対象の DB2 サブシステムを識別します。カスタマイズ時に、1 次 DB2 サブシステムがポリシーで指定されます。<POLICY> セクション内で追加の <DB2SYSTEM> エレメントを手動で指定できます。<DB2SYSTEM> エレメントには以下の属性があります。

- **SSID** 属性は、DB2 LOAD 処理をモニターする DB2 サブシステムの有効なサブシステム ID を示します。この値の長さは最大 4 文字にすることができます。デフォルト値は提供されません。ワイルドカードを使用できます。総称ワイルドカード・パターンを属性値として指定する場合、このエレメントは複数の DB2 サブシステムを識別できます。

ヒント: Accelerator Loader プランが、指定するサブシステムでバインドされていることを確認してください。

- **ACTION** 属性は、ポリシー・ルールの評価時に定義されたサブシステムに対して実行される DSNUTILB インターセプト・アクションを示します。有効な値は LOAD_ACCELERATOR のみです。

インターセプト・ワーク・リスト・エラー・テーブルに関連した開始タスク初期設定オプションを調べて、ご使用の環境およびインターセプト処理ニーズに合わせて適切に設定されていることを確認する必要があります。

これらの構成ステップを実行した後、DSNUTILB インターセプト・コンポーネントは、DSNUTILB プログラムをインターセプトし、Accelerator Loader ジョブの DSNUTILB SYSIN ストリームを分析できます。このインターセプトは、元の SYSIN ストリームを別々のワーク・リスト・ステップに分割します。各ステップに

は、1 つの LOAD ユーティリティ・コマンドと適用可能なセットアップ・ステートメント (例: LISTDEF、TEMPLATE、または OPTIONS) が含まれます。Accelerator Loader は、ワーク・リスト・ステップと DSNUTILB インターセプト・ポリシーを調べて、IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS への拡張ロードを実行します。

場合によっては、いくつかのインターセプト管理作業が必要な場合があります。例えば、関連したワーク・リスト・データを除去するようにインターセプトが行われたユーティリティの終了が必要な場合があります。

監視プログラム呼び出し (SVC)

SVC では、製品インターフェースが開始タスクと通信できます。開始タスクごとに 1 つの SVC が必要です。カスタマイズ時に SVC 番号を指定します。開始タスクを開始すると、指定された SVC が動的にインストールされます。開始タスクを停止すると、SVC が動的に削除されます。IPL または SYS1.PARMLIB の変更は必要ありません。

関連概念:

1-9 ページの『コンポーネントおよびインターフェース』

Accelerator Loader は、以下のインターフェースとコンポーネントを提供します。

11-515 ページの『DSNUTILB インターセプトの管理』

いくつかのルーチンと臨時タスクを実行すると、DSNUTILB インターセプトを管理できます。

Accelerator Loader 開始タスクのコンソール・コマンド

Modify オペレーター・コマンドを使用して、いくつかの z/OS コンソール・コマンドを Accelerator Loader 開始タスクに対して発行できます。

構文

Modify コマンドは、z/OS コンソールから発行する場合は F、SDSF から発行する場合は /F です。

z/OS コンソールからコンソール・コマンドを発行するには、以下の構文を使用します。

```
F started_task_name,command_name
```

ここで、*started_task_name* は Accelerator Loader 開始タスクの名前、*command_name* はサポートされるコンソール・コマンドの名前です。これらの名前は、コンマのみで区切られます。

SDSF からコンソール・コマンドを発行するには、以下の構文を使用します。

```
/F started_task_name,command_name
```

一部のコマンドについては、コマンド名の後に GLOBAL などのオプションを追加できます。この場合は、コマンド名、コンマ、オプション名の順に (これらの項目間にブランク・スペースを入れずに)、以下のように指定します。

F started_task_name,command_name,option

コマンド

ヒント: **HELP** コンソール・コマンドを使用して、開始タスク出力にすべての Accelerator Loader コンソール・コマンドをリストできます。

DISPLAY INTERCEPT[GLOBAL|,ALL]

このコマンドを使用して、指定した開始タスクのローカル DSNUTILB インターセプト状況 (「Enabled」または「Disabled」) を、開始タスクに割り振られた SYSPRINT データ・セットに書き込みます。任意指定の GLOBAL オプションを指定して、z/OS イメージ全体のグローバルなインターセプト状況を表示することもできます。代わりに、ALL オプションを指定して、すべての情報を SYSPRINT データ・セットに書き込むこともできます。書き込まれる情報は、ローカル・インターセプト状況、グローバル・インターセプト状況、および DSNUTILB インターセプトが発生する DB2 SSID のリスト (インターセプト処理に関する開始タスク・インスタンスの HLOID を含む) です。

DISPLAY MEPL

このコマンドを使用して、すべての Accelerator Loader モジュールのリストを、開始タスクに割り振られた SYSPRINT データ・セットに書き込みます。モジュールごとに、モジュールのメンテナンス・レベル、モジュールが作成された日時、およびその他の診断用情報がリストに示されます。通常は、IBM ソフトウェア・サポートによる指示があった場合にこのコマンドを発行します。

DISPLAY POLICY

このコマンドを使用して、指定した開始タスクの DSNUTILB インターセプト・ポリシーの内容を、開始タスクに割り振られた SYSPRINT データ・セットに書き込みます。この情報には、ポリシー・メンバー (*hloidPLCY*) 内で定義されている DB2 サブシステムが含まれます。

DISPLAY SESSIONS

このコマンドを使用して、現在アクティブなセッションに関する情報をリストします。

SDSF から MODIFY コマンド */F started_task_name,DISPLAY SESSIONS* を発行すると、現在アクティブなセッションに関する以下のレポートが JOBLOG に生成されます。

```
HLOS0700I 069 10:42:50.10 TCB: 008CAB00 SESSION REPORT *00000001*
HLOS0701I 069 10:42:50.10 *00000001* SESS: 25C40048-00000002-I-PDRICKB -T0897680-00E0-PDRICKB
HLOS0702I 069 10:42:50.10 *00000001* STATUS: SIGNED ON
HLOS0703I 069 10:42:50.10 *00000001* STARTED: 12-30-2013 14:42:42 UTC
HLOS0701I 069 10:42:50.10 *00000001* SESS: 25C40208-00000001-I-PDRICKA -T0897697-00E0-PDRICKA
HLOS0702I 069 10:42:50.10 *00000001* STATUS: SIGNED ON
HLOS0703I 069 10:42:50.10 *00000001* STARTED: 12-30-2013 14:42:37 UTC

HLOS0700I 069 10:43:13.68 TCB: 008CAB00 SESSION REPORT *00000002*
HLOS0704I 069 10:43:13.68 *00000002* No active sessions found
```

DISPLAY TRACE

このコマンドを使用して、指定した開始タスクのトレース情報を収集します。この情報は、開始タスクに割り振られた SNAPTRC データ・セットに

書き込まれます。トレース情報は、主に問題の診断に使用されます。このコマンドは、IBM ソフトウェア・サポートによる指示があった場合にのみ発行してください。

DUMP

このコマンドを使用して、開始タスクのアドレス・スペースの SVC ダンプを実行します。ダンプは通常、分析用のエラー情報を収集するために、IBM ソフトウェア・サポートの要請に応じて生成されます。ダンプ・データ・セットの場所は、システム・ログ内で確認できます。開始タスクが応答しない場合は、他の Accelerator Loader アドレス・スペースのダンプを生成できます。

HELP このコマンドを使用して、開始タスクに対してサポートされるすべての z/OS コンソール・コマンドを、開始タスクの SYSPRINT データ・セットにリストします。このリストは、これらのコマンドの正しい構文を示しています。

STOP [FORCE]

このコマンドを使用して、指定した開始タスクを停止します。オペレーター・コマンド `/F started_task_name,STOP` は、標準のオペレーター・コマンド `/P started_task_name` と等価です。開始タスクを即時に停止する必要がある場合は、現在の処理が完了する前に、オプションの **FORCE** オプションを **STOP** コマンドの後に追加できます。**FORCE** を **STOP** から分離するには、以下のように単一のスペースのみを使用します。

```
/F started_task_name,STOP FORCE
```

TERMINATE SESSION,SESS=session_address

Accelerator Loader バッチ・ジョブ、インターセプトされた DSNUTILB ユーティリティーの実行、または HLOMAINT ジョブが、Accelerator Loader 開始タスクとのセッションを終了せずに異常終了した場合は、このコマンドを使用してセッションを強制終了できます。このコマンドの **SESS** 値としては、8 桁の 16 進数の有効なセッション・アドレスを指定します。(16 進数は文字 0 から 9 と A から F のみを含むことができます。) このセッション・アドレスは、HLOS0101I メッセージ内で確認できます。コマンドを発行した後、HLOS0103I メッセージを探して、セッションが終了したかどうか判別します。例えば、HLOS5113I メッセージが発行された場合は、このコマンドを使用できます。このメッセージは、ワーク・リストが別のユーティリティーによって使用されているために、DB2 ユーティリティーを再始動できないことを示します。別のユーティリティーが異常終了した場合でも、アクティブな「所有セッション」と引き続き関連付けられていれば、このコマンドを使用して所有セッションを終了できます。その後、再始動操作を実行できます。

列表示機能 (CSETUP)

列表示機能 (**CSETUP** 機能) を使用すると、個々の列の幅を変更し、列の縦方向の配列を制御することができます。

CSETUP 機能を使用すると、以下の操作が可能です。

- **CSIZE** オプションを使用して、個々の列の幅を変更する。

- **CSORT** オプションを使用して、列の縦方向の配列を制御する。

その他の列表示機能を使用すると、以下の操作が可能です。

- 左右の両方向に列間を横方向にスクロールする。
- 1 つのレポート列内で横方向にスクロールすると同時に、他のレポート列は画面で静止したままにする。
- 各表示列の上に列番号を挿入する。
- 見出しの下のレポート列の先頭にルーラーを生成する。
- 行/列データ・エレメント全体を表示する。

CFIX、**CORDER**、**CSIZE**、および **CSORT** を使用して構成するカスタマイズまたはビューは、セッション後も保管できます。

CSETUP 機能の使用には、構文に関する以下の制約事項が適用されます。

- 下線付きテキストは、キーワードごとに受け入れ可能な最小の省略形を示します。
- 変数は、イタリック体の小文字で表示されます。
- キーワード・オプションは縦線 (|) で区切られます。

関連タスク:

4-1 ページの『ISPF インターフェースの開始』

製品の ISPF インターフェースを使用して、外部ファイルまたはイメージ・コピーから DB2 と IBM DB2 Analytics Accelerator for z/OS にデータをロードする JCL を作成するために必要な JCL と制御カードを作成します。

制約事項

CSET オプションに適用される制限は、以下のとおりです。

- 固定列の合計サイズは画面幅を超えることはできません。
- 固定列の合計サイズは、すべての非固定列の最小許可サイズに対して十分な非固定スペースを残しておく必要があります。列がサイズ変更に適していない場合、列の最小サイズ要件は、列の最大サイズと同じになります。すべての列の最小および最大サイズが **CSIZE** ディスプレイに表示されます。
- 列がサイズ変更された場合、現在の幅は最小限許可できるサイズとして扱われます。列がサイズ変更される場合、現在のサイズが画面に完全に収まる必要があります。例えば、固定列のない 80 バイトの画面では、128 バイトの列は 80 バイト以下 (列に関連する最小サイズの競合がないことが前提) にのみサイズ変更できます。10 バイトの固定列が 2 つ存在する場合 (固定域サイズの合計が 20 バイト)、128 バイトの列は 60 バイトまたはその最小許容サイズ (どちらか小さい方) に制限されます。

CSETUP 基本オプション・メニューへのアクセス

CSETUP 基本オプション・メニューを使用して、さまざまな **CSETUP** オプションにアクセスでき、表示上の必要に応じて列表示機能を構成できます。

このタスクについて

CSETUP コマンドは、以下の構文を使用します。

CSETUP

CSETUP 基本オプション・メニューを起動します。

CSETUP 基本オプション・メニューにアクセスして使用するには、以下の手順で行います。

手順

1. いずれかの動的表示 (例えば、「Manage Loader Profiles」パネル) で、オプション行に **CSETUP** (または **CSET**) と入力して Enter を押します。「Setup Primary Option Menu」が表示されます。
2. コマンド行で、アクセスするオプションに対応する番号を入力して Enter を押します。「Setup Primary Option Menu」では、以下のオプションが使用できます。

CFIX オプション 1、**CFIX** を使用して、列の固定および固定解除を設定できます。

CORDER

オプション 2、**CORDER** を使用して、列の位置を変更できます。

CSIZE オプション 3、**CSIZE** を使用して、列の表示幅を変更できます。

CSORT オプション 4、**CSORT** を使用して、ソートする対象の列を 1 つ以上選択することにより、表示される行の順序を変更できます。

CHIDE オプション 5、**HIDE** を使用して、非表示にする列を 1 つ以上選択できます。

CRESET

オプション 6、**CRESET** を使用して、すべてのカスタマイズをリセットできます。

PVIEW オプション 7、**PVIEW** を使用して、永続表示と一時表示を切り替えることができます。

注: いずれかの動的表示のオプション行に対応するコマンドを入力して Enter を押すことにより、それぞれの **CSETUP** オプションを直接呼び出すこともできます (例えば、**CFIX**、**CORDER**、**CSIZE**、**CSORT**、**CHIDE**、**CRESET**、または **PVIEW**)。

列の固定

CFIX オプションを使用することにより、列の固定と固定解除を行えます。固定列は常に表示の左端に置かれます。

このタスクについて

これは、左右にスクロールしても (非固定列のように) 水平方向に動くことはありません。列幅が最大幅より狭い固定列に対しては、**INNER COLUMN SCROLLING** と **CEXPAND** を使用できます。レポートでは特定の列を永続的に固定でき、ユーザーがこれを固定解除することはできません。このような列の固定状況は P (永続的に固定) です。

使用可能な表示域より大きい列を固定することはできません。その他の列のサイズ要件に関する列の固定に対しても制限があります。

列を固定するには、以下のようにします。

手順

1. 表示パネルのオプション行に **CFIX** と入力して、Enter キーを押します。 下図に示すような「Define Fixed Columns」パネルが表示されます。

```
CFIX ----- Define Fixed Columns ----- YYYY/MM/DD HH:MM:SS
Option ==>                                     Scroll ==> PAGE
-----+>
                                           ROW 1 OF 9

Column Function ==> 1 (1-Fix/Unfix, 2-Order, 3-Size, 4-Sort)
Permanent View ==> Y (Y-Perm, N-Temp) Reset View ==> N (Y,N)

Device_Width   : 80
Old_Fixed_Width: 37      Old_Unfixed_Width: 43
New_Fixed_Width:         New_Unfixed_Width:

-----

Cmd New Old Len Column_Name
P  P  P    5  CMD
P  P  P   32  NAME
-          10  CREATOR
-          5   UPDT
-          32  DESCRIPTION
-          10  LAST_USER

Enter: Process selections; PF3: Exit and save; CAN: Exit without save
Line Cnds: F Fix U Unfix
```

図 12-1. 「Define Fixed Columns」パネル

「Define Fixed Columns」パネルには以下のフィールドが表示されます。

Column Function

該当する番号を入力することによって、任意の CSET 機能にジャンプできます。現在のオプションに対応する番号は、このフィールドに表示されます。

Permanent View

定義する表示が永続的か一時的かを指示します。有効値は以下のとおりです。

- **Y** – 表示のカスタマイズは永続的
- **N** – 表示のカスタマイズは一時的

Reset View

すべてのカスタマイズをリセットします。

Device_Width

現行ディスプレイ装置のサイズ (画面幅) が表示されます。

Old_Fixed_Width

現在の CFIX パネルで変更が行われる前の固定列の幅の合計が表示されます。

Old_Unfixed_Width

現在の CFIX パネルで変更が行われる前の非固定領域が表示されます。次の関係が成り立ちます。Old_Unfixed_Width = Device_Width - Old_Fixed_Width

New_Fixed_Width

固定/非固定の変更が保管された場合の固定列幅の合計が表示されます。

New_Unfixed_Width

固定/非固定の変更が保管された場合の非固定領域を表示します。次の関係が成り立ちます。 $\text{New_Unfixed_Width} = \text{Device_Width} - \text{New_Fixed_Width}$

Cmd 行コマンドを指定するフィールドです。有効な行コマンドは、F (固定) および U (固定解除) です。

New 新規の CFIX の表示設定が表示されます。

Old 以前の CFIX の表示設定が表示されます。

Len 列の長さが表示されます。

Column_Name

列の名前を表示します。

2. 固定したい列の隣にある「**Cmd**」フィールドに **F** と入力します。
3. 固定解除したい列の隣にある「**Cmd**」フィールドに **U** と入力します。
4. Enter を押します。変更された値が、対応する列の隣の「**New**」列に表示されます。
5. **PF3** を押して変更を保管し、表示パネルに戻ります。

列の位置変更

CORDER オプションを使用することにより、レポートの列の位置を変更することができます。固定された列は、レポートの左端にグループとしてまとめられます。非固定列は固定列の右にまとめてグループ化されます。

このタスクについて

CORDER では、列がそのグループの外に移動することはありません。固定列を非固定列の右側に再配置することはできません。同様に、非固定列を固定列の左側に再配置することはできません。

列の位置を変更するには、以下のようになります。

手順

1. 表示パネルのオプション行に **CORDER** と入力して、Enter キーを押します。下図のような「Define Column Display Order」パネルが表示されます。

```

CTCORD ----- Define Column Display Order ----- YYYY/MM/DD HH:MM:SS
Option ==> Scroll ==> PAGE
----->
ROW 1 OF 9

Column Function ==> 2 (1-Fix/Unfix, 2-Order, 3-Size, 4-Sort)
Permanent View ==> N (Y-Perm, N-Temp) Reset View ==> N (Y,N)

Cmd Fix New Old Column_Name
___ P      1 CMD
___ P      2 NAME
___        3 CREATOR
___        4 UPDT
___        5 DESCRIPTION
___        6 LAST_USER
___        7 LAST_UPDATED
___        8 CRTD_USER
___        9 CREATED_USER
***** Bottom of Data *****

Enter: Process selections; PF3: Exit and save; CAN: Exit without save
Line Cmds: Specify number for column position

```

図 12-2. 「Define Column Display Order」パネル

「Define Column Display Order」パネルには以下のフィールドが表示されます。

Column Function

該当する番号を入力することによって、任意の CSET 機能にジャンプできます。現在のオプションに対応する番号は、このフィールドに表示されます。

Permanent View

定義する表示が永続的か一時的かを指示します。有効値は以下のとおりです。

- Y – 表示のカスタマイズは永続的
- N – 表示のカスタマイズは一時的

Reset View

すべてのカスタマイズをリセットします。

Cmd 列位置の番号を指定するフィールドです。

Fix 固定列が表示されます。有効値は以下のとおりです。

- F – 列が固定されていることを示します。
- P – 列が永続的に固定されていることを示します。

New 新規の CORDER の表示設定が表示されます。

Old 以前の CORDER の表示設定が表示されます。

Column_Name

列の名前を表示します。

2. 列の隣に数値を入力して、順序を指定します。
3. Enter キーを押します。 各列の隣の「New」列に、列の新しい順序番号が表示されます。
4. PF3 を押して、表示パネルに戻ります。

列のサイズ変更

CSIZE オプションを使用することにより、列の表示幅を変更することができます。

このタスクについて

この機能は主に、対象列の中で空白領域の多いすべて（またはほとんど）の行の非数値データを対象にしています。表示幅は変更されますが、元のデータは変わりません。

列サイズが列の最大サイズより小さい場合、データの一部が表示されない可能性があります。INNER COLUMN SCROLLING および CEXPAND を使用すると、サイズ変更された列の表示範囲外のデータを見ることができます。

注: 列の最小幅と最大幅が等しい場合、列をサイズ変更することはできません。

列のサイズを変更するには、以下のようにします。

手順

1. 表示パネルのオプション行に **CSIZE** と入力して、Enter キーを押します。下図のような「Define Column Size」パネルが表示されます。

```
CSIZE ----- Define Column Size ----- YYYY/MM/DD HH:MM:SS
Option ==>                                     Scroll ==> PAGE
-----+>
                                           ROW 1 OF 9

Column Function ==> 3 (1-Fix/Unfix, 2-Order, 3-Size, 4-Sort)
Permanent View ==> N (Y-Perm, N-Temp) Reset View ==> N (Y,N)

Device_Width   : 80
Old_Fixed_Width: 37      Old_Unfixed_Width: 43
New_Fixed_Width:         New_Unfixed_Width:

-----

Cmd New Old Min Max Fix Column_Name
  5  5  5  5  5 P  CMD
 32 32 32 32 P  NAME
 10 10 10 10   CREATOR
  5  5  5  5   UPDT
 32 32 32 32   DESCRIPTION
 10 10 10 10   LAST_USER

Enter: Process selections; PF3: Exit and save; CAN: Exit without save
Line Cmds: Column size, between MIN and MAX
```

図 12-3. 「Define Column Size」パネル

「Define Column Size」パネルには以下のフィールドが表示されます。

Column Function

該当する番号を入力することによって、任意の CSET 機能にジャンプできます。現在のオプションに対応する番号は、このフィールドに表示されます。

Permanent View

定義する表示が永続的か一時的かを指示します。有効値は以下のとおりです。

- **Y** – 表示のカスタマイズは永続的

- **N** – 表示のカスタマイズは一時的

Reset View

すべてのカスタマイズをリセットします。

Device_Width

現行ディスプレイ装置のサイズ (画面幅) が表示されます。

Old_Fixed_Width

固定列の幅の合計が表示されます。

Old_Unfixed_Width

非固定領域が表示されます。

New_Fixed_Width

固定列の幅の合計が表示されます。

New_Unfixed_Width

非固定領域が表示されます。

Cmd 列位置の番号を指定するフィールドです。

New 新規の **CSIZE** の表示設定が表示されます。

Old 以前の **CSIZE** の表示設定が表示されます。

Min 列の最小長が表示されます。

注: 列の最小幅と最大幅が等しい場合、列をサイズ変更することはできません。

Max 列の最大長が表示されます。

注: 列の最小幅と最大幅が等しい場合、列をサイズ変更することはできません。

Fix 固定列が表示されます。有効値は以下のとおりです。

- **F** – 列が固定されていることを示します。
- **P** – 列が永続的に固定されていることを示します。

Column_Name

列の名前を表示します。

2. サイズ変更したい列の隣にある「**Cmd**」フィールドに目的の列サイズを入力します。

注: 指定する列サイズは、その列で示される最小値と最大値の間の値である必要があります。

3. **Enter** キーを押します。「**New**」列に、新しい表示基準が表示されます。
4. **PF3** を押して、表示パネルに戻ります。

ソート機能

CSORT 機能を使用すると、1 つ以上の列を選択してソートし、多くの製品パネルで表示される行の順序を変更することができます。

列は、ソート優先順位および方向によって選択されます。方向は、昇順 (デフォルト) または降順のいずれかです。ソートの対象として複数の列が選択されると、行

の第 1 の列のデータが一致する場合のみ、第 2 の列で区別されます。同様に、最初の 2 つの列でデータが同一の場合のみ、第 3 の列がソートに影響を与えます。

ソート列の定義

表示データを列ごとにソートできます。最大 9 列をソートの対象として選択できます。

このタスクについて

ソートの対象として一度に最大 9 つの列を選択できます。内部的な要件により、この最大値が小さくなることがあります。ソート対象として選択された列が最大数を超える場合、メッセージが発行されます。

注: **CSORT** と **SORT** は同義です。

手順

1. 表示パネルのオプション行に **CSORT** (または **SORT**) と入力して、Enter キーを押します。下図のような「Define Sort Columns」パネルが表示されます。

```
SORT ----- Define Sort Columns ----- YYYY/MM/DD HH:MM:SS
Option ==>                                     Scroll ==> PAGE
----->
                                                    ROW 1 OF 9

Column Function ==> 4 (1-Fix/Unfix, 2-Order, 3-Size, 4-Sort)
Permanent View ==> N (Y-Perm, N-Temp)  Reset View ==> N (Y,N)
Stop Sorting    ==> N (Y,N)

Cmd Dir New Old Column_Name
      - - - - -
      - -      NAME
      - -      CREATOR
      - -      UPDT
      - -      DESCRIPTION
      - -      LAST_USER
      - -      LAST_UPDATED
      - -      CRTD_USER
      - -      CREATED_USER

Enter: Process selections; PF3: Exit and save; CAN: Exit without save
Ord: 1-9 Dir: A Asc D Desc
```

図 12-4. 「Define Sort Columns」パネル

「Define Sort Columns」パネルには以下のフィールドが表示されます。

Column Function

該当する番号を入力することによって、任意の CSET 機能にジャンプできます。現在のオプションに対応する番号は、このフィールドに表示されます。

Permanent View

定義する表示が永続的か一時的かを指示します。有効値は以下のとおりです。

- **Y** – 表示のカスタマイズは永続的
- **N** – 表示のカスタマイズは一時的

Stop Sorting

指定どおりにソートを停止するかどうかを示します。有効値は以下のとおりです。

- **Y** – ソートを停止します。
- **N** – ソートを継続します。

Cmd ソート順を指定するフィールドです。

Dir 列の辞書式順序を指定します。有効値は以下のとおりです。

- **A** – (デフォルト) 値は最小から最大へ、昇順でリストされます。
- **D** – 値は最大から最小へ、降順でリストされます。

New 新規の CSORT の表示設定が表示されます。

Old 以前の CSORT の表示設定が表示されます。

Column Name

列の名前を表示します。

2. ソートの基準とする列の隣の「**Cmd**」フィールドに **A** または **D** と入力します。
3. Enter キーを押します。「**New**」列に、新しいソート設定が表示されます。
4. **PF3** を押して、表示パネルに戻ります。

高速機能 SORT コマンド

すべてのレポート・パネルの「Option」行に適切な SORT 構文を入力して Enter キーを押すことで、SORT コマンドを基本 (高速機能) コマンドとして使用できます。

この機能は、単一系列と複数列の両方のソートをサポートします。ユーザーは、ソートで各列のソート順 (昇順または降順) を指定できます。

単一系列のソートの構文

単一系列のソートの構文は次のとおりです。

SORT *column_identifier* *dir*

ここで、*column_identifier* は列名または相対列番号のいずれかで、*dir* は、列データをソートする方向です。*dir* の有効な値は次のとおりです。

asc (デフォルト) データを昇順でソートします。

desc データを降順でソートします。

注:

1. *column_identifier* と *dir* (使用される場合) の間にはスペースが 1 つ必要です。
2. 列の相対列番号は、画面に表示される列の位置に基づいて決定されます。したがって、相対列番号は、現在画面に表示されている列にのみ使用できます。相対列番号は、表示されている列を左から右に向かってカウントすることで決定されます。左端に表示される列には番号「1」が割り当てられ、後続の各列 (左から右) には 1 ずつ増分する相対列番号が割り当てられます。ヒント: 列番号を素早く判別するには、**CNUM** コマンドを使用して、各表示列の列番号を切り替えます。

- 表示されていない列のデータをソートするには、SORT 構文の `column_identifier` に (相対列番号ではなく) 列名を使用します。

複数列のソート

複数列のソートの構文は次のとおりです。

```
SORT column_identifier dir column_identifier dir
```

ここで、*column_identifier* は列名または相対列番号のいずれかで、*dir* は、列データをソートする方向のオプションの標識です。*dir* の有効な値は次のとおりです。

asc (デフォルト) データを昇順でソートします。

desc データを降順でソートします。

column_identifier 値と *dir* 値はすべてスペースで区切る必要があります。一度にソートできる最大列数は 9 です。

使用例

すべて画面に表示されている 3 つの列を持つレポート画面の場合:

列 1: 名前

列 2: 作成者

列 3: 状況

次の例は、これらの列をどのようにソートするかを示しています。

SORT NAME

「Name」列の値に基づいて、表示データを昇順でソートします (*dir* 値が指定されていない場合、デフォルトのソート順は昇順であるため、**SORT NAME** および **SORT NAME A** は同義です)。

SORT NAME D

「Name」列の値に基づいて、表示データを降順でソートします。

SORT NAME DESC

「Name」列の値に基づいて、表示データを降順でソートします。

SORT NAME A CREATOR D

「Name」列の値に基づいて、表示データを最初に昇順でソートしてから、「Creator」列の値に基づいてデータを降順でソートします。

SORT NAME ASC CREATOR DESC

「Name」列の値に基づいて、表示データを最初に昇順でソートしてから、「Creator」列の値に基づいてデータを降順でソートします。

SORT 1 A

「Name」列の値に基づいて、表示データを昇順でソートします。

SORT 1 A CREATOR D

「Name」列の値に基づいて、表示データを最初に昇順でソートしてから、「Creator」列の値に基づいてデータを降順でソートします。

SORT 3 2 1

「Status」列の値に基づいて、表示データを最初に昇順でソートしてから、「Creator」列の値に基づいて降順でソートし、最後に「Name」列の値に基づいて昇順でソートします。

注: 上記のいずれかの形式で列名を指定する場合、単一引用符または二重引用符で囲むか、引用符を使用しないことができます。例えば、次の指定は同等です。

SORT NAME D

SORT 'NAME' D

SORT "NAME" D

列の非表示

CHIDE オプションを使用して、1 つ以上の列を非表示にすることができます。

このタスクについて

レポート内で特定の列が永続的に固定されていて、非表示にすることができない場合があります。このような列の固定状況は P (永続的に固定) です。

手順

1. いずれかの表示パネルのオプション行に **CHIDE** と入力して、Enter を押します。「Define Hidden Columns」パネルが表示されます。

以下のフィールドがパネルに表示されます。

Column Function

該当する番号を入力すると、任意の CSET 機能に移動することができます。現在のオプションに対応する番号がこのフィールドに表示されます。

Permanent View

定義する表示が永続的か一時的かを指示します。有効値は以下のとおりです。

- **Y** – 表示のカスタマイズは永続的
- **N** – 表示のカスタマイズは一時的

Reset View

すべてのカスタマイズをリセットします (「Yes」または「No」)。

Cmd 列機能の番号を指定するフィールド。

Fix 固定列を表示します。有効値は以下のとおりです。

- **F** – 列が固定されていることを示します。
- **P** – 列が永続的に固定されていることを示します。

New 新しい CHIDE の表示設定を表示します。

Old 以前の CHIDE の表示設定を表示します。

Column_Name

列の名前を表示します。

2. 列を非表示にするには、非表示にする列の横にある「**Cmd**」フィールドに **H** と入力します。
3. 前に非表示にしていた列を表示するには、非表示を解除する列の横にある「**Cmd**」フィールドに **U** と入力します。

CSET カスタマイズのリセット

CRESET オプションにより、すべてのカスタマイズをリセットすることができます。

このタスクについて

CRESET が発行された後、すべての固定列が固定解除され (永続固定列は除く)、選択されていたソート列がすべて選択解除されてソートが使用不可になり、すべての列サイズが初期値または最大値に設定され (以前に推奨値が存在していなかった場合)、列の元の位置が復元されます。

手順

1. **CRESET** オプションを発行するには、レポート表示のオプション行に **CSET** と入力して **Enter** を押すことにより、「**Setup Primary Option Menu**」にアクセスします。「**Setup Primary Option Menu**」が表示されます。
2. コマンド行に **5** を入力して、**Enter** キーを押します。**CRESET** が発行され、すべての固定列が固定解除され (永続固定列は除く)、選択されていたソート列がすべて選択解除されてソートが使用不可になり、すべての列サイズが初期値または最大値に設定され (以前に推奨値が存在していなかった場合)、列の元の位置が復元されます。
3. あるいは、以下の構文を使用して、**CRESET** コマンドを基本コマンドとして発行することができます。

CRESET

すべてのカスタマイズをリセットします (固定列を固定解除して、選択されていたソート列を選択解除し、ソートを使用不可にして、列サイズを初期値に設定し、列の元の位置を復元します)。

注: **CRESET** は、**CREMOVE** が初期の推奨サイズをすべて無視してすべての列サイズを最大値に設定する点で、**CREMOVE** と異なります。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、これ入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるも

のであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権限: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』、および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<https://www-01.ibm.com/software/info/product-privacy/>) を参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティ
概要 1-13, 1-17
アクセラレーター、外部からのロード (二重) プロファイルとの関連付け 7-8
イベントおよびルール 10-12, 10-14, 10-15
イベントとルール 10-13
イメージ・コピーからのロード 6-5
イメージ・コピー・ロード
概要 6-1
制約事項と考慮事項 6-1
イメージ・コピー・ロードの構文図 9-13
イメージ・コピー・ロードのサンプル JCL 9-9, 9-12
イメージ・コピー・ロード・プロファイル 6-3
インターセプト、DSNUTILB
インターセプトされた DB2 ユーティリティの再始動 11-520
インターセプトされた DB2 ユーティリティの終了 11-519
インターセプトの管理 11-515
現在の状況の表示 11-518
オプション 3-11

[カ行]

開始、ISPF インターフェースの 4-1
開始タスク
開始タスク 2-9
概要 1-9
許可 2-9
権限要件 2-9
コンソール・コマンド 12-60
複数実行 2-11
PROC、コピー 3-47
開始タスク、開始 3-50
開始タスクに対するオペレーター・コマンド 12-60
開始タスクに対するコンソール・コマンド 12-60
開始タスクの開始 3-50
外部からのロード、既存ジョブへの拡張構文の追加 7-7

外部からのロード機能の制限事項 7-1
外部からのロードの構文図 9-29
外部ファイルからのロードのサンプル JCL 9-26
外部ロードの構文定義 9-30
外部ロードのサンプル JCL 9-28
外部ロード・プロファイル、作成 7-8
概要、アクセラレーターへのデータのロード 5-4
概要、スタジオ・プラグインの 5-4
カスタマイズ
オプション 3-11
カスタマイズ・ジョブ
再生成 3-38
削除 3-45
実行依頼 3-38, 3-45
生成 3-38
ソート・シーケンス 3-38
名前変更 3-45
表示 3-45
保守 3-45
カスタマイズ・ライブラリー
概要 12-5
再カスタマイズ 3-45
ジョブの削除 3-45
ジョブの名前変更 3-45
保守 3-45
カスタマイズ・ライブラリー修飾子
指定 3-8
関連リスト
概要 12-1
DB2 エントリーの追加 3-22
旧バージョンの検出 3-15
高位修飾子 12-1
構成 12-1
管理 3-24
コピー 3-26
作成 3-25
除去 3-28
選択 3-24
編集 3-29
リストア 3-30
構成のコピー 3-26
構成の作成 3-25
構成の除去 3-28
構成の選択 3-24
構成の編集 3-29
構成のリストア 3-30
コンポーネント 12-1
再カスタマイズ 3-12, 3-16

カスタマイズ (続き)
状況タイプ
未完了 12-1
Customized 12-1
Discovered 12-1
Errors in Customization 12-1
Not Required 12-1
Ready to Customize 12-1
情報パネルの最大化 3-11
ジョブ
削除 3-45
実行依頼 3-38, 3-45
ソート順 3-38
名前変更 3-45
表示 3-45
保守 3-45
ジョブの削除 3-16
ジョブの実行依頼 3-38
ジョブの生成 3-38
ジョブのソート順 3-38
ジョブの表示 3-45
ジョブの保守 3-45
製品 12-1
製品情報の検出 3-19
製品の再カスタマイズ 3-12
製品の最新バージョンのカスタマイズ 3-12
製品の初めてのカスタマイズ 3-12
製品パラメーター
定義 3-31
変更 3-16
編集 3-16, 3-31
製品パラメーターの定義 3-31
製品パラメーターの編集 3-31
設定のカスタマイズ 3-8
設定の変更 3-8
データ・ストア
概要 12-5
データ・ストア・データ・セット
指定 3-8
データ・セット
カスタマイズ・ライブラリー 12-5
データ・ストア 3-2, 12-5
メタデータ・ライブラリー 3-2, 12-5
DATASTOR 3-2
Discover EXEC ライブラリー 12-5
データ・セットの指定 3-8
定義、パラメーターの 3-31, 3-38
トラブルシューティング 11-511

カスタマイズ (続き)

トレース・データ・セットの検出
11-511
トレース・データ・セット 11-511
トレース・データ・セットの検出
11-511
初めての 3-13
初めてのカスタマイズ 3-12
パネル
Associate DB2 Entry for
Product 3-22
Create a DB2 Entry 3-22
Create a New Configuration of a
Product 3-25
Customizer Workplace 3-38
DB2 Parameters 3-35
Discover Customized Product
Information 3-19
Edit a Configuration of a
Product 3-29
Finish Product
Customization 3-38
LPAR Parameters 3-33
Manage Multiple Configurations
of a Product 3-24
Product Parameters 3-31
Specify the Metadata Library 3-18
パネル表示オプション 3-11
パネル・テキストの非表示 3-11
パネル・テキストの表示 3-11
パラメーター
定義 3-31, 3-38
表示 3-41
ブラウズ 3-41
パラメーター値 2-17
パラメーターの表示 3-41
パラメーターのブラウズ 3-41
パラメーターの変更 3-12
パラメーターの編集 3-12
表示オプション 3-11
表示オプションの変更 3-11
複数 LPAR 環境 3-46
複数インスタンス 3-8
複数の構成の管理 3-24
マスター・リスト
概要 12-1
「Associate DB2 Entry for
Product」パネル 3-22
DB2 エントリーの追加 3-22
メタデータ・ライブラリー
概要 12-5
指定 3-8, 3-18
保守、ベスト・プラクティス 3-2
メタデータ・ライブラリーの指定 3-18
ユーザー・ジョブ・カード設定
指定 3-8

カスタマイズ (続き)

用語 12-1
ロードマップ 3-12
再カスタマイズ 3-16
初めてのカスタマイズ 3-13
「Create a DB2 Entry」パネル 3-22
「Customized」状況 12-1
「Customizer Workplace」パネル
3-38
「DB2 Parameters」パネル 3-35
DB2 エントリー 12-1
関連付け 3-22
関連付け解除 3-44
コピー 3-42
削除 3-44
作成 3-22
指定 3-38
除去 3-44
ジョブの生成 3-38
選択 3-38
追加 3-22
定義 3-38
DB2 エントリーの関連付け 3-22
DB2 エントリーのコピー 3-42
DB2 エントリーの削除 3-44
DB2 エントリーの作成 3-22
DB2 エントリーの除去 3-44
DB2 グループ接続フィールド
指定 3-8
DB2 グループ接続名
関連付け 3-22
コピー 3-42
作成 3-22
追加 3-22
DB2 サブシステム
関連付け 3-22
コピー 3-42
作成 3-22
追加 3-22
DB2 データ共用メンバー
関連付け 3-22
コピー 3-42
作成 3-22
追加 3-22
DB2 パラメーター
定義 3-35
編集 3-35
DB2 パラメーターの定義 3-35
「Discover Customized Product
Information」パネル 3-19
Discover EXEC
概要 12-5
製品情報の自動取得 3-19
製品の新しいバージョンのカスタマイズ
3-12, 3-15
「Discovered」状況 12-1

カスタマイズ (続き)

「Edit a Configuration of a
Product」パネル 3-29
「Errors in Customization」状況 12-1
「Finish Product Customization」パ
ネル 3-38
「Incomplete」状況 12-1
LPAR 3-46
「LPAR Parameters」パネル 3-33
LPAR パラメーター
定義 3-33
編集 3-33
LPAR パラメーターの定義 3-33
LPAR パラメーターの編集 3-33
「Manage Multiple Configurations of
a Product」パネル 3-24
「Not Required」状況 12-1
「Product Parameters」パネル 3-31
「Ready to Customize」状況 12-1
「Specify the Metadata Library」パ
ネル 3-18
Tools Customizer の開始 3-6
Tools Customizer を使用するための
準備 3-8
カスタマイズ・チェックリスト 2-1
カスタマイズ・ライブラリー
概要 12-5
カスタマイズ・ライブラリー修飾子
指定 3-8
仮想ソース・ライブラリー 5-9
仮想ソース・ライブラリーの作成 5-9
仮想ビュー、作成 5-20
仮想表イベント 10-53
仮想表の作成
順次データ用の 5-13
DB2 データ用の 5-10
DBMS データ用の 5-10
VSAM データ用の 5-16
画面読み上げ機能および画面拡大機能
1-13, 1-17
管理設定 5-30
技術情報 1-11, 1-16
基本コマンド 12-11
キャラクター・ディスプレイの問題、修正
11-527
共通ストレージ、ジョブが失敗した後のク
リーンアップ 11-514
許可イベント 10-16
クライアント認証 5-33
クライアントのタイムアウト・パラメータ
ーの変更 10-87
権限要件 2-9
データ・ソースにアクセスするための
2-11
ユーティリティ 2-10
言語 5-8

構成

- サーバー拡張セキュリティ 10-1
- 順次ファイルへのアクセス 3-57
- データへのセキュリティ・アクセス 3-53
- データ・ソース 3-53
- DB2 サブシステム 4-3
- DB2 サブシステムへのアクセス 3-53
- DB2 のデータへのアクセス 3-53
- DB2 へのアクセス 3-55
- DRDA データ・ソースへのアクセス 3-58
- IBM IMS DB のデータへのアクセス 3-56
- IMS DB 3-57
- SMF ファイルへのアクセス 3-57, 10-11
- VSAM へのアクセス 3-57

構文

- イメージ・コピー・ロード 9-3
- イメージ・コピー・ロードのサンプル JCL 9-9
- 外部ファイルからのロード 9-25
- 外部ロード 9-25
- 外部ロードのサンプル JCL 9-28
- 概要 9-1
- サンプル JCL 9-26
- 整合ロード 9-3
- 整合ロードのサンプル JCL 9-3, 9-12
- 二重ロード 9-25
- DB2 以外のソースおよびリモート DB2 ソースからのデータのロード 9-1

構文図

- イメージ・コピー・ロード 9-13
- 外部ロード 9-29
- 整合ロード 9-13
- 履歴ロード 9-13
- DB2 以外のソースまたはリモート DB2 ソースからのロード 9-2

構文定義

- イメージ・コピー・ロード 9-15
- 外部ロード 9-30
- 整合ロード 9-15
- DB2 以外のソースまたはリモート DB2 ソースからのロード 9-2

考慮事項

- 外部からのロード 7-1
- サーバー負荷 5-1
- 自動操作の WTO メッセージ 2-14
- データ共有環境 2-13
- 複数の開始タスクの実行 2-11
- EBCDIC コード・ページ 3-47

国際化対応 5-8

- コマンド、基本 12-11
- コマンド・イベント 10-38

- コンソール設定 5-30
- コンソール表示設定 5-30
- コンポーネントおよびインターフェース 1-9, 12-58

[サ行]

サーバー許可

- ACF2
 - 要件 2-10
- RACF
 - 要件 2-10
- Top Secret
 - 要件 2-10
- サーバー認証 5-33
- サーバーの概要 1-9
- サーバーの制限 5-1
- サーバーの制約事項 5-1
- サーバー・トレース
 - 結果のフィルタリング 5-25
 - 情報の表示 10-78
 - ズーム 5-26
 - メッセージのインポート 5-29
 - メッセージのエクスポート 5-28
 - メッセージの検索 5-26
 - メッセージのラベル付け 5-27
 - 有効化、スタジオの 5-24
 - ログ項目 10-80

- サーバー・トレース、開始 5-24
- サーバー・トレース結果のフィルタリング 5-25
- サーバー・トレースの開始 5-24
- サーバー・トレース・メッセージのブックマーク付け 5-27
- サーバー・ログ 10-85, 10-86
- サーバー・ログからの項目の出力 10-86
- サーバー・ログ内の文字ストリングの検出 10-85

- サービス情報 1-11, 1-16
- 作成、仮想ビューの 5-20

サポート

- 必要な情報 11-511
- サポート情報 1-11, 1-16
- サポート情報の要件 11-512
- サポートへの情報の送信 11-512
- サポート用の診断情報 11-512

参照情報 12-1

- サンプル JCL
 - イメージ・コピー・ロード 9-9, 9-12
 - 外部ファイルからのロード 9-26
 - 外部ロード 9-28
 - 整合ロード 9-3, 9-12

時刻イベント 10-52

- システム管理機能 (SMF) 3-57, 10-11, 10-87
- 照会結果 5-8

商標 A-1, A-3

- ジョブの作成 4-5
- ジョブ・カード情報 4-5
- 資料

- アクセス 1-11, 1-16
- フィードバックの送信 1-11, 1-16
- 変更 1-1

診断情報

- 収集 11-511
- スタジオのアンインストール 3-52
- スタジオのサーバー・トレースの有効化 5-24
- スタジオ・プラグインのインストール 3-51
- ストレージ要件 2-6
- すべての許可イベント 10-16
- 制御ブロック・イベント 10-19
- 整合ロード

概要 6-1

制約事項と考慮事項 6-1

- 整合ロードの構文図 9-13
- 整合ロードのサンプル JCL 9-3, 9-12
- 整合ロード・プロファイル 6-3
- 製品機能の概要 1-7
- 製品コンポーネントの詳細 12-58
- 製品の概要 1-1
- 製品のカスタマイズ

開始タスク PROC のコピー 3-47

開始タスクの開始 3-50

カスタマイズ手順の要約 3-1

ロード・ライブラリーの APF 許可 3-47

DSNUTILF モジュールのコピー 3-47, 3-48

WLM のセットアップ 3-49

- 製品のコンポーネントおよびインターフェース 1-9

製品の使用開始 4-1

製品の使用シナリオ 1-13

製品の新功能 1-1

製品の特徴と利点 1-8

製品の変更の要約 1-1

製品の用語 12-8

製品パネル、ナビゲーション 12-10

製品パネルのナビゲーション 12-10

製品を使用するためのシナリオ 1-13

制約事項

外部からのロード 7-1

サーバー負荷 5-1

制約事項と考慮事項

整合ロード 6-1

履歴ロード 6-1

セキュリティ要件 2-9

設定 5-29

設定のカスタマイズ 3-8

設定の使用 5-29

設定の変更 3-8
選択、DB2 サブシステムの 4-4
ソフトウェア要件 2-6

[タ行]

ダンプ、生成 11-513
チェックリスト、カスタマイズ 2-1
通信リンク・イベント 10-21
データ共有環境 2-13
データベース・イベント 10-20
データ・ストア
 概要 12-5
 保守、ベスト・プラクティス 3-2
データ・ストア・データ・セット
 指定 3-8
データ・セットの指定 3-8
データ・セット名 2-14
データ・ソース、アクセスするための権限
 要件 2-11
ディクショナリー設定 5-30
ディスクパッチング優先順位の要件 2-12
トークン・イベント 10-35
読者ご意見フォーム 1-11, 1-16
特記事項 A-1
 商標 A-1, A-3
 特記事項 A-1
 プログラミング・インターフェース情
 報 A-1
 Cookie ポリシー A-1, A-4
ドライバー設定 5-31
トラブルシューティング 5-23, 11-1,
11-522
 サーバーの問題 11-522
 サポート用の診断情報 11-512
 ジョブが失敗した後の共通ストレージ
 のクリーンアップ 11-514
 スタジオの問題 11-522
 生成、ダンプの 11-513
 DSNUTILB インターセプトの管理
 11-515
トレース・データ・セット
 検索 11-511
トレース・ログ、情報へのアクセスの制御
10-6

[ナ行]

二重ロード・プロファイル、作成 7-8
ネットワーク接続 11-522

[ハ行]

パースペクティブの概要 5-5
ハードウェア要件 2-6

初めてのカスタマイズ 3-13
バッチ・インターフェースの概要 1-9
バッチ・インターフェースを使用したイメ
ージ・コピーからのロード 6-5
バッチ・ジョブ、マイグレーション 2-5
バッチ・ジョブのマイグレーション 2-5
パネル
 Copy DB2 Entries 3-42
 パネル上の情報の最大化 3-11
 パネル表示オプション 3-11
 パネル・テキストの非表示 3-11
 パネル・テキストの表示 3-11
 パラメーター、カスタマイズ 2-17
 パラメーター・イベント 10-31
表、二重プロファイルまたは外部プロファ
イルとの関連付け 7-8
表示オプション 3-11
表示オプションの変更 3-11
プログラミング・インターフェース情報
A-1
プロファイルからのジョブの作成 (バッ
チ) 8-3
プロファイルからのジョブの作成
(ISPF) 8-2
別の DB2 サブシステムからデータをロー
ドするサンプル JCL 9-1
変換 CCSID 11-524
保守ユーティリティ
 DB2 ユーティリティの再始動点の設
 定に使用 11-520
 DB2 ユーティリティの終了に使用
 11-519
ホスト・コマンド 10-59

[マ行]

メインメニュー・パネル 4-1, 12-13
メタデータ・ライブラリー
 概要 12-5
 指定 3-8
 保守、ベスト・プラクティス 3-2
メッセージ
 参照情報 11-66
問題
 に関する診断情報 11-511

[ヤ行]

ユーザーに関する情報の表示 10-59
ユーザー・イベント 10-37
ユーザー・ジョブ・カード設定
 指定 3-8
要件
 オペレーティング・システム 2-6
 環境 (environment) 2-6

要件 (続き)
 許可 2-9
 ストレージ 2-6
 セキュリティ (security) 2-9
 ソフトウェア 2-6
 ハードウェア 2-6
 メインフレーム 2-6
 DRDA 2-6
 TSO/E 環境 2-6
用語 12-8

[ラ行]

リソースの定義
 ACF2 10-4
 RACF 10-3
 Top Secret 10-4
リモート DB2 ソースからのデータのロー
ド 5-1
履歴ロード
 概要 6-1
 制約事項と考慮事項 6-1
履歴ロードの構文図 9-13
ルールおよびイベント 10-12, 10-14, 10-15
ルールとイベント 10-13
ルールの API 関数 10-61
例外 (EXC) イベント 10-40
列の表示機能
 列の非表示 12-73
列表示機能 12-62
 高速機能 SORT 12-71
 制約事項 12-63
CFIX 12-64
CORDER 12-66
CRESET 12-74
CSIZE 12-68
CSORT 12-69, 12-70
ロードマップ
 初めてのカスタマイズ 3-13
ロード・ジョブ
 作成 8-2, 8-3
 バッチ・インターフェースを使用した
 生成 8-3
 ISPF インターフェースを使用した生
 成 8-2
ロード・プロファイル
 外部ロード 7-8
 概要 8-1
 削除 8-13
 ジョブの作成 (バッチ) 8-3
 ジョブの作成 (ISPF) 8-2
 名前変更 8-12
 二重ロード 7-8
 表示 8-12
 マイグレーション 2-5
ロード・プロファイルの削除 8-13

ロード・プロファイルの名前変更 8-12
ロード・プロファイルのマイグレーション
2-5
ロード・プロファイル・パラメーター
8-5, 8-7
ロード・ライブラリーの APF 許可 3-47
ログオフ・イベント 10-22
ログオン・イベント 10-25
ログ項目
特定 10-85
ラベル付け 10-85
ログ項目のサブセットの表示 10-83
ログ項目のフィルタリング 10-83
ロケールに関する考慮事項 5-8

A

Accelerator Loader オプション・パネル
12-16
Accelerator Loader サーバー 5-1, 10-1
開始 3-50
停止 3-50
Accelerator Loader サーバー への接続
5-7
Accelerator Loader パースペクティブ
5-5
ACF2
リソースの定義 10-4
「Add DB2 Tables」パネル 7-8, 12-45
「Administer Accelerator Loader
server」パネル 12-54

B

BIND 3-53
「Build Load JCL」パネル 8-2, 12-52

C

CMD イベント 10-38
「Confirm Action」パネル 12-16
Cookie ポリシー A-1, A-4
「Copy DB2 Entries」パネル 3-42
「Create a New Configuration of a
Product」パネル 3-25
「Create Profile」パネル 12-21
CSETUP 機能 12-62
CSETUP 基本オプション・メニュー・パ
ネル 12-63
CSETUP メニュー 12-63

D

「Data set allocation parameters」パネ
ル 12-53

「DB2 Analytics Accelerator Selection」
パネル 7-8, 12-48
DB2 LUW
カスタマイズ・パラメーター 2-17
許可 10-76, 10-77
制約事項および考慮事項 5-1
認証 10-73, 10-76
要件 2-6
ルールのカスタマイズ 3-55
「DB2 Subsystem Parameters」パネル
4-4, 12-15
「DB2 Subsystems」パネル 12-15
「DB2 Table List」パネル 12-46
「DB2 Table Selection」パネル 12-45
DB2 以外のソースまたはリモート DB2
ソースからのロードの構文図 9-2
DB2 以外のソースまたはリモート DB2
ソースからのロードの定義 9-2
DB2 以外のデータ・ソースからのデー
タのロード 5-1
DB2 グループ接続フィールド
指定 3-8
DB2 サブシステム 3-53
アクセスの構成 3-53
構成 4-3
削除 4-5
パラメーターの指定 4-3, 4-4
DB2 サブシステム、選択 4-4
DB2 サブシステム、パラメーターの指定
4-4
DB2 サブシステムへのアクセスを有効化
3-53
DB2 データ共有環境 2-13
DB2 におけるデータへのアクセスの検証
3-56
DB2 ユーティリティの再始動
HLOMAINT ユーティリティを使用
した再始動点の設定 11-520
「DD DSN Template (View)」パネル
12-35
「DD DSN Template」パネル 12-33
「DD Template Specification」パネル
12-31
「Define Hidden Columns」パネル
12-73
Discover EXEC
概要 12-5
「Display Global Variables」パネル
12-56
DISPLAY コマンド 10-59
DNS デフォルト・ファイル 5-31
DRDA データ・ソース、アクセスの構成
DB2 LUW
アクセスの構成 3-58
DSCLIENTCONNTIMEOUT パラメータ
ー 10-87

DSNUTILB インターセプト
インターセプトされた DB2 ユーティ
リティの再始動 11-520
インターセプトされた DB2 ユーティ
リティの終了 11-519
インターセプトの確認 11-516
インターセプトの管理 11-515
現在の状況の表示 11-518
DSNUTILB インターセプト状況の表示
11-518
DSNUTILB インターセプトの管理 11-515
DSNUTILF モジュール
コピー 3-47, 3-48

E

「Enter Table and Creator Like to
Display」パネル 7-8, 12-45
「Event Facility Proc. Rulesets - Using
SEF V4 Configuration」パネル 12-57
「Event Facility (SEF) Control」パネル
12-56
「Event Facility (SEF) Event Procedure
List」パネル 12-57
「Event Facility (SEF) Ruleset Entry
Profile」パネル 12-57, 12-58

F

「FlashCopy DSN Template (View)」パ
ネル 12-51
「FlashCopy DSN Template」パネル
12-48

G

GRANT 3-53

H

HTTP 401/403 11-522
HLODUMMY 7-7
HLOMAINT ユーティリティ
DB2 ユーティリティの再始動点の設
定に使用 11-520
DB2 ユーティリティの終了に使用
11-519
HLOMAINT ユーティリティを使用し
た DB2 ユーティリティの終了 11-519
HTTP 401/403 11-522
HTTP デバッグ 5-24
HTTP メッセージ 5-24

I

IMS データ用の仮想表を作成 5-11
IMS パラメーター 10-10
IMSLTERM イベント 10-21
「ISPF Session Parameters」パネル
12-55
ISPF インターフェース、開始 4-1
ISPF インターフェースの概要 1-9
ISPF ロード・モジュール、制限 (オプション) 10-5

J

JCL 設定 5-31
JCL の実行依頼 5-23
JCL の生成 5-21
JDBC ドライバーの設定 5-31

L

「Load Accelerator and DB2 from External File」パネル 12-22
「Load Accelerator from External File」
パネル 12-27
「Load Accelerator from specified Image Copy」パネル 12-43
「Load Accelerator with Consistent Data」パネル 12-36
LUW 上で DB2 にアクセス 10-73

M

「Manage Accelerator Loader Profiles」
パネル 12-19
MQ イベント 10-30

N

「New DB2 Subsystem」パネル 12-15

P

「Parameter Groups」パネル 12-55
「Product module information」パネル
12-56

R

RACF
リソースの定義 10-3
RACF パスチケット 3-55, 5-1, 10-25
「Referentially Dependent Table Selection」
パネル 12-47

「Rename Profile」パネル 12-51
Resulting DSN Using Current Prefix 12-36
「Resulting DSN Using Current Symbolic String」
パネル 12-36

S

「Save Profile」パネル 12-22
SDB イベント 10-32
SDBECURE API 関数 10-66
SDBINFO API 関数 10-64
SDBSUBMIT API 関数 10-70
SDBVALUE API 関数 10-61
Server Event Facility (SEF) イベント
10-33
「Server Management Menu」パネル
12-54
Server Trace Export 5-30
「Server Trace」パネル 10-80, 12-54
「Server Trace」ビュー 5-23
「Set Batch Job Card Information」
パネル 4-5, 12-19
SMF サブタイプ 02 レコード 10-90
SMF サブタイプ 03 レコード 10-91,
10-92
SMF サブタイプ 06 レコード 10-93,
10-95
SMF サブタイプ 09 レコード 10-95
SMF サブタイプ 13 レコード 10-96
SMF ファイル 3-57, 10-11
SQL イベント 10-51
SQL 照会 5-19
SQL 照会の生成 5-19
SQL を使用してデータにアクセスする
5-10
SSL サポート 10-6, 10-7
SSL 設定 5-33

T

TOD イベント 10-52
Tools Customizer 3-1
開始 3-6
概要 1-10
カスタマイズ・ジョブ
削除 3-45
実行依頼 3-38, 3-45
生成 3-38
ソート・シーケンス 3-38
名前変更 3-45
表示 3-45
保守 3-45
カスタマイズ・ライブラリー
再カスタマイズ 3-45

Tools Customizer (続き)
カスタマイズ・ライブラリー (続き)
ジョブの削除 3-45
ジョブの名前変更 3-45
保守 3-45
カスタマイズ・ライブラリー修飾子
指定 3-8
関連リスト
概要 12-1
DB2 エントリーの追加 3-22
高位修飾子 12-1
構成 12-1
コピー 3-26
作成 3-25
除去 3-28
選択 3-24
編集 3-29
リストア 3-30
構成の作成 3-25
構成の選択 3-24
コンポーネント 12-1
再カスタマイズ 3-12
状況タイプ
未完了 12-1
Customized 12-1
Discovered 12-1
Errors in Customization 12-1
Not Required 12-1
Ready to Customize 12-1
使用の準備 3-8
ジョブ
削除 3-45
実行依頼 3-45
名前変更 3-45
表示 3-45
保守 3-45
ジョブの削除 3-16
ジョブの実行依頼 3-38
ジョブの生成 3-38
ジョブのソート順 3-38
ジョブの表示 3-45
ジョブの保守 3-45
製品 12-1
製品情報の検出 3-19
製品の再カスタマイズ 3-12, 3-16
製品の新しいバージョンのカスタマイズ
3-12, 3-15
製品の初めてのカスタマイズ 3-12,
3-13
製品パラメーター
変更 3-16
編集 3-16
製品パラメーターの定義 3-31
製品パラメーターの編集 3-31
データ・ストア・データ・セット
指定 3-8

Tools Customizer (続き)

- データ・セット
 - カスタマイズ・ライブラリー 12-5
 - データ・ストア 3-2, 12-5
 - メタデータ・ライブラリー 3-2, 12-5
- DATASTOR 3-2
 - Discover EXEC ライブラリー 12-5
- 定義、パラメーターの 3-31, 3-38
- 特徴 1-10
- トラブルシューティング 11-511
- トレース・データ・セット 11-511
- トレース・データ・セットの検出 11-511
- 初めてのカスタマイズ 3-12, 3-13
- パネル
 - Associate DB2 Entry for Product 3-22
 - Copy a Configuration of a Product 3-26
 - Copy DB2 Entries 3-42
 - Create a DB2 Entry 3-22
 - Create a New Configuration of a Product 3-25
 - Customizer Workplace 3-38
 - DB2 Parameters 3-35
 - Discover Customized Product Information 3-19
 - Edit a Configuration of a Product 3-29
 - Finish Product Customization 3-38
 - LPAR Parameters 3-33
 - Manage Multiple Configurations of a Product 3-24
 - Product Parameters 3-31
 - Remove a Configuration of a Product 3-28
 - Specify the Metadata Library 3-18
- パネル上の情報の最大化 3-11
- パネル・テキストの非表示 3-11
- パネル・テキストの表示 3-11
- パラメーター
 - 表示 3-41
 - ブラウズ 3-41
- パラメーターの表示 3-41
- パラメーターのブラウズ 3-41
- 表示オプションの変更 3-11
- 複数 LPAR 環境 3-46
- 複数インスタンス 3-8
- 複数の構成 3-24
- 複数の構成の管理 3-24
- マスター・リスト
 - 概要 12-1
 - 「Associate DB2 Entry for Product」パネル 3-22

Tools Customizer (続き)

- マスター・リスト (続き)
 - DB2 エントリーの追加 3-22
- メタデータ・ライブラリー 3-18
 - 指定 3-8, 3-18
- メタデータ・ライブラリーの指定 3-18
- ユーザー・ジョブ・カード設定
 - 指定 3-8
- 用語 12-1
- ロードマップ
 - 製品の再カスタマイズ 3-16
 - 製品の新しいバージョンのカスタマイズ 3-15
- Discover EXEC の使用 3-15
- 「Copy a Configuration of a Product」パネル 3-26
- 「Copy DB2 Entries」パネル 3-42
- 「Create a DB2 Entry」パネル 3-22
- 「Customized」状況 12-1
- 「Customizer Workplace」パネル 3-38
- 「DB2 Parameters」パネル 3-35

DB2 エントリー 12-1

- 関連付け 3-22
- 関連付け解除 3-44
- コピー 3-42
- 削除 3-44
- 作成 3-22
- 指定 3-38
- 除去 3-44
- ジョブの生成 3-38
- 選択 3-38
- 追加 3-22
- 定義 3-38

DB2 エントリーの関連付け 3-22

DB2 エントリーのコピー 3-42

DB2 エントリーの削除 3-44

DB2 エントリーの作成 3-22

DB2 エントリーの除去 3-44

DB2 グループ接続フィールド指定 3-8

DB2 グループ接続名

- 関連付け 3-22
- コピー 3-42
- 作成 3-22
- 追加 3-22

DB2 サブシステム

- 関連付け 3-22
- コピー 3-42
- 作成 3-22
- 追加 3-22

DB2 データ共用メンバー

- 関連付け 3-22
- コピー 3-42
- 作成 3-22
- 追加 3-22

Tools Customizer (続き)

- DB2 パラメーター
 - 定義 3-35
 - 編集 3-35
- DB2 パラメーターの定義 3-35
- 「Discover Customized Product Information」パネル 3-19
- Discover EXEC
 - 製品情報の自動取得 3-19
 - 製品の新しいバージョンのカスタマイズ 3-12, 3-15
- Discover EXEC の使用 3-15
- 「Discovered」状況 12-1
- 「Edit a Configuration of a Product」パネル 3-29
- 「Errors in Customization」状況 12-1
- 「Finish Product Customization」パネル 3-38
- 「Incomplete」状況 12-1
- 「LPAR Parameters」パネル 3-33
- LPAR パラメーターの定義 3-33
- LPAR パラメーターの編集 3-33
- 「Manage Multiple Configurations of a Product」パネル 3-24
- 「Not Required」状況 12-1
- 「Product Parameters」パネル 3-31
- 「Ready to Customize」状況 12-1
- 「Specify the Metadata Library」パネル 3-18

Tools Customizer を使用するための準備 3-8

Top Secret

- リソースの定義 10-4

TSO イベント 10-36

U

- Unicode 11-523, 11-524
- 「User Settings」パネル 4-5, 12-14

V

- VTB イベント 10-53

W

- 「Warning」パネル 12-53
- WLM
 - アドレス・スペースのセットアップ 3-49
 - 構成 2-12
 - 目標の設定 2-12
 - 要件 2-12
- WTO メッセージ、自動操作で使用 2-14

Z

z/OS コンソール・コマンド 12-60



プログラム番号: 5639-OLE

Printed in Japan

SC43-3952-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21